

# 新田上遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

2015.3

国 土 交 通 省

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 新田上遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

2015.3

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



細石刃石器群(硬質頁岩・珪質頁岩)



剥片・石核を中心とした石器群(黒色頁岩)

## 口絵 2



新田上遺跡遠景(南西から)



新田上遺跡遠景(西から)

# 序

上武道路は、国道17号の混雑緩和と沿線地域における物流の促進のため、大規模バイパスとして埼玉県熊谷市から群馬県前橋市田口町に至る路線が計画され、これに伴う群馬県内での埋蔵文化財の調査が昭和48年度に開始されました。埼玉県寄りの部分区間が順次開通し、平成24年12月には前橋市上細井町までの区間が供用されています。また、平成25年8月には国道17号に合流する最終区間の調査が終了しました。

本書で報告します新田上遺跡は、赤城山の南西麓に位置する遺跡で、国土交通省からの委託を受けて、当事業団が平成24年度に発掘調査を実施したものです。

この調査により、旧石器時代から近世に至る多くの遺構・遺物を発見しました。主な遺構として、旧石器時代の石器ブロック6カ所と縄文時代中期の集落、弥生時代中期の遺構、古墳時代の竪穴住居、平安時代の集落などがあります。特に注目されるのは、北方系の湧別技法による細石刃石器群を伴う100点あまりの石器と赤城南麓では珍しい弥生時代中期中葉の遺構の存在が明らかになったことです。これらの調査成果は、本地域の歴史を解明する上で貴重な資料であり、今後の研究資料の一つとして役立つものと確信しております。

最後になりましたが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、国土交通省関東地方整備局、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、並びに地元関係者の皆様には、多大なご指導・ご協力を賜りました。本報告書の上梓に際し、関係者の皆様に心から感謝申し上げますと共に、本書が歴史研究の資料として広く活用されますことを願い、序と致します。

平成27年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 吉 野 勉



# 例 言

1. 本書は、一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)による、新田上遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 新田上遺跡は、群馬県前橋市上細井町1276-2、1283-2、1284-1、1285-1、1285-2、1285-3、1286-1、1286-2、1287-1、1288-1、1289-1、1294-1、1295-1、1295-2、1296-1、1297-1、1297-2、1297-5、1298-1、1298-2、1299-1、1299-2、1299-3、1299-4、1299-5、1299-6、1299-7、1300-1、1300-2、1303、1304-1、1304-2、1324-1、1325番地に所在する。
3. 事業主体 国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所
4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査期間と調査面積、体制は次のとおりである。

調査委託契約履行期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
調査期間	平成24年5月1日～平成24年11月30日
調査面積	10,328.66㎡
発掘調査担当	木津博明(調査統括)、笹澤泰史(主任調査研究員)
遺跡掘削請負工事・地上測量・空中写真撮影	技研測量設計株式会社
テフラ分析業務委託	株式会社 火山灰考古学研究所
6. 整理事業の期間と体制は次のとおりである。















整理委託契約履行期間	平成25年4月1日～平成27年3月31日
整理期間	平成25年4月1日～平成26年3月31日
整理担当	長澤典子(主任調査研究員)
7. 本書作成の担当者は以下のとおりである。

編集	長澤典子(主任調査研究員)	デジタル編集	佐藤元彦(補佐(総括))、齊田智彦(主任調査研究員)
執筆	第3章第2節、第5章第1節	石田典子(主任調査研究員)	
	第3章第4節4. 遺構外出土の弥生土器、第5章第4節	大木紳一郎(事業局長)	
	それ以外を長澤が執筆した。		
遺物写真	佐藤元彦(補佐(総括))、岩崎泰一(資料統括)、石田典子(主任調査研究員)		
保存処理	関 邦一(補佐(総括))		
遺物観察・観察表執筆			
縄文土器	谷藤保彦(上席専門員)、石坂 茂(専門調査役)	弥生土器	大木紳一郎(事業局長)
石器・石製品	岩崎泰一(資料統括)、石田典子(主任調査研究員)		
土師器・須恵器・灰釉陶器	徳江秀夫(資料統括)		
中世以降の土器・陶磁器	大西雅広(上席専門員)	鉄製品	関 邦一(補佐(総括))

なお、墨書土器・刻書土器の文字判読については、高井佳弘(上席調査研究員)の助言を受けた。
8. 出土石器の石器石材鑑定は、飯島静男氏(地質学者・群馬地質研究会会員)に依頼した。
9. 旧石器時代の石器については、小菅将夫氏(岩宿博物館館長)の指導を受けた。
10. 発掘調査および報告書の作成にあたり群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、下濱貴子氏(小松市教育委員会)、久田正弘氏(石川県埋蔵文化財センター)、藤田慎一氏からご教示、ご指導を受けた。感謝申し上げる次第である。
11. 発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

# 凡 例

1. グリッドの設定、座標値の表記は、国家座標第IX系(世界測地系)を用いた。また、図中のグリッド番号はXグリッド、Yグリッドの交点を示したもので、グリッド番号は、南東交点を基準とする。
2. 遺構断面図、等高線図に記した数値は標高を表し、単位はmである。
3. 遺構平面図の縮尺は、1/30・1/40・1/60・1/80・1/100である。
4. 遺物実測図ならびに遺物写真図版の縮尺は、1/1、1/2、1/3、1/4、4/5、1/6である。
5. 図中で使用したスクリーンパターンおよびマークは、以下のことを表す。

遺構図	炭・炭化物		焼土		灰		被熱		カクラン	
	鋤先端		灰色シルト		粘土		硬化面			
遺物図	スス		灰釉・施釉		油煙		赤色塗彩		黒色	

6. 遺構の計測は、住居の場合はカマド主軸を基軸とし角度等の傾きを計測した。カマドを持たないものについては長軸を基軸とした。

なお、計測値において全容が計測できない遺構については残存値( )で表記してある。

7. 火山碎屑物の鍵層は、テフラの略称を使用した。略称の標記は以下のとおりである。

浅間Bテフラ[As-B] 榛名ニッ岳渋川テフラ[Hr-FA] 浅間Cテフラ[As-C] 浅間Dテフラ[As-D]  
浅間宮前テフラ[As-Mm] 浅間総社テフラ[As-Sj] 浅間板鼻黄色テフラ[As-YP]  
浅間大窪沢テフラ2 [As-OKP 2] 浅間大窪沢テフラ 1 [As-OKP 1] 浅間白糸テフラ[As-SP]  
浅間板鼻褐色テフラ[As-BP 3、As-BP 2、As-BP 1] 浅間室田テフラ[As-MP] 始良Tnテフラ[AT]  
榛名三原田テフラ[HMP] 榛名八崎テフラ[Hr-HP]

8. 本書内で使用した色調は、『新版標準土色帳1999年度版』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）に準拠した。
9. 本書で使用した地形図は下記の通りである。

国土地理院：地勢図 1:200,000「宇都宮」（平成23年発行）  
地形図 1:50,000「前橋」（平成10年発行）  
地形図 1:25,000「渋川」（平成14年発行）  
1:25,000「前橋」（平成22年発行）  
前橋市役所：現形図 1:2,500（平成21年測図）



# 目次

口絵	
序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
表目次	
写真目次	

第1章 調査に至る経過		第4章 自然科学分析	
第1節 上武道路について	1	第1節 火山灰分析	265
第2節 上武道路と埋蔵文化財	1		
第3節 調査に至る経過	2	第5章 まとめ	
第4節 調査方法と経過	4	第1節 細石刃石器群について	270
1 グリッドの設定	4	第2節 墨書土器・刻書土器や線刻のある 土器について	276
2 発掘調査の方法	4	第3節 有孔石製品について	280
3 発掘調査の経過	8	第4節 新田上遺跡出土の弥生土器	280
4 整理作業の経過	8	第5節 総括	281
		遺物観察表	282
第2章 遺跡の概要		遺構一覧表	331
第1節 遺跡の地理的環境	11	参考文献	344
第2節 周辺遺跡	11		
第3節 基本土層	21	写真図版	
		報告書抄録	
第3章 調査の内容			
第1節 概要	23	付図 新田上遺跡全体図	1 : 200
第2節 旧石器時代	29		
第3節 縄文時代	53		
第4節 弥生時代	110		
第5節 古墳時代	125		
第6節 奈良・平安時代	132		
第7節 中世・近世以降	256		

# 挿図目次

第1図	上武道路と遺跡の位置	1	第61図	258号～262号・265号～269号・290号・292号～295号・298号・302号・313号・322号・323号・475号土坑	83
第2図	上武道路8工区の遺跡	3	第62図	326号・328号・334号～339号・342号～350号・360号～363号土坑	84
第3図	新田上遺跡周辺図	5	第63図	364号～375号・377号・384号・385号・404号・406号・411号～413号土坑	85
第4図	大・中グリッド設定図	6	第64図	414号～436号・438号～440号・442号・477号土坑	86
第5図	中・小グリッド設定図	7	第65図	443号～451号・457号～471号土坑	87
第6図	遺構全体図	10	第66図	472号・473号・479号～494号土坑	89
第7図	新田上遺跡周辺地形分類図	12	第67図	496号・500号・502号～506号・508号・510号～517号土坑	91
第8図	周辺の遺跡	13	第68図	518号～530号土坑	93
第9図	基本土層	22	第69図	531号～550号土坑	94
第10図	新田上遺跡旧石器出土層位と旧石器調査グリッド	24	第70図	551号～556号・561号～567号土坑	95
第11図	新田上遺跡遺構分布図の変遷(1)	25	第71図	568号～570号・633号・665号・675号～680号土坑	97
第12図	新田上遺跡遺構分布図の変遷(2)	26	第72図	241号～244号・274号・290号・292号・298号・322号・370号・371号土坑出土遺物	98
第13図	新田上遺跡遺構分布図の変遷(3)	27	第73図	411号・415号・419号・422号・445号・448号・450号・461号・463号・466号・472号・475号・479号土坑出土遺物	99
第14図	56区B19グリッド出土剥片	31	第74図	484号・494号・497号・510号土坑出土遺物	100
第15図	細石刃核・細石刃・彫刻刀形石器・ナイフ形石器	32	第75図	511号・514号～516号土坑出土遺物	101
第16図	サイドスクレイパー・スクレイパー・二次加工ある剥片(1)	33	第76図	518号・519号・521号土坑出土遺物	102
第17図	二次加工ある剥片(2)・微小剥離痕ある剥片	34	第77図	522号・525号・542号・545号・565号・566号・568号～570号・675号・676号・678号土坑出土遺物	103
第18図	剥片(1)	35	第78図	679号・680号土坑出土遺物	104
第19図	剥片(2)	36	第79図	遺構外出土の縄文土器(1)	106
第20図	剥片(3)・碎片・石核(1)	37	第80図	遺構外出土の縄文土器(2)	107
第21図	石核(2)	38	第81図	遺構外出土の縄文土器(3)	108
第22図	石核(3)	39	第82図	遺構外出土の縄文土器(4)	109
第23図	石核(4)	40	第83図	24号住居	111
第24図	石核(5)・ハンマーストーン	41	第84図	24号住居出土遺物	112
第25図	台石?・石製品	42	第85図	25号住居と出土遺物	113
第26図	接合資料1・2	43	第86図	39号住居と出土遺物	114
第27図	接合資料3	44	第87図	48号住居と出土遺物	115
第28図	接合資料4・5	45	第88図	227号土坑と出土遺物	116
第29図	接合資料6・7・9	46	第89図	233号・257号・437号・441号・495号・498号・499号・501号・509号・682号土坑と233号・257号・437号・441号・495号・498号・509号土坑出土遺物	118
第30図	接合資料8	47	第90図	遺構外出土の弥生土器(1)	120
第31図	石器分布図	49	第91図	遺構外出土の弥生土器(2)	121
第32図	接合資料分布図	50	第92図	遺構外出土の縄文・弥生石器(1)	122
第33図	器種別石器分布図	51	第93図	遺構外出土の縄文・弥生石器(2)	123
第34図	石材別石器分布図	52	第94図	1号住居	126
第35図	26号住居	54	第95図	1号住居掘方	127
第36図	26号住居出土遺物	55	第96図	1号住居出土遺物	128
第37図	27号住居	56	第97図	22号住居	129
第38図	27号住居出土遺物	57	第98図	22号住居カマドと出土遺物	130
第39図	29号住居と出土遺物	58	第99図	2号道	131
第40図	30号・42号住居と30号住居出土遺物	60	第100図	古墳時代遺構外出土遺物	131
第41図	42号住居出土遺物	61	第101図	2号住居	132
第42図	31号・35号住居	62	第102図	2号住居出土遺物	133
第43図	31号住居出土遺物	63	第103図	3号住居	134
第44図	35号住居出土遺物(1)	64	第104図	3号住居出土遺物	135
第45図	35号住居出土遺物(2)	65	第105図	4号住居	136
第46図	32号住居	66	第106図	4号住居出土遺物	137
第47図	32号住居出土遺物	67	第107図	5号住居と出土遺物	138
第48図	33号・34号住居と33号住居出土遺物	68	第108図	6号住居	139
第49図	34号住居出土遺物	69	第109図	6号住居掘方	140
第50図	36号住居と出土遺物	70	第110図	6号住居カマド	141
第51図	37号住居と出土遺物	71	第111図	6号住居出土遺物	142
第52図	38号住居と出土遺物	72	第112図	7号住居	143
第53図	41号住居と出土遺物	73	第113図	7号住居出土遺物	144
第54図	43号住居	74	第114図	8号住居と出土遺物	145
第55図	5号・6号・26号～31号・36号溝	75			
第56図	1号配石出土遺物	76			
第57図	1号配石	77			
第58図	縄文時代土坑配置図	79			
第59図	13号・114号・118号・208号～213号・216号・217号・220号～223号・225号・231号・232号・235号・237号・251号土坑	80			
第60図	238号～250号・252号・253号・255号・256号・273号・274号・497号土坑	81			

第115図	9号住居	146	第177図	1号溝	214
第116図	9号住居カマド	147	第178図	4号・13号～15号・32号・35号溝と32号・35号溝出土遺物	215
第117図	9号住居出土遺物	148	第179図	9号溝	216
第118図	10号住居掘方とカマド	149	第180図	11号溝と出土遺物	217
第119図	10号住居出土遺物	150	第181図	12号溝	218
第120図	11号住居	151	第182図	16号～21号溝(1)	219
第121図	11号住居セクション図とカマド	152	第183図	16号～21号溝(2)	220
第122図	11号住居出土遺物(1)	153	第184図	16号～20号溝セクション図	221
第123図	11号住居出土遺物(2)	154	第185図	16号・17号・21号溝セクション図と16号・17号・19号・21号溝出土遺物	222
第124図	12号・15号住居と12号住居出土遺物	155	第186図	16号～21号溝(3)	223
第125図	15号住居出土遺物	156	第187図	22号・23号溝	224
第126図	13号住居	157	第188図	24号・25号溝	225
第127図	13号住居掘方	158	第189図	33号・34号溝	226
第128図	13号住居カマド	159	第190図	1号・3号道	227
第129図	13号住居出土遺物(1)	160	第191図	1号井戸と出土遺物	228
第130図	13号住居出土遺物(2)	161	第192図	2号～12号・14号～17号土坑	230
第131図	14号住居	163	第193図	18号～33号・35号土坑と29号土坑出土遺物	231
第132図	14号住居カマドと出土遺物(1)	164	第194図	34号・36号～51号土坑	232
第133図	14号住居出土遺物(2)	165	第195図	52号～63号土坑	233
第134図	16号住居と出土遺物	166	第196図	64号～79号土坑	234
第135図	17号住居と出土遺物	167	第197図	80号～94号土坑と88号土坑出土遺物	235
第136図	18号・49号住居と出土遺物	168	第198図	95号～110号土坑	236
第137図	19号住居	169	第199図	111号～113号・115号～117号・119号～128号土坑と115号土坑出土遺物	237
第138図	19号住居出土遺物	170	第200図	129号～140号土坑	238
第139図	20号住居と出土遺物	171	第201図	141号～152号・167号土坑	239
第140図	21号住居と出土遺物	172	第202図	153号～166号・168号～170号土坑	240
第141図	23号住居	174	第203図	171号～187号土坑	241
第142図	23号住居カマドと出土遺物	175	第204図	188号～194号・201号～207号・214号・215号土坑と205号土坑出土遺物	242
第143図	28号住居と出土遺物	176	第205図	218号・219号・224号・263号・264号・270号～272号・282号・283号・285号・507号・558号・559号・634号～636号・644号土坑と507号土坑出土遺物	243
第144図	40号住居と出土遺物	177	第206図	637号～643号・645号～654号土坑	244
第145図	44号住居と出土遺物	178	第207図	655号～664号・666号～668号・670号土坑	245
第146図	45号住居	179	第208図	671号～674号土坑と672号土坑出土遺物	246
第147図	45号住居出土遺物	180	第209図	1号～10号・20号ピットと8号ピット出土遺物	247
第148図	46号住居と出土遺物	181	第210図	11号～19号・21号・22号ピット	248
第149図	47号住居	182	第211図	23号～31号ピットと24号ピット出土遺物	249
第150図	50号～52号住居	183	第212図	32号～40号ピット	250
第151図	50号～52号住居掘方	185	第213図	41号～48号ピットと41号ピット出土遺物	251
第152図	50号～52号住居エレベーション図	186	第214図	49号～60号ピットと49号ピット出土遺物	252
第153図	50号住居カマド	187	第215図	61号～67号ピットと62号・64号ピット出土遺物	253
第154図	51号住居カマド	188	第216図	68号～73号ピットと71号ピット出土遺物	254
第155図	52号住居カマド	189	第217図	奈良・平安時代遺構外出土遺物	255
第156図	50号・51号住居出土遺物	190	第218図	2号溝と出土遺物	257
第157図	50号～52号住居出土遺物(1)	191	第219図	3号溝	258
第158図	50号～52号住居出土遺物(2)	192	第220図	3号溝エレベーション図と出土遺物	259
第159図	50号～52号住居出土遺物(3)	193	第221図	7号・8号・10号溝	260
第160図	50号～52号住居出土遺物(4)	194	第222図	571号～609号土坑	261
第161図	1号竪穴状遺構と出土遺物	195	第223図	610号～632号土坑	262
第162図	3号・4号竪穴状遺構と出土遺物	196	第224図	1号・226号・230号・279号～281号・286号・287号・560号土坑と280号・281号土坑出土遺物	263
第163図	3号・4号竪穴状遺構出土遺物	197	第225図	中世・近世以降遺構外出土遺物	264
第164図	5号竪穴状遺構と出土遺物(1)	198	第226図	テフラ分析地点の土層柱状図	269
第165図	5号竪穴状遺構出土遺物(2)	199	第227図	新田上遺跡の火山ガラス比ダイヤグラム	269
第166図	6号～8号竪穴状遺構	200	第228図	使用痕観察を行った石器	271
第167図	6号～8号竪穴状遺構出土遺物	201	第229図	彫刻刀形石器の使用痕	272
第168図	9号～13号・17号・18号竪穴状遺構	204	第230図	群馬県内の主な北方系細石刃石器群出土遺跡分布図	274
第169図	11号・13号竪穴状遺構出土遺物	205	第231図	新田上遺跡出土の文字資料他	278
第170図	14号～16号竪穴状遺構と14号竪穴状遺構出土遺物	206	第232図	新田上遺跡 墨書土器・刻書土器などが出土した遺構	279
第171図	19号竪穴状遺構	207			
第172図	19号竪穴状遺構出土遺物	208			
第173図	1号掘立柱建物と出土遺物	209			
第174図	2号掘立柱建物	210			
第175図	2号掘立柱建物セクション図と出土遺物	211			
第176図	3号掘立柱建物と出土遺物	212			

# 表目次

第1表	上武道路8工区調査遺跡一覧表	3	第16表	火山ガラス比分析結果	268
第2表	新田上遺跡遺構番号変更一覧表	9	第17表	屈折率測定結果	268
第3表	周辺遺跡一覧表	17	第18表	光沢面の各タイプの特徴	270
第4表	新田上遺跡時代別遺構一覧表	28	第19表	使用痕観察を行った石器一覧	272
第5表	層位別出土点数	29	第20表	新田上遺跡出土の墨書土器・刻書土器・線刻のある土器一覧表	277
第6表	器種と石材	30	第21表	旧石器時代遺物観察表	282
第7表	器種別点数表	48	第22表	縄文時代遺物観察表	285
第8表	石材別点数表	48	第23表	弥生時代遺物観察表	300
第9表	縄文住居別に見た石器器種構成	53	第24表	古墳時代遺物観察表	307
第10表	弥生住居別に見た石器器種構成	110	第25表	奈良・平安時代遺物観察表	308
第11表	遺構外出土の縄文・弥生時代の石器器種および石材構成	124	第26表	中世・近世以降遺物観察表	330
第12表	1号掘立柱建物ピット計測値	209	第27表	竪穴住居一覧表	331
第13表	2号掘立柱建物ピット計測値	210	第28表	土坑一覧表	333
第14表	3号掘立柱建物ピット計測値	212	第29表	ピット一覧表	343
第15表	テフラ検出分析結果	268			

# 写真目次

PL. 1	1. 遺跡遠景(○印 新田上遺跡 南から)				
	2. 遺跡遠景(○印 新田上遺跡 北東から)				
PL. 2	1. 遺跡全景(南から)		PL. 11	1. 26号住居遺物出土状況(西から)	
	2. 遺跡全景(東から)			2. 26号住居全景(西から)	
PL. 3	1. 遺跡全景(真上から上が西)			3. 26号住居炉全景(西から)	
	2. 遺跡全景(真上から上が北)			4. 26号住居炉セクションD-D' (南西から)	
PL. 4	1. 第1ブロック全景(北西から)			5. 27号住居遺物出土状況(南から)	
	2. 第1ブロック全景(北東から)			6. 27号住居遺物出土状況(西から)	
	3. 第1ブロック遺物出土状況(北西から)			7. 27号住居全景(西から)	
	4. 第1ブロック細石刃核出土状況接写			8. 29号住居全景(南西から)	
	5. 第1ブロックセクションC-C' (東から)		PL. 12	1. 29号住居埋壊炉確認状況(西から)	
	6. 第1ブロックセクションC-C' テフラ採取状況(東から)			2. 29号住居埋壊炉セクションD-D' (南西から)	
	7. 第1ブロック調査風景(北から)			3. 29号住居調査風景(南から)	
PL. 5	1. 第2ブロック全景(南東から)			4. 30号住居全景(南西から)	
	2. 第2ブロックセクション(西から)			5. 31号住居全景(南西から)	
	3. 第2ブロック全景(北西から)			6. 31号住居遺物出土状況(南西から)	
	4. 第2ブロック調査風景(東から)			7. 32号住居遺物出土状況(南から)	
PL. 6	1. 第2ブロック細石刃出土状況接写			8. 32号住居全景(南から)	
	2. 第2ブロック細石刃核出土状況接写		PL. 13	1. 33号住居遺物出土状況(南西から)	
	3. 第2ブロック細石刃出土状況(南から)			2. 33号住居全景(南西から)	
	4. 第2ブロック細石刃核出土状況(南から)			3. 34号住居遺物出土状況(南西から)	
	5. 第2ブロック遺物出土状況(西から)			4. 34号住居全景(南西から)	
	6. 第3ブロック全景(北東から)			5. 33号・34号住居調査風景(南東から)	
PL. 7	1. 第3・第6・第7ブロック全景(南から)			6. 35号住居全景(南西から)	
	2. 第3ブロック全景(西から)			7. 35号住居遺物出土状況(南から)	
	3. 第3ブロック彫刻刀形石器出土状況接写			8. 36号住居全景(南西から)	
	4. 第3ブロック彫刻刀形石器出土状況(北から)		PL. 14	1. 37号住居全景(南西から)	
PL. 8	1. 第5ブロック全景(北西から)			2. 38号住居全景(南西から)	
	2. 第5ブロック南側調査風景(南西から)			3. 41号住居遺物出土状況(南西から)	
	3. 第5ブロックセクションA-A' (西から)			4. 41号住居遺物出土状況(南から)	
	4. 第5ブロック遺物出土状況(東から)			5. 41号住居全景(南西から)	
	5. 第5ブロック遺物出土状況(南西から)			6. 42号住居遺物出土状況(北東から)	
PL. 9	1. 第3・第6・第7ブロックセクションA-A' 詳細(南西から)			7. 42号住居遺物出土状況(南から)	
	2. 第6ブロック全景(南西から)			8. 43号住居全景(南東から)	
	3. 第6ブロック全景(北西から)		PL. 15	1. 1号配石全景(西から)	
	4. 第6ブロック彫刻刀形石器出土状況			2. 1号配石全景(南西から)	
	5. 第6ブロック彫刻刀形石器出土状況(北から)			3. 1号配石遺物出土状況(南西から)	
	6. 第7ブロック全景(東から)			4. 1号配石遺物出土状況(北東から)	
	7. 第7ブロック全景(西から)			5. 31号溝全景(北から)	
PL. 10	1. 56区 旧石器調査風景(東から)		PL. 16	1. 縄文時代土坑群2面目全景(東から)	
	2. 56区B19グリッド旧石器トレンチ(東から)			2. 縄文時代土坑群2面目調査風景(南東から)	
	3. 56区B19グリッド旧石器トレンチ拡張部(北から)			3. 13号土坑全景(北から)	
	4. 67区 旧石器調査風景(北西から)			4. 114号・118号土坑全景(西から)	
				5. 235号・251号土坑全景(南から)	

	6. 290号土坑全景(北から)		6. 3号住居カマド全景(南西から)
	7. 322号・479号土坑全景(東から)		7. 3号住居掘方全景(南西から)
	8. 323号土坑全景(東から)		8. 4号住居掘方全景(西から)
	9. 470号土坑全景(北東から)	PL. 24	1. 4号住居カマド全景(西から)
	10. 住居周辺土坑全景(東から)		2. 4号住居カマド掘方全景(西から)
PL. 17	11. 住居周辺土坑調査風景(西から)		3. 5号住居全景(西から)
	1. 472号土坑全景(北東から)		4. 6号住居遺物出土状況
	2. 473号土坑全景(北から)		5. 6号住居全景(西から)
	3. 475号土坑全景(北から)		6. 6号住居掘方全景(西から)
	4. 479号土坑全景(北から)		7. 6号住居カマド全景(西から)
	5. 484号土坑全景(南から)		8. 6号住居カマド掘方全景(西から)
	6. 494号土坑全景(北から)	PL. 25	1. 6号住居調査風景(北西から)
	7. 494号土坑遺物出土状況(北から)		2. 7号住居全景(西から)
	8. 510号土坑全景(北から)		3. 7号住居カマド全景(西から)
	9. 511号土坑全景(東から)		4. 7号住居カマド掘方全景(西から)
	10. 514号土坑全景(北から)		5. 7号住居掘方全景(西から)
	11. 515号土坑全景(北から)		6. 8号住居全景(西から)
	12. 516号土坑全景(北から)		7. 9号住居全景(西から)
	13. 518号土坑全景(北から)		8. 9号住居カマド全景(西から)
	14. 519号土坑全景(西から)	PL. 26	1. 9号住居カマド掘方全景(西から)
	15. 520号・521号土坑全景(西から)		2. 9号住居炭化物出土状況(北西から)
PL. 18	1. 522号土坑全景(西から)		3. 9号住居掘方全景(西から)
	2. 556号土坑全景(東から)		4. 10号住居カマドセクションD-D'
	3. 561号土坑全景(西から)		5. 10号住居カマド掘方全景(西から)
	4. 565号土坑全景(東から)		6. 10号住居掘方全景(西から)
	5. 565号～570号土坑全景(南東から)		7. 11号住居全景(西から)
	6. 566号土坑全景(北から)		8. 11号住居カマド全景(西から)
	7. 567号土坑全景(東から)	PL. 27	1. 11号住居カマド掘方全景(西から)
	8. 568号土坑全景(北西から)		2. 11号住居掘方全景(西から)
	9. 569号土坑全景(東から)		3. 11号住居調査風景(南西から)
	10. 570号土坑全景(東から)		4. 12号・15号住居全景(北西から)
	11. 665号土坑セクション(東から)		5. 12号・15号住居南壁セクションA-A' (北東から)
	12. 678号土坑全景(南から)		6. 12号住居掘方全景(南西から)
	13. 679号土坑全景(南から)		7. 15号住居遺物出土状況接写
	14. 680号土坑遺物出土状況(南から)		8. 13号住居全景(北西から)
PL. 19	1. 24号住居全景(東から)	PL. 28	1. 13号住居遺物出土状況(西から)
	2. 24号住居炉全景(北から)		2. 13号住居カマド全景(西から)
	3. 24号住居遺物出土状況		3. 13号住居カマド掘方全景(西から)
	4. 25号住居全景(西から)		4. 13号住居P 4全景(南西から)
	5. 67区全景(北から)		5. 13号住居掘方全景(北西から)
PL. 20	1. 25号住居遺物出土状況(西から)		6. 14号住居遺物出土状況(北西から)
	2. 39号住居全景(南西から)		7. 14号住居カマド全景(西から)
	3. 48号住居全景(北から)		8. 14号住居カマド掘方全景(西から)
	4. 48号住居炉確認状況(南から)	PL. 29	1. 16号住居全景(北から)
	5. 39号住居周辺調査風景(北から)		2. 17号住居全景(西から)
PL. 21	1. 227号土坑セクション(北から)		3. 18号・49号住居全景(西から)
	2. 227号土坑全景(北から)		4. 18号・49号住居掘方全景(西から)
	3. 495号土坑遺物出土状況(北から)		5. 19号住居全景(北から)
	4. 498号土坑遺物出土状況(西から)		6. 19号住居遺物出土状況(北から)
	5. 498号土坑全景(西から)		7. 19号住居カマド全景(北から)
	6. 499号土坑全景(西から)		8. 19号住居カマド掘方全景(北から)
	7. 501号土坑全景(北から)	PL. 30	1. 19号住居掘方全景(北から)
	8. 509号土坑遺物出土状況(北西から)		2. 20号住居全景(西から)
PL. 22	1. 1号住居全景(北東から)		3. 20号住居カマドセクションB-B' (西から)
	2. 1号住居遺物出土状況(南西から)		4. 20号住居掘方全景(西から)
	3. 1号住居掘方全景(北東から)		5. 20号住居掘方P 3全景(西から)
	4. 22号住居全景(南西から)		6. 21号住居全景(西から)
	5. 22号住居遺物出土状況		7. 23号住居全景(西から)
	6. 22号住居カマド全景(南西から)		8. 23号住居カマド全景(西から)
	7. 22号住居カマド掘方全景(東から)	PL. 31	1. 23号住居カマド掘方全景(西から)
	8. 2号道全景(西から)		2. 23号住居掘方全景(西から)
PL. 23	1. 2号住居全景(西から)		3. 23号住居P 14遺物出土状況(北から)
	2. 2号住居カマド全景(西から)		4. 28号住居全景(西から)
	3. 2号住居掘方全景(西から)		5. 28号住居カマド全景(西から)
	4. 2号住居カマド掘方全景(西から)		6. 28号住居カマド掘方全景(西から)
	5. 3号住居全景(南西から)		7. 28号住居掘方全景(西から)

- PL. 32 8. 40号住居全景(西から)  
1. 44号住居全景(西から)  
2. 44号住居カマド全景(西から)  
3. 45号住居全景(西から)  
4. 45号住居カマド全景(西から)  
5. 45号住居P 1 全景(西から)  
6. 45号住居カマド掘方全景(西から)  
7. 46号住居全景(西から)  
8. 47号住居全景(西から)
- PL. 33 1. 50号～52号住居セクションA-A' (南から)  
2. 50号～52号住居全景(西から)  
3. 50号～52号住居セクションB-B' 1 (西から)  
4. 50号～52号住居セクションB-B' 2 (西から)  
5. 50号～52号住居掘方セクションB-B' (西から)  
6. 50号～52号住居土層詳細(西から)  
7. 51号住居P 1 遺物出土状況(西から)  
8. 50号～52号住居調査風景(南から)
- PL. 34 1. 50号～52号住居掘方全景(西から)  
2. 50号住居カマド全景(西から)  
3. 50号～52号住居カマド掘方全景(西から)  
4. 50号～52号住居カマド全景(西から)
- PL. 35 1. 1号竪穴状遺構全景(南から)  
2. 3号・4号竪穴状遺構全景(南から)  
3. 5号竪穴状遺構全景(南から)  
4. 6号～8号竪穴状遺構、663号・664号土坑全景(南から)  
5. 9号竪穴状遺構全景(北西から)  
6. 10号竪穴状遺構全景(西から)  
7. 11号・12号竪穴状遺構全景(西から)  
8. 13号竪穴状遺構全景(西から)
- PL. 36 1. 14号～16号竪穴状遺構全景(北から)  
2. 17号・18号竪穴状遺構全景(東から)  
3. 19号竪穴状遺構全景(西から)  
4. 19号竪穴状遺構遺物出土状況(北から)  
5. 竪穴状遺構周辺(西から)
- PL. 37 1. 竪穴状遺構周辺調査風景(東から)  
2. 1号掘立柱建物全景(北から)  
3. 2号掘立柱建物全景(西から)  
4. 3号掘立柱建物全景(西から)  
5. 1号～3号掘立柱建物全景(北西から)
- PL. 38 1. 1号掘立柱建物P 1セクション(西から)  
2. 1号掘立柱建物P 5セクション(北西から)  
3. 2号掘立柱建物P 1セクション(南から)  
4. 2号掘立柱建物P 2セクション(西から)  
5. 2号掘立柱建物P 3セクション(西から)  
6. 2号掘立柱建物P 4セクション(西から)  
7. 2号掘立柱建物P 5セクション(南東から)  
8. 2号掘立柱建物P 6セクション(南西から)  
9. 2号掘立柱建物P 7セクション(北西から)  
10. 2号掘立柱建物P 8セクション(北西から)  
11. 2号掘立柱建物P 9セクション(北西から)  
12. 2号掘立柱建物P 10セクション(南東から)  
13. 3号掘立柱建物P 1セクション(北西から)  
14. 3号掘立柱建物P 2セクション(南東から)  
15. 3号掘立柱建物P 3セクション(北西から)
- PL. 39 1. 1号溝全景(北から)  
2. 7号～10号溝全景(西から)  
3. 11号溝全景(西から)  
4. 12号溝全景(北から)  
5. 19号溝遺物出土状況  
6. 道路状遺構調査風景(西から)
- PL. 40 1. 22号～24号溝全景(北から)  
2. 25号溝全景(北西から)  
3. 道路状遺構全景(東から)
- PL. 41 1. 道路状遺構全景(西から)  
2. 道路状遺構全景(西から)
- PL. 42 1. 1号道全景(北から)
- PL. 43 2. 3号道全景(南から)  
3. 1号井戸掘削状況(北から)  
4. 1号井戸全景(南西から)  
5. 1号井戸遺物出土状況(北から)
- PL. 44 1. 2号土坑全景(北から)  
2. 5号土坑全景(北から)  
3. 6号土坑全景(北から)  
4. 9号土坑全景(北から)  
5. 12号土坑、1号掘立柱建物P 2 全景(北から)  
6. 14号土坑全景(北から)  
7. 16号土坑全景(北から)  
8. 17号土坑全景(北から)  
9. 28号・35号・40号土坑全景(北から)  
10. 68号土坑全景(南西から)  
11. 88号土坑全景(北から)  
12. 91号土坑全景(南東から)  
13. 98号土坑全景(北から)  
14. 99号土坑全景(南東から)  
15. 101号土坑全景(北から)
- PL. 45 1. 104号土坑全景(北から)  
2. 105号土坑全景(北から)  
3. 115号土坑全景(北西から)  
4. 116号土坑全景(東から)  
5. 117号土坑全景(北から)  
6. 125号・127号・143号土坑全景(北西から)  
7. 128号土坑全景(北から)  
8. 129号・130号土坑全景(北から)  
9. 131号土坑全景(北から)  
10. 132号土坑全景(東から)  
11. 136号土坑全景(北から)  
12. 145号・144号土坑全景(東から)  
13. 146号土坑全景(東から)  
14. 147号土坑、34号ピット全景(北から)  
15. 112号・148号土坑全景(北から)
- PL. 46 1. 155号土坑全景(北から)  
2. 156号土坑全景(北から)  
3. 157号・158号土坑全景(北から)  
4. 159号土坑全景(西から)  
5. 159号土坑セクション(西から)  
6. 163号土坑全景(北から)  
7. 166号土坑全景(北から)  
8. 167号土坑全景(東から)  
9. 170号土坑全景(北から)  
10. 171号土坑全景(北から)  
11. 173号土坑全景(北から)  
12. 174号土坑全景(北から)  
13. 176号土坑全景(西から)  
14. 180号土坑全景(北から)  
15. 182号土坑全景(北から)
- PL. 47 1. 186号土坑全景(北から)  
2. 188号土坑全景(北から)  
3. 190号土坑全景(北から)  
4. 191号土坑全景(北から)  
5. 203号土坑全景(北から)  
6. 654号土坑全景(北から)  
7. 656号土坑全景(北から)  
8. 658号土坑全景(北から)  
9. 671号土坑全景(北から)  
10. 1号ピット全景(北から)  
11. 2号ピット全景(北から)  
12. 31号ピット全景(西から)  
13. 32号・33号ピット全景(西から)  
14. 34号ピット全景(西から)  
15. 46号ピット全景(北から)
- PL. 48 1. 47号ピット全景(北から)  
2. 48号ピット全景(北から)

3. 50号ピット全景(北から)  
4. 51号ピット全景(北から)  
5. 51号～56号ピット全景(北から)  
6. 52号ピット全景(北から)  
7. 53号ピット全景(北から)  
8. 54号ピット全景(北から)  
9. 55号ピット全景(北から)  
10. 56号ピット全景(北から)  
11. 59号ピット全景(北から)  
12. 60号ピット全景(北から)  
13. 62号ピット全景(北から)  
14. 奈良・平安時代遺構調査風景(南から)
- PL. 48 1. 67区 南側中世土坑群全景(東から)  
2. 2号溝全景(東から)  
3. 3号溝南端粘土採掘坑全景(北から)  
4. 1号土坑全景(北から)  
5. 226号土坑礫出土状況(北から)  
6. 230号土坑礫出土状況(北から)  
7. 279号土坑セクション(南から)  
8. 280号土坑セクション(南から)  
9. 279号・280号土坑全景(北から)  
10. 286号土坑礫出土状況(西から)  
11. 287号土坑礫出土状況(北から)  
12. 調査風景(南西から)
- PL. 49 細石刃核・細石刃・彫刻刀形石器・ナイフ形石器・サイドスク  
レイパー・スクレイパー (1)
- PL. 50 スクレイパー (2)・二次加工ある剥片・微小剥離痕ある剥片  
PL. 51 剥片(1)  
PL. 52 剥片(2)・碎片・石核(1)  
PL. 53 石核(2)  
PL. 54 石製品・ハンマーストーン(接合資料8)  
PL. 55 台石?・接合資料1～3  
PL. 56 接合資料4～7・9・グリッド出土剥片  
PL. 57 26号住居出土遺物、27号住居出土遺物(1)
- PL. 58 27号住居出土遺物(2)、29号・30号・42号住居出土遺物  
PL. 59 31号住居出土遺物、35号住居出土遺物(1)  
PL. 60 35号住居出土遺物(2)、32号・33号住居出土遺物  
PL. 61 34号・36号～38号・41号住居出土遺物  
PL. 62 1号配石出土遺物  
PL. 63 縄文土坑出土遺物(1)  
PL. 64 縄文土坑出土遺物(2)  
PL. 65 縄文土坑出土遺物(3)  
PL. 66 縄文土坑出土遺物(4)  
PL. 67 遺構外出土の縄文土器(1)  
PL. 68 遺構外出土の縄文土器(2)  
PL. 69 遺構外出土の縄文土器(3)  
PL. 70 24号・25号・39号・48号住居出土遺物  
PL. 71 227号土坑出土遺物・弥生土坑出土遺物、遺構外出土の弥生土  
器(1)  
PL. 72 遺構外出土の弥生土器(2)  
PL. 73 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(1)  
PL. 74 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(2)、1号・22号住居出  
土遺物、古墳時代遺構外出土遺物  
PL. 75 2号～5号住居出土遺物、6号住居出土遺物(1)  
PL. 76 6号住居出土遺物(2)、7号～9号住居出土遺物  
PL. 77 10号・11号住居出土遺物  
PL. 78 12号・15号住居出土遺物、13号住居出土遺物(1)  
PL. 79 13号住居出土遺物(2)、14号住居出土遺物(1)  
PL. 80 14号住居出土遺物(2)、16号～19号住居出土遺物  
PL. 81 20号・21号・23号・28号・40号・44号～46号住居出土遺物  
PL. 82 50号・51号住居出土遺物  
PL. 83 50号～52号住居出土遺物  
PL. 84 3号～7号竪穴状遺構出土遺物  
PL. 85 8号・11号・13号・14号・19号竪穴状遺構出土遺物、1号井戸  
出土遺物、奈良・平安時代溝、土坑、ピット、遺構外出土遺物  
2号・3号溝出土遺物、280号・281号土坑出土遺物、中世・近  
世以降遺構外出土遺物  
PL. 87 新田上遺跡出土の文字資料他(1)  
PL. 88 新田上遺跡出土の文字資料他(2)





## 第1章 調査に至る経過

### 第1節 上武道路について

上武道路は一般国道17号の交通混雑に対応するために計画された大規模バイパスで、埼玉県熊谷市で深谷バイパスから分岐、群馬県前橋市田口町で現道に接続する延長40.5kmの道路である。現道の西には、前橋渋川バイパス、その先には鯉沢バイパス、また計画では上信自動車道が続いて、県北西部の新たな交通幹線網整備事業として期待されている。平成10年には、前橋渋川バイパスを含めて地域高規格道路『熊谷渋川連絡道路』として計画路線の指定を受け、群馬県では『幹線交通乗り入れ30分構想』の中で主要幹線のひとつに位置づけられている。

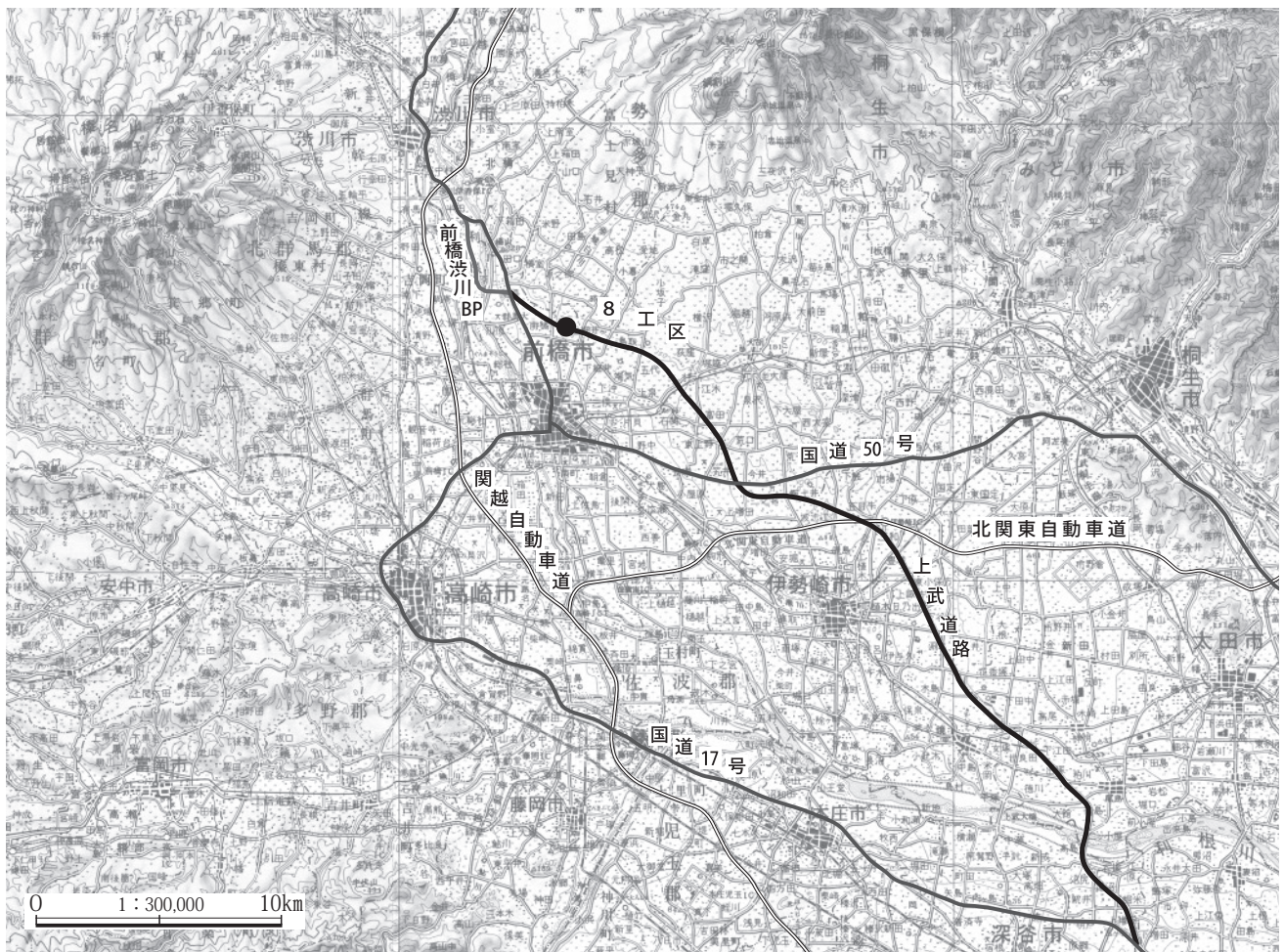
上武道路の建設事業は、昭和45年度から着手され、平成4年2月までには起点から国道50号までの延長27.4km

区間が供用された。その後、供用区間が延伸するとともに交通量は増大し、平成元年度に着手された国道50号から前橋市上泉町までの4.9km区間(7工区)が、平成20年6月に暫定2車線で供用された。

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)が対象とする8工区は、平成17年度に事業が着手され、平成24年度に主要地方道前橋赤城線までの4.7km区間の暫定開通を果たし、全線開通までの最終3.5km区間の発掘調査と工事が進められている。

### 第2節 上武道路と埋蔵文化財

上武道路が通過する地域は、群馬県内でも有数の埋蔵文化財包蔵地の多い地域である。群馬県は、昭和48年に



第1図 上武道路と遺跡の位置 国土地理院発行1/200,000地勢図「宇都宮」平成18年発行を縮小して使用

## 第1章 調査に至る経過

文化財保護室を文化財保護課に拡充して調査にあたり、昭和53年度からは財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（現公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団）が調査事業を受託して、現在に至っている。

上武道路の建設事業は起点側から段階的に進められてきた。その工程は概ね①埼玉県境から国道50号まで、②国道50号から前橋市上泉町まで、③前橋市上泉町から前橋市田口町の現国道17号までの3つの区間に分けることができ、現在は③の中程まで供用が開始されている。

埼玉県境から国道50号までの区間では、35カ所の遺跡の発掘調査が行われ、調査の成果は26冊の発掘調査報告書として刊行されている。この区間の事業が完了した平成7年には、埋蔵文化財調査の成果をより広く公開するため、冊子総集編『地域をつなぐ 未来へつなぐー上武道路埋蔵文化財22年の軌跡ー』が刊行された。この総集編では、「弥生時代の開拓者」といった平野部での発掘調査や「芳郷」の墨書土器出土で話題となった古代勢多郡の芳賀郷、東山道駅路のひとつにも推定されていた「あずま道」など、この地域の歴史的課題に対する検討の結果がまとめられており、今後取り組むべき考古学的課題も特記されている。

国道50号から前橋市上泉町までは7工区にあたる。ここでは17カ所の遺跡が発掘調査の対象となり、16冊の発掘調査報告書が刊行されている。この区間の発掘調査では、荒砥川の東で検出された古墳時代の集落が周辺の今井神社古墳や大室古墳群の築造と関連する可能性があること、荒砥前田Ⅱ遺跡では県内でも希少な巴形銅器破片が出土したこと、女堀の調査では浅間粕川テフラが確認されたことで開削年代を特定する手掛かりが得られたこと等が成果としてあげられている。荒砥川の西では、帯状低地に分断された台地ごとに縄文時代前期の集落が立地し、旧石器時代の遺物も暗色帯および上位の複数の土層から出土したこと等が注目されている。

前橋市上泉町から現国道17号までは8工区にあたり、31カ所の遺跡、約40万㎡が埋蔵文化財の調査対象となっている。工区名称は県道前橋赤城線を境界にして東が8-1工区、西が8-2工区と呼ばれている。調査は、平成18年度に8-1工区の東端から始められ、工事工程との調整により、平成23年度からは8-2工区の西端である終点の田口下田尻遺跡の調査も開始された。

8-1工区は、これまでと同様に旧石器時代や縄文時代の遺構・遺物が多いのに対して、8-2工区では縄文時代より新しい遺跡の存在が続々と明らかになっている。遺跡の実態が未知数であった赤城白川流域の白川扇状地では、予想外の縄文時代の埋没谷や旧石器まで含まれていることが判明している。特に最西端の田口下田尻遺跡では、竪穴住居280棟が検出された大集落が調査され、従来の広瀬川低地帯の遺跡分布の理解を見直す資料が得られている。

これまで、群馬県内の上武道路関連で発掘調査を実施してきた遺跡には、JKを冠した遺跡略号が付されている。Jが上武、Kが国道を指しており、南側の起点から順次算用数字を1から付している。8工区も、7工区の最終番号JK52に続けて、この略号を記録類作成に際して使用している。JK52だけは、上泉唐ノ堀遺跡が供用部分の関係で7工区と8工区で分割されたことから、8工区分の上泉唐ノ堀遺跡にはJK52bをつけて7工区と区別している。また、JK59鳥取塚田遺跡は、水田遺構の存在が想定されていたが、試掘調査で遺構の無いことが判明し、発掘調査対象から除外したものの略号は欠番とせず、そのままとした(表1)。また、当初関根遺跡群で一括されていた遺跡が田口下田尻遺跡、関根細ヶ沢遺跡、関根赤城遺跡に細分されたこと、平成23年度に開始された田口下田尻遺跡を先行して82としたことから、関根細ヶ沢遺跡は81a、関根赤城遺跡は81bとした。

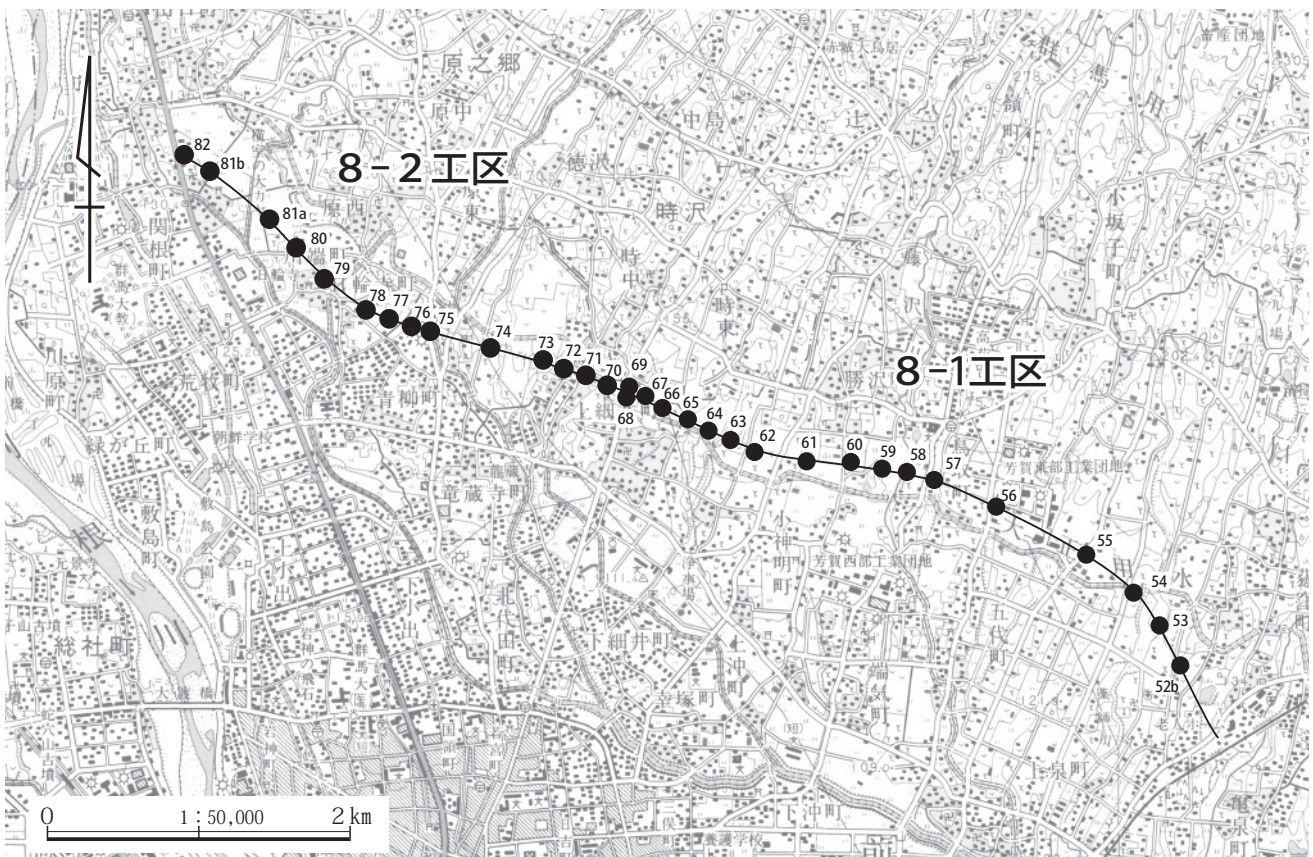
## 第3節 調査に至る経過

上武道路7工区の発掘調査は、上泉唐ノ堀遺跡を最後に平成16年度末で終了した。その後の工事は順調で、県道前橋大胡線までの供用が間近に迫っていた。さらに同16年度には、国道17号の現道から西の前橋渋川バイパスが着工されたことから、8工区は、開通部分と前橋渋川バイパスとの間に残された格好となり、早期着工を待ち望む声が一段と強まった。

8工区が建設に向けて動いたのは、平成18年度に入ってからである。国土交通省による路線測量、関係機関との調整や地元への協力要請を経て、用地取得等の工事着工準備が起点側から始まった。これまでの調査状況からみて、埋蔵文化財が用地内にあることは明確であったこ

表1 上武道路8工区調査遺跡一覧表

J K No.	遺跡名	所在地	市町村遺跡番号	調査年度	報告書刊行年度
52b	上泉唐ノ堀遺跡	前橋市 上泉町	00774	平成18・19・20年度	平成23年度
53	上泉新田塚遺跡群	前橋市 上泉町	00775	平成18・19・20年度	平成23年度
54	上泉武田遺跡	前橋市 上泉町	00773	平成19年度	平成24年度
55	五代砂留遺跡群	前橋市 五代町	00772	平成19年度	平成23年度
56	芳賀東部団地遺跡	前橋市 五代町・鳥取町	00357	平成18・19・20年度	平成24年度
57	鳥取松合下遺跡	前橋市 鳥取町	00776	平成20年度	平成23年度
58	胴城遺跡	前橋市 鳥取町	00041	平成19・20・21年度	平成23年度
59	鳥取塚田遺跡	前橋市 勝沢町		調査除外	—
60	堤遺跡	前橋市 勝沢町	00034	平成20年度	平成24年度
61	小神明勝沢境遺跡	前橋市 小神明町	00778	平成20年度	平成23年度
62	小神明富士塚遺跡	前橋市 小神明町・上細井町	00403	平成20・21年度	平成23年度
63	東田之口遺跡	前橋市 上細井町	00125	平成20年度	平成23年度
64	丑子遺跡	前橋市 上細井町	00134	平成20年度	平成24年度
65	上細井五十嵐遺跡	前橋市 上細井町	00777	平成20・21年度	平成24年度
66	天王・東紺屋谷戸遺跡	前橋市 上細井町	00131	平成20・21年度	平成25年度
67		前橋市 富士見町	90094	平成20・21年度	平成25年度
68		前橋市 上細井町	00798	平成21年度	平成24年度
69	上町・時沢西紺屋谷戸遺跡	前橋市 富士見町	90097	平成21年度	平成24年度
70	王久保遺跡	前橋市 上細井町・富士見町	00794	平成21・24年度	平成24年度
71	新田上遺跡	前橋市 上細井町	00128	平成24年度	平成26年度
72	上細井中島遺跡	前橋市 上細井町	00787	平成21・24年度	平成25年度
73	上細井蟬山遺跡	前橋市 上細井町	00786	平成21・24年度	平成24年度
74	山王・柴遺跡群	前橋市 青柳町	00795	平成21・22・23・24・25年度	平成24年度
75	引切塚遺跡	前橋市 青柳町	00434	平成24年度	平成26年度
76	青柳宿上遺跡	前橋市 青柳町・日輪寺町	00325	平成24年度	平成26年度
77	日輪寺諏訪前遺跡	前橋市 日輪寺町		調査除外	—
78	諏訪遺跡	前橋市 日輪寺町	00144	調査除外	—
79	川端根岸遺跡	前橋市 川端町	00807	平成24年度	
80	川端山下(道東)遺跡	前橋市 川端町	00808	平成24・25年度	
81a	関根細ケ沢遺跡	前橋市 関根町	00802	平成24年度	平成26年度
81b	関根赤城遺跡	前橋市 関根町	00803	平成24年度	平成25年度
82	田口下田尻遺跡	前橋市 田口町	00804	平成23・25年度	



第2図 上武道路8工区の遺跡 国土地理院1/50,000地形図「前橋」平成10年発行を使用

とから、埋蔵文化財の発掘調査を実施するための調整がおこなわれた。

埋蔵文化財の発掘調査について実施に向けての協議が、国土交通省関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で行われ、平成18年2月16日付で「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)の実施に関する協定書」(以下、「協定書」という。)が三者の間で締結された。これによって、群馬県教育委員会の調整を経て、埋蔵文化財の発掘調査を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が受託することとなった。

協定書では、協定の適用区間、発掘調査の実施場所・対象面積が示され、平成18年10月1日～平成29年3月31日に発掘調査を完了させることが明記された。なお、「協定書」は、平成18年6月20日付で、調査期間の開始を3カ月前倒しとする変更のための「変更協定書」が締結されて、現在に至っている。この「変更協定書」に基づいて、平成18年7月から東端の上泉唐ノ堀遺跡・上泉新田塚遺跡群の発掘調査が開始された。

また、各遺跡が発掘調査に入る前には、調査範囲と調査面積の確定、調査期間や経費算定のため、群馬県教育委員会文化財保護課により、平成18年4月25日・26日、同年5月17日・18日、同年8月11日、同年12月5日～7日、平成19年8月16日～27日、同年12月10日～14日、平成21年1月6日～8日、同年4月20日～5月7日、同年9月25日～29日、平成22年12月6日～20日、平成23年5月12日、同年8月22日～24日、同年10月18日の13回(23年度末現在)にわたって、8工区の試掘調査が実施された。

新田上遺跡の試掘調査は、平成23年8月22日～24日に群馬県教育委員会文化財保護課によって行われた。調査は、調査対象地内に1m幅のトレンチを9カ所設定して実施した。その結果、古代の竪穴住居、溝、土坑と縄文時代の竪穴住居、土坑が確認され、本調査が必要とされた。しかし、遺跡の範囲内の中央部分(56区・66区)については、耕作や土取りなどにより遺構が認められなかったため、本調査の範囲から除外された。そして、平成24年5月1日より発掘調査が開始された(第3図)。

## 第4節 調査方法と経過

### 1 グリッドの設定

グリッドについては、国家座標「世界測地系(日本測地系2000平面直角座標座標第IX系)」を用いて上武道路8工区全域がカバーできるように $X=45.000$ 、 $Y=-63.000$ (前橋市上泉地内)を起点に1km四方に区切った。それを大グリッドとして1～100の番号を振り、第○地区と呼称した。本遺跡は、第7地区に含まれる。中グリッドは一つの地区の内部を100m四方で区画したもので、これを○区とした。本遺跡は、55区、56区、65区、66区、67区にまたがる形になっている(第4図)。各区においては区の南東隅を起点に5m単位で分割し、これを小グリッドとした。なお、グリッド呼称については、区の南東隅を起点にX軸に1～20、Y軸にA～Tを付して、南東隅の交点で呼称することとした(第5図)。

### 2 発掘調査の方法

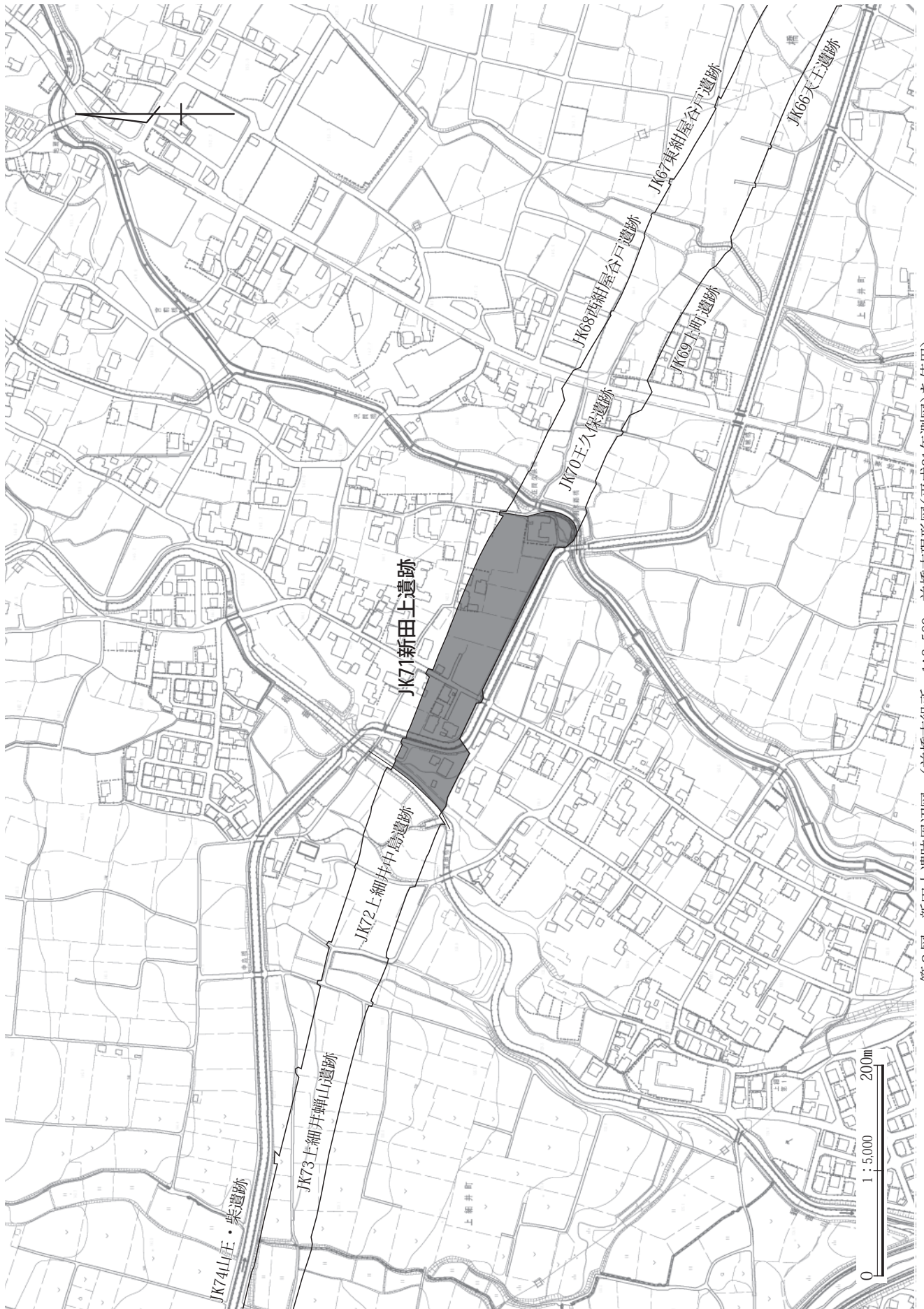
発掘調査は、まず重機により表土を掘削し、表土除去後は、発掘作業員がジョレンを用いて平面精査を行った。その際、面的な遺構の把握に努めた。

遺構確認は、67区では、基本土層のIV層(縄文包含層)上位を確認面として、縄文前期・縄文中期・弥生中期・奈良・平安時代・中世・近世の遺構を検出した。55区、56区、65区、66区では、基本土層IIa層(As-B混入土)上位を確認面として、弥生中期後葉・古墳時代・平安時代・中世・近世の遺構を検出した。

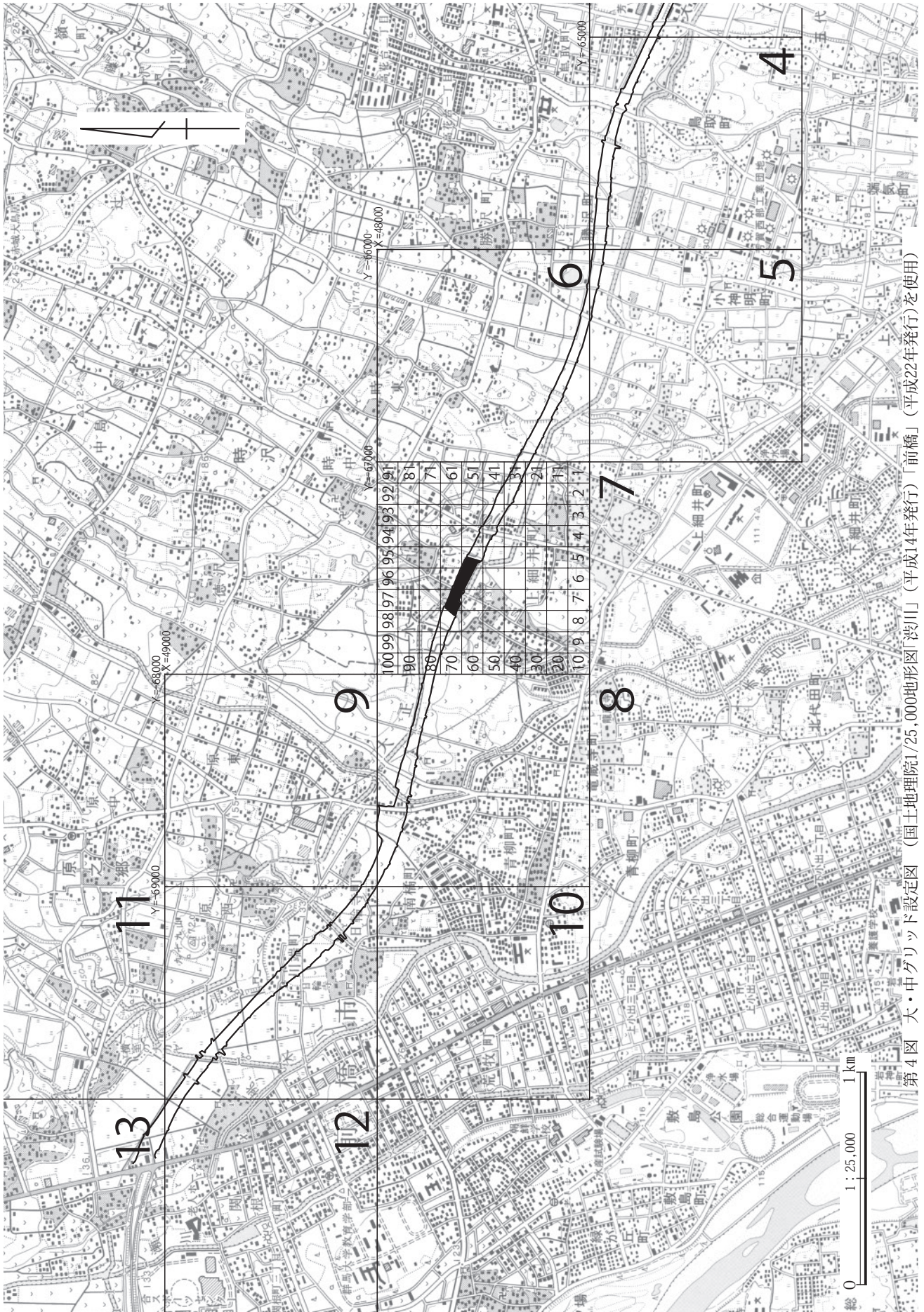
上面調査後、調査区内の旧石器時代を対象としたローム層へのトレンチ調査の結果、石器の出土した地点をそれぞれ拡張して調査した。

各遺構の調査は、竪穴住居は土層確認のためにカマドを上とした際に竪穴住居の横を通すベルトを設定し、竪穴状遺構・土坑・ピットなどは半裁して土層確認を行った。井戸は、途中まで半裁での観察を行い、縦坑全体については、重機での断ち割り調査をした。遺構名は、遺構の種類毎に種別番号を用いて通し番号で標記した。

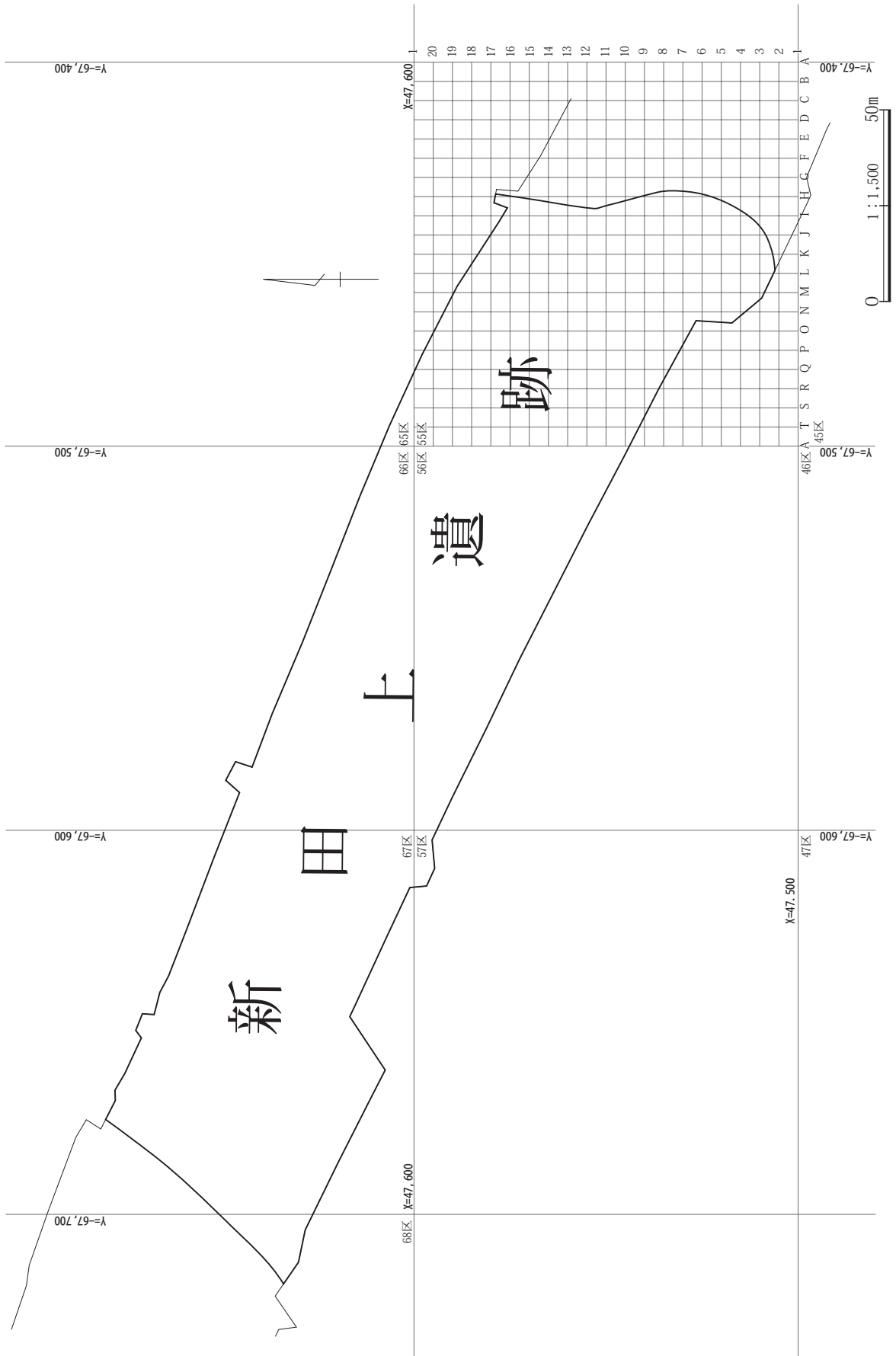
遺構等の測量は、主に土層断面図を作業員による手実測とし、平面図と一部の断面図を測量業者に委託して調査期間の短縮を図った。縮尺は、1/10、1/20、1/40を基



第3図 新田上遺跡周辺図（前橋市役所（前橋市現形図（平成21年測図）を使用）1:2,500）



第4図 大・中グリッド設定図（国土地理院1/25,000地形図「渋川」（平成14年発行）「前橋」（平成22年発行）を使用）



第5図 中・小グリッド設定図

## 第1章 調査に至る経過

本とし、それぞれの遺構の性格に合わせて適宜使用した。

写真撮影は、中判カメラでのカラーポジフィルム、白黒フィルム、デジタルカメラでのデータ撮影を行った。調査区全景写真等は、調査の進展に合わせて行い、ラジコンヘリによる空中写真撮影を業者に委託して67区の縄文時代面と55区、56区、65区、66区の平安時代面の2度実施した。なお、撮影した写真のデジタルデータは、HDやDVD-ROM等のメディアに保存し、データのファイル名は、遺構略号・番号・撮影方向・内容を数値化したものに置き換えるリネーム作業を行った。

### 3 発掘調査の経過

発掘調査は、平成24年5月～11月まで7カ月を要した。以下その概要を記していく。

#### 平成24年

- 5月1日 南から西にかけ大正用水に囲まれた67区東側を重機により表土掘削開始。遺構確認のための表面精査を行う。
- 5月14日 55区東側の竜ノ口川右岸、重機による表土掘削を開始。遺構確認のための表面精査を行う。
- 5月21日 55区の平安時代の住居および土坑等の遺構調査を開始。
- 7月11日 67区東側の縄文時代の住居および土坑等の遺構調査を開始。
- 8月22日 67区東側の旧石器の範囲確認調査開始。
- 8月24日 67区東側の縄文時代遺構の空中写真撮影を実施。
- 9月13日 67区東側旧石器第1ブロック調査開始。
- 9月26日 67区E-3グリッドにてテフラ分析試料採取。
- 10月3日 67区西側重機による表土掘削を開始。
- 10月12日 67区西側遺構確認のための平面精査を行う。
- 10月30日 56区重機による表土掘削を開始。
- 11月24日 55・56・65・66区の平安時代遺構の空中写真撮影を実施。
- 11月28日 50号住居、22号住居の調査を終え、現地調査を終了した。

### 4 整理作業の経過

整理事業は、平成25年4月1日から平成26年3月31日まで実施し、報告書の刊行は平成26年度に行った。

まず、出土遺物の分類から開始し、土器の接合・復元・写真撮影、実測作業を行った。縄文土器や弥生土器も、接合・復元・写真撮影をし、その後拓本・断面実測作業を実施した。石器は分類・接合作業後、写真撮影をし、実測を進めた。これら遺物図のトレース作業後は、各遺物の観察表の執筆を行った。遺構図については、平面図と断面図の確認と修正作業後にデジタル編集作業を進めた。併せて、遺構写真の選定、本文執筆を行った。最後に、報告書版下のレイアウト作成、全体のデジタル編集作業およびデジタル組版を行い、印刷・製本を業者に委託して発掘調査報告書を刊行した。

整理した遺物や写真等については、管理台帳を作成し、活用に備えて遺物や資料類の収納作業を行い、すべての業務を完了した。

なお、遺構全体図を第6図に示した。ただし、名称については、主な遺構のみ明記した。また、時代別の遺構分布については、第11図～第13図を参照のこと。

また、本報告書では、第2表のように遺構番号の付け替えを行った。



第2表 新田上遺跡遺構番号変更一覧表

旧遺構番号	新遺構番号
1号掘立柱建物P 2	1号掘立柱建物P 8
1号掘立柱建物P 3	1号掘立柱建物P 7
1号掘立柱建物P 4	1号掘立柱建物P 2
1号掘立柱建物P 5	1号掘立柱建物P 6
1号掘立柱建物P 6	1号掘立柱建物P 3
1号掘立柱建物P 7	1号掘立柱建物P 4
1号掘立柱建物P 8	1号掘立柱建物P 5
2号掘立柱建物P 2	2号掘立柱建物P 10
2号掘立柱建物P 3	2号掘立柱建物P 9
2号掘立柱建物P 4	2号掘立柱建物P 8
2号掘立柱建物P 5	2号掘立柱建物P 2
2号掘立柱建物P 6	2号掘立柱建物P 7
2号掘立柱建物P 7	2号掘立柱建物P 3
2号掘立柱建物P 8	2号掘立柱建物P 4
2号掘立柱建物P 9	2号掘立柱建物P 5
2号掘立柱建物P 10	2号掘立柱建物P 6
2号道	1号道
3号道	2号道
6号道	3号道
4号溝	2号溝
13号溝	32号溝
14a号溝	21号溝
14b号溝	16号溝
15号溝	19号溝
16号溝	20号溝
16号溝	21号溝
228号土坑	31号住居P 9
229号土坑	31号住居P 10
234号土坑	27号住居P 24
236号土坑	27号住居P 25
254号土坑	32号住居P 6
275号土坑	26号住居P 30
276号土坑	26号住居P 31
277号土坑	26号住居P 32
278号土坑	26号住居P 33
284号土坑	27号住居P 26
288号土坑	30号住居P 12
289号土坑	30号住居P 13
291号土坑	33号住居P 5
296号土坑	33号住居P 6
297号土坑	33号住居P 7
299号土坑	33号住居P 8
300号土坑	33号住居P 9
301号土坑	33号住居P 10
303号土坑	33号住居P 11
304号土坑	32号住居P 7
305号土坑	32号住居P 8
306号土坑	32号住居P 9
307号土坑	32号住居P 10
308号土坑	32号住居P 11
309号土坑	32号住居P 12
310号土坑	32号住居P 13
311号土坑	32号住居P 14
312号土坑	32号住居P 15
314号土坑	32号住居P 16
315号土坑	32号住居P 17
316号土坑	32号住居P 18
317号土坑	32号住居P 19
318号土坑	32号住居P 20
319号土坑	32号住居P 21

旧遺構番号	新遺構番号
320号土坑	32号住居P 22
321号土坑	32号住居P 23
324号土坑	34号住居P 1
325号土坑	34号住居P 2
327号土坑	34号住居P 3
329号土坑	34号住居P 4
330号土坑	34号住居P 5
331号土坑	34号住居P 6
332号土坑	34号住居P 7
333号土坑	34号住居P 8
340号土坑	32号住居P 24
341号土坑	32号住居P 25
351号土坑	41号住居P 1
352号土坑	41号住居P 2
353号土坑	41号住居P 3
354号土坑	41号住居P 4
355号土坑	41号住居P 5
356号土坑	41号住居P 6
357号土坑	41号住居P 7
358号土坑	41号住居P 8
359号土坑	41号住居P 9
376号土坑	36号住居P 5
378号土坑	36号住居P 6
379号土坑	36号住居P 7
380号土坑	36号住居P 8
381号土坑	36号住居P 9
382号土坑	36号住居P 10
383号土坑	36号住居P 11
386号土坑	36号住居P 12
387号土坑	36号住居P 13
388号土坑	36号住居P 14
389号土坑	36号住居P 15
390号土坑	36号住居P 16
391号土坑	36号住居P 17
392号土坑	36号住居P 18
393号土坑	36号住居P 19
394号土坑	36号住居P 20
395号土坑	36号住居P 21
396号土坑	37号住居P 5
397号土坑	37号住居P 6
398号土坑	37号住居P 7
399号土坑	37号住居P 8
400号土坑	37号住居P 9
401号土坑	37号住居P 10
402号土坑	37号住居P 11
403号土坑	37号住居P 12
405号土坑	37号住居P 13
407号土坑	37号住居P 14
408号土坑	37号住居P 15
409号土坑	37号住居P 16
410号土坑	37号住居P 17
452号土坑	38号住居P 1
453号土坑	38号住居P 2
454号土坑	38号住居P 3
455号土坑	38号住居P 4
456号土坑	38号住居P 5
474号土坑	41号住居P 10
476号土坑	34号住居P 9
478号土坑	34号住居P 10



第6図 遺構全体図

## 第2章 遺跡の概要

### 第1節 遺跡の地理的環境

新田上遺跡は、前橋市上細井町1279-2番地他の旧富士見村に接する所にある。前橋市は、平成16年12月に勢多郡大胡町、宮城村、粕川村と、平成21年5月には、勢多郡富士見村と合併した。これにより、古代から親しまれてきた勢多郡の名称は地図から消え、前橋市域は赤城山頂付近まで含む311.64 km<sup>2</sup>となった。(第7図)

前橋市は、関東平野の北部に位置し、市街地の中央利根川が北から南東へ流れている。前橋市の地形は、沖積低地の広瀬川低地帯・洪積台地の前橋台地・第四紀火山である赤城山や榛名山などの斜面の3つから成り立っている。

日本百名山の一つでもある赤城山は、榛名山や妙義山と共に上毛三山と呼ばれ、群馬県紋章(大正15年10月1日告示)や群馬県旗(昭和43年10月25日告示)に使われている。県庁32階展望台から赤城山を眺めると、上毛カルタ「裾野は長し、赤城山」を実感することができる。現在の赤城山の標高は、黒檜山の1,827.6mであるが、以前の赤城山は、標高2,500mにまで達していた大規模な成層火山であった。

赤城山の火山活動は、約40～50万年前から約13万年前の【古期成層火山形成期】、約13万年前から4.5万年前の【新期成層火山形成期】、4.5万年前以降の【中央火口丘形成期】の3つに区分される。

【古期成層火山形成期】に、溶岩流出とスコリアの噴出により標高2,500mまで達したが、その後、山体崩壊により岩屑なだれが発生し、赤城南麓の多田山や赤城南西麓の橘山・箱田山などの流れ山が形成された。その後、長い活動停止期間があり、河川による山体の浸食が進んだ。

【新期成層火山形成期】には、流出溶岩と噴出テフラが、浸食の進んだ山体を覆っていった。火砕流を伴う噴火が多いのが特徴で、赤城山南麓で大胡火砕流が発生した。

【中央火口丘形成期】には、カルデラの形成が進み大沼ができた。約3.1万年前～3.2万年前には大規模な軽石

噴火が起こり偏西風に乗って、軽石が遠く太平洋まで達している。現在、園芸用に販売されている「鹿沼土」がこれに当たる。その後、長七郎山(1,578.9m)や地藏岳(1,673.9m)などの中央火口丘が形成された。また、長七郎山の西にある小沼は、小沼火山の形成の最後に発生した水蒸気爆発によって生じた火口湖である。小沼からは粕川が、地藏岳の南面からは赤城白川が流れ出ている。その後、活発な火山活動は確認できず、現在に至るまで、粕川・荒砥川・赤城白川などの小河川により火山麓状地が形成され続けている。

白川扇状地は、旧富士見村大河原付近を扇頂として東端を藤沢川、西端を細ヶ沢川の広い範囲で緩斜面を形成している。白川扇状地は、新旧の二期に分けられると考えられ、新しい時期の白川扇状地は、広瀬川低地帯に張り出して形成されている。(第7図)

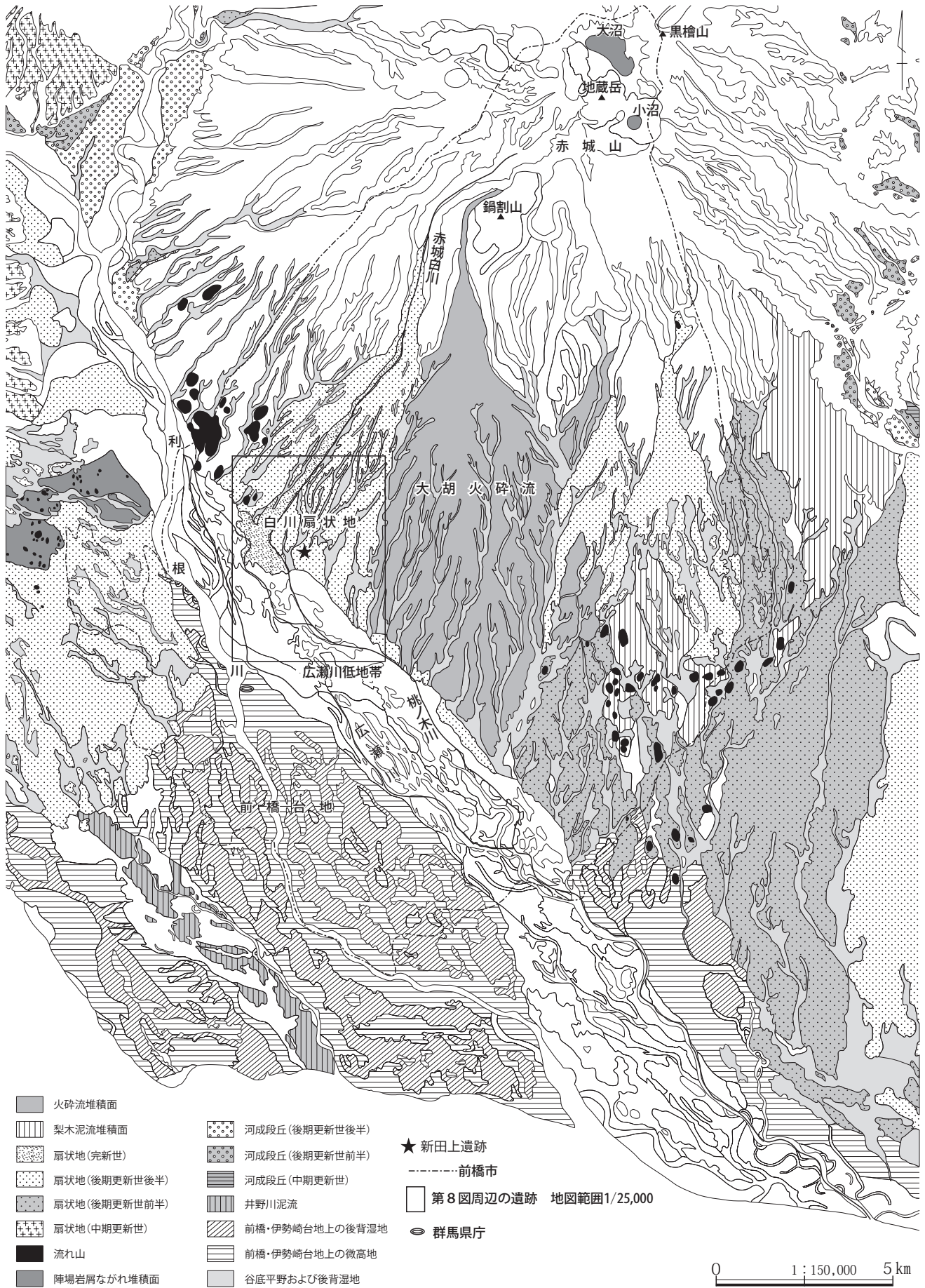
### 第2節 周辺遺跡

新田上遺跡の立地する赤城山南西麓には、およそ3万年前の旧石器時代以降、多くの遺跡が残されている。上武道路建設に伴う発掘調査によりその一端を垣間見ることができた。

以下、新田上遺跡周辺遺跡の概要を記す。

#### 旧石器時代

第3表に示した167カ所の周辺遺跡のうち、旧石器時代は9遺跡と数少ない。新田上遺跡の約数百m南には、幅3km、長さ約30kmに及ぶ旧利根川によって形成された広瀬川低地帯と呼ばれる細長い沖積低地が広がる。ここは、ローム層の上に利根川によって運ばれた土砂が堆積しており、旧石器時代の面まで掘り下げて調査することが困難である。新田上遺跡では、As-YP下から109点の石器が出土した。硬質頁岩製の細石刃・細石刃核・彫器(荒屋型を含む)・スクレイパーなどと、在地の黒色安山岩製のスクレイパー・二次加工のある剥片、石核などである。鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡(163)でもAs-YP下から細石刃・細石刃核などの細石刃石器群が350点あまり発見され、そ



第7図 新田上遺跡周辺地形分類図(群馬県『群馬県史通史編1』付図2を改変)



第8図 周辺の遺跡(国土地理院1/25,000地形図「前橋」平成9年発行「渋川」平成14年10月発行を使用)

## 第2章 遺跡の概要

のほとんどの石材が、硬質頁岩である。また、第8図の範囲よりさらに北側になるが、新田上遺跡(1)の東側を流れる竜ノ口川上流には、ホロカ型の細石刃核(群馬県立博物館にて展示中)の出土した龍ノ口遺跡がある。同じく竜ノ口川上流の小暮西辻遺跡(81)でも、旧石器が出土している。また、小神明倉本遺跡(145)では、細石器3点が見つかった。胴城遺跡(21)では、As-YP下～As-0k1の間からナイフ形石器など79点が出土し、そのうち、53点が黒曜石製であった。上細井中島遺跡(2)では、As-0kより下から黒色頁岩製の剥片1点、縄文時代面のトレンチ調査で黒色頁岩製の剥片2点が出土した。上細井蟬山遺跡(3)では、硬質頁岩製の削器と黒色頁岩製の剥片がAs-0kを含む層から出土している。山王・柴遺跡群(4)では、トレンチ調査で黒曜石製ナイフ形石器1点が出土した。青柳宿上遺跡(6)では、As-YP下から剥片2点が出土した。新田上遺跡の周辺では、旧石器でも比較的新しい時期の遺跡が発見されている。

### 縄文時代

167カ所の周辺遺跡のうち、縄文時代は96遺跡と比較的多い。中でも前期の遺跡が多いことが特徴である。新田上遺跡では、前期諸磯c式期1軒、中期加曾利E3式11軒、中期1軒、時期不明2軒、合計15軒の竪穴住居を検出している。

**草創期：**堤遺跡(20)では、草創期の石槍27点を含む石器・剥片類が総計1,580点出土している。小神明勝沢境遺跡(19)・小神明湯気遺跡(144)では、有茎尖頭器が断片的にあるのみであり、端気遺跡(141)では、有茎尖頭器や爪形文土器の破片が出土している。

**早期：**上細井五十嵐遺跡(15)・端気遺跡(141)で、撚糸文土器、丑子遺跡(16)・西堀遺跡(128)で、条痕文系の土器が出土した。上細井中島遺跡(2)・引切塚遺跡(5)・青柳宿上遺跡(6)では、早期遺物包含層が確認されている。いずれも、50cm以上の洪水層下から面的に遺物の広がりを確認でき、撚糸文系から条痕文系などの土器が出土した。さらに、上細井中島遺跡と青柳宿上遺跡からは、早期の竪穴住居を1軒ずつと屋外炉と考えられる集石遺構を多数検出している。また、芳賀北曲輪遺跡(89)で早期後半の尖底部が1点、上細井北遺跡群No.2(109)で井草式が1点出土している。

**前期：**堤遺跡(20)で花積下層1軒、小神明西田遺跡(146)で関山3軒、胴城遺跡(21)で黒浜1軒、芳賀北曲輪遺跡(89)で黒浜6軒・諸磯期5軒、上細井五十嵐遺跡(15)で前期中葉～後葉(黒浜・有尾・諸磯a)1軒、芳賀西部団地遺跡(148)で黒浜～諸磯7軒、寺間遺跡(83)で諸磯a3軒、上百駄山・上百駄山Ⅱ遺跡(85)で諸磯b～諸磯c7軒、鳥取福蔵寺遺跡(162)で諸磯b2軒、鳥取福蔵寺遺跡Ⅱ(163)で諸磯b1軒、上細井北遺跡群No.1(105)・端気遺跡(141)でそれぞれ諸磯c1軒、久保田遺跡(31)で前期6軒、鳥取福蔵寺遺跡Ⅱ(163)で前期1軒、上細井蟬山遺跡(3)で前期後半の竪穴住居1軒が発見されている。

**中期：**端気遺跡(141)で加曾利E3式1軒、小神明下田遺跡(142)で加曾利E式1軒、鳥取福蔵寺遺跡(162)で加曾利E3式1軒・中期1軒、上細井中島遺跡(2)で加曾利E3式の竪穴住居6軒を検出している。前期と比べると遺跡数が減少している。

**後期：**中期末から継続するのは、堤遺跡(20)の中期～後期1軒・称名寺8軒(うち4軒は柄鏡型敷石住居)、芳賀北曲輪遺跡(89)の中期末～後期後半(加曾利E4式～称名寺・堀之内)6軒、小神明下田遺跡(142)の加曾利E式後半～称名寺・堀之内Ⅰにかけての2軒である。小神明九料遺跡(143)では称名寺1軒、鳥取福蔵寺遺跡(162)では堀之内Ⅱ1軒が発見されている。

**晩期：**西新井遺跡(78)の2地点から耳飾りや石皿を含む縄文後期初頭の称名寺Ⅰ式(ただし1片のみ)から晩期終末の千網式土器までの土器が採集されている。また、赤城白川沿いの引切塚遺跡(5)と青柳宿上遺跡(6)では、赤城白川の晩期旧河川が見つかり、ここから晩期千網式期の土器が発見されている。

### 弥生時代

167カ所の周辺遺跡のうち、弥生時代は17遺跡と数少ない。このうち、遺構を確認できたものは、6遺跡に過ぎない。特筆すべき遺跡は、1983(昭和58)年に調査された田中田遺跡(27)である。田中田遺跡は、法華沢川が火山麓扇状地から広瀬川低地帯へ注ぐ地点にある。古墳前期の32号住居と古墳後期の57号住居の覆土などから、弥生中期前半～後期の土器片(複数沈線で三角形モチーフの文様を描き区画内に刺突を充填するものや、地文の

縄文上に沈線で施文するものなどが130点あまり出土している。弥生時代の遺構は確認されていないが、周辺に弥生時代の中でも早い時期の竪穴住居が営まれた可能性がある。群馬県内では、弥生時代の遺構は後期のものが多く、それ以前のはあまり発見されていない。古くは、1954（昭和29）年に西田之口遺跡(125)の竪穴住居から樽式土器が発見されている。丑子遺跡(16)の41号住居が後期樽式期の時期にあたり、小神明勝沢境遺跡(19)のB区1号・2号住居でも樽式土器が出土している。また、小神明倉本遺跡(145)の1号・2号住居が弥生中期～後期の竪穴住居(1号住居は焼失住居)であり、小神明湯気遺跡(144)の28号住居も焼失住居で後期樽式期の竪穴住居と考えられる。このように見ていくと、新田上遺跡で検出した4軒の竪穴住居は、弥生中期前半～後半にかけての遺構検出の少ない時期にあたるので、貴重な例と言える。また、発掘調査の終了している青柳宿上遺跡(6)・川端根岸遺跡(8)では、弥生中期の土器が発見されている。

### 古墳時代

167カ所の周辺遺跡のうち、古墳時代は113遺跡と数多く見つかっている。弥生時代、遺跡が極めて希薄だった地域に急激に遺跡が増加していることがわかる。新田上遺跡では、5世紀中頃の1号住居と7世紀後半の22号住居の2軒のみ検出した。『上毛古墳総覧』には、「芳賀村」64基、「南橘村」45基、「富士見村」29基の古墳が掲載されている。新田上遺跡の北東約100mには新田上古墳(75)、南東約500mには上細井稲荷山古墳(76)があったが、すでに消滅している。

**前期(3世紀後半～4世紀代)：**端気遺跡(141)では、10～12mほどの方形周溝墓が2基検出されている。この周溝覆土には、2層の間層をおいてAs-Cの純層が10～15cm程堆積しており、弥生末～古墳初頭のものと考えられる。山王・柴遺跡群(4)では4群の畠があり、そのうち1～3群ではAs-Cの純層が確認され、4群ではAs-Cが混じる黒褐色土となっており、周辺ではあまりない古墳時代初頭の生産域を示すものとして注目される。竪穴住居では、胴城遺跡(21)の61号住居が3世紀後半と古く、丑子遺跡(16)では3世紀後半～4世紀後半にかけ5軒あり、そのうち12号住居の覆土の下層にAs-Cが一次堆積し、支柱穴の覆土上部まで入り込んでいる。山王・柴遺跡群

(4)では古墳初頭～前期にかけて竪穴住居13軒を検出しており、そのうち8軒の覆土中にAs-Cの堆積が見られた。赤城白川の西岸にある引切塚遺跡(5)でも、古墳初頭から前期の竪穴住居2軒が検出されている。鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡(163)の51号住居は4世紀中頃であり、田中田遺跡(27)では、S字状口縁台付甕や単口縁甕などを出土した竪穴住居を23軒検出している。

**中期(5世紀代)：**5世紀代の竪穴住居を丑子遺跡(16)では2軒、東田之口遺跡(17)では4軒、田中田遺跡(27)では14軒、小神明湯気遺跡(144)では5軒、小神明西田遺跡(146)では4軒検出している。上細井北遺跡群No. 2(109)では5世紀中頃から後半のH-3号住居を検出した。また、上細井稲荷山古墳(76)は『上毛古墳総覧』の南橘村15号墳(円墳:直径約27m)であり、出土遺物は現在、東京国立博物館に収蔵されている。『南橘村誌』によれば、石製模造品の機織具(梭・篋・ちきり・腰掛)や同じく石製模造品の刀子、鑿、埴、案と石製枕が出土したようである。この石室は、竪穴式石槨で5枚の板石を蓋に用いたとあり、5世紀初頭のものと考えられる。丑子塚古墳(110)は、墳丘長約45mの前方後円墳であり、墳丘主軸を南北方向を取っている。群馬県内においては、6世紀代の横穴式石室の場合、開口部を南にすることが多く、そのため墳丘主軸は東西になることが多いので、丑子塚古墳は上野に横穴式石室が導入される前の5世紀末のものと考えられる。また、芳賀西部団地遺跡(148)では、32基(M-1号古墳のみ方墳)の初期群集墳(5世紀後半～6世紀)が検出された。そのうち23基の周溝にHr-FAが堆積していた。芳賀西部団地遺跡内には5世紀後半～6世紀の竪穴住居は見つかっておらず、墓域を形成していたと考えられる。山王・柴遺跡群(4)では、一辺が約9mの方墳1基と小石槨墓4基を確認した。方墳の主体部は、削平により失われていたが、周溝にはHr-FAの堆積が確認でき、5世紀後半～6世紀初頭のものと考えられる。小石槨墓は全て天井石を欠いていた。

**後期・終末期(6世紀～7世紀代)：**胴城遺跡(21)で、6世紀初頭～前半の竪穴住居3軒があり、そのうち4号住居の覆土中にHr-FAが見られる。上細井北遺跡群No. 1(105)では5世紀後半～6世紀初頭にかけて9軒を検出しており、そのうち6軒の覆土中にHr-FAが堆積していた。小神明九料遺跡(143)では5世紀後半～6世紀にか

## 第2章 遺跡の概要

けて19軒を検出し、そのうちの4軒の覆土の最上部にHr-FAが堆積していた。丑子遺跡(16)では6世紀17軒・7世紀4軒、田中田遺跡(27)では6世紀24軒を検出している。東田之口遺跡(17)では、6世紀後半～7世紀後半の限られた短期間に61軒の竪穴住居が形成されていたが、次の奈良・平安時代には継続していない。また、引切塚遺跡(5)で27軒、青柳宿上遺跡(6)で29軒の古墳後期の竪穴住居を調査している。赤城白川東岸の山王・柴遺跡群(4)でも古墳後期の集落が確認された。南橋東原遺跡(53)では6世紀21軒、7世紀11軒が調査された。また、古墳は6世紀前半に、前方後円墳の九十九山古墳(36)、6世紀後半には前方後円墳のオブ塚古墳(98)、円墳のオブ塚西古墳(99)、芳賀北曲輪遺跡(89)では6基の古墳を検出している。小神明西田遺跡(146)では6世紀中頃の群集墳5基(第2号墳のみ帆立貝式古墳)、山王・柴遺跡群(4)では横穴式石室の一部を確認した。石室の構築方法から6世紀後半～7世紀にかけての円墳であると考えられる。赤城白川の西岸には、南橋村40号墳である引切塚古墳(50)や引切塚遺跡(5)の引切1号墳(7世紀中頃の円墳径約10m)があり、後期群集墳を形成していたと考えられる。五代大日塚古墳(155)は、6世紀後半の古墳と考えられる。

### 奈良・平安時代

167カ所の周辺遺跡のうち、奈良時代は37遺跡、平安時代は62遺跡である。新田上遺跡では、8世紀後半～10世紀中頃まで集落が展開している。特に9世紀代は17軒と多く、9世紀代には集落の中心を道路状遺構が東西に走り、その後10世紀代には調査区東側に9軒が営まれた。丑子遺跡(16)では8世紀3軒、9世紀1軒、南橋東原遺跡(53)では、古墳後期から集落展開が続き、8世紀5軒、9世紀15軒が見ついている。旭久保遺跡(48)では、古墳から平安にかけての竪穴住居が約100軒、掘立柱建物が50棟ほど調査されている。王久保遺跡(10)では、7世紀末～10世紀後半まで竪穴住居25軒、9世紀後半の鍛冶工房を1軒検出している。上町遺跡(11)では7世紀末～10世紀後半まで21軒、隣接する時沢西紺屋谷戸遺跡(12)でも、7世紀末～10世紀後半まで26軒を検出している。山王・柴遺跡群(4)では、As-Bに一部覆われたものとその下位の2面の水田が検出された。引切塚遺跡

(5)では9世紀3軒を検出した。鳥取福蔵寺遺跡Ⅱ(163)では7世紀後半～11世紀初頭にかけて29軒が見ついている。また、9世紀後半の工房址も見ついている。鳥取福蔵寺遺跡(162)でも11世紀初頭までの住居と9世紀中頃の精錬鍛冶炉が見ついている。勝沢田之口遺跡(124)でも奈良・平安時代の竪穴住居40軒が見ついている。青柳寄居遺跡(58)では平安時代の水田とその下層から集落が検出されている。上細井五十嵐遺跡(15)でもAs-Bの下から水田跡が見ついている。新田上遺跡では、墨書土器が26点発見されている。同じように墨書土器が発見されている遺跡として、上細井中島遺跡(2)、上細井蟬山遺跡(3)、王久保遺跡(10)、上町遺跡(11)、時沢西紺屋谷戸遺跡(12)、天王遺跡(13)、東紺屋谷戸遺跡(14)、胴城遺跡(21)、鳥取松合下遺跡(22)、岩ノ下遺跡(30)、小沢の場遺跡(45)、上百駄山・上百駄山Ⅱ遺跡(85)、組ノ木原・組ノ木原Ⅱ遺跡(96)、芳賀北原遺跡(96)、鳥取福蔵寺遺跡(162)などがあげられる。その多くは、9世紀代の遺構から発見されている。

### 中世

167カ所の周辺遺跡のうち、中世は46遺跡であり、金山城跡(34)・時沢遠堀(133)・小神明の砦(139)・鳥取の砦(161)など城郭に関わるものが多い。新田上遺跡では、西側調査区で、方形の土坑を62基検出した。

この地域で注目されるのは、南北朝期(延文5年：1360年)に書き記された「神鳳抄」にある青柳御厨(内宮領)と細井御厨(伊勢二見の来迎院が領主)の位置である。前橋市史によると、青柳御厨は赤城白川が旧利根川に注ぐところ、細井御厨は藤沢川が旧利根川に注ぐところにあったとあるが、相当する遺跡は発見されていない。

### 近世・近代

167カ所の周辺遺跡のうち、近世は32遺跡、近代は11遺跡である。

新田上遺跡では、近世の土坑からキセルや肥前磁器などが、遺構外から寛永通寶や天保通寶など見ついている。また、年代が新しくなるが、ガラス製の活桑器瓶や赤城牧場前橋搾乳所の全乳瓶も遺構外から見つかった。



第3表 周辺遺跡一覧表

凡例: ●遺構あり ○包蔵地・遺物のみ

番号	遺跡名	調査年度	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	概要	文献番号
1	新田上(新田・北新田)	H24	●	●	●	●	●	●	●	●	○	旧石器:As-YP下より6ブロック検出、細石刃1点、細石刃核4点、彫刻刀形石器6点(うち荒屋型2点)、縄文:諸磯c式1軒、加曾利E3式12軒、配石1、弥生:中期住居4軒、土坑墓、古墳:2軒(中期1・後期1)、平安31軒、9世紀後半の道路状遺構	本報告書 2~4・5・7
2	上細井中島	H21・24	●	●				●	●	●	●	旧石器:黒色頁岩製削片3点出土、縄文早期の包含層(撚糸文系・条痕文系等)早期住居1軒、集石多数、加曾利E3式の集落、9C後半の住居7軒	16
3	上細井蟬山	H21・24	●	●				●		●	●	旧石器:As-0kを含む層から硬質頁岩製削片1点・黒色頁岩製削片1点出土、縄文前期後半住居1軒、9C中頃~10C前半の住居25軒	17
4	山王・柴	H21~23・25	●	●			●	●	●	●		旧石器トレンチから、黒曜石製ナイフ形石器1点出土、古墳前期の島4群、古墳初頭~前期の住居13軒、方墳1基、小石塚4基、横穴式石室1基、As-Bに覆われた水田とその下位の水田の2面	18~20
5	引切塚	S60・H24		●	○	●	●	●				S60調査:古墳後期27軒、奈良3軒、引切1号墳(7C):刀子・鉄鏃(上毛古墳総覧漏れ)、H24調査:縄文早期包含層、縄文晩期の河道、古墳初頭~前期2軒、井戸1基	2・15・21・22
6	青柳宿上	S37・H24	●	●	○	●					●	縄文早期包含層、縄文晩期の河道、弥生中期中葉の土器、古墳後期29軒	3・4・21
7	諏訪			○	○								3・4・5・7
8	川端根岸	H24			○	●		●	●	●		弥生中期の土器、古墳:溝9条、水田2面、平安:住居4軒、溝1条、中世:竪穴状遺構7軒、掘立2棟、溝37条、道1条、水田1面、近世:馬歯5	21
9	川端山下(道東)	H24・25						●	●	●		平安:住居1軒、溝1条、中世:竪穴状遺構1基、溝2条、近世:溝1条	21
10	王久保	H21・24		○			●	●	●			7C末~10C後半の住居25軒、9C後半の鍛冶工房1軒	23
11	上町	H21		○			●	●	●			7C末~10C後半の住居21軒	24
12	時沢西紺屋谷戸	H4・H12試掘 H21		○			●	●		○		7C末~10C後半の住居26軒	24・25
13	天王	H20・21		○			●	●	●	●	●		2~4・5・7・26
14	東紺屋谷戸	H3・20・21		○			●	●	●	●	●		15・26・27
15	上細井五十嵐	H20・21		●				●		●		縄文:前期中葉~後葉1軒(黒浜・有尾36点、諸磯a式10点)、平安:4軒、溝:平安1条、近世2条、不明2条、水田1面(As-B下)	28
16	丑子	S29・H20		○	●	●	●	●	●	●	●	弥生:後期41号住居のみ、古墳:33軒、奈良:3軒、平安:1軒、不明2軒、竪穴状遺構:古墳1基、不明1基、井戸:中世1基、16世紀代2基、近世3基、不明6基、中世の館跡(1号・2号堀)、溝:古代1条、不明3条	5・7・28
17	東田之口	S28・H20		○	●	●	●	●	●	○		住居:古墳中期4軒、古墳後期63軒、奈良1軒、掘立柱建物:古墳後期6棟、中世1棟、平地式建物:古墳後期1棟、時期不明2棟、奈良・平安:粘土採掘坑1基、溜井1基、中世:墓2基、井戸6基、溝3条	29
18	小神明富士塚	S57・H20・21		○		●	●	●	●	●	○	古墳~奈良:住居13軒、古墳~古代:7条、古代:掘立柱建物1棟、道1条、中世:竪穴状遺構1基、不明1基、井戸:溝7条、近世:道1条、小神明遺跡のA・B区(富士塚下遺跡)を含む。S57調査で配石遺構あり(詳細不明)	30・31
19	小神明勝沢境	H20		●	●	●		●	●	○	○	縄文:埋設土器、弥生:後期B区1号・2号住居、古墳:5世紀末~6世紀前半 住居7軒、平安:溝1条、中世:溝1条	30
20	堤	S27:群大史 学研究室調査 H20:群埋文		●		●		●	●	●	○	縄文草創期の石槍27点など計1,580点の石器出土、縄文:前期花積下層式1軒、中期~後期1軒、後期初頭称名寺式8軒、配石2、平安:住居1軒、溝2条、中・近世:竪穴状遺構6、火葬跡4基、溝2条、井戸1基	5・7・32
21	胴城	H19~21	●	○	○	●	●	●	○	●		旧石器:As-YP下~As-0k1の間からナイフ形石器など79点出土、縄文:前期黒浜期1軒、土坑16基、住居:3世紀後半1軒、6世紀3軒、7世紀6軒、8世紀2軒、9世紀7軒(墨書2点)、10世紀33軒(墨書11点、刻書3点)、平安:掘立柱建物3棟、近世墓2基	5・7・33・34
22	鳥取松合下	H20		○		●	●	●	○			住居:7世紀4軒(1住から墨書土器)、8世紀3軒、9世紀4軒、10世紀2軒、11世紀1軒	33
23	横室薊			○									3・5・7・8
24	田中	S61		●	○							縄文前期・時期不明の配石遺構	5・7・8・15・35
25	横室古墳(富士見村13号墳)					●						円墳	5・7・8
26	横室中			●		●							69
27	田中田	S58		●	○	●		○				弥生中期中葉~中葉の土器片130点あまり出土	5・7・8・13・15・36
28	寄居(横室の寄居)	S61		○				○	○	●	●	長尾氏に従った地侍の寄居跡、土居	6・8~10・12・35
29	荒井古墳(富士見村14号墳)					●						円墳	5・7・8
30	岩之下	S61		●		●	●	●				縄文前期・墨書土器「在」「尻」	15・35
31	久保田	S62		●		●	●	●	○	○		縄文前期6軒・早期撚糸系4点他前期・中期・後期の土器 12住小鍛冶	37
32	田島上の台					○							69

第2章 遺跡の概要

番号	遺跡名	調査年度	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	概要	文献番号
33	原之郷鎌塚			●		○							3・5・7・8
34	金山城跡								●			天文年間(1532-55)・九十九山の砦を含む・囲廓式	1・3・5・6 ~8・10・12
35	原之郷山ノ後				○	○						弥生甕・群馬大学史学研究室蔵	1・3・5・7・8
36	九十九山古墳(富士見村16号墳)	S26				●						前方後円墳・円筒埴輪・馬形埴輪・耳環・金環3・群大実測	1・5・7・8・11
37	原之郷善養寺	H4・H10試掘			○	●						土師器皿出土、散布多量	1・3・5・7・8・38
38	鎌塚古墳(富士見村15号墳)					●						円墳・勾玉・管玉・金環・埴輪	5・7・8
39	原之郷慶阿弥			●	●								69
40	原之郷鰻沢	H8試掘・H9		○			●					縄文前期土器片 平安住居2軒、竪穴状遺構1基、掘立建物1棟、土坑、柱穴	39・40
41	原之郷中子					●							69
42	原之郷後原	H19現地踏査		●			●	●					69
43	原之郷東原	H8試掘		●		○	●	●				縄文前期土器片	1・39
44	小沢金沢			●									69
45	小沢的場	H8試掘・H9		○		●		●		○		1住(9世紀後半)より、刻書「×」のある須恵器杯 墨書「□」が内外にある須恵器杯	39・41
46	原之郷白川	H10試掘		●		○	●	●					1・3・5・7・8・38
47	原之郷下白川	H12・13試掘				○		○				土師器片・須恵器片・平安の土器片	5・7・8・25・42
48	旭久保・旭久保B・旭久保C	H7~11		●		●	●	●	●			旭久保：古墳~平安時代の住居約100軒、掘立約50棟 旭久保B：縄文前期・中期土器・土製品円盤出土	1・3・38・43
49	旭久保II・旭久保III	H7・8・13試掘		●		●		●				旭久保II：縄文前期(諸磯)の包含層	39・42
50	引切塚古墳(南橋村40号墳)					●						円墳	3・4・5・7・15
51	引切塚II	H4				●						古墳前期1軒、古墳後期1軒	44
52	宿上	S27・S37		○		●							2~4・5・7
53	南橋東原	H19		○		●	●	●	●	●		縄文前期諸磯b	45
54	神明A					○							3・5・7
55	神明B					○							3・5・7
56	神明古墳					●						直刀1振	2・3・5・7
57	青柳宿前	H12						●					69
58	青柳寄居	S58						●	●			As-B降下前の水田 永正6(1509)年連歌師の宗長(宗祇の高弟)が訪れる。堀、土居、戸口	9・10・12・46
59	時沢六万坊			○									1・3・5・7・8
60	時沢中島					●							69
61	念仏	H4試掘						●					69
62	時沢西萩林	H18試掘						●					69
63	北所替戸			○									69
64	時沢甚太夫			○								縄文中期勝坂式・群馬大学史学研究室蔵	1・3・5・7・8
65	時沢諏訪			○									8
66	横堀	H7		●									5・7
67	時沢横堀II			●									5・7
68	時沢康東	H7試掘		●									69
69	時沢猿	H8試掘		○					●	●			39
70	時沢猿B	H15試掘		●				●					69
71	時沢中谷	H8試掘・H9		○				●				縄文前期中葉の土器片 平安初頭1軒	39・47
72	時沢四ツ塚			○									5・7・8
73	時沢大角谷戸					○							5・7・8
74	時沢萩林					●							5・7・8
75	新田上古墳(南橋村43号墳)					●						円墳	2・3・5・7
76	上細井稲荷山古墳(南橋村15号墳)	M35				●						円墳・石製模造品(椽・箴・ちきり・腰掛・埴・刀子・盤・釧)・石製杖・直刀3振 東京国立博物館蔵	2・70
77	八幡山の砦(八幡山遺跡)								●			五輪塔・板碑	2・5・6・7・10・12
78	西新井(上沖五反田)	H16工事立会		●									48・49
79	小暮中原			○									5・7・8

第2節 周辺遺跡

番号	遺跡名	調査年度	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	概要	文献番号
80	小暮八幡			●									25
81	小暮西辻		●	○									1・3・8
82	小暮清塚			○								磨製石斧	5・7・8
83	寺間	H5		●			●	●	●			縄文前期(諸磯a)3軒、前期～中期の土器片あり	15・50
84	孫田	H5		●			●	●				4号土坑からメノウ製の球状耳飾り、縄文前期土器片	50
85	上百駄山・上百駄山Ⅱ	H5・H7		●			●	●	●			縄文前期(諸磯b～c)7軒、草創期微隆起線文土器片1点、墨書「矢力」土師環・墨書「□」土師環内外(9住)、棚状遺構あり	5・7・15・50・51
86	高橋			○	●							縄文中期、土師器片・須恵器片多量分布	5・7
87	市之進	H4		○								縄文前期・中期・後期	3・5・7・14
88	北曲輪古墳群					●						芳賀村50～54号墳	3・5・7
89	芳賀北曲輪	S63		●		●						縄文早期後半尖底部1点、前期前半(黒浜)6軒、前期後半(諸磯期)5軒、中期末～後期後半(加曾利E4式～称名寺・堀之内)6軒、縄文時期不明8軒、7世紀代の円墳6基 5号墳：白陶、人骨、鉄鏃、刀子2振、鉄剣1振	4・52
90	時沢山王			○									5・7・8
91	時沢東諏訪						●					石製威骨器出土	5・7・8
92	時沢東諏訪Ⅱ						●						69
93	時沢滝脇			○	○								5・7・8
94	時沢下百駄山	H12試掘				○							25
95	時沢森後						●	●	●				69
96	組の木原・組の木原Ⅱ	H13試掘・H7		○			●	●	●			墨書：△の中に文字(土師器環)、刻書：ヘラ書きで「中」(須恵器塚) 時期不明住居5軒、溝、土坑、ピット他	15・42・53
97	芳賀村49号墳						●					円墳	4・5・7
98	オプ塚古墳(芳賀村48号墳)	S26					●					前方後円墳・人骨・直刀4振・鉄鏃50本・耳環8個・馬具 形象埴輪・円筒埴輪他	3・4・5・7・11・14・15
99	オプ塚西古墳	S34					●					竪穴式石塚(墳丘不明)	4・11・13
100	時沢宮東	H18試掘・現地踏査						●					69
101	時沢西高田・時沢西高田Ⅱ	H10・13・18試掘					●	●				住居、土坑、溝、ピット他	38・42
102	時沢中屋敷	H18試掘・現地踏査		○	○		●	●					5・7・8
103	時沢吉田					○							1・3・5・7・8
104	定福					○						紡錘車出土	2～4・5・7
105	上細井北No.1	H20		●		●		●	●			縄文前期後半諸磯c1軒、古墳中期(5C後半～6C初)9軒、古墳後期(6C前半～7C中葉)31軒、平安(9C～10C前)15軒、7C代の古墳1基検出	54
106	南橋村8号墳						●					円墳・埴輪片	2～4・5・7
107	南橋村12号墳						●					円墳・埴輪	2・4
108	南橋村13号墳						●					円墳・埴輪	2・4
109	上細井北No.2	H21		○		●		●				縄文前期の土器が多い 早期燃糸の井草1点(単軸絡条体圧痕文) 7C代の古墳2基検出	55
110	丑子塚古墳(南橋村6号墳)	M20.S29					●					前方後円墳・金環・刀剣・埴輪	2・4・5・7・55
111	南橋村5号墳						●					円墳・埴輪	2・4
112	南橋村7号墳						●					円墳・埴輪	2・4
113	日間久保(正間久保)			○	○							日間久保遺跡とも縄文中期・古墳後期	2～4・5・7
114	狐塚古墳(南橋村14号墳)						●					円墳・刀2振・埴輪片	2～4・5・7
115	薬師			○	○							縄文中期・古墳後期	2・5・7
116	荒屋敷			○	○	○						多孔石・凹石・縄文後期	2～4・5・7
117	南橋村9号墳						●					円墳	2～4・5・7
118	南橋村10号墳						●					円墳・人骨・刀剣	2・4
119	南橋村11号墳						●					円墳・勾玉	2～4・5・7
120	灰俵			○	○								2～4・5・7
121	南灰俵			○	○		●						5・7
122	時沢上福			○			●					古墳住居	1・3・5・7・8
123	田之口	H17試掘				○	●	●				古墳時代の祭祀跡あり・玉類出土	2～4・5・7
124	勝沢田之口	H19		○			●	●	●			古代住居40軒、中世堀1	56
125	西田之口			○	●	●						縄文中期・弥生後期住居・樽式・S29に発見された	2～4・7

第2章 遺跡の概要

番号	遺跡名	調査年度	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	概要	文献番号
126	南田之口	S59		●	○	●			●	●		縄文前期～後期前半の土器 安山岩製立石あり	2～4・5・7・15・57
127	南橋村4号墳					●						円墳	2～4・5・7
128	西堀	S61		●	○	●						縄文早期鶴ヶ島台・前期諸磯 樽式土器	2～4・15・58
129	南橋村2号墳	M36.7頃				●						円墳・人骨・歯・金環・刀剣	2・4
130	南橋村1号墳	M36.7頃				●						円墳・人骨・歯・金環・刀剣15振	2・4
131	小神明谷向	S59				●							15・59
132	谷端	H2		●		●	●	●				古墳住居7軒、平安住居1軒	15・60
133	時沢遠堀								●			堀・土居、堀の現在の深さは1～2m	4～7・10・12
134	寄居(小神明の寄居)								●			堀・土居	5・6・7・10・12
135	上沖上ノ山古墳	S21				●						円墳・人骨・歯・耳環・直刀4振 (上毛古墳綜覧漏れ)	4・11
136	上沖神明宮裏	H2				○	●	●					4・5・7
137	西曲輪					●						円墳	3
138	小神明合田	S61		●				●					69
139	小神明の岩	一部調査： 時期不明							●			堀・土居・追手虎口	4～7・9・10・12・14
140	小神明大明神	S58				●	●	●		●			15・61
141	端気(端気着帳)	S57・58		●	●	●			●	○		縄文前期(諸磯c)1軒、中期1軒(加曾利E3式)、早期擦糸、中世の環濠 弥生後期方形周溝墓2基(周溝内にAs-C純層堆積)	15・62・63
142	小神明下田	S57		●	●	●	●	●	●	●		縄文中期後半～後期初頭5軒、古墳住居1軒、奈良1軒、近世の環濠・墓、備前磁器碗18世紀中～後	15・31
143	小神明九料	S58・60		●	●	●	●	●	●			縄文後期3軒(うち1軒は称名寺)・遺構外より硬玉大珠、6C19軒、9C2軒、中世の環濠	15・61・64
144	小神明湯気	S60		○	●	●	●	●				縄文草創期の尖頭器、前期諸磯土器、弥生後期樽1軒(焼失住居)	64
145	小神明倉本	S58	○	○	●				●	●		細石器3点出土、弥生中期～後期：1号・2号住居(1号住居は焼失住居)、中世の環濠	15・61
146	小神明西田	S58		●		●						縄文前期関山3軒、古墳5基検出、2号墳のみ帆立形他は円墳	15・61
147	前原古墳	S13		○	●							円墳・直刀2・馬鐸4・鈴杏葉3・鏡1・埴輪片	5・7・14
148	芳賀西部団地	S50		●	●				●	○	○	縄文前期中葉黒浜期～諸磯にかけて7軒、32基の初期群集墳(周溝にHr-FAが堆積：5C後半～6C初頭)、竪穴式小石櫛2、円筒棺1	15・65
149	芳賀村13号墳			○	●							円墳、縄文中期	4・5・7
150	高橋古墳群				●								3
151	後原			○	○							縄文中期・後期	3・5・7・14・15
152	ホーロク塚古墳(芳賀村10号墳)				●								3・4・5・7
153	下曲輪(滋野屋敷)	S58			○				●			堀・土居、古墳時代後期の須恵器	5・7・12
154	端気前			○	○								3・5・7・14
155	五代大日塚古墳(芳賀村11号墳)	M38・39				●						前方後円墳・鏡・鏡板・轡・刀身・鏝 帝国大・帝国博物館・群馬師範学校へ寄贈	3・4・5・7・14
156	大日			○	○							縄文中期・後期	3・5・7
157	東曲輪			○								縄文関山期の土器	5・7
158	芳賀村46号墳					●						円墳・直刀	5・7
159	芳賀北原	H3		○	●	●	●					縄文前期～後期土器片、古墳住居4軒、平安住居6軒 墨書「後」内外須恵器高台皿(3住)、蛇紋岩製石製品1点(6住)	15・66
160	北原	一部調査： 時期不明		○	●	●						縄文中期主体・後期	3・5・7・14
161	鳥取の岩(鳥取城)					●			●			堀	5・6・7・10・12・14
162	鳥取福蔵寺	H9		●	●	●	●	●	●	○		縄文前期(諸磯b)2軒、7C7軒、8C6軒、9C13件、10C10軒、17C1軒、37住：9世紀中ごろ精錬鍛冶炉 鉄滓38kg・墨書「万」カ「寸」カ	15・67
163	鳥取福蔵寺II	H10		●	●	●	●	●	●			As-YP下から2つの石器ブロック 細石刃石器群(約350点)縄文前期2軒(うち1軒諸磯b)、中期2軒(うち1軒加曾利E3式)、後期(称名寺)1軒、縄文時期不明1軒 墨書土器8点出土	68
164	萩の城								●			堀、現在の森厳寺付近	6・10・12
165	平和町向井町								●				3
166	清王寺の寄居								●			現在のベシシア文化ホール(群馬県民会館)付近	12
167	三侯の寄居								●			三侯の地衆によるもの。堀・戸口・櫓台 現在の前橋市総合福祉会館付近	12

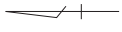
## 参考文献

1. 富士見村役場1954『富士見村誌』
2. 南橋村誌編纂委員会1955『南橋村誌』
3. 群馬県教育委員会1963『群馬県の遺跡』
4. 前橋市史編さん委員会1971『前橋市史第1巻』
5. 群馬県教育委員会1971『群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)』
6. 山崎一1971『群馬県古城址の研究』上巻
7. 群馬県教育委員会1973『群馬県遺跡地図』
8. 富士見村役場1979『富士見村誌 続編』
9. 山崎一1979『群馬県古城址の研究』補遺篇上巻
10. 山崎一1979『日本城郭大系第4巻』
11. 群馬県史編さん委員会1981『群馬県史資料編3原始古代3古墳』
12. 群馬県教育委員会1988『群馬県中世城館址』
13. 群馬県史編さん委員会1990『群馬県史通史編1原始古代1』
14. 芳賀村誌改訂並びに町誌編纂委員会芳賀地区自治会連合会1993『芳賀村誌芳賀の町誌』
15. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『群馬県遺跡大辞典』
16. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上細井中島遺跡』
17. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上細井蟬山遺跡』
18. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『年報29』
19. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『年報30』
20. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『年報31』
21. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『年報32』
22. 前橋市教育委員会1988『引切塚遺跡』
23. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『王久保遺跡』
24. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上町・時沢西紺屋谷戸遺跡』
25. 富士見村教育委員会2001『平成12年度村内遺跡』
26. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『天王・東紺屋谷戸遺跡』
27. 富士見村教育委員会1992『東紺屋谷戸遺跡』
28. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『丑子遺跡・上細井五十嵐遺跡』
29. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『東田之口遺跡』
30. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『小神明勝沢境遺跡・小神明富士塚遺跡』
31. 前橋市教育委員会1983『小神明遺跡群』
32. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『堤遺跡』
33. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『胴城遺跡・鳥取松合下遺跡』
34. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『上武道路・旧石器時代遺跡群(3)』
35. 富士見村教育委員会1987『富士見遺跡群 向吹張遺跡、岩之下遺跡、田中遺跡、寄居遺跡』
36. 富士見村教育委員会1986『田中田遺跡窪谷戸遺跡見眼遺跡』
37. 富士見村教育委員会1989『富士見地区遺跡群白川遺跡由森遺跡久保田遺跡』
38. 富士見村教育委員会1999『平成10年度村内遺跡』
39. 富士見村教育委員会1997『平成8年度村内遺跡』
40. 富士見村教育委員会1998『原之郷鰻沢遺跡』
41. 富士見村教育委員会1998『小沢の場遺跡』
42. 富士見村教育委員会2002『平成13年度村内遺跡』
43. 富士見村教育委員会1998『旭久保B遺跡』
44. 前橋市教育委員会1993『引切塚遺跡Ⅱ』
45. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2008『南橋東原遺跡』
46. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1984『青柳寄居遺跡』
47. 富士見村教育委員会1998『時沢中谷遺跡』
48. 設楽博己1984「前橋市上沖町西新井遺跡の表面採集資料(上)」『群馬考古学通信第9号』
49. 設楽博己2013「前橋市上沖町西新井遺跡の土製耳飾り」『日本先史考古学論集』
50. 富士見村教育委員会1995『上百駄山遺跡・寺間遺跡・孫田遺跡』
51. 富士見村教育委員会1996『上百駄山遺跡Ⅱ』
52. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1990『芳賀北曲輪遺跡』
53. 富士見村遺跡調査会1996『組之木原遺跡』
54. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2009『上細井北遺跡群No. 1』
55. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2010『上細井北遺跡群No. 2』
56. 前橋市教育委員会2008『勝沢田之口遺跡』
57. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1985『南田之口遺跡』
58. 前橋市教育委員会1987『西堀遺跡』
59. 前橋市教育委員会1985『小神明遺跡群Ⅲ谷向遺跡』
60. 前橋市教育委員会1990『谷端遺跡』
61. 前橋市教育委員会1984『小神明遺跡群Ⅱ』
62. 前橋市教育委員会1983『端気遺跡群』
63. 前橋市教育委員会1984『端気遺跡群Ⅱ』
64. 前橋市教育委員会1986『小神明遺跡群Ⅳ湯気遺跡・九科遺跡』
65. 前橋市教育委員会1991『芳賀西部団地遺跡』
66. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1992『芳賀北原遺跡』
67. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1998『鳥取福蔵寺遺跡』
68. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1999『鳥取福蔵寺遺跡Ⅱ』
69. マッピングぐんま 遺跡・文化財 (2013年度版)
70. 東京国立博物館1983『東京国立博物館図版目録古墳遺物篇(関東Ⅱ)』

## 第3節 基本土層

表土以下の基本土層は第9図の通りである。表土下には一部カクランがあるものの、遺構の保存状態は良好であった。基本土層を記録した地点は、A～Eの5地点で

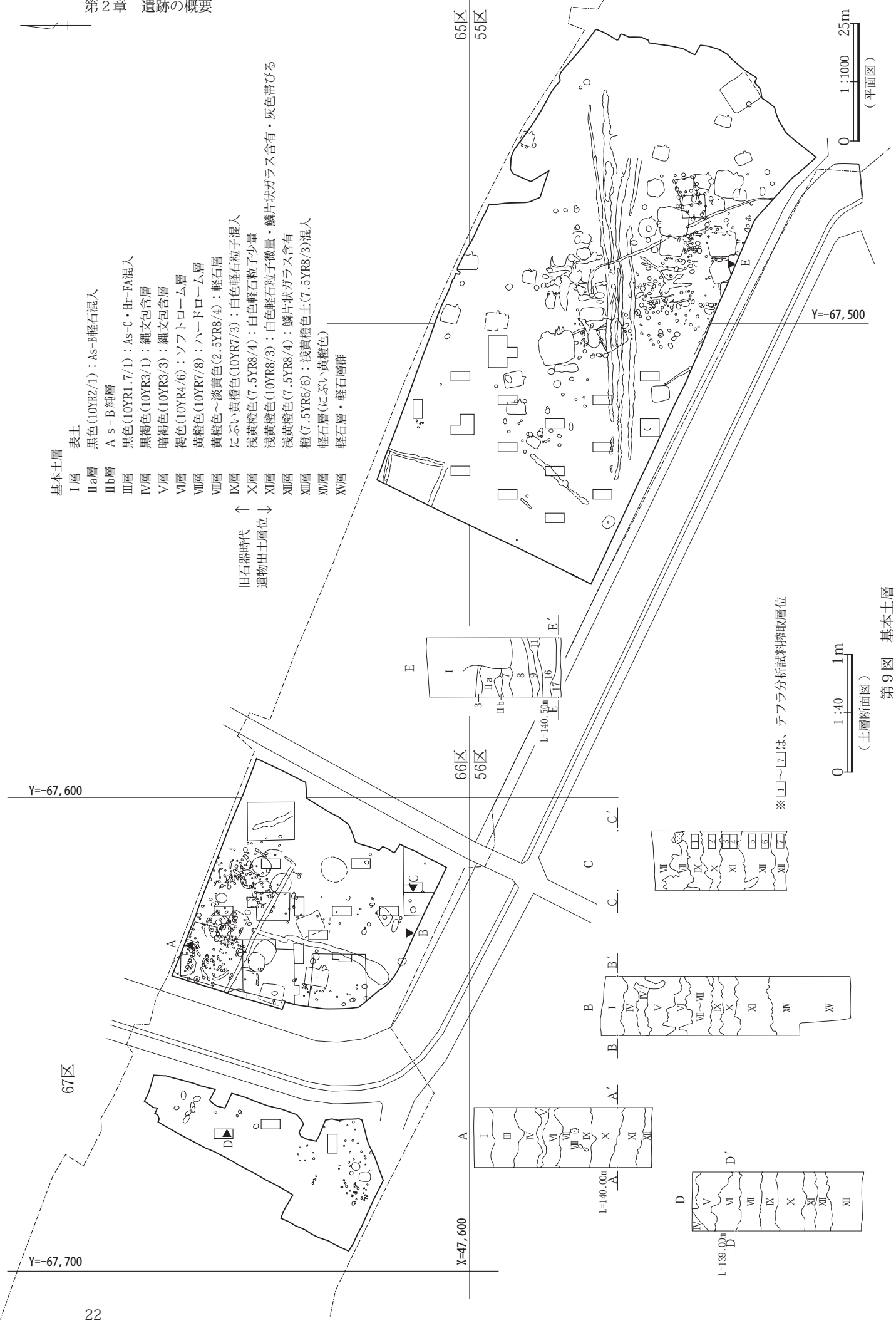
ある。第9図内に▲で示した。基本土層Ⅱb層は、As-B純層であり、E地点のみで確認された。また、基本土層Ⅷ層内には、As-YPがブロック状に混入していた。



基本土層

- 表土  
 I層 黒色(10YR2/1) : As-B軽石混入  
 IIa層 As-B純層  
 IIb層 黒色(10YR1.7/1) : As-C・Hr-FA混入  
 III層 黒褐色(10YR3/1) : 縄文包含層  
 IV層 暗褐色(10YR3/3) : 縄文包含層  
 V層 褐色(10YR4/6) : ソフトローム層  
 VI層 黄褐色(10YR7/8) : ハードローム層  
 VII層 黄褐色～淡黄色(2.5YR8/4) : 軽石層  
 VIII層 黄褐色(10YR7/3) : 白色軽石粒子混入  
 IX層 にぶい黄褐色(7.5YR8/4) : 白色軽石粒子少量  
 X層 浅黄褐色(10YR8/3) : 白色軽石粒子含有・鱗片状ガラス含有  
 XI層 浅黄褐色(7.5YR8/4) : 鱗片状ガラス含有  
 XII層 橙(7.5YR6/6) : 浅黄褐色土(7.5YR8/3)混入  
 XIII層 軽石層(にぶい黄褐色)  
 XIV層 軽石層・軽石層群  
 XV層

↑  
旧石器時代  
↓  
遺物出土層位



※□□～□□は、テフラ分析試料採取層位。

0 1:40 1m  
(土層断面図)

第9図 基本土層

## 第3章 調査の内容

### 第1節 概要

新田上遺跡では、竪穴住居52軒、竪穴状遺構18基、掘立柱建物3棟、溝36条、道3条、井戸1基、配石1基、土坑581基、ピット73基、旧石器の石器ブロック6カ所を検出した(第10～13図・第4表)。東西に延びる調査区の中で、遺構は時代ごとにはぼまとまって見つまっている。

**旧石器時代** 本遺跡の調査区には、ローム土が比較的良好な状態で残っていたので、旧石器時代の調査を実施した。ただし、調査区東側については、円礫を多く含む砂礫層となっており、調査対象から外した。調査は、2×5mのトレンチを設け、ジョレンを用いて注意深く掘り下げを行い、遺物や遺構を検出した段階で、随時トレンチの周囲を拡張した。56区B19グリッドのロームから剥片が出土したのでトレンチを拡張したが、他の遺物の発見はなかった。67区東側のトレンチでは、ローム土内よりまとまって、石器の出土があり、範囲を拡張した。その結果、67区では、As-YP下から細石刃1点、細石刃核や荒屋型彫刻刀を複数含む石器群を検出した。調査段階では、第7ブロックを認めたが、整理作業の結果、第4ブロックは、黒曜石1点のみの出土だったため、これをブロック外の遺物とし、第4ブロックは除外した。石器の素材は、在地の黒色頁岩と東北産と推定される硬質頁岩や珪質頁岩など二つに大別される。

**縄文時代** 65区東側、旧石器第3・第6・第7ブロックの直上とその周辺から、竪穴住居を15軒検出した。出土遺物や検出状況から、12軒を中期の加曾利E3式の時期と認めた。42号住居は、諸磯c式土器の出土があったため前期住居とした。また、遺物の検出のない30号住居・43号住居は、縄文時代の住居と認定したが、細かい時期については明言できなかった。1号配石は、27号住居と41号住居の間にあり、2軒の縄文中期の住居より新しいと考えられる。1号配石は、比較的新しい近世以降の286号土坑に切られている。この286号土坑出土の遺物には、配石に関連する遺物がある。これは、第57図の1号

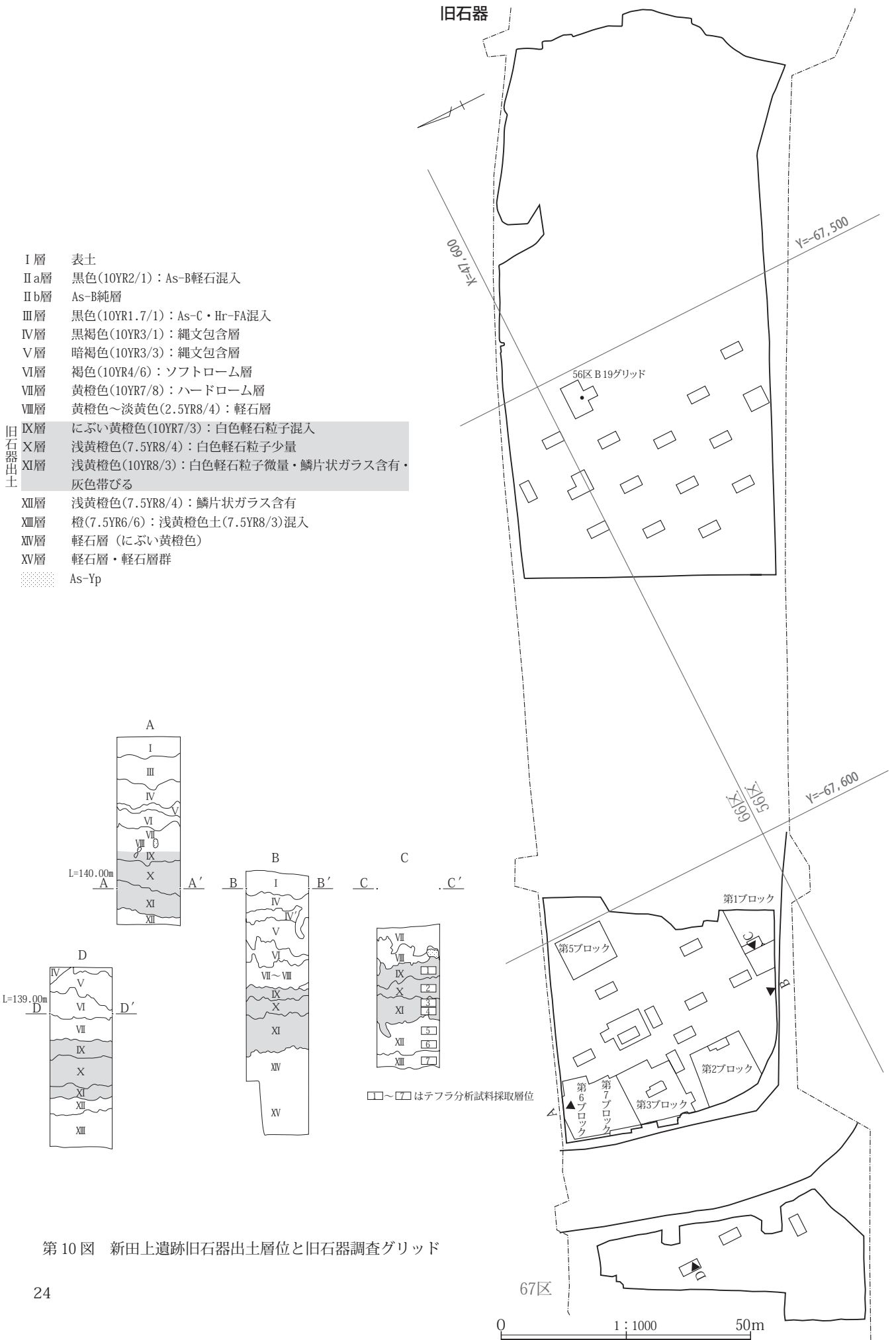
配石の中に図化した。さらに大正用水を挟んだ、観音川沿いの67区西側の調査区では、配石との関連が想定される大型の河床礫が、565号・567号・570号土坑から出土した。

**弥生時代** 67区東側で3軒、56区中央付近から1軒、合計4軒の竪穴住居を検出した。調査段階においては、縄文時代後期と捉えていたが、整理作業において、弥生土器の出土状況について検証を進めた結果、弥生時代中期と認定したものである。ただし、ロームまでの掘り込み深度が浅く、柱穴の配列ははっきりしなかった。出土遺物の年代は、中期前半から後期と幅がある。一方土坑は、竪穴住居より多くの遺物出土があった227号土坑など11基を検出した。本遺跡周辺の赤城山南西麓では、弥生中期の遺構の検出はあまりないので、貴重な発見と言える。**古墳時代** 調査区東端の55区から5世紀中頃の1号住居と、道路状遺構の下位から7世紀後半の22号住居の計2軒の竪穴住居を検出した。中期1軒、後期1軒しか検出されず、集落として長く継続していたようには見受けられない。1号住居から頁岩製の有孔石製品が出土した。(第5章第3節)

**奈良・平安時代** 55区・56区を中心に竪穴住居を31軒検出した。8世紀後半～10世紀中頃にかけて集落が展開しており、8世紀後半には3軒、9世紀代は17軒、10世紀代は9軒であった。(17号・47号住居は時期不明)同時期に3、4軒が存在していたと考えられ、位置関係は、南北方向に一定距離を離して構築していた。また、竪穴状遺構を18基検出したが、いずれも住居並の遺物の出土量があった。さらに、竪穴住居・竪穴状遺構・溝・ピットなどから、墨書土器26点(うち「足」14点、「足カ」2点)、刻書土器が2点見つかった。(第5章第2節)16号～21号溝は、道路状遺構の側溝として機能していたと考えられ、9世紀末まで使用されていた。

**中世** 遺物出土は見られないが、調査区西端の67区観音川沿いで、中世の遺構と考えられる四角く掘った土坑群をまとまって検出した。

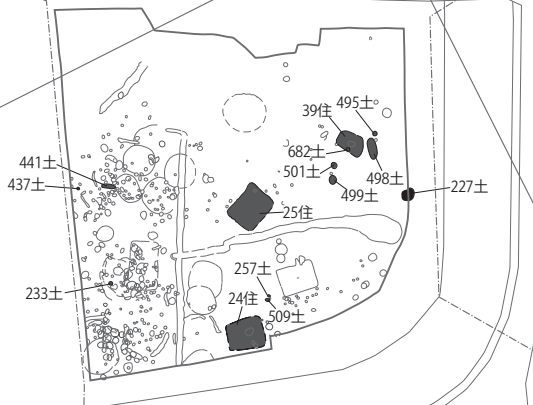
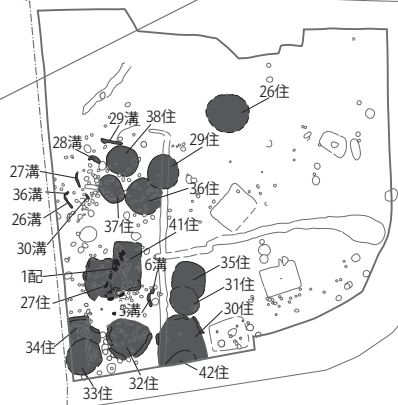
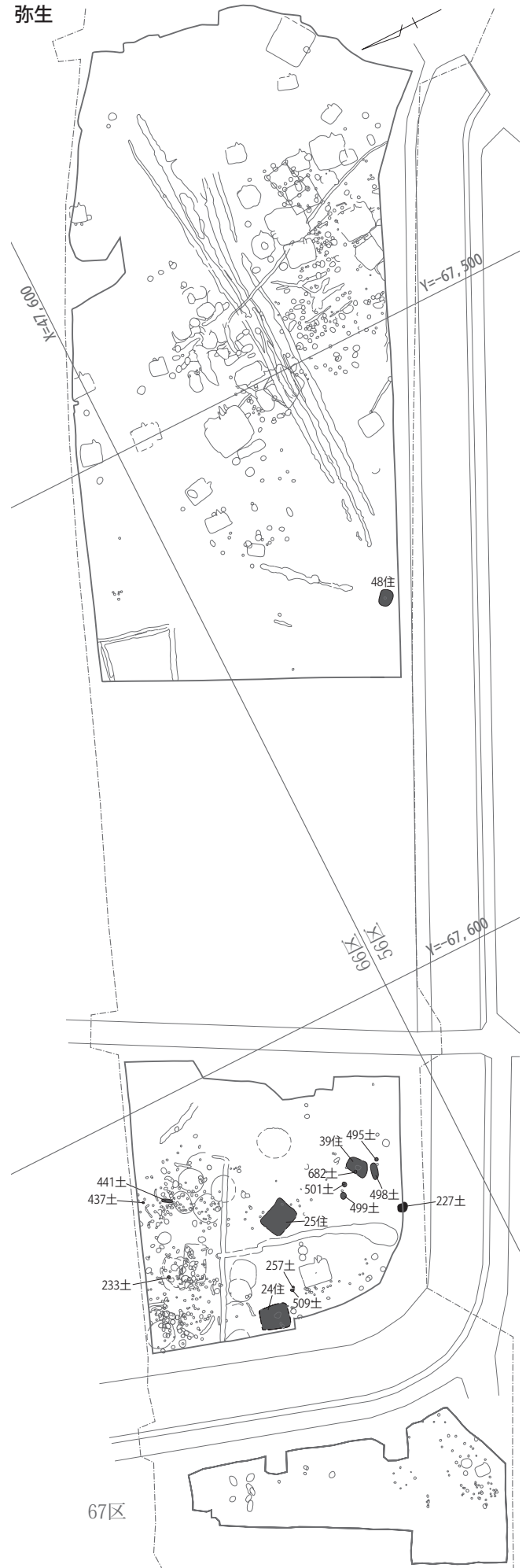
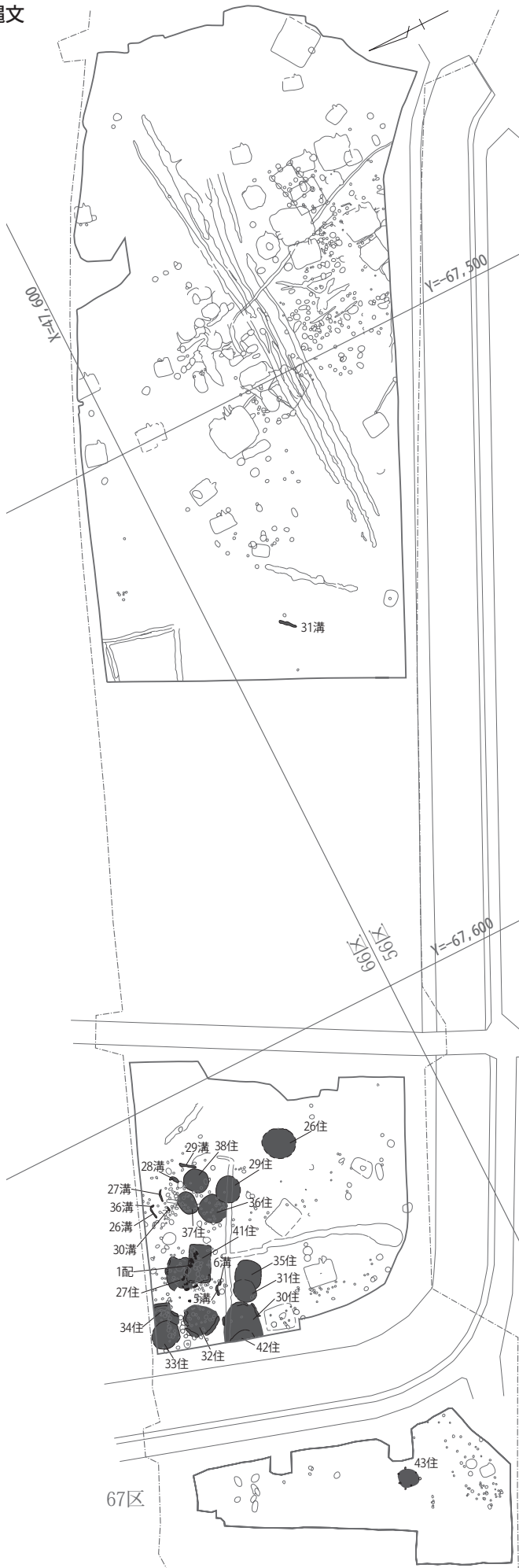
**近世以降** 67区東側に屋敷の礎石や便所として使われた土坑や、粘土採掘穴とも考えられる3号溝を検出した。





縄文

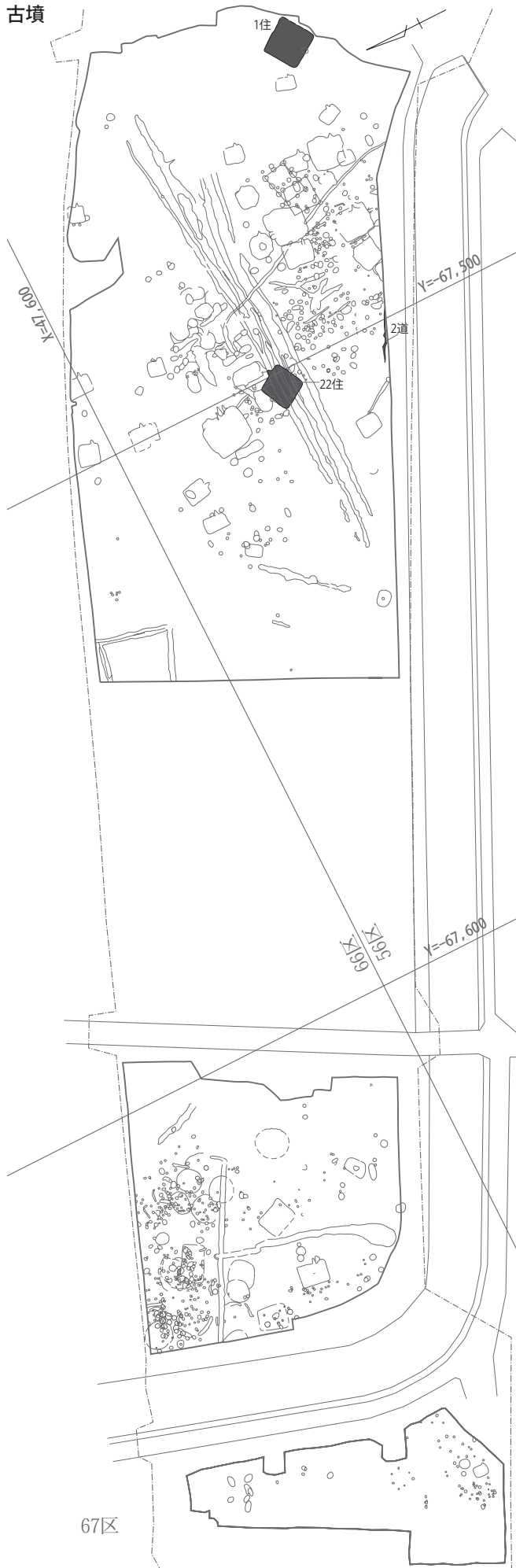
弥生



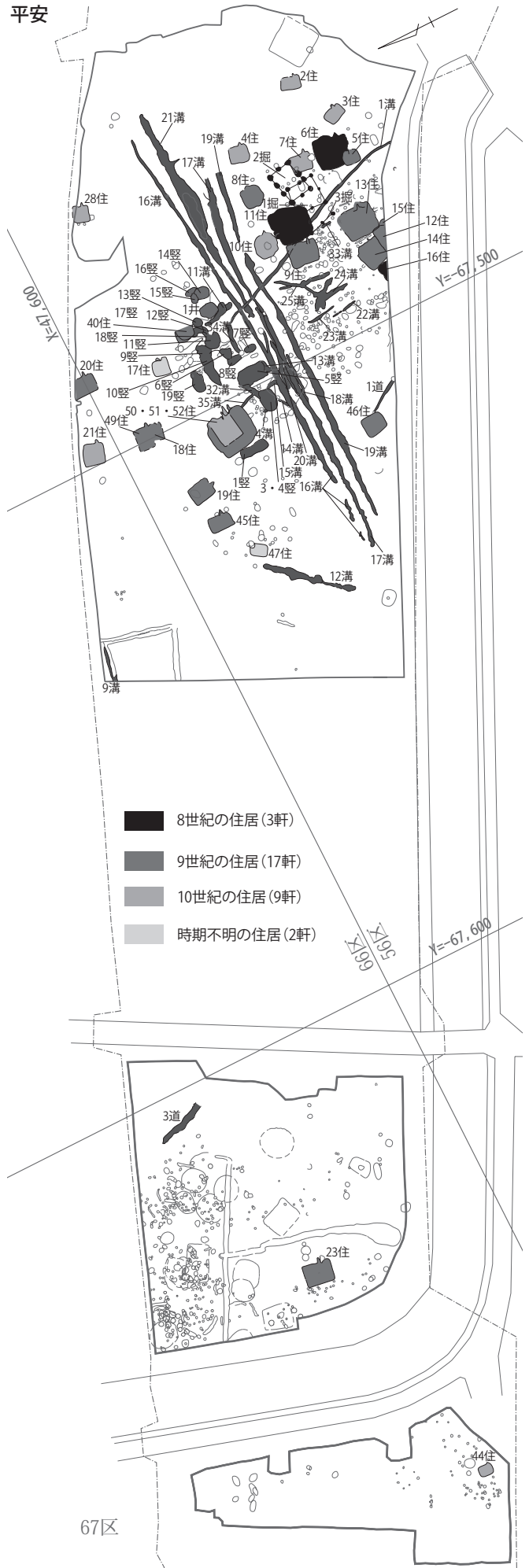
第11図 新田上遺跡遺構分布図の変遷(1)

0 1:1000 50m

古墳



平安



- 8世紀の住居(3軒)
- 9世紀の住居(17軒)
- 10世紀の住居(9軒)
- 時期不明の住居(2軒)

中世

近世



第13図 新田上遺跡遺構分布図の変遷(3)

第3章 調査の内容

第4表 新田上遺跡 時代別遺構一覧表

時代	遺構種	遺構番号	遺構数
旧石器	石器ブロック	1・2・3・5・6・7	6
縄文	住居	26・27・29・30/42・31/35・32・33/34・36・37・38・41・43	15
	溝状遺構	5・6・26・27・28・29・30・31・36	9
	配石	1	1
	土坑	13・114・118・208・209・210・211・212・213・216・217・220・221・222・223・225・231・232・235・237・238・239・240・241・242・243・244・245・246・247・248・249・250・251・252・253・255・256・258・259・260・261・262・265・266・267・268・269・273・274・290・292・293・294・295・298・302・313・322・323・326・328・334・335・336・337・338・339・342・343・344・345・346・347・348・349・350・360・361・362・363・364・365・366・367・368・369・370・371・372・373・374・375・377・384・385・404・406・411・412・413・414・415・416・417・418・419・420・421・422・423・424・425・426・427・428・429・430・431・432・433・434・435・436・438・439・440・442・443・444・445・446・447・448・449・450・451・457・458・459・460・461・462・463・464・465・466・467・468・469・470・471・472・473・475・477・479・480・481・482・483・484・485・486・487・488・489・490・491・492・493・494・496・497・500・502・503・504・505・506・508・510・511・512・513・514・515・516・517・518・519・520・521・522・523・524・525・526・527・528・529・530・531・532・533・534・535・536・537・538・539・540・541・542・543・544・545・546・547・548・549・550・551・552・553・554・555・556・561・562・563・564・565・566・567・568・569・570・633・665・675・676・677・678・679・680	246
弥生	住居	24・25・39・48	4
	土坑	227・233・257・437・441・495・498・499・501・509・682	11
古墳	住居	1・22	2
	道	2	1
奈良平安	住居	2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12/15・13・14・16・17・18/49・19・20・21・23・28・40・44・45・46・47・50・51・52	31
	竪穴状遺構	1・3/4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19	18
	掘立柱建物	1・2・3	3
	井戸	1	1
	溝	1・4・13・14・15・32・35・9・11・12・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・33・34	22
	道	1・3	2
	土坑	2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50・51・52・53・54・55・56・57・58・59・60・61・62・63・64・65・66・67・68・69・70・71・72・73・74・75・76・77・78・79・80・81・82・83・84・85・86・87・88・89・90・91・92・93・94・95・96・97・98・99・100・101・102・103・104・105・106・107・108・109・110・111・112・113・115・116・117・119・120・121・122・123・124・125・126・127・128・129・130・131・132・133・134・135・136・137・138・139・140・141・142・143・144・145・146・147・148・149・150・151・152・153・154・155・156・157・158・159・160・161・162・163・164・165・166・167・168・169・170・171・172・173・174・175・176・177・178・179・180・181・182・183・184・185・186・187・188・189・190・191・192・193・194・201・202・203・204・205・206・207・214・215・218・219・224・263・264・270・271・272・282・283・285・507・558・559・634・635・636・637・638・639・640・641・642・643・644・645・646・647・648・649・650・651・652・653・654・655・656・657・658・659・660・661・662・663・664・666・667・668・670・671・672・673・674・681	253
ピット	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50・51・52・53・54・55・56・57・58・59・60・61・62・63・64・65・66・67・68・69・70・71・72・73	73	
中世	溝	10	1
	土坑	571・572・573・574・575・576・577・578・579・580・581・582・583・584・585・586・587・588・589・590・591・592・593・594・595・596・597・598・599・600・601・602・603・604・605・606・607・608・609・610・611・612・613・614・615・616・617・618・619・620・621・622・623・624・625・626・627・628・629・630・631・632	62
近世	溝	2・3・7・8	4
	土坑	1・226・230・279・280・281・286・287・560	9

※旧石器ブロック4欠番、竪穴状遺構番号2欠番、土坑番号195～200・228・229・234・236・254・275～278・284・288・289・291・296・297・299～301・303～312・314～321・324・325・327・329～333・340・341・351～359・376・378～383・386～403・405・407～410・452～456・474・476・478・557・669欠番

## 第2節 旧石器時代

### 1. 概要

旧石器時代の石器が56区B19グリッドで1点、67区東側で109点出土した。56区B19グリッド出土の石器は黒色頁岩製の剥片(第14図128)で、67区東側出土石器群から約110m東側に位置する。発掘調査時にはトレンチを拡張し石器群の確認に努めたが、これのみの出土であった。以下、数量的にまとまりをもつ67区東側出土の石器群について記述する。

67区東側の石器群の出土層位はIX～XI層(第10図)で、IX層出土の石器が最も多い(第5表)。火山灰分析によると、これらの石器の出土層位はAs-YPより下位で、少なくとも浅間大窪沢第1軽石(As-0k1)より上位と推定されている(第4章第1節参照)。

出土石器は細石刃、細石刃核、彫刻刀形石器、ナイフ形石器、サイドスクレイパー、スクレイパー、二次加工ある剥片、微小剥離痕ある剥片、剥片、碎片、石核、ハンマーストーン、台石?、石製品である。細石刃および細石刃核、彫刻刀形石器(荒屋型を含む)、スクレイパーなどの北方系細石刃石器群は主として硬質頁岩製で、一部珪質頁岩を用いている。一方、黒色頁岩を主体とする在地石材はスクレイパー、二次加工ある剥片、剥片、石核などに使用され、細石刃や彫刻刀形石器の製作には用いられていない。

整理作業に当たり、遠隔地石材を用いた細石刃石器群と在地石材を使用した剥片・石核を中心とした石器群の同時性について再検討を行った。石器はIX～XI層から出土し、層位的にまとまっていること、ブロック間接合(第2・第3ブロック)が見られること、同一のブロック内に両方の石器群が混在し分布に偏りが認められないことなどから、これらの石器群を同時期のものと判断しここでは取り扱った。

第5表 層位別出土点数

層位	点数
IX	55
X	39
XI	6
縄文時代以降住居	9
合計	109

整理作業段階で、縄文時代以降の竪穴住居から出土したものの、旧石器時代の石器と明確に判断できるものについては、併せて接合作業を行い、ここで取り扱っている。また、発掘調査時に第4ブロックと呼んだ地点は、黒曜石製石器(第16図55)が1点出土したのみのため、整理作業で「ブロック外」と名称を改めた。

なお、発掘調査では、土壌のフルイがけによる微小遺物の回収作業を実施していないため、石器はすべて目視によって取り上げられたものである。

### 2. 出土石器

器種分類にあたり、細石刃核を準備するための両面加工石器(第15図125)も細石刃核の中を含めた。また、剥片は最大長20mm以上、碎片は最大長20mm未満のものを便宜的に分けた。

**細石刃**(第15図29) 1点出土。硬質頁岩製。背面に平行する2条の稜線が認められ、連続剥離が行われたと推定される。明瞭な二次加工および使用による刃こぼれ等は認められない。

**細石刃核**(第15図126・17・125・10) 4点出土。いずれも硬質頁岩および珪質頁岩製である。第15図125・126は縄文時代の住居から出土したものの、形状から細石刃核と判断した。126は湧別技法による細石刃核で、ファーストスポールを素材とする。作業面には細石刃を剥離した痕跡が数条認められる。甲板面は側面に対し垂直ではなく傾いている。側面には甲板面を打面とした調整加工が認められる。17はスキー状スポールを素材とし、腹面を打面として側面側に調整加工を施している。スキー状スポールを素材としているため、細石刃核の高さが不足し、縦長の細石刃を剥離するのは困難であったと推定される。125は細石刃核、または細石刃核を準備するための両面加工石器の一部と考えられる。10は接合資料1の一部で、大型剥片が折れ面で2分割になった一方を素材とし、腹面を打面として側面に二次加工を施し、おおよそ船底形に整形している。作業面に縦長の細石刃が剥離された痕跡が見られる。ホロカ型の範疇に含まれると考えている。

**彫刻刀形石器**(第15図120・50・91・121・122・75) 6点出土。すべて硬質頁岩製である。120は荒屋型彫刻刀で、フラットグレイバー状の剥離が認められる。下半部は折れによ

る欠損。50は荒屋型彫刻刀で、フラットグレイバー状の剥離が認められる。91は右側縁を折り取った（折れた）後、二次加工を施している。121は右肩にノッチ状の加工を施してそこを打面とし、彫刻刀面を作出している。彫刻刀面は背面側に傾き、腹面と彫刻刀面のなす角は鋭角である。122は周縁加工が少なく、剥片の打面を彫刻刀面作出時の打面としている。75は折れ面を打面として彫刻刀面を作出している。

**ナイフ形石器**（第15図31）1点出土。黒色頁岩製。第3ブロック、Ⅸ層から出土した。側縁加工がナイフ形石器の背潰し加工のように見えるためナイフ形石器の基部としたが、石器の大部分が失われているため、別器種の可能性がある。

**サイドスクレイパー**（第16図69）1点出土。黒色頁岩製。剥片を素材とし、右側縁に二次加工を施し刃部を作出。

**スクレイパー**（第16図19・78・60）3点出土。硬質頁岩または珪質頁岩製。19は表裏両面ともポジ面の横長剥片を素材とする。平面的にはナイフ形石器のように見えるが、下辺はヒンジフラクチャーとなっておりそれとは異なる。78は第6ブロック、Ⅸ層から出土した。縄文時代の石器の可能性を考慮し出土状況を再検討したが、旧石器時代の遺物であることを否定する要素が確認できず、また、剥離面に黄色ロームが付着していたため、ここでは旧石器時代の石器として取り扱った。表裏面の両側縁および下辺に二次加工を施し、平面形が長方形に整形されている。60は剥片を素材とし、両側縁および端部に二次加工を施している。

**二次加工ある剥片**（第16図55・12・25・35、第17図52・124）8点出土し、このうち6点を図示した。石材

別では、硬質頁岩3点、珪質頁岩1点、黒色頁岩3点、黒曜石1点である。55は黒曜石製で、ブロック外のⅨ層から出土した。12は接合資料1の一部で、大型剥片を素材とし、折れ面で2分割になった後、折れ面を打面として二次加工を施し大きく形状を変えている。124は黒色頁岩製で、自然面を打面とした大型剥片のバルブ部分に二次加工を施している。

**微小剥離痕ある剥片**（第17図84）2点出土し、このうち1点を図示した。石材別では、硬質頁岩1点、黒色頁岩1点である。84は硬質頁岩製で剥片端部に刃こぼれ状の微小剥離痕が認められる。

**剥片**（第18・19図、第20図56）52点出土し、このうち10点を図示した。石材別では、硬質頁岩7点、珪質頁岩1点、黒色頁岩40点、ホルンフェルス1点、砂岩2点、黒色安山岩1点である。9は黒色頁岩製で、背面構成から打面調整剥片と推定される。15は黒色頁岩製の縦長剥片である。

**碎片**（第20図81・101・117）18点出土し、このうち3点を図示した。石材別では、硬質頁岩4点、黒色頁岩9点、ホルンフェルス1点、溶結凝灰岩1点、粗粒輝石安山岩2点、細粒輝石安山岩1点である。101は硬質頁岩製で、背腹両面の縁辺に微小剥離痕が認められる。

**石核**（第20図20・47、第21～23図、第24図108）6点出土。このうち珪質頁岩1点、黒色頁岩4点、砂岩1点である。47は珪質頁岩製の小型石核で、被熱によるハジケおよび白色変化が見られる。20・23・76・108は黒色頁岩製で、自然面を多く残し、原石は15～20cm大と推定される。自然面を打面として剥片剥離を行っているものが多い。94は砂岩製で、下端部は黒褐色に変色し、

第6表 器種と石材

	硬質頁岩	珪質頁岩	黒色頁岩	砂質頁岩	ホルンフェルス	砂岩	溶結凝灰岩	黒曜石	黒色安山岩	粗粒輝石安山岩	細粒輝石安山岩	合計
細石刃	1											1
細石刃核	3	1										4
彫刻刀形石器	6											6
ナイフ形石器			1									1
サイドスクレイパー			1									1
スクレイパー	1	2										3
二次加工ある剥片	3	1	3					1				8
微小剥離痕ある剥片	1		1									2
剥片	7	1	40		1	2			1			52
碎片	4		9		1		1			2	1	18
石核		1	4			1						6
ハンマーストーン片					5							5
台石？										1		1
石製品				1								1
合計	26	6	59	1	7	3	1	1	1	3	1	109
%	23.9	5.5	54.1	0.9	6.4	2.8	0.9	0.9	0.9	2.8	0.9	100

表面が剥落しているように見える。被熱による可能性がある。

**ハンマーストーン**（第24図 104+107+111+112+114）5点の石器が接合し、1点となった。104+107+111+112+114（接合資料8）は、縄文時代の石斧のような形状であるが、出土状況を検討した結果、旧石器時代の石器と判断した。接合した時の長さ18.7cm、幅7.5cm、厚さ5.0cm、重量922.9gの大型品である。ホルンフェルス製で、表面は摩耗し敲打痕等は明瞭でないものの、棒状の形状および上端・下端部の剥離痕から今回はハンマーストーンとして取り扱った。形状は茨城県額田大宮遺跡出土砧形石器（川崎純徳ほか1978 28・29頁）と類似しているように思われる。

**台石?**（第25図 106）1点出土。粗粒輝石安山岩製。扁平な形状で、わずかだが表面に打撃等の痕跡が認められたため台石?とした。

**石製品**（第25図 109）1点出土。砂質頁岩製で、下半部を欠損しているため、全体形は不明である。表面に縦方向の擦痕が明瞭に観察でき、特に左右側面で顕著である。先端部および括れ部に敲打の痕跡が認められる。擦痕が敲打痕を切っているように見える所もあるため、利器というより何らかの石製品である可能性がある。太田市八ヶ入遺跡出土台石（群埋文2010 92頁、黒色頁岩製）は、括れをもち下半部がやや広がる形状で、敲打痕と擦痕・研磨痕が認められるという点で、本石製品との共通性を指摘できる。また、形状は異なるが表面に著しい擦痕（線状痕）が認められるものとして、茨城県宮脇遺跡出土の「緑泥片岩の石器」（日上市教育委員会1997 13頁）が挙げられる。

### 3. 接合資料

**接合資料1**（第26図）珪質頁岩製。細石刃核1点と二次加工ある剥片1点が接合。折れ面同士が接合し、折れた後それぞれに加工を施し、大きく形状を変化させている。

**接合資料2**（第26図）黒色頁岩製。二次加工ある剥片1点、剥片3点が接合。いずれも同一の打面から加撃している。

**接合資料3**（第27図）黒色頁岩製。石核1点と剥片2点が接合。主として自然面を打面に剥片剥離を行っている。

**接合資料4**（第28図）黒色頁岩製。石核1点と剥片1点が接合。原石の一端に打撃を加え、剥離面を打面とし

て剥片剥離を行っている。

**接合資料5**（第28図）黒色頁岩製。石核1点と剥片1点が接合。節理の多い石質で、剥片剥離時の同時割れである。

**接合資料6**（第29図）黒色頁岩製。剥片2点が接合。

**接合資料7**（第29図）黒色頁岩製。剥片3点が接合。節理の多い石質で、いずれも節理面で接合している。

**接合資料8**（第30図）ホルンフェルス製。5点の石器が接合し、棒状を呈する。

**接合資料9**（第29図）砂岩製。剥片2点が接合。ともに自然面を打面として剥片剥離を行っているが、113を剥離した後、90度打面を転移している。

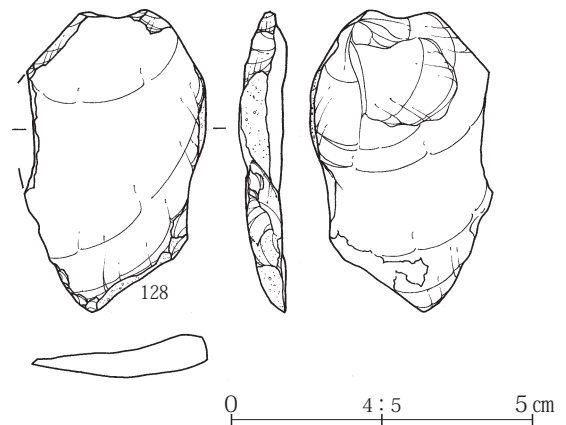
### 4. 石器の分布

第1～第3・第5～第7ブロックの6カ所の石器集中地点が認められた（第31図）。いずれのブロックも4～10mの範囲に8～20点の石器が分布し、密度は散漫である。これらのブロックは南から第1～第3・第7・第6ブロックと弧状に分布し、環状ブロックの一部である可能性もあるが、詳細は不明である。

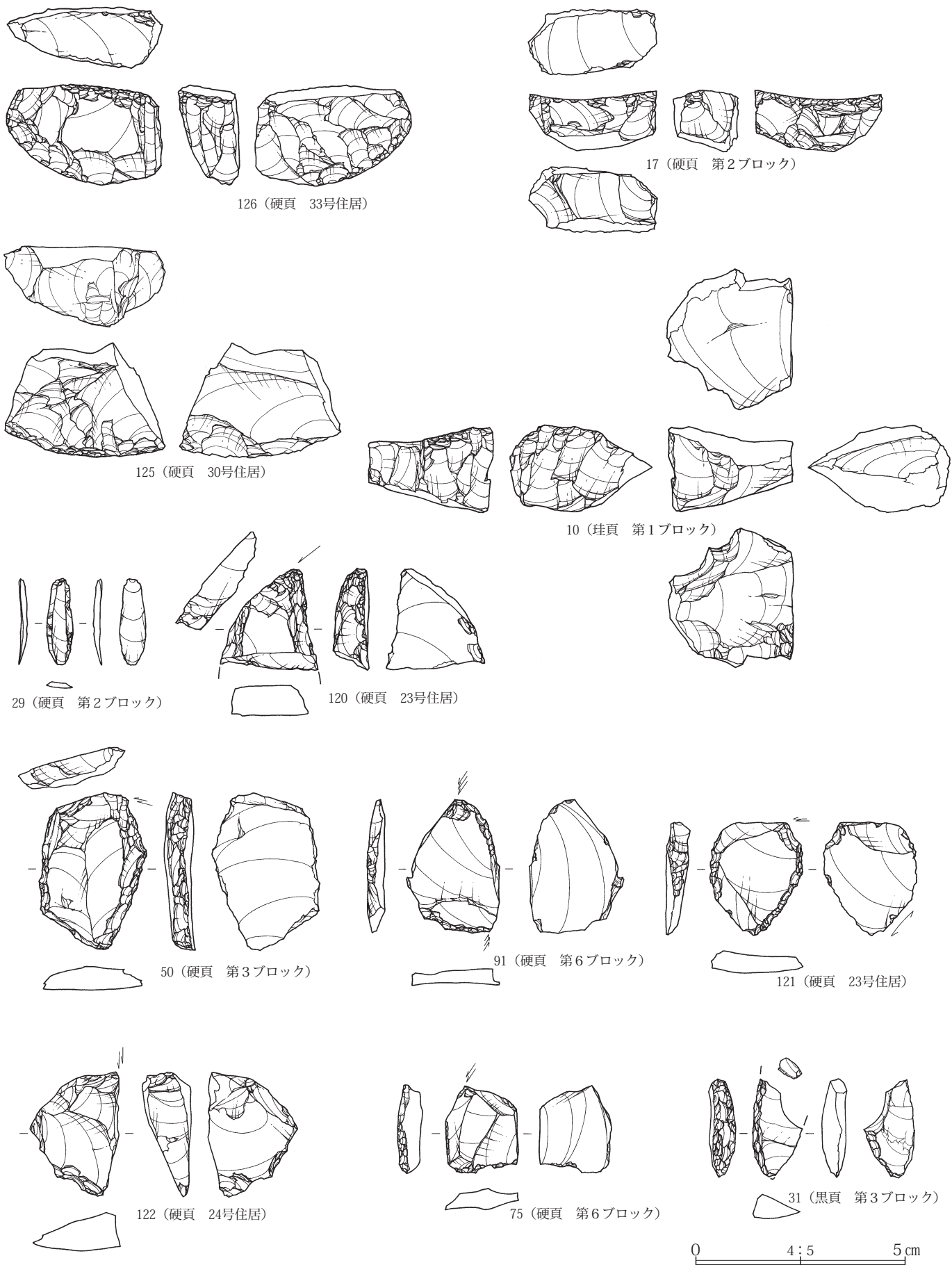
**接合資料の分布状況**（第32図）第5ブロックを除く各ブロックで接合関係が認められた。第2・第3ブロックではブロック間接合が認められた。

**器種別石器の分布状況**（第33図、第7表）特定の器種が偏在する様子は見られないが、ハンマーストーンや台石?、石製品が第7ブロックに集まり、ほかのブロックとは異なる活動が行われていたと推定される。

**石材別石器の分布状況**（第34図、第8表）石材の分布に大きな偏りはないものの、第7ブロックに礫石器に使用される石材がやや多く見られる。

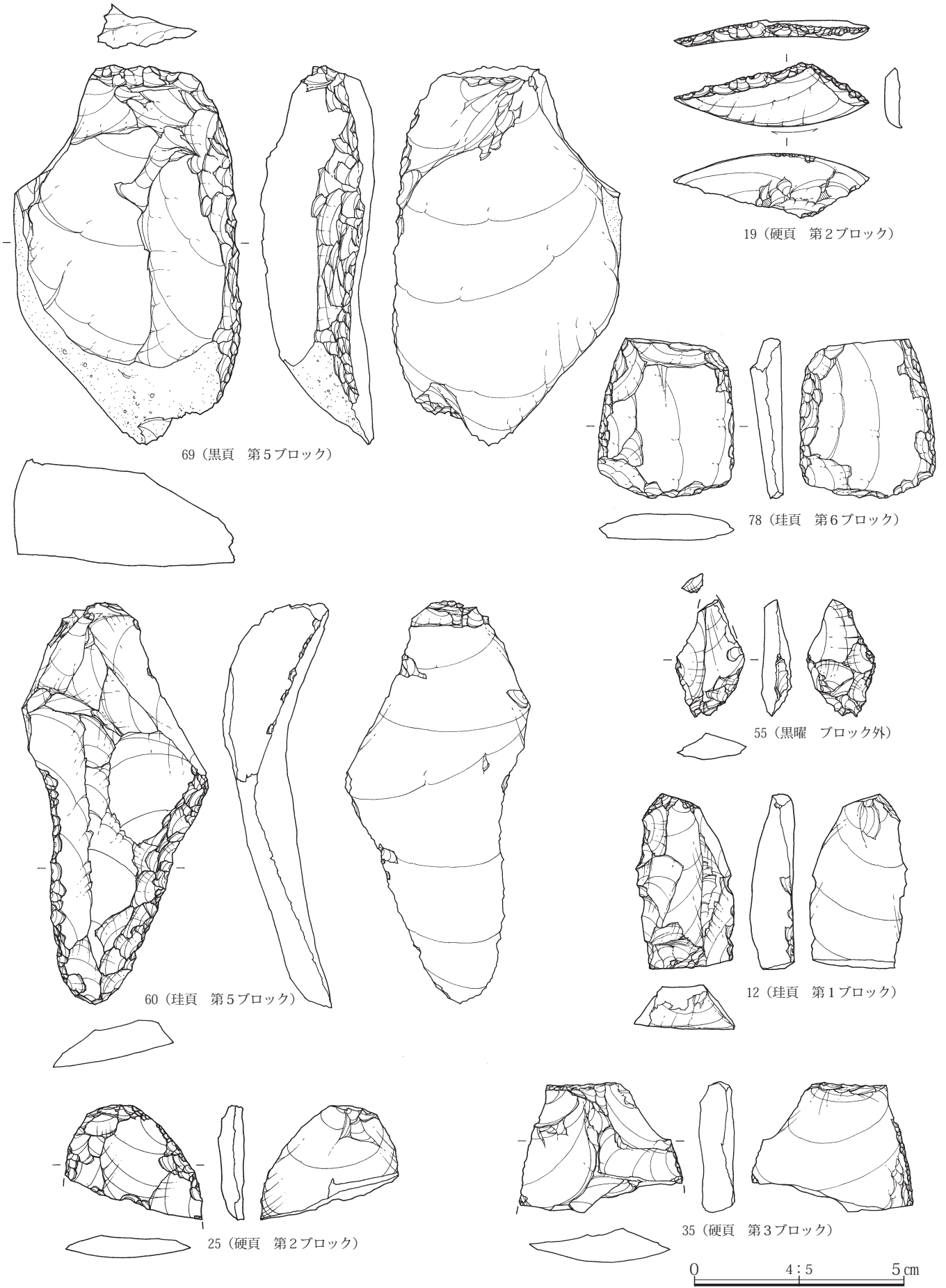


第14図 56区B19グリッド出土剥片

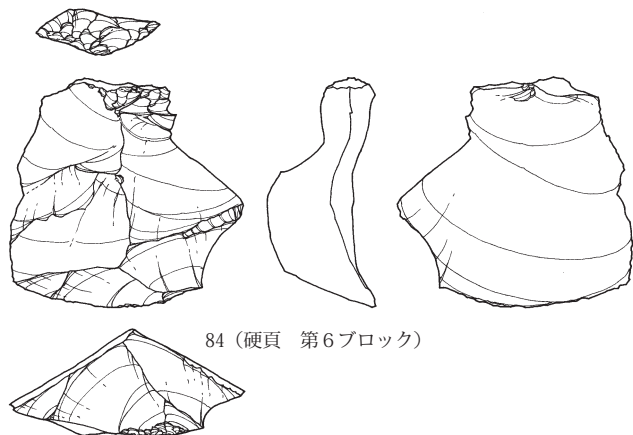
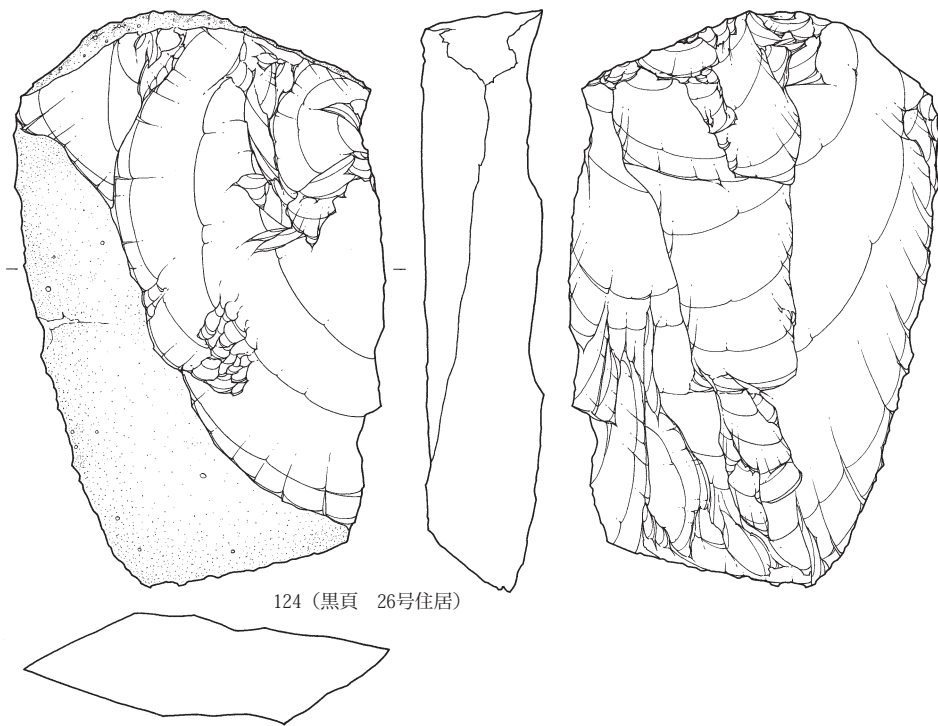
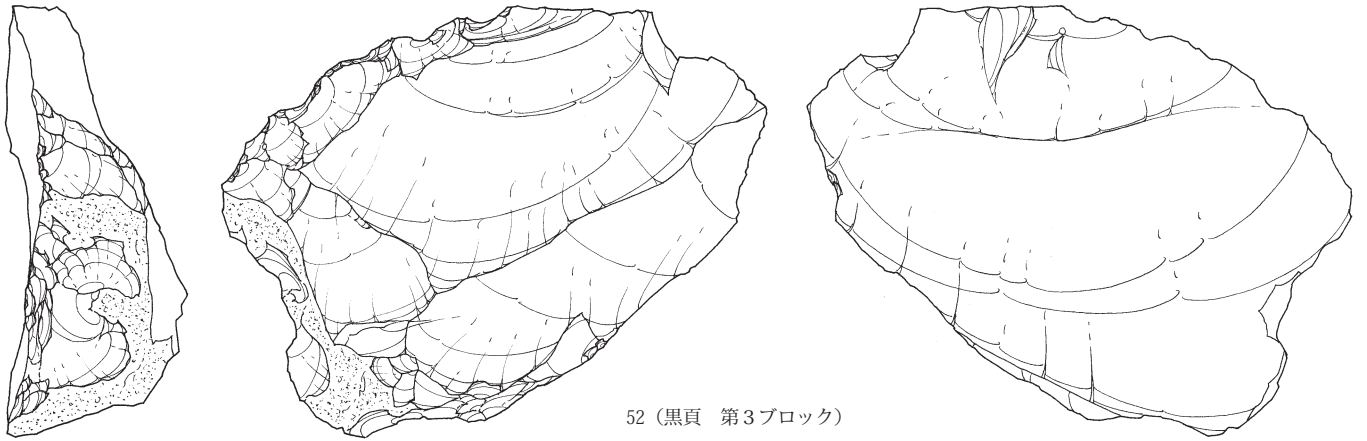


第15図 細石刃核・細石刃・彫刻刀形石器・ナイフ形石器



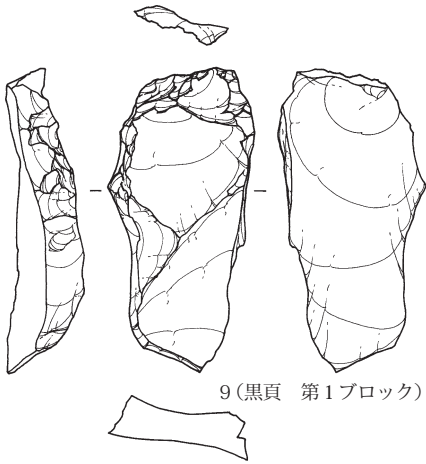


第16図 サイドスクレイパー・スクレイパー・二次加工ある剥片(1)

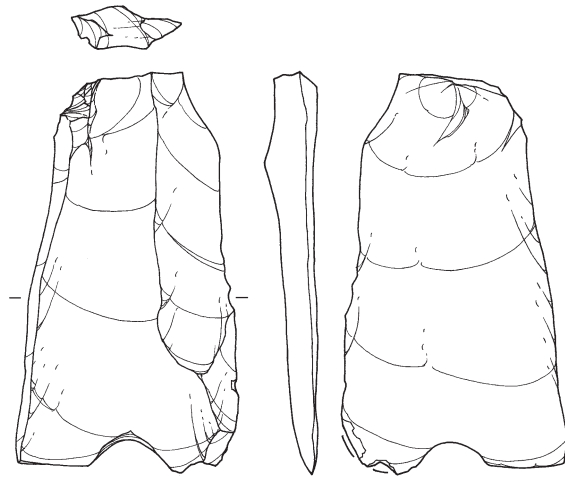


0 4:5 5cm

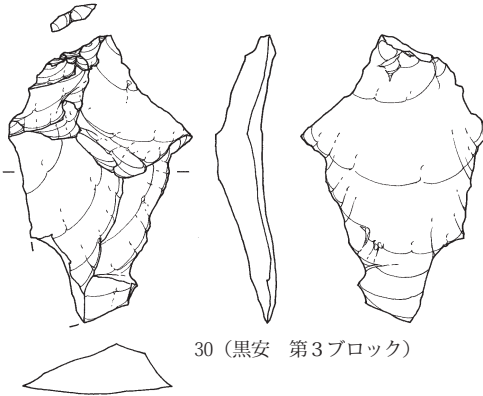
第17図 二次加工ある剥片(2)・微小剥離痕ある剥片



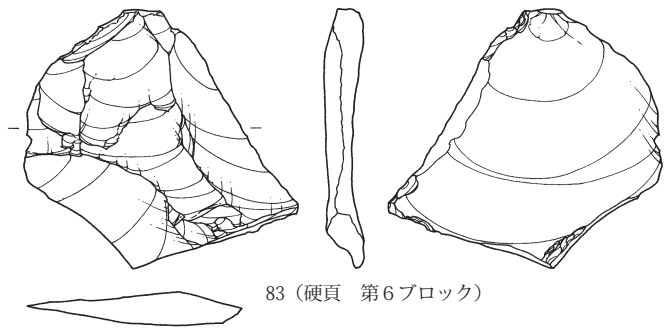
9 (黒頁 第1ブロック)



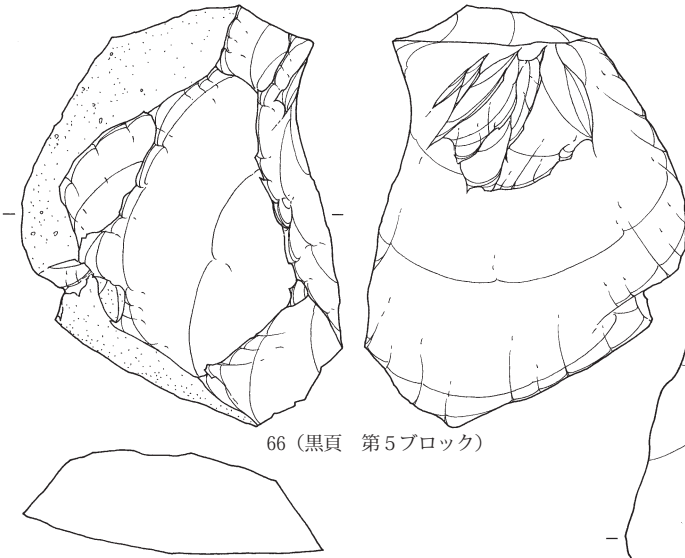
15 (黒頁 第1ブロック)



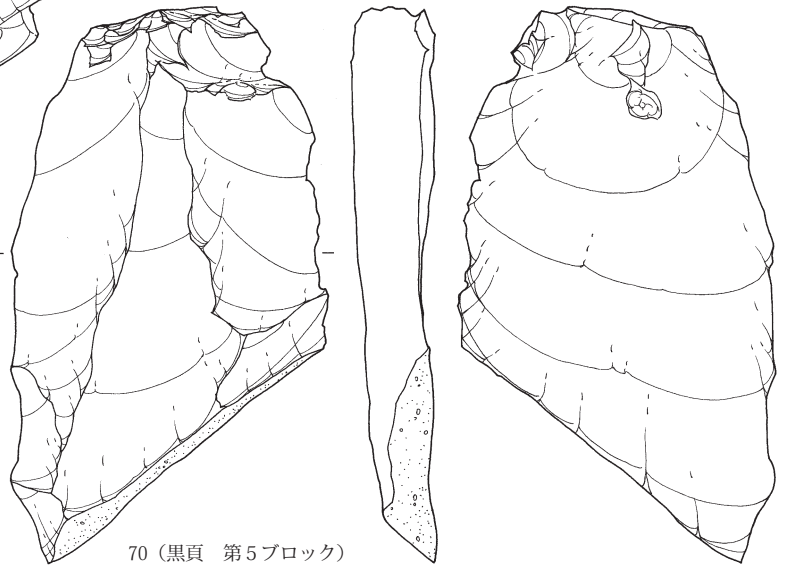
30 (黒安 第3ブロック)



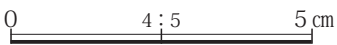
83 (硬頁 第6ブロック)



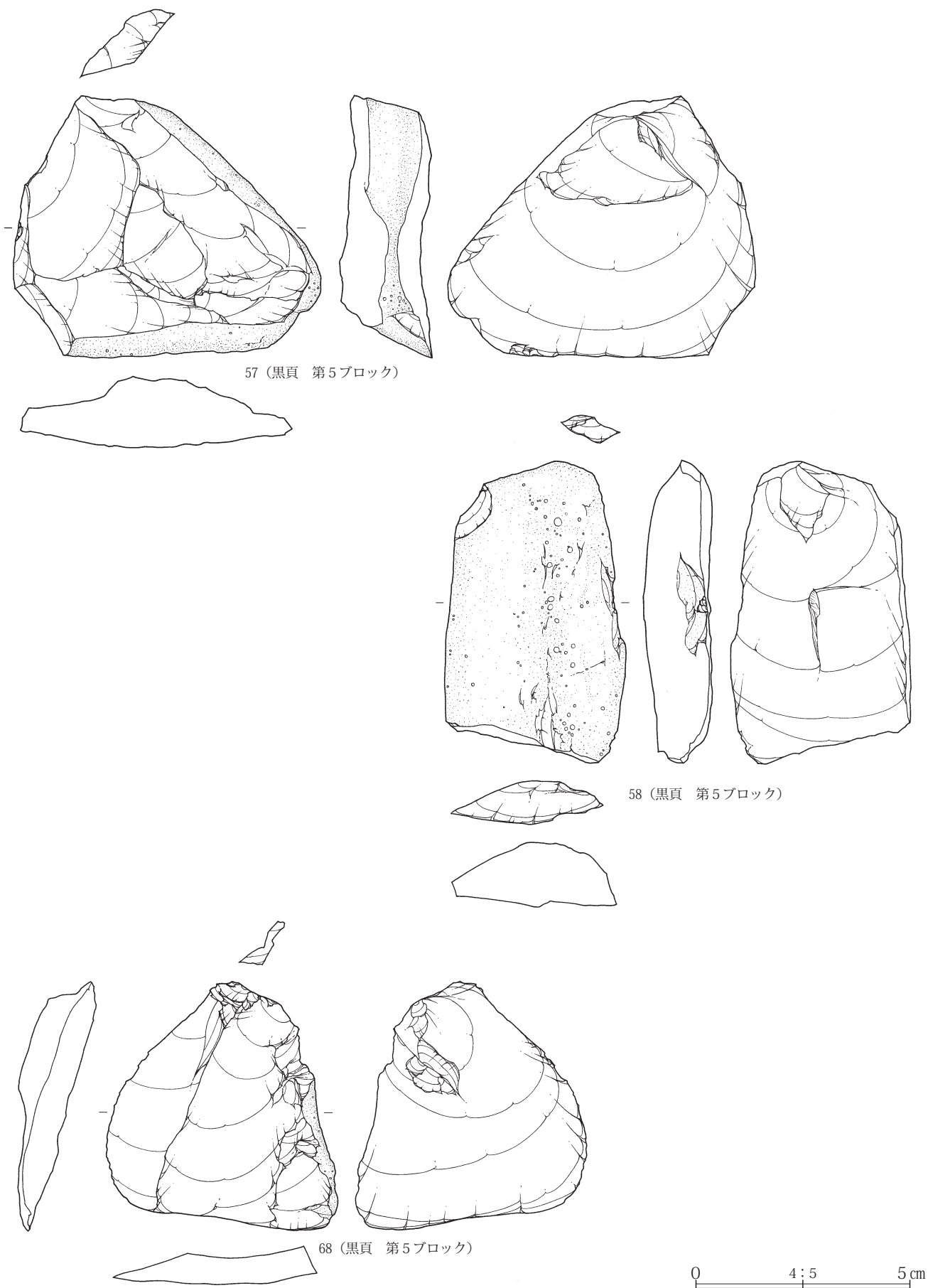
66 (黒頁 第5ブロック)



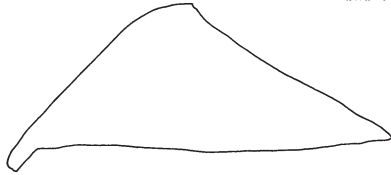
70 (黒頁 第5ブロック)



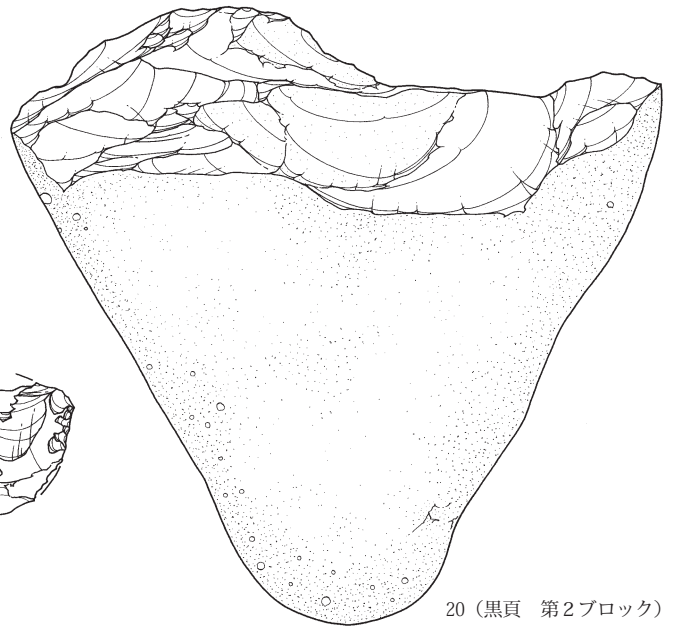
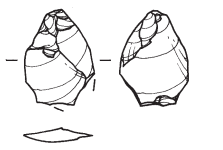
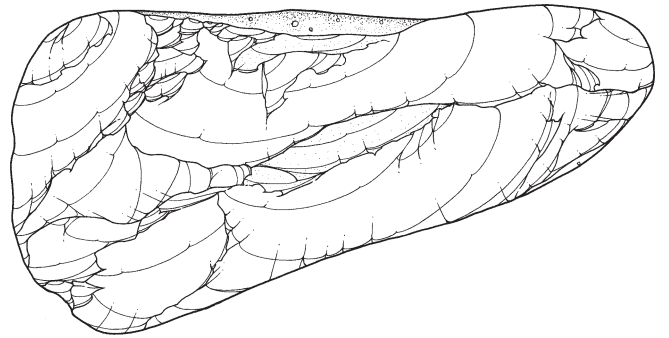
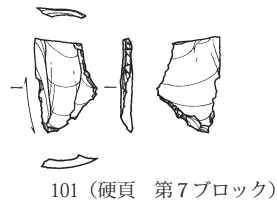
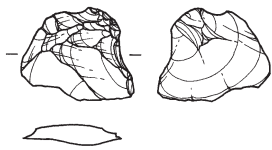
第18図 剥片(1)



第19図 剥片(2)

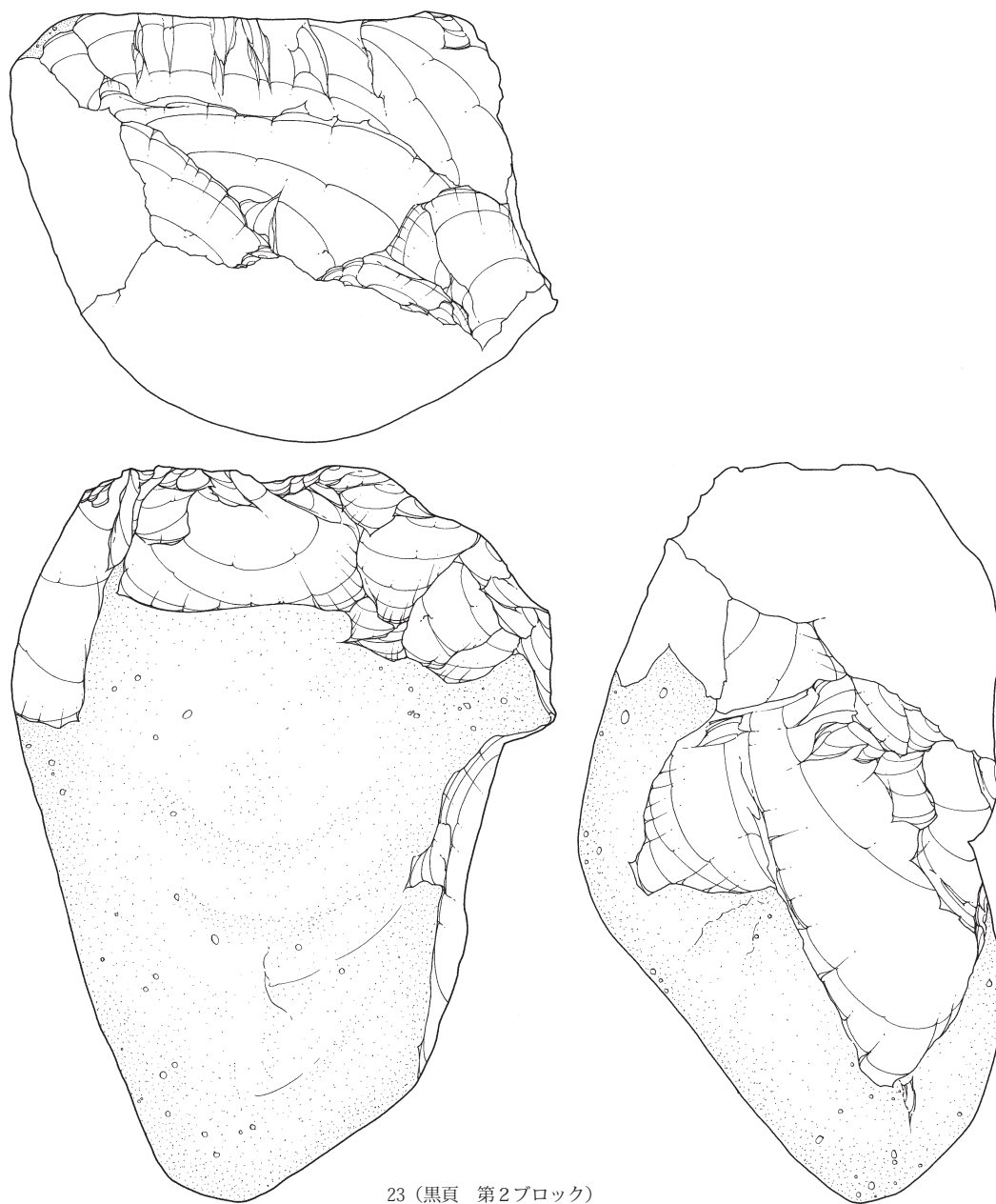


0 1:2 5cm



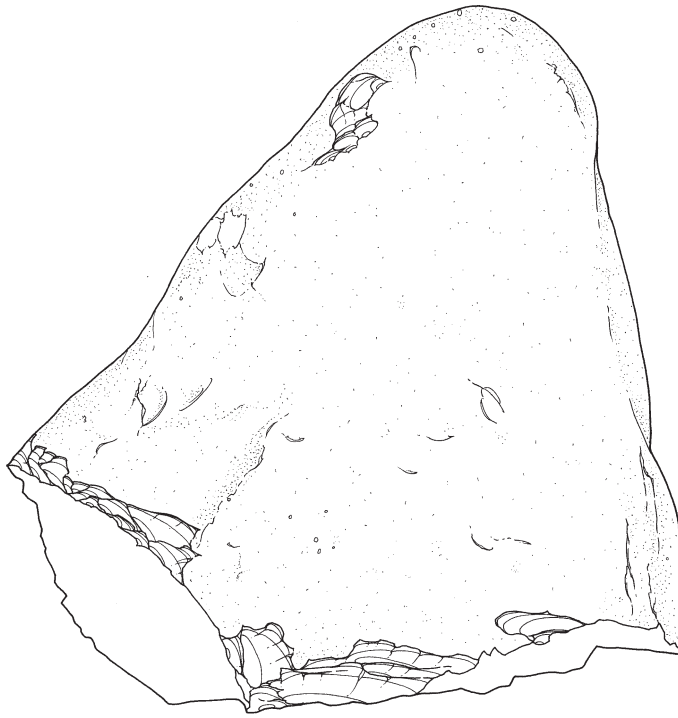
0 4:5 5cm

第20図 剥片(3)・碎片・石核(1)

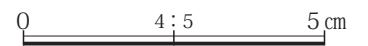
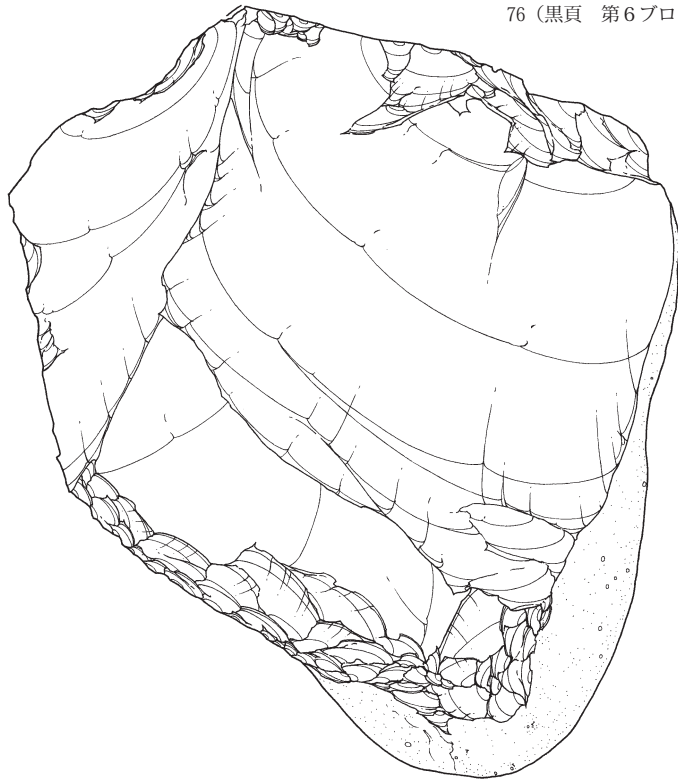


23 (黒頁 第2ブロック)

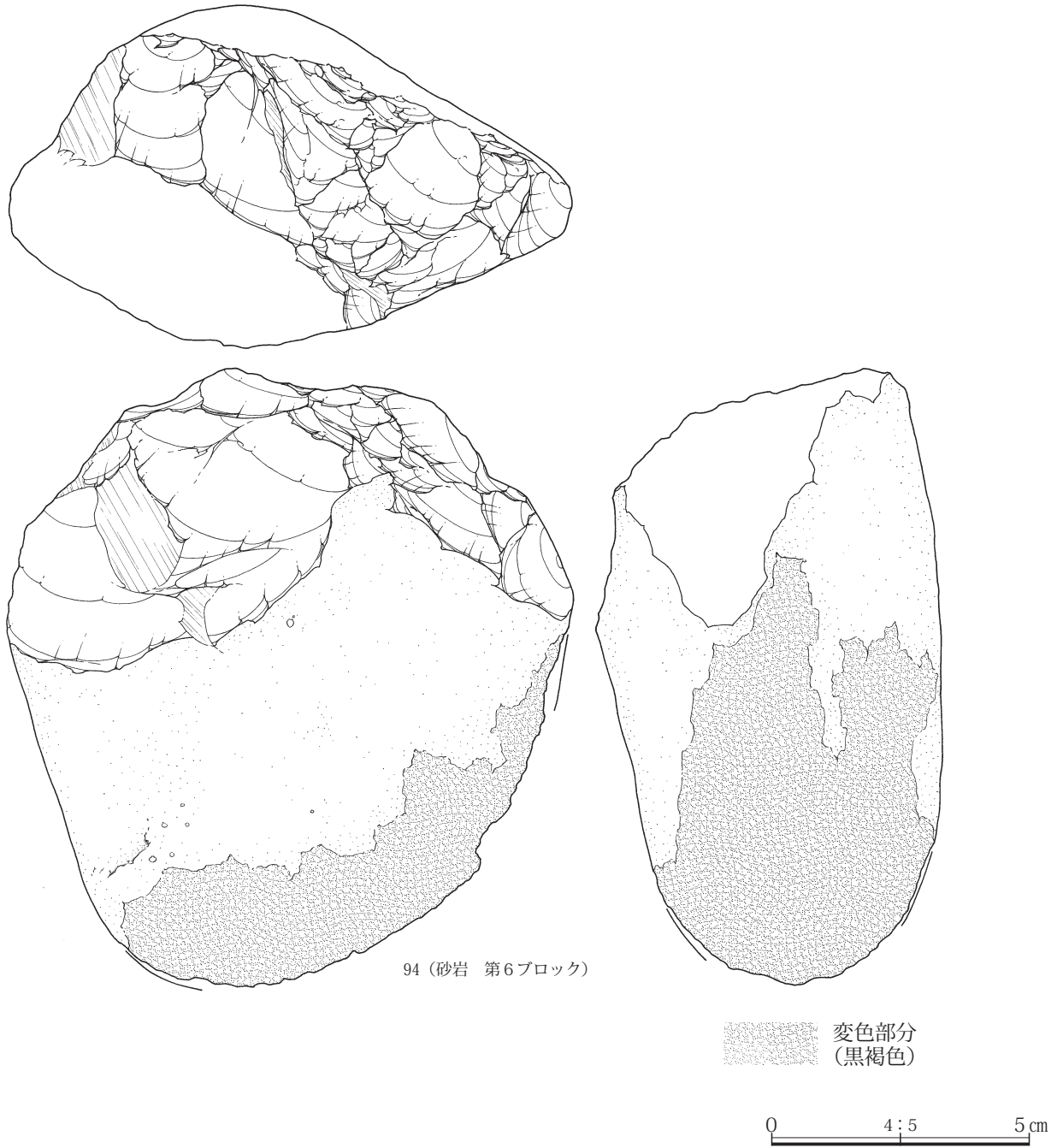
第21図 石核(2)



76 (黒頁 第6ブロック)

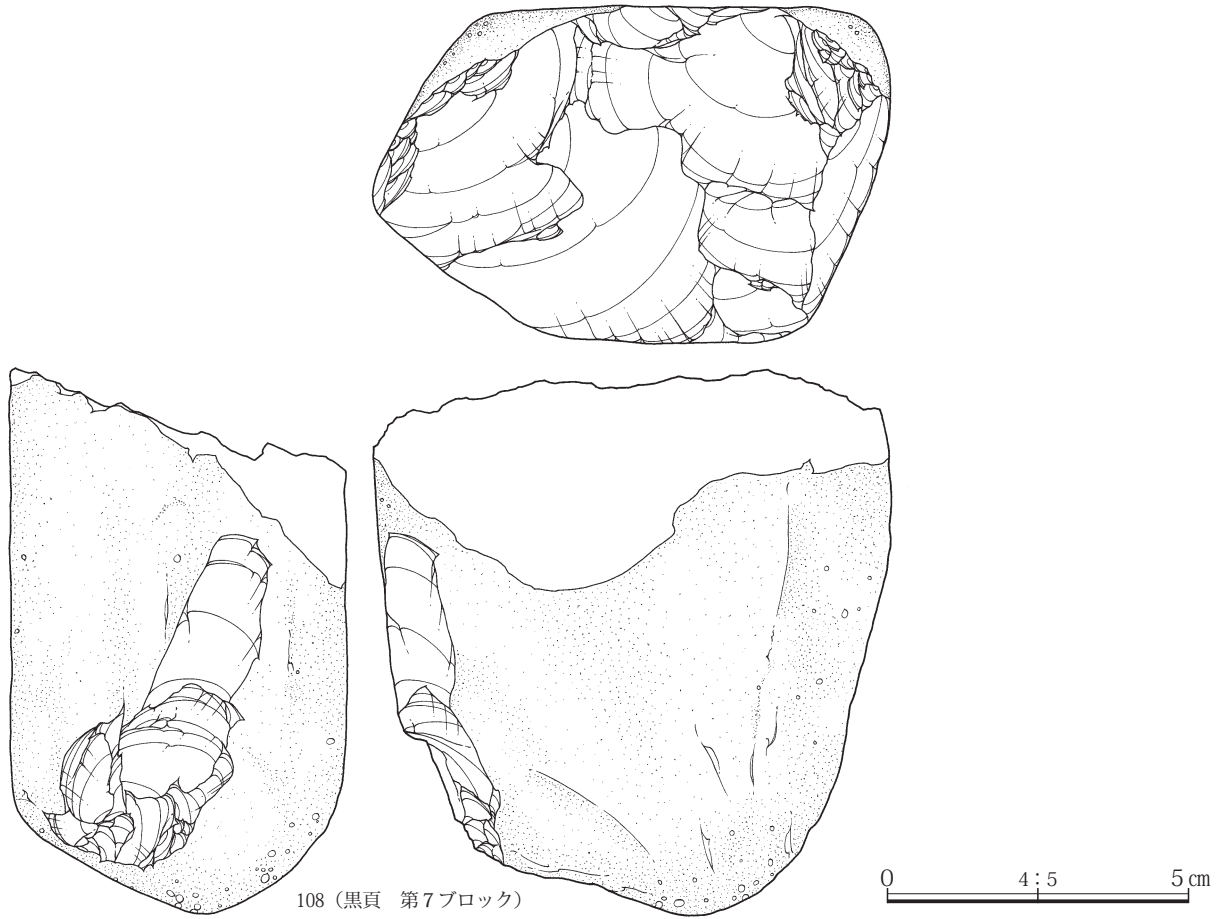


第22図 石核(3)

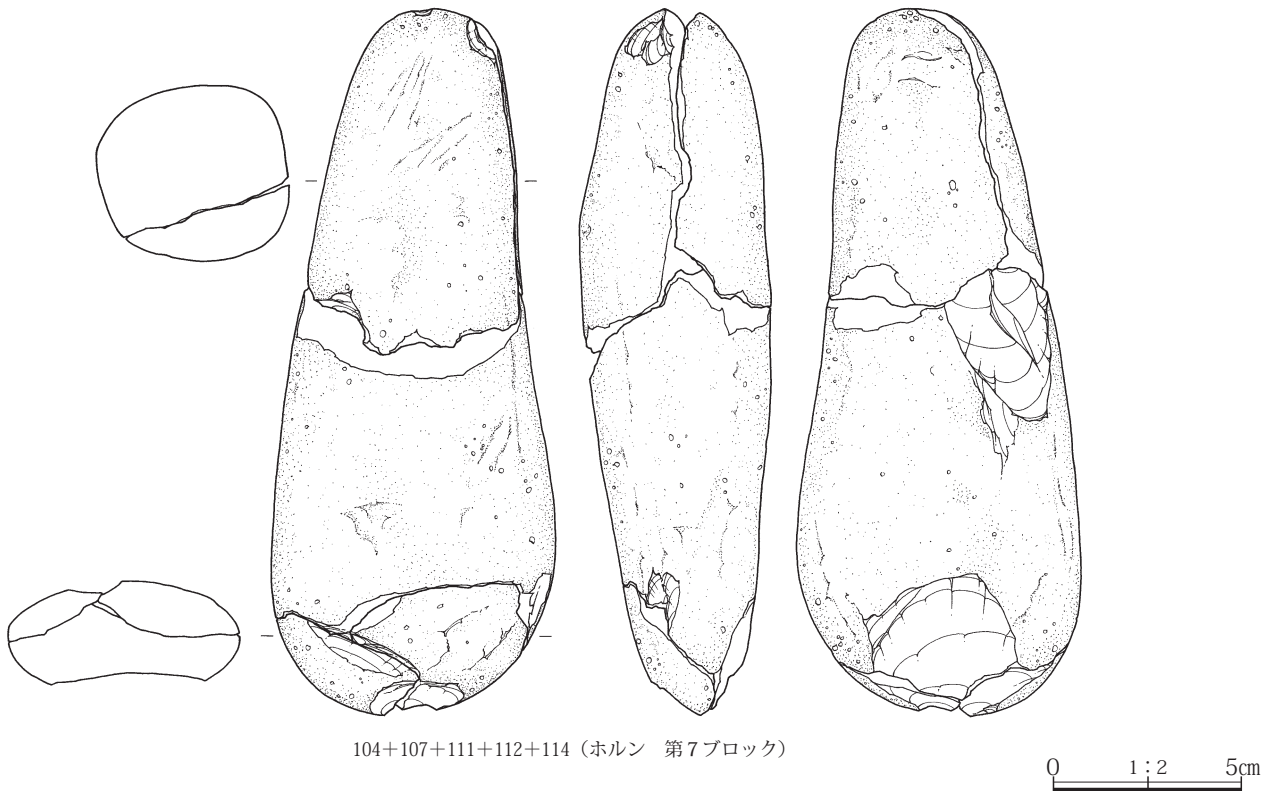


第23図 石核(4)



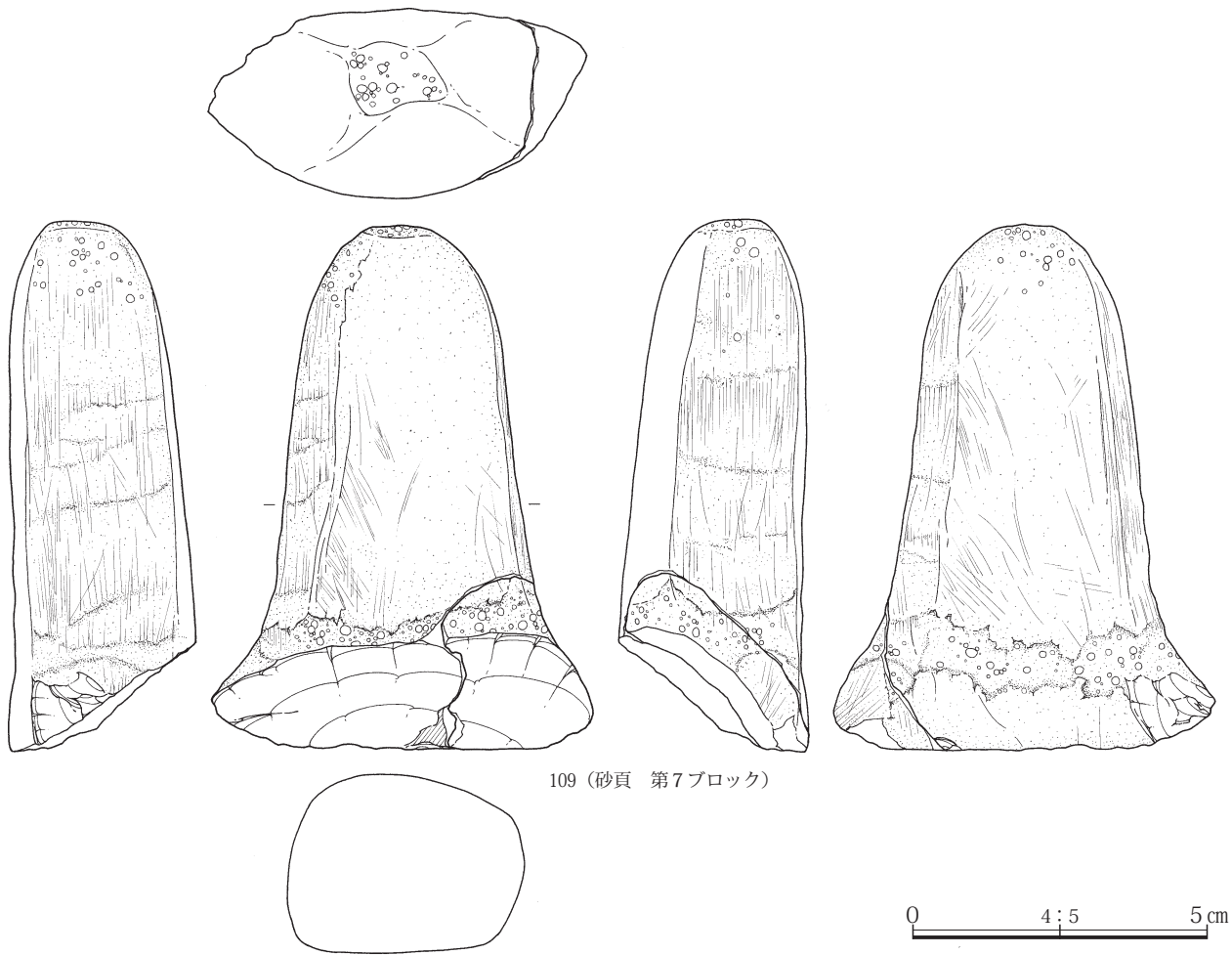
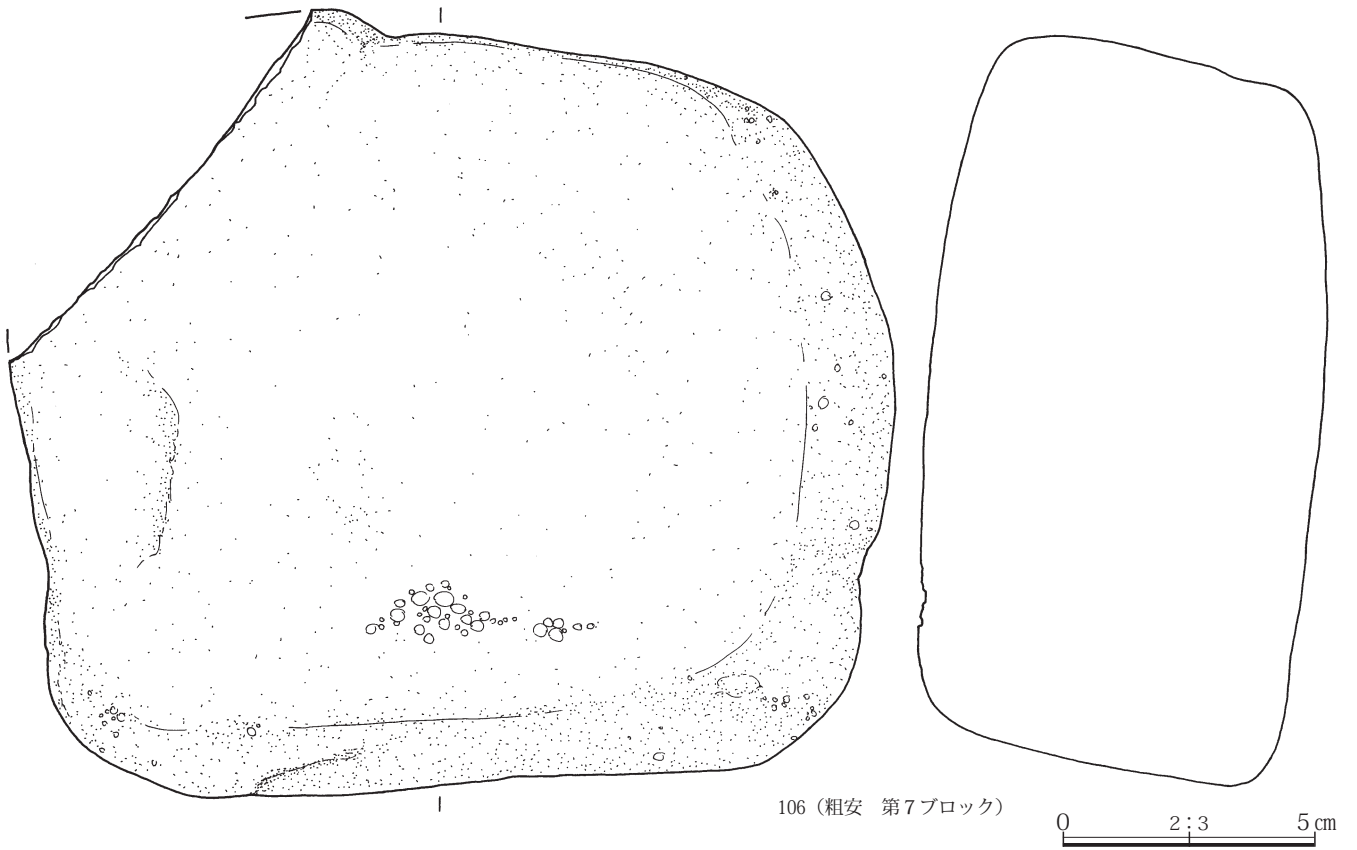


108 (黒頁 第7ブロック)



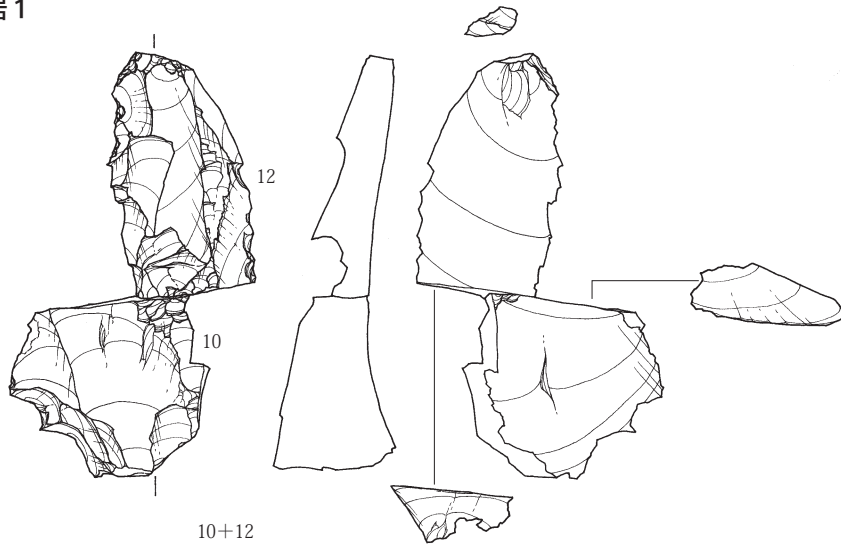
104+107+111+112+114 (ホルン 第7ブロック)

第24図 石核(5)・ハンマーストーン

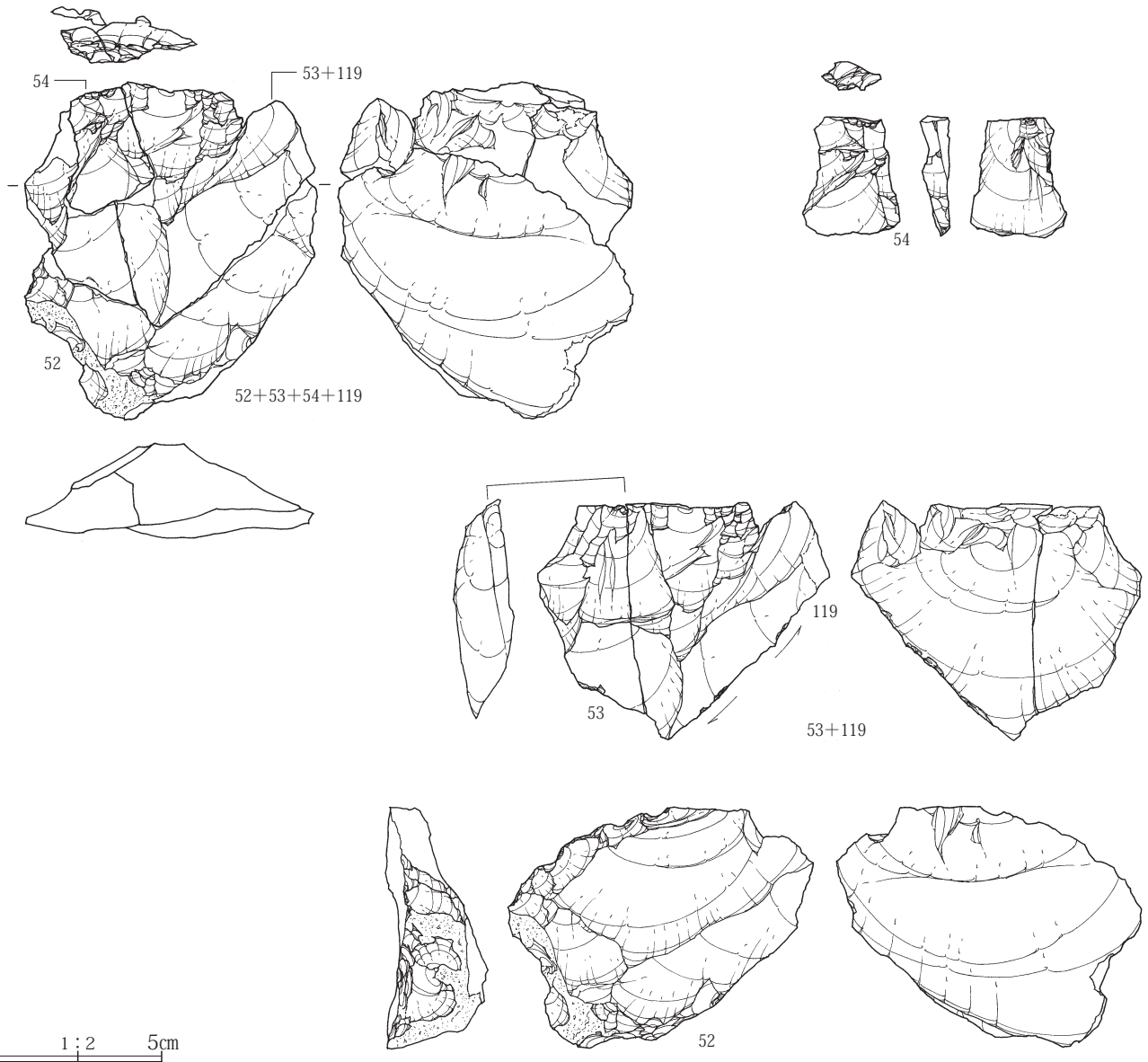


第25図 台石?・石製品

〈接合資料1〉 珪質頁岩 1



〈接合資料2〉 黑色頁岩 1



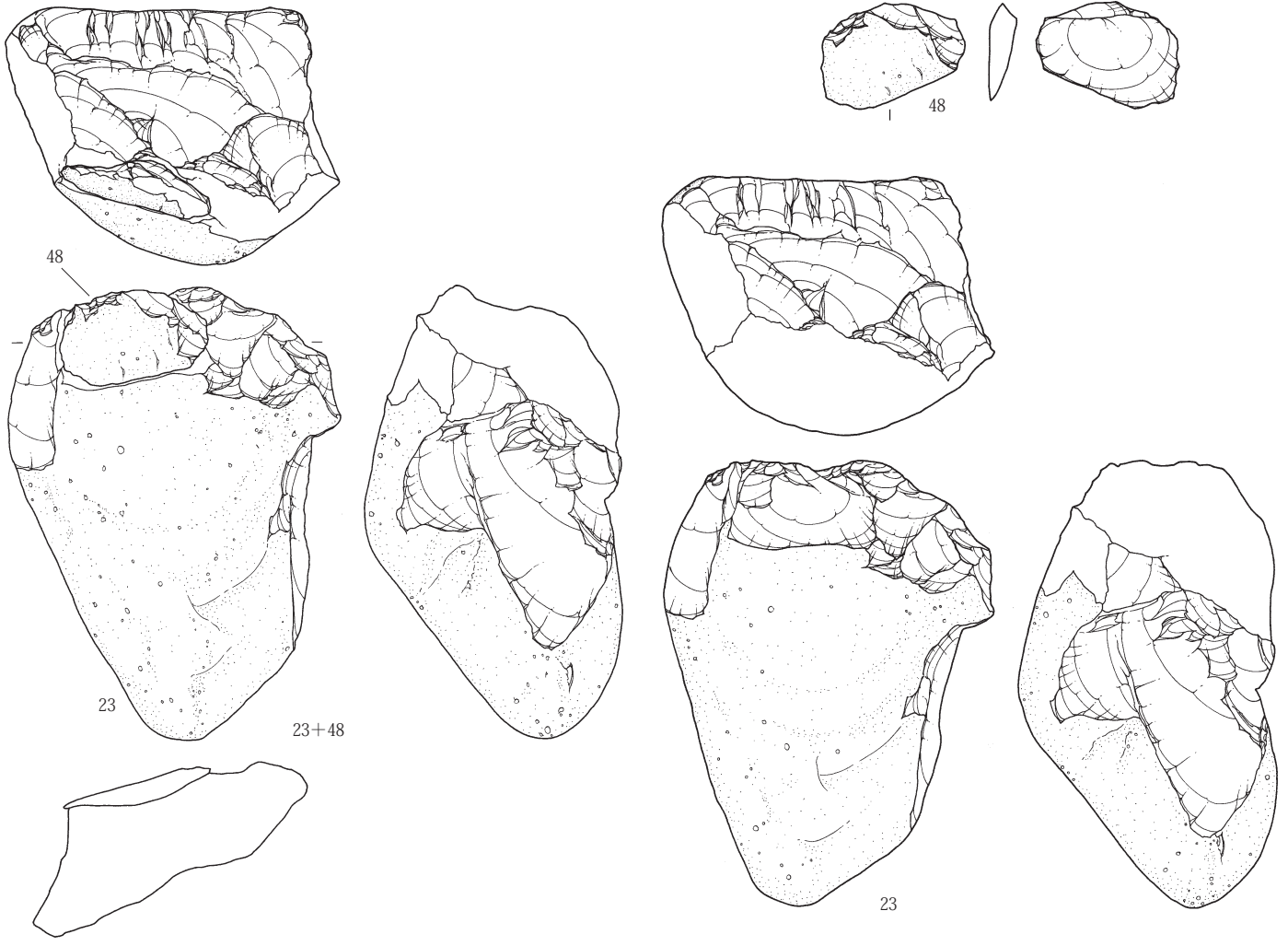
第26図 接合資料1・2

〈接合資料3〉 黒色頁岩2

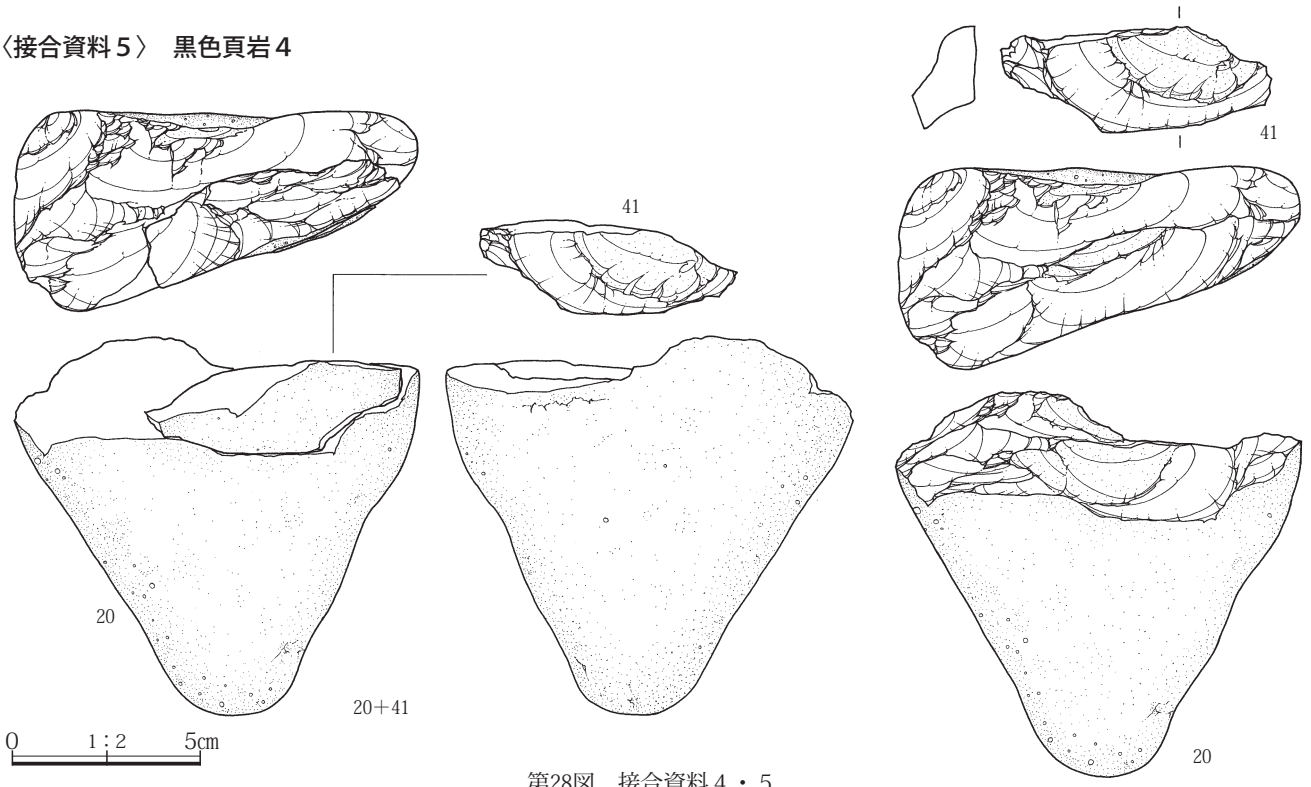


第27図 接合資料3

〈接合資料4〉 黑色頁岩3

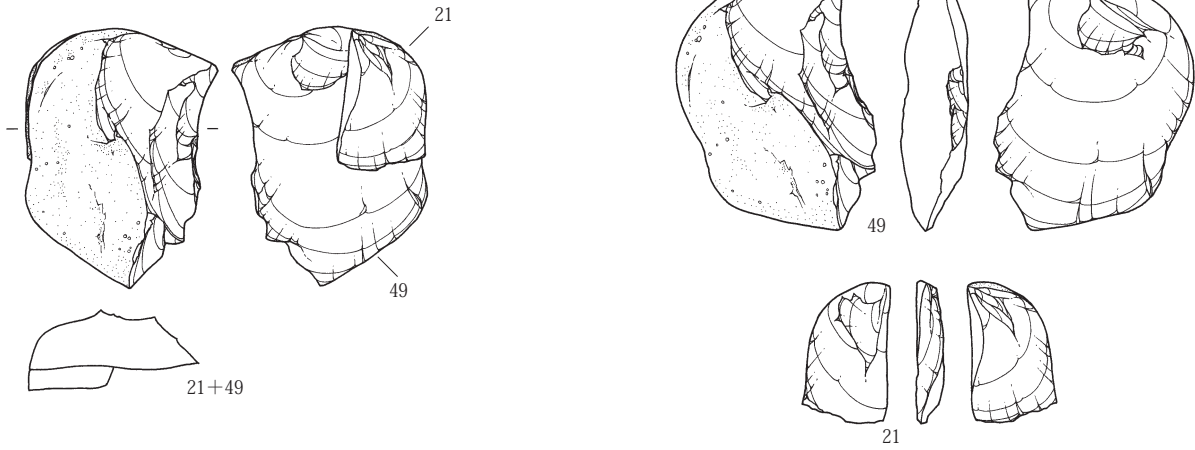


〈接合資料5〉 黑色頁岩4

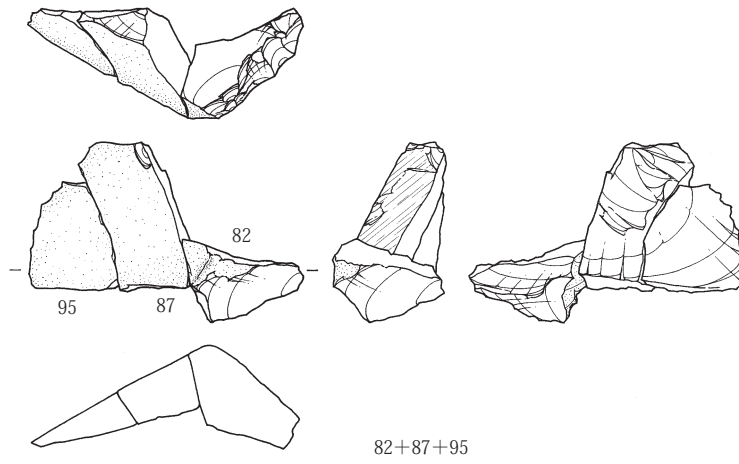


第28図 接合資料4・5

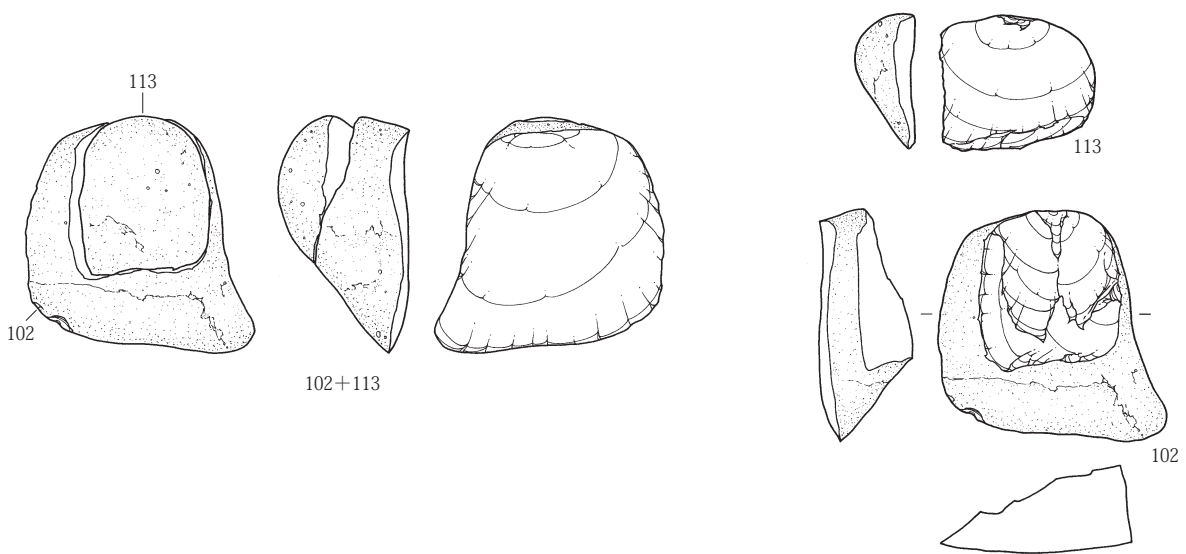
〈接合資料6〉 黒色頁岩5



〈接合資料7〉 黒色頁岩6



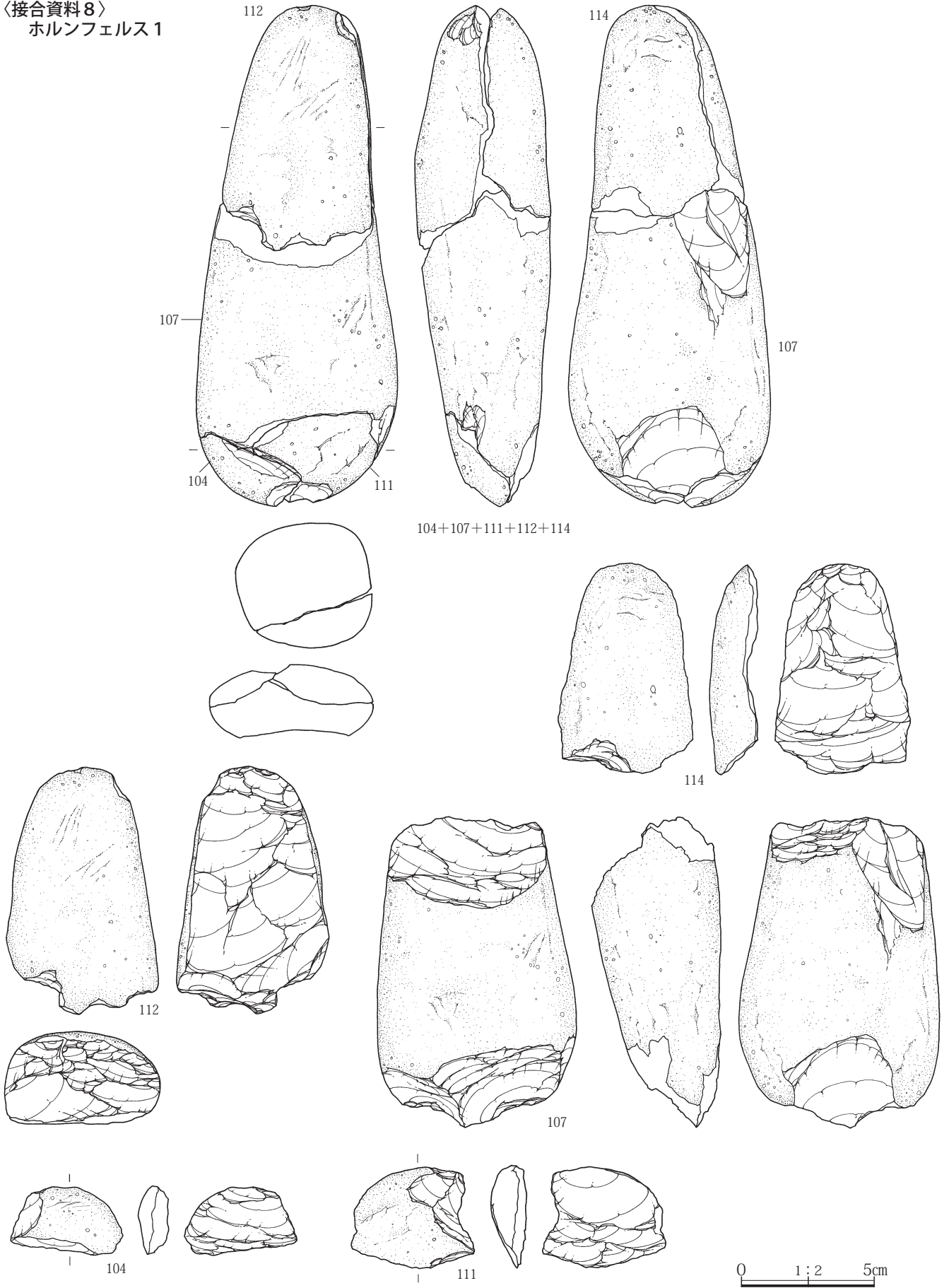
〈接合資料9〉 砂岩1



0 1:2 5cm

第29図 接合資料6・7・9

〈接合資料8〉  
ホルンフェルス1



第30図 接合資料8

第3章 調査の内容

第7表 器種別点数表

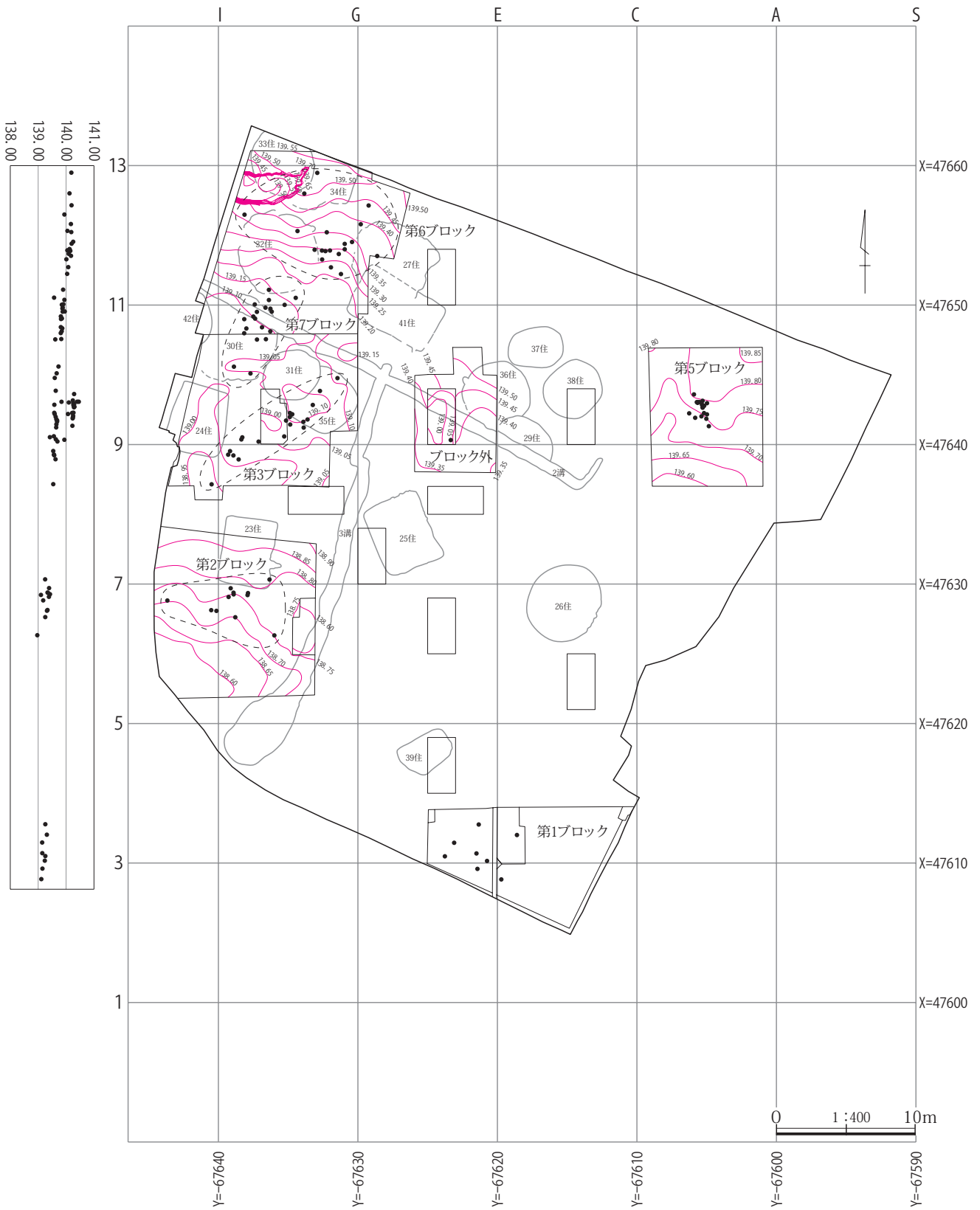
	第1 ブロック	第2 ブロック	第3 ブロック	第5 ブロック	第6 ブロック	第7 ブロック	ブロック 外	縄文時代 以降住居	合計
細石刃		1							1
細石刃核	1	1						2	4
彫刻刀形石器			1		2			3	6
ナイフ形石器			1						1
サイドスクレイパー				1					1
スクレイパー		1		1	1				3
二次加工ある剥片	1	1	2			2	1	1	8
微小剥離痕ある剥片				1	1				2
剥片	5	3	14	9	11	7		3	52
碎片	1	3	1	7	3	3			18
石核		2	1		2	1			6
ハンマーストーン片							5		5
台石?						1			1
石製品						1			1
合計	8	12	20	19	20	20	1	9	109

\*第4ブロックは石器1点のみの出土のため、整理作業段階で「ブロック外」と名称を改めた。

第8表 石材別点数表

	第1 ブロック	第2 ブロック	第3 ブロック	第5 ブロック	第6 ブロック	第7 ブロック	ブロック 外	縄文時代 以降住居	合計	%
硬質頁岩		5	3		7	4		7	26	23.85
珪質頁岩	2		2	1	1				6	5.5
黒色頁岩	4	5	14	17	11	6		2	59	54.13
砂質頁岩						1			1	0.92
ホルンフェルス	2					5			7	6.42
砂岩					1	2			3	2.75
溶結凝灰岩				1					1	0.92
黒曜石							1		1	0.92
黒色安山岩			1						1	0.92
粗粒輝石安山岩		2				1			3	2.75
細粒輝石安山岩						1			1	0.92
合計	8	12	20	19	20	20	1	9	109	100

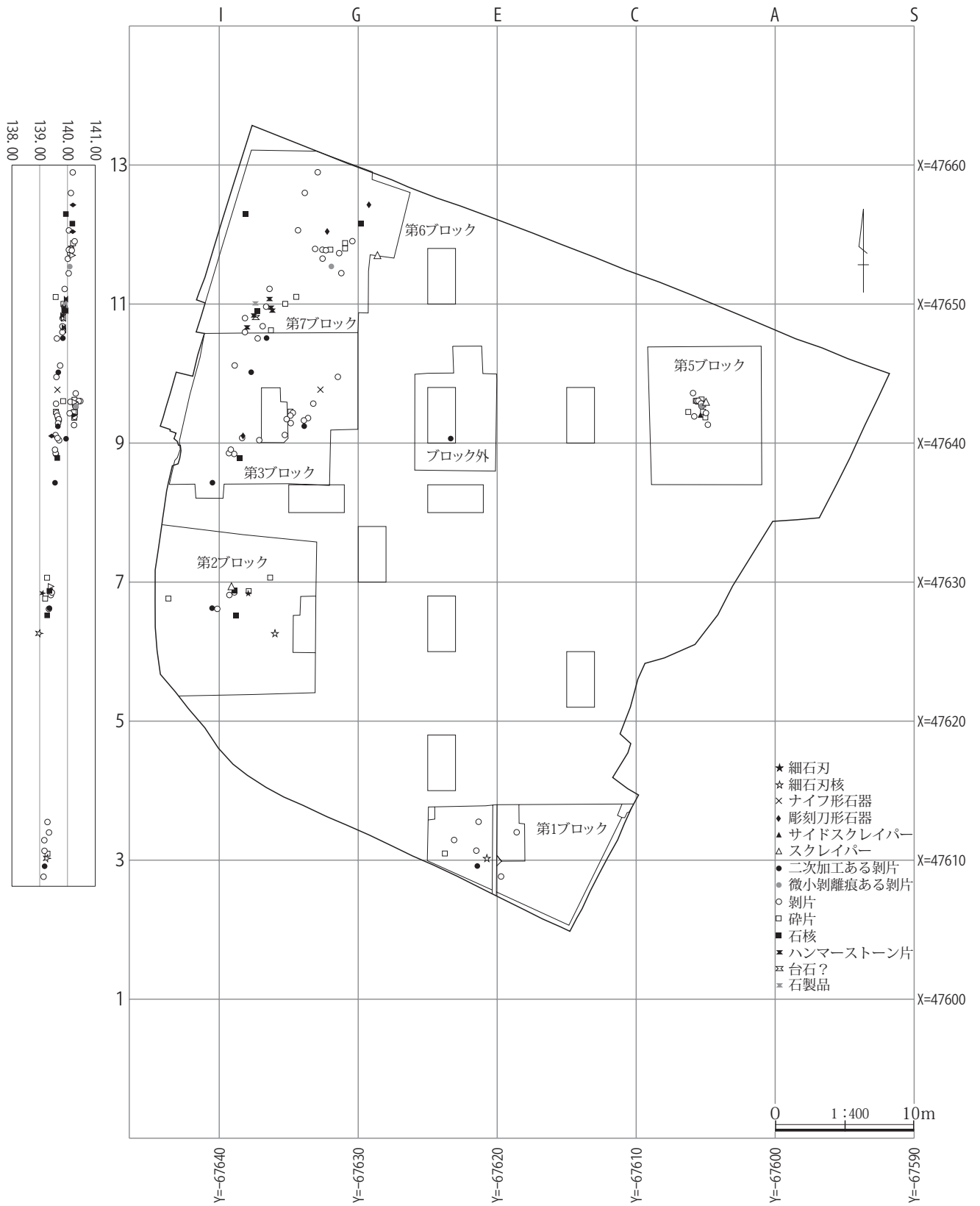




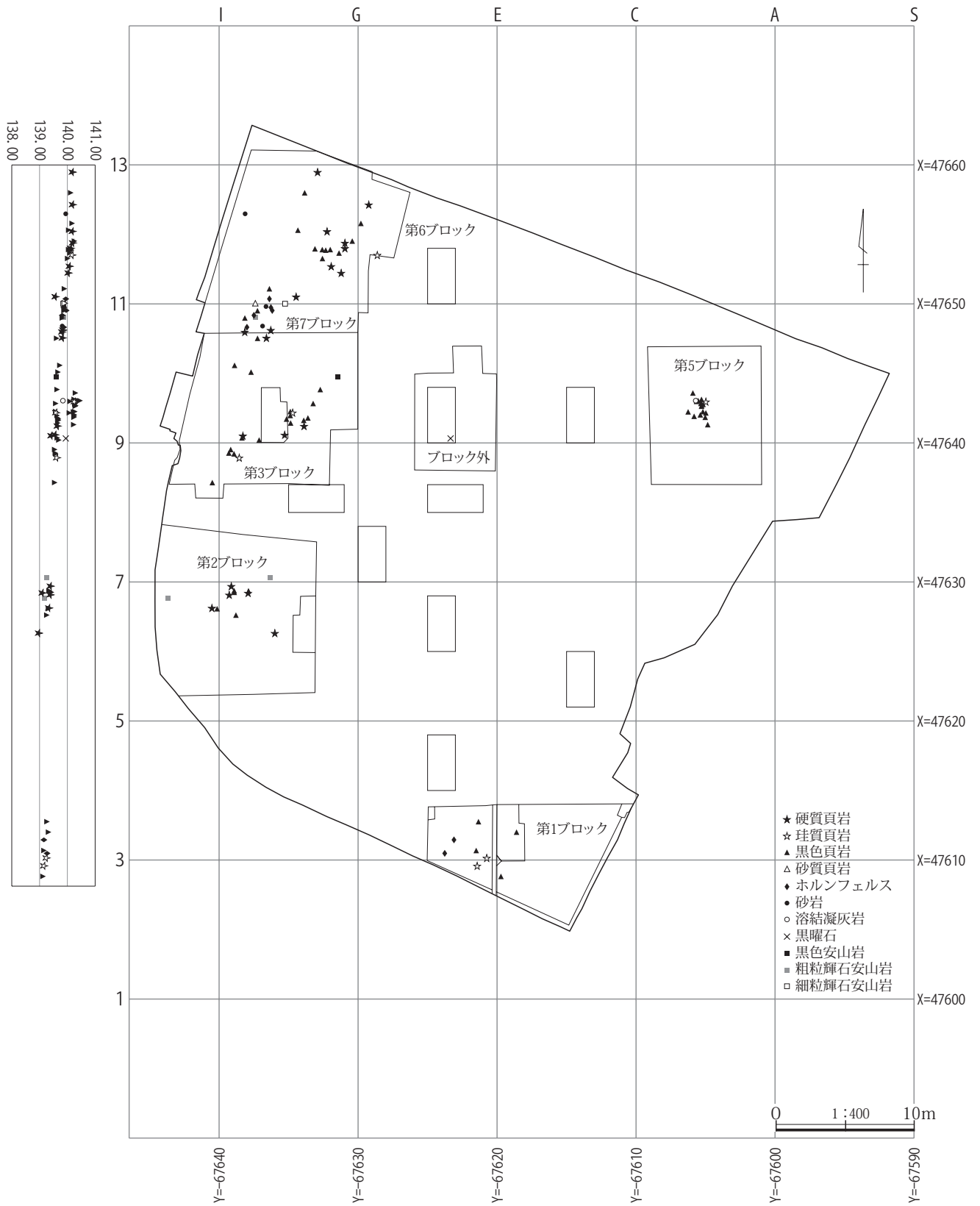
第31図 石器分布図



第32図 接合資料分布図



第33図 器種別石器分布図



第 34 図 石材別石器分布図

## 第3節 縄文時代

### 1. 調査の概要

竪穴住居15軒、配石1基、溝状遺構9条、土坑246基を検出した。遺構は、台地の西側観音川沿いに集中しており、東側の調査区では土坑4基のみである。

竪穴住居の時期は、遺物出土状況から、縄文時代前期諸磯c式1軒(42号住居)、縄文時代中期加曾利E3式11軒(26号・27号・29号・31号～35号・37号・38号・41号住居)、縄文時代中期1軒(36号住居)、不明2軒(30号・43号住居)である。各住居とも床面の掘り込みがローム層まで到達していないために検出が容易ではなく、周壁や床面の一部確認にとどまったものも多い。また、26号・29号住居を除く27号・30号～38号・41号～43号住居の13軒については、炉が検出されていないなど構築状態に不明確な点も多く、竪穴住居ではない可能性もある。

竪穴住居のほとんどは、67区の北東側、標高140m～141mに集中している。42号住居のように、大正用水の工事によって壊されたものもあると想定され、数量的にはさらに増加する可能性がある。住居関連で出土した石器類は、計191点(第9表)である。打製石斧の出土が15点と多く、石鏃類の出土が4点と少ないことが特筆される。

### 2. 竪穴住居

26号住居(第35・36図、PL.11・57)

位置 67-C・D-6・7

重複 なし。

形状 周辺にカクランが多く、全体形状は不明である。

規模 長軸5.61m 短軸5.08m 残存深度0.06m

主軸方位 N-15°-E 面積 23.08㎡

炉 住居中央よりやや北側に方形の石囲炉を検出した。長軸0.99m×短軸0.89m、深さ0.23m。炉石(14)は、粗粒輝石安山岩の大型楕円礫で被熱してひび割れている。台石を転用している。炉内埋設土器(1)は、口縁部と体部下半を欠損する深鉢を逆位にし、器面は被熱風化している。さらに、敲石(13)が炉の北東隅に縦位に据えられていた。

周溝 なし。

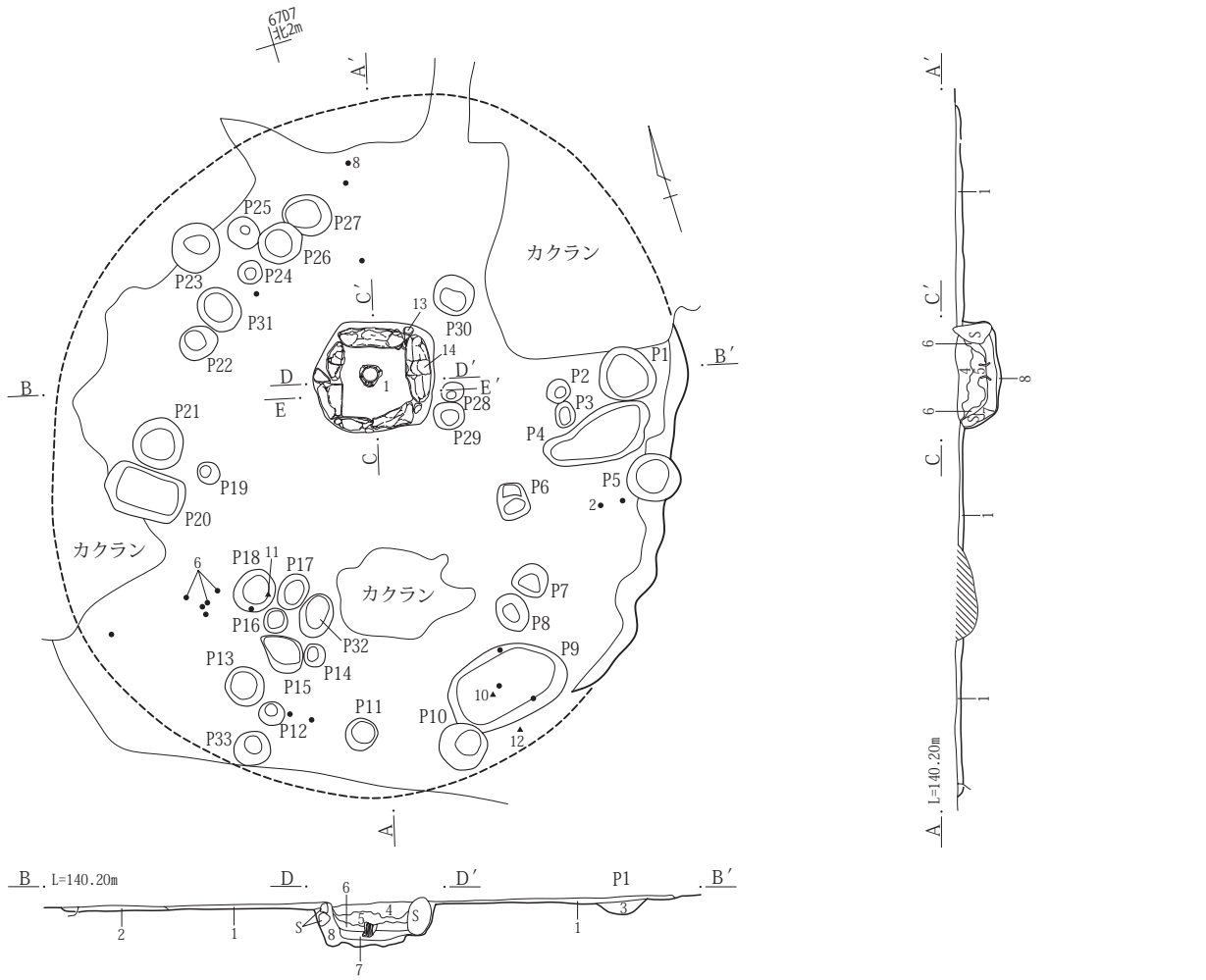
柱穴 P1～P33を検出した。支柱穴は、深さや位置関係からP5・P10・P13・P21・P23であり、カクラン内に2本あったと考えられ、7本柱と推定される。各柱穴の規模(直径×深さ)は、P5:43×13cm・P10:38×25cm・P13:32×4cm・P21:41×17cm・P23:40×23cmである。

床面 東から西にかけて10cmほど傾斜している。硬化面は確認されなかった。

埋没土 ロームブロックを含んだ暗褐色土が堆積していたが、周辺にカクランが多く、掘り込み深度が浅いため詳細不明である。

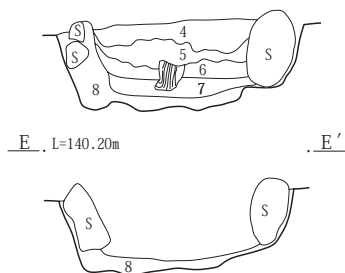
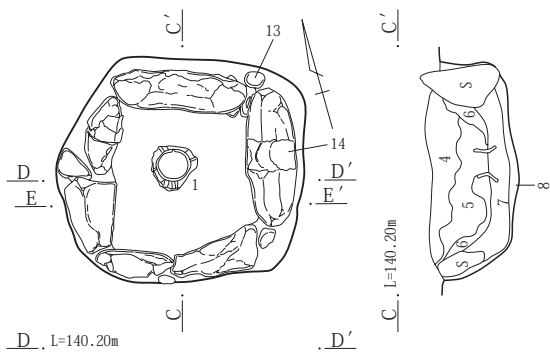
第9表 縄文住居別に見た石器器種構成

住居	石鏃	削器	打製石斧	石核	加工痕 ある剥片	凹石	磨石	敲石	台石	多孔石	剥片	計	時期
26号住居			1	1	3	1		1	2		16	25	中期 加曾利E3式
27号住居	2		2	1	2					2	18	27	中期 加曾利E3式
29号住居										1		1	中期 加曾利E3式
30号住居									1			1	不明
31号住居	1		5		2			1			25	34	中期 加曾利E3式
32号住居			1					1		1	8	11	中期 加曾利E3式
33号住居			3	1	1					1	26	32	中期 加曾利E3式
34号住居											3	3	中期 加曾利E3式
35号住居			1		1			1	1		32	36	中期 加曾利E3式
36号住居											1	1	中期
37号住居										1	7	8	中期 加曾利E3式
38号住居			2								3	5	中期 加曾利E3式
41号住居		1			1			1		1	2	6	中期 加曾利E3式
42号住居	1											1	前期 諸磯c式
43号住居												0	不明
計	4	1	15	3	10	1	1	4	4	7	141	191	



26号住居A-A'・B-B'

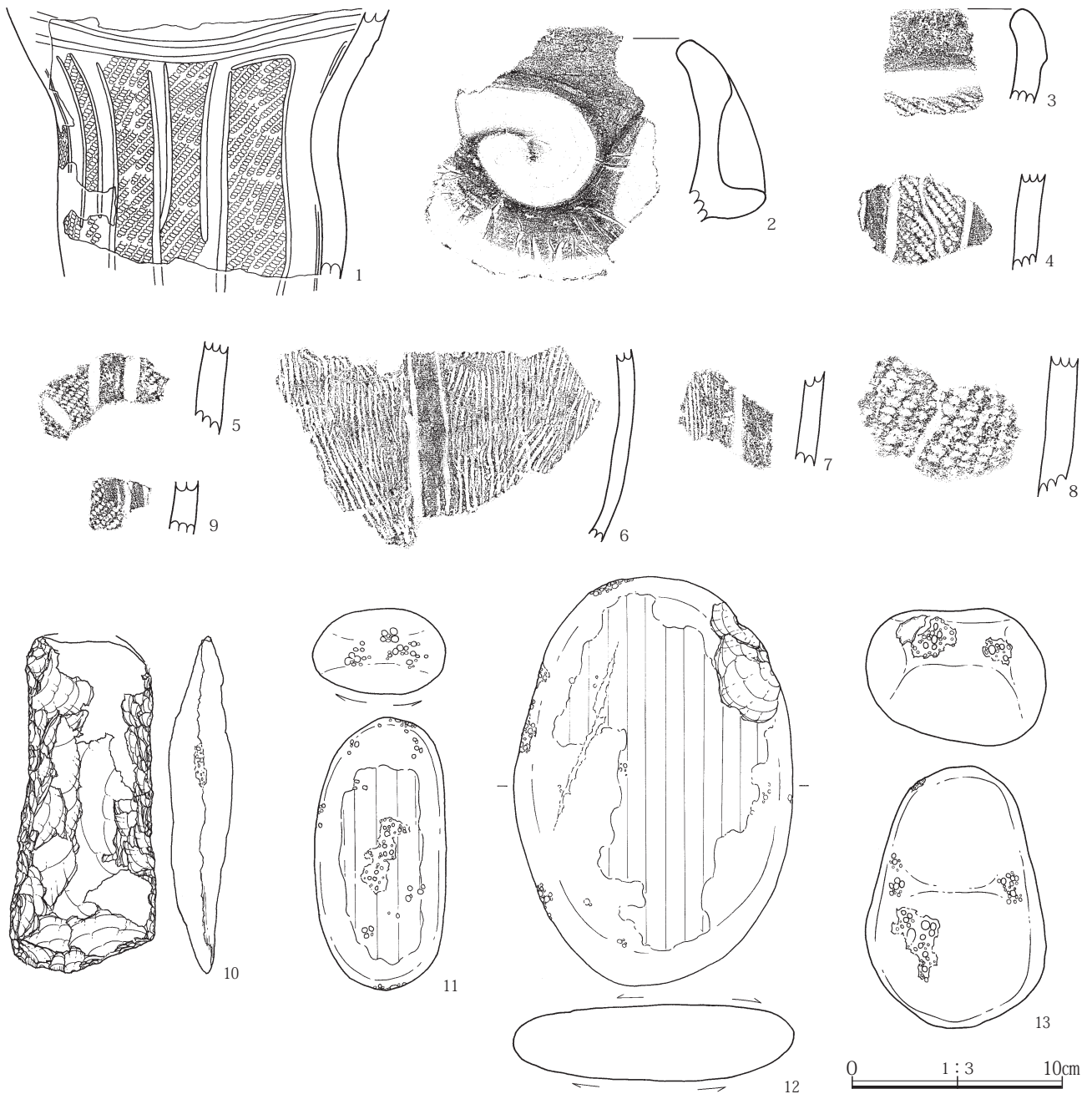
1. 暗褐色土 微粒状白色粒子を微量に含む、V層土に近質
2. 茶褐色土 ローム塊を斑状に含む、VI層土に近質
3. 暗褐色土 細粒状白色粒子を含み、塊状VII層土を少量含む



26号住居炉A-A'～D-D'

4. 暗褐色土 粒状炭化物を微量に含む
5. 暗褐色土 V層土を含む、硬質、粒状炭化物混入
6. 暗褐色土 塊状VI層土を含む、硬質
7. 被熱酸化層
8. 暗褐色土 塊状VI層土を含む

第35図 26号住居



第36図 26号住居出土遺物

**遺物** 床面直上から床面上下3cm以内で出土したのは、深鉢の口縁部片(2)と胴部片(6)と凹石(11)である。その他は、床面より4cm～11cm上から出土している。出土した土器はすべて加曾利E3式であり、未掲載土器は94点である。他に出土した石器は、打製石斧(10)、台石(12)である。未掲載の石器は、石核1点、加工痕ある剥片3点、剥片16点である。

**時期** 炉内の埋設土器や他の出土土器から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

**27号住居**(第37・38図、PL.11・57・58)

**位置** 67-E～G-11・12

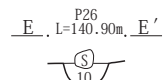
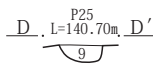
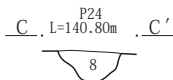
**重複** 1号配石に切られ、さらに233号・235号・237号・241号～244号・251号・274号・285号・286号・337号土坑にも切られている。41号住居との新旧関係は不明である。

**形状** ローム層までの掘り込みが浅いため、全体形状は不明である。



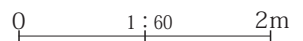
27号住居A-A'

1. 黒褐色土 白色粒子を若干、明黄褐色土を塊状に若干含む
2. にぶい黄褐色土 白色粒子を若干、明黄褐色土を塊状に若干含む
3. 黄褐色土 白色粒子を若干、明黄褐色土を塊状に少量含む
4. 暗褐色土 細粒状白色粒子を含む
5. 明黄褐色土 白色粒子を若干、黄褐色土を塊状に若干含む
6. にぶい黄褐色土 白色粒子を若干含む
7. 暗褐色土 白色粒子を若干含む



27号住居C-C' ~ E-E'

8. 褐色土 白色粒子・粒状VII層土を含む
9. 暗褐色土 白色粒子を含む
10. 褐色土 白色粒子・塊状VII層土・粒状VII層土を含む



第37図 27号住居

**規模** 長軸(6.37m) 短軸(5.46m) 残存深度0.11m

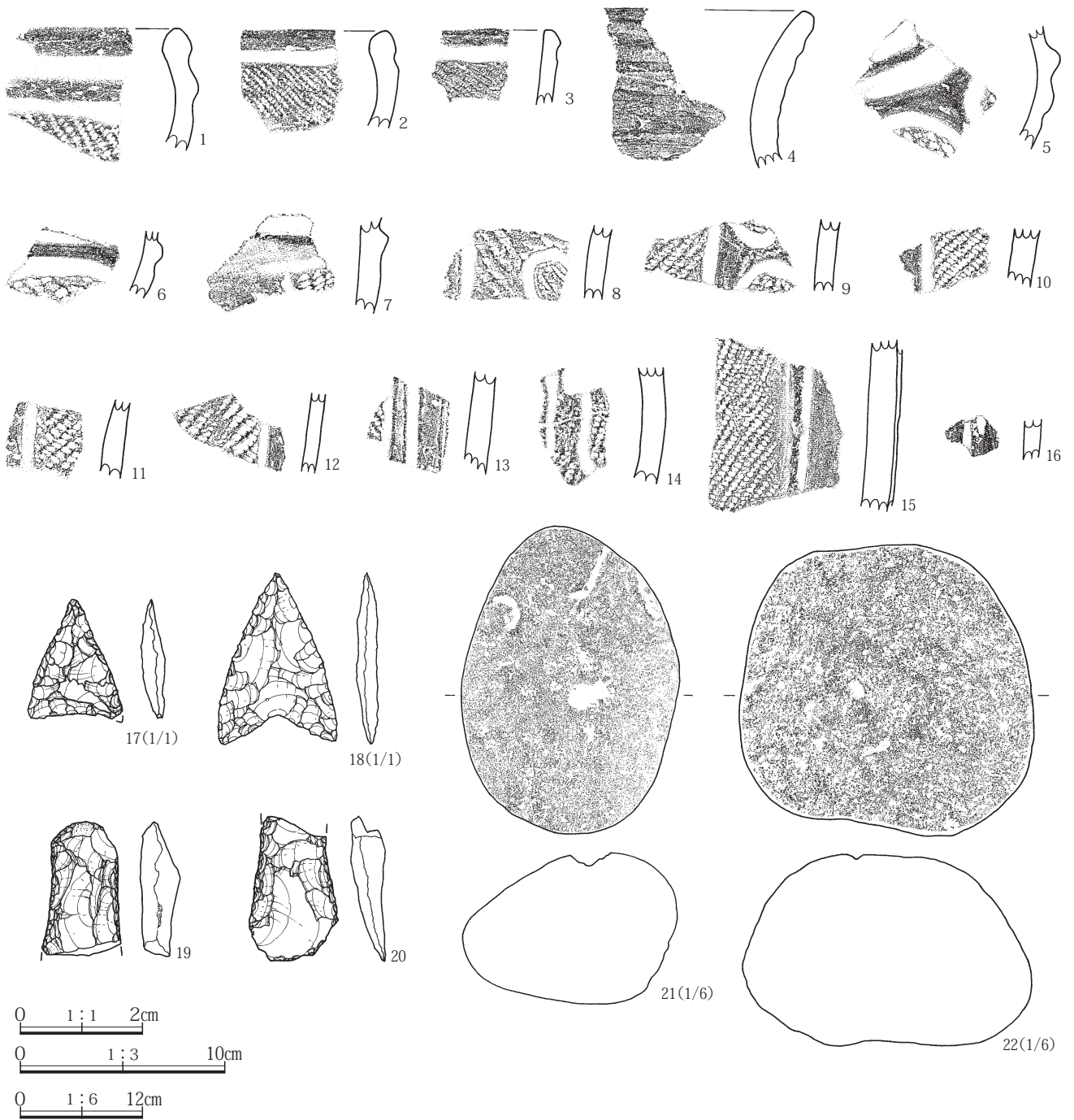
**主軸方位** N-66°-W **面積** (26.10㎡)

**炉** 確認されなかった。

**周溝** 北西側から南東側にかけて幅30~115cm、深さ11~15cmの規模で確認できるが、南側半分は41号住居との重複で失われている。

**柱穴** P1~P26を検出した。主柱穴は、深さや位置関係からP5・P9・P15・P21・P22であり、南側の41号住居と重複する部分内に1本あったと考えられ、6本柱と推定される。各柱穴の規模(直径×深さ)は、P5:44×24cm・P9:48×24cm・P15:25×23cm・P21:45×28cm・P22:58×34cmである。





第38図 27号住居出土遺物

**床面** 北西から南西にかけて5cm程度、北東から南西にかけて10cm程度傾斜している。硬化面は確認されなかった。

**埋没土** 黄褐色土をブロック状に含む明黄褐色土が堆積していたが、掘り込み深度が浅いため詳細不明である。

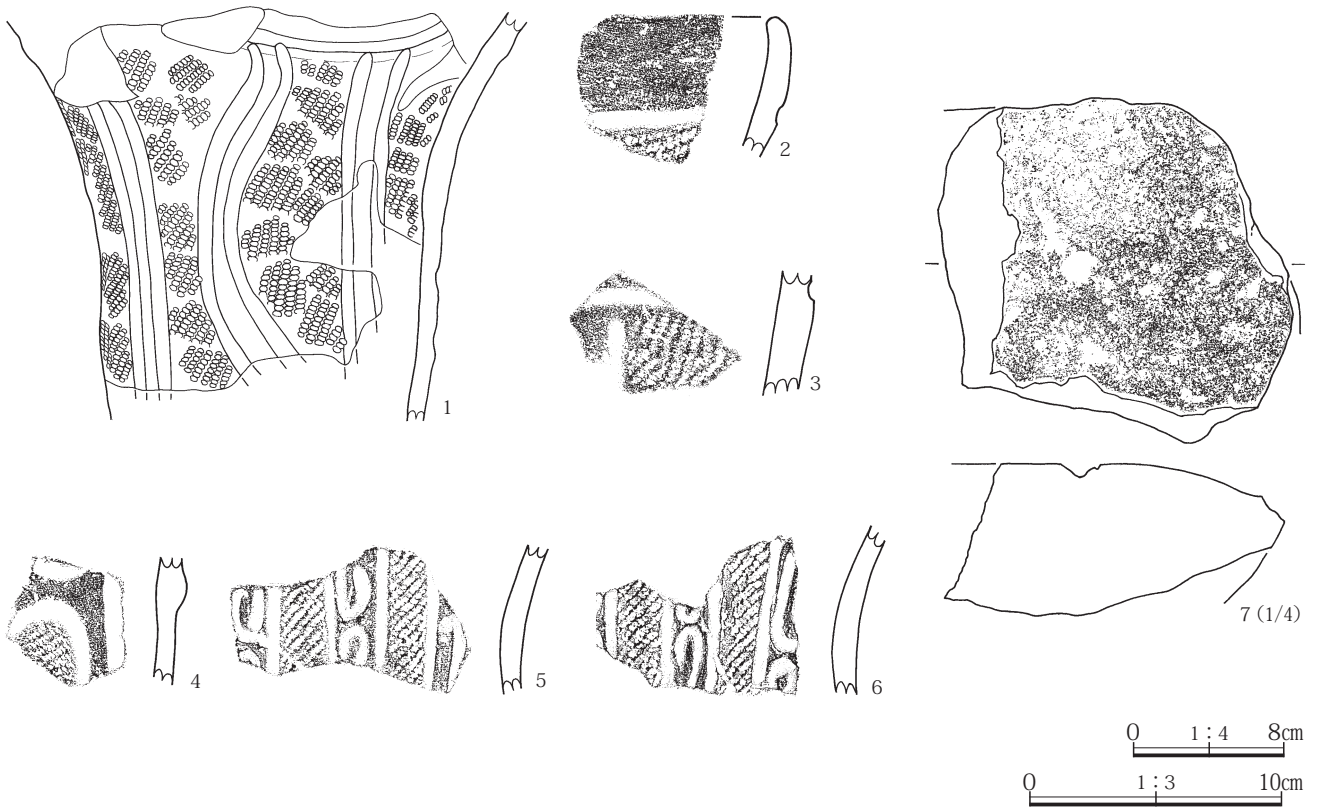
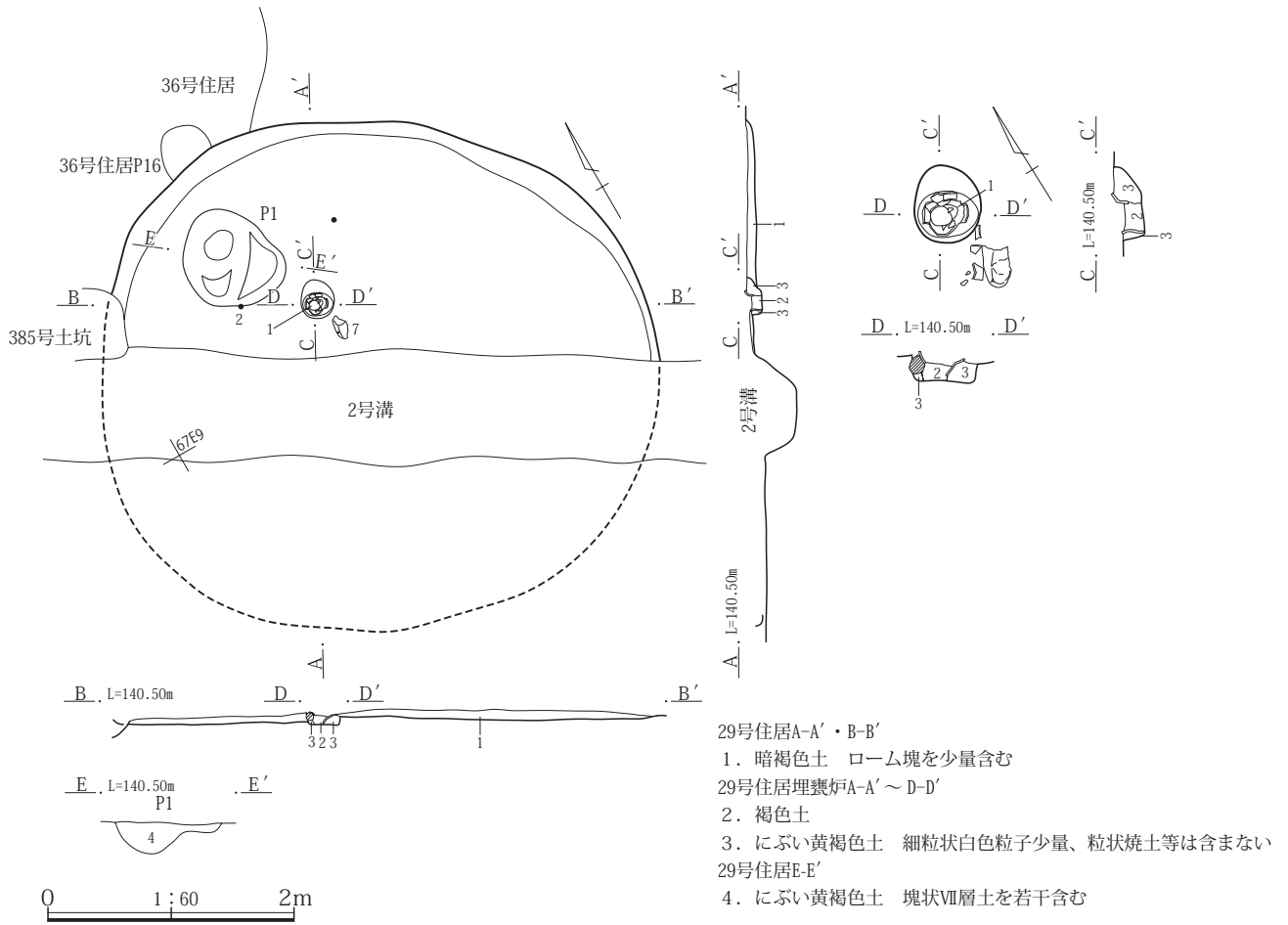
**遺物** 床面直上の出土遺物はなく、埋没土中や1号配石によるカクラン層内からの出土である。出土した土器はすべて加曾利E3式であり、未掲載土器は110点である。他に掲載した石器は、石鏃(17・18)、打製石斧(19・

20)、多孔石(21・22)である。未掲載の石器は、石核1点、加工痕ある剥片2点、剥片18点である。

**時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

**所見** 炉が検出されていないが、柱穴や周溝の検出状況から竪穴住居と判断される。

第3章 調査の内容

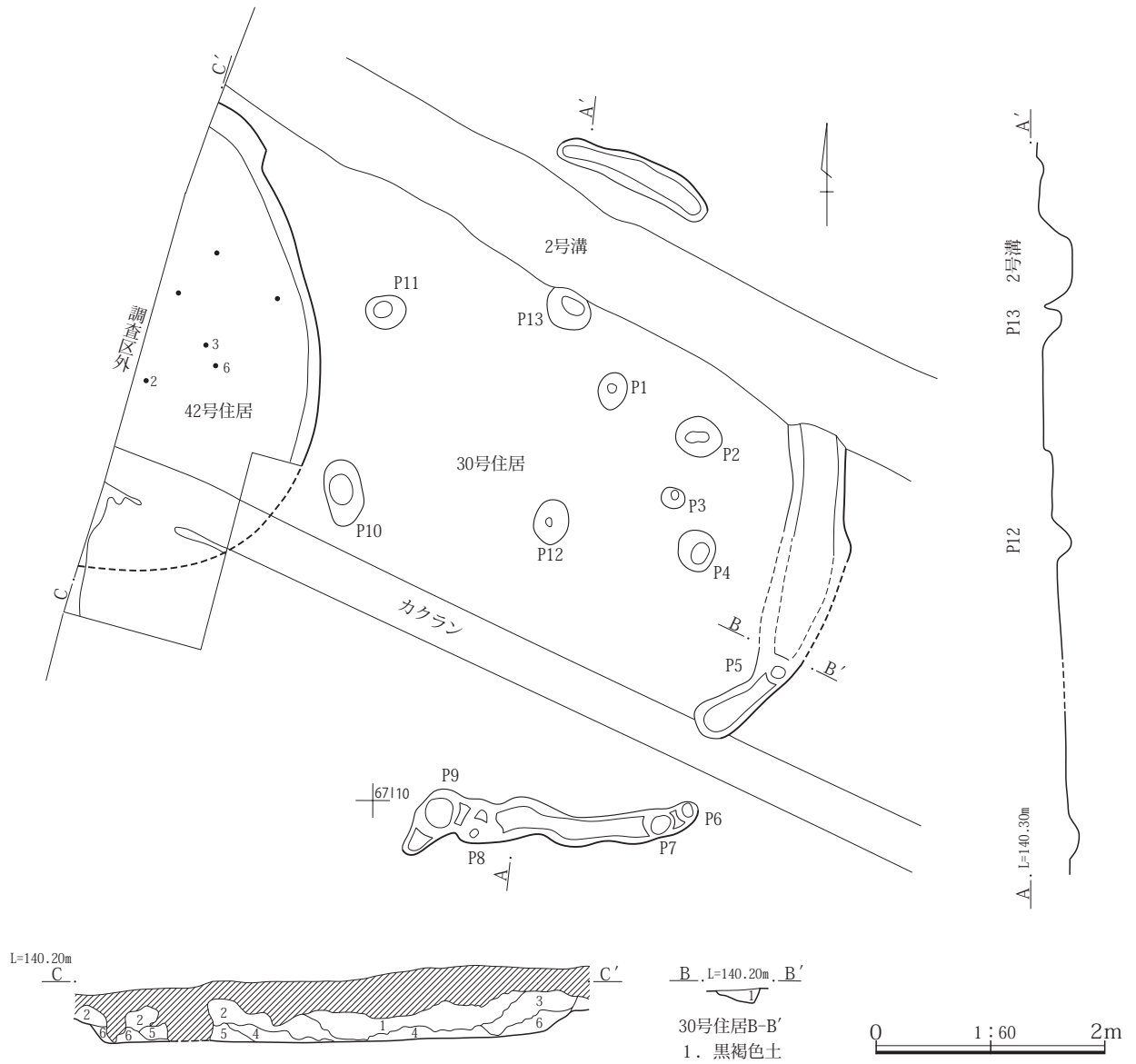


第39図 29号住居と出土遺物

**29号住居**(第39図、PL.11・12・58)**位置** 67-D・E-8・9**重複** 2号溝、385号土坑に切られ、36号住居を切っている。**形状** 長円形**規模** 長軸4.40m 短軸(4.07m) 残存深度0.09m**主軸方位** N-61°-W **面積** (6.90m<sup>2</sup>)**炉** 住居中央よりやや北側にある土器埋設炉である。長軸0.31×短軸0.27m、深さ0.11m。炉内埋設土器(1)は、口縁部と体部下半を欠損する深鉢を正位にし、器面全体が被熱風化している。**周溝** なし。**柱穴** 直径84cm×深さ25cmのP1を検出したのみで、全体の支柱構造は不明である。**床面** 北西から南東にかけて10cm弱傾斜している。硬化面は確認されなかった。**埋没土** ロームブロックを含んだ暗褐色土が堆積していたが、周辺にカクランが多く、掘り込み深度が浅いため詳細不明である。**遺物** 床面直上から出土したのは、多孔石(7)のみであり、出土した石器はこれだけである。出土した土器はすべて加曽利E3式であり、未掲載土器は4点である。**時期** 炉内の埋設土器と他の出土土器から、縄文時代中期の加曽利E3式期と考えられる。**30号住居**(第40図、PL.12・58)**位置** 67-H・I-9~11**重複** 42号住居を切り、2号溝に切られている。**形状** 周溝の一部を確認したのみなので、全体形状は不明である。**規模** 長軸6.32m 短軸(5.23m) 残存深度0.14m**主軸方位** N-6°-E **面積** (33.05m<sup>2</sup>)**炉** 確認されなかった。**周溝** 北側から南側にかけて、幅21~62cm、深さ5~13cmの規模で、断続的な掘り込みを検出した。**柱穴** P1~P13を検出した。位置や規模から柱穴に比定できるのは、P2・P4・P10・P11・P13の5本のみだが、他時期のカクラン等もあり全体的な支柱構造は不明である。各柱穴の規模(直径×深さ)は、P2:41×34cm・P4:34×15cm・P10:58×26cm・P11:35×

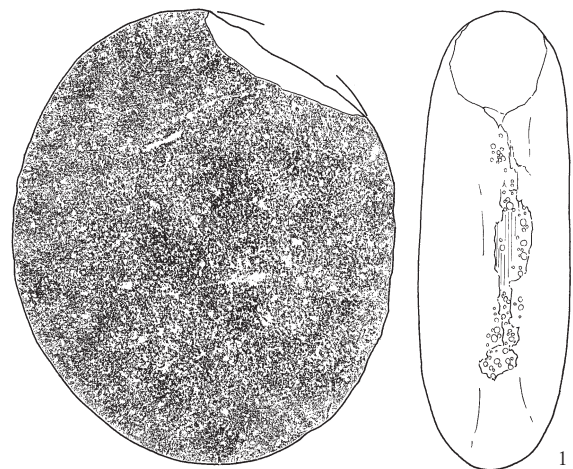
14cm・P13:42×16cmである。

**床面** 北から南にかけて30cmも傾斜している。硬化面は確認されなかった。**埋没土** 周溝の検出により竪穴住居と認定したため、埋没土は不明である。**遺物** 床面直上から出土した遺物はない。未掲載土器は2点であり、出土石器は台石(1)のみである。**時期** 未掲載土器2点は細片のため、型式の判別ができず、時期は不明である。**所見** 炉が検出されていないなど、構築状態に不明確な点も多く、竪穴住居ではない可能性もある。**42号住居**(第40・41図、PL.14・58)**位置** 67-I-10・11**重複** 30号住居に切られている。**形状** 42号住居の半分以上が調査区外へ延びるため、全体形状や規模は不明である。**規模** 長軸(4.22m) 短軸(1.65m) 残存深度0.23m**主軸方位** N-18°-E **面積** (4.75m<sup>2</sup>)**炉** 確認されなかった。**周溝** なし。**柱穴** 確認されなかった。**床面** 北東から南西にかけて10cm弱傾斜している。硬化面は確認されなかった。**埋没土** ブロック状のVI層土(褐色のソフトローム層)を含む暗褐色土とにぶい黄褐色土が堆積していた。いずれも細粒状軽石が混入している。**遺物** 床面直上から出土した遺物はなく、床面より5cm~10cm上から出土している。出土した土器はすべて諸磯c式であり、未掲載土器は45点である。出土した石器は、掲載した石鏃(10)のみである。**時期** 出土遺物から、縄文時代前期の諸磯c式と考えられる。**所見** 周壁や炉が検出されていないなど、構築状態に不明確な点も多く、竪穴住居ではない可能性もある。



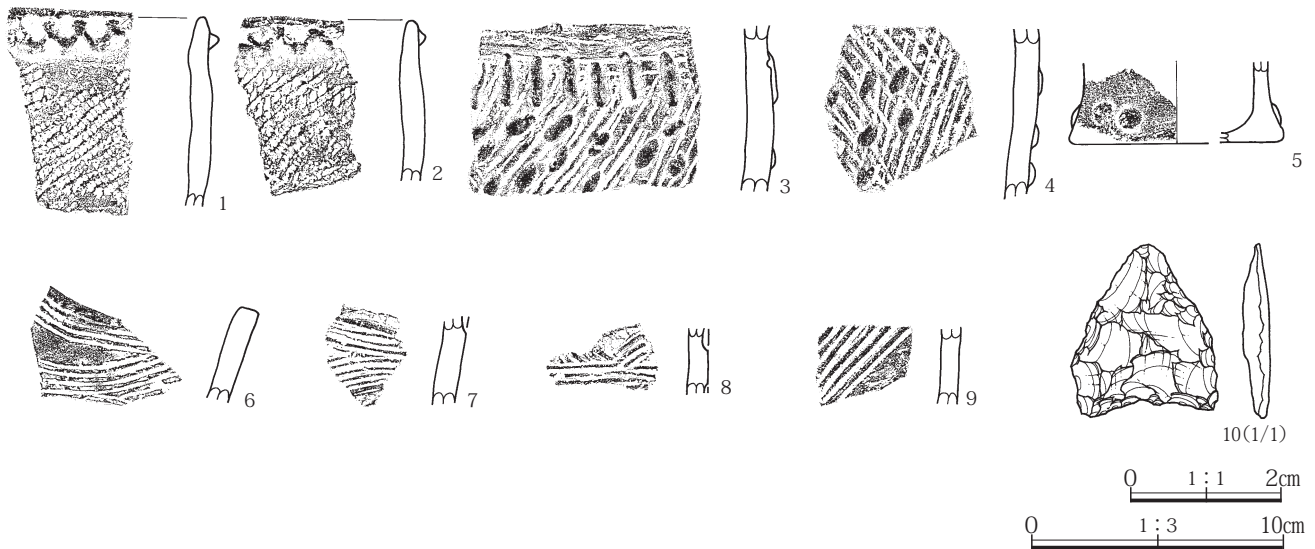
42号住居C-C'

1. 暗褐色土 細粒状軽石混入、小塊状IV層土を含む
2. にぶい黄褐色土 細粒状軽石混入、小塊状IV層土を含む
3. にぶい黄褐色土 細粒状軽石混入
4. にぶい黄褐色土 細粒状軽石・小塊状VII層土混入
5. にぶい黄褐色土 細粒状軽石混入、小塊状VII層土を少量含む
6. 明褐色土 細粒上軽石混入、小塊状VII層土を含む



0 1:3 10cm

第40図 30号・42号住居と30号住居出土遺物



第41図 42号住居出土遺物

**31号住居**(第42・43図、PL.12・59)

**位置** 67-H・G-9・10

**重複** 473号土坑に切られ、35号住居を切っている。

**形状** 長円形

**規模** 長軸3.88m 短軸(3.66m) 残存深度0.18m

**主軸方位** N-35°-E **面積** 12.54㎡

**炉** 確認されなかった。

**周溝** なし。

**柱穴** P 1～P 10を検出した。直径55cm×深さ28cmのP 9が、その規模から支柱穴の可能性はある。しかし、その他は31号住居北西側に集中し、さらに掘り込みが浅いので全体構造は不明である。

**床面** 北西から南東にかけて5cmほど傾斜している。硬化面は確認されなかった。

**埋没土** 暗褐色土と黒褐色土が堆積していた。いずれも粒状炭化物と黄色褐色軽石が混入していた。周辺にカクランが多く、掘り込み深度が浅いため詳細不明である。

**遺物** 床面直上から出土した遺物はなく、いずれも床面より4cm～25cm上から出土している。出土した土器はすべて加曾利E 3式であり、未掲載土器は117点である。出土した石器は、石鏃(14)、打製石斧(15・16)、敲石(17)である。未掲載の石器は、打製石斧3点、加工痕ある剥片2点、剥片25点である。

**時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E 3式期と考えられる。

**所見** 炉が検出されていないなど、構築状態に不明確な点も多く、竪穴住居ではない可能性もある。

**35号住居**(第42・44・45図、PL.13・59・60)

**位置** 67-G・H-9・10

**重複** 31号住居に切られている。

**形状** 長円形または隅丸方形と考えられる。

**規模** 長軸4.39m 短軸(3.32m) 残存深度0.19m

**主軸方位** N-24°-E **面積** (14.38㎡)

**炉** 確認されなかった。

**周溝** なし。

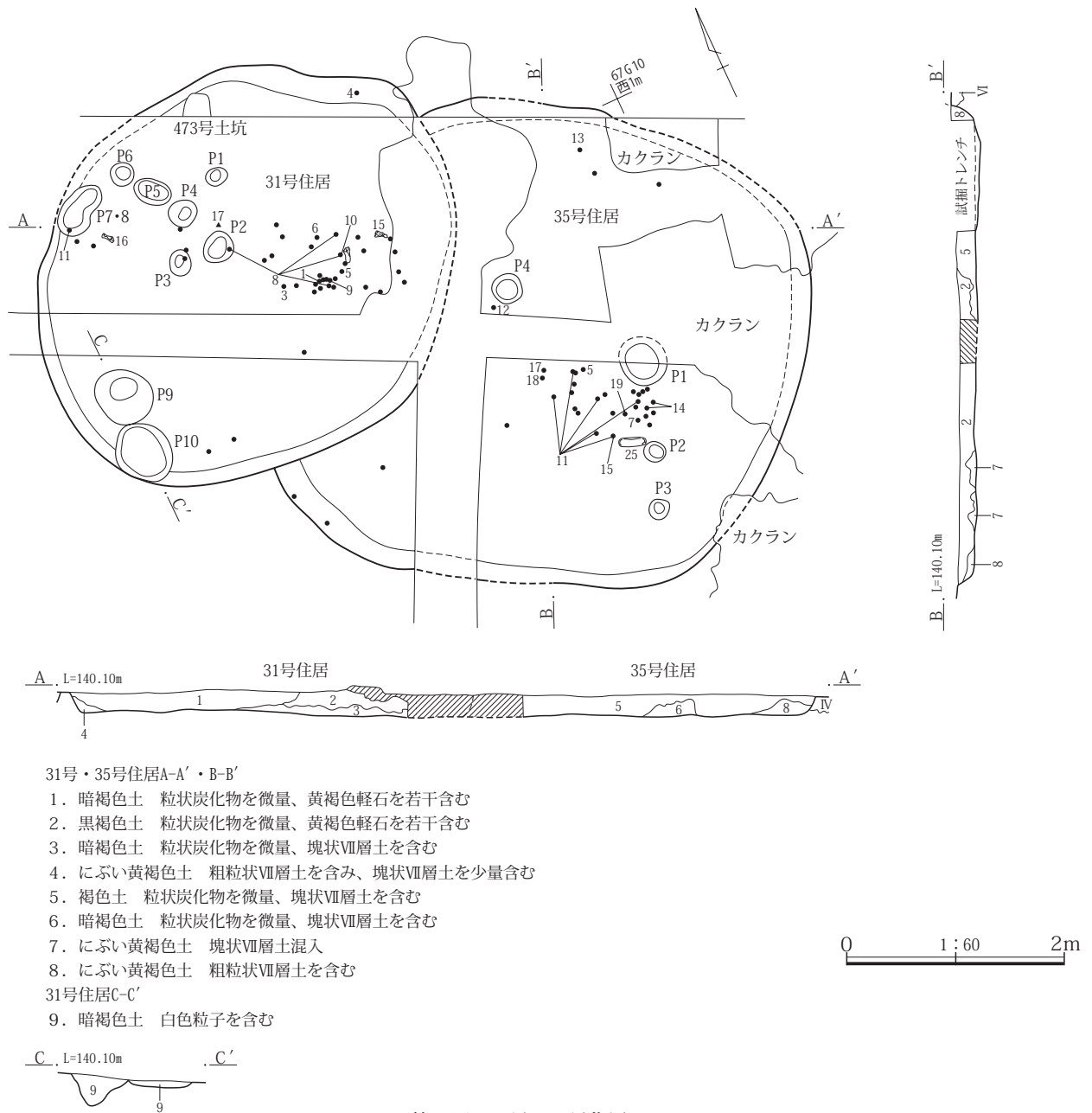
**柱穴** P 1～P 4を検出した。直径18cm～45cm、深さ4～11cmを計る。いずれも掘り込みが浅いため、支柱穴は不明である。

**床面** 平坦である。硬化面は確認されなかった。

**埋没土** 黄褐色軽石が混入した黒褐色土とブロック状VII層土(黄橙色のハードローム層)を含む褐色土が堆積していた。いずれも、粒状炭化物を含む。周辺にカクランが多く、掘り込み深度が浅いため詳細不明である。

**遺物** 床面直上から床面上3cm以内で出土したのは、深鉢の胴部片(11～13・15)である。その他は、床面より6cm～17cm上から出土している。出土した土器はすべて加曾利E 3式である。また、土器片を利用した土製円盤(23)が出土した。縄文住居の中で一番遺物出土量が多く、出土した土器はすべて加曾利E 3式であり、未掲載土器は145点である。出土した石器は、打製石斧(24)、敲石(25)、台石(26)である。未掲載の石器は、加工痕ある剥片1点、剥片32点である。

**時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E 3式期と考えられる。



**所見** 炉が検出されていないなど、構築状態に不明確な点も多く、竪穴住居ではない可能性もある。

**32号住居**(第46・47図、PL.12・60)

**位置** 67-G・H-11・12

**重複** 293号・294号・313号土坑に切られている。

**形状** 周溝の一部を確認できなかったため、全体形状は不明である。

**規模** 長軸6.00m 短軸(5.82m) 残存深度0.20m

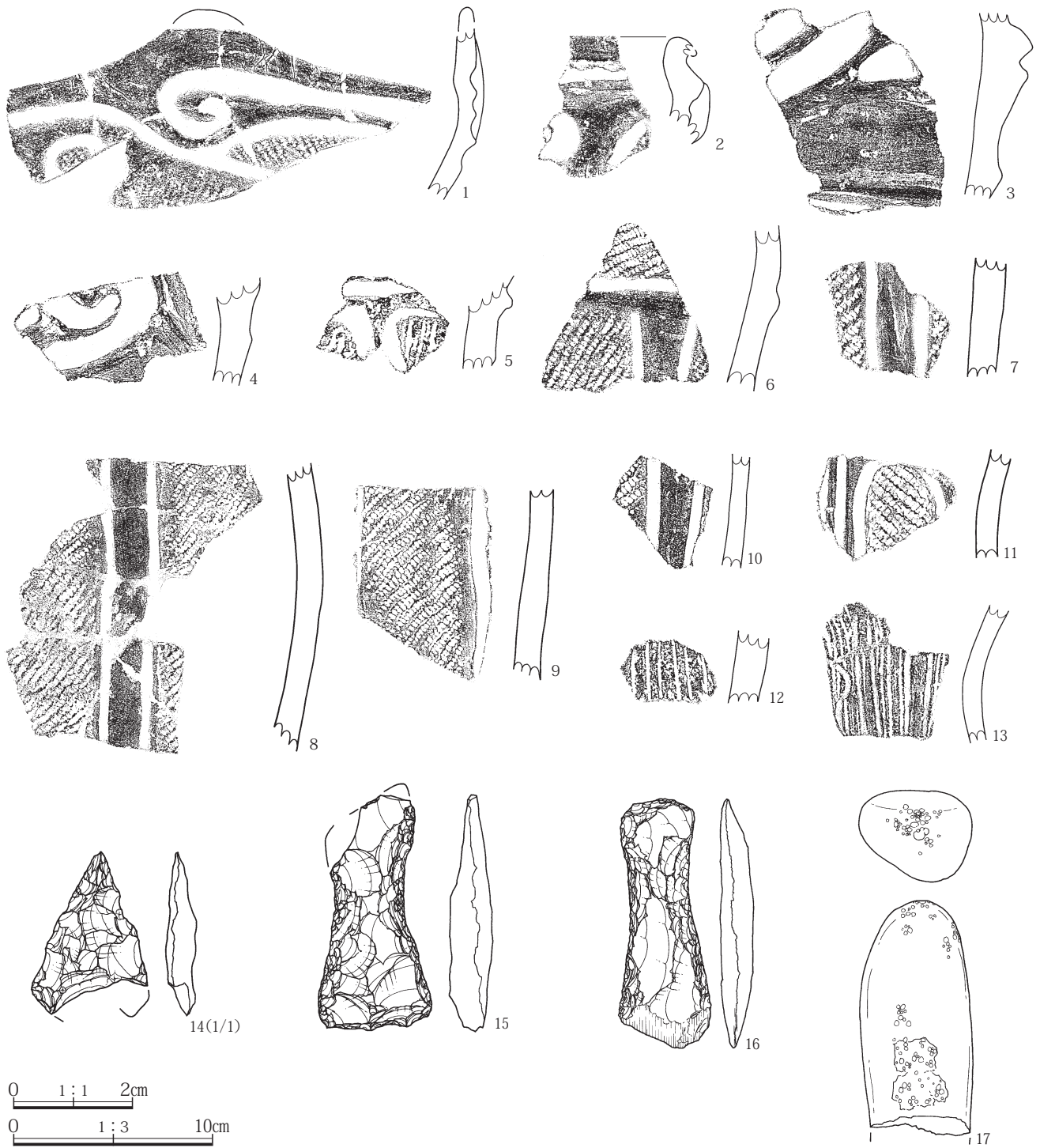
**主軸方位** N-53°-E **面積** (27.60㎡)

**炉** 確認されなかった。

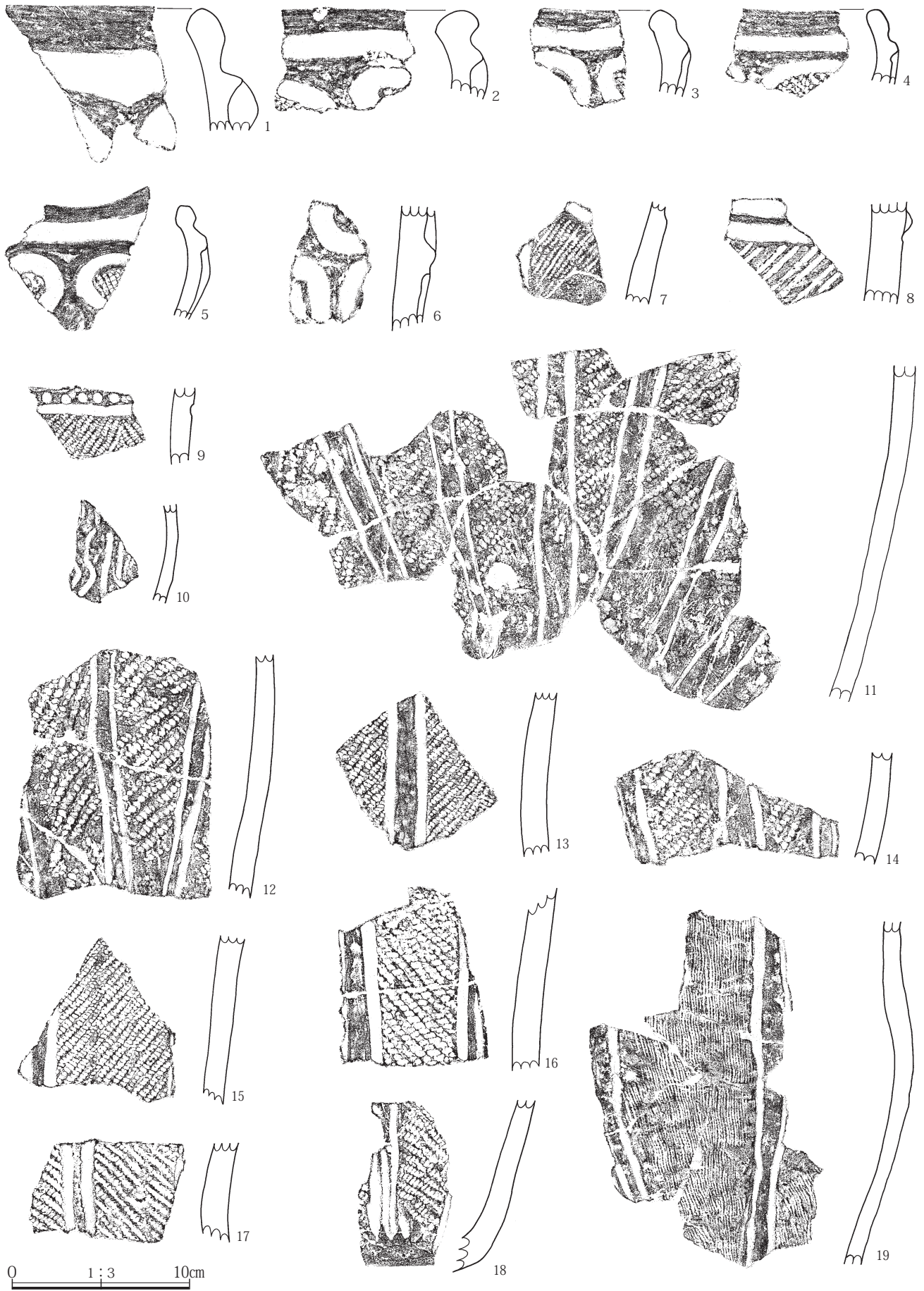
**周溝** 南西側から北東側にかけて、幅30～75cm、深さ29cmの規模で、断続的な掘り込みを検出した。

**柱穴** P1～P25を検出した。位置や規模から柱穴に比定できるのは、P8・P13・P14・P19の4本のみだが、全体的な主柱構造は不明である。各柱穴の規模(直径×深さ)は、P8:45×39cm・P13:53×23cm・P14:53×32cm・P19:40×13cmである。

**床面** 北から南にかけて10cm傾斜し、北東から南西へ12～13cm傾斜、東から西にかけて20cmも傾斜している。

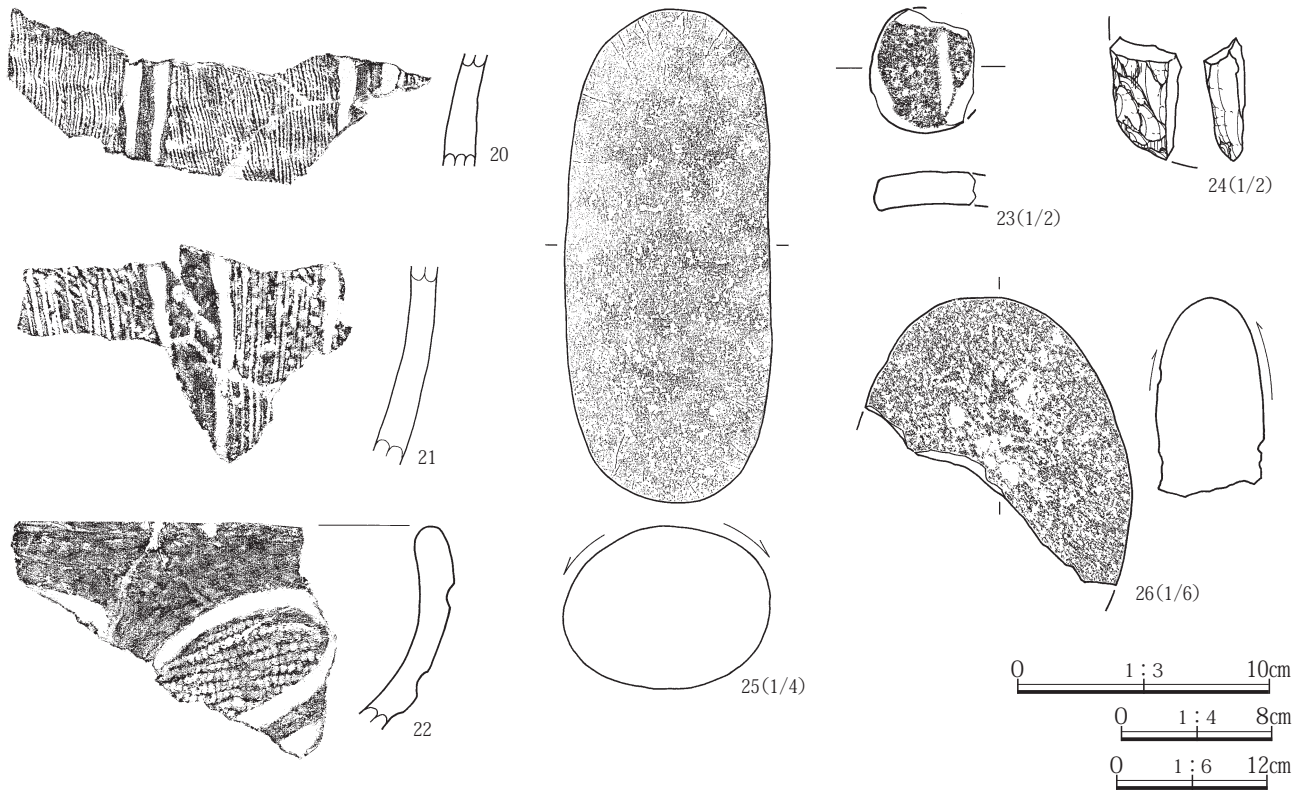


第43図 31号住居出土遺物



第44図 35号住居出土遺物(1)





第45図 35号住居出土遺物(2)

硬化面は確認されなかった。

**埋没土** 周溝の検出により竪穴住居と認定したため、埋没土は不明である。

**遺物** 床面直上から床面上下3cm以内で出土したのは、深鉢の胴部片(4)、敲石(11)、多孔石(12)である。その他は、床面より両耳壺(2)5cm、打製石斧(10)18cm上から出土している。出土した土器はすべて加曾利E3式であり、未掲載土器は13点である。未掲載の石器は剥片8点である。

**時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3期と考えられる。

**所見** 周壁や炉が検出されていないなど、構築状態に不明確な点も多く、竪穴住居ではない可能性もある。

33号住居(第48図、PL.13・60)

**位置** 67-G・H-12・13

**重複** 34号住居を切っており、298号・302号・479号・675号～680号土坑に切られている。

**形状** 長円形

**規模** 長軸4.43m 短軸(4.20m) 残存深度0.15m

**主軸方位** N-0° **面積** (16.13m<sup>2</sup>)

**炉** 確認されなかった。

**周溝** なし。

**柱穴** P1～P11を検出した。主柱穴は、深さや位置関係からP1・P2・P3・P5・P6であり、2本未検出であったと考えられ、7本柱と推定される。各柱穴の規模(直径×深さ)は、P1:24×9cm・P2:18×8cm・P3:31×15cm・P5:24×17cm・P6:23×17cmである。

**床面** 南から北にかけて10cm傾斜し、西から東にかけて10cm傾斜している。他の住居と傾きが逆になっている。

硬化面は確認されなかった。

**埋没土** ブロック状VII層土(黄橙色のハードローム層)を含む褐色土が堆積していたが、掘り込み深度が浅いため詳細不明である。

**遺物** 床面直上から床面上3cm以内で出土したのは、深鉢の口縁部片(1)、胴部片(6)、打製石斧(8)である。その他は、床面より9cm上から打製石斧(7)、床面より13cm下から胴部片(4)が出土している。出土した土器はすべて加曾利E3式であり、未掲載土器は128点である。未掲載の石器は、打製石斧1点、石核1点、加工痕ある



第46図 32号住居

剥片 1点、多孔石 1点、剥片 26点である。

**時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利 E 3 式期と考えられる。

**所見** 土坑との重複により炉や柱穴が不明瞭であり、住居構造等を含め詳細不明である。

**34号住居**(第48・49図、PL.13・61)

**位置** 67-G-12・13

**重複** 33号住居や322号・326号・328号・336号・479号・492号土坑に切られている。

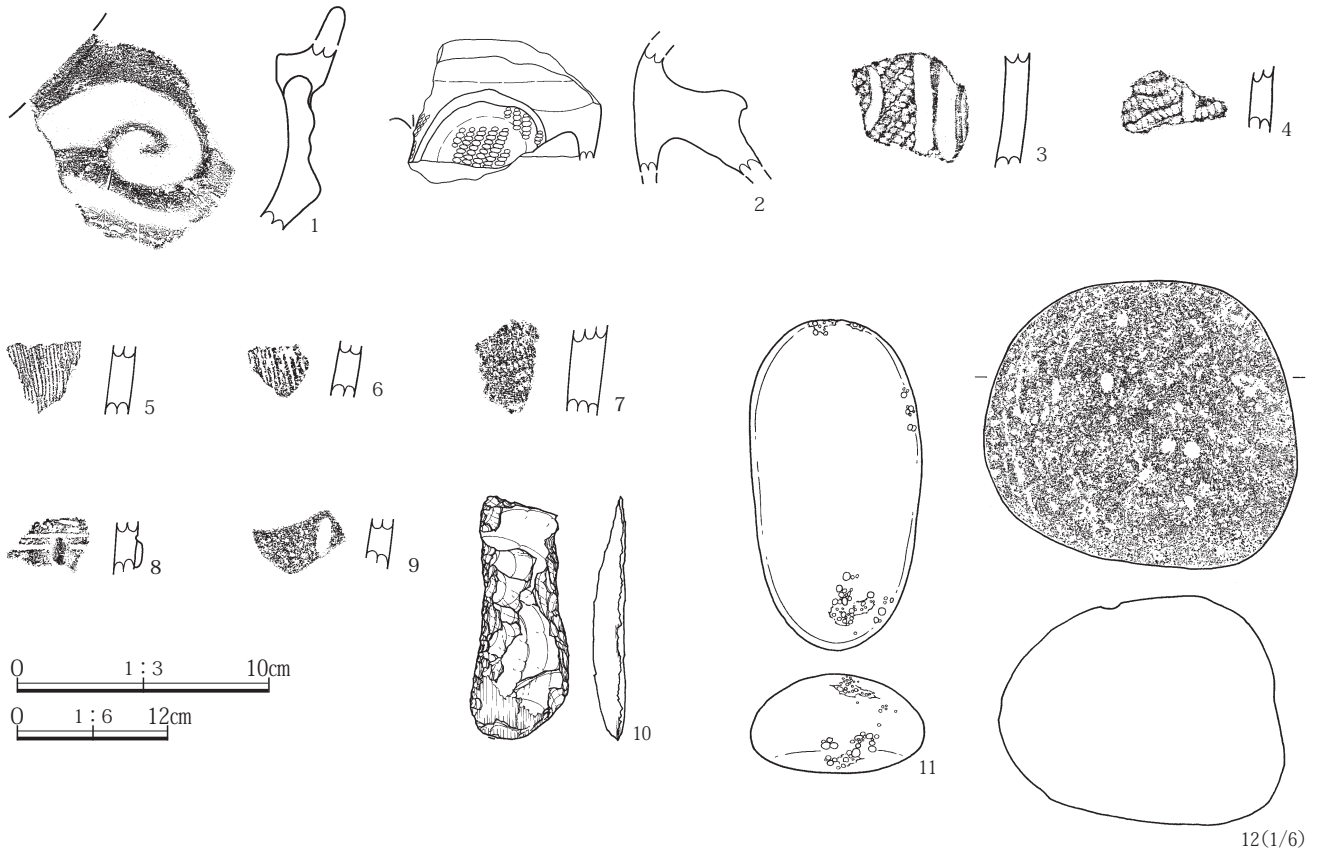
**形状** 周溝の一部を確認したのみなので、全体形状は不明である。

**規模** 長軸(3.98m) 短軸(3.00m) 残存深度(0.05m)

**主軸方位** N-73°-W **面積** (15.02m<sup>2</sup>)

**炉** 確認されなかった。

**周溝** 東側から南側にかけて幅33～50cm、深さ5～6



第47図 32号住居出土遺物

cmの規模で確認できるが、西側半分は33号住居との重複で失われている。

**柱穴** P 1～P 10を検出した。直径52cm×深さ27cmのP 3が、その規模から支柱穴の可能性はある。しかし、その他は掘り込みが浅いものが多く、大部分が33号住居に切られているため、全体構造は不明である。

**床面** 検出範囲が狭いため傾斜については、不明である。硬化面は確認されなかった。

**埋没土** 周溝の検出により竪穴住居と認定したため、埋没土は不明である。

**遺物** 床面直上から床面上3cm以内で出土したのは、深鉢の胴部片(6・7)である。その他は、床面より4cm～26cm上から出土している。周溝から出土した深鉢の胴部片(3)は床面より6cm下から出土している。出土した土器はすべて加曽利E 3式であり、未掲載土器は8点である。出土した石器は、未掲載の剥片3点のみである。

**時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曽利E 3式期と

考えられる。

**所見** 炉が検出されていないなど、構築状態に不明確な点も多く、竪穴住居ではない可能性もある。

**36号住居**(第50図、PL.13・61)

**位置** 67-D・E-9・10

**重複** 29号住居、2号溝、384号・385号土坑に切られている。

**形状** 長円形

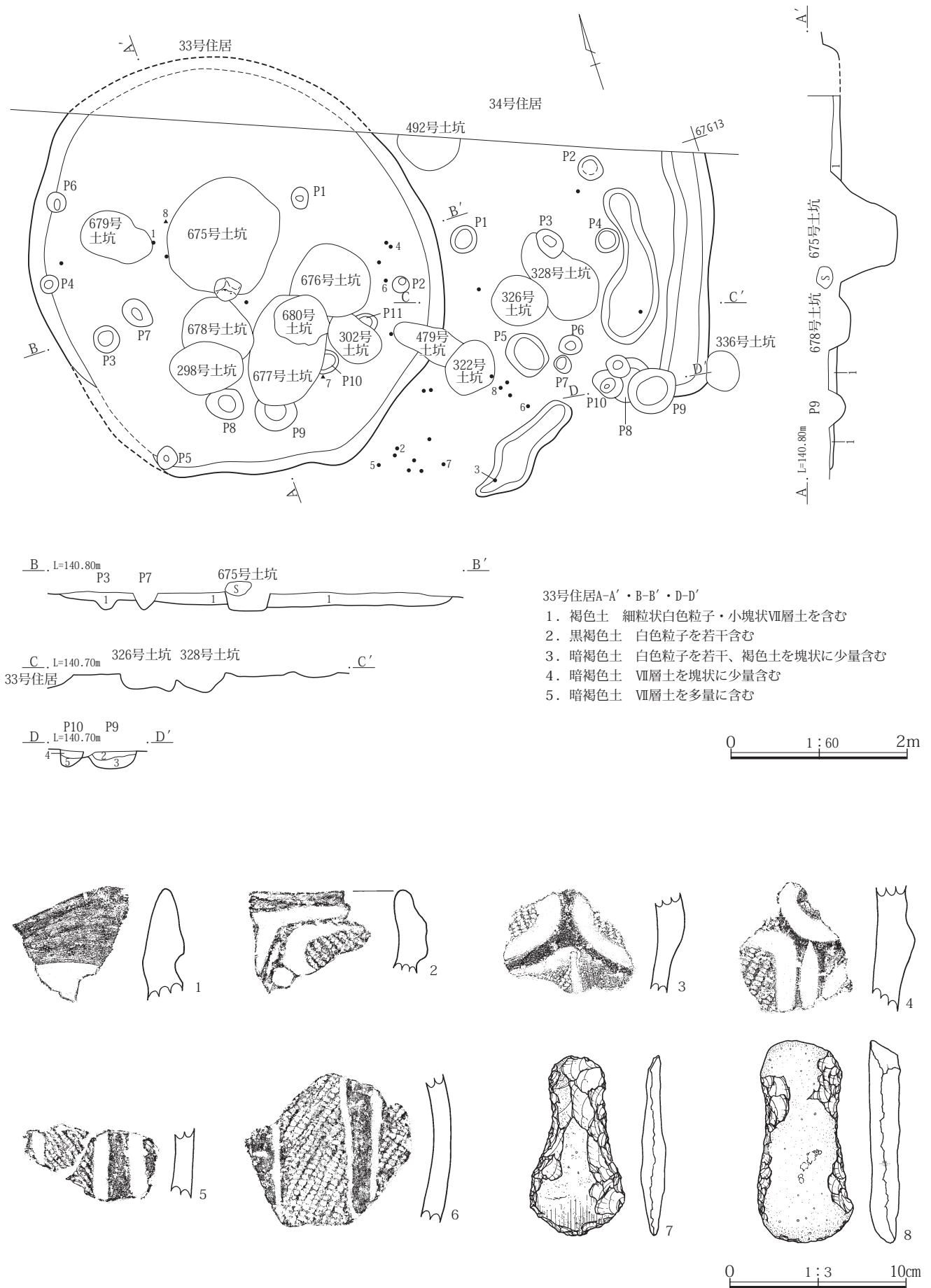
**規模** 長軸4.89m 短軸(4.50m) 残存深度0.07m

**主軸方位** N-69°-W **面積** (16.46㎡)

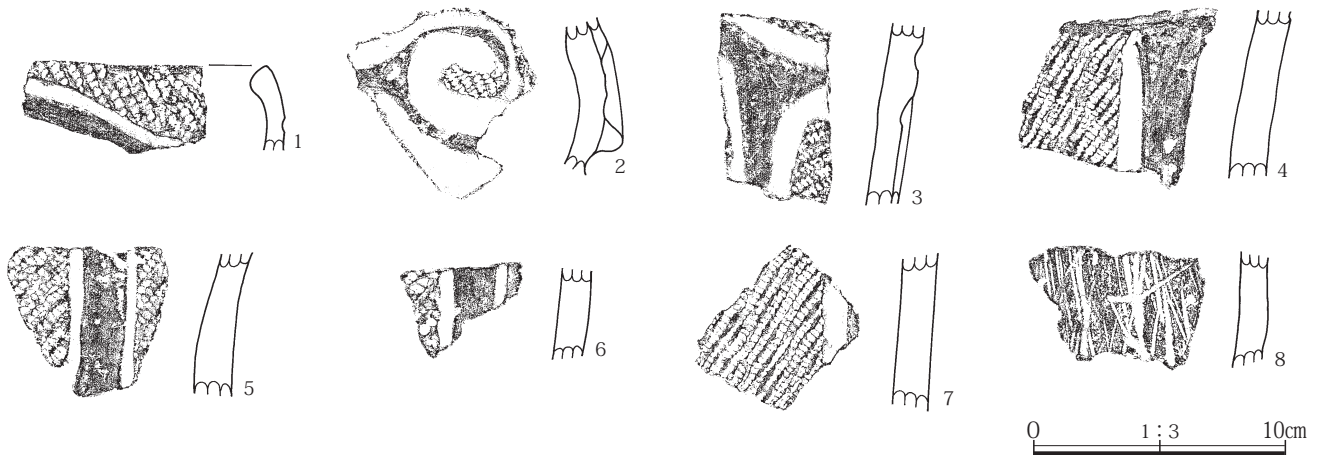
**炉** 確認されなかった。

**周溝** なし。

**柱穴** P 1～P 21を検出した。位置や規模から柱穴に比定できるのは、P 5・P 16・P 21の3本のみだが、全体的な支柱構造は不明である。各柱穴の規模(直径×深さ)は、P 5:60×24cm・P 16:50×13cm・P 21:54×8cmで



第48図 33号・34号住居と33号住居出土遺物



第49図 34号住居出土遺物

ある。

**床面** 南東から北西にかけて10cmほど傾斜し、北東から南西にかけて15cmほど傾斜している。硬化面は確認されなかった。

**埋没土** ブロック状Ⅶ層土(黄橙色のハードローム層)を含むにぶい黄褐色土が堆積していたが、掘り込み深度が浅いため詳細不明である。

**遺物** 床面直上から出土した遺物はなく、掲載した五領ヶ台(1・2)と加曽利E3式(3)は、フク土からの出土である。未掲載土器は2点である。出土した石器は、未掲載の剥片1点のみである。

**時期** 出土遺物から縄文時代中期の時期と考えられる。

**所見** 周壁や炉が検出されていないなど、構築状態に不明確な点も多く、竪穴住居ではない可能性もある。

### 37号住居(第51図、PL.14・61)

**位置** 67-D-10

**重複** 36号住居、404号・406号・411号・441号土坑に切られている。

**形状** 長円形

**規模** 長軸3.94m 短軸2.82m 残存深度0.05m

**主軸方位** N-88°-E **面積** 9.54㎡

**炉** 確認されなかった。

**周溝** なし。

**柱穴** P1～P17を検出した。直径55cm×深さ20cmのP5と、直径52cm×深さ17cmのP14が、その規模から主柱

穴の可能性はある。しかし、その他は掘り込みが浅いものが多く、全体構造は不明である。

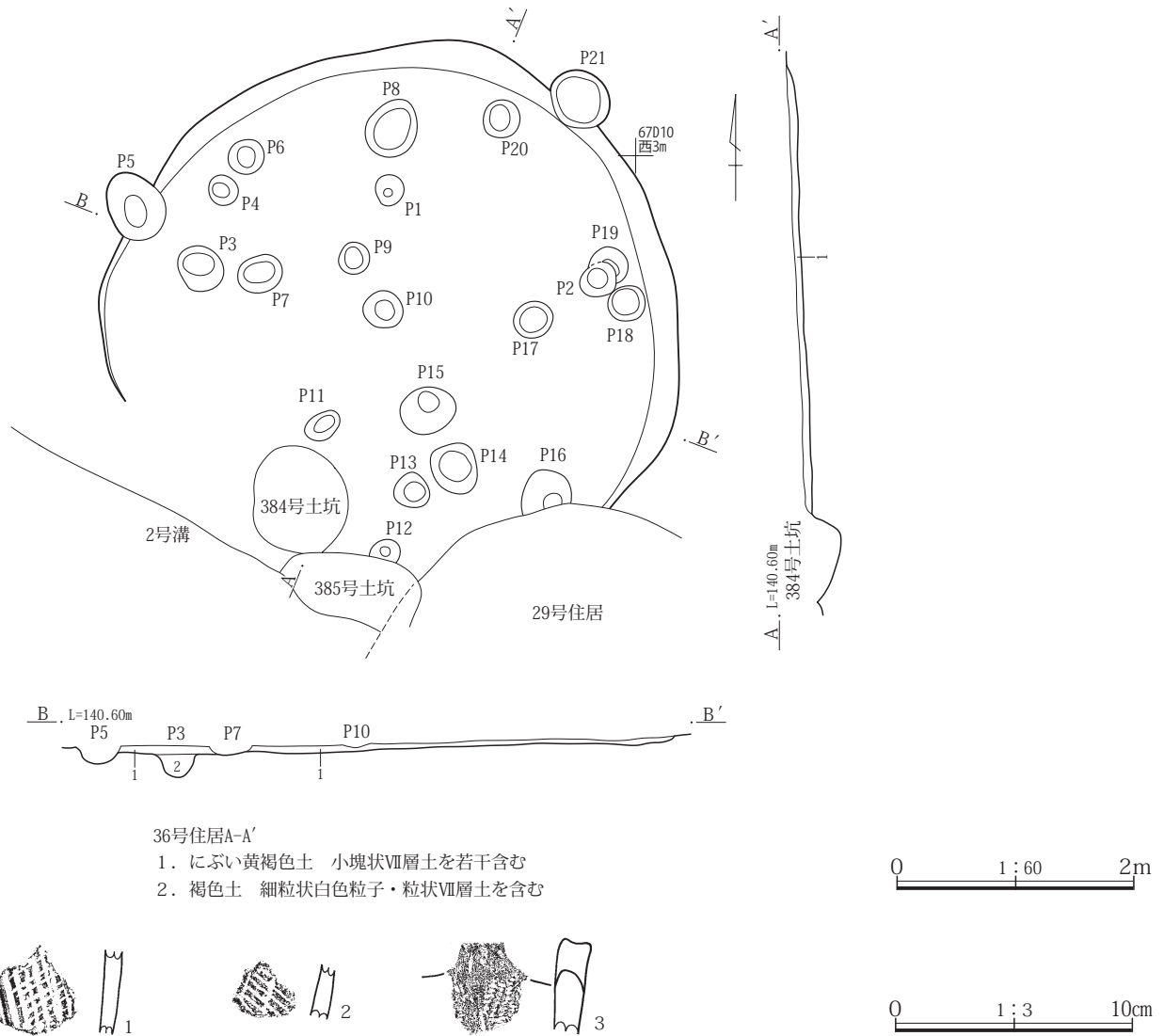
**床面** 北から南にかけて10cm傾斜し、東から西にかけて10cm傾斜している。硬化面は確認されなかった。

**埋没土** ブロック状Ⅶ層土(黄橙色のハードローム層)を少量含む褐色土が堆積していたが、掘り込み深度が浅いため詳細不明である。

**遺物** 床面直上から床面上3cm以内で出土したのは、深鉢の胴部片(2)、底部片(4)である。床面下3cm以内で出土したのは、口縁部片(1)、胴部片(3)、多孔石(8)である。出土した土器はすべて加曽利E3式であり、未掲載土器は14点である。未掲載の石器は剥片7点である。

**時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曽利E3式期と考えられる。

**所見** 周壁や炉が検出されていないなど、構築状態に不明確な点も多く、竪穴住居ではない可能性もある。



第50図 36号住居と出土遺物

**38号住居**(第52図、PL.14・61)

**位置** 67-C・D-9・10

**重複** 483号土坑に切られている。

**形状** 円形

**規模** 長軸4.26m 短軸3.72m 残存深度0.11m

**主軸方位** N-46°-E **面積** 13.37㎡

**炉** 確認されなかった。

**周溝** なし。

**柱穴** P1～P5を検出した。直径53cm×深さ14cmのP1と、直径49cm×深さ17cmのP3が、その規模から支柱穴の可能性はある。しかし、南側には柱穴は未検出なので、全体構造は不明である。

**床面** 北から南にかけて10cm弱傾斜し、東から西にかけ

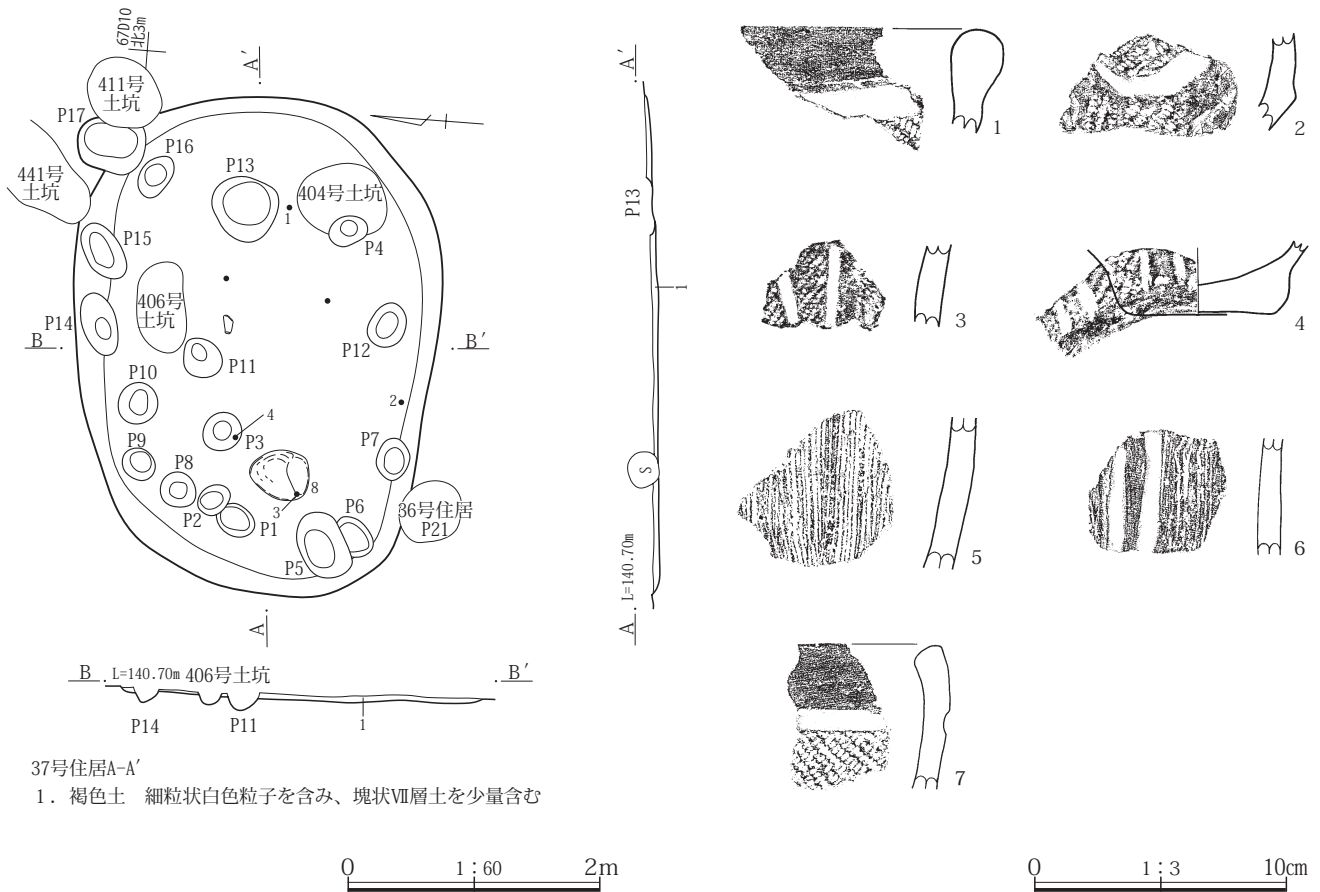
て5cmほど傾斜している。硬化面は確認されなかった。

**埋没土** ブロック状Ⅶ層土(黄橙色のハードローム層)を少量含む褐色土が堆積していたが、掘り込み深度が浅いため詳細不明である。

**遺物** 床面直上から出土したのは、深鉢の胴部片(4)である。その他は、床面より4cm～7cm上から出土している。出土した土器はすべて加曽利E3式であり、出土した石器は、打製石斧(7・8)である。未掲載の石器は、剥片3点である。

**時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曽利E3式期と考えられる。

**所見** 周壁や炉が検出されていないなど、構築状態に不明確な点も多く、竪穴住居ではない可能性もある。



37号住居A-A'  
1. 褐色土 細粒状白色粒子を含み、塊状VII層土を少量含む

第51図 37号住居と出土遺物

**41号住居**(第53図、PL.14・61)

**位置** 67-E ~ G-10・11

**重複** 1号配石に切られ、さらに237号・240号~244号、250号・273号・274号・286号・497号土坑にも切られている。27号住居との新旧関係は不明である。

**形状** 床面がほとんど残っておらず、周溝の一部を確認したのみなので、全体形状は不明である。

**規模** 長軸6.44m 短軸(3.64m) 残存深度0.09m

**主軸方位** N-58°-W **面積** 23.85㎡

**炉** 確認されなかった。

**周溝** 西側から南側にかけて、幅22~40cm、深さ2~8cmの規模で確認できるが、北側は27号住居との重複で失われている。

**柱穴** P1~P10を検出した。直径42cm×深さ15cmのP1と直径30cm×深さ15cmのP6が、その規模から支柱穴の可能性がある。その他は41号住居中央から南西側に集中しているので全体構造は不明である。

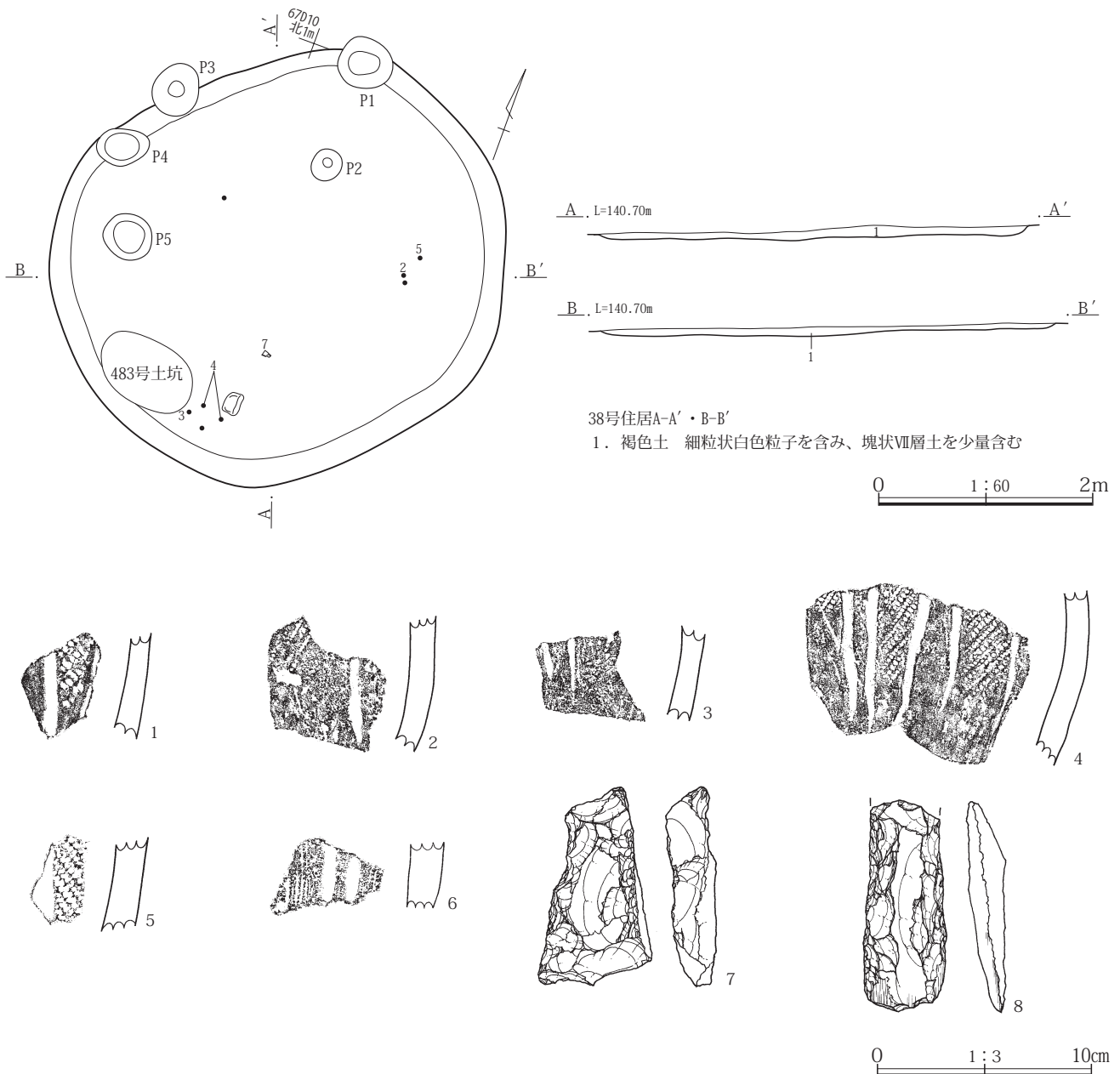
**床面** 検出範囲が狭く、傾斜は不明である。硬化面は確認されなかった。

**埋没土** 黄褐色土をブロック状に含む明黄褐色土が堆積していたが、掘り込み深度が浅いため詳細不明である。

**遺物** 床面直上から床面下1cm以内で出土したのは、深鉢の胴部片(7・8)である。他には、床面より10cm上から大木式系と考えられる深鉢の口縁片(1)、7cm上から加曾利E3式両耳壺の橋状把手(4)、6cm上から多孔石(10)が出土している。出土した土器は、1の大木式系以外はすべて加曾利E3式である。未掲載土器は13点である。他に掲載した石器は、磨石(9)である。未掲載の石器は、削器1点、加工痕ある剝片1点、剝片2点である。

**時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

**所見** 周壁や炉が検出されていないなど、構築状態に不明確な点も多く、竪穴住居ではない可能性もある。



第52図 38号住居と出土遺物

**43号住居**(第54図、PL.14)

**位置** 67-0・P-7・8

**重複** なし。

**形状** 不明。埋没土が地山と同色・同質のため壁面は確認できなかった。

**規模** 長軸(4.00m) 短軸(3.84m) 残存深度—

**主軸方位** 不明。 **面積** (9.61m<sup>2</sup>)

**炉** 確認されなかった。

**周溝** なし。

**柱穴** 主柱穴のP1～P8を検出した。8本柱と推定される。各柱穴の規模(直径×深さ)は、P1:40×10cm・

P2:24×6cm・P3:35×21cm・P4:15×7cm・P5:18×4cm・P6:45×8cm・P7:22×6cm・P8:25×36cmである。

**床面** 南東から北西にかけて5cm傾斜している。硬化面は確認されなかった。

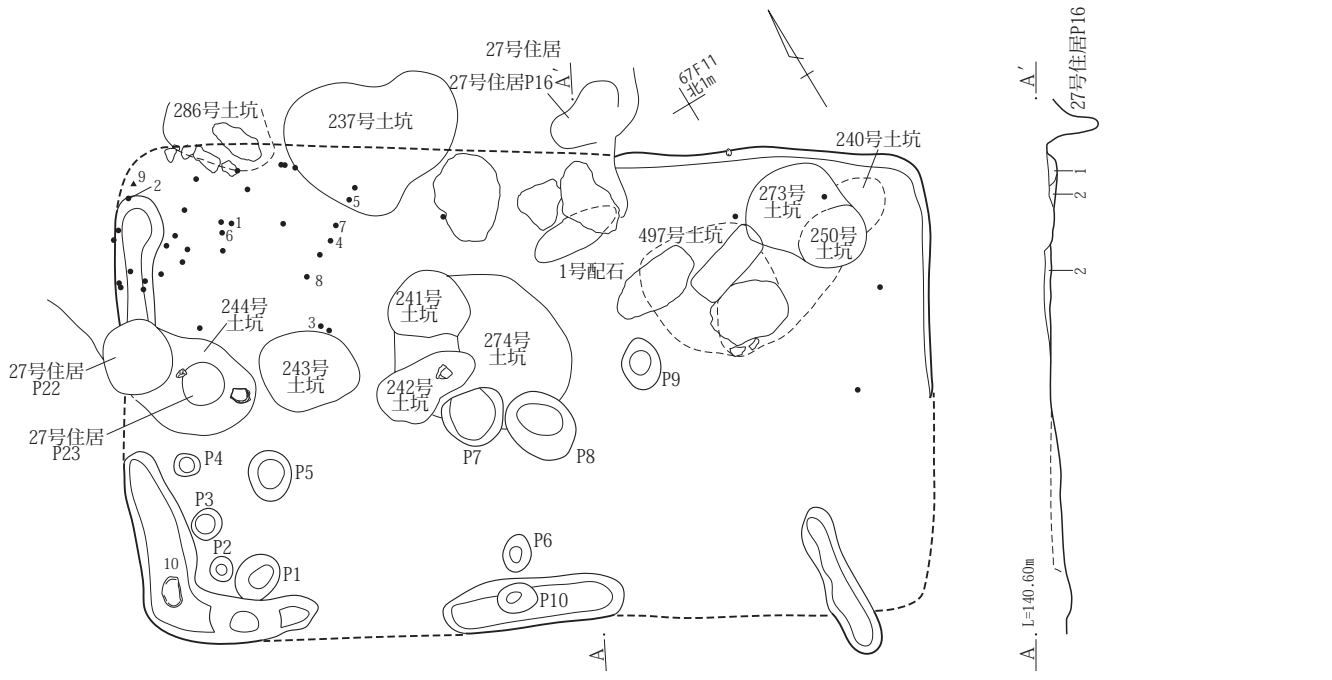
**埋没土** 柱穴の存在から縄文住居を想定したので、埋没土は不明である。

**遺物** なし。

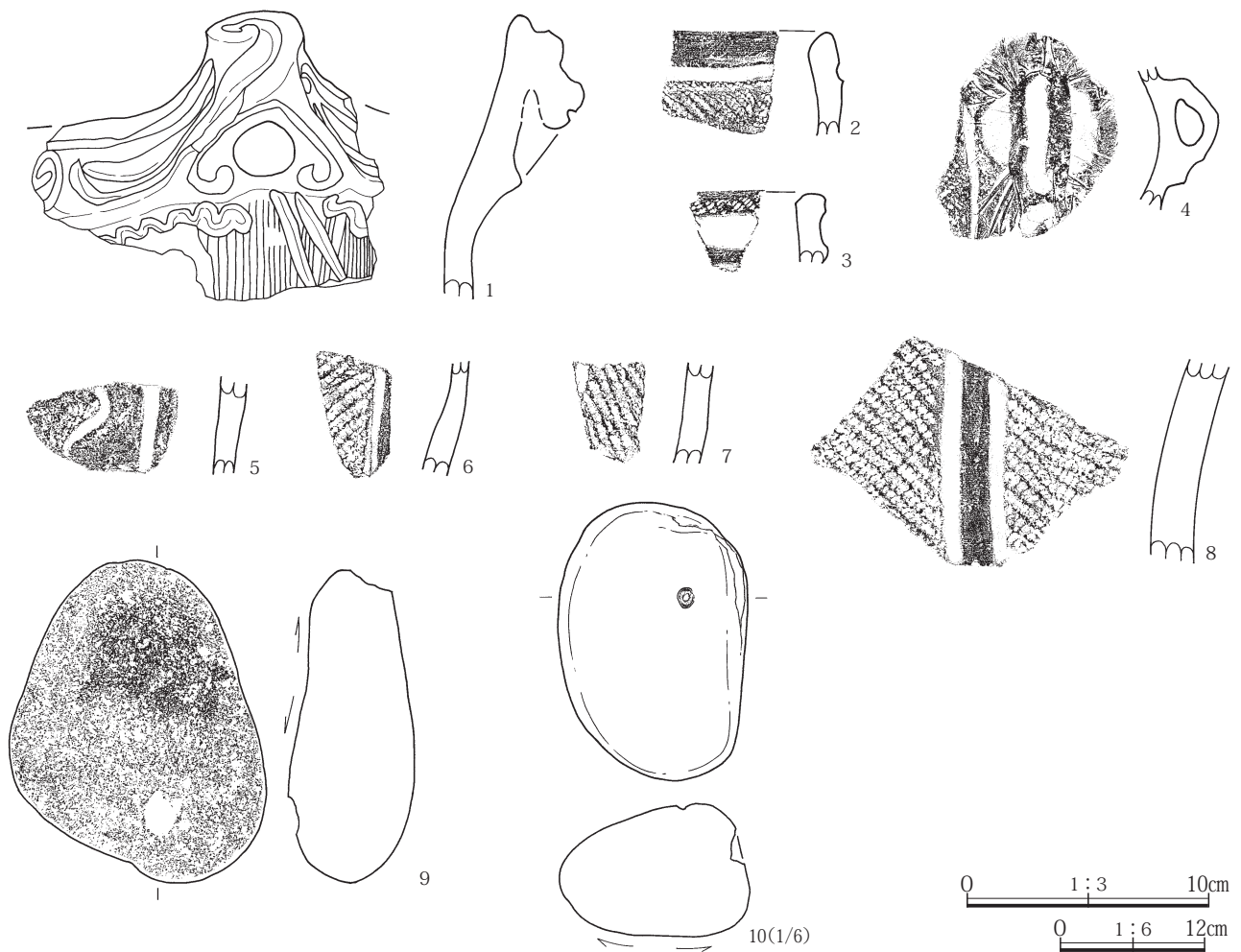
**時期** 出土遺物がなく、時期は不明である。

**所見** 周壁や炉が検出されていないなど、構築状態に不明確な点も多く、竪穴住居ではない可能性もある。

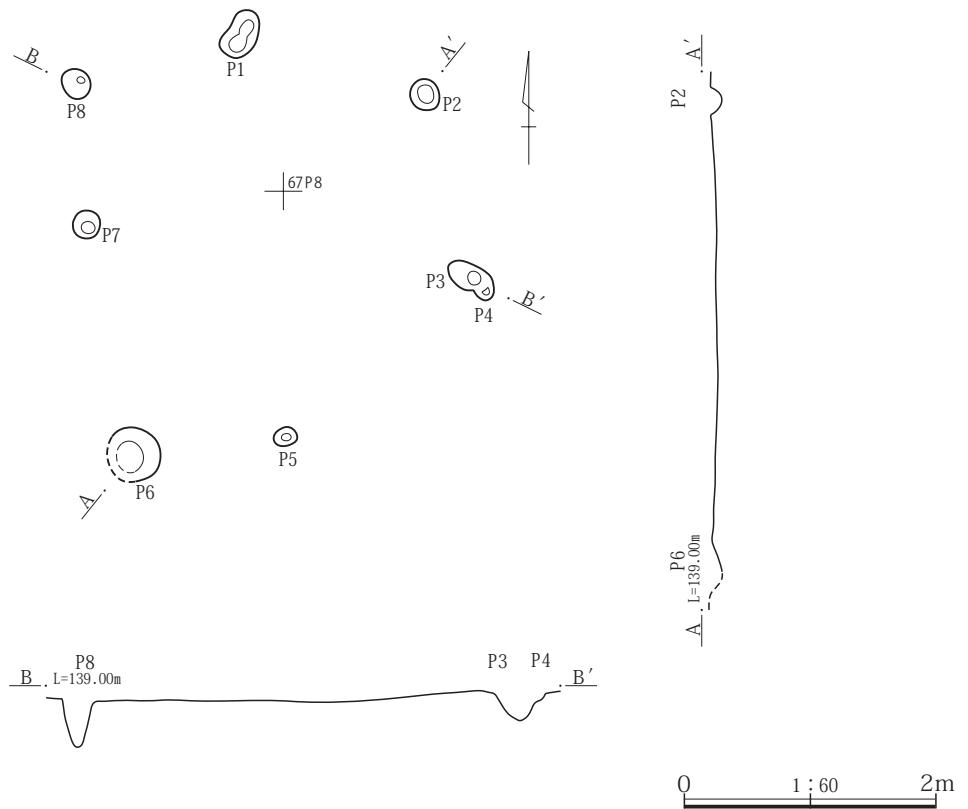




- 41号住居A-A'
1. 黒褐色土 白色粒子を若干、明黄褐色土を塊状に若干含む
  2. 明黄褐色土 白色粒子を若干、黄褐色土を塊状に若干含む



第53図 41号住居と出土遺物



第54図 43号住居

### 3. 溝状遺構

67区を中心に溝状遺構8条を検出したが、出土遺物が皆無なことから、時代・時期ともに不明である。遺構確認面が縄文時代遺構と同様にローム層上面であったことや、竪穴住居周溝の一部の可能性もあることから、取りあえず縄文時代の中で扱っておく。

#### 5号溝(第55図)

**位置** 67-G-10 **走行方向** N-72°-E  
**重複** なし。 **規模** 幅0.26～0.38m 残存深度0.07m 調査長1.81m  
**埋没土** 不明。 **遺物** なし。 **時期** 不明。

#### 6号溝(第55図)

**位置** 67-G-10 **走行方向** N-45°-E  
**重複** 347号・348号土坑に切られている。 **規模** 幅0.35～0.44m 残存深度0.12m 調査長0.95m  
**埋没土** 不明。 **遺物** なし。 **時期** 不明。

#### 26号溝(第55図)

**位置** 67-D-11 **走行方向** N-82°-W  
**重複** なし。 **規模** 幅0.17～0.25m 残存深度0.09～0.11m 調査長1.83m  
**埋没土** 不明。 **遺物** なし。 **時期** 不明。

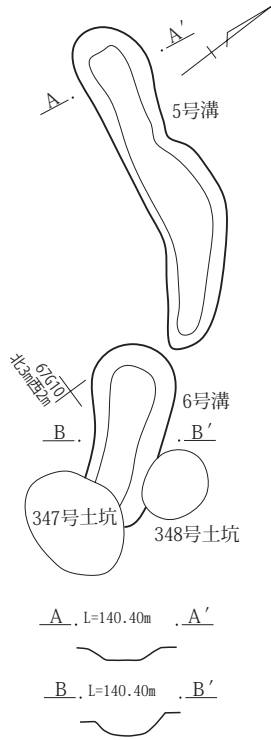
#### 27号溝(第55図)

**位置** 67-C-11 **走行方向** N-80°-E  
**重複** なし。 **規模** 幅0.20～0.31m 残存深度0.06～0.16m 調査長2.21m  
**埋没土** 不明。 **遺物** なし。 **時期** 不明。

#### 28号溝(第55図)

**位置** 67-C-10 **走行方向** N-8°-E N-62°-W **重複** なし。 **規模** 幅0.45～0.60m 残存深度0.08～0.32m 調査長1.16m  
**埋没土** 不明。 **遺物** なし。 **時期** 不明。

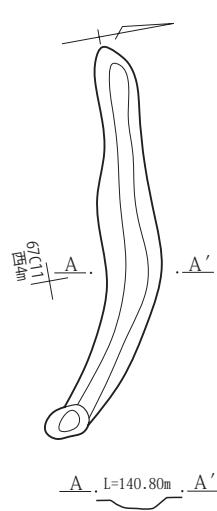
5号・6号溝



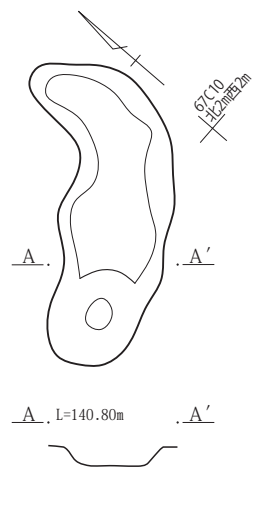
26号溝



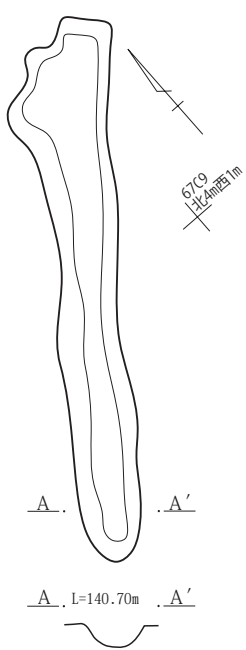
27号溝



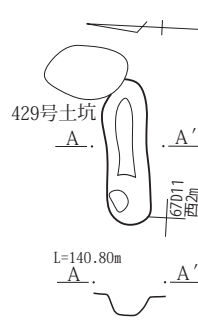
28号溝



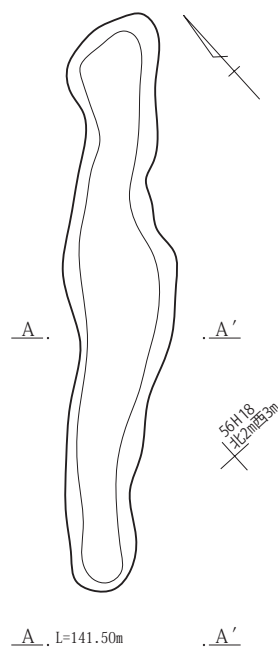
29号溝



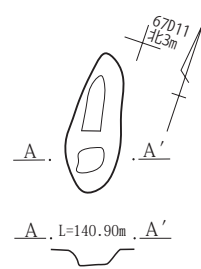
30号溝



31号溝

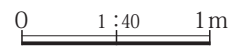


36号溝



31号溝A-A'

1. 暗褐色土 細粒状白色軽石を少量含む



第55図 5号・6号・26号～31号・36号溝

29号溝(第55図)

位置 67-C-9 走行方向 N-40°-W  
 重複 なし。規模 幅0.29～0.52m 残存深度0.06～0.12m 調査長2.88m  
 埋没土 不明。遺物 なし。時期 不明。

30号溝(第55図)

位置 67-D-11 走行方向 N-82°-W  
 重複 429号土坑に切られている。規模 幅0.21m  
 残存深度0.12～0.23m 調査長0.77m  
 埋没土 不明。遺物 なし。時期 不明。

31号溝(第55図、PL.15)

位置 56-H-18 走行方向 N-45°-E  
 重複 なし。規模 幅0.35～0.60m 残存深度0.04～0.10m 調査長3.06m  
 埋没土 細粒状白色軽石を少量含む暗褐色土が堆積していた。遺物 なし。時期 埋没土から、縄文時代と判断した。

36号溝(第55図)

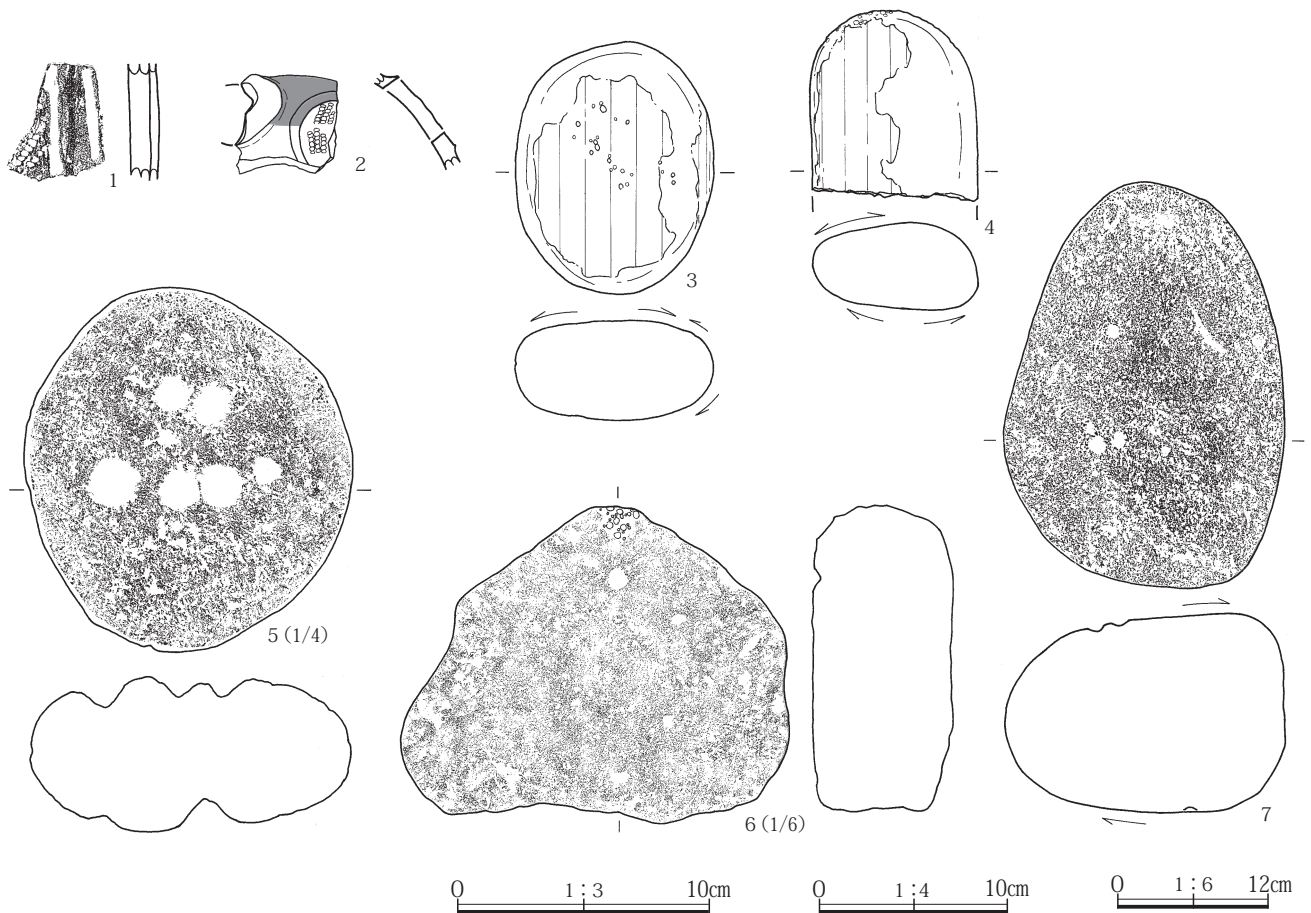
位置 67-C・D-11 走行方向 N-13°-E  
 重複 なし。規模 幅0.19～0.29m 残存深度0.06～0.10m 調査長0.74m  
 埋没土 不明。遺物 なし。時期 不明。

4. 配石遺構

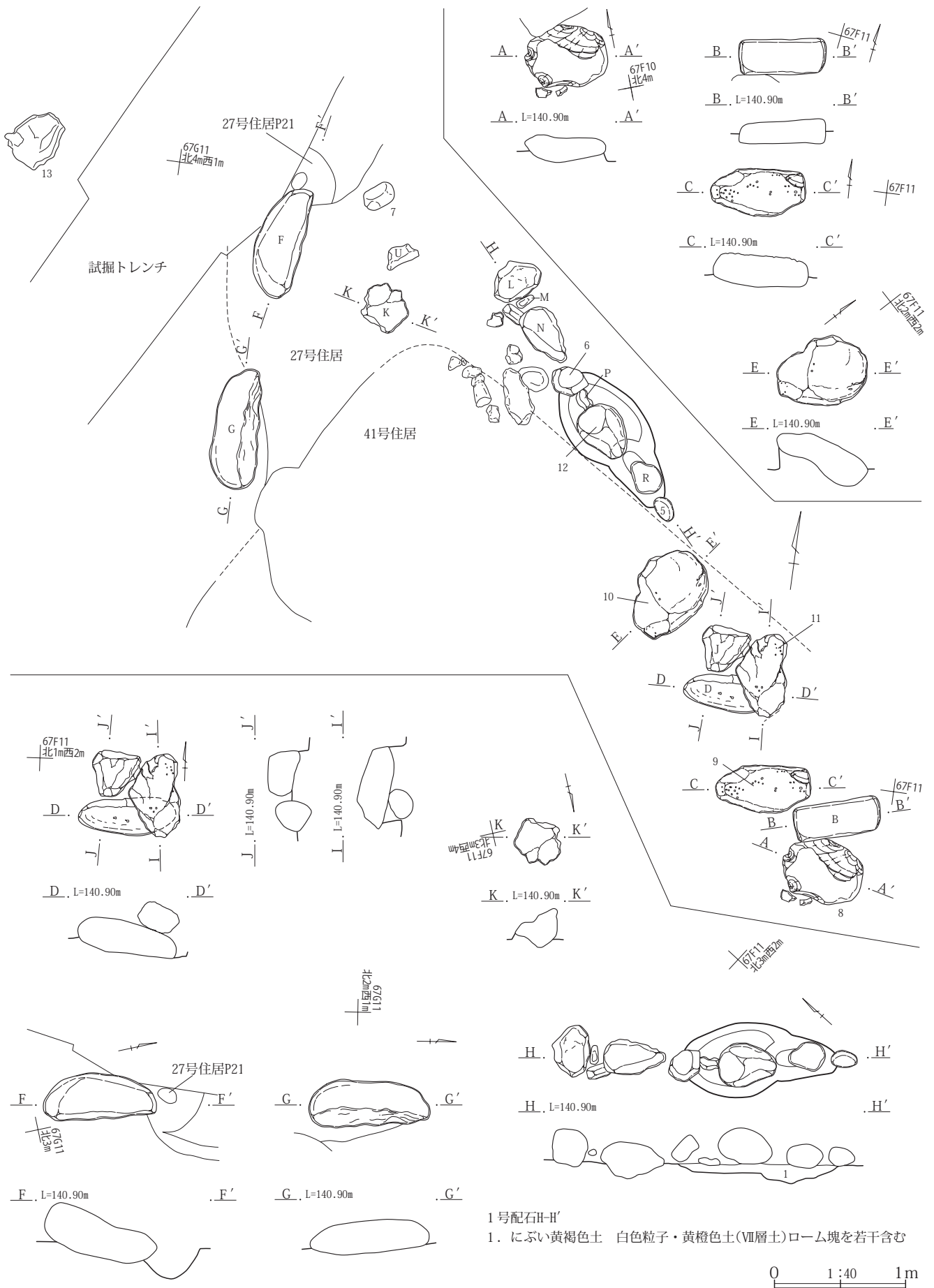
67区北側の27号住居と41号住居が重複する位置に1号配石を検出した。1号配石は、北西から南東を結ぶ直線上に並ぶ石とその他に立石と考えられる石が倒れた状態で検出されている。1号配石を切る近世の286号土坑からは、凹石・多孔石・石棒など1号配石との関係が考えられる遺物が出土している。(第93図遺構外出土の縄文・弥生石器(2)参照)

1号配石(第56・57図、PL.15・62)

位置 67-F・G-10・11



第56図 1号配石出土遺物



第57図 1号配石

**重複** 1号配石は、27号住居・41号住居の上に構築されている。237号・286号・497号土坑に切られている。

**主軸方位** N-72°-E 地形の傾斜に対して、ほぼ直行して構築されている。

**所見** 長径14cm～90cmの大小の礫が20個ほどを使用する配石である。粗粒輝石安山岩製の円礫(扁平楕円礫・楕円礫・河床礫の大型扁平礫)がほとんどで、その多くは多孔石である。一部角礫も含まれている。形状から立石に使用された可能性がある河床礫の棒状礫B・F・G(長径70cm～90cm)を3点含む。配石内の多孔石以外の用材は、図化したのち廃棄したため立石に使われた可能性のある石の詳細は不明である。用材の長軸方向をそろえ、縦列配置しているような規則的な配置は見られない。しかし、北西から南東を結ぶ5m50cmほどの直線上に多くの石を配置している。また、27号住居のP21のすぐ横にFの棒状礫が倒れていたことから、Fが27号住居のP21に立石として設置してあった可能性が考えられる。1号配石の下には、墓坑のような深い掘り込みは見られない。

**遺物** 出土した土器は、フク土から出土した深鉢の胴部片(1)と赤彩の見られる注口土器の胴部片(2)である。出土した石器は、フク土から出土した磨石(3)と磨石?(4)と、配石内に使用された多孔石(5～13)である。なお、近接の286号土坑から多孔石や凹石が出土している。

**時期** 出土遺物から、縄文中期の加曾利E3式～後期の加曾利B式の範疇と想定される。

## 5. 土坑

検出された縄文時代の土坑は、246基である。多くは、67区北側、縄文時代の竪穴住居の多い調査区に集中している。そのうち詳細について報告するのは、45基(13号・114号・118号・235号・251号・290号・292号・322号・323号・370号・371号・470号・472号・473号・475号・479号・484号・494号・510号・511号・514号・515号・516号・518号・519号・520号・521号・522号・523号・555号・556号・561号・565号・566号・567号・568号・569号・570号・665号・675号・676号・677号・678号・679号・680号土坑)である。他の土坑については、第28表土坑一覧表を参照していただきたい。な

お、67区東側については縄文面調査の後、更に下から縄文土坑が検出された。この35基(323号・470号・511号～530号・541号・545号～556号土坑)は、縄文2面目として調査した。(第58図)

なお、246基ある土坑のうち、直径50cm、深さ20cmに満たない97基については、土坑の要件を欠いており、単なるカクランの可能性はある。

### 13号土坑(第59図、PL.16)

**位置** 55-P-10 **重複** なし。

**形状** 楕円形

**規模** 長軸0.56m 短軸0.43m 残存深度0.17m

**長軸方位** N-72°-E **埋没土** 褐色土主体、黒褐色土を含む。 **遺物** なし。 **時期** 埋没土から縄文時代とした。

### 114号土坑(第59図、PL.16)

**位置** 56-A-13 **重複** なし。

**形状** 不整形

**規模** 長軸0.30m 短軸(0.12m) 残存深度0.07m

**長軸方位** N-4°-E **埋没土** 白色粒子を含む暗褐色土。 **遺物** なし。 **時期** 埋没土から縄文時代とした。

### 118号土坑(第59図、PL.16)

**位置** 56-A-13 **重複** なし。

**形状** 楕円形

**規模** 長軸0.30m 短軸0.28m 残存深度0.10m

**長軸方位** N-20°-W **埋没土** 白色粒子を含む暗褐色土。 **遺物** なし。 **時期** 埋没土から縄文時代とした。

### 235号土坑(第59図、PL.16)

**位置** 67-F-11 **重複** 27号住居を切り、251号土坑に切られている。 **形状** 不整形

**規模** 長軸1.06m 短軸(0.50m) 残存深度0.27m

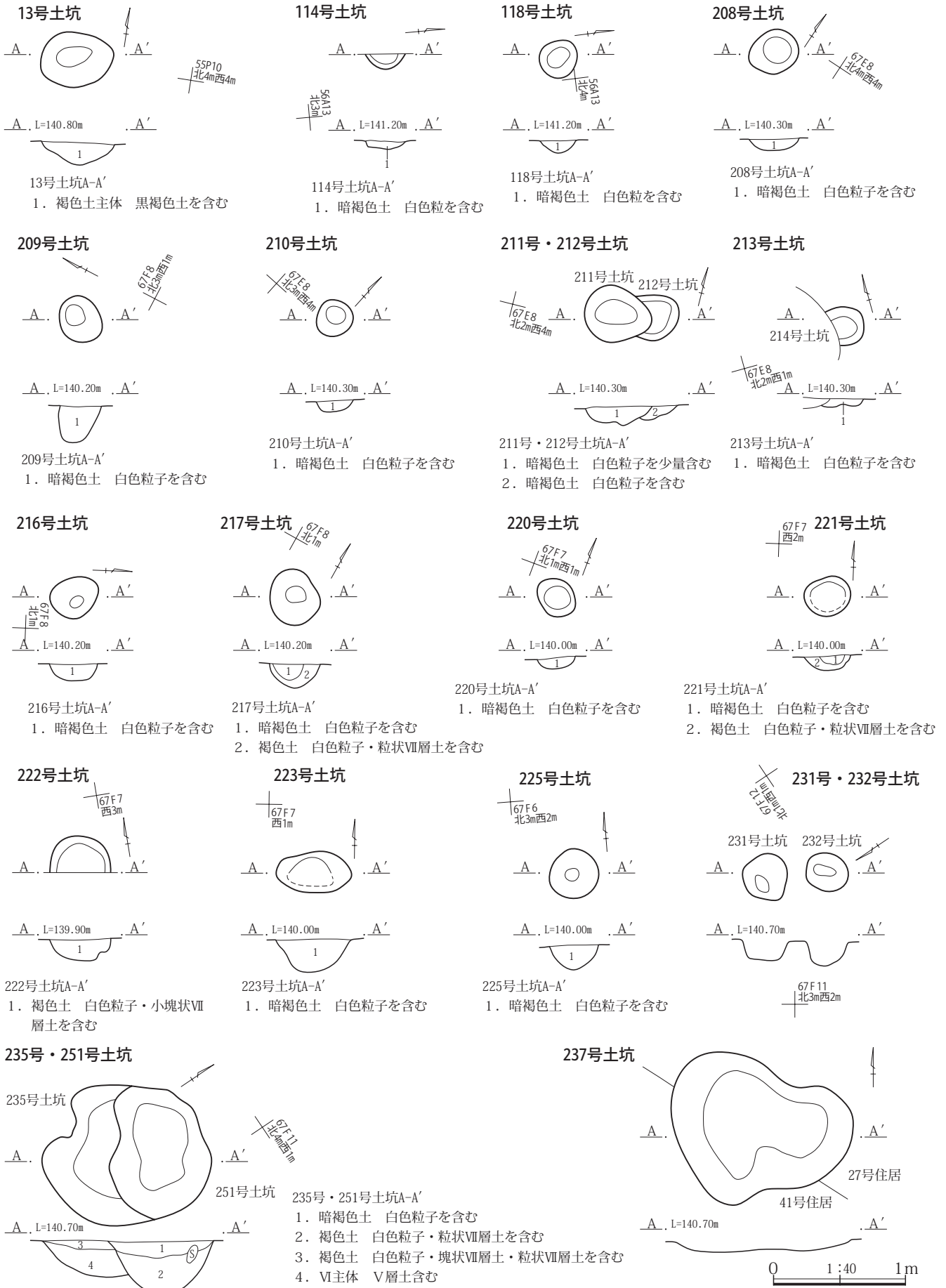
**長軸方位** N-34°-E **埋没土** 白色粒子とロームブロックを含む褐色土、黒褐色土を含むローム層土。

**遺物** 未掲載の剥片1点のみ出土。 **時期** 埋没土から縄文時代とした。



第58図 縄文時代土坑配置図

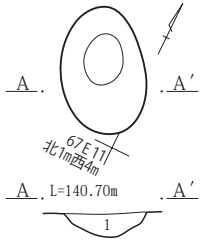
第3章 調査の内容



第59図 13号・114号・118号・208号～213号・216号・217号・220号～223号・225号・231号・232号・235号・237号・251号土坑



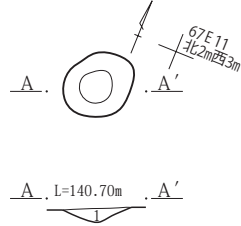
238号土坑



238号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色粒子を含む

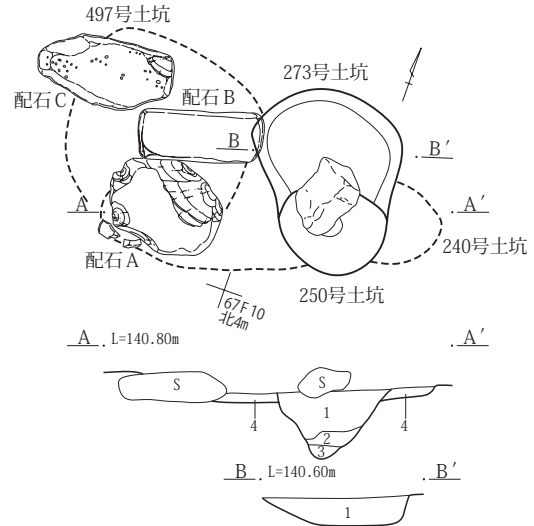
239号土坑



239号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色粒子を含む

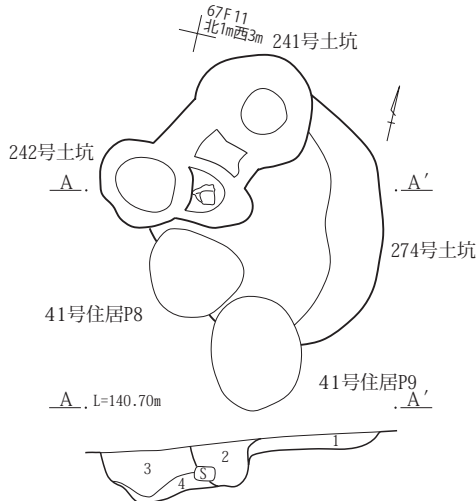
240号・250号・273号・497号土坑



240号・250号・273号・497号土坑A-A'・B-B'

1. 暗褐色土 白色粒子を含む
2. 褐色土 白色粒子を含む、粒状VII層土
3. 褐色土 白色粒子・小塊状VII層土を含む
4. 褐色土 白色粒子・塊状VII層土・粒状VII層土を含む

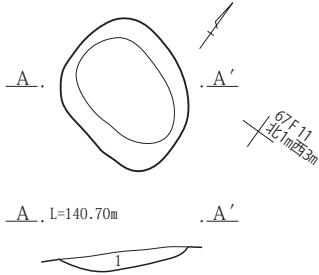
241号・242号・274号土坑



241号・242号・274号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色粒子を含む
2. 暗褐色土 白色粒子を含み、橙色粒を少量含む
3. 暗褐色土 白色粒子を含み、橙色粒を若干含む
4. 褐色土 白色粒子・塊状VII層土・粒状VII層土を含む

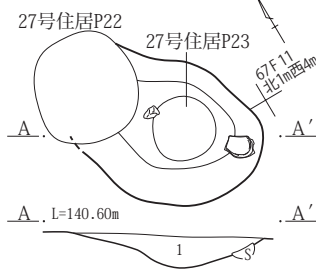
243号土坑



243号土坑A-A'

1. 褐色土 白色粒子・塊状VII層土・粒状VII層土を含む

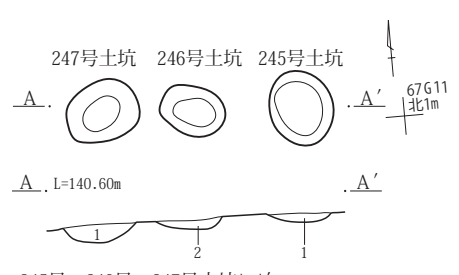
244号土坑



244号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色粒子を含む

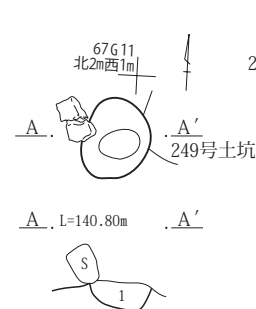
245号～247号土坑



245号・246号・247号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色粒子を含む
2. 褐色土 白色粒子を含む、粒状VII層土

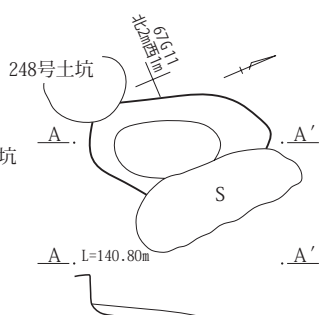
248号土坑



248号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色粒子を含む

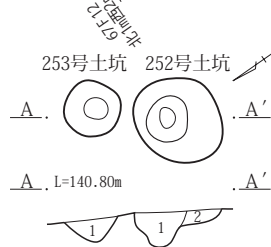
249号土坑



249号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色粒子を含む

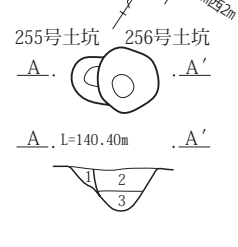
252号・253号土坑



252号・253号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色粒子を含む
2. 褐色土 白色粒子・塊状VII層土・粒状VII層土を含む

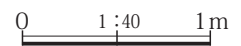
255号・256号土坑



255号・256号土坑A-A'

1. 褐色土 白色粒子・粒状VII層土を含む
2. 褐色土 白色粒子を含む、粒状VII層土
3. 褐色土 白色粒子・塊状VII層土・粒状VII層土を含む

第60図 238号～250号・252号・253号・255号・256号・273号・274号・497号土坑



251号土坑(第59図、PL.16)

**位置** 67-F-11 **重複** 27号住居、235号土坑を切っている。  
**形状** 不整形

**規模** 長軸1.00m 短軸0.78m 残存深度0.38m

**長軸方位** N-34°-E **埋没土** 白色粒子を含む暗褐色土、白色粒子とロームブロックを含む褐色土。

**遺物** 未掲載の円礫1点のみ出土。**時期** 埋没土から縄文時代とした。

290号土坑(第61・72図、PL.16・63)

**位置** 67-H-12 **重複** なし。

**形状** 円形

**規模** 長軸0.60m 短軸0.56m 残存深度0.08m

**長軸方位** N-16°-E **埋没土** 微粒状黄色軽石を含む暗褐色土、夾雑物のない褐色土。**遺物** 掲載したのは、深鉢の胴部片(1・2)、凹石(3)、敲石(4)、台石(5)である。未掲載の石器は、凹石1点と円礫5点である。(円礫は、現場廃棄ずみ)浅い掘り込みに円礫や、深鉢(1・2)、凹石(3)、敲石(4)、台石(5)を並べている。遺物には被熱の痕跡は見られなかった。

**時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

292号土坑(第61・72図、PL.63)

**位置** 67-H-12 **重複** 475号土坑を切る。

**形状** 円形

**規模** 長軸0.37m 短軸0.35m 残存深度0.31m

**長軸方位** N-15°-E **埋没土** 不明。**遺物** 出土したのは、掲載した深鉢の胴部片(1)のみである。

**時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

322号土坑(第61・72図、PL.16・63)

**位置** 67-G-12 **重複** 34号住居、479号土坑を切る。

**形状** 楕円形

**規模** 長軸0.62m 短軸0.54m 残存深度0.26m

**長軸方位** N-62°-E **埋没土** 不明。**遺物** 出土したのは、深鉢の口縁部片(1)、胴部片(2~4)である。未掲載の石器は、剥片3点である。**時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

323号土坑(第61図、PL.16)

**位置** 67-C-9 **重複** なし。

**形状** 不整形

**規模** 長軸(1.23m) 短軸0.94m 残存深度0.42m

**長軸方位** N-90° **埋没土** 白色粒子とブロック状の黒色土・暗褐色土を含む褐色土・にぶい黄褐色土。

**遺物** なし。**時期** 土坑検出面が縄文2面目のため、縄文時代とした。

370号土坑(第63・72図、PL.63)

**位置** 67-E-11 **重複** 371号土坑を切る。

**形状** 楕円形

**規模** 長軸0.55m 短軸0.44m 残存深度0.19m

**長軸方位** N-53°-E **埋没土** 不明。**遺物** 出土したのは、掲載した諸磯式の胴部片(1)のみである。

**時期** 出土遺物から、縄文時代前期の諸磯式期と考えられる。

371号土坑(第63・72図、PL.63)

**位置** 67-E-11 **重複** 370土坑に切られる。

**形状** 楕円形

**規模** 長軸2.37m 短軸2.02m 残存深度0.09m

**長軸方位** N-5°-E **埋没土** 不明。**遺物** 出土したのは、深鉢の胴部片(1)である。未掲載の石器は、剥片1点である。**時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

470号土坑(第65図、PL.16)

**位置** 67-C-9 **重複** なし。

**形状** 不整形

**規模** 長軸0.79m 短軸(0.42m) 残存深度0.21m

**長軸方位** N-90° **埋没土** 白色粒子、ロームブロックを含む暗褐色土。**遺物** なし。**時期** 土坑検出面が縄文2面目のため、縄文時代とした。

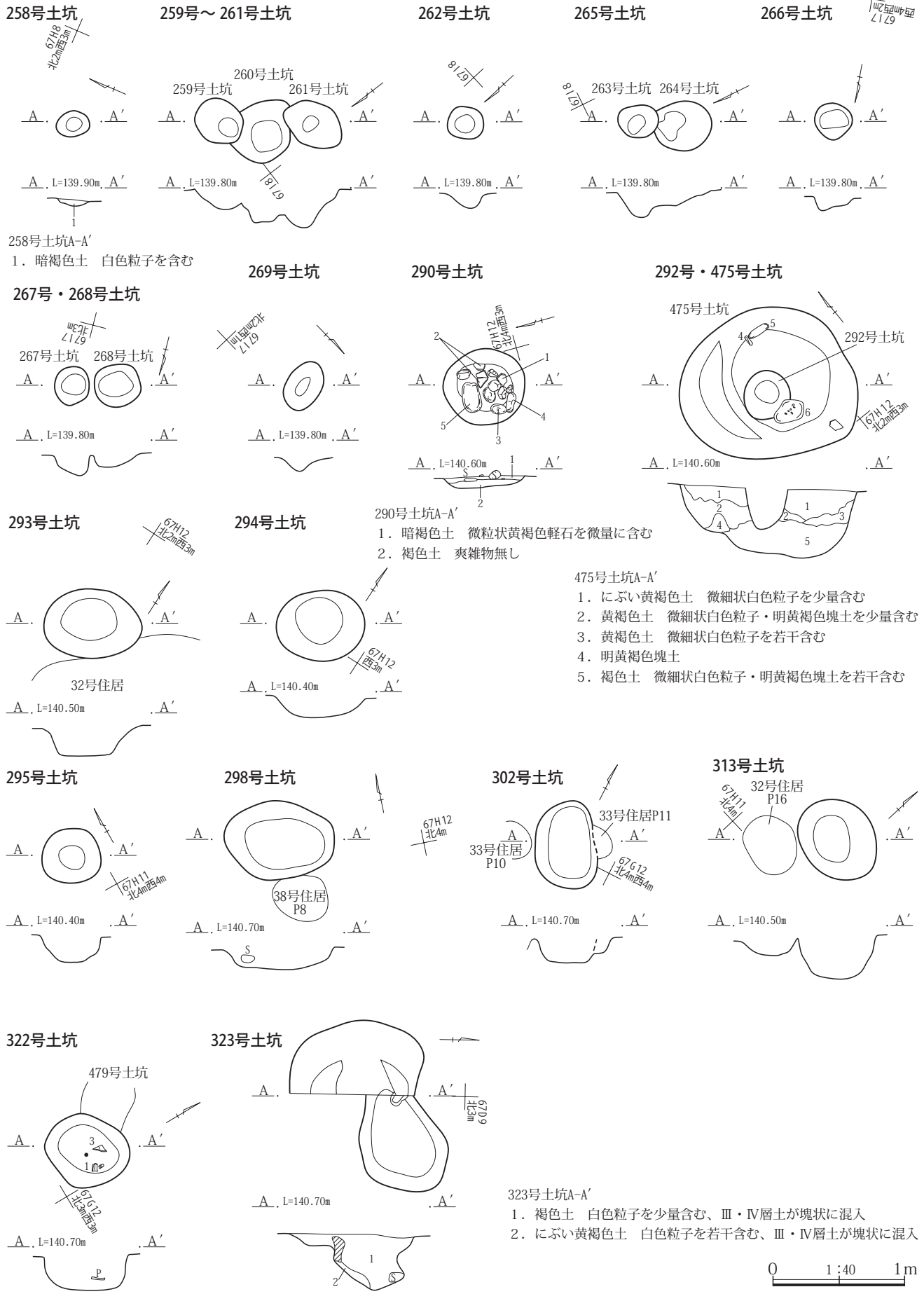
472号土坑(第66・73図、PL.17・63)

**位置** 67-B-8 **重複** なし。

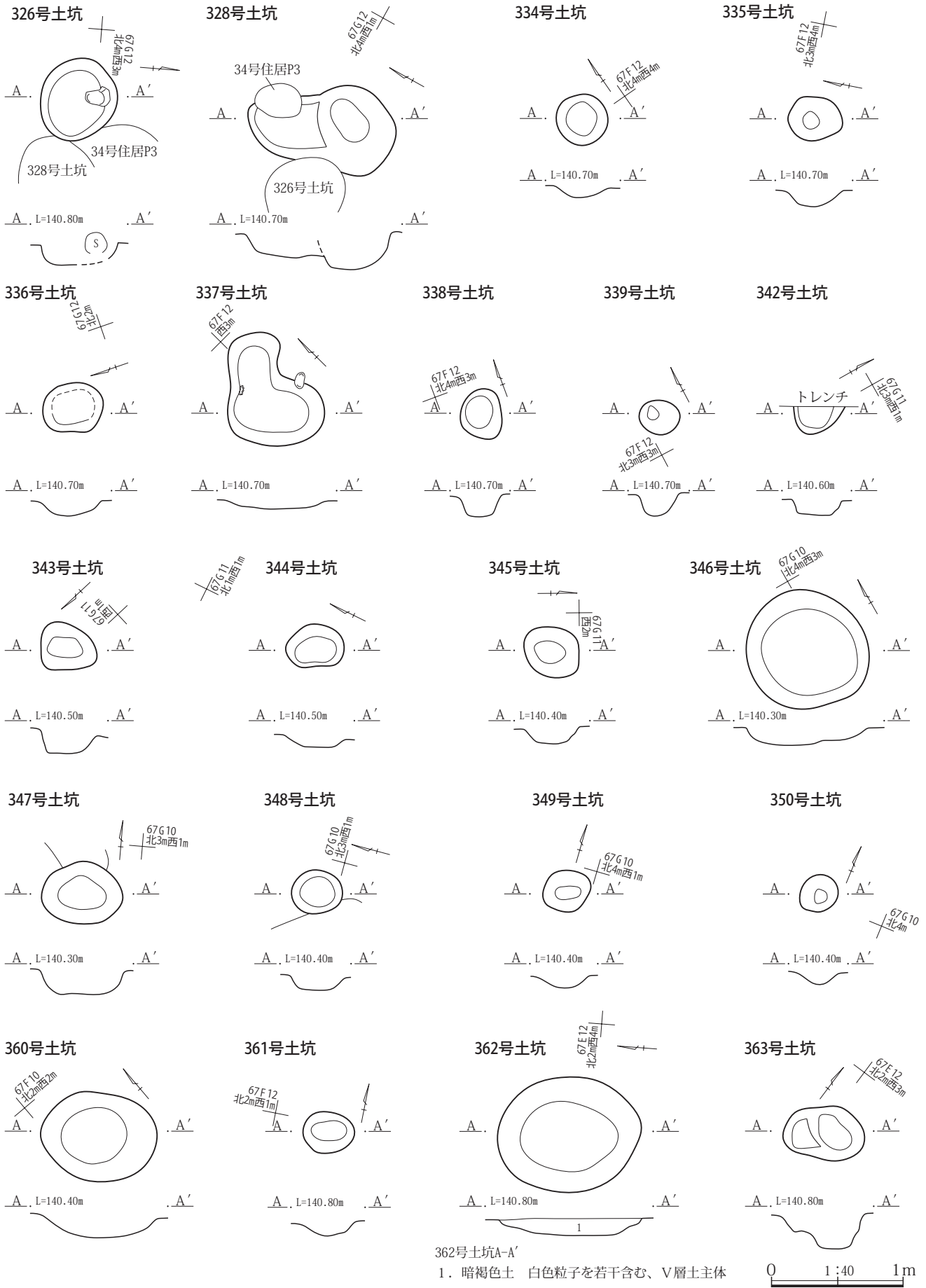
**形状** 楕円形

**規模** 長軸0.72m 短軸0.55m 残存深度0.20m

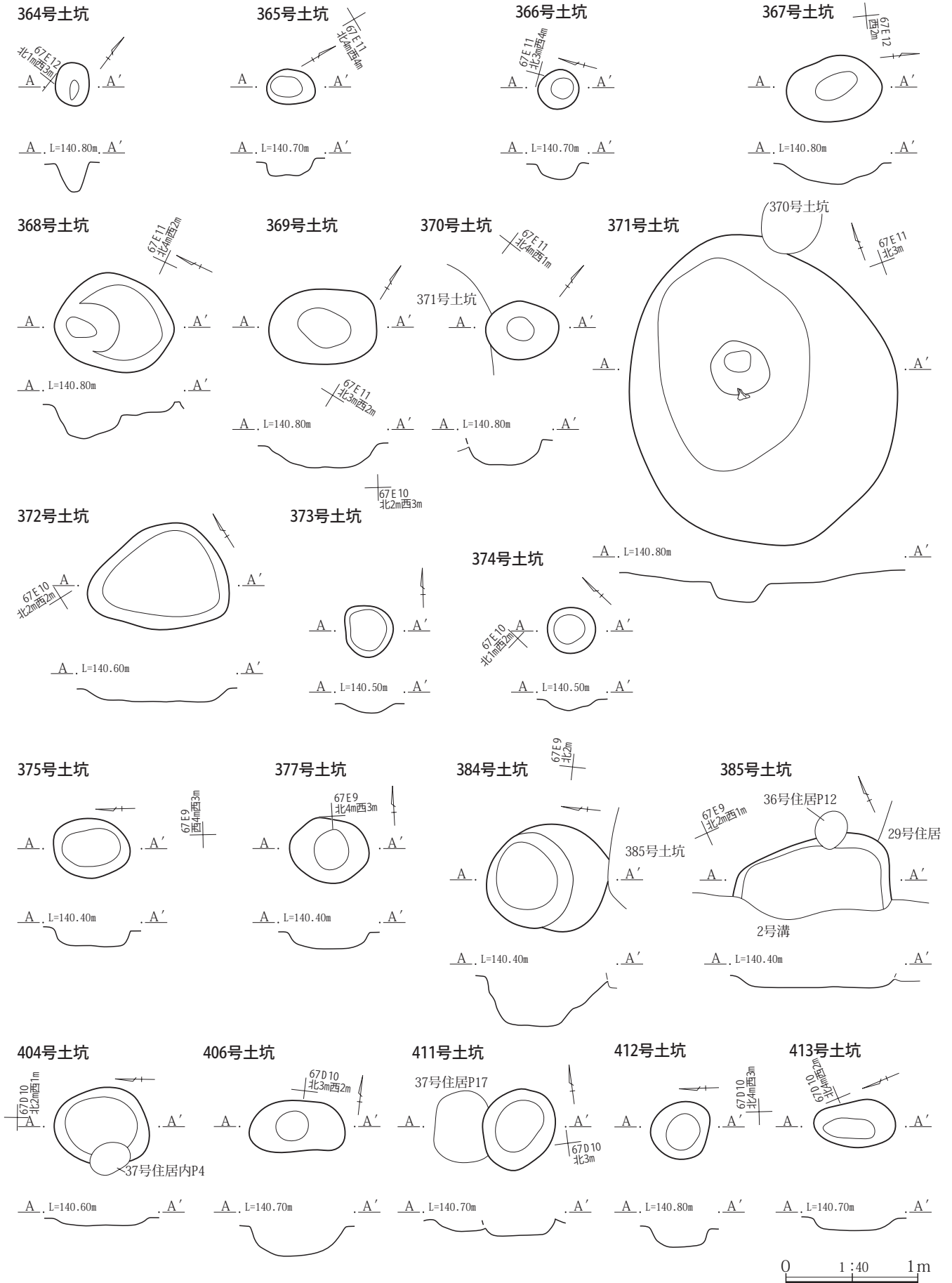
**長軸方位** N-18°-E **埋没土** 不明。**遺物** 掲載



第61図 258号~262号・265号~269号・290号・292号~295号・298号・302号・313号・322号・323号・475号土坑

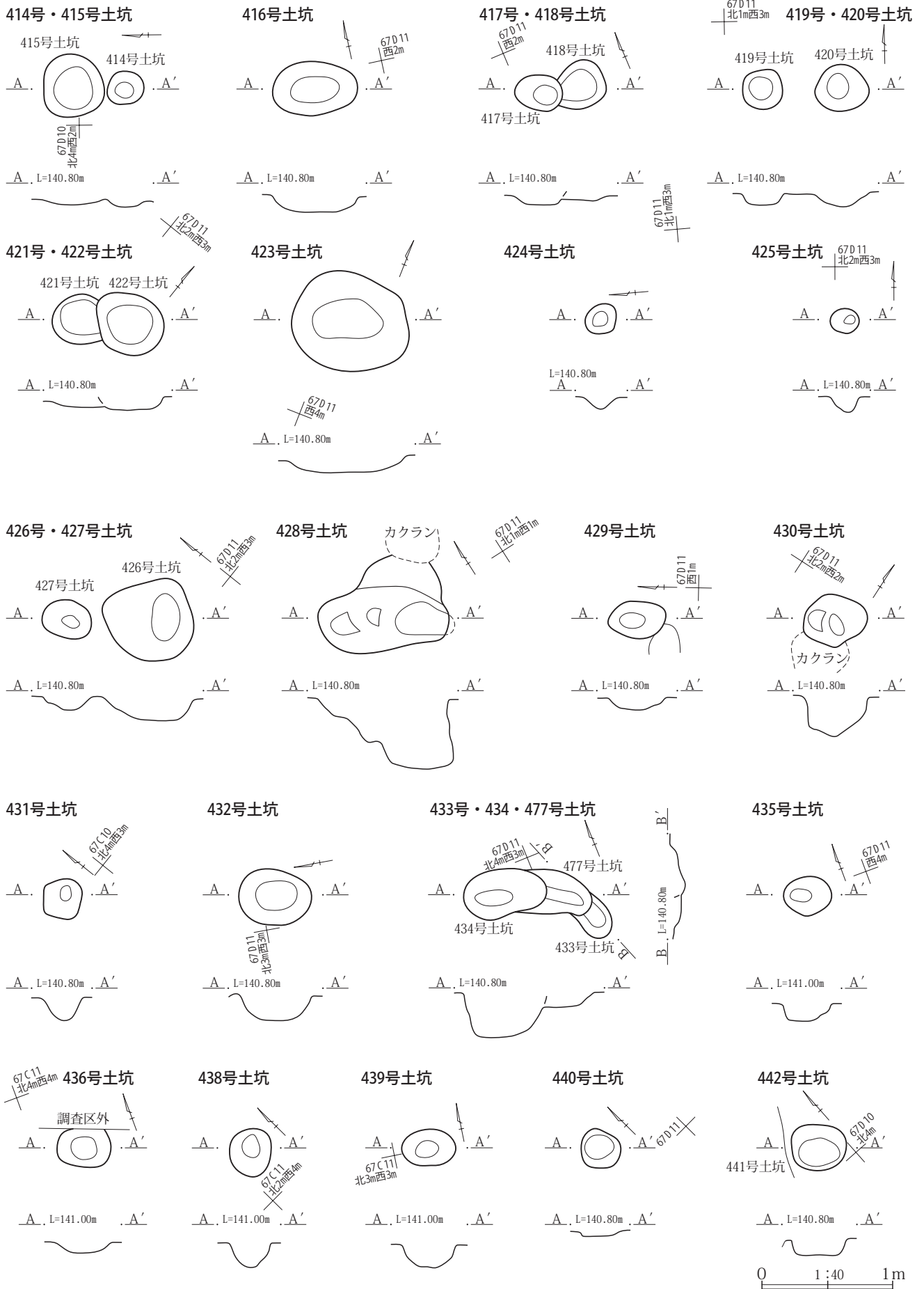


第62図 326号・328号・334号～339号・342号～350号・360号～363号土坑

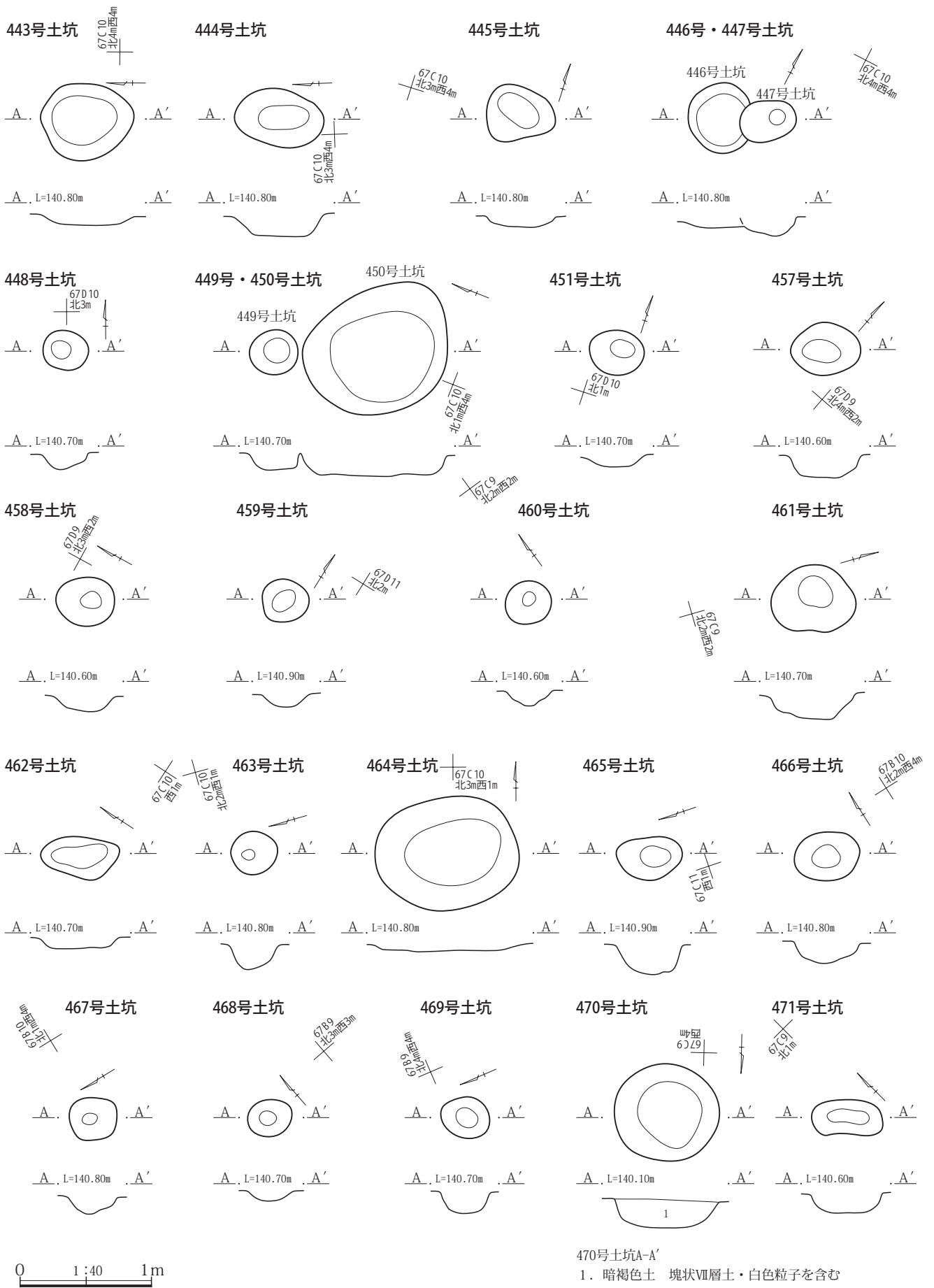


第63図 364号～375号・377号・384号・385号・404号・406号・411号～413号土坑

第3章 調査の内容



第64図 414号～436号・438号～440号・442号・477号土坑



第65図 443号～451号・457号～471号土坑

したのは、深鉢の胴部片(1)、打製石斧(2)である。未掲載土器は2点である。 **時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

473号土坑(第66図、PL.17)

**位置** 67-G-10 **重複** 31号住居を切る。

**形状** 不整形

**規模** 長軸(0.21m) 短軸0.25m 残存深度0.10m

**長軸方位** N-24°-E **埋没土** 不明。 **遺物** 出土したのは、未掲載土器1点のみである。 **時期** 土坑検出面から縄文時代とした。

475号土坑(第61・73 図、PL.17・63)

**位置** 67-H-12 **重複** 292号土坑に切られる。

**形状** 楕円形

**規模** 長軸1.30m 短軸1.16m 残存深度0.52m

**長軸方位** N-15°-E **埋没土** 微細状白色粒子を含むにぶい黄褐色土、微細状白色粒子と明黄褐色ブロックを含む黄褐色土、微細状白色粒子と明黄褐色ブロックを含む褐色土。 **遺物** 掲載したのは、深鉢の胴部片(1~3)、打製石斧(4)、敲石(5)、多孔石(6)である。打製石斧(4)、敲石(5)、多孔石(6)は、底面から50cm上の1層付近からの出土である。未掲載土器は5点、未掲載の石器は剥片1点である。 **時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

479号土坑(第66・73図、PL.17・64)

**位置** 67-G-12 **重複** 322号土坑に切られ、33号・34号住居を切る。 **形状** 不整形

**規模** 長軸(0.73m) 短軸0.38m 残存深度0.24m

**長軸方位** N-48°-W **埋没土** 不明。 **遺物** 掲載したのは、深鉢の胴部片(1・2)、打製石斧(3)である。未掲載土器は3点で、未掲載の石器は剥片1点である。 **時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

484号土坑(第66・74図、PL.17・64)

**位置** 67-D-11 **重複** なし。

**形状** 不整形

**規模** 長軸(0.65m) 短軸(0.60m) 残存深度0.20m

**長軸方位** N-78°-E **埋没土** 白色粒子とロームブロックを含む暗褐色土、白色粒子とロームブロックを含むにぶい黄褐色土。 **遺物** 掲載したのは、深鉢の胴部片(1・2)であり、底面から6cm、11cm上の3層から出土した。未掲載土器12点、未掲載の石器は剥片1点である。 **時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

494号土坑(第66・74図、PL.17・64)

**位置** 67-E-3 **重複** なし。

**形状** 円形

**規模** 長軸1.29m 短軸1.18m 残存深度0.82m

**長軸方位** N-90° **埋没土** 粒状炭化物、白色粒子、ロームブロックを含む黒褐色土・褐色土、浅黄褐色土と黒褐色土の混土のローム層。 **遺物** 掲載したのは、深鉢の胴部片(1~6)、打製石斧(7)である。1のみ諸磯式である。4は底面から17cm上から出土しており、6層からの出土と考えられる。未掲載土器は20点、未掲載の石器は、剥片24点である。 **時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

510号土坑(第67・74図、PL.17・64)

**位置** 67-C-2 **重複** なし。

**形状** 楕円形

**規模** 長軸0.75m 短軸0.67m 残存深度0.06m

**長軸方位** N-70°-E **埋没土** ロームブロックを含む暗褐色土。 **遺物** 掲載したのは、深鉢の口縁部片(1)である。未掲載土器は21点である。 **時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

511号土坑(第67・75図、PL.17・64)

**位置** 67-H-13 **重複** なし。

**形状** 楕円形

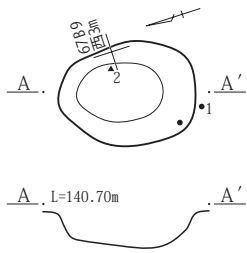
**規模** 長軸0.81m 短軸0.62m 残存深度0.22m

**長軸方位** N-60°-E **埋没土** 白色粒子とロームブロックを含む暗褐色土。 **遺物** 掲載したのは、深鉢の胴部片(1)、打製石斧(2)、敲石?(3)である。2と3は、2層直上から出土した。未掲載土器は1点、未掲載の石器は、加工痕のある剥片1点である。

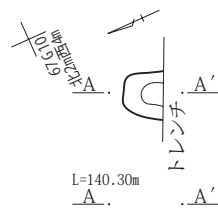
**時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と



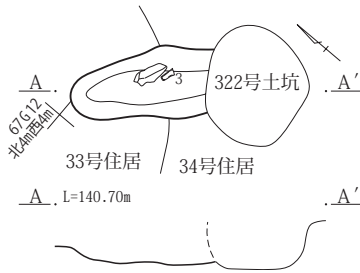
472号土坑



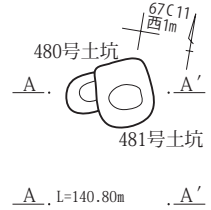
473号土坑



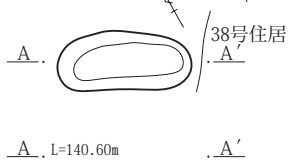
479号土坑



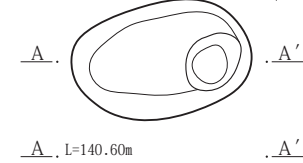
480号・481号土坑



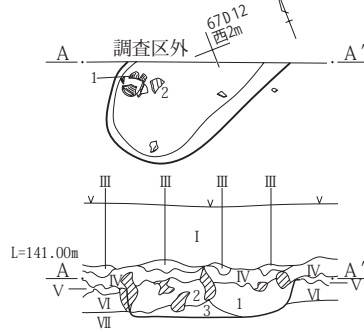
482号土坑



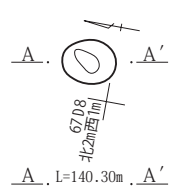
483号土坑



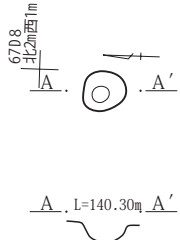
484号土坑



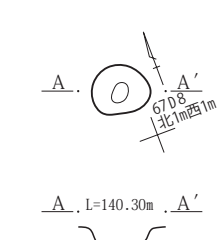
485号土坑



486号土坑



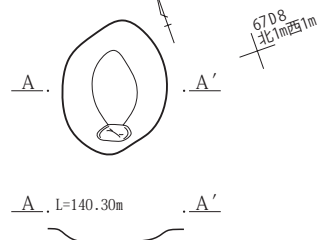
487号土坑



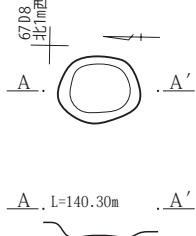
484号土坑A-A'

1. 暗褐色土 小塊状VI層土を含む
2. 暗褐色土 白色粒子を少量含む
3. にぶい黄褐色土 白色粒子を若干、小塊状VII層土を含む

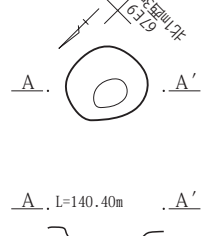
488号土坑



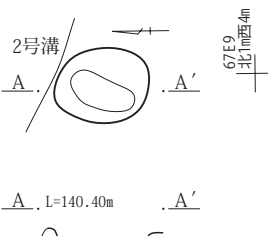
489号土坑



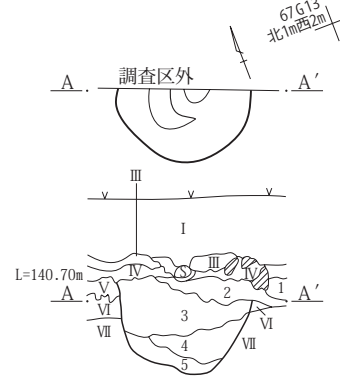
490号土坑



491号土坑



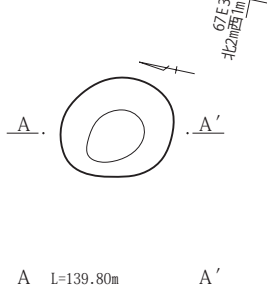
492号土坑



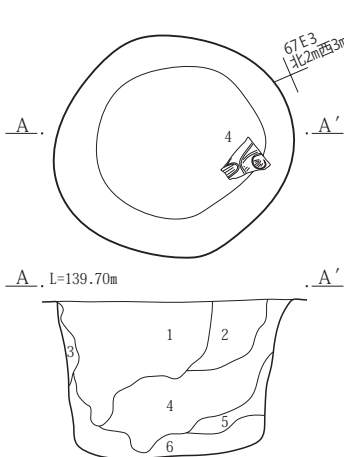
492号土坑A-A'

1. 黒褐色土 白色粒子(Cに似る)・黄褐色軽石を含む(34住)
2. 黒褐色土 黄褐色軽石を少量含む(34住)
3. 暗褐色土 細粒黄褐色軽石を含む
4. 暗褐色土 小塊状VII層土を含み、細粒黄褐色軽石を少量含む
5. 暗褐色土 小塊状VII層土を少量含む

493号土坑



494号土坑



494号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粒状炭化物・白色粒子を含み、小塊状VI層土を少量含む
2. 褐色土 粒状炭化物・白色粒子を含み、小塊状VII層土を少量含む
3. 黒褐色土とVII層土(塊状)との混土
4. 塊状VII層土 浅黄橙色土と黒褐色土との混土
5. 塊状VII層土 浅黄橙色土少量と黒褐色土多量との混土
6. 塊状VII層土 浅黄橙色土少量と黒褐色土を含む混土



第66図 472号・473号・479号～494号土坑

考えられる。

514号土坑(第67・75図、PL.17・64)

位置 67-G-12 重複 なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.79m 短軸0.78m 残存深度0.28m

長軸方位 N-9°-E 埋没土 白色粒子とロームブロックを含む暗褐色土。遺物 掲載したのは、深鉢の胴部片(1・2)である。未掲載土器は1点である。

時期 出土遺物から、縄文時代中期の加曽利E3式期と考えられる。

515号土坑(第67・75図、PL.17・64・65)

位置 67-G-12 重複 なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.99m 短軸0.80m 残存深度0.42m

長軸方位 N-60°-E 埋没土 白色粒子とロームブロックを含む黄褐色土。遺物 掲載したのは、深鉢の口縁～胴部(1)、口縁部片(2)、胴部片(3～7)である。

1の破片の出土位置は、30cm前後の高低差があり、正位置に据えたのか、逆位置に据えたのか判断できない。未掲載土器は6点である。時期 出土遺物から、縄文時代中期の加曽利E3式期と考えられる。

516号土坑(第67・75図、PL.17・65)

位置 67-G-12 重複 なし。

形状 楕円形

規模 長軸1.09m 短軸0.96m 残存深度0.46m

長軸方位 N-19°-E 埋没土 白色粒子とロームブロックを含む暗褐色土。遺物 掲載したのは、深鉢の胴部片(1～3)である。未掲載土器は5点である。

時期 出土遺物から、縄文時代中期の加曽利E3式期と考えられる。

518号土坑(第68・76図、PL.17・65)

位置 67-G-12 重複 なし。

形状 隅丸方形

規模 長軸0.78m 短軸0.73m 残存深度0.16m

長軸方位 N-30°-W 埋没土 ロームブロックを含むにぶい黄褐色土。遺物 掲載したのは、深鉢の口縁

～胴部上半(1)、石製品(2)である。1の破片の出土位置は、8cm程の高低差があり、正位置に据えたのか、逆位置に据えたのか判断できるものはなかった。未掲載の石器は、剥片1点である。時期 出土遺物から、縄文時代中期の加曽利E3式期と考えられる。

519号土坑(第68・76図、PL.17・65)

位置 67-G-12 重複 522号土坑に切られ、525号土坑を切っている。形状 不整形

規模 長軸1.08m 短軸(1.09m) 残存深度0.62m

長軸方位 N-28°-E 埋没土 白色粒子とロームブロックを含む黄褐色土。遺物 掲載したのは、深鉢の口縁部片(1)、胴部片(2～8)、打製石斧(9)である。

未掲載土器は8点、未掲載の石器は、加工痕のある剥片1点、剥片1点である。時期 出土遺物から、縄文時代中期の加曽利E3式期と考えられる。

520号土坑(第68図、PL.17)

位置 67-H-12 重複 521号土坑を切る。

形状 楕円形

規模 長軸0.68m 短軸0.67m 残存深度0.15m

長軸方位 N-0° 埋没土 白色粒子とロームブロックを含む黄褐色土。遺物 なし。

時期 埋没土から縄文時代とした。

521号土坑(第68・72図、PL.17・66)

位置 67-G-12 重複 520号土坑に切られ、523号土坑を切っている。

形状 楕円形

規模 長軸1.02m 短軸0.86m 残存深度0.37m

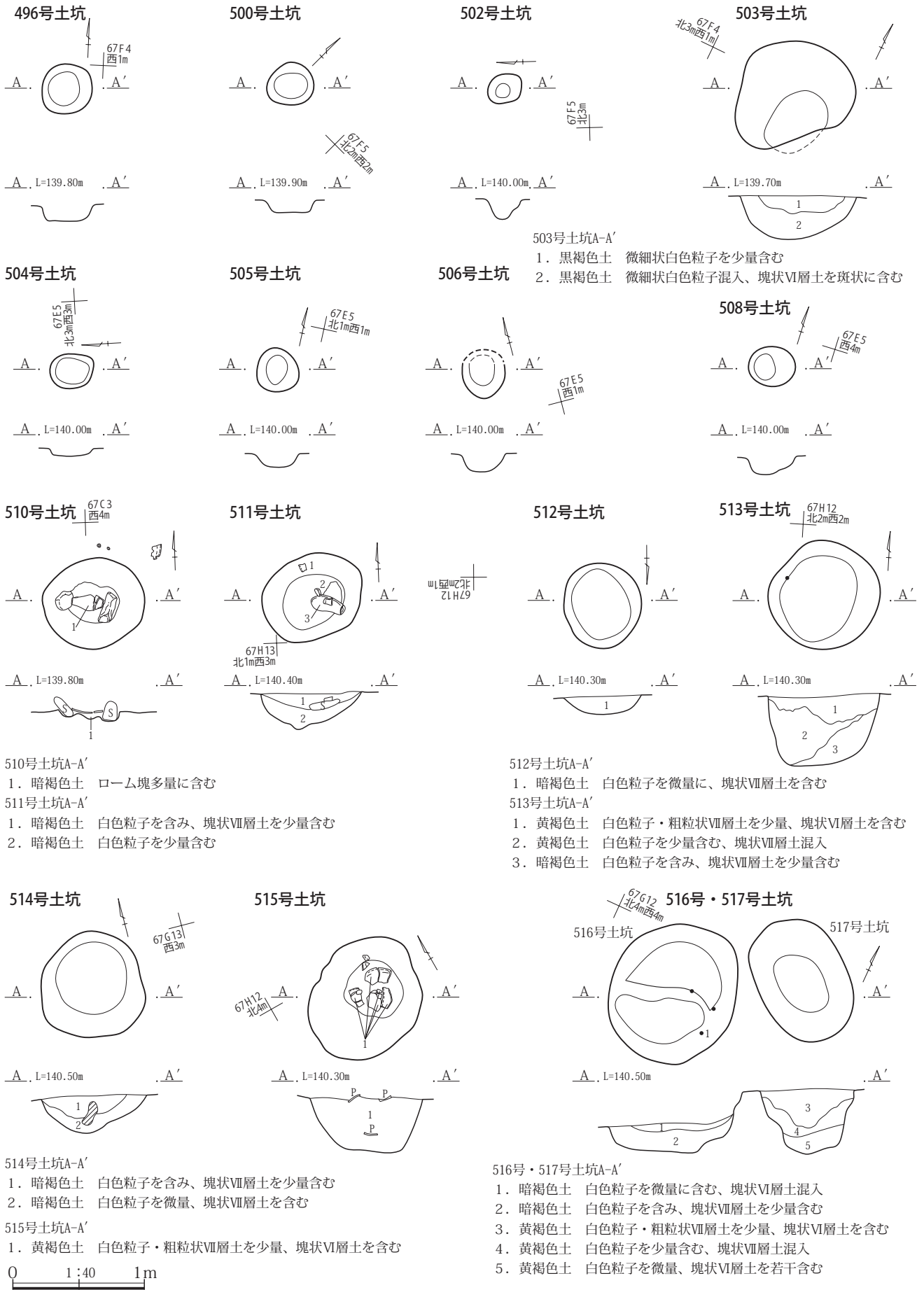
長軸方位 N-24°-W 埋没土 白色粒子とロームブロックを含む暗褐色土。遺物 掲載したのは、深鉢の口縁部片(1)、胴部片(2)、打製石斧(3・4)である。未掲載土器は3点、未掲載の石器は剥片5点である。

時期 出土遺物から、縄文時代中期の加曽利E3式期と考えられる。

522号土坑(第68・77図、PL.18・66)

位置 67-G-12 重複 519号土坑を切る。

形状 円形



第67図 496号・500号・502号～506号・508号・510号～517号土坑

**規模** 長軸0.80m 短軸0.76m 残存深度0.49m  
**長軸方位** N-8°-E **埋没土** 白色粒子とロームブロックを含む暗褐色土。**遺物** 出土した遺物は、掲載した深鉢の口縁部片(1)のみである。**時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

523号土坑(第68図)

**位置** 67-G-12 **重複** 521号土坑に切られている。  
**形状** 楕円形  
**規模** 長軸0.74m 短軸(0.70m) 残存深度0.38m  
**長軸方位** N-48°-E **埋没土** 白色粒子とロームブロックを含む黄褐色土。**遺物** なし。**時期** 埋没土から縄文時代とした。

555号土坑(第70図)

**位置** 67-F-11 **重複** 556号土坑を切る。  
**形状** 楕円形  
**規模** 長軸1.15m 短軸0.71m 残存深度0.55m  
**長軸方位** N-90° **埋没土** 不明。**遺物** なし。  
**時期** 土坑検出面が縄文2面目のため、縄文時代とした。

556号土坑(第70図、PL.18)

**位置** 67-F-11 **重複** 555号土坑に切られている。  
**形状** 楕円形  
**規模** 長軸1.37m 短軸0.97m 残存深度0.41m  
**長軸方位** N-12°-E **埋没土** 白色粒子とロームブロックを含むにぶい橙色土・暗褐色土。**遺物** 出土したのは、未掲載土器1点、未掲載の剥片1点である。  
**時期** 埋没土から縄文時代とした。

561号土坑(第70図、PL.18)

**位置** 67-N-9 **重複** なし。  
**形状** 楕円形  
**規模** 長軸1.12m 短軸0.90m 残存深度0.14m  
**長軸方位** N-25°-W **埋没土** 不明である。**遺物** 未掲載の円礫(現場廃棄ずみ)が多数出土した。いずれも被熱の痕跡はない。浅い掘り込みに円礫を並べている。  
**時期** 遺構確認面より縄文時代とした。

565号土坑(第70・77図、PL.18・66)

**位置** 67-M-12 **重複** なし。

**形状** 楕円形  
**規模** 長軸1.60m 短軸1.15m 残存深度0.18m  
**長軸方位** N-20°-W **埋没土** 白色粒子とロームブロックを含む暗褐色土。**遺物** 掲載したのは、深鉢の胴部片(1)である。未掲載土器は2点、未掲載の石器は、加工痕のある剥片2点、現場廃棄した大型河床礫1点、河床礫2点である。大型河床礫は、1号配石の用材に類似している。**時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

566号土坑(第70・77図、PL.18・66)

**位置** 67-N-12 **重複** なし。  
**形状** 不整形  
**規模** 長軸1.37m 短軸0.70m 残存深度0.07m  
**長軸方位** N-79°-W **埋没土** 白色粒子とロームブロックを含む暗褐色土。**遺物** 掲載したのは、諸磯c式土器(1)のみである。未掲載土器は2点である。  
**時期** 出土遺物から、縄文時代前期の諸磯c式期と考えられる。

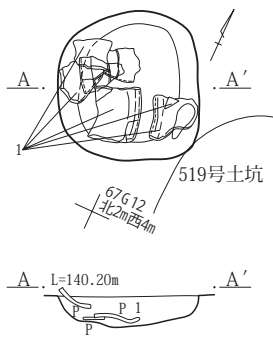
567号土坑(第70図、PL.18)

**位置** 67-N-12 **重複** なし。  
**形状** 不整形  
**規模** 長軸1.37m 短軸0.70m 残存深度0.15m  
**長軸方位** N-18°-W **埋没土** 白色粒子とロームブロックを含む暗褐色土。**遺物** 未掲載土器は1点、未掲載の石器は、現場廃棄した大型河床礫1点である。これは、565号土坑出土の大型河床礫同様、1号配石の用材に類似している。**時期** 埋没土から縄文時代とした。

568号土坑(第71・77図、PL.18・66)

**位置** 67-N-12 **重複** なし。  
**形状** 楕円形  
**規模** 長軸1.88m 短軸0.90m 残存深度0.21m  
**長軸方位** N-54°-W **埋没土** 白色粒子とロームブロックを含む暗褐色土。**遺物** 掲載したのは、深鉢の胴部片(1・2)である。未掲載土器は7点である。  
**時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

518号土坑



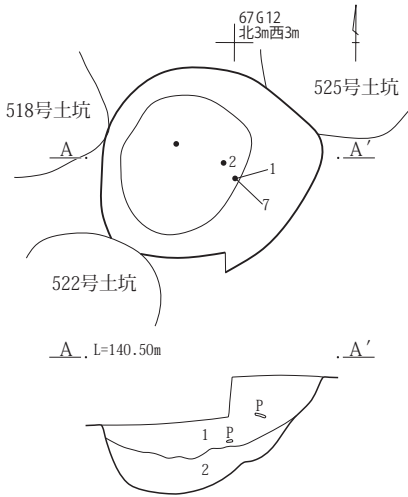
518号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 ローム塊を含む

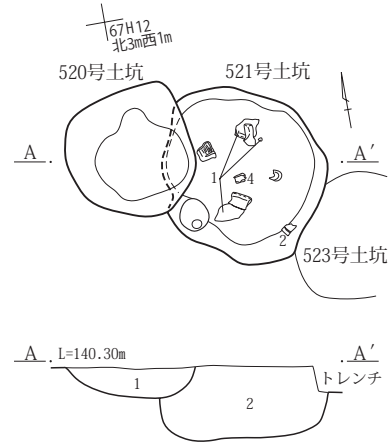
519号土坑A-A'

1. 黄褐色土 白色粒子・粗粒状VII層土を少量、塊状VI層土を含む
2. 黄褐色土 白色粒子を微量、塊状VI層土を若干含む

519号土坑



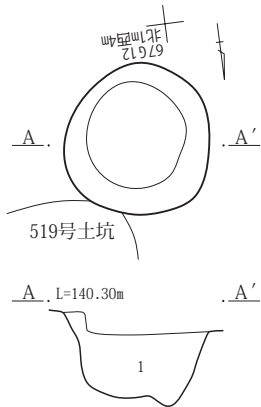
520号・521号土坑



520号・521号土坑A-A'

1. 黄褐色土 白色粒子を少量含む、塊状VII層土混入
2. 暗褐色土 白色粒子を微量に含む、塊状VI層土混入

522号土坑



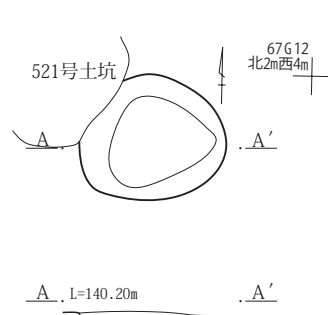
522号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色粒子を微量、塊状VII層土を含む

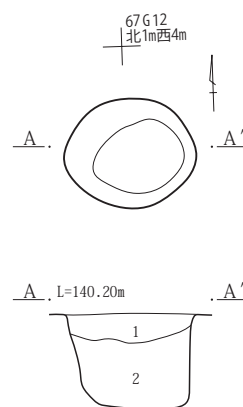
523号土坑A-A'

1. 黄褐色土 白色粒子・粗粒状VII層土を少量、塊状VI層土を含む

523号土坑



524号土坑



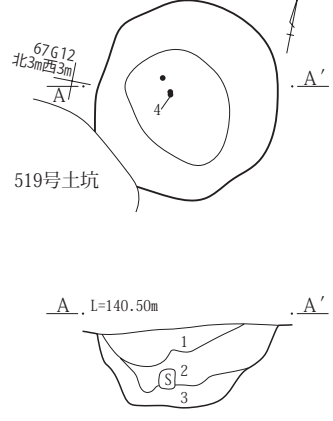
524号土坑A-A'

1. 黄褐色土 白色粒子を少量含む、塊状VII層土混入
2. 暗褐色土 白色粒子を微量含む、塊状VI層土混入

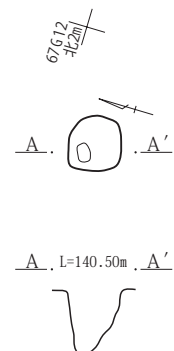
525号土坑A-A'

1. 黄褐色土 白色粒子・粗粒状VII層土を少量、塊状VI層土を含む
2. 黄褐色土 白色粒子を微量、塊状VI層土を若干含む
3. 暗褐色土 白色粒子を微量含む、塊状VI層土混入

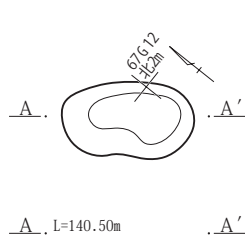
525号土坑



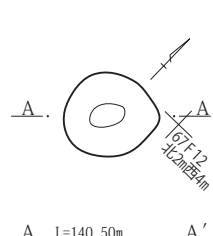
526号土坑



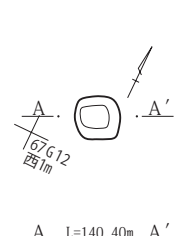
527号土坑



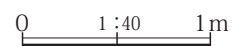
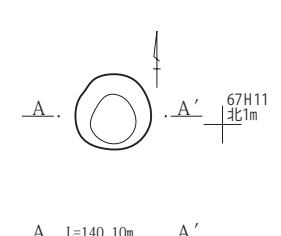
528号土坑



529号土坑

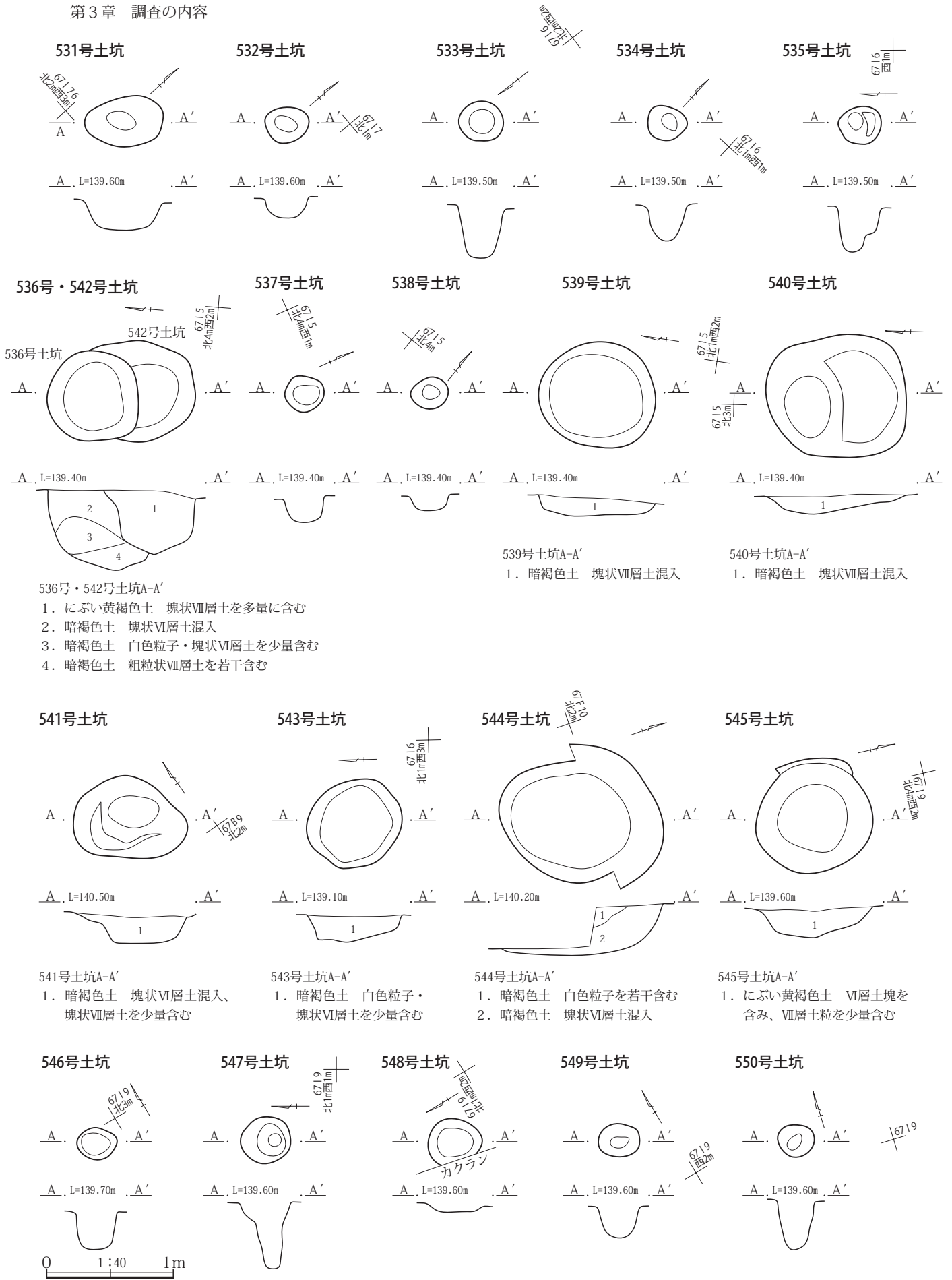


530号土坑



第68図 518号～530号土坑

第3章 調査の内容



536号・542号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 塊状VII層土を多量に含む
2. 暗褐色土 塊状VI層土混入
3. 暗褐色土 白色粒子・塊状VI層土を少量含む
4. 暗褐色土 粗粒状VII層土を若干含む

539号土坑A-A'

1. 暗褐色土 塊状VII層土混入

540号土坑A-A'

1. 暗褐色土 塊状VII層土混入

541号土坑A-A'

1. 暗褐色土 塊状VI層土混入、塊状VII層土を少量含む

543号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色粒子・塊状VI層土を少量含む

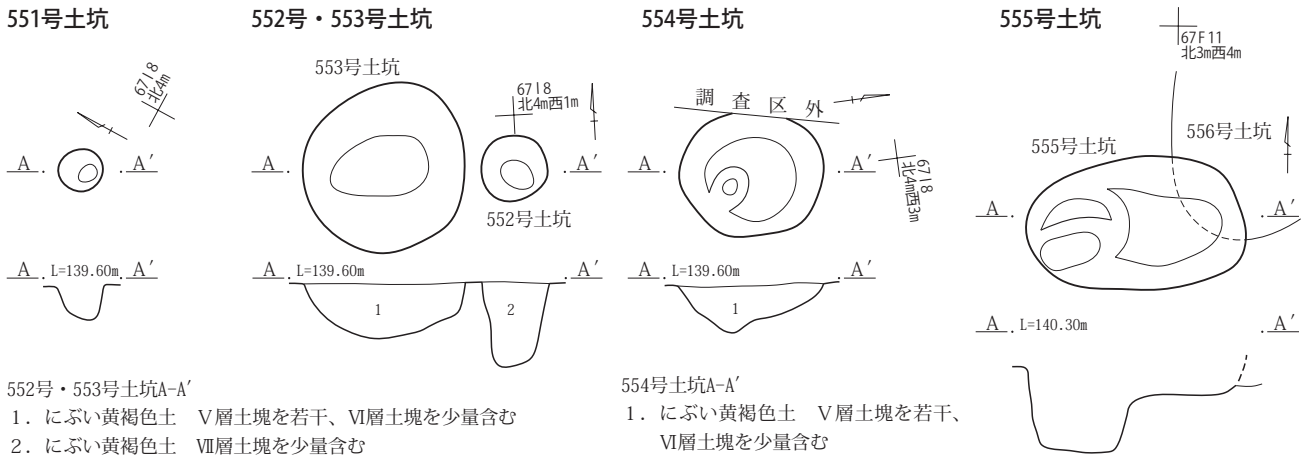
544号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色粒子を若干含む
2. 暗褐色土 塊状VI層土混入

545号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 VI層土塊を含み、VII層土粒を少量含む

第69図 531号～550号土坑

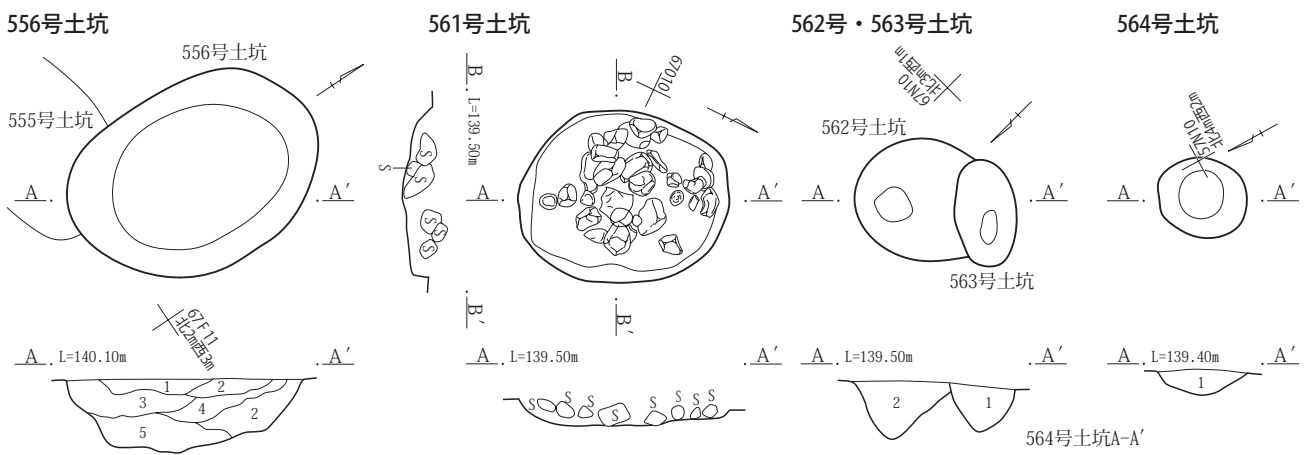


552号・553号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 V層土塊を若干、VI層土塊を少量含む
2. にぶい黄褐色土 VII層土塊を少量含む

554号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 V層土塊を若干、VI層土塊を少量含む



556号土坑A-A'

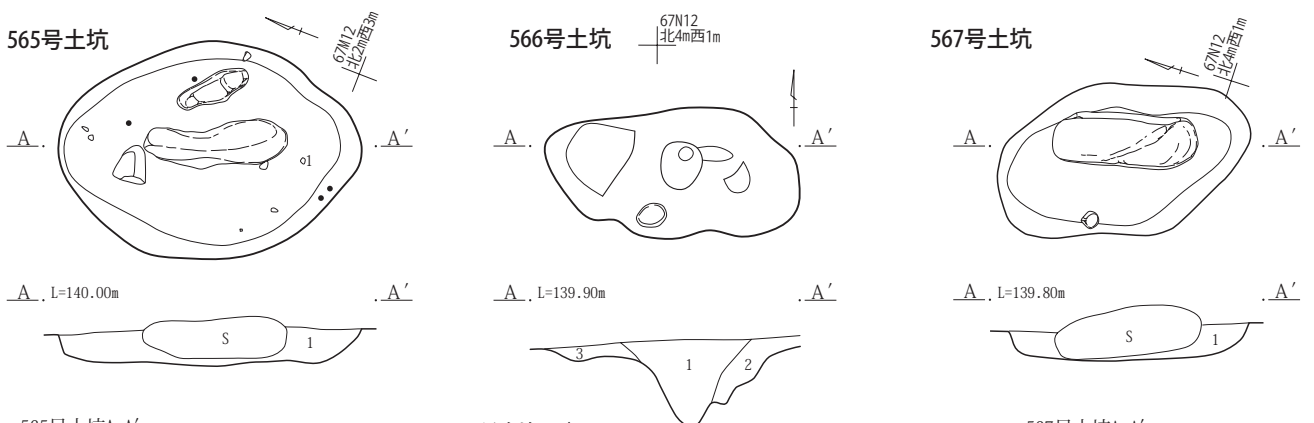
1. にぶい橙色土 白色細粒子を含み、塊状VII層土を多量に含む
2. 暗褐色土 白色細粒子を含み、塊状VII層土を少量含む
3. にぶい橙色土 白色細粒子を少量含む、塊状VII層土混入
4. 暗褐色土 白色細粒子を含み、塊状VII層土を若干含む
5. 暗褐色土 白色細粒子を含み、塊状VI層土を少量含む

562・563号土坑A-A'

1. 暗褐色土 細粒状白色粒子を若干含む
2. 暗褐色土 塊状VI層土を含む

564号土坑A-A'

1. 暗褐色土 塊状VII層土混入、細粒状白色粒子を微量に含む



565号土坑A-A'

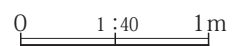
1. 暗褐色土 細粒状白色粒子・塊状VI層土を含む

566号土坑A-A'

1. 暗褐色土 細粒状白色粒子を少量、塊状VI層土を含む
2. 暗褐色土 塊状VI層土混入
3. 暗褐色土 塊状VI層土を少量含む

567号土坑A-A'

1. 暗褐色土 細粒状白色粒子・塊状VI層土を含む



第70図 551号～556号・561号～567号土坑

569号土坑(第71・77図、PL.18・66)

位置 67-M-12 重複 なし。

形状 楕円形

規模 長軸1.86m 短軸1.02m 残存深度0.14m

長軸方位 N-82°-E 埋没土 白色粒子とロームブロックを含む暗褐色土。遺物 出土したのは、両耳壺(1)のみである。時期 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

570号土坑(第71・77図、PL.18・66)

位置 67-N-13 重複 なし。

形状 楕円形

規模 長軸1.12m 短軸0.83m 残存深度0.11m

長軸方位 N-18°-W 埋没土 白色粒子とロームブロックを含む暗褐色土。遺物 掲載したのは、深鉢の胴部片(1・2)である。未掲載土器は2点、未掲載の石器は石鏃1点、現場廃棄した大型河床礫1点である。これもまた、565号・567号土坑出土の大型河床礫同様、1号配石の用材に類似している。時期 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

665号土坑(第71図、PL.18)

位置 56-E-13 重複 なし。

形状 不整形

規模 長軸(1.42m) 短軸(1.10m) 残存深度0.95m

長軸方位 N-0° 埋没土 にぶい黄褐色土、ロームブロックを含むにぶい黄褐色土、ロームブロックを含む暗褐色土、暗褐色土とローム層土の混土。遺物 なし。

時期 旧石器トレンチ調査中に断面を確認したため、縄文時代とした。

675号土坑(第71・77図、PL.66)

位置 67-G-12 重複 33号住居を切る。

形状 楕円形

規模 長軸1.35m 短軸1.19m 残存深度0.68m

長軸方位 N-38°-E 埋没土 にぶい黄褐色土、にぶい黄褐色土と黒褐色土の混土。遺物 掲載したのは、深鉢の胴部片(1・2)、打製石斧(3)である。未掲載の土器は9点、未掲載の石器は8点である。時期 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

676号土坑(第71・77図、PL.66)

位置 67-G-12 重複 677・680号土坑に切られ、33号住居、302号土坑を切っている。形状 不整形

規模 長軸0.88m 短軸0.80m 残存深度0.17m

長軸方位 N-54°-E 埋没土 微細白色粒子を含むにぶい黄褐色土。遺物 掲載したのは、深鉢の口縁部片(1)、胴部片(2)である。未掲載の土器は4点である。時期 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

677号土坑(第71図)

位置 67-G-12 重複 680号土坑に切られ、33号住居P9・P10、676号土坑を切っている。

形状 楕円形

規模 長軸1.03m 短軸0.85m 残存深度0.36m

長軸方位 N-35°-E 埋没土 にぶい黄褐色土と黒褐色土の混土。遺物 未掲載の土器は2点、未掲載の石器は1点である。時期 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

678号土坑(第71・77図、PL.18・66)

位置 67-H-12 重複 33号住居、298号土坑を切っている。形状 楕円形

規模 長軸0.86m 短軸0.75m 残存深度0.23m

長軸方位 N-23°-W 埋没土 白色粒子とロームブロックを含むにぶい黄褐色土・黒褐色土。

遺物 出土したのは、深鉢の口縁部片(1・2)、胴部片(3)、多孔石(4)である。未掲載の円礫・角礫が1点ずつ678号土坑の上に載るような形で出土した。(現場廃棄ずみ)3は、土坑検出前に点上げしていたため、37cm上から出土し、2は、14cm上の1層から出土している。1は、16cm上の2層から出土している。4は、底面直上での出土である。時期 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E3式期と考えられる。

679号土坑(第71・78図、PL.18・66)

位置 67-H-13 重複 33号住居を切る。

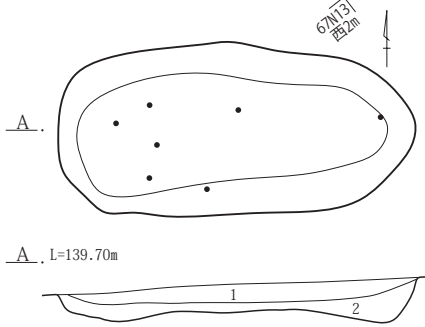
形状 楕円形

規模 長軸0.83m 短軸0.52m 残存深度0.21m

長軸方位 N-51°-W 埋没土 不明。



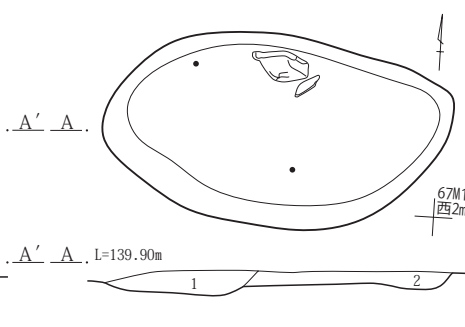
568号土坑



568号土坑A-A'

1. 暗褐色土 細粒状白色粒子を少量含む
2. 暗褐色土 塊状VI層土を含む

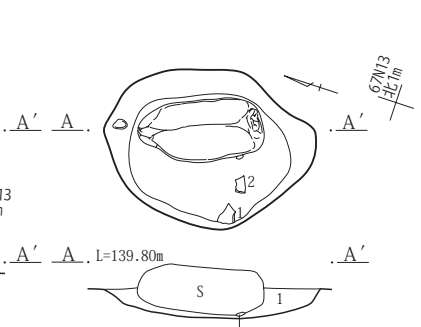
569号土坑



569号土坑A-A'

1. 暗褐色土 細粒状白色粒子を少量、塊状VI層土を含む
2. 暗褐色土 塊状VI層土を少量含む

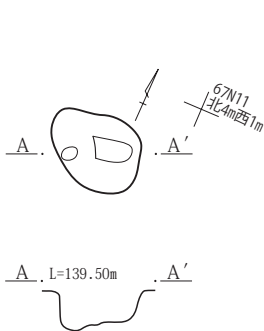
570号土坑



570号土坑A-A'

1. 暗褐色土 細粒状白色粒子・塊状VI層土を含む

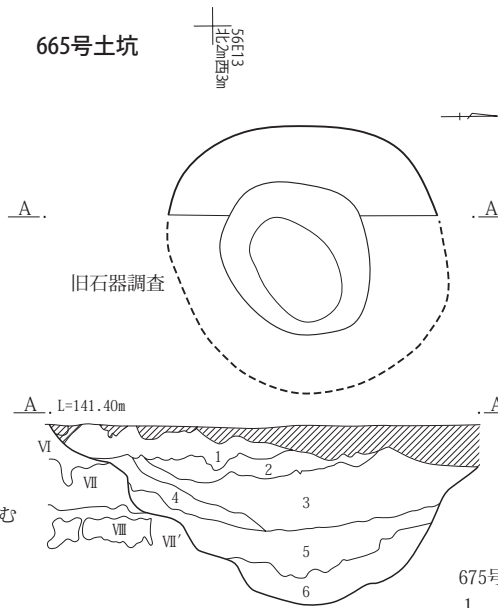
633号土坑



633号土坑A-A'

1. にぶい橙色土
2. にぶい橙色土 塊状VII層土混入
3. にぶい橙色土 塊状VII層土を多量に含む
4. 2層土と同質
5. 暗褐色土 粗粒状VII層土混入
6. 暗褐色土とVI層土の混土状

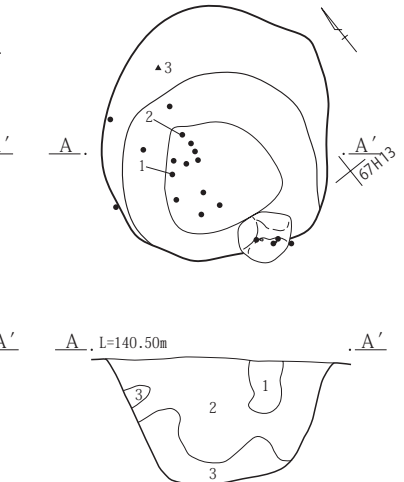
665号土坑



旧石器調査

665号土坑A-A'

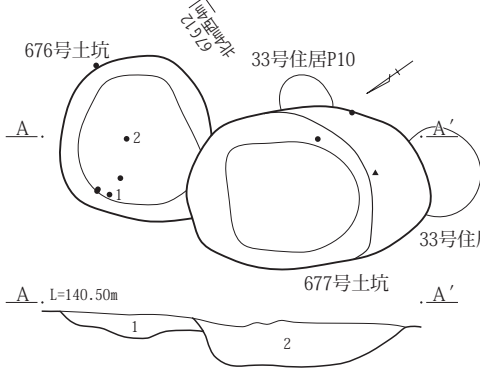
675号土坑



675号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土
2. にぶい黄褐色土と黒褐色土の混土
3. にぶい黄褐色土と黒褐色土の混土、黒色土が多い

676号・677号土坑



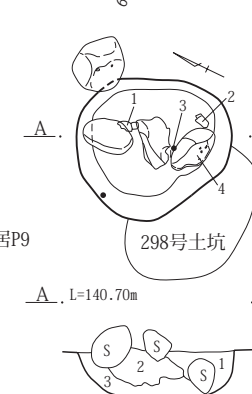
676号・677号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 微細白色粒子を少量含む
2. にぶい黄褐色土と黒褐色土の混土

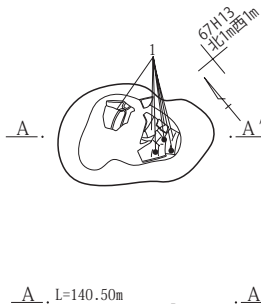
678号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 白色粒子を微量に含む
2. にぶい黄褐色土 小塊状VII層土・小塊状VI層土の混土、白色粒子を含む
3. 黒褐色土 小塊状VI層土混入、白色粒子を微量に含む

678号土坑



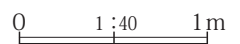
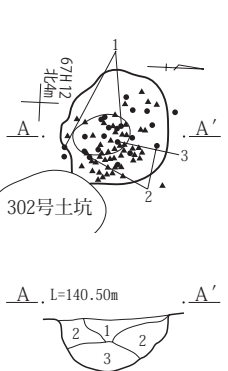
679号土坑



680号土坑A-A'

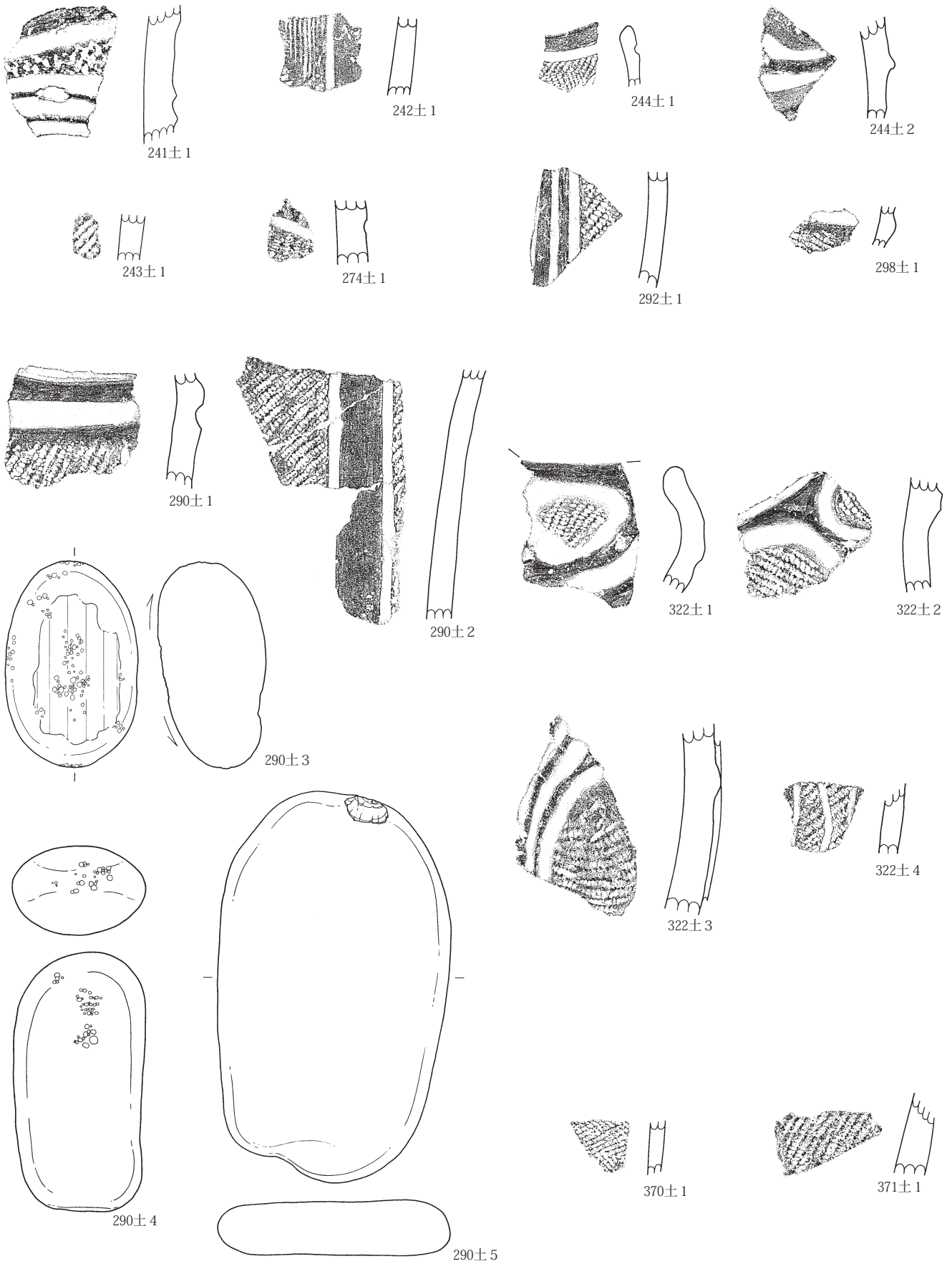
1. 黒褐色土 角粒状炭化物を少量、粒状焼土を若干含む
2. 黒褐色土 小塊状VII層土を若干含む、小塊状VI層土混入
3. 黒褐色土 小塊状VI層土を含む

680号土坑

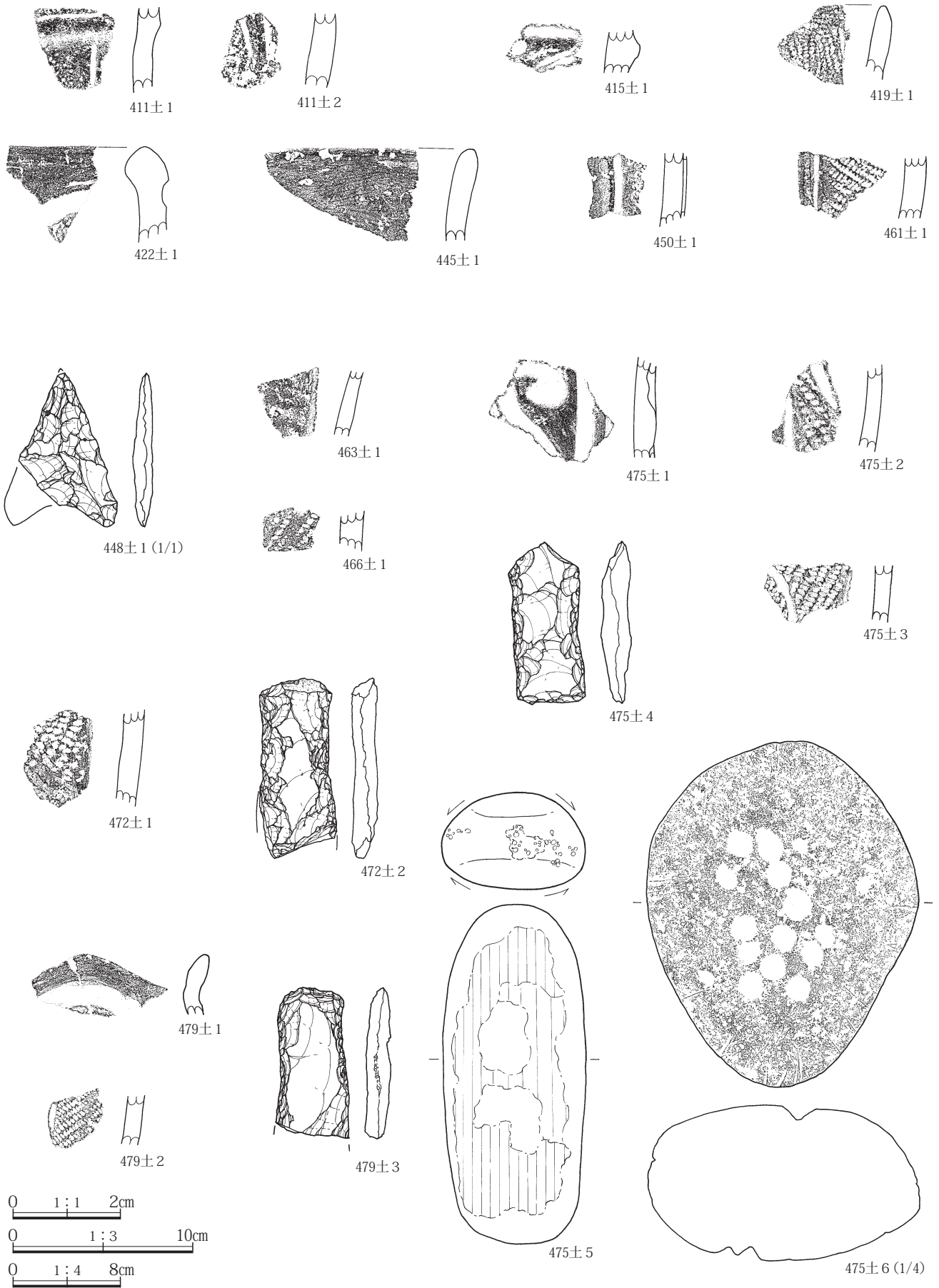


第71図 568号～570号・633号・665号・675号～680号土坑

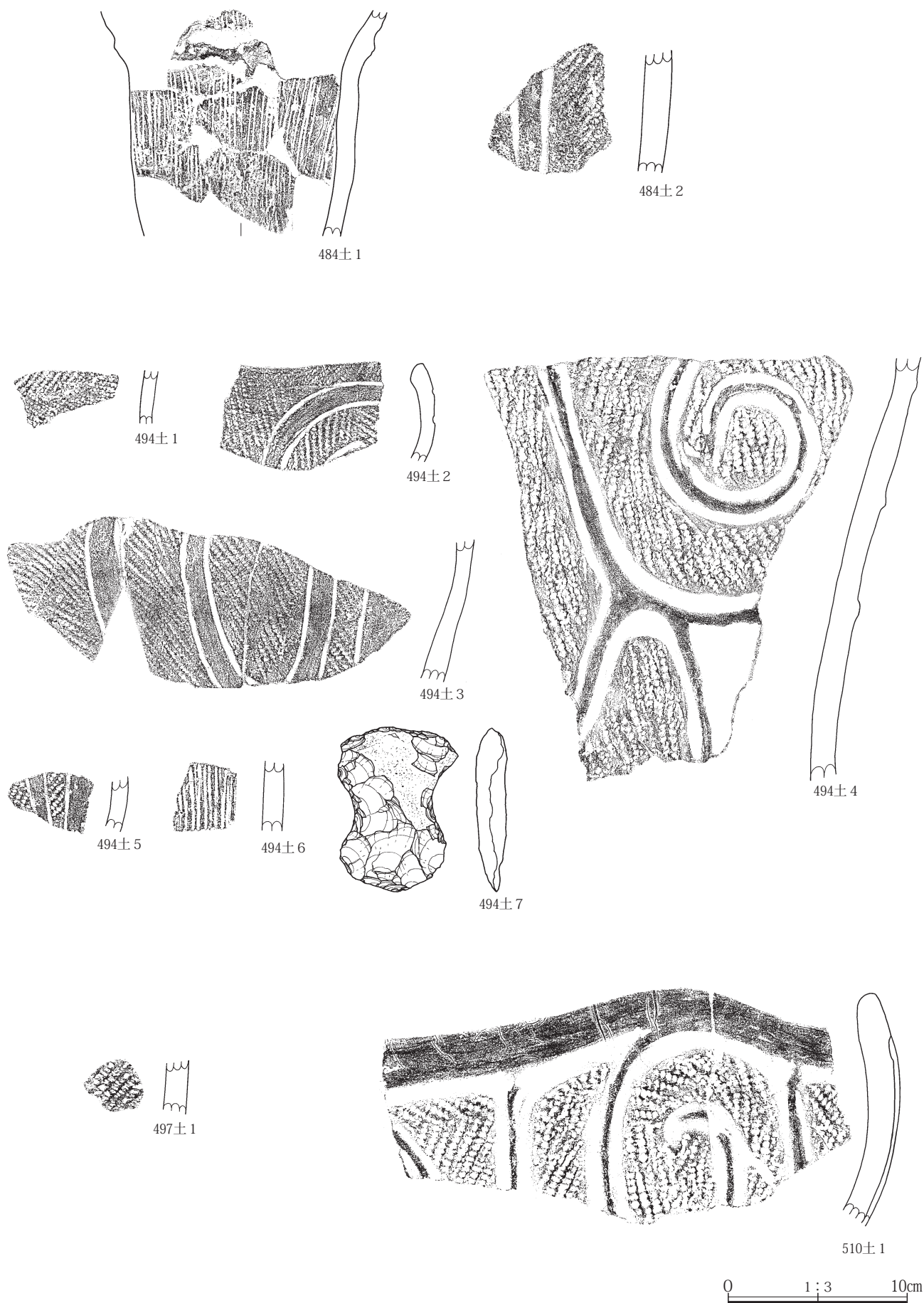
第3章 調査の内容



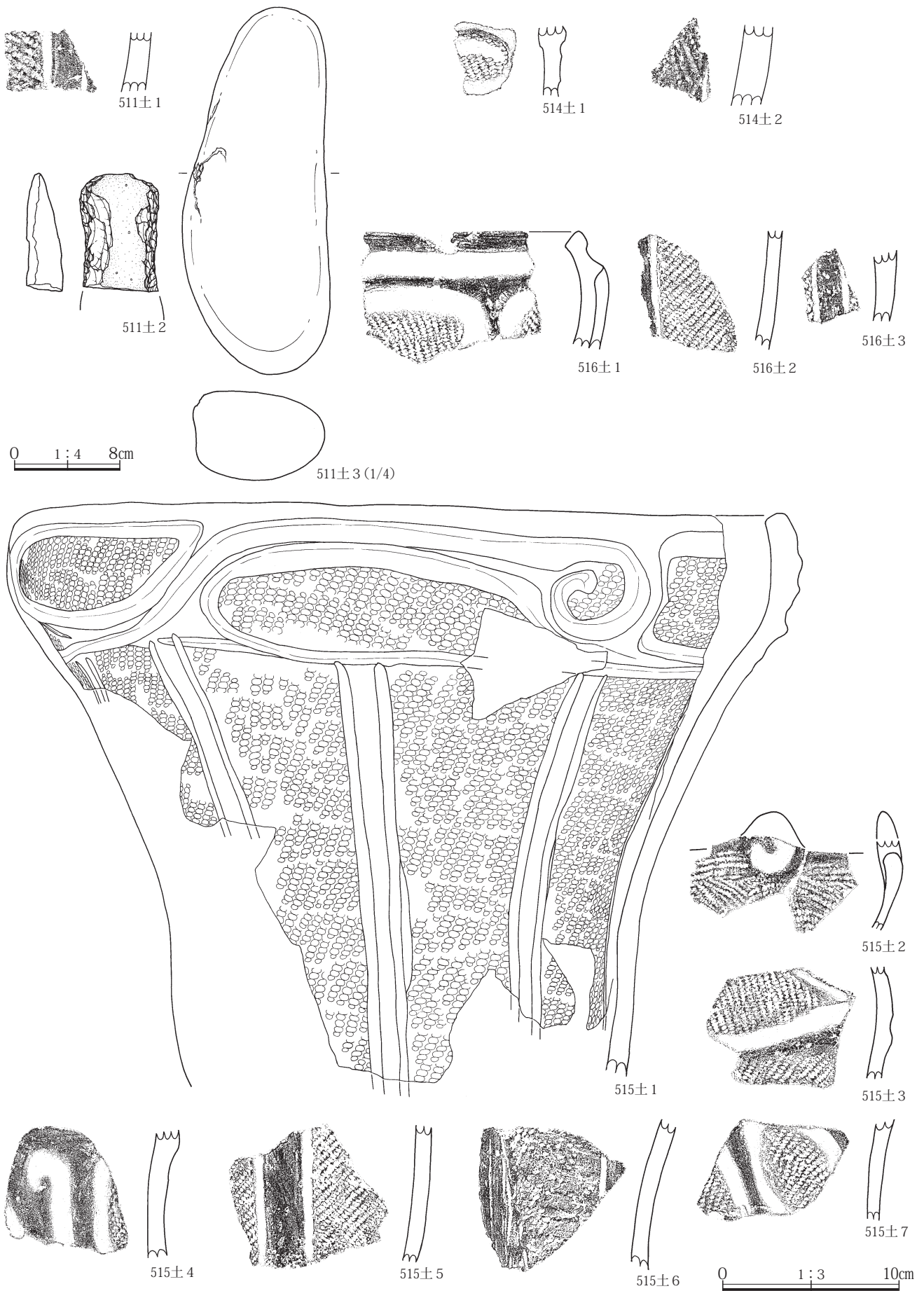
第72図 241号～244号・274号・290号・292号・298号・  
322号・370号・371号土坑出土遺物



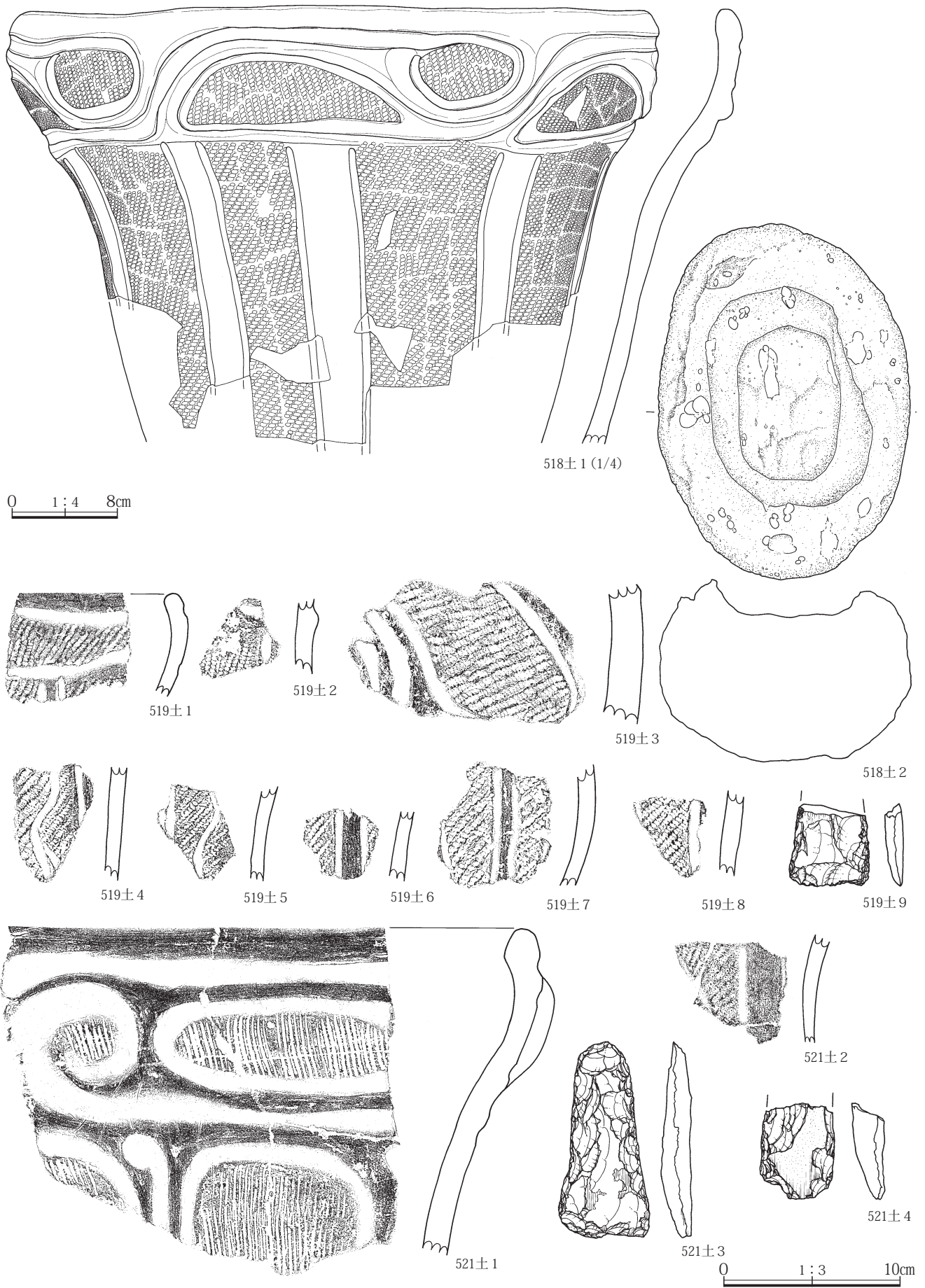
第73図 411号・415号・419号・422号・445号・448号・450号・461号・463号・  
 466号・472号・475号・479号土坑出土遺物



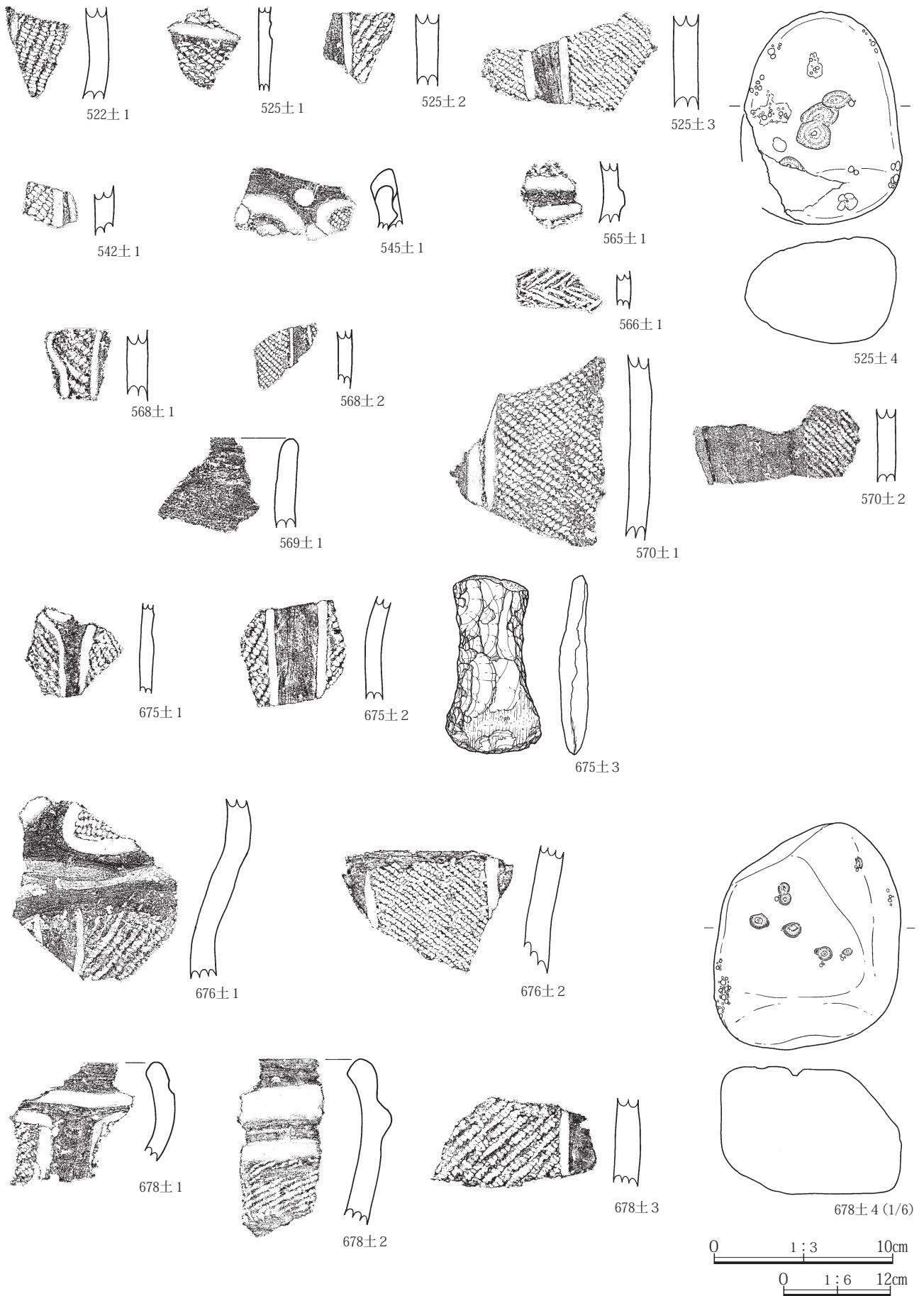
第74図 484号・494号・497号・510号土坑出土遺物



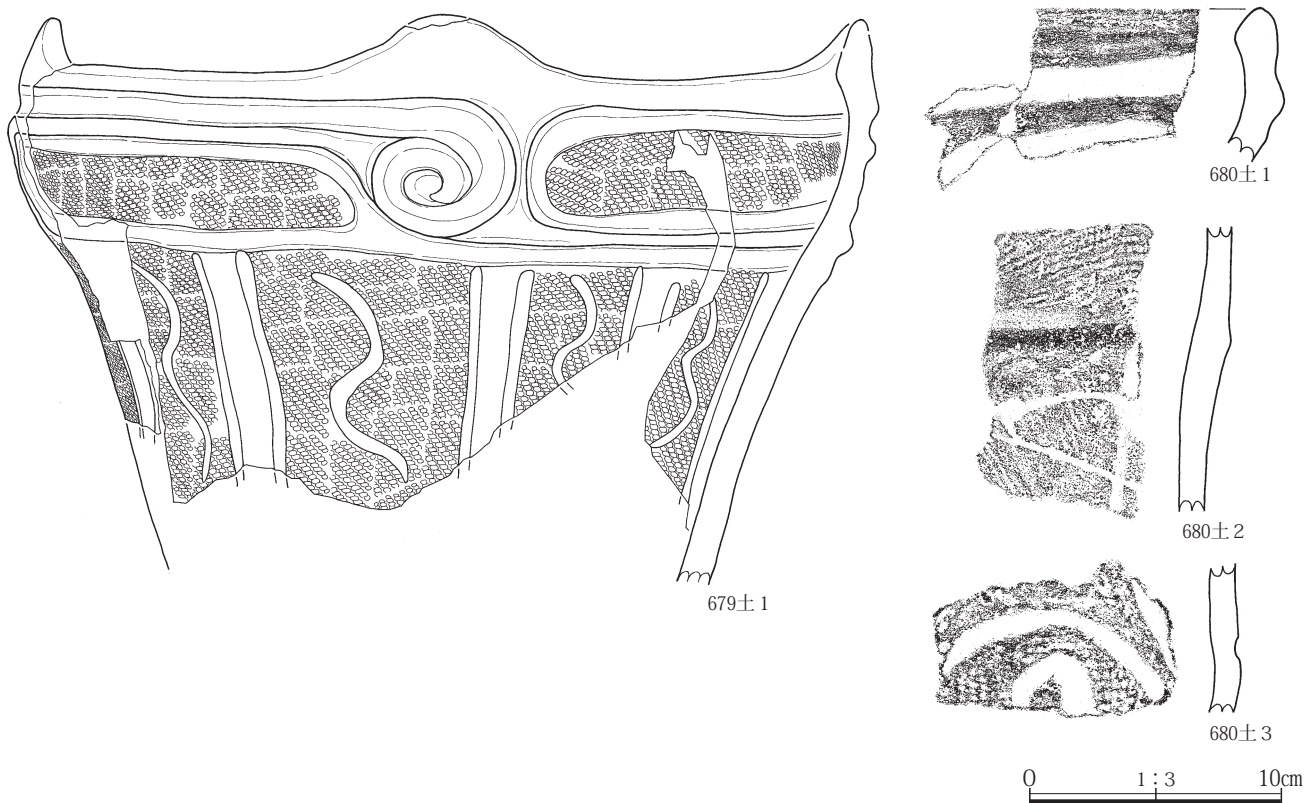
第75図 511号・514号～516号土坑出土遺物



第76図 518号・519号・521号土坑出土遺物



第77図 522号・525号・542号・545号・565号・566号・568号～570号・675号・676号・678号土坑出土遺物



第78図 679号・680号土坑出土遺物

**遺物** 出土したのは、深鉢の口縁～胴部上半(1)のみである。1の破片は、底面から13cmほど上で大きく2つに分かれた位置にあり、いずれも口縁部を南に向けている。そのため、正位置に据えたのか、逆位置に据えたのか判断できない。**時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E 3式期と考えられる。

**680号土坑**(第71・78図、PL.18・66)

**位置** 67-G-12 **重複** 33号住居、302号・676号・677号土坑を切る。 **形状** 不整形

**規模** 長軸0.60m 短軸0.57m 残存深度0.28m

**長軸方位** N-87°-E **埋没土** 角粒状炭化物和粒状焼土を含む黒褐色土、ロームブロックを含む黒褐色土。

**遺物** 掲載したのは、深鉢の口縁部片(1)、胴部片(2・3)である。未掲載の土器は17点、未掲載の石器は直径5cm～10cmの円礫50点以上である。(円礫は、現場廃棄ずみ) **時期** 出土遺物から、縄文時代中期の加曾利E 3式期と考えられる。

## 6. 遺構外出土の縄文土器(第79～82図、PL.67～69)

縄文時代の遺構に伴わない縄文土器113点を扱う。なお、遺構外出土の石器は弥生時代の石器との判別が難しいため、次節で取り上げる。出土土器は、早期の撚糸文系～晩期の安行3式まで見られるが、住居と同じ中期の加曾利E 3式期が大部分である。

縄文時代の遺構外出土の未掲載縄文土器は、2,178点にのぼる。そのうち、縄文住居のある67区の一括上げの遺物は947点と多い。

### 早期：撚糸文系土器

2点のみ出土。1は67区西側のフク土から出土した。かなり細い撚糸文を施文した深鉢の口縁部である。3は6号住居のカマドフク土から出土した。表裏に浅く条痕(絡状体条痕か)を施した胴部である。

### 早期：鶴ヶ島台式土器

1点のみ出土。2は30号住居周辺から出土した鶴ヶ島台式土器である。胴部の上下に文様帯を区画し、隆起線で縦位や斜位に文様を描き、隆起線間に細かい刺突を加



える。さらに文様の交差部分などへ円形刺突を配し、裏面には条痕を施している。

#### 前期：花積下層 I 式土器

1点のみ出土。4は67区東側のフク土から出土した胴部下半に0段多条のLRと0段多条RLによる縦長な菱状となる縄文を施した胴部である。

#### 前期：有尾・黒浜式土器

胎土に繊維を含む有尾・黒浜式土器は、調査区フク土で点々と11点出土した。5～7は平口縁の口縁下に爪形刺突をもつ平行沈線を2列巡らせ、胴部にLRやRLの縄文を施す黒浜式、8～15は、羽状縄文を施す有尾・黒浜式である。

#### 前期：諸磯式土器

11点出土。1号住居から出土した16以外の17～26が67区東側から出土した。16～19は、胴部に集合沈線で弧状や菱状などの文様を描くもの、円形貼付文を配すものなどである。20～24・26は、胴部下半に斜位の条線で文様を描き、小さな粒状の貼付文を配すもの、平行沈線で鋸歯文を重畳するもの、縦位の矢羽根状沈線をもつものなどである。25のみ、胴部にLRとRLによる結束羽縄文を施す諸磯式で、その他は諸磯c式である。

#### 中期：五領ヶ台式土器

67区東側から3点出土。27は、胴部に平行沈線で楕円状の文様を描き、区画内に斜格子状の沈線を施す。28は、胴部に平行沈線を巡らせ、文様帯を区画し、区画内に平行沈線を斜位に施す。29は、胴部下半にLの結節縄文を縦位に施す。

#### 中期：勝坂式土器

調査区フク土や14号住居フク土から4点出土し、30～33全て同一個体と認定した。胴部に刻みをもつ隆帯と脇に幅広竹管具の刺突およびペン先状刺突を沿わせてV字状等の文様を描く。

#### 中期：加曾利E式土器

図示した土器の34～60、64～110の74点が内反する

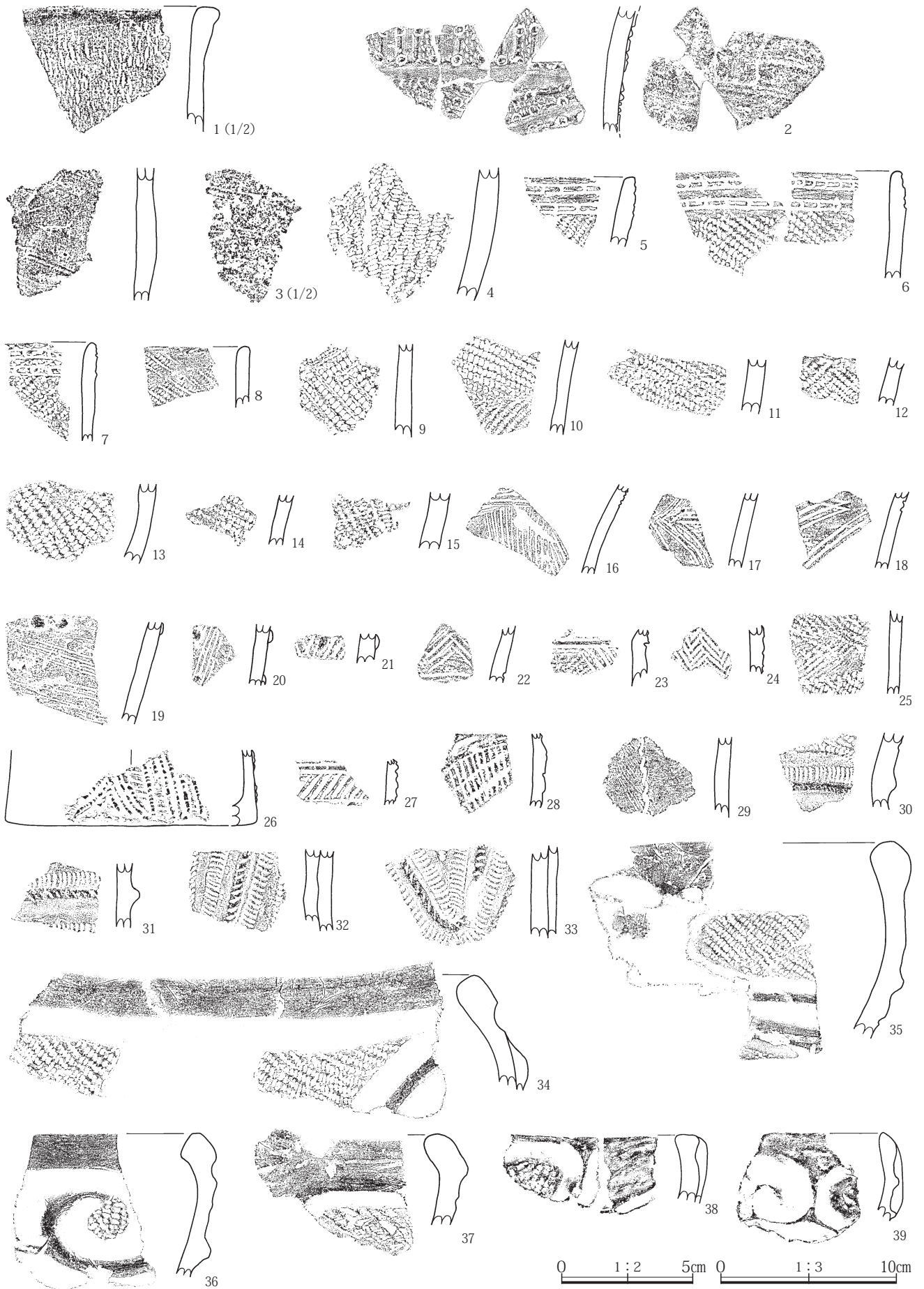
平口縁や小波状口縁の胴部に沈線や隆帯などで懸垂文を垂下させ縄文を縦位に施す加曾利E3式である。61・62は加曾利E4式、63は加曾利E式である。特徴として、縄文集落の展開する67区東側から多く出土していることがわかる。キャリパー形を呈する深鉢が76点出土した。63のみ土製品と考えられ、先端が尖る楕円形の破片の表面にRLの縄文を充填し周縁部を赤彩して、長軸上に孔を開けている。

#### 後期：称名寺式土器

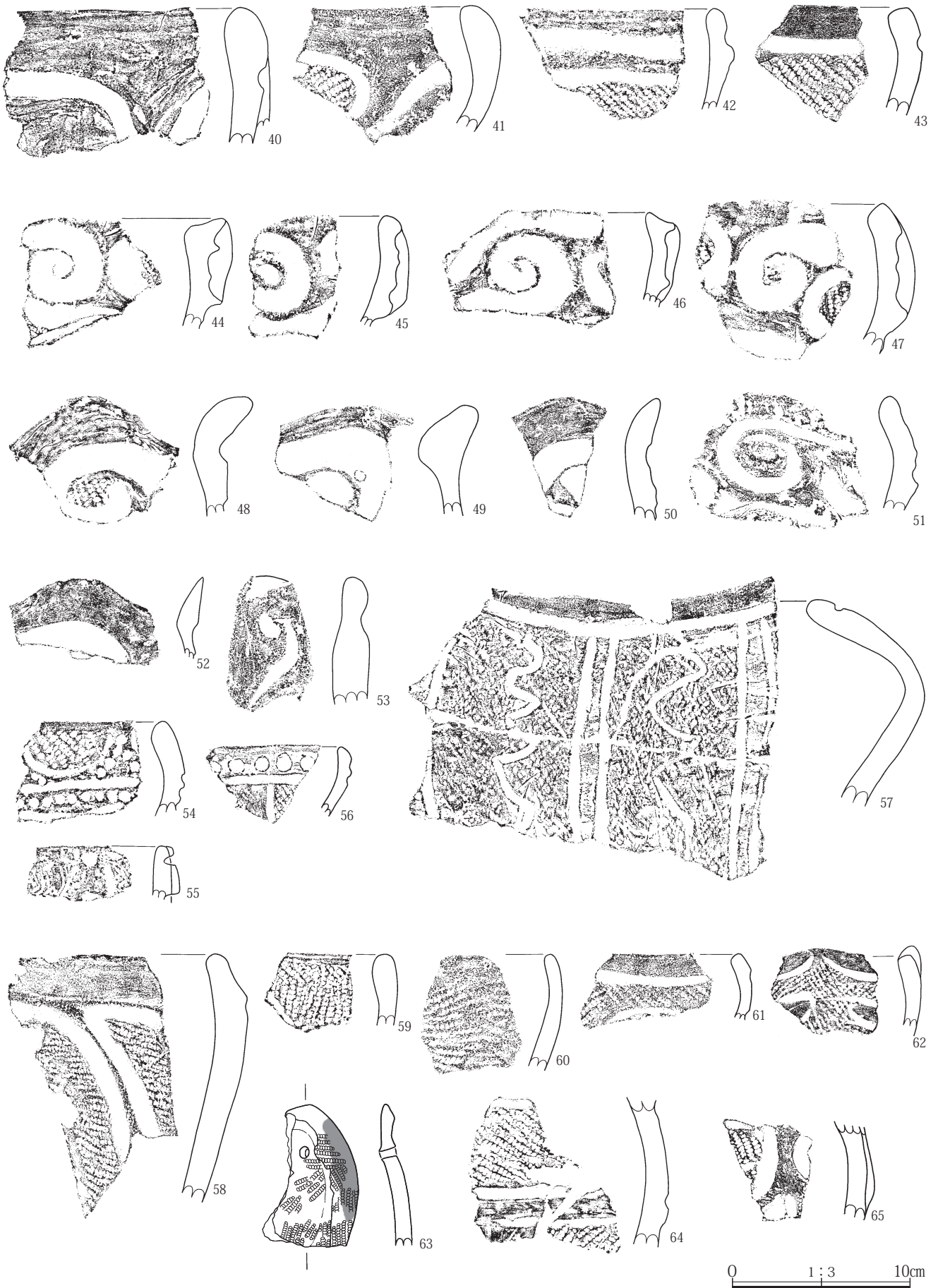
調査区フク土から2点のみ出土。111は直線的に内斜する平口縁で、口縁下に隆帯を巡らせて口縁部無文帯を区画する。112は胴部下半に沈線で曲線的な文様を描く。

#### 晩期：安行3式土器

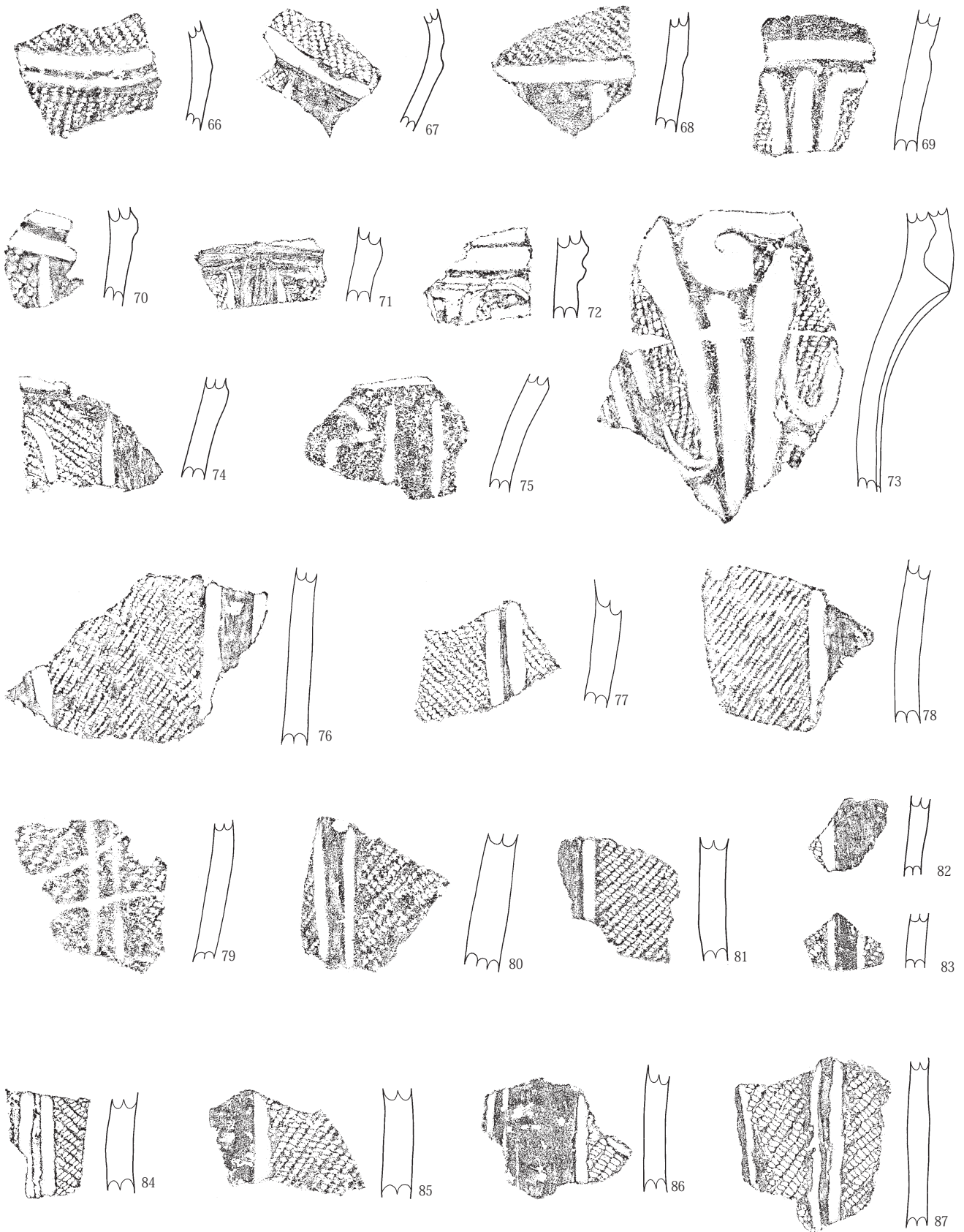
1点のみ出土。113は55区フク土から出土した。波状口縁の波底部に小突起をもち、口縁下に沈線で孤状の文様を描き、さらに沈線を巡らせて口縁部文様帯を区画して、文様内にはLRの縄文を施す。



第79図 遺構外出土の縄文土器(1)

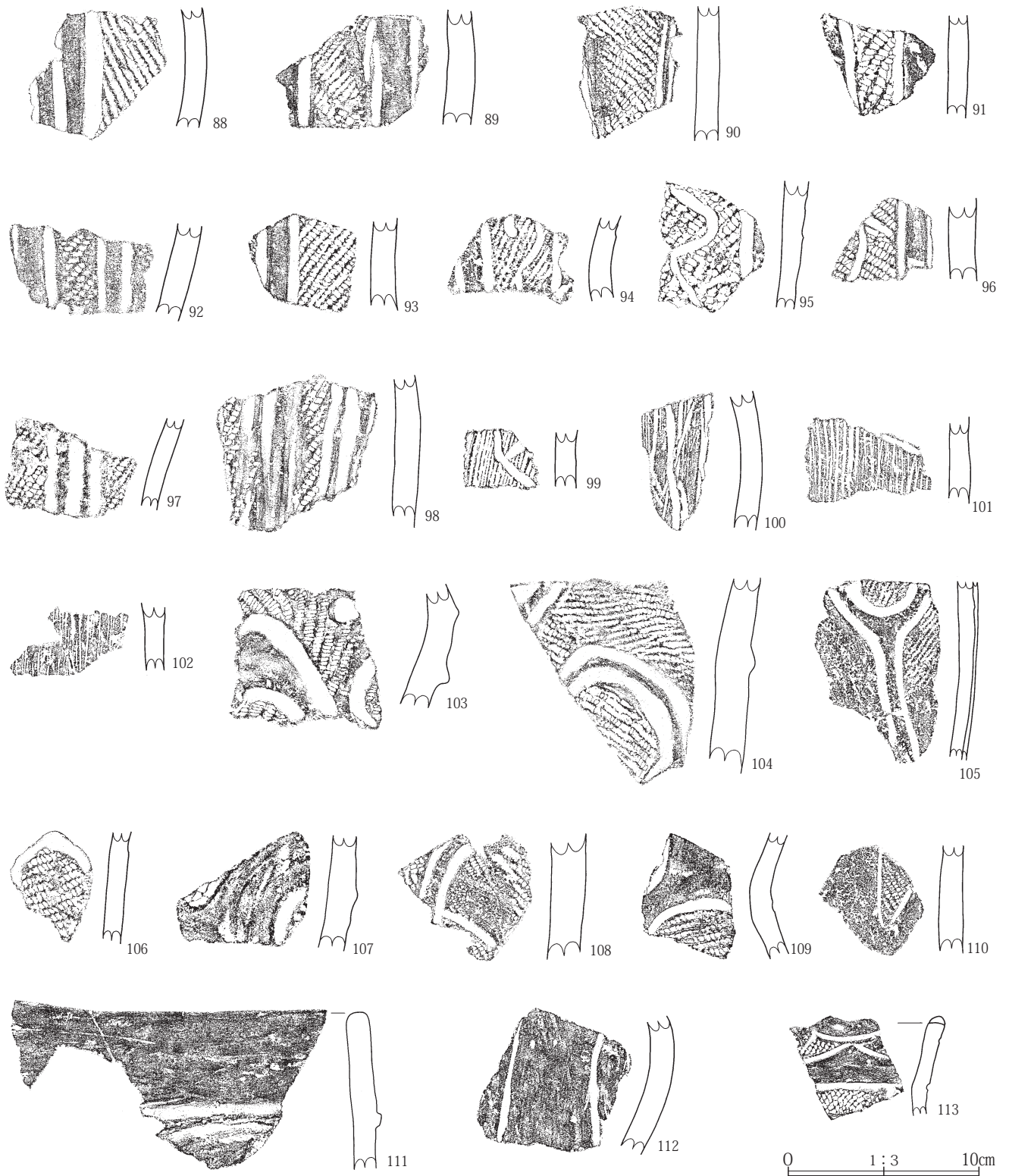


第80図 遺構外出土の縄文土器(2)



0 1:3 10cm

第81図 遺構外出土の縄文土器(3)



第82図 遺構外出土の縄文土器(4)

## 第4節 弥生時代

### 1. 調査の概要

竪穴住居4軒、土坑11基を検出した。遺構は、縄文時代の遺構と同様に67区東側、観音川沿いの台地に集中している。56区では、48号住居のみ検出された。

竪穴住居の時期は、遺物出土状況から24号住居・25号住居・39号住居・48号住居いずれも弥生時代中期である。各住居とも検出が容易ではなく、ローム面上で漸く確認できた程度であり、発掘現場での調査段階では、縄文時代の住居として調査を行った。しかし、整理作業において、弥生土器の出土状態から弥生時代の住居と認定した。竪穴住居3軒は、67区の南東隅標高140m付近にあり、48号住居のみ他の住居と離れた56区に位置し、標高は141m付近である。縄文時代と同様に、弥生時代の遺構に関しても、大正用水の流路内に遺構があった可能性が考えられる。

弥生時代の住居関連で出土した石器類は、計74点である(第10表)。剥片の出土は66点と一番多い。24号住居では、石鏃(17)・楔形石器(18)、25号住居では、削器(16)・打製石斧(17)・凹石(18)・敲石(19)、39号住居では、磨石(1)をそれぞれ図化した。

土坑は、遺物の出土状況や周辺の堆積土などから、11基を弥生時代のものとした。土坑の標高は、67区の東側の139～141m付近にある。ただし少量の土器片出土や出土遺物のない土坑は他時代に帰する可能性も付記しておく。

### 2. 竪穴住居

**24号住居**(第83・84図、PL.19・70)

**位置** 67-H・I-8・9

**重複** 282号・283号土坑に切られている。

**形状** 周辺にカクランが多く、全体形状は不明。

**規模** 長軸(4.86m) 短軸4.13m 残存深度(0.18m)

**主軸方位** N-14°-E **面積** (18.34m<sup>2</sup>)

**炉** 住居の南寄りで検出した。長軸1.22m×短軸0.92m、深さ0.05m。中央付近が強酸化して変色した焼土、その周りは弱酸化して変色した焼土になっていた。炉から壺(2・3)、甕(16)と石鏃(17)が出土した。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** P1～P22を検出した。主柱穴は、検出確認できなかった。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** 南から北にかけて5cmほど傾斜している。硬化面は確認されなかった。

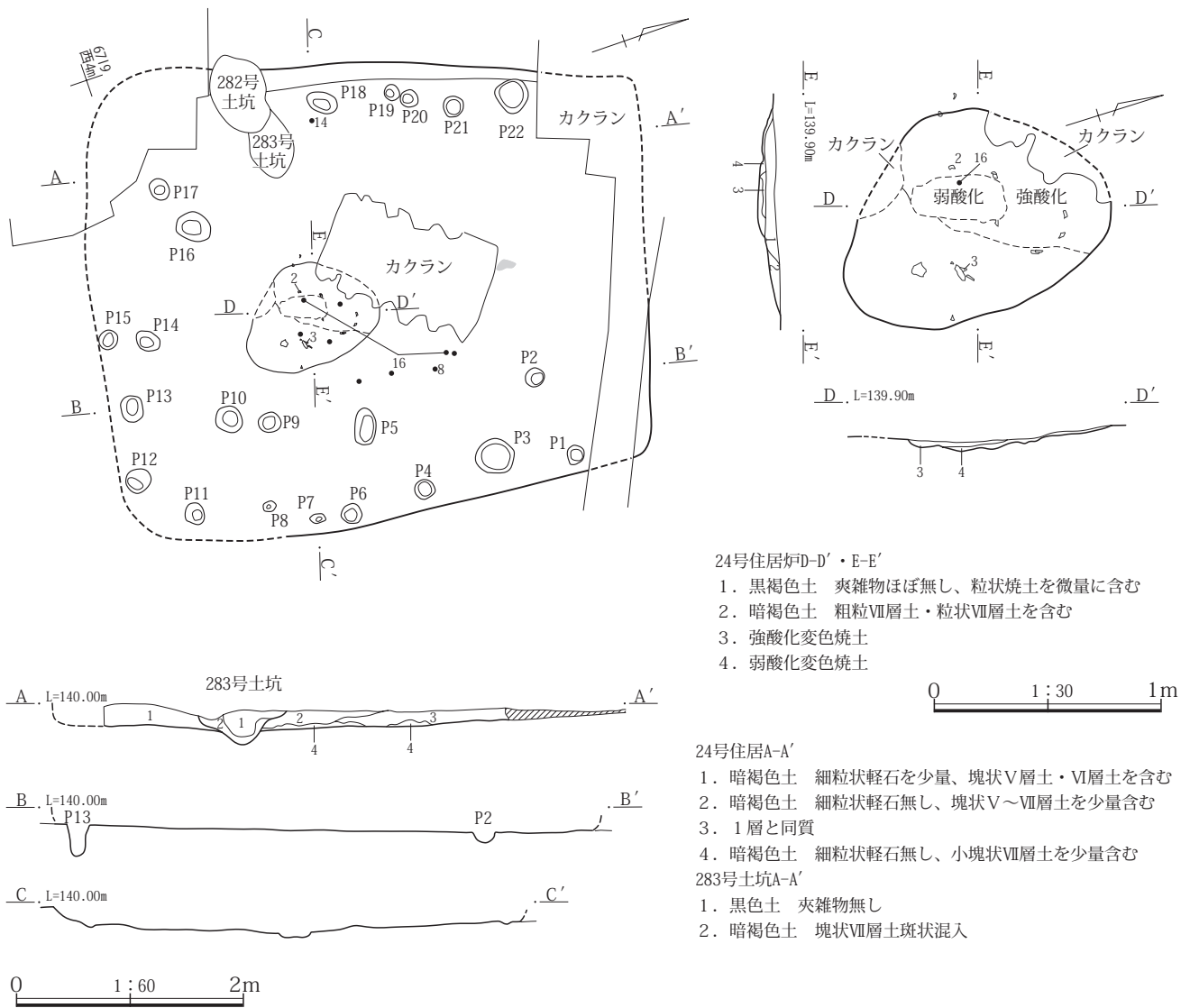
**埋没土** ロームブロックを含む暗褐色土が堆積していたが、住居内外にカクランが多く、掘り込み深度が浅いため詳細は不明である。

**遺物** 甕(8)が、住居中央付近の床面より3cm上から出土した。他には、甕(14)が住居西側の床面より4cm上から出土している。すべて弥生中期前半のものである。未掲載遺物は縄文土器53点、剥片42点である。

**時期** 出土遺物から、弥生時代中期前半と考えられる。

第10表 弥生住居別に見た器種石材構成

	石 鏃	楔形石器	削 器	打製石斧	凹 石	磨 石	敲 石	剥 片	計	時 期
24号住居	1	1						42	44	弥生中期前半
25号住居			2	1	1		1	17	22	弥生中期中葉前後
39号住居						1		3	4	弥生中期相当
48号住居								4	4	弥生中期中葉頃
計	1	1	2	1	1		1	66	74	



第83図 24号住居

25号住居(第85図、PL.19・20・70)

位置 67-E・F-7・8

重複 218号土坑に切られている。

形状 長方形と推定されるが、西辺をカクランにより欠く。

規模 長軸5.26m (短軸4.19m) 残存深度0.12m

主軸方位 N-21°-W 面積 (21.17㎡)

炉 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 P1～P29を検出した。主柱穴は、検出できなかった。

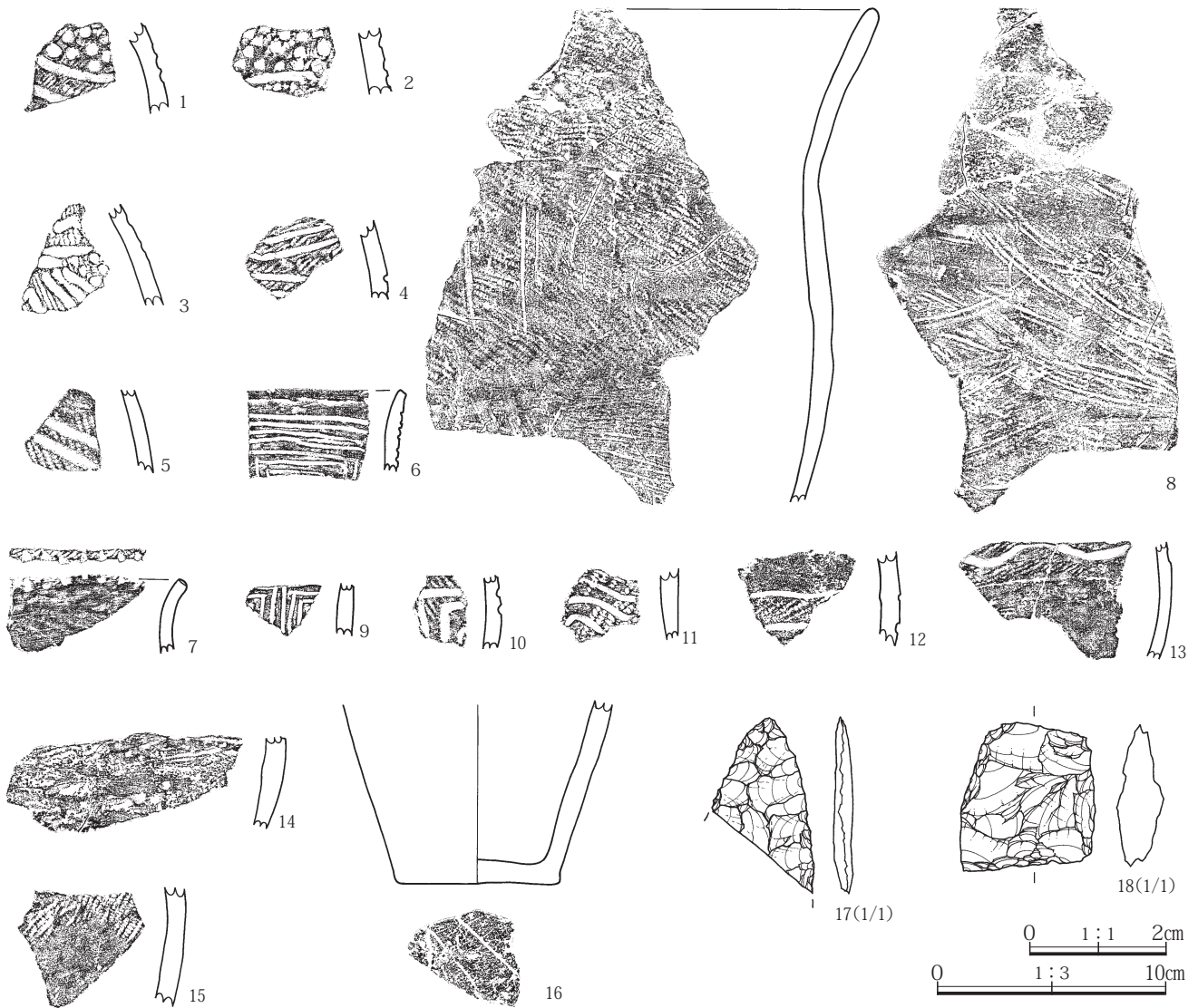
床面 東から西にかけて10cmほど傾斜している。硬化面は確認されなかった。

埋没土 ロームブロックを含む黒褐色土が堆積していたが、住居内にカクランが多く、掘り込み深度が浅いため

詳細は不明である。

遺物 壺(5)が床面下10cmから、甕(11)が床面下1cmから出土した。掲載した石器は、打製石斧(17)、削器(16)、凹石(18)、敲石(19)である。未掲載遺物は、削器1点、剥片17点である。16は、形状から石庖丁ではないかと想定されたが、使用痕分析の結果プラントオパールは検出されなかったので削器とした。黒色頁岩の横長剥片を用いており、端部が著しく摩耗しているのが使い込んでいることがわかる。17は、打製石斧の完成品である。何度か刃部再生をしたと思われ、相当後退している。石鍬の可能性もある。住居の南側から出土している遺物(5・11・16・17・18・19)が多い。

時期 出土遺物から、弥生時代中期中葉前後と考えられる。



第84図 24号住居出土遺物

39号住居(第86図、PL.20・70)

位置 67-E・F-4

重複 503号・682号土坑に切られている。

形状 不定形

規模 長軸3.76m 短軸2.46m 残存深度0.24m

主軸方位 N-64°-E 面積 8.31㎡

炉 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

床面 南東から北西にかけて5cmほど傾斜している。硬化面は確認されなかった。

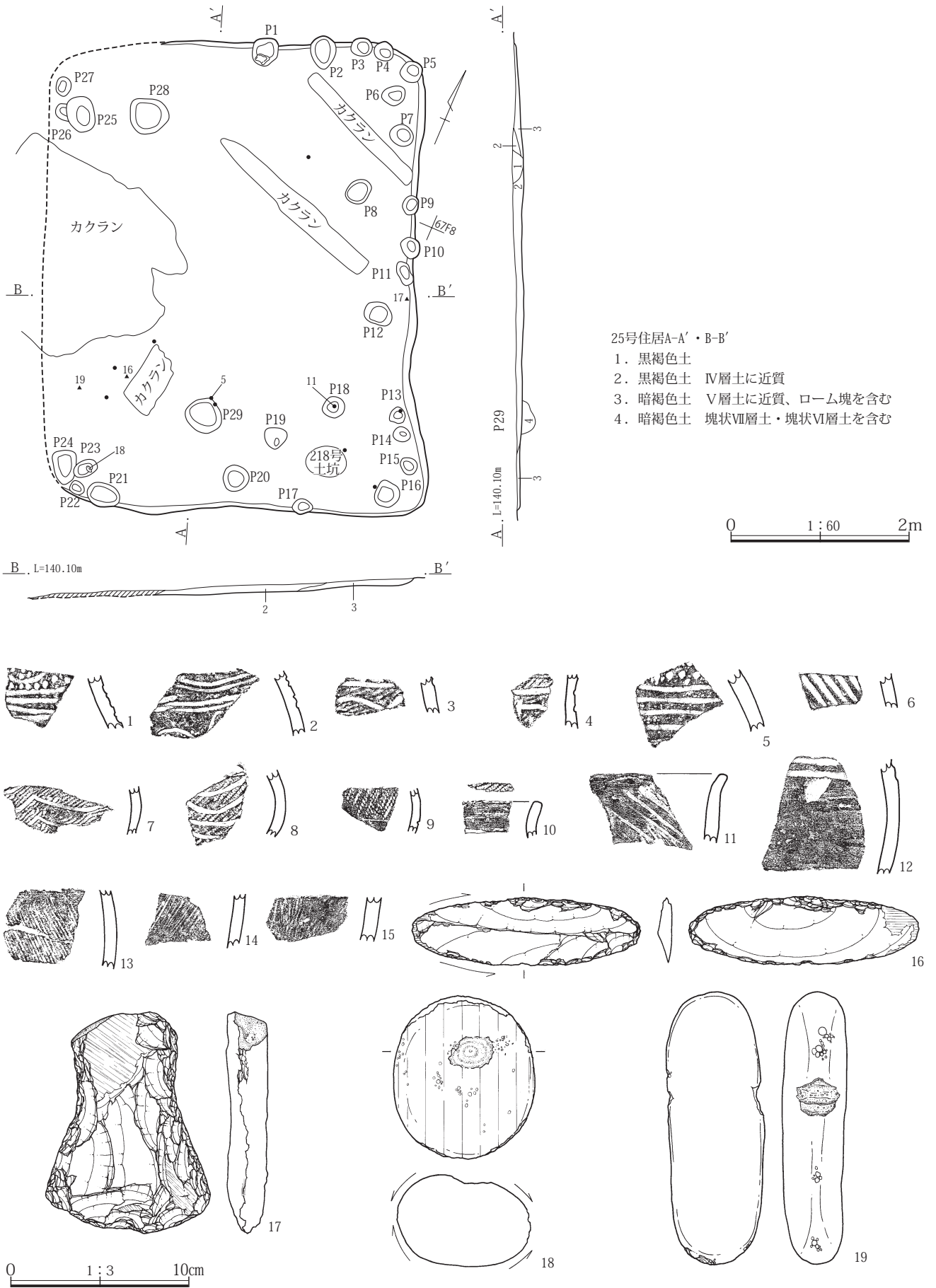
埋没土 As-C・Hr-FPが混入するⅢ層が堆積し、その下

には、ロームブロックを含む黄褐色土が堆積していたが、掘り込み深度が浅いため詳細は不明である。

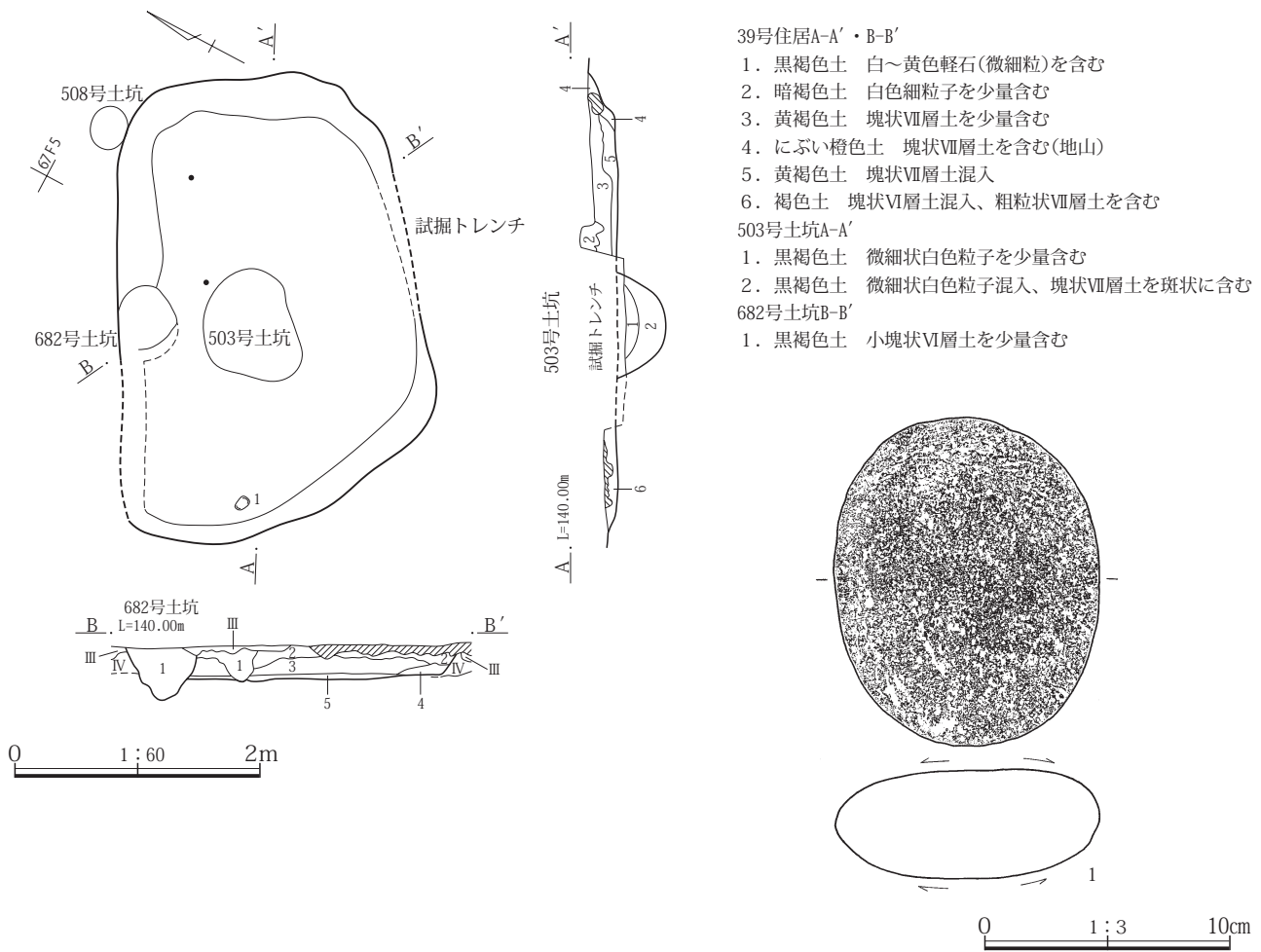
遺物 掲載した石器は、住居の南西隅から出土した磨石(1)である。未掲載遺物は、剥片3点である。弥生土器の出土はない。

時期 住居跡として認定は難しい。時期は埋土の類似性、周辺からの出土遺物を参考に、弥生中期相当と考えておく。





第85図 25号住居と出土遺物



第86図 39号住居と出土遺物

**48号住居**(第87図、PL.20・70)

**位置** 56-I-14・15

**重複** なし。

**形状** 長方形

**規模** 長軸2.8m 短軸2.24m 残存深度0.42m

**主軸方位** N-51°-E **面積** 5.31㎡

**炉** 長軸0.89m、短軸0.87m、深さ0.06m。住居ほぼ中央にある。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった

**埋没土** As-C・Hr-FPが混入するⅢ層と類似した層が堆積し、その下には、ロームブロックを含む暗褐色土が堆積していた。

**遺物** フク土から筒形土器(1・2)、壺(3)、甕(4)が出土した。未掲載遺物は、剥片4点だけである。

**時期** 出土遺物から弥生時代中期中葉頃と考えられる。

**3. 土坑**

検出された弥生時代の土坑は、11基である。67区の南東隅標高139～141m付近に集中している。特に67区調査区南端の227号土坑からは、住居を凌ぐ26点の弥生土器の出土があった。詳細は、第28表土坑一覧表を参照していただきたい。

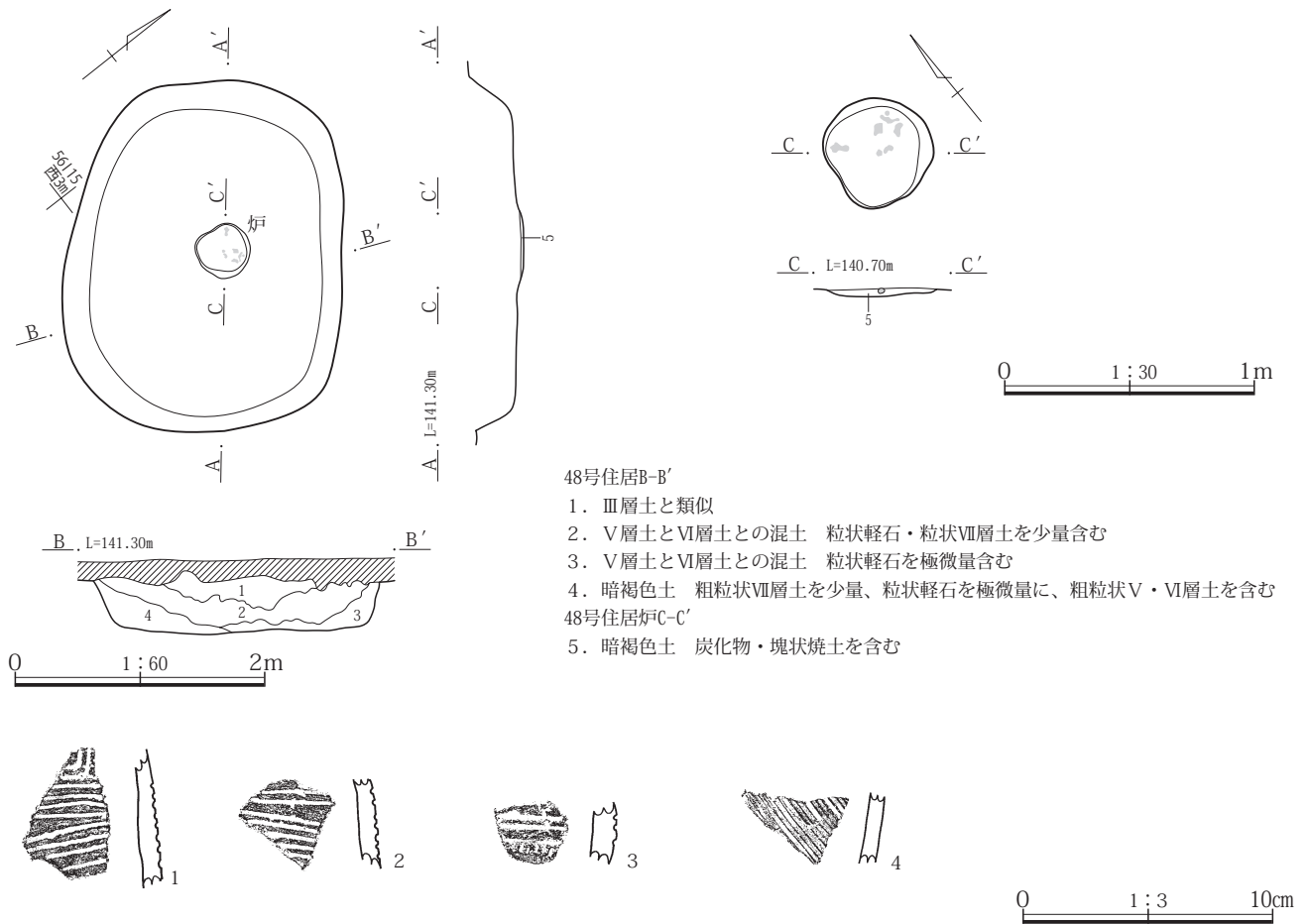
**227号土坑**(第88図、PL.21・71)

**位置** 67-G-3 **形状** 不整形

**重複** なし。

**規模** 長軸(1.85m) 短軸(1.55m) 残存深度0.72m

**長軸方位** N-21°-W **埋没土** As-C降下以前の黒色土、細粒ロームと微細黄褐色軽石を含む黒褐色土、ロームブロックを含む暗褐色土、ロームブロックと粒状焼土



48号住居B-B'

1. III層土と類似
  2. V層土とVI層土との混土 粒状軽石・粒状VII層土を少量含む
  3. V層土とVI層土との混土 粒状軽石を極微量含む
  4. 暗褐色土 粗粒状VII層土を少量、粒状軽石を極微量に、粗粒状V・VI層土を含む
- 48号住居炉C-C'
5. 暗褐色土 炭化物・塊状焼土を含む

第87図 48号住居と出土遺物

を含む黒褐色土、黒褐色ブロックを少量含むローム層。

**遺物** 細粒輝石安山岩製の石鍬(28)が底面直上から、甕(15)が破片で、底面から44cm上から出土している。その他25点の土器は、フク土からの出土である。器種は壺・甕・筒形土器であり、時期は弥生中期前半～中期中葉と幅を持つ。甕(18)は、外反する平口縁で、頸部に細かな櫛状工具による横位波状文と垂下直線文を施す。これは、長野県栗林遺跡を代表する栗林式古段階の可能性もある。また、壺(20)は、外反する平口縁で口唇部に板小口状工具による縦位刺突を施し、頸部は縦位刷毛目を残す。口縁部裏面にも同様の縦位刺突列を2段巡らせる。これを、石川県埋蔵文化財センターの久田正弘氏に実見してもらったところ、小松式であるとされた。他に掲載した石器は、石鍬(27)、打製石斧(29)である。未掲載遺物は、縄文土器123点、加工痕ある剥片1点、剥片16点である。**時期** 出土遺物から、弥生時代中期前半～中葉と考えられる。

**233号土坑(第89図、PL.71)**

**位置** 67-F-11 **形状** 楕円形

**重複** 27号住居を切っている。

**規模** 長軸0.53m 短軸0.45m 残存深度0.11m

**長軸方位** N-36°-E **埋没土** 白色粒子を含む暗褐色土。 **遺物** 壺(1)が、フク土から出土している。出土した石器は、掲載した凹石(2)のみである。

**時期** 出土遺物から、弥生時代と考えられる。

**257号土坑(第89図、PL.71)**

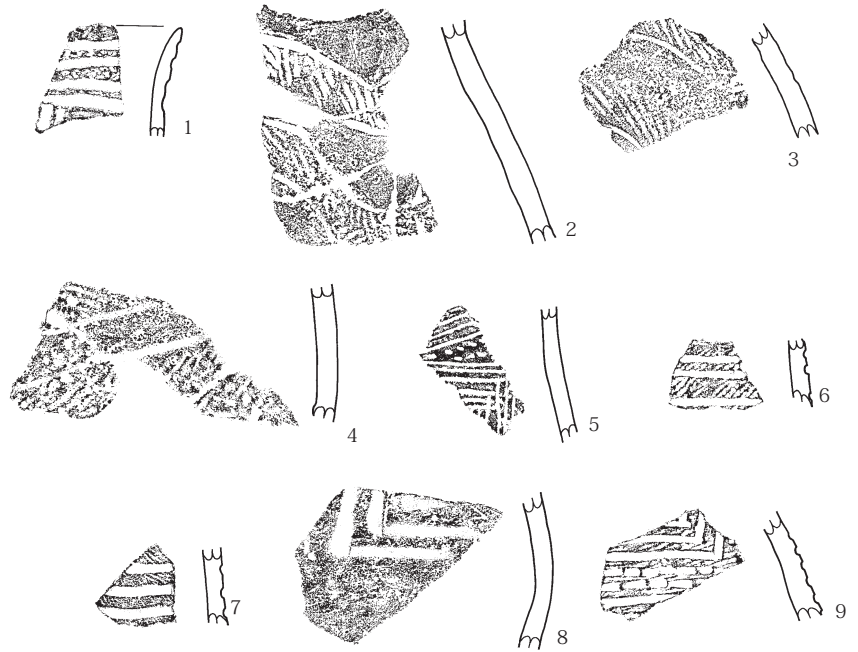
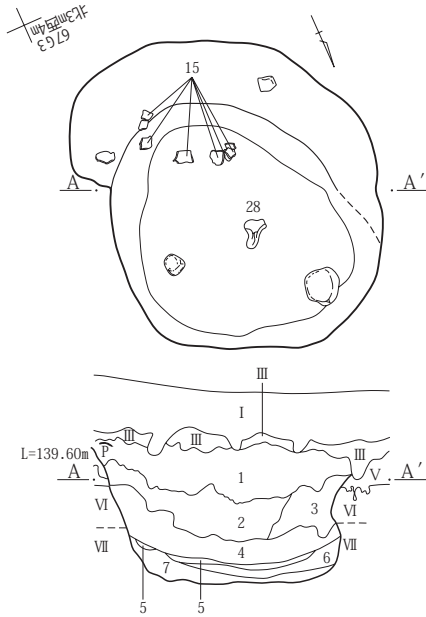
**位置** 67-H-8 **形状** 楕円形

**重複** なし。

**規模** 長軸0.35m 短軸0.32m 残存深度0.13m

**長軸方位** N-5°-E **埋没土** 白色粒子を含む暗褐色土。 **遺物** 壺(1、2)がフク土から出土した。**時期** 出土遺物から、弥生時代と考えられる。

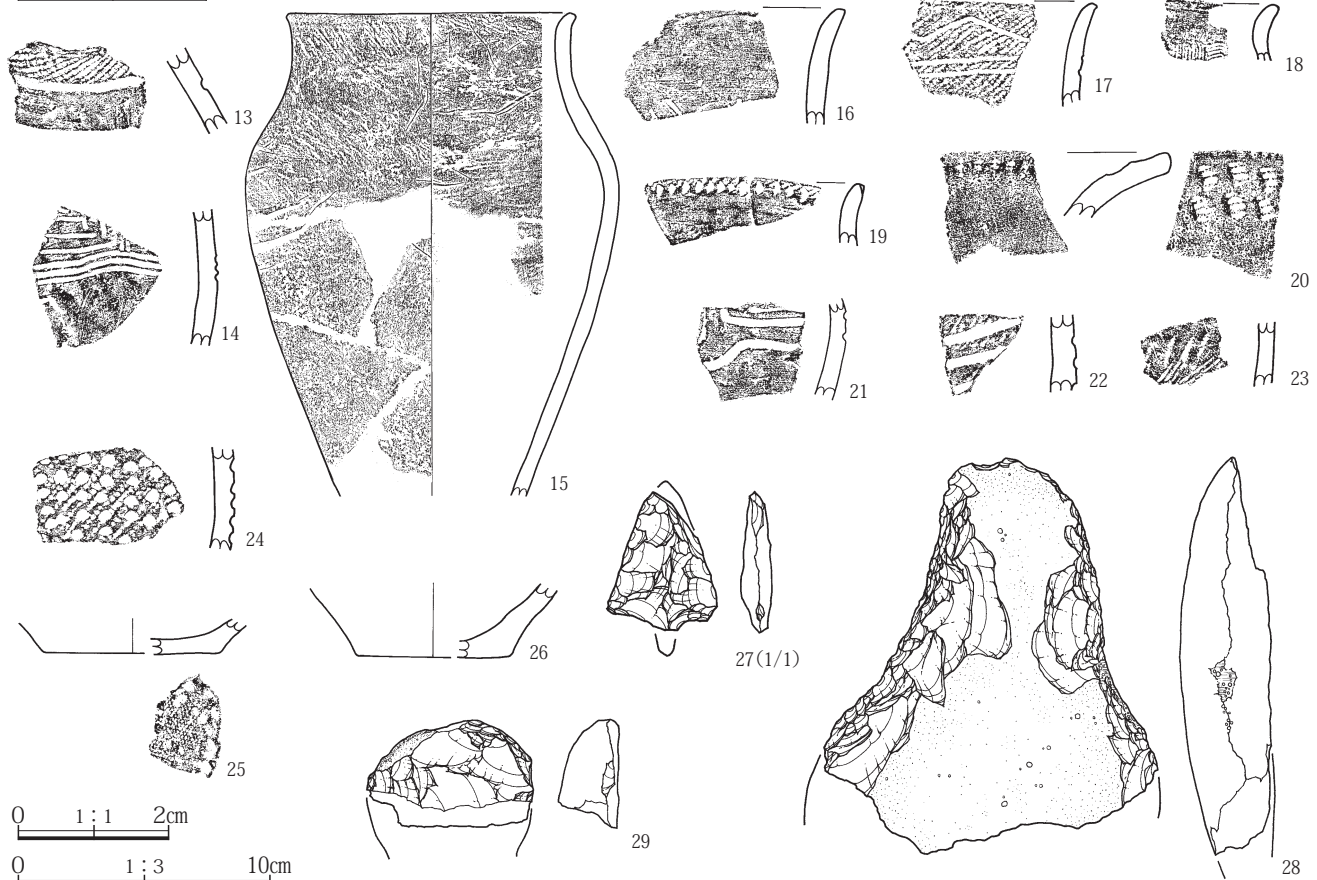
227号土坑



227号土坑A-A'

1. IV層土に近質 黒色C混入無し、C降下以前の黒色土
2. 黒褐色土 細粒VII層土を若干含む、微細黄褐色軽石状の混入がみられる
3. 暗褐色土 細粒VII層土を若干含む
4. 暗褐色土 塊状VI・VII層土を含む
5. 暗褐色土と塊状VII層土の混土 硬質
6. 黒褐色土 塊状V・VI層土を含み、粒状焼土を若干含む
7. 塊状VI層土主体 黒褐色土塊状を少量含む

0 1:40 1m



第88図 227号土坑と出土遺物

## 437号土坑(第89図、PL.71)

位置 67-C-11 形状 楕円形

重複 なし。

規模 長軸0.39m 短軸0.35m 残存深度0.16m

長軸方位 N-44°-E 埋没土 不明。

遺物 甕(1)がフク土から出土した。未掲載遺物は、縄文土器1点である。時期 出土遺物から、弥生時代と考えられる。

## 441号土坑(第89図、PL.71)

位置 67-D-10 形状 長方形

重複 37号住居を切っている。

規模 長軸1.83m 短軸0.53m 残存深度0.14m

長軸方位 N-33°-E 埋没土 不明。

遺物 甕(1)がフク土から出土した。未掲載遺物は、縄文土器1点、剥片3点である。時期 出土遺物から、弥生時代と考えられる。

## 495号土坑(第89図、PL.21・71)

位置 67-F-3 形状 楕円形

重複 なし。

規模 長軸0.67m 短軸0.57m 残存深度0.24m

長軸方位 N-32°-W 埋没土 白色粒子を含む暗褐色土、白色粒子と黄橙色ブロックを含む褐色土。

遺物 壺(1)がフク土から出土した。未掲載遺物は、縄文土器1点である。時期 出土遺物から、弥生時代と考えられる。

## 498号土坑(第89図、PL.21・71)

位置 67-F-4 形状 長方形

重複 なし。

規模 長軸2.86m 短軸1.15m 残存深度0.10m

長軸方位 N-69°-W 埋没土 不明。

遺物 壺か甕の底部片(2)が、底面から6cm浮いて出土した。未掲載遺物は、縄文土器1点、剥片2点である。

時期 出土遺物から、弥生時代と考えられる。

## 499号土坑(第89図、PL.21)

位置 67-F-5 形状 楕円形

重複 なし。

規模 長軸1.19m 短軸0.97m 残存深度0.22m

長軸方位 N-53°-W 埋没土 白色粒子と黄橙色ブロックを含む暗褐色土。遺物 なし。時期 出土遺物はなかったが、埋没土から弥生時代とした。

## 501号土坑(第89図、PL.21)

位置 67-F-5 形状 楕円形

重複 なし。

規模 長軸0.88m 短軸0.72m 残存深度0.12m

長軸方位 N-87°-E 埋没土 白色粒子と黄橙色土を含む暗褐色土。遺物 なし。時期 出土遺物はなかったが、埋没土から弥生時代とした。

## 509号土坑(第89図、PL.21・71)

位置 67-H-8 形状 楕円形

重複 なし。

規模 長軸0.57m 短軸0.40m 残存深度0.12m

長軸方位 N-44°-E 埋没土 不明。遺物 筒形(1)が底面から10cm浮いて出土した。細い3条沈線による縦スリット文、2段の横長方形文、重四角文を配している。未掲載遺物は、剥片1点のみである。

時期 出土遺物から、弥生時代と考えられる。

## 682号土坑(第89図)

位置 67-E-4 形状 不整形

重複 39号住居を切っている。

規模 長軸0.48m 短軸0.46m 残存深度0.42m

長軸方位 N-39°-E 埋没土 ロームブロックを含む黒褐色土。遺物 なし。時期 出土遺物はなかったが、埋没土から弥生時代とした。

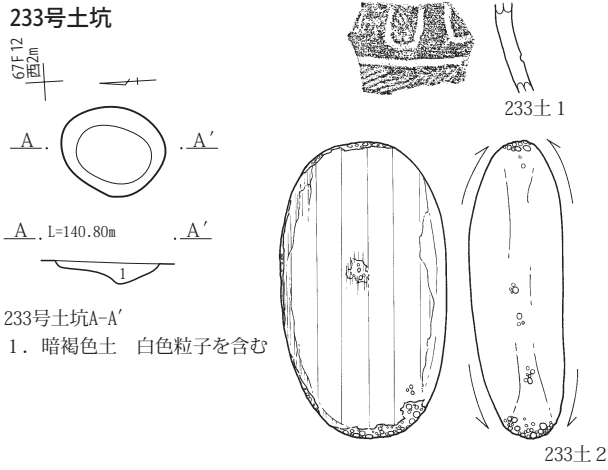
## 4. 遺構外出土の弥生土器(第90・91図、PL.71・72)

遺構に伴わない状態で出土した弥生土器のうち、器形と文様の図示可能な71点について掲げた。ただし、他の時代に帰属する遺構覆土に混在して出土したものについても、ここで扱うこととした。

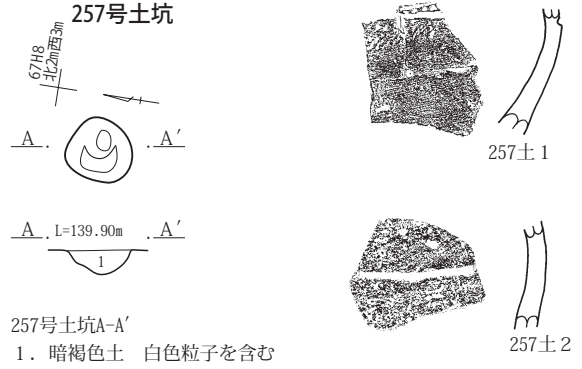
弥生土器の器種内訳は、壺類56点、甕類8点、鉢類3点、その他4点である。壺類が全体の78%を占めているのは、

第3章 調査の内容

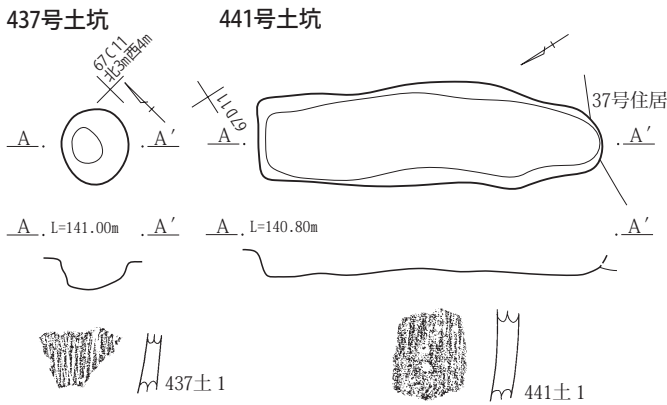
233号土坑



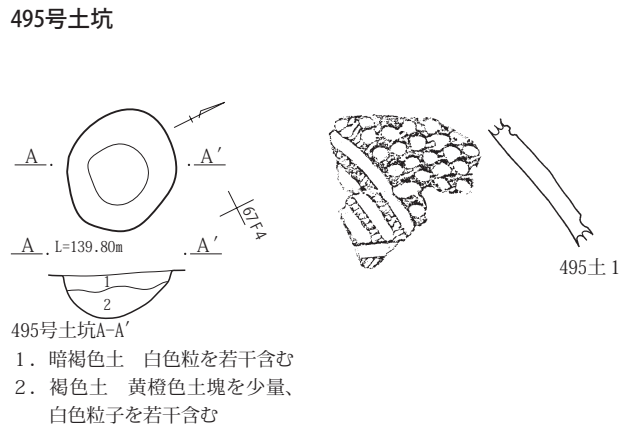
257号土坑



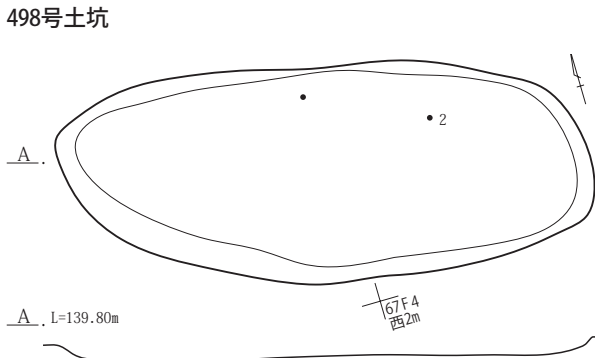
437号土坑



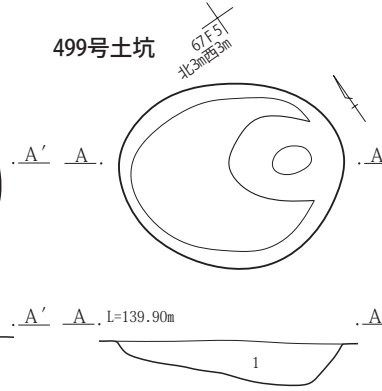
495号土坑



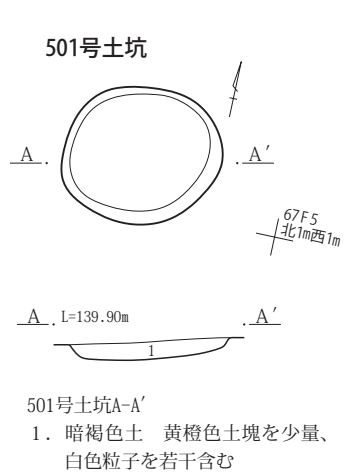
498号土坑



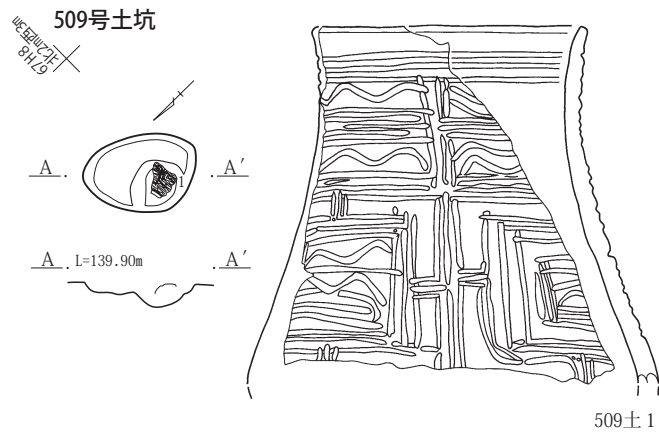
499号土坑



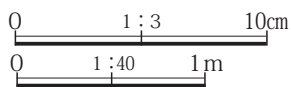
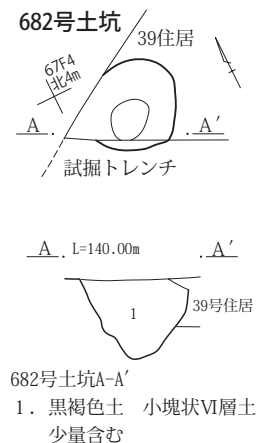
501号土坑



509号土坑



682号土坑



第89図 233号・257号・437号・441号・495号・498号・499号・501号・509号・682号土坑と  
233号・257号・437号・441号・495号・498号・509号土坑出土遺物

個体数の多さというよりも、施文部位破片を優先的に取り上げた選別方法によるところが大きい。

弥生土器の帰属時期は、中期前半から中期後半に限られる。同一個体の破片を複数掲載している可能性も高く、単純な数量把握は慎みたいが、中期中葉を主体としてその前後期が少数伴出すると把握できる。

まず編年の位置づけを推論するために、特徴となる点をいくつか掲げてみる。

- ① 器種では、壺・甕・筒形にほぼ限られ、浅鉢・高坏は見られない。
- ② 文様は、沈線文・縄文・刺突文・櫛描文で構成される。
- ③ 条痕は見られない。

これらの特徴により、従来の土器編年観のなかで中期中葉に主体があるとの想定は許されよう。前述の住居跡と土坑から出土した土器もほぼ同時期と捉えられることから、本遺跡では弥生中期中葉前後の限られた時期に生活痕が残されたといつてよいだろう。

次に、個々の土器についての主な特徴を取り上げてみよう。

第90図1は壺としたが、広頸で甕との中間形態に近いものである。口縁直下から沈線による重四角文を横位に配する文様構成で、器形は異なるが同図2も同一構成をとる。第89図の509号土坑1の筒形土器に見られる重四角文の縦横配列に代表されるように、本遺跡では壺ないし筒形土器における主文様の一種として沈線重四角文を位置づけられよう。第90図7～9・43・44・45は磨り消し縄文の例である。破片なので文様構成はつかみきれないが、横位文様帯を基調に、曲線モチーフと長方形モチーフで構成されていることがうかがわれる。同図8は波状文と横長方形文、同図9は頸部文様に縦位長方形文、胴部に横位涙滴状文というように、この文様構成が中期中葉という位置づけを与えるための一拠として捉えておきたい。第90図18～30は太い沈線区画文内を刺突充填した類で、細頸壺の頸～胴部である。同図31～42は沈線による横線文・連弧文・波状文を描出した部分で、地文縄文と沈線の類似から同図18～30と同一個体であることも充分考え得る。同図32は2条平行沈線による波状文と横線文の組み合わせであり、中期後半に継承されていく施文手法と捉えうる。同図43は「瓢箪」形を思わせる沈線区画文を描いており、横位文様帯との組み合わせに

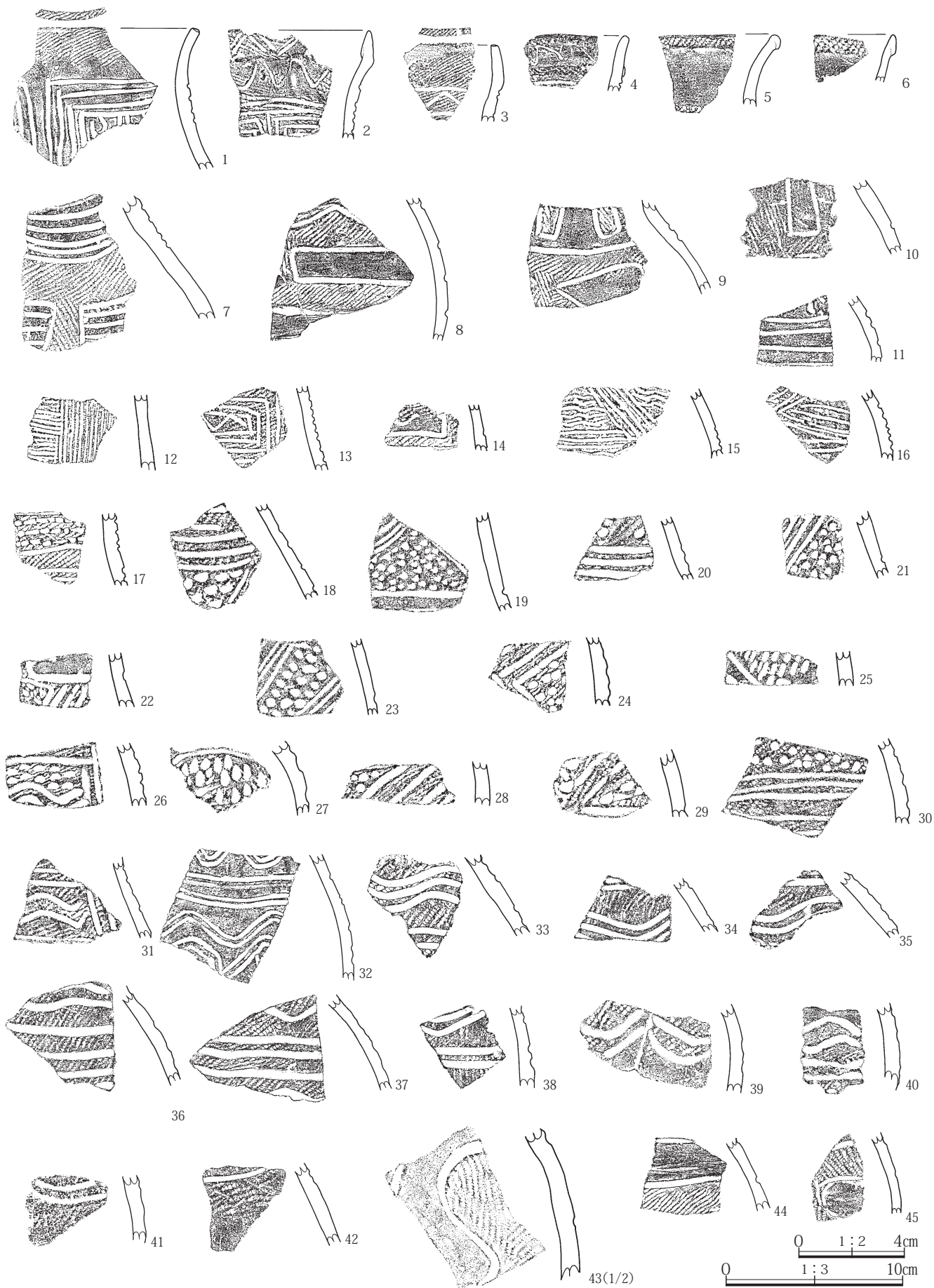
については不明である。甕では第91図54・57・58のような羽状あるいは斜行する櫛描文は、栗林式古段階に比定できようか。同様に第90図12の縦横の櫛描直線文の構成も栗林式甕の可能性もある。なお、第90図5・6の壺口縁は、小さく肥厚する口唇形状から中期後半と比定したが、栗林式の系統ではなく、栃木県の御新田式や埼玉県北部の北島式に類するか、その前段階のものと捉えておく。

## 5. 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器

(第92・93図、PL.73・74)

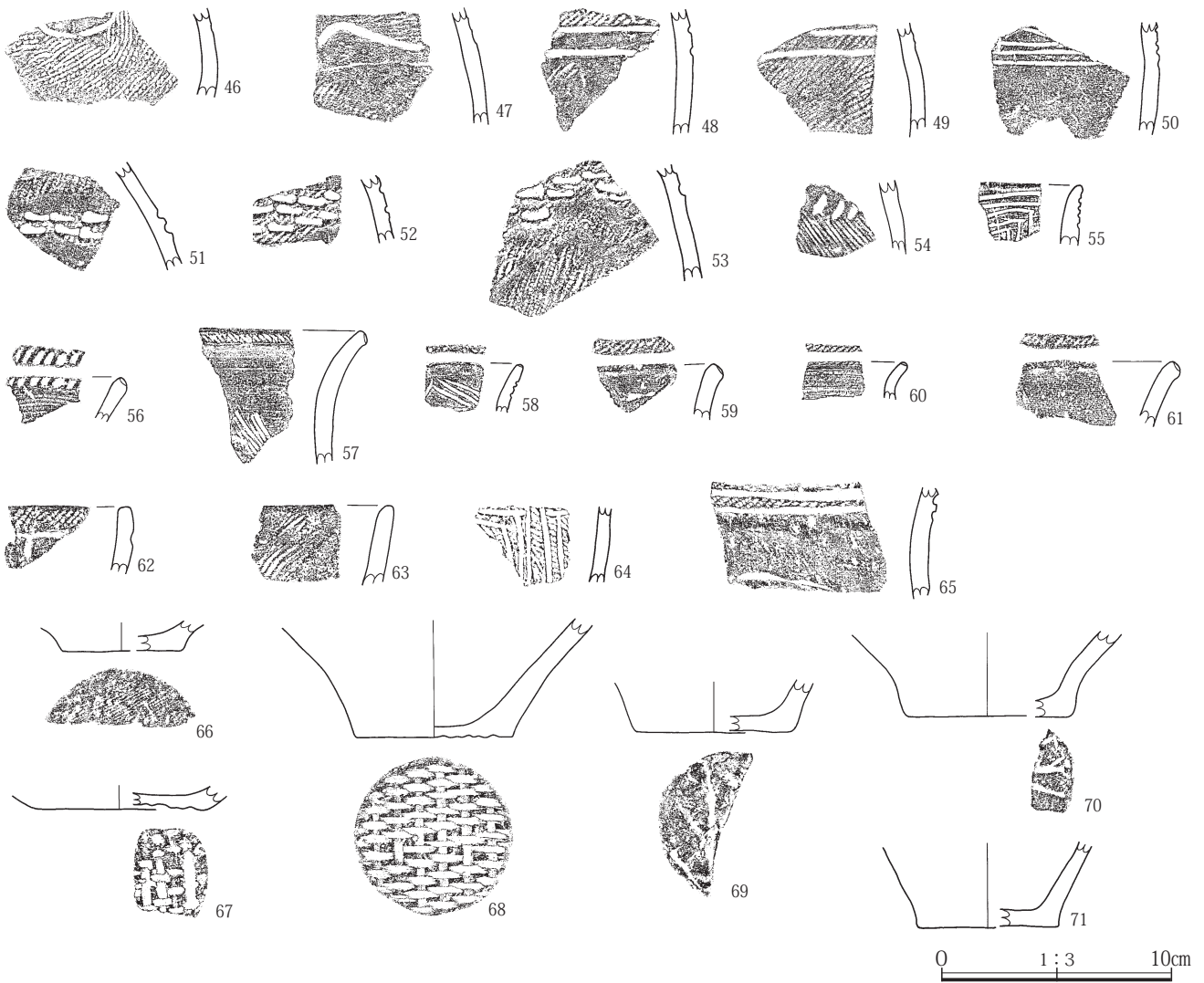
出土した石器は、剥片類も含めた総数624点である(第11表)。器種は、剥片石器として石鏃、楔形石器、削器、打製石斧、石核、加工痕ある剥片と大量の剥片類および磨製石斧があり、礫石器として凹石、磨石、敲石、台石、石皿、多孔石、石棒がある。定形的な石器の中では、打製石斧が50点と最も出土量が多く、続いて加工痕ある剥片41点、石核15点、削器9点、石鏃8点、敲石7点、磨製石斧・凹石・磨石が各2点、楔形石器・台石・石皿・多孔石・石棒が各1点となっている。使用される石材は、剥片石器に黒色頁岩が82点と最も使用頻度が高く、次いで細粒輝石安山岩が11点、珪質頁岩・黒色安山岩が各9点、ホルンフェルス7点、黒曜石3点と続き、凝灰質珪質頁岩・変質玄武岩・デイサイトが各1点と少なく、磨製石斧には変質玄武岩や変質玄武岩が使用されている。礫石器の石材には、粗粒輝石安山岩が12点と最も多く、砂質頁岩・変質玄武岩・雲母石英片岩が各1点となっている。剥片類については、483点の出土があり、黒色頁岩が301点と最も使用頻度が高く、次いで黒色安山岩91点、ホルンフェルス28点、細粒輝石安山岩20点、頁岩15点、珪質頁岩14点、黒曜石・チャートが各4点、砂質頁岩2点と続き、硬質頁岩・珪質粘板岩・流紋岩凝灰岩・輝緑凝灰岩が各1点と少ない。

**石鏃** 55・56・65・66区から1点、縄文時代の遺構の多い67区から7点、計8点出土している。使用される石材は、黒色安山岩7点、黒色頁岩1点である。形態はいずれも凹基無茎鏃であり、そのうち1・2・3の3点を図示した。1は、剥離が粗く形状も整わない。裏面側基部は未加工で、石鏃基部の剥離が厚い。石器製作を途中で放棄した未製品である。2は、全面が丁寧な押圧剥離に



第90図 遺構外出土の弥生土器(1)





第91図 遺構外出土の弥生土器(2)

覆われ完成度が高い。裏面側先端の器軸に平行する剥離が施されているが、エッジには微細剥離が施され衝撃剥離痕とは言い難い。3は、幅広剥片を用い表裏面とも加工は周辺加工で止まり、先端・返し部を破損する。

**楔形石器** 67区から1点のみ出土している。図示した4は、黒色頁岩製の幅広剥片を使用し、表裏面とも器軸に平行する対向剥離面があるほか、右辺に微細剥離痕がある。

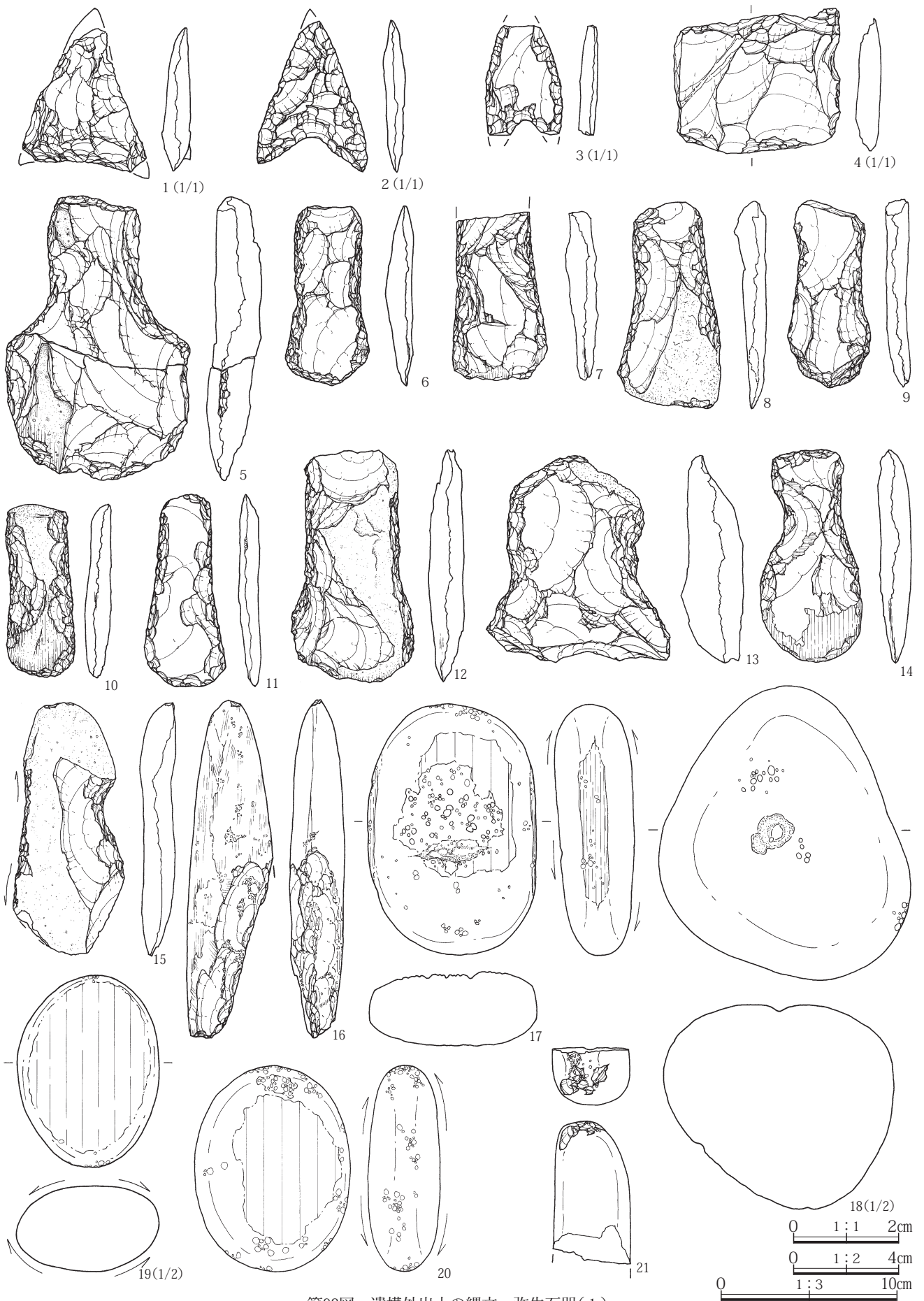
**削器** 55・56・65・66区から3点、67区から6点、計9点出土している。使用される石材は、9点すべて黒色頁岩である。図示はしていない。

**打製石斧** 55・56・65・66区から8点、67区から39点、表面採取で3点、計50点出土している。使用される石材は、黒色頁岩34点、細粒輝石安山岩6点、ホルンフェルス5点、珪質頁岩4点、デイサイト1点である。形態は、短冊形が42点と主体を占め、分銅形1点、石鍬様2点、不明5点で

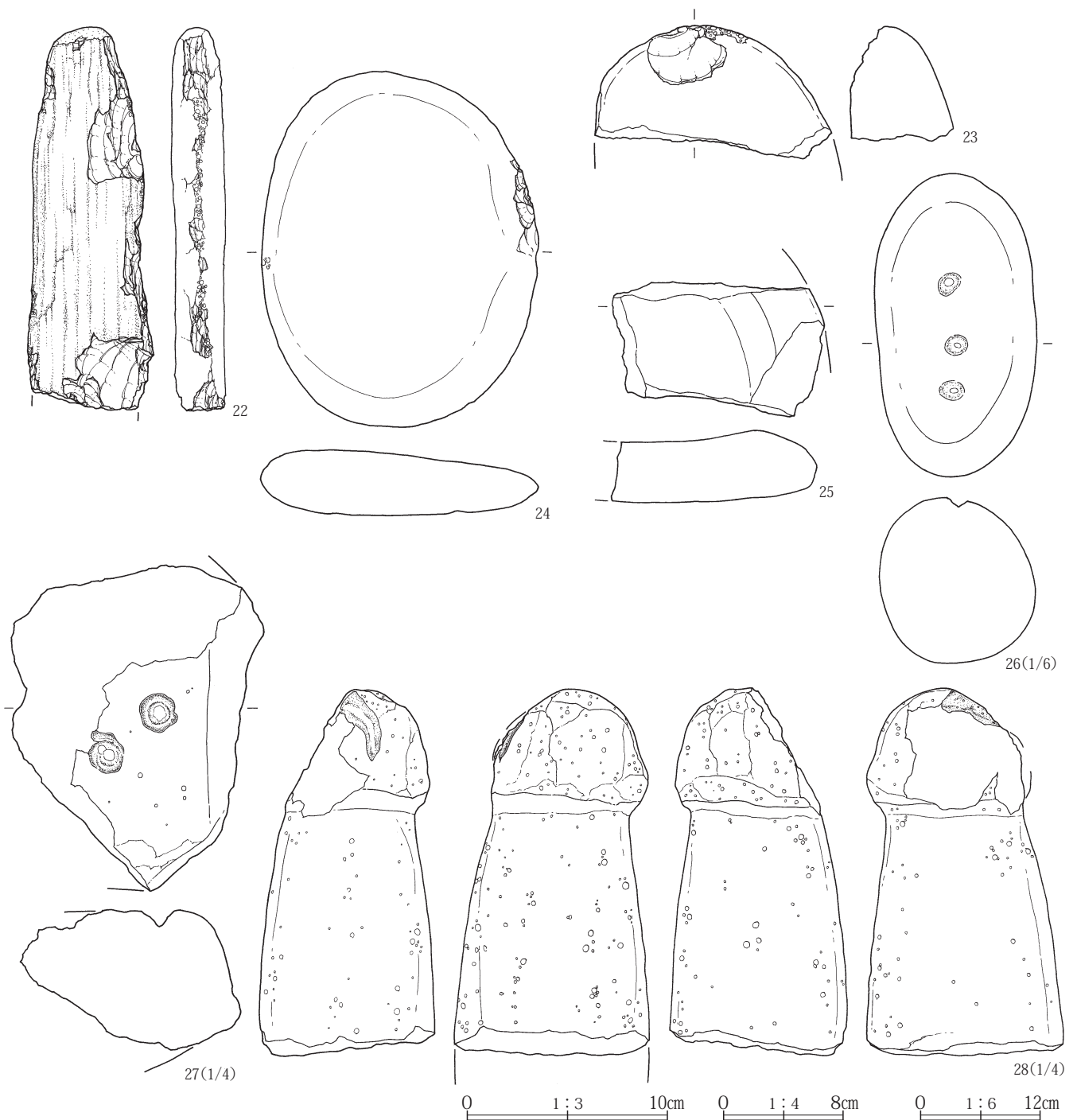
ある。そのうち5～15の11点を図示した。5は、細粒輝石安山岩製の石鍬様で細身の着柄部に幅広の身が付き、刃部に近い左右両縁に刃部摩耗がある。7は、ホルンフェルス製で刃部摩耗するほか弱い捲縛痕が見られ、器体の上半部を欠損する。13は、黒色頁岩製の未製品で、器体下半部を欠損したため、製作を放棄している。15は、細粒輝石安山岩製で右辺側をノッチ状に加工、左辺側を微細剥離する。左辺側は直線的で、部分的に摩耗しており、石斧とするより削器とすべきか判断に迷うものである。

**磨製石斧** 67区から1点、表面採取で1点、計2点出土している。使用される石材は、変玄武岩1点、変質玄武岩1点、計2点である。形態は乳棒状と不明である。そのうち変玄武岩製の16を図示した。16は、右辺側破損部の剥離面には敲打痕が残り、破損後に石斧の再生を試みている。

**石核** 55・56・65・66区から1点、67区から10点、表



第92図 遺構外出土の縄文・弥生石器(1)



第93図 遺構外出土の縄文・弥生石器(2)

面採取で4点、計15点出土している。使用される石材は、黒色頁岩9点、珪質頁岩2点、黒色安山岩1点、黒曜石2点、細粒輝石安山岩1点である。図示はしていない。

**加工痕ある剥片** 55・56・65・66区から12点、67区から29点、計41点出土している。使用される石材は黒色頁岩28点、細粒輝石安山岩4点、珪質頁岩3点、ホルンフェルスが2点、凝灰質珪質頁岩・黒色安山岩・黒曜石・変質玄武岩が各1点である。図示はしていない。

**剥片類** 55・56・65・66区から116点、67区から367点、

計483点出土している。使用される石材は、黒色頁岩が301点と最も使用頻度が高く、次いで黒色安山岩91点、ホルンフェルス28点、細粒輝石安山岩20点、頁岩15点、珪質頁岩14点、黒曜石・チャートが4点、砂質頁岩2点と続き、硬質頁岩・珪質粘板岩・流紋岩凝灰岩・輝緑凝灰岩が各1点と少ない。図示はしていない。

**凹石** 55・56・65・66区から1点、67区の1号配石を切る近世の286号土坑から1点、計2点出土している。使用される石材は、いずれも粗粒輝石安山岩である。17

第3章 調査の内容

第11表 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器 器種および石材構成

<遺構外出土石器 器種構成>

調査区	石鏃	楔形石器	削器	打製石斧	磨製石斧	石核	加工痕ある剥片	凹石	磨石	敲石	台石	石皿	多孔石	石棒	剥片	計
55・56・65・66区	1		3	8		1	12	1		5					116	147
67区	7	1	6	39	1	10	29	1	2	2	1	1	1	1	367	469
包含層				3	1	4										8
計	8	1	9	50	2	15	41	2	2	7	1	1	1	1	483	624

<遺構外出土石器 石材構成>

石材名	石鏃	楔形石器	削器	打製石斧	磨製石斧	石核	加工痕ある剥片	凹石	磨石	敲石	台石	石皿	多孔石	石棒	剥片	計
黒色頁岩	1	1	9	34		9	28								301	383
頁岩															15	15
珪質頁岩				4		2	3								14	23
硬質頁岩															1	1
凝灰岩珪質頁岩							1									1
砂質頁岩										1					2	3
黒色安山岩	7					1	1								91	100
黒曜石						2	1								4	7
チャート															4	4
ホルンフェルス				5			2								28	35
細粒輝石安山岩				6		1	4								20	31
粗粒輝石安山岩								2	2	5		1	1	1		12
変玄武岩					1											1
変質玄武岩					1		1				1					3
デイサイト				1												1
雲母石英片岩										1						1
珪質粘板岩															1	1
流紋岩凝灰岩															1	1
輝緑凝灰岩															1	1
計	8	1	9	50	2	15	41	2	2	7	1	1	1	1	483	624

<55・56・65・66区 遺構外出土石器石材構成>

石材名	石鏃	削器	打製石斧	石核	加工痕ある剥片	凹石	敲石	剥片	計
黒色頁岩		3	6	1	10			80	100
頁岩								2	2
珪質頁岩					1			6	7
黒色安山岩	1							13	14
黒曜石								1	1
チャート								1	1
ホルンフェルス								6	6
細粒輝石安山岩			2		1			4	7
粗粒輝石安山岩						1	5		6
珪質粘板岩								1	1
流紋岩凝灰岩								1	1
輝緑凝灰岩								1	1
計	1	3	8	1	12	1	5	116	147

<67区 遺構外出土石器石材構成>

石材名	石鏃	楔形石器	削器	打製石斧	磨製石斧	石核	加工痕ある剥片	凹石	磨石	敲石	台石	石皿	多孔石	石棒	剥片	計
黒色頁岩	1	1	6	25		5	18								221	277
頁岩															13	13
珪質頁岩				4		1	2								8	15
硬質頁岩															1	1
凝灰岩珪質頁岩							1									1
砂質頁岩										1					2	3
黒色安山岩	6					1	1								78	86
黒曜石						2	1								3	6
チャート															3	3
ホルンフェルス				5			2								22	29
細粒輝石安山岩				4		1	3								16	24
粗粒輝石安山岩								1	2			1	1	1		6
変質玄武岩					1		1				1					3
デイサイト				1												1
雲母石英片岩										1						1
計	7	1	6	39	1	10	29	1	2	2	1	1	1	1	367	469

<包含層 遺構外出土石器石材構成>

石材名	打製石斧	磨製石斧	石核	計
黒色頁岩	3		3	3
珪質頁岩			1	1
変質玄武岩		1		0
計	3	1	4	4

## 第5節 古墳時代

### 1. 概要

竪穴住居2軒、道1条を検出した。竪穴住居の時期は、出土遺物から、調査区東側55区の1号住居が5世紀中頃、平安時代の16号～21号溝で構成される道路状遺構下の22号住居が7世紀後半と考えられる。いずれも該当時期の住居が1軒ずつしか検出されていない。

### 2. 竪穴住居

**1号住居**(第94～96図、PL.22・74)

**位置** 55-J～L-8～10

**重複** 1号土坑と重複する。本住居の方が古い。

**形状** 正方形

**規模** 長軸6.54m 短軸6.34m 残存深度0.3m

**主軸方位** N-34°-W **面積** 41.78㎡

**炉** 北東部の支柱穴(P3-P6)を結んだ線上にある。わずかな掘り込みをもつ地床炉で、長軸0.87m、短軸0.60m、深さ0.04mの楕円形である。中央付近に被熱の跡が残る。

**貯蔵穴** 南東角より検出(P2)、規模は径0.90×0.85m、深さ0.58mを測る。

**柱穴** 支柱穴は、深さや位置関係からP3・P4・P5・P6である。各柱穴の規模(直径×深さ)は、P3:50×53cm・P4:33×54cm・P5:30×45cm・P6:47×53cmである。

**周溝** 床面では、確認されなかった。掘方では、東辺の一部から北辺、西辺の一部にかけて断続的に周溝の可能性のある溝が見つかった。

**床面** ほぼ平坦である。南壁に浅い落ち込み(P1)が検出された。P1は径1.18×1.04m、深さ0.12mで、底面に地山の礫や凹凸が見られる。

**間仕切り溝** 間仕切りのための溝と考えられるものが掘方から6条見ついている。北東壁と北西壁に2本ずつ、南東壁と南西壁に1本ずつある。各間仕切り溝の規模(長さ×幅×深さ)は、M1:131×16～23×4～12cm・M2:130×17～21×8～13cm・M3:117×25～32×8～11cm・M4:157×18～26×8～11cm・M5:124×15～22×5cm・M6:105×11～20×3～5cmである。

**掘方** 床面まで5～10cmほど埋め戻されている。地山

は扁平楕円礫を素材として、表裏面とも摩耗し、背面側に集合打痕が集中する。右側縁の敲打・摩耗が著しい。18は、楕円礫を素材として、背面側中央付近に漏斗状の孔を浅く穿つ。石材が粗く、礫面の摩耗については不明瞭である。

**磨石** 67区から2点出土している。使用される石材は、粗粒輝石安山岩の扁平楕円礫である。図示した19は、全面摩耗する。製粉具としての磨石とするにはやや小形なので、サイズ的には石製研磨具とすべきかもしれない。20は、表裏面とも摩耗し、小口部両端に敲打痕があり、右側縁には敲打・摩耗面が形成されている。

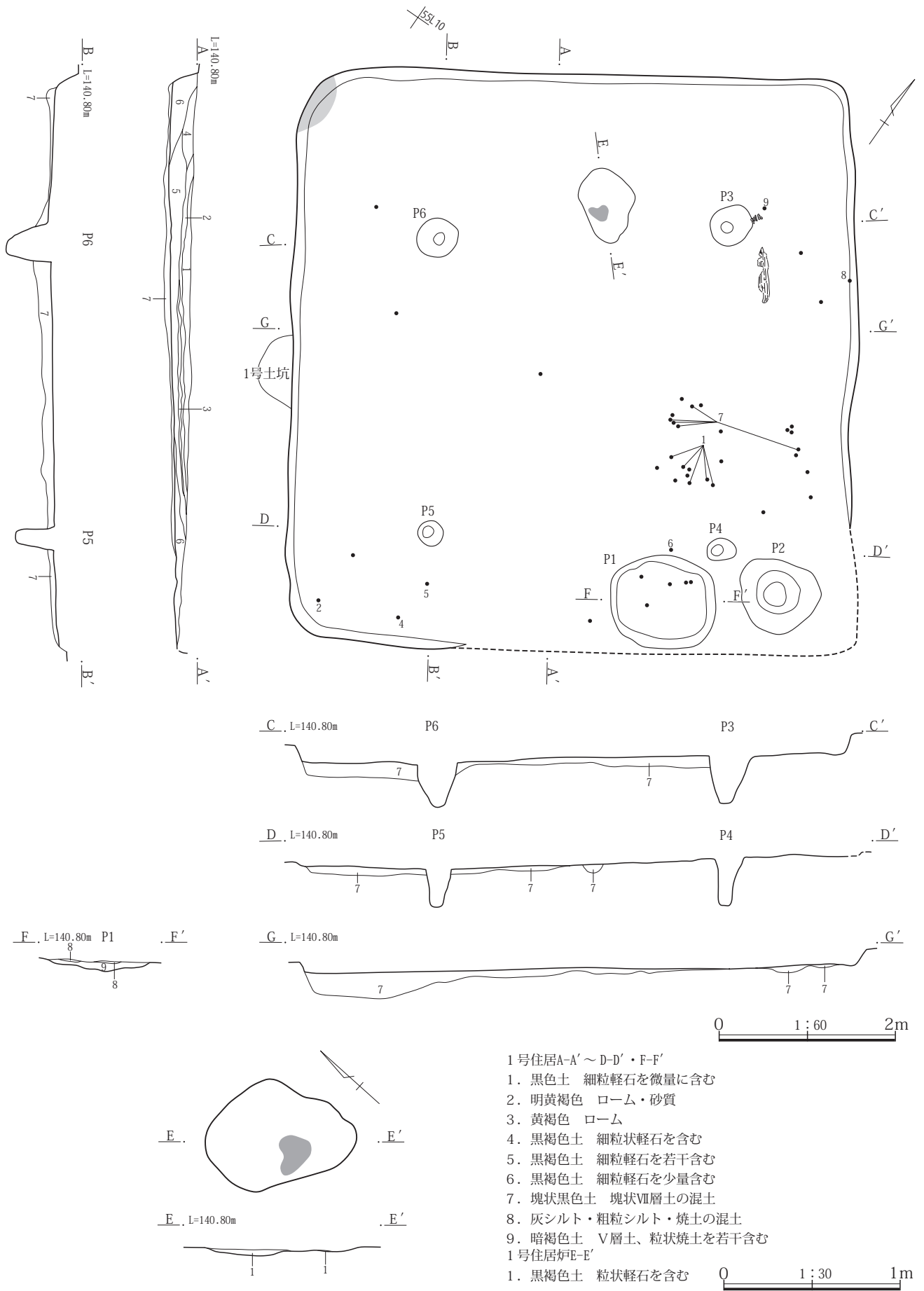
**敲打石** 55・56・65・66区から5点、67区から2点、計7点出土している。使用される石材は、粗粒輝石安山岩5点、砂質頁岩・雲母石英片岩が各1点である。このうち21・22・23を図示した。21は、下半部を欠損した棒状礫であり、上端側小口部に著しい敲打痕が残る。裏面側は平坦な分割面だが、稜が摩耗しており分割した状態で使われたと思われる。22は、下半部を欠損した扁平棒状礫であり、両側が敲打され、これに伴う衝撃剝離痕がある。23は、下半部を欠損した扁平棒状礫であり、上端側小口部に敲打され、これに伴う大きな衝撃剝離痕が生じている。

**台石** 67区から1点のみ出土している。図示した24は、変質玄武岩製の扁平楕円礫を素材としたものであり、右辺エッジに剝離痕がある。敲打痕等その他の使用痕は不明瞭だが、礫形状から見て台石と捉えた。

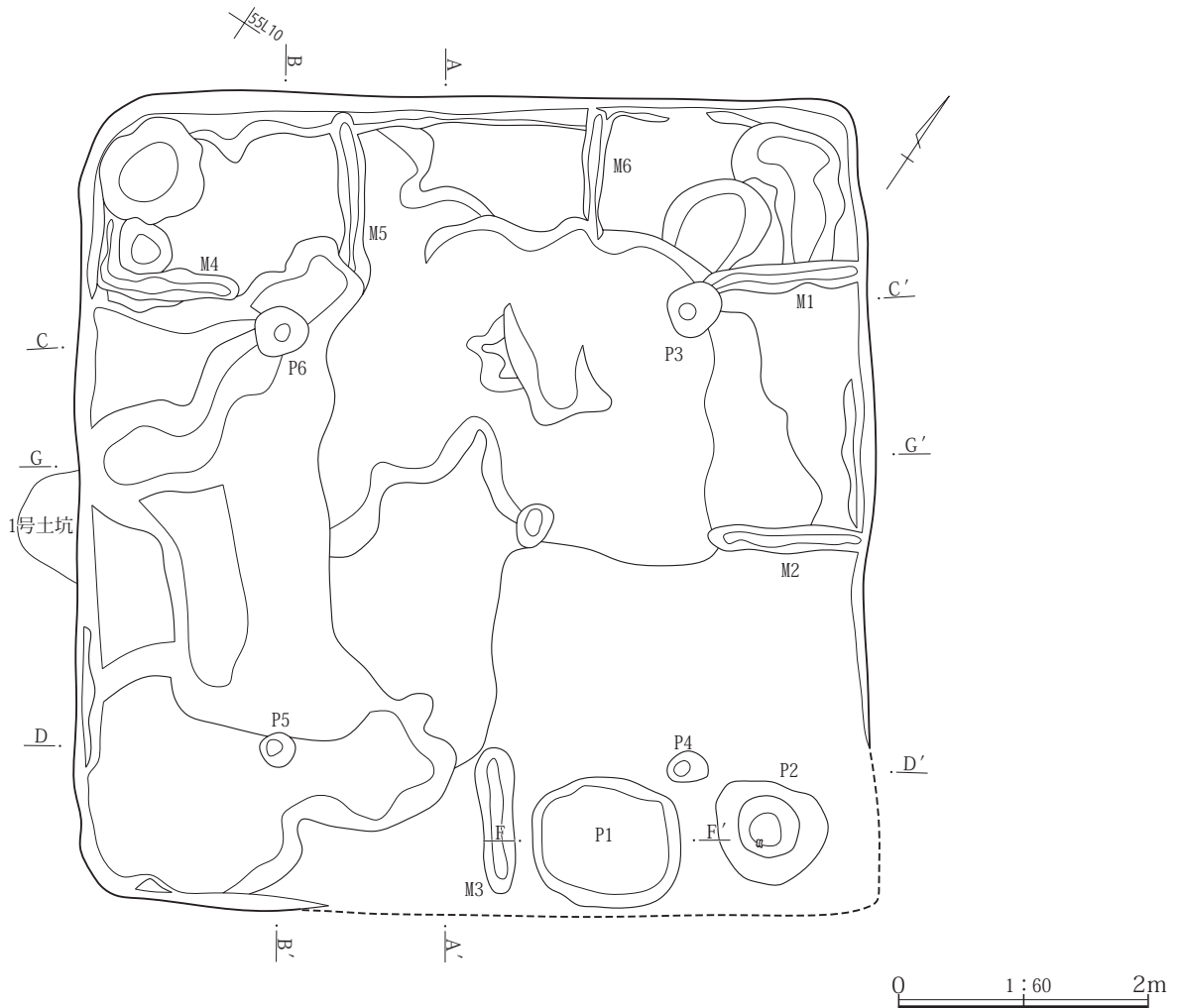
**石皿** 67区から1点のみ出土している。図示した25は、粗粒輝石安山岩製の右肩部破片である。有縁であり、機能部は浅く窪んでいる。

**多孔石** 67区から1点のみ出土している。図示した27は、粗粒輝石安山岩製の盤状礫を素材としたものであり、背面側平坦面に漏斗状の孔(径2cm強)を2つを穿つ。弱く煤けており、被熱破損したと考えられる。

**石棒** 67区の1号配石を切る近世の286号土坑から1点のみ出土している。図示した28は、粗粒輝石安山岩を素材とした有頭のもので、頭部は正面観を重視した作りであり、裏面側の括れ部は不明瞭である。体部は、全面に敲打痕が残り下端部を破損する。出土した286号土坑は、埋没土の様子から近世のものであるが、この石棒は1号配石の一部だった可能性も否めない。



第94図 1号住居



第95図 1号住居掘方

は礫であり、あまり掘り込むことができなかったと考えられる。

**埋没状態** 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

**遺物** 床面直上から出土したのは、土師器高坏(1)、土師器埴(4~6)、有孔石製品(8)である。その他は、床面より2cm上から石製品の有孔円盤(9)、3cm上から土師器甕(7)、掘方から土師器鉢(2)が出土している。頁岩製の有孔石製品(8)や滑石質蛇紋岩製の有孔円盤(9)は、古墳時代の住居からの出土としては、古いものと考えられる(第5章3節)。未掲載遺物では、土師器101点が出土した。須恵器片は出土していない。

**時期** 共伴する土師器高坏(1)や土師器甕(7)などの出土遺物から、5世紀中頃と考えられる。

**22号住居**(第97・98図、PL.22・74)

**位置** 55-T-14・15 56-A-B-14・15

**重複** 14号・16号~18号・20号溝、142号・152号土坑、35号・68号ピット、3号・4号竪穴状遺構と重複する。本住居の方が、重複する遺構より古い。

**形状** 正方形

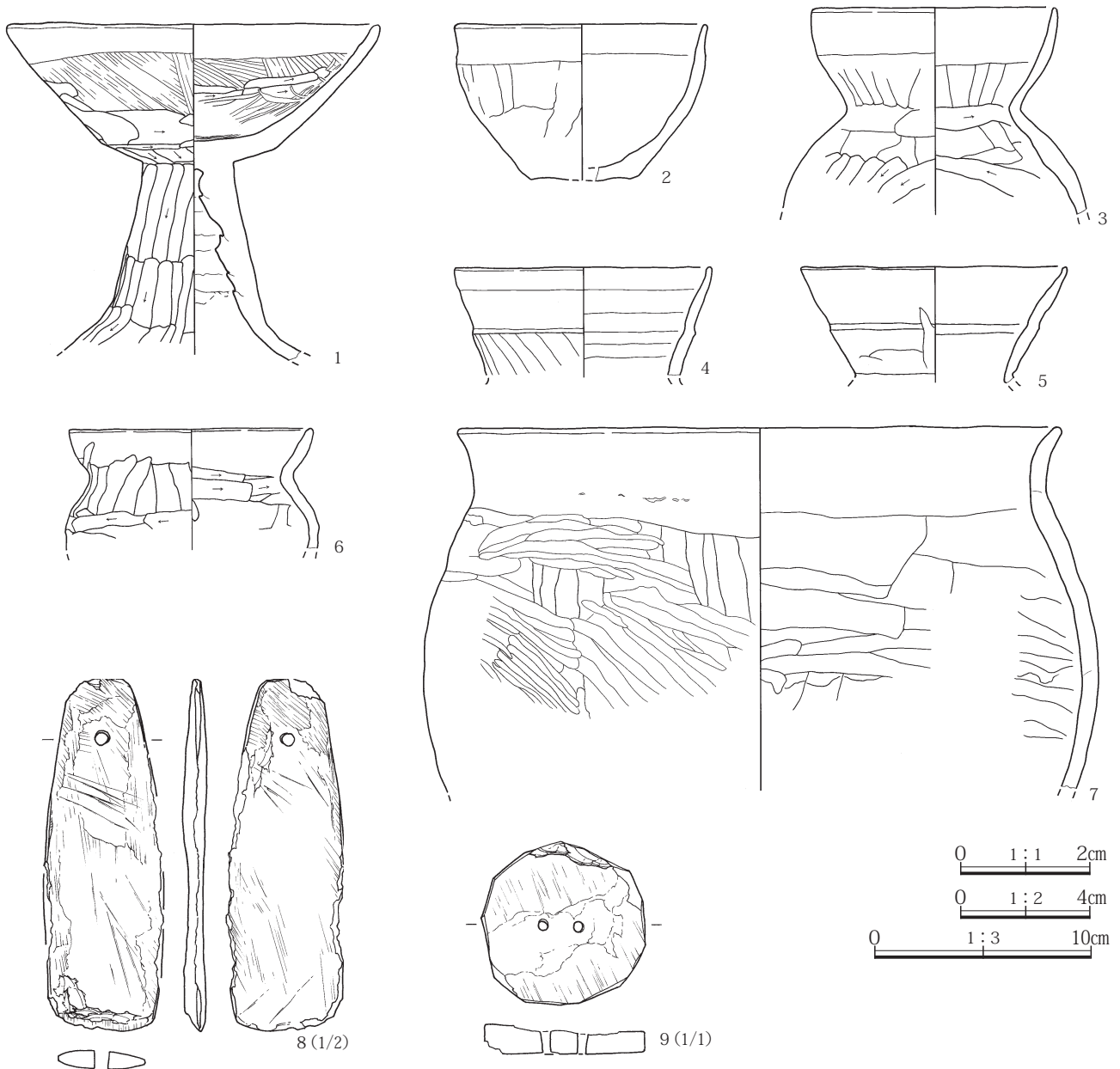
**規模** 長軸5.59m 短軸5.29m 残存深度0.86m

**主軸方位** N-50°-E **面積** 30.11㎡

**カマド** 東辺の中ほどよりやや南に造られている。規模は長軸1.53m、短軸0.59mを測るが、燃焼部幅は不明である。焚口部分は住居内であるが、燃焼部、煙道部は地山を掘り込んで造られていると推定される。天井部は、16号溝に切られているので、ほとんど痕跡が残存していない。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 主柱穴は、深さや位置関係からP2・P3・P4・



第96図 1号住居出土遺物

P 5である。各柱穴の規模(直径×深さ)は、P 2 : 51×72cm・P 3 : 22×64cm・P 4 : 25×25cm・P 5 : 48×54cmである。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** ほぼ平坦である。浅い落ち込みが、カマド右側(P 1)、中央南東側(P 9)、中央北西側(P 10)に検出された。また、南辺の中央近くに壁をオーバーハングする部分があった。

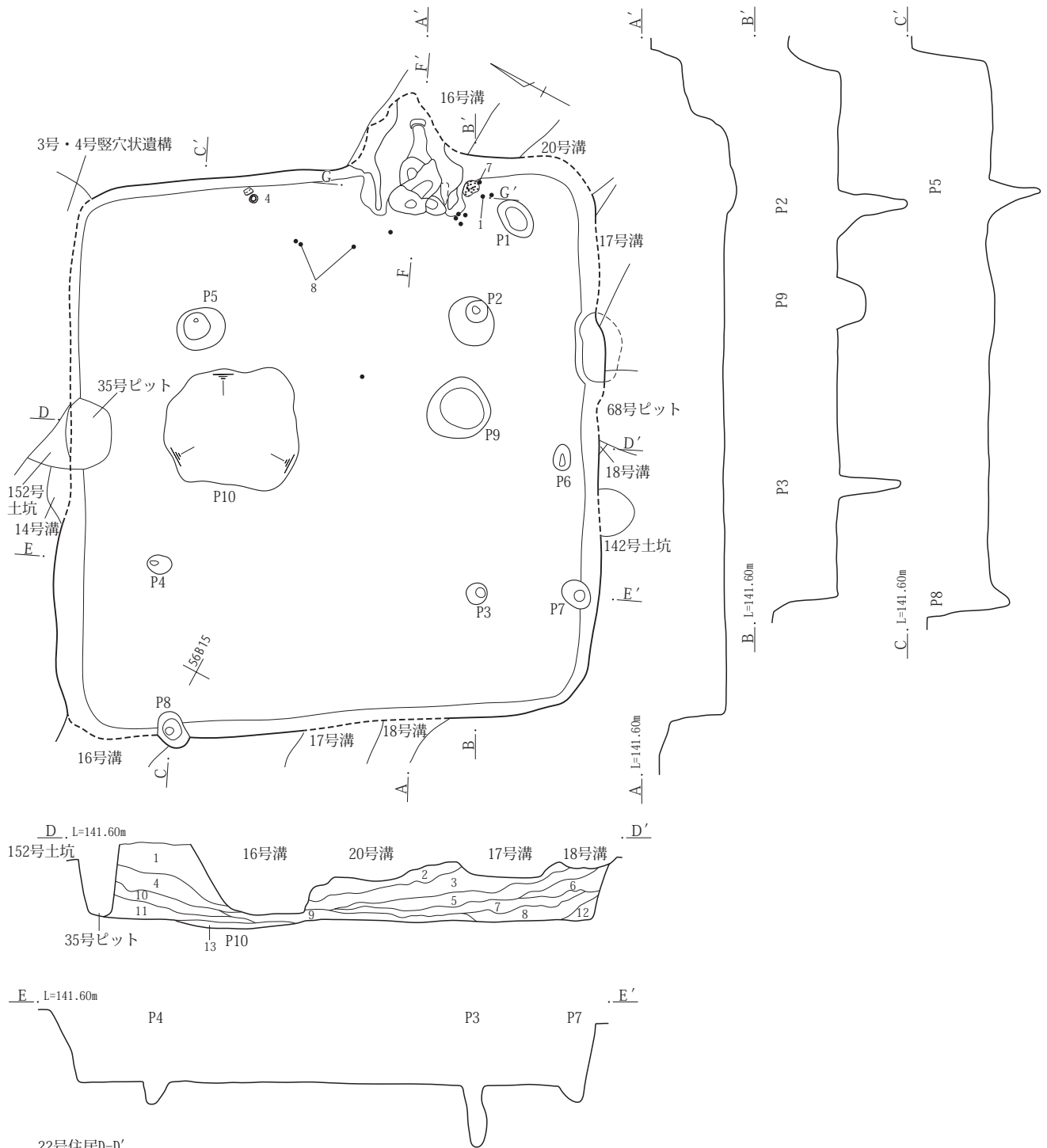
**掘方** 確認されなかった。

**埋没状態** 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

**遺物** 床面直上から出土したのは、土師器坏(1)、土師器甕(7・8)である。その他は、床面より2cm上から須恵器坏(4)が出土、フク土からは、土師器坏(2・3)、土師器甕(9)、敲石(10)が出土している。須恵器坏(5)・碗(6)は後世の混入品である。未掲載遺物では、土師器49点、須恵器1点が出土した。

**時期** 共伴する土師器坏(1・2)や土師器甕(8・9)などの出土遺物から、7世紀後半と考えられる。

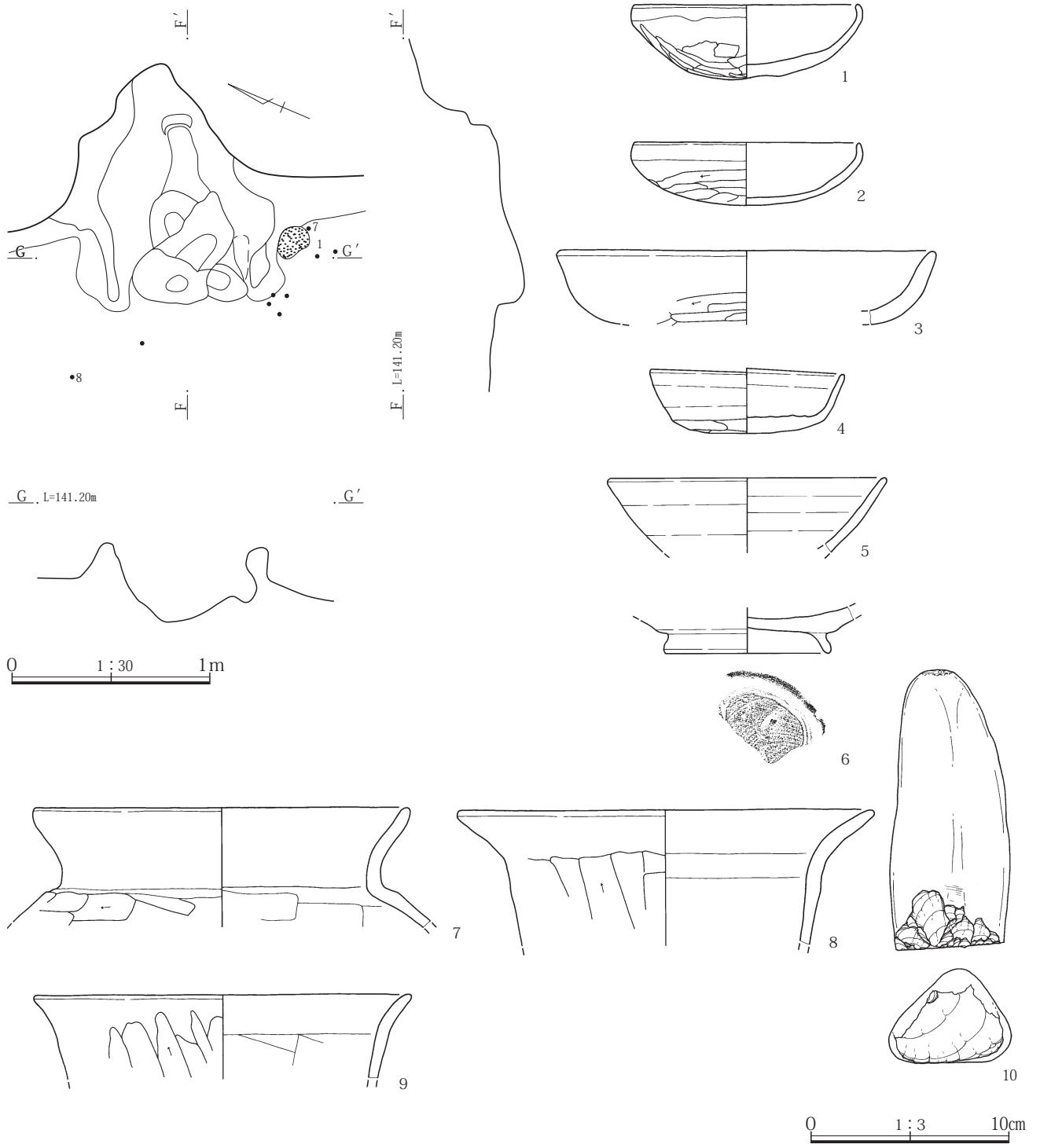




22号住居D-D'

1. 黒褐色土 粒状軽石・粗粒状軽石混入
2. 黒褐色土 粒状軽石を少量、塊状Ⅶ層土を若干含む
3. 黒褐色土と塊状Ⅶ層土の混土
4. 黒褐色土 粒状軽石・塊状Ⅶ層土を含む
5. 黒褐色土 塊状Ⅶ層土を少量、粒状Ⅶ層土を多量に含む
6. 黒褐色土 細粒状軽石・塊状Ⅶ層土を少量含む
7. 黒褐色土 塊状Ⅶ層土を少量、粒状Ⅶ層土・塊状Ⅲ層土を含む
8. 黒褐色土 5層と同質
9. 黒褐色土 細粒状軽石を若干含む、粗粒状Ⅶ層土混入
10. 黒褐色土 粒状軽石と粗粒状Ⅶ層・粒状Ⅶ層土の混土
11. 黒褐色土 粒状軽石と粗粒状Ⅶ層、粒状Ⅶ層土と塊状Ⅶ層土と塊状Ⅲ層土の混土
12. 黒褐色土 細粒状軽石を若干含む
13. 塊状Ⅶ層土主体

第97図 22号住居



第98図 22号住居カマドと出土遺物

### 3. 道

#### 2号道(第99図、PL.22)

位置 55-T-10・11 56-A・B-10・11

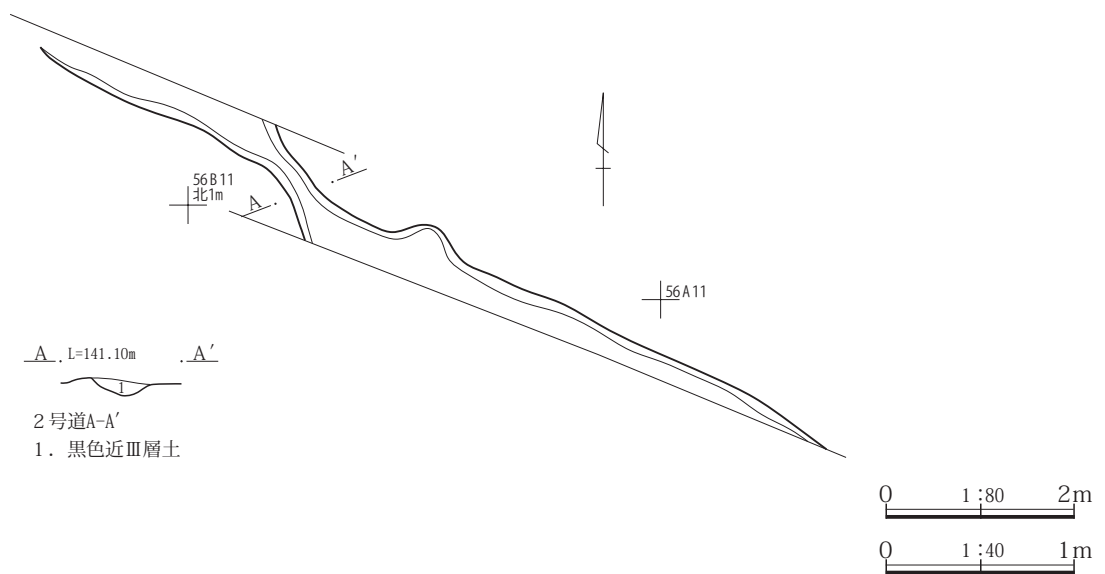
走行方向 N-62°-W 重複 なし。 規模 幅0.29  
~0.64m 残存深度0.01~0.09m 調査長9.34m

埋没土 Ⅲ層土に近い黒色土が堆積。

遺物 なし。

時期 埋没土から、古墳時代のものとした。

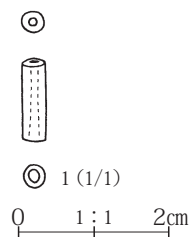
所見 調査区56区の南側から調査区外へ続く形で検出された。



第99図 2号道

### 4. 古墳時代遺構外遺物(第100図、PL.74)

珪質頁岩製の管玉(1)は、平安時代の13号住居の床面直上から出土した。非常に丁寧に磨き上げ、研磨痕は残っていない。孔は径1mm程度だが、わずかながら下端側の孔径が大きい。



第100図 古墳時代遺構外出土遺物

## 第6節 奈良・平安時代

### 1. 概要

竪穴住居31軒、竪穴状遺構18基、掘立柱建物3棟、井戸1基、溝22条、道2条、土坑253基、ピット73基を検出した。遺構は、台地の西側に集中しており東側にはほとんどない。なお、16号・17号・18号・19号・20号・21号溝は、55区から56区にかけて通る道路状遺構の側溝としての役割を果たしていたと考えられる。この道路状遺

構は、東から西にかけて、浅間山を望む方向に走行している。

### 2. 竪穴住居

**2号住居**(第101・102図、PL.23・75)

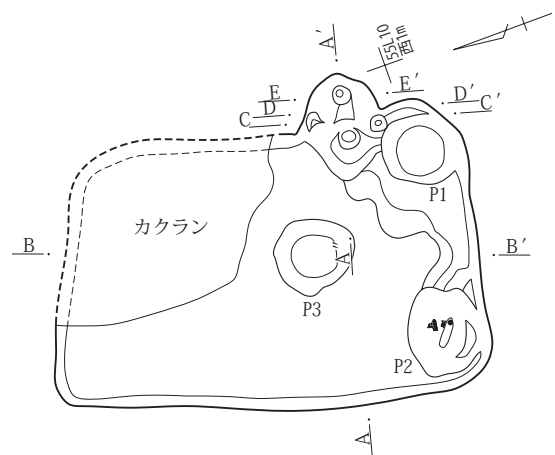
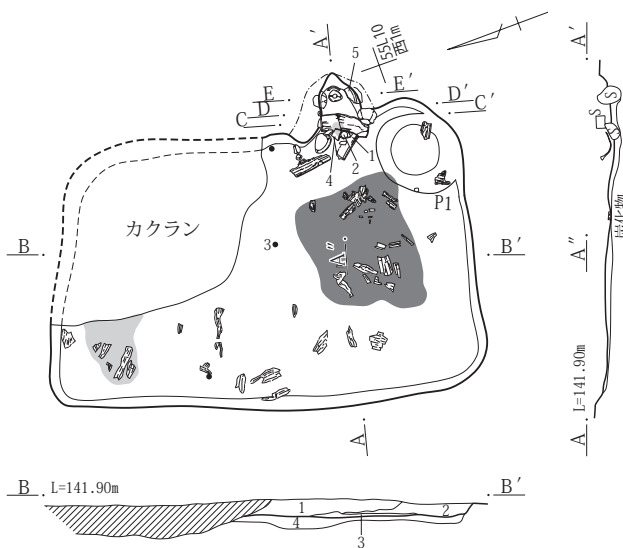
**位置** 55-L-9・10

**重複** なし。北東部をカクランで欠く。

**形状** 長方形

**規模** 長軸3.27m 短軸2.15m 残存深度0.11m

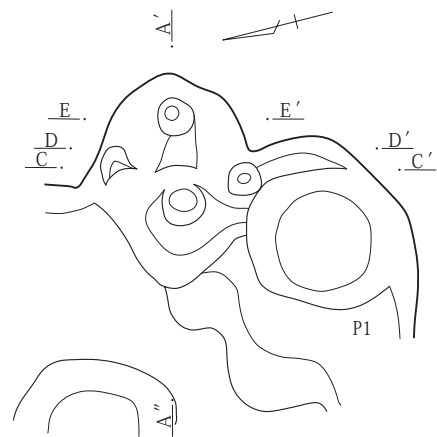
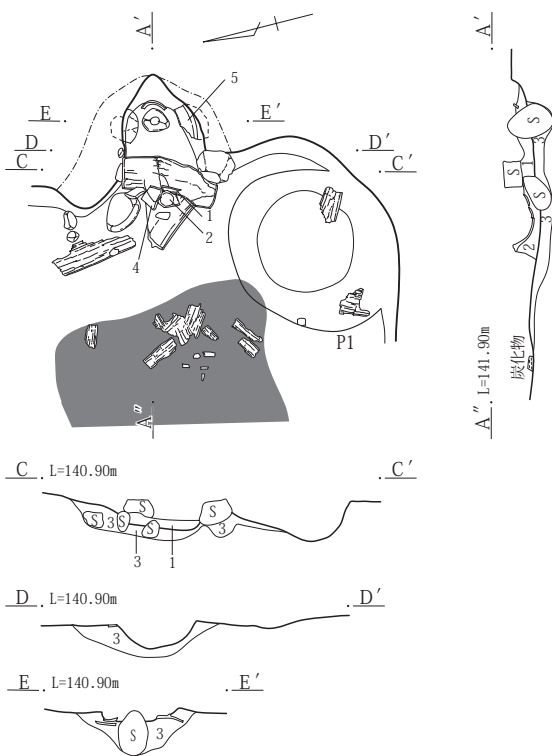
**主軸方位** N-95°-E **面積** 7.06m<sup>2</sup>



2号住居B-B'

1. 黒褐色土 粒状軽石を含む
2. 黒褐色土 粒状軽石混入・塊状焼土・粗粒状炭化物を含む
3. 黒褐色土 細粒状軽石若干、粒状炭化物を多量に含む
4. 塊状褐色土と少量の塊状Ⅶ層土の混土、硬質

0 1:60 2m

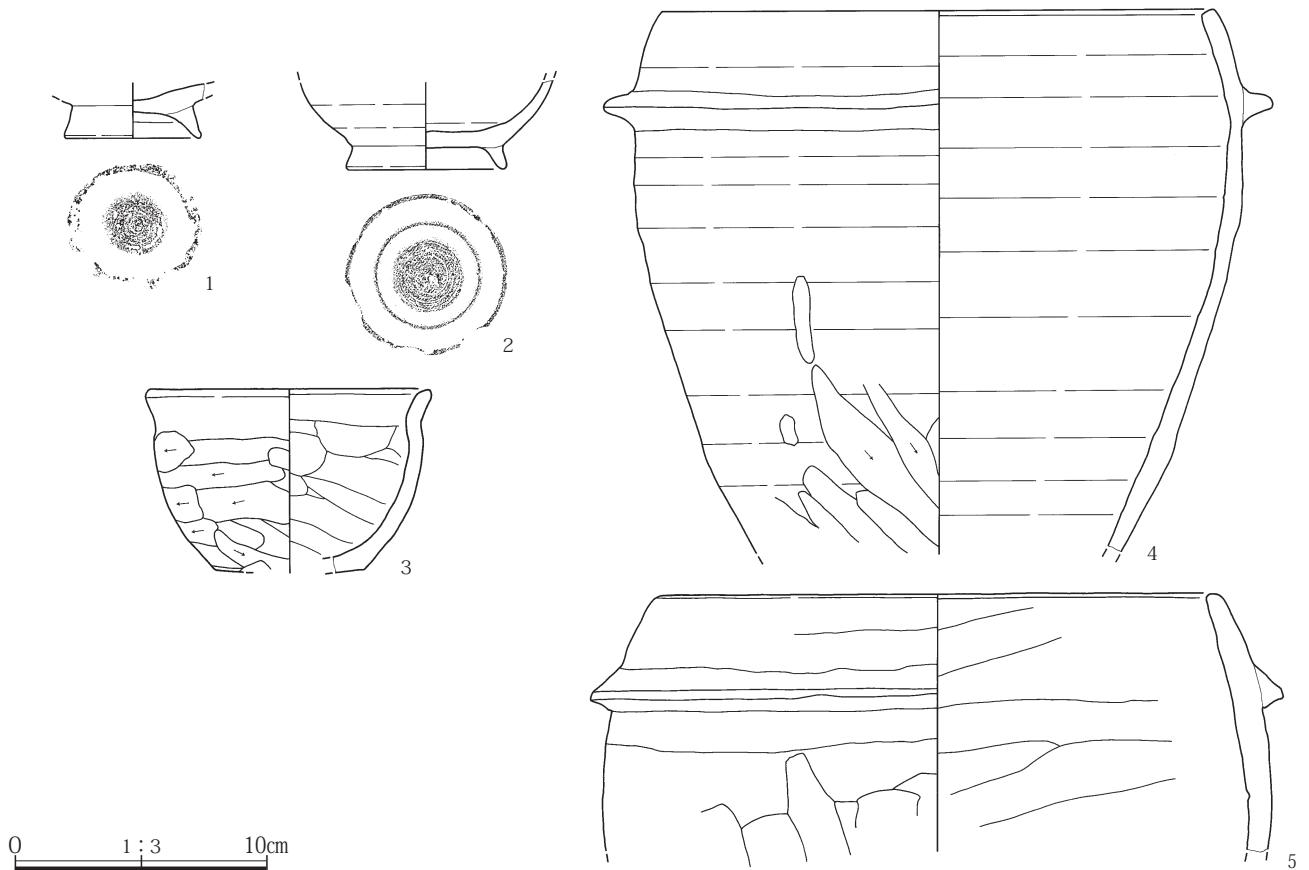


2号住居カマドA''-A'・C-C'~E-E'

1. 黒褐色土 粒状軽石を若干、粒状焼土を含む
2. 塊状焼土層
3. 塊状Ⅶ層土 黒褐色土の混土に粒状焼土を少量含む

0 1:30 1m

第101図 2号住居



第102図 2号住居出土遺物

**カマド** 東辺の中央やや南寄りに造られている。規模は全長0.85m、軸0.50m、燃烧部幅0.30mである。下部が残存する程度である。両袖には角礫を埋め込んで天井部の礫を支える補強に使用している。天井部は両袖の礫に0.12×0.35×0.08mの角礫を渡して補強に使用しているが、竪穴住居廃棄時に壊されているため天井部の礫は燃烧部に落下し、左袖の礫はカマド前に倒れた状態であった。燃烧部の奥には支脚に使用されたと見られる礫が検出されている。煙道部は、燃烧部から壁外に40cmほど延びる。

**貯蔵穴** 東南角より検出(P 1)。規模は径0.68×0.65m、深さ0.25mを測る。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** 平坦でほぼ全面が硬化している。床面の中央南には炭、北西部には焼土の広がりが見られ、全体的に炭化材が散乱した状態で出土している。

**掘方** 床面までは5cmほどと浅い埋戻しである。ほぼ平坦であるが、南側壁下に浅い落ち込みが見られる。また、中央やや南と南西隅に床下土坑(P 2、P 3)が検出され

た。P 2は径0.70×0.57m、深さ0.23m、P 3は径0.66×0.53m、深さ0.10mである。P 2の床下土坑からは未掲載の須恵器坑が出土している。

**埋没状態** 確認面から床面までが浅いため不明瞭であるが、土層堆積の観察では自然堆積による埋没と見られる。

**遺物** 土師器3点、須恵器2点を図示した。カマドから須恵器皿(1)・須恵器碗(2)・須恵器羽釜(4・5)が出土した。土師器鉢(3)は住居中央の床面6cm上からの出土である。未掲載遺物では、土師器19点、須恵器2点、灰釉陶器1点が出土した。

**時期** 共伴する土師器鉢(3)や須恵器羽釜(4)などの出土遺物から、10世紀前半と考えられる。

**所見** 炭や焼土の分布、炭化材の散乱などが見られるが、その範囲や量は少なく焼失したものは明確ではない。

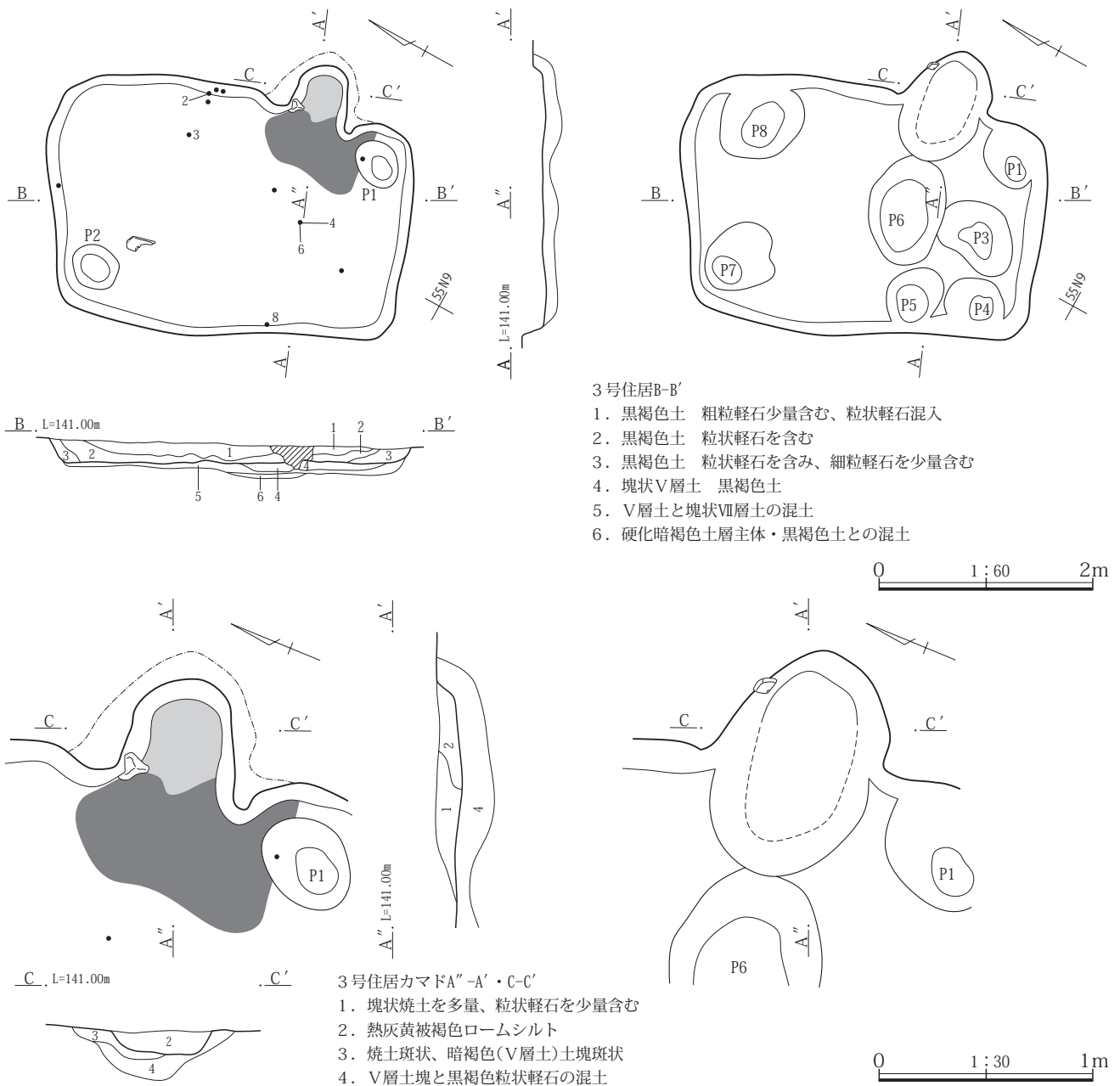
### 3号住居(第103・104図、PL.23・75)

**位置** 55-M・N-9

**重複** なし。

**形状** 長方形

**規模** 長軸3.35m 短軸2.35m 残存深度0.27m



第103図 3号住居

主軸方位 N-72°-E 面積 7.14㎡

**カマド** 東辺の中央やや南寄りに造られている。規模は全長1.02m、幅0.65m、燃焼部幅0.32mである。袖の一部は残存するが、天井部は廃棄時に壊されたのか燃焼部の焼土面上で確認された。カマド前の床面にはカマドから掻き出されたと見られる炭の広がり確認された。燃焼部から煙道部は壁外に40cmほど延びる。

**貯蔵穴** 東南角より検出(P1)。規模は径0.47×0.3m、深さ0.11mを測る。

**柱穴** 確認されなかった。柱穴とは見られないが、北西角より径0.45×0.40m、深さ0.14mの土坑(P2)が検出

されている。

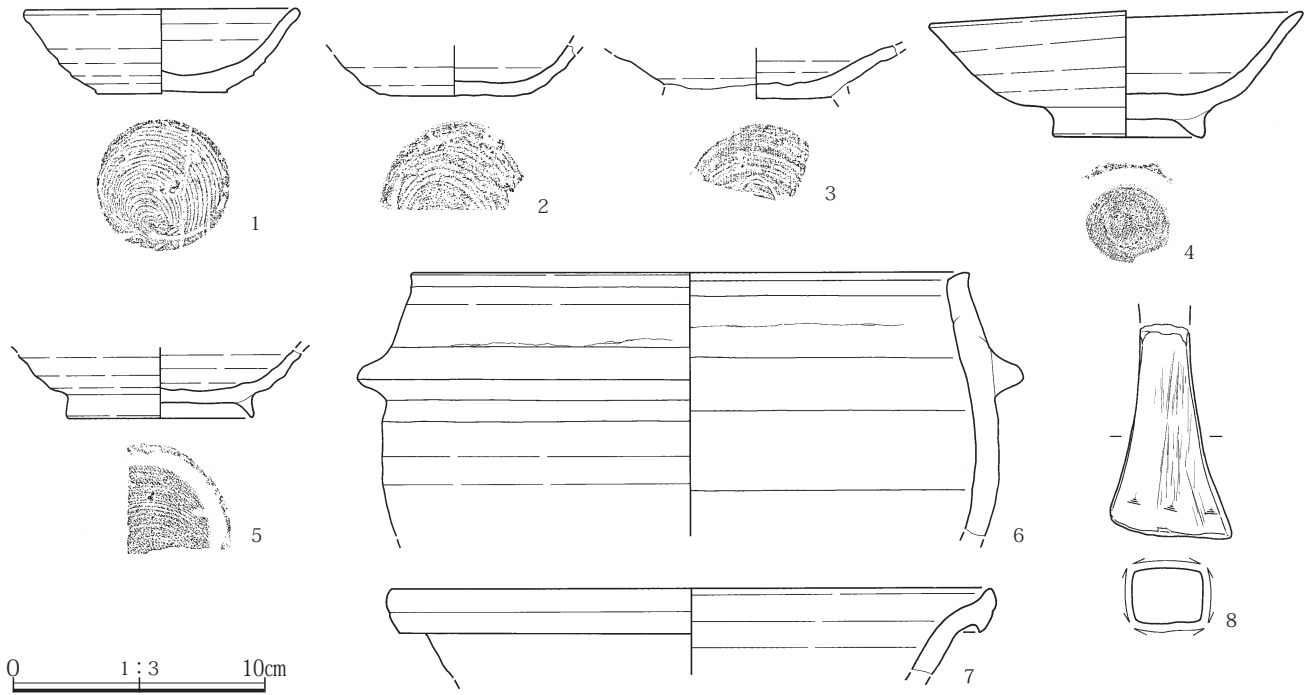
**周溝** 確認されなかった。

**床面** ほぼ平坦である。

**掘方** 床面までは10cmほど埋め戻されている。北半側は比較的平坦である。北東角に1基(P8)、南半から4基の床下土坑(P3~P6)が検出されている。

**埋没状態** 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

**遺物** 須恵器7点、砥石1点を図示した。須恵器坏(2)は東辺中央の床面17cm上から、須恵器碗(3)は住居中央



第104図 3号住居出土遺物

やや東の床面16cm上から、須恵器碗(4)と須恵器羽釜(6)は、住居中央南の床面6cm上から、砥石(8)は西辺やや南の床面2cm上からの出土である。未掲載遺物では、土師器54点、須恵器15点が出土した。

**時期** 相伴する須恵器坏(1)須恵器碗(3~5)や須恵器羽釜(6)などの出土遺物から、10世紀前半と考えられる。

#### 4号住居(第105・106図、PL.23・24・75)

**位置** 55-M・N-12・13

**重複** なし。

**形状** 長方形

**規模** 長軸3.52m 短軸3.06m 残存深度0.4m

**主軸方位** N-98°-E **面積** 9.66㎡

**カマド** 東辺の中央やや南寄りに造られている。規模は全長1.22m、幅0.3m、燃烧部幅0.40mを測る。燃烧部は地山を掘り込んで造られている。天井部は竪穴住居廃棄時に壊されているためか、燃烧部上でわずかに痕跡が観察できるだけである。燃烧部の焚口寄りには灰層が残る。カマド前の床面にはカマドから掻き出されたと見られる炭の広がり確認された。燃烧部から煙道部は壁外に50cmほど延びる。焚口よりやや奥に支脚と見られる円柱状の礫が立てられていた。

**貯蔵穴** 東南角より検出(P1)、規模は径0.55×0.50m、

深さ0.21mを測る。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

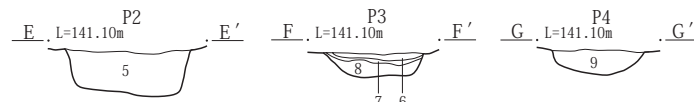
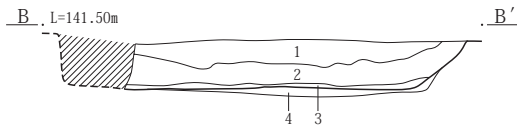
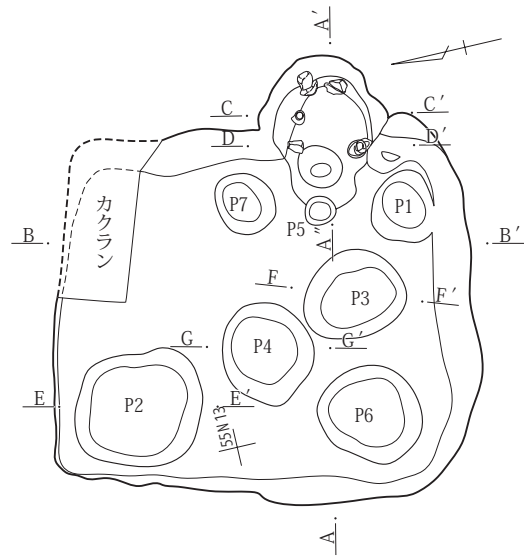
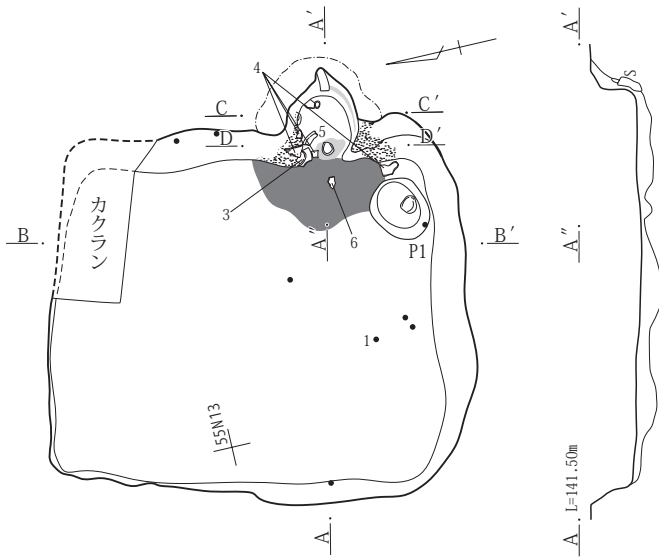
**床面** 平坦でほぼ全面に貼床が施されていた。

**掘方** 床面までは2~10cmほど埋め戻されている。北東部を除いて径0.25~1.01m、深さ0.12~0.42mの床下土坑(P2~P6)5基が検出されている。その中のP3はローム塊を埋め込んだ後、ローム塊と焼土の混土を1~2cmの厚さで貼り込めるなど特徴的なものが見られるが、土器などの遺物は出土していない。

**埋没状態** 土層断面の観察ではレンズ状の堆積が確認できることから自然堆積による埋没と考えられる。

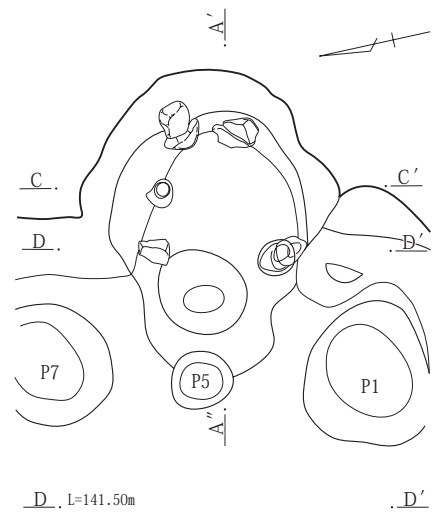
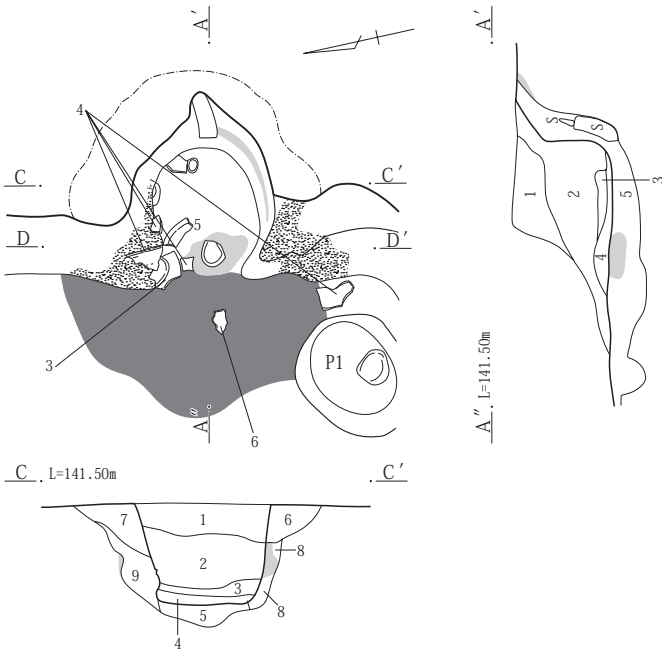
**遺物** 土師器1点、須恵器4点、黒色土器1点を図示した。カマドから、須恵器碗(3)、須恵器長頸壺(4)、土師器甕(5)、須恵器羽釜(6)が出土した。須恵器坏(1)は住居南側の床面13cm上からの出土である。未掲載遺物では、土師器37点、須恵器13点が出土した。

**時期** 相伴する土師器甕(5)や須恵器羽釜(6)などの出土遺物から、10世紀前半と考えられる。



- 4号住居B-B'・E-E'～G-G'
1. 黒色土 粒状軽石を少量含む、被水
  2. 黒色土 粒状軽石を若干含む、被水
  3. 塊状Ⅶ層土
  4. 黒褐色土 粒状軽石を含む、貼床
  5. V層土塊とⅥ層土塊の混土
  6. 黒焼土ローム粗粒と粒状焼土の混土
  7. 小ローム塊と焼土の混土
  8. 灰黄色ローム塊
  9. V層土(暗褐色土)に灰白黄色ロームを含む

0 1:60 2m



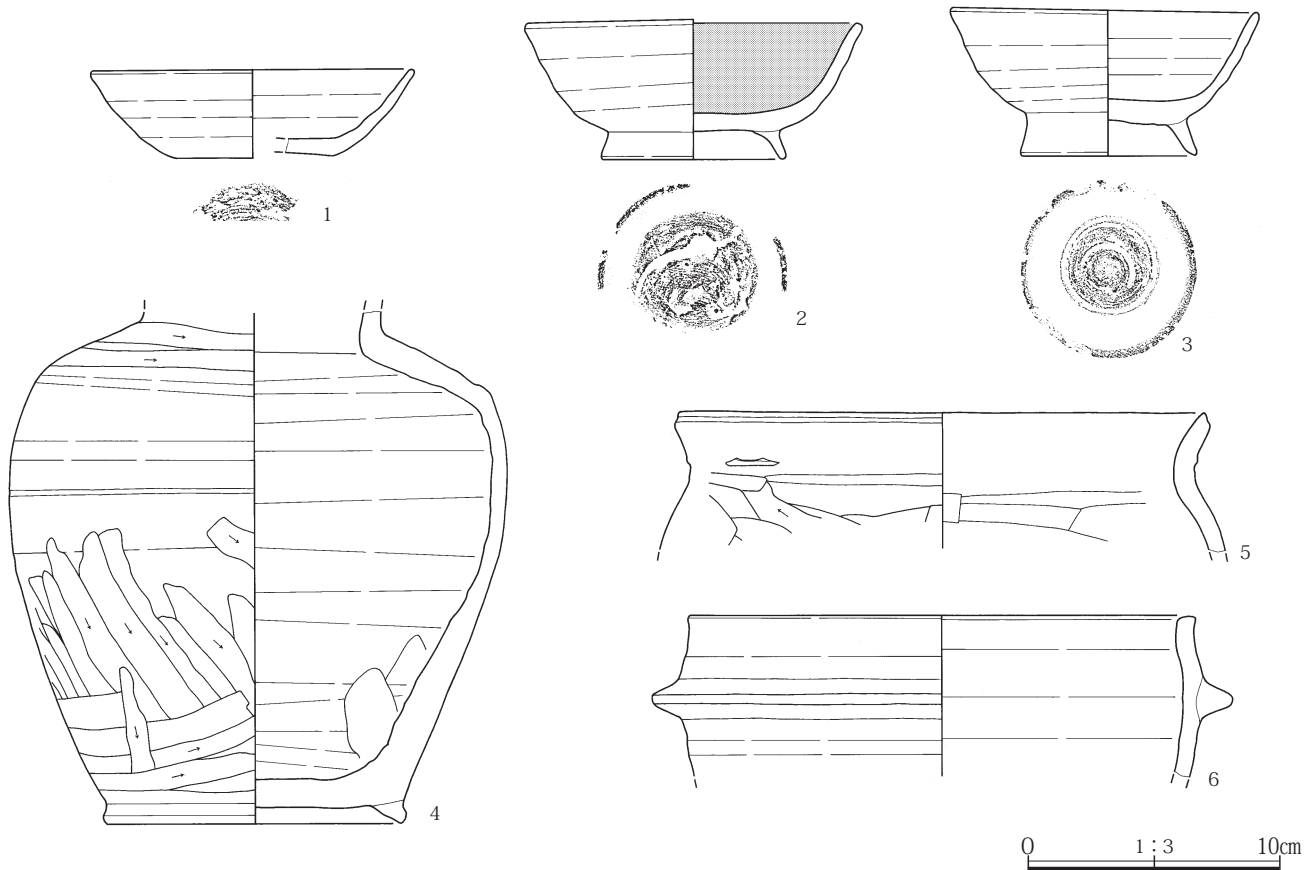
4号住居カマドA''-A'・C-C'

1. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む
2. 黒褐色土 粒状軽石若干、粒状焼土を含む、灰褐色粗粒子混入
3. 黒褐色土 粒状軽石・灰褐色シルト塊・焼土層
4. 灰
5. 暗褐色土 粒状軽石・粒状炭化物を微量に、粒状焼土を少量含む
6. 灰褐色シルト塊・被熱灰橙塊を多量、粒状軽石を微量に含む
7. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む、灰褐色シルト粗粒混入
8. 被熱シルト赤橙
9. 焼土と灰褐色塊の混土

0 1:30 1m

第105図 4号住居





第106図 4号住居出土遺物

**5号住居**(第107図、PL.24・75)

**位置** 55-0-9

**重複** 6号住居と重複するが、本住居の方が新しい。中央部を東西に走る溝状のカクランで欠く。

**形状** 長方形

**規模** 長軸2.85m 短軸2.3m 残存深度0.46m

**主軸方位** N-100°-E **面積** (6.42㎡)

**カマド** 東辺のほぼ中央部に造られている。カクランでほとんど欠損しているため、規模・状態については不明である。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** やや凹凸がみられる。

**掘方** 床面まで5~10cmほど埋め戻されている。底面はほぼ平坦である。

**埋没状態** 土層断面の観察ではレンズ状の堆積が確認できることから自然堆積による埋没と考えられる。

**遺物** 須恵器3点、刀子1点を図示した。刀子(4)は、東辺北側の床面直上から出土である。未掲載遺物では、

土師器71点、須恵器23点が出土した。

**時期** 重複する6号住居より新しい竪穴住居であること、共伴する須恵器坏(1・2)、須恵器碗(3)などの出土遺物から、9世紀後半と考えられる。

**6号住居**(第108~111図、PL.24・25・75・76)

**位置** 55-N・0-9・10

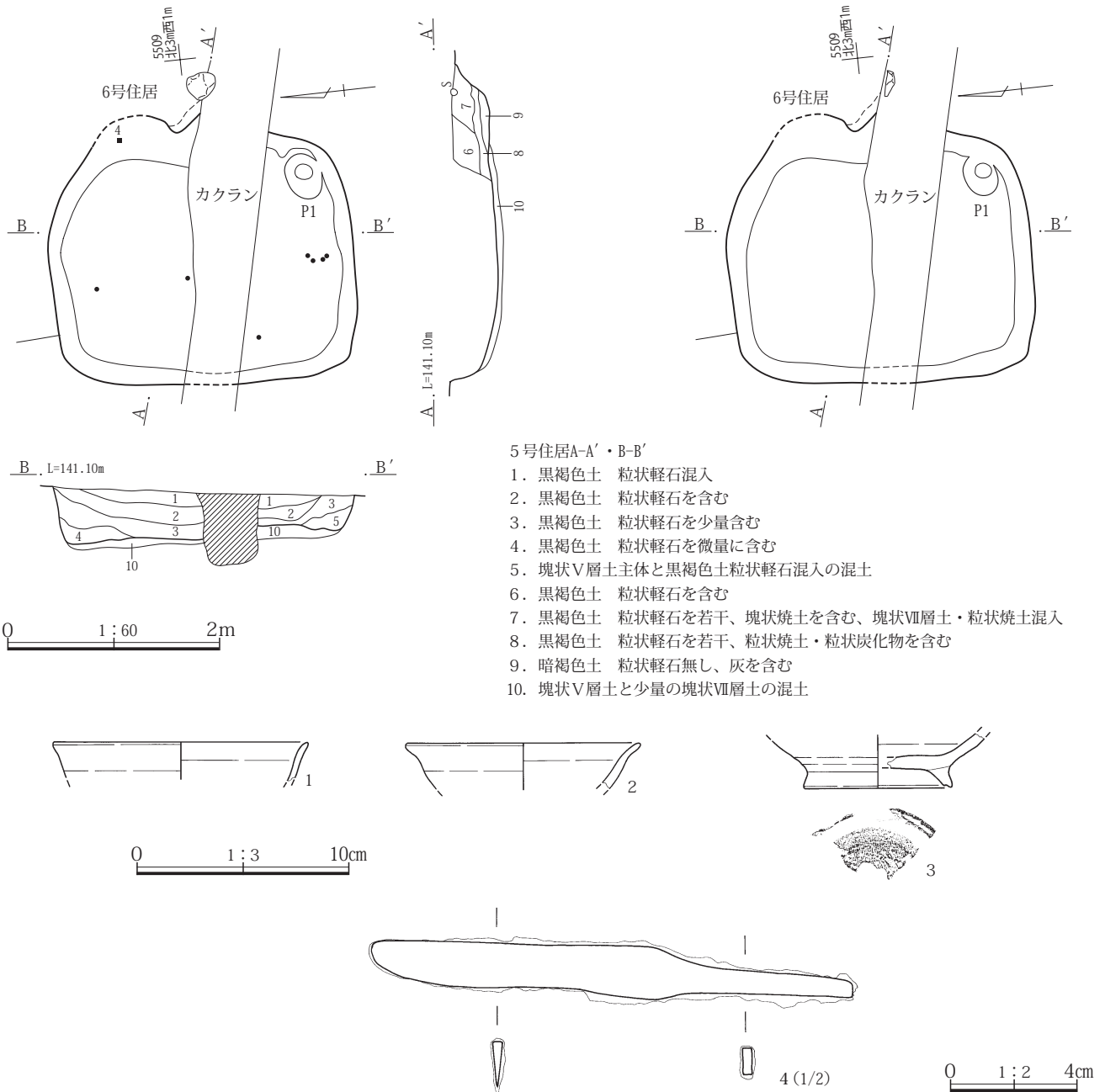
**重複** 5号住居、681号土坑と重複する。本住居の方が古い、そのため南西角を欠く。

**形状** 正方形、東辺の北側と南側では0.5mほどの差がみられる。

**規模** 長軸5.78m 短軸5.59m 残存深度0.59m

**主軸方位** N-96°-E **面積** 29.76㎡

**カマド** 東辺の南東角寄りに造られている。規模は全長1.27m、幅0.63m、燃烧部幅0.50mを測る。燃烧部の奥側は地山を掘り込み、手前側は袖を構築している。左袖には角礫を補強に使用している。天井部は土層断面で崩落している状態が観察できる。崩落した天井部は焚口から床面にかけての崩落が見られることから廃棄時に天井部を壊した可能性が高い。燃烧部の奥側から煙道部にか



第107図 5号住居と出土遺物

けては壁外に65cmほど延びる。

**貯蔵穴** 東南角より検出(P 1)、規模は径0.61×0.5m、深さ0.13mを測る。

**柱穴** 確認されなかった。

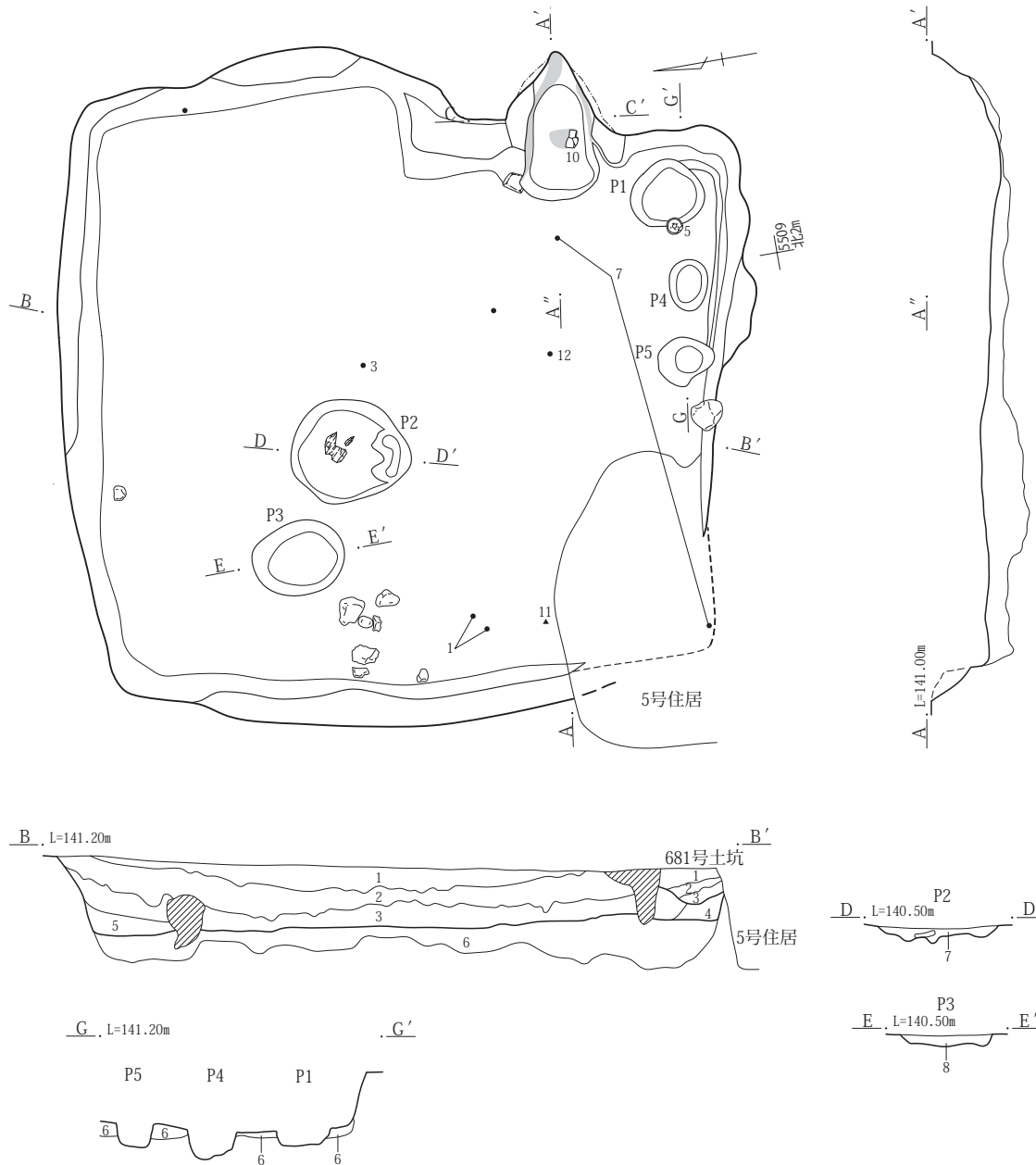
**周溝** 南東角から南辺東半分で検出。

**床面** ほぼ平坦である。中央やや西側に土坑状の落ち込み(P 2、P 3)が2基検出された。P 2は径1.03m×0.86m、深さ0.10mで、底面に凹凸が見られ、炭が残っていた。P 3は径0.78×0.62m、深さ0.13mで、底面は平坦である。南辺の中央より東寄りですピットが2基(P 4、P 5)

検出されている。P 4は径0.44×0.34m、深さ0.20m、P 5は径0.42×0.35m、深さ0.15mを測る。2基のピットは60cmの間隔で配置されており、その位置関係から梯子穴の可能性はある。

**その他** カマド北側では長さ0.80m、幅0.25mほどの平坦面が確認された。

**掘方** 床面まで10～40cmほど埋め戻されている。全体に凹凸が激しい掘方である。床下土坑状の落ち込みが17カ所で見つかるが、確実なものは見られない。掘削工具痕が、北辺と西辺、中央部に残っていた。



6号住居B-B'・D-D'・E-E・G-G'

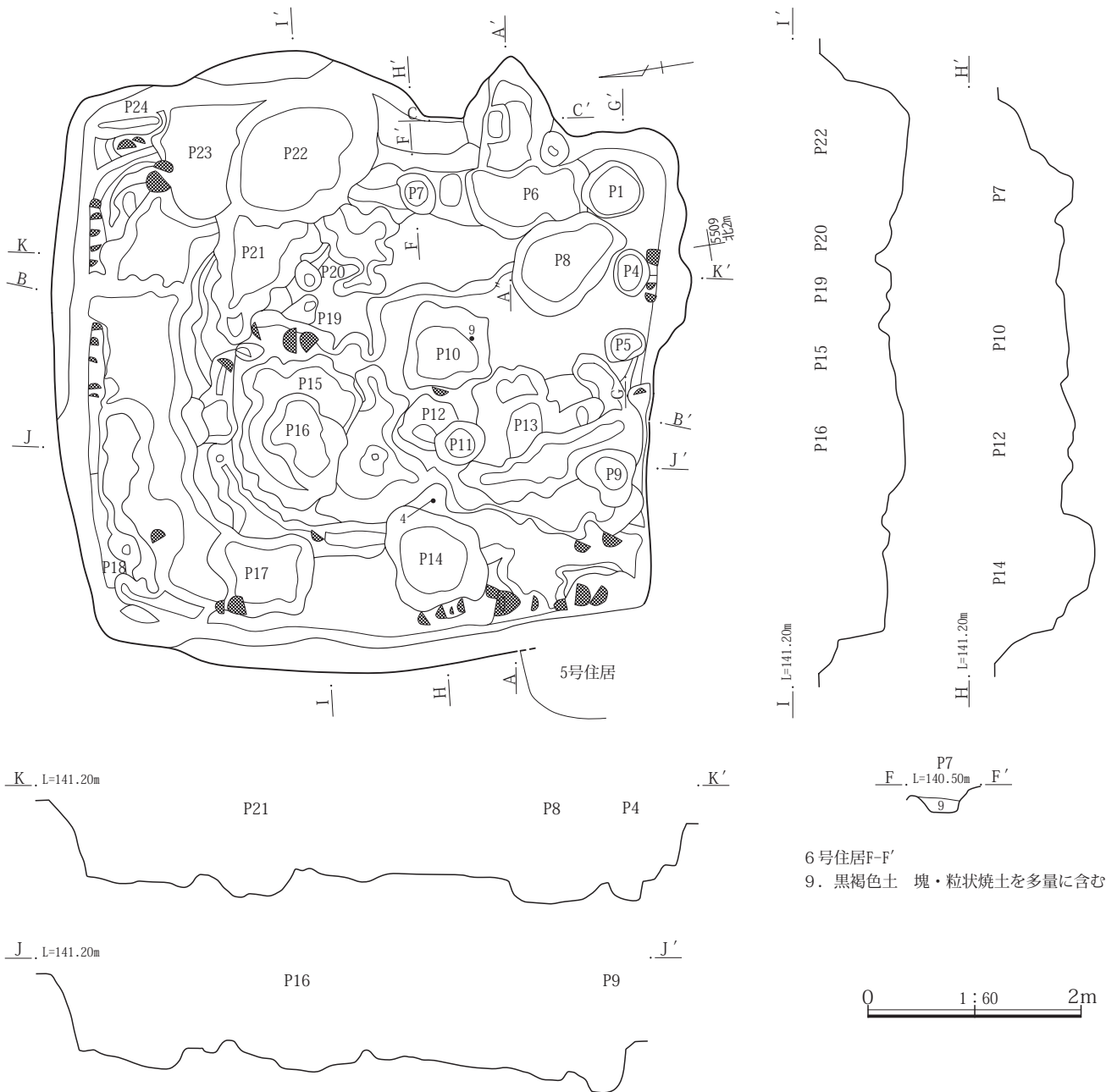
1. 黒褐色土 粒状軽石混入
2. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む
3. 黒褐色土 粒状軽石を若干含む
4. 暗褐色土 粒状軽石を微量に含む
5. 黒褐色土 粒状軽石を微量に、ローム粗粒子を若干含む
6. 塊状V層土と明黄褐色VII層土(被水ローム)の混土
7. 黒褐色土 粒状軽石・塊状炭化物を含む
8. 黒褐色土 細粒軽石を少量、塊状にぶい褐色土を含む

681号土坑B-B'

1. 黒褐色土 粒状軽石を含む
2. 黒褐色土 粒状軽石・塊状VII層土を含む
3. 黒褐色土 粒状軽石・塊状VII層土を少量含む

0 1:60 2m

第108図 6号住居



第109図 6号住居掘方

**埋没状態** 土層断面の観察では周囲からの流れ込みによる埋没の可能性が確認できるが、各層位の間凹凸がみられることから確実な自然堆積による埋没とは断定できない。

**遺物** 土師器4点、須恵器6点、砥石1点、刀子1点を図示した。カマドから土師器甕(10)が出土した。土師器坏(1)は住居西辺中央の床面5cm上から、土師器坏(3)が住居中央の床面14cm上から、刻書(「山」か記号)のある須恵器坏(5)は貯蔵穴(P1)の際床面6cm上から、須恵器壺(9)は住居中央の掘方から、砥石(11)は西辺やや南の床面6cm上から、刀子(12)は住居中央やや南床面7cm

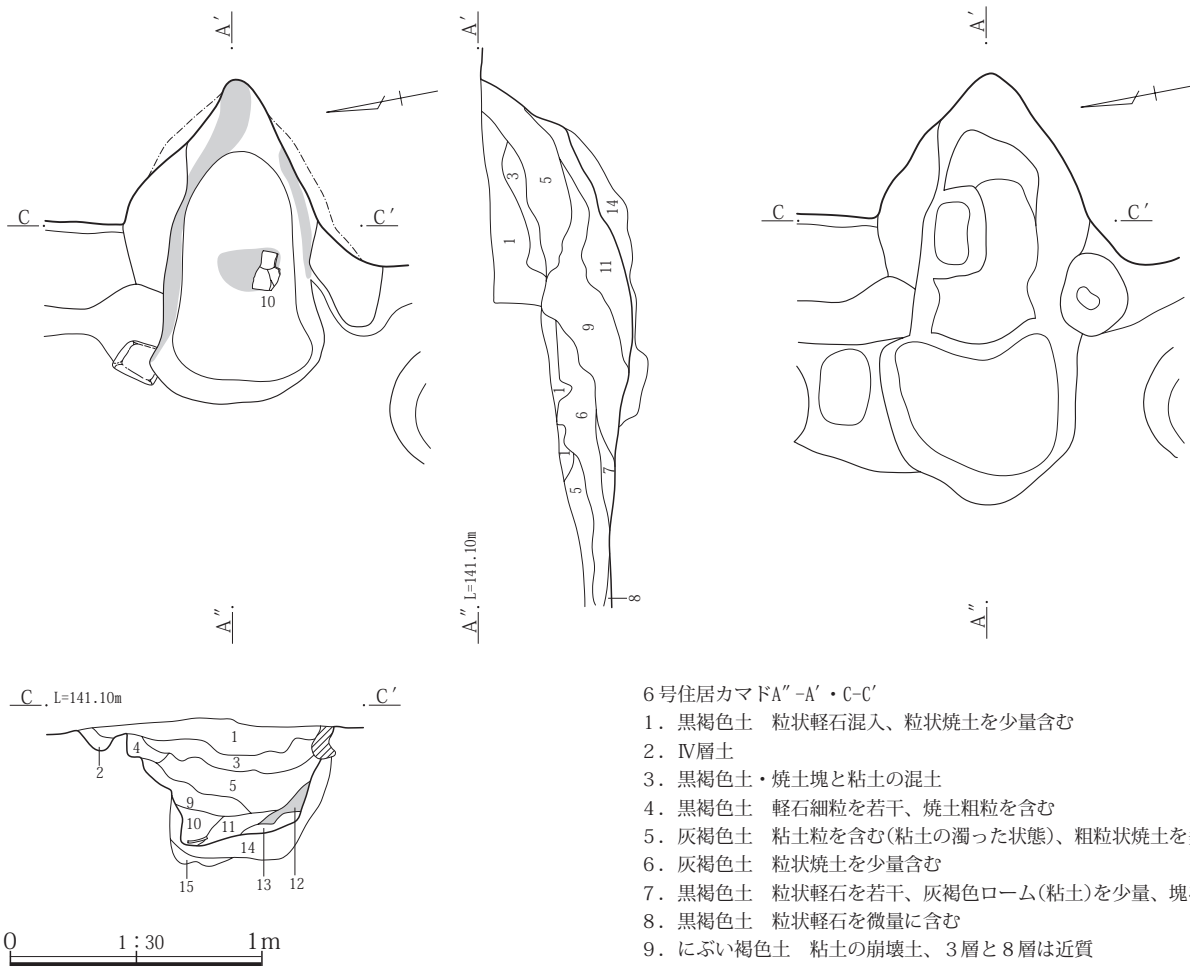
上からの出土である。未掲載遺物では、土師器218点、須恵器13点が出土した。

**時期** 本住居は掘方の状況を観察すると二度の拡大が行われたとみられる。共伴する回転糸切りの須恵器坏(4)や回転ヘラ削りの須恵器坏(5)などの出土遺物から、8世紀後半と考えられる。

**7号住居**(第112・113図、PL.25・76)

**位置** 55-N・0-10・11

**重複** 203号・204号・206号土坑、2号掘立柱建物P3・P4と重複する。本住居は203号・204号・206号土坑よ



6号住居カマドA''-A'・C-C'

1. 黒褐色土 粒状軽石混入、粒状焼土を少量含む
2. IV層土
3. 黒褐色土・焼土塊と粘土の混土
4. 黒褐色土 軽石細粒を若干、焼土粗粒を含む
5. 灰褐色土 粘土粒を含む(粘土の濁った状態)、粗粒状焼土を多量に含む
6. 灰褐色土 粒状焼土を少量含む
7. 黒褐色土 粒状軽石を若干、灰褐色ローム(粘土)を少量、塊を含む
8. 黒褐色土 粒状軽石を微量に含む
9. にぶい褐色土 粘土の崩壊土、3層と8層は近質
10. 焼土塊と粘土(被熱)の混土
11. 浅黄橙土の塊と小塊状焼土の混土
12. 焼土塊
13. にぶい褐色土 壁崩壊土
14. 灰・粒状焼土の混土
15. 黒褐色土 ローム塊・粗粒焼土を含む

第110図 6号住居カマド

り古く、2号掘立柱建物より新しい。

**形状** 長方形

**規模** 長軸3.55m 短軸2.78m 残存深度0.28m

**主軸方位** N-100°-E **面積** 10.2㎡

**カマド** 東辺の南東角寄りに造られている。規模は全長1.02m、幅0.49m、燃烧部幅0.40mを測る。カマドは地山を掘り込んで造られており、焚口部分が住居内に位置する。右袖には補強のための礫が残存している。左袖の礫は残存していないが、礫を据えたとみられる小穴が検出された。天井部は住居廃棄時にほとんど壊されている。燃烧部下床面に焼土を含む炭が広がる。燃烧部から煙道部は壁外に65cmほど延びる。

**貯蔵穴** 南東角よりわずかに西寄り検出(P 2)、規模は径0.49×0.4m、深さ0.14mである。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 南辺の貯蔵穴が位置するところで検出。重複する203号土坑により大部分を欠く。

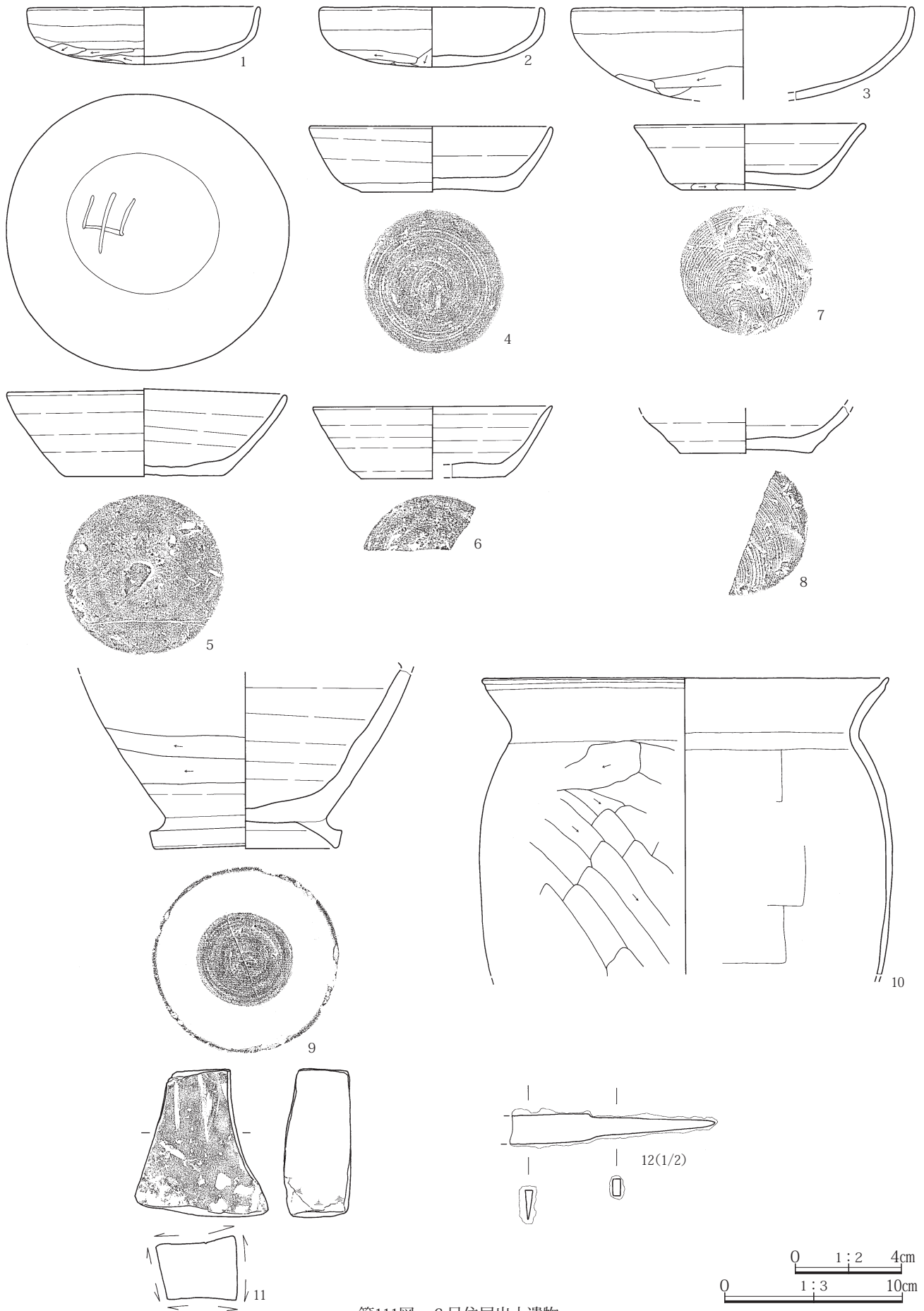
**床面** 北半に比べて南半がわずかに低いがほぼ平坦である。

**掘方** 床面まで5~10cmほど埋め戻されている。P 3のような浅い落ち込みは見られるが、ほぼ平坦である。

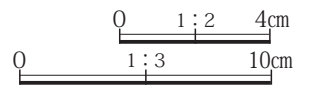
**埋没状態** 土層断面の観察では壁際の三角堆積などが確認されることから、自然堆積による埋没と考えられる。

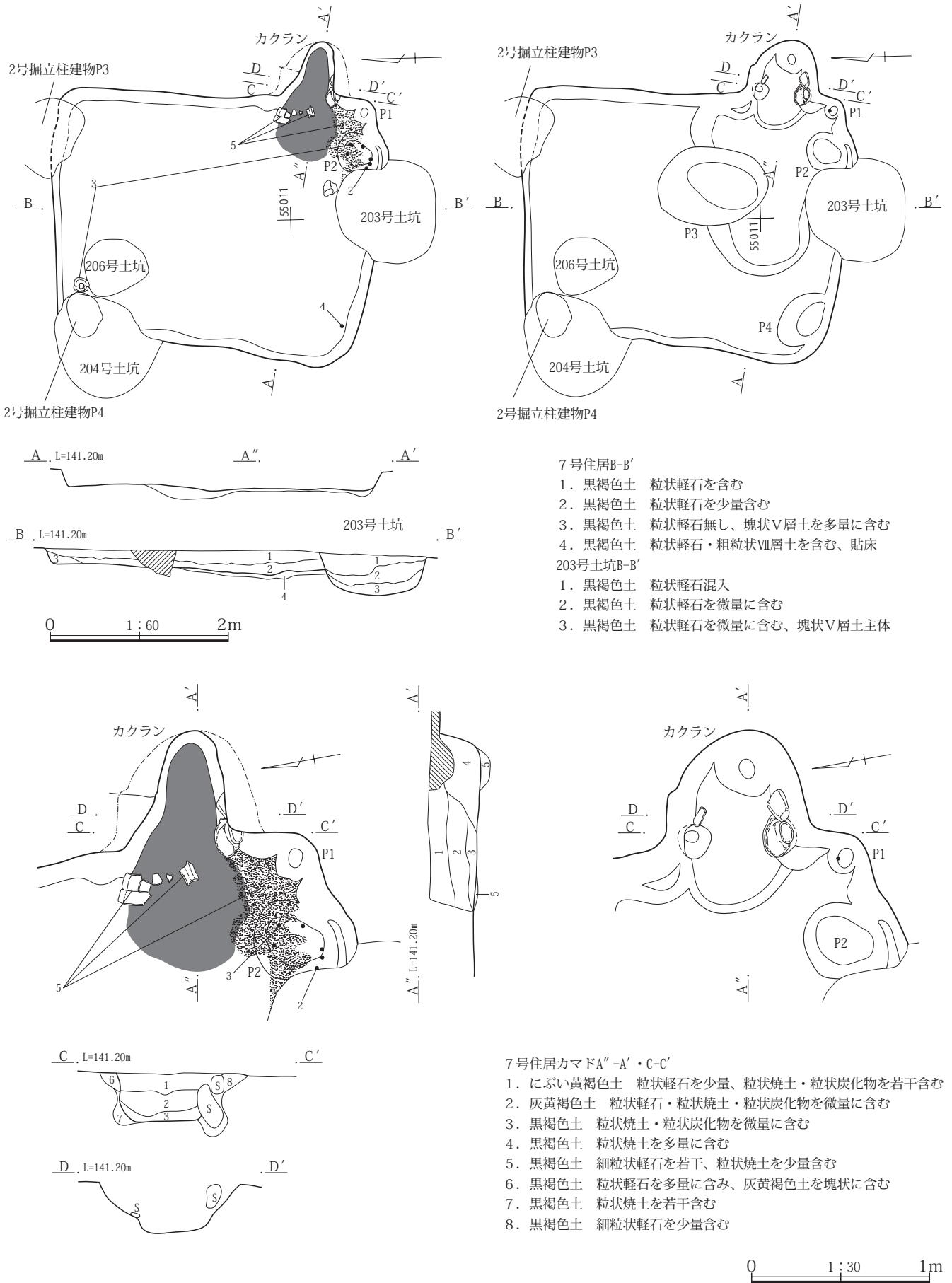
**遺物** 土師器1点、須恵器3点、灰釉陶器1点を図示した。カマドから土師器甕(5)が出土した。須恵器大型碗(2)は、南東角のP 2から、須恵器碗(3)は北東角掘方から、灰釉陶器碗(4)は南辺西側床面9cm上からの出土である。未掲載遺物では、土師器91点、須恵器22点、灰釉陶器2点出土した。

第3章 調査の内容

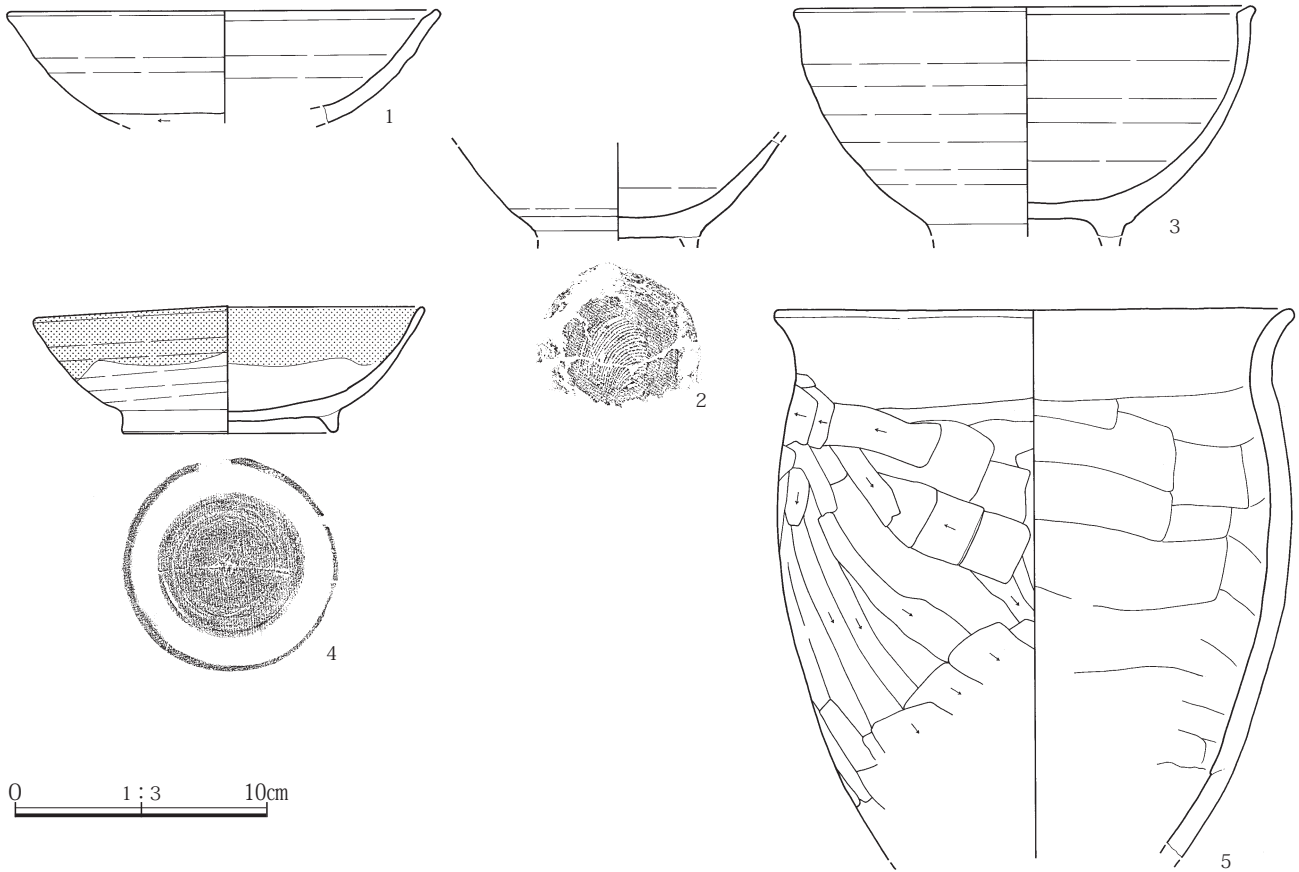


第111図 6号住居出土遺物





第112図 7号住居



第113図 7号住居出土遺物

**時期** 共伴する酸化焰焼成の須恵器埴(3)や土師器甕(5)などの出土遺物から、10世紀中頃と考えられる。

**8号住居**(第114図、PL.25・76)

**位置** 55-N・0-12・13

**重複** なし。

**形状** 正方形

**規模** 長軸3.64m 短軸4.01m 残存深度0.49m

**主軸方位** N-90° **面積** 11.38㎡

**カマド** 東辺中央の壁はカマド煙道を意識した掘方が見られるが、その壁下床面ではカマド燃焼部に見られる浅い落ち込みは確認されなかった。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** 北東から南東にかけてわずかに傾斜している。ほぼ平坦であるが、この面が床面であるかは断定できない。

**掘方** 確認されなかった。

**埋没状態** 土層断面の観察では周囲からの流れ込みが確

認できることから自然堆積による埋没と考えられる。

**遺物** 土師器1点、須恵器2点を図示した。いずれも、フク土からの出土である。未掲載遺物では、土師器53点、須恵器15点が出土した。

**時期** 共伴する土師器埴(1)や酸化焰焼成の須恵器埴(3)などの出土遺物から、9世紀後半と考えられる。

**所見** 壁は一般的な竪穴住居に比べ緩い傾斜で立ち上がる。カマドが構築されておらず、床面は傾斜している。以上のことから竪穴住居としては未完成で廃棄された可能性も想定される。

**9号住居**(第115～117図、PL.25・26・76)

**位置** 55-Q・R-11・12

**重複** 1号溝・51号土坑と重複する。本住居は、1号溝より古く、51号土坑より新しい。

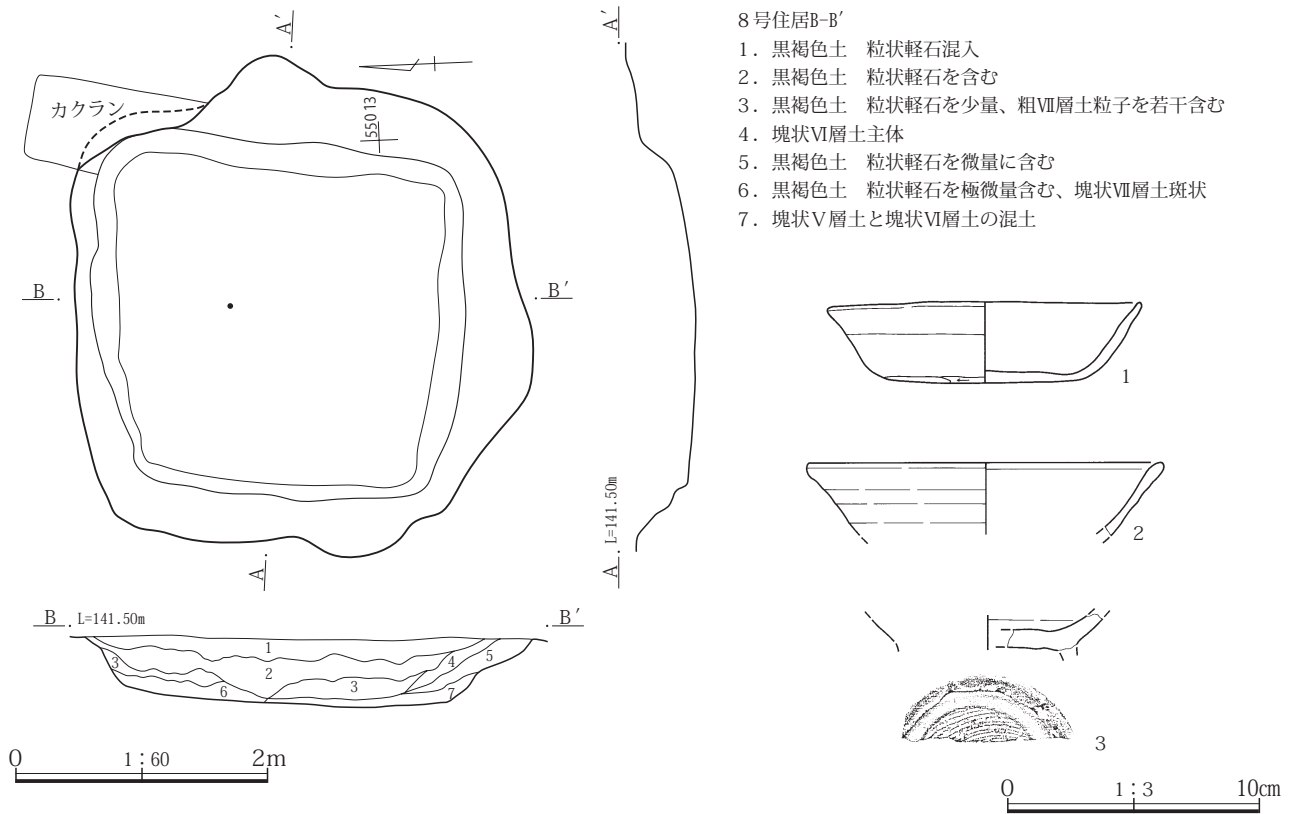
**形状** 長方形

**規模** 長軸4.98m 短軸4.19m 残存深度0.63m

**主軸方位** N-96°-E **面積** 18.34㎡

**カマド** 東辺の南東角よりに造られている。規模は全長





第114図 8号住居と出土遺物

1.53m、幅0.24m、燃烧部幅0.50mを測る。両袖には角礫を埋め込んで天井部の礫を支える補強に使用している。天井部は両袖の礫に0.98×0.20×0.20cmの角礫を渡して補強に使用している。竪穴住居廃棄時には天井部や住居内部に位置する両袖、焚口が壊されている。そのため天井部の礫は燃烧部に落下、両袖、焚口は残存していない状態であった。燃烧部から煙道部は壁外に40cmほど延びる。カマド前には、長さ70cm、径10cmの炭化材があった。

**貯蔵穴** 南東角よりやや西寄り検出(P 1)、規模は径0.69×0.59mを測る。(深さ不明)

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** ほぼ平坦である。床面の南西とカマド前には炭、北辺と南西には焼土の広がりが見られ、全体的に炭化材が散乱した状態で出土している。

**棚状** 東辺のカマド北側から北辺中央にかけて、幅50cmほどの平坦面が巡る。棚状施設の可能性が窺える。

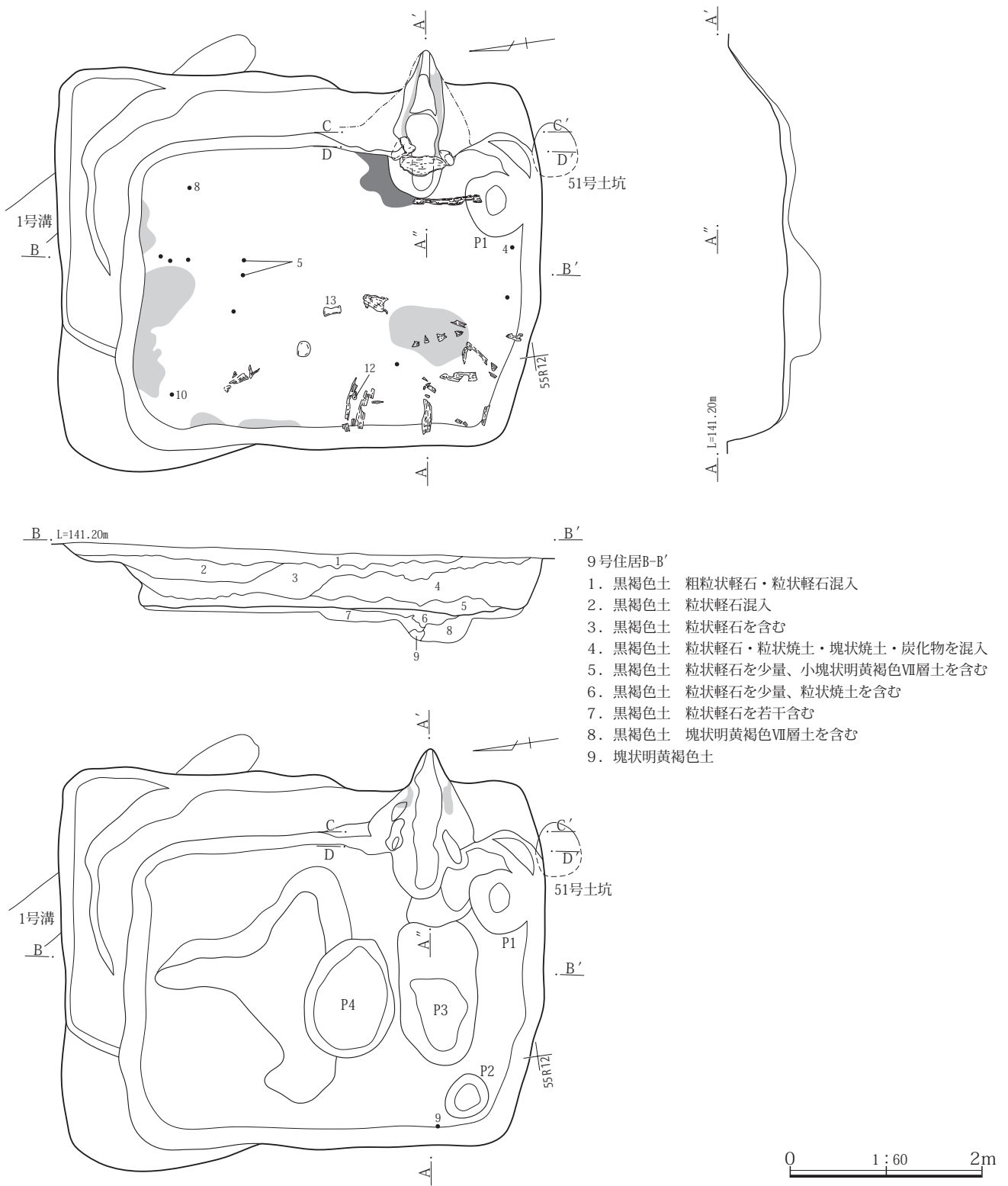
**壁** 南辺と西辺は比較的垂直に近い状態であったが、北辺は上半がやや緩やかな傾斜を呈している。

**掘方** 床面まで5cmほど埋め戻されている。床下土坑(P 3・P 4)が2基検出された。ともに形状は楕円形で規模はP 3が径1.52×0.71m、深さ0.36m、P 4が径1.22×0.94m、深さ0.12mを測る。

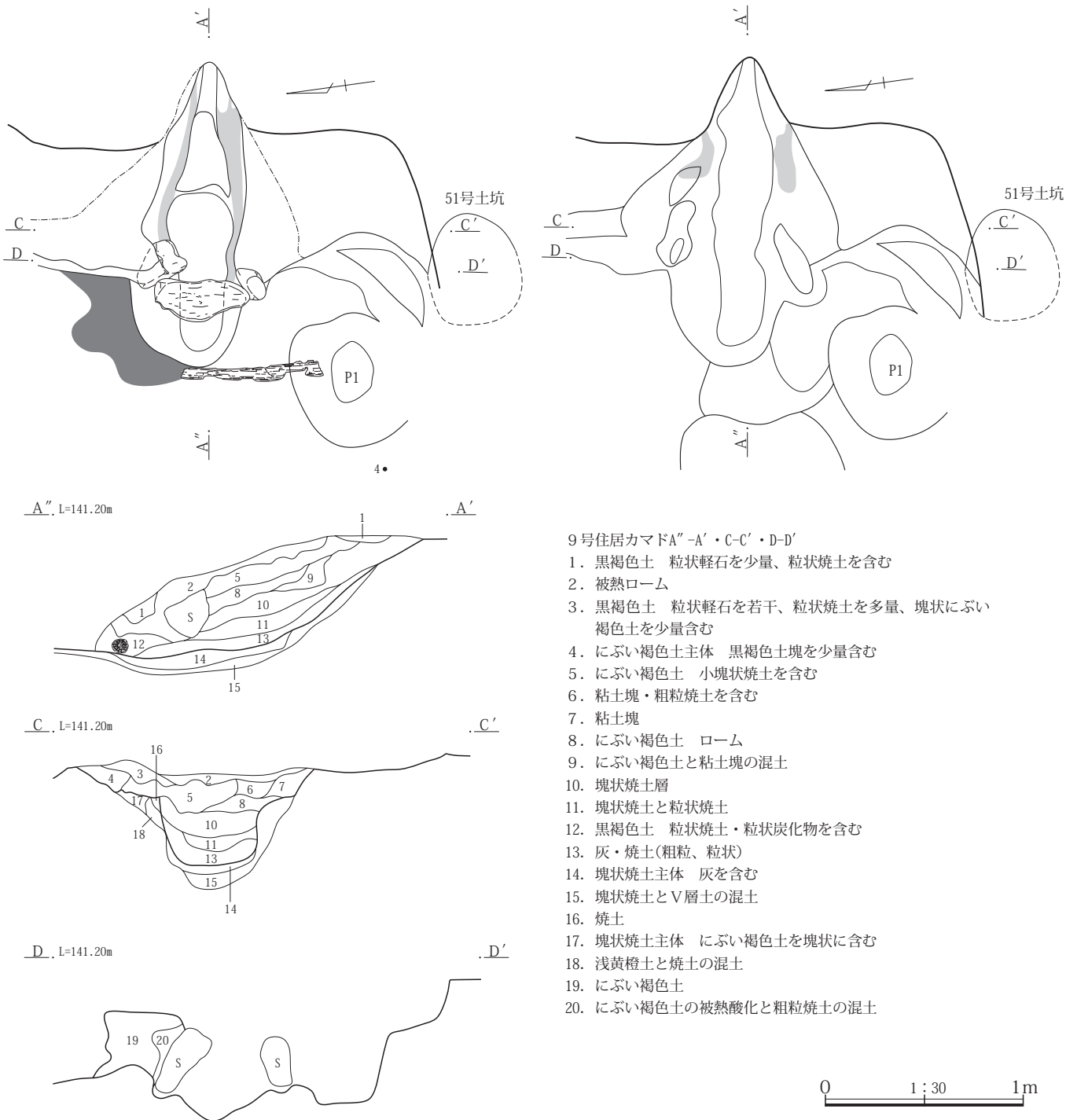
**埋没状態** 土層断面の観察では周囲からの流れ込みによる埋没の可能性が確認できるが、各層位の間凹凸が見られることから確実な自然堆積による埋没とは断定できない。

**遺物** 土師器5点、須恵器6点、砥石2点を図示した。須恵器蓋(4)は南辺中央の床面8cm上から、須恵器坏(5)は住居中央やや北の床面2cm上から、須恵器坏(8)は北東角の床面3cm上から、須恵器坏(9)は西辺南の炭化物下の床面直上から、土師器甕(10)は北西角の床面7cm上から、紡輪(12)は西辺中央炭化材の間床面8cm上から、砥石(13)は住居中央床面7cm上から出土している。フク土出土の土師器坏(3)と須恵器坏(5)の底部外面にはそれぞれ「□」と「五□」の墨書が認められた。未掲載遺物では、土師器585点、須恵器88点が出土した。

**時期** 相伴する須恵器蓋(4)や土師器甕(10)などの出土遺物から、9世紀前半～中頃と考えられる。



第115図 9号住居



第116図 9号住居カマド

**所見** 炭や焼土の分布、炭化材の散乱などが見られるが、焼失したものかは明確ではない。

**10号住居**(第118・119図、PL.26・77)

**位置** 55-P・Q-13

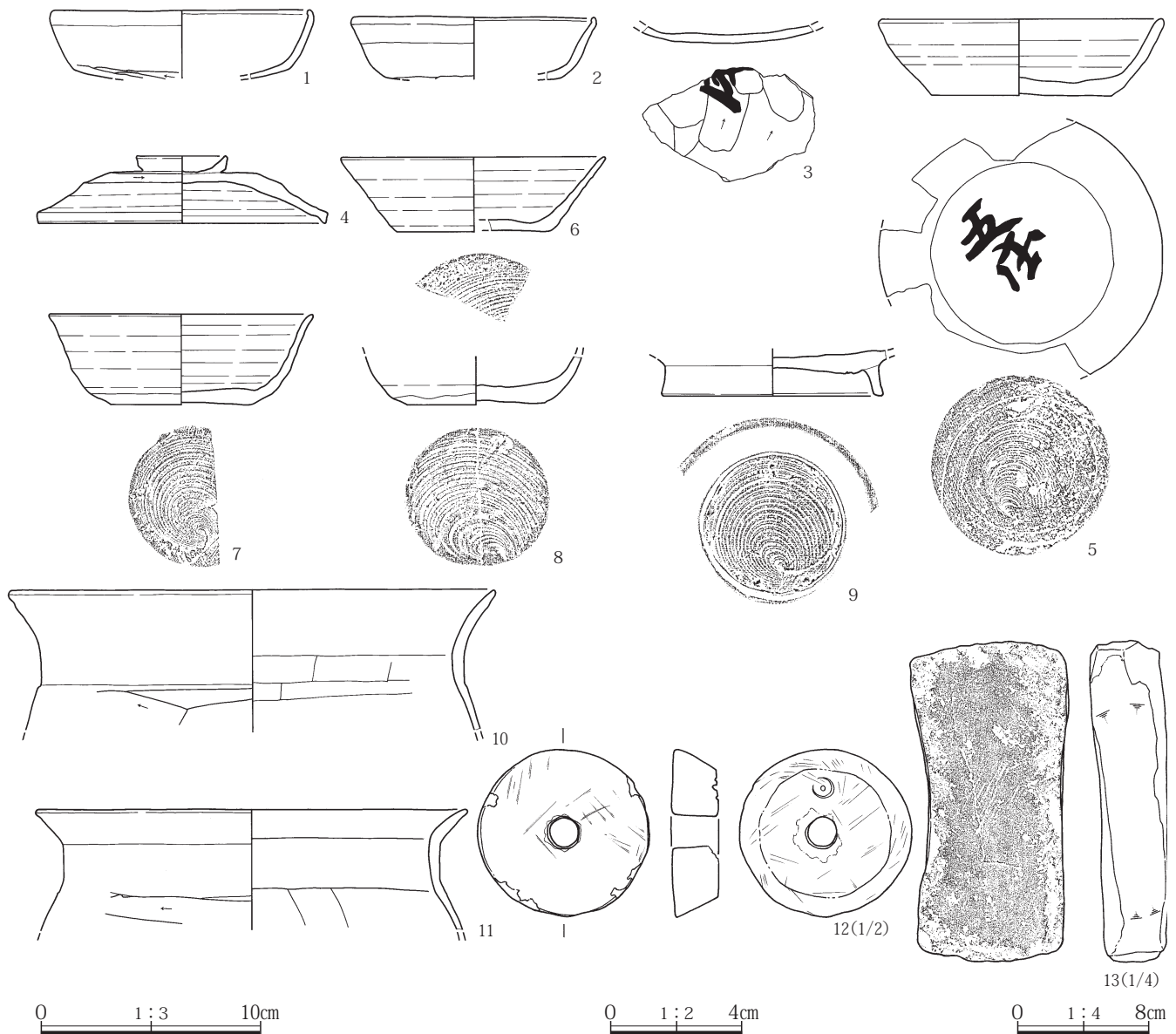
**重複** なし。

**形状** 正方形

**規模** 長軸4.03m 短軸3.99m 残存深度0.58m

**主軸方位** N-96°-E **面積** 13.24㎡

**カマド** 東辺の南東角よりに造られている。規模は全長1.00m、幅0.75m、燃焼部幅0.40mを測る。カマドは地山を掘り込んで造られており、袖部の残存状態は比較的良好である。燃焼部の天井部は廃棄時に壊されたのか、残存していないが、煙道部の天井部は崩落した状態で検出



第117図 9号住居出土遺物

されている。燃焼部から煙道部は壁外に120cmほど延びる。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** ほぼ平坦である。

**掘方** 床面まで3cmほど黒褐色土、Ⅶ層ブロックで埋め戻されている。住居中央部とその南側から床下土坑が2基(P 2、P 3)が検出された。P 2は径0.57×0.45m、深さ0.10m、P 3は径1.26×1.08m、深さ0.25mを測る。

**棚状** 東辺のカマド北側に、幅50cmほどの平坦面がある。

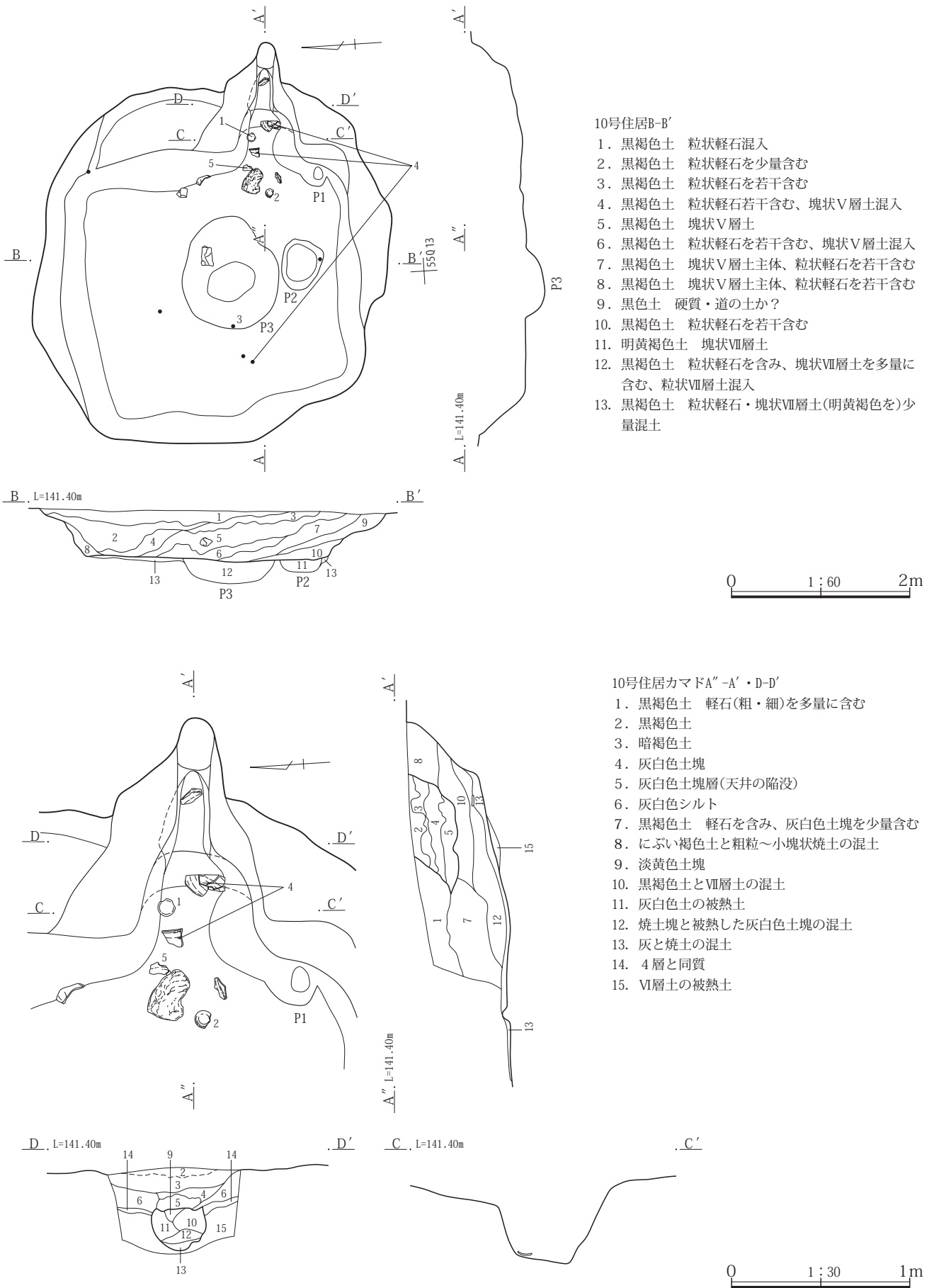
棚状施設の可能性が窺える。

**壁** 南辺と北辺の上半はやや緩やかな傾斜を呈している。

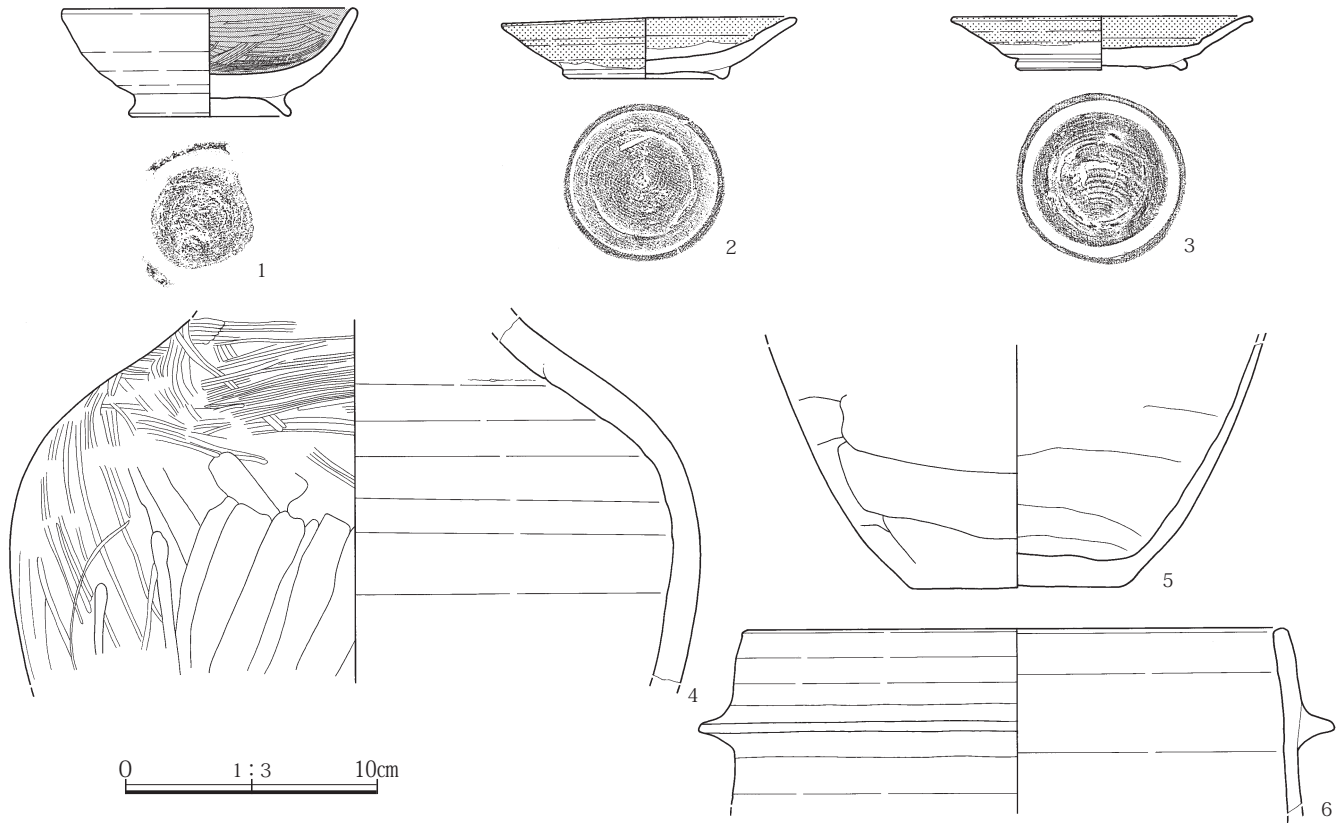
**埋没状態** 土層断面の観察では南側から多くの土砂が流入した状態が確認でき、人為的な埋戻しが行われた可能性が考えられる。

**遺物** 土師器1点、須恵器2点、黒色土器1点、灰釉陶器2点を図示した。カマドから、黒色土器碗(1)、灰釉陶器段皿(2)、須恵器壺(4)、土師器甕(5)が出土した。灰釉陶器段皿(3)は住居中央やや西の床面14cm上から出土している。なお、灰釉陶器は大原2号窯式期から虎溪山1号窯式である。未掲載遺物では、土師器142点、須恵器60点、灰釉陶器1点が出土した。

**時期** 共伴する灰釉陶器段皿(2・3)や須恵器羽釜(6)などの出土遺物から、10世紀中頃と考えられる。



第118図 10号住居掘方とカマド



第119図 10号住居出土遺物

11号住居(第120～123図、PL.26・27・77)

位置 55-P・Q-11～13

重複 1号掘立柱建物P7、3号掘立柱建物P1、1号溝、96号土坑と重複する。新旧関係は本住居の方が1号掘立柱建物、3号掘立柱建物、1号溝より古く、96号土坑より新しい。

形状 長方形

規模 長軸6.73m 短軸6.45m 残存深度0.82m

主軸方位 N-100°-E 面積 36.74㎡

カマド 東辺の中ほどよりやや南に造られている。規模は全長1.31m、幅0.35m、燃烧部幅0.60mを測る。焚口部分は住居内であるが、燃烧部、煙道部は地山を掘り込んで造られている。天井部は住居廃棄時に壊されたのかほとんど痕跡も残存していない。燃烧部から煙道部は壁外に75cmほど延びる。

貯蔵穴 南東角で検出(P1)、規模は径0.56×0.53m、深さ0.09mを測る。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。

掘方 床面まで25～30cmほど埋め戻されている。全面

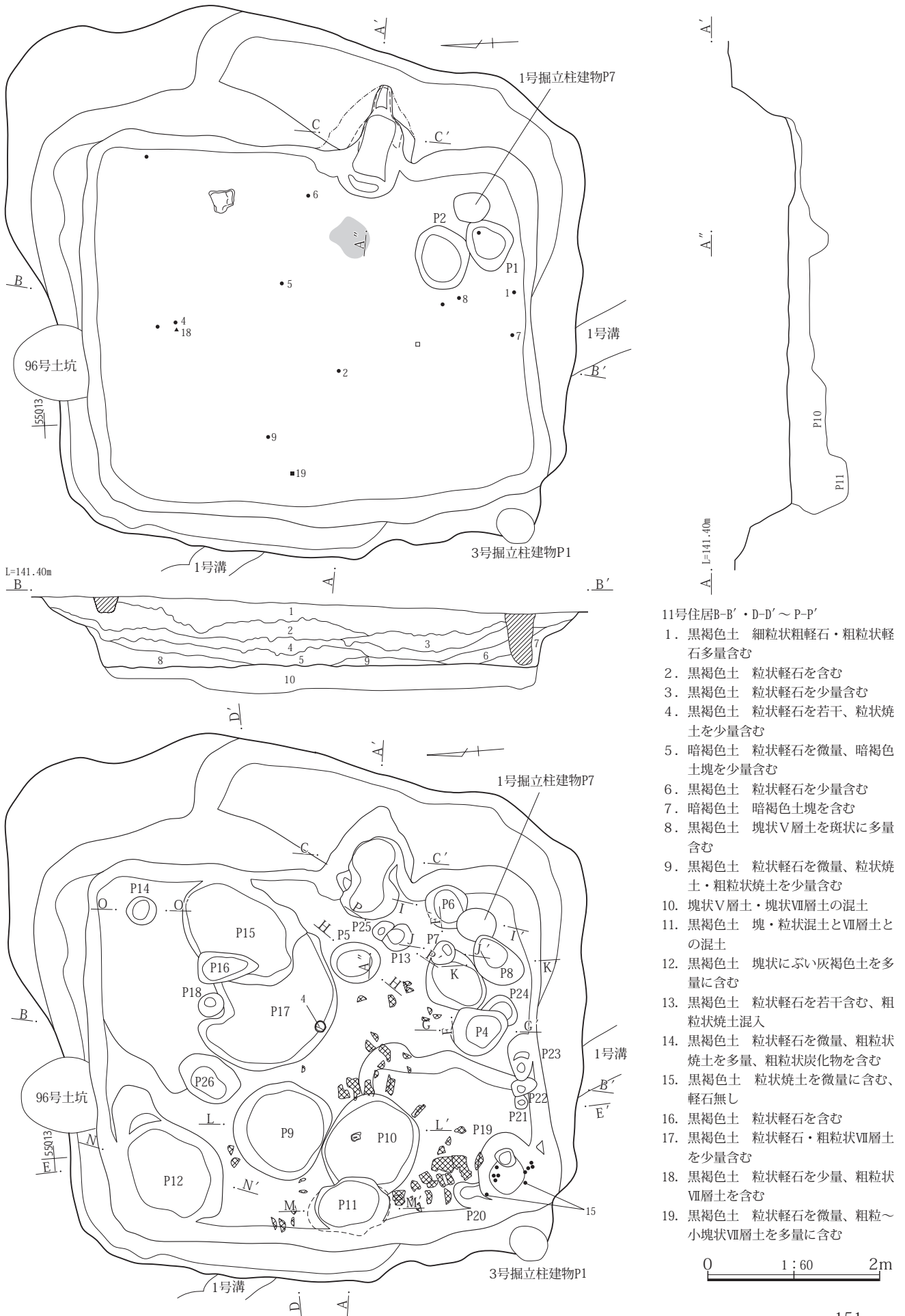
に浅い土坑状の落ち込みが検出された。明確に床下土坑と断定できるものはP11だけである。P11は楕円形を呈し、北側から西側にかけて若干オーバーハングしている。規模は径0.87×0.69m、深さ0.42mを測る。南西角付近から土師器甕(15)が出土している。

棚状 東辺のカマドを挟んだ両サイドから南辺にかけ幅20cm～1mの平坦面が、北辺から西辺中央やや南にかけて、幅20cm～40cmの平坦面から緩やかな法面が巡る。棚状施設の可能性が窺える。

壁 各辺とも上半は緩やかな傾斜である。

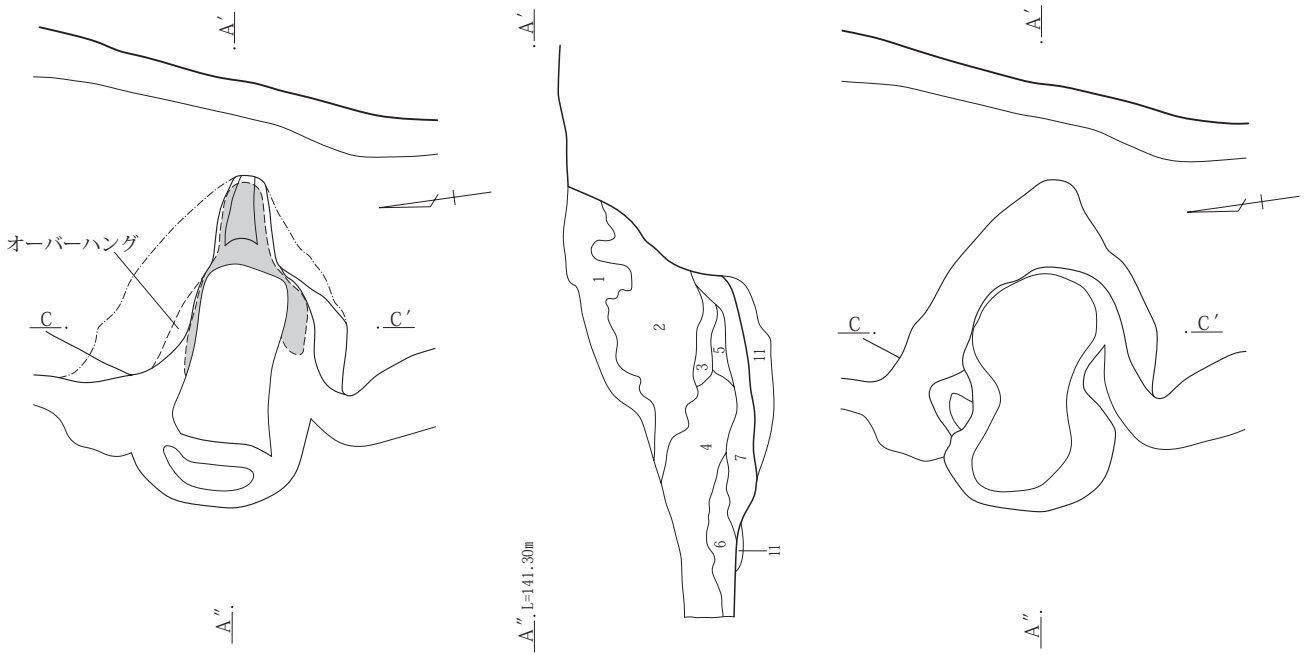
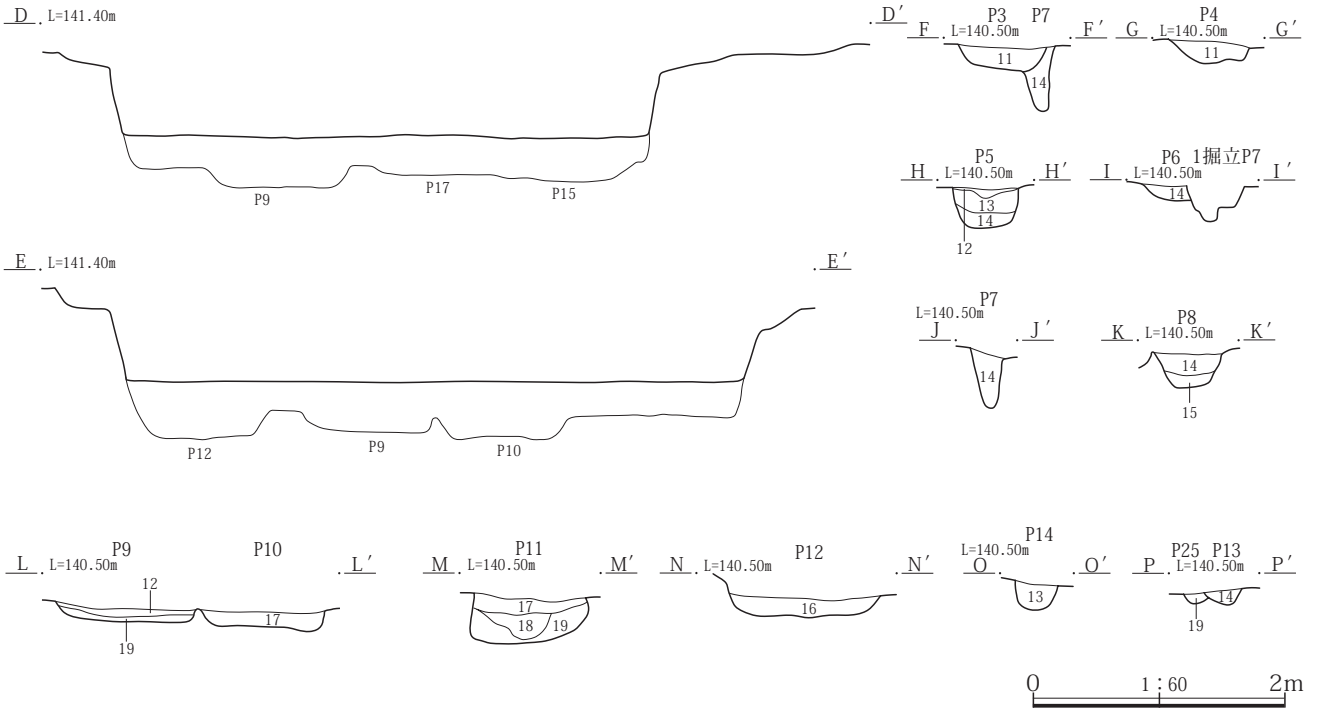
埋没状態 土層断面の観察では周囲からの流れ込みによる埋没が確認できることから、自然埋没であると考えられる。

遺物 土師器8点、須恵器8点、砥石1点、敲石1点、鉄鏝1点を図示した。土師器坏(1)は南辺中央床面13cm上から、内面に格子状に線刻のある土師器坏(2)は住居中央床面24cm上から、須恵器坏(4)は中央の掘方P17から、須恵器坏(5)は住居中央23cm上から、須恵器坏(6)は東辺中央掘方から、須恵器坏(7)は南辺中央床面33cm上から、須恵器坏(8)はP2西側の床面直上から、須恵器坏(9)は住居中央やや西の床面24cm上から、土師器甕



第120図 11号住居

第3章 調査の内容

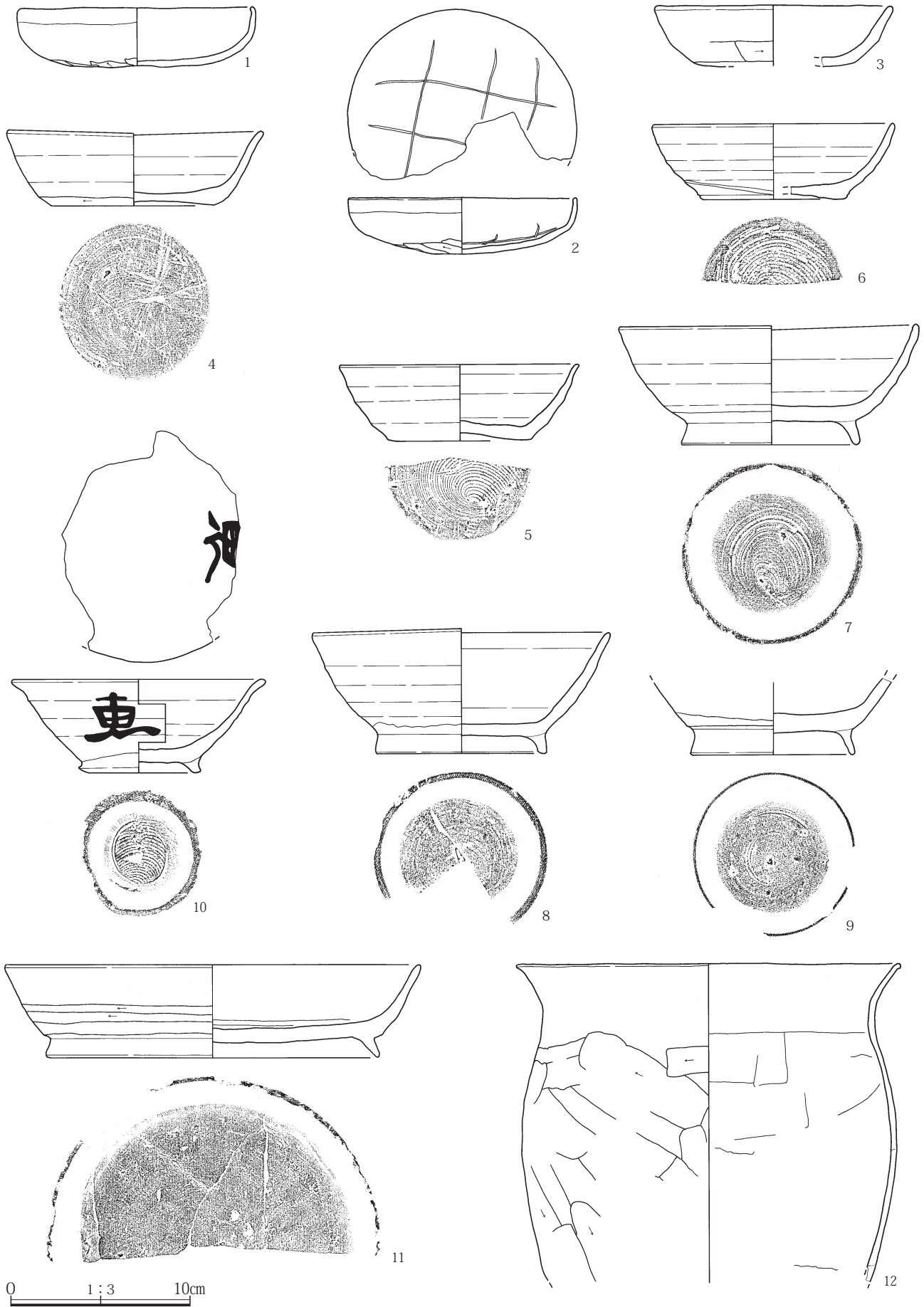


11号住居カマドA''-A'-C-C'

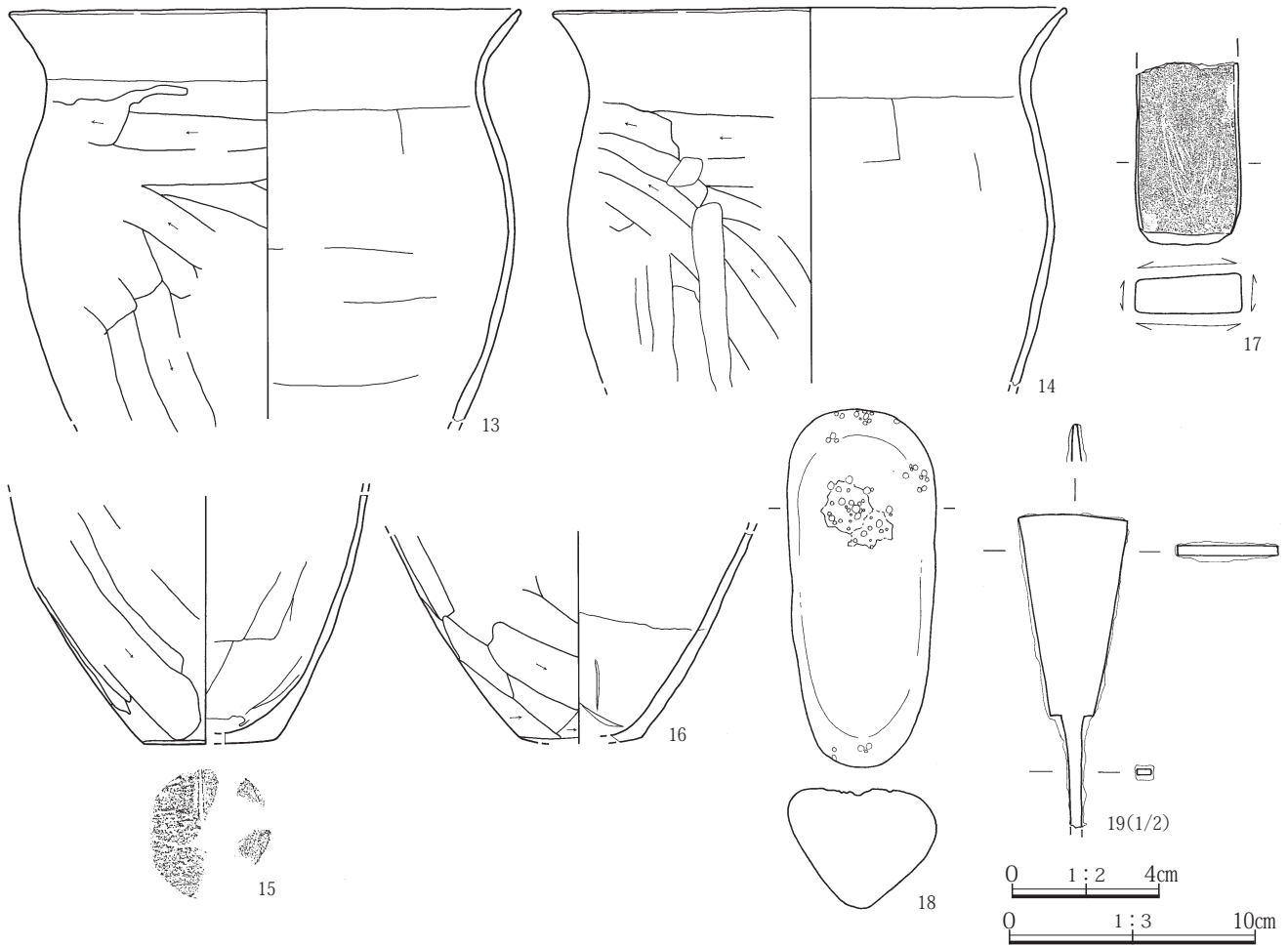
1. 黒褐色土 細粒状軽石を少量、粒状焼土を若干含む
2. にぶい黄褐色土 小塊状焼土を若干含む(VI層土に近質、VI層土より明るい)
3. 焼土塊主体
4. にぶい黄褐色土 小塊状焼土を含む
5. 灰層
6. 黒褐色土 軽石無し
7. 黒褐色土 粗粒状焼土混入、灰を含む
8. にぶい褐色土 細粒状軽石を若干、粒状焼土を若干含む
9. にぶい褐色土の塊状土(VI層土)
10. にぶい褐色土と焼土塊の混土
11. にぶい褐色土と灰・炭化物の混土、粗粒状焼土を含む

第121図 11号住居セクション図とカマド





第122図 11号住居出土遺物(1)



第123図 11号住居出土遺物(2)

(15)は南西角の掘方P 19から、敲石(18)は北辺中央床面直上から、鉄鏃(19)は西辺中央床面24cm上から出土している。なお、フク土から出土した内外面に「恵」と考えられる墨書のある須恵器碗(10)と須恵器盤(11)は後の混入品と考えられる。また、掲載していないが、住居中央よりやや南床面5cm上から馬の歯が出土した。(第120図に□で図示した。)未掲載遺物では、土師器357点、須恵器59点が出土した。

**時期** 共伴する須恵器坏(4)や土師器甕(14)などの出土遺物から、8世紀後半と考えられる。

**12号住居**(第124図、PL.27・78)

**位置** 55-R-9・10、全体の3分の2は調査区外に延びる。

**重複** 13号・14号・15号住居と重複する。本住居の方が13号住居より古く、14号・15号住居より新しい。

**形状** 長方形か

**規模** 長軸(2.85m) 短軸(2.04m) 残存深度0.32m

**主軸方位** N-90° **面積** (5.39㎡)

**カマド** 調査範囲内では確認されなかった。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

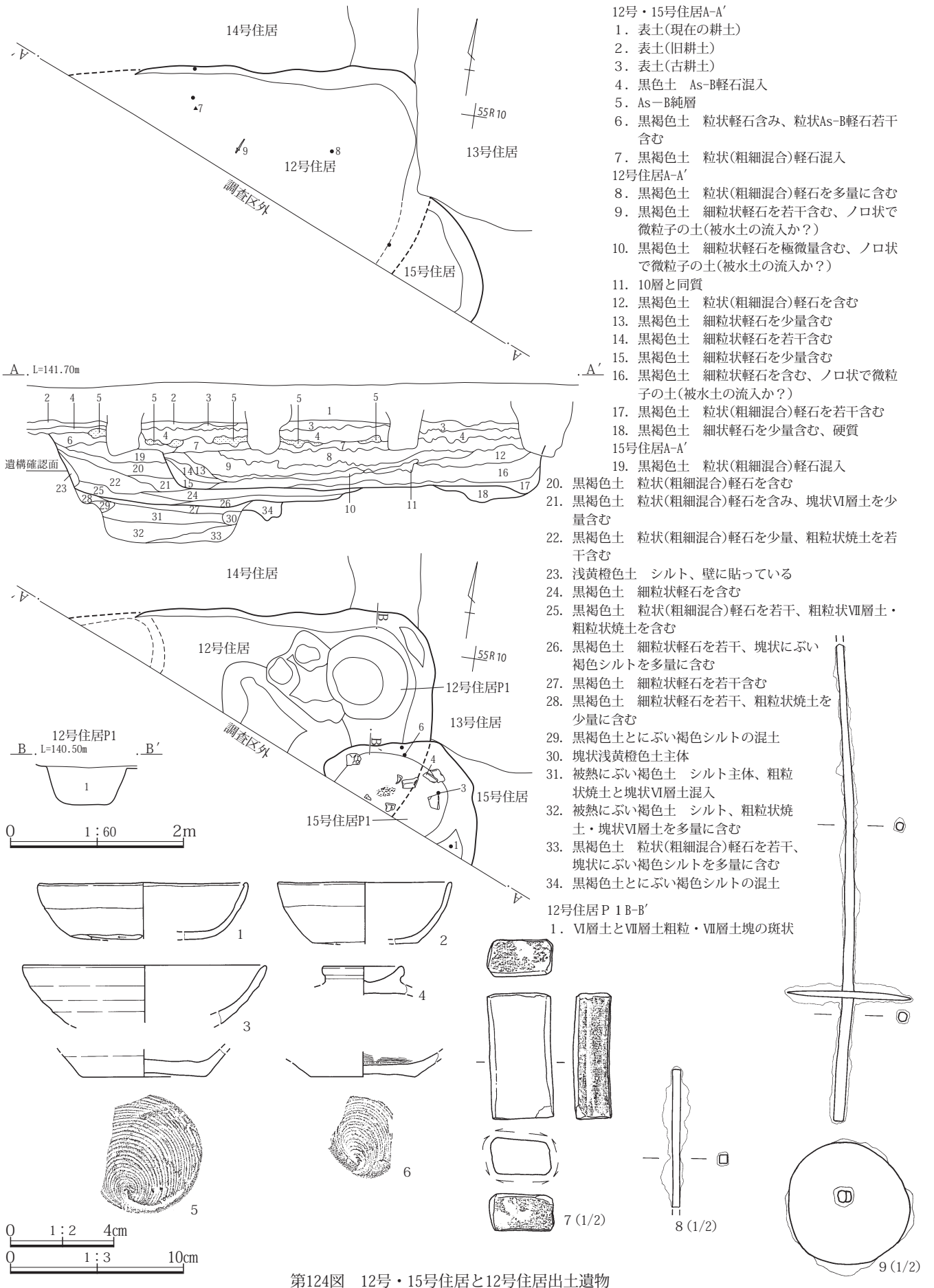
**床面** ほぼ平坦である。

**掘方** 周辺部に床下土坑(P 1)や土坑状の落ち込みが検出された。床下土坑(P 1)はほぼ円形で、径0.95×0.92m、深さ0.53mを測る。

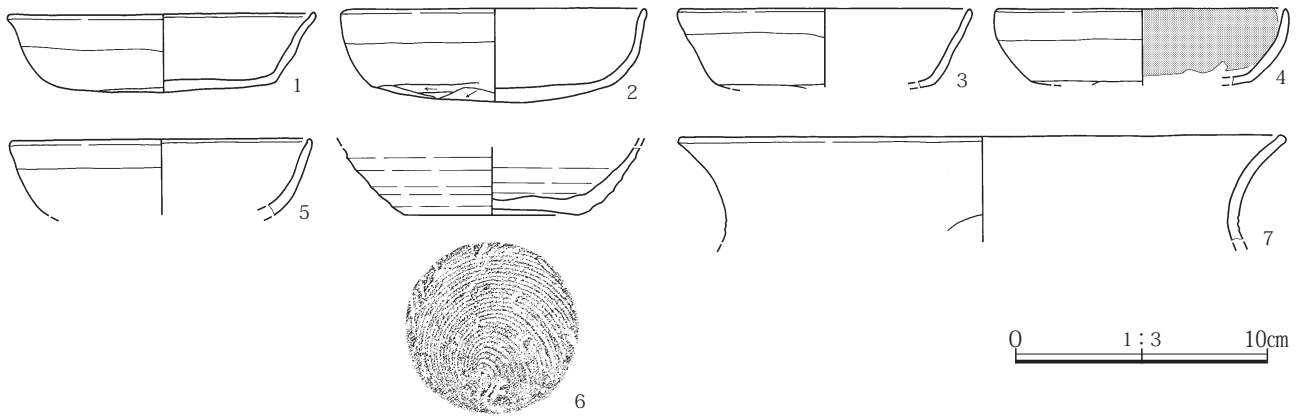
**埋没状態** 土層断面の観察では周囲からの流れ込みによる埋没が確認できることから、自然埋没であると考えられる。

**遺物** 土師器2点、須恵器3点、黒色土器1点、砥石1点、鉄製品1点、鉄製紡錘車1点を図示した。住居の北側床面20cm上から砥石(7)、床面11cm上から鉄製品(8)と紡錘車(9)が出土している。未掲載遺物では、土師器391点、須恵器69点、灰釉陶器1点が出土した。

**時期** 共伴する土師器坏(1)や須恵器蓋(4)などの出土



第124図 12号・15号住居と12号住居出土遺物



第125図 15号住居出土遺物

遺物から、9世紀中頃～9世紀後半と考えられる。

**15号住居**(第124・125図、PL.27・78)

**位置** 55-Q・R-9、大部分は調査区外に延び、調査範囲内でも12号住居によって大半を欠く。

**重複** 12号住居と重複する。新旧関係は、本住居の方が12号住居より古い。

**形状** 隅丸方形か

**規模** 長軸(1.92m) 短軸(1.02m) 残存深度0.44m

**主軸方位** N-67°-W **面積** (1.43㎡)

**カマド** 調査範囲内では確認されなかった。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** 若干、凹凸がある。

**掘方** 北東角で床下土坑(P1)が検出された。床下土坑(P1)は円形を呈し、規模は径1.98m、深さ0.44mを測る。

**埋没状態** 12号住居との重複で不明な点が多いが、土層断面の観察では壁際への三角堆積や中央部の堆積などが確認できることから自然堆積と考えられる。

**遺物** 土師器6点、須恵器1点を図示した。床下土坑(P1)から、土師器坏(1・3・4)、須恵器坏(6)が出土した。未掲載遺物では、土師器37点、須恵器6点が出土した。

**時期** 共伴する土師器坏(1)や土師器甕(7)などの出土遺物から、9世紀前半～9世紀中頃と考えられる。

**13号住居**(第126～130図、PL.27・28・78・79)

**位置** 55-P～R-9・10

**重複** 12号住居、35号・201号・202号・207号土坑と重複する。新旧関係は不明である。

**形状** 長方形

**規模** 長軸5.98m 短軸5.17m 残存深度0.68m

**主軸方位** N-90° **面積** 28.80㎡

**カマド** 東辺の南東角寄りに造られている。規模は全長1.68m、幅0.56m、燃烧部幅0.60mを測る。焚口部分は住居内であるが、燃烧部、煙道部は地山を掘り込んで造られ一部は残存しているが、天井部は住居廃棄時に壊されたのかほとんど痕跡も残存していない。カマド前部には補強に使用されたと見られる礫が散乱した状態で出土している。煙道部には補強に使用された土師器甕(20)が出土し、燃烧部には2～10cmの厚さで灰が残存していた。燃烧部から煙道部は壁外に100cmほど延びる。

**貯蔵穴** 東南角で検出(P1)、楕円形を呈し、規模は長軸0.69m×短軸0.35m、深さ0.18mを含む。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 住居外の東と西に2本の周溝を確認した。規模は、東側:長さ1.60m×幅0.20m、西側:長さ3.10m×幅0.30mである。

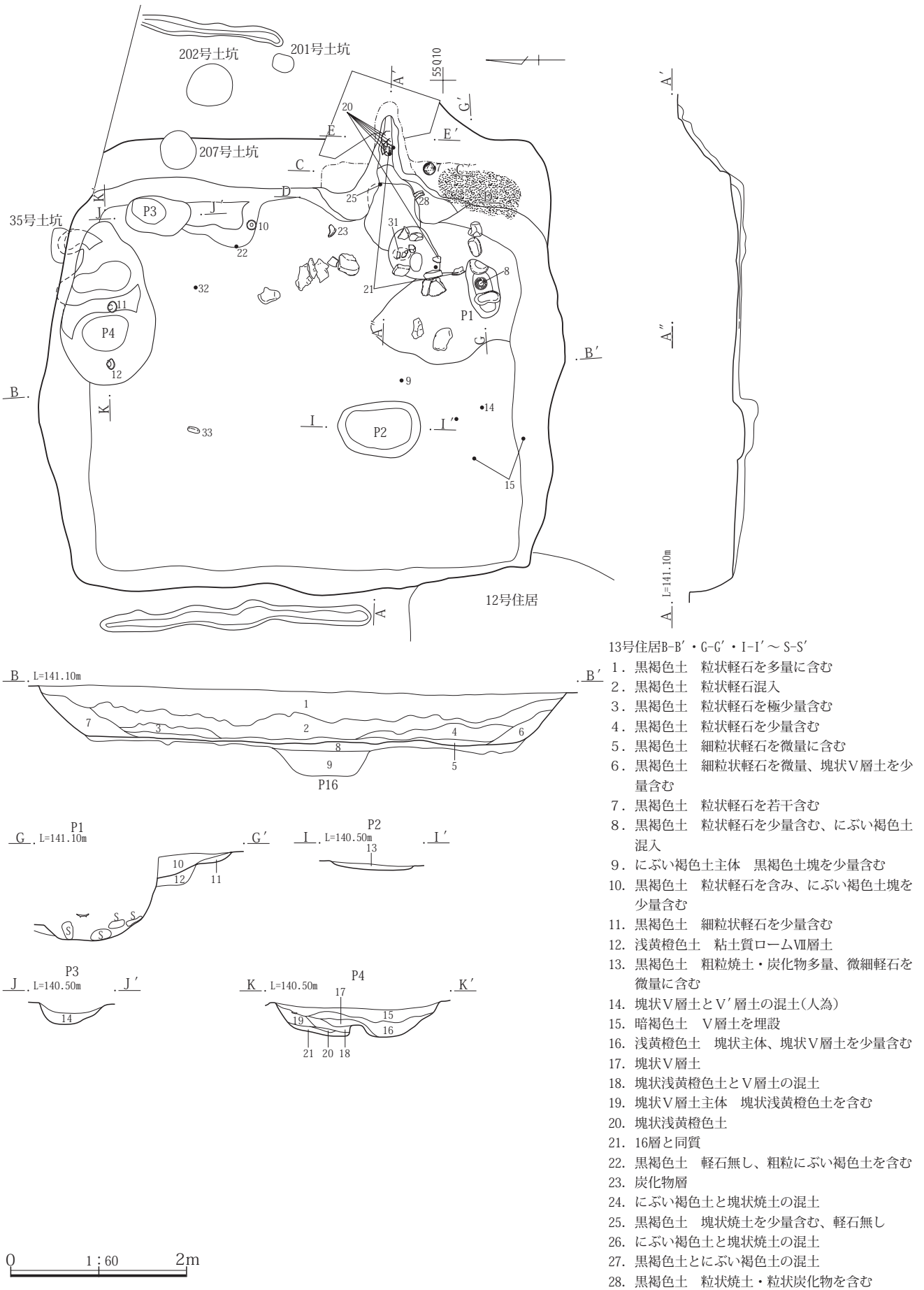
**床面** ほぼ平坦である。北東角と中央南寄りから土坑状の落ち込みが検出されている。

**壁** 東辺は他の辺に比べて緩やかな傾斜である。

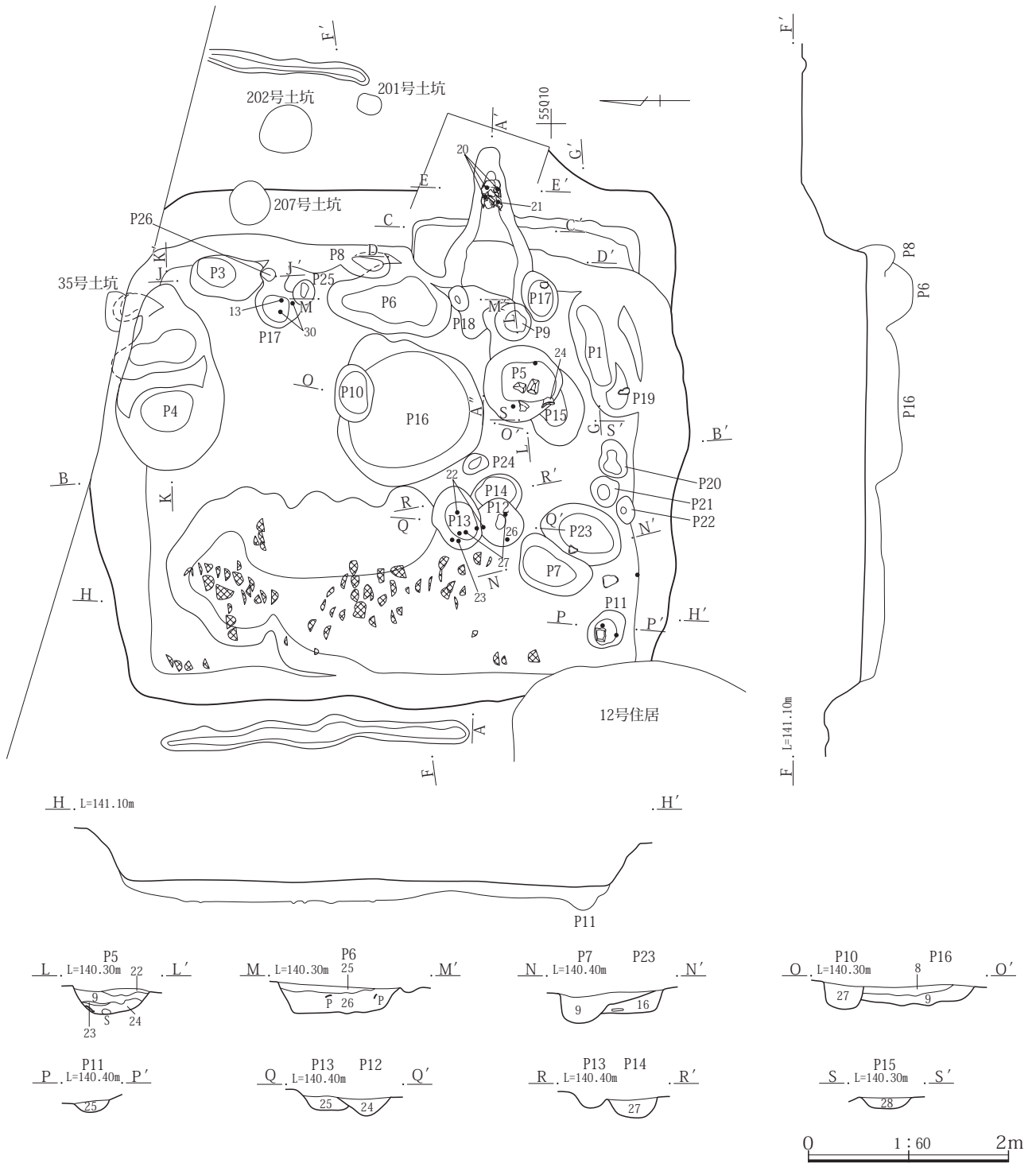
**掘方** 床面まで10～20cmほど埋め戻されている。南半からは径0.26～1.46mの土坑状の落ち込みが見られた。また、北西部では掘削時の工具痕と考えられる痕跡が検出されている。

**棚状** 東辺のカマドを挟んだ両サイドに幅40cm～1mの平坦面を構築している。この平坦面の底面には粘土を付設しており、上面からは須恵器皿(7)が出土している。このことから棚状の施設と考えられる。

**埋没状態** 土層断面の観察では壁際への三角堆積や中央部



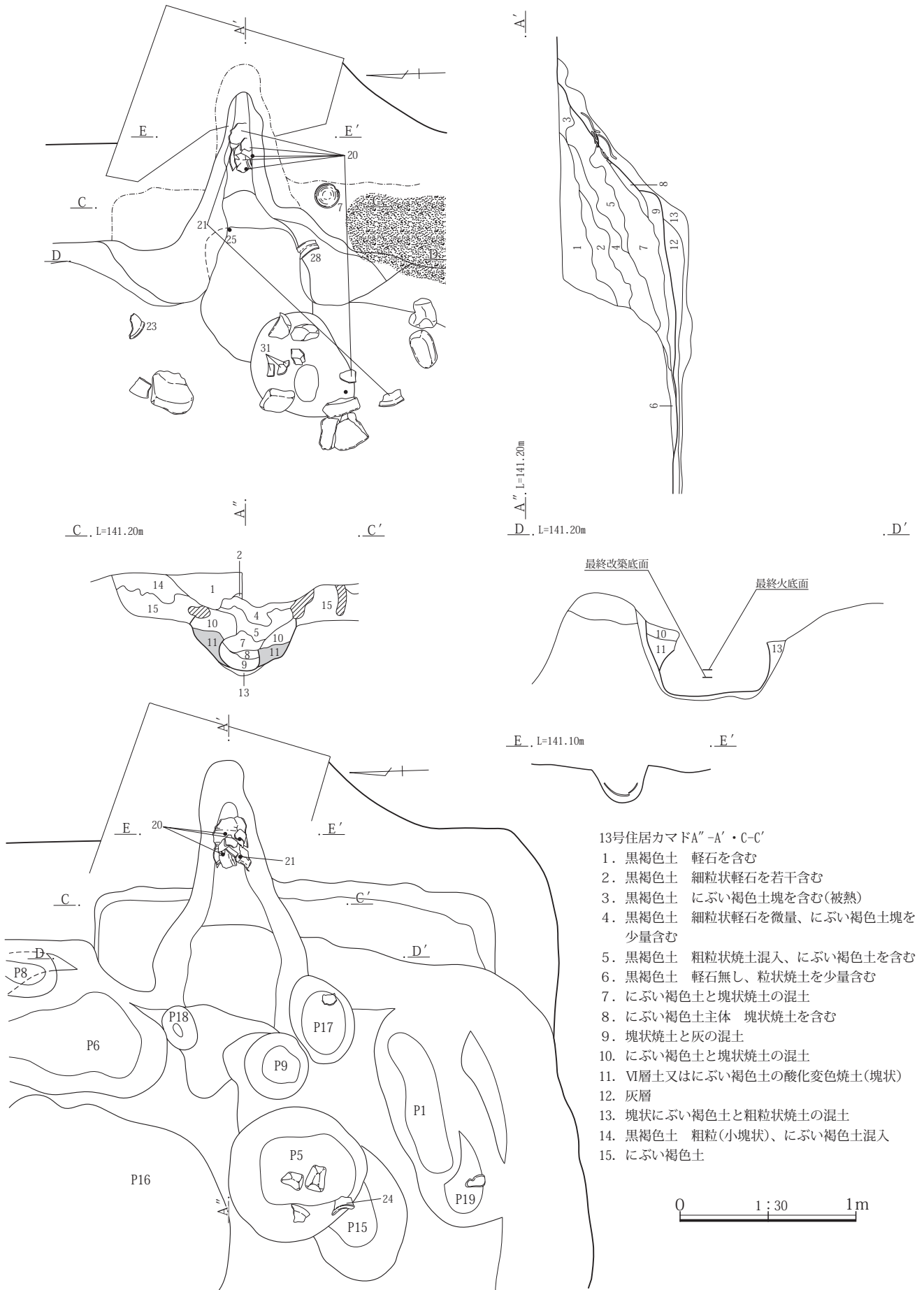
第126図 13号住居



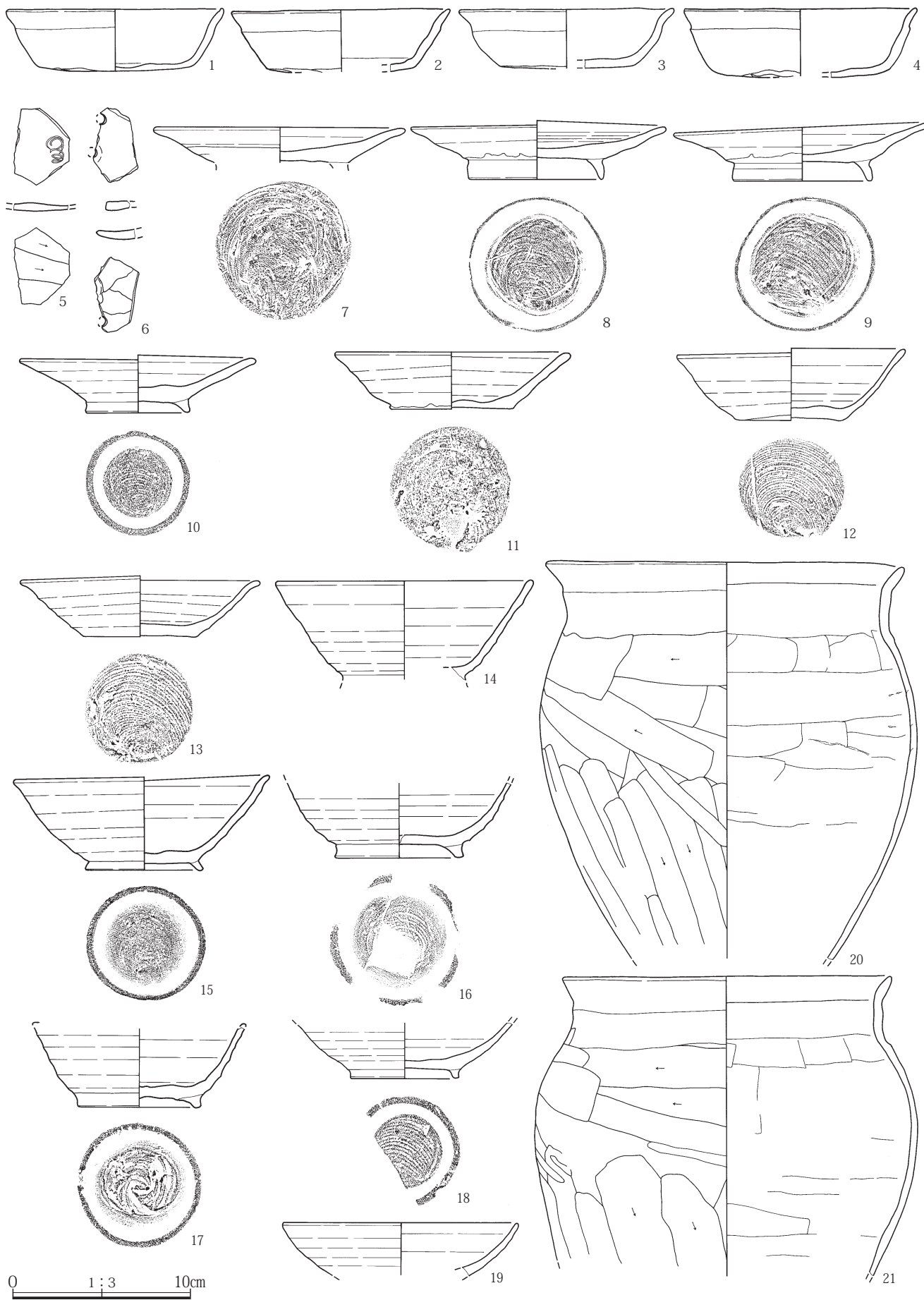
第127図 13号住居掘方

の堆積などが確認できることから自然堆積と考えられる。  
**遺物** 土師器18点、須恵器13点、灰釉陶器1点、敲石1点を図示した。カマドから、土師器甕(20・21・25・28)が出土した。須恵器皿(7)は棚状直上から、須恵器皿(8)は南辺東床面30cm上から、須恵器皿(9)は住居中央南床面11cm上から、須恵器皿(10)は東辺中央床面7cm上から、須恵器杯(11・12)は北辺中央のP4から、須恵器杯(13)と土師器甕(30)は東辺中央やや北床下P17から、須恵器

碗(14)は南辺中央床面14cm上から、須恵器碗(15)は、南辺やや西床面2cm上から、土師器甕(22・23)は住居中央やや西の床下P13から、土師器甕(24)はカマド前床下P5から、土師器甕(26・27)は住居中央やや西の床下P12から、土師器甕(31)はカマド前床面2cm上から、須恵器甕(32)は住居北東側床面26cm上から、敲石(33)は住居北側床面直上から出土している。フク土から螺旋状の線刻のある土師器杯(5)が出土した。未掲載遺物では、土師

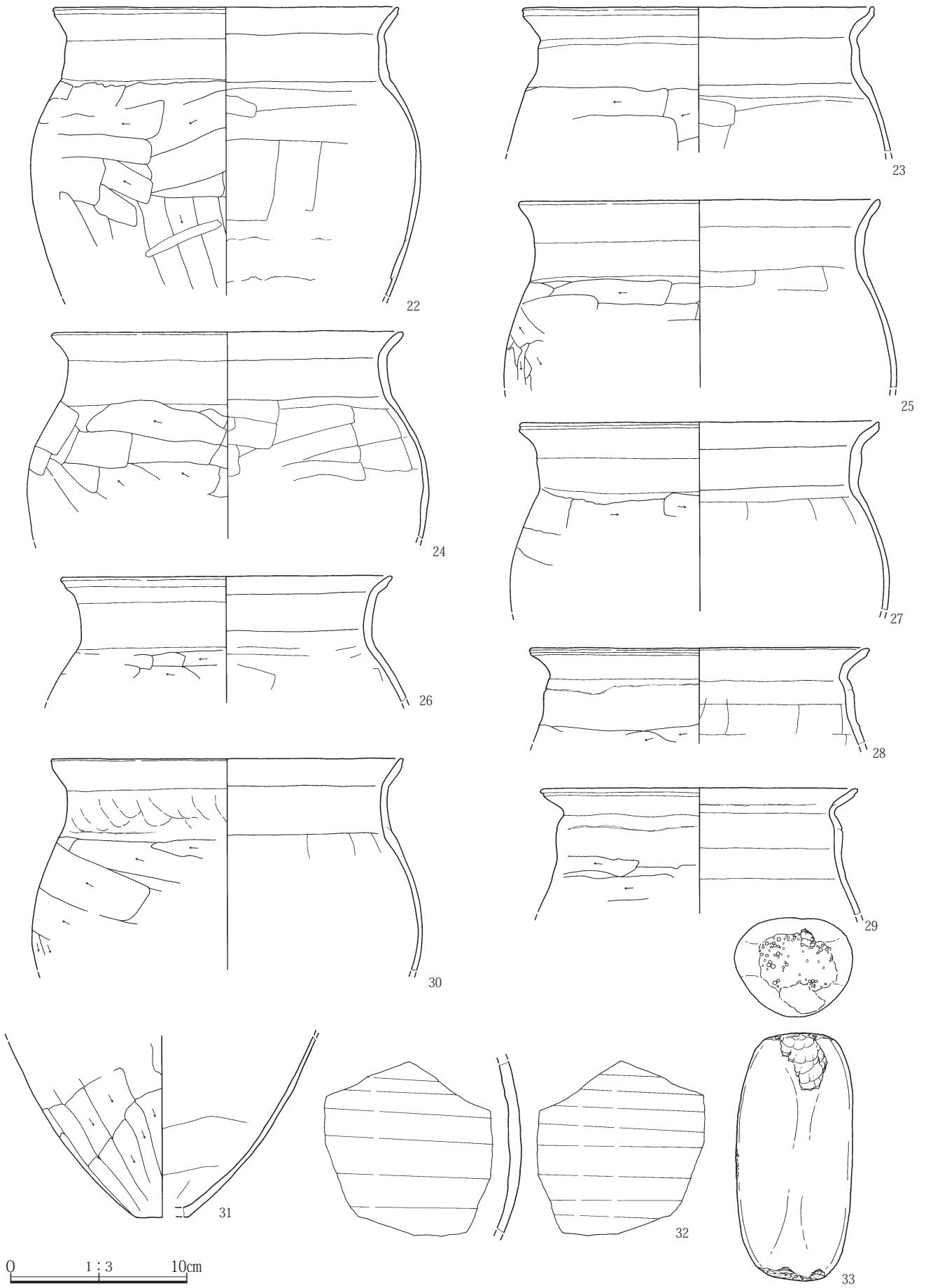


第128図 13号住居カマド



第129図 13号住居出土遺物(1)





第130図 13号住居出土遺物(2)

器666点、須恵器116点が出土した。

**時期** 共伴する土師器坏(1)や還元焰焼成の須恵器坏(12)、酸化焰焼成の須恵器坏(11)などの出土遺物から、9世紀末頃と考えられる。

**14号住居**(第131～133図、PL.28・79・80)

**位置** 55-R・S-9・10

**重複** 12号住居、16号住居と重複する。新旧関係は本住居の方が12号住居より古く、16号住居より新しい。

**形状** 長方形

**規模** 長軸4.89m 短軸4.41m 残存深度0.64m

**主軸方位** N-70°-E **面積** 19.14m<sup>2</sup>

**カマド** 東辺の中央よりやや南に造られている。規模は全長1.46m、幅0.49m、燃焼部幅0.50mを測る。焚口から燃焼部の手前側は住居内に造られているが、中ほどから煙道部にかけては地山を掘り込んでいる。両袖には角柱状の礫を立て補強とし、天井部は袖上に長さ68.0cm、幅21.0cm、厚さ17.0cmの角柱状の礫を渡して補強している。天井部の礫にはカマド使用中よりヒビがあり、廃棄時に二分割され壊されている。煙道部は壁外に45cmほど延びる。カマドから土師器甕(11)が散乱した状態で出土している。なお、この甕の破片は北西角の床上直上からも出土している。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** 若干の凹凸が見られるが、ほぼ平坦である。住居南辺中央にあるP4には、焼土が60cmの厚さで意図的に埋め込まれていた。

**掘方** 床面までは5～20cmほど埋め戻されている。北西部を除いて径0.38～1.42mの土坑状の落ち込み(P1～P7)が検出されている。北西部には掘削時の工具痕が残されていた。

**棚状** 東辺のカマドを挟んだ両サイドに幅40～80cmの平坦面を構築している。この底面には粘土を付設した痕跡が認められていることから、13号住居と同様の棚状施設と考えられる。

**埋没状態** 土層断面の観察では壁際への三角堆積や中央部の堆積などが確認できることから自然堆積と考えられる。

**遺物** 土師器6点、須恵器9点、黒色土器1点、刀子1

点、鎌1点、天井石1点を図示した。カマドから、土師器甕(9・11)、刀子(17)が出土した。須恵器皿(3)はカマド前床面34cm上から、須恵器坏(4)は住居南東側床面29cm上から、「足」を墨書する黒色土器(7)は住居南東側床面15cm上から、墨書のある須恵器坏(8)は南東角床面直上から、須恵器甕(14)は住居北東角や床下P2から、須恵器甕(15)は住居南東側床面5cm上から、須恵器転用硯(16)は北西角床面直上から、鎌(18)は北辺中央やや西床面5cm上から出土している。未掲載遺物では、土師器749点、須恵器98点が出土した。

**時期** 共伴する土師器坏(1)や土師器甕(11)などの出土遺物から、9世紀中頃と考えられる。

**16号住居**(第134図、PL.29・80)

**位置** 55-S-10、3分の2ほどは調査区外に位置する。

**重複** 14号住居と東辺でわずかに重複する。新旧関係は本住居の方が古い。

**形状** 方形または長方形か

**規模** 長軸(1.98m) 短軸(1.40m) 残存深度0.57m

**主軸方位** N-87°-E **面積** (2.70m<sup>2</sup>)

**カマド** 調査範囲内では確認されなかった。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** ほぼ平坦面である。

**掘方** 中央部は地山をそのまま床面としているが、周辺部は10cmほど掘り込んでいる。

**埋没状態** 土層断面の観察ではほぼ水平に近い堆積が確認できることから自然堆積であると考えられる。

**遺物** 須恵器2点(1・2)を図示した。いずれもフク土から出土した坏である。未掲載遺物では、土師器12点が出土した。

**時期** 須恵器坏(1・2)などの出土遺物から、8世紀後半と考えられる。

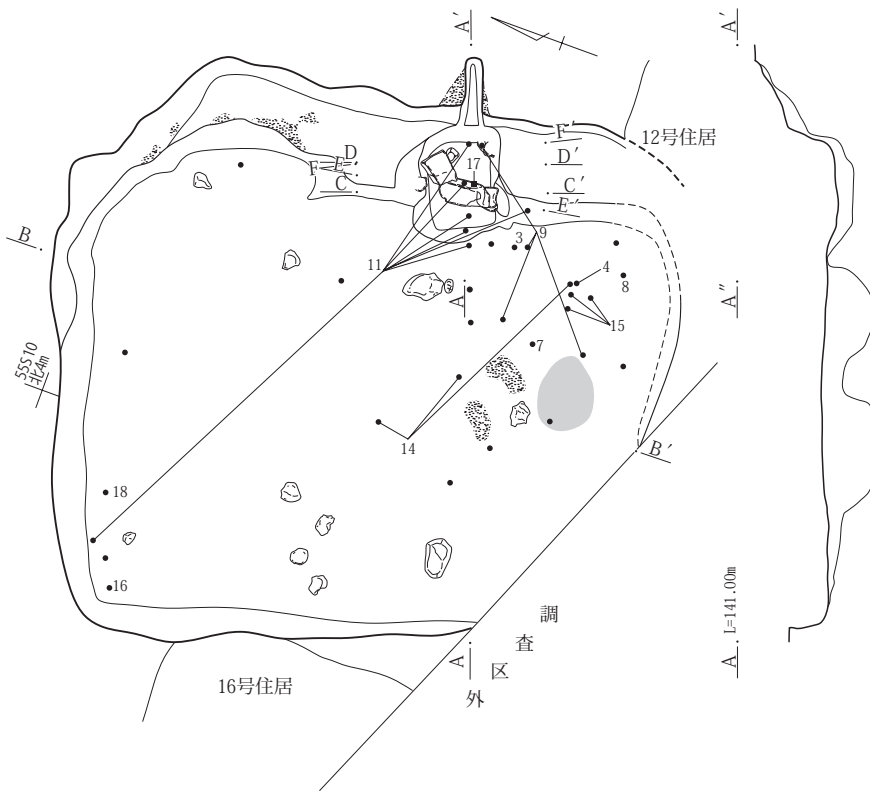
**17号住居**(第135図、PL.29・80)

**位置** 55-R・S-18

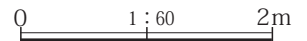
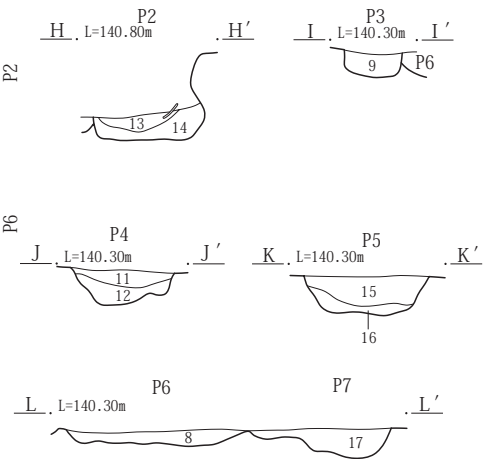
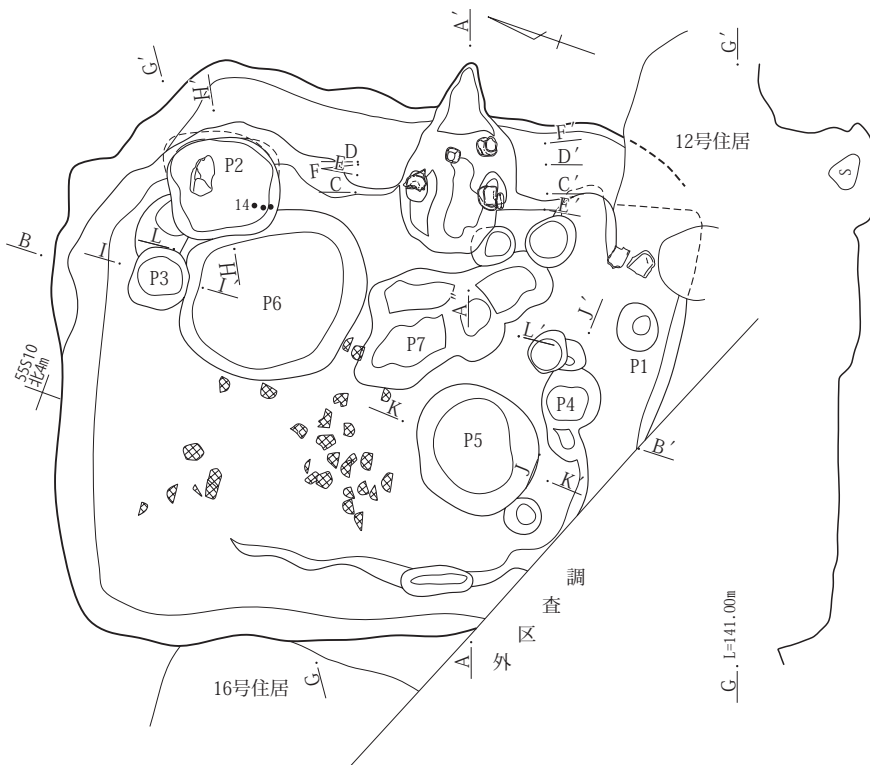
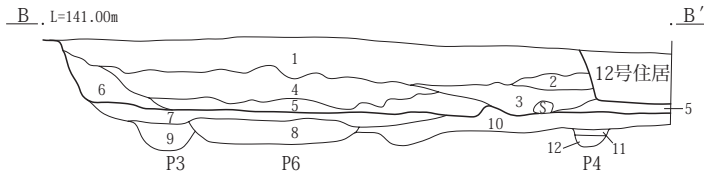
**重複** なし。

**形状** 長方形

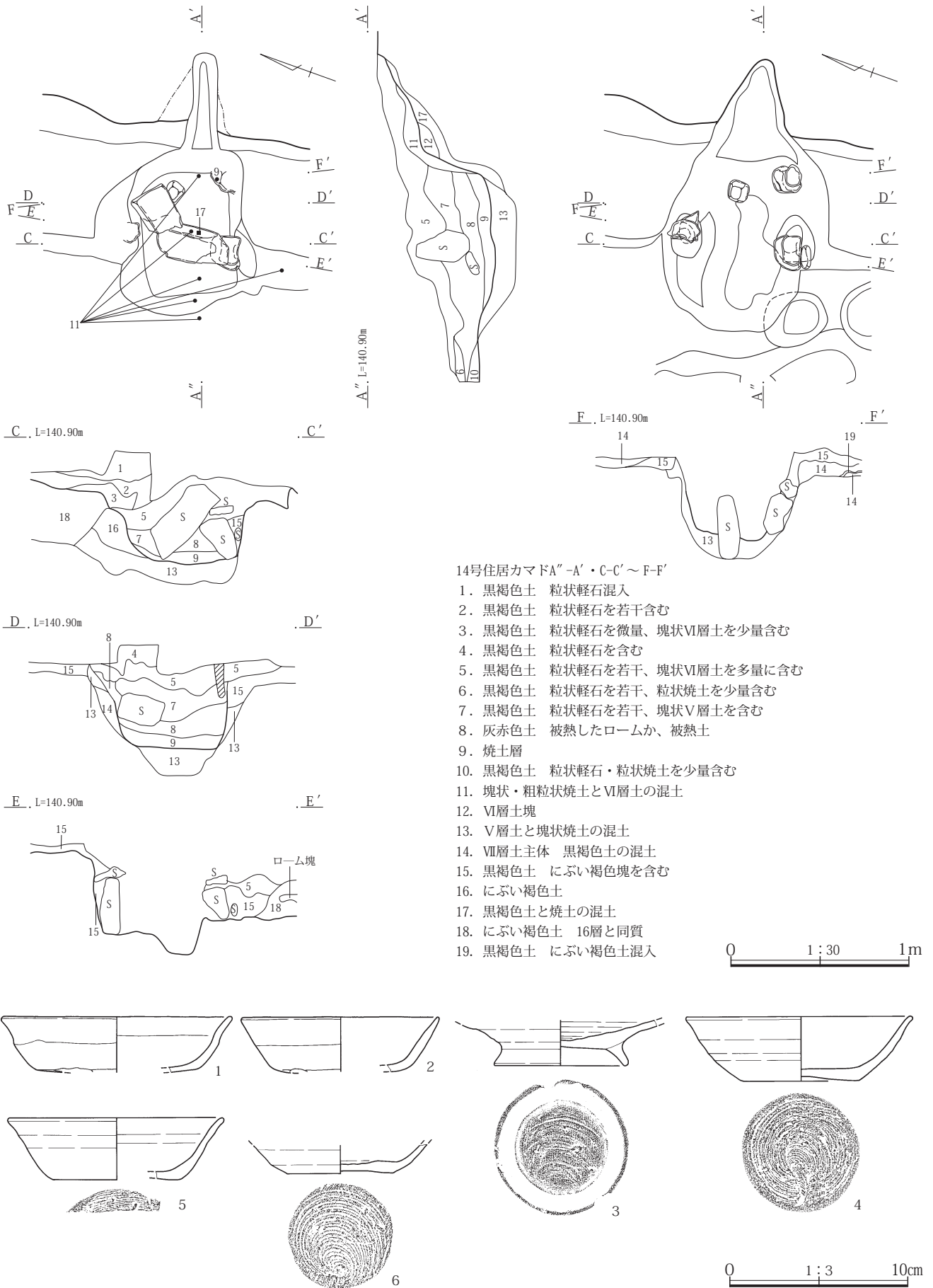
**規模** 長軸2.96m 短軸2.78m 残存深度0.15m



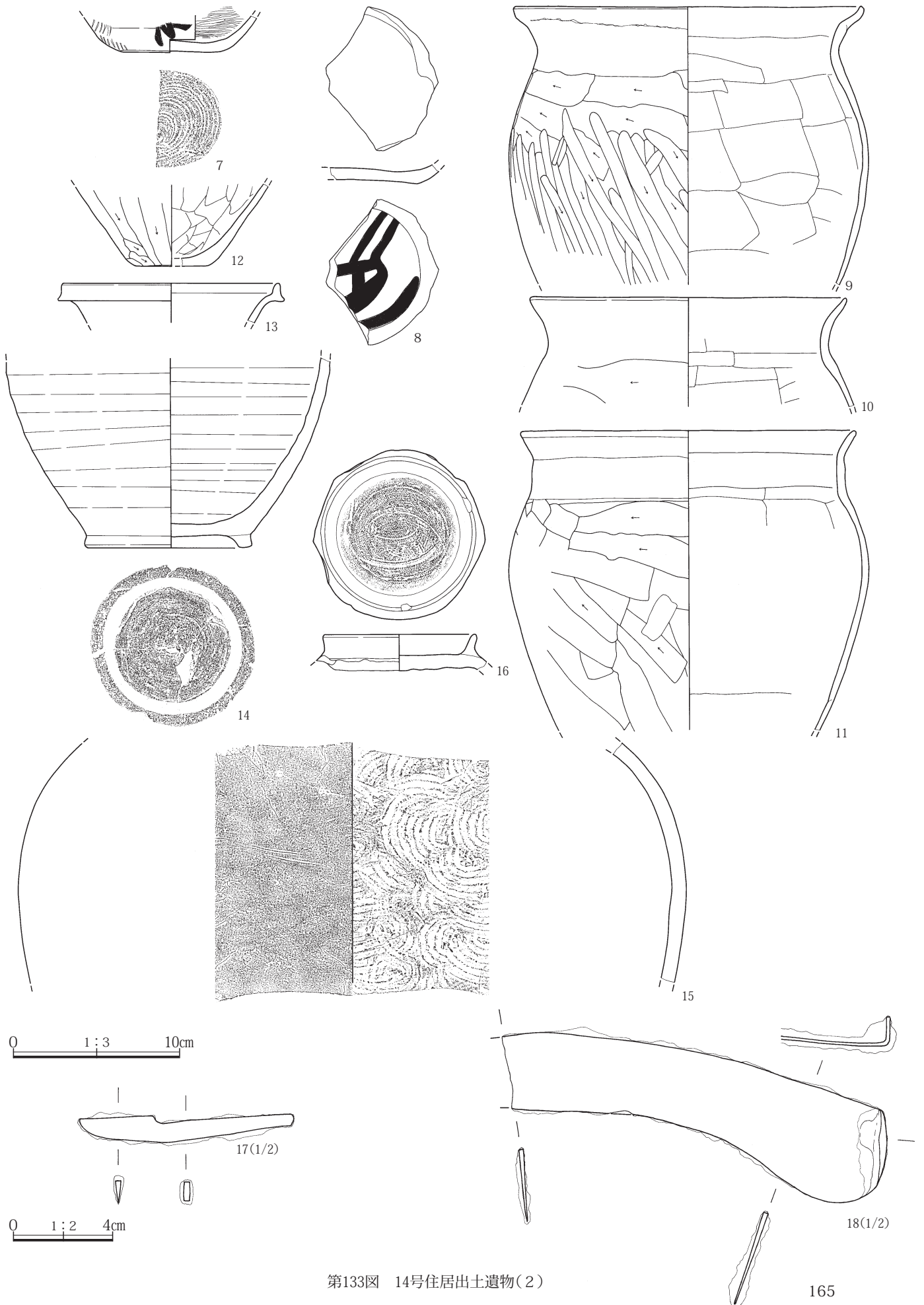
- 14号住居B-B'・H-H'～L-L'
1. 黒褐色土 粒状軽石混入
  2. 黒褐色土 粒状軽石混入、塊状明黄褐色Ⅶ層土を含む
  3. 黒褐色土 粒状軽石を含み、塊状明黄褐色Ⅶ層土を少量含む
  4. 黒褐色土 粒状軽石を含む
  5. 黒褐色土 細粒状軽石を少量含む
  6. 黒褐色土 細粒状軽石を若干含む
  7. 黒褐色土主体 塊状明黄褐色Ⅶ層土を含む
  8. 黒褐色土 粒状軽石を含む、塊状にぶい褐色土混入
  9. 塊状Ⅶ層土と暗褐色土焼土の混土
  10. 塊状明黄褐色Ⅶ層土主体と黒褐色土 粒状軽石若干の混土
  11. Ⅶ層土の被熱土と焼土塊の混土 暗褐色土・ローム無し、焼土だけの埋設
  12. 黒褐色土 粒状軽石を含み、塊状明黄褐色Ⅶ層土を若干含む
  13. 黒褐色土 粒状焼土含む、軽石無し
  14. 黒褐色土とⅦ層土の混土
  15. 暗褐色土 粒状軽石若干含む、塊状にぶい褐色土混入
  16. 暗褐色土 軽石無し
  17. 黒褐色土 細粒状軽石を若干含む、塊状にぶい褐色土混入



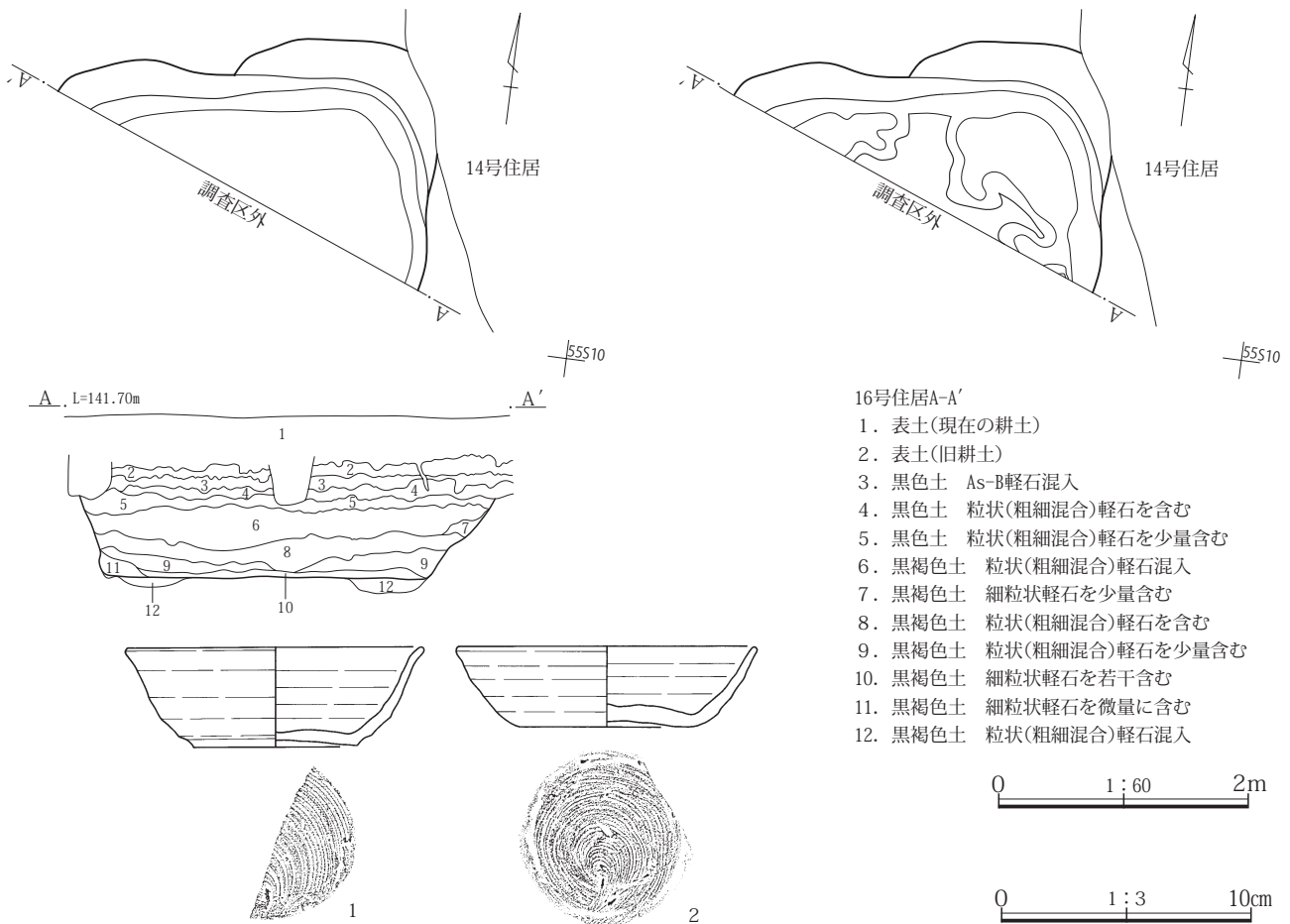
第131図 14号住居



第132図 14号住居カマドと出土遺物(1)



第133図 14号住居出土遺物(2)



第134図 16号住居と出土遺物

主軸方位 N-10°-E 面積 7.6㎡

カマド 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。

掘方 確認されなかった。

埋没状態 被水した暗褐色土が堆積していたが、カクランが多く詳細は不明である。

遺物 砥石1点(1)を図示した。フク土から出土した。未掲載遺物では、土師器19点、須恵器6点、灰釉陶器1点が出土した。

時期 未掲載の土器は細片のため時期を判断できない。また、砥石(1)からの年代判定はできないため、不明である。

所見 本住居には、カマド・貯蔵穴・柱穴・掘方などがないことから竪穴状遺構の可能性がある。

18号住居(第136図、PL.29・80)

位置 55・56-T・A-19・20

重複 49号住居と重複する。本住居の方が古い、そのため北半分を欠き、さらに東辺・南辺・西辺もカクランが多く、詳細は不明である。

形状 不定形

規模 長軸(3.76m) 短軸(2.00m) 残存深度(0.29m)

主軸方位 N-82°-W 面積 (6.02㎡)

カマド 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

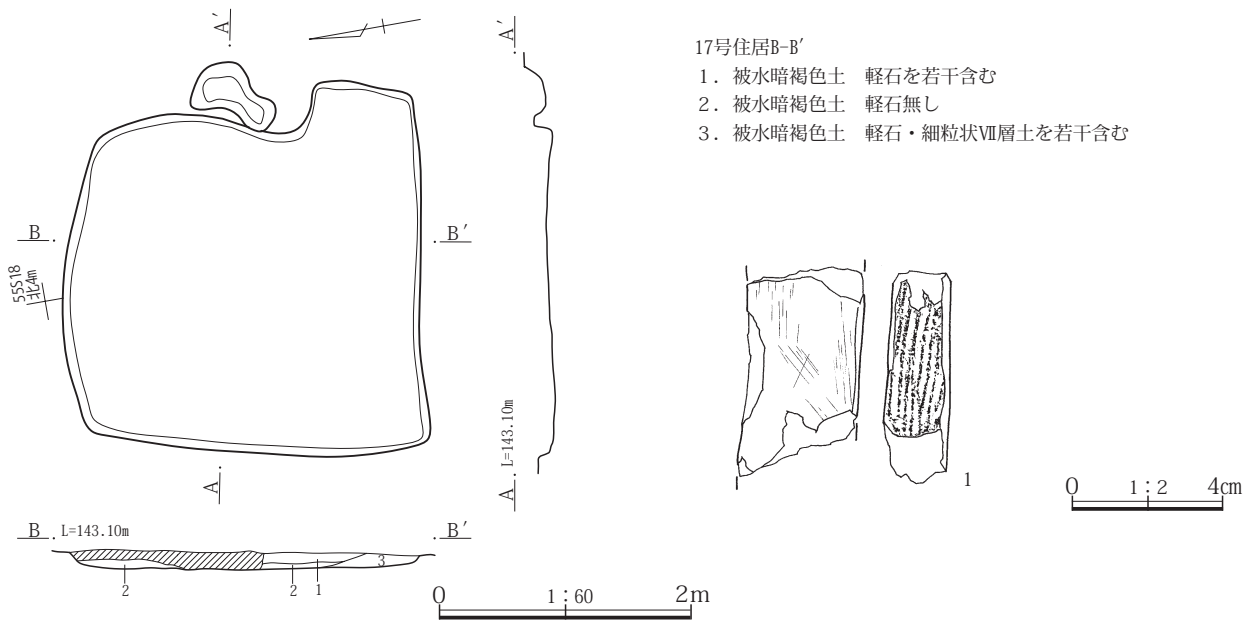
柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦面である。49号住居の床面と共通する形で検出した。東辺の南東角寄りの壁下で土坑状の落ち込みを検出(P1)。形状は楕円形で規模は径0.89×0.58m、深さ0.27mである。南辺の南西角寄りの壁下で土坑状の落ち込みを検出(P2)。形状は楕円形で規模は径1.25×0.82m、深さ0.58mである。

掘方 底面より5cmほど埋め戻して床面としている。

埋没状態 不明。



第135図 17号住居と出土遺物

**遺物** 土師器5点、須恵器1点を図示した。P1から土師器坏(4)、P2から土師器坏(3)と土師器甕(6)が出土した。土師器坏(3)は、8世紀代のもので混入品と考えられる。未掲載遺物では、土師器62点、須恵器14点が出土した。

**時期** 共伴する土師器坏(1)や土師器甕(6)などの出土遺物から9世紀中頃と考えられる。

**49号住居**(第136図、PL.29)

**位置** 55・56-T・A-19・20

**重複** 18号住居と重複する。本住居の方が新しい。北東角から南西角にかけて大部分をカクランで欠くため詳細は不明である。

**形状** 不定形

**規模** 長軸(3.80m) 短軸(2.80m) 残存深度(0.23m)

**主軸方位** N-90° **面積** (10.70㎡)

**カマド** 東辺の中ほどに造られている。残存状態は袖や天井の痕跡は確認されず、掘方だけのため詳細は不明である。規模は全長1.02m、幅0.28mである。燃烧部から煙道部にかけては壁外に50cmほど延びる。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** ほぼ平坦面である。18号住居の床面と共通する形で検出した。住居中央に土坑状の落ち込みを検出(P

3)。形状は楕円形を呈し、規模は径1.12×1.08m、深さ0.32mである。

**掘方** 底面より5cmほど埋め戻して床面としている。

**埋没状態** 不明。

**遺物** 土師器2点を図示した。P3から土師器甕(2)が出土した。土師器坏(1)は、7世紀後半のもので混入品である。未掲載遺物では、土師器28点、須恵器7点、灰釉陶器1点が出土した。

**時期** 49号住居は、重複する18号住居よりも新しいことや出土遺物の土師器甕(2)から9世紀中頃以降と考えられる。

**19号住居**(第137・138図、PL.29・30・80)

**位置** 56-B・C-18・19

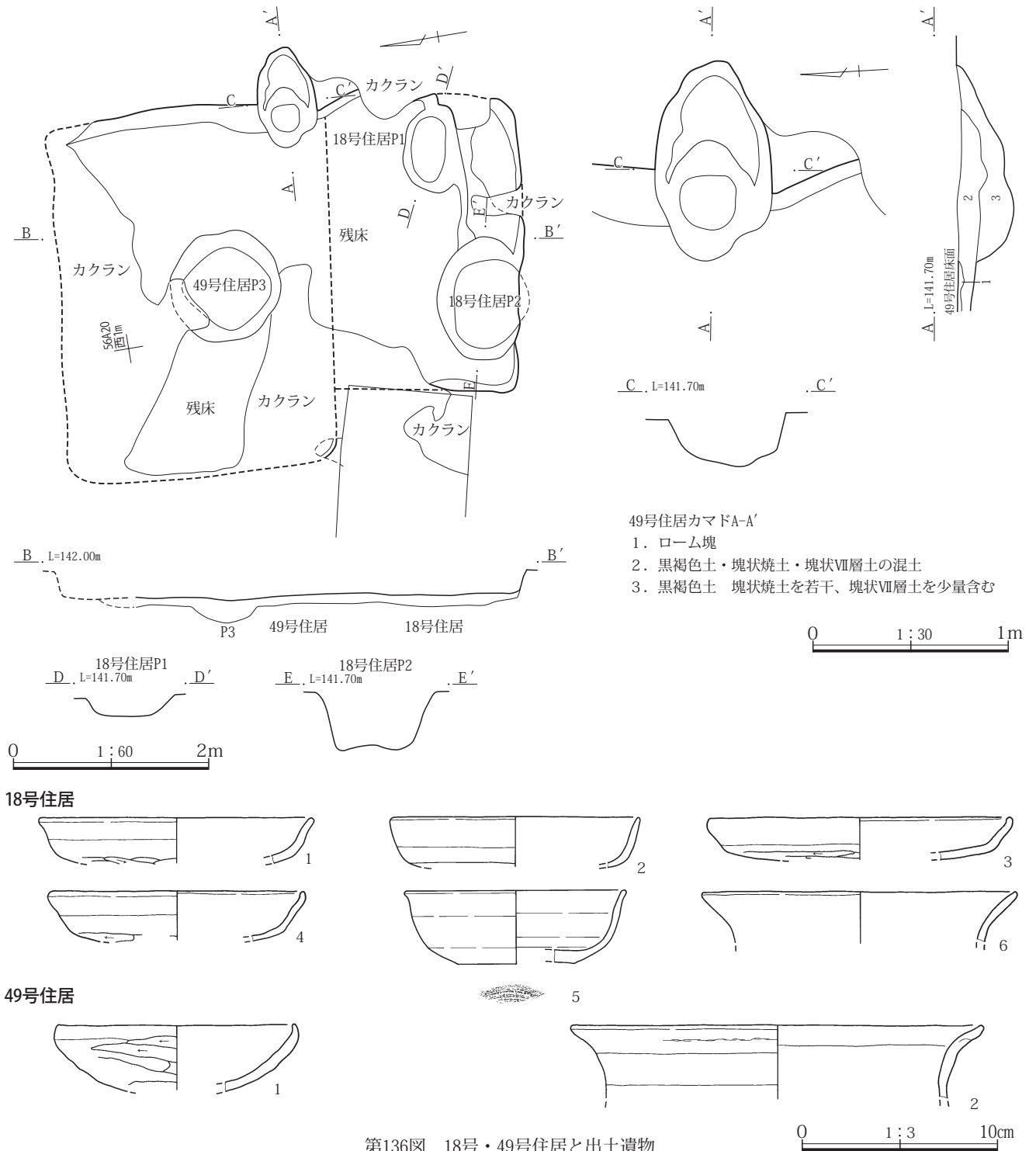
**重複** 672号土坑と重複する。新旧関係は本住居の方が古い。

**形状** 長方形

**規模** 長軸3.91m 短軸3.16m 残存深度0.41m

**主軸方位** N-169°-E **面積** 12.16㎡

**カマド** 南辺のほぼ中央に造られている。天井部や壁内の袖は住居廃棄時に壊されたためか痕跡も残らない。規模は全長1.14m、幅0.7m、燃烧部0.80mを測る。壁外に位置する袖には左袖に長さ35cm、径25cmの円柱状礫である袖石(14)埋め込んで補強に使用していた。燃烧部から煙道部にかけて壁外に70cmほど延びる。



第136図 18号・49号住居と出土遺物

**貯蔵穴** 南東角で検出(P 1)、やや歪んだ楕円形を呈し、規模は径0.81×0.77mである。(深さは不明)

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

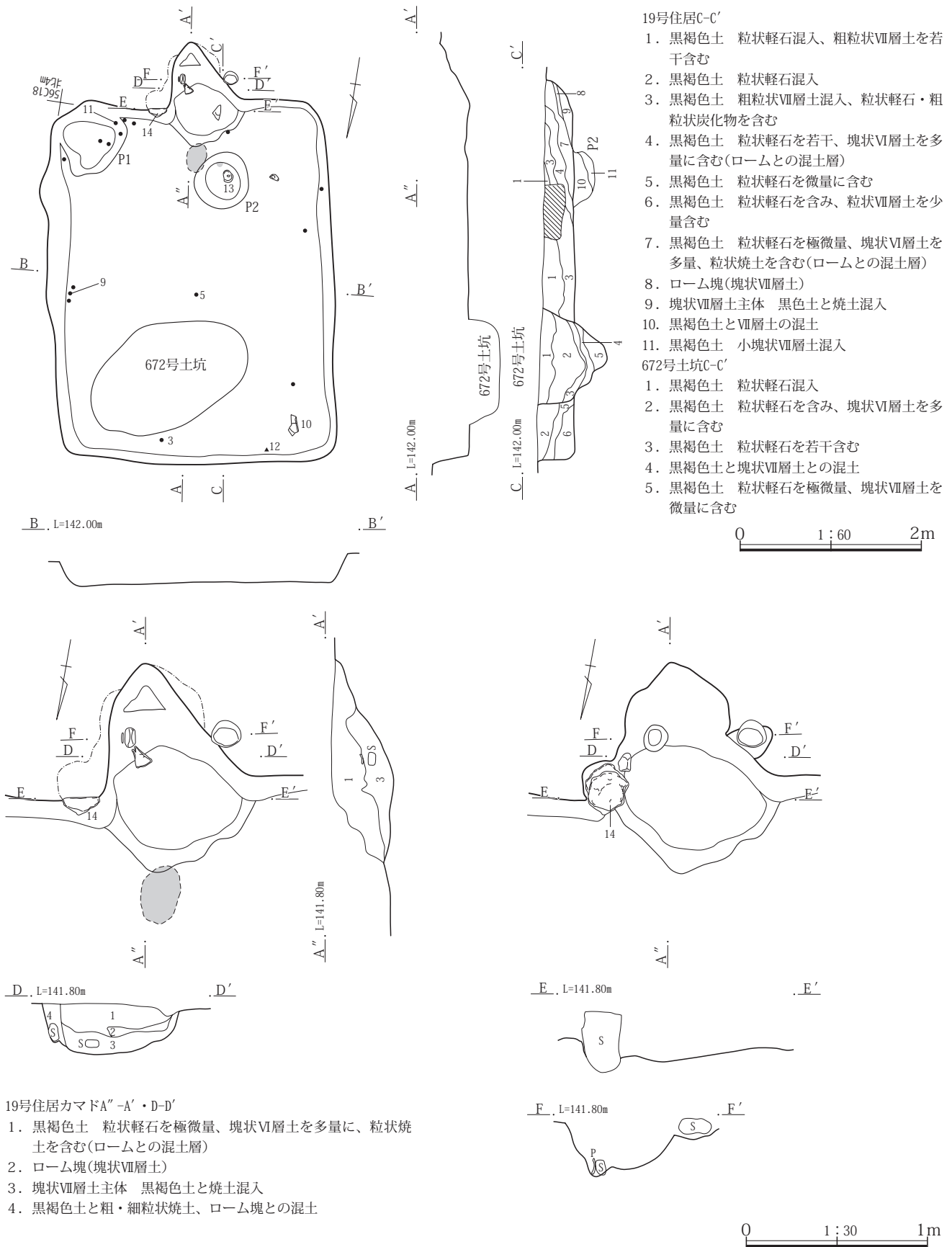
**床面** ほぼ平坦である。

**掘方** 掘削時の凹凸を直す程度に埋め戻している。カマド前に土坑状の落ち込みを検出(P 2)、形状は楕円形を呈し、規模は径0.63×0.60m、深さ0.22mである。

**埋没状態** 土層断面では周囲から土砂の流れ込みが観察できることから自然埋没と考えられる。

**遺物** 土師器5点、須恵器6点、丸軋1点、石製品1点、袖石1点を図示した。須恵器碗は(3)は北辺やや東床面19cm上から、土師器甕は(5)は住居中央床面14cm上から、須恵器壺(9)は東辺中央床面7cm上、須恵器甕(10)は北西角4cm上から、須恵器甕(11)は、P 1から、蛇紋岩製の丸軋(12)は北西角3cm上から、石製品(13)は、床面直

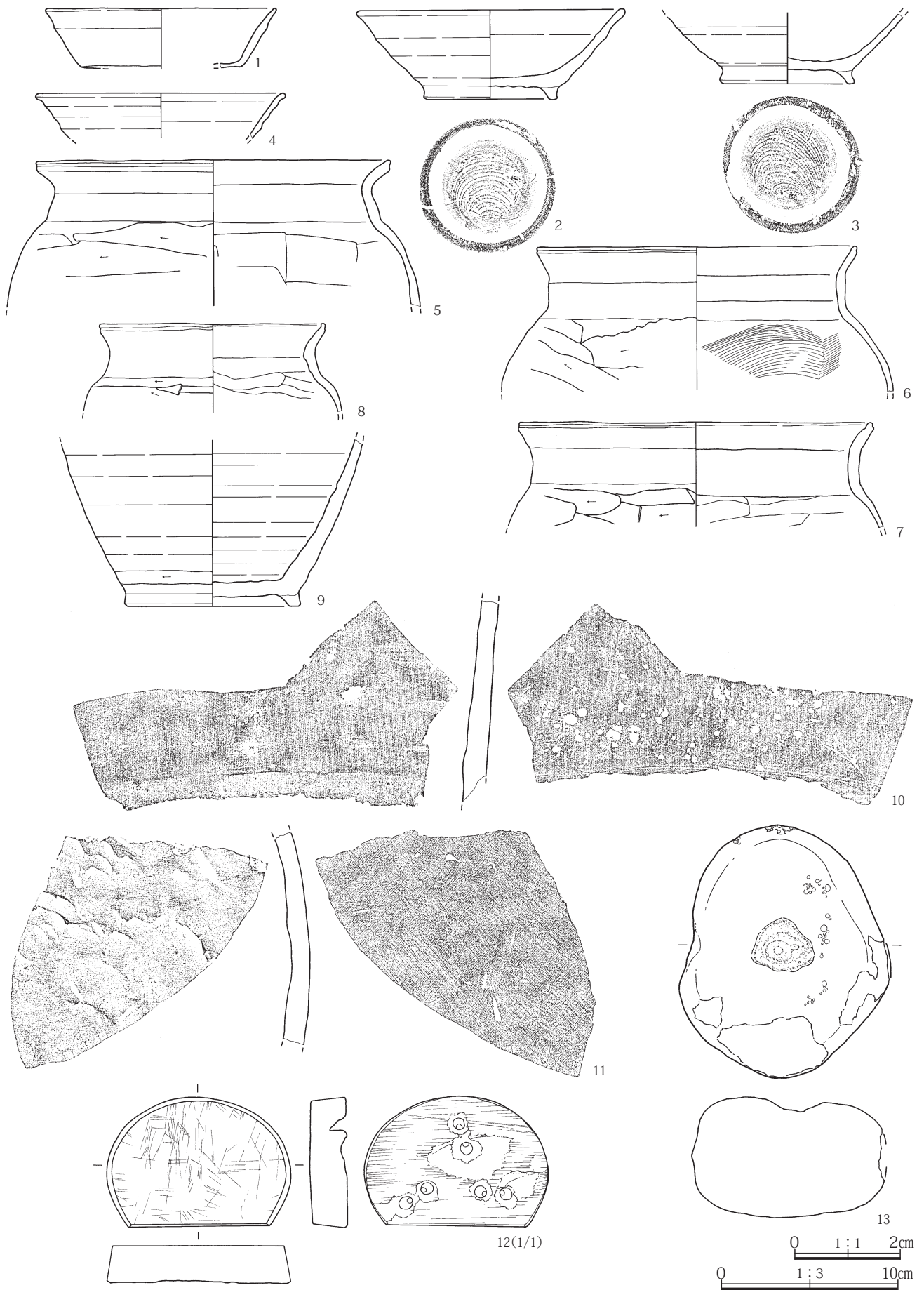




第137図 19号住居

上からの出土である。未掲載遺物では、土師器230点、須恵器50点が出土した。

時期 共伴する須恵器塚(2)や土師器甕(6)などの出土遺物から、9世紀後半と考えられる。

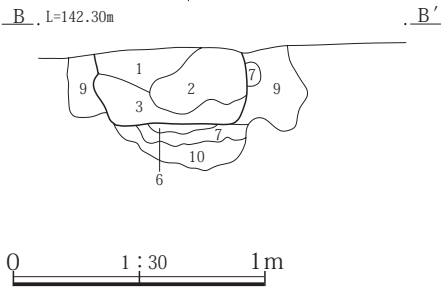
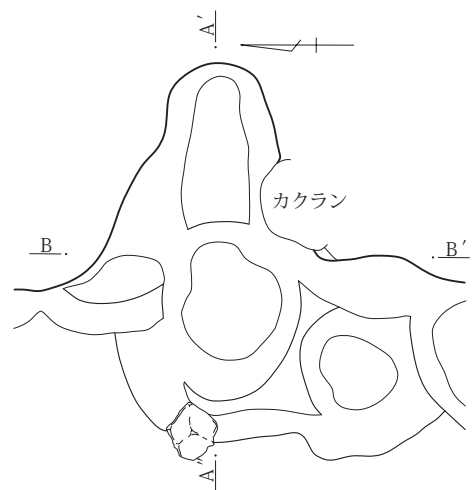
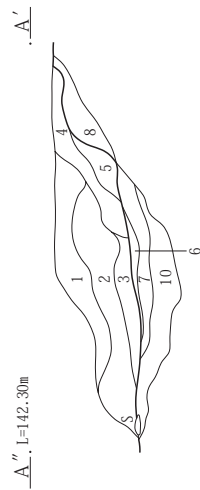
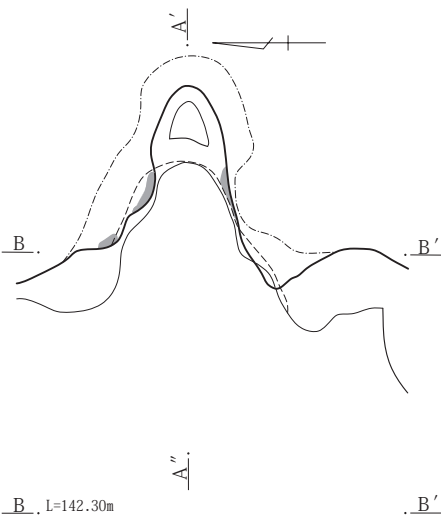
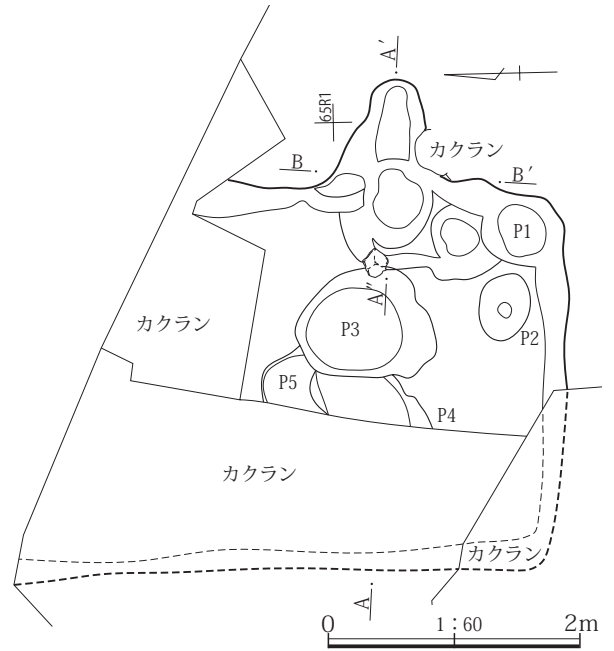
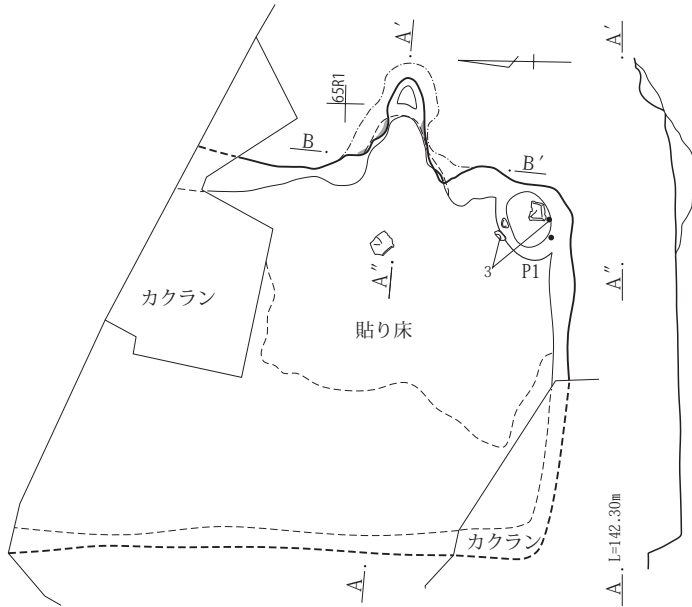


第138図 19号住居出土遺物

所見 31軒ある奈良・平安時代の竪穴住居のうち、本住居だけ南辺にカマドを造っている。

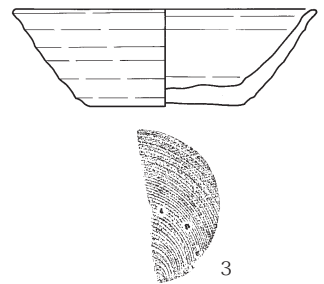
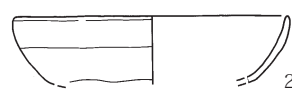
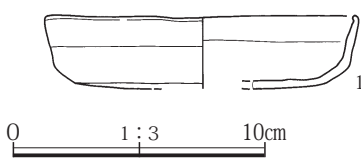
20号住居(第139図、PL.30・81)

位置 55-Q・R-20、65-R-1、北側から西側の大半を攪乱で欠く、北辺は調査区外に延びる。



20号住居カマドA''-A'・B-B'

1. 粗粒状焼土混入塊状Ⅶ層土
2. 塊状Ⅶ層土
3. 粒状焼土と粗粒・塊状Ⅶ層土の混土
4. 焼土層
5. 黒褐色土 粗粒状焼土を含む
6. 被熱ローム(焼土化)
7. 塊状ロームによる大床面
8. 黒褐色土と粗粒状焼土の混土
9. 黒褐色土 細粒状軽石を微量、粒状Ⅶ層土を若干含む
10. 黒褐色土・塊状Ⅶ層土と粗粒状焼土の混土



第139図 20号住居と出土遺物

重複 なし。

形状 長方形

規模 長軸(4.47m) 短軸3.08m 残存深度0.45m

主軸方位 N-95°-E 面積 (11.73㎡)

カマド 東辺の南東角寄りに造られている。袖は一部が残存しているが、天井部は住居廃棄時に壊されたためか痕跡も残らない。規模は全長1.99m、幅0.53m、燃烧部0.50mを測る。燃烧部の底面と側面には被熱した焼土面が比較的良好な状態で残る。燃烧部奥から煙道部にかけては壁外に80cmほど延びる。

貯蔵穴 東南角で検出(P1)。楕円形を呈し、規模は径0.62×0.56m、深さ0.52mである。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

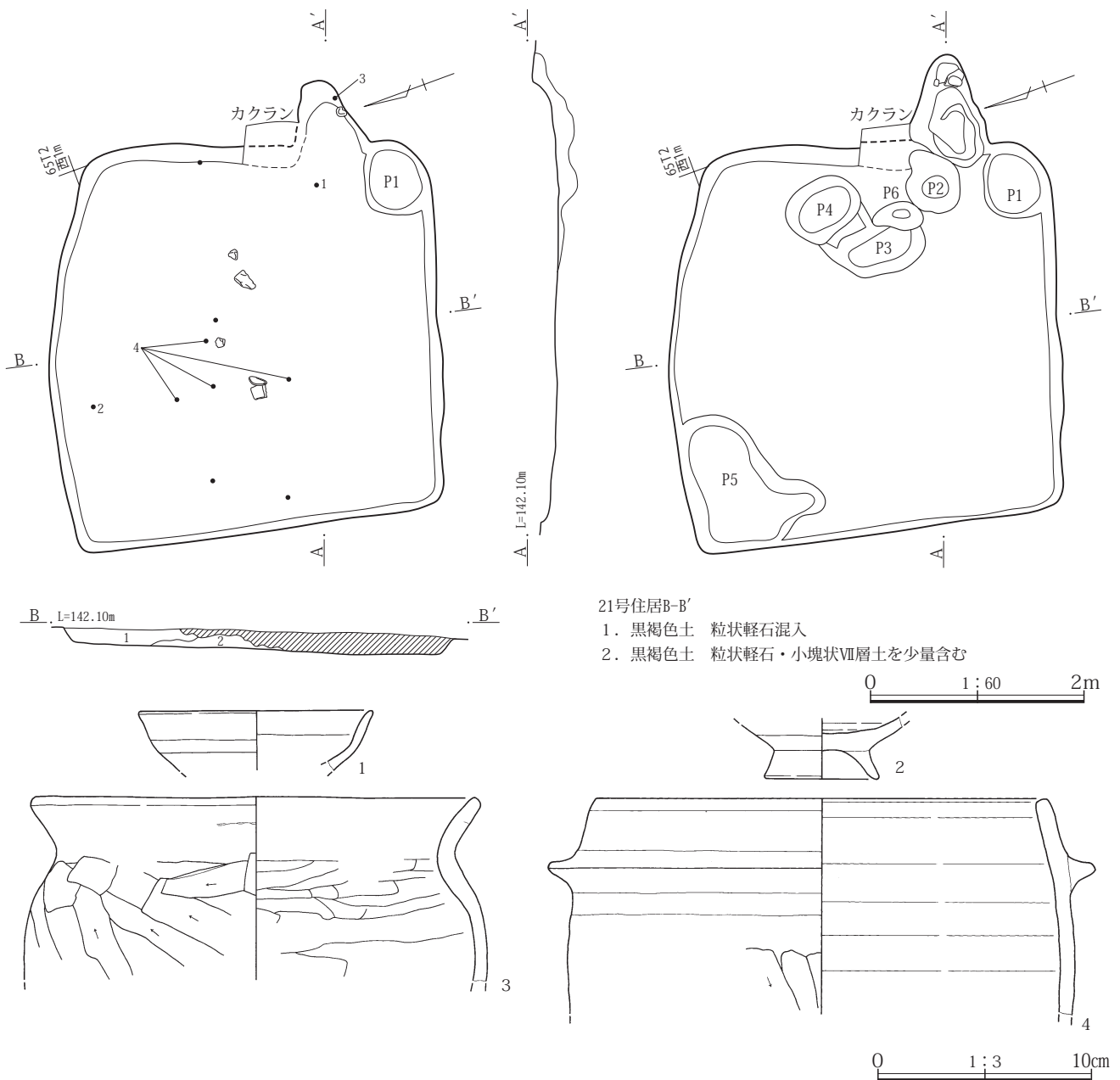
床面 ほぼ平坦で、貼床が施されていた。

掘方 土坑状の落ち込みを検出(P2~P5)。P3は楕円形を呈し、規模は径1.10×0.86m、深さ0.54mである。

埋没状態 不明。

遺物 土師器2点、須恵器1点を図示した。須恵器環(3)は南東角7cm上からの出土である。未掲載遺物では、土師器81点、須恵器15点が出土した。

時期 共伴する土師器環(1)や須恵器環(3)などの出土遺物から、9世紀中頃と考えられる。



第140図 21号住居と出土遺物

## 21号住居(第140図、PL.30・81)

**位置** 65-T-1・2、66-A-1・2

**重複** なし。

**形状** 長方形

**規模** 長軸3.71m 短軸3.66m 残存深度0.27m

**主軸方位** N-100°-E **面積** 12.74㎡

**カマド** 東辺の南東角寄りに造られている。天井部や壁内の袖は住居廃棄時に壊されたためか痕跡も残らない。なお、左袖はカクランにより欠く。規模は全長1.05m、幅0.46mを測る。燃焼部から煙道部は壁外に90cmほど延びる。

**貯蔵穴** 南東角で検出(P1)、楕円形を呈し、規模は径0.70×0.62m、深さ0.20mである。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** ほぼ平坦である。南側の多くはカクランにより不明である。

**掘方** カマド周りに浅い土坑状の落ち込みを検出(P2～P6)した。他は地山をそのまま床面としている。

**埋没状態** 粒状軽石やロームブロックを含む暗褐色土が堆積していたが、カクランが多く詳細は不明である。

**遺物** 土師器2点、須恵器2点を図示した。カマドから、土師器甕(3)が出土した。土師器坏(1)はカマド前床面2cm上から、須恵器碗(2)は北辺やや西床面直上から、須恵器羽釜(4)は住居中央床面直上からの出土である。未掲載遺物では、土師器102点、須恵器16点が出土した。

**時期** 共伴する須恵器碗(2)や須恵器羽釜(4)などの出土遺物から、10世紀中頃と考えられる。

## 23号住居(第141・142図、PL.30・31・81)

**位置** 67-H-I-6・7

**重複** なし。

**形状** 長方形

**規模** 長軸4.86m 短軸3.71m 残存深度0.47m

**主軸方位** N-90° **面積** 17.95㎡

**カマド** 東辺の中央よりやや南寄りに造られている。壁内の袖や天井部は住居廃棄時に壊されたためか痕跡も残らない。なお、右袖の一部はカクランにより欠く。規模は全長1.33m、幅0.52mを測る。右袖には補強に使用された礫が残っていた。また、右袖には礫を補強のため埋

め込んだと見られる小穴が検出された。燃焼部から煙道部にかけては壁外に90cmほど延びる。

**貯蔵穴** 南東角で検出(P1)。楕円形を呈し、規模は径0.65×0.50m、深さ0.31mである。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 床面では確認されなかったが、掘方では西辺壁下と北東部角で検出。北辺の北西角付近の壁下では径10～20cmの小孔列を検出。

**床面** ほぼ平坦である。中央部で土坑状の落ち込みを検出(P2、P3)。規模はP2が径1.01×0.91m、深さ0.28m、P3が径0.82×0.62m、深さ0.04mである。

**掘方** 床面まで20cmほど埋め戻している。底面では多くの土坑状落ち込みを検出(P5～P13、P15～P21)。南辺の東寄りでは壁外に15cmほど掘り込まれ(P14)、その内部からは須恵器碗(11)と扁平な礫が出土している。

**埋没状態** 土層断面の観察では周囲から土砂が流れ込んだ状態が確認されることから自然埋没であると考えられる。

**遺物** 土師器5点、須恵器6点を図示した。土師器坏(1)はP1から、須恵器坏(7)は南辺やや東掘方から、須恵器坏(8)は南辺西掘方から、須恵器坏(9)は住居中央やや北西床下P5からの出土である。未掲載遺物では、土師器128点、須恵器75点が出土した。

**時期** 共伴する須恵器蓋(6)や須恵器碗(11)などの出土遺物から、9世紀中頃と考えられる。

## 28号住居(第143図、PL.31・81)

**位置** 55-L-M-18 北辺部分は調査区外に延びる。

**重複** 194号土坑と重複する。新旧関係は本住居の方が新しい。

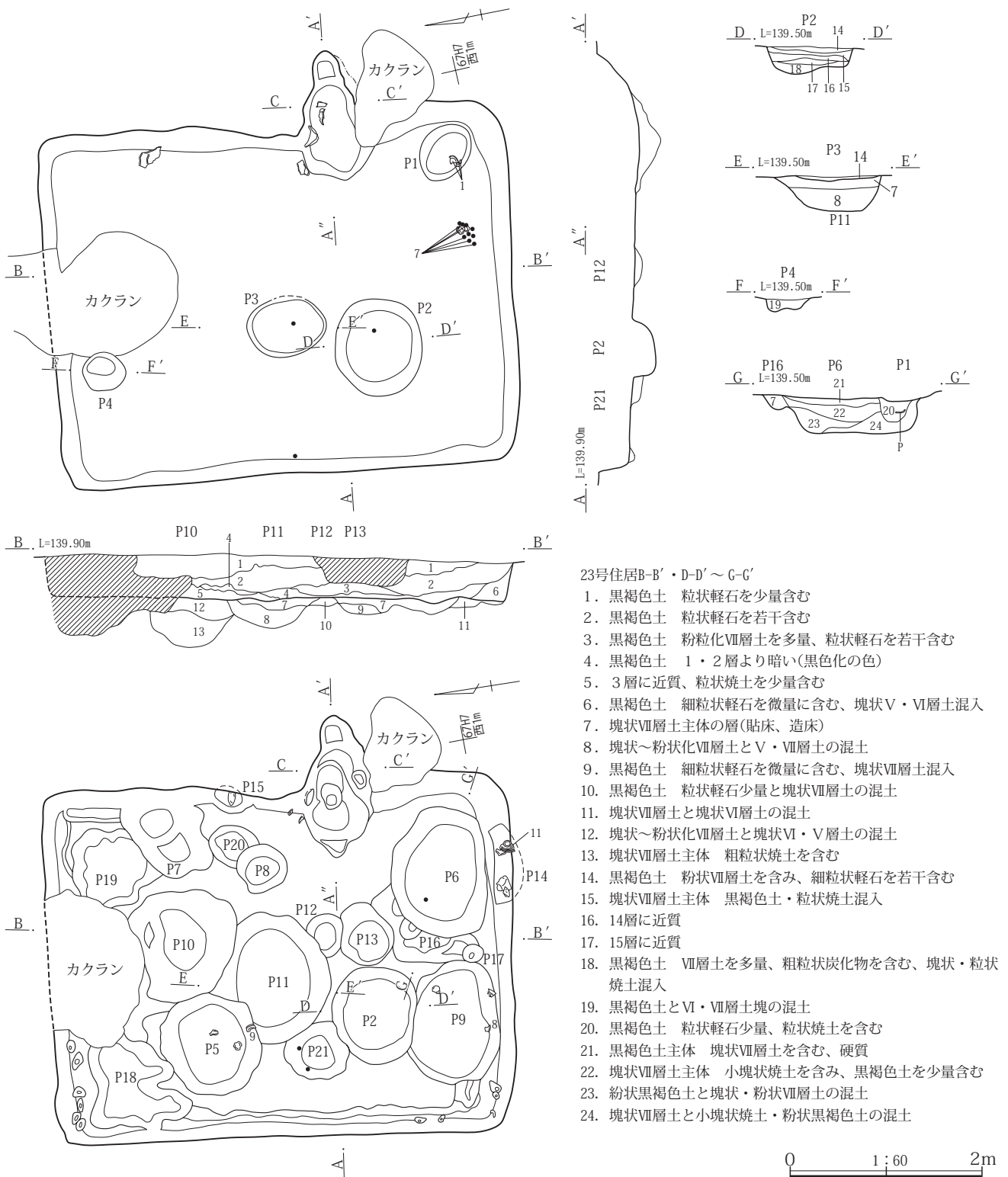
**形状** 長方形

**規模** 長軸2.71m 短軸(2.68m) 残存深度0.21m

**主軸方位** N-105°-E **面積** (6.4㎡)

**カマド** 東辺の中央に造られている。袖は壁内に痕跡が残るが、天井は住居廃棄時に壊されている。規模は全長0.93m、幅0.38m、燃焼部幅0.40mを測る。カマドは断面から袖、天井部に多量の白色粘土を使用していることがわかる。燃焼部から煙道部にかけては壁外に60cmほど延びる。

**貯蔵穴** 南東角で検出(P1)、楕円形を呈し、規模は径0.43×0.34m、深さ0.06mである。



23号住居B-B'・D-D'～G-G'

1. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を若干含む
3. 黒褐色土 粉粒化Ⅶ層土を多量、粒状軽石を若干含む
4. 黒褐色土 1・2層より暗い(黒色化の色)
5. 3層に近質、粒状焼土を少量含む
6. 黒褐色土 細粒状軽石を微量に含む、塊状Ⅴ・Ⅵ層土混入
7. 塊状Ⅶ層土主体の層(貼床、造床)
8. 塊状～粉状化Ⅶ層土とⅤ・Ⅶ層土の混土
9. 黒褐色土 細粒状軽石を微量に含む、塊状Ⅶ層土混入
10. 黒褐色土 粒状軽石少量と塊状Ⅶ層土の混土
11. 塊状Ⅶ層土と塊状Ⅵ層土の混土
12. 塊状～粉状化Ⅶ層土と塊状Ⅵ・Ⅴ層土の混土
13. 塊状Ⅶ層土主体 粗粒状焼土を含む
14. 黒褐色土 粉状Ⅶ層土を含み、細粒状軽石を若干含む
15. 塊状Ⅶ層土主体 黒褐色土・粒状焼土混入
16. 14層に近質
17. 15層に近質
18. 黒褐色土 Ⅶ層土を多量、粗粒状炭化物を含む、塊状・粒状焼土混入
19. 黒褐色土とⅥ・Ⅶ層土塊の混土
20. 黒褐色土 粒状軽石少量、粒状焼土を含む
21. 黒褐色土主体 塊状Ⅶ層土を含み、硬質
22. 塊状Ⅶ層土主体 小塊状焼土を含み、黒褐色土を少量含む
23. 粉状黒褐色土と塊状・粉状Ⅶ層土の混土
24. 塊状Ⅶ層土と小塊状焼土・粉状黒褐色土の混土

第141図 23号住居

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

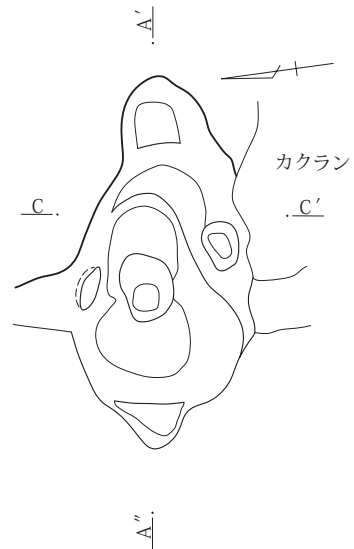
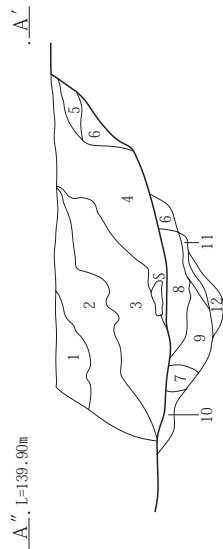
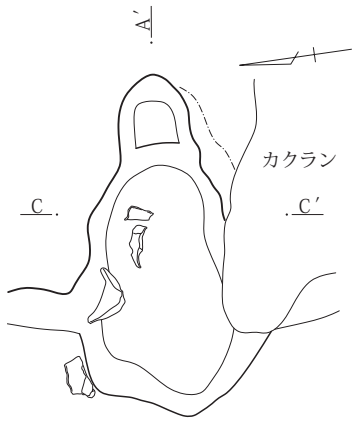
**床面** ほぼ平坦でⅤ層、Ⅵ層、Ⅶ層の塊土等を使用して貼り床としていた。北西角で土坑(P 2)を検出。形状は円形を呈し、規模は径0.63×0.58m、深さ0.21mである。

**掘方** 床面まで30cmほど埋め戻している。中央部に土坑

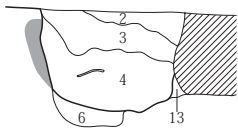
(P 3)を検出、規模は径1.15×0.94m、深さ0.17mである。性格については不明である。

**埋没状態** 確認面からの埋没土はほぼ黒褐色土で埋没しており、自然埋没であるか人為的堆積であるかは不明であるが、3層については、人為的な層の可能性を残す。

**遺物** 須恵器1点を図示した。住居北西角P 2から出土



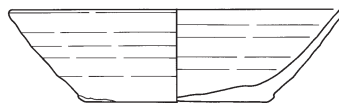
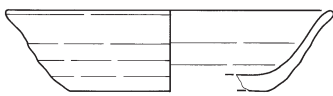
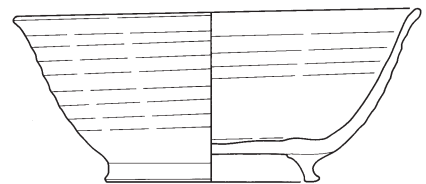
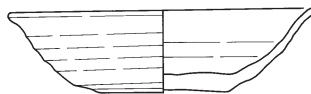
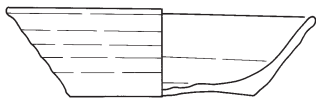
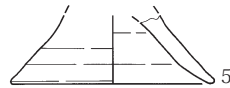
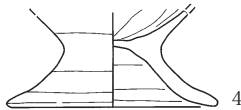
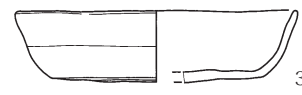
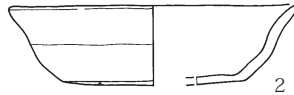
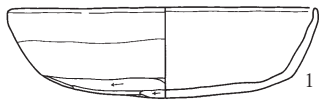
A''  
C, L=139.90m C'



23号住居カマドA''-A'・C-C'

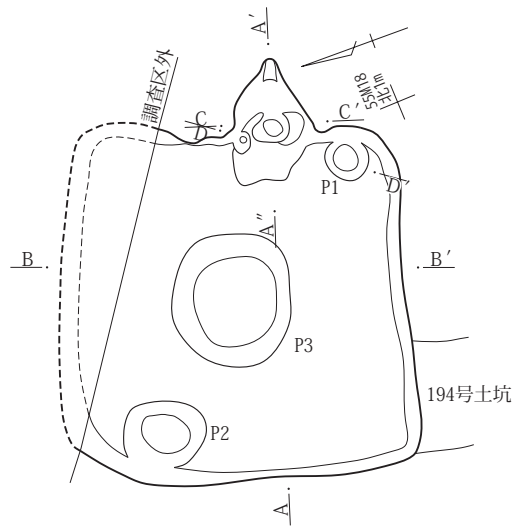
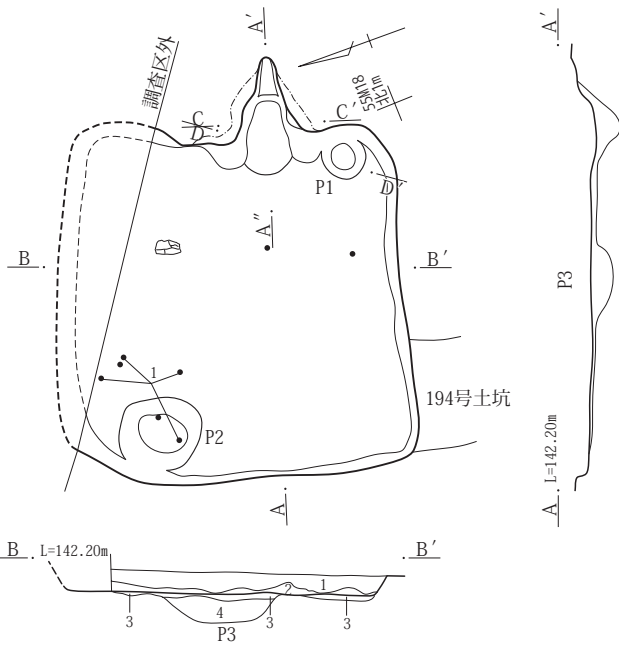
1. 黒褐色土 粒状軽石混入
2. 黒褐色土 粉状・塊状Ⅶ層土を多量に含む
3. 暗褐色土 塊状Ⅵ・Ⅶ層土を多量、粒状軽石を微量に含む
4. 塊状Ⅶ層土と焼土の混土
5. 灰と塊状焼土の混土
6. 10層に、塊状焼土を含む
7. 黒褐色土 ローム塊を含む
8. 粉・粒状焼土層
9. 灰、粉炭化物の混土 粒状焼土を含む
10. ローム塊と黒褐色土の混土
11. 10層に近質
12. 塊状Ⅶ層土・塊状焼土の混土
13. 地山

0 1:30 1m



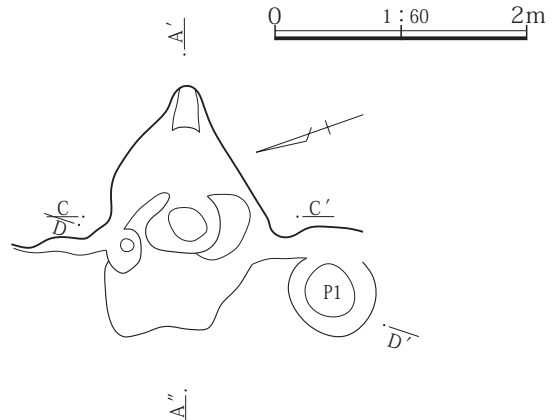
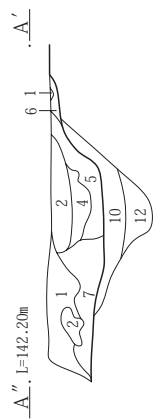
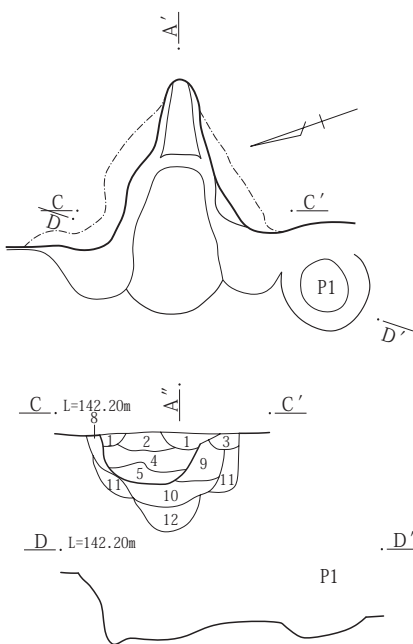
0 1:3 10cm

第142図 23号住居カマドと出土遺物



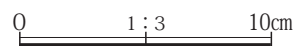
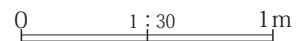
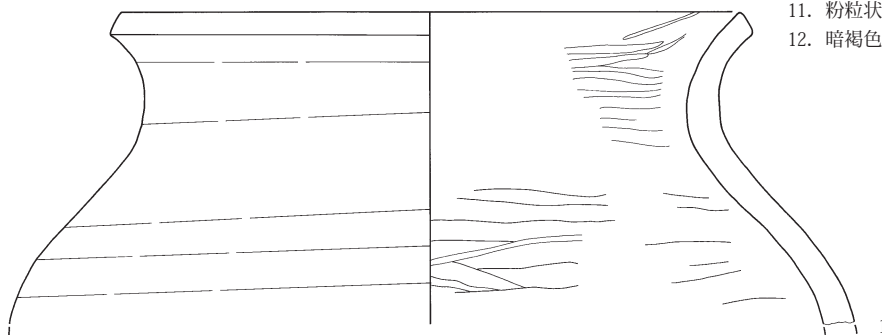
28号住居B-B'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量、粒状焼土を含み、褐色土(VI層土)を塊状に含む
3. 暗褐色土 V・VI・VII層の塊土と粒状軽石を含む(貼り床)
4. 黒褐色土 粒状軽石少量、塊状地山土斑状を多量に含む



28号住居カマドA''-A'・C-C'

1. 黒褐色土 粗粒状焼土を少量、細粒状軽石を含む
2. 白灰粘土 被熱
3. 黒褐色土 細粒状軽石を微量に含む
4. 黒褐色土 粗粒状焼土を含む
5. 黒褐色土 粒状焼土を少量含む
6. 焼土
7. 白灰被熱粘土塊
8. 暗褐色土と塊状焼土の混土
9. 白灰粘土
10. 黒褐色土と白灰粘土の混土 粒状炭化物を少量含む
11. 粉粒状白灰粘土と黒褐色土の混土
12. 暗褐色土・塊状VI層土・粒状焼土・白灰粘土の混土



第143図 28号住居と出土遺物



した須恵器甕(1)である。未掲載遺物では、土師器21点、須恵器2点が出土した。

**時期** 出土遺物の須恵器甕(1)から、10世紀前半と考えられる。

**40号住居**(第144図、PL.31・81)

**位置** 55-R-16・17

**重複** 18号竪穴状遺構と重複する。新旧関係は、本住居の方が新しい。

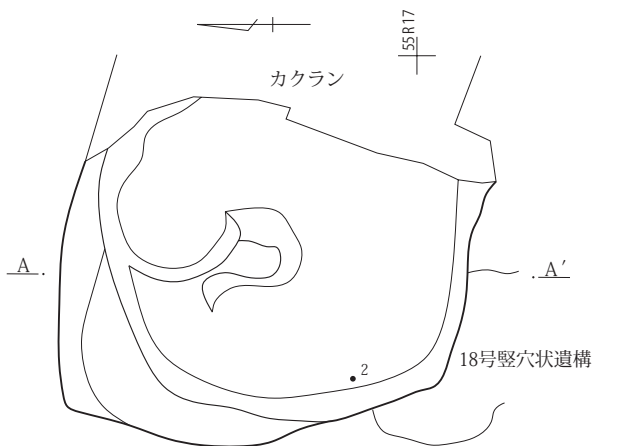
**形状** 不定形

**規模** 長軸3.23m 短軸(2.79m) 残存深度0.82m

**主軸方位** N-1°-E **面積** (7.71m<sup>2</sup>)

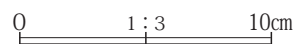
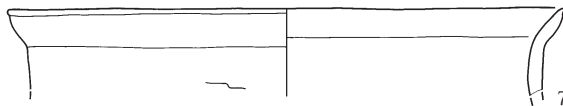
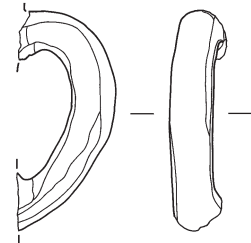
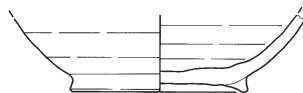
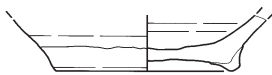
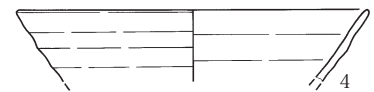
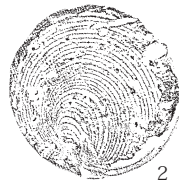
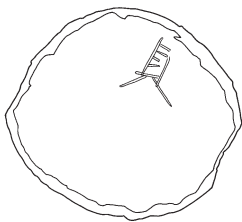
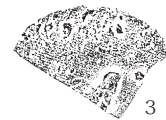
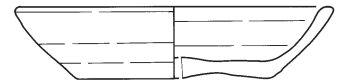
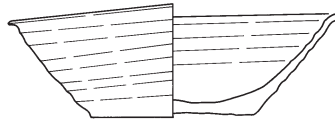
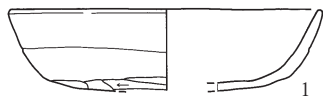
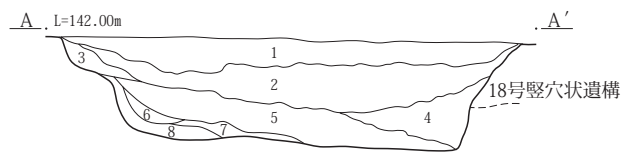
**カマド** 確認されなかった。

**貯蔵穴** 確認されなかった。



40号住居A-A'

1. 黒褐色土 As-Bを含み、粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 粒状軽石・粒状焼土を含み、粗粒状炭化物を若干含む
3. 黒褐色土 粒状軽石を微量に含む
4. 黒褐色土 粒状軽石を少量、粒状焼土を含む
5. 黒褐色土 粒状軽石を含む
6. 黒褐色土 粒状軽石を若干含む、塊状Ⅶ層土混入
7. 黒褐色土 粒状軽石を微量、粒状Ⅶ層土を含む
8. 黒褐色土 塊状Ⅵ層(床に乗っているので廃棄後の堆積・人為層か)



第144図 40号住居と出土遺物

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** ほぼ平坦である。

**掘方** 確認されなかった。

**埋没状態** 土層断面の観察では周囲から土砂が流れ込んだ状態が確認されることから自然埋没であると考えられる。

**遺物** 土師器2点、須恵器6点を図示した。すべてフク土からの出土である。須恵器壺(5)の内面には刻書「貞」が認められた。未掲載遺物では、土師器190点、須恵器61点が出土した。

**時期** 共伴する土師器環(1)や須恵器環(3)などの出土遺物から、9世紀前半と考えられる。

**所見** 40号住居の周辺には、多くの竪穴状遺構があり、本住居には、カマド・貯蔵穴・柱穴・掘方などがないことから竪穴状遺構の可能性はある。

**44号住居(第145図、PL.32・81)**

**位置** 67-P・Q-5

**重複** なし。

**形状** 長方形

**規模** 長軸2.45m 短軸1.83m 残存深度0.22m

**主軸方位** N-90° **面積** 4.22㎡

**カマド** 東南角に造られている。残存状態は袖や天井の痕跡は確認されず、掘方だけのため詳細は不明である。

**規模** 全長0.36m、幅0.35mである。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** ほぼ平坦である。地山をそのまま使用している。

**掘方** 確認されなかった。

**埋没状態** 不明。

**遺物** 灰釉陶器1点、砥石1点を図示した。灰釉陶器壺(1)は住居中央やや東と西側の掘方から、砥石(2)は東辺中央床面直上からの出土である。未掲載遺物では、土師器3点、須恵器7点が出土した。

**時期** 灰釉陶器壺(1)や、砥石(2)から時期を判断することは難しいが、10世紀代と考えられる。

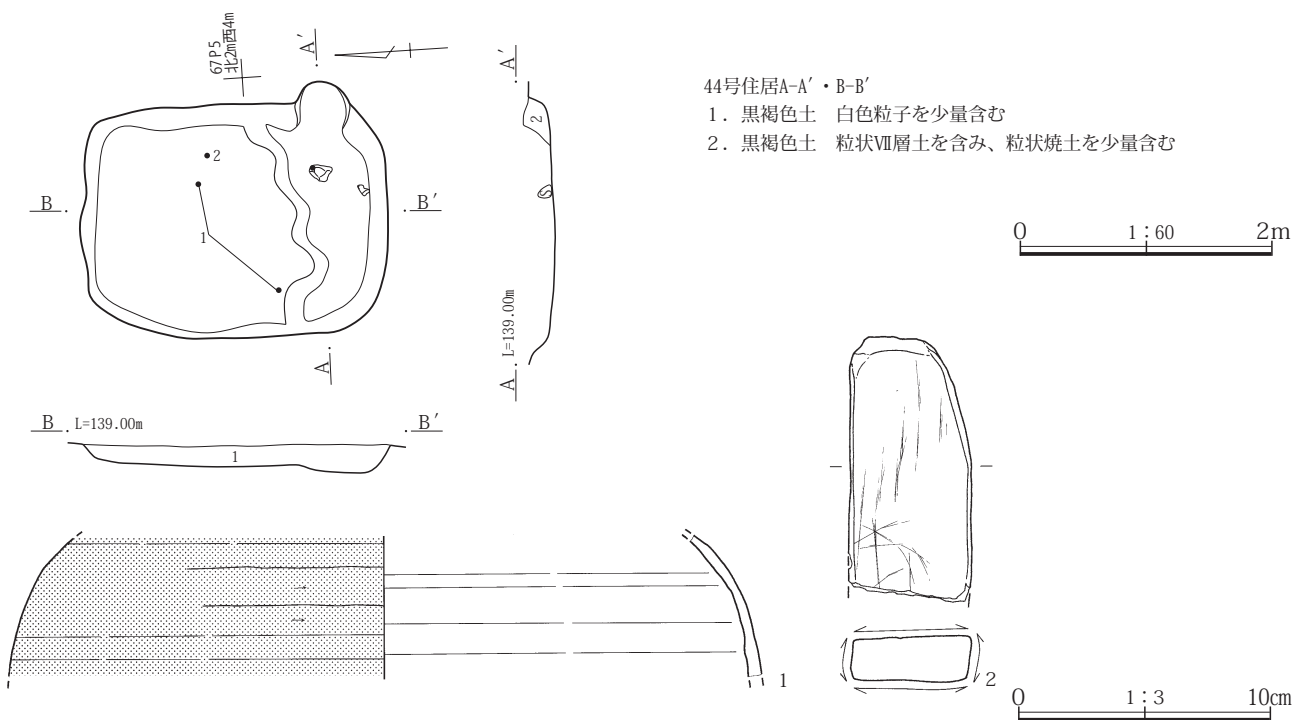
**45号住居(第146・147図、PL.32・81)**

**位置** 56-D-18・19

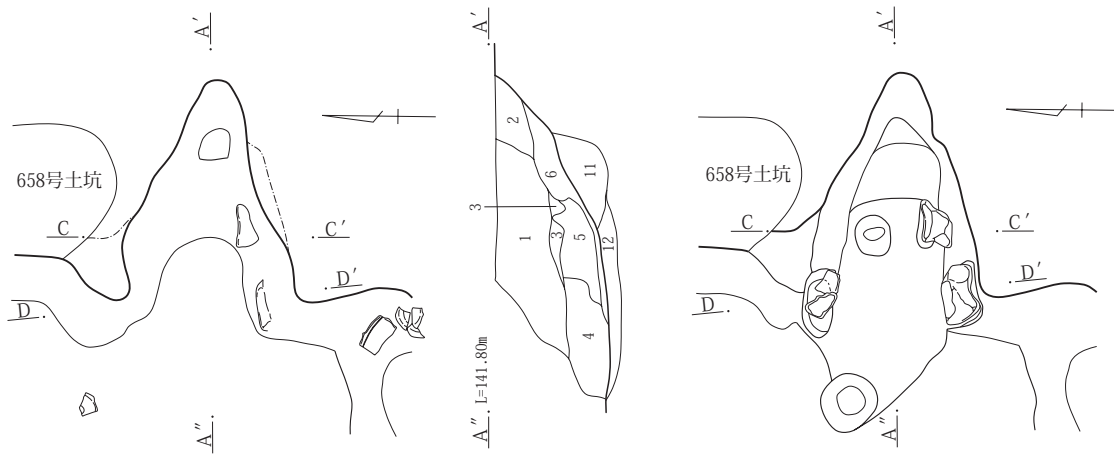
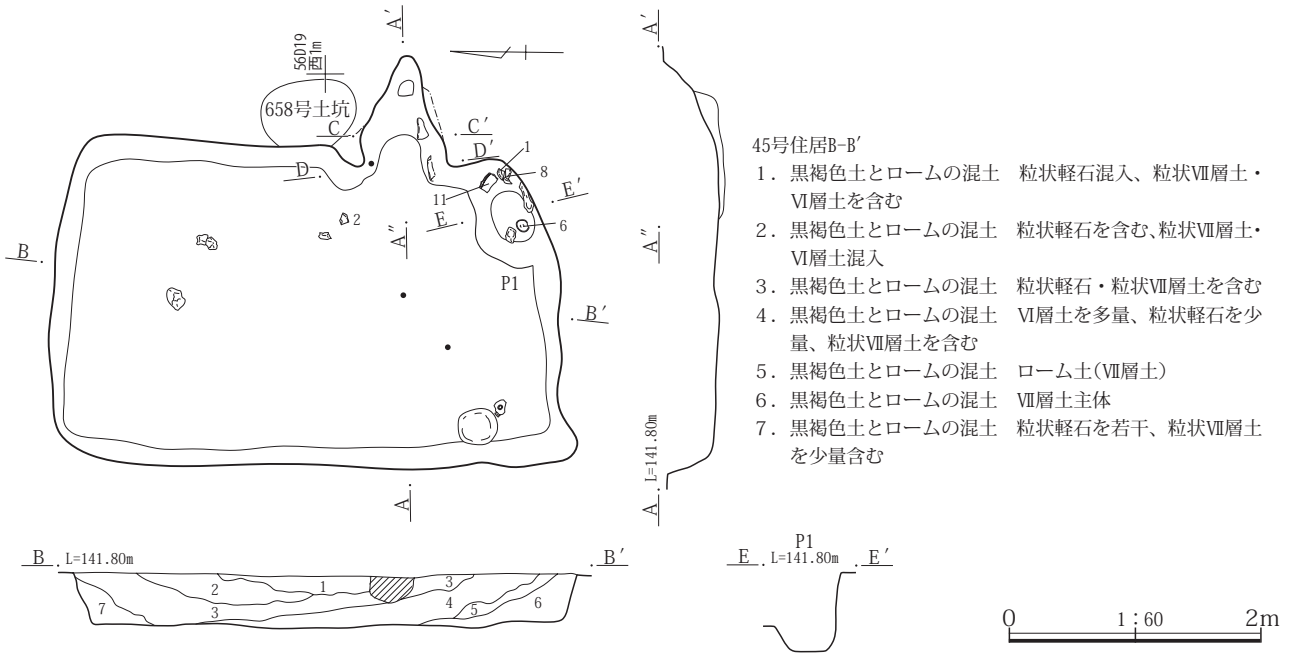
**重複** 658号土坑と重複する。新旧関係は本住居の方が新しい。

**形状** 東辺に比べて西辺がやや長いがほぼ長方形を呈す。

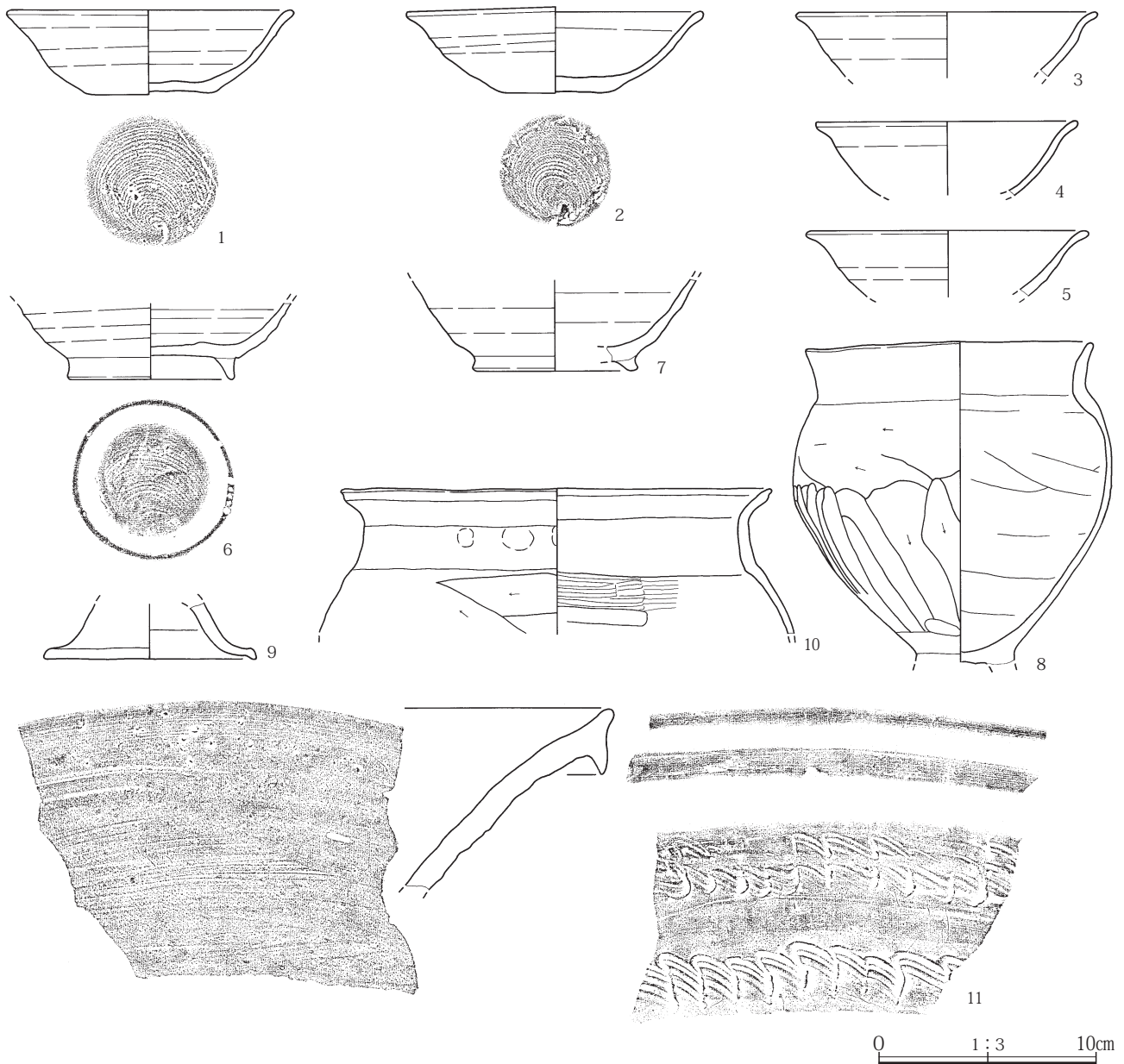
**規模** 長軸4.21m 短軸2.66m 残存深度0.42m



第145図 44号住居と出土遺物



第146図 45号住居



第147図 45号住居出土遺物

**主軸方位** N-90° **面積** 10.30㎡

**カマド** 東辺の南東角寄りに造られている。天井部は住居廃棄時に壊され燃焼部底面に崩落している。袖には補強に使用していた礫がそのまま残存している。規模は全長1.29m、幅0.50m、燃焼部幅0.40mを測る。燃焼部から煙道部は壁外に80cmほど延びる。

**貯蔵穴** 南東角で検出(P 1)、楕円形を呈し規模は径0.88×0.50m、深さ0.20mである。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** ほぼ平坦である。地山をそのまま使用している。

**掘方** 確認されなかった。

**埋没状態** 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部

の土砂の流れ込み等が観察できることから自然堆積と考えられる。

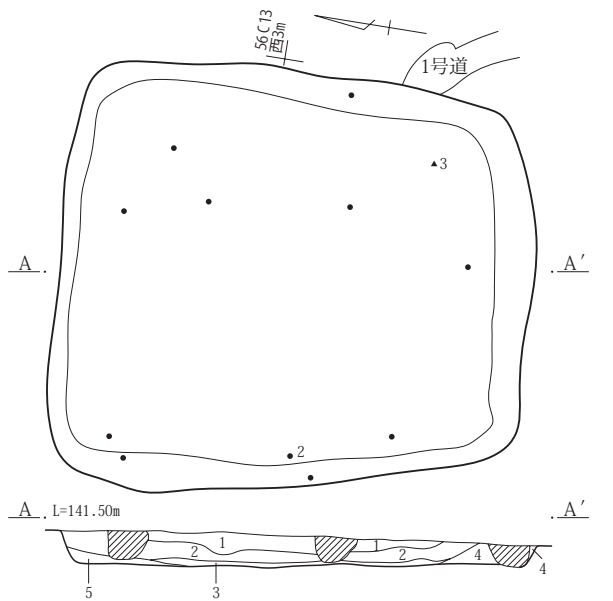
**遺物** 土師器3点、須恵器8点を図示した。須恵器環(1)・須恵器碗(6)・土師器小型台付甕(8)・須恵器甕(11)はP 1から、須恵器環(2)はカマド前床面10cm上からの出土である。未掲載遺物では、土師器41点、須恵器24点が出土した。

**時期** 共伴する須恵器環(1)や酸化焰焼成の土師器甕(10)などの出土遺物から、9世紀後半と考えられる。

**46号住居**(第148図、PL.32・81)

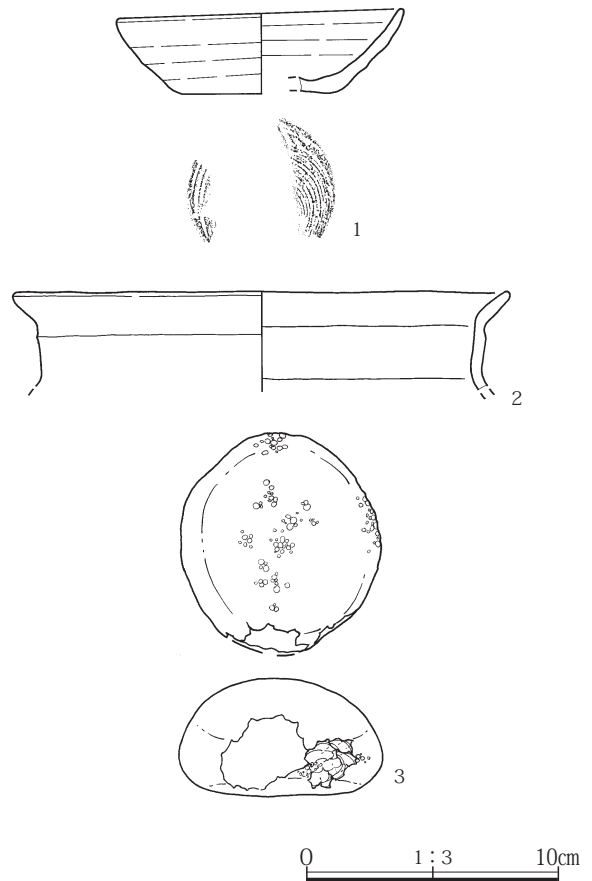
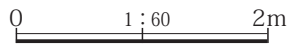
**位置** 56-C・D-12・13

**重複** 1号道と重複する。新旧関係は本住居の方が新しい。



46号住居A-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石を含む
2. 黒褐色土 粒状軽石混入
3. 黒褐色土 粒状軽石を若干含む
4. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む
5. 黒褐色土 粒状軽石を若干含む、Ⅶ層土混入



第148図 46号住居と出土遺物

**形状** 南辺が北辺に比べてやや短いほぼ長方形を呈す。

**規模** 長軸3.78m 短軸3.37m 残存深度0.25m

**主軸方位** N-9°-W **面積** 11.68㎡

**カマド** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** ほぼ平坦である。地山をそのまま使用している。

**掘方** 確認されなかった。

**埋没状態** 土層断面では周囲からの流れ込みと見られる様相が観察できることから自然堆積と考えられる。

**遺物** 土師器1点、須恵器1点、敲石1点を図示した。土師器甕(2)は西辺中央床面8cm上から、敲石(3)は南東角床面6cm上からの出土である。未掲載遺物では、土師器62点、須恵器39点が出土した。

**時期** 共伴する酸化焰焼成の須恵器坏(1)や土師器甕(2)などの出土遺物から、9世紀中頃～9世紀後半と考えられる。

**所見** 本住居には、カマド・貯蔵穴・柱穴・掘方がないことから、住居としての性格付けでなく竪穴状遺構としておきたい。

**47号住居**(第149図、PL.32)

**位置** 56-E・F-17・18

**重複** 634号・644号土坑と重複する。新旧関係は本住居の方が古い。

**形状** 長方形

**規模** 長軸2.96m 短軸2.08m 残存深度0.05m

**主軸方位** N-34°-E **面積** 5.78㎡

**カマド** 確認されなかった。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** ほぼ平坦である。地山をそのまま使用している。中央やや西寄りに土坑(P1)を検出、規模は径0.37×0.36m、深さ0.12mである。

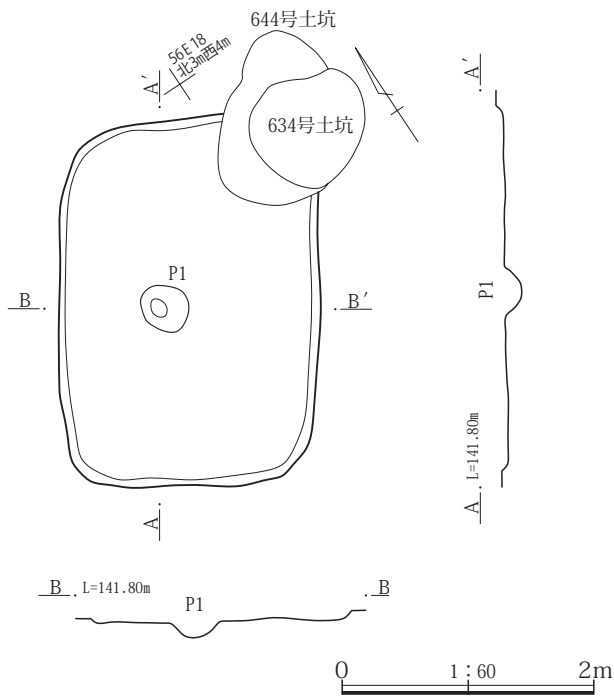
**掘方** 確認されなかった。

**埋没状態** 不明。

**遺物** なし。

**時期** 出土遺物がなく、時期は不明である。

**所見** 本住居には、カマド・貯蔵穴・柱穴・掘方がないことから竪穴状遺構の可能性はある。



第149図 47号住居

**50号住居**(第150～153・156～160図、PL.33・34・82・83)

**位置** 56-A・B-16～18

**重複** 51号・52号住居と重複する。新旧関係は、本住居が一番新しく、次が51号住居で、52号住居が一番古い。

**形状** 正方形

**規模** 長軸(6.30m) 短軸(4.50m) 残存深度(0.55m)

**主軸方位** N-80°-E **面積** (27.23㎡)

**カマド** 東辺の中央やや南寄りに造られている。規模は全長1.45m、幅0.69m、燃烧部0.65mを測る。焚口部分は住居内であり、燃烧部、煙道部は地山を掘り込んで造られ一部は残存しているが、天井部は住居廃棄時に壊されたのかほとんど痕跡も残存していない。カマド両袖に礫を置き補強している。煙道部には補強に使用された土師器甕(1・2)が出土している。燃烧部から煙道部は壁外に100cmほど延びる。

**貯蔵穴** 掘方には凹凸があるが、確認されなかった。

**柱穴** 床面と想定した範囲に明確な柱穴は、確認されなかった。

**周溝** 確認されなかった。

**床面** ほぼ平坦である。

**掘方** 床面まで10～70cmほど埋め戻されている。全体に凹凸が激しい掘方である。床下土坑状の落ち込みが多数見つかっているが、確実なものは見られない。

**埋没状態** 土層断面の観察では壁際への三角堆積や中央部の堆積などが確認できることから自然堆積と考えられる。

**遺物** 50号～52号住居の遺物、合わせて84点を図示した。内訳は、土師器44点、須恵器32点、黒色土器1点、灰釉陶器2点、土錐1点、砥石1点、鉄製品2点、釘1点である。そのうち、フク土から出土したのは48点で、土師器27点、須恵器16点、灰釉陶器2点、土錐1点、砥石1点、釘1点である。50号住居の遺物としては、50号住居カマド出土の土師器甕(1・2)があげられる。また、その他の掲載遺物については、50号～52号住居のどれに帰属するものなのか区別することができないため、まとめて連番にして掲載した。50号住居と推定した範囲で出土したのは、鉄製品(82)が東辺北側床面4cm上から、須恵器碗(58)が東辺中央掘方から、須恵器皿(37)が東辺中央掘方から、須恵器坏(50)がカマド近く掘方から出土している。3つの住居の床面がほぼ変わらないため、50号以外の住居遺物である可能性も否めない。フク土から出土した土師器坏、25・32には墨書「足」が、31には墨書「□」(2文字か)が認められた。33には傷状線描、34には螺旋状にヘラ書きを重ねていた。未掲載遺物は50号～52号住居を合わせて、土師器2,214点、須恵器468点、灰釉陶器5点である。

**時期** 50号住居の時期は、カマドに利用された土師器甕(1)から10世紀前半と考えられる。

**所見** 50号・51号・52号住居の範囲はセクション、床面、掘方の状況から推定したものである。

**51号住居**(第150～152・154・156～160図、PL.33・34・82・83)

**位置** 56-A・B-16～18

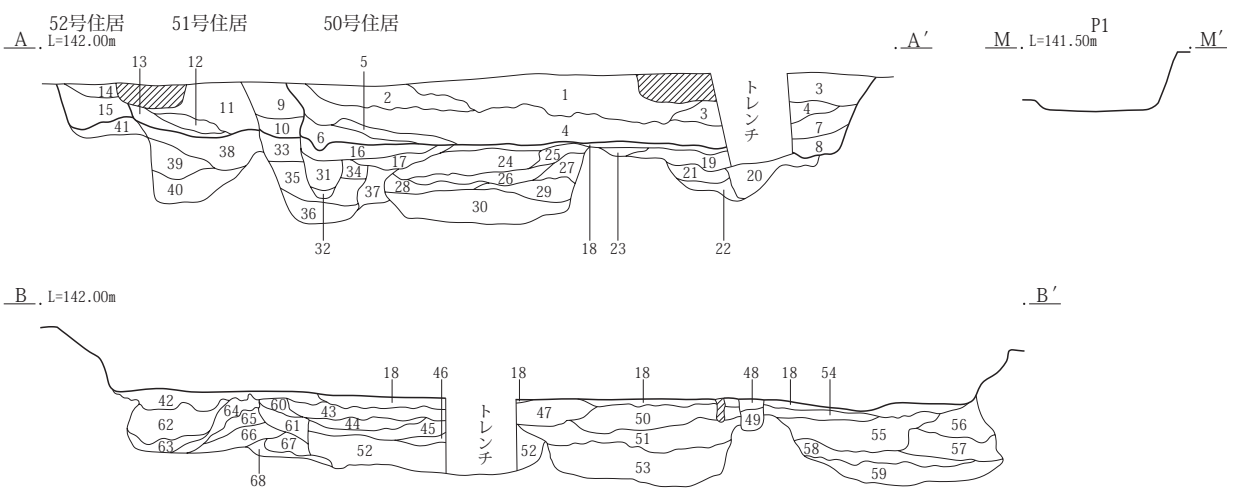
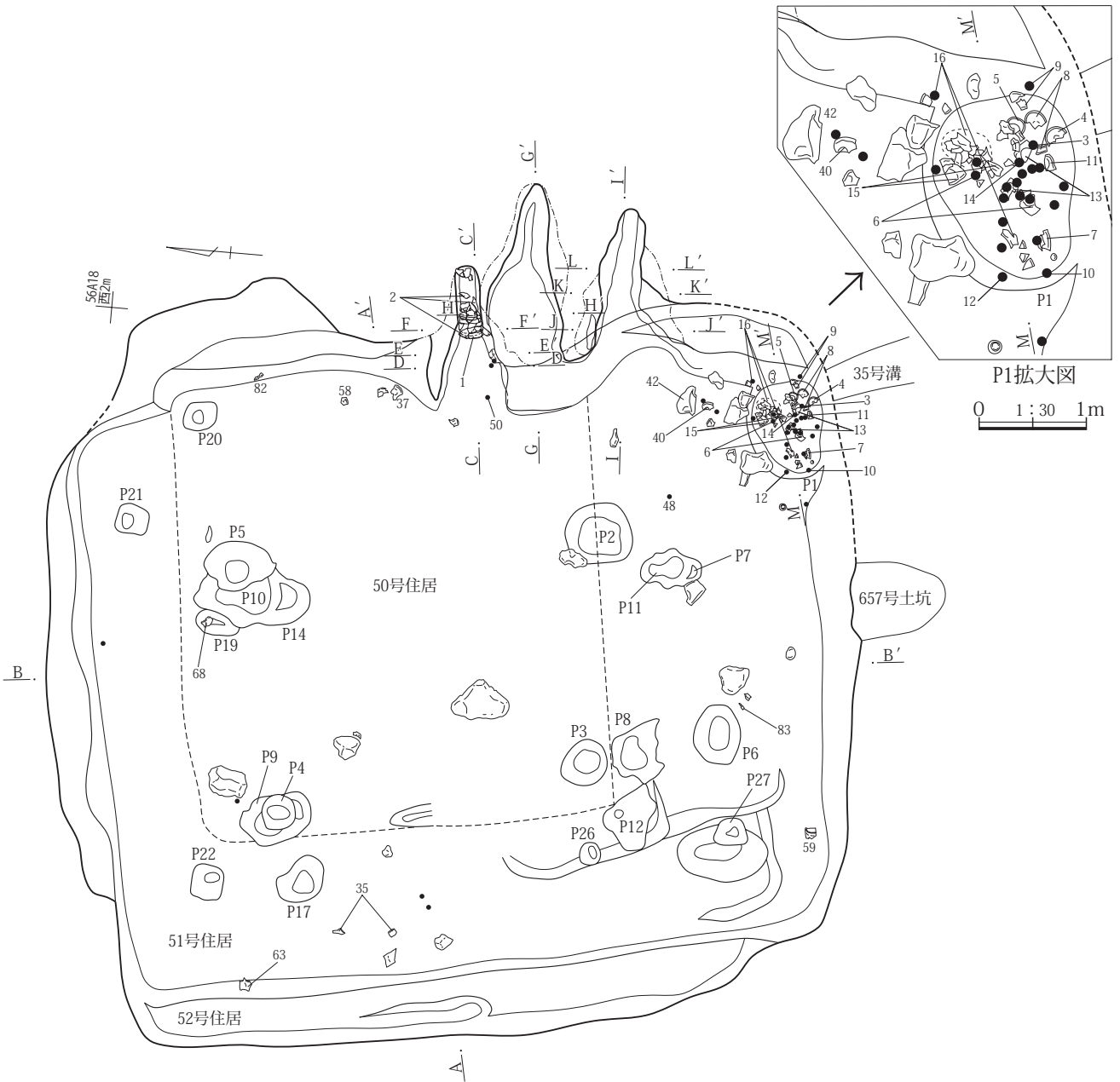
**重複** 50号・52号住居、35号溝、657号土坑と重複する。新旧関係は、本住居の方が52号住居より新しく、50号住居より古い。

**形状** 長方形

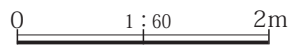
**規模** 長軸(7.30m) 短軸(6.10m) 残存深度(0.45m)

**主軸方位** N-85°-E **面積** (41.30㎡)

**カマド** 50号住居のカマド南側に造られている。全長1.65m、幅0.63m、燃烧部0.70mを測る。焚口部分は住居内であり、燃烧部、煙道部は地山を掘り込んで造られ一部は残存しているが、天井部は住居廃棄時に壊された



第150図 50号~52号住居

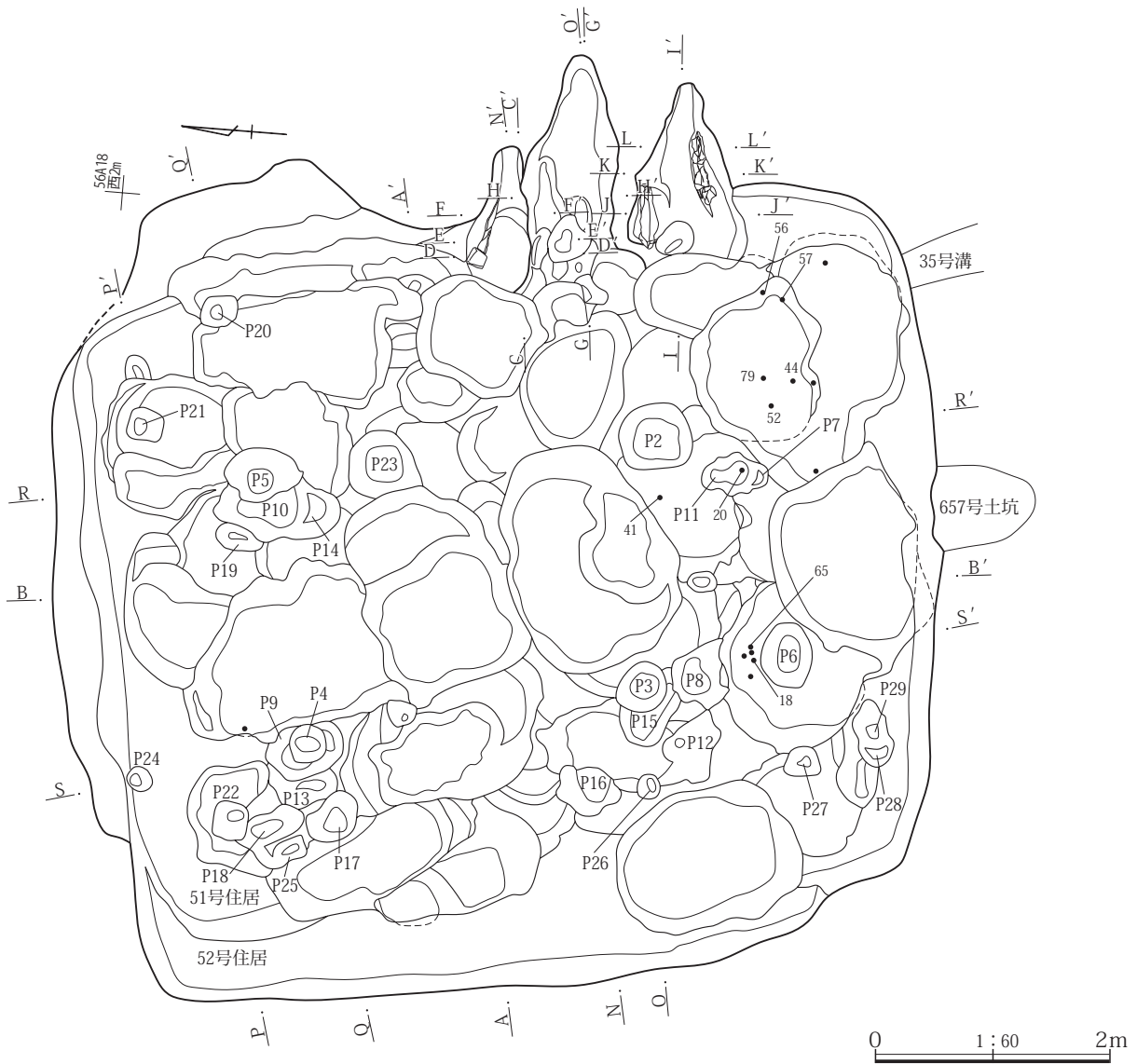


### 第3章 調査の内容

50号～52号住居A-A'・B-B'

1. 黒褐色土 粒状軽石を含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を若干含む
3. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む
4. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む、粉状Ⅶ層土の混入
5. 黒褐色土 粒状軽石を若干、塊状Ⅲ層土を少量含む
6. 塊状Ⅵ層土主体 粒状軽石を若干含む
7. 黒褐色土 粒状軽石を若干、粉状Ⅶ層土・塊状Ⅶ層土を少量含む
8. 黒褐色土 粒状軽石を若干、粒状焼土・粗粒状焼土を含む
9. 黒褐色土 粒状軽石を含み、塊状Ⅶ層土を多量、粒状Ⅶ層土・粗粒状Ⅶ層土の混入、粒状焼土・粗粒状焼土少量の混土
10. 黒褐色土 粒状軽石を含む
11. 黒褐色土 粒状軽石を多量、粗粒状軽石を含む
12. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む
13. 黒褐色土 細粒状軽石を少量、塊状Ⅶ層土・粒状焼土の混土
14. 塊状Ⅶ層土
15. 黒褐色土 粒状軽石を極微量含む
16. 黒褐色土 粗粒状軽石・細粒状軽石を含む、小塊状Ⅶ層土混入・粒状Ⅶ層土の混土
17. 黒褐色土 粒状軽石・小塊状Ⅶ層土の混入、粒状Ⅶ層土を含む
18. 塊状黒褐色土 粗粒状焼土・小塊状Ⅶ層土・粒状Ⅶ層土の混土層が薄く貼床状
19. 粉状Ⅶ層土主体 塊状Ⅶ層土・塊状黒褐色土を少量含む
20. 黒褐色土 粒状軽石を少量、小塊状Ⅶ層土・粗粒状Ⅶ層土を含み、粗粒状焼土・粒状焼土の混土
21. 黒褐色土 粒状軽石を少量、粗粒状Ⅶ層土・灰の混土、粗粒状焼土を含む
22. 粉状Ⅶ層土を多量、塊状Ⅶ層土・粗粒状焼土を少量含む、粒状焼土混入の混土
23. 粉状Ⅶ層土を多量、粗粒状Ⅶ層土を含み、粗粒状焼土を少量含む粒状焼土の混土
24. 塊状黒褐色土 粒状軽石を若干、塊状Ⅶ層土・小塊状焼土を含み、粒状焼土混入の混土
25. 塊状Ⅶ層土 粗粒状焼土混入、塊状黒褐色土少量含む
26. 塊状黒褐色土を若干、粉状Ⅶ層土を極多量に、粗粒状Ⅶ層土を少量、粒状焼土含有の混土
27. 塊状Ⅶ層土主体 粗粒状焼土混入
28. 24層と近質
29. 塊状黒褐色土 粒状軽石を含み、粉状Ⅶ層土混入、塊状Ⅶ層土少量、粒状焼土を多量に含む
30. 塊状黒褐色土 塊状Ⅶ層土・小塊状Ⅶ層土混入、粒状Ⅶ層土を多量、粗粒状焼土を含み、粒状焼土多量の混土
31. 黒褐色土 粒状軽石を含み、粒状Ⅶ層土を少量含む
32. 黒褐色土 粒状軽石を若干含む
33. 黒褐色土 塊状Ⅶ層土・粒状焼土を少量、粒状軽石・粉状Ⅶ層土を含む
34. 塊状Ⅶ層土・粉状Ⅶ層土主体 塊状黒褐色土若干の混土
35. 黒褐色土 粒状軽石・粒状Ⅶ層土を含み、粒状焼土を少量含む
36. 塊状Ⅶ層土主体 塊状焼土混入、塊状黒褐色土を少量の混土
37. 塊状Ⅶ層土主体 小塊状焼土を含み、粒状軽石微量含む
38. 粉状Ⅶ層土を極多量、灰を多量に含む、粗粒状焼土混入で粒状焼土多量の混土
39. 粉状Ⅶ層土を多量、粗粒状Ⅶ層土若干、粗粒状焼土を含む、粒状焼土混入の混土
40. 黒褐色土 粒状軽石を極微量、小塊状Ⅶ層土・塊状Ⅶ層土を少量、粒状焼土を含む
41. 黒褐色土と塊状Ⅶ層土の混土
42. 黒褐色土 粒状軽石を少量、塊状Ⅶ層土混入、粒状Ⅶ層土を含む
43. 黒褐色土 粒状軽石を微量、塊状Ⅶ層土を少量含む、粗粒状Ⅶ層土・粒状Ⅶ層土混入
44. 粉状Ⅶ層土主体 小塊状Ⅶ層土含み、粒状Ⅶ層土・粗粒状焼土混入、粒状焼土を含む混土
45. 黒褐色土 粒状軽石を極微量、粗粒状Ⅶ層土・粗粒状焼土を少量含む、46層との層に灰・炭化物の極薄い層がある
46. 塊状Ⅶ層土主体 塊状焼土少量の混土
47. 粉状Ⅶ層土主体 粗粒状Ⅶ層土を多量に、粗粒状焼土を含む、粒状焼土混入の混土
48. 黒褐色土 粒状軽石を微量、粒状Ⅶ層土混入、塊状Ⅶ層土を微量に含む
49. 粉状Ⅶ層土主体 塊状黒褐色土を少量、粒状Ⅶ層土を多量に含む、粗粒状焼土を含む混土
50. 塊状Ⅶ層土・粉状Ⅶ層土主体 塊状焼土を含み、粒状焼土多量の混土
51. 粉状Ⅶ層土・小塊状Ⅶ層土主体 粗粒状焼土・粒状焼土混入の混土
52. 30層と近質
53. 粉状Ⅶ層土を多量、塊状黒褐色土を若干含む、塊状Ⅶ層土混入、小塊状Ⅶ層土・粗粒状Ⅶ層土を多量に、粗粒状焼土・粒状焼土混入の混土
54. 粉状Ⅶ層土・塊状Ⅶ層土主体 粒状焼土を少量含む
55. 黒褐色土 粗粒状軽石を微量、粒状軽石を少量、塊状Ⅶ層土を含む粗粒状Ⅶ層土混入
56. 塊状Ⅳ層土 塊状Ⅵ層土・粒状軽石・小塊状Ⅶ層土少量の混土
57. 黒褐色土 粒状軽石を極微量、粉状Ⅶ層土混入、粗粒状焼土を含む
58. 黒褐色土 塊状Ⅶ層土・粗粒状Ⅶ層土混入、粗粒状焼土含む粒状焼土混入の混土
59. 黒褐色土 粉状Ⅶ層土混入、粗粒状Ⅶ層土を多量、粒状焼土混入の混土
60. 粉状Ⅶ層土主体 粗粒状焼土・粗粒状Ⅶ層土混入、小塊状黒褐色土若干の混土
61. 粉状Ⅶ層土主体 塊状黒褐色土を少量、小塊状Ⅶ層土を含み、粒状焼土少量の混土
62. 粉状Ⅶ層土主体 小塊状Ⅶ層土を多量、小塊状焼土を少量、粒状焼土混入の混土
63. 粉状Ⅶ層土主体 小塊状焼土を多量、粒状焼土・小塊状Ⅶ層土混入の混土
64. 62層と近質
65. 63層と同質
66. 小塊状Ⅶ層土・小塊状焼土の混土
67. 粉状Ⅶ層土主体 塊状Ⅶ層土を少量、小塊状Ⅶ層土を混入、粒状Ⅶ層土多量に小塊状焼土を含む混土
68. 塊状Ⅶ層土主体(地山)





第151図 50号～52号住居掘方

のかほとんど痕跡も残存していない。燃烧部から煙道部は壁外に170cmほど延びる。

**貯蔵穴** 南東角より検出(P 1)。規模は径1.10×0.84m、深さ0.47m測る。土師器环(3～12)、須恵器环(13)、黒色土器环(14)、須恵器碗(15)、土師器甕(16)など多くの遺物が出土した。

**柱穴** 主柱穴は、深さや位置関係から P 2・P 3・P 4・P 5 と考えられる。各柱穴の規模(直径×深さ)は、P 2 : 61×65cm・P 3 : 46×75cm・P 4 : 32×74cm・P 5 : 66×68cmである。なお、P 2～P 5 の周辺にも建て替えた柱の痕跡が複数見られるが、その新旧関係は不明である。

**周溝** 確認されなかった。

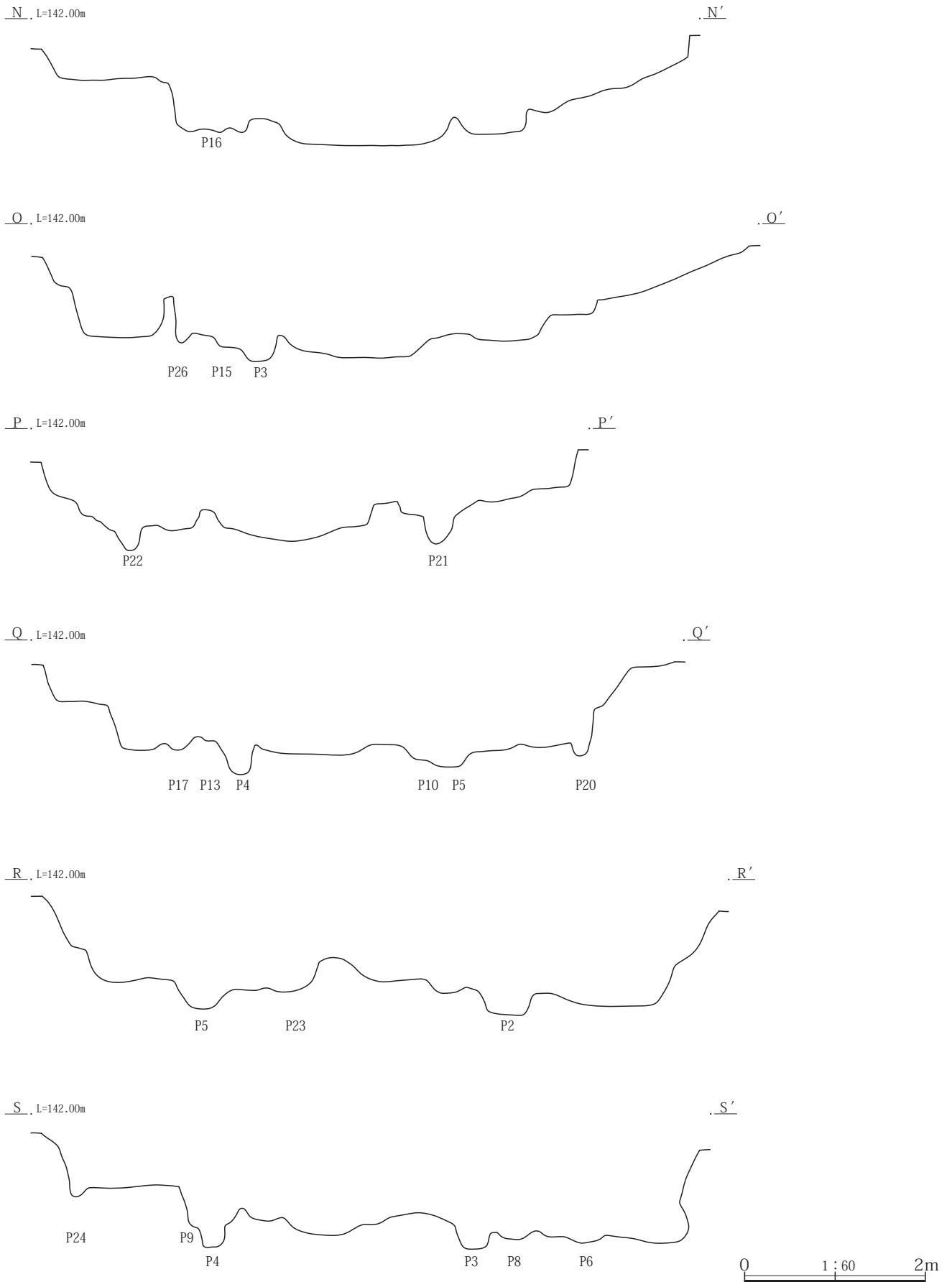
**床面** ほぼ平坦である。

**掘方** 床面まで10～70cmほど埋め戻されている。全体に凹凸が激しい掘方である。床下土坑状の落ち込みが多数見つかっているが、確実なものは見られない。

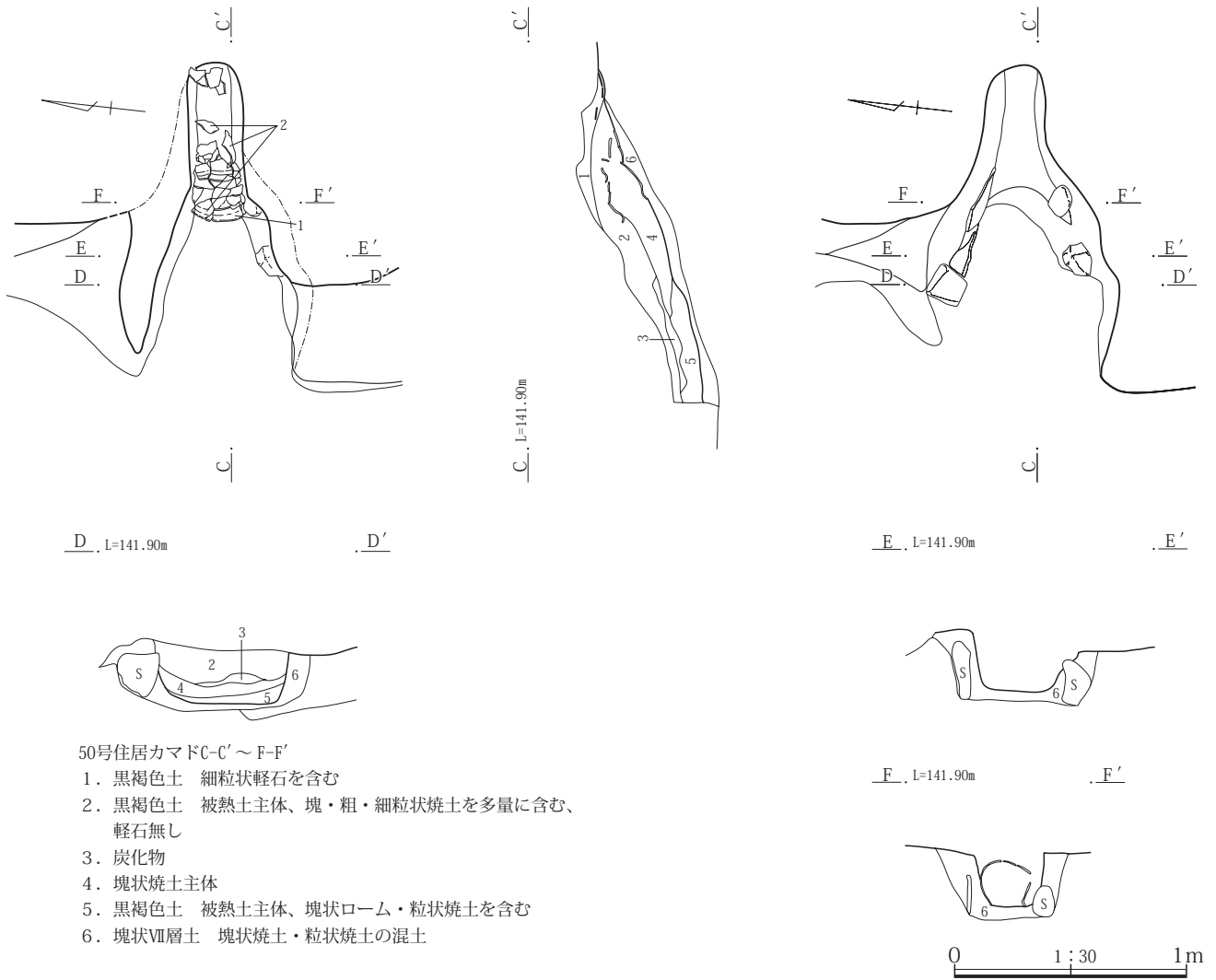
**埋没状態** 土層断面の観察では周囲からの流れ込みによる埋没が確認できることから、自然埋没であると考えられる。

**遺物** 51号住居の遺物として、貯蔵穴(P 1)出土の3～16があげられる。そのほかに51号住居と推定した範囲で出土したのは、土師器环(18)が南西側掘方から、土師器环(20)が床下P 11から、土師器鉢(35)が西辺やや北床面直上から、須恵器环(40)が南東角床面直上から、須恵器环(41)が中央やや南掘方から、須恵器环(42)が南東角掘方から、須恵器环(44)が南東側掘方から、須恵器环(48)

第3章 調査の内容



第152図 50号～52号住居エレベーション図



第153図 50号住居カマド

が南東側床面2cm上から、須恵器碗(52)が南東側掘方から、須恵器碗(56)が南東角掘方から、須恵器碗(57)が南東角掘方から、須恵器壺(59)が南西角床面25cm上から、須恵器壺(63)が西辺北床面21cm上から、土師器甕(65)が南西側掘方から、須恵器甕(79)が南東側掘方から、鉄製品(83)が南辺やや西床面20cm上から出土している。これらの遺物は、50号住居の範囲からはずれるものの、出土位置が52号住居と重複するので、52号住居の遺物である可能性もある。なお、貯蔵穴(P1)から出土した土師器坏(4)の体部外面には「石□」と考えられる墨書が認められた。

**時期** 51号住居は、50号住居より古く、貯蔵穴(P1)出土の酸化焰焼成の須恵器坏(13)や土師器甕(16)などから9世紀後半と考えられる。

**所見** 52号住居の南西角の形状から、51号住居の方が南

側へ広がりを見せるため、貯蔵穴(P1)を51号住居のものとした。

**52号住居**(第150～152・155・157～160図、PL.33・34・83)

**位置** 56-A・B-16～18

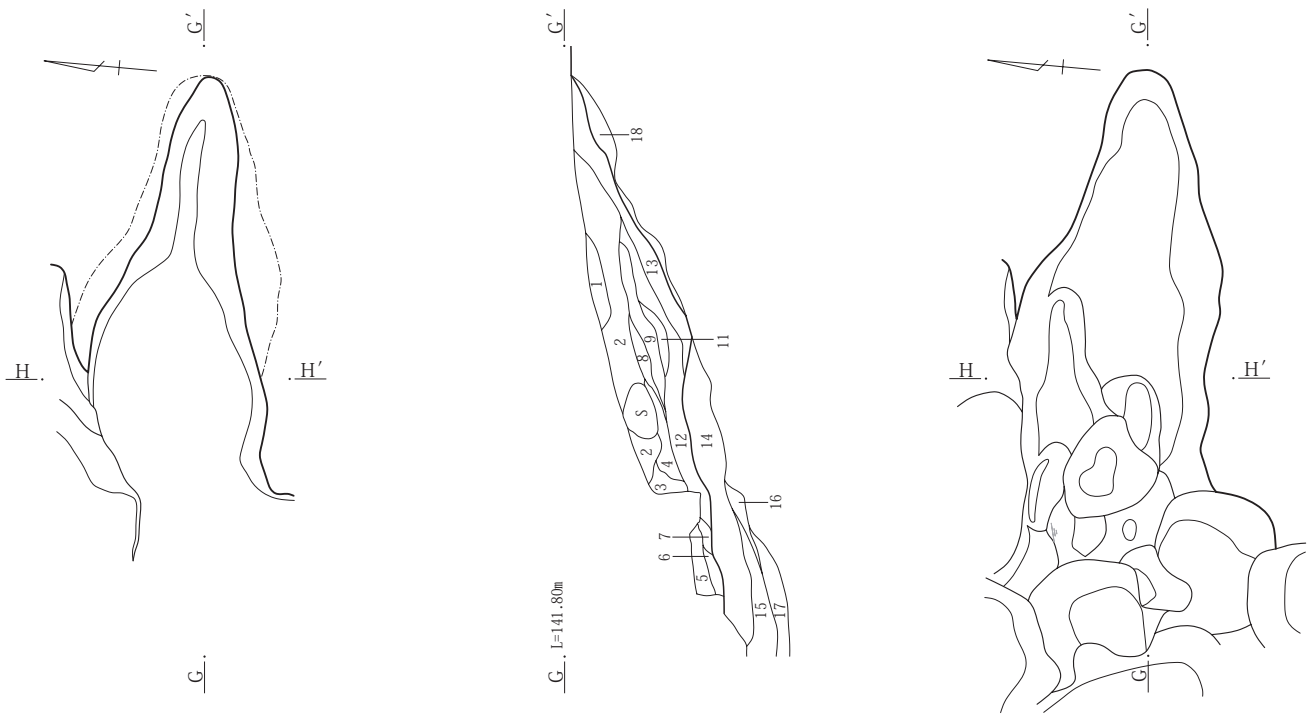
**重複** 50号・51号住居と重複する。新旧関係は、本住居が一番古く、51号住居・50号住居の順で造られている。

**形状** 正方形

**規模** 長軸(7.50m) 短軸(7.10m) 残存深度(0.35m)

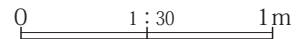
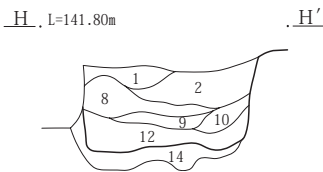
**主軸方位** N-90° **面積** (47.02㎡)

**カマド** 52号住居のカマド南側に造られている。全長1.35m、幅0.91m、燃烧部0.60mを測る。焚口部分は住居内であり、燃烧部、煙道部は地山を掘り込んで造られ一部は残存しているが、天井部は住居廃棄時に壊されたのかほとんど痕跡も残存していない。カマド両袖に礫



51号住居カマドG-G'・H-H'

1. 塊状Ⅶ層土(ローム)
2. 黒褐色土 粒状軽石を含み、粒状焼土を少量含む
3. 1層と同質
4. Ⅶ層土と粗粒状焼土との混土
5. 黒褐色土と灰白色シルト、粗粒状焼土との混土
6. 黒褐色土 粒状軽石・粗粒状焼土を含む
7. 黒褐色土 粒状軽石を微量と灰白色シルトとの混土
8. 黒褐色土・Ⅶ層土・粗粒状焼土・粗粒状Ⅶ層土との混土
9. 12層に近質
10. Ⅶ層土・粗粒状Ⅶ層土・黒褐色土との混土、炭化物を含む
11. 焼土塊
12. 塊状焼土主体 塊状Ⅶ層土を含む(天井の崩落か)
13. 焼土(底面の被熱化)
14. 灰白色シルト・粗粒状焼土・ロームとの混土
15. 黒褐色土 粒状軽石を若干、塊状Ⅶ層土を含む、粒状Ⅶ層土混入
16. 14層と同質
17. 15層と同質
18. Ⅶ層土(貼床)



第154図 51号住居カマド

を置き補強している。燃焼部から煙道部は壁外に130cmほど延びる。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 51号住居の柱穴と共通する可能性があるが、明確には判断できなかった。

**周溝** 確認されなかった。

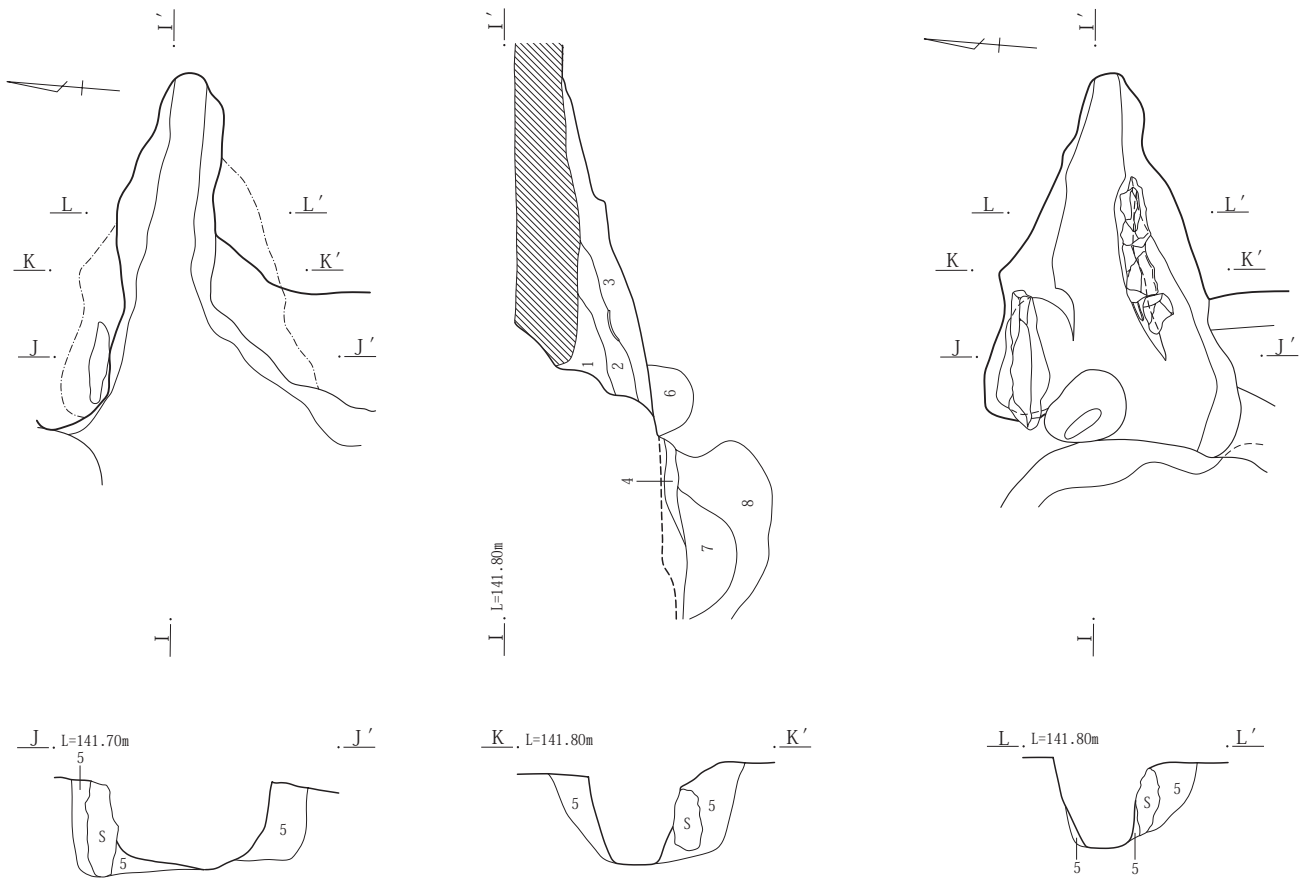
**床面** ほぼ平坦である。

**掘方** 床面まで10～70cmほど埋め戻されている。全体に凹凸が激しい掘方である。床下土坑状の落ち込みが多数見つかっているが、確実なものは見られない。

**埋没状態** 土層断面の観察では周囲からの流れ込みによる埋没が確認できることから、自然埋没であると考えられる。

**遺物** 確実に52号住居の遺物と断言できるものはなかった。52号住居の遺物は、後に造られた51号住居、50号住居の中に混在していると考えられる。

**時期** 遺構の切り合い関係により、9世紀後半の51号住居より古いと考えられる。

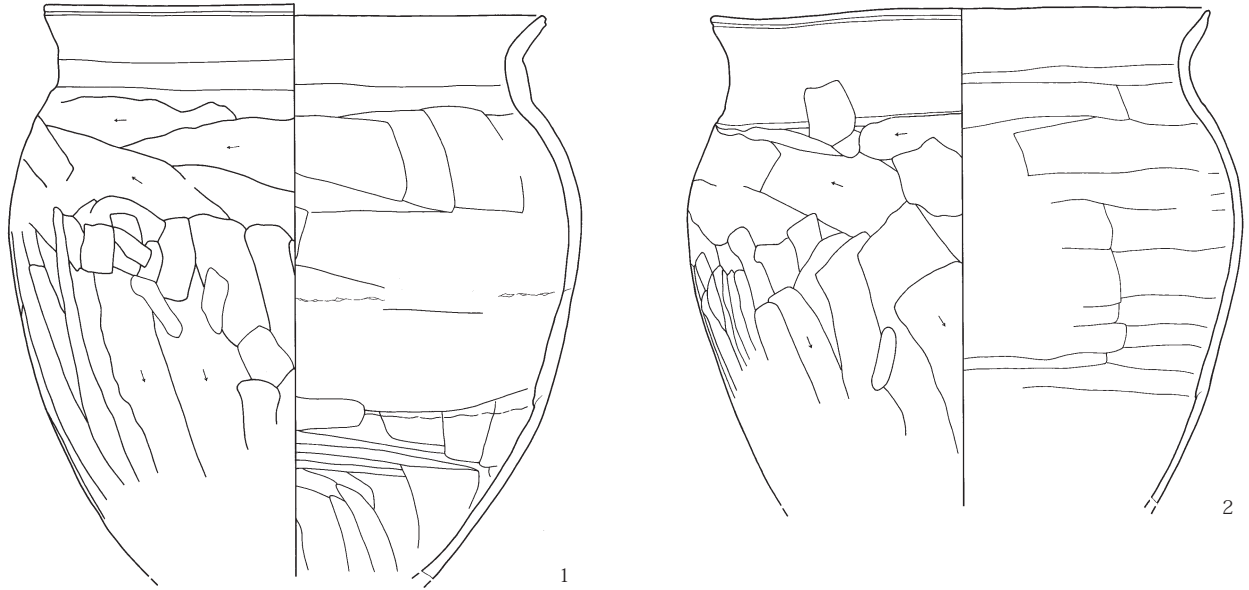


52号住居カマドI-I' ~ L-L'

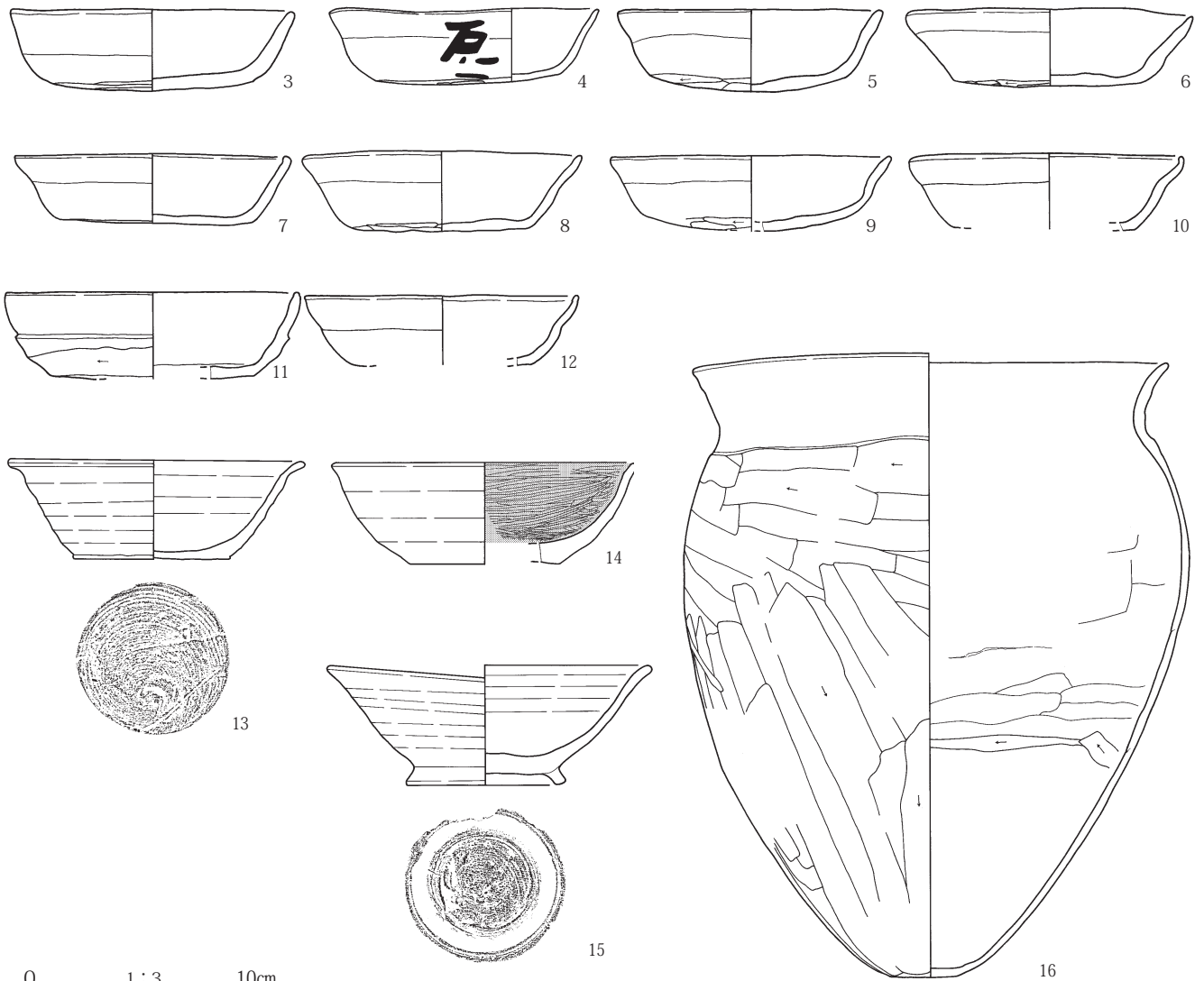
1. 塊状Ⅶ層土
2. 塊状Ⅶ層土と焼土との混土
3. 黒褐色土 粗粒状焼土混入
4. 塊状Ⅶ層土・粉状Ⅶ層土・粒状Ⅶ層土の混土
5. 塊状Ⅶ層土・粉状Ⅶ層土・粗粒状Ⅶ層土の混土
6. 塊状焼土主体・塊状Ⅶ層土混入
7. 粒状Ⅶ層土・粉状Ⅶ層土・粒状Ⅶ層土の混土
8. 黒褐色主体 塊状Ⅶ層土を含む、粗粒状Ⅶ層土混入

第155図 52号住居カマド

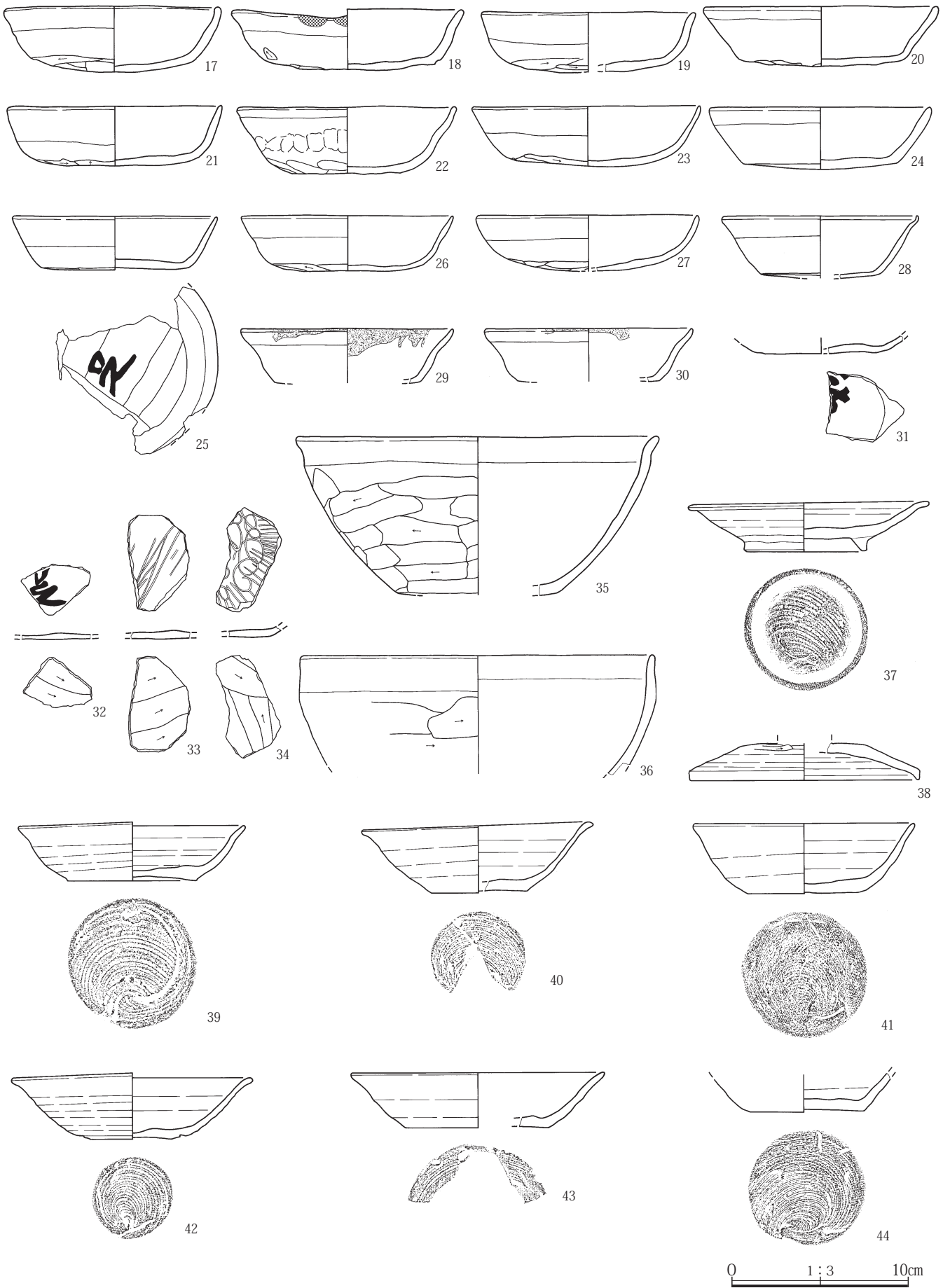
50号住居



51号住居

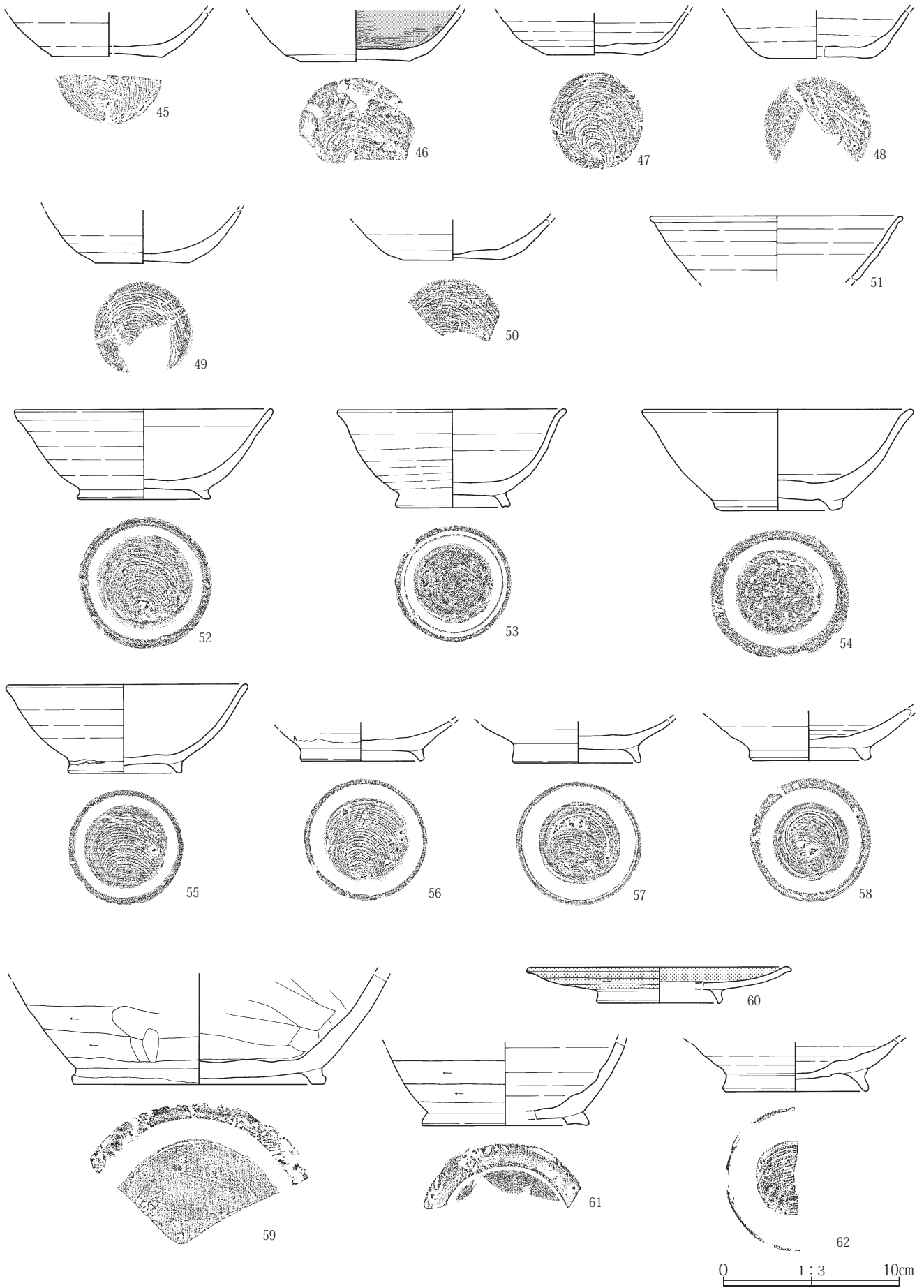


第156図 50号・51号住居出土遺物



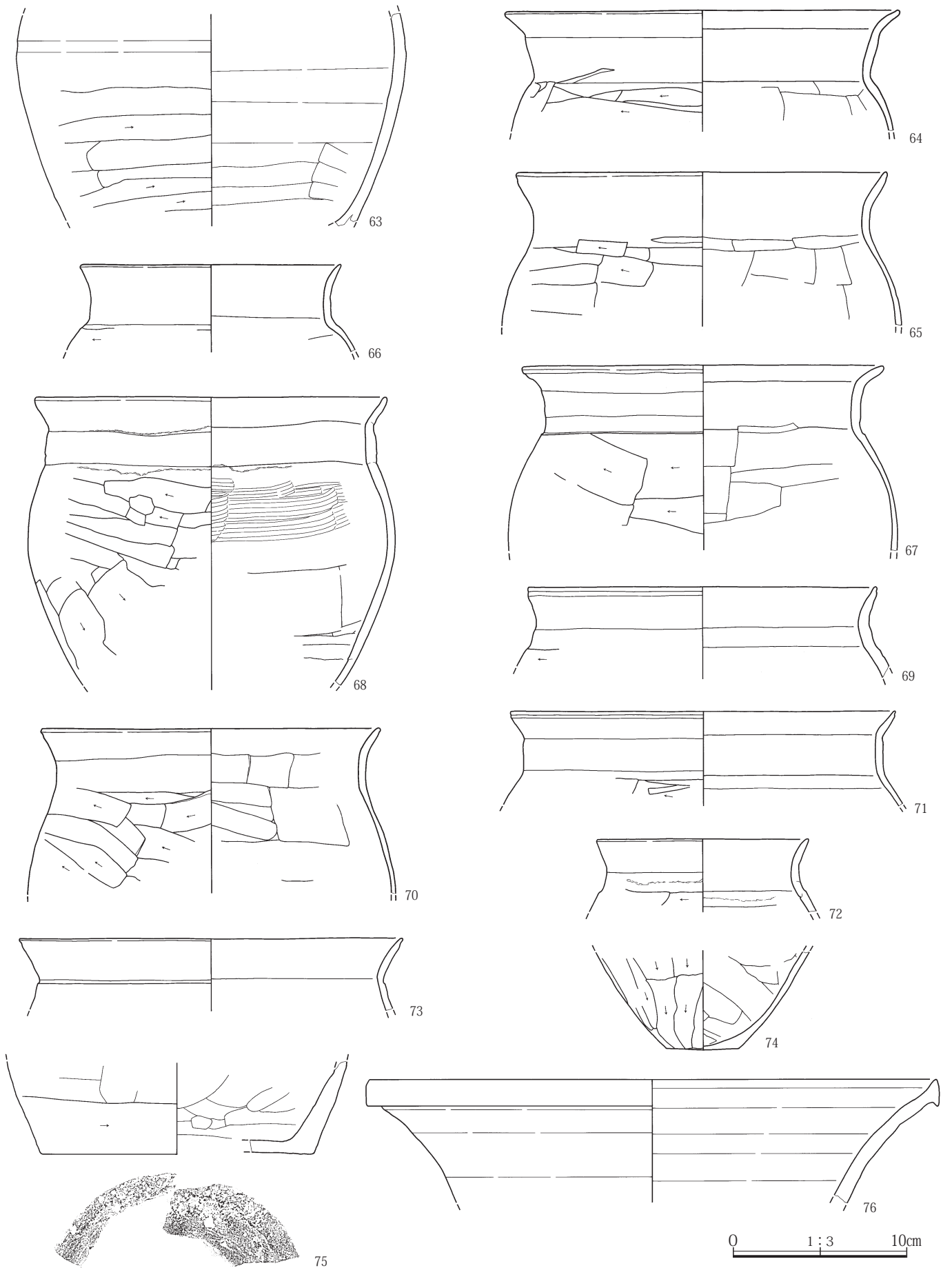
第157図 50号~52号住居出土遺物(1)

第3章 調査の内容

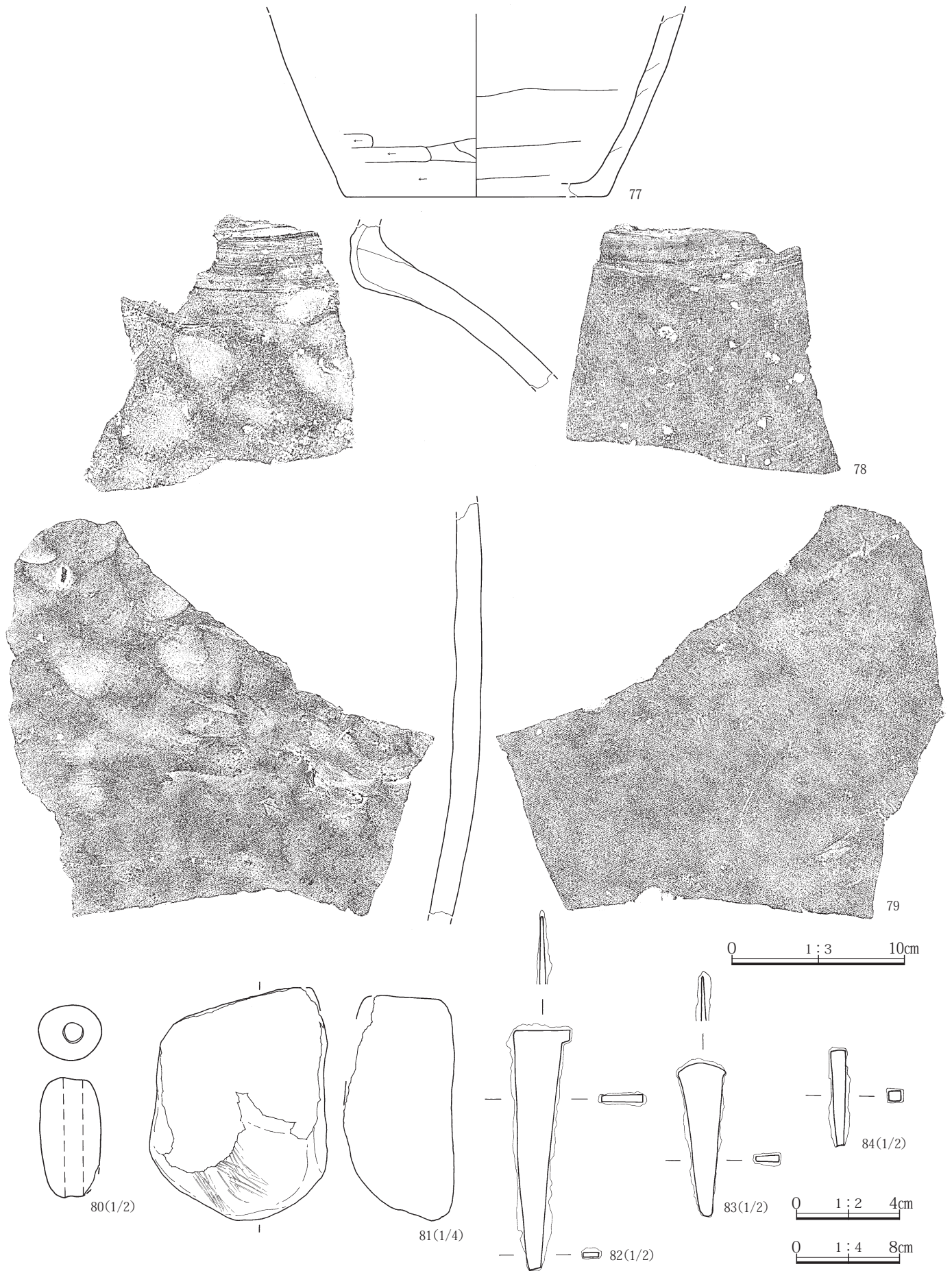


第158図 50号~52号住居出土遺物(2)





第159図 50号~52号住居出土遺物(3)



第160図 50号~52号住居出土遺物(4)

### 3. 竪穴状遺構

「竪穴状遺構」として分類したものは、竪穴住居とするには、炉・カマド・柱穴といった施設がなく人の居住の痕跡が乏しい。また、土坑とするには、規模が大きいためである。1号・3号～19号竪穴状遺構18基を検出した。なお、2号竪穴状遺構は、1号竪穴状遺構の一部であったので、欠番とした。

#### 1号竪穴状遺構(第161図、PL.35)

位置 56-B-16

重複 なし。

形状 長方形

規模 長軸5.03m 短軸1.76m 残存深度0.99m

主軸方位 N-0° 面積 7.512㎡

埋没土 粒状軽石・細粒状軽石・粒状焼土を含む黒褐色

土の間に炭化物層を挟む。その下は粒状軽石・細粒状軽石・ロームブロック・粗粒状ローム・粒状焼土・炭化物を含む黒褐色土。

遺物 土師器2点、須恵器1点を図示した。フク土から土師器坏(1・2)、須恵器皿(3)が出土した。未掲載遺物は、土師器80点、須恵器16点である。

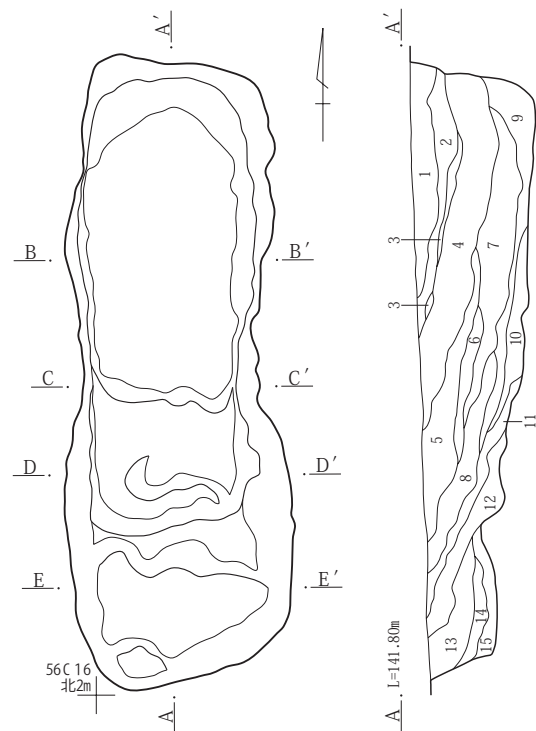
時期 共伴する土師器坏(1)や須恵器皿(3)などの出土遺物から、9世紀中頃～後半と考えられる。

#### 3号竪穴状遺構(第162・163図、PL.35・84)

位置 56-A-15

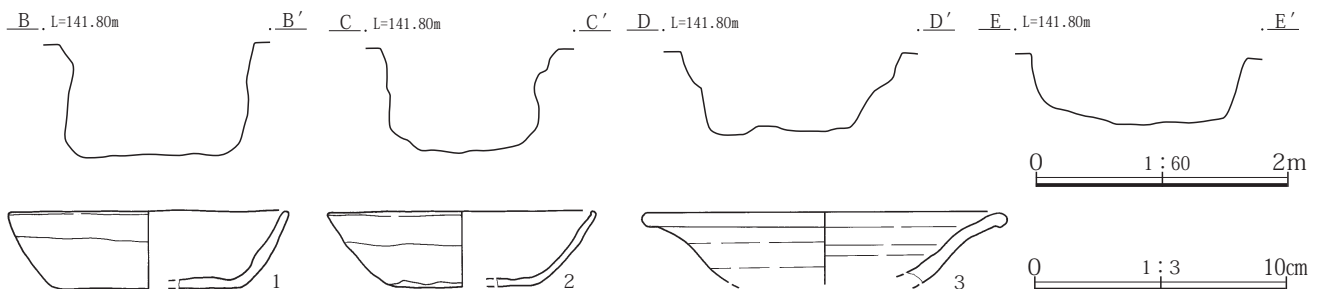
重複 22号住居、4号竪穴状遺構、4号溝、152号土坑、35号ピットと重複する。新旧関係は、22号住居、4号竪穴状遺構より新しい。4号溝、152号土坑、35号ピットとの新旧関係は不明である。

形状 不整形



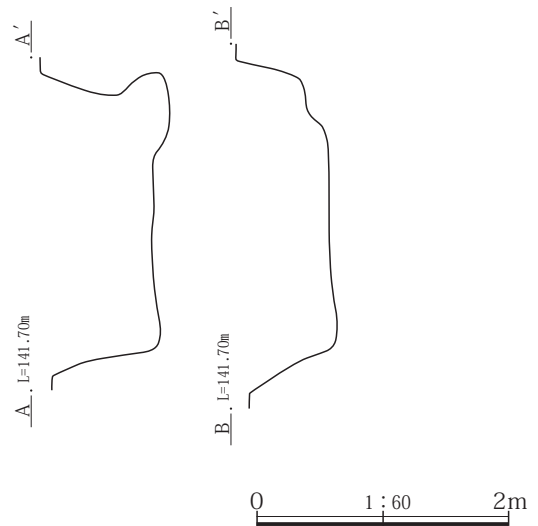
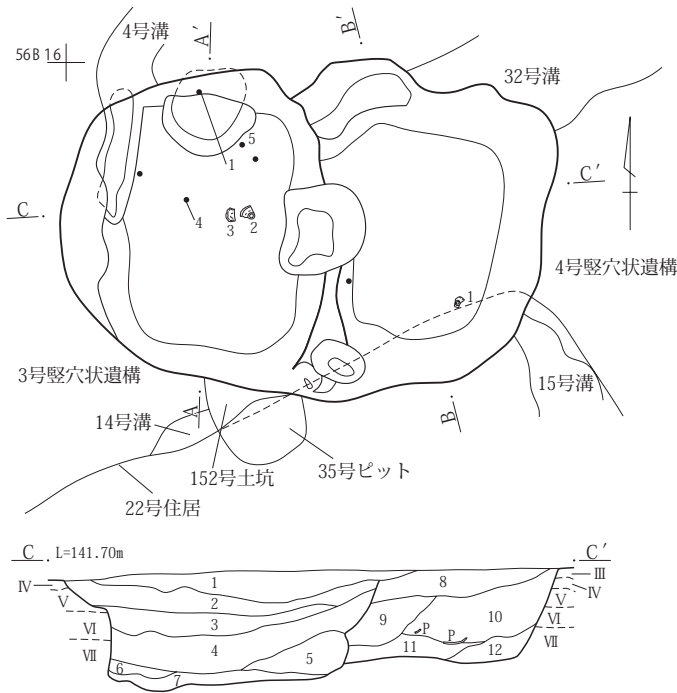
#### 1号竪穴状遺構A-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石と細粒状軽石を若干、粒状焼土を含む
2. 黒褐色土 粒状軽石と細粒状軽石混入、粒状焼土を少量含む
3. 炭化物層
4. 黒褐色土 粒状軽石と細粒状軽石を含み、粒状焼土を少量含む
5. 黒褐色土 細粒状軽石・塊状VII層土・炭化物を少量、粒状焼土を含む
6. 黒褐色土 細粒状軽石を若干含む、塊状VII層土混入
7. 黒褐色土 粒状軽石と細粒状軽石を含み、粗粒状VII層土を少量含む
8. 黒褐色土 細粒状軽石を含む、粗粒状VII層土混入
9. 黒褐色土 細粒状軽石を若干、粗粒状VII層土を含む
10. 黒褐色土 細粒状軽石を含む
11. 黒褐色土 細粒状軽石を若干、粒状焼土を少量、粗粒状VII層土を含む
12. 黒褐色土 細粒状軽石を微量、粗粒状VII層土と粒状焼土を少量含む
13. 黒褐色土 細粒状軽石・炭化物を若干、塊状VII層土を少量含む、粒状VII層土と粗粒状VII層土混入
14. VII層土とV層土の混入、硬質
15. 塊状VII層土、硬質



第161図 1号竪穴状遺構と出土遺物

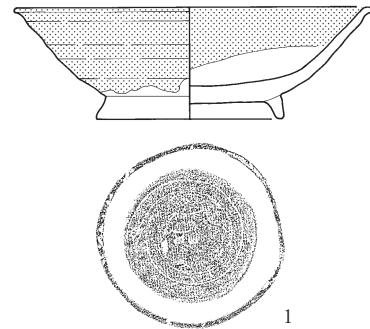
第3章 調査の内容



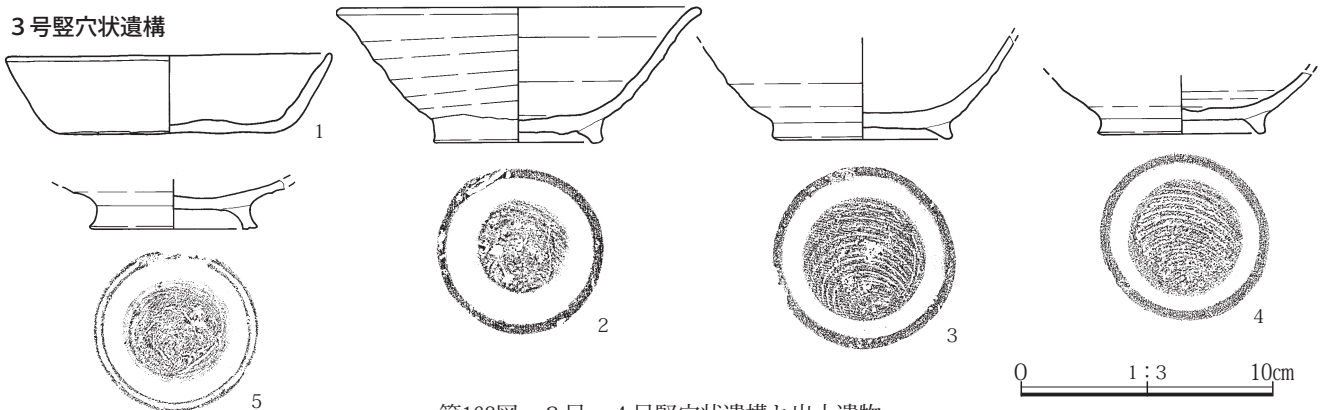
3号・4号縦穴状遺構C-C'

1. 黒褐色土 粒状軽石・粒状焼土を少量含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を含む、粒状焼土・炭化物混入
3. 黒褐色土 粒状軽石を若干、粒状焼土・炭化物を少量含む
4. 黒褐色土 粒状軽石を若干、粒状焼土を少量含む
5. 黒褐色土 粒状軽石・粒状焼土・炭化物を含む
6. 塊状VII層土
7. 黒褐色土 粒状軽石を微量、粒状焼土・炭化物を少量含む
8. 黒褐色土 粒状軽石混入、粒状焼土を含み、炭化物を若干含む
9. 黒褐色土 粒状軽石・粒状焼土を含み、炭化物を微量に含む
10. 黒褐色土 粒状軽石混入、粒状焼土を少量含む
11. 黒褐色土 粒状軽石・炭化物を少量含む、粒状焼土混入
12. 黒褐色土 粒状軽石・粒状焼土を極微量含む

4号縦穴状遺構



3号縦穴状遺構



第162図 3号・4号縦穴状遺構と出土遺物

**規模** 長軸2.52m 短軸2.10m 残存深度0.93m

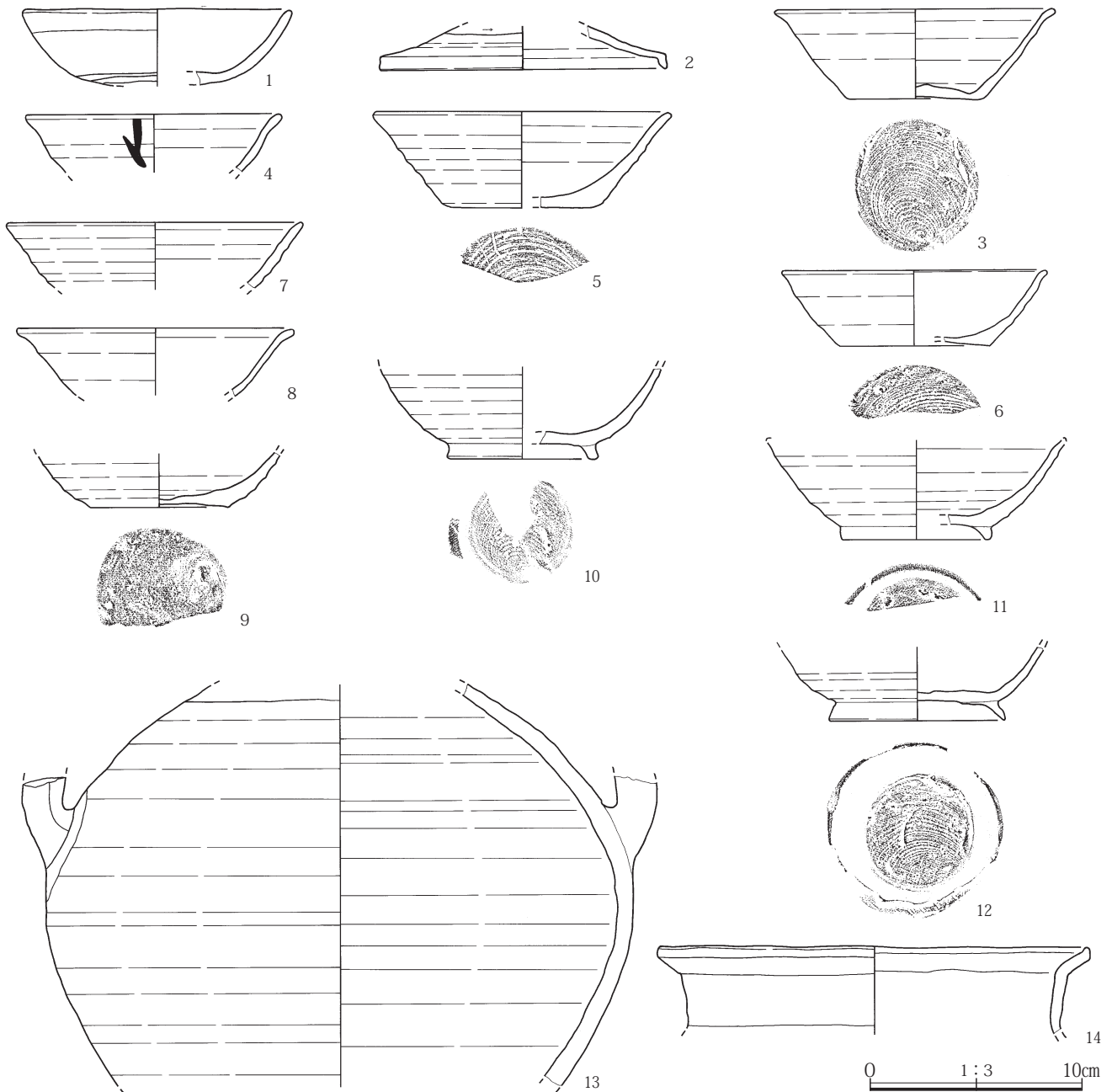
**主軸方位** N-0° **面積** 4.292㎡

**埋没土** 粒状軽石・粒状焼土・炭化物を含む黒褐色土。

**遺物** 3号縦穴状遺構の遺物として土師器1点、須恵器4点を図示した。土師器環(1)は北側の落ち込みから、須恵器碗(2~5)は中央付近のそれぞれ底面72cm、23cm、3cm、1cm上から出土している。また、3号・4

号縦穴住居のフク土から、土師器環1点、須恵器蓋1点、須恵器環7点、須恵器碗3点、須恵器壺1点、土師器甕1点が出土している。その中には、「足カ」を墨書する須恵器環(3・4縦-4)が含まれる。未掲載遺物は、4号縦穴状遺構と合わせて土師器608点、須恵器324点、灰釉陶器3点である。

**時期** 相伴する土師器環(1)や須恵器環(4・5)などの



第163図 3号・4号竪穴状遺構出土遺物

出土遺物から、9世紀中頃～後半と考えられる。

**4号竪穴状遺構**(第162・163図、PL.35・84)

**位置** 56-A-15

**重複** 22号住居、3号竪穴状遺構、15号・32号溝と重複する。新旧関係は、22号住居より新しく、3号竪穴状遺構より古い。15号・32号溝との新旧関係は不明である。

**形状** 不整形

**規模** 長軸2.62m 短軸(1.88m) 残存深度0.75m

**主軸方位** N-0° **面積** (3.91㎡)

**埋没土** 粒状軽石・粒状焼土・炭化物を含む黒褐色土。

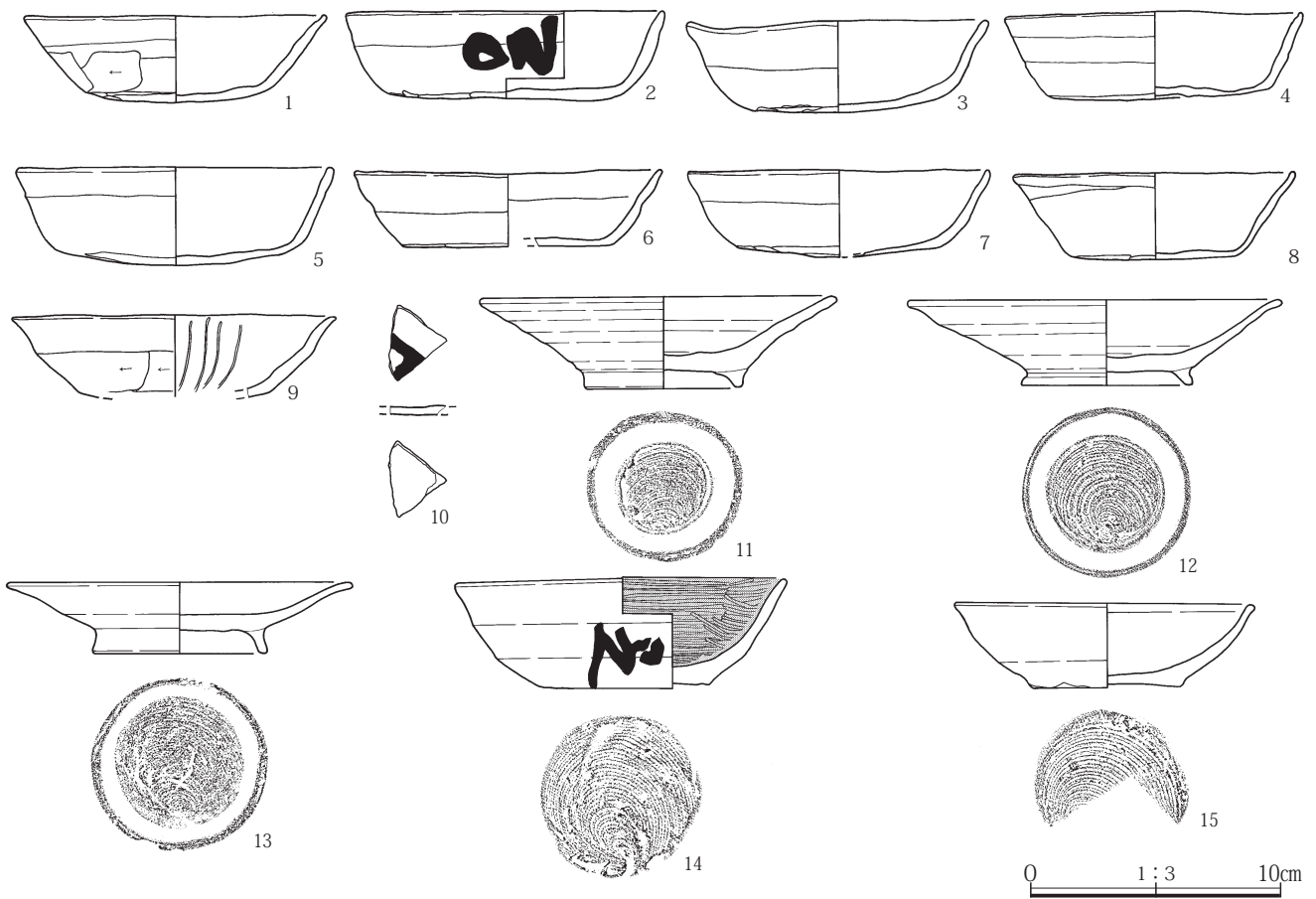
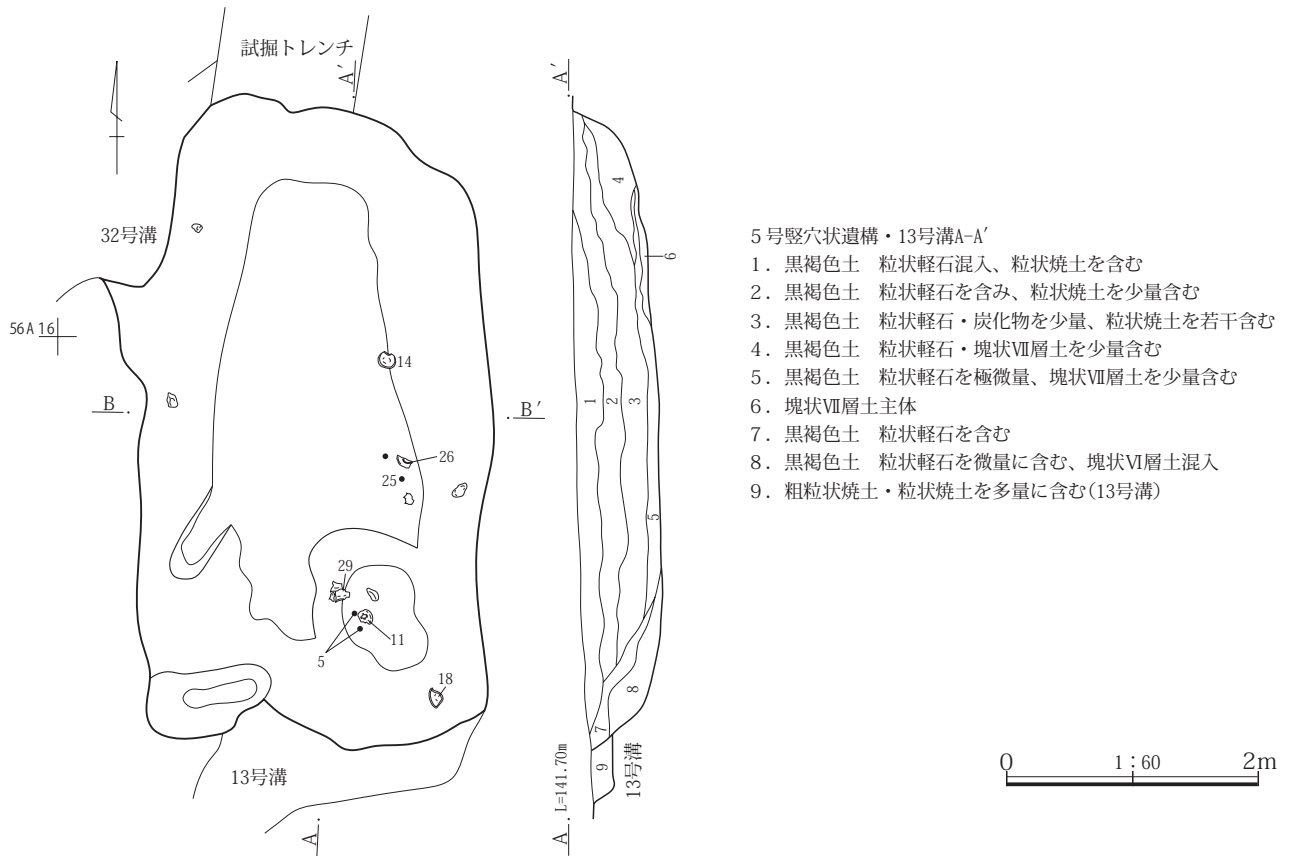
**遺物** 3号竪穴状遺構の遺物として灰釉陶器1点を図示した。灰釉陶器(1)は、底面68cm上から出土しており、他の3号・4号竪穴状遺構フク土出土の遺物と比べると、混入品と考えられる。その他3号・4号竪穴状遺構で出土した遺物は、3号竪穴状遺構に明記した。

**時期** フク土から出土した、土師器坏や須恵器坏などの出土遺物から、9世紀中頃～後半と考えられる。

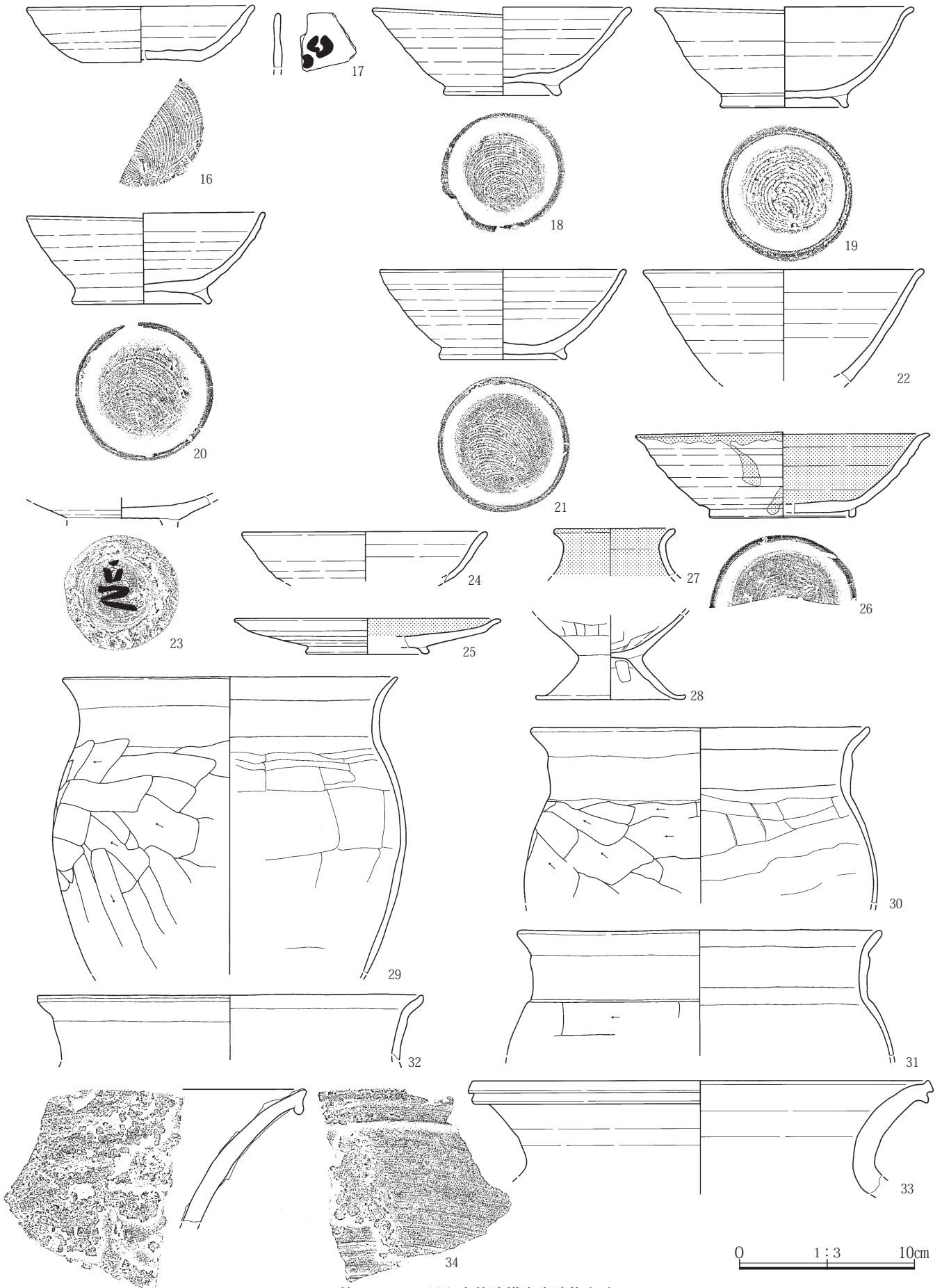
**5号竪穴状遺構**(第164・165図、PL.35・84)

**位置** 55-T-15

**重複** 13号・32号溝と重複する。新旧関係は、13号溝よ



第164図 5号竪穴状遺構と出土遺物(1)



第165図 5号竪穴状遺構出土遺物(2)

り新しい。32号溝との新旧関係は不明である。

**形状** 楕円形

**規模** 長軸5.10m 短軸2.82m 残存深度0.63m

**主軸方位** N-0° **面積** 12.916㎡

**埋没土** 粒状軽石・粒状焼土・炭化物・ロームブロック・粗粒状焼土を含む黒褐色土。

**遺物** 土師器15点、須恵器15点、黒色土器1点、灰釉陶器3点を図示した。土師器環(5)は南側底面47cm上から、須恵器皿(11)は南側底面50cm上から、須恵器碗(18)は南東角底面27cm上から、灰釉陶器皿(25)と灰釉陶器碗(26)は中央やや東底面40cm上から、土師器甕(29)は南側33cm

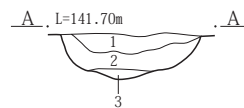
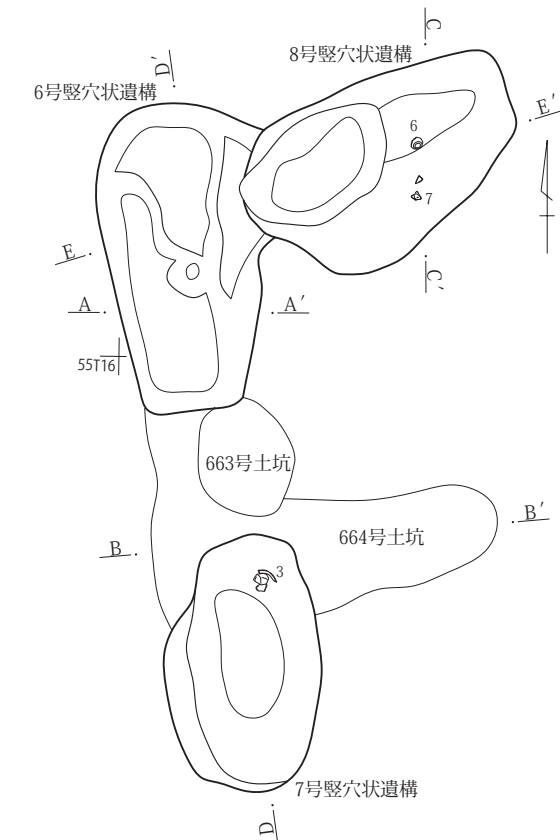
上から出土した。土師器環(2)・黒色土器(14)・須恵器碗(23)の3点には、墨書「足」が認められた。土師器環(10)と須恵器環(17)にも文字不明だが、墨書が認められた。未掲載遺物は、土師器389点、須恵器131点、灰釉陶器4点である。

**時期** 共伴する土師器環(1)や土師器甕(29)などの出土遺物から、9世紀中頃と考えられる。

**6号竪穴状遺構(第166・167図、PL.35・84)**

**位置** 55-S-15

**重複** 8号竪穴状遺構、663号・664号土坑と重複する。



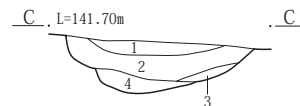
6号竪穴状遺構A-A'

1. 黒褐色土 細粒状軽石を少量、粒状焼土を若干含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を含む、塊状Ⅲ層土混入
3. 黒褐色土 細粒状軽石を若干、塊状Ⅶ層土を含む



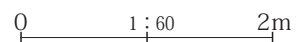
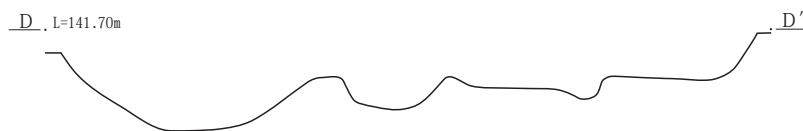
7号竪穴状遺構・664号土坑B-B'

1. 黒褐色土 細粒状軽石を少量、粒状焼土を若干含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を含む、塊状Ⅲ層土混入
3. 黒褐色土 粒状軽石を少量、粒状焼土を含む(664号土坑)
4. 黒褐色土 粒状軽石を若干、粒状焼土を微量に含む(664号土坑)



8号竪穴状遺構C-C'

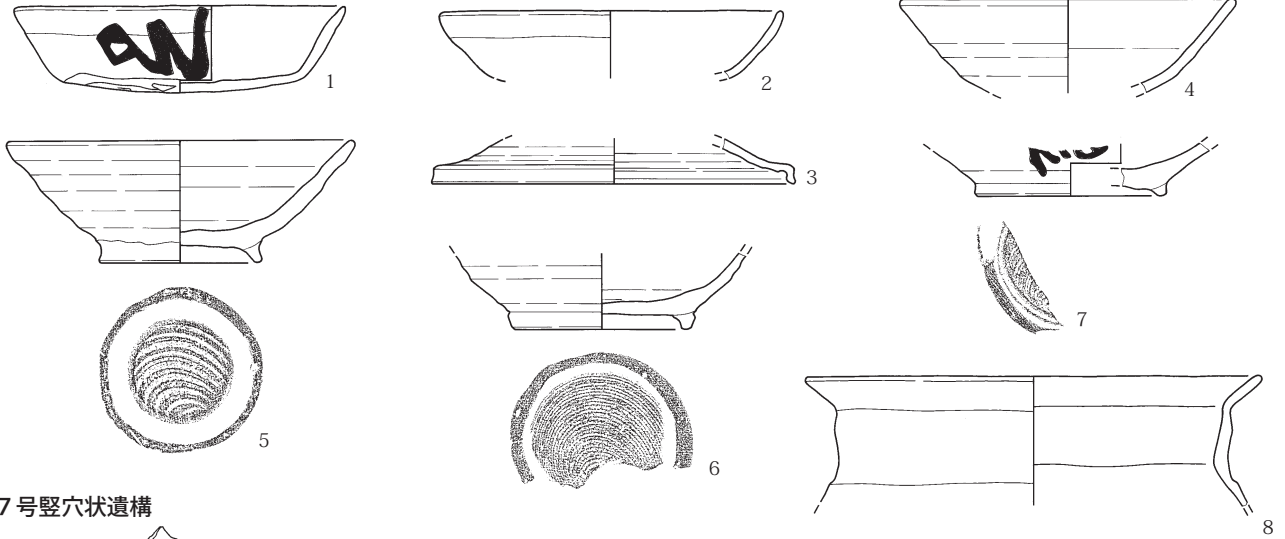
1. 黒褐色土 細粒状軽石を若干含む
2. 黒褐色土 細粒状軽石を少量、粗粒状Ⅶ層土を含む
3. Ⅵ層土主体 塊状焼土を含む
4. 黒褐色土と塊状Ⅵ層土の混土 細粒状軽石を若干、粒状Ⅶ層土を含む



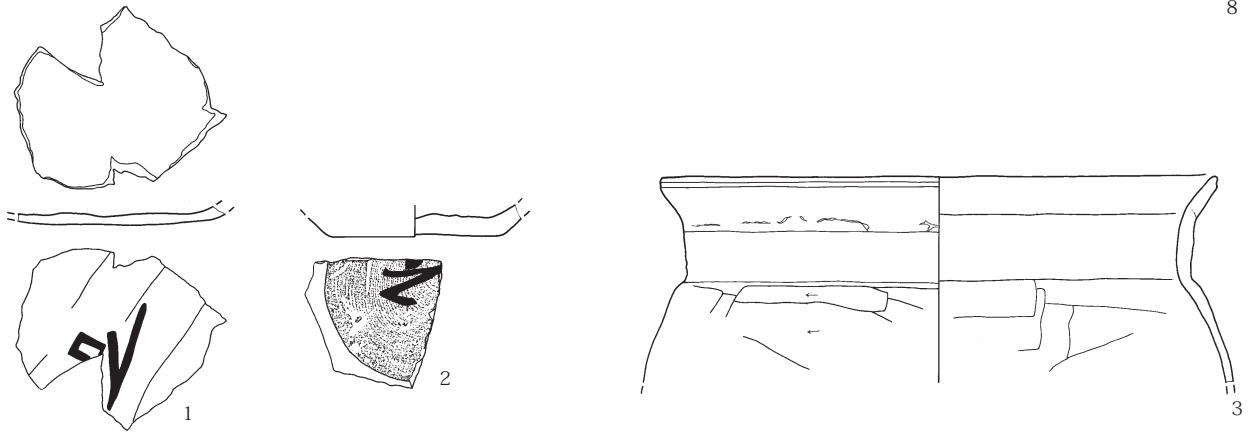
第166図 6号～8号竪穴状遺構



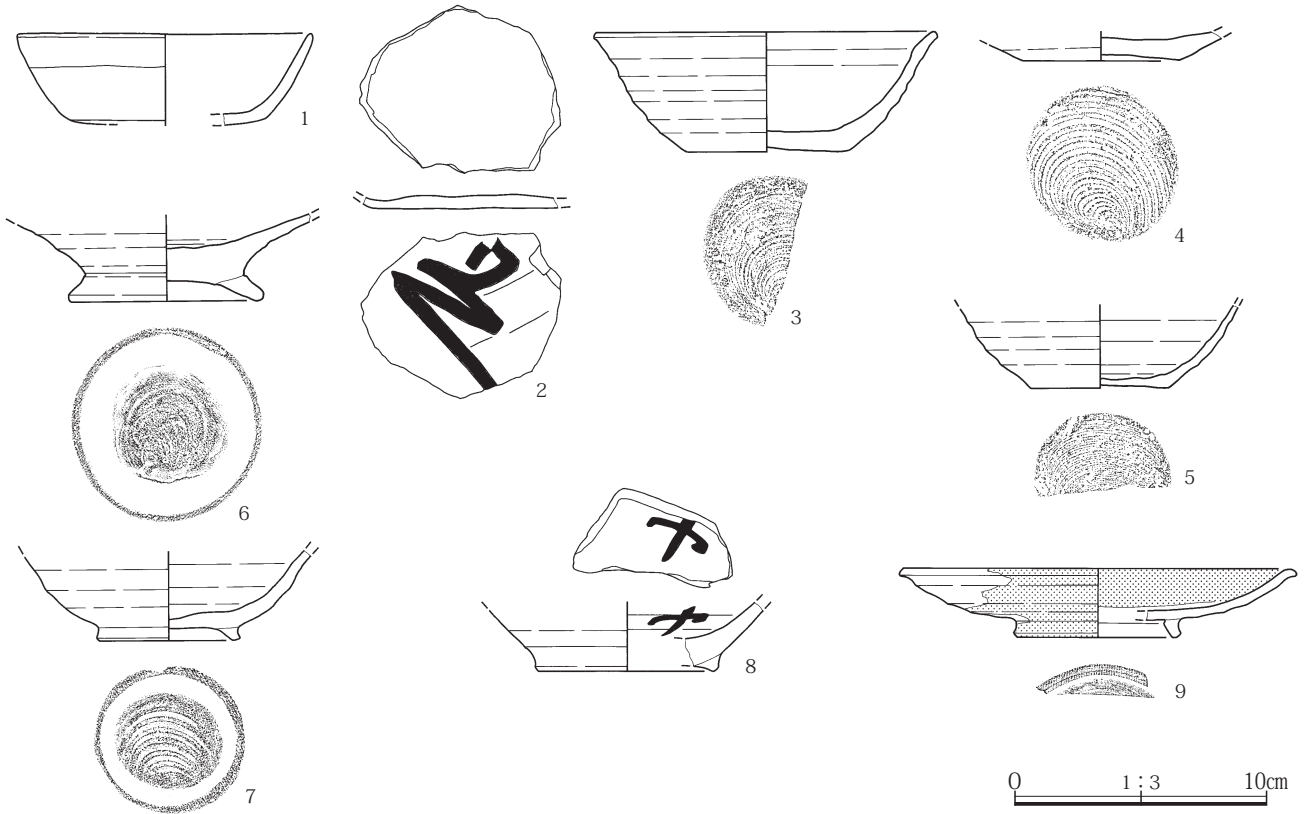
6号豎穴状遺構



7号豎穴状遺構



8号豎穴状遺構



0 1:3 10cm

第167图 6号~8号豎穴状遺構出土遺物

新旧関係は、8号竪穴状遺構より古く、663号・664号土坑より新しい。

**形状** 不整形

**規模** 長軸2.46m 短軸1.21m 残存深度0.46m

**主軸方位** N-9°-W **面積** 2.66㎡

**埋没土** 細粒状軽石・粒状焼土・粒状軽石・ロームブロックを含む黒褐色土。

**遺物** 土師器3点、須恵器5点を図示した。フク土から出土した土師器坏(1)・須恵器碗(7)には、墨書「足」が認められた。未掲載遺物は、土師器116点、須恵器36点、灰釉陶器1点である。

**時期** 共伴する須恵器蓋(3)や土師器甕(8)などの出土遺物から、9世紀中頃～後半と考えられる。

#### 7号竪穴状遺構(第166・167図、PL.35・84)

**位置** 55-S-15

**重複** 664号土坑と重複する。新旧関係は、664号土坑より新しい。

**形状** 楕円形

**規模** 長軸2.03m 短軸1.24m 残存深度0.65m

**主軸方位** N-0° **面積** 2.002㎡

**埋没土** 細粒状軽石・粒状焼土・粒状軽石・黒色土ブロックを含む黒褐色土。

**遺物** 土師器2点、須恵器1点を図示した。フク土から出土した土師器坏(1)・須恵器坏(2)には、墨書「足」が認められた。未掲載遺物は、土師器19点、須恵器12点である。

**時期** 出土遺物の土師器甕(3)から、9世紀中頃と考えられる。

#### 8号竪穴状遺構(第166・167図、PL.35・85)

**位置** 55-S-16

**重複** 6号竪穴状遺構と重複する。新旧関係は、6号竪穴状遺構より新しい。

**形状** 不整形

**規模** 長軸2.24m 短軸1.41m 残存深度0.72m

**主軸方位** N-9°-W **面積** 2.506㎡

**埋没土** 細粒状軽石・粗粒状ロームを含む黒褐色土、焼土ブロックを含むローム土、細粒状軽石・粒状ロームを含む黒褐色土とロームブロックの混土。

**遺物** 土師器2点、須恵器6点、灰釉陶器1点を図示した。フク土から出土した土師器坏(2)には墨書「足」、須恵器碗(8)にも文字は不明だが墨書が認められた。フク土出土の灰釉陶器皿(9)は、9世紀後半に運び込まれた、東濃の光ヶ丘1号窯式の可能性がある。未掲載遺物は、土師器9点、須恵器8点である。

**時期** 共伴する酸化焰焼成の須恵器碗(8)や灰釉陶器皿(9)などの出土遺物から、9世紀後半と考えられる。

#### 9号竪穴状遺構(第168図、PL.35)

**位置** 55-R-16

**重複** 10号竪穴状遺構と重複する。新旧関係は、10号竪穴状遺構より新しい。

**形状** 不整形

**規模** 長軸5.13m 短軸1.04m 残存深度0.87m

**主軸方位** N-82°-W **面積** 4.758㎡

**埋没土** 粒状軽石・粒状ローム・粒状焼土・ロームブロック・細粒状軽石・炭化物を含む黒褐色土。

**遺物** 未掲載遺物は、土師器10点である。

**時期** 未掲載遺物の土師器には平底の坏が含まれていたため9世紀中頃と考えられる。

#### 10号竪穴状遺構(第168図、PL.35)

**位置** 55-R-16

**重複** 9号・11号竪穴状遺構と重複する。新旧関係は、9号・11号竪穴状遺構より古い。

**形状** 不整形

**規模** 長軸7.60m 短軸1.81m 残存深度0.43m

**主軸方位** N-90° **面積** (12.46㎡)

**埋没土** 粒状軽石を含む黒褐色土、粒状軽石・黒色土を含む硬質(道路状遺構の硬化面と同じ硬度)の黒褐色土。

**遺物** なし。

**時期** 重複する9号竪穴状遺構が9世紀中頃であることから、同様の時期と考えられる。

#### 11号竪穴状遺構(第168・169図、PL.35・85)

**位置** 55-R-16

**重複** 10号・12号・17号・18号竪穴状遺構と重複する。新旧関係は、18号竪穴状遺構より古く、10号・12号・17号竪穴状遺構より新しい。

**形状** 不整形

**規模** 長軸2.74m 短軸(1.98m) 残存深度0.63m

**主軸方位** N-15°-W **面積** (5.406㎡)

**埋没土** 不明。

**遺物** 土師器2点、須恵器5点、黒色土器1点を図示した。フク土から出土した土師器坏(1)には墨書「□神カ」、黒色土器坏(6)には、墨書「足」が認められた。未掲載遺物は、土師器348点、須恵器107点、灰釉陶器5点である。

**時期** 共伴する須恵器皿(3)や須恵器坏(4)などの出土遺物から、9世紀中頃～後半と考えられる。

#### 12号竪穴状遺構(第168図、PL.35)

**位置** 55-R-16

**重複** 11号・17号竪穴状遺構と重複する。新旧関係は、11号竪穴状遺構より古く、17号竪穴状遺構より新しい。

**形状** 不整形

**規模** 長軸1.14m 短軸0.94m 残存深度0.16m

**主軸方位** N-63°-W **面積** 0.732㎡

**埋没土** 不明。

**遺物** なし。

**時期** 重複する11号竪穴状遺構が9世紀中頃～後半であることから同様の時期と考えられる。

#### 13号竪穴状遺構(第168・169図、PL.35・85)

**位置** 55-R-16

**重複** 18号竪穴状遺構と重複する。新旧関係は、18号竪穴状遺構より新しい。

**形状** 楕円形

**規模** 長軸1.62m 短軸1.43m 残存深度0.99m

**主軸方位** N-74°-E **面積** 1.89㎡

**埋没土** 粗粒軽石・粒状軽石・粒状ローム・粒状炭化物・ロームブロックを含む黒褐色土。

**遺物** 土師器1点、須恵器3点を図示した。未掲載遺物は、土師器109点、須恵器19点である。

**時期** 共伴する土師器坏(1)や須恵器碗(2)などの出土遺物から、9世紀中頃～後半と考えられる。

#### 17号竪穴状遺構(第168図、PL.36)

**位置** 55-R-16

**重複** 11号・12号・18号竪穴状遺構と重複する。新旧関

係は、11号・12号・18号竪穴状遺構より古い。

**形状** 不整形

**規模** 長軸(1.15m) 短軸0.71m 残存深度0.19m

**主軸方位** N-73°-W **面積** (0.692㎡)

**埋没土** 不明。

**遺物** なし。

**時期** 重複する11号竪穴状遺構が9世紀中頃～後半であることから同様の時期と考えられる。

#### 18号竪穴状遺構(第168図、PL.36)

**位置** 55-R-16

**重複** 40号住居、11号・13号・17号竪穴状遺構と重複する。新旧関係は、13号竪穴状遺構より古く、40号住居、11号・17号竪穴状遺構より新しい。

**形状** 不整形

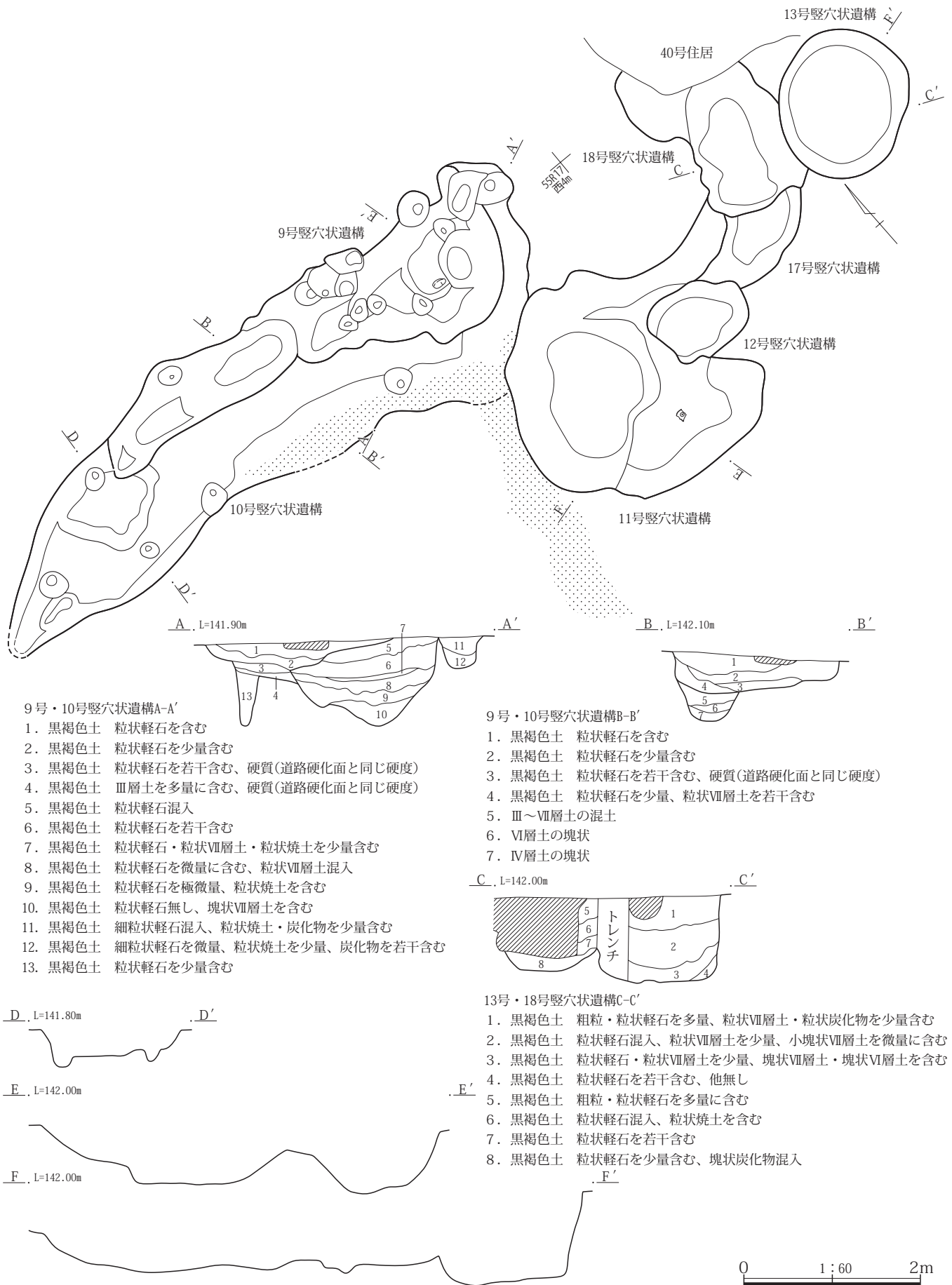
**規模** 長軸(2.21m) 短軸1.03m 残存深度0.99m

**主軸方位** N-0° **面積** (2.342㎡)

**埋没土** 粗粒軽石・粒状軽石・粒状焼土・炭化物ブロックを含む黒褐色土。

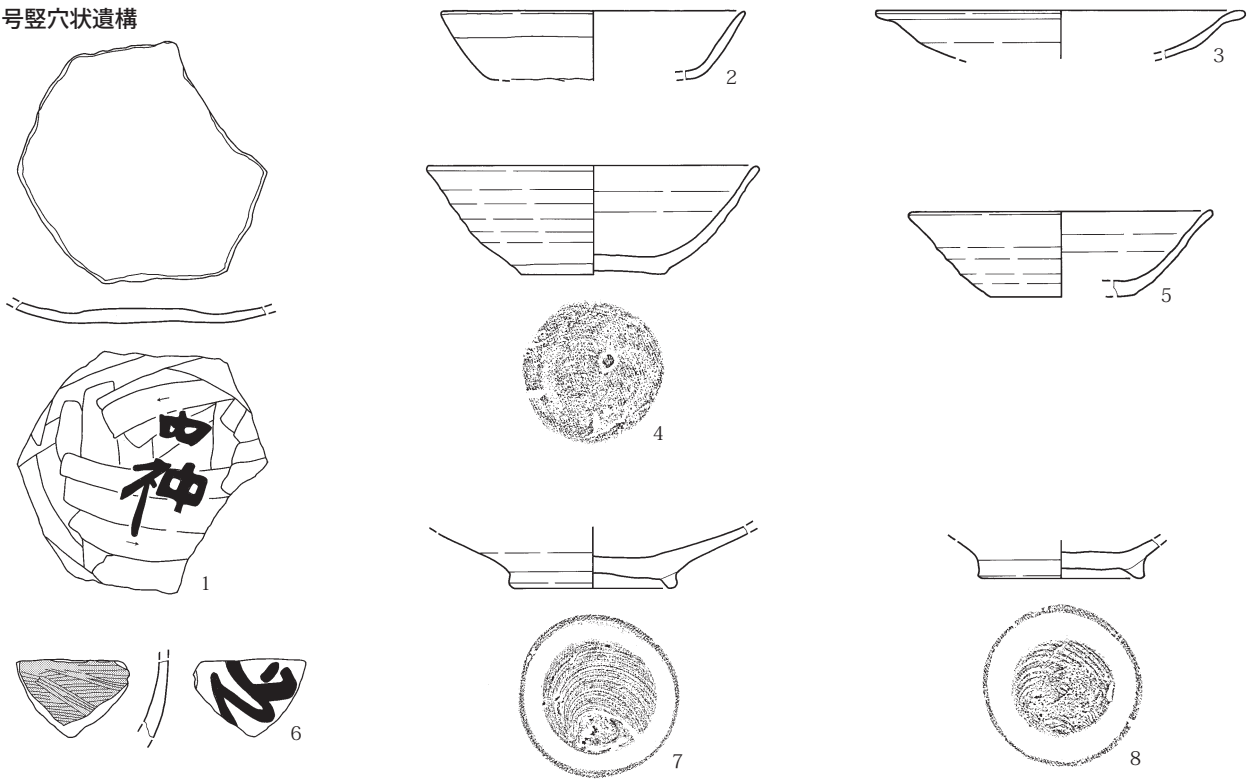
**遺物** なし。

**時期** 重複する13号竪穴状遺構が、9世紀中頃～後半であることからそれより古いと考えられる。

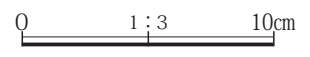
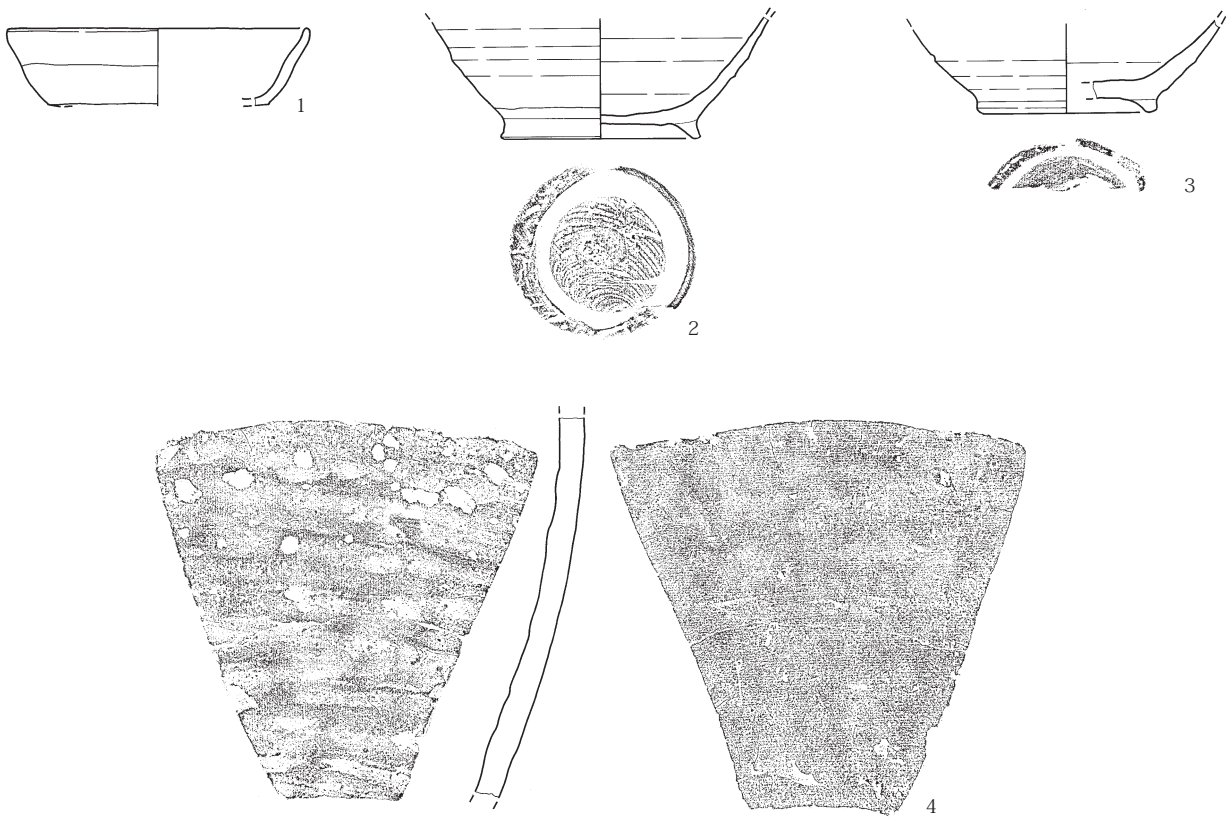


第168図 9号～13号・17号・18号竪穴状遺構

11号豎穴状遺構



13号豎穴状遺構



第169図 11号・13号豎穴状遺構出土遺物

14号竪穴状遺構(第170図、PL.36・85)

位置 55-Q-15

重複 15号・16号竪穴状遺構と重複する。新旧関係は、15号・16号竪穴状遺構より新しい。

形状 不整形

規模 長軸2.70m 短軸2.12m 残存深度0.84m

主軸方位 N-18°-E 面積 (4.406㎡)

埋没土 粗粒状軽石・粒状軽石・細粒状軽石・粒状ローム・粒状焼土・炭化物・粗粒状ロームを含む黒褐色土。

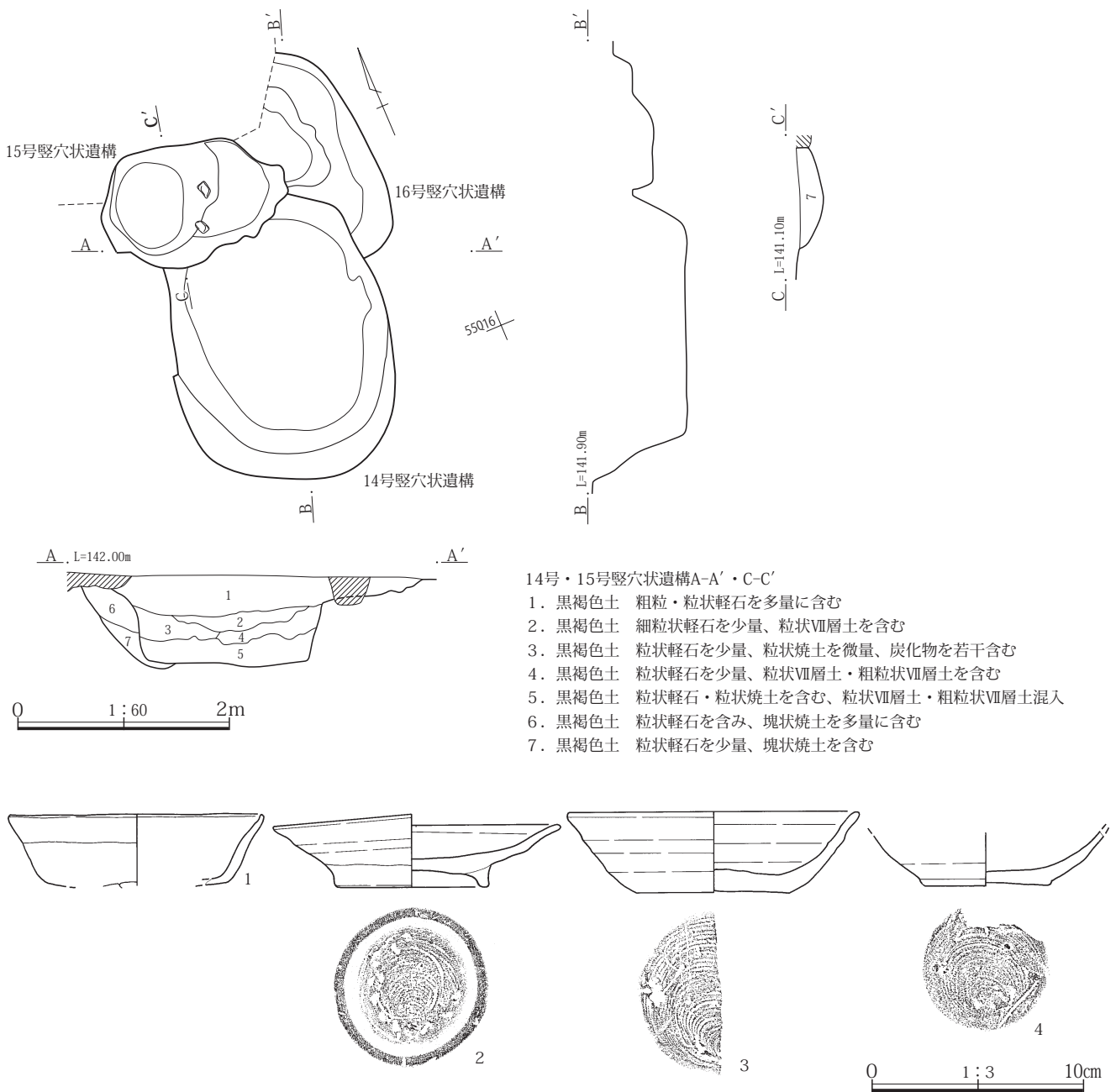
遺物 土師器1点、須恵器3点を図示した。未掲載遺物は、土師器74点、須恵器27点である。

時期 共伴する須恵器皿(2)や須恵器坏(4)などの出土遺物から、9世紀後半と考えられる。

15号竪穴状遺構(第170図、PL.36)

位置 55-Q-16

重複 14号・16号竪穴状遺構と重複する。新旧関係は、16号竪穴状遺構より新しく、14号竪穴状遺構より古い。



第170図 14号～16号竪穴状遺構と14号竪穴状遺構出土遺物

形状 不整形

規模 長軸1.75m 短軸1.13m 残存深度1.14m

主軸方位 N-80°-W 面積 1.526㎡

埋没土 粒状軽石・焼土ブロックを含む黒褐色土。

遺物 なし。

時期 重複する14号竪穴状遺構が9世紀後半であることから、それより古いものと考えられる。

16号竪穴状遺構(第170図、PL.36)

位置 55-Q-16

重複 14号・15号竪穴状遺構と重複する。新旧関係は、14号・15号竪穴状遺構より古い。

形状 不整形

規模 長軸2.09m 短軸(0.84m) 残存深度0.39m

主軸方位 N-0° 面積(1.338㎡)

埋没土 不明。

遺物 なし。

時期 重複する14号竪穴状遺構が9世紀後半であることから、それより古いものと考えられる。

19号竪穴状遺構(第171・172図、PL.36・85)

位置 55-S-17

重複 45号ピットと重複する。新旧関係は、45号ピットより古い。

形状 楕円形

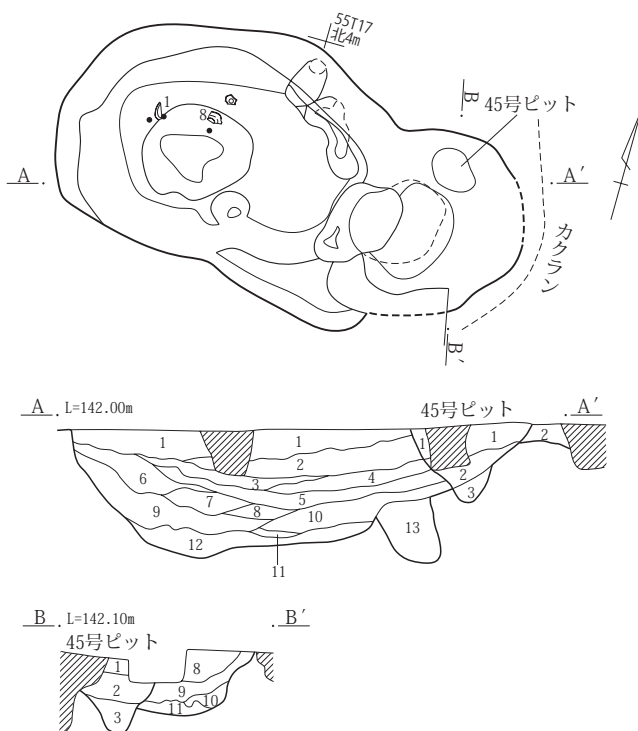
規模 長軸3.79m 短軸1.85m 残存深度0.96m

主軸方位 N-18°-E 面積 6,138㎡

埋没土 粗粒状軽石・粒状軽石・粒状焼土・ロームブロック・焼土ブロックを含む黒褐色土。

遺物 土師器8点、須恵器7点、灰釉陶器1点を図示した。土師器坏(1)は底面43cm上から、須恵器碗(8)は底面29cm上から出土した。土師器坏(2)には墨書「足カ」が認められた。フク土から出土した須恵器坏(13)は両耳環の耳の部分と考えられる。灰釉陶器(14)は、奈良・平安時代遺構外出土遺物の灰釉陶器(7)と同一個体の可能性がある。未掲載遺物は、土師器359点、須恵器149点、灰釉陶器1点である。

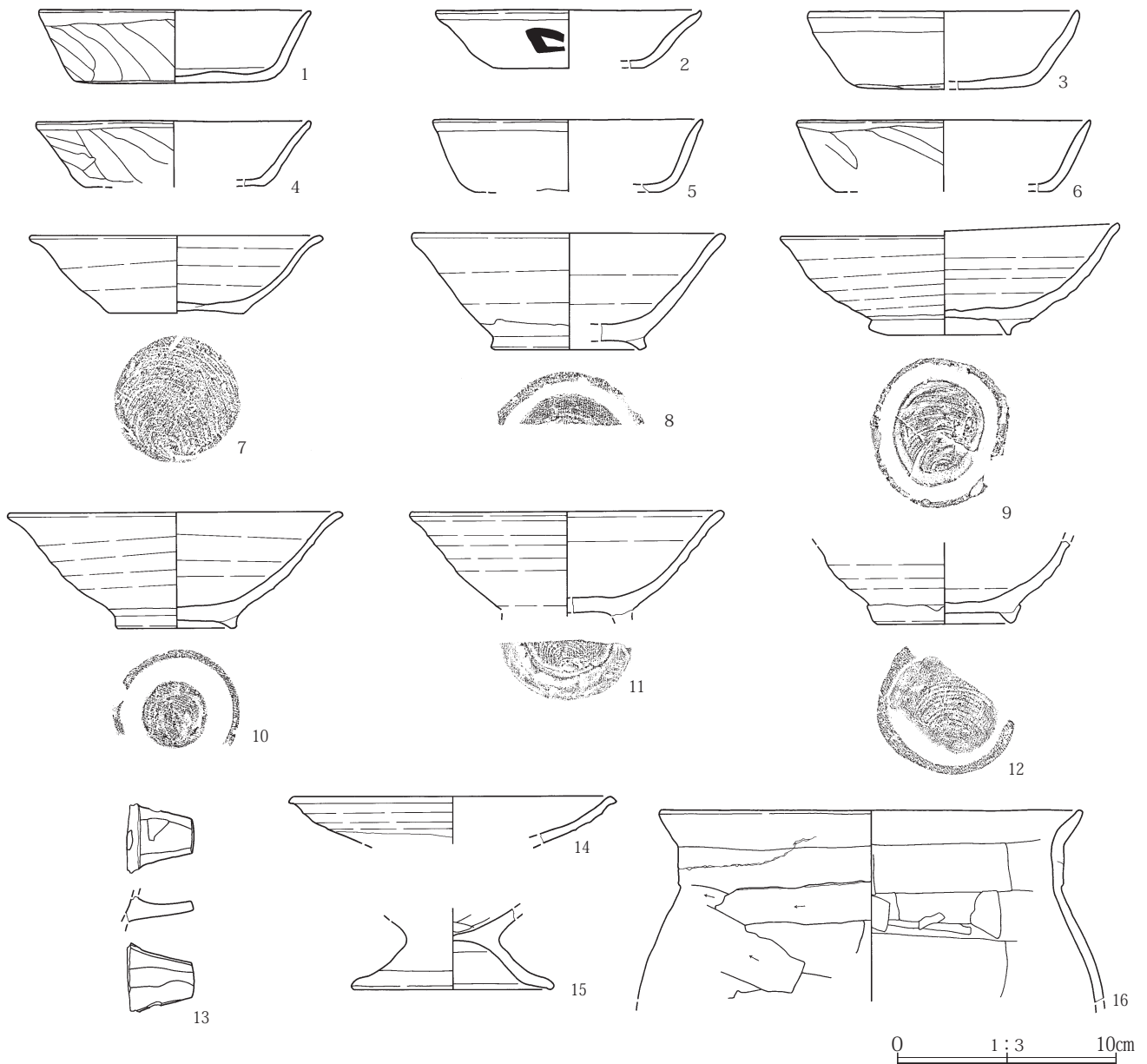
時期 共伴する須恵器碗(10)や土師器甕(16)などの出土遺物から、9世紀中頃～後半と考えられる。



19号竪穴状遺構・45号ピットA-A'・B-B'

1. 黒褐色土 粗・粒状軽石を多量に含む
  2. 黒褐色土 粒状軽石混入、粒状焼土を含む
  3. 黒褐色土 粒状軽石・粒状焼土を若干含む
  4. 黒褐色土 粒状軽石を少量、塊状Ⅶ層土若干含む
  5. 黒褐色土 粒状軽石を少量、粒状焼土を含む、塊状焼土混入
  6. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む
  7. 黒褐色土 粒状軽石を極微量、粗大塊状Ⅶ層土を含む
  8. 黒褐色土 粒状軽石を若干、粗ローム粒子を含む
  9. 黒褐色土 粒状軽石を微量、ローム粒子を少量含む
  10. 黒褐色土 粒状軽石を微量、塊状焼土・粒状焼土を少量、塊状Ⅶ層土を含む
  11. 黒褐色土 粒状軽石を微量に含む
  12. 黒褐色土と塊状Ⅶ層土・粗ローム粒子を含む混土
  13. 地山
- 45号ピット
1. 黒褐色土 粒状軽石を少量、塊状Ⅶ層土を含み、粗粒状焼土、粗・粒状Ⅶ層土を多量に含む
  2. 黒褐色土 粒状軽石を若干含む
  3. 黒褐色土 塊状Ⅶ層土混入、粗粒状Ⅶ層土を含む、軽石無し

第171図 19号竪穴状遺構



第172図 19号竪穴状遺構出土遺物

#### 4. 掘立柱建物

##### 1号掘立柱建物(第173図、PL.37・38)

**位置** 55-0・P-10～12

**重複** 11号住居P 1、2号掘立柱建物P 5～P 8、1号溝、12号・14号・27号・29号・31号・32号土坑と重複する。新旧関係は、11号住居、2号掘立柱建物、1号溝より新しく、12号・29号土坑より古い。柱穴の直接の重複がないため、14号・27号・31号・32号土坑との新旧関係は不明である。

**主軸方位** N-90°

**形態** 梁行2間・桁行2間(4.79～5.08m×4.55～4.89m)の側柱建物である。柱間は北南辺2.23～2.5m、東

西辺2.18～2.62m。P 1・P 5・P 8で、明瞭な柱痕跡を検出した。

**内部施設** なし。

**遺物** P 1から須恵器坏(1)が出土した。未掲載遺物は、土師器15点である。

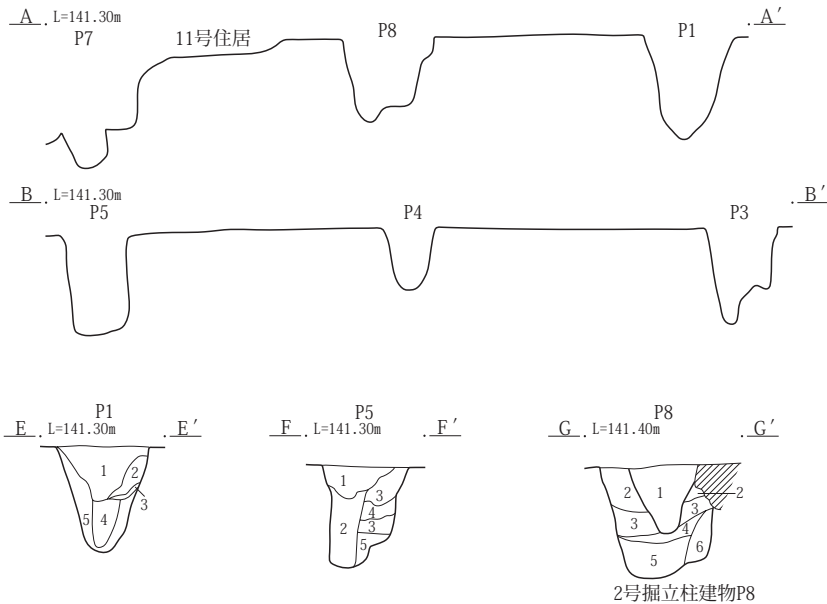
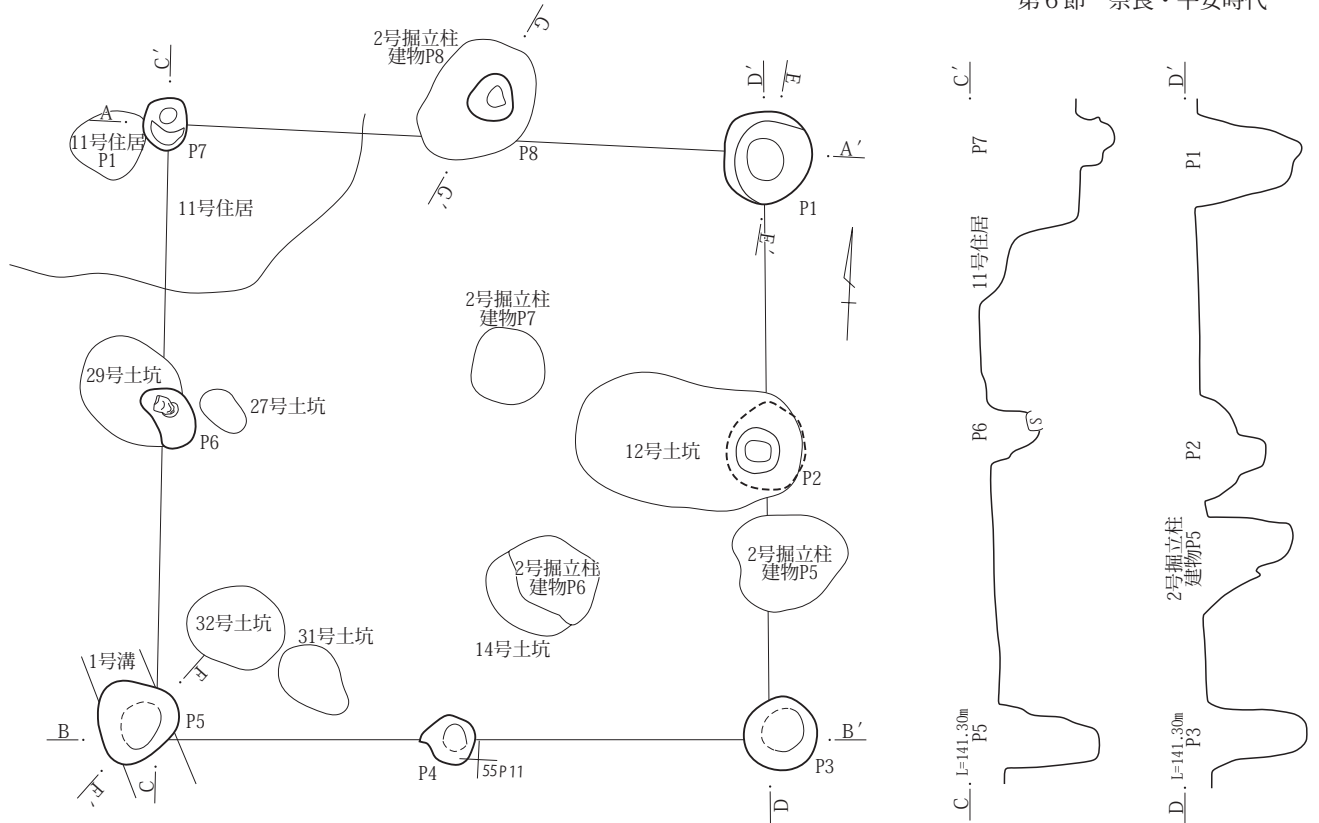
**時期** 出土遺物の須恵器坏(1)から、9世紀後半の時期と考えられる。

##### 2号掘立柱建物(第174・175図、PL.37・38)

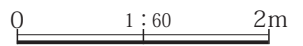
**位置** 55-N・0-11・12

**重複** 7号住居、1号掘立柱建物P 1・P 2・P 8、11号・12号・14号・19号・20号・204号土坑と重複する。新旧関係は、7号住居、1号掘立柱建物、14号・204号土坑



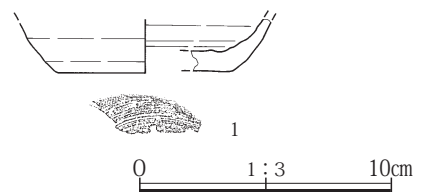


- 1号掘立柱建物 P 1 E-E'
1. 黒褐色土 VI層土塊を含み、軽石を微量に含む
  2. 黒褐色土 VI層土塊・軽石を含む
  3. 黒褐色土 粒状軽石少量と塊状VI層土を含む混土
  4. IV~VI層土の混土
  5. V層土とVI層土の混土
- 1号掘立柱建物 P 5 F-F'
1. 黒褐色土 粒状軽石を少量、VI層土粗粒を含む
  2. V層土とVI層土の混土(柱痕の可能性あり)
  3. 黒褐色土 粒状軽石を少量と塊状VI層土を含む混土
  4. VI層土主体 VII層土(浅黄橙色土)を含む
  5. VI層土主体 V層土を少量含む
- 1号掘立柱建物 P 8・2号掘立柱建物 P 8 G-G'
1. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む、塊状VI層土混入(1掘立P 8)
  2. 黒褐色土 VI層土塊を含み、軽石を微量に含む
  3. 黒褐色土 粒状軽石を微量、VI層土粗粒を含む
  4. 黒褐色土 粒状軽石無し、塊状VI層土とVII層土(浅黄橙色土)の混土
  5. VI層土主体 V層土を含む
  6. VI層土主体 VII層土(浅黄橙色土)含む

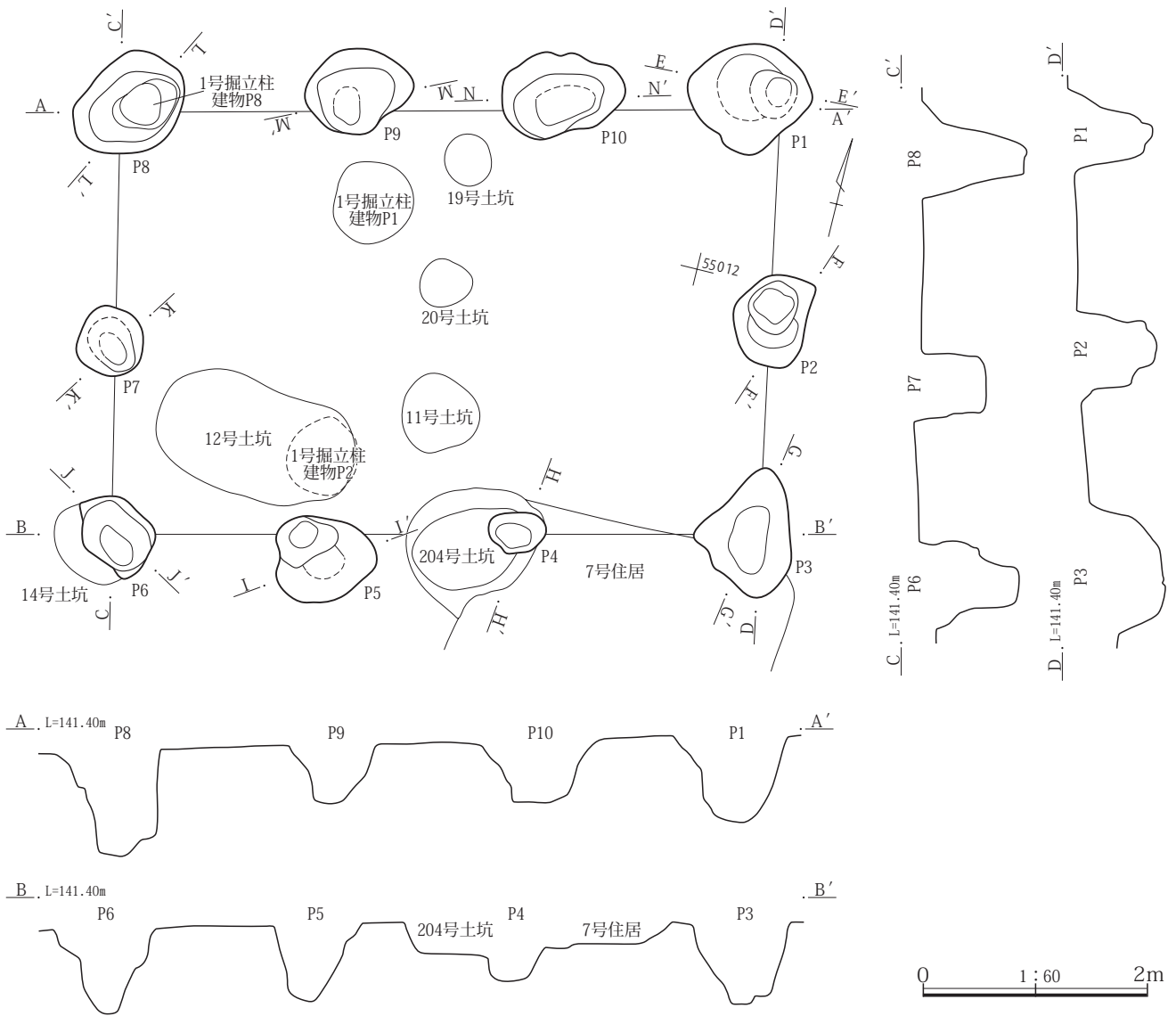


第12表 1号掘立柱建物ピット計測値

ピット番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	形状	次ピットとの間隔(m)
1	0.73	0.69	0.82	楕円形	2.32
2	0.70	0.63	0.51	楕円形	2.23
3	0.58	0.58	0.47	円形	2.62
4	0.44	0.39	0.59	不整形	2.46
5	0.69	0.63	0.79	楕円形	2.50
6	0.53	0.31	0.43	楕円形	2.39
7	0.41	0.35	1.04	楕円形	2.61
8	0.37	0.35	0.54	楕円形	2.18



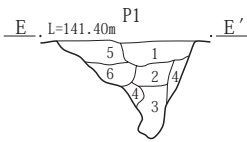
第173図 1号掘立柱建物と出土遺物



第13表 2号掘立柱建物ピット計測値

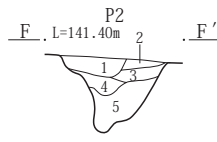
ピット番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	形状	次ピットとの 間隔(m)
1	1.11	0.92	0.75	楕円形	1.96
2	0.86	0.62	0.71	楕円形	2.03
3	1.02	0.69	0.73	不整形	2.13
4	0.51	0.35	0.58	楕円形	1.88
5	0.91	0.75	0.72	楕円形	1.65
6	0.76	0.53	0.77	不整形	1.69
7	0.61	0.58	0.57	円形	2.14
8	1.01	0.82	0.94	楕円形	2.03
9	0.93	0.73	0.57	楕円形	1.94
10	1.10	0.67	0.57	楕円形	1.93

第174図 2号掘立柱建物



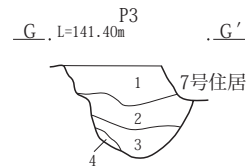
2号掘立柱建物 P 1 E-E'

1. 黒褐色土 粒状軽石を含む(柱痕)
2. IV~VI層土の混土(柱痕)
3. V層土とVI層土の混土(柱痕)
4. VI層土主体 V層土を含む
5. 黒褐色土 VI層土塊・軽石を含む
6. 黒褐色土 VI層土塊を含み、軽石を微量に含む



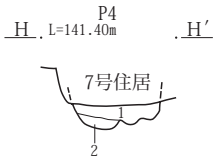
2号掘立柱建物 P 2 F-F'

1. 黒褐色土 VI層土塊を含み、軽石を微量に含む
2. 黒褐色土 VI層土塊・軽石を含む
3. 黒褐色土 粒状軽石微量・塊状VI層土多量と小塊状VII層土少量との混土
4. VI層土主体 V層土を含む
5. V層土とVI層土の混土



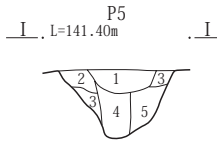
2号掘立柱建物 P 3 G-G'

1. 黒褐色土 粒状軽石を含む
2. 黒褐色土 粒状軽石微量・塊状VI層土多量と小塊状VII層土若干との混土
3. V層土とVI層土の混土
4. 塊状VI層土主体と塊状VII(ローム)少量の混土



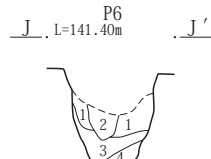
2号掘立柱建物 P 4 H-H'

1. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む、塊状VI層土混入
2. 硬質黒褐色土 粒状軽石を含む(柱材直下の層か)



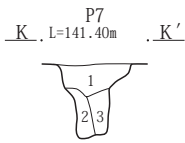
2号掘立柱建物 P 5 I-I'

1. 黒褐色土 VI層土塊・軽石を含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を含む
3. 黒褐色土 VI層土塊を含み、軽石を微量に含む
4. V層土とVI層土の混土(柱痕の可能性あり)
5. 黒褐色土 粒状軽石少量と塊状VI層土を含む混土



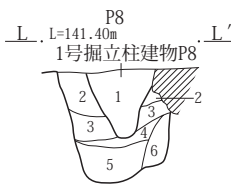
2号掘立柱建物 P 6 J-J'

1. 黒褐色土 粒状軽石少量と塊状VI層土を含む混土
2. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む(柱痕の可能性あり)
3. VI層土主体 V層土を含む
4. VI層土の塊



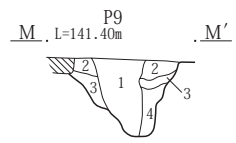
2号掘立柱建物 P 7 K-K'

1. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む
2. 黒褐色土 粒状軽石少量と塊状VI層土を含む混土
3. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む、塊状VI層土混入(柱痕の可能性あり、2層より軟質)



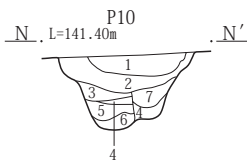
2号掘立柱建物 P 8 L-L'

1. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む、塊状VI層土混入(1掘立P 8)
2. 黒褐色土 VI層土塊を含み、軽石を微量に含む
3. 黒褐色土 粒状軽石を微量、VI層土粗粒を含む
4. 黒褐色土 粒状軽石無し、塊状VI層土・VII層土(浅黄橙色土)の混土
5. VI層土主体 V層土を含む
6. VI層土主体 VII層土(浅黄橙色土)含む



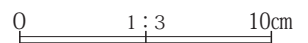
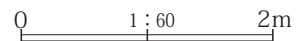
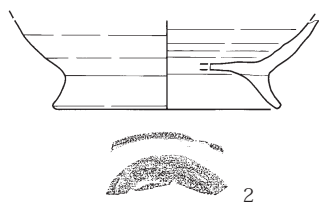
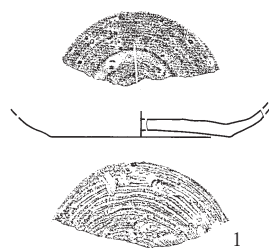
2号掘立柱建物 P 9 M-M'

1. 黒褐色土 粒状軽石少量と塊状VI層土を含む混土
2. 黒褐色土 粒状軽石を少量、VI層土粗粒を含む
3. 黒褐色土 粒状軽石を微量、VI層土粗粒を含む
4. 黒褐色土 VI層土塊を含み、軽石を微量に含む



2号掘立柱建物 P 10 N-N'

1. 黒褐色土 粒状軽石を含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を少量、VI層土粗粒を含む
3. 黒褐色土 VI層土塊・軽石を含む
4. VI層土主体 V層土を含む
5. 黒褐色土 VI層土塊を含み、軽石を微量に含む
6. V層土とVI層土の混土
7. 黒褐色土 粒状軽石を微量、VI層土粗粒を含む



第175図 2号掘立柱建物セクション図と出土遺物

より古い。柱穴の直接の重複がないため、11号・12号・19号・20号土坑との新旧関係は不明である。

**主軸方位** N-10°-E

**形態** 梁行2間・桁行3間(5.66~5.90m×3.83~3.99m)の側柱建物である。柱間は北南辺1.69~2.14m、東西辺1.65~2.13m。P1・P5・P6・P8・P9で、明瞭な柱痕跡を検出した。

**内部施設** なし。

**遺物** フク土から須恵器2点が出土した。須恵器環(1)と須恵器碗(2)である。未掲載遺物は、土師器41点、須恵器6点である。

**時期** 共伴する須恵器環(1)や須恵器碗(2)などの出土遺物から、9世紀後半の時期と考えられる。

**3号掘立柱建物(第176図、PL.37・38)**

**位置** 55-P・Q-10・11

**重複** 11号住居、41号・42号・43号土坑と重複する。新旧関係は、11号住居より新しい。柱穴の直接の重複がないため、41号・42号・43号土坑との新旧関係は不明である。

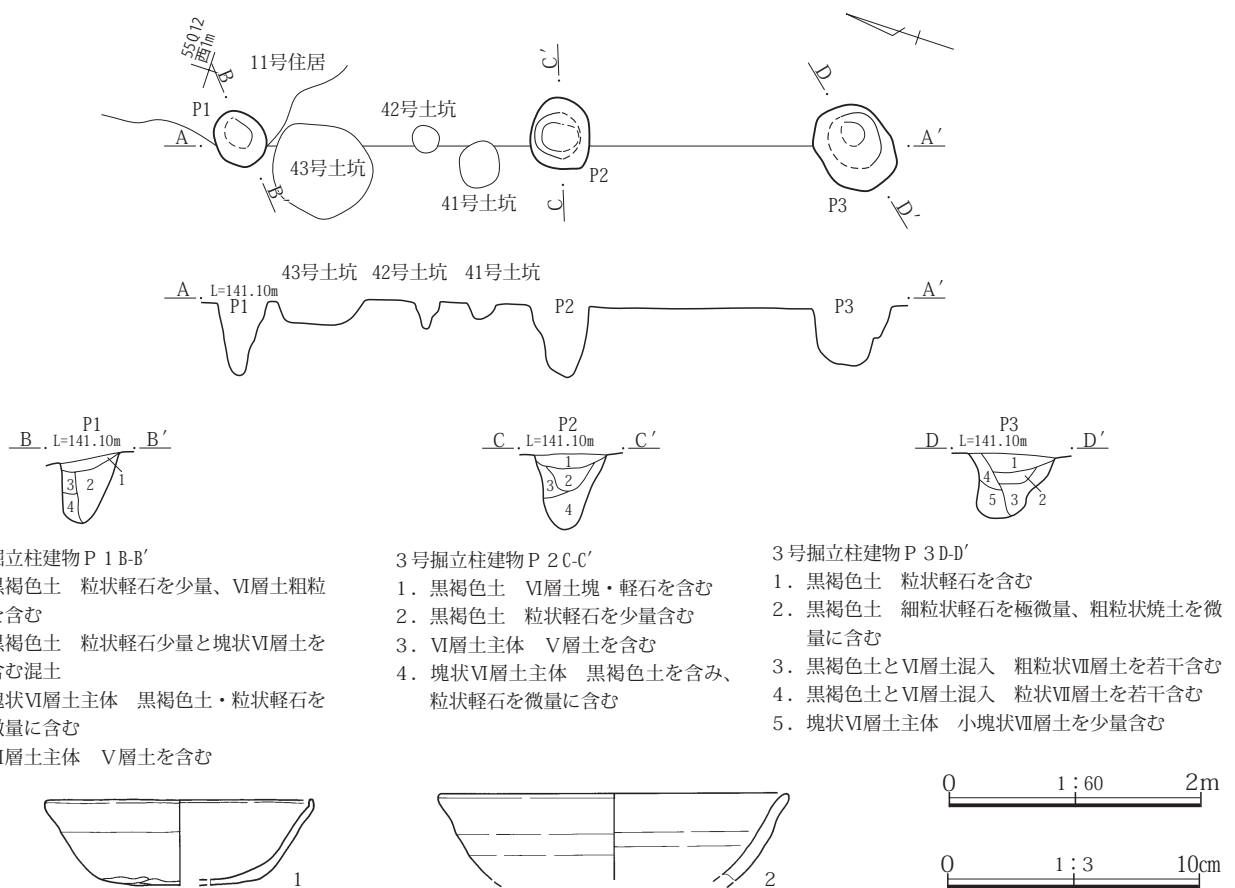
**主軸方位** N-20°-W

**形態** 一列の柱列が検出できただけである。柱間は北南辺2.31~2.54m。P1・P2で、明瞭な柱痕跡を検出した。

**内部施設** なし。

**遺物** P3から土師器環(1)、須恵器環(2)が出土した。未掲載遺物は、土師器13点である。

**時期** 共伴する土師器環(1)や須恵器環(2)などの出土遺物から、9世紀後半の時期と考えられる。



第14表 3号掘立柱建物ピット計測値

ピット番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	形状	次ピットとの間隔(m)
1	0.45	0.38	0.59	楕円形	2.54
2	0.56	0.46	0.60	楕円形	2.31
3	0.71	0.56	0.56	楕円形	

第176図 3号掘立柱建物と出土遺物

## 5. 溝

溝は、22条を検出した。大部分は規模が小さかったり、他遺構との重複のため、その性格を判断することはできなかった。その中で、55区から56区にかけて調査区内を斜めに80mほど走行する16号～21号溝は、溝と溝との間で硬化面が確認できたことや、埋没土に水の流れた痕跡が確認できないことなどから道路側溝と判断できた。

## 1号溝(第177図、PL.39)

**位置** 55-0～R-8～15 **走行方向** N-22°-W  
**重複** 9号・11号住居、1号掘立柱建物P5、16号・17号・19号・21号溝、3号・5号土坑と重複する。新旧関係は、1号掘立柱建物、3号・5号土坑より古く、9号・11号住居、16号・17号・19号・21号溝より新しい。  
**規模** 幅0.30～0.64m 残存深度0.11～0.41m 調査長41.5m **埋没土** 粗・細軽石、粒状軽石、ロームブロックを含む黒褐色土。 **遺物** 未掲載遺物は、土師器2点、須恵器1点である。 **時期** 17号溝と19号溝の間にある硬化面を切っており、16号・17号・19号・21号溝などの道路状遺構が使われていた9世紀末以降と考えられる。

## 4号溝(第178図)

**位置** 56-A-15・16 **走行方向** N-22°-W  
**重複** 3号竪穴状遺構、161号土坑と重複する。新旧関係は、3号竪穴状遺構、161号土坑より古い。 **規模** 幅0.40～0.45m 残存深度0.23～0.26m 調査長0.62m **埋没土** 不明。 **遺物** なし。 **時期** 9世紀中頃～後半の3号・4号竪穴状遺構より古いことから、9世紀中頃以前と考えられる。

## 13号溝(第178図)

**位置** 55-T-15 **走行方向** N-30°-E  
**重複** 5号竪穴状遺構、16号溝と重複する。新旧関係は、5号竪穴状遺構、16号溝より古い。 **規模** 幅0.52～1.93m 残存深度0.19～0.22m 調査長2.32m **埋没土** 粗粒状・粒状焼土を含む。 **遺物** なし。 **時期** 9世紀中頃の5号竪穴状遺構より古いことから、9世紀中頃以前と考えられる。

## 14号溝(第178図)

**位置** 55-A・B-15 **走行方向** N-55°-E  
**重複** 22号住居、16号溝、152号土坑、35号ピットと重複する。新旧関係は、22号住居より新しく、16号溝、152号土坑、35号ピットより古い。 **規模** 幅0.22～0.34m 残存深度0.13～0.24m 調査長1.77m **埋没土** 不明。 **遺物** なし。 **時期** 9世紀末の16号溝より古いことから、9世紀末以前と考えられる。

## 15号溝(第178図)

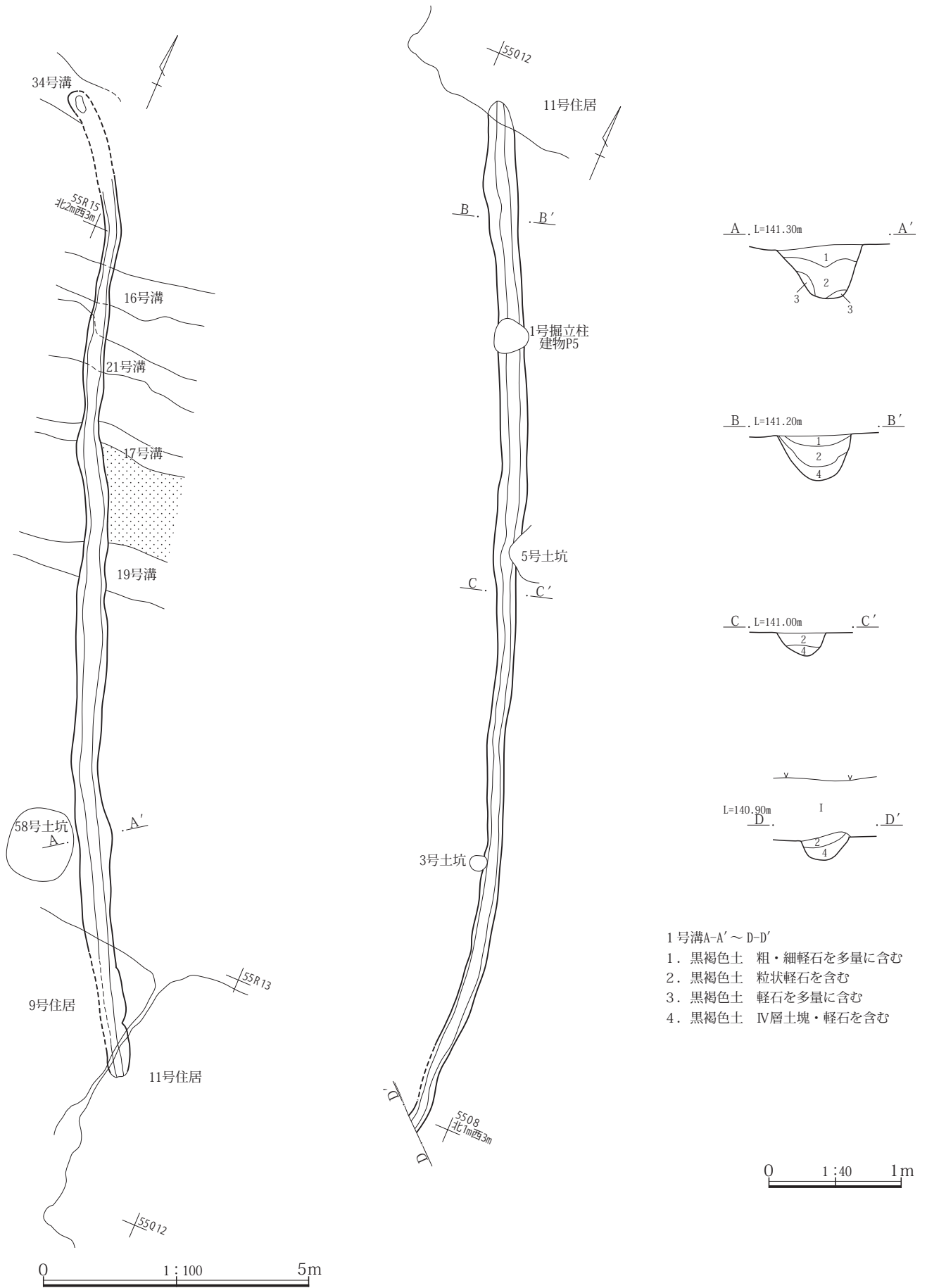
**位置** 55-A-15 **走行方向** N-15°-W  
**重複** 22号住居、4号竪穴状遺構、16号溝と重複する。新旧関係は、22号住居より新しく、4号竪穴状遺構、16号溝より古い。 **規模** 幅0.22～0.82m 残存深度0.08～0.15m 調査長1.82m **埋没土** 不明。 **遺物** なし。 **時期** 9世紀中頃～後半の4号竪穴状遺構より古いことから、9世紀中頃以前の時期と考えられる。

## 32号溝(第178図、PL.85)

**位置** 55T・56A-15・16 **走行方向** N-60°-E  
**重複** 4号・5号竪穴状遺構、35号溝、159号・162号土坑と重複する。新旧関係は、159号・162号土坑より古い。4号・5号竪穴状遺構、35号溝との新旧関係は不明である。 **規模** 幅0.76～0.93m 残存深度0.19～0.21m 調査長4.03m **埋没土** 粒状軽石・粒状焼土を含む黒褐色土。 **遺物** 須恵器皿(1)は、底面21cm上からの出土である。 **時期** 出土遺物の須恵器皿(1)から9世紀中頃以降と考えられる。

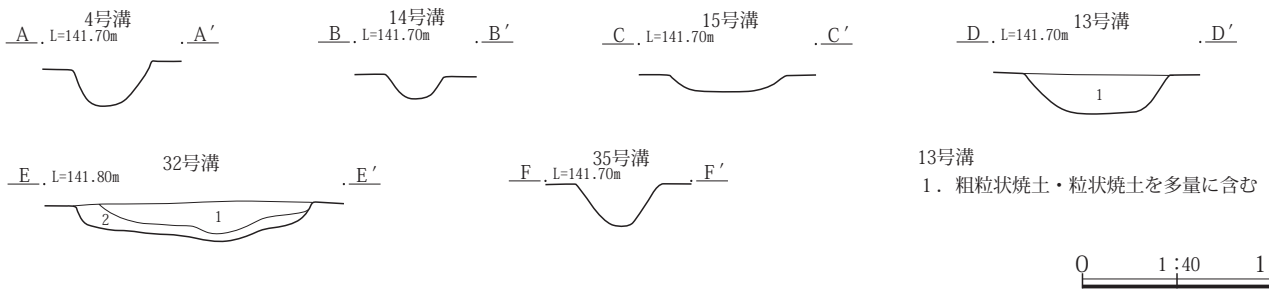
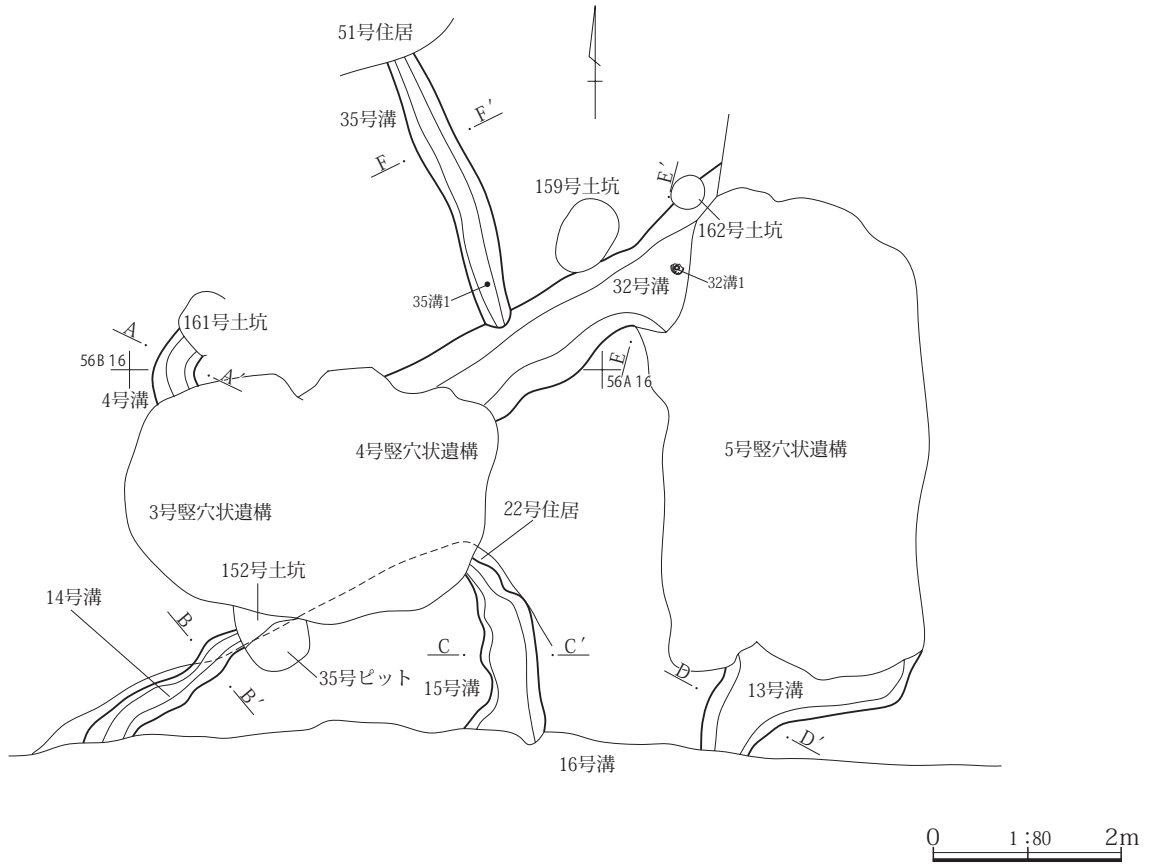
## 35号溝(第178図、PL.85)

**位置** 56-A-16 **走行方向** N-20°-W  
**重複** 51号住居、32号溝と重複する。新旧関係は、51号住居より古い。32号溝との新旧関係は不明である。 **規模** 幅0.31～0.43m 残存深度0.23～0.26m 調査長3.04m **埋没土** 不明。 **遺物** 須恵器蓋(1)は、底面24cm上からの出土である。 **時期** 出土遺物の須恵器蓋(1)から9世紀中頃と考えられる。



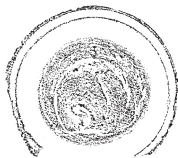
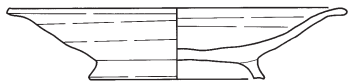
- 1号溝A-A'～D-D'
1. 黒褐色土 粗・細軽石を多量に含む
  2. 黒褐色土 粒状軽石を含む
  3. 黒褐色土 軽石を多量に含む
  4. 黒褐色土 IV層土塊・軽石を含む

第177図 1号溝



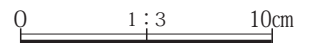
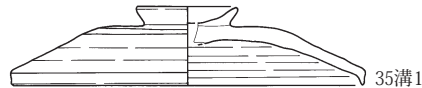
32号溝E-E'  
 1. 黒褐色土 粒状軽石・粒状焼土を少量含む  
 2. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む

32号溝



32溝1

35号溝



第178図 4号・13号～15号・32号・35号溝と32号・35号溝出土遺物

9号溝(第179図、PL.39)

**位置** 66-F・G-4 **走行方向** N-78°-W  
**重複** 中世の10号溝と重複する。新旧関係は、9号溝の方が古い。**規模** 幅0.75~0.98m 残存深度0.08~0.12m 調査長6.15m **埋没土** 粒状軽石を含む黒褐色土。**遺物** なし。**時期** 埋没土より古代の時期と考えられる。

11号溝(第180図、PL.39)

**位置** 55-Q・R-15・16 **走行方向** N-14°-W  
**重複** 1号井戸と重複する。11号溝の方が、1号井戸より古い。**規模** 幅0.48~1.83m 残存深度0.06~0.60m 調査長5.77m **埋没土** 粒状軽石・ローム粒・小ロームブロックを含む黒褐色土。**遺物** 土師器坏(1・2)、須恵器小型壺(3)を图示した。未掲載遺物は、土師器60点、須恵器16点である。**時期** 共伴する土師器坏(1・2)や須恵器小型壺(3)などの出土遺物から9世紀中頃と考えられる。

12号溝(第181図、PL.39)

**位置** 56-F~H-15~18 **走行方向** N-40°-E  
**重複** なし。**規模** 幅0.26~1.78m 残存深度0.02~0.22m 調査長15.98m **埋没土** 粒状軽石・粒状焼土を含む黒褐色土、細砂、粗砂とラミナ、ラミナのみ、細砂の順で堆積。堆積状況から、水が流れていたことが考えられる。**遺物** なし。**時期** 埋没土より古代と考えられる。

16号~21号溝(道路側溝)について

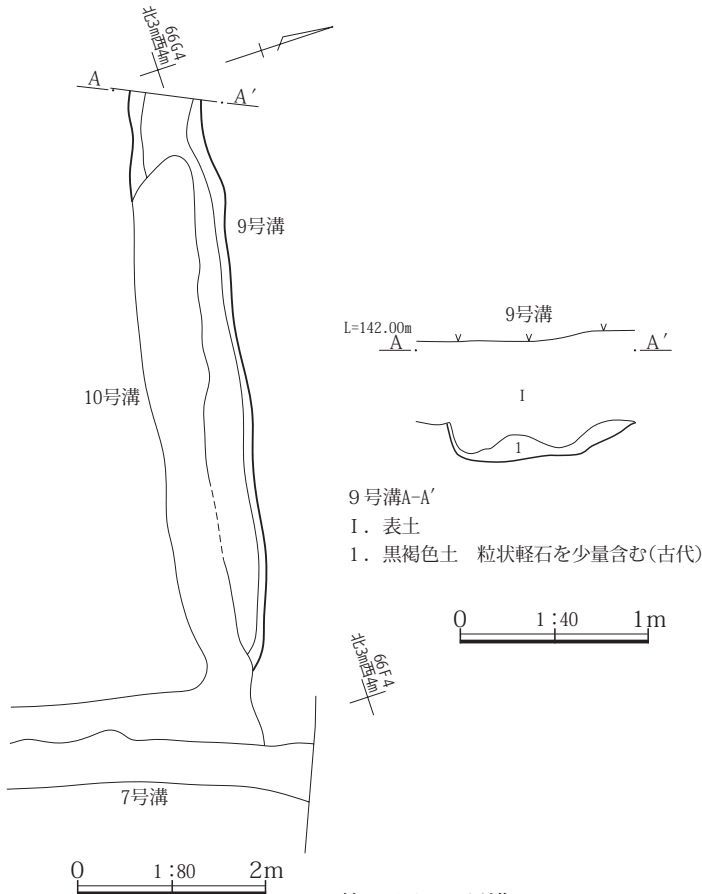
55区~56区にかけて、調査範囲の中央を東西に6条の溝がほぼ同じ走行で検出された。これらの溝と溝の間、特に17号溝と21号溝の間の一部で、硬化面を確認したことから、道路に伴う側溝と判断した。なお、18号溝と20号溝についてはその規模や走行状態などから、直接道路状遺構には伴わないとみられる。

各溝の重複関係は、平面では確認できなかったが、土層断面H-H'で17号溝と21号溝の重複関係が確認され、21号溝が新しいと判断された。なお、溝内部から出土した遺物から、時期差を見ることはできなかった。

北側の16号溝・21号溝に対して、南側の17号溝・19号溝は東側でやや角度が異なる。この走行の違いが時期的な違いを示すのか、分岐を示すのかについては明らかではない。しかし、重複などから最低でも2時期の変遷が存在したとみるのが妥当である。なお、どの溝と溝が道路の側溝として機能していたかは、土層断面観察や出土遺物などを検討したが、判断には至らなかった。ただし、単純に16号溝-21号溝と17号溝-19号溝の間を道路とすることは、硬化面の範囲から不適切と考える。なお、19号溝は途中で分断されているが、その分断地点でも硬化面が確認できたことから、側溝をもたない小路が取り付いていた可能性が考えられる。

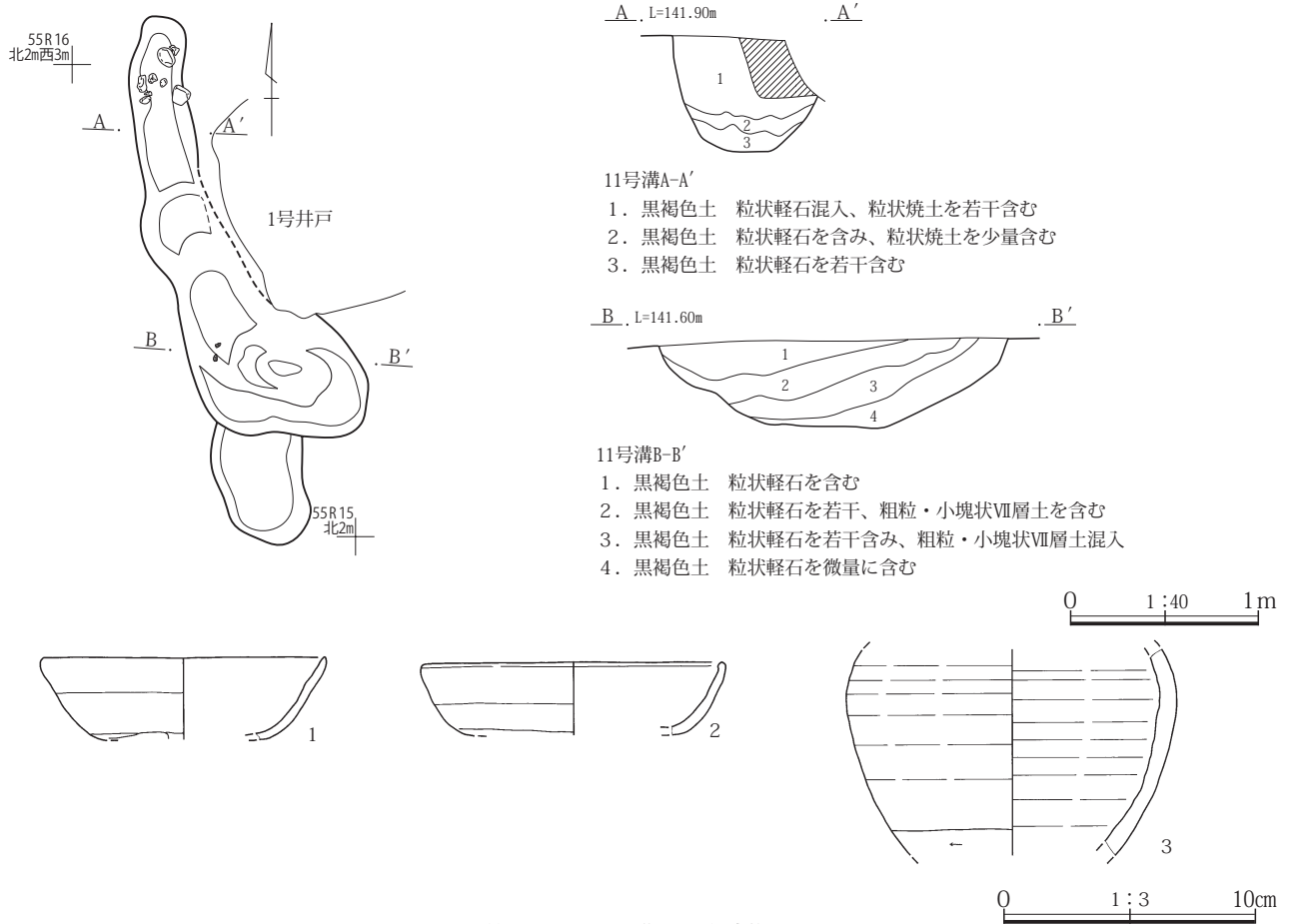
溝の幅は芯々間距離で、16号溝と19号溝の組み合わせで最大5m、その間の溝の組み合わせでは、最小2mとなる。

なお、各溝からの出土遺物は、9世紀代のものが主体を占めるが、21号溝1のような7世紀末のものも出土している。



第179図 9号溝





第180図 11号溝と出土遺物

**16号溝**(第182～186図、PL.39・40・41・85)

**位置** 55-K～T・56-A～G-14・15

**走行方向** N-85°-E

**重複** 22号住居、1号・13号～15号・20号溝、171号・656号土坑、31号ピットと重複する。新旧関係は、22号住居、13号～15号溝より新しく、1号・20号溝、171号・656号土坑、31号ピットより古い。**規模** 幅0.15～1.15m 残存深度0.06～0.43m 調査長77.95m **埋没土** 細粒状C軽石を含む褐灰色土粗粒状・細粒状軽石・粒状焼土・暗褐色ブロック・粗粒状ローム土・ロームブロックを含む黒褐色土。**遺物** 須恵器碗(1)はフク土から出土した。未掲載遺物は、16号溝と20号溝と21号溝合わせて、土師器113点、須恵器108点である。**時期** 出土遺物の須恵器碗(1)から9世紀後半と考えられる。

**17号溝**(第182～186図、PL.39・40・41・85)

**位置** 55-N～T・56-A～G-14

**走行方向** N-90° N-80°-W

**重複** 22号住居、1号・18号・20号溝と重複する。新旧

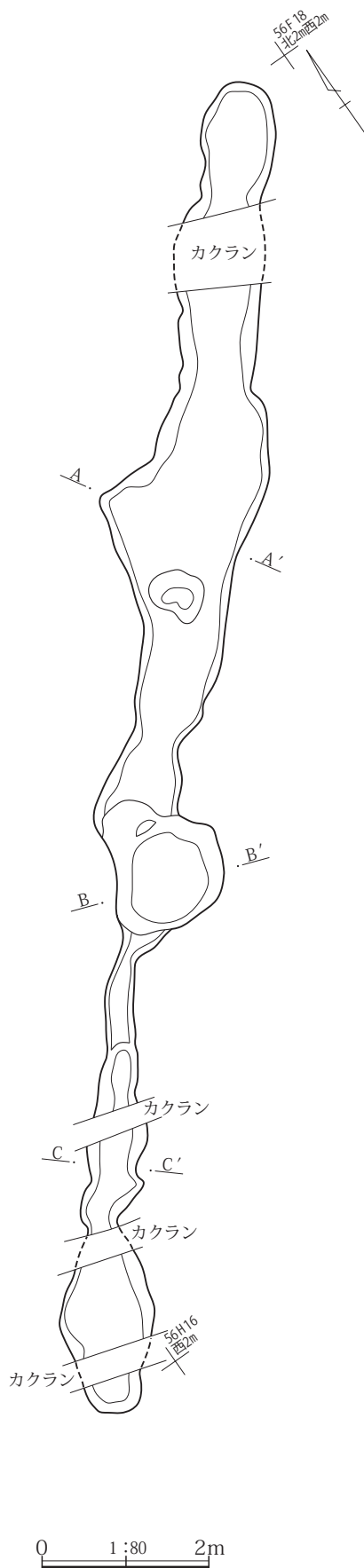
関係は、22号住居、18号溝より新しく、1号・20号溝より古い。**規模** 幅0.25～1.35m 残存深度0.07～0.66m 調査長68.20m **埋没土** 粒状・細粒状軽石・ロームブロックを含む黒褐色土。**遺物** 土師器环(1)、須恵器碗(2・3)、須恵器甕(4)を図示した。未掲載遺物は、土師器239点、須恵器71点、灰釉陶器2点である。**時期** 共伴する土師器环(1)や酸化焰焼成の須恵器碗(2)などの出土遺物から9世紀末以降と考えられる。

**18号溝**(第182～184図、PL.40・41)

**位置** 55-T・56-A～B-14 **走行方向** N-90°

**重複** 22号住居、17号溝、68号ピットと重複する。新旧関係は、22号住居、68号ピットより新しく、17号溝より古い。**規模** 幅0.30～0.48m 残存深度0.13～0.15m 調査長8.60m **埋没土** 細粒状C軽石を含む褐灰色土、粒状・細粒状軽石を含む黒褐色土。**遺物** なし。

**時期** 9世紀末以降の17号溝より古いことから、9世紀末以前と考えられる。



19号溝(第182～186図、PL.39・40・41・85)

位置 55-N～T・56-A～F-13・14

走行方向 N-90° N-80°-W 重複 1号溝、117号・141号土坑、38号・72号・73号ピットと重複する。新旧関係は、1号溝、117号・141号土坑、38号ピットより古い。72号・73号ピットとの新旧関係は不明である。

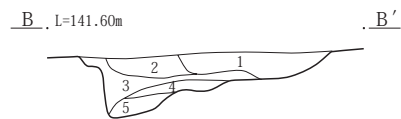
規模 幅0.35～1.35m 残存深度0.07～0.85m 調査長63.50m 埋没土 粒状・細粒状軽石・ローム粒・ロームブロックを含む黒褐色土。遺物 土師器環(1・2)、須恵器埴(3・4)、灰釉陶器埴(5)を図示した。土師器環(1)には墨書「足」が認められた。未掲載遺物は、土師器116点、須恵器60点である。

時期 共伴する土師器環(1)や酸化焰焼成の須恵器埴(3)などの出土遺物から9世紀末以降と考えられる。



12号溝A-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む



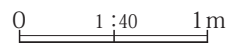
12号溝B-B'

1. 黒褐色土 粒状軽石・粒状焼土を少量含む
2. 細砂
3. 粗砂、ラミナ
4. ラミナ
5. 細砂

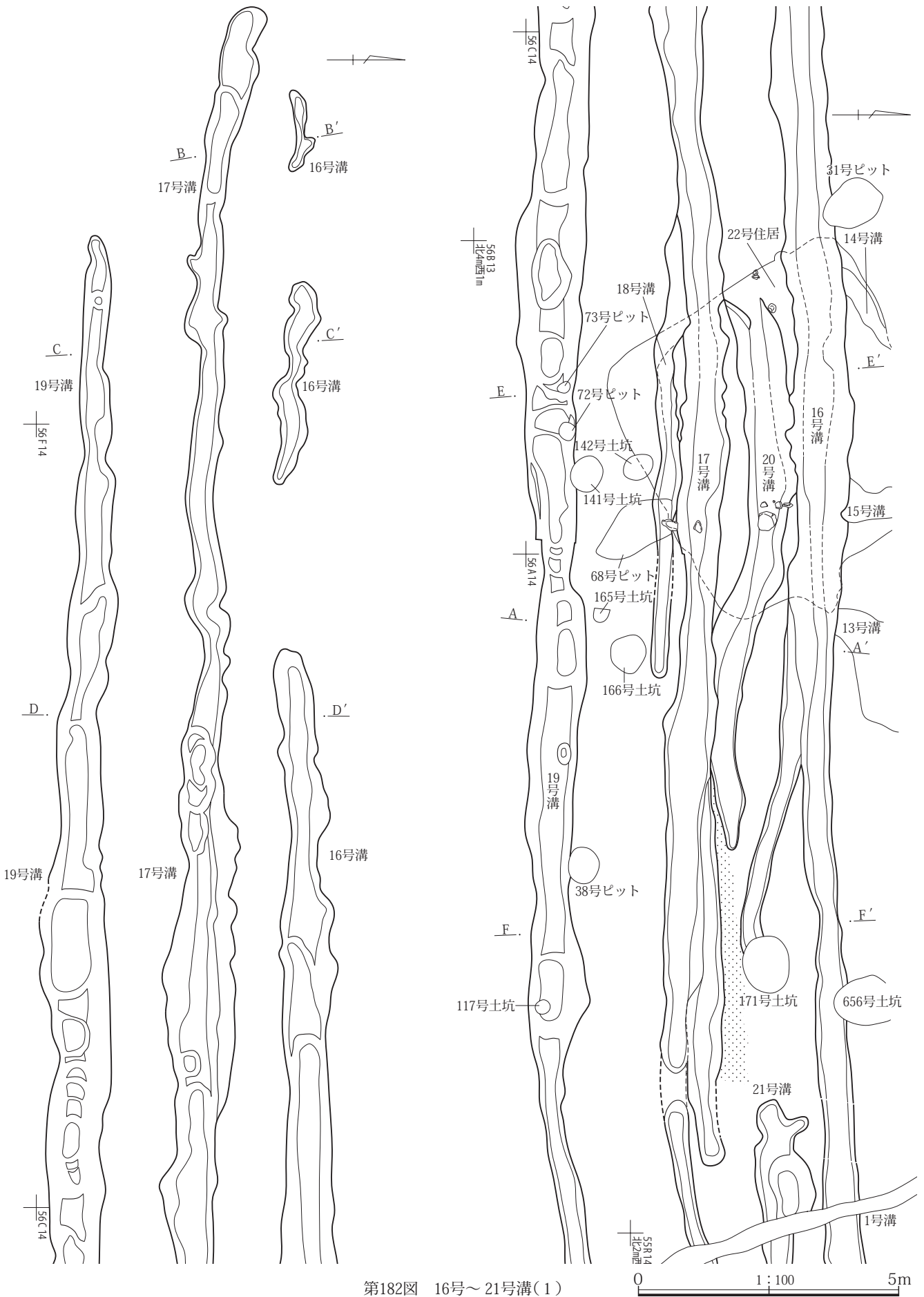


12号溝C-C'

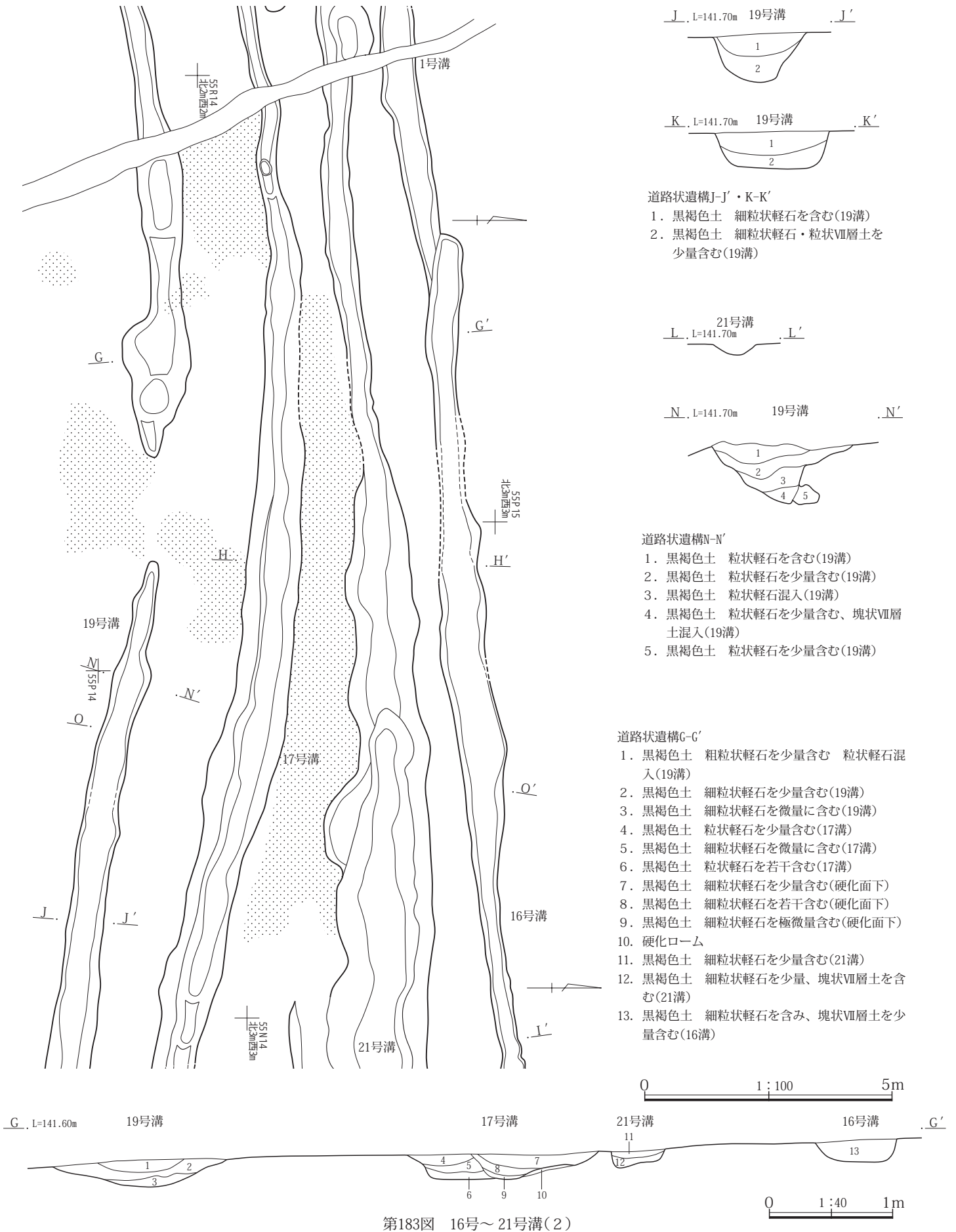
1. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む

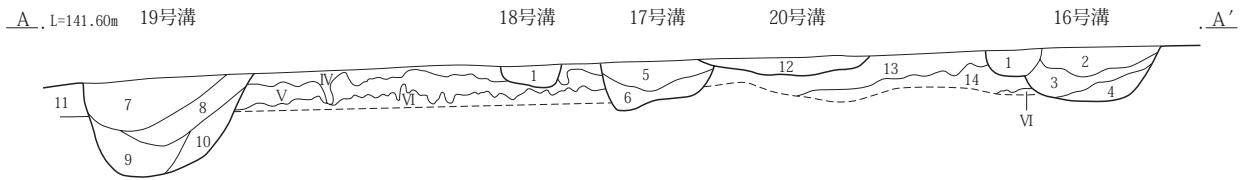


第181図 12号溝



第182図 16号～21号溝(1)





道路状遺構A-A'

1. 褐灰色土 細粒状C軽石を少量含む(16・18溝)
2. 黒褐色土 粗粒状軽石・細粒状軽石を少量、粒状焼土を微量に含む(16溝)
3. 黒褐色土 細粒状C軽石を若干、粒状焼土を少量含む(16溝)
4. 黒褐色土 細粒状C軽石を極微量、塊状V層土を含む(16溝)
5. 黒褐色土 粒状軽石を若干含む(17溝)
6. 黒褐色土 粒状軽石を微量に含む(17溝)
7. 黒褐色土 粒状軽石混入、粒状VII層土を少量含む(19溝)
8. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む(19溝)
9. 黒褐色土 粒状軽石を含む(19溝)
10. 黒褐色土 粒状軽石無し、塊状VII層土を含む(19溝)
11. 黒褐色土 粒状軽石・粗粒状軽石を少量含む
12. 黒褐色土 細粒状軽石を少量含む(20溝)
13. 黒褐色土 細粒状軽石混入、粗粒状軽石を若干含む
14. 黒褐色土 軽石無し、塊状V層土を含み、塊状VII層土を少量含む

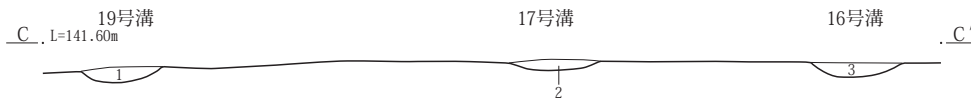


道路状遺構B-B'

1. 黒褐色土 細粒状軽石・塊状VI層土を含む(17溝)
2. 黒褐色土 細粒状軽石を少量、粒状焼土を若干含む(16溝)

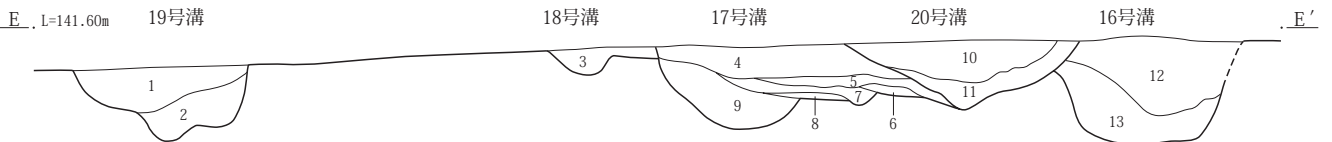
道路状遺構C-C'

1. 黒褐色土 細粒状軽石を若干、塊状VI層土を少量含む(19溝)
2. 黒褐色土 微粒状軽石を若干含む(17溝)
3. 黒褐色土 細粒状軽石を若干、粗粒状VII層土を少量含む(16溝)



道路状遺構D-D'

1. 黒褐色土 細粒状軽石を若干、塊状VI層土を含む(19溝)
2. 黒褐色土 細粒状軽石を若干含む(17溝)
3. 黒褐色土 細粒状軽石を微量に、塊状VI層土を少量含む(16溝)

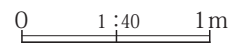
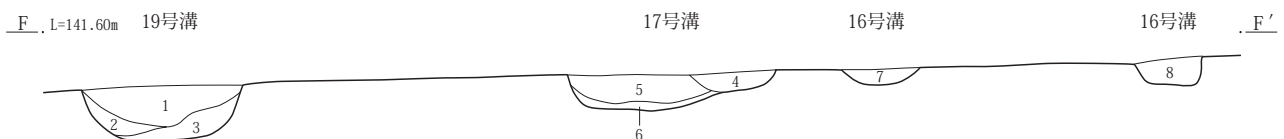


道路状遺構E-E'

1. 黒褐色土 粒状軽石混入(19溝)
2. 黒褐色土 細粒状軽石を少量含む(19溝)
3. 黒褐色土 粗粒状軽石を少量、粒状軽石を含む(18溝)
4. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む(17溝)
5. 黒褐色土 (17溝)
6. 黒褐色土 細粒状軽石を若干含む、硬質(17溝)
7. 黒褐色土 細粒状軽石を少量含む、硬質(17溝)
8. 黒褐色土 (17溝)
9. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む(17溝)
10. 黒褐色土 細粒状軽石を若干含む(20溝)
11. 黒褐色土 粗粒状軽石を少量含む、粒状軽石混入(20溝)
12. 黒褐色土 粒状軽石を含む(16溝)
13. 黒褐色土 粗粒状軽石混入(16溝)

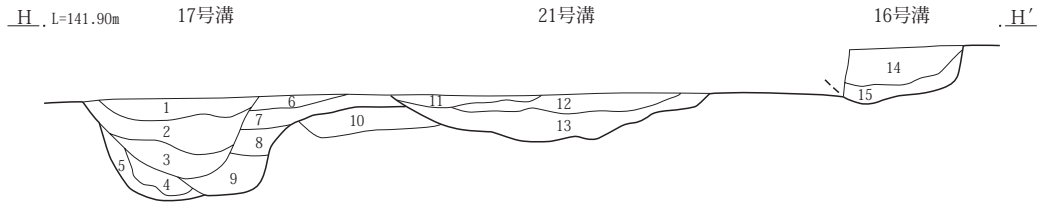
道路状遺構F-F'

1. 黒褐色土 粒状軽石混入(19溝)
2. 黒褐色土 粒状軽石を若干含む(19溝)
3. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む(19溝)
4. 黒褐色土 粒状軽石を含む(17溝)
5. 黒褐色土 細粒状軽石を微量に含む(17溝)
6. 黒褐色土 細粒状軽石を若干含む(17溝)
7. 黒褐色土 粒状軽石を若干含む(16溝)
8. 黒褐色土 粒状軽石混入(16溝)



第184図 16号～20号溝セクション図

第3章 調査の内容

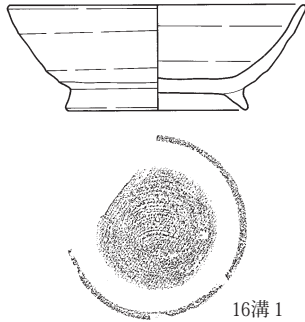


道路状遺構H-H'

- 1. 黒褐色土 粒状軽石を含む(17溝)
- 2. 黒褐色土 細粒状軽石を若干含む(17溝)
- 3. 黒褐色土 細粒状軽石を少量含む(17溝)
- 4. 黒褐色土 粒状軽石を微量に含む
- 5. 黒褐色土 細粒状軽石を若干含む
- 6. 黒褐色土 細粒状軽石を微量含む(硬化している)
- 7. 黒褐色土 細粒状軽石を微量、塊状VII層土を含む

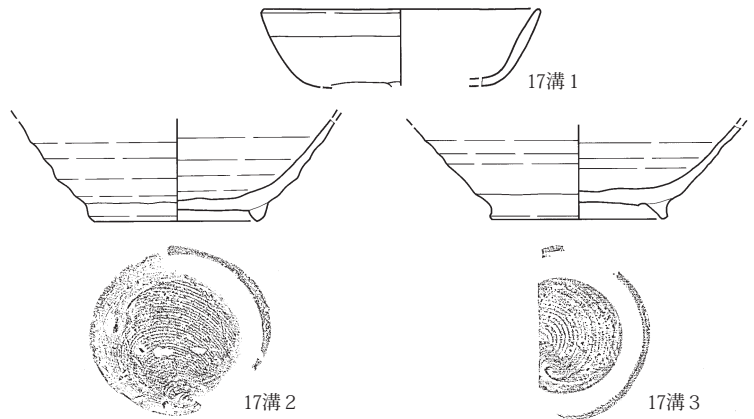
- 8. 黒褐色土 細粒状軽石を微量、塊状VII層土を若干含む
- 9. 塊状VII層土と塊状VI層土主体
- 10. 黒褐色土 粒状軽石を極微量含む(硬化層)
- 11. 黒褐色土 細粒状軽石を微量含む(21溝)
- 12. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む(21溝)
- 13. 黒褐色土 粒状軽石を若干、粗粒状焼土を少量含む(21溝)
- 14. 黒褐色土 粒状軽石混入(16溝)
- 15. 黒褐色土 粒状軽石を若干含む(16溝)

16号溝



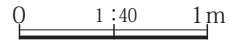
16溝 1

17号溝

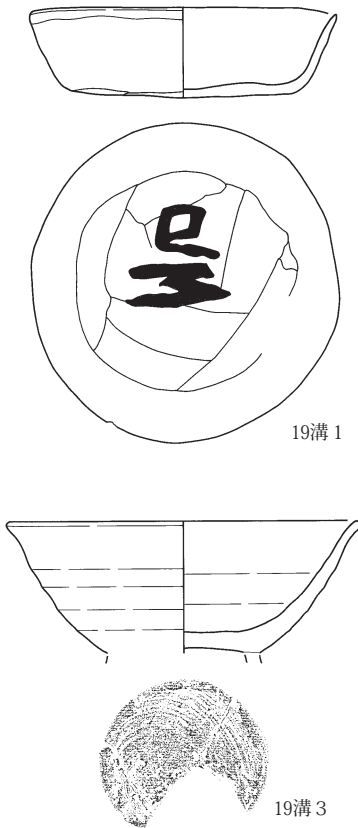


17溝 2

17溝 3



19号溝



19溝 1

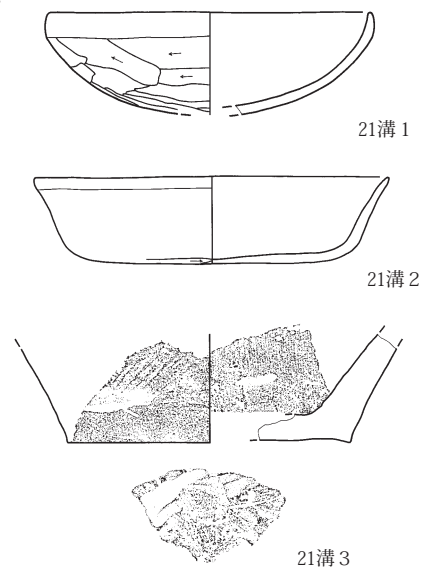
19溝 2

19溝 4

19溝 3

19溝 5

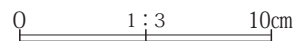
21号溝



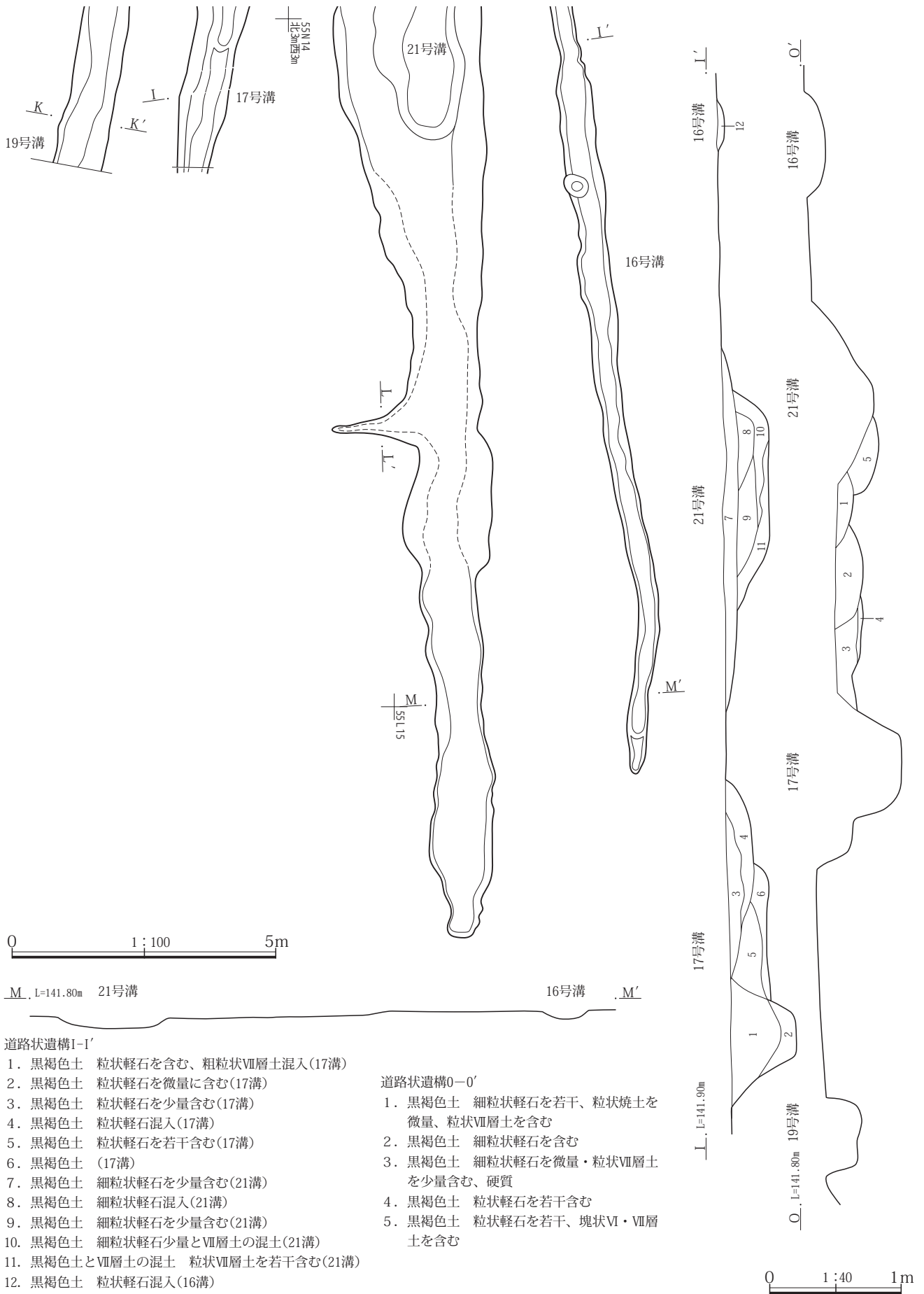
21溝 1

21溝 2

21溝 3



第185図 16号・17号・21号溝セクション図と16号・17号・19号・21号溝出土遺物



第186図 16号～21号溝(3)

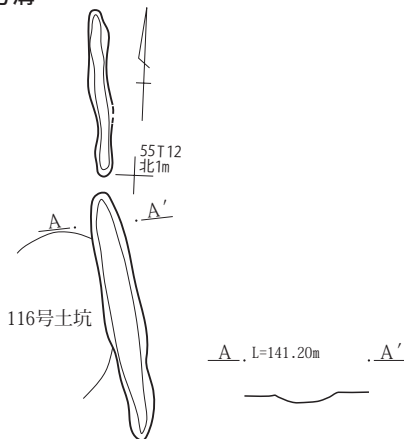
20号溝(第182・184図、PL.39～41)

**位置** 55-S～56-A-14・15 **走行方向** N-90°  
**重複** 22号住居、16号・17号溝と重複する。新旧関係は、22号住居がもっとも古く、16号溝、17号溝、20号溝の順となる。**規模** 幅0.55～0.93m 残存深度0.06～0.21m 調査長10.45m **埋没土** 細粒状・粗粒状軽石を含む黒褐色土。**遺物** 未掲載遺物は、16号溝と20号溝と21号溝合わせて、土師器113点、須恵器108点である。  
**時期** 16号溝や17号溝より新しいことから9世紀末以降と考えられる。

21号溝(第182・183・185・186図、PL.39～41・85)

**位置** 55-K～R-14・15 **走行方向** N-90°  
**重複** 1号溝と重複する。新旧関係は、1号溝の方が新しい。  
**規模** 幅0.38～2.76m 残存深度0.05～0.43m 調査長38.25m **埋没土** 細粒状・粒状軽石・ロームブロック・粗粒状焼土を含む黒褐色土。**遺物** 土師器坏(1・2)と須恵器甕(3)を図示した。土師器坏(1)は、7世紀後半に見られる丸底の口縁部が内湾する坏で混入品である。未掲載遺物は、16号溝と20号溝と21号溝合わせて、土師器113点、須恵器108点と21号溝単独で土師器27点、須恵器7点である。**時期** 共伴する土師器坏(2)や須恵器甕(3)などの出土遺物から9世紀中頃と考えられる。

22号溝



22号溝(第187図、PL.40)

**位置** 55-S・T-11・12 **走行方向** N-9°-W  
**重複** 116号土坑と重複する。116号土坑の方が古い。  
**規模** 幅0.14～0.42m 残存深度0.03～0.06m 調査長4.58m **埋没土** 不明。**遺物** 未掲載遺物は、22号～25号溝で合わせて、土師器31点、須恵器3点、灰釉陶器1点である。**時期** 未掲載遺物から、9世紀代と考えられる。**所見** 調査時には、畠跡として22号～25号溝をまとめて扱っていたが、整理段階で溝として判断し、それぞれ番号を振った。

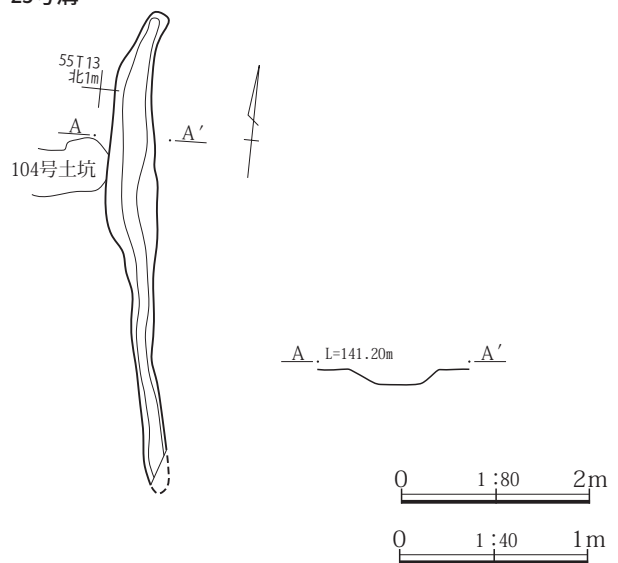
23号溝(第187図、PL.40)

**位置** 55-S-12・13 **走行方向** N-10°-W  
**重複** 104号土坑と重複する。104号土坑の方が古い。  
**規模** 幅0.17～0.55m 残存深度0.04～0.08m 調査長5.04m **埋没土** 不明。**遺物** 未掲載遺物は、22号～25号溝で合わせて、土師器31点、須恵器3点、灰釉陶器1点である。**時期** 未掲載遺物から、9世紀代と考えられる。

24号溝(第188図、PL.40)

**位置** 55-R・S-11・12  
**走行方向** N-10°-W N-35°-W  
**重複** 25号溝と重複する。新旧関係は、不明である。

23号溝



第187図 22号・23号溝



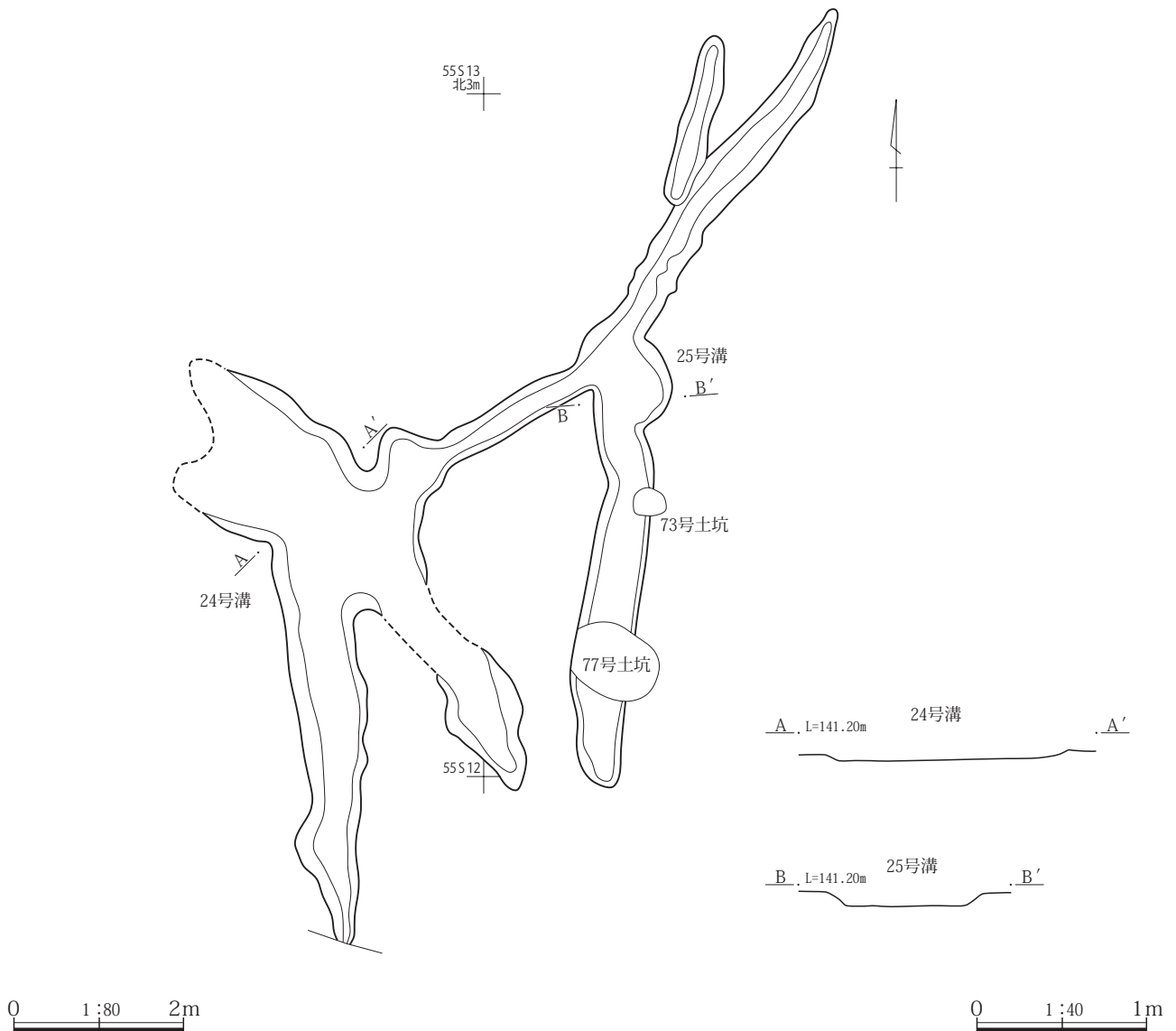
**規模** 幅0.26～1.74m 残存深度0.02～0.11m 調査長7.03m **埋没土** 不明。 **遺物** 未掲載遺物は、22号～25号溝で合わせて、土師器31点、須恵器3点、灰釉陶器1点である。 **時期** 未掲載遺物から、9世紀代と考えられる。

**25号溝**(第188図、PL.40)

**位置** 55-R・S-11～13

**走行方向** N-8°-E N-33°-E

**重複** 24号溝、73号・77号土坑と重複する。新旧関係は、73号・77号土坑の方が新しい。24号溝との新旧関係は、不明である。 **規模** 幅0.20～0.92m 残存深度0.03～0.13m 調査長9.88m **埋没土** 不明。 **遺物** 未掲載遺物は、24号溝と合わせて、土師器31点、須恵器3点、灰釉陶器1点である。 **時期** 未掲載遺物から、9世紀代と考えられる。 **所見** 調査時には、畠跡として24号・25号溝をまとめて扱っていたが、整理段階で溝として判断し、2つに分けた。



第188図 24号・25号溝

33号溝(第189図)

位置 55-Q-11 走行方向 N-5°-E

重複 41号土坑と重複する。新旧関係は、41号土坑の方が新しい。規模 幅0.30~0.42m 残存深度0.02~0.04m 調査長1.75m 埋没土 不明。遺物 なし。

時期 遺構検出面から、古代と考えられる。

34号溝(第189図)

位置 55-R-S-15・16 走行方向 N-80°-W

重複 663号土坑と重複する。新旧関係は、663号土坑の方が新しい。

規模 幅0.48~0.88m 残存深度0.14~0.29m 調査長4.95m 埋没土 粒状軽石・ロームブロックを含む黒褐色土。遺物 未掲載遺物は、土師器7点、須恵器1点である。時期 未掲載遺物から、9世紀代と考えられる。

6. 道

1号道(第190図、PL.42)

位置 56-B・C-11・12 走行方向 N-33°-W

重複 46号住居、139号土坑と重複する。新旧関係は、46号住居、139号土坑の方が新しい。規模 幅0.23~0.59m 残存深度0.04~0.22m 調査長6.38m

埋没土 As-C、Hr-FA混入の黒色土。遺物 なし。

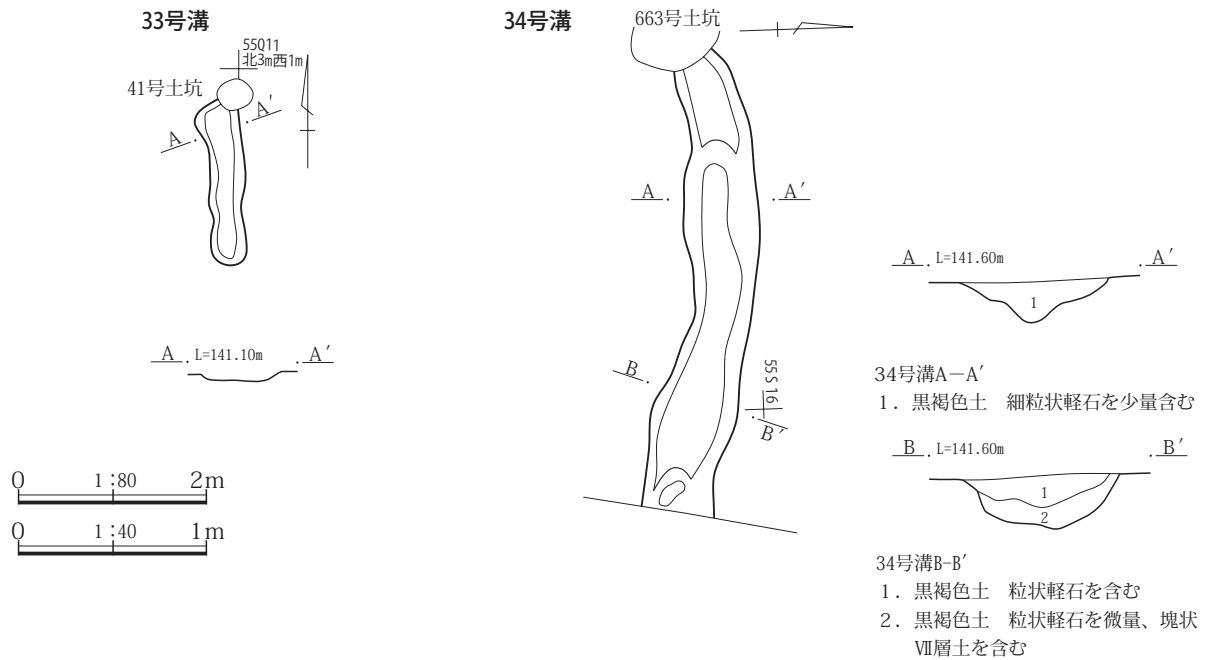
時期 遺構検出面から、古代と考えられる。

3号道(第190図、PL.42)

位置 67-A・B-8~10 走行方向 N-18°-W

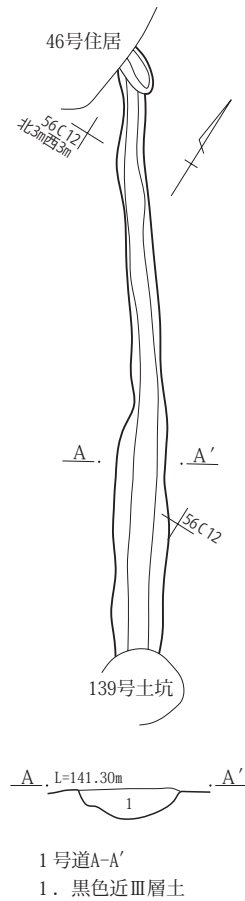
重複 なし。規模 幅0.34~1.15m 残存深度0.08~0.19m 調査長8.96m 埋没土 砂礫層を伴う黒褐色土、As-C、Hr-FA混入の黒色土が硬化した層。遺物

未掲載遺物は、縄文土器が13点である。時期 遺構検出面から、古代と考えられる。

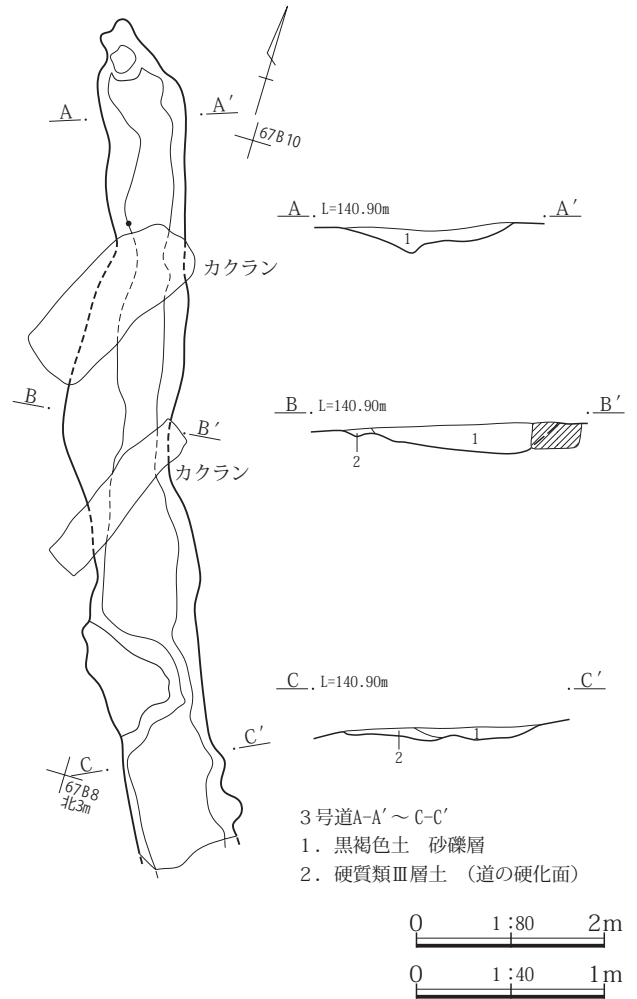


第189図 33号・34号溝

1号道



3号道



第190図 1号・3号道

7. 井戸

1号井戸(第191図、PL.42・85)

位置 55-Q-15

重複 11号溝と重複する。新旧関係は、11号溝より1号井戸の方が新しい。

形状 ほぼ正方形

規模 長径2.97m 短径2.45m 残存深度2.88m

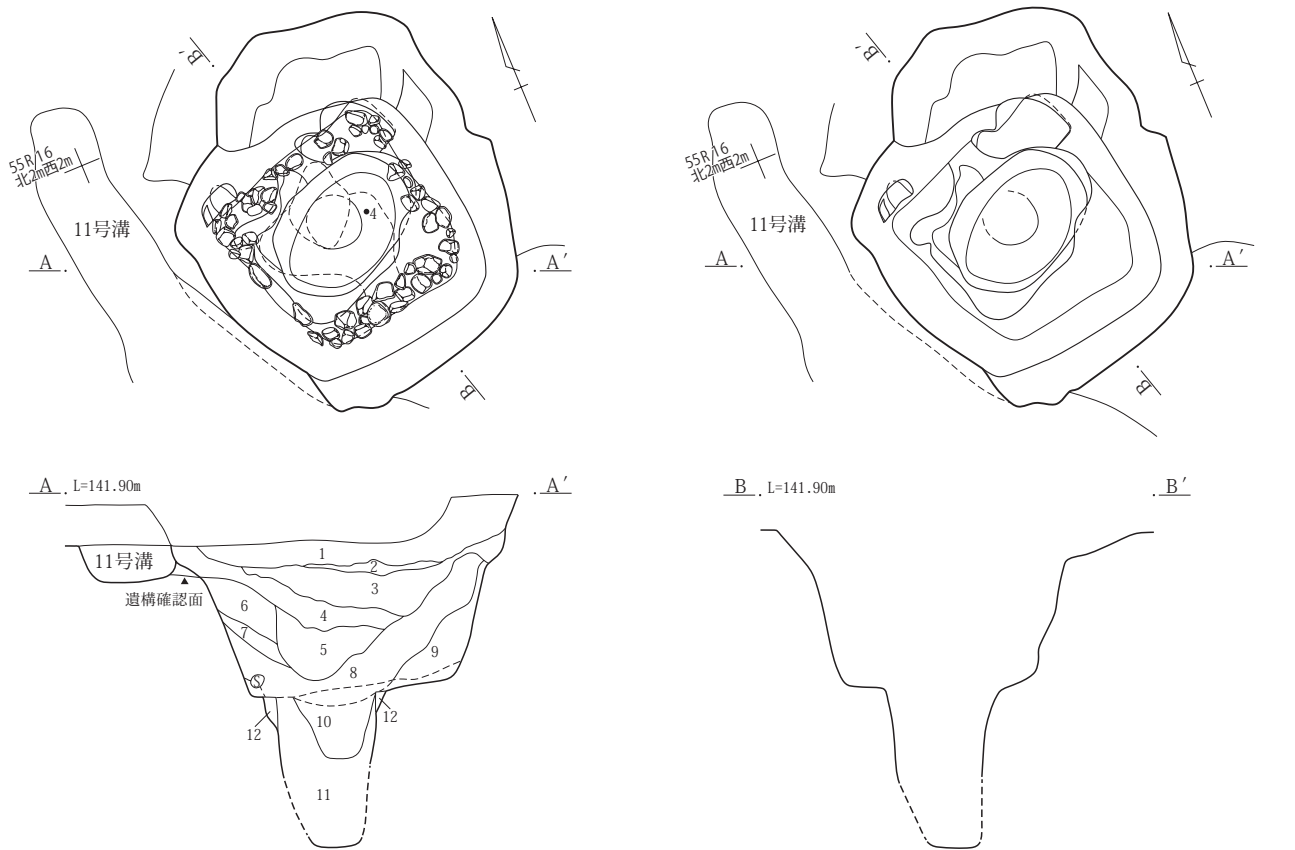
主軸方位 N-16°-W 断面形 上半部は逆台形状、下半部は円筒形を呈す。中位に幅10~30cmのテラス状の段が巡る。

埋没土 上層は、白色軽石と粒状軽石、ローム粒子、焼

土を含む暗褐色土で、中層は白色軽石と粒状軽石、ロームブロックを含む黄褐色土、下層は粒状軽石、ロームブロックを含む黒褐色土で埋まっていた。

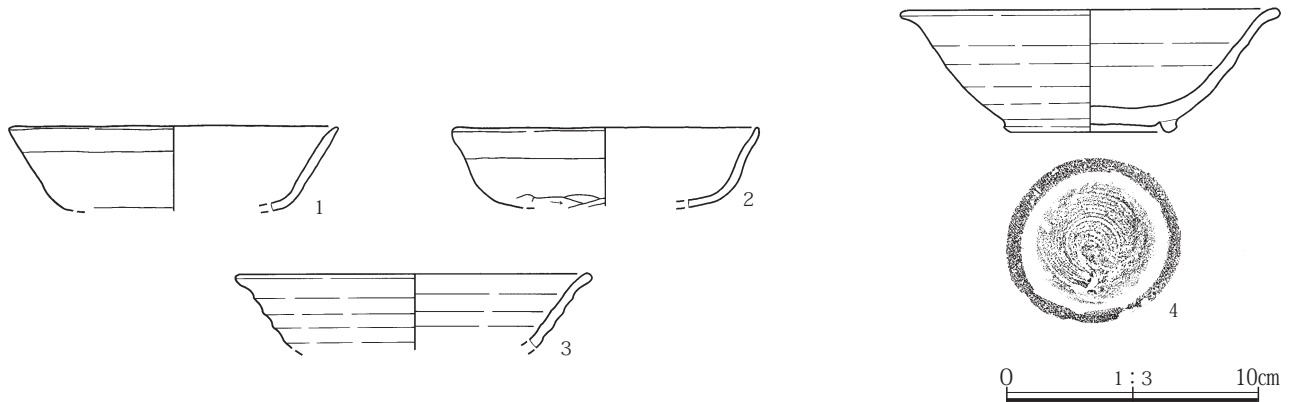
遺物 土師器2点、須恵器2点が出土した。フク土から出土した土師器坏(1・2)、須恵器坏(3)と、底面18cm上から出土した須恵器碗(4)である。未掲載遺物は、土師器73点、須恵器34点である。

時期 井戸底部付近から出土した須恵器碗(4)から、9世紀末の井戸と考えられる。



1号井戸A-A'

1. 暗褐色土 白色粒子と粒状軽石を多量、ローム粒を少量、焼土を微量に含む
2. 暗褐色土 白色粒子と粒状軽石を含み、ローム粒を多量、焼土を微量に含む
3. 暗褐色土 白色粒子と粒状軽石を含み、ローム粒を少量、焼土を微量に含む
4. 暗褐色土 白色粒子と粒状軽石を若干、ローム粒を少量、焼土を微量に含む
5. 暗褐色土 白色粒子と粒状軽石を若干、ローム粒を多量に含む
6. にぶい黄褐色土 白色粒子と粒状軽石を若干、ローム塊(VI・VII層土)を少量含む
7. 灰黄褐色土 白色粒子と粒状軽石・ローム塊(VI・VII層土)を若干含む
8. 黄褐色土 白色粒子と粒状軽石を若干、ローム塊(VI・VII層土)を多量に含む
9. オリーブ褐色土 白色粒子と粒状軽石を若干、ローム塊(VI・VII層土)を極多量に含む(硬質)井筒の裏込の可能性有り
10. 黒褐色土 粒状軽石を若干、塊状VII層土を少量含む
11. 黒褐色土 粒状軽石を若干含む、塊状VII層土混入
12. 黒褐色土 粒状軽石を微量、塊状VII層土を若干含む



第191図 1号井戸と出土遺物

## 8. 土坑

検出された奈良・平安時代の土坑は、253基(2号～12号・14号～113号・115号～117号・119号～194号・201号～207号・214号・215号・218号・219号・224号・263号・264号・270号～272号・282号・283号・285号・507号・558号・559号・634号～664号・666号～668号・670号～674号・681号土坑)である。多くは、奈良・平安時代の遺構の多い55・56・65・66区にある。遺構確認面や埋没土の様子から、奈良・平安時代の土坑と認定した。そのうち報告するのは、遺物の出土した29号・88号・115号・205号・507号・672号土坑の6基である。(第28表土坑一覧表参照)

## 29号土坑(第193図)

**位置** 55-P-11 **重複** 1号掘立柱建物P6と重複する。新旧関係は、1号掘立柱建物P6より古い。

**形状** 楕円形

**規模** 長軸0.97m 短軸0.76m 残存深度0.24m

**長軸方位** N-29°-W **埋没土** 粒状軽石を多量に含むにぶい黄褐色土・ブロック状の暗褐色土、粒状軽石を含む黒褐色土。**遺物** 須恵器蓋(1)がフク土から出土した。未掲載遺物では、土師器2点、須恵器1点が出土した。**時期** 出土遺物の須恵器蓋(1)から9世紀中頃の時期と考えられる。

## 88号土坑(第197図、PL.43)

**位置** 55-S-13 **重複** 7号ピットと重複する。新旧関係は、7号ピットより古い。

**形状** 隅丸長方形

**規模** 長軸1.46m 短軸0.72m 残存深度0.41m

**長軸方位** N-10°-E **埋没土** 粒状軽石を多量に含むにぶい黄褐色土・ブロック状の暗褐色土や粒状軽石を含む黒褐色土。**遺物** 須恵器坏(1)がフク土から出土した。未掲載遺物では、土師器35点、須恵器4点が出土した。**時期** 出土遺物の須恵器坏(1)から9世紀中頃の時期と考えられる。

## 115号土坑(第199図、PL.44・85)

**位置** 55-T-12 **重複** なし。

**形状** 楕円形

**規模** 長軸1.28m 短軸0.89m 残存深度0.17m

**長軸方位** N-66°-E **埋没土** 粒状軽石を多量に含むにぶい黄褐色土と暗褐色土をブロック状に含む黒褐色土。**遺物** 土師器坏(1)がフク土から出土した。未掲載遺物では、土師器1点、須恵器3点が出土した。

**時期** 出土遺物の土師器坏(1)から9世紀中頃の時期と考えられる。

## 205号土坑(第204図)

**位置** 55-P-9 **重複** なし。

**形状** 楕円形

**規模** 長軸0.72m 短軸0.64m 残存深度0.10m

**長軸方位** N-11°-E **埋没土** 粒状軽石を多量に含むにぶい黄褐色土が堆積していた。**遺物** 須恵器蓋(1)がフク土から出土した。未掲載遺物では、土師器4点が出土した。**時期** 出土遺物の須恵器蓋(1)から9世紀末の時期と考えられる。

## 507号土坑(第205図、PL.85)

**位置** 67-E-5 **重複** なし。

**形状** 楕円形

**規模** 長軸1.09m 短軸0.53m 残存深度0.41m

**長軸方位** N-10°-W **埋没土** 不明。

**遺物** 砥石(1)がフク土から出土した。未掲載遺物なし。

**時期** 出土遺物の砥石(1)では、時期を判断することはできない。遺構確認面から、奈良・平安時代の時期と考えられる。

## 672号土坑(第208図、PL.85)

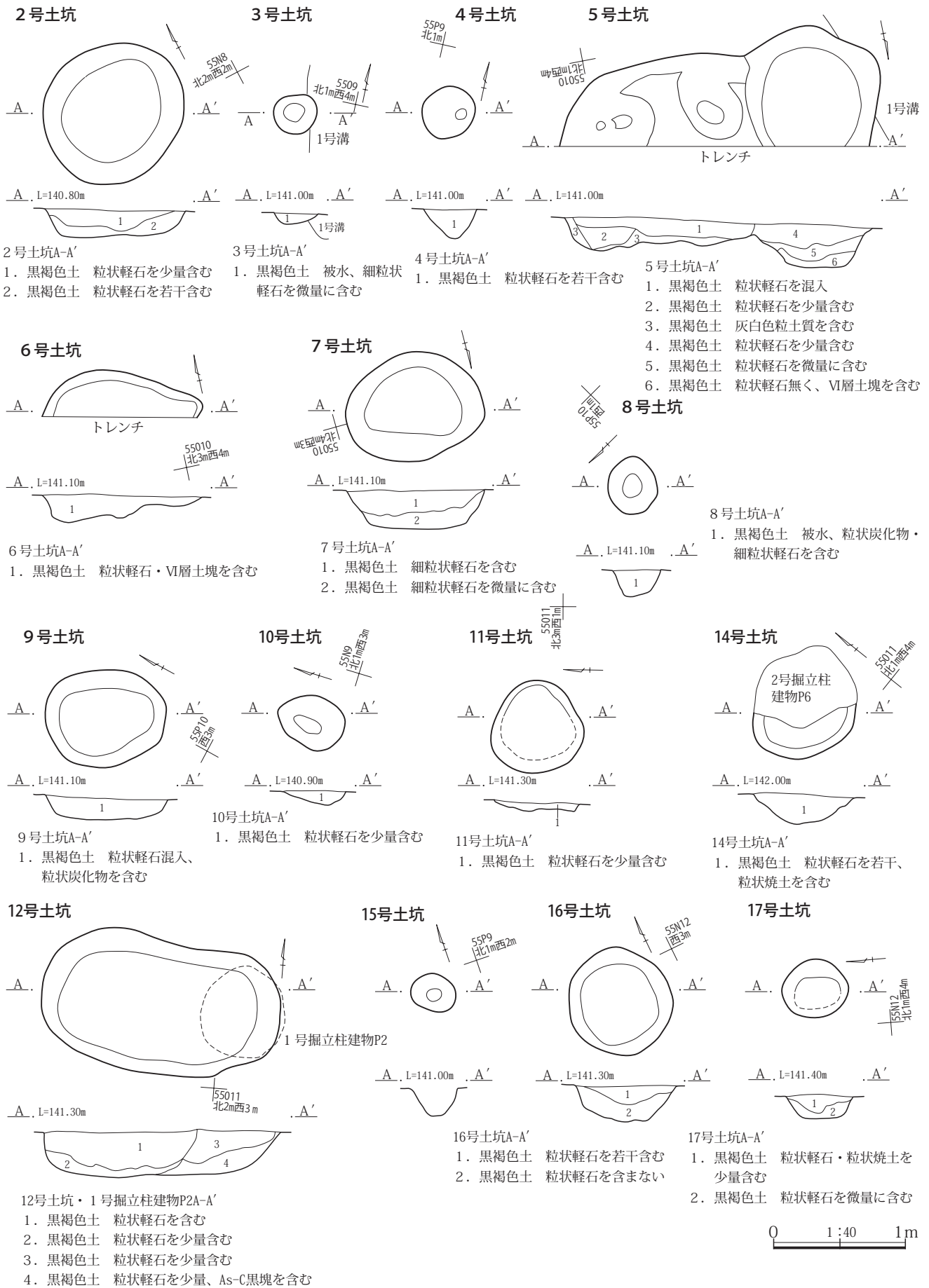
**位置** 56-C-19 **重複** 19号住居と重複する。新旧関係は、19号住居より新しい。

**形状** 楕円形

**規模** 長軸1.84m 短軸1.05m 残存深度0.36m

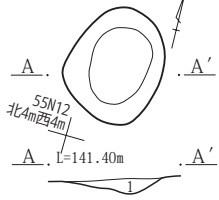
**長軸方位** N-53°-E **埋没土** 粒状軽石・ロームブロックを含む黒褐色土。**遺物** 底面33cmの上から蛇紋岩製の全面に光沢を帯びている石製品(1)が出土した。未掲載遺物では、土師器2点、須恵器4点が出土した。

**時期** 9世紀中頃～後半の19号住居より新しいことから9世紀後半以降の時期と考えられる。



第192図 2号～12号・14号～17号土坑

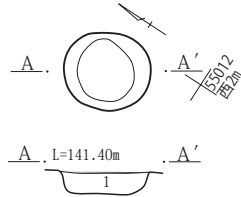
18号土坑



18号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む

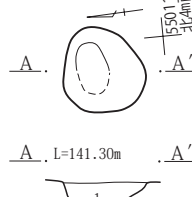
19号土坑



19号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石を少量、V層土粗粒を多量に含む

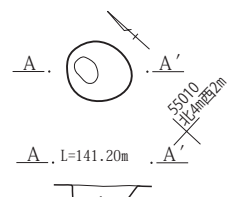
20号土坑



20号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石を含む、攪乱多い

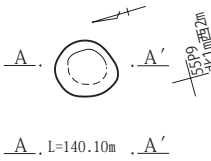
21号土坑



21号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む

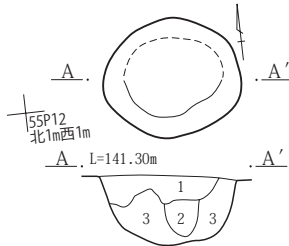
22号土坑



22号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む

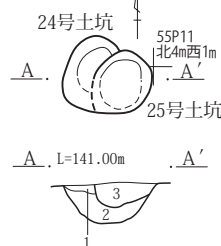
23号土坑



23号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む  
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む  
3. 灰黄褐色土 粒状軽石を多量に、暗褐色土を塊状に含む

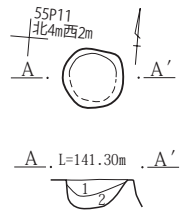
24号・25号土坑



24号・25号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む  
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、粒状軽石を若干含む  
3. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む

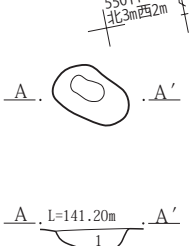
26号土坑



26号土坑A-A'

1. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む  
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量含む

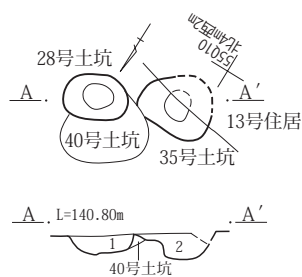
27号土坑



27号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、暗褐色土を塊状に少量含む

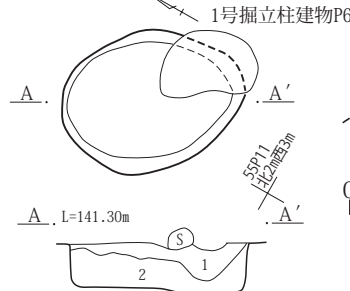
28号・35号土坑



28号・35号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む  
2. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、粒状焼土を含む

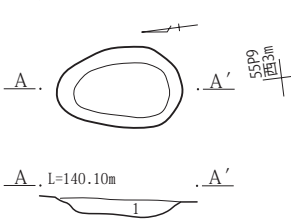
29号土坑



29号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む  
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、粒状軽石を若干含む

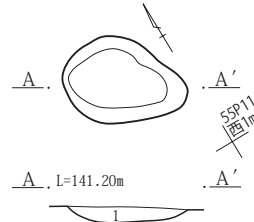
30号土坑



30号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む

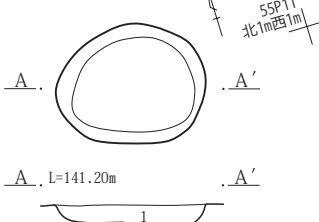
31号土坑



31号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む

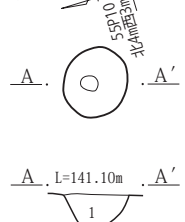
32号土坑



32号土坑A-A'

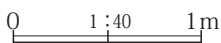
1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、暗褐色土を塊状に少量含む

33号土坑



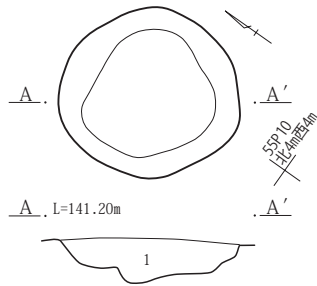
33号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、暗褐色土を塊状に少量含む



第193図 18号～33号・35号土坑と29号土坑出土遺物

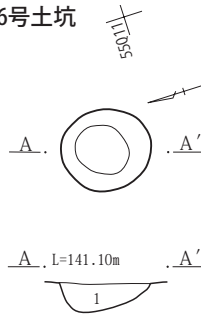
34号土坑



34号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む

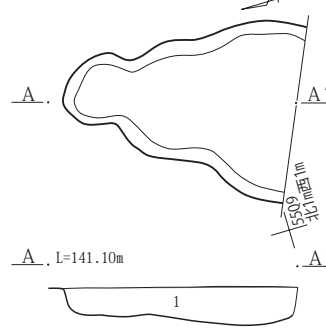
36号土坑



36号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む

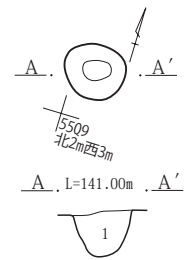
37号土坑



37号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む

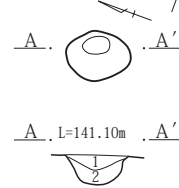
38号土坑



38号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む

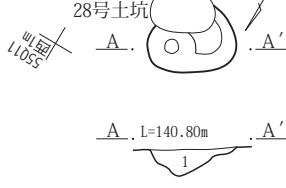
39号土坑



39号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量含む

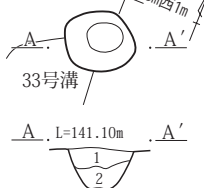
40号土坑



40号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、焼土粒・炭化物粒を若干含む

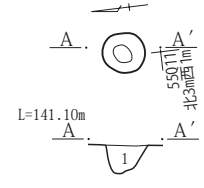
41号土坑



41号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、暗褐色土を塊状に少量含む

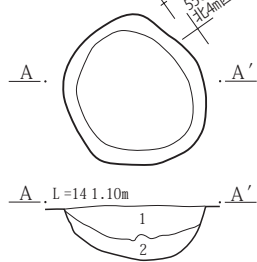
42号土坑



42号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、暗褐色土を塊状に少量含む

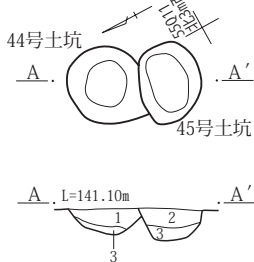
43号土坑



43号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、暗褐色土を塊状に少量含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、粒状軽石を若干含む

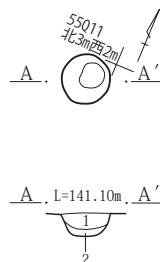
44号・45号土坑



44号・45号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む
3. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量含む

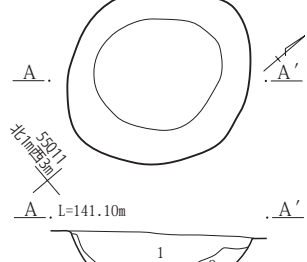
46号土坑



46号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、粒状軽石を若干含む

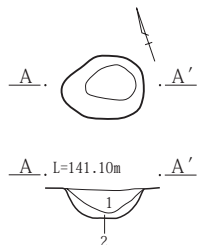
47号土坑



47号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、粒状軽石を若干含む

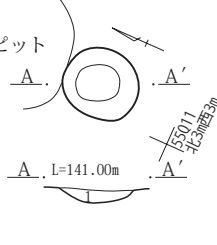
48号土坑



48号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、粒状軽石を若干含む

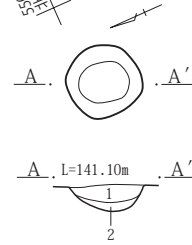
49号土坑



49号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、粒状軽石を若干含む

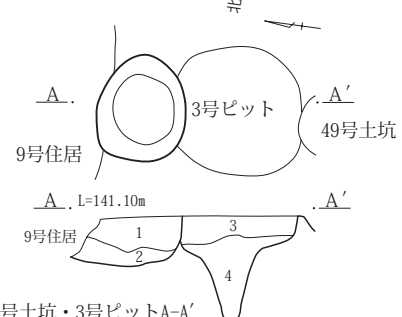
50号土坑



50号土坑A-A'

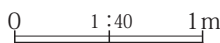
1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、粒状軽石を若干含む

51号土坑



51号土坑・3号ピットA-A'

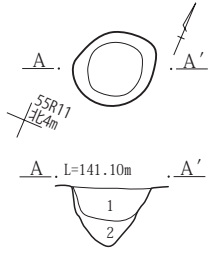
1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む
3. 灰黄褐色土 粒状軽石を若干含む
4. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、粒状軽石を若干含む



第194図 34号・36号～51号土坑



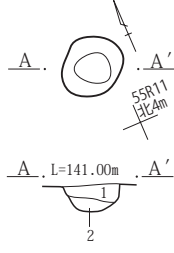
52号土坑



52号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む

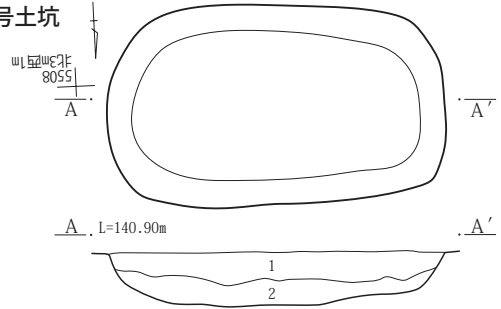
53号土坑



53号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、粒状軽石を若干含む

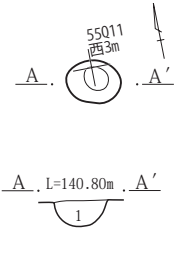
54号土坑



54号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む

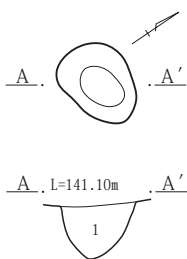
55号土坑



55号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、褐色土(VI層土)を塊状に多量に含む

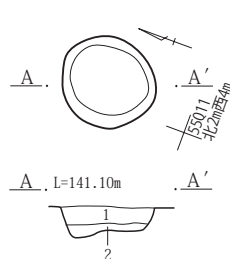
56号土坑



56号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む

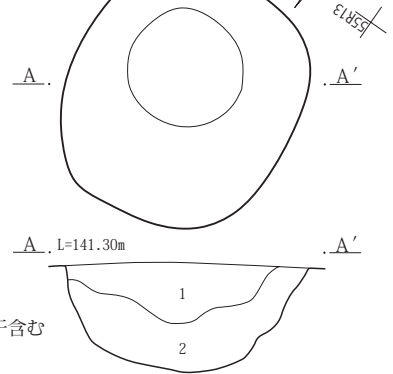
57号土坑



57号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、粒状軽石を若干含む

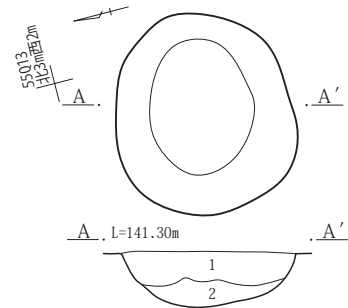
58号土坑



58号土坑A-A'

1. にぶい褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 白色粒子を若干含む

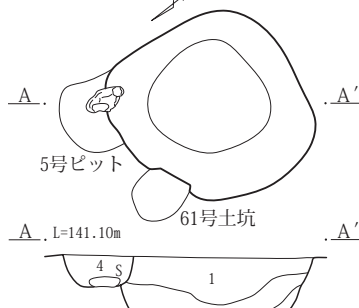
59号土坑



59号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む

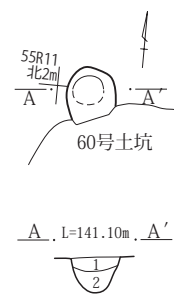
60号土坑



60号土坑・5号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、粒状軽石を若干含む
3. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量含む
4. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む

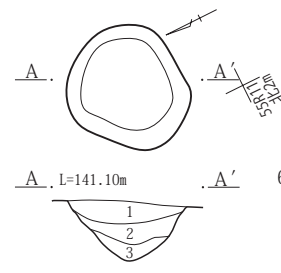
61号土坑



61号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む

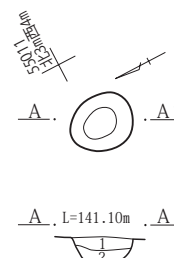
62号土坑



62号土坑A-A'

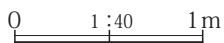
1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む
3. 褐色ローム塊主体 粒状軽石を若干含む

63号土坑

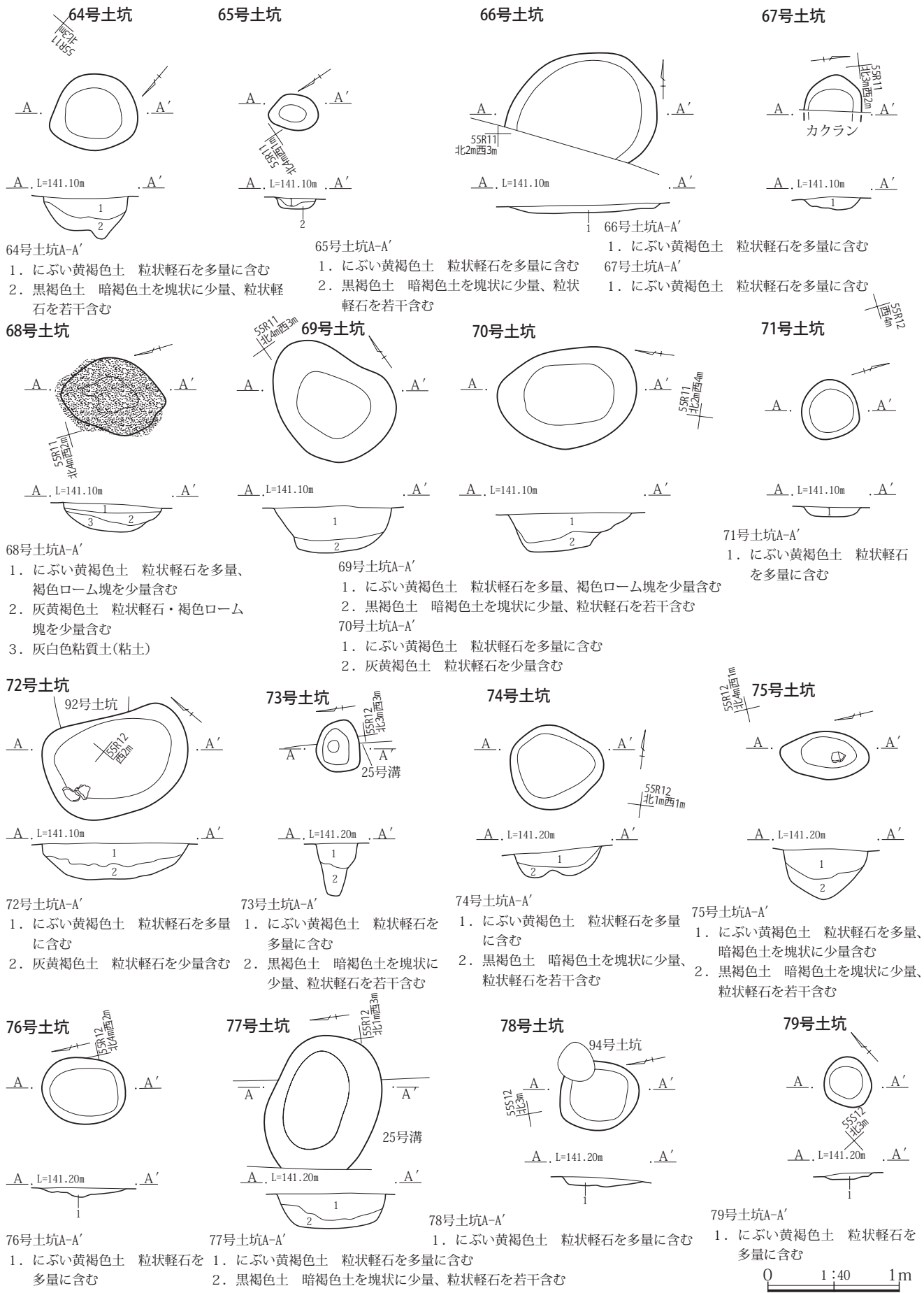


63号土坑A-A'

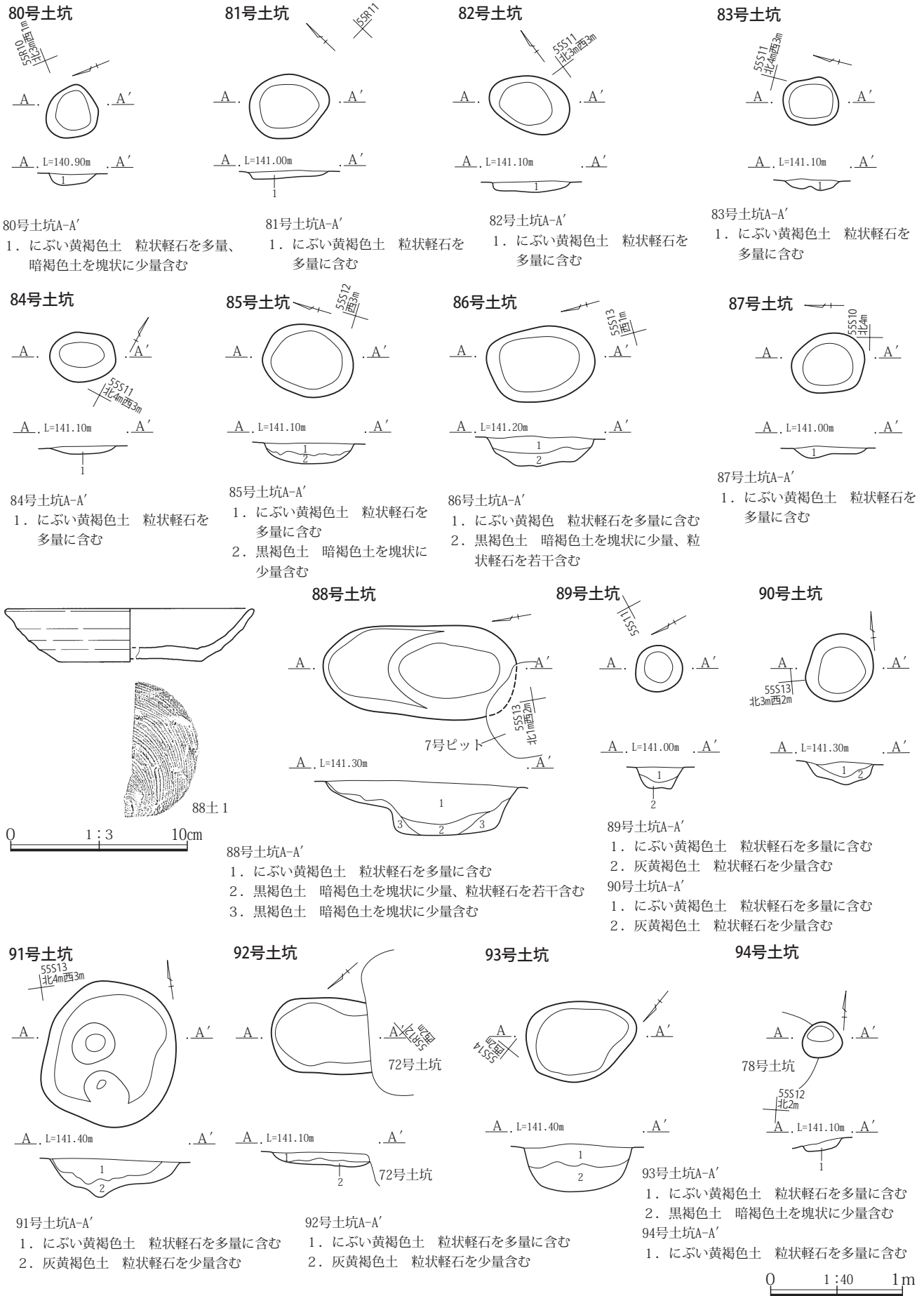
1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、粒状軽石を若干含む



第195図 52号～63号土坑

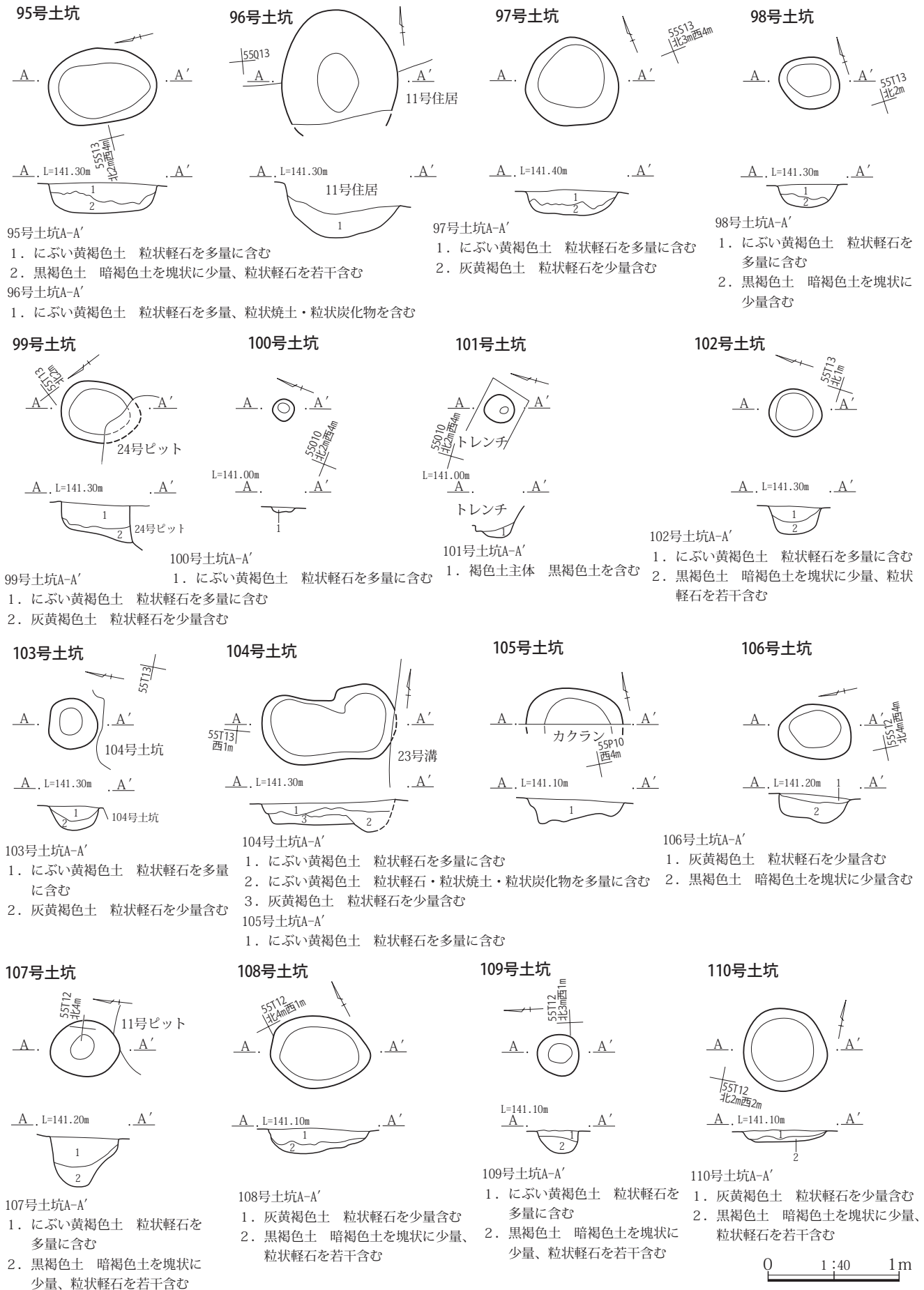


第196図 64号～79号土坑

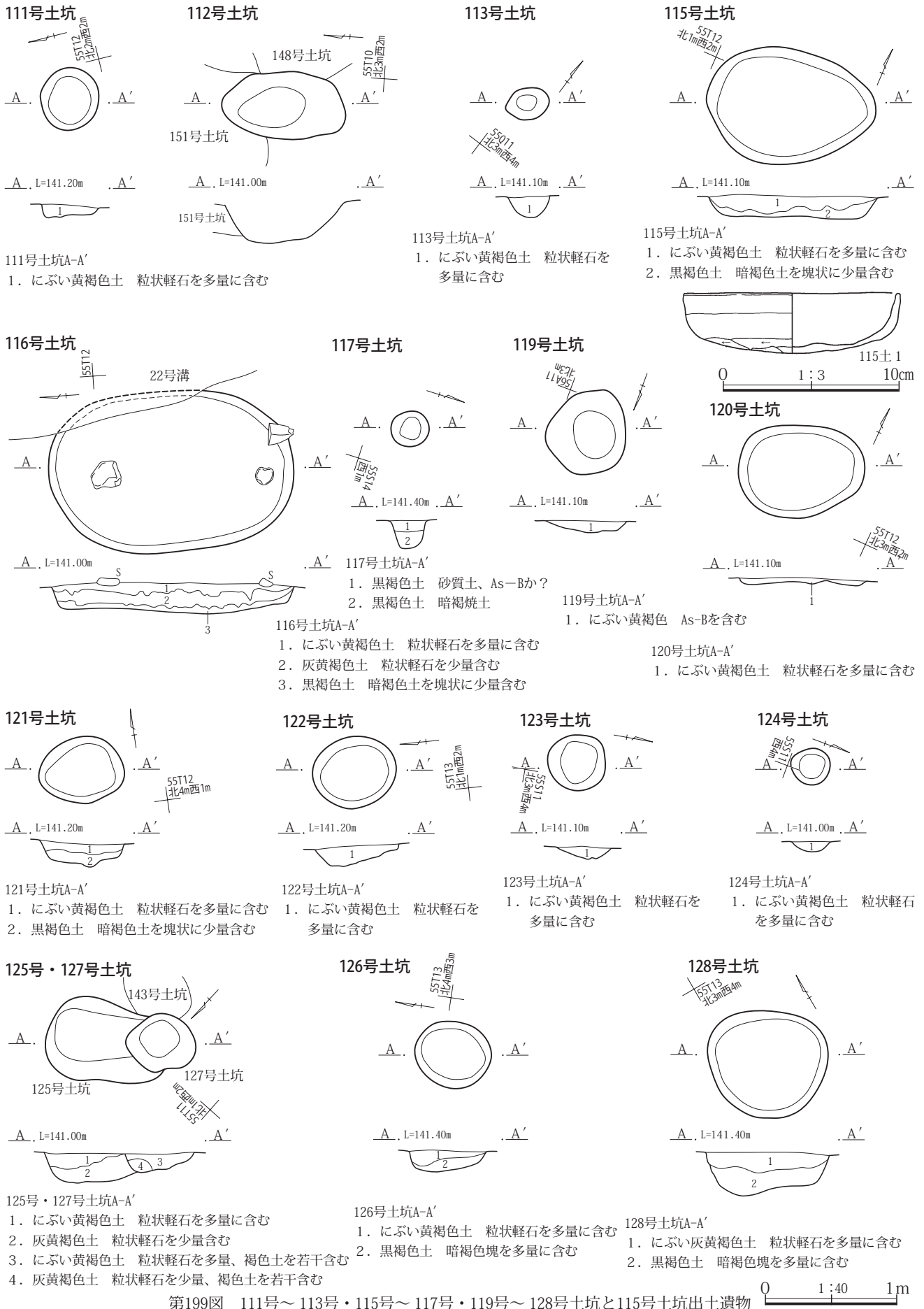


第197図 80号～94号土坑と88号土坑出土遺物

第3章 調査の内容



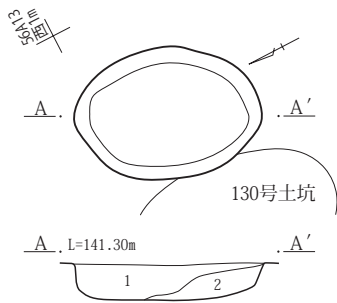
第198図 95号～110号土坑



第199図 111号～113号・115号～117号・119号～128号土坑と115号土坑出土遺物

第3章 調査の内容

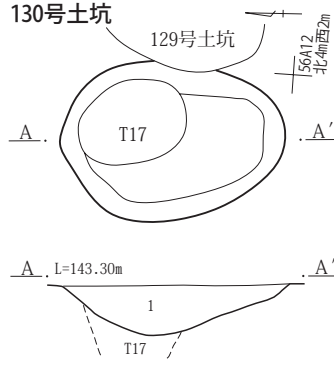
129号土坑



129号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量含む

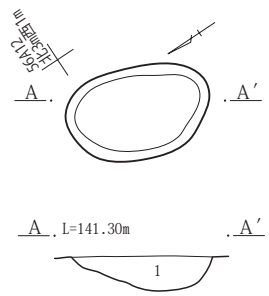
130号土坑



130号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む

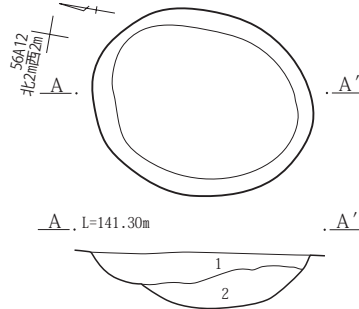
131号土坑



131号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む

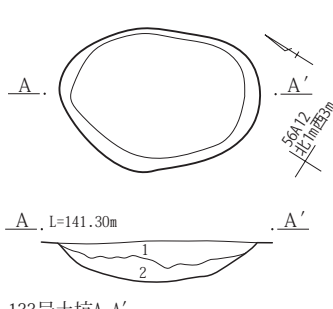
132号土坑



132号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色塊を多量に含む

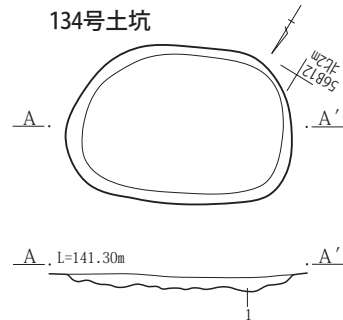
133号土坑



133号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色塊を多量に含む

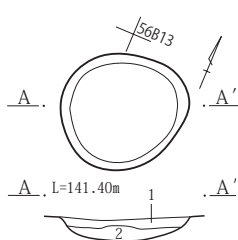
134号土坑



134号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色ローム塊を少量含む

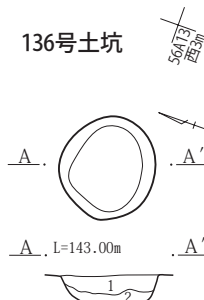
135号土坑



135号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、明黄褐色(VI層土相当)塊を多量に含む

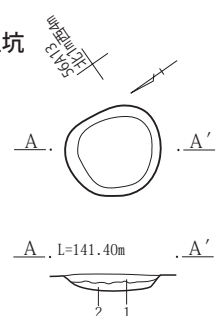
136号土坑



136号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、明黄褐色(VI層土相当)塊を多量に含む

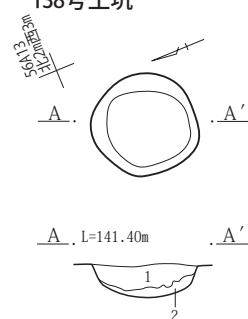
137号土坑



137号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、明黄褐色(VI層土相当)塊を多量に含む

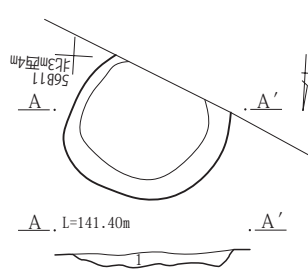
138号土坑



138号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、明黄褐色(VI層土相当)塊を多量に含む

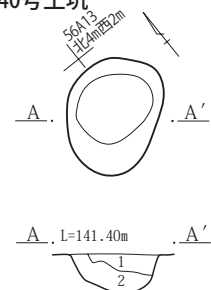
139号土坑



139号土坑A-A'

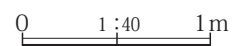
1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む

140号土坑



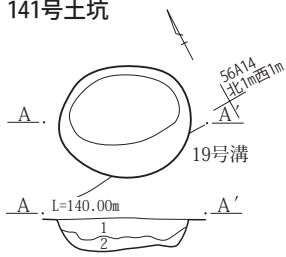
140号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む



第200図 129号～140号土坑

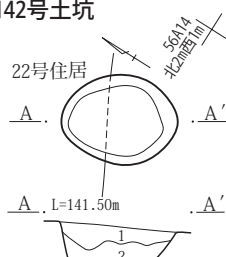
141号土坑



141号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む

142号土坑



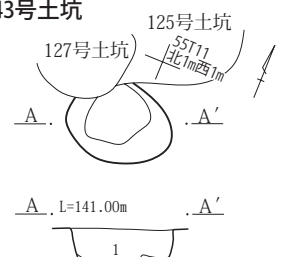
142号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む

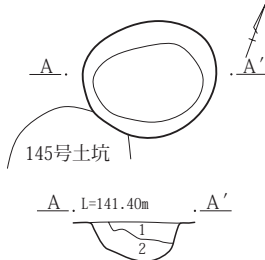
143号土坑A-A'

1. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に、粒状軽石を少量含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に、粒状軽石を少量、炭化物を極少量含む

143号土坑



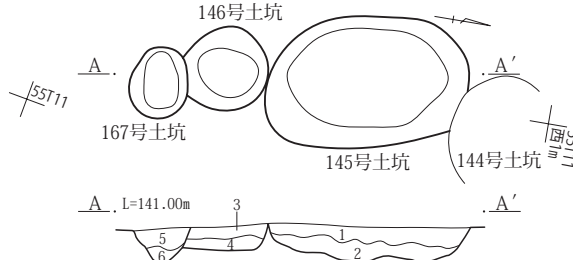
144号土坑



144号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む

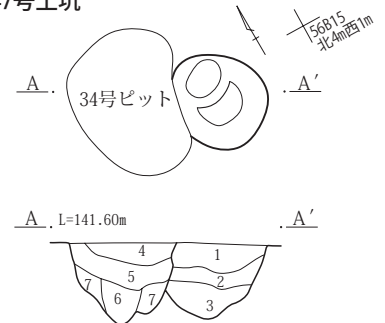
145号・146号・167号土坑



145号・146号・167号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、粒状軽石を若干含む
3. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、褐色土(VI層土)を少量含む
4. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む
5. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、褐色土(VI層土)を若干含む
6. 灰黄褐色土 粒状軽石・褐色土を少量含む

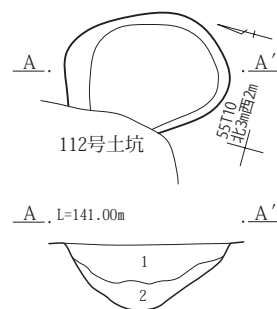
147号土坑



147号土坑・34号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、粒状焼土を若干含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量、粒状焼土を若干含む
3. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、黄褐色土(VII層土)を多量に含む
4. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、焼土粒を極多量に含む
5. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量、黄褐色土(VII層土)を多量に含む
6. 3層と同質
7. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、粒状軽石を若干含む

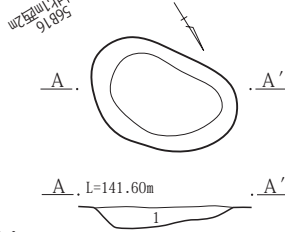
148号土坑



148号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、粒状軽石を少量含む

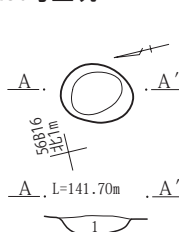
149号土坑



149号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む

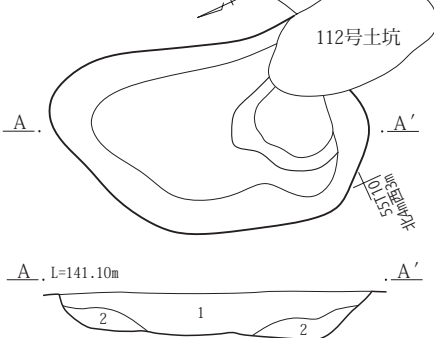
150号土坑



150号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色土ロームを若干含む

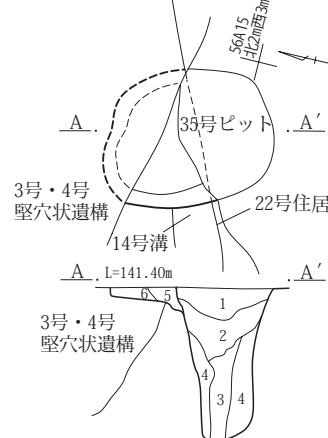
151号土坑



151号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石・褐色土塊を多量に含む
2. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、褐色土塊を若干含む

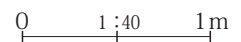
152号土坑



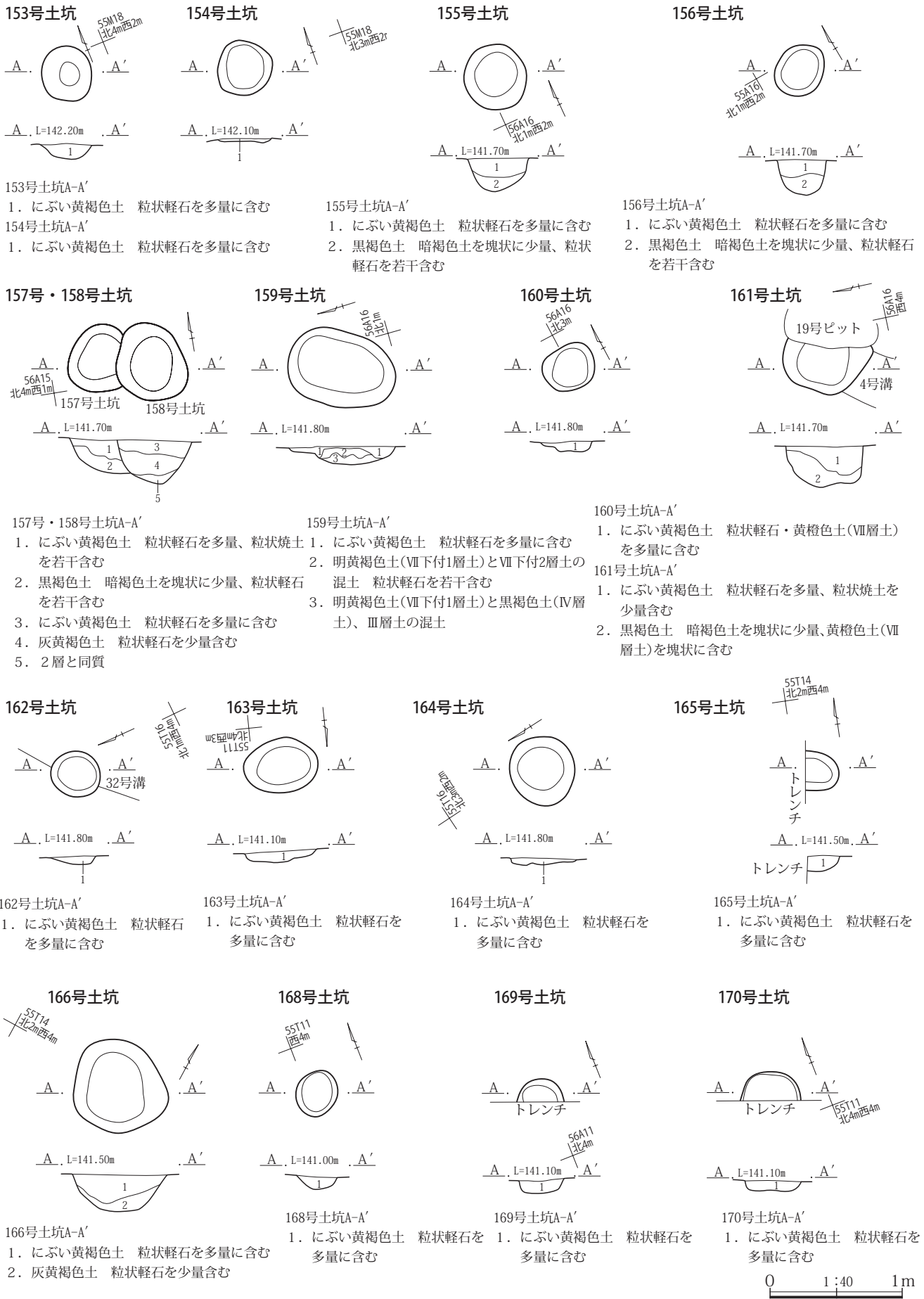
152号土坑・35号ピットA-A'

1. にぶい灰黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む
3. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量、粒状焼土を若干含む
4. 黒褐色土 暗褐色土を塊状に少量、粒状軽石を若干含む
5. にぶい黄褐色土 粒状軽石・黄褐色土(VII層土)を多量に含む
6. 2層と同質

第201図 141号～152号・167号土坑

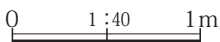
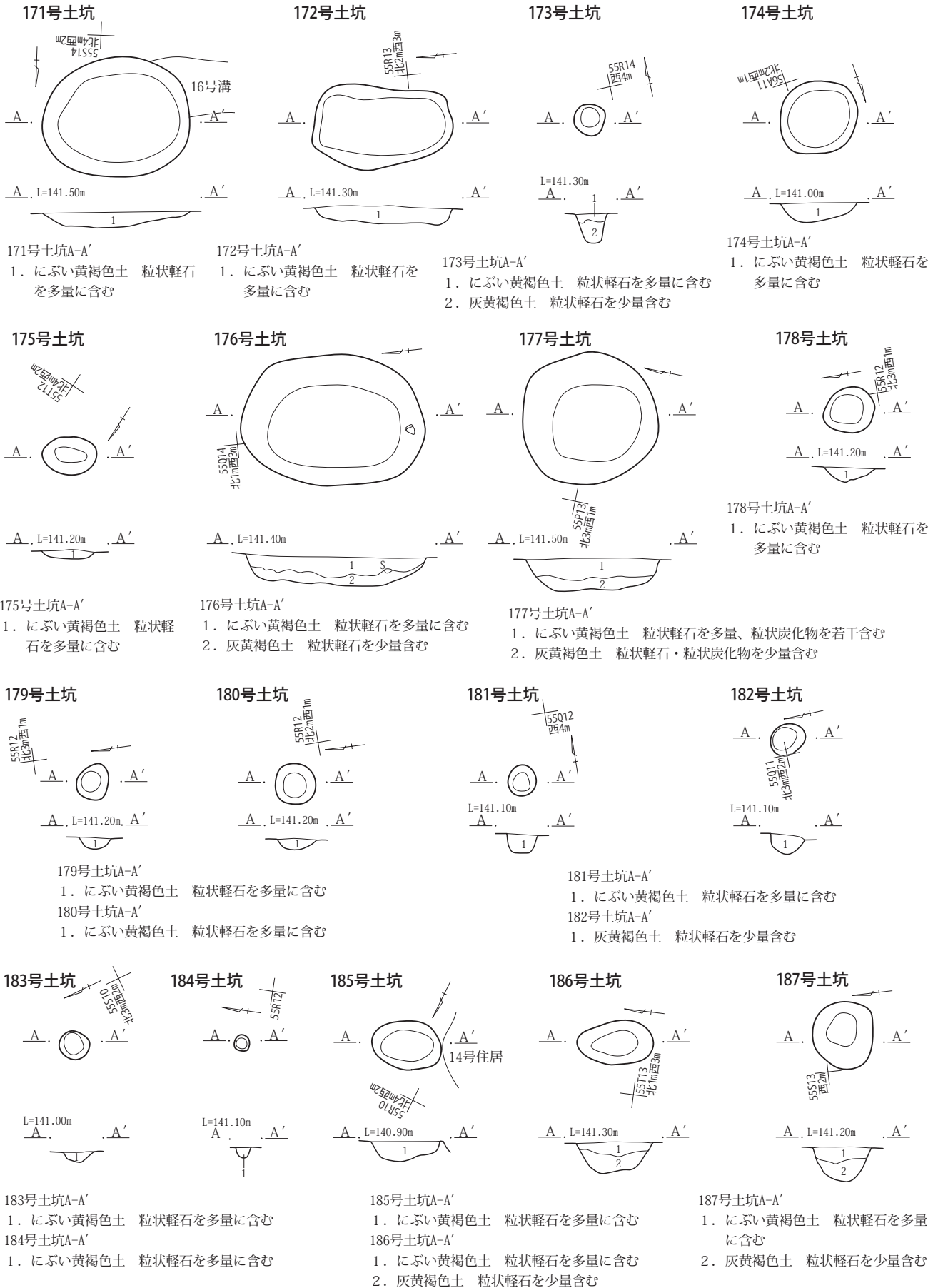


第3章 調査の内容



第202図 153号～166号・168号～170号土坑

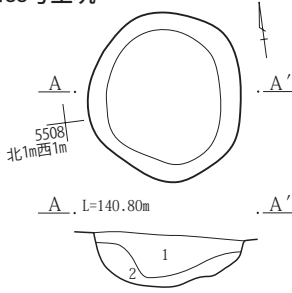




第203図 171号～187号土坑

第3章 調査の内容

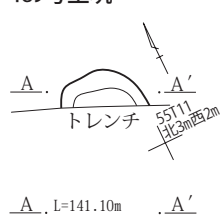
188号土坑



188号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む

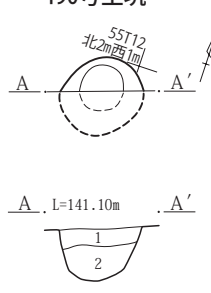
189号土坑



189号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石・粒状焼土・粒状炭化物を多量に含む

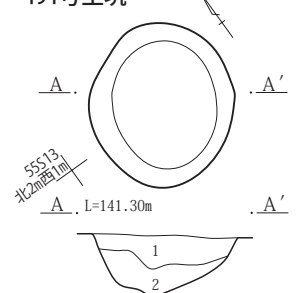
190号土坑



190号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む

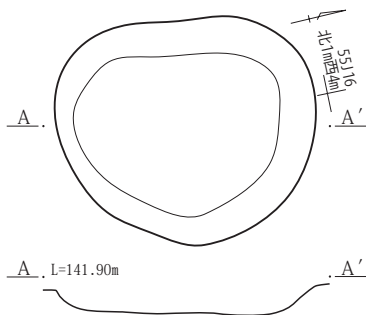
191号土坑



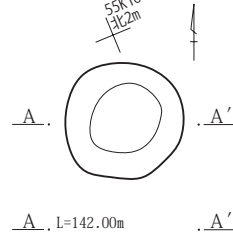
191号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む

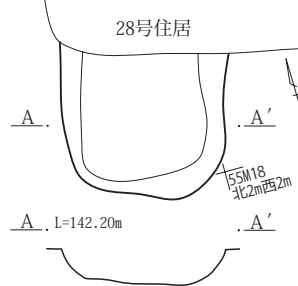
192号土坑



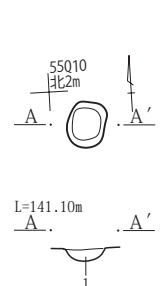
193号土坑



194号土坑



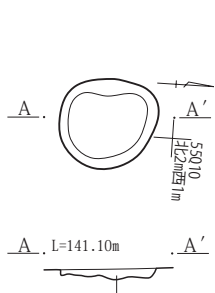
201号土坑



201号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む

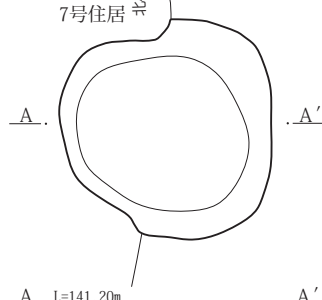
202号土坑



202号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む

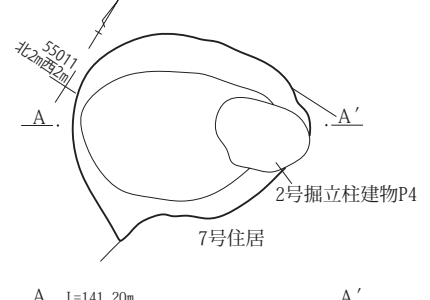
203号土坑



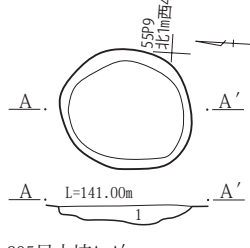
203号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石混入
2. 黒褐色土 粒状軽石を微量に含む
3. 黒褐色土 粒状軽石微量・塊状V層土主体

204号土坑

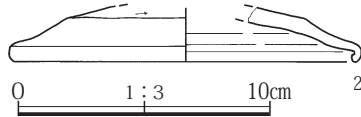


205号土坑

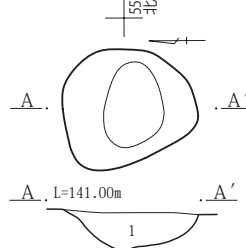


205号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む



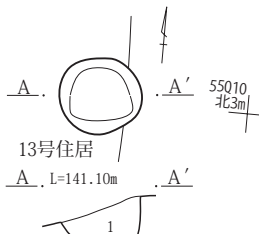
206号土坑



206号土坑A-A'

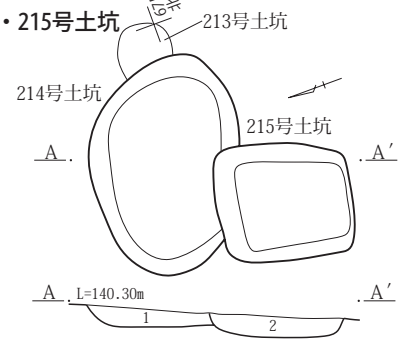
1. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む

207号土坑



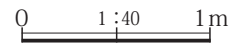
1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む

214号・215号土坑

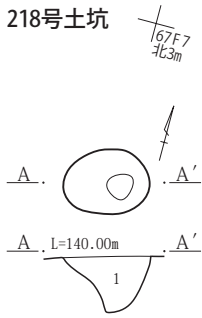


214号・215号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石混入
2. 黒色土 粒状軽石混入

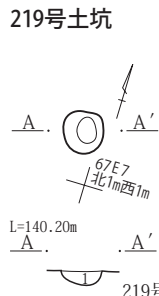


第204図 188号～194号・201号～207号・214号・215号土坑と205号土坑出土遺物



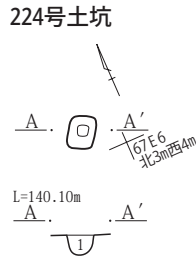
218号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-B軽石・粗粒Ⅶ層土混入



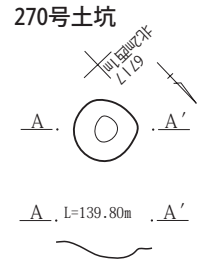
219号土坑A-A'

1. 黒色土 As-B軽石を含む

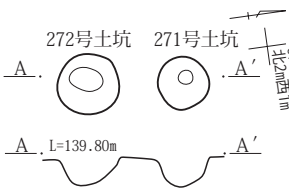


224号土坑A-A'

1. 黒色土 As-B軽石を含む



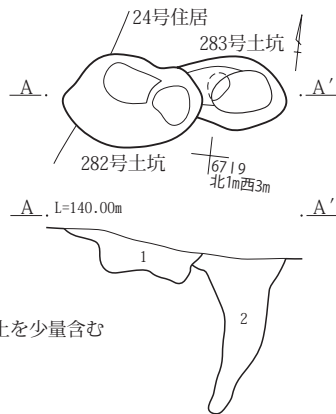
271号・272号土坑



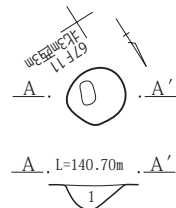
282号・283号土坑A-A'

1. 暗褐色土 微粒状軽石を含み、粗粒Ⅶ層土を少量含む  
2. 暗褐色土 塊状Ⅶ層土を斑状に含む

282号・283号土坑



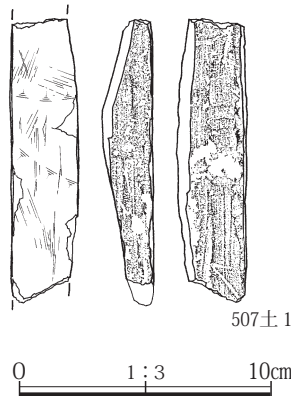
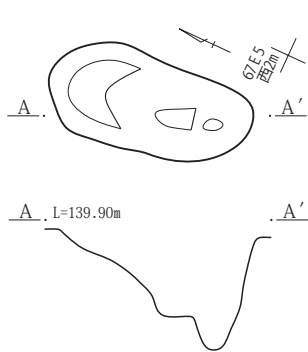
285号土坑



285号土坑A-A'

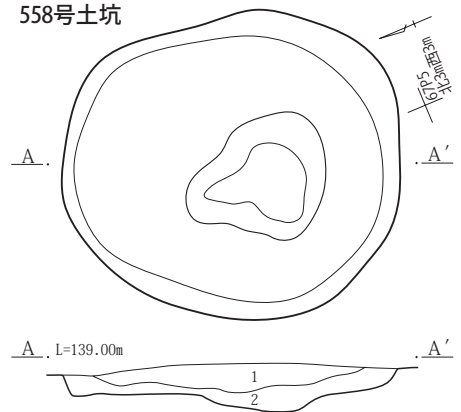
1. 黒褐色土 粒状軽石を多量に含む

507号土坑



507土1

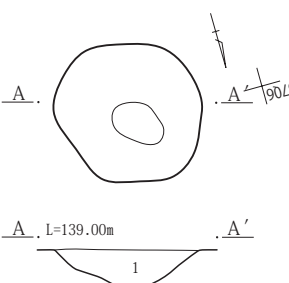
558号土坑



558号土坑A-A'

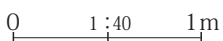
1. 黒褐色土 白色粒子を若干含む  
2. 黒褐色土 塊状Ⅶ層土を含む

559号土坑

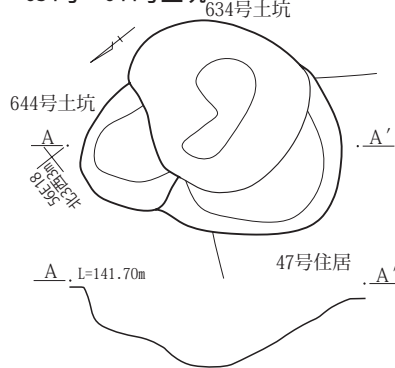


559号土坑A-A'

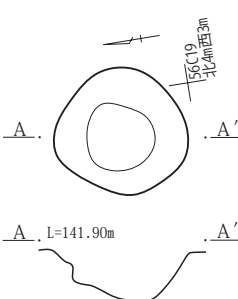
1. 暗褐色土 塊状Ⅶ層土・微粒状白色粒子を含む



634号・644号土坑



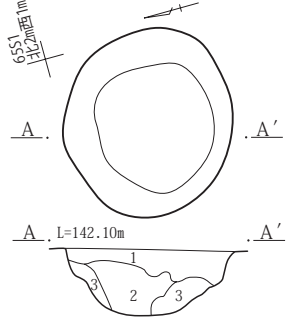
635号土坑



636号土坑A-A'

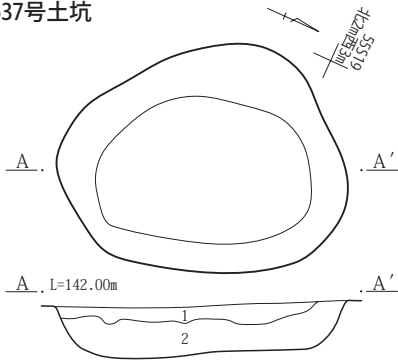
1. 褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色ローム塊を少量含む  
2. 黒褐色土 粒状軽石を少量、黄褐色ローム塊を若干含む  
3. 黄褐色土 ローム塊主体、褐色土を少量、粒状軽石を若干含む

636号土坑



第205図 218号・219号・224号・263号・264号・270号～272号・282号・283号・285号・507号・558号・559号・634号～636号・644号土坑と507号土坑出土遺物

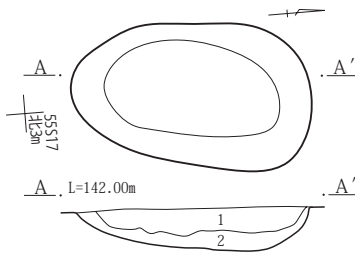
637号土坑



637号土坑A-A'

1. 褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色ローム塊を少量含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を少量、黄褐色ローム塊を多量に含む

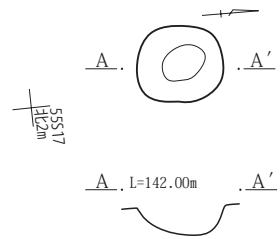
638号土坑



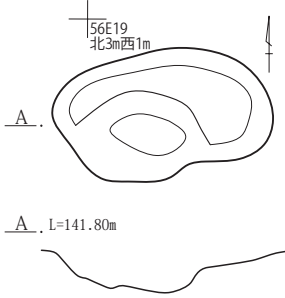
638号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色ローム塊を少量含む
2. 褐色土 粒状軽石を少量、黄褐色ローム塊を多量に含む

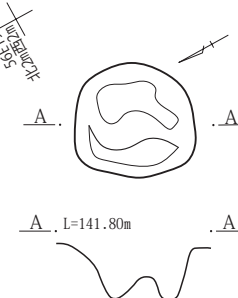
639号土坑



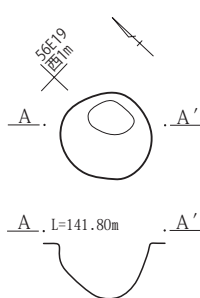
640号土坑



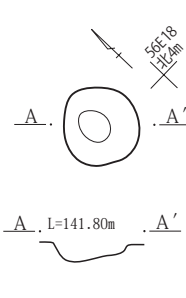
641号土坑



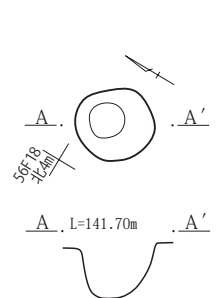
642号土坑



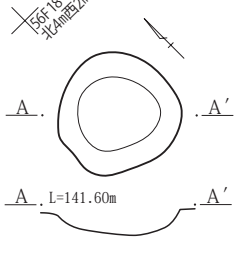
643号土坑



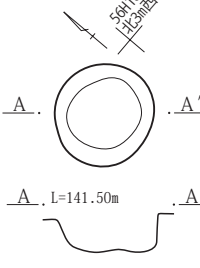
645号土坑



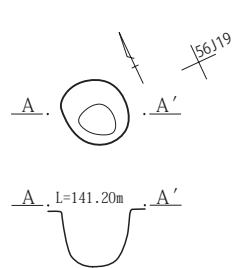
646号土坑



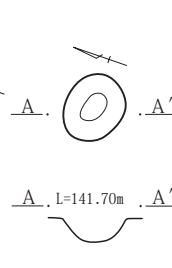
647号土坑



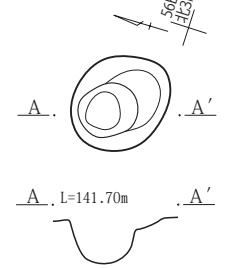
648号土坑



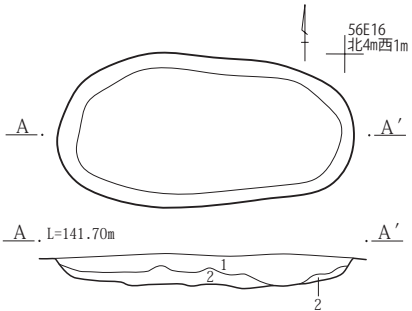
649号土坑



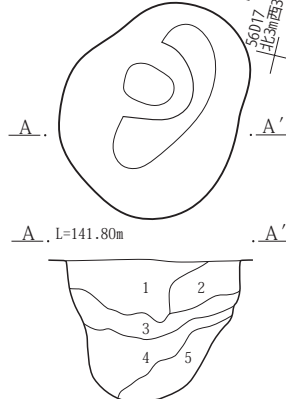
650号土坑



651号土坑



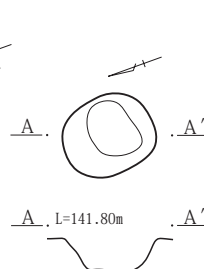
652号土坑



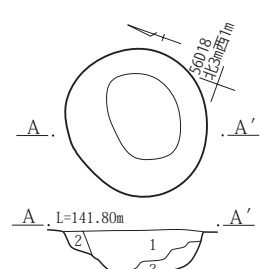
652号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. にぶい黄橙色土 粒状軽石と明黄褐色塊土を多量に含む
3. 黒褐色土 粒状軽石を少量、明黄褐色塊土を微量に含む
4. 黄褐色土 粒状軽石を少量、黄褐色塊土を多量に含む
5. にぶい黄褐色土 粒状軽石・黄褐色塊土を少量含む

653号土坑



654号土坑

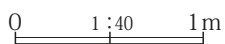


654号土坑A-A'

1. 明黄褐色土 粒状軽石を少量、暗褐色塊土を若干含む
2. 明黄褐色土 粒状軽石を多量、暗褐色塊土を少量含む
3. 暗褐色土 粒状軽石を少量、暗褐色塊土を多量に含む

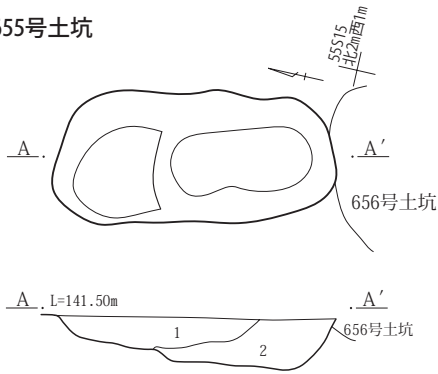
651号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色ローム塊を少量含む
2. 暗褐色土 粒状軽石を少量、黄褐色ローム塊を多量に含む



第206図 637号～643号・645号～654号土坑

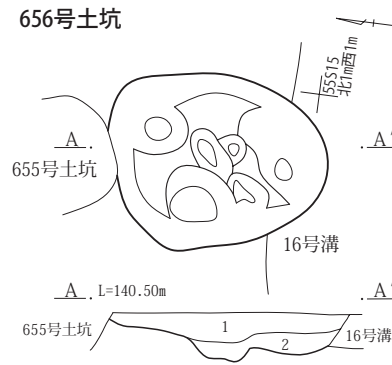
655号土坑



655号土坑A-A'

1. 黒褐色土 細粒状軽石を少量含む
2. 黒褐色土 細粒状軽石を微量に含む

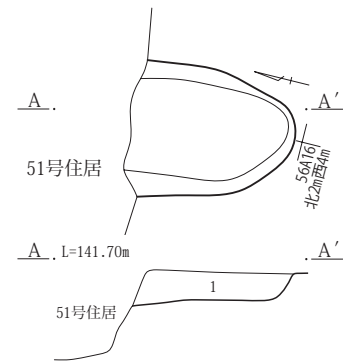
656号土坑



656号土坑A-A'

1. 黒褐色土 細粒状軽石を少量含む
2. 黒褐色土 細粒状軽石を微量、VI層土塊を少量含む

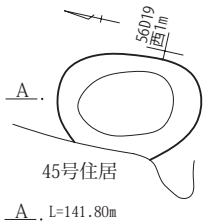
657号土坑



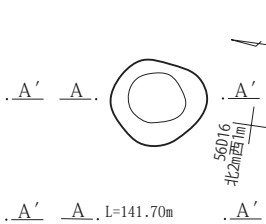
657号土坑A-A'

1. 黒褐色土 細粒状軽石を若干含む

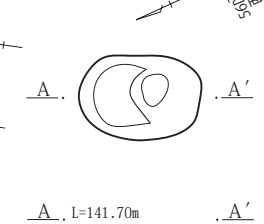
658号土坑



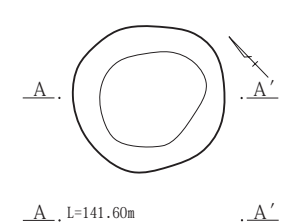
659号土坑



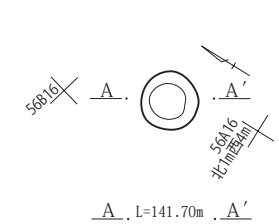
660号土坑



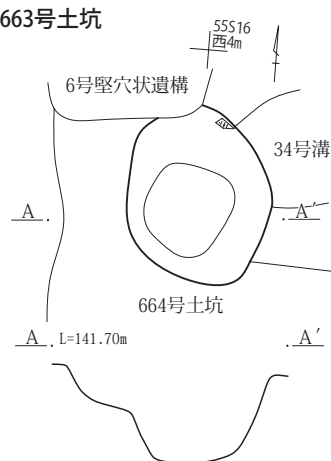
661号土坑



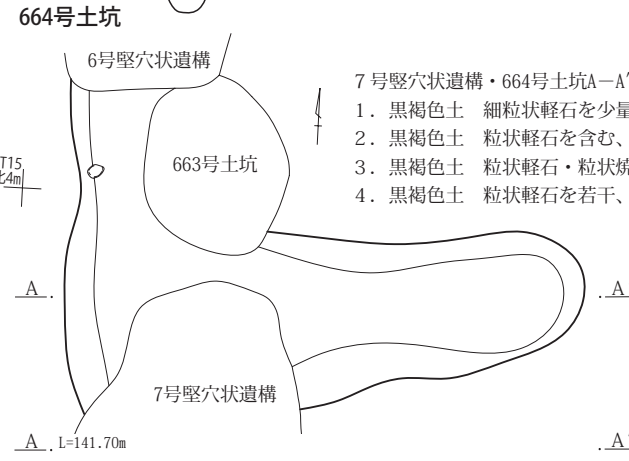
662号土坑



663号土坑



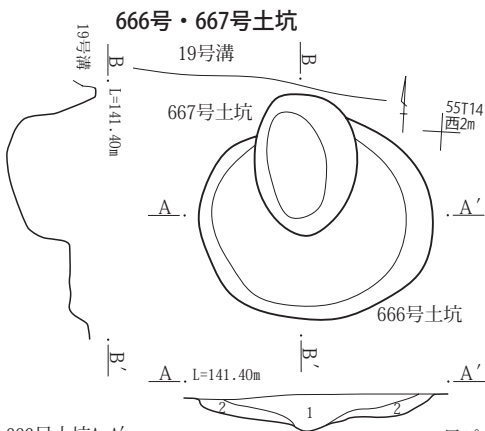
664号土坑



7号堅穴状遺構・664号土坑A-A'

1. 黒褐色土 細粒状軽石を少量、粒状焼土を若干含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を含む、塊状III層土混入
3. 黒褐色土 粒状軽石・粒状焼土を少量含む
4. 黒褐色土 粒状軽石を若干、粒状焼土微量に含む

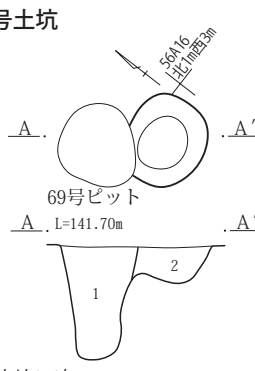
666号・667号土坑



666号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黄褐色土 粒状軽石を少量、黄褐色塊土を多量に含む

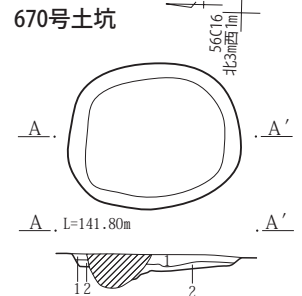
668号土坑



69号ピット・668号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色ローム塊を少量含む
2. 暗褐色土 粒状軽石を多量に含む

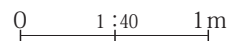
670号土坑

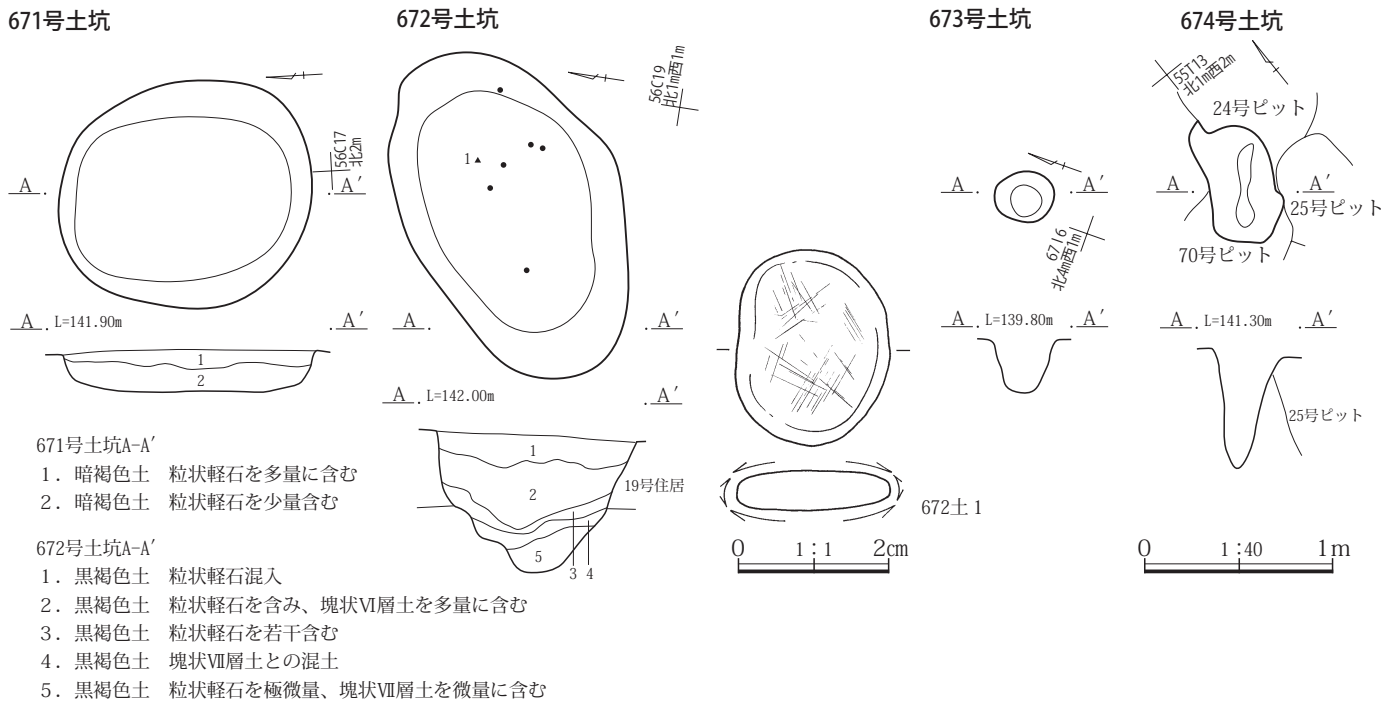


670号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. にぶい黄褐色土 粒状軽石を若干、明黄褐色塊土を多量に含む

第207図 655号～664号・666号～668号・670号土坑





第208図 671号～674号土坑と672号土坑出土遺物

## 9.ピット

検出された奈良・平安時代のピットは、73基である。これらのピットは、土坑より比較的に規模が狭く、土層内に柱と考えられる土層が認められるため、土坑とは区別してまとめた。奈良・平安時代の遺構の多い55・56・65・66区に分布している。遺構確認面や埋没土の様子から、奈良・平安時代のピットと認定した。そのうち報告するのは、遺物の出土した8号・24号・41号・49号・62号・64号・71号ピットの7基である。その他の詳細については、第29表ピット一覧表を参照していただきたい。

### 8号ピット(第209図、PL.85)

**位置** 55-T-11 **重複** なし。 **形状** 楕円形  
**規模** 長軸0.74m 短軸0.58m 残存深度0.64m  
**長軸方位** N-60°-W **埋没土** 粒状軽石やロームブロックを多量に含むにぶい黄褐色土・粒状軽石を含む灰黄褐色土。 **遺物** 須恵器環(1)がフク土から出土した。未掲載遺物では、土師器11点、須恵器1点が出土した。  
**時期** 出土遺物の須恵器環(1)から9世紀中頃の時期と考えられる。

### 24号ピット(第211図)

**位置** 55-T-13 **重複** 99号・674号土坑、25号ピットと重複する。新旧関係は、674号土坑・25号ピットより古く、99号土坑より新しい。 **形状** 不整形  
**規模** 長軸(0.75m) 短軸(0.59m) 残存深度0.59m  
**長軸方位** N-4°-W **埋没土** 粒状軽石を含むにぶい黄褐色土・灰褐色土とブロック状の暗褐色土と粒状軽石を含む黒褐色土。 **遺物** 須恵器環(1)がフク土から出土した。未掲載遺物では、土師器7点、須恵器1点が出土した。  
**時期** 出土遺物の須恵器環(1)から9世紀末の時期と考えられる。

### 41号ピット(第213図)

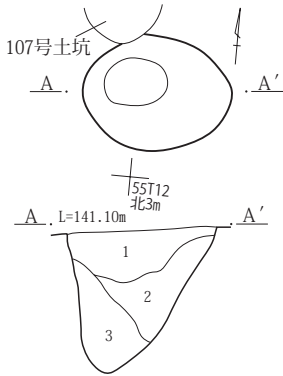
**位置** 55-S-17 **重複** なし。 **形状** 楕円形  
**規模** 長軸1.28m 短軸0.90m 残存深度1.10m  
**長軸方位** N-54°-W **埋没土** 柱を抜いた痕と考えられる粒状軽石・ローム粒を含む黒褐色土が堆積し、その周りは、粒状軽石やロームブロックを含む黒褐色土・暗褐色土。 **遺物** 須恵器環(1)と灰釉陶器碗(2)がフク土から出土した。未掲載遺物では、土師器7点、須恵器6点が出土した。  
**時期** 共伴する須恵器環(1)や灰釉陶器碗(2)などの出土遺物から9世紀末の時期と考えられる。



第209図 1号～10号・20号ピットと8号ピット出土遺物

第3章 調査の内容

11号ピット



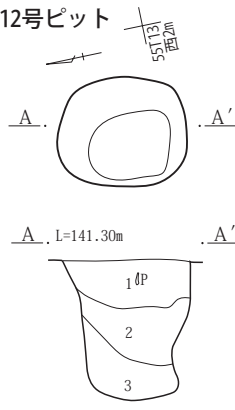
11号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含むピット
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む
3. 灰黄褐色土 粒状軽石を多量、暗褐色土(V層土)を塊状に少量含む

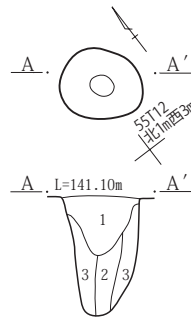
12号ピットA-A'

1. にぶい灰黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. IV～VII層土の塊土の混土(VII層土主体)
3. IV～VII層土の塊土の混土(VI層土主体)

12号ピット



13号ピット



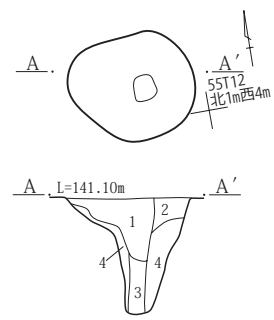
13号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む
3. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量、VII層土を塊状に多量に含む

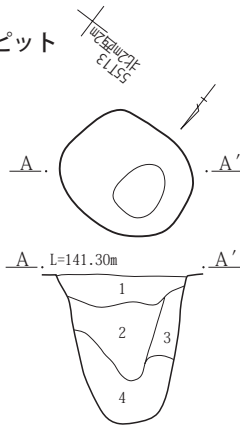
14号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、VI層土とVII層土を塊状に多量に含む
3. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、IV層土を塊状に多量に含む
4. VII層土を塊状に極多量、他にII～VI層土を含む

14号ピット



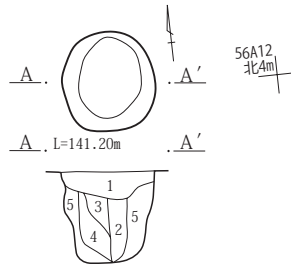
15号ピット



15号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む
3. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量、黄褐色土を塊状に少量含む
4. 灰黄褐色土 粒状軽石を多量、暗褐色土(V層土)を塊状に少量含む

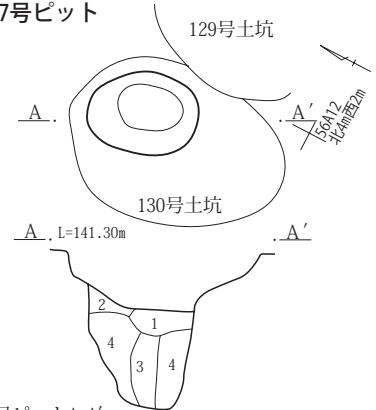
16号ピット



16号ピットA-A'

1. にぶい灰黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む
3. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量、黄褐色土を塊状に少量含む
4. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量、黄褐色土を塊状に多量に含む
5. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色土を塊状に多量に含む

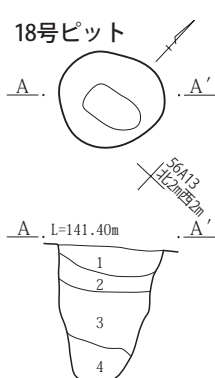
17号ピット



17号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色土を塊状に少量含む
3. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む
4. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色土を塊状に多量に含む

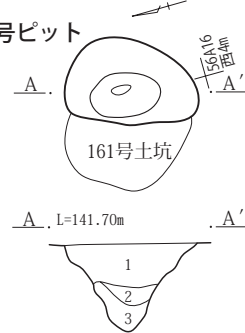
18号ピット



18号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色土を塊状に含む
3. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む
4. 灰黄褐色土 粒状軽石を多量、暗褐色土(V層土)を塊状に少量含む

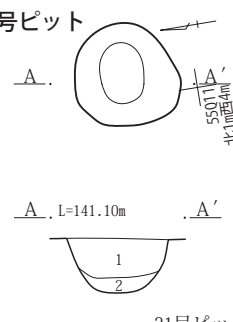
19号ピット



19号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む
3. 灰黄褐色土 粒状軽石を多量、暗褐色土(V層土)を塊状に少量含む

21号ピット



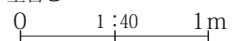
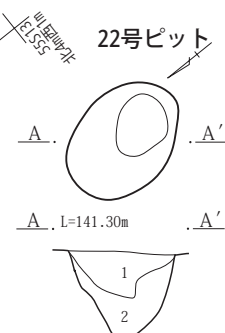
21号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、褐色ローム塊を少量含む
2. 黒褐色土 暗褐色土(V層土)を塊状に少量、粒状軽石を若干含む

22号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む

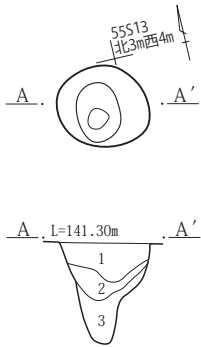
22号ピット



第210図 11号～19号・21号・22号ピット



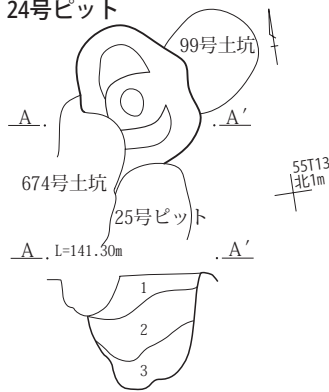
23号ピット



23号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む
3. 黒褐色土 暗褐色土(V層土)を塊状に少量含む

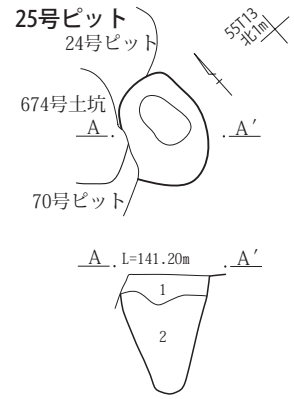
24号ピット



24号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む
3. 黒褐色土 暗褐色土(V層土)を塊状に少量、粒状軽石を若干含む

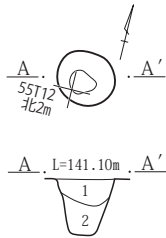
25号ピット



25号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む

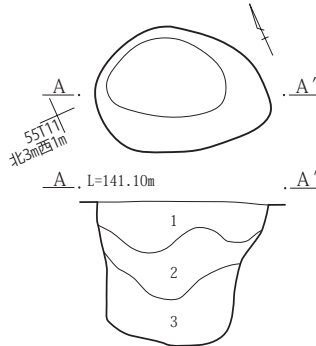
26号ピット



26号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む

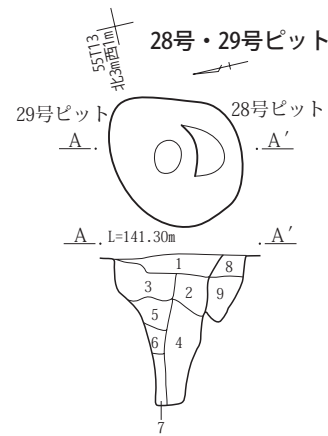
27号ピット



27号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む
3. 黒褐色土 暗褐色土(V層土)を塊状に少量含む

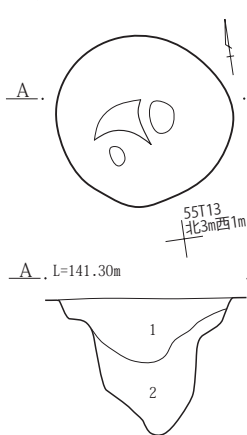
28号・29号ピット



28号・29号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. にぶい黄褐色土 粒状軽石・黄褐色ローム粒を多量に含む
3. 黄褐色ローム土主体 塊状を含み、VI層土を少量含む
4. 黒褐色土 暗褐色土(V層土)を塊状に少量含む
5. 黒色土主体 V層土を少量含む
6. V層土に近質 VI層土がやや多い
7. VI層土に近質 V層土を若干含む
8. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色ローム粒を若干含む
9. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色ローム粒を少量含む

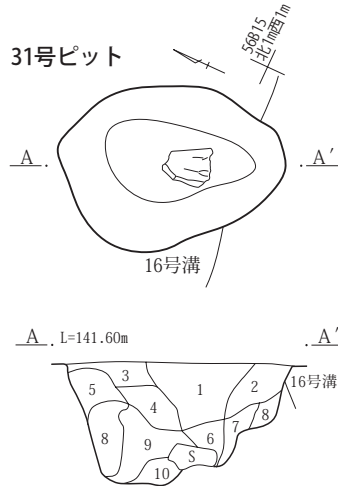
30号ピット



30号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 暗褐色土(V層土)を塊状に少量、粒状軽石を若干含む

31号ピット



31号ピットA-A'

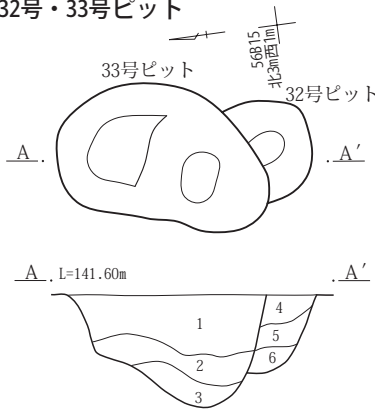
1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、粒状焼土を少量含む
2. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、粒状焼土・黄褐色ロームを少量含む
3. 灰黄褐色土 黄褐色土(ロームVII層土)を多量、粒状軽石・粒状焼土を少量含む
4. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量、黄褐色土(ロームVII層土)を極多量、粒状焼土を多量に含む
5. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、褐色土(ロームVI層土)を塊状に少量含む
6. 黒褐色土 暗褐色土(V層土)を塊状に少量、黄褐色土(ロームVII層土)を少量含む
7. 黒褐色土 暗褐色土(V層土)を塊状に少量、暗褐色土を多量に含む
8. 6層と同質
9. ロームVII層土塊主体 褐色土(ロームVI層土)を少量含む
10. ロームVII層土塊主体 褐色土(ロームVI層土)を若干含む



第211図 23号～31号ピットと24号ピット出土遺物

第3章 調査の内容

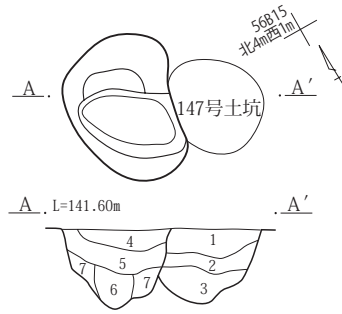
32号・33号ピット



32号・33号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石・粒状焼土を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石・粒状焼土を少量含む
3. 黒褐色土 暗褐色土(V層土)を塊状に少量、黄橙色土(ロームVII層土)を塊状に多量、粒状軽石を少量含む
4. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、粒状焼土を極多量に含む
5. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量、粒状焼土を多量に含む
6. 黒褐色土 暗褐色土(V層土)を塊状に少量、黄橙色土(ロームVII層土)を塊状に極多量、粒状軽石を少量含む

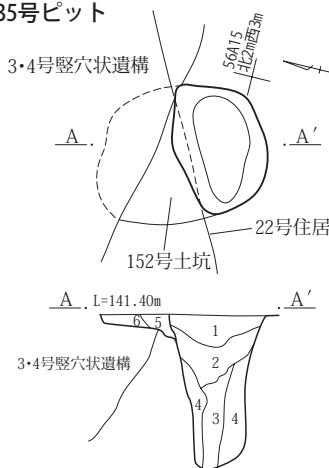
34号ピット



34号ピット・147号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、粒状焼土を若干含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量、粒状焼土を若干含む
3. 黒褐色土 暗褐色土(V層土)を塊状に少量、黄橙色土(ロームVII層土)粒子を多量に含む
4. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量、焼土粒を極多量に含む
5. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量、黄橙色土(ロームVII層土)粒子を多量に含む
6. 3層と同質
7. 黒褐色土 暗褐色土(V層土)を塊状に少量、粒状軽石を若干含む

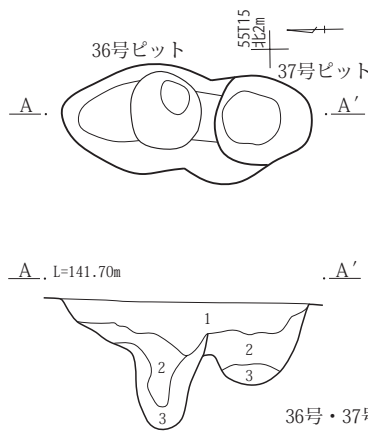
35号ピット



35号ピット・152号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む
3. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量、粒状焼土を若干含む
4. 黒褐色土 暗褐色土(V層土)を塊状に少量、粒状軽石を若干含む
5. にぶい黄褐色土 粒状軽石・黄橙色土(VII層土)を多量に含む
6. 2層と同質

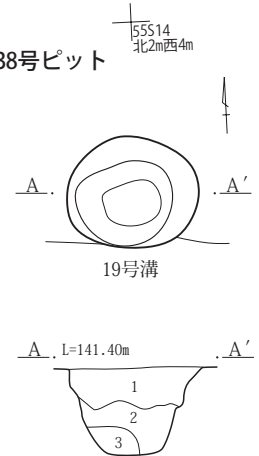
36号・37号ピット



36号・37号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量、VI層土を塊状に含む
3. 黒褐色土 暗褐色土(V層土)を塊状に少量含む

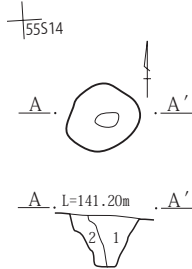
38号ピット



38号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む
3. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量、黄橙色ローム塊を多量に含む

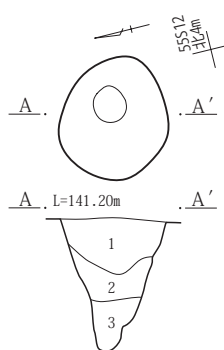
39号ピット



39号ピットA-A'

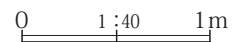
1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む

40号ピット



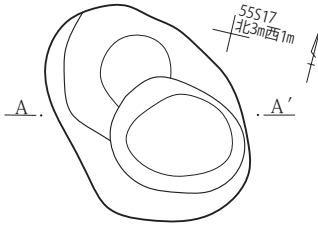
40号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 灰黄褐色土 粒状軽石を少量含む
3. 灰黄褐色土 粒状軽石を多量、暗褐色土(V層土)を塊状に少量含む

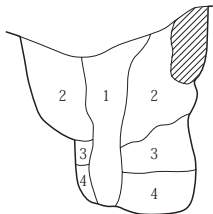


第212図 32号～40号ピット

41号ピット



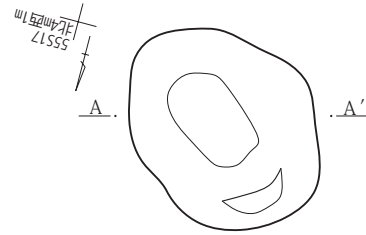
A, L=142.00m A'



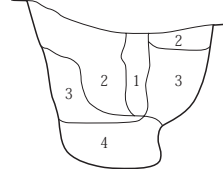
41号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石・粒状Ⅶ層土を微量に含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を少量、塊状Ⅶ層土を多量に含む
3. 黒褐色土 粒状軽石を極微量、粒状Ⅶ層土を含む
4. 暗褐色土 粒状軽石を極微量、粒状Ⅶ層土を少量含む

42号ピット

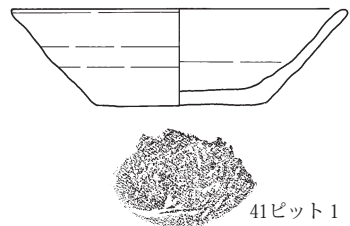


A, L=142.00m A'

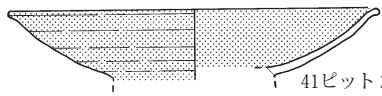


42号ピットA-A'

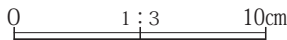
1. 黒褐色土 粒状軽石・粒状Ⅶ層土を微量に含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を少量、塊状Ⅶ層土を多量に含む
3. 暗褐色土 粒状軽石を極微量、粗粒状Ⅶ層土を少量含む(抜き取り痕か)
4. 暗褐色土 粒状軽石を微量に含む、粒状Ⅶ層土混入



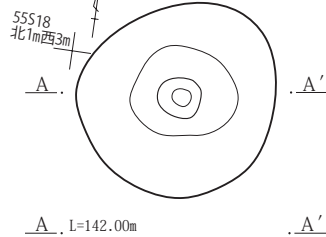
41ピット1



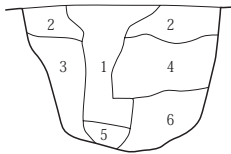
41ピット2



43号ピット



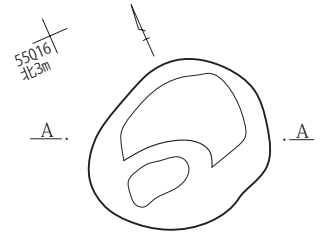
A, L=142.00m A'



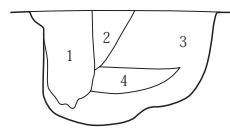
43号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石・粒状Ⅶ層土を微量に含む
2. 黒褐色土 粒状軽石・塊状Ⅶ層土を少量含む
3. 黒褐色土 粒状軽石を少量、塊状Ⅶ層土を多量に含む
4. 黒褐色土 細粒状軽石・粗粒状Ⅶ層土を含み、粒状Ⅶ層土を多量に含む
5. 暗褐色土 粒状軽石を微量に含む、粗粒状Ⅶ層土混入
6. 暗褐色土 粒状軽石を極微量、粒状Ⅶ層土を含む

44号ピット



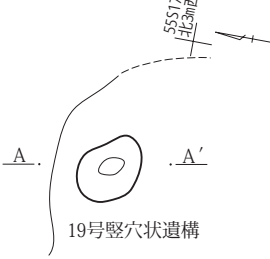
A, L=141.80m A'



44号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石・粒状Ⅶ層土を微量に含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を極微量、粒状Ⅶ層土を含む
3. 黒褐色土 粒状軽石を少量、塊状Ⅶ層土を多量に含む
4. 黒褐色土とロームの混入

45号ピット



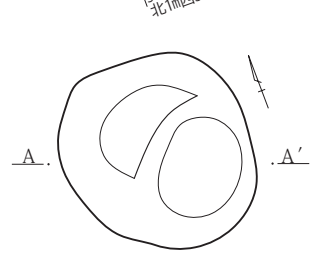
A, L=142.10m A'



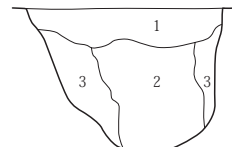
45号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石を少量、粗・粒状Ⅶ層土を多量、塊状Ⅶ層土を含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を若干、粗粒状焼土・塊状Ⅶ層土を多量に含む
3. 黒褐色土 粒状軽石を若干含む
4. 黒褐色土 塊状Ⅶ層土混入、粗粒状Ⅶ層土を含む

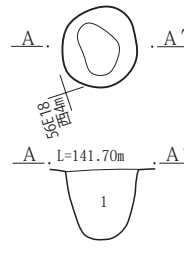
46号ピット



A, L=141.80m A'



47号ピット



A, L=141.70m A'



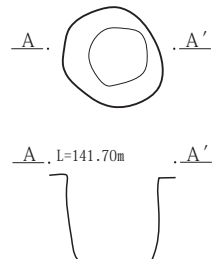
46号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色ローム塊を若干含む
2. 黒褐色土 粒状軽石・黄褐色ローム塊を少量含む
3. 黒褐色土 粒状軽石を少量、黄褐色ローム塊を多量に含む

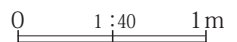
47号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色ローム塊を少量含む

48号ピット



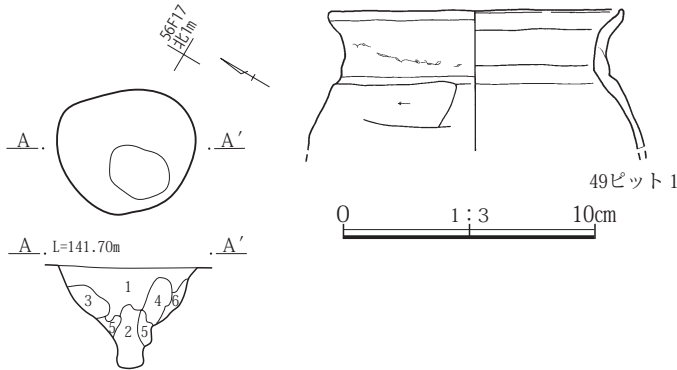
A, L=141.70m A'



第213図 41号～48号ピットと41号ピット出土遺物

第3章 調査の内容

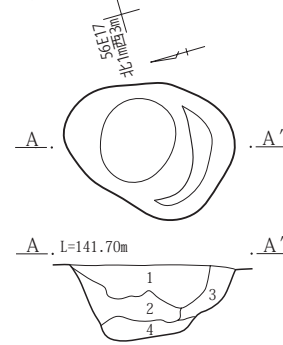
49号ピット



49号ピットA-A'

1. 暗褐色土 白色粒子、粒状軽石を多量に含む
2. 暗褐色土 白色粒子、粒状軽石を少量含む
3. 褐色土 白色粒子、粒状軽石を少量、黄褐色ローム塊を多量に含む
4. 黄褐色土 ローム塊主体、暗褐色土・粒状軽石を少量含む
5. 黄褐色土 ローム塊・暗褐色土を多量、粒状軽石を少量含む
6. 明黄褐色土 暗褐色土を塊状に少量、粒状軽石を若干含む

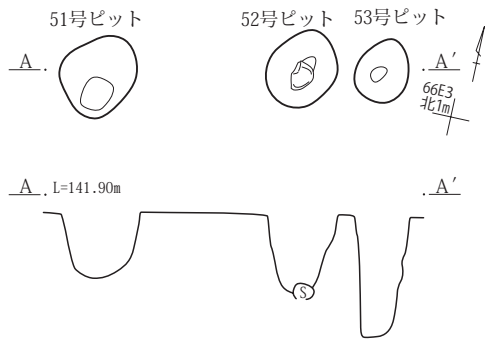
50号ピット



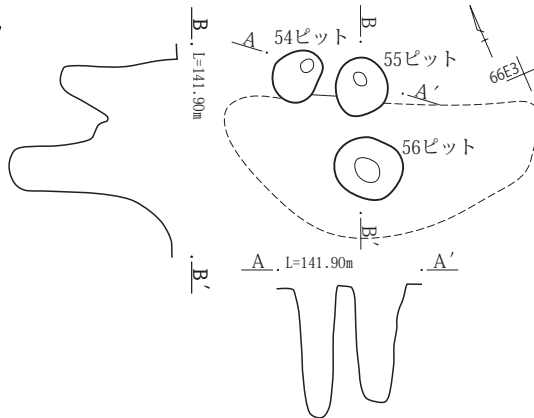
50号ピットA-A'

1. 暗褐色土 白色粒子・粒状軽石を多量、黄褐色ローム塊を少量含む
2. 暗褐色土 白色粒子・粒状軽石を少量含む
3. 黒褐色土 黄褐色ローム塊を少量、粒状軽石を若干含む
4. 黒褐色土 黄褐色ローム塊を多量、粒状軽石を少量含む

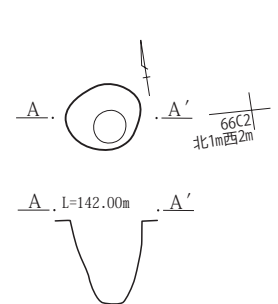
51号～53号ピット



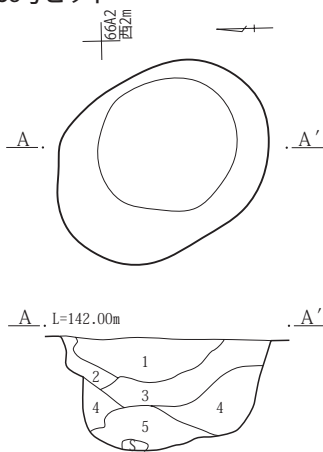
54号～56号ピット



57号ピット



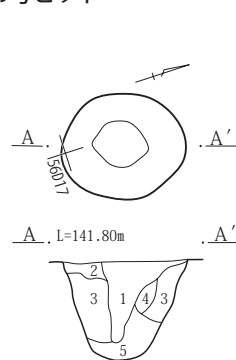
58号ピット



58号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色ローム粒を少量含む
2. にぶい黄褐色土 黄褐色ローム塊を多量、粒状軽石・黒褐色塊土を少量含む
3. 暗褐色土 粒状軽石・黄色ローム粒を多量に含む
4. 褐色土 黄褐色ローム塊を多量、粒状軽石を少量含む
5. 黒褐色土 粒状軽石を若干、黄褐色ローム塊を少量含む

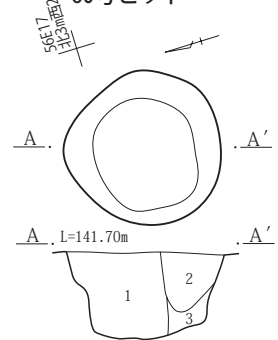
59号ピット



59号ピットA-A'

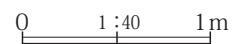
1. 黒褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色ローム塊を若干含む
3. 褐色土 黄褐色ローム塊・黒褐色塊を多量、粒状軽石を少量含む
4. にぶい黄褐色土 黄褐色ローム塊を少量含む
5. 暗褐色土 黒褐色塊を多量、黄褐色ローム塊・粒状軽石を少量含む

60号ピット



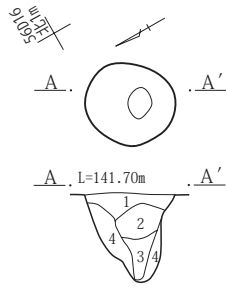
60号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 暗褐色土 黄褐色ローム塊を少量、黒褐色塊を多量に含む
3. 暗褐色土 黄褐色ローム塊を多量、黒褐色塊を少量含む



第214図 49号～60号ピットと49号ピット出土遺物

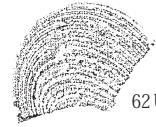
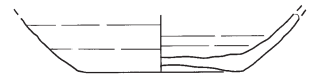
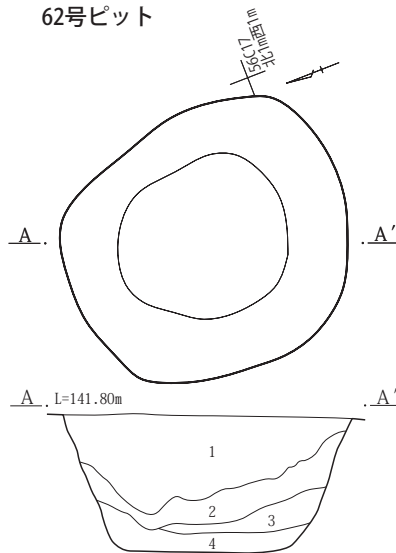
61号ピット



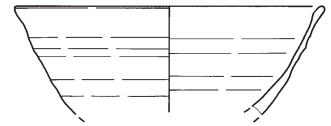
61号ピットA-A'

1. 暗褐色土 黄色ローム粒を若干、粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を多量に含む
3. 黒褐色土 粒状軽石を多量、黄色ローム粒を少量含む
4. 褐色土 黄褐色ローム塊を多量、黒褐色塊を少量含む

62号ピット



62ピット 1

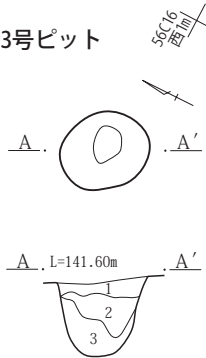


62ピット 2

62号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色ローム塊を少量含む
3. 暗褐色土 黄褐色ローム塊を多量、粒状軽石を少量含む
4. 褐色土 粒状軽石・黄褐色ローム塊を少量含む

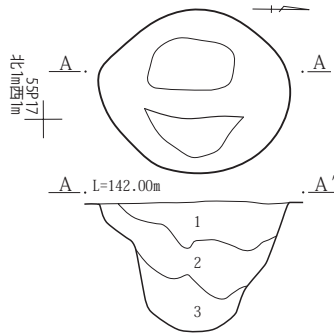
63号ピット



63号ピットA-A'

1. 暗褐色土 黄褐色ローム塊を少量、粒状軽石を多量に含む
2. 暗褐色土 粒状軽石を少量、黄褐色ローム粒を若干含む
3. 褐色土 粒状軽石を若干、黄褐色ローム塊を少量含む

64号ピット

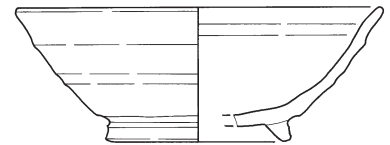


64号ピットA-A'

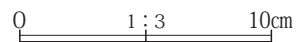
1. 暗褐色土 黄褐色ローム塊を少量、粒状軽石を多量に含む
2. 暗褐色土 粒状軽石を少量、黄褐色ローム粒を若干含む
3. 褐色土 粒状軽石を若干、黄褐色ローム塊を少量含む



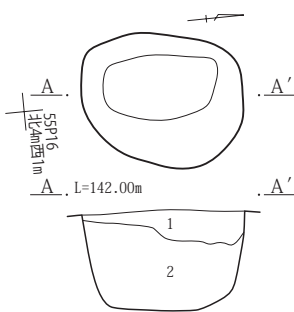
64ピット 1



64ピット 2

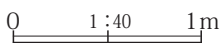


65号ピット

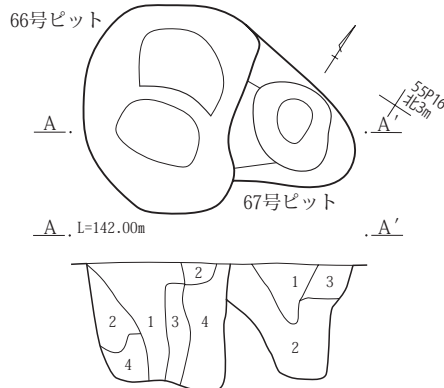


65号ピットA-A'

1. にぶい黄褐色土 明黄褐色ローム塊・粒状軽石を多量に含む
2. 暗褐色土 黄褐色ローム塊・粒状軽石を少量含む



66号・67号ピット

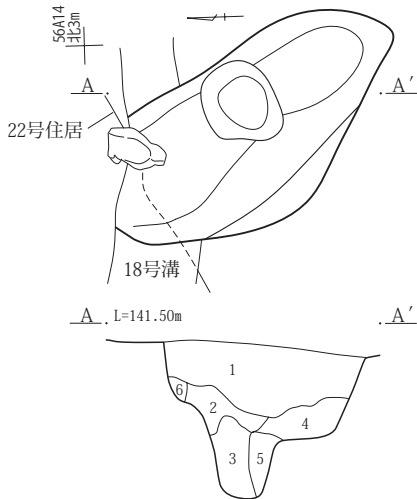


66号・67号ピットA-A'

1. 暗褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色ローム塊を少量含む
2. 暗褐色土 粒状軽石・黄褐色ローム塊を少量含む
3. にぶい黄褐色土 粒状軽石を少量、黄褐色ローム塊を多量に含む
4. 黄褐色土 黄褐色ローム塊主体、粒状軽石を若干、暗褐色土を少量含む

第215図 61号～67号ピットと62号・64号ピット出土遺物

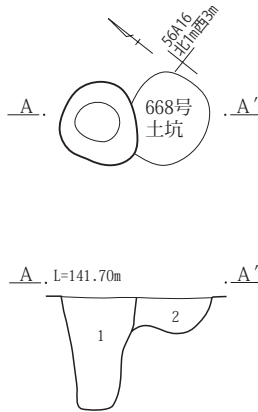
68号ピット



68号ピットA-A'

1. 暗褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色ローム塊を若干含む
2. 暗褐色土 粒状軽石を少量含む
3. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む
4. 褐色土 黄褐色ローム塊を少量、粒状軽石を若干含む
5. 黄褐色土 黄褐色ローム塊主体、黒褐色土・暗褐色土・粒状軽石を若干含む
6. にぶい黄褐色土 粒状軽石を若干含む

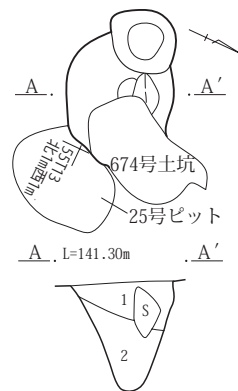
69号ピット



69号ピットA-A'

1. 暗褐色土 粒状軽石を多量、黄褐色ローム塊を少量含む
2. 暗褐色土 粒状軽石を多量に含む

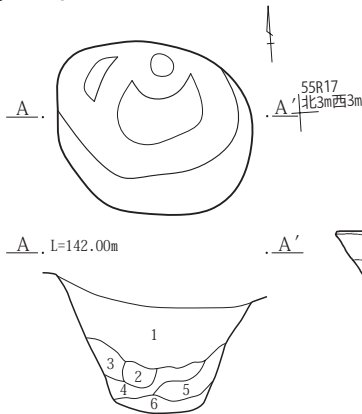
70号ピット



70号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む

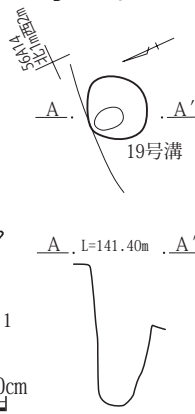
71号ピット



71号ピットA-A'

1. 暗褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む
3. 褐色土 粒状軽石を少量、黄褐色ローム粒を若干含む
4. にぶい黄褐色土 粒状軽石を少量、黄褐色ローム塊を多量に含む
5. 黒褐色土 粒状軽石・ローム塊を若干含む
6. 黒褐色土 粒状軽石を若干含む

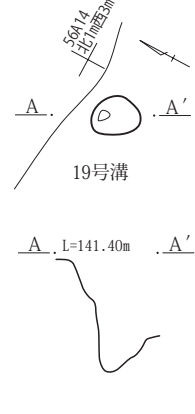
72号ピット



72号ピットA-A'

1. 暗褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む

73号ピット



73号ピットA-A'

1. 暗褐色土 粒状軽石を多量に含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む

第216図 68号～73号ピットと71号ピット出土遺物

49号ピット(第214図)

**位置** 56-F-17 **重複** なし。 **形状** 楕円形  
**規模** 長軸0.73m 短軸0.64m 残存深度0.53m  
**長軸方位** N-43°-W **埋没土** 白色粒子や粒状軽石を含む暗褐色土・白色粒子や粒状軽石、ロームブロックを含む褐色土・ロームブロックや粒状軽石を含む黄褐色土。  
**遺物** 土師器甕(1)がフク土から出土した。  
**時期** 出土遺物の土師器甕(1)から9世紀後半の時期と考えられる。

62号ピット(第215図、PL.47)

**位置** 56-C-17 **重複** なし。 **形状** 楕円形  
**規模** 長軸1.54m 短軸1.39m 残存深度0.72m  
**長軸方位** N-15°-W **埋没土** 粒状軽石を多量に含む黒褐色土・ロームブロックや粒状軽石を含む褐色土。  
**遺物** 須恵器坏(1)須恵器碗(2)がフク土から出土した。未掲載遺物では、土師器38点、須恵器2点が出土した。  
**時期** 共伴する須恵器坏(1)や須恵器碗(2)などの出土遺物から9世紀後半の時期と考えられる。

64号ピット(第215図、PL.85)

**位置** 55-P-17 **重複** なし。 **形状** 楕円形  
**規模** 長軸1.02m 短軸0.86m 残存深度0.67m  
**長軸方位** N-3°-E **埋没土** ロームブロックや粒状軽石を含む暗褐色土・褐色土。 **遺物** 「足」を墨書する黒色土器環(1)と須恵器碗(2)がフク土から出土した。未掲載遺物では、土師器3点、須恵器4点が出土した。 **時期** 共伴する黒色土器環(1)や須恵器碗(2)などの出土遺物から9世紀末の時期と考えられる。

71号ピット(第216図、PL.85)

**位置** 55-R-17 **重複** なし。 **形状** 楕円形  
**規模** 長軸1.03m 短軸0.90m 残存深度0.73m  
**長軸方位** N-86°-W **埋没土** 粒状軽石を含む暗褐色土・黒褐色土、粒状軽石・黄褐色ローム粒を含む褐色土・粒状軽石・黄褐色ロームブロックを含むぶい黄褐色土、粒状軽石・ロームブロックを含む黒褐色土の順に堆積していた。 **遺物** 土師器環(1)がフク土から出土

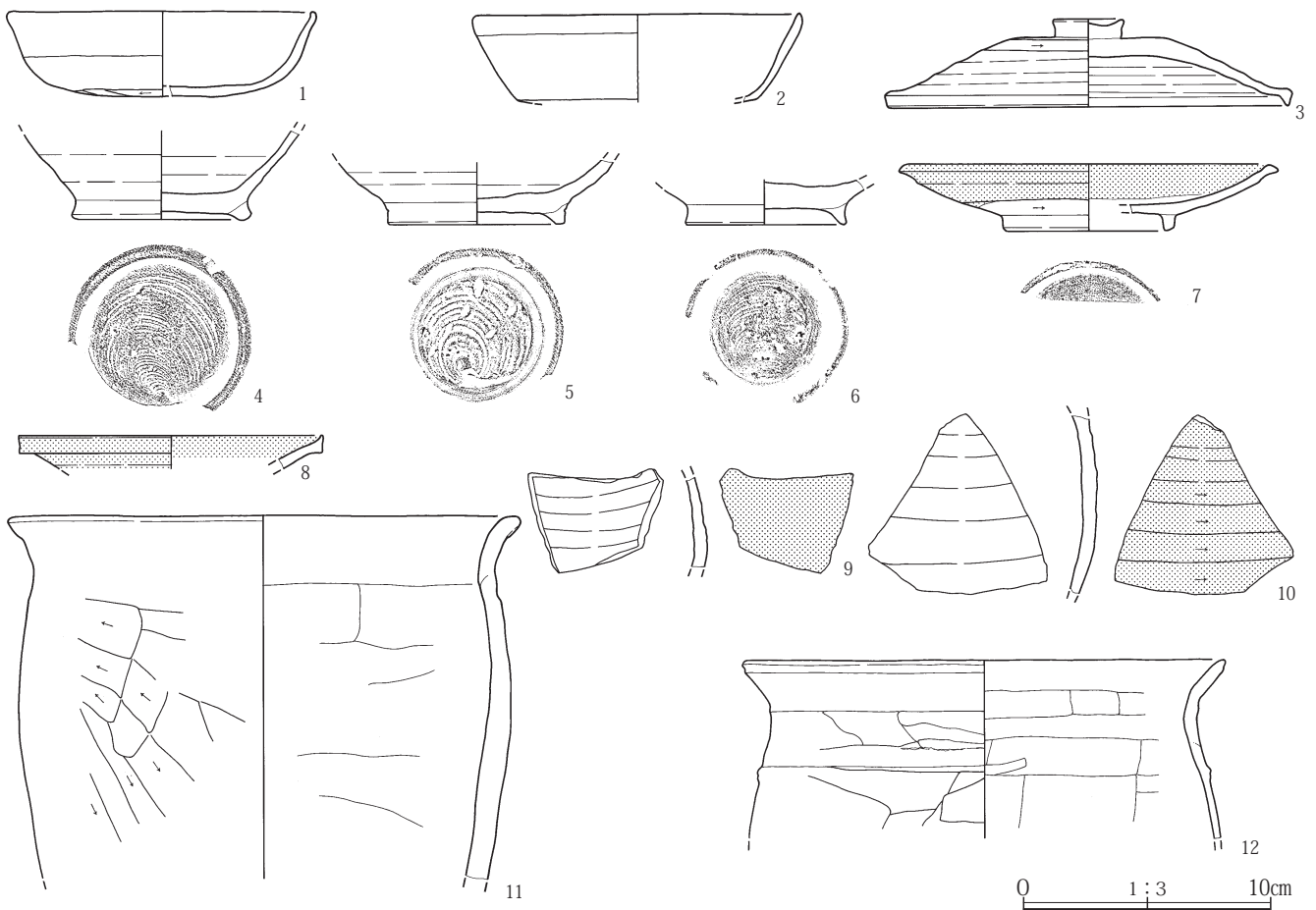
した。未掲載遺物では、土師器3点、須恵器2点が出土した。 **時期** 出土遺物の土師器環(1)から9世紀末の時期と考えられる。

10. 奈良・平安時代遺構外出土遺物

(第217図、PL.85)

奈良・平安時代の遺構外出土遺物として、12点を図示した。土師器環(1・2)、須恵器蓋(3)、須恵器碗(4・5・6)、灰釉陶器皿(7)、灰釉陶器瓶(8・9・10)、土師器甕(11・12)である。なお、灰釉陶器皿(7)は、19号竪穴状遺構の灰釉陶器皿(14)と同一個体の可能性がある。

奈良・平安時代の未掲載遺構外出土遺物は、3,057点にのぼる。その内訳は、土師器2,396点、須恵器583点、灰釉陶器12点、時期細分が難しいもの66点である。この中に奈良・平安時代以前の土師器・須恵器が含まれている可能性もあるが、細片のため区別することは難しかった。



第217図 奈良・平安時代遺構外出土遺物

## 第7節 中世・近世以降

### 1. 概要

中世は、溝1条、土坑62基を検出した。10号溝が66区にあるのみで、67区西側観音側沿いの調査区に土坑が集中していた。

近世は、溝4条、土坑9基を検出した。67区東側に土坑が集中していた。

### 2. 溝

#### 中世

**10号溝**(第221図、PL.39)

**位置** 66-F・G-2~4 **走行方向** N-22°-W

**重複** 7号~10号溝と重複する。新旧関係は、古代の9号溝がもっとも古く、中世の10号溝、近世の7号溝、8号溝の順である。

**規模** 幅0.30~0.64m 残存深度0.11~0.41m 調査長41.5m **埋没土** 細粒状軽石を含む軟質の黒褐色土が堆積していた。**遺物** なし。**時期** 埋没土より中世の時期と考えられる。

#### 近世

**2号溝**(第218図、PL.48・86)

**位置** 67-C~I-8~11

**走行方向** N-64°-W、N-43°-E

**重複** 29号・30号住居、3号溝、289号・385号土坑と重複する。新旧関係は、29号・30号住居、289号・385号土坑より新しい。3号溝との新旧関係は不明である。

**規模** 幅0.4~1.0m 残存深度0.06~0.34m 調査長33.00m **埋没土** 不明。**遺物** 肥前陶器の鉢か皿(1)が底面から12cm、瀬戸・美濃陶器の徳利(2)が底面から28cm上から出土した。フク土から硯(3)と煙管雁首(4)が出土した。未掲載遺物は須恵器2点、縄文土器30点である。

**時期** 出土遺物から近世以降の時期と考えられる。

**3号溝**(第219・220図、PL.48・86)

**位置** 67-F~H-4~10 **走行方向** N-20°-E

**重複** 2号溝と重複する。2号溝との新旧関係は不明である。**規模** 幅0.8~3.6m 残存深度0.15~1.06m 調査長31.20m **埋没土** 粒状軽石を混入する軟質な暗褐色土とロームブロックを混入する暗褐色土が堆積していた。**遺物** 砥石(1)が底面から2cm上から出土した。未掲載遺物は縄文土器24点である。

**時期** 遺構確認状況から近世以降の時期と考えられる。

**所見** 溝としての性格をもつが、南端では繰り返し粘土採掘が行われていたと考えられる。

**7号溝**(第221図、PL.39)

**位置** 66-F-2~4 **走行方向** N-14°-E

**重複** 8号・10号溝と重複する。新旧関係は、中世の10号溝、近世の7号溝、8号溝の順である。

**規模** 幅0.40~0.72m 残存深度0.18~0.20m 調査長12.35m **埋没土** 黒褐色土が堆積していた。**遺物** 未掲載遺物は土師器2点、須恵器2点である。

**時期** 遺構検出状況から、近世以降と考えられる。

**8号溝**(第221図、PL.39)

**位置** 66-G・H-1・2 **走行方向** N-70°-W

**重複** 7号・10号溝と重複する。新旧関係は、中世の10号溝、近世の7号溝、8号溝の順である。

**規模** 幅0.81~1.06m 残存深度0.06~0.24m 調査長8.95m **埋没土** ローム粒子、粒状軽石を若干含む、軟質の黒褐色土が堆積していた。**遺物** 非掲載遺物は土師器4点、須恵器3点である。

**時期** 遺構検出状況から、近世以降と考えられる。

### 3. 土坑

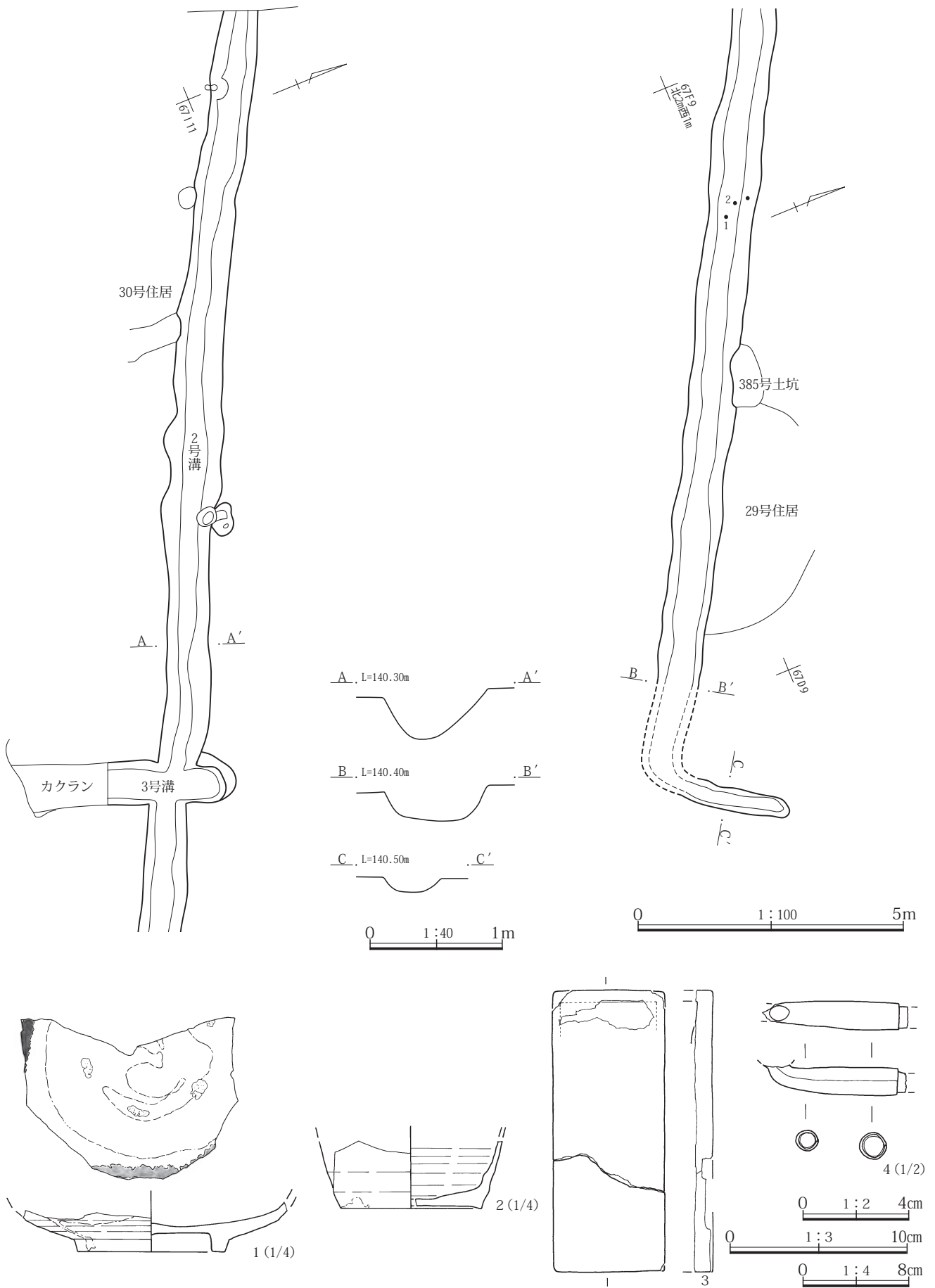
**中世**(第222・223図、PL.48)

検出された中世の土坑は、62基(571号~632号土坑)である。67区西側観音川沿いの南際にあり、いずれも方形の形状であった。遺物の出土はなく、遺構確認面から、中世の土坑と判断した。(第28表土坑一覧表参照)

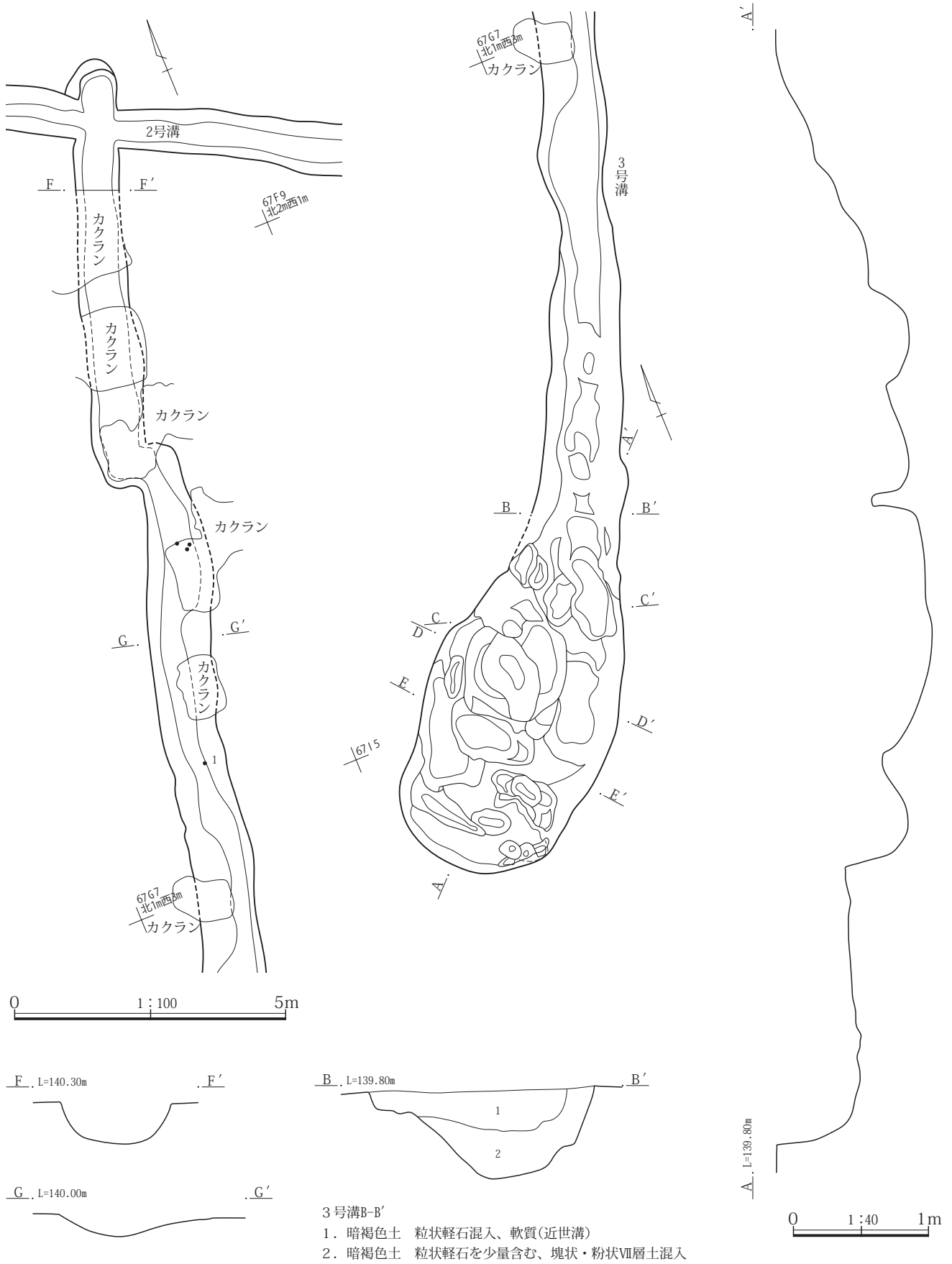
**近世**(第224図、PL.48)

検出された近世の土坑は、9基(1号・226号・230号・279号~281号・286号・287号・560号土坑)である。67

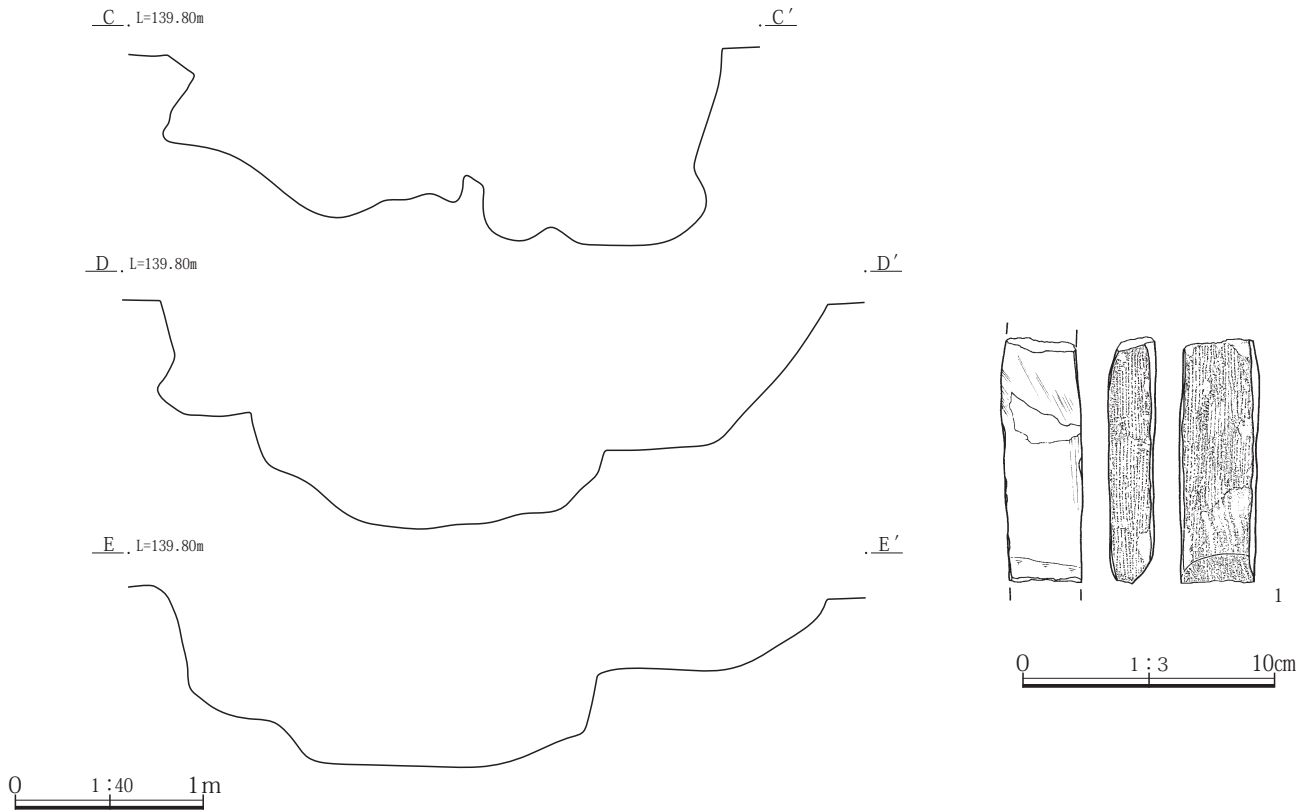




第218図 2号溝と出土遺物



第219図 3号溝



第220図 3号溝エレベーション図と出土遺物

区東側に集中していた。そのうち報告するのは、遺物の出土した280号・281号と280号と重複する279号土坑と、縄文時代の1号配石の上にあった286号土坑の4基である。その他の詳細については、第28表土坑一覧表を参照していただきたい。

**279号土坑**(第224図、PL.48)

**位置** 67-G-7 **重複** 280号土坑と重複する。新旧関係は、280号土坑と同時期である。 **形状** 円形 **規模** 長軸1.16m 短軸1.07m 残存深度0.39m **長軸方位** N-61°-W **埋没土** As-B・粒状軽石・小ブロックロームを含む黒褐色土が堆積していた。 **遺物** 未掲載の縄文土器1点。 **時期** 重複している280号土坑同様、18世紀中頃以降と考えられる。 **所見** 280号土坑と重複しているが、これは江戸時代の便所として使われていた跡である。

**280号土坑**(第224図、PL.48・86)

**位置** 67-G-7 **重複** 279号土坑と重複する。新旧関係は、279号土坑と同時期である。 **形状** 楕円形 **規模** 長軸1.58m 短軸1.48m 残存深度0.39m **長軸方位** N-47°-E **埋没土** As-B・粒状軽石・小

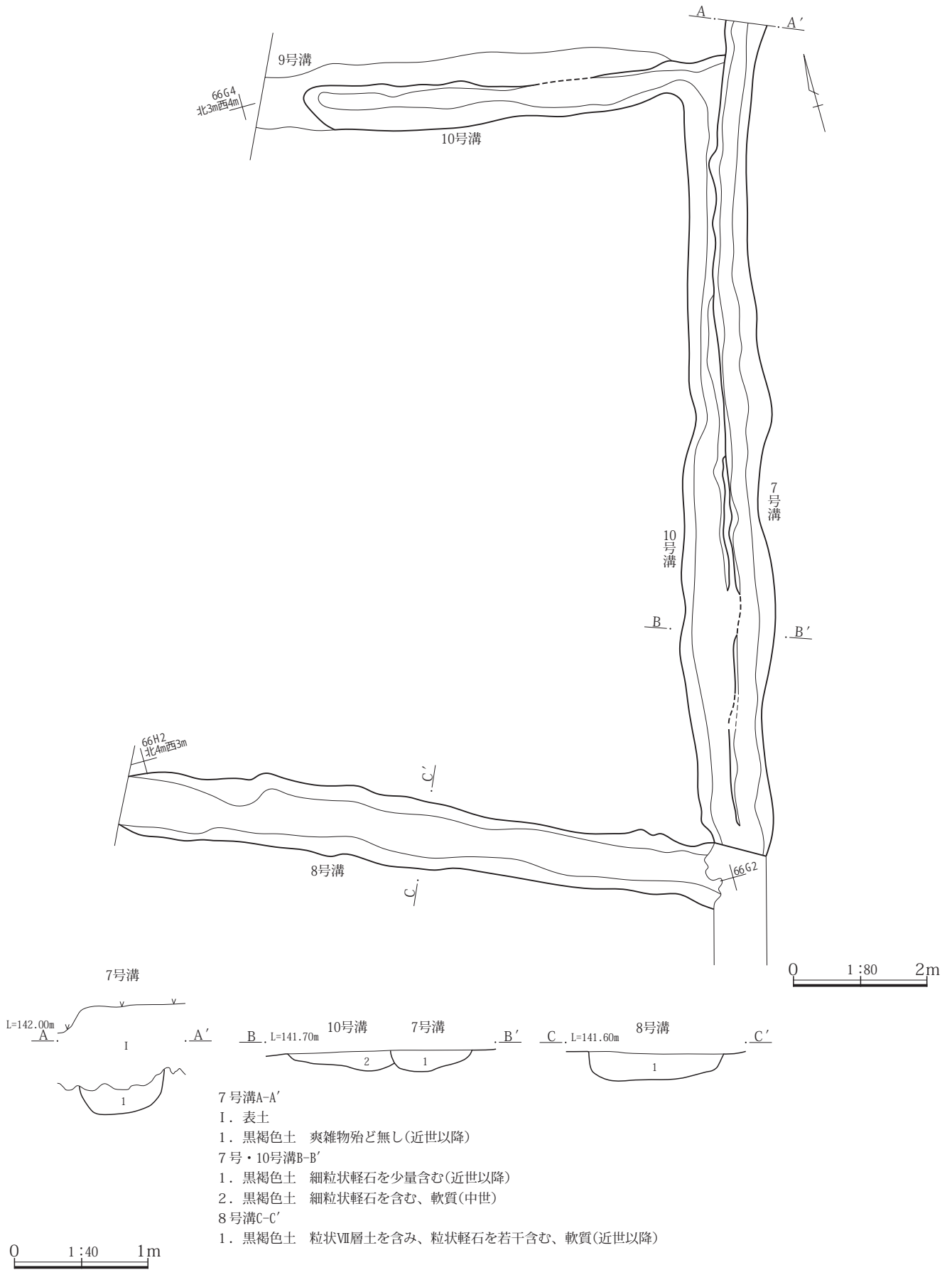
ブロックロームを含む黒褐色土が堆積していた。 **遺物** 出土したのは、掲載した肥前磁器の碗(1)である。 **時期** 出土遺物から、18世紀中頃以降と考えられる。 **所見** 279号土坑と重複しているが、これは江戸時代の便所として使われていた跡である。

**281号土坑**(第224図、PL.86)

**位置** 67-G-7 **重複** なし。 **形状** 円形 **規模** 長軸0.67m 短軸0.66m 残存深度0.07m **長軸方位** N-81°-W **埋没土** As-B・粒状軽石・小ブロック状のローム土を含む黒褐色土が堆積していた。 **遺物** 出土したのは掲載した煙管・吸い口(1)である。 **時期** 出土遺物から、近世以降の時期と考えられる。

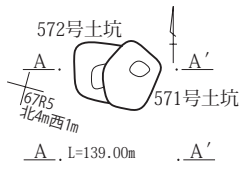
**286号土坑**(第224図、PL.48)

**位置** 67-F-11 **重複** 27号・41号住居、1号配石と重複する。新旧関係は、27号・41号住居(両者新旧関係は不明)、1号配石、近世の286号土坑の順である。 **形状** 楕円形 **規模** 長軸0.92m 短軸0.70m 残存深度0.33m **長軸方位** N-37°-W **埋没土** 粒状軽石を含む黒褐色土。 **遺物** 凹石、多孔石、石棒が出土したが、重複

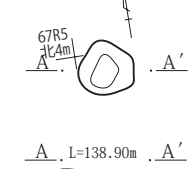


第221図 7号・8号・10号溝

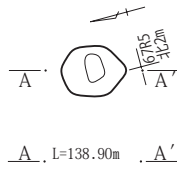
571号・572号土坑



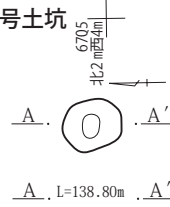
573号土坑



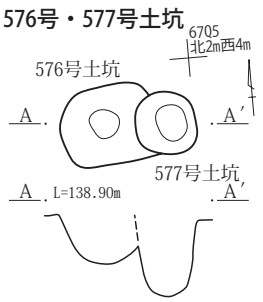
574号土坑



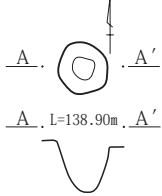
575号土坑



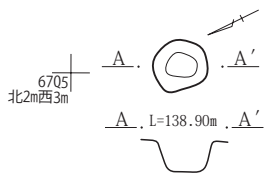
576号・577号土坑



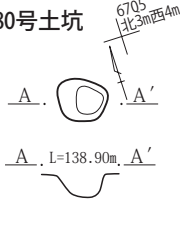
578号土坑



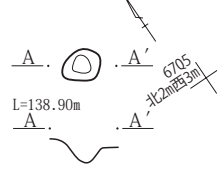
579号土坑



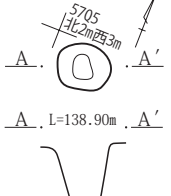
580号土坑



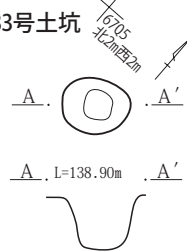
581号土坑



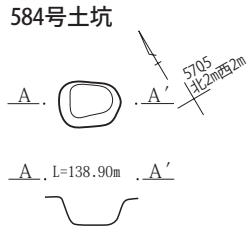
582号土坑



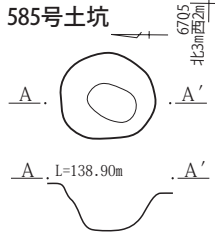
583号土坑



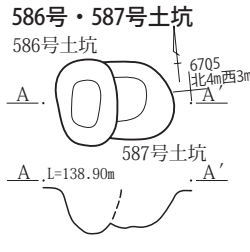
584号土坑



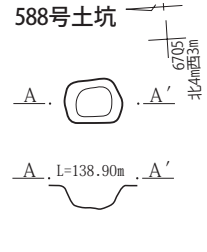
585号土坑



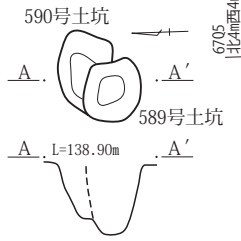
586号・587号土坑



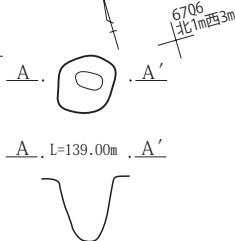
588号土坑



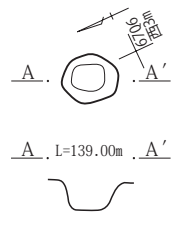
589号・590号土坑



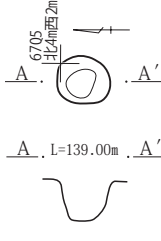
591号土坑



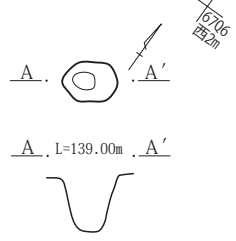
592号土坑



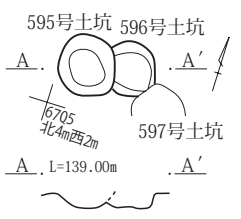
593号土坑



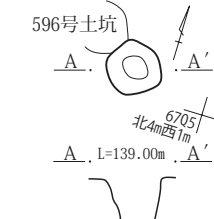
594号土坑



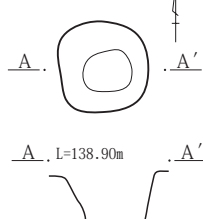
595号・596号土坑



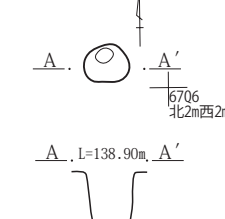
597号土坑



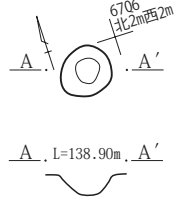
598号土坑



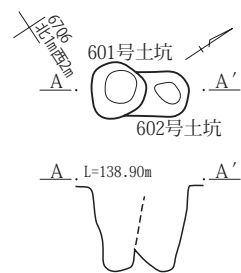
599号土坑



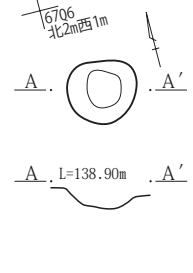
600号土坑



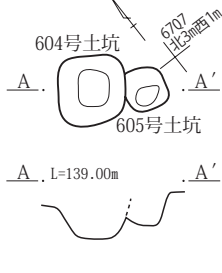
601号・602号土坑



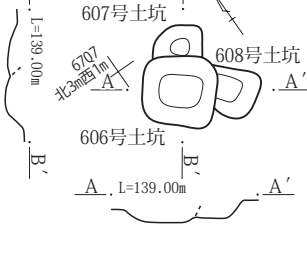
603号土坑



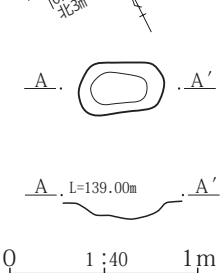
604号・605号土坑



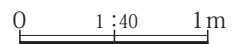
606号~608号土坑

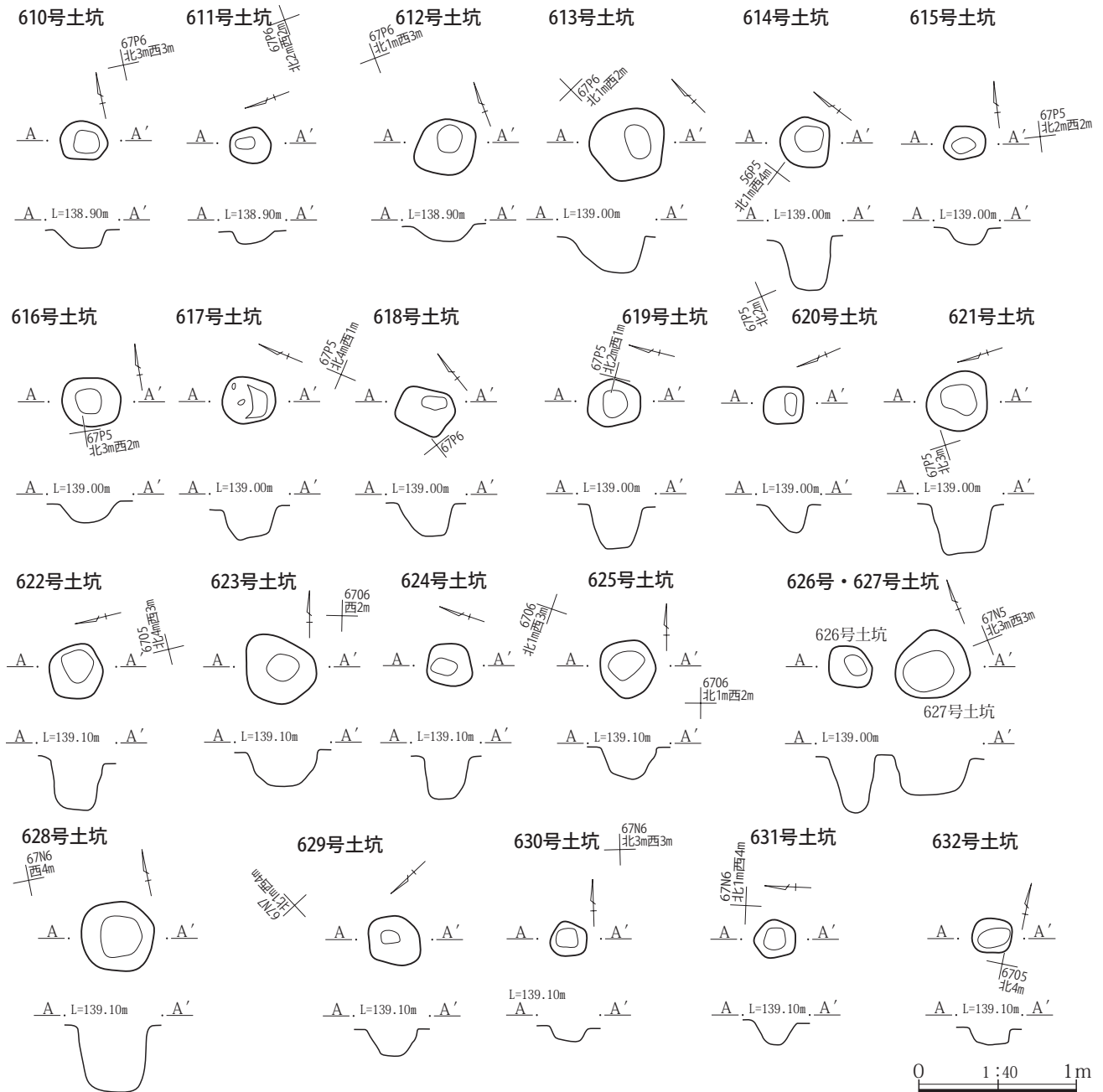


609号土坑



第222图 571号~609号土坑





第223図 610号～632号土坑

する1号配石の遺物の混入と考えられる。

**時期** 埋没土より近世以降の時期と考えられる。

#### 4. 中世・近世以降遺構外遺物

(第225図、PL.86)

中世・近世以降の遺構外遺物として、20点を図示した。中世の青磁碗(1・3)、白磁皿(2)や近現代の信楽陶器の煮繭鍋(6)、煮繭鍋か線糸鍋(4・5・7)などの陶磁器類、活桑器瓶(9)や全乳瓶(10)などのガラス製品、砥石(11・13)や石造物の台座(12)などの石製品、煙管の雁首(14)や吸い口(15)、寛永通寶(18・19)や天保通寶(17)

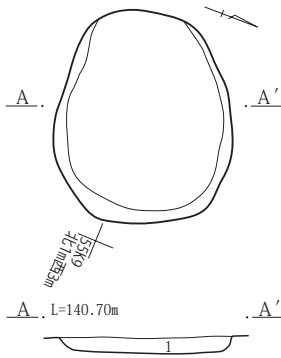
などの銅製品である。

近現代の遺物であるが、製糸業に係わる煮繭鍋か線糸鍋(4～7)や活桑器瓶(9)が出土している。また、全乳瓶(10)は、大正10年まで前橋市北曲輪町にあった赤城牧場前橋搾乳所(現在のるなばあく)で搾乳された牛乳を入れていたものである。

中世・近世以降の遺構外出土の未掲載陶磁器類は、800点にのぼる。その内訳は、中世の陶磁器類7点、近世の陶磁器類245点、近代・現代の陶磁器類496点、時期細分が難しいもの52点である。

近世

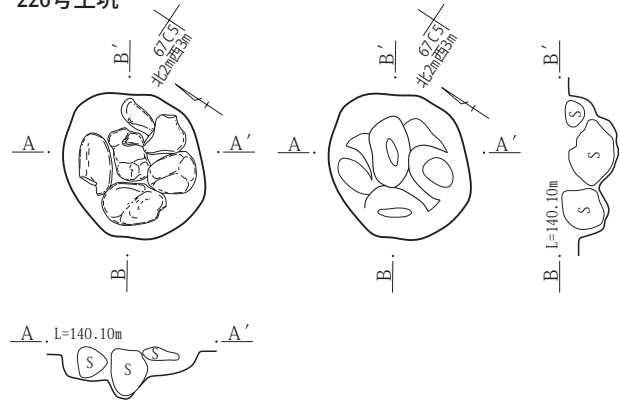
1号土坑



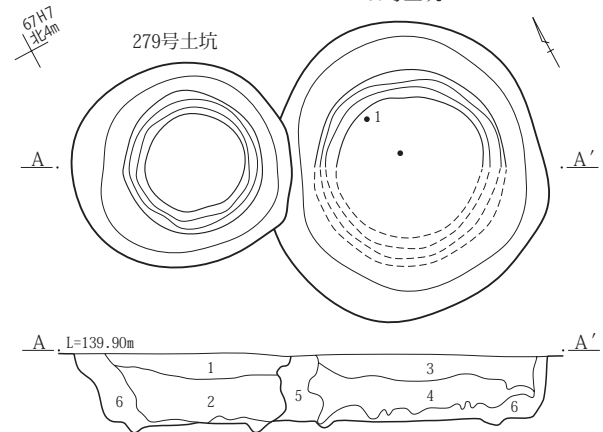
1号土坑A-A'

1. 黒褐色土 細粒白色軽石・微粗ローム粒を含む

226号土坑



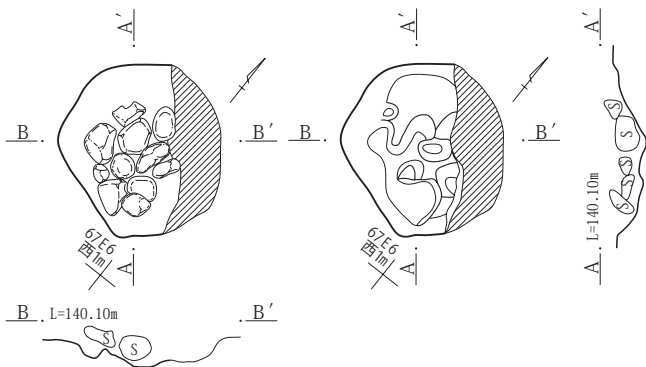
279号・280号土坑



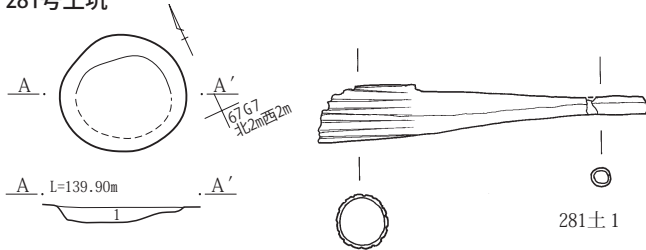
279号・280号土坑(桶土坑) A-A'

1. 黒褐色土 As-Bを含み、粒状軽石を少量、小塊状VII層土を若干含む
2. 黒褐色土 As-Bを含む
3. 黒褐色土 As-Bを含み、粒状軽石を少量、小塊状VII層土を若干含む
4. 黒褐色土 As-Bを含む
5. ローム塊とIII層土の混土
6. VI層土とVII層土(塊状)の混土

230号土坑

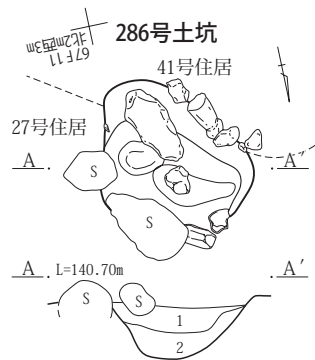
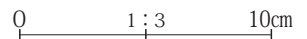
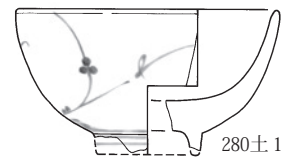
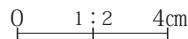


281号土坑



281号土坑A-A'

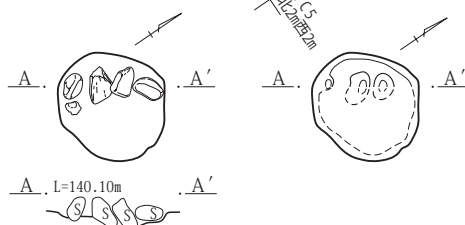
1. 黒褐色土 As-Bを含み、粒状軽石を少量、小塊状VII層土を若干含む



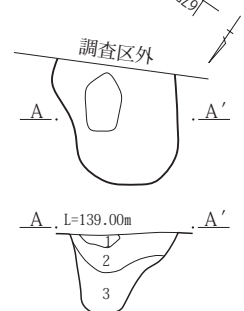
286号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粒状軽石を少量含む
2. 黒褐色土 粒状軽石を若干含む

287号土坑

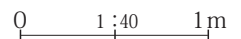


560号土坑



560号土坑A-A'

1. 塊状VII層土
2. 暗褐色土 細粒白色粒子を少量含む
3. 暗褐色土 塊状VII層土混入、細粒白色粒子を含む





第225図 中世・近世以降遺構外出土遺物



## 第4章 自然科学分析

### 分析の目的

新田上遺跡では、旧石器の出土もあり、層位中に存在するテフラを同定することによって、確実な層位、層相を把握するため火山灰分析を実施した。

### 第1節 火山灰分析

#### 1. はじめに

関東地方北西部に位置する前橋市とその周辺には、赤城、榛名、浅間など北関東地方に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ(火山砕屑物、いわゆる火山灰)が数多く降灰している。後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的特徴がテフラ・カタログ(町田・新井, 1992, 2003)などに収録されており、考古遺跡などで調査分析を行って、とくに層位や年代が明らかにされているテフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには遺物や遺構の年代などに関する研究ができるようになっている。

赤城山南西麓に位置する新田上遺跡の発掘調査でも、層位や年代が不明な旧石器時代の遺物が検出されたことから、テフラ分析を実施して、遺構や遺物包含層の層位や年代に関する資料を得ることになった。分析対象は、67区E-3グリッド東面(第1ブロック内)である。

#### 2. 土層の層序

分析対象地点(67区E-3グリッド東面)では、下位より褐灰色粘質土(層厚10cm以上)、黄色に風化した細粒軽石を多く含む褐灰色粘質土(レンズ状, 最大層厚4cm, 軽石の最大径5mm)、褐灰色粘質土(層厚4cm, 以上XVII層)、黄白色風化軽石混じり褐灰色土(層厚19cm, 軽石の最大径8mm, XVI層)、黄色に風化した細粒軽石層(層厚8cm, 軽石の最大径3mm)、砂混じり褐灰色土(層厚3cm)、黄色に風化した粗粒~中粒軽石層(層厚12cm, 軽石の最大径8mm, 石質岩片の最大径2mm)、細粒の橙色軽石を含む褐灰色砂質土(層厚7cm, 軽石の最大径3mm, XV層)、成層したテフラ層(層厚12cm)、褐色リモナイト層(層厚4cm, 以上XIV層)、わずかに黄色がかかった白

色粗粒火山灰に富む灰色がかかった褐色土(層厚4cm, XIII層)、わずかに黄色がかかった白色粗粒火山灰を多く含む灰色がかかった褐色土(層厚22cm, XII層)、灰色がかかった褐色土(層厚19cm, XI層)、黄色細粒軽石を含む灰色がかかった褐色土(層厚12cm, 軽石の最大径2mm, X層)、黄色細粒軽石を含む黄褐色土(層厚16cm, 軽石の最大径4mm, IX層)、黄褐色土(層厚4cm)、比較的粗粒の黄色軽石層(ブロック状, 最大層厚6cm, 軽石の最大径11mm, 石質岩片の最大径2mm)、黄褐色土(層厚1cm, 以上VIII層)、灰褐色土(層厚8cm, VII層)、暗灰褐色土(層厚12cm, VI層)が認められた(第226図)。

これらのうち、XIV層の成層したテフラ層は、下位の粗粒な橙色軽石層(層厚6cm, 軽石の最大径12mm, 石質岩片の最大径2mm)と、上位の砂質で細粒な橙色軽石層(層厚6cm, 軽石の最大径3mm)から構成されている。

#### 3. テフラ検出分析

##### (1) 分析試料と分析方法

分析対象地点(67区E-3グリッド東面)において採取された試料のうちの10点を対象に、テフラ粒子の量や特徴などを定性的に把握するテフラ検出分析を実施した。合わせて磁鉄鉱など不透明鉱物をのぞく重鉱物組成を定性的に明らかにした。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料7gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察。

##### (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第15表に示す。いずれの試料からも、粗粒の軽石やスコリアは認められなかったものの、火山ガラスを検出できた。試料12および試料11には、無色透明のバブル型ガラスが認められ、とくに前者に多い傾向にある。重鉱物としては、斜方輝石、単斜輝石のほか、角閃石が認められる。後者には、ほかに高温型( $\beta$ )石英も含まれている。

成層したテフラ層から採取された試料8および試料7に含まれるテフラ粒子、さらに試料4にかけて含まれる

テフラ粒子は、いずれも似た特徴をもつ。火山ガラスとしては、シャーベット状の淡褐色ガラスや分厚い中間型ガラスが少量認められる。重鉱物としては、斜方輝石や斜方輝石が含まれている。

試料3より上位では、繊維束状やスポンジ状の軽石型ガラス、それに中間型ガラスが比較的多く含まれている。火山ガラスの色調としては、白色、無色透明、淡灰色などである。これらの試料に含まれる重鉱物も斜方輝石や単斜輝石であるが、試料3や試料1には、ほかに角閃石も認められる。

#### 4. 火山ガラス比分析

##### (1) 分析試料と分析方法

旧石器時代遺物が出土した火山灰土については、肉眼で指標テフラの降灰層準を把握できない場合、まず火山ガラスの色調形態別含有率を求める火山ガラス比分析を行って火山ガラス質テフラの降灰層準を求める。そこで、試料1～7の7試料について火山ガラス比分析を実施して、火山ガラスの色調形態別含有率の垂直的变化を定量的に明らかにし、指標テフラの降灰層準の把握を行った。分析の手順は次のとおりである。

1) テフラ検出分析済みの試料7点について篩別を行い、1/4-1/8mmおよび1/8-1/16mm (屈折率測定用：後述)の粒子を得る。

2) 1/4-1/8mm粒径の250粒子について偏光顕微鏡下で観察を行い、火山ガラスの色調形態別含有率を求める。今回は、ほかに軽鉱物と重鉱物の含有率も明らかにした。

##### (2) 分析結果

火山ガラス比分析の結果をダイヤグラムにして第227図に、その内訳を第16表に示す。火山ガラスの含有率は全体として下位より上位に向かって増大する。軽鉱物の変化はさして顕著ではないが、重鉱物の含有率は逆に上位に向かって低下する。中では、試料4から試料3にかけての変化(29.6%から17.6%)が比較的目立つ。その他の岩片や風化物の含有率は上位に向かって低下する。このことは下位の方の試料の純度がより高いことを示唆している。

検出された火山ガラスの内訳をみると、下位の試料で、淡褐色の軽石型ガラス(試料4～7)や中間型ガラスが少量認められる。そして、試料4から上位で中間型、繊維

束状軽石型が目立つようになり、最上位の試料1で含有率は最大(14%)となる。この試料での火山ガラスの内訳は、含有率の高い順に中間型(8.0%)、繊維束状軽石型(5.6%)、そしてスポンジ状軽石型(0.4%)である。

#### 5. 屈折率測定

##### (1) 測定試料と測定方法

指標テフラとの同定精度を向上させる方法としては、全国的に火山ガラスや鉱物の屈折率測定が行われている。そこで、火山ガラスが特徴的に認められる試料3と試料1の2試料に含まれる火山ガラスを対象に、屈折率測定を行って指標テフラとの同定精度の向上を図った。

測定対象は1/8-1/16mmの火山ガラスで、温度変化型屈折率測定装置(京都フィッシュン・トラック社製RIMS2000)を用いて測定を実施した。

##### (2) 測定結果

屈折率測定結果を表17に示す。この表には、群馬県域の後期旧石器時代の代表的な指標テフラに含まれる火山ガラスの屈折率特性も記載した。試料3に含まれる火山ガラス40粒子の屈折率(n)のrangeは広く、1.498-1.507である。ただし、値を細かくみると、1.501-1.502および1.505-1.507付近にmodeがある。一方、試料1に含まれる火山ガラス430粒子の屈折率(n)はbimodalで、1.498-1.500 (3粒子)と、1.502-1.504 (40粒子)である。

#### 6. 考察—指標テフラとの同定と石器包含層の層位について

分析対象地点(67区E-3グリッド東面)で認められたテフラ層のうち、Ⅷ層中にブロック状に認められる黄色軽石層は、黒ボク土のすぐ下位にある層位や層相などから、約1.3～1.4万年前<sup>\*1</sup>に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992, 2003)に同定される。

テフラ分析の対象となった試料のうち、最下位の試料12(XV層)に含まれる無色透明のバブル型ガラスは、その岩相から約2.4～2.5万年前<sup>\*1</sup>に南九州地方の始良カルデラから噴出した始良In火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 2003, 松本ほか, 1986, 村山ほか, 1991, 池田ほか, 1995)に由来すると考えられる。試料に含まれる火山ガラスが多いことから、この試料付近にATの降灰層準

があると推定される。試料3や試料1を対象として火山ガラスの屈折率測定で1.408-1.500程度の値が得られた火山ガラスは、このATに由来する可能性が高い。

試料11(XV層)中に濃集する軽石については、その岩相やATとの層位関係や、重鉱物の組み合わせ、さらに高温型( $\beta$ )石英の存在などから、約1.9~2.4万年前<sup>\*1</sup>に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 新井, 1962, 町田・新井, 1992, 2003)の最下部の室田軽石(MP, 森山, 1971, 早田, 1990, 関口ほか, 2011など)の可能性が高い。試料10から試料7(XIV層)が採取された3層の降下軽石層も、層相や試料8および試料7に含まれる火山ガラス、さらに重鉱物の組み合わせなどから、As-BP Groupを構成するテフラと考えられる。つまり本遺跡では、As-BP Groupのうち少なくとも4層が認められることになる。

試料3(XI層上部)には、火山ガラスの色調・形態的特徴、さらに屈折率特性などから、多様なテフラ粒子が混在していると推定される。屈折率特性をみると、1.501-1.502および1.505-1.506付近にそれぞれmodeをもつ火山ガラスは、順に約1.7万年前<sup>\*1</sup>と約1.6万年前<sup>\*1</sup>に浅間火山から噴出した浅間大窪沢第1軽石(As-0k1, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996)および浅間大窪沢第2軽石(As-0k2, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996, As-0k1と合わせて仮に浅間大窪沢テフラ群: As-0k Groupとする)と、その下位の浅間白糸軽石(As-Sr, 町田ほか, 1984)に由来する可能性が高い。前者については、分布から、本遺跡付近に降灰している可能性が高いことから、ここで検出されたテフラについてはAs-0k1の可能性が高いように推定される。

試料1(IX層)に含まれるテフラについては、火山ガラスの色調・形態的特徴、さらに屈折率特性などから、As-0k Groupと考えられる。屈折率特性だけをみると、As-0k2の可能性がより高いように思われる。

以上のことから、石器包含層であるX層およびIX層の層位は、少なくともAs-0k1より上位でAs-YPより下位と推定される。なお、現段階では、As-0k1とAs-0k2を識別するための有効な分析法は知られていない。今後、群馬県域での詳細な旧石器編年のために、屈折率測定レベルを超えた、信頼度の高いEPMAを用いた火山ガラスや磁鉄鉱の主成分化学組成分析などが実施されると良い。

## 7. まとめ

前橋市新田上遺跡で採取されたテフラ試料を対象として、定性的な重鉱物組成記載を含めたテフラ検出分析、火山ガラス比分析、火山ガラスの屈折率測定を行った。その結果、下位より始良Tn火山灰(AT, 約2.4~2.5万年前<sup>\*1</sup>)、浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 約1.9~2.4万年前<sup>\*1</sup>)、浅間白糸軽石(As-Sr)、浅間大窪沢テフラ群(As-0k Group, 約1.6~1.7万年前<sup>\*1</sup>)、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3~1.4万年前<sup>\*1</sup>)などを検出することができた。発掘調査で検出された旧石器時代の石器包含層の層位は、少なくともAs-0k1より上位でAs-YPより下位と推定される。

\*1 いずれも放射性炭素(<sup>14</sup>C)年代。ATおよびAs-YPの暦年較正年代は、約2.8~3.0年前と約1.5~1.65万年前と考えられている(町田・新井, 2003, 早田, 2010)。なお、本地域における後期旧石器時代の指標テフラの年代推定に関する諸問題については、関口ほか(2011)に詳しい。

### 文献

- 新井房夫(1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・小林哲夫(1995) 南九州, 始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器<sup>14</sup>C年代。第四紀研究, 34, p.377-379.
- 町田 洋・新井房夫(1976) 広域に分布する火山灰-始良Tn火山灰の発見とその意義一。科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫(1992) 火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫(2003) 新編火山灰アトラス。東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984) テフラと日本考古学-考古学研究と関係するテフラのカタログ。古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学-総括報告書-」, p.865-928.
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗(1987) 始良Tn火山灰(AT)の<sup>14</sup>C年代。第四紀研究, 26, p.79-83.
- 森山昭雄(1971) 榛名火山東・南山麓の地形-とくに軽石流の地形について。地理学報告, no.36・37, p.107-116.
- 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦(1993) 四国沖ピストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討-タンデロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の<sup>14</sup>C年代。地質雑, 99, p.787-798.
- 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦(1984) 浅間火山, 黒班~前掛期のテフラ層序。日本第四紀学会講演要旨集, no.14, p.69-70.
- 関口博幸・早田 勉・下岡順直(2011) 群馬の旧石器編年のための基礎的研究-関東地方北西部における石器群の出土層位、テフラ層序、数値年代の整理と検討-。群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要, 29, p.1-20.
- 早田 勉(1990) 群馬県の自然と風土。群馬県史編さん委員会編「群馬県史通史編1 原始古代1」, p.37-129.
- 早田 勉(1996) 関東地方~東北地方南部の示標テフラの諸特徴-とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて-。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.
- 早田 勉(2010) 更新世堆積物とテフラ。稲田孝司・佐藤宏之編「講座日本の考古学1 旧石器時代上」, 青木書店, p.77-102.

第15表 テフラ検出分析結果

土層	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物組成
		量	色調	最大径	量	形態	色調	
IX層	1			**	pm (fb, sp), md	白, 透明, 淡灰	opx, cpx, (am)	
X層	2			**	pm (fb), md	白, 透明, 淡灰	opx, cpx	
XI層	3			**	pm (fb, sp), md	白, 透明, 淡灰	opx, cpx, (am)	
	4			*	pm(sh), md	淡褐	opx, cpx	
XII層	5			(*)	pm(sh), md	淡褐	opx, cpx	
	6			(*)	pm(sh), md	淡褐	opx, cpx	
XIV層	7			(*)	pm(sh), md	淡褐	opx, cpx	
	8			(*)	pm(sh), md	淡褐	opx, cpx	
XVII層	11			**	bw	透明	opx, cpx, (am)	
	12			***	bw	透明	opx, cpx, am	

\*\*\*: とくに多い, \*\*: 多い, \*: 中程度, \*: 少ない, (): とくに少ない. 最大径の単位はmm. bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, sp: スポンジ状, sh: シャーベット状, fb: 繊維束状. opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石. (): 量が少ないことを示す.

第16表 火山ガラス比分析結果

土層	試料	bw (cl)	bw(pb)	bw (br)	md	pm(sp)	pm(fb)	軽鉱物	重鉱物	その他	合計
IX層	1	0	0	0	20	1	14	150	23	42	250
X層	2	0	0	0	12	2	8	156	42	30	250
XI層	3	0	0	0	10	2	4	155	44	35	250
XI層	4	0	0	0	5	1	2	138	74	30	250
XII層	5	0	0	0	1	3	0	150	79	17	250
XII層	6	0	0	0	1	1	1	135	107	5	250
XIV層	7	0	0	0	0	2	0	143	94	11	250

数字: 粒子数. bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, sp: スポンジ・シャーベット状, fb: 繊維束状, cl: 透明, pb: 淡褐色, br: 褐色.

第17表 屈折率測定結果

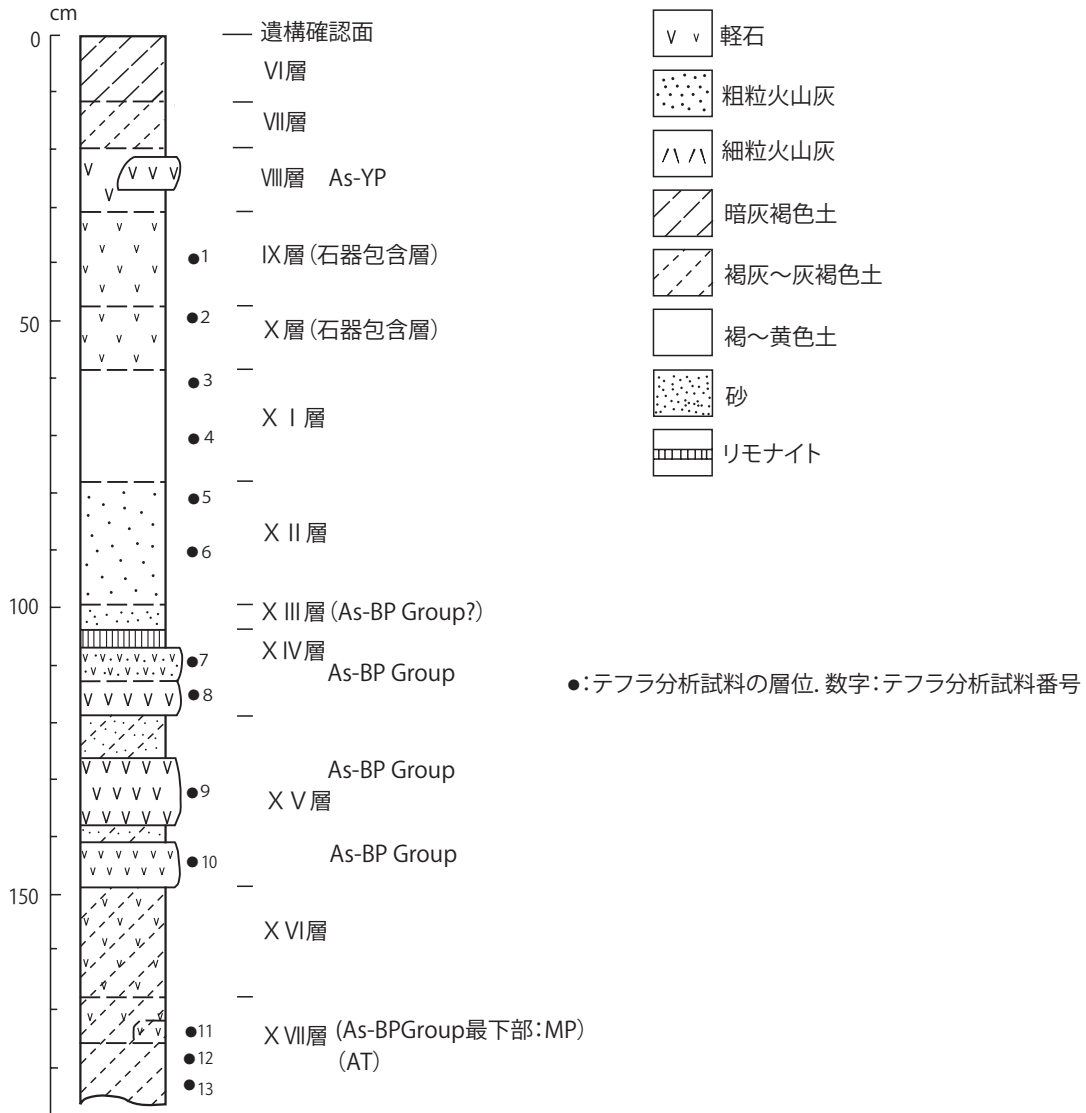
試料・テフラ	試料	火山ガラス		文献
		屈折率(n)	測定点数	
新田上遺跡・試料1	1	1.498-1.500, 1.502-1.504	3, 40	本報告
新田上遺跡・試料3	3	1.498-1.507	40	本報告

<群馬地域の指標テフラ-AT以降>

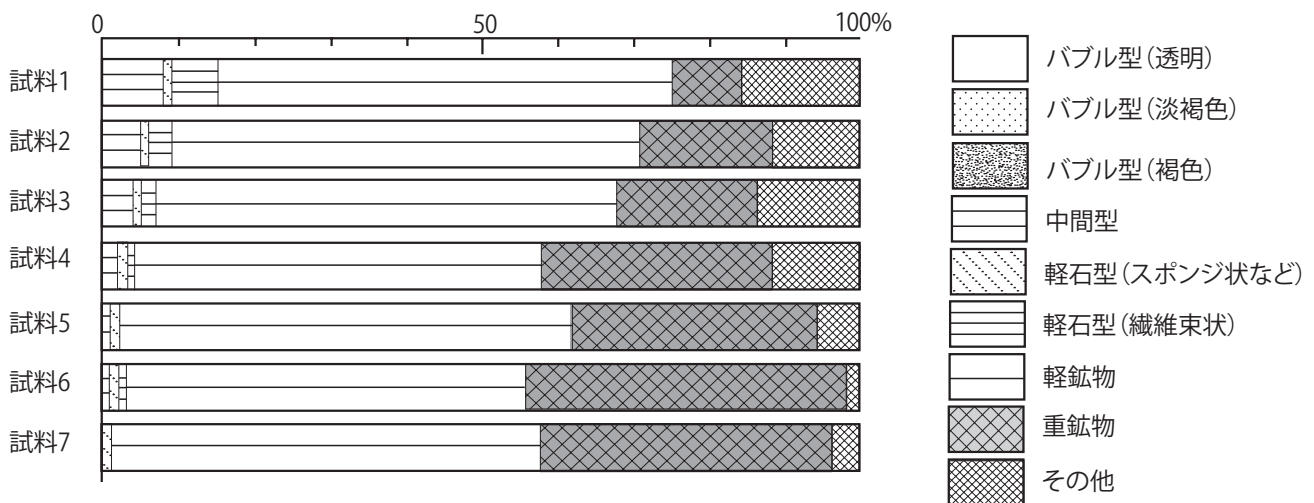
浅間A (As-A, 1783年)	1.507-1.512	1)
浅間A' (As-A')	1.515-1.521	3)
浅間粕川(As-Kk, 1128年)	未報告	3)
浅間B (As-B, 1108年)	1.524-1.532	1)
榛名二ツ岳伊香保(Hr-FP, 6世紀中葉)	1.501-1.504	3)
榛名二ツ岳渋川(Hr-FA, 6世紀初頭)	1.500-1.502	3)
	1.499-1.504	4)
榛名有馬(Hr-AA, 5世紀)	1.500-1.502	2)
浅間C (As-C, 3世紀後半)	1.514-1.520	1)
浅間D (As-D)	1.513-1.516	1)
草津白根熊倉(KS-Ku)	未報告	3)
浅間六合(As-Kn)	未報告	3)
鬼界アカホヤ(K-Ah, 約7,300年前)	1.506-1.513	1)
浅間藤岡(As-Fo)	未報告	3)
浅間総社(As-Sj)	1.501-1.518	4)
浅間草津(As-K)	1.501-1.503	1)
浅間板鼻黄色(As-YP, 約1.5~1.65万年前)	1.501-1.505	1)
浅間大窪沢2(As-Ok2)	1.502-1.504	1)
浅間大窪沢1(As-Ok1)	1.500-1.502	1)
浅間白糸(As-Sr)	1.506-1.510	1)
浅間萩生(As-Hg)	1.500-1.502	3)
浅間板鼻褐色(群)(As-BP Group)上部	1.515-1.520	1)
中部	1.508-1.511	1)
下部	1.505-1.515	1)
始良Tn(AT, 約2.8~3万年前)	1.499-1.500	1)

1): 町田・新井(1992, 2003), 2): 町田ほか(1984), 3): 早田(1996), 4) 早田(未公表). 本報告および3): 温度変化型屈折率測定装置(RIMS2000).

1) ~ 2): 故新井房夫群馬大学名誉教授の温度一定型屈折率測定法.



第226図 テフラ分析地点(67E-3グリッド東面)の土層柱状図



第227図 新田上遺跡の火山ガラス比ダイヤグラム

## 第5章 まとめ

### 第1節 細石刃石器群について

#### 1. 使用痕分析

近年使用痕研究の進展により、細石刃や彫刻刀形石器、エンドスクレイパーなど当該期石器の機能が明らかになりつつある。本遺跡においても硬質頁岩・珪質頁岩製の細石刃および彫刻刀形石器などの石器がどのように使用されたのかを明らかにするために使用痕分析を行った。また、細石刃核については多段階表面変化(阿子島1992)の観察を主たる目的として実施した。

**分析対象** 硬質頁岩・珪質頁岩製の石器16点を観察した(第19表、第228図)。器種は細石刃、細石刃核、彫刻刀形石器、スクレイパー、二次加工ある剥片、微小剥離痕ある剥片、剥片である。これらの石器の中には明らかに旧石器時代と考えられるもの、縄文時代以降の竪穴住居から出土した石器5点も分析対象に含めた。

**分析方法** 手持ちのルーペ(8倍・15倍)を用いて、摩擦および微小剥離痕を、落射照明付き金属顕微鏡(オリンパス BX60M、倍率100～500倍)を使用し、光沢面、線

状痕、摩擦等を観察した。分析にあたっては、汚れや油脂を除去するため、石器を石鹼で洗浄した後、アルコールを含ませた脱脂綿で拭き取った。

光沢面のタイプは東北大学使用痕研究チームによる分類基準(第18表)に基づいている(梶原・阿子島1981、阿子島1989)。

**分析結果** 分析結果を第19表に示した。16点の石器のうち、使用痕が観察されたのは彫刻刀形石器2点である。大部分は表面状態が悪く観察に不向きであった。また、表面状態は悪くないものの、使用痕が認められなかった石器が4点あった。

50の彫刻刀形石器(第229図)では、腹面と彫刻刀面のなす縁辺(a)に直交する無数の線状痕を伴うE2タイプの光沢面が認められ、顕著な摩擦も確認できた。乾燥皮の掻き取りに使用されたと推定される。

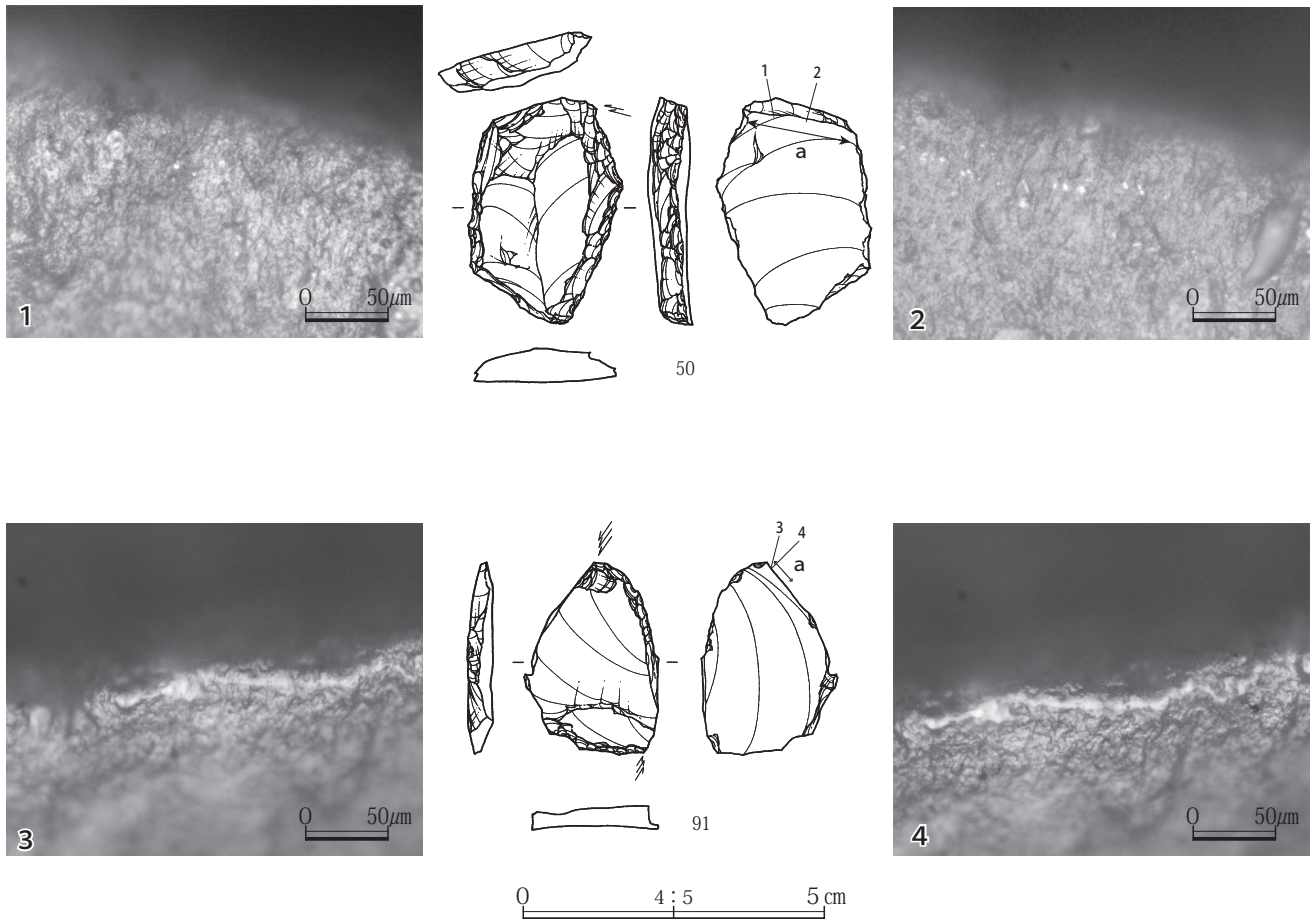
91の彫刻刀形石器(第229図)では、腹面と彫刻刀面のなす縁辺の切っ先付近(a)にD1タイプの光沢面が点在していた。この光沢面は縁辺の限られた範囲で認められ、直交方向の線状痕を伴っている。骨または鹿角を削る作業に使用されたと推定できる。(註1)

第18表 光沢面の各タイプの特徴(阿子島1989 20頁 表1に一部加筆)

	輝度		平滑度		拡大度	高低差	連接度	その他 (線状構造・段状構造・群孔構造)	推定される被加工物
	外部コントラスト	内部コントラスト	きめ	まるさ					
A	きわめて明るい	強い(暗部島状に残る)	なめらか	まるい	内部まで一面に広がる	高所からはじまり全面をおおう	一面おおいづくす	埋められた線状痕(filled-in striation) 彗星形の凹み(comet-shaped pit)	イネ科草本(竹)
B	明るい	強い(パッチ状の光沢部)	なめらか	パッチがきわめてまるい(水滴状)	広い	高所から順に発達する。低所まで及ぶのはまれ	ドーム状パッチが接続していく	パッチが線形に連結、ピットは少ない	木、竹、イネ科草本光沢の形成初期(骨)
C	やや明るい	やや弱い(網状の光沢部)	粗い	凹凸鋭い(そいだよう)	広い	低所の凹部を残して、中・高所に一様に広がる	パッチとして発達せずはじめから網状につながる	大小の無数のピット	水づけの鹿角(骨)
D1	明るい	弱い(一様)	なめらか	平坦(はりついたよう)	限定される	微凹凸の高低がなくなる	縁辺に帯状に狭い面ができる	「融けた雪」状の段を形成、ピットが多い	骨、鹿角(木)
D2	明るい	やや弱い(平行溝状)	やや粗い	峰状で鋭い	限定される	微凹凸は変形して線状になる	縁辺に帯状に狭い面ができる	鋭い溝状の線状痕、ピットが多い	骨、鹿角、木(竹)
E1	やや明るい	強い(小パッチ状)	小パッチ上のみなめらか	小パッチはややまるい	縁辺のみの狭い分布	高所の小パッチは明るく、低所は原面の微凹凸のまま鈍く光る	小パッチが独立して、連結しない	周囲の鈍い光沢(F2)とつねにセットで生じる	皮、肉(木)
E2	鈍い	やや弱い	ごく微細に凹凸(つやけし状)	光沢部全体が摩擦してまるい	広い	なし(高低所とも同様に光る)	強度の摩擦を伴って縁辺に広く光沢帯が形成	多様な線状痕が多い、多くの微小円形剥落(micro-pot lid)	皮、肉
F1	鈍い	弱い	粗い	角ばっている	多様	なし(高低所とも同様に光る)	原面の微凹凸を変えず低所まで及ぶ	脂ぎったぎらつき(greasy luster)	乾燥鹿角、骨、皮、肉、木
F2	きわめて鈍い	弱い	原面を変えない	原面を変えない	多様	多様	未発達な小パッチ	原面を変えない	各被加工物光沢の形成初期、皮、肉



第228図 使用痕観察を行った石器(番号は第19表と一致する)



第229図 彫刻刀形石器の使用痕

第19表 使用痕観察を行った石器一覧

★は使用痕が認められた石器

No.	器種	石材	出土位置	観察結果
29	細石刃	硬質頁岩	第2ブロック	使用痕認められず
17	細石刃核	硬質頁岩	第2ブロック	表面状態が悪く、観察不適
125		硬質頁岩	縄文以降住居	表面状態が悪く、観察不適
126		硬質頁岩	縄文以降住居	表面状態が悪く、観察不適
★50	彫刻刀形石器	硬質頁岩	第3ブロック	(a) E 2 タイプの光沢面を確認。刃部に直交する線状痕・摩滅を伴う。
75		硬質頁岩	第6ブロック	表面状態が悪く、観察不適
★91		硬質頁岩	第6ブロック	(a) D 1 タイプの光沢面が点在。刃部に直交する線状痕を伴う。
120		硬質頁岩	縄文以降住居	表面状態が悪く、観察不適
121		硬質頁岩	縄文以降住居	表面状態が悪く、観察不適
122		硬質頁岩	縄文以降住居	表面状態が悪く、観察不適
19	スクレイパー	硬質頁岩	第2ブロック	表面状態が悪く、観察不適
60		珪質頁岩	第5ブロック	使用痕認められず
25	二次加工ある剥片	硬質頁岩	第2ブロック	使用痕認められず
35		硬質頁岩	第3ブロック	使用痕認められず
84	微小剥離痕ある剥片	硬質頁岩	第6ブロック	表面状態が悪く、観察不適
83	剥片	硬質頁岩	第6ブロック	表面状態が悪く、観察不適



## まとめ

- ①新田上遺跡出土の硬質頁岩・珪質頁岩製石器16点中、2点で使用痕が認められ、使用痕検出率は12.5%である。
- ②使用痕が確認できた石器は2点とも彫刻刀形石器で、腹面と彫刻刀面のなす縁辺を、乾燥皮などの掻き取りや骨角を削る作業に使用したと推定される。
- ③新潟県荒屋遺跡出土彫刻刀形石器の使用痕分析結果では、使用痕が認められた彫刻刀形石器から推定された機能は頻度の多い順に、「乾燥皮のスクレイピング」、「骨角を削る」と報告されている(東北大学大学院文学研究科考古学研究室2003 48・49頁)。今回の分析結果は、荒屋遺跡での成果と同様の傾向であると言える。

## 2. 石器群の特徴

新田上遺跡では、細石刃、細石刃核、彫刻刀形石器、ナイフ形石器、サイドスクレイパー、スクレイパー、二次加工ある剥片、微小剥離痕ある剥片、剥片、碎片、石核、ハンマーストーン、台石?、石製品が出土した。縄文時代以降の遺構出土であるが、その形態的特徴から明らかに旧石器時代の石器と判断した9点の石器を含め、出土点数は109点である。細石刃核では湧別技法によるものやスキー状スポールを素材としているものが認められ、荒屋型彫刻刀が出土している。さらに、後述するが硬質頁岩との強い関連性などから、北方系削片系細石刃石器群の一群に含まれる。

層位的には、IX～XI層から出土し、IX層からの出土が最も多かった(第5表)。火山灰との対比では、石器出土層位は浅間板鼻黄色軽石(As-YP)を含むVIII層より下位である。XI層では浅間大窪沢第1軽石・第2軽石(As-0k1・As-0k2)および浅間白糸軽石(As-Sr)が検出されているものの、石器の出土は6点と少数で主体的ではない。火山灰分析については第4章第1節の火山灰分析を参照いただきたいが、本遺跡の石器群はAs-YPより下位で、少なくともAs-0k1までの間と推定される。この石器出土層位はこれまでに群馬県内で行われた北方系細石刃石器群の調査成果と矛盾しない。

石器組成(第6表)について、総点数は少ないものの、細石刃石器群に特徴的な石器はおおむね備わっており、内容的にはまとまりを持っている。湧別技法の細石刃核製作に伴う削片そのものはなかったが、ファーストス

ポールおよびスキー状スポールを細石刃核の素材にした石器が確認された(第15図126・17)。また、細石刃の出土が1点のみで、彫刻刀削片は確認されなかったが、これは発掘調査の方法に起因するものと思われる。細石刃期遺跡の調査を見ると、細石刃および彫刻刀削片などの微細遺物は目視による発見よりも土壌のフルイがけによって多く回収されている。微細遺物は石器製作および刃部再生を理解する場合のみならず、遺跡内での活動を推定する上で貴重な情報を内包している。今回はフルイがけを実施しておらず、微細遺物の回収という点で大きな反省を残した。今後は細石刃石器群の出土が予想される場合には(遅くとも細石刃の出土を確認した時点で)土壌のフルイがけを速やかに実施すべきである。

石材では、点数上の割合が最も多いのは黒色頁岩の54.1%(59点)である。次いで、硬質頁岩が23.9%(26点)、ホルンフェルス6.4%(7点)、珪質頁岩5.5%(6点)、砂岩および粗粒輝石安山岩が2.8%(各3点)、黒曜石・黒色安山岩・砂質頁岩・溶結凝灰岩・細粒輝石安山岩がそれぞれ0.9%(各1点)となっている(第6表)。利根川上流域の赤谷層で産するとされる黒色頁岩が最も多くなっているのは現利根川から約3キロという地理的環境から理解できる。また、東北地方産と考えられる硬質頁岩は細石刃および細石刃核、彫刻刀形石器などに使用され、北方系削片系細石刃石器群と硬質頁岩(一部珪質頁岩を含む)との強い結びつきが認められる。黒曜石は二次加工ある剥片1点のみ出土した(第16図55)。原産地推定分析を実施していないために産地の詳細は不明であるが、調査区中央部のトレンチから単独で出土したため「ブロック外」として扱ったもので、空間分布との関わりで注意される。また、黒色頁岩とともに在地石材とされる黒色安山岩は剥片1点(第18図30)のみで、時期的要因および地理的要因を反映していると思われる。

### 剥片剥離について

新田上遺跡出土の剥片は黒色頁岩を主体とし、これらの剥片を観察すると、単一の剥離面による打面が主体的で背面に自然面を残すものが多い。縦長剥片については「長さが幅の1.5倍以上を有し、両側縁がおおむね平行または背面に縁辺と平行する縦方向の稜線を有するもの」と定義すれば4点(第18図15・70、第19図58、1点未掲載)のみである。これは樹形遺跡および柏倉芳見沢遺跡

(ともに前橋市)出土の石器群で縦長剥片が多く発見されていることと異なっている。

石核の観察では、拳大の黒色頁岩を原石として、平坦な自然面を打面として剥片剥離を行ったものが多い。原石の一端に複数の剥離を施して平坦面を準備した後、そこを打面としている場合も見られる。石核に残された剥離痕を観察すると、同一の打面で連続して剥離を行っているものの、連続して縦長剥片を剥離した痕跡は確認できない。

**石器製作技術と石器石材**

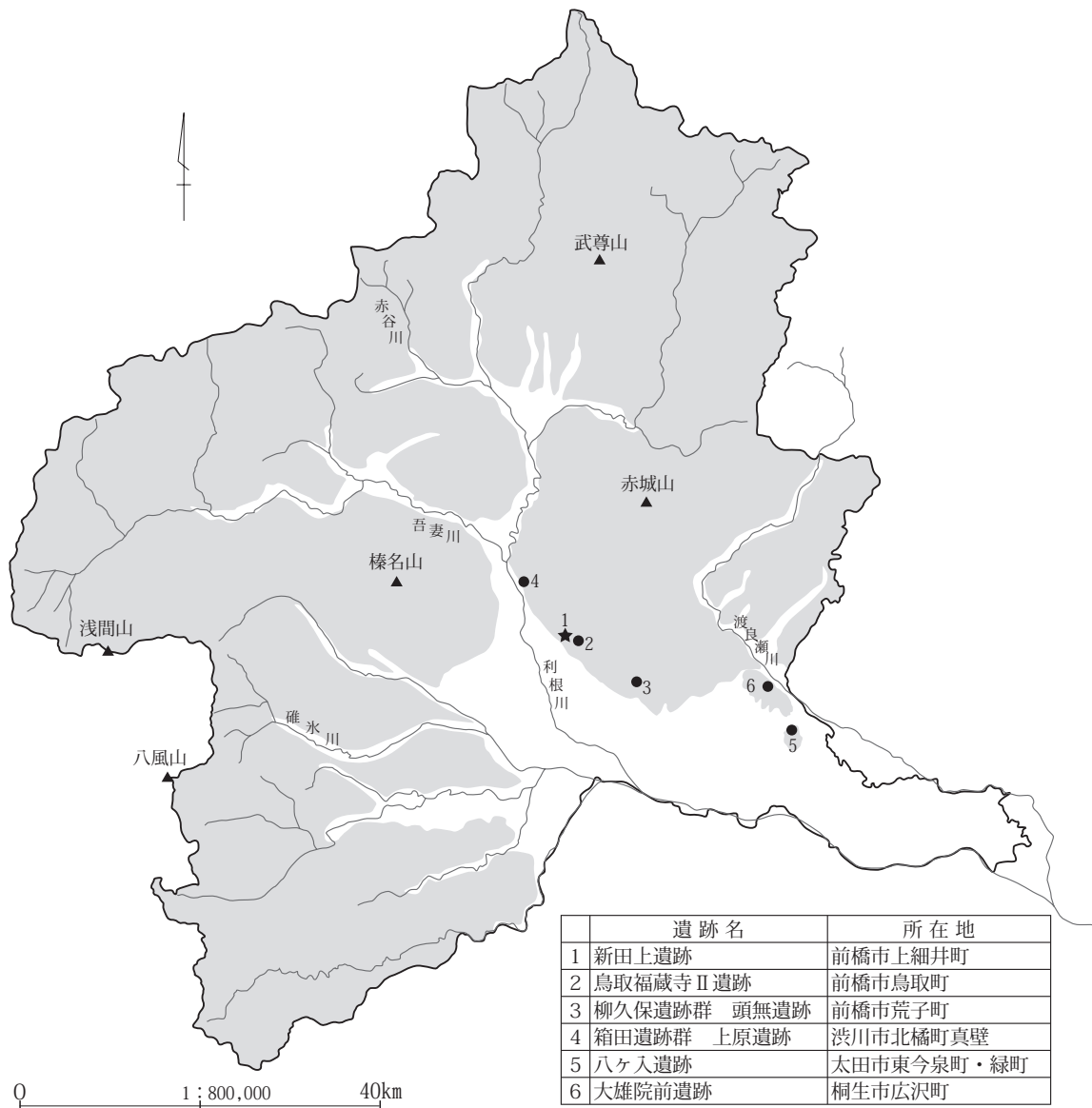
八ヶ入遺跡で関口博幸氏が示した3つの石器群の構造(①湧別技法による細石刃生産とツール製作(荒屋型彫刻刀形石器・エンドスクレイパー)から成る細石刃石器群、②小型から大型の不定形剥片を生産する不定形剥片

石器群、③礫器・台石・敲石から成る礫石器群)(群埋文2010 252頁)を参考に、本遺跡出土石器群の技術基盤について捉えたい。本遺跡においてもおおむね関口氏の分類で理解できるものの、「③礫器・台石・敲石から成る礫石器群」については私見をもち合わせていないことと、石器製作技術という視点で石器群を把握したいため、今回は新田上遺跡の石器製作技術を大きく以下の2つに分けた。

I. 湧別技法(ホロカ型を含む)を中心とした細石刃製作技術

II. 黒色頁岩を中心とする在地石材を使用した剥片剥離技術

Iは硬質頁岩(および一部の珪質頁岩)と密接に関連していることが明白である。硬質頁岩を多量に有する八ヶ



第230図 群馬県内の主な北方系細石刃石器群出土遺跡分布図

入遺跡と比較すると、本遺跡出土の細石刃および細石刃核、荒屋型彫刻刀はかなり小型である。また、ファーストスポールおよびスキー状スポールを細石刃核に利用している(第15図126・17)。これらのことから、硬質頁岩については不足状態であったと考えられる。

Ⅱは剥片および石核の観察から、15～20cm大の垂円礫の平坦な自然面および剥離面を打面として、大型～小型の剥片を剥離している。背面に自然面を残す剥片が多い。このうち、長さ8cm以上の大きめの剥片を選択し、スクレイパー(第16図69)や二次加工ある剥片(第17図52・124)としている。本遺跡では、黒色頁岩を用いたこれ以外のツールは見られない。

群馬県内で、北方系削片系細石刃石器群に位置づけられている主な遺跡は、頭無遺跡、鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡(ともに前橋市)、上原遺跡(渋川市)、八ヶ入遺跡(太田市)、大雄院前遺跡(桐生市)などが挙げられる(第230図)。頭無遺跡や上原遺跡では、剥片・碎片も含めて硬質頁岩が数量的に際立っている。本遺跡と地理的に近い鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡では、硬質頁岩を主体とするものの、黒色頁岩を石核(註2)として用いているという点では本遺跡の特徴と共通している。また、八ヶ入遺跡においては、点数では硬質頁岩が圧倒的であるが、重量では在地石材のチャートが半分近い割合を占めている。さらに大雄院前遺跡では、北関東細石器研究グループのホームページ資料によれば、硬質頁岩とチャートが主体的であるという。同じ特徴を有する石器群でも地理的環境および石材環境により使用する石材の様相が多様であることはこれまでの研究ですでに指摘されている通りである。本遺跡の石器群は前述のとおり、硬質頁岩が欠乏した状況下の石器群である。近年の研究で、遺跡と石材産地を取り込んだ具体的な移動ルートについて研究がなされている。こうした研究に基づき、石材確保という観点で見れば、本遺跡は原産地である東北地方日本海側に回帰する直前であったと考えられる。しかし、こうした硬質頁岩の保有状況とは対照的に、黒色頁岩は潤沢に有している。大型剥片を剥離し、これを素材としてスクレイパーを製作しながらも、細石刃および荒屋型彫刻刀などの細石刃に関する石器製作には全く利用しないという石材選択の峻別を垣間見ることができ、これが本石器群の特徴であると言える。一方で、大雄院前遺跡では、チャート製のポイ

ント・フレイクが認められ、細石刃核原形の調整が行われた可能性を指摘している点は注目され、本報告の成果を待ちたい。

(註1) 91の彫刻刀形石器の使用痕分析について、第18回石器文化研究交流会発表要旨(『石器文化研究』20(2014)43・45頁)の分析結果とはやや異なっているが、会の中で山田しょう氏により当該石器の使用痕について指導・助言をいただき、その後再検討した結果修正を加えている。本報告書の分析結果を最終報告とし、上記発表要旨の内容を訂正する。

(註2) 報告書(前橋市埋蔵文化財発掘調査団1998)で「礫器」としている石器のうち、少なくとも黒色頁岩製のものは、筆者実見の限りその特徴から「石核」と考えられる。

\* 稲田孝司先生、小菅将夫氏、山田しょう氏、鈴木美保氏、桜井美枝氏、津島秀章氏、阿久澤智和氏、小原俊之氏、石器文化研究会の皆様には石器について有益なご指導・助言をいただきました。記して感謝いたします。

#### 参考文献(五十音順)

- 相沢忠洋・関矢晃1988『赤城山麓の旧石器』  
 阿子島香1989『石器の使用痕』ニュー・サイエンス社  
 阿子島香1992「実験使用痕分析と技術的組織—パレオインディアン文化の一事例を通して—」『加藤稔先生還暦記念・東北文化論のための先史学歴史学論集』27-53頁  
 岩宿博物館2012『人が動く、時代も動く—東日本の細石刃文化を追う—』  
 岩宿博物館・岩宿フォーラム実行委員会2012『北関東地方の細石刃文化予稿集』  
 梶原洋・阿子島香1981「頁岩製石器の実験使用痕研究—ポリッシュを中心とした機能推定の試み—(東北大学使用痕研究チームによる研究報告その2)」『考古学雑誌』67-1 1-36頁  
 鹿又喜隆2011「細石刃集団による地点間の活動差」『東北文化研究室紀要』52 182-200頁  
 川崎純徳・渡辺明・星山芳樹1978『額田大宮遺跡』  
 群馬県勢多郡宮城村教育委員会1981『樹形遺跡調査報告書』  
 群馬県前橋市教育委員会2005『柏倉芳見沢遺跡・柏倉落合遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『八ヶ入遺跡—旧石器時代編—』  
 石器文化研究会2014『石器文化研究』20  
 東北大学大学院文学研究科考古学研究室2003『荒屋遺跡第2・3次発掘調査報告書』  
 北橋村教育委員会2001『銭神遺跡・箱田遺跡群補遺』  
 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1998『鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡』

## 第2節 墨書土器・刻書土器や線刻のある土器について

新田上遺跡では、奈良～平安時代の遺構から26点の墨書土器(「恵カ」は体面と内面の2カ所)、2点の刻書土器、1点の線刻のある土器が出土した。これらは、8世紀後半～9世紀末の竪穴住居・竪穴状遺構・溝・ピットから出土している。特筆すべきは、竪穴状遺構から墨書土器15点が出土していることと、墨書の文字に「足」(「足カ」2点を含む)が多いことである。(第20表・第232図)

**土器の種類** 土師器14点、須恵器15点であり、比率は48:52で、わずかに須恵器の比率が高い。しかし、墨書のみで見ると、土師器13点、須恵器13点と同数である。刻書は2点とも須恵器であり、線刻のある土器は土師器であった。

**器種別の比率** 墨書は坏22点、埴4点である。刻書は坏1点、埴1点、線刻のある土器は坏であった。対象となる器種は、坏・埴の食膳具だけであった。

**墨書等の部位** 墨書は体部外面15点、体部内面2点、底部外面10点であった(体部内外面にあるものを含む)。刻書は底部内面2点、線刻は底部内面1点であった。墨書は体部や底部の外面が多く、刻書と線刻は底部内面に施す傾向にある。

**時期について** 第20表に示した29点の土器のうち、土器の年代が分かるものは、18点である。これ以外の11点については、底部の破片のみの出土であるため年代を照合することはできなかった。年代が分かったものは、年代順に8世紀後半2点、9世紀前半4点、9世紀後半11点、9世紀代1点であり、9世紀後半が多いことが分かる。このうち、出土した遺構年代と大きく誤差が生じているものは、墨書「恵カ」と刻書「貞」の2点のみであり、その他は出土した遺構と年代がほぼ合致している。

**文字について** 墨書土器の文字は一字が24点と多く(「恵カ」は、体部内外面にあったため2点と数えた)、二字は3点である。墨書土器のうち、「足」(「足カ」2点を含む)と判読できたものが、出土した墨書土器の半数以上の16点あり、偏りが見られる。「足」の意味は、地名なのか、人名なのか不明である。その他に判読できた墨書土器は、「五□」「恵カ」「石□」「□神」等である。なお、

判読不明は6点である。また、刻書土器は「山か記号」と「貞」と判読できた。図版PL.87・88に文字資料等倍写真を掲載してあるので、参考にしていきたい。

**文字の出現・消滅について** 新田上遺跡では、8世紀後半～10世紀中頃まで集落展開が認められた。ここでの文字資料の出現は、8世紀後半である。刻書「山か記号」の認められた8世紀後半の須恵器が初見である。墨書「足」は9世紀前半～後半、墨書「足カ」は9世紀後半の土師器に認められた。墨書「五□」は9世紀前半、その他の墨書「恵カ」・「石□」・「□」と刻書「貞」は、9世紀後半の土器に認められた。これ以降、新田上遺跡での文字資料は認められない。

**周辺の墨書土器の検出状況について** 竜ノ口川を挟み、新田上遺跡の東隣りにある王久保遺跡では、7世紀末～8世紀前半の刻書「×」、8世紀後半の墨書「朋カ」、9世紀後半の刻書「□」と墨書「石」の合計4点が認められている。また、さらに東の上町遺跡や西紺屋谷戸遺跡では、8世紀前半～9世紀後半の墨書「中・田・東カ・○」、刻書「×」、ヘラ描き「×」などが認められている。さらに、東の天王遺跡では墨書5点・二重の四角をスタンプされた土器1点、東紺屋谷戸遺跡では、墨書54点・刻書1点が出土している。両遺跡合わせて、「千」8点、「川」5点、「中」4点など、ある程度同じ文字が書かれる傾向がある。そして、観音川を挟み、新田上遺跡の西隣りにある上細井中島遺跡では、9世紀後半の墨書(文字不明)が1点出土しているだけである。さらに西の上細井蟬山遺跡では、9世紀中頃～9世紀後半にかけて9点の墨書が確認されているが、そのうち8点は文字不明である。だが、1号道出土の須恵器埴は、体部内外面2カ所に四角の中に「石」の墨書が書かれており、新田上遺跡の11号住居出土の「恵カ」と同じ部位に文字があり興味深い。

**まとめ** 新田上遺跡からは「足」、「足カ」などの墨書がほとんどを占めるほか、「□神」と祭祀への使用を目的と想定される墨書も出土している。

墨書土器については先学の研究で祭祀をはじめ、いくつかの目的が提示されている。今回の調査ではこうした目的について明確にすることができなかった。また、文字種も少なく、墨書土器の多くが「足」の1文字1点ずつの出土であることを考慮すると識字層の存在についてはやや疑問を残す。

第20表 新田上遺跡出土の墨書土器・刻書土器・線刻のある土器一覧表

番号	掲載番号	器種	器形	部位	墨書・刻書他	文字他	遺物年代	遺構年代	図版PL.
1	14住-7	須恵器	坏	体部外面	墨書	足	9C後半	9C中頃	PL.87
2	50～52住-25	土師器	坏	底部外面	墨書	足	9C後半	9C後半	PL.87
3	50～52住-32	土師器	坏	底部外面	墨書	足	—	9C後半	PL.87
4	5豎-2	土師器	坏	体部外面	墨書	足	9C前半	9C中頃	PL.87
5	5豎-14	須恵器	埴	体部外面	墨書	足	9C後半	9C中頃	PL.87
6	5豎-23	土師器	埴	底部外面	墨書	足	9C前半	9C中頃	PL.87
7	6豎-1	土師器	坏	体部外面	墨書	足	9C前半	9C中頃～後半	PL.87
8	6豎-7	須恵器	埴	体部外面	墨書	足	9C後半	9C中頃～後半	PL.87
9	7豎-1	土師器	坏	底部外面	墨書	足	—	9C中頃	PL.87
10	7豎-2	須恵器	坏	底部外面	墨書	足	—	9C中頃	PL.87
11	8豎-2	土師器	坏	底部外面	墨書	足	—	9C後半	PL.87
12	11豎-6	須恵器	坏	体部外面	墨書	足	—	9C中頃～後半	PL.87
13	19溝-1	土師器	坏	体部外面	墨書	足	9C	9C末頃	PL.87
14	64ピット-1	須恵器	坏	体部外面	墨書	足	9C後半	9C末頃	PL.87
15	3・4豎-4	須恵器	坏	体部外面	墨書	足 <small>カ</small>	9C後半	9C中頃～後半	PL.87
16	19豎-2	土師器	坏	体部外面	墨書	足 <small>カ</small>	9C後半	9C中頃～後半	PL.87
17	9住-5	須恵器	坏	底部外面	墨書	五□	9C前半	9C前半～中頃	PL.87
18	11住-8	須恵器	坏	体部内外面	墨書	恵 <small>カ</small>	9C後半	8C後半	PL.87
19	51住-4	土師器	坏	体部外面	墨書	石□	9C後半	9C後半	PL.88
20	11豎-1	土師器	坏	体部外面	墨書	□神 <small>カ</small>	—	9C中頃～後半	PL.88
21	9住-3	土師器	坏	底部外面	墨書	□	—	9C前半～中頃	PL.88
22	14住-8	須恵器	坏	底部外面	墨書	□	—	9C中頃	PL.88
23	50～52住-31	土師器	坏	底部外面	墨書	□	—	9C後半	PL.88
24	5豎-10	須恵器	坏	体部外面	墨書	□	—	9C中頃	PL.88
25	5豎-17	須恵器	坏	体部外面	墨書	□	—	9C中頃	PL.88
26	8豎-8	須恵器	埴	体部内面	墨書	□	9C後半	9C後半	PL.88
27	6住-4	須恵器	坏	底部内面	刻書	山か記号	8C後半	8C後半	PL.88
28	40住-5	須恵器	埴	底部内面	刻書	貞	9C後半	9C前半	PL.88
29	11住-2	土師器	坏	底部内面	線刻	格子目状	8C後半	8C後半	PL.88



第 231 図 新田上遺跡出土の文字資料他



第232図 新田上遺跡 墨書土器・刻書土器などが出土した遺構

### 第3節 有孔石製品について

新田上遺跡の古墳時代中期の1号住居から、有孔石製品が出土した。これについて簡単にまとめてみたい。

1号住居から出土した有孔石製品は、頁岩製の薄い短冊状であり、4mmの孔が開き、表裏面ともに研ぎ減っている。また、縁辺を敲いて加工している。さらに、研ぎ減った上を石製品の摂理と異なる向きに深い傷が、4～5本ずつある。長さ10.8cm、幅3.6cm、厚さ0.7cm、重さ40.4gである。(第96図1号住居出土遺物参照)以上の遺物観察結果から考えられる用途は、垂飾品または砥石である。

まず、他時代遺物の紛れ込みを考えた。縄文時代の垂飾品は、早期～前期では蛇紋岩を用いて作られることが多く、黒色頁岩を用いることはあまりない。また、孔の両面には尖孔前段階でのスリット状の擦り切りを入れる特徴があるが、この有孔石製品には、それが見られない。

使用痕の顕微鏡観察では、表裏面ともにコーングロスが見えないので石庖丁ではなく、そして下端部の剥離面の中には研磨より古いものが見受けられた。また、孔の広がりから、紐などを括る際に片側を結び提げ、手に持ち何らかの加工に使った可能性も考えられる。さらに、有孔石製品の器面に残る傷は、砥石に多見される線条痕と類似している。

以上から、この有孔石製品は、縄文時代の垂飾品の様に使用された可能性は極めて低く、砥石の可能性が高いと考えられる。しかし、前橋市青柳宿上遺跡の古墳時代後期の2号住居覆土から出土した頁岩製の有孔石製品は若干歪な四角形の角に尖孔しようとして失敗し、再度その下位に開け直している。角を上にして提げることが意識していることから、垂飾品と考えられる。このため、有孔石製品の用途については、今後類例の増加を待って、改めて考察していきたい。

### 第4節 新田上遺跡出土の弥生土器

本遺跡出土弥生土器は、まとまった一括資料には恵まれていないが、24号住居出土例(第84図)、227号土坑出土例(第88図)、509号土坑出土例(第89図)と遺構外出土品(第90図・91図)でほぼその全容を把握することができそうである。

図掲した資料は文様部位の破片が多いので、必然的に壺を多く取り上げる結果になったが、壺と甕及び筒形土器から組成されていて、鉢や高坏(脚付鉢)がほとんど見られないのが特徴である。壺の文様に注目すると、複数条の沈線による区画文ないし横位直線文や波状文が主体を占めており、沈線区画による単位文は重四角文・楕円文・三角文は見られるが、連繋文は見当たらない。また縄文を地文とし、単位文様内区に刺突を充填するものが多い。磨り消し縄文については、長方形か曲線モチーフが目立ち(第90図8・9・10・43・45など)、工字状や入り組み文の存在は不明確である。甕では、連繋文を施文する有文甕は確認できず、むしろ中部高地系の栗林式古段階かその前段階まで溯るかと思われる櫛描文系(第91図57・58)と縄文施文のみの例(第84図8、第88図15)、沈線と横位縄文帯の例(第88図17)が注目され、中期でも中葉段階に主体があることを示していよう。

筒形土器は、器形の不明な小破片が多いため、口胴径が小さく重四角文を施文する類を認めたが(第84図6、第87図1、第89図509土1、第91図55)、磨り消し縄文の破片は壺との識別が困難と判断し類別していない。磨り消し縄文系の筒形土器を加えれば、器種全体に占める筒形土器の割合は、群馬の周辺地域における中期中葉の土器群のなかでも多いといえよう。限られた破片資料なのでここでは数字上の比較は行わないでおく。筒形土器の特徴は509号土坑1(第89図)例で代表される。上半が弱くくびれる器形で、口縁下から胴部上半を重四角文の縦横配列で埋める。重四角文は複数条単位の細い篋描き沈線で描き、縄文などの地文を併用しないことが文様構成の特徴でもある。

本遺跡出土弥生土器の編年上における位置づけは、上記の特徴から中期中葉を主体とし、その直前、後期のものを少数伴っていると捉えておく。群馬県内では、神保富士塚式に後続する長根安坪遺跡の中期土器群に併行すると考えて良い。埼玉県北部との対比では、小敷田段階に最も共通性が高く、その直前後段階に相当するものも含まれる可能性があるとしておく。また非在地系で、栗林式古段階の類品(第85図7、第91図54など)や小松式(第88図20)の存在も中期中葉との位置づけに整合する。

型的検討は、限られた小破片資料のため避けた。あえて指摘するなら、筒形土器にみる器形と文様、曲線と方形(横帯を含む)モチーフの組み合わせによる磨り消し縄文、及び縄文施文甕が独自性抽出の対象となるのではないか。



群馬県でも赤城山南西麓という、これまで弥生遺跡自体が稀薄であった地域での出土資料でもあり、新型式認定の可能性も含めて類例対比の検討を進めるべきと思う。

限られた短文ゆえ、参考とした先学研究と文献については記載を割愛させて頂いたことをお断りしておきたい。

## 第5節 総括

おわりに、新田上遺跡の特徴を時代毎に周辺遺跡との関係を含めて、まとめとする。

**旧石器時代** 新田上遺跡周辺での旧石器の遺跡は、9遺跡と極めて少ない(第3表)。上武道路改築関連で調査された旧石器時代の7遺跡のほとんどが断片的である中で、新田上遺跡の100点以上の旧石器出土は注目される。鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡でも同様に細石刃文化層が見つかっているが、明らかに違うのは新田上遺跡よりも硬質頁岩が豊富にあることである。細石刃石器群については、第5章第1節を参照にしていきたい。

**縄文時代** 新田上遺跡の縄文時代の集落は、67区東側にまとまって検出された。竪穴住居の時期は、42号住居の前期諸磯c式期が初現であり、その後一時途絶え、中期後半にあたる加曾利E3式期に至って再び出現するが、その後に継続することはなかった。観音川を挟んで、西へ広がる上細井中島遺跡でも加曾利E式期の竪穴住居が6軒程度確認されており、新田上遺跡と同時期に集落展開があったと考えられる。ただし、新田上遺跡内の加曾利E3式期の竪穴住居(第9表)11軒中確実に竪穴住居であると断言できるのは、石囲炉・土器埋設炉・柱穴や周溝の状況から26号・27号・29号住居の3軒のみである。また、27号住居と41号住居の間にあった1号配石は、出土土器が少なく詳細な時期までは確認できなかった。周辺では、田中遺跡と小神明富士塚遺跡で配石遺構が調査されている。

新田上遺跡周辺では、縄文前期の調査例が多く、縄文中期は少ない。縄文中期の調査例は、上細井中島遺跡・堤遺跡・市之進遺跡・鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡である。

**弥生時代** 国道50号以北の上武道路関連で調査した43遺跡の中で、弥生時代の遺構が確認されたのは、南から富田宮下遺跡・富田西原遺跡・小神明勝沢境遺跡・丑子遺跡・新田上遺跡・青柳宿上遺跡の6遺跡のみである。弥生中期の住居が確認されたのは、富田宮下遺跡と新田上遺跡の二遺

跡だけである。また、弥生土器片が出土した遺跡は、荒砥三木堂遺跡・荒砥前田Ⅱ遺跡・鳥取松合下遺跡・胴城遺跡・引切塚遺跡・川端根岸遺跡の6遺跡である。赤城南麓地域では、弥生時代の遺跡は少ないことが特徴である。新田上遺跡では、中期の住居が4軒検出された。新田上遺跡出土の弥生土器については、第5章第4節を参照にしていきたい。

**古墳時代** 新田上遺跡では、5世紀中頃の1号住居と7世紀後半の22号住居の2軒を検出した。いずれの時期もあまり集落展開されていなかった。周辺での5世紀代の竪穴住居は、丑子遺跡2軒、東田之口遺跡4軒、田中田遺跡14軒、小神明湯ノ気遺跡5軒、小神明西田遺跡4軒、上細井北遺跡No.1遺跡1軒である。また、周辺での7世紀代の竪穴住居は、丑子遺跡4軒、東田之口遺跡で43軒、南橘東原遺跡11軒となり、5世紀代と比べると集落規模が大きくなっていることが分かる。また、新田上遺跡の北東約100mには、円墳の新田上古墳があり、また、南西約500mには織機具などの珍しい石製模造品が出土した上細井稲荷山古墳がある。新田上古墳は群集墳の盛行した6世紀代、上細井稲荷山古墳は竪穴式石槨であり、5世紀代のものと考えられる。

**奈良・平安時代** 新田上遺跡の中で最も竪穴住居が多い時代である。奈良～平安時代前期にあたる8世紀後半3軒、9世紀代17軒、10世紀代9軒、不明2軒合計31軒を検出した(第12図)。遺構は、55区～56区の調査区東側へ集中しており、古墳時代の22号住居と重複するのみで、他の時代との重複は見られない。集落の中央には、16号～21号溝を側溝とする道路状遺構が東西方向に造られており、硬化面の確認状況から、南側の竪穴住居へ通行していたと考えられる。これは、ほぼ同時期に造られた上町遺跡と西紺屋谷戸遺跡の1号道と東の延長沿いで、合流していた可能性がある。また、新田上遺跡の竪穴住居や竪穴状遺構などから、26点の墨書土器が発見された。詳細は、第5章第3節を参考にしていきたい。

**中世・近世以降** 中世は溝1条、土坑62基、近世は溝4条、土坑9基を検出したが、周辺遺跡にあるような城館跡や近世墓などは検出されず、土地利用については明確にすることはできなかった。

遺物観察表

第21表 旧石器時代遺物観察表

挿 図 PL.No.	No.	出土ブロック 出土位置	出土 層位	器 種	石 材	接合 資料	母岩分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	X座標	Y座標	Z座標	備 考
	1	第1ブロック		自然礫											
	2	第1ブロック		自然礫											
	3	第1ブロック		自然礫											
	4	第1ブロック		自然礫											
	5	第1ブロック	X	剥片	黒色頁岩			2.0	3.7	0.5	2.65	47612.007	-67618.600	139.323	
	6	第1ブロック		自然礫											
	7	第1ブロック		自然礫											
	8	第1ブロック		自然礫											
第18図 PL.51	9	第1ブロック	XI	剥片	黒色頁岩			5.0	2.4	1.3	9.63	47608.824	-67619.722	139.126	打面調整剥片
第15・26図 PL.49・55	10	第1ブロック	X	細石刃核	珪質頁岩	1	珪質頁岩1	2.0	2.9	3.3	18.62	47610.147	-67620.743	139.250	
	11	第1ブロック	X	剥片	黒色頁岩			1.9	4.1	0.9	8.29	47610.686	-67621.502	139.160	
第16・26図 PL.50・55	12	第1ブロック	X	二次加工ある剥片	珪質頁岩	1	珪質頁岩1	4.1	2.3	1.1	10.78	47609.579	-67621.431	139.165	
	13	第1ブロック	X	破片	ホルンフェルス			0.9	1.1	0.3	0.28	47610.480	-67623.766	139.269	
	14	第1ブロック	X	剥片	ホルンフェルス			2.3	4.1	0.5	4.21	47611.451	-67623.101	139.155	
第18図 PL.51	15	第1ブロック	X	剥片	黒色頁岩			6.6	3.7	0.9	17.61	47612.760	-67621.339	139.268	
	16	第2ブロック	X	破片	粗粒輝石安山岩			1.5	0.8	0.5	1.15	47630.323	-67636.336	139.257	
第15図 PL.49	17	第2ブロック	XI	細石刃核	硬質頁岩			1.4	3.0	1.5	7.59	47626.318	-67635.989	138.977	スキー状スボール素材
	18	第2ブロック	IX	破片	黒色頁岩			1.3	2.5	0.6	1.32	47629.351	-67637.879	139.364	
第16図 PL.49	19	第2ブロック	IX	スクレイパー	硬質頁岩			4.6	1.5	0.4	2.89	47629.698	-67639.121	139.398	
第20・28図 PL.52・56	20	第2ブロック	IX	石核	黒色頁岩	5	黒色頁岩4	10.1	10.2	5.3	511.80	47629.378	-67638.916	139.343	
第29図 PL.56	21	第2ブロック	IX	剥片	黒色頁岩	6	黒色頁岩5	3.7	2.3	0.8	7.36	47629.259	-67638.908	139.431	
	22	第2ブロック	IX	剥片	硬質頁岩			3.3	2.0	0.3	1.66	47629.073	-67639.270	139.393	
第21・28図 PL.53・56	23	第2ブロック	IX	石核	黒色頁岩	4	黒色頁岩3	12.8	9.5	7.4	943.40	47627.618	-67638.789	139.262	
	24	第2ブロック	IX	剥片	黒色頁岩			2.1	2.3	0.9	3.35	47628.076	-67640.142	139.323	
第16図 PL.50	25	第2ブロック	IX	二次加工ある剥片	硬質頁岩			2.7	3.3	0.6	4.17	47628.127	-67640.515	139.342	
	26	第2ブロック		自然礫											
	27	第2ブロック		自然礫											
	28	第2ブロック	X	破片	粗粒輝石安山岩			1.2	1.2	0.4	0.53	47628.819	-67643.658	139.188	
第15図 PL.49	29	第2ブロック	XI	細石刃	硬質頁岩			2.1	0.6	0.2	0.16	47629.209	-67637.911	139.107	
第18図 PL.51	30	第3ブロック	IX	剥片	黒色安山岩			4.8	3.0	1.0	7.30	47644.762	-67631.465	139.598	
第15図 PL.49	31	第3ブロック	IX	ナイフ形石器	黒色頁岩			2.3	1.2	0.6	1.27	47643.843	-67632.721	139.633	基部のみ
	32	第3ブロック	X	剥片	黒色頁岩			1.5	1.9	0.9	2.60	47642.839	-67633.234	139.584	
	33	第3ブロック	IX	剥片	黒色頁岩			1.8	4.3	1.0	7.85	47641.799	-67633.610	139.656	
	34	第3ブロック	IX	剥片	黒色頁岩			4.8	5.6	1.2	28.35	47641.630	-67633.909	139.682	
第16図 PL.50	35	第3ブロック	IX	二次加工ある剥片	硬質頁岩			3.1	3.8	0.9	8.81	47641.215	-67633.886	139.650	
	36	欠番													
	37	第3ブロック	X	剥片	珪質頁岩			3.9	3.8	0.8	13.93	47642.173	-67634.706	139.596	
	38	第3ブロック	X	破片	黒色頁岩			1.5	1.7	0.5	1.20	47642.262	-67634.875	139.581	
	39	第3ブロック		自然礫											
	40	第3ブロック	X	剥片	黒色頁岩			2.7	3.6	0.6	4.78	47641.977	-67634.880	139.631	
第28図 PL.56	41	第3ブロック	IX	剥片	黒色頁岩	5	黒色頁岩4	2.8	7.0	2.1	35.85	47641.720	-67635.151	139.683	
	42	第3ブロック	IX	剥片	黒色頁岩			7.3	8.2	2.2	82.18	47641.436	-67634.854	139.657	

## 遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	出土ブロック 出土位置	出土 層位	器種	石材	接合 資料	母岩分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	X座標	Y座標	Z座標	備考
	43	第3ブロック	IX	剥片	硬質頁岩			3.0	3.4	0.4	3.01	47640.582	-67635.282	139.566	
	44	第3ブロック		自然礫											
	45	第3ブロック		自然礫											
	46	第3ブロック	IX	剥片	黒色頁岩			3.5	2.6	1.2	7.12	47640.210	-67637.120	139.695	
第20図 PL.52	47	第3ブロック	IX	石核	珪質頁岩			2.6	5.0	1.8	16.86	47638.935	-67638.550	139.627	被熱によるハジケ、変色あり。
第28図 PL.56	48	第3ブロック	X	剥片	黒色頁岩	4	黒色頁岩3	3.1	4.1	0.8	8.93	47639.219	-67638.926	139.580	
第29図 PL.56	49	第3ブロック	IX	剥片	黒色頁岩	6	黒色頁岩5	6.6	5.3	1.8	63.75	47640.367	-67638.354	139.637	
第15図 PL.49	50	第3ブロック	XI	彫刻刀形石器	硬質頁岩			3.7	2.5	0.7	7.09	47640.517	-67638.287	139.425	荒屋型
	51	第3ブロック		自然礫											
第17・26図 PL.50・55	52	第3ブロック	X	二次加工ある剥片	黒色頁岩	2	黒色頁岩1	7.1	9.0	3.0	145.05	47637.150	-67640.489	139.546	
第26図 PL.55	53	第3ブロック	X	剥片	黒色頁岩	2	黒色頁岩1	6.2	3.4	1.7	28.02	47639.275	-67639.300	139.569	
第26図 PL.55	54	第3ブロック	X	剥片	黒色頁岩	2	黒色頁岩1	3.5	2.8	0.9	7.06	47639.528	-67639.166	139.545	
第16図 PL.50	55	ブロック外	IX	二次加工ある剥片	黒曜石			2.8	1.6	0.7	2.14	47640.324	-67623.345	139.944	
第20図 PL.52	56	第5ブロック	X	剥片	黒色頁岩			15.2	10.9	4.4	580.20	47643.595	-67605.912	140.292	
第19図 PL.51	57	第5ブロック	IX	剥片	黒色頁岩			6.7	6.8	2.1	88.20	47643.042	-67605.646	140.459	
第19図 PL.52	58	第5ブロック	X	剥片	黒色頁岩			7.1	4.2	1.6	59.67	47643.044	-67605.526	140.402	
	59	第5ブロック	X	碎片	黒色頁岩			0.9	1.6	0.2	0.24	47643.136	-67605.293	140.246	
第16図 PL.50	60	第5ブロック	X	スクレイパー	珪質頁岩			9.5	4.4	2.5	51.26	47642.967	-67604.976	140.260	
	61	第5ブロック	X	剥片	黒色頁岩			5.0	6.1	1.3	38.50	47642.851	-67605.328	140.291	
	62	第5ブロック	X	碎片	黒色頁岩			1.3	1.6	0.1	0.26	47642.779	-67605.181	140.271	
	63	第5ブロック	X	微小剥離痕ある剥片	黒色頁岩			1.6	2.1	0.4	0.95	47642.681	-67605.279	140.305	
	64	第5ブロック	X	剥片	黒色頁岩			1.3	2.1	0.4	0.71	47642.643	-67605.292	140.286	
	65	第5ブロック	X	碎片	黒色頁岩			1.2	1.7	0.3	0.49	47642.256	-67605.191	140.269	
第18図 PL.51	66	第5ブロック	XI	剥片	黒色頁岩			7.0	5.3	2.3	75.75	47642.163	-67604.978	140.073	
	67	第5ブロック	X	碎片	黒色頁岩			1.7	1.4	0.2	0.34	47641.848	-67605.024	140.240	
第19図 PL.52	68	第5ブロック	X	剥片	黒色頁岩			5.6	5.5	1.7	28.78	47641.318	-67604.844	140.231	
第16図 PL.49	69	第5ブロック	X	サイドスクレイパー	黒色頁岩			9.0	5.4	2.7	152.59	47642.023	-67605.376	140.257	
第18図 PL.51	70	第5ブロック	X	剥片	黒色頁岩			9.2	5.3	1.4	55.71	47641.919	-67605.823	140.249	
	71	第5ブロック	X	碎片	黒色頁岩			1.8	1.2	0.3	0.50	47642.238	-67606.254	140.222	
	72	第5ブロック	X	碎片	黒色頁岩			1.3	1.0	0.3	0.29	47642.855	-67605.324	140.270	
	73	第5ブロック	IX	剥片	黒色頁岩			3.0	2.5	1.5	6.30	47642.990	-67605.647	140.101	
	74	第5ブロック	XI	碎片	溶結凝灰岩			1.8	1.2	1.1	2.52	47643.039	-67605.708	139.840	
第15図 PL.49	75	第6ブロック	IX	彫刻刀形石器	硬質頁岩			2.1	1.8	0.5	2.19	47657.138	-67629.231	140.196	
第22図 PL.53	76	第6ブロック	IX	石核	黒色頁岩			12.8	11.1	11.4	1511.40	47655.795	-67629.797	140.174	
	77	第6ブロック		自然礫											
第16図 PL.49	78	第6ブロック	IX	スクレイパー	珪質頁岩			3.8	3.2	0.8	11.62	47653.515	-67628.617	140.178	
	79	第6ブロック	IX	剥片	黒色頁岩			2.9	2.4	0.5	2.56	47654.523	-67630.421	140.256	
	80	第6ブロック	IX	碎片	硬質頁岩			1.3	1.0	0.1	0.19	47654.386	-67630.946	140.200	
第20図 PL.52	81	第6ブロック	IX	碎片	硬質頁岩			1.5	1.9	0.3	0.73	47654.001	-67630.946	140.125	
第29図 PL.56	82	第6ブロック	IX	剥片	黒色頁岩	7	黒色頁岩6	2.0	1.4	1.1	2.38	47653.661	-67631.371	140.095	
第18図 PL.51	83	第6ブロック	IX	剥片	硬質頁岩			4.3	4.5	0.6	9.36	47652.224	-67631.215	140.041	
第17図 PL.50	84	第6ブロック	IX	微小剥離痕ある剥片	硬質頁岩			3.8	3.8	1.8	15.40	47652.705	-67631.933	140.081	
	85	第6ブロック	IX	剥片	黒色頁岩 (硬質泥岩)			3.8	3.6	1.2	7.29	47653.268	-67632.565	140.012	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	出土ブロック 出土位置	出土 層位	器 種	石 材	接合 資料	母岩分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	X座標	Y座標	Z座標	備 考
	86	第6ブロック	IX	剥片	黒色頁岩			5.8	5.1	2.2	36.60	47653.966	-67633.103	140.129	
第29図 PL.56	87	第6ブロック	IX	剥片	黒色頁岩	7	黒色頁岩6	2.5	1.9	0.8	4.14	47653.909	-67632.578	140.047	
	88	第6ブロック	IX	剥片	黒色頁岩			4.9	2.3	1.7	14.06	47653.869	-67632.328	140.153	
	89	第6ブロック	IX	碎片	黒色頁岩			1.1	1.7	0.2	0.26	47653.912	-67632.004	140.116	
	90	第6ブロック	X	剥片	黒色頁岩			4.5	2.4	0.5	6.75	47655.306	-67634.331	140.050	
第15図 PL.49	91	第6ブロック	IX	彫刻刀形石器	硬質頁岩			3.1	2.2	0.4	3.27	47655.218	-67632.232	140.187	
	92	第6ブロック	IX	剥片	黒色頁岩 (硬質泥岩)			5.3	5.4	1.8	53.58	47657.995	-67633.844	140.123	
	93	第6ブロック	IX	剥片	硬質頁岩			1.8	3.3	0.3	1.72	47659.479	-67632.913	140.189	
第23図 PL.53	94	第6ブロック	X	石核	砂岩			12.0	11.0	6.6	919.20	47656.481	-67638.128	139.941	
第29図 PL.56	95	第6ブロック	IX	剥片	黒色頁岩	7	黒色頁岩6	1.8	1.5	0.6	1.59				
	96	第7ブロック	IX	二次加工ある剥片	黒色頁岩			2.7	5.2	1.0	10.34	47645.097	-67637.701	139.666	
	97	第7ブロック	IX	剥片	黒色頁岩			3.6	5.0	0.6	9.50	47645.583	-67638.888	139.732	
	98	第7ブロック		自然礫											
第27図 PL.55	99	第7ブロック	X	剥片	黒色頁岩	3	黒色頁岩2	1.3	3.7	1.0	5.99	47647.528	-67637.235	139.616	
	100	第7ブロック	IX	二次加工ある剥片	硬質頁岩			2.9	3.1	1.6	13.28	47647.553	-67636.595	139.831	
第20図 PL.52	101	第7ブロック	IX	碎片	硬質頁岩			1.5	1.0	0.2	0.30	47648.114	-67636.279	139.847	
第29図 PL.56	102	第7ブロック	IX	剥片	砂岩	9	砂岩1	6.3	6.0	3.5	84.16	47648.407	-67636.874	139.815	
	103	第7ブロック	IX	剥片	硬質頁岩			2.1	1.7	0.5	1.12	47647.981	-67638.152	139.812	
第24・30図 PL.54	104	第7ブロック	IX	ハンマーストーン片	ホルンフェルス	8	ホルンフェルス1	2.6	4.2	1.1	12.71	47648.322	-67637.996	139.867	
	105	第7ブロック	IX	剥片	黒色頁岩			1.5	2.3	0.7	1.78	47648.989	-67638.147	139.821	
第25図 PL.55	106	第7ブロック	IX	台石?	粗粒輝石安山岩			17.4	15.6	8.2	3763.00	47649.031	-67637.370	139.853	
第24・30図 PL.54	107	第7ブロック	IX	ハンマーストーン片	ホルンフェルス	8	ホルンフェルス1	11.6	7.4	4.8	554.80	47649.179	-67637.495	139.815	
第24・27図 PL.53・55	108	第7ブロック	IX	石核	黒色頁岩	3	黒色頁岩2	9.0	8.5	5.6	587.50	47649.513	-67637.240	139.881	
第25図 PL.54	109	第7ブロック	X	石製品	砂質頁岩			8.9	6.5	3.2	154.26	47650.047	-67637.393	139.904	表面の擦痕著しい。
	110	第7ブロック		自然礫											
第24・30図 PL.54	111	第7ブロック	IX	ハンマーストーン片	ホルンフェルス	8	ホルンフェルス1	3.8	4.1	1.3	24.32	47649.528	-67636.177	139.956	
第24・30図 PL.54	112	第7ブロック	X	ハンマーストーン片	ホルンフェルス	8	ホルンフェルス1	9.2	5.6	3.4	252.40	47649.740	-67636.273	139.872	
第29図 PL.56	113	第7ブロック	X	剥片	砂岩	9	砂岩1	3.5	4.2	1.6	26.29	47649.813	-67636.626	139.881	
第24・30図 PL.54	114	第7ブロック	IX	ハンマーストーン片	ホルンフェルス	8	ホルンフェルス1	7.9	5.0	1.8	78.69	47650.362	-67636.380	139.943	
第27図 PL.55	115	第7ブロック	IX	剥片	黒色頁岩	3	黒色頁岩2	6.4	6.4	1.8	66.31	47651.092	-67636.381	139.896	
	116	第7ブロック	IX	碎片	細粒輝石安山岩			1.6	1.7	0.9	1.82	47650.015	-67635.253	139.851	
第20図 PL.52	117	第7ブロック	X	碎片	硬質頁岩			1.6	1.2	0.3	0.35	47650.517	-67634.458	139.573	
	118	第7ブロック		自然礫											
第26図 PL.55	119	縄文時代以降 の住居	-	剥片	黒色頁岩	2	黒色頁岩1	7.0	6.0	2.5	75.64	-	-	-	
第15図 PL.49	120	縄文時代以降 の住居	-	彫刻刀形石器	硬質頁岩			2.4	2.3	0.8	4.60	-	-	-	荒屋型
第15図 PL.49	121	縄文時代以降 の住居	-	彫刻刀形石器	硬質頁岩			1.0	2.2	0.6	3.20	-	-	-	
第15図 PL.49	122	縄文時代以降 の住居	-	彫刻刀形石器	硬質頁岩			2.9	2.1	1.2	5.91	-	-	-	
	123	縄文時代以降 の住居	-	剥片	硬質頁岩			2.8	2.6	0.5	3.41	-	-	-	
第17図 PL.50	124	縄文時代以降 の住居	-	二次加工ある剥片	黒色頁岩			9.7	6.1	2.0	130.50	-	-	-	
第15図 PL.49	125	縄文時代以降 の住居	-	細石刃核	硬質頁岩			2.8	3.8	1.9	17.09	-	-	-	
第15図 PL.49	126	縄文時代以降 の住居	-	細石刃核	硬質頁岩			2.3	3.7	1.5	13.47	-	-	-	ファーストスボール素材
	127	縄文時代以降 の住居	-	剥片	硬質頁岩			2.0	2.6	0.3	1.20	-	-	-	
第14図 PL.56	128	56-B-19		剥片	黒色頁岩			5.0	2.9	0.6	9.9	47593.059	-67506.343	141.302	

第22表 縄文時代遺物観察表

26号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第36図 PL.57	1	縄文土器 深鉢	炉内埋設 胴部					砂粒	口縁部文様下に沈線を緩い波状に巡らせて文様帯区画し、以下の胴部に沈線で懸垂文ないし縦長方形の文様を垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第36図 PL.57	2	縄文土器 深鉢	床面下2cm 口縁部片					砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻や楕円等の文様を描く。	加曽利E 3式
第36図 PL.57	3	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線で楕円等の文様を描き、区画内にR Lの縄文を施す。	加曽利E 3式
第36図 PL.57	4	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第36図 PL.57	5	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第36図 PL.57	6	縄文土器 深鉢	床面下2cm 胴部片					砂粒、小礫	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、Rの擦糸文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第36図 PL.57	7	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、条線を縦位に施す。	加曽利E 3式
第36図 PL.57	8	縄文土器 深鉢	床面上4cm 胴部片					砂粒	胴部にR L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第36図 PL.57	9	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第36図 PL.57	10	剥片石器 打製石斧	床面上11cm 略完形	長 幅	15.9 6.9	厚 重	3.0 376.2	細粒輝石安山岩	完成状態。やや幅広で、刃部摩耗・側縁摩耗が著しい。	短冊形
第36図 PL.57	11	礫石器 凹石	床面上2cm 完形	長 幅	12.8 6.2	厚 重	4.1 524.3	石英閃緑岩	表裏面とも礫面中央に敲打痕があるほか、背面側礫面の摩耗が著しい。	扁平楕円礫
第36図 PL.57	12	礫石器 台石?	床面上7cm 完形	長 幅	19.2 13.2	厚 重	3.6 1582.7	石英閃緑岩	上端側小口部に近い右辺エッジに剝離痕があるのみ。敲打痕等その他の使用痕は不明瞭だが、礫形状からみて台石?と捉えた。遺構外出土石器24に類似。	扁平楕円礫
第36図 PL.57	13	礫石器 敲石	炉 完形	長 幅	12.3 8.5	厚 重	6.5 844.8	粗粒輝石安山岩	小口部上端・右側縁、背面側に敲打痕が残る。	楕円礫
PL.57	14	礫石器 台石	炉石 完形	長 幅	54.0 30.0	厚 重	23.0 42700.0	粗粒輝石安山岩	背面側中央に敲打痕。礫面の摩耗は不明瞭だが、礫周辺に弱い稜が形成されており、台石と捉えた。	大形楕円礫 (河床礫)

27号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第38図 PL.57	1	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線で楕円等の文様を描き、区画内にR Lの縄文を施す	加曽利E 3式
第38図 PL.57	2	縄文土器 深鉢	床面下5cm 口縁部片					砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線で楕円等の文様を描き、区画内にR Lの縄文を施す。	加曽利E 3式
第38図 PL.57	3	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					砂粒	直立ぎみの平口縁で、口縁下に沈線が巡り、以下に0段多条のL Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第38図 PL.57	4	縄文土器 両耳壺	フク土 口縁部片					砂粒	外反する平口縁で、口縁部が無文帯となる。	加曽利E 3式
第38図 PL.57	5	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	内反する口縁部に沈線と隆帯で渦巻や楕円等の文様を描く。	加曽利E 3式
第38図 PL.57	6	縄文土器 深鉢	床面下8cm 胴部片					砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にL R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第38図 PL.57	7	縄文土器 深鉢	床面下8cm 胴部片					砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、以下の胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第38図 PL.57	8	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに沈線で曲線的な文様を描く。L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第38図 PL.57	9	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに縦長楕円区画を配し、区画内にR Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第38図 PL.57	10	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第38図 PL.57	11	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第38図 PL.57	12	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第38図 PL.57	13	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第38図 PL.57	14	縄文土器 深鉢	床面下6cm 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第38図 PL.57	15	縄文土器 深鉢	床面下4cm 胴部片				砂粒	胴部に隆線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式	
第38図 PL.57	16	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を垂下させる。	加曽利E3式	
第38図 PL.58	17	剥片石器 石鏃	床面下6cm 完形	長 幅	1.9 1.5	厚 重	0.4 0.8	チャート	完成状態。器体全面を押圧剥離が覆う。器体先端は、やや先細り気味である。	平基無茎鏃
第38図 PL.58	18	剥片石器 石鏃	床面下6cm 完形	長 幅	2.7 1.9	厚 重	0.7 1.5	黒色安山岩	完成状態。器体全面が押圧剥離で覆われ、薄く作出されている。黒色安山岩製の石鏃としては優品の部類に入る。	凹基無茎鏃
第38図 PL.58	19	剥片石器 打製石斧	フク土 1/3	長 幅	(6.5) (3.8)	厚 重	2.0 52.1	黒色頁岩	完成状態？左辺エッジは激しく潰れ、着柄部の作出意図が明らか。器体下半部を大きく欠損する。	短冊形
第38図 PL.58	20	剥片石器 打製石斧	フク土 1/2	長 幅	(7.0) 4.3	厚 重	(1.6) 38.0	黒色頁岩	未製品？側縁が弱く開くタイプの石斧で、刃部摩擦等は見られない。刃部は未加工のエッジを形状修正することなく用いる。器体上半部を欠損する。	短冊形
第38図 PL.58	21	礫石器 多孔石	床直 完形	長 幅	30.0 21.3	厚 重	14.9 10950.0	粗粒輝石安山岩	背面側中央に径2.5cm程の孔を穿つ。裏面側の孔(径7mm前後)は、ごく浅く痕跡程度である。	楕円礫
第38図 PL.58	22	礫石器 多孔石	フク土 完形	長 幅	28.2 28.8	厚 重	18.3 21100.0	粗粒輝石安山岩	背面側・礫面中央付近に漏斗状の小孔1(径1cmほど)を穿つ。孔の内面摩擦は見られない。	楕円礫

29号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第39図 PL.58	1	縄文土器 深鉢	炉内埋設 胴部				砂粒	口縁部文様に沈線で楕円等の文様を描き、以下の胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式	
第39図 PL.58	2	縄文土器 鉢	床面上12cm 口縁部片				砂粒	内反する平口縁で、口縁下に沈線を巡らせて口縁部無文帯を区画し、以下の胴部にLRの縄文を施す。	加曽利E3式	
第39図 PL.58	3	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	口縁部文様に沈線で楕円等の文様を描き、以下の胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式	
第39図 PL.58	4	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに縦長楕円区画を配し、区画内に0段多条のRLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式	
第39図 PL.58	5	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	5と6は同一個体。胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、その間に先端棘手状の沈線を加える。RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式	
第39図 PL.58	6	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	5と6は同一個体。胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、その間に先端棘手状の沈線を加える。RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式	
第39図 PL.58	7	礫石器 多孔石	床直 1/4?	長 幅	(18.0) (18.6)	厚 重	(8.6) 3136.1	粗粒輝石安山岩	背面側に漏斗状の孔1(径1.5cm)が残る。左辺側を破損。礫面は被熱して薄く剥落している。	板状礫

30号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第40図 PL.58	1	礫石器 台石	フク土 略完形	長 幅	17.9 15.0	厚 重	5.9 2464.9	石英閃緑岩	表裏面とも弱く摩耗するほか、部分的に敲打痕が残る。上端の破損部は敲打によるものか。	扁平楕円礫

42号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第41図 PL.58	1	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片				粗砂	1・2は同一個体。直立ぎみの平口縁で、口縁下に波状の貼付文を巡らせ、以下の胴部に2種類のLRの縄文を施す。	諸磯c式
第41図 PL.58	2	縄文土器 深鉢	床面上5cm 口縁部片				粗砂	1・2は同一個体。直立ぎみの平口縁で、口縁下に波状の貼付文を巡らせ、以下の胴部に2種類のLRの縄文を施す。	諸磯c式
第41図 PL.58	3	縄文土器 深鉢	床面上8cm 胴部片				砂粒	3・4は同一個体。胴部に平行沈線と無文帯を巡らせて文様帯区画し、胴部下半の区画上部に縦長な短い貼付文を巡らせ、以下に斜位の沈線と瘤状貼付文を貼付する。	諸磯c式
第41図 PL.58	4	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	3・4は同一個体。胴部下半に左下がりおよび右下がりの斜位の沈線と瘤状貼付文を貼付する。	諸磯c式
第41図 PL.58	5	縄文土器 深鉢	フク土 底部片				砂粒	胴部下端に2個対の円形貼付文を貼付する。	諸磯c式
第41図 PL.58	6	縄文土器 深鉢	床面上10cm 口縁部片				砂粒	大波状口縁で、口縁下に数条の平行沈線を巡らせ、口縁部文様に平行沈線で弧状および渦巻状等の曲線的な文様を描く。	諸磯c式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第41図 PL.58	7	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	口縁部文様に平行沈線で弧状および渦巻状等の曲線的な文様を描き、印刻文を有する。	諸磯c式
第41図 PL.58	8	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に平行沈線を巡らせて区画し、区画内に鋸歯状ないし縦位矢羽根状の文様を描き、その隙間を三角状に印刻する。	諸磯c式
第41図 PL.58	9	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に平行沈線を斜に施して文様を描く。	諸磯c式
第41図 PL.58	10	剥片石器 石鏃	フク土 完形	長 幅	2.3 1.9	厚 重	0.4 1.4	黒色安山岩	完成状態。表裏面とも押圧剥離で覆われ、丁寧に作出されている。形状は五角形状を呈する。	凹基無茎鏃

## 31号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第43図 PL.59	1	縄文土器 深鉢	床面上9cm 口縁部片					砂粒	内反する小波状口縁で、波頂下に沈線と隆帯で渦巻文を描き、さらに楕円文等を描く。区画内にはRLの縄文を施す。	加曽利E3式
第43図 PL.59	2	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻や楕円等の文様を描く。	加曽利E3式
第43図 PL.59	3	縄文土器 深鉢	床面上20cm 胴部片					砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、頸部下に隆帯を巡らせて頸部無文帯を区画する。	加曽利E3式
第43図 PL.59	4	縄文土器 深鉢	床面上22cm 胴部片					砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻や楕円等の文様を描く。	加曽利E3式
第43図 PL.59	5	縄文土器 深鉢	床面上25cm 胴部片					砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内に縦位沈線を施す。	加曽利E3式
第43図 PL.59	6	縄文土器 深鉢	床面上4cm 胴部片					砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内に0段多条のRLの縄文を縦位に施す。以下の胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、0段多条のRLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式
第43図 PL.59	7	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒、小礫	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式
第43図 PL.59	8	縄文土器 深鉢	床面上14cm 胴部片					砂粒、小礫	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式
第43図 PL.59	9	縄文土器 深鉢	床面上16cm 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式
第43図 PL.59	10	縄文土器 深鉢	床面上23cm 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式
第43図 PL.59	11	縄文土器 深鉢	床面上12cm 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに沈線で逆U字状の文様を描き、区画内にLRの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式
第43図 PL.59	12	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に条線を縦位に施す。	加曽利E3式
第43図 PL.59	13	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。条線を縦位に施す。	加曽利E3式
第43図 PL.59	14	剥片石器 石鏃	フク土 4/5	長 幅	(2.7) 1.9	厚 重	0.6 1.7	黒色安山岩	未製品?形状は完成状態にあるだろうが、概して剥離は粗い。石器基部の大きな破損は斑晶が影響したものだろう。	凹基無茎鏃?
第43図 PL.59	15	剥片石器 打製石斧	床面上23cm 略完形	長 幅	(11.7) 5.6	厚 重	2.2 127.1	黒色頁岩	完成状態。刃部に近い両側縁の摩耗が著しい。刃部は再生され、そのエッジは新鮮である。	短冊形
第43図 PL.59	16	剥片石器 打製石斧	床面上11cm 完形	長 幅	12.4 4.5	厚 重	1.7 101.1	黒色頁岩	完成状態。刃部摩耗が著しい。上半部を浅く括り、着柄部を意図した加工が明らか。刃部加工は見られない。	短冊形
第43図 PL.59	17	礫石器 敲石	床面上23cm 2/3	長 幅	(11.7) 5.6	厚 重	4.6 414.6	ひん岩	上端側小口部・両側縁、背面側中央に敲打痕が残る。器体の下半部を欠損する。	棒状礫

## 35号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第44図 PL.59	1	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻や楕円等の文様を描く。	加曽利E3式
第44図 PL.59	2	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					砂粒、小礫	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻や楕円等の文様を描き、区画内にLRの縄文を施す。	加曽利E3式
第44図 PL.59	3	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻や楕円等の文様を描き、区画内に縄文を施す。	加曽利E3式
第44図 PL.59	4	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にRLの縄文を施す。	加曽利E3式
第44図 PL.59	5	縄文土器 深鉢	床面上12cm 口縁部片					砂粒	内反する小波状口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にRLの縄文を施す。	加曽利E3式

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第44図 PL.59	6	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	口縁部文様および胴部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描く。	加曽利E 3式	
第44図 PL.59	7	縄文土器 深鉢	床面上6cm 胴部片				砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、以下の胴部にRLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第44図 PL.59	8	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				粗砂	口縁部文様に沈線と隆帯で文様を描き、区画内に斜位の沈線を施す。	加曽利E 3式	
第44図 PL.59	9	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	胴部に沈線を2条巡らせ、沈線間に円形刺突をもつ。以下にRLの縄文を縦位・横位に施す。	加曽利E 3式	
第44図 PL.59	10	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	胴部に沈線で直線のおよび蛇行状に垂下させる。	加曽利E 3式	
第44図 PL.59	11	縄文土器 深鉢	床面上2cm 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、条線を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第44図 PL.59	12	縄文土器 深鉢	床直 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第44図 PL.59	13	縄文土器 深鉢	床直 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第44図 PL.60	14	縄文土器 深鉢	床面上9cm 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第44図 PL.60	15	縄文土器 深鉢	床面上2cm 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第44図 PL.60	16	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、LRLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第44図 PL.60	17	縄文土器 深鉢	床面上17cm 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、LRの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第44図 PL.60	18	縄文土器 深鉢	床面上16cm 底部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、LRの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第44図 PL.60	19	縄文土器 深鉢	床面上9cm 胴部片				砂粒	19・20は同一個体。胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、Rの細い撚糸を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第45図 PL.60	20	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	19・20は同一個体。胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、Rの細い撚糸を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第45図 PL.60	21	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第45図 PL.60	22	縄文土器 鉢	フク土 口縁部片				粗砂	内反する平口縁で、口縁下に沈線と楕円等の文様を描き、区画内にRLの縄文を充填する。	加曽利E 3式	
第45図 PL.60	23	土製品 円盤	フク土 1/2				砂粒	土器片利用の土製円盤で、側面を部分的に研磨している。表面に懸垂文が垂下している。		
第45図 PL.60	24	剥片石器 打製石斧	フク土 刃部破片	長 幅	(3.2) (1.8)	厚 重	(1.0) 6.4	黒色頁岩	完成状態。左辺エッジに表裏面とも著しい摩耗痕がある。	不明
第45図 PL.60	25	礫石器 敲石?	床面上13cm 完形	長 幅	27.0 10.8	厚 重	8.5 4000.0	粗粒輝石安山岩	裏面・下端側小口部に著しい敲打痕がある。礫面は概して平滑である。	棒状礫
第45図 PL.60	26	礫石器 台石	フク土 1/3	長 幅	(22.8) (21.3)	厚 重	9.0 4150.0	粗粒輝石安山岩	表裏面とも集合打痕が残る。漏斗状の孔に類似するものもあるが、大部分は敲打によるものが多い。	扁平楕円礫

32号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第47図 PL.60	1	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片				砂粒	内反する小波状口縁で、波頂下に沈線と隆帯で渦巻文を描く。	加曽利E 3式	
第47図 PL.60	2	縄文土器 両耳壺	床面上5cm 橋状把手				砂粒	口縁部は無文帯となるようで、頸部下に橋状把手を有する。把手上にはRLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第47図 PL.60	3	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第47図 PL.60	4	縄文土器 深鉢	床面下2cm 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第47図 PL.60	5	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	胴部に条線を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第47図 PL.60	6	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	胴部に条線を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第47図 PL.60	7	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	胴部にRLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第47図 PL.60	8	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	胴部に平行沈線を巡らせ、瘤状貼付文を有する。	諸磯c式	
第47図 PL.60	9	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、LRの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式	
第47図 PL.60	10	剥片石器 打製石斧	床面上18cm 略完形	長 幅	(9.6) 3.9	厚 重	1.3 47.8	黒色頁岩	完成状態。刃部摩耗が著しい。器体頭部は破損しているように見えるが、機能的には無視することができる程度。	短冊形



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	13.0 6.7	厚 重	3.9 548.1			
第47図 PL.60	11	礫石器 敲石	床直 完形	長 幅	13.0 6.7	厚 重	3.9 548.1	変玄武岩	小口部両端および背面側下端部に敲打痕が残る。	扁平楕円礫
第47図 PL.60	12	礫石器 多孔石	床面下3cm 完形	長 幅	22.5 24.3	厚 重	18.0 14000.0	粗粒輝石安山岩	背面側面に漏斗状の小孔を穿つ。孔は浅く、内面 摩耗は見られない。	楕円礫

## 33号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	13.0 6.7	厚 重	3.9 548.1			
第48図 PL.60	1	縄文土器 深鉢	床面上3cm 口縁部片					砂粒	内反する小波状口縁で、波頂下に沈線と隆帯で渦巻 文を描く。	加曽利E 3式
第48図 PL.60	2	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻 文や楕円等の文様を描き、区画内にRLの縄文を施 す。	加曽利E 3式
第48図 PL.60	3	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	内反する口縁部の口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等 の文様を描き、区画内にRLの縄文を施す。以下の 胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄 文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第48図 PL.60	4	縄文土器 深鉢	床面下13cm 胴部片					砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻等の文様を描き、以 下の胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RL の縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第48図 PL.60	5	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、LRの縄 文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第48図 PL.60	6	縄文土器 深鉢	床直 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄 文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第48図 PL.60	7	剥片石器 打製石斧	床面上9cm 完形	長 幅	10.0 5.3	厚 重	1.5 65.0	黒色頁岩	完成状態。刃部摩耗が著しい。やや細身の着柄部に 幅広の機能部が付く。	短冊形
第48図 PL.60	8	剥片石器 打製石斧	床面上2cm 完形	長 幅	11.3 5.3	厚 重	1.7 137.8	黒色頁岩	完成状態。側縁のエッジは弱く摩耗する。礫面が全 面を覆う。刃部側面は礫形状の変換部に当り、刃 部は破損側を想定すべきかもしれない。	短冊形

## 34号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	13.0 6.7	厚 重	3.9 548.1			
第49図 PL.61	1	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					砂粒	内反する平口縁で、口縁下に沈線で渦巻状の曲線的 な文様を描き、RLの縄文を施す。	加曽利E 3式
第49図 PL.61	2	縄文土器 深鉢	床面上9cm 口縁部片					砂粒	内反する口縁の口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻文を 描き、区画内にRLの縄文を施す。	加曽利E 3式
第48図 PL.61	3	縄文土器 深鉢	床面下6cm 胴部片					砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区 画内にRLの縄文を縦位に施す。以下の胴部に沈線 で逆U字状の文様を描き、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第49図 PL.61	4	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	口縁部文様に沈線で文様を描き、以下の胴部に沈線 で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に 施す。	加曽利E 3式
第49図 PL.61	5	縄文土器 深鉢	床面上9cm 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄 文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第49図 PL.61	6	縄文土器 深鉢	床面上2cm 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄 文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第49図 PL.61	7	縄文土器 深鉢	床直 胴部片					砂粒、小礫	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄 文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第49図 PL.61	8	縄文土器 深鉢	床面上4cm 胴部片					粗砂	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、条線を縦 位に施す。	加曽利E 3式

## 36号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	13.0 6.7	厚 重	3.9 548.1			
第50図 PL.61	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒、雲母	胴部に斜格子状の沈線で文様を描き、印刻を有する。	五領ヶ台式
第50図 PL.61	2	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に斜格子状の沈線で文様を描く。	五領ヶ台式
第50図 PL.61	3	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					砂粒	小突起を有する平口縁で、突起下に縦位沈線、口縁 下にRLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式

## 37号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	13.0 6.7	厚 重	3.9 548.1			
第51図 PL.61	1	縄文土器 深鉢	床面下2cm 口縁部片					砂粒	内反する平口縁で、口縁部に沈線で楕円等の文様を 描き、区画内にRLの縄文を施す。	加曽利E 3式
第51図 PL.61	2	縄文土器 深鉢	床面上3cm 胴部片					砂粒	内反する口縁部に沈線と隆帯で渦巻ないし円等の文 様を描き、区画内および胴部にRLの縄文を縦位に 施す。	加曽利E 3式

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第51図 PL.61	3	縄文土器 深鉢	床面下3cm 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式	
第51図 PL.61	4	縄文土器 深鉢	床面上2cm 底部				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式	
第51図 PL.61	5	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				粗砂	胴部に条線を縦位に施す。	加曽利E3式	
第51図 PL.61	6	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、条線を縦位に施す。	加曽利E3式	
第51図 PL.61	7	縄文土器 鉢?	フク土 口縁部片				砂粒	内反する平口縁で、口縁下を無文帯として沈線を巡らせて区画し、以下にLRの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式	
PL.61	8	礫石器 多孔石	床面下3cm 完形	長 幅	53.0 31.0	厚 重	33.0 70500.0	粗粒輝石安山岩	背面側平坦面に孔(径2cm前後)多数を穿つ。	楕円礫 (河床礫)

38号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第52図 PL.61	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式	
第52図 PL.61	2	縄文土器 深鉢	床面上4cm 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式	
第52図 PL.61	3	縄文土器 深鉢	床面上4cm 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式	
第52図 PL.61	4	縄文土器 深鉢	床直 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式	
第52図 PL.61	5	縄文土器 深鉢	床面上7cm 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、LRの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式	
第52図 PL.61	6	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、条痕を縦位に施す。	加曽利E3式	
第52図 PL.61	7	剥片石器 打製石斧?	床面上6cm 略完形?	長 幅	(9.2) 5.3	厚 重	2.4 108.6	黒色頁岩	左辺エッジは潰れ打製石斧様だが、右辺加工は折れ面から加工されている。別器種に再生しようとしたものだろうが、再生意図(器種)は不明。	不明
第52図 PL.61	8	剥片石器 打製石斧	フク土 4/5	長 幅	(9.7) 3.9	厚 重	1.8 73.6	細粒輝石安山岩	完成状態。刃部摩耗、左側縁に捲摺用の敲打痕あり。頭部側を破損する。	短冊形

41号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第53図 PL.61	1	縄文土器 深鉢	床面上10cm 口縁部片				砂粒	波状口縁の波頂部が把手となり、波頂部正面を渦巻きとした沈線が口縁部の沈線帯へと流れる。口縁部沈線帯は隆帯と沈線で有段状となり、途中に渦巻き文を有する。また、把手は中空状となり、中央に円孔をもち、その周囲に先端棘手状の沈線が描かれる。頸部には波状の沈線が描かれ、把手下に斜位の沈線をもつ。地文は縦位の条線が施される。	大木式?	
第53図 PL.61	2	縄文土器 深鉢	床面下11cm 口縁部片				砂粒	内反する平口縁で、口縁下に沈線を巡らせ、以下にRLの縄文を施す。	加曽利E3式	
第53図 PL.61	3	縄文土器 深鉢	床面下5cm 口縁部片				砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で文様を描き、RLの縄文を施す。	加曽利E3式	
第53図 PL.61	4	縄文土器 両耳壺	床面上7cm 橋状把手				砂粒	両耳壺の肩部に付く橋状把手で、胴部には懸垂文とRLの縄文を縦位に施す。さらに、把手に先端棘手状の沈線が描かれる。	加曽利E3式	
第53図 PL.61	5	縄文土器 深鉢	床面下10cm 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。	加曽利E3式	
第53図 PL.61	6	縄文土器 深鉢	床面下8cm 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式	
第53図 PL.61	7	縄文土器 深鉢	床面下1cm 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、LRの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式	
第53図 PL.61	8	縄文土器 深鉢	床直 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、LRの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式	
第53図 PL.61	9	礫石器 磨石	床面下6cm 完形	長 幅	13.2 10.6	厚 重	5.1 873.1	粗粒輝石安山岩	上端側右辺エッジに敲打痕が残る。被熱して焼けており、部分的に剥落する。	楕円礫
第53図 PL.61	10	礫石器 多孔石	床面上6cm 完形	長 幅	22.5 15.6	厚 重	7.4 5700.0	粗粒輝石安山岩	背面側・礫面中央付近に小孔1(径1cm弱)を穿つ。裏面側の礫面は弱く摩耗する。	楕円礫

1号配石

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第56図 PL.62	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	胴部に沈線と隆線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E3式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長	幅	厚重				
第56図 PL.62	2	縄文土器 注口土器	フク土 胴部片				細砂	大きく膨らむ胴部に注口部をもつ注口土器で、注口部は欠損。胴部には沈線で曲線的な文様を描き、区画内にL Rの縄文を充填する。また、器面は丁寧に研磨され、胴部上半の無文部に赤彩あり。	加曽利B式	
第56図 PL.62	3	礫石器 磨石	フク土 完形	長 幅	9.9 7.8	厚 重	3.9 447.2	粗粒輝石安山岩	背面側礫面および裏面側周辺が摩耗する。このほか、小口部の上端に敲打痕がある。	扁平楕円礫
第56図 PL.62	4	礫石器 磨石?	フク土 1/3	長 幅	(7.4) 6.6	厚 重	3.4 290.9	粗粒輝石安山岩	左辺が表裏面とも摩耗して光沢を帯びる。下半部を大きく欠損する。	扁平楕円礫
第56図 PL.62	5	礫石器 多孔石	フク土 完形	長 幅	19.4 17.4	厚 重	8.2 2931.1	粗粒輝石安山岩	背面側に漏斗状の孔6(径1.5~3cm)、裏面側に孔9(径2~3cm)を穿つ。	扁平楕円礫
第56図 PL.62	6	礫石器 多孔石	フク土 完形	長 幅	25.2 30.0	厚 重	11.2 12800.0	粗粒輝石安山岩	背面側に漏斗状の孔6(径1~1.5cm)、裏面側に孔2(径1cm弱)を穿つ。	楕円礫
第56図 PL.62	7	礫石器 多孔石	フク土 完形	長 幅	31.8 27.3	厚 重	17.2 16650.0	粗粒輝石安山岩	背面側に漏斗状の孔4(径1~1.5cm)、裏面側に孔2、側面に孔2を穿つ。	楕円礫
PL.62	8	礫石器 多孔石	フク土 完形	長 幅	61.0 48.0	厚 重	20.0 66350.0	粗粒輝石安山岩	背面側平坦面端部に漏斗状の孔2(径1.5cm)を穿つ。	大形扁平礫 (河床礫)
PL.62	9	礫石器 多孔石	フク土 完形	長 幅	71.0 37.0	厚 重	25.0 70750.0	粗粒輝石安山岩	背面側礫周縁部に漏斗状の孔を穿つ。	大形扁平礫 (河床礫)
PL.62	10	礫石器 多孔石	フク土 完形	長 幅	73.0 53.0	厚 重	28.0 109550.0	粗粒輝石安山岩	背面側礫周縁部に漏斗状の孔8を穿つ。	大形扁平礫 (河床礫)
PL.62	11	礫石器 多孔石	フク土 完形	長 幅	60.0 42.0	厚 重	30.0 55220.0	粗粒輝石安山岩	小口部に小孔7(径1~2cm)を穿つ。	大形扁平礫 (河床礫)
PL.62	12	礫石器 多孔石	フク土 完形	長 幅	42.0 32.0	厚 重	24.0 28740.0	粗粒輝石安山岩	背面側に12・裏面側に2ヶ所に漏斗状の孔(径2~4cm)を穿つ。	楕円礫 (河床礫)
PL.62	13	礫石器 多孔石	フク土 完形	長 幅	36.0 35.0	厚 重	39.0 59200.0	粗粒輝石安山岩	小口部に孔1(径2cm)を穿つ。	垂角礫 (河床礫)
241号土坑										
第72図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					粗砂	胴部に沈線と隆帯で大きく曲線的な文様を描き、区画内にR L Rの縄文を施す。	加曽利E 3式
242号土坑										
第72図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、条線を縦位に施す。	加曽利E 3式
243号土坑										
第72図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に縄文を施す。	加曽利E式
244号土坑										
第72図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					砂粒	内反する波状口縁で、口縁下に沈線を巡らせ、以下にL Rの縄文を横位・縦位に施す。	加曽利E 3式
第72図 PL.63	2	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	口縁部文様に隆帯で渦巻等の文様を描く。	加曽利E 3式
274号土坑										
第72図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で文様を描き、区画内に縄文を施す。	加曽利E 3式
290号土坑										
第72図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	底面上6cm 胴部片					粗砂	口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、以下の胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第72図 PL.63	2	縄文土器 深鉢	底面上5cm 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第72図 PL.63	3	礫石器 凹石	底面上3cm 完形	長 幅	11.3 7.3	厚 重	6.0 600.4	粗粒輝石安山岩	背面側中央付近に集合打痕が残る。礫面の摩耗については石材の目が粗く、不明瞭。	楕円礫
第72図 PL.63	4	礫石器 敲石	底面上5cm 完形	長 幅	14.2 7.2	厚 重	4.9 777.9	ひん岩	上端側小口部に近い背面側に敲打痕が著しい。礫面は光沢を帯び摩耗しているようであるが、断定は難しい。	扁平楕円礫
第72図 PL.63	5	礫石器 台石	底面上4cm 完形	長 幅	21.4 12.9	厚 重	3.2 1625.6	変玄武岩	上端小口部に小剥離痕がある。敲打・摩耗痕等の使用痕は不明瞭だが、礫形状からみて台石と捉えた。	扁平楕円礫
292号土坑										
第72図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
298号土坑										
第72図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、以下の胴部にL Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
322号土坑										
第72図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	底面上16cm 胴部片					砂粒	内反する小波状口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻文や楕円文を描き、区画内にR Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第72図 PL.63	2	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にR Lの縄文を縦位に施し、胴部にもR Lの縄文を縦位に施す。	加曾利E 3式
第72図 PL.63	3	縄文土器 深鉢	底面上28cm 胴部片					砂粒、小礫	胴部に沈線と隆帯で大きく曲線的な文様を描き、区画内にR Lの縄文を縦位に施す。	加曾利E 3式
第72図 PL.63	4	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線と隆帯で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。0段多条のR Lの縄文を縦位に施す。	加曾利E 3式
370号土坑										
第72図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部にL RとR Lによる結束羽状縄文を施す。	諸磯式
371号土坑										
第72図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部にR Lの縄文を縦位に施す。	加曾利E 3式
411号土坑										
第73図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で文様を描き、以下の胴部に沈線と懸垂文を直線的に垂下させ、縄文を施す。	加曾利E 3式
第73図 PL.63	2	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線と懸垂文を直線的に垂下させ、縄文を施す。	加曾利E 3式
415号土坑										
第73図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描く。	加曾利E 3式
419号土坑										
第73図 PL.63	1	縄文土器 小型鉢?	フク土 胴部片					砂粒	径が小さい小型の平口縁で、口縁下に縦位の沈線を持ち、R Lの縄文を横位・縦位に施す。	加曾利E 3式
422号土坑										
第73図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内に縄文を施す。	加曾利E 3式
445号土坑										
第73図 PL.63	1	縄文土器 両耳壺	フク土 口縁部片					砂粒、小礫	やや外反する平口縁で、口縁下が無文帯となる。	加曾利E 3式
448号土坑										
第73図 PL.63	1	剥片石器 石鏃	フク土 4/5	長 幅	2.5 (1.8)	厚 重	0.3 1.3	黒色安山岩	未製品。背面側は全面が加工されているが、裏面側は周辺加工されているのみである。左辺「返し部」を破損する。	凹基無茎鏃
450号土坑										
第73図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					粗砂	胴部に隆線と懸垂文を直線的に垂下させる。	加曾利E 3式
461号土坑										
第73図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線と懸垂文を直線的に垂下させ、L Rの縄文を縦位に施す。	加曾利E 3式
463号土坑										
第73図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線と懸垂文を直線的に垂下させる。	加曾利E 3式
466号土坑										
第73図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部にR Lの縄文を縦位に施す。	加曾利E 3式
472号土坑										
第73図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	底面下5cm 胴部片					砂粒	胴部に沈線と懸垂文を直線的に垂下させ、R L Rの縄文を縦位に施す。	加曾利E 3式
第73図 PL.63	2	剥片石器 打製石斧	底面上13cm 2/3	長 幅	(9.9) 4.3	厚 重	1.4 75.7	細粒輝石安山岩	未製品?エッジはシャープで、摩耗痕は見られない。刃部側を大きく破損する。	短冊形
475号土坑										
第73図 PL.63	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					細砂	胴部に沈線と懸垂文を直線的に垂下させ、さらに先端狭手状の沈線を蛇行させる。	加曾利E 3式
第73図 PL.63	2	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					細砂	胴部に沈線と懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。L R Lの縄文を縦位に施す。	加曾利E 3式
第73図 PL.63	3	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					細砂	胴部に沈線と懸垂文を直線的に垂下させる。R Lの縄文を縦位に施す。	加曾利E 3式
第73図 PL.63	4	剥片石器 打製石斧	底直 略完形	長 幅	8.9 4.1	厚 重	1.7 64.3	黒色頁岩	未製品。エッジはシャープで、摩耗等は見られない。刃部側を破損後、刃部再生には成功しているが、最終的に頭部側を破損して製作を放棄している。	短冊形
第73図 PL.63	5	礫石器 敲石	底面下5cm 完形	長 幅	18.5 7.8	厚 重	5.4 1224.8	溶結凝灰岩	小口部両端に敲打痕が著しい。特に、背面側礫面は摩耗して光沢を帯びる部分があり、磨石として機能した可能性も否定できない。	棒状礫
第73図 PL.63	6	礫石器 多孔石	底面下5cm 完形	長 幅	25.6 20.0	厚 重	11.4 7600.0	粗粒輝石安山岩	表裏面とも漏斗状の孔多数(径2cm前後)を穿つ。被熱?	楕円礫

## 479号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第73図 PL.64	1	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					細砂	内反する小波状口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻文や楕円等の文様を描く。	加曽利E 3式
第73図 PL.64	2	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					細砂	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第73図 PL.64	3	剥片石器 打製石斧	底面上21cm 1/2	長 幅	(8.3) (4.1)	厚 重	(1.2) 56.7	細粒輝石安山岩	完成状態。両側縁のエッジは摩耗し、使用状態にあることは確実。器体下半部を大きく欠損する。	短冊形

## 484号土坑

第74図 PL.64	1	縄文土器 深鉢	底面上7cm 胴部					砂粒	口縁部文様に沈線で楕円等の文様を描き、区画内に条線を縦位に施し、以下の胴部にも条線を縦位に施す。	加曽利E 3式
第74図 PL.64	2	縄文土器 深鉢	底面上11cm 胴部片					細砂	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式

## 494号土坑

第74図 PL.64	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					細砂	胴部下半にL RとR Lによる羽状縄文を施す。	諸磯式
第74図 PL.64	2	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					細砂	2・3は同一個体。内反する波状口縁で、口縁下にL Rの縄文を横位に施し、浅く沈線を巡らせて区画する。以下の胴部上半の波頂下に沈線で大きく渦巻状の文様を描き、区画内にL Rの縄文を縦位基調に充填する。	加曽利E 3式
第74図 PL.64	3	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					細砂	2・3は同一個体。胴部上半に沈線で大きく渦巻状の文様を描き、区画内にL Rの縄文を縦位基調に充填する。	加曽利E 3式
第74図 PL.64	4	縄文土器 深鉢	底面上18cm 胴部片					細砂	胴部上半に沈線と隆線で大きく渦巻状の文様を描き、下半に沈線と隆線で懸垂文を直線的に垂下させる。区画内にR Lの縄文を縦位基調に充填する。	加曽利E 3式
第74図 PL.64	5	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					細砂	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第74図 PL.64	6	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					細砂	胴部に条線を縦位に施す。	加曽利E 3式
第74図 PL.64	7	剥片石器 打製石斧	フク土 完形	長 幅	9.0 6.6	厚 重	1.8 106.4	チャート	未製品?エッジはシャープで、摩耗痕等は見られない。黒色・珪化の著しい石材で、見た目は珪質頁岩に近い。	分銅形

## 497号土坑

第74図 PL.64	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部にR Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
---------------	---	------------	------------	--	--	--	--	----	------------------	---------

## 510号土坑

第74図 PL.64	1	縄文土器 深鉢	底面上4cm 口縁部片					砂粒	内反する波状口縁で、口縁下を幅狭な無文帯とし、以下の胴部上半に沈線と隆帯で渦巻状の文様を描き、区画内にR Lの縄文を縦位基調に充填する。	加曽利E 3式
---------------	---	------------	----------------	--	--	--	--	----	--	---------

## 511号土坑

第75図 PL.64	1	縄文土器 深鉢	底面上19cm 口縁部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第75図 PL.64	2	剥片石器 打製石斧	底面上10cm 1/2	長 幅	(6.6) (4.4)	厚 重	2.1 69.8	細粒輝石安山岩	完成状態?器体下半部を大きく欠損するため、詳細は不明。着柄部から側縁が弱く開くタイプの石斧であろう。	短冊形
第75図 PL.64	3	礫石器 敲石?	底直 完形	長 幅	27.5 11.1	厚 重	6.7 3810.7	変輝緑岩	左辺側エッジに弱い敲打痕が残る。その他、石器の用途を類推させるような痕跡は見られない。	棒状礫

## 514号土坑

第75図 PL.64	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻文を描き、区画内にR Lの縄文を施す。	加曽利E 3式
第75図 PL.64	2	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式

## 515号土坑

第75図 PL.65	1	縄文土器 深鉢	床直 口縁~胴部					砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻と楕円の文様を描き、区画内にR Lの縄文を縦位に施す。以下の胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第75図 PL.64	2	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					砂粒	内反する小波状口縁で、波頂下に渦巻状の文様をもち、口縁以下にL RとR Lによる縦位の羽状縄文を施す。	加曽利E 3式
第75図 PL.64	3	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒、小礫	口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にR Lの縄文を施す。胴部にR Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第75図 PL.64	4	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で先端鋭手状の懸垂文と逆U字状の文様を描き、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第75図 PL.64	5	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒、小礫	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第75図 PL.64	6	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第75図 PL.64	7	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線と隆帯で曲線的な文様を描き、区画内にR Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
516号土坑										
第75図 PL.65	1	縄文土器 深鉢	底面上29cm 口縁部片					粗砂	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にR Lの縄文を施す。	加曽利E 3式
第75図 PL.65	2	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					粗砂	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第75図 PL.65	3	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
518号土坑										
第76図 PL.65	1	縄文土器 深鉢	底面下3cm 口縁～胴部上半					砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にR Lの縄文を縦位に施す。胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第76図 PL.65	2	石製品 不明石製品	フク土 完形	長 幅	19.9 14.2	厚 重	10.2 1559.6	軽石	礫上面を皿状に浅く窪める。円礫を用いたものだが、裏面側は平坦で、部分的に整形されている可能性が高い。	楕円礫
519号土坑										
第76図 PL.65	1	縄文土器 深鉢	底面上29cm 口縁部片					砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にR Lの縄文を縦位に施す。胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第76図 PL.65	2	縄文土器 深鉢	底面上23cm 胴部片					砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で文様を描き、胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第76図 PL.65	3	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線と隆帯で大きく渦巻状の曲線的な文様を描き、区画内に0段多条のR Lの縄文を縦位基調に充填する。	加曽利E 3式
第76図 PL.65	4	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第76図 PL.65	5	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第76図 PL.65	6	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第76図 PL.65	7	縄文土器 深鉢	底面上29cm 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第76図 PL.65	8	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第76図 PL.65	9	剥片石器 打製石斧	フク土 1/3	長 幅	(4.6) 4.4	厚 重	(1.0) 23.6	黒色頁岩	完成状態。薄手の石斧刃部破片。左辺側に摩耗痕が残る。	短冊形
521号土坑										
第76図 PL.66	1	縄文土器 深鉢	底面上29cm 口縁部片					砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻と楕円の文様を描き、区画内に条線を縦位に施す。以下の胴部に沈線で先端齧手状の懸垂文と逆U字状の文様を描き、条線を縦位に施す。	加曽利E 3式
第76図 PL.66	2	縄文土器 深鉢	底面上24cm 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第76図 PL.66	3	剥片石器 打製石斧	フク土 完形	長 幅	11.0 5.1	厚 重	1.8 96.5	黒色頁岩	完成状態。刃部摩耗が著しく、部分的に刃部再生が行われている。側縁のエッジはシャープである。	短冊形
第76図 PL.66	4	剥片石器 打製石斧	底面上35cm 1/3	長 幅	(5.4) 4.2	厚 重	1.9 47.0	黒色頁岩	未製品。側縁のエッジはシャープで、摩耗痕等の痕跡は見られない。	短冊形
522号土坑										
第77図 PL.66	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
525号土坑										
第77図 PL.66	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	口縁部文様に沈線で楕円等の文様を描き、区画内にL Rの縄文を施し、以下の胴部にL Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第77図 PL.66	2	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第77図 PL.66	3	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第77図 PL.66	4	礫石器 凹石	底面上24cm 略完形	長 幅	(11.8) 8.7	厚 重	6.0 707.6	粗粒輝石安山岩	表裏面とも漏斗状の孔1があるほか、周辺に敲打痕がある。このほか、小口部両端に敲打痕が残る。左辺側の破損部は打撃によるものとみられる。	楕円礫
542号土坑										
第77図 PL.66	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
545号土坑										
第77図 PL.66	1	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					砂粒	内反する小波状口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻文や楕円等の文様を描き、区画内にR Lの縄文を施す。	加曽利E 3式
565号土坑										
第77図 PL.66	1	縄文土器 深鉢	底面上13cm 胴部片					砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にR Lの縄文を施す。	加曽利E 3式
566号土坑										
第77図 PL.66	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に矢羽根状沈線を横位に巡らせる。	諸磯c式
568号土坑										
第77図 PL.66	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第77図 PL.66	2	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
569号土坑										
第77図 PL.66	1	縄文土器 両耳壺	フク土 口縁部片					砂粒	直立する平口縁で、口縁部は無文。	加曽利E 3式
570号土坑										
第77図 PL.66	1	縄文土器 深鉢	底面下10cm 胴部片					砂粒	胴部に沈線と隆線で懸垂文を直線的に垂下させ、L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第77図 PL.66	2	縄文土器 深鉢	底面上4cm 胴部片					砂粒	胴部に隆線で懸垂文を直線的に垂下させ、L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
675号土坑										
第77図 PL.66	1	縄文土器 深鉢	底面上33cm 胴部片					砂粒	胴部下半に沈線で逆U字状の文様を描き、区画内にL Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第77図 PL.66	2	縄文土器 深鉢	底面上39cm 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第77図 PL.66	3	剥片石器 打製石斧	底面上18cm 完形	長 幅	9.9 5.2	厚 重	1.6 87.8	黒色頁岩	完成状態。刃部摩耗が著しい。両側縁とも弱く括れる。	短冊形
676号土坑										
第77図 PL.66	1	縄文土器 深鉢	底面上31cm 口縁部片					砂粒	内反する口縁部の口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻文や楕円等の文様を描き、区画内にR Lの縄文を施す。以下の胴部には沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第77図 PL.66	2	縄文土器 深鉢	底面上18cm 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
678号土坑										
第77図 PL.66	1	縄文土器 鉢	底面上15cm 口縁部片					砂粒	内反する平口縁で、口縁下に沈線を巡らせ、以下の胴部に沈線で逆U字状の文様を描き、区画内にR Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第77図 PL.66	2	縄文土器 深鉢	底面上10cm 口縁部片					砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にR Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第77図 PL.66	3	縄文土器 深鉢	底面上38cm 胴部片					砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第77図 PL.66	4	礫石器 多孔石	床直 完形	長 幅	25.5 23.7	厚 重	14.4 10800.0	粗粒輝石安山岩	背面側平坦面に漏斗状の小孔2(径0.8~1.5cm)を穿つ。	盤状直角礫
679号土坑										
第78図 PL.66	1	縄文土器 深鉢	底面上4cm 口縁~胴部上半					砂粒	内反する小波状口縁で、波頂下に沈線と隆帯で渦巻文を描き、その間に楕円文を描く。区画内にはL Rの縄文を縦位に施す。胴部には沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
680号土坑										
第78図 PL.66	1	縄文土器 深鉢	底面下23cm 口縁部片					砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描く。	加曽利E 3式
第78図 PL.66	2	縄文土器 深鉢	底面下21cm 胴部片					砂粒	内反する口縁部の口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にL Rの縄文を施す。以下の胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第78図 PL.66	3	縄文土器 深鉢	底面上43cm 胴部片					砂粒	胴部に沈線で渦巻き状の曲線的な文様を描き、区画内にR Lの縄文を充填する。	加曽利E 3式

遺物観察表

遺構外出土の縄文土器

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第79図 PL.67	1	縄文土器 深鉢	D区IV層 口縁部片				細砂	僅かに外反する平口縁で、口縁下に燃糸文を縦位に施す。	燃糸文系
第79図 PL.67	2	縄文土器 深鉢	30号住居周辺 胴部片				繊維、砂粒	胴部を上下に文様帯区画し、隆起線で縦位や斜位に文様を描き、隆起線間に細かい刺突を加える。また、文様の交差部分等へ円形刺突を配する。裏面には条痕が施される。	鶴ヶ島台式
第79図 PL.67	3	縄文土器 深鉢	6号住居カマド 胴部片				砂粒	表裏面に浅く条痕(絡条体条痕か)を施す。	条痕文系
第79図 PL.67	4	縄文土器 深鉢	C区調査区 胴部片				繊維	胴部下半に0段多条のLRと0段多条のRLによる縦長な菱状となる縄文を施す。	花積下層I式
第79図 PL.67	5	縄文土器 深鉢	C区調査区 口縁部片				繊維	6と同一個体か。平口縁の口縁下に爪形刺突をもつ平行沈線を2列巡らせ、以下の胴部に0段多条のLRの縄文を施す。	黒浜式
第79図 PL.67	6	縄文土器 深鉢	C区IV層調査区 口縁部片				繊維	5と同一個体か。平口縁の口縁下に爪形刺突をもつ平行沈線を2列巡らせ、以下の胴部にRLの縄文を施す。	黒浜式
第79図 PL.67	7	縄文土器 深鉢	C区67-H-12 口縁部片				繊維	平口縁の口縁下に爪形刺突をもつ平行沈線を2列巡らせ、地文にLRの縄文を施す。	黒浜式
第79図 PL.67	8	縄文土器 深鉢	D区IV層 口縁部片				繊維	平口縁の口縁下にRLの附加条(Lの2本附加)縄文を施す。	有尾・黒浜式
第79図 PL.67	9	縄文土器 深鉢	C区確認面 胴部片				繊維	胴部にLRの附加条(Lの1本附加)とRLの附加条(Lの1本附加)による羽状縄文を施す。	有尾・黒浜式
第79図 PL.67	10	縄文土器 深鉢	D区56-D-15 胴部片				繊維	胴部に0段多条のLRとRLによる羽状縄文を施す。	有尾・黒浜式
第79図 PL.67	11	縄文土器 深鉢	67区調査区 胴部片				繊維	胴部にLRとRLによる羽状縄文を施す。	有尾・黒浜式
第79図 PL.67	12	縄文土器 深鉢	B区覆土 胴部片				繊維	胴部にLRとRLによる羽状縄文を施す。	有尾・黒浜式
第79図 PL.67	13	縄文土器 深鉢	A区調査区 胴部片				繊維	胴部にRLの縄文を施す。	有尾・黒浜式
第79図 PL.67	14	縄文土器 深鉢	C区調査区 胴部片				繊維	胴部にRLの縄文を施す。	有尾・黒浜式
第79図 PL.67	15	縄文土器 深鉢	C区調査区 胴部片				繊維	胴部にRLの縄文を施す。	有尾・黒浜式
第79図 PL.67	16	縄文土器 深鉢	1号住居 胴部片				砂粒	口縁部文様に横位の集合沈線を巡らせ、胴部に集合沈線で弧状等の文様を描く。	諸磯c式
第79図 PL.67	17	縄文土器 深鉢	C区調査区 胴部片				細砂	胴部に集合沈線で弧状や菱状等の文様を描く。	諸磯c式
第79図 PL.67	18	縄文土器 深鉢	C区確認面2面 胴部片				細砂	胴部に平行沈線で菱状等の文様を描く。	諸磯c式
第79図 PL.67	19	縄文土器 深鉢	C区H-11 胴部片				細砂	胴部に斜位の条線を施し、円形貼付文を配する。	諸磯c式
第79図 PL.67	20	縄文土器 深鉢	旧石器トレンチ ・D-2 胴部片				細砂	胴部下半に斜位の条線で文様を描き、小さな粒状の貼付文を配する。	諸磯c式
第79図 PL.67	21	縄文土器 深鉢	旧石器トレンチ ・B-11 胴部片				細砂	胴部下半に斜位の条線で文様を描き、小さな粒状の貼付文を配する。	諸磯c式
第79図 PL.67	22	縄文土器 深鉢	D区IV層 胴部片				細砂	胴部下半に平行沈線で鋸歯文を重畳する。	諸磯c式
第79図 PL.67	23	縄文土器 深鉢	C区南東ローム 面・確認面 胴部片				砂粒	胴部の括れ部に平行沈線を巡らせて文様帯区画し、胴部下半に斜位の平行沈線とLRの縄文を施す。	諸磯c式
第79図 PL.67	24	縄文土器 深鉢	D区IV層 胴部片				細砂	胴部に縦位の矢羽根状沈線と、文様間に三角印刻をもつ。	諸磯c式
第79図 PL.67	25	縄文土器 深鉢	D区IV層 胴部片				砂粒	胴部にLRとRLによる結束羽状縄文を施す。	諸磯式
第79図 PL.67	26	縄文土器 深鉢	67区調査区 胴部片				砂粒	胴部下半に結節浮線文で弧状の文様を描き、地文に斜位の平行沈線を施す。	諸磯c式
第79図 PL.67	27	縄文土器 深鉢	C区E-11 口縁部片				細砂	胴部に平行沈線で楕円状の文様を描き、区画内に斜格子状の沈線を施し、文様間に印刻をもつ。	五領ヶ台式
第79図 PL.67	28	縄文土器 深鉢	C区D-10 胴部片				細砂	胴部に平行沈線を巡らせて文様帯区画し、区画内に平行沈線を斜位に施す。	五領ヶ台式



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第79図 PL.67	29	縄文土器 深鉢	C区調査区 胴部片				砂粒	胴部下半にLの結節縄文を縦位に施す。	五領ヶ台式
第79図 PL.67	30	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	30～33は同一個体。胴部に刻みをもつ隆帯と脇に幅広竹管具の刺突を沿わせて横位区画し、ペン先状刺突で文様を描く。	勝坂式
第79図 PL.67	31	縄文土器 深鉢	A区14号住居 胴部片				砂粒	30～33は同一個体。胴部に刻みをもつ隆帯と脇に幅広竹管具の刺突を沿わせて横位区画する。	勝坂式
第79図 PL.67	32	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				砂粒	30～33は同一個体。胴部に刻みをもつ隆帯と脇に幅広竹管具の刺突およびペン先状刺突を沿わせてV字状等の文様を描く。	勝坂式
第79図 PL.67	33	縄文土器 深鉢	A区14号住居 胴部片				砂粒	30～33は同一個体。胴部に刻みをもつ隆帯と脇に幅広竹管具の刺突およびペン先状刺突を沿わせてV字状の文様を描く。	勝坂式
第79図 PL.67	34	縄文土器 深鉢	C区E-10 口縁部片				粗砂	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にRLの縄文を施す。	加曾利E3式
第79図 PL.67	35	縄文土器 深鉢	31号・35号住居 周辺試掘トレンチ 口縁部片				粗砂	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻や楕円等の文様を描き、区画内にRLの縄文を施す。	加曾利E3式
第79図 PL.67	36	縄文土器 深鉢	C区E-10 口縁部片				砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻等の文様を描き、区画内にRLの縄文を施す。	加曾利E3式
第79図 PL.67	37	縄文土器 深鉢	C区D-11 口縁部片				砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にRの縄文を施す。	加曾利E3式
第79図 PL.67	38	縄文土器 深鉢	C区E-10 口縁部片				粗砂	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にLRの縄文を施す。	加曾利E3式
第79図 PL.67	39	縄文土器 深鉢	旧石器トレンチ ・C-2 口縁部片				砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻や楕円等の文様を描く。	加曾利E3式
第80図 PL.67	40	縄文土器 深鉢	C区D-10 口縁部片				粗砂	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻や楕円等の文様を描く。	加曾利E3式
第80図 PL.67	41	縄文土器 深鉢	C区調査区 口縁部片				粗砂	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にLRの縄文を施す。	加曾利E3式
第80図 PL.67	42	縄文土器 深鉢	C区調査区 口縁部片				砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にRLの縄文を施す。	加曾利E3式
第80図 PL.67	43	縄文土器 深鉢	床面上18cm 口縁部片				砂粒	内反する平口縁で、口縁下に沈線を巡らせ、以下にRLの縄文を施す。	加曾利E3式
第80図 PL.67	44	縄文土器 深鉢	C区IV層 口縁部片				砂粒	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻や楕円等の文様を描き、区画内にRLの縄文を施す。	加曾利E3式
第80図 PL.67	45	縄文土器 深鉢	C区調査区 胴部片				砂粒	46と同一個体。膨らむ胴部上半に沈線と隆帯で渦巻や楕円等の文様を描く。	加曾利E3式
第80図 PL.68	46	縄文土器 深鉢	C区調査区 胴部片				砂粒	45と同一個体。膨らむ胴部上半に沈線と隆帯で渦巻や楕円等の文様を描く。	加曾利E3式
第80図 PL.68	47	縄文土器 深鉢	確認面 口縁部片				粗砂	内反する平口縁で、口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にRLの縄文を施す。	加曾利E3式
第80図 PL.68	48	縄文土器 深鉢	C区C-10 口縁部片				粗砂	内反する小波状口縁で、波頂下に沈線と隆帯で渦巻文様を描き、区画内にRLの縄文を施す。	加曾利E3式
第80図 PL.68	49	縄文土器 深鉢	C区調査区 口縁部片				砂粒、小礫	内反する小波状口縁で、波頂下に沈線と隆帯で渦巻文様を描く。	加曾利E3式
第80図 PL.68	50	縄文土器 深鉢	C区調査区 口縁部片				砂粒	内反する小波状口縁で、波頂下に沈線と隆帯で渦巻文様を描く。	加曾利E3式
第80図 PL.68	51	縄文土器 深鉢	C区E-11 口縁部片				粗砂、小礫	内反する小波状口縁で、波頂下に沈線と隆帯で渦巻文様を描く。	加曾利E3式
第80図 PL.68	52	縄文土器 深鉢	C区調査区 口縁部片				砂粒	内反する小波状口縁で、波頂下に沈線と隆帯で渦巻文様を描く。	加曾利E3式
第80図 PL.68	53	縄文土器 深鉢	C区旧石器トレンチ ・C-2 口縁部突起				粗砂	小波状口縁が突起化したもので、表面に先端が棘手状となる沈線が縦位に描かれ、側面にも沈線をもつ。	加曾利E3式
第80図 PL.68	54	縄文土器 深鉢	C区旧石器トレンチ ・C-8 口縁部片				粗砂	内反する平口縁の口縁下に沈線と刺突列で弧状の文様を描き、区画内にRLの縄文を施す。その下に沈線と刺突列を巡らせて口縁部文様帯を区画する。	加曾利E3式
第80図 PL.68	55	縄文土器 深鉢	C区調査区 口縁部片				砂粒	直立する平口縁の口縁下に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内に波状の条線を縦位に施す。隆帯上に刺突をもつ。	加曾利E3式
第80図 PL.68	56	縄文土器 深鉢	B区19号溝 口縁部片				砂粒	内反ぎみの平口縁の口縁下に円形刺突と沈線を巡らせ、以下に沈線を垂下させる。RLの縄文を縦位に施す。	加曾利E3式

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第80図 PL.68	57	縄文土器 深鉢	C区E-10・E-11 口縁部片				砂粒、小礫	大きく内反する平口縁の口縁下に沈線を巡らせ、以下の胴部上半に沈線で懸垂文を直線的に垂下させて縦区画し、区画内に沈線による蛇行懸垂文およびLRLとRLによる2本附加条縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第80図 PL.68	58	縄文土器 深鉢	B区確認面 口縁部片				砂粒	内反ぎみの平口縁の口縁下に隆線を巡らせて口縁部文様帯を区画し、以下の胴部上半に隆線と沈線で渦巻状の曲線的な文様を描き、区画にLRの縄文を充填する。	加曽利E 3式
第80図 PL.68	59	縄文土器 深鉢	C区調査区 口縁部片				粗砂	内反する平口縁で、口縁以下にRLの縄文を横位・縦位に施す。	加曽利E 3式
第80図 PL.68	60	縄文土器 深鉢	C区調査区 口縁部片				砂粒	内反する平口縁で、口縁以下にRLの縄文を施す。	加曽利E 3式
第80図 PL.68	61	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片				砂粒	内反する平口縁の口縁下に沈線を巡らせて口縁部無文帯を区画し、胴部上半に沈線で曲線的な文様を描き、RLの縄文を横位・縦位に施す。	加曽利E 4式
第80図 PL.68	62	縄文土器 深鉢	C区旧石器トレンチ・C-3 口縁部片				砂粒	内反する小波状口縁で、波頂部を頂点とした口縁下に沈線を巡らせ、以下の胴部上半に沈線で曲線的な文様を描き、RLの縄文を充填する。	加曽利E 4式
第80図 PL.68	63	縄文土器 土製品?	C区調査区 破片				砂粒	先端が尖る楕円状を呈し、周縁部がやや盛り上がる。表面にはRLの縄文を充填し、周縁部を赤彩する。長軸上に孔を有する。	加曽利E式
第80図 PL.68	64	縄文土器 深鉢	31号・35号住居 周辺試掘トレンチ 胴部片				粗砂	口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にRLの縄文を施す。以下の胴部に沈線で懸垂文を垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第80図 PL.68	65	縄文土器 深鉢	99号土坑 胴部片				砂粒	内反する口縁部の口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にRLの縄文を施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.68	66	縄文土器 深鉢	C区67-H-12 胴部片				砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にRLの縄文を施す。以下の胴部にRLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.68	67	縄文土器 深鉢	C区確認面 胴部片				砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で楕円等の文様を描き、区画内にRLの縄文を施す。以下の胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.68	68	縄文土器 深鉢	C区調査区 胴部片				砂粒、小礫	口縁部文様に沈線で楕円等の文様を描き、区画内にRLの縄文を施す。以下の胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.68	69	縄文土器 深鉢	C区調査区 胴部片				砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で文様を描き、以下の胴部に沈線と隆帯で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.68	70	縄文土器 深鉢	C区D-10 胴部片				砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で文様を描き、以下の胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.68	71	縄文土器 深鉢	31号・35号住居 周辺試掘トレンチ 胴部片				砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で文様を描き、以下の胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.68	72	縄文土器 深鉢	C区G-9 胴部片				粗砂	口縁部文様に沈線と隆帯で文様を描き、以下に沈線で逆U字状の文様と縄文を施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.68	73	縄文土器 深鉢	31号住居 胴部片				砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で渦巻等の文様を描き、渦巻文下の胴部に沈線と隆帯を垂下させ、さらに沈線と隆帯で曲線的な文様を描く。RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.68	74	縄文土器 深鉢	C区IV層 胴部片				粗砂	口縁部文様に沈線と隆帯で文様を描き、以下の胴部に沈線で懸垂文を直線的に、さらに逆U字状に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.68	75	縄文土器 深鉢	C区調査区 胴部片				砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で文様を描き、以下の胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.68	76	縄文土器 深鉢	C区IV層 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.69	77	縄文土器 深鉢	C区調査区 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、LRLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.69	78	縄文土器 深鉢	C区調査区 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.69	79	縄文土器 深鉢	C区調査区 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、RLの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第81図 PL.69	80	縄文土器 深鉢	C区67区 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.69	81	縄文土器 深鉢	旧石器トレンチ ・C-2 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.69	82	縄文土器 深鉢	99号土坑 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.69	83	縄文土器 深鉢	279号土坑 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.69	84	縄文土器 深鉢	4号溝 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.69	85	縄文土器 深鉢	C区D-11・ 確認面 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.69	86	縄文土器 深鉢	C区調査区 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第81図 PL.69	87	縄文土器 深鉢	41号住居 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	88	縄文土器 深鉢	41号住居 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	89	縄文土器 深鉢	C区E-11 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	90	縄文土器 深鉢	C区確認面 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	91	縄文土器 深鉢	C区67-H-12 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	92	縄文土器 深鉢	C区旧石器ト レンチ・C-2 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	93	縄文土器 深鉢	C区 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	94	縄文土器 深鉢	C区調査区 胴部片				粗砂	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに先端が蕨手状となる蛇行懸垂文を垂下させる。R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	95	縄文土器 深鉢	C区調査区 胴部片				粗砂	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	96	縄文土器 深鉢	C区D-11 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	97	縄文土器 深鉢	C区調査区 胴部片				砂粒	胴部に沈線と隆帯で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	98	縄文土器 深鉢	C区IV層 胴部片				砂粒	胴部に沈線と隆帯で懸垂文を直線的に垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	99	縄文土器 深鉢	C区67-H-12 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、さらに蛇行懸垂文を垂下させる。条線を縦位に施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	100	縄文土器 深鉢	C区縄文土坑群 周辺 胴部片				砂粒	胴部に沈線で懸垂文を直線的に垂下させ、条線を縦位に施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	101	縄文土器 深鉢	C区IV層 胴部片				砂粒	胴部に条線を縦位に施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	102	縄文土器 深鉢	C区調査区 胴部片				砂粒	胴部に条線を縦位に施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	103	縄文土器 深鉢	C区IV層 胴部片				砂粒	口縁部文様に沈線と隆帯で円形や楕円等の文様を描き、0段多条のR Lの縄文を施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	104	縄文土器 深鉢	11号住居 胴部片				砂粒	胴部に沈線と隆帯で上下に対向する曲線的な文様を描き、L Rの縄文を充填する。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	105	縄文土器 深鉢	C区D-9 胴部片				砂粒	胴部に沈線と隆帯で円形文および懸垂文を垂下させ、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	106	縄文土器 深鉢	C区縄文土坑群 周辺 胴部片				砂粒	胴部下半に沈線で逆U字状の文様を描き、R Lの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	107	縄文土器 深鉢	C区旧石器ト レンチ・C-3 胴部片				砂粒	胴部に沈線と隆帯で上下に対向する曲線的な文様を描き、文様内に縄文を充填する。	加曽利E 3式
第82図 PL.69	108	縄文土器 深鉢	7号住居 胴部片				粗砂	胴部に沈線と隆帯で曲線的な文様を描き、L Rの縄文を縦位に施す。	加曽利E 3式

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第82図 PL.69	109	縄文土器 深鉢	C区旧石器トレンチ・C-3 胴部片					粗砂	胴部に沈線で上下に対向する曲線的な文様を描き、文様内にR Lの縄文を縦に施す。	加曾利E 3式
第82図 PL.69	110	縄文土器 深鉢	C区確認面 胴部片					砂粒	胴部上半に沈線で大きく波状の文様を描き、L Rの縄文を縦に施す。	加曾利E 3式
第82図 PL.69	111	縄文土器 深鉢	B区IV層 口縁部片					砂粒	直線的に内傾する平口縁で、口縁下に隆帯を巡らせて口縁部無文帯を区画する。	称名寺式
第82図 PL.69	112	縄文土器 深鉢	C区試掘トレンチ 胴部片					粗砂	胴部下半に沈線で曲線的な文様を描く。	称名寺式
第82図 PL.69	113	縄文土器 深鉢	A区確認面 口縁部片					細砂	波状口縁の波底部に小突起をもち、口縁下に沈線で弧状の文様を描き、さらに沈線を巡らせて口縁部文様帯を区画する。文様内にはL Rの縄文を施す。	安行3式

第23表 弥生時代遺物観察表

24号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第84図 PL.70	1	弥生土器 壺	フク土 肩部片					砂粒、赤色粒	1・2は同一個体。肩部に太い沈線で曲線的な文様を描き、内区に刺突を充填する。地文にL Rの縄文を施す。	弥生中期前半
第84図 PL.70	2	弥生土器 壺	炉 肩部片					砂粒、赤色粒	1・2は同一個体。肩部に太い沈線で横位区画文様を描き、文様内に刺突を充填する。	弥生中期前半
第84図 PL.70	3	弥生土器 壺	炉 胴部片					細砂、赤色粒	沈線で三角形モチーフの文様を描き、区画内に刺突を充填する。地文にR Lの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第84図 PL.70	4	弥生土器 壺	フク土 肩部片					砂粒	2本平行沈線で山形文あるいは波状文を描き、下位に横線を巡らす。地文にL Rの縄文を施す。	弥生中期前半
第84図 PL.70	5	弥生土器 壺	フク土 胴部片					細砂	肩部に2本平行の太い沈線で斜位文様を描き、地文にR Lの縄文を施す。	弥生中期前半
第84図 PL.70	6	弥生土器 (筒形)	フク土 口縁部片					細砂	僅かに外反する平口縁で、口縁外縁をわずかに折返し細い沈線による4条の横線文、下位に重四角文を描く。9と同一個体か。	弥生中期前半
第84図 PL.70	7	弥生土器 甗	フク土 口縁部片					砂粒	外反する平口縁で、口唇はさらに外反。口唇部にL Rの縄文を施し、さらに刺突状の刻みをもつ。頸部は無文ナデ。	弥生中期前半
第84図 PL.70	8	弥生土器 甗	床面上3cm 胴部片					砂粒	外反する平口縁で、口縁以下の体部上半にR Lの縄文を施し、体部下半にはケズリ後浅い条痕を横位ないし斜位に施す。内面の胴下半はケズリ後数本単位の束状具による斜位の条痕を施す。胴外面が煤ける。	弥生中期前半
第84図 PL.70	9	弥生土器 筒形	フク土 胴部片					砂粒	胴部に細沈線で並列する重四角文を描く。6と同一個体か。	弥生中期前半
第84図 PL.70	10	弥生土器 壺	フク土 胴部片					砂粒	胴部に太い沈線で方形モチーフの文様を描き、地文にR Lの縄文を施す。	弥生中期前半
第84図 PL.70	11	弥生土器 (壺)	フク土 胴部片					砂粒	沈線で重畳する波状文を描き、地文にL Rの縄文を施す。	弥生中期前半
第84図 PL.70	12	弥生土器 (壺)	フク土 胴部片					砂粒	2本の沈線を巡らせて文様帯区画し、区画内にL Rの縄文を充填する。	弥生中期前半
第84図 PL.70	13	弥生土器 (壺)	フク土 胴部片					砂粒、赤色粒	胴部中位に浅く太い沈線で波状文を描き、地文にL Rの縄文を施す。胴部下半は無文。	弥生中期前半
第85図 PL.70	14	弥生土器 甗	床面上4cm 胴部片					砂粒	上位にL Rの縄文を施し、下半はケズリ。外面は二次的被熱痕。煤ける。	弥生中期前半
第84図 PL.70	15	弥生土器 甗	フク土 胴部片					砂粒、赤色粒	胴部上半にL Rの縄文を施し、下半はナデで無文。	弥生中期前半
第84図 PL.70	16	弥生土器 甗	炉 底部					砂粒	胴部下半は縦のケズリ。底面に木葉痕をもつ。	弥生中期前半
第84図 PL.70	17	剥片石器 石鏃	炉 1/2	長 幅	(2.5) (1.5)	厚 重	0.3 0.9	黒色頁岩	未製品?背面側は全面が剥離されているが、裏面側は周辺加工のみ施される。基部側を大きく破損する。	不明
第84図 PL.70	18	剥片石器 楔形石器	フク土 完形	長 幅	2.1 2.0	厚 重	0.7 3.4	黒色安山岩	表裏面とも上下両端・左右両辺に対向する剥離がある。	小形剥片

25号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85図 PL.70	1	弥生土器 壺	フク土 肩部片					砂粒	肩上部に沈線を数条巡らせて区画し、その上に沈線で弧状文様を描き、空白部に刺突を充填する。	弥生中期前半～ 中葉
第85図 PL.70	2	弥生土器 壺	フク土 肩部片					砂粒、赤色粒	2条平行沈線を巡らせて区画し、その下に沈線で波状文等を描く。	弥生中期中葉か

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第85図 PL.70	3	弥生土器 壺	フク土 肩部片				砂粒、赤色粒	肩上部に沈線を巡らせて区画し、その下に沈線で弧状文を描き、地文にLRの縄文を施す。	弥生中期中葉か	
第85図 PL.70	4	弥生土器 (筒形)	フク土 頸部片				砂粒	沈線で重四角文を描き、地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉	
第85図 PL.70	5	弥生土器 壺	床面下10cm 胴部片				砂粒	太い数条の沈線で横線文を描き、文様内に刺突を充填する。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉	
第85図 PL.70	6	弥生土器 壺	フク土 肩部片				細砂	肩部に太い数条の沈線で斜行する区画文を描く。	弥生中期前半～ 中葉	
第85図 PL.70	7	弥生土器 壺	フク土 胴部片				砂粒	細い沈線で重連弧文を描き、地文にLRの縄文を施す。	弥生中期後半 栗林式か	
第85図 PL.70	8	弥生土器 壺	フク土 胴部片				砂粒	沈線で弧線を複数条描き、地文にLRの縄文を施す。	弥生中期中葉	
第85図 PL.70	9	弥生土器 壺	フク土 胴部片				細砂	細い沈線を巡らせて文様帯区画し、上位にLRの縄文を施す。	弥生中期中葉～ 後半か	
第85図 PL.70	10	弥生土器 (壺)	フク土 口縁部片				細砂	外反する平口縁で、面取した口唇部にLRの縄文を施す。口縁下は無文で、頸部に沈線が巡る。	弥生中期前半か	
第85図 PL.70	11	弥生土器 甗	床面下1cm 口縁部片				砂粒	僅かに外反する平口縁で、口縁以下に斜位の条痕を施す。内面は横位ケズリとナデ。	弥生中期前半	
第85図 PL.70	12	弥生土器 壺	フク土 胴部片				細砂	横位の太く浅い沈線を巡らせ、以下は無文で横位ケズリ。	弥生中期前半～ 中葉	
第85図 PL.70	13	弥生土器 甗	フク土 頸部片				細砂	頸部以上を横ナデ、体部に整った刷毛目を斜位に施す。	弥生中期	
第85図 PL.70	14	弥生土器 甗	フク土 胴部片				砂粒	刷毛目を斜位に施す。内面は丁寧なナデ。	弥生中期後半か	
第85図 PL.70	15	弥生土器 甗	フク土 胴部片				細砂	胴部に斜位刷毛目を施す。	弥生中期か	
第85図 PL.70	16	剥片石器 削器	床面上6cm 完形	長 幅	3.9 12.7	厚 重	0.8 42.8	黒色頁岩	素材剥片の打面部は剥離時に弾け飛んだのであろうが、上下両端の加工は形状修正的である。左辺エッジが著しく摩耗する。下端エッジには摩耗痕が部分的にあり、微細剥離と運動して残されているように見える。	横長剥片
第85図 PL.70	17	剥片石器 打製石斧	床面下1cm 完形	長 幅	12.3 9.2	厚 重	2.4 281.5	黒色頁岩	完成状態。側縁が弱く外反するタイプの石斧で、刃部は弧状を呈する。刃部・側縁のエッジは新鮮だが、右辺エッジに摩耗痕が残る。刃部はリダクションされ、相当後退しているものとみられる。	撥形？
第85図 PL.70	18	礫石器 凹石	床直 完形	長 幅	9.1 7.8	厚 重	5.0 552.5	粗粒輝石安山岩	表裏面とも弱く摩耗する。このほか背面側を敲打した漏斗状の窪み、裏面側に集合打痕がある。	扁平楕円礫
第85図 PL.70	19	礫石器 敲石？	床面上2cm 完形	長 幅	15.1 5.5	厚 重	3.6 394.0	流紋岩凝灰岩	器体中央よりやや上端部両側縁が敲打され、ノッチ状に窪む。ノッチは左右対称の位置にあり、紐掛け等を意識したものかもしれない。	扁平棒状礫

## 39号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第86図 PL.70	1	礫石器 磨石	床面上15cm 完形	長 幅	13.2 10.7	厚 重	4.5 1011.7	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗する。上端側小口部の敲打が著しい。	扁平楕円礫

## 48号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第87図 PL.70	1	弥生土器 筒形	フク土 体部片				砂粒	1・2は同一個体。細い沈線で重四角文と思われる文様を描き、下位は複数条の沈線を巡らす。	弥生中期中葉か
第87図 PL.70	2	弥生土器 筒形	フク土 肩部片				砂粒	1・2は同一個体。複数条の沈線を横位に巡らす。	弥生中期中葉か
第87図 PL.70	3	弥生土器 (壺)	フク土 胴部片				砂粒	胴部に鋭く細い3条の沈線と刺突列が巡る。	弥生中期か
第87図 PL.70	4	弥生土器 甗	フク土 胴部片				砂粒	胴部に櫛描文を斜位に施す。	弥生中期後半

## 227号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第88図 PL.71	1	弥生土器 壺	フク土 口縁部片				細砂	外反する平口縁で、口縁下に4条の沈線を巡らせ、下位に区画文を配する。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第88図 PL.71	2	弥生土器 壺	フク土 肩部片				砂粒、赤色粒	2～4は同一個体。肩部に沈線で波状ないし弧状の文様を描き、区画内にRLの縄文を充填する。	弥生中期前半

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第88図 PL.71	3	弥生土器 壺	フク土 肩部片					砂粒、赤色粒	2～4は同一個体。肩部に沈線で弧状の文様を描き、区画内にRLの縄文を充填する。	弥生中期前半
第88図 PL.71	4	弥生土器 壺	フク土 肩部片					砂粒、赤色粒	2～4は同一個体。沈線区画内の区画内にRLの縄文を充填する。	弥生中期前半
第88図 PL.71	5	弥生土器 (筒形)	フク土 体部片					砂粒	頸部に数条の沈線で斜位区画文を描き、体部に重四角文を描く。また、文様の隙間には小さな刺突を充填する。	弥生中期前半～ 中葉
第88図 PL.71	6	弥生土器 壺	フク土 頸部片					砂粒	頸部に数条の横位沈線を巡らせる。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第88図 PL.71	7	弥生土器 壺	フク土 頸部片					細砂	頸部に3条の太い沈線を巡らせる。地文にRLの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第88図 PL.71	8	弥生土器 壺	フク土 胴部片					砂粒、粗砂	太く浅い沈線で重四角文を描く。	弥生中期前半
第88図 PL.71	9	弥生土器 壺	フク土 胴部片					砂粒	沈線で重四角文を描き、下位に2条の押しき状沈線を巡らせる。更にその下に横位沈線を巡らす。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第88図 PL.71	10	弥生土器 壺	フク土 体部片					細砂	沈線で重四角文を並列させ、中間に縦位の刺突列点を垂下する。地文にRLの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第88図 PL.71	11	弥生土器 (壺)	フク土 胴部片					細砂	沈線で波状ないし弧状の文様を描き、山形文と下位の横線文の間をLRの縄文で充填する。	弥生中期中葉
第88図 PL.71	12	弥生土器 壺(ミニ チュア)	フク土 体部片					砂粒	上位に数条の沈線を巡らせ、その下に2条の沈線による連弧文を施し、さらに管状具による列点状刺突を横位に加える。	弥生中期前半～ 中葉
第88図 PL.71	13	弥生土器 壺	フク土 胴部片					砂粒	沈線で横位帯状文を描き、区画内にLRの縄文を充填する。	弥生中期
第88図 PL.71	14	弥生土器 (甕)	フク土 胴部片					砂粒	沈線で横長の重四角文を描き、その下位に3条の横位沈線を巡らせて文様帯を区画する。以下の胴部はナデ。	弥生中期前半～ 中葉
第88図 PL.71	15	弥生土器 甕	底面上44cm 口縁～胴部下半					細砂	外反する平口縁で、頸部から肩部にかけて細い縄文(R)を施すが、その上を横ナデ。胴部下半はヘラ状工具による縦位方向のミガキ。口縁部内面にも、細い縄文を施す。内面はケズリとナデ。胴中位外面が煤ける。胴内面中位以下におこげの痕跡。	弥生中期前半
第88図 PL.71	16	弥生土器 甕	フク土 口縁部片					砂粒	外反する平口縁で、口唇部にRLの縄文を施す。口縁下は無文で、頸部下に斜位の条痕を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第88図 PL.71	17	弥生土器 甕	フク土 口縁部片					砂粒、雲母	外反する平口縁で、口縁下に沈線で山形文、下位に2条の沈線を巡らせて区画する。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期中葉
第88図 PL.71	18	弥生土器 甕	フク土 口縁部片					砂粒	外反する平口縁で、頸部に細かな櫛状工具による横位波状文と垂下直線文を施す。	弥生中期中葉 栗林式古段階か
第88図 PL.71	19	弥生土器 甕	フク土 口縁部片					砂粒	外反する平口縁で、口唇部にLRの縄文と刻みを施し、頸部は無文。	弥生中期前半～ 中葉
第88図 PL.71	20	弥生土器 壺	フク土 口縁部片					砂粒	外反する平口縁で、口唇部に板小口状工具による縦位刺突を施し、頸部は縦位刷毛目を残す。口縁部裏面にも同様の縦位刺突列を2段巡らせる。	弥生中期中葉 小松式
第88図 PL.71	21	弥生土器 壺	フク土 胴部片					細砂	沈線で方形文と垂下文を描き、下位を1条の沈線で区画する。	弥生中期後半
第88図 PL.71	22	弥生土器 (壺)	フク土 胴部片					砂粒	3条の沈線で斜行する文様を描き、地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第88図 PL.71	23	弥生土器 (甕)	フク土 胴部片					砂粒	板小口によると思われる斜位の列点文を巡らせ、下位に櫛状斜行文を施す。	弥生中期中葉か 後半
第88図 PL.71	24	弥生土器 壺	フク土 胴部片					砂粒	円形に近い刺突を充填し、地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第88図 PL.71	25	弥生土器 甕	フク土 底部片					細砂	平織の布目痕を残す。	弥生中期
第88図 PL.71	26	弥生土器 壺	フク土 底部片					細砂、赤色粒	底面に細かい布圧痕。	弥生中期
第88図 PL.71	27	剥片石器 石鏃	フク土 4/5	長 幅	(1.8) 1.4	厚 重	0.5 0.9	黒色頁岩	完成状態？先端・基部を破損する。部分的に階段状剥離となっているが、剥離は概して丁寧である。	凸基有茎鏃
第88図 PL.71	28	剥片石器 石鏃	底直 3/4	長 幅	(15.7) (13.0)	厚 重	3.7 682.7	細粒輝石安山岩	未製品？細身の着柄部に大きく側縁が外反した身部が付く。側縁のエッジは比較的シャープだが、エッジが潰され完成度は高い。刃部側は大きく破損しており、これが製作途上の破損か刃部再生時の破損か、判断は難しい。	
第88図 PL.71	29	剥片石器 打製石斧	フク土 頭部破片	長 幅	(4.2) (6.5)	厚 重	(2.4) 64.2	細粒輝石安山岩	完成状態？頭部破片であり、詳細は不明。素見のエッジは若干摩耗しているように見える。	

## 233号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第89図 PL.71	1	弥生土器 壺	フク土 頸部片				砂粒、赤色粒	頸部に沈線で縦長形状の文様を描き、区画内にL Rの縄文を縦位に施す。頸部下には沈線を巡らせて横帯区画し、その内にL Rの縄文を充填する。	弥生中期中葉～後半	
第89図 PL.71	2	礫石器 凹石	フク土 完形	長 幅	11.5 6.4	厚 重	3.7 425.9	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗、礫面の集合打痕は摩耗が著しく、痕跡が残る程度。	扁平楕円礫

## 257号土坑

第89図 PL.71	1	弥生土器 壺	フク土 胴部片					砂粒	胴部に沈線と刺突列を巡らせ、その下にL Rの縄文を施し、以下の胴下半は無文。	弥生中期
第89図 PL.71	2	弥生土器 (壺)	フク土 胴部片					砂粒、赤色粒	器面摩滅。胴部に沈線を巡らせ、縄文が施される。	弥生中期

## 437号土坑

第89図 PL.71	1	弥生土器 甗	フク土 胴部片					細砂	胴部に細かく整った刷毛目を縦位に施す。内面は丁寧なナデ。	弥生中期中後半～後期
---------------	---	-----------	------------	--	--	--	--	----	------------------------------	------------

## 441号土坑

第89図 PL.71	1	弥生土器 甗	フク土 胴部片					砂粒	胴部に刷毛目を縦位に施す。	弥生中期中後半～後期
---------------	---	-----------	------------	--	--	--	--	----	---------------	------------

## 495号土坑

第89図 PL.71	1	弥生土器 壺	フク土 胴部片					砂粒	太沈線による重弧文と横線を描き、文様内を刺突で充填する。	弥生中期前半
---------------	---	-----------	------------	--	--	--	--	----	------------------------------	--------

## 498号土坑

第89図 PL.71	1	弥生土器 不明	フク土 胴部片					細粒	胴部にL Rの縄文を施す。	弥生中期
第89図 PL.71	2	弥生土器 甗か壺	底面上6cm 底部片					砂粒、赤色粒	胴部下半が無文の底部で、底面に網代痕を有する。	弥生中期

## 509号土坑

第89図 PL.71	1	弥生土器 筒形	底面上10cm 口縁～肩部					細砂	僅かに外反する平口縁で、口縁下に沈線を2条巡らせ、以下に細い3条沈線による縦スリット文、2段の横長方形文、重四角文を配す。方形文内には波状文を描く。	弥生中期中葉
---------------	---	------------	------------------	--	--	--	--	----	--	--------

## 遺構外出土の弥生土器

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第90図 PL.71	1	弥生土器 (壺)	C区南IV層土 口縁部片					細砂	外反する平口縁で、口唇および口縁下にLの縄文を横位に施す。頸部に数条の沈線で重四角文を描き、区画内に沈線で文様を描く。内面ナデ。	弥生中期前半
第90図 PL.71	2	弥生土器 壺	D区67-O-9 口縁部片					砂粒	口縁部が直立する平口縁で、口縁下に2条の沈線で山形文を巡らせる。頸部は括れ、上位に単沈線で山形文を巡らせ、その下に2条の沈線を巡らせて文様帯区画し、下位に沈線で重四角文を描く。地文にR Lの縄文を施す。	弥生中期前半～中葉
第90図 PL.71	3	弥生土器 壺	C区・67区調査区 口縁部片					細砂	口縁部が直立ぎみとなる平口縁で、口唇および口縁以下の地文にL Rの縄文を施す。頸部は括れ、横位沈線を巡らせて区画し、区画内に山形文を巡らせる。	弥生中期中葉か
第90図 PL.71	4	弥生土器 壺	23号住居 口縁部片					細砂	外反ぎみの平口縁で、口縁下に沈線で鋸歯文を巡らせ、その下に低い隆帯を巡らせて文様帯区画する。頸部には沈線が巡る。地文にR Lの縄文を施す。	弥生中期中葉か
第90図 PL.71	5	弥生土器 壺	C区南東ローム 面・確認面 口縁部片					細砂	外反する平口縁で、口端部は肥厚する。口縁外面にL Rの縄文帯を巡らせ、頸部は縦ミガキで、胴部にL Rの縄文を施す。	弥生中期中後半
第90図 PL.71	6	弥生土器 壺	23号住居 口縁部片					細砂	外反する平口縁で、口端部は肥厚する。口縁外面にL Rの縄文帯を巡らせ、頸部上端はナデ。	弥生中期中後半
第90図 PL.71	7	弥生土器 壺	C区67区調査区 肩部片					砂粒	頸部下に数条の沈線を巡らせ、肩部に横沈線を充填した方形文様を描く。単位文様間にはL Rの縄文を充填する。	弥生中期前半
第90図 PL.72	8	弥生土器 (壺か鉢)	C区南IV層 体部片					細砂	上位に沈線で波状文を巡らせ、その下に方形の文様を描く。下位には沈線を巡らせて文様帯を区画する。文様間にはL Rの縄文を充填する。外面に煤付着。	弥生中期前半
第90図 PL.72	9	弥生土器 壺	32号住居 肩部片					細砂	頸部から肩部にかけて沈線で方形の文様を垂下し、文様内にL Rの縄文を充填する。肩部に沈線を巡らせて文様帯区画し、胴部に沈線で菱形文様を描き、文様間にL Rの縄文を充填する。	弥生中期前半～中葉
第90図 PL.72	10	弥生土器 壺	5号溝 胴部片					細砂	肩部に沈線で方形の文様を垂下し、文様間にL Rの縄文を充填する。	弥生中期前半～中葉
第90図 PL.72	11	弥生土器 壺	C区67区調査区 胴部片					細砂	沈線垂下と下位に複数条の横線を巡らす。	弥生中期前半～中葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第90図 PL.72	12	弥生土器 壺	D区67-O-9 体部片				細砂	櫛状具による垂下文と四角文を描く。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	13	弥生土器 壺	5号溝 胴部片				砂粒	数条の沈線で重四角文を描き、区画内に沈線で波状の文様を横位に描く。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	14	弥生土器 壺	C区67区調査区 胴部片				細砂	沈線で方形の文様を描き、区画内に沈線で波状文を横位に描く。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	15	弥生土器 壺	C区旧石器トレ ンチ・I-9 胴部片				細砂	5条の沈線で重三角文を描き、区画内に数条の沈線で波状文を充填する。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	16	弥生土器 壺	D区IV層 胴部片				細砂、白色粒	肩部に数条の沈線で三角形モチーフの文様を描き、区画内に数条の沈線を斜位に描く。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	17	弥生土器 壺	C区南部 頸部片				砂粒	頸部下半に沈線を横位に巡らせ、沈線間に3段の刺突列点を巡らす。地文にLRの縄文を施す。列点文は簾状文(時計回り)と同一手法。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	18	弥生土器 壺	23号住居 肩部片				細砂	20と同一個体。頸部下端に数条の沈線を巡らせ、肩部に沈線で三角文を描き、区画内に刺突を充填する。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	19	弥生土器 壺	C区東ローム面 頸部片				細砂、赤色粒	頸部下半に数条の沈線で三角文を描き、区画内に丸棒状工具で斜位に刺突を充填し、下端に沈線を巡らせる。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	20	弥生土器 壺	23号住居 肩部片				細砂	18と同一個体。頸部下半に沈線で三角文を描き、区画内に刺突を充填し、下端に数条の沈線を巡らせる。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	21	弥生土器 壺	5号溝 肩部片				細砂、赤色粒	数条の沈線で三角形モチーフの文様を描き、区画内に刺突を充填する。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	22	弥生土器 壺	23号住居 頸部片				細砂	沈線で重三角文を描き、区画内に刺突を充填する。地文にLRの縄文を施す。上位は方形文か。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	23	弥生土器 壺	C区南東ローム 面・確認面 胴部片				細砂	複数沈線で三角形モチーフの文様を描き、区画内に刺突を充填する。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	24	弥生土器 壺	26号住居 胴部片				細砂、赤色粒	沈線で菱形の文様を描き、区画内に刺突を充填する。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	25	弥生土器 壺	23号住居 胴部片				砂粒	沈線で三角形モチーフの文様を描き、区画内に刺突を充填する。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	26	弥生土器 壺	27号住居周辺 胴部片				細砂	沈線で方形文を描き、区画内に沈線で波状文と刺突を充填する。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	27	弥生土器 壺	C区67区調査区 胴部片				細砂、小礫	沈線で楕円文を描き、区画内に刺突を充填する。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	28	弥生土器 壺	26号住居 胴部片				細砂、赤色粒	沈線で三角形モチーフの文様を描き、区画内に刺突を充填する。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	29	弥生土器 壺	23号住居 胴部片				細砂	沈線で三角形モチーフの文様を描き、区画内に刺突を充填する。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	30	弥生土器 壺	C区67区調査区 胴部片				砂粒	上位に刺突を充填し、その下に複数条の沈線を横位に巡らす。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	31	弥生土器 壺	C区旧石器トレ ンチ・G-7 頸部片				砂粒	沈線で方形文を描き、区画内に2条沈線で波状文を描く。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	32	弥生土器 壺	C区旧石器トレ ンチ・I-8 胴部片				細砂、赤色粒	4条の沈線による横線を巡らせて、上下に波状文を描く。施文具は2本一組。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	33	弥生土器 壺	C区IV層 胴部片				細砂	3条の沈線で波状文と横線文を描く。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	34	弥生土器 壺	23号住居 胴部片				細砂	複数条の沈線で横線文と波状文を巡らし、地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	35	弥生土器 壺	23号住居 胴部片				細砂	複数条の沈線で横線文と波状文を巡らし、地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	36	弥生土器 壺	4号溝 胴部片				細砂	37と同一個体。肩部に複数条の沈線を巡らせて文様帯区画し、上位に波状文を描く。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	37	弥生土器 壺	4号溝 胴部片				細砂	36と同一個体。3条の沈線を巡らせて文様帯区画し、上下に波状文を描く。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	38	弥生土器 壺	C区67区調査区 胴部片				細砂	2条の沈線を巡らせて区画し、上位に沈線で波状文を描く。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第90図 PL.72	39	弥生土器 壺	23号住居 胴部片				細砂	2条の沈線で波状文を描く。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	40	弥生土器 壺	C区確認面 胴部片				細砂、赤色粒	2条の沈線を巡らせて区画し、上下に沈線で波状文を描く。地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	41	弥生土器 壺	C区南東ローム 面・確認面 胴部片				細砂、赤色粒	複数条沈線で波状ないし弧状の文様を描き、地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	42	弥生土器 壺	C区67区調査区 胴部片				細砂	沈線で曲線的な文様を描き、地文にLRの縄文を施す。胴部下半は無文。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	43	弥生土器 壺	C区旧石器トレン チ・C-3 胴部片				砂粒	沈線で「フラスコ」形の文様と縦線文を描く。区画内にRLの縄文を充填する。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	44	弥生土器 壺	C区南東ローム 面・確認面 胴部片				細砂	沈線による帯状文を巡らし、区画内にLの縄文を充填する。	弥生中期前半～ 中葉
第90図 PL.72	45	弥生土器 壺	C区G-10 胴部片				細砂	沈線で楕円文を横位に描き、地文にRLの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第91図 PL.72	46	弥生土器 壺	32号住居 胴部片				砂粒	沈線で円形状の曲線的な文様を描き、地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第91図 PL.72	47	弥生土器 壺	D区IV層 胴部片				細砂	沈線で波状文を描き、地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第91図 PL.72	48	弥生土器 (甕)	A区調査区 胴部片				砂粒	2条の沈線を巡らせて文様帯区画し、地文にLRの縄文を施す。胴部下半は無文。内面は丁寧なナデ。	弥生中期前半～ 中葉
第91図 PL.72	49	弥生土器 壺	C区67区調査区 胴部片				細砂	数条の沈線を巡らせて文様帯区画し、地文にLRの縄文を施す。	弥生中期前半～ 中葉
第91図 PL.72	50	弥生土器 (甕)	C区67区調査区 胴部片				砂粒	3条の沈線を巡らせて文様帯区画し、胴部下半は無文。上位に縦スリットと波状文を描く。外面燻ける。	弥生中期後半
第91図 PL.72	51	弥生土器 壺	23号住居 胴部片				細砂、赤色粒	51～53は同一個体。縄文LRを地文とし、非常に浅い沈線状のナデで波状文、横線文を施す。そのため文様部分の縄文が磨消される。横位に長さ10mmほどの板状具小口面で刺突列を巡らす。	弥生中期
第91図 PL.72	52	弥生土器 壺	23号住居 肩部片				細砂、赤色粒	51～53は同一個体。縄文LRを地文とし、非常に浅い沈線状のナデで波状文、横線文を施す。そのため文様部分の縄文が磨消される。横位に長さ10mmほどの板状具小口面で刺突列を巡らす。	弥生中期
第91図 PL.72	53	弥生土器 壺	23号住居 肩部片				細砂、赤色粒	51～53は同一個体。縄文LRを地文とし、非常に浅い沈線状のナデで波状文、横線文を施す。そのため文様部分の縄文が磨消される。横位に長さ10mmほどの板状具小口面で刺突列を巡らす。	弥生中期
第91図 PL.72	54	弥生土器 甕	23号住居 胴部片				細砂	板小口による横位列点文を巡らし、下位に櫛描斜行文。	弥生中期中葉 栗林式か
第91図 PL.72	55	弥生土器 (筒形)	C区調査区 口縁部片				細砂	僅かに外反する平口縁で、口縁下に2条の沈線を巡らし、下位に数条の沈線で重四角文を描く。	弥生中期中葉
第91図 PL.72	56	弥生土器 甕か壺	23号住居 口縁部片				細砂	強く外反する平口縁で、口唇に角棒状具による刻みを施し、内外面とも横ナデ。	弥生中期中葉か
第91図 PL.72	57	弥生土器 甕	C区確認面 口縁部片				砂粒	外反する平口縁で、口唇にRの縄文を施す。口縁部は横ナデで、頸部以下は粗い櫛描斜行文。	弥生中期中葉か
第91図 PL.72	58	弥生土器 (甕)	23号住居 口縁部片				細砂	外反する平口縁で、口唇に縄文を施し、口縁下に3条の細沈線で山形文を描く。	弥生中期中葉か
第91図 PL.72	59	弥生土器 (壺)	C区67区 口縁部片				細砂	外反する平口縁で、口唇にLRの縄文を施し、外面はミガキ。	弥生中期中葉か
第91図 PL.72	60	弥生土器 (甕)	旧石器トレンチ ・C-7 口縁部片				細砂	外反する平口縁で、口唇にLRの縄文を施す。	弥生中期
第91図 PL.72	61	弥生土器 壺	C区67区調査区 口縁部片				細砂	外反する平口縁で、口唇にLRの縄文を施す。外面は縦ナデかミガキ。	弥生中期中葉か
第91図 PL.72	62	弥生土器 (鉢)	C区67区調査区 口縁部片				細砂	内反ぎみの平口縁で、口縁外面にLRの縄文を施し、体部に沈線で方形の文様を描く。	弥生中期前半～ 中葉
第91図 PL.72	63	弥生土器 鉢	C区67区調査区 口縁部片				砂粒	外反ぎみの平口縁で、口縁以下にLRの縄文？を施す。	弥生？
第91図 PL.72	64	弥生土器 甕か筒形	C区67区調査区 体部片				砂粒	細い沈線で重四角文を描き、地文にRLの縄文を施す。内面は粗いナデ。	弥生中期前半～ 中葉
第91図 PL.72	65	弥生土器 甕	C区南東ローム 面・確認面 体部片				砂粒、赤色粒	数条の沈線を巡らせてLRの縄文を地文とする。下位は無文帯を挟んで横線。	弥生中期前半～ 中葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第91図 PL.72	66	弥生土器 (壺)	C区確認面 底部片				細砂	胴部下半は無文でナデ。底面に布目痕(平織)をもつ。	弥生中期
第91図 PL.72	67	弥生土器 壺か甕	C区67区 底部片				細砂	底面に網代痕をもつ。	弥生中期
第91図 PL.72	68	弥生土器 (壺)	C区67区調査区 底部～胴部片				細砂、赤色粒	胴部下半は無文でケズリ後ナデ。底面に網代痕をもつ。内面剥離。	弥生中期
第91図 PL.72	69	弥生土器 (壺)	C区南東ローム 面・確認面 底部片				細砂、赤色粒	胴部下半は無文でナデ。底面に木葉痕をもつ。	弥生中期
第91図 PL.72	70	弥生土器 (壺)	D区IV層 底部片				細砂	胴部下半は無文でケズリ。底面に木葉痕をもつ。	弥生中期
第91図 PL.72	71	弥生土器 (甕)	C区67区調査区 底部片				細砂	胴部下半は無文でミガキ。外面に煤付着。	弥生中期

遺構外出土の縄文・弥生時代の石器

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第92図 PL.73	1	剥片石器 石鏃	一括 4/5	長 幅	(2.7) (2.3)	厚 重	0.6 2.9	黒色安山岩	未製品。概して剥離は粗く、形状も整わない。裏面側基部は未加工。石鏃基部の剥離が厚すぎ、石器製作を放棄したもののだろう。	凹基無茎鏃
第92図 PL.73	2	剥片石器 石鏃	調査区一括 略完形	長 幅	2.9 2.1	厚 重	0.5 1.8	黒色安山岩	完成状態？全面が丁寧な押圧剥離に覆われ、完成度は高い。裏面側先端の器軸に並行する剥離が施されているが、エッジには微細剥離が施され、衝撃剥離痕とは言い難い。	凹基無茎鏃
第92図 PL.73	3	剥片石器 石鏃	IV層一括 4/5	長 幅	(2.0) 1.4	厚 重	0.4 1.1	黒色頁岩	未製品。幅広剥片を用い、表裏面とも加工は周辺加工に止まる。先端・返し部を破損する。	凹基無茎鏃
第92図 PL.73	4	剥片石器 楔形石器	調査区67区一括 完形	長 幅	2.7 3.1	厚 重	0.5 5.6	黒色頁岩	表裏面とも器軸に平行する対向剥離痕があるほか、右辺に微細剥離痕がある。	幅広剥片
第92図 PL.73	5	剥片石器 打製石斧	17号住居 完形	長 幅	15.9 10.3	厚 重	3.0 436.2	細粒輝石安山岩	完成状態。細身の着柄部に幅広の身は付く。刃部に近い左右両側縁に刃部摩耗がある。	石鏃様？
第92図 PL.73	6	剥片石器 打製石斧	旧石器トレンチ 67-H-12北 完形	長 幅	10.0 4.7	厚 重	1.6 71.1	黒色頁岩	完成状態。刃部摩耗が著しい。着柄部は刃部側に大きく偏り、再生により刃部が大きく後退していることが分かる。	短冊形
第92図 PL.73	7	剥片石器 打製石斧	旧石器トレンチ G-12 2/3	長 幅	(9.4) 5.3	厚 重	1.9 91.3	ホルンフェルス	完成状態。刃部摩耗するほか、弱い捲縛痕が見られる。器体の上半部を欠損する。	短冊形
第92図 PL.73	8	剥片石器 打製石斧	旧石器トレンチ 67-H-12 完形	長 幅	11.6 5.8	厚 重	1.7 102.6	黒色頁岩	完成状態？刃部摩耗は不明だが、側縁のエッジは弱く摩耗するように見える。やや幅広で、刃部は直刃様。	短冊形
第92図 PL.73	9	剥片石器 打製石斧	旧石器トレンチ E-9 略完形	長 幅	(10.5) 4.7	厚 重	1.3 81.2	黒色頁岩	完成状態。刃部摩耗が著しく、刃部再生も明らかである。器体頭部を破損する。	短冊形
第92図 PL.73	10	剥片石器 打製石斧	旧石器トレンチ G-8南トレ 完形	長 幅	9.7 3.8	厚 重	1.5 71.7	黒色頁岩	完成状態。刃部摩耗が著しいほか、弱く捲縛痕が残る。	短冊形
第92図 PL.73	11	剥片石器 打製石斧	旧石器トレンチ E-10 完形	長 幅	10.8 4.5	厚 重	1.2 64.3	黒色頁岩	完成状態。刃部は弱く摩耗する。器体の形状は細身で、体部は弱く開く。	短冊形
第92図 PL.73	12	剥片石器 打製石斧	南側IV層土 完形	長 幅	12.9 6.8	厚 重	2.0 201.8	黒色頁岩	完成状態。刃部摩耗あり。捲縛痕は不明瞭。やや幅広で、両側縁は直線的である。	短冊形
第92図 PL.73	13	剥片石器 打製石斧	19号竪穴状遺構 完形	長 幅	11.6 10.3	厚 重	3.5 381.5	黒色頁岩	未製品。幅広剥片を用い、両側縁主体の加工を行う。器体下半部を欠損した段階で、製作を放棄したもののだろう。	分銅形
第92図 PL.73	14	剥片石器 打製石斧	南側IV層 完形	長 幅	12.0 5.7	厚 重	1.9 152.6	黒色頁岩	完成状態。刃部摩耗が著しく、側縁のエッジは良く潰れている。上半部を挟み込んで着柄部としているが、細い石器基部に幅広の身が付くタイプの石斧。	短冊形
第92図 PL.73	15	剥片石器 打製石 斧？	旧石器トレンチ E-9 完形	長 幅	14.1 6.3	厚 重	1.9 181.1	細粒輝石安山岩	右辺側をノッチ状に加工、左辺側を微細剥離する。左辺側剥離は直線的で、部分的に摩耗しており、石斧とするより削器とすべきだろうか。	不明
第92図 PL.73	16	剥片石器 磨製石斧	表採 2/3	長 幅	(17.9) (4.8)	厚 重	(2.8) 380.8	変玄武岩	右辺側破損部の剥離面には敲打痕が残り、破損後に石斧の再生を試みている。	乳棒状
第92図 PL.73	17	礫石器 凹石	56-B-19拡張部 完形	長 幅	14.1 9.5	厚 重	4.3 944.4	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗する。背面側に集合打痕が集中するほか、右側縁の敲打・摩耗が著しい。	扁平楕円礫
第92図 PL.73	18	礫石器 凹石	286号土坑 完形	長 幅	11.1 9.5	厚 重	7.8 909.8	粗粒輝石安山岩	背面側中央付近に漏斗状の孔を浅く穿つ。石材が粗く、礫面の摩耗については不明瞭。	楕円礫

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長 幅	厚 重	(g)				
第92図 PL.73	19	礫石器 磨石	調査区旧石器ト レンチ 完形	長 幅	7.2 5.3	厚 重	3.3 189.2	粗粒輝石安山岩	全面摩耗する。製粉具としての磨石とするにはやや小形で、サイズの的には石製研磨具とすべきかもしれない。	扁平楕円礫
第92図 PL.73	20	礫石器 磨石	6号溝 完形	長 幅	11.5 8.8	厚 重	4.0 636.9	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗するほか、小口部両端に敲打痕がある。右側縁には敲打・摩耗面が形成されている。	扁平楕円礫
第92図 PL.73	21	礫石器 敲石	確認面 1/2	長 幅	(8.0) 4.3	厚 重	(3.3) 192.2	粗粒輝石安山岩	上端側小口部に著しい敲打痕が残る。裏面側は平坦な分割面だが、稜が摩耗しており、分割した状態で使われたのであろう。器体下半部を欠損する。	棒状礫
第92図 PL.73	22	礫石器 敲石	旧石器トレンチ 67-H-12北 4/5	長 幅	(18.9) 6.2	厚 重	2.6 462.0	雲母石英片岩	両側縁が敲打され、これに伴う衝撃剝離痕がある。下半部を欠損する。	扁平棒状礫
第93図 PL.74	23	礫石器 敲石	13号竪穴状遺構 1/3	長 幅	(6.5) (11.6)	厚 重	(5.0) 388.2	粗粒輝石安山岩	上端側小口部に敲打され、これに伴う大きな衝撃剝離痕が生じている。器体下半部を欠損する。	扁平楕円礫
第93図 PL.73	24	礫石器 台石?	調査区67区一括 完形	長 幅	17.6 13.6	厚 重	3.2 1257.0	変質玄武岩	右辺エッジに剝離痕があるのみ。敲打痕等その他の使用痕は不明瞭だが、礫形状からみて台石と捉えた。	扁平楕円礫
第93図 PL.74	25	礫石器 石皿	旧石器トレンチ D-11 破片	長 幅	(6.7) (10.3)	厚 重	(3.2) 327.9	粗粒輝石安山岩	石皿の右肩部破片。機能部は浅く窪む。	有縁
第93図 PL.74	26	礫石器 多孔石	286号土坑 完形	長 幅	30.3 17.4	厚 重	16.5 10790.0	粗粒輝石安山岩	表裏面・両側面とも径1.5cm前後の漏斗状の孔を穿つ。上面側(孔3)以外は、それぞれ孔1が穿たれるのみである。	楕円礫
第93図 PL.74	27	礫石器 多孔石	IV層 破片	長 幅	(21.6) (16.8)	厚 重	(9.4) 3311.8	粗粒輝石安山岩	背面側平坦面に漏斗状の孔2(径2cm強)を穿つ。弱く煤けており、被熱破損したのだろう。	盤状礫 (河床礫)
第93図 PL.74	28	礫石器 石棒	286号土坑 上半部破片	長 幅	(24.2) (13.0)	厚 重	(11.6) 4128.4	粗粒輝石安山岩	頭部は正面観を重視した作り、裏面側の括れ部は不明瞭。体部は全面に敲打痕が残る。下端部を破損する。	有頭

第24表 古墳時代遺物観察表  
1号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	高	(g)				
第96図 PL.74	1	土師器 高坏	床直 坏部・裾部一部 欠	口	17.0			粗砂粒/良好/橙	坏部は外面に斜位のハケ目後、口縁部先端に横ナデ。下位に横位のヘラ削り。受け部にもヘラ削り。内面はハケ目の上にヘラ削り、ヘラ磨きを重ねる。脚部外面は3回に分けてヘラ削り。内面は粘土紐の輪積み痕を残す。裾部は横ナデ。	脚部外面摩滅。 裾部欠損後も補修使用か。
第96図 PL.74	2	土師器 鉢	掘方 1/2	口 底	11.4 4.6	高	7.1	粗砂粒多・黒色 鈹物粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部は丁寧なナデ。底部はナデ。内面もナデ。	
第96図 PL.74	3	土師器 埴	フク土 口縁部～胴部 1/3	口	11.0			粗砂粒・黒色鈹 物粒/良好/にぶ い橙	口縁部上位は横ナデ、中位以下はヘラナデ。胴部上位もヘラナデ、中位は斜位の弱いヘラ削り。内面は口縁部に横位のヘラナデ。頸部直下と胴部中位にヘラ削り、胴部上位はヘラナデ。	
第96図 PL.74	4	土師器 埴	床直 口縁部1/3	口	11.7			粗砂粒/良好/橙	口縁部は中位に弱い段を有する。上半部は横ナデ。下半部は斜縦位のヘラナデ。内面は全て横ナデ。	外面一部に炭素 吸着。
第96図	5	土師器 埴	床直 口縁部1/4	口	12.0			粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は中位に弱い段を有する。上半部は横ナデ。下半部上位は横ナデ。下位は斜横位のヘラナデ。	
第96図 PL.74	6	土師器 埴か	床直 口縁部～胴部上 位1/3	口	11.0			粗砂粒/良好/暗 赤褐	器形歪んでいる。口縁部は横ナデ。頸部から胴部は縦位のヘラナデ。胴部上位は横位のヘラ削り。内面は頸部に横位のヘラ削り、以下には横位のヘラナデ。	炭素吸着。
第96図 PL.74	7	土師器 甕	床面上3cm 口縁部～胴部 1/3	口	27.4			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は斜横位のヘラ磨き。一部に縦位のヘラナデの部分も見られる。内面は横位のヘラナデ。	
第96図 PL.74	8	石製品	床直 完形	長 幅	10.8 3.6	厚 重	0.7 40.4	頁岩	薄く短冊状を呈し、両側縁ともやや外側に側縁が開く。径4mmの孔は片側穿孔され、孔の周辺には整形時の粗い線条痕が残る。表裏面とも研ぎ減り光沢が著しく、背面側には斜向する深い線条痕がある。左辺中央より下端側と、右辺中央付近は打撃され、本来の形状が変形する。緻密質で、やや硬質石材を用いている。提砥石か。	
第96図 PL.74	9	石製品	床面上2cm 完形	長 幅	2.5 2.5	厚 重	0.4 4.4	滑石質蛇紋岩	表裏面とも整形時の粗い線条痕が残る。側面の面取り整形痕が著しい。孔2(径1mm強)を片側穿孔する。板状石片剥離→側面整形→穿孔の順に加工。	有孔円盤

遺物観察表

22号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	重				
第98図 PL.74	1	土師器 坏	床直 完形	口	11.2	高	3.8	粗砂粒/良好/橙	成形が粗雑。口縁部は横ナデ。底部はナデに近い手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	底部外面に炭素吸着。
第98図 PL.74	2	土師器 坏	フク土 1/3	口	11.2	高	3.1	粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	底部外面に炭素吸着。
第98図	3	土師器 坏か	フク土 破片	口	18.8			細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第98図 PL.74	4	須恵器 坏	床面上2cm 完形	口	9.6	高	3.2	粗砂粒/還元焰/ 灰黄	器形はやや歪んでいる。ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、手持ちヘラ削り。	器面やや摩滅。
第98図	5	須恵器 坏	フク土 口縁部片	口	13.8			黒色鋳物粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。	
第98図	6	須恵器 碗	フク土 底部片	底	8.0	台	8.2	粗砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。周縁部にナデ調整。	内面摩耗。
第98図 PL.74	7	土師器 甗	床直 口縁部～胴部上 位片	口	18.6			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第98図	8	土師器 甗	床直 口縁部～胴部上 位片	口	20.8			粗砂粒多/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。小破片からの器形復元の為変更要素有り。
第98図	9	土師器 甗	フク土 口縁部～胴部上 位片	口	18.8			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は斜横位のヘラナデ。	
第98図 PL.74	10	礫石器 敲石	フク土 完形	長 幅	14.1 6.0	厚 重	4.7 548.0	変質安山岩	断面三角形状を呈する礫の片側を分割、平坦な分割面から体部側面を意図的に剥離する。スタンプ形石器に類似しているが、分割面の摩耗がなく、また、側面加工が意図的であることが特徴的である。	棒状礫

古墳時代遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長 径	重	厚				
第100図 PL.74	1	石製品 管玉	13号住居 完形	長 径	1.0 0.3	重	0.1	珪質頁岩	非常に丁寧に磨き上げており、研磨痕は残らない。孔は径1mm程度だが、わずかながら下端側の孔径が大きい。深緑色を呈し石材同定者は碧玉の可能性も考えたようであるが、最終的に珪質頁岩に同定された。	

第25表 奈良・平安時代遺物観察表

2号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	重				
第102図	1	須恵器 皿か	カマド 高台部片	底	4.7	台	5.2	粗砂粒・軽石粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は付け高台。	被熱。
第102図 PL.75	2	須恵器 碗	カマド 口縁部下半～高 台部	底	5.9	台	6.1	粗砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り後、高台部を貼付。周縁部にナデ調整。	器面に炭素吸着。 内面摩耗。
第102図 PL.75	3	土師器 鉢	床面上6cm 1/2	口 底	11.0 5.8			粗砂粒多/良好/ 黒褐	口縁部は横ナデ。胴部は横位・斜横位のヘラ削り。底部はヘラ削り。胴部内面は横位のナデ。	器面に炭素吸着。 黒色。
第102図 PL.75	4	須恵器 羽釜	カマド 口縁部～胴部下 位1/4	口	21.8			粗砂粒多/酸化 焰/黒褐	紐作り後、ロクロ整形。胴部上位は斜縦位のヘラ削り。罅部は口縁部、胴部の成・整形後に貼付。周縁部に横ナデ。	外面に炭素吸着。 内面摩滅。
第102図 PL.75	5	土師器 羽釜	カマド 口縁部～胴部上 位片	口	21.9			粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。罅部は口縁部、胴部の成・整形後に貼付。周縁部に横ナデ。	被熱。炭素吸着。 器面摩滅。

3号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	重				
第104図 PL.75	1	須恵器 坏	フク土 1/3	口 底	10.6 5.2	高	3.4	白色・黒色鋳物 粒/酸化焰/暗灰 黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面に炭素吸着。
第104図	2	須恵器 坏	床面上17cm 口縁部下位～底 部片	底	6.0			粗砂粒多/酸化 焰/にぶい橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第104図	3	須恵器 碗	床面上16cm 口縁部下位～底 部片	底	6.0			粗砂粒少/酸化 焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。高台が剥落後も使用している。	
第104図 PL.75	4	須恵器 碗	床面上6cm 2/3	底	6.0			粗砂粒/酸化焰/ にぶい黄褐	ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、高台部を貼付。高台内の底部にナデ。	器面広い範囲に 煤付着。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第104図	5	須恵器 碗	フク土 底部片	底	7.4		黒色鈹物粒/還元焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。周縁部にナデ調整。	内面摩耗。	
第104図 PL.75	6	須恵器 羽釜	床面上6cm 口縁部～胴部上 位片	口	21.8		粗砂粒・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ にぶい橙	紐作り後、ロクロ整形。内外面とも横ナデ。一部に輪積み痕を残す。罅部は整形後に貼付。周縁部に横ナデを施す。		
第104図	7	須恵器 甕	フク土 口縁部片	口	23.8		白色鈹物粒・赤 黒色粘土粒/還元 焰/灰	紐作り後、ロクロ整形。		
第104図 PL.75	8	石製品 砥石	床面上2cm 1/2	長 幅	(8.5) 4.7	厚 重	2.2 111.8	砥沢石	四面使用。著しく研ぎ減り、形状は糸巻状を呈する。砥石の最狭部で欠損する。小口部を粗く磨き、整形する。	截り砥石

## 4号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第106図	1	須恵器 坏	床面上13cm 1/4	口 底	12.4 6.4	高	3.4	粗砂粒・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ 明黄褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第106図 PL.75	2	黒色土器 碗	フク土 2/3	口 底	13.0 6.7	高 台	5.5 7.0	粗砂粒多・白色 鈹物粒・石英/酸 化焰/浅黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。周縁部にナデ調整。	内面黒色処理。 被熱か。
第106図 PL.75	3	須恵器 碗	カマド 2/3	口 底	12.0 6.4	高 台	5.8 6.7	粗砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、高台部を貼付。高台部内面はナデ調整。	器面に炭素吸着。
第106図 PL.75	4	須恵器 壺	カマド 頸部～底部1/2	底	11.6			粗砂粒/還元焰・ 酸化焰ぎみ/ にぶい黄橙	紐作り後、ロクロ整形(右回転)。肩部には回転ヘラ削り。胴部下半には縦位、横位のヘラ削り。底部はヘラナデ。一部砂底状。高台部は付け高台で貼付後、周縁部にナデ調整。内面は最下位の一部にナデ。	器面摩滅。被熱 の度合いにより 色調が異なる。
第106図 PL.75	5	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部上 位片	口	20.6			粗砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。内面は横位のヘラナデ。	内面に炭素吸着。
第106図 PL.75	6	須恵器 羽釜	カマド 口縁部片	口	19.8			粗砂粒・軽石粒/ 酸化焰/明赤褐	紐作り後、ロクロ整形。内外面とも横ナデ。罅部は胴部整形後、貼付。周縁部に横ナデ。	内面下位摩滅。

## 5号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第107図	1	須恵器 坏	フク土 口縁部片	口	11.8			細砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形(右回転か)。	
第107図	2	須恵器 坏	フク土 口縁部片	口	10.8			粗砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。	内面に炭素吸着。
第107図	3	須恵器 碗	フク土 底部片	底	7.0	台	6.8	粗砂粒・灰黒色 粘土粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。周縁部にナデ調整。	
第107図 PL.75	4	鉄製品 刀子	床直 一部欠損	長 幅	153 2.0	高 重	0.7 23.9		錆化が著しく内部は空洞化する。刃先の錆化は特に顕著で形状は不明瞭、棟および刃にわずかな関を持ち茎に向かいなだらかに細くなる。茎に木質等の付着は見られない。	

## 6号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第111図 PL.75	1	土師器 坏	床面上5cm 一部欠	口	12.8	高	3.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り、間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第111図 PL.75	2	土師器 坏	フク土 1/3	口	12.4	高	3.3	粗砂粒/良好/ にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り、間にナデの部分を残す。型肌の痕跡が見られる。内面はナデ。	内面一部に煤付 着。
第111図 PL.75	3	土師器 坏	床面上14cm 1/4	口	18.9			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部下半部に手持ちヘラ削り、上半部にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面摩滅。
第111図 PL.75	4	須恵器 坏	掘方 3/4	口 底	13.4 8.0	高	3.7	粗砂粒・灰黒色 粘土粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、回転ヘラ削り。	器面やや摩滅。
第111図 PL.75・ 88	5	須恵器 坏	床面上6cm 完形	口 底	15.6 9.0	高	4.9	粗砂粒・灰黒色 粘土粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り後、ナデているか。	底部内面に刻書「 山」か記号。
第111図 PL.75	6	須恵器 坏	フク土 口縁部～底部 1/3	口 底	13.2 8.0	高	4.0	粗砂粒少/還元 焰・酸化焰ぎみ/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、回転ヘラ削り。	外面一部に炭素 吸着。
第111図 PL.76	7	須恵器 坏	床面上2cm 2/3	口 底	12.8 7.4	高	3.7	粗砂粒・灰黒色 粘土粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。口縁部最下位にヘラ削り。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	高				
第111図	8	須恵器 坏	フク土 底部片	底	7.4		粗砂粒・黒色鉍 物粒少/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面摩耗。	
第111図 PL.76	9	須恵器 壺	掘方 胴部下位～底部 1/2	底	9.0	台	10.0	細砂粒少/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。胴部の残存下半には、回転ヘ ラ削り。高台部は付け高台。	高台部付近に自 然釉付着。
第111図 PL.76	10	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部中 位片	口	22.7			粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部上位は横位の、それ以下は斜 位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第111図 PL.76	11	石製品 砥石	床面上6cm 完形	長 幅	8.2 7.4	厚 重	3.8 258.0	砥沢石	四面使用。形状は糸巻状を呈し、背面側は浅く溝状 に窪む。上端側の破損面は、水磨き整形されている。	切り砥石
第111図 PL.76	12	鉄製品 刀子	床面上7cm 一部欠損	長 幅	7.7 1.5	高 重	0.8 9.6		棟・刃側ともにわずかな間を持つ刀子で刃身途中で 破損し錆でおおわれている。茎に木質等の痕跡は見 られない。	

7号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	高				
第113図 PL.76	1	須恵器 坏	フク土 口縁部片	口	16.8			粗砂粒・黒色鉍 物粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(左回転か)。残存部下位はヘラ削り。	
第113図 PL.76	2	須恵器 碗	P2 体部～底部2/3	底	6.6			粗砂粒・黒色鉍 物粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を 貼付。周縁部にナデ調整。	高台部剥落後も 使用している。
第113図 PL.76	3	須恵器 大型碗	掘方 坏部	口 底	17.9 7.8			結晶片岩の小礫 ・粗砂粒/酸化焰 /橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を 貼付、高台内はナデ。周縁部にナデ調整。	
第113図 PL.76	4	灰釉 碗	床面上9cm 口縁部一部欠	口 底	15.2 8.7	高 台	5.0 8.3	精選/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、回転ヘラ削 り。その後、高台部を貼付。周縁部をナデ調整。内 面に重ね焼き痕。釉は口縁部に漬け掛け。	大原2号窯式期 後半段階
第113図 PL.76	5	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部下 位1/2	口	20.3			粗砂粒・軽石粒/ 良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部最上位は横位、上位は斜横位、 以下は斜位のヘラ削り。一部にヘラナデ。内面は横 位のヘラナデ。上位の工具はハケ。	被熱。外面に炭 素吸着。

8号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	高				
第114図 PL.76	1	土師器 坏	フク土 2/3	口 底	12.1 8.0	高	3.1	粗砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削 り。内面はナデ。	内面摩耗。
第114図	2	須恵器 坏	フク土 口縁部片	口	13.8			細砂粒/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。	外面一部に炭素 吸着。
第114図	3	須恵器 碗	フク土 底部片					粗砂粒/還元焰・ 酸化焰きみ/浅 黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を 貼付。周縁部にナデ調整。	器面に炭素吸着。

9号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	高				
第117図 PL.76	1	土師器 坏	カマドフク土 1/3	口	11.6			粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削 り。内面はナデ。	外面一部に黒色 の付着物。
第117図 PL.76	2	土師器 坏	カマドフク土 1/6	口	10.9			細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部先端は内側を向く。横ナデ。体部はナデ。型 肌痕跡を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナ デ。外面の一部に黒色の付着物。煤か。	
第117図 PL.88	3	土師器 坏	フク土 底部片					粗砂粒/良好/明 赤褐	底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面に墨書「□」。
第117図 PL.76	4	須恵器 蓋	床面上8cm 2/3	口	13.0	高 摘	3.0 4.0	白色鉍物粒多/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部を切り離し後、摘み部 貼付。天井部は中心寄りに回転ヘラ削り。	
第117図 PL.76・ 87	5	須恵器 坏	床面上2cm 口縁部～底部 3/4	口 底	12.7 8.2	高	3.5	粗砂粒・赤黒色 粘土粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に 回転ヘラ削り。	底部に墨書「五□ 」器面摩滅。一部 に炭素吸着。
第117図 PL.76	6	須恵器 坏	フク土 1/4	口 底	11.8 7.0	高	3.4	白色・黒色鉍物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	外面自然釉。内 面やや摩耗。
第117図	7	須恵器 坏	フク土 1/3	口 底	11.8 6.4	高	4.1	黒色鉍物粒多/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形。底部回転糸切り後、無調整。	器面やや摩耗。
第117図	8	須恵器 坏	床面上3cm 底部	底	6.3			粗砂粒多/還元 焰/黄灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				底	台	高				
第117図	9	須恵器 碗	床直 底部	底	9.6	台	9.8	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第117図 PL.76	10	土師器 甕	床面上7cm 口縁部～胴部上 位1/4	口	21.8			粗砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は横位のへら削り。内面は横 位のへらナデ。	
第117図 PL.76	11	土師器 甕	フク土 口縁部～胴部上 位片	口	19.3			粗砂・細砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位のへら削り。内面は横 位のへらナデ。	
第117図 PL.76	12	石製品 紡輪	床面上8cm 完形	径 孔 径	5.0 0.9	厚 重	1.4 50.8	砥沢石	上面の機能部は全面が摩耗して使い込まれたことが 明らか。裏面側平坦部は整形時の痕跡は良く残る。 裏面側棒軸孔の周辺は浅く窪む。径10mmの棒軸孔を 穿つ。	薄型台形状
第117図 PL.76	13	石製品 砥石	床面上7cm 完形	長 幅	19.2 9.6	厚 重	5.0 1302.0	砥沢石	四面使用。背面側に斜向する粗い線条痕が残る。両 側面が良く使い込まれており、光沢が強い。裏面側 の使用頻度は低く、刀子状工具による整形痕が残る。	截り砥石

## 10号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	高 台	高 台				
第119図 PL.77	1	黒色土器 碗	カマド 2/3	口 底	11.4 6.2	高 台	4.2 6.2	粗砂粒多・白色 鉍物粒多/酸化 焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を 貼付。周縁部にナデ調整。内面の口縁部は横位に数 回に分け、底部は一定方向にへら磨き。	
第119図 PL.77	2	灰釉 段皿	カマド 2/3	口 底	11.4 6.5	高 台	2.4 6.0	白色鉍物粒少/ 還元焰/浅黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転へら削り後、低い高 台部を貼付。周縁部にナデ調整。内面に重ね焼き痕。 口縁部内外面に漬け掛け。	内面摩耗顕著、 硯に転用か。 大原2号窯式期 から虎溪山1号 窯式
第119図 PL.77	3	灰釉 段皿	床面上14cm 2/3	口 底	11.6 6.6	高 台	2.1 6.2	黒色鉍物粒少/ 還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、低い高台 部を貼付。周縁部にナデ調整。口縁部外面に施釉。 内面は口縁部から底部上位に刷毛掛け。内面に重ね 焼き痕。	内面摩耗顕著。 大原2号窯式期 から虎溪山1号 窯式
第119図	4	須恵器 壺	カマド 胴上半部1/4					粗砂粒多・軽石 粒多/酸化焰/に ぶい黄橙	紐作り後、ロクロ整形。外面残存部上半に斜横位の へら磨き。下半部は斜縦位のへらナデに一部へら磨 きを重ねる。	被熱。
第119図 PL.77	5	土師器 甕	カマド 胴部下位～底部 片	底	8.2			粗砂粒多/良好/ 暗灰黄	胴部は横位のへら削り。底部はへらナデ。内面は横 位のナデ。	被熱のため外面 に炭素吸着。内 面摩滅。
第119図 PL.77	6	須恵器 羽釜	カマドフク土 口縁部～胴部上 位片	口	21.0			粗砂粒・赤黒色 粘土粒多/酸化 焰/にぶい黄橙	紐作り後、ロクロ整形。内外面とも横ナデ。鏝部は 胴部整形後の貼付。	被熱。

## 11号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	高 台	高 台				
第122図 PL.77	1	土師器 坏	床面上13cm 1/2	口	12.9	高	3.3	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は上半部にナデ。下半部には 手持ちへら削り。	内面はナデ。
第122図 PL.77・ 88	2	土師器 坏	床面上24cm 1/2	口	12.5	高	3.1	粗砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部は横ナデ。底部は上半部にナデ。下半部には 手持ちへら削り。内面はナデ。内面に格子目状に線 刻。	器面に炭素吸着。
第122図	3	土師器 坏	フク土 破片	口 底	12.9 9.0	高	3.3	粗砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。体部はへら削り。底部は手持ちへ ら削り。内面はナデ。	器面摩耗。
第122図 PL.77	4	須恵器 坏	掘方 口縁部一部欠	口 底	13.9 8.9	高	4.1	粗砂・細砂粒/還 元焰/にぶい橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に 回転へら削り。口縁部最下位にも回転へら削り。	器面に炭素吸着。 黒色処理か。
第122図 PL.77	5	須恵器 坏	床面上23cm 1/2	口 底	13.1 7.9	高	4.2	粗砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面摩耗。
第122図 PL.77	6	須恵器 坏	床面上26cm 1/2	口 底	13.2 7.6	高	4.2	粗砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整か。	器面摩耗。特に 底部周縁部の摩 耗顕著。外面に 炭素吸着。
第122図 PL.77	7	須恵器 碗	床面上33cm 口縁部一部欠	口 底	16.4 9.3	高 台	6.7 9.6	黒色鉍物粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を 貼付。周縁部にナデ調整。	底部内面の摩耗 顕著。
第122図 PL.77	8	須恵器 碗	床直 1/2	口 底	16.4 9.4	高 台	6.9 9.4	黒色鉍物粒/還 元焰/褐灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転へら削り後、高台部 を貼付。周縁部にナデ調整。	底部内面は摩耗。
第122図 PL.77	9	須恵器 碗	床面上24cm 体部～高台部	底	8.8	台	8.8	黒色鉍物粒/還 元焰/褐灰	ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、回転へら削 り。その後、高台部を貼付。周縁部にナデ調整。	底部内面は摩耗。 外面に自然釉付 着。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	重				
第122図 PL.77・ 87	10	須恵器 埴	フク土 2/3	口 底	13.7 6.5	高	5.1	粗砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転切り離し後、高台部を貼付。周縁部にナデ調整。	口縁部の内外面に墨書「恵カ」。
第122図 PL.77	11	須恵器 盤	フク土 1/2	口 底	22.7 17.9	高台	5.1 18.2	粗砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。体部は回転ヘラ削り。底部を回転ヘラ削り後、高台部を貼付。内面にはカキ目。	底部内面は摩耗。
第122図 PL.77	12	土師器 甕	カマドフク土 口縁部～胴部中 位1/4	口	21.2			粗砂・細砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部上位は横位の、中位上半は斜横位の、下半は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。器面やや摩滅。
第123図 PL.77	13	土師器 甕	カマドフク土 口縁部～胴部中 位1/4	口	20.7			粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部上位は横位の、中位上半は斜横位の、下半は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。器面やや摩滅。
第123図 PL.77	14	土師器 甕	カマドフク土 口縁部～胴部中 位1/5	口	20.6			粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部最上位は横位の、上位は斜横位の、それ以下は斜縦位のヘラ削り。一部にヘラナデ。内面は横位のヘラナデ。	
第123図 PL.77	15	土師器 甕	掘方 胴部下位～底部	底	5.3			粗砂・細砂粒/良 好/にぶい黄橙	胴部は斜縦位のヘラ削り。底部ヘラ削りの上に線刻状の工具痕。胴部内面はヘラナデ。	被熱の為、器面摩滅。
第123図 PL.77	16	土師器 甕	カマドフク土 胴部下位～底部	底	5.0			粗砂・細砂粒/良 好/明赤褐	胴部は斜位の、最下位には横位のヘラ削り。底部もヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第123図 PL.77	17	石製品 砥石	フク土 1/2	長 幅	(7.3) 4.3	厚 重	1.6 98.4	砥沢石	四面使用。表裏面が研ぎ減り、主な使用面であることが分かる。背面側使用面に断面U字状の浅い線条痕が残る。	載り砥石
第123図 PL.77	18	礫石器 敲石	床直 完形	長 幅	14.5 6.0	厚 重	4.8 586.8	石英閃緑岩	上端小口部に近い背面側に集合打痕が残る。礫形状は断面三角形状を呈する。	棒状礫
第123図 PL.77	19	鉄製品 鉄鎌	床面上24cm ほぼ完形	長 幅	8.5 3.0	高 重	0.7 19.6		撥型の鉄鎌で両端に段を持って細く短い茎に移行する。茎には螺旋形に植物痕が見られ矢柄の固定痕と考えられる。	

12号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	重				
第124図 PL.78	1	土師器 坏	フク土 破片	口	11.8			粗砂粒少・軽石 粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第124図 PL.78	2	土師器 坏	フク土 破片	口 底	9.8 6.2			粗砂粒少/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第124図 PL.78	3	須恵器 坏	フク土 口縁部片	口	13.8			細砂粒/酸化焰/ 橙	ロクロ整形(右回転か)。	
第124図	4	須恵器 蓋	掘方フク土 摘み部			摘	4.5	黒色鈹物粒少/ 還元焰やや軟質/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。	
第124図	5	須恵器 坏	フク土 底部1/2	底	7.0			細砂粒少/還元 焰/黄灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面の摩耗顕著。
第124図	6	黒色土器 坏	フク土 底部	底	6.0			赤黒色粘土粒少/ 酸化焰/明赤褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。内面の口縁部は横位の、底部は一定方向のヘラ磨き。	内面は黒色処理。
第124図 PL.78	7	石製品 砥石	床面上20cm 完形	長 幅	4.8 2.5	厚 重	1.4 29.3	砥沢石	四面使用。背面側使用面が荒れているが、被熱によるものとみられる。研ぎ減り等はなく、板状を呈する。小口部両端は各使用面を切り研磨されており、砥石としての機能を放棄、石製品として転用されている可能性も残る。	載り砥石
第124図 PL.78	8	鉄製品 不詳	床面上11cm 一部残存	長 幅	5.4 1.2	高 重	0.9 5.2		断面やや丸みをおびた四角形で錆化が著しく詳細な形状不明、片方の端部は劣化破損する。	
第124図 PL.78	9	鉄製品 紡錘車	床面上11cm 一部欠損	長 幅	18.4 4.9	高 重	5.2 28.6		紡輪・紡軸をのこす紡錘車で紡軸の一端部を劣化破損する。紡輪は直径4.5cm厚さ1mm程の円板で錆により一部厚く膨れる。紡軸断面はほぼ円形で紡輪付近で直径4mm端に向かい徐々に細くなり端で2.5mmほどになるが、その先は劣化破損する。	

15号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	重				
第125図 PL.78	1	土師器 坏	P1 一部欠	口 底	12.0 8.6	高	3.0	粗砂粒/良好/明 褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面一部に炭素吸着。
第125図 PL.78	2	土師器 坏	フク土 2/3	口 底	11.8 9.4	高	3.7	粗砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第125図	3	土師器 坏	P1 口縁部～体部 1/4	口	11.4			粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第125図	4	土師器 坏	P1 口縁部～体部 1/3	口	11.4		粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	内面に黒色の付着物。
第125図	5	土師器 坏	フク土 口縁部～体部片	口	11.8		粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	外面一部に黒色の付着物。
第125図 PL.78	6	須恵器 坏	P1 口縁部下半～底 部	底	6.9		粗砂粒/酸化焰/ 浅黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面やや摩滅。
第125図	7	土師器 甗	掘方フク土 口縁部1/3	口	23.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。	

## 13号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第129図 PL.78	1	土師器 坏	カマドフク土 1/4	口 底	12.0 8.4	高	3.4	粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第129図 PL.78	2	土師器 坏	カマドフク土 1/4	口 底	12.1 8.2			粗砂粒・赤黒色 粘土粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。体部は粗雑なナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第129図 PL.78	3	土師器 坏	フク土 1/4	口 底	11.9 7.5	高	3.3	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第129図	4	土師器 坏	フク土 1/4	口	13.0			粗砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。体部は粗雑なナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第129図	5	土師器 坏	フク土 底部片					粗砂粒/良好/橙	外面は手持ちへら削り。内面はナデ。螺旋状に細かい線刻が施される。	
第129図	6	土師器 坏	フク土 底部片					粗砂粒/良好/橙	外面は手持ちへら削り。内面はナデ。焼成前穿孔の小孔2ヶ所あり。	
第129図 PL.78	7	須恵器 皿	棚状直上 高台部欠	口 底	13.7 7.4			粗砂粒/酸化焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。高台部に粗雑なナデ。高台部剥離。	内面に炭素吸着。摩耗。
第129図 PL.78	8	須恵器 皿	床面上30cm 口縁部一部欠	口 底	14.2 7.5	高 台	3.3 7.3	小礫・粗砂粒/酸 化焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	内面摩耗。
第129図 PL.78	9	須恵器 皿	床面上11cm 2/3	口 底	14.1 7.5	高 台	3.2 7.6	粗砂粒/酸化焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	
第129図 PL.78	10	須恵器 皿	床面上7cm 口縁部一部欠	口 底	12.9 5.7	高 台	3.2 5.6	粗砂粒/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面摩滅。一部に炭素吸着。
第129図 PL.78	11	須恵器 坏	P4 口縁部一部欠	口 底	13.0 6.9	高	3.2	粗砂粒大・赤黒 色粘土粒/酸化 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面摩滅。一部に炭素吸着。
第129図 PL.78	12	須恵器 坏	P4 口縁部一部欠	口 底	12.5 5.8	高	4.1	粗砂粒・白色鈹 物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面やや摩耗。
第129図 PL.78	13	須恵器 坏	P17 1/2	口 底	13.2 6.2	高	3.4	白色鈹物粒・赤 黒色粘土粒/還 元焰・軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	外面摩滅。内面摩耗。
第129図 PL.78	14	須恵器 碗	床面上14cm 口縁部～体部 1/2	口 底	14.2 6.8			粗砂粒/還元焰・ 軟質/黄灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は欠損。	器面摩滅。
第129図 PL.78	15	須恵器 碗	床面上2cm 口縁部～底部 1/2	口 底	14.1 6.1	高 台	5.3 6.3	結晶片岩礫・粗 砂粒/酸化焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面摩滅。外面の一部に炭素吸着。
第129図 PL.78	16	須恵器 碗	フク土 口縁部下半～高 台部2/3	底	7.0	台	6.8	粗砂粒・結晶片 岩粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面に炭素吸着。黒色。
第129図	17	須恵器 碗	フク土 口縁部下半～高 台部1/3	底	7.2	台	6.4	粗砂粒・結晶片 岩粒/還元焰・酸 化焰ぎみ/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は粗雑な回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	内面摩耗。
第129図 PL.78	18	須恵器 碗	フク土 体部～底部片	底	6.2	台	5.5	粗砂粒・雲母片/ 酸化焰/にぶい 黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面摩耗。
第129図 PL.78	19	灰釉 碗	フク土 口縁部片	口	13.0			精選・黒色鈹物粒 少/還元焰/灰白	ロクロ整形(左回転)。内面に施釉か。	虎溪山1号窯式
第129図 PL.78	20	土師器 甗	カマド 口縁部～胴部下 位	口	19.7			粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。下半部にナデの部分を残す。胴部の上位は横位の、中位は斜横位の、以下は斜縦位のナデに近いへら削り。内面は横位のへらナデ。以下は丁寧なナデ。	被熱。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	高				
第129図 PL.78	21	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部中 位	口	18.2		粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部の上位は横位・斜位の、中位 は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。やや炭素 吸着。	
第130図 PL.79	22	土師器 甕	P13 口縁部～胴部中 位1/4	口	19.2		粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部の上位は横位の、中位は縦位 のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面煤付着。	
第130図 PL.79	23	土師器 甕	P13 口縁部～胴部上 位片	口	19.6		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横 位のヘラナデ。	被熱。器面炭素 吸着。	
第130図 PL.79	24	土師器 甕	掘方 口縁部～胴部上 位片	口	19.5		粗砂・細砂粒/良 好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部上位は横位のヘラ削り。以下 は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。	
第130図 PL.79	25	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部上 位片	口	20.1		粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。下半には型肌の部分を残す。胴部 上位は横位の、それより下位は斜横位・斜縦位のヘ ラナデ。内面は横位のナデ。	被熱。	
第130図 PL.79	26	土師器 甕	P12 口縁部～胴部上 位片	口	18.5		細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は横位・斜横位のヘラ削り。 内面は横位のヘラナデ。	破砕後被熱か。 破片ごとに炭素 吸着の度合い異 なる。	
第130図 PL.79	27	土師器 甕	P12 口縁部～胴部上 位1/4	口	20.1		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。下半には型肌の部分を残す。胴部 は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。		
第130図	28	土師器 甕	カマド 口縁部～頸部 1/4	口	18.9		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部は横位のヘ ラ削り。29に類似。		
第130図	29	土師器 甕	カマドフク土 口縁部～胴部上 位1/5	口	17.5		細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部は横位のヘ ラ削り。28に類似。		
第130図	30	土師器 甕	P17 口縁部～胴部上 位1/5	口	19.6		粗砂・細砂粒/良 好/褐	口縁部は横ナデ。下半部に指頭圧痕を残す。胴部は 斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。		
第130図	31	土師器 甕	床面上2cm 胴部下片	底	3.0		粗砂粒/良好/に ぶい褐	胴部は斜縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	被熱。炭素吸着。	
第130図	32	須恵器 甕	床面上26cm 胴部片				粗砂粒・白色鉍 物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(左回転)。		
第130図 PL.79	33	礫石器 敲石	床直 完形	長 幅	13.9 6.6	厚 重	5.5 834.5	粗粒輝石安山岩	小口部両端に著しい敲打・摩耗痕がある。	棒状礫

14号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	高				
第132図 PL.79	1	土師器 坏	フク土 1/4	口 底	12.6 9.0	高	3.1	細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削 り。内面はナデ。	外面に煤付着。
第132図	2	土師器 坏	フク土 破片	口	10.9			粗砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削 り。	
第132図	3	須恵器 皿	床面上34cm 口縁部下位～高 台部	底	6.8	台	7.3	黒色鉍物粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を 貼付。その後、周縁部にナデ調整。	内面の摩耗顕著。
第132図 PL.79	4	須恵器 坏	床面上29cm 2/3	口 底	12.5 6.6	高	3.5	小礫・粗砂粒・赤 黒色粘土粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面摩耗。
第132図	5	須恵器 坏	フク土 1/6	口 底	11.9 7.0	高	3.4	小礫・結晶片岩 多/還元焰/褐灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第132図	6	須恵器 坏	フク土 底部	底	5.9			粗砂粒・赤黒色 粘土粒/還元焰・ 酸化焰ぞみ/灰 黄褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面に炭素吸着。
第133図 PL.87	7	黒色土器 坏	床面上15cm 口縁部下半～底 部1/2	底	6.0			粗砂粒/酸化焰/ 明赤褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。 口縁部内面は横位に底部は一定方向にヘラ磨き。	口縁部外面は糸 切りの糸が当 たった痕跡あり。 同じく外面に墨 書「足(横位)」。
第133図 PL.88	8	須恵器 坏	床直 底部片					粗砂粒・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転か)。底部回転糸切り後、周縁部 に回転ヘラ削り。	外面摩耗。墨書「 □」。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	厚				
第133図 PL.79	9	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部中 位	口	20.6		粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。下位にナデの部分を残す。胴部外 面上位は斜横位のヘラ削り。中位以下は幅の狭い斜 縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。		
第133図 PL.79	10	土師器 甕	フク土 口縁部～胴部上 位片	口	18.6		粗砂・細砂粒/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横 位のヘラナデ。		
第133図 PL.79	11	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部中 位1/2	口	19.8		粗砂・細砂粒/良 好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部上位は斜横位の、中位は斜位 ・斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。		
第133図	12	土師器 甕	カマドフク土 胴部下位～底部 片	底	4.4		粗砂粒/良好/褐 灰	胴部はヘラ削り。底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。		
第133図	13	須恵器 瓶か	フク土 口縁部片	口	12.8		黒色鈹物粒少/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形(右回転か)。		
第133図 PL.80	14	須恵器 甕	P2 胴部下半～高台 部	底	9.8	台	9.4	小礫・粗砂粒多/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は付け高台。上半部欠 損後も二次利用されていたか。	
第133図 PL.80	15	須恵器 甕	床面上5cm 肩部～胴部片					赤黒色粘土粒/ 還元焰/灰	紐作り後、叩き整形。外面は丁寧なヘラナデ。内面 は同心円文状の当て具痕。	
第133図 PL.80	16	須恵器 転用碗か	床直 底部～高台部	底	9.7	台	8.8	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を 貼付。その後、周縁部にナデ調整。口縁部を打ち欠 き残存状態を整えている。高台部を硯面として二次 利用している。	内面の摩耗顕著。
第133図 PL.80	17	鉄製品 刀子	カマド ほぼ完形	長 幅	8.7 1.2	高 重	0.3 7.7		刃部分の非常に短い刀子で、棟に大きく関を持ち長 い茎に移行する端部は折れるように曲がり破損す る、茎に木質等の痕跡は見られない。	
第133図 PL.80	18	鉄製品 鎌	床面上5cm 一部欠損	長 幅	15.0 4.3	高 重	1.3 58.7		先側が劣化破損する鎌、柄装着部は角の13cm程を丸 みを持たせながら100°程に曲げる。装着部端から 6cm付近より刃の幅が狭くなり研ぎ減りと考えられ る。柄装着部付近に木質等の痕跡は見られない。	
PL.80	19	礫石器 天井石	フク土	長 幅	68.0 21.0	厚 重	17.0 22760	未固結凝灰岩	カマド焚口天井石。天井石下面は、端部(10cm)を除 き煤ける。焚口正面に当る天井石正面は下半部が煤 け、上半部は被熱して剥落が著しい。破損面にはス スが付着することから、使用中からヒビ割れていた ものとみられる。	割り石

## 16号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	厚				
第134図 PL.80	1	須恵器 坏	フク土 1/3	口 底	11.8 6.6	高	3.9	黒色鈹物粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面摩耗。
第134図	2	須恵器 坏	フク土 2/3	口 底	11.8 7.2	高	3.2	黒色鈹物粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面摩耗。外面 に自然釉付着。

## 17号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長 幅	(5.5) 3.1	厚 重				
第135図 PL.80	1	石製品 砥石	フク土 胴部破片	長 幅	(5.5) 3.1	厚 重	1.6 41.7	砥沢石	背面側のみ使用面が残る。裏面側・両側面には粗い 櫛歯状工具痕が残る。上下両端を欠損。	割り砥石

## 18号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	厚				
第136図	1	土師器 坏	フク土 破片	口	13.8			粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削 り。内面はナデ。	
第136図	2	土師器 坏	フク土 破片	口	12.4			粗砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削 り。内面はナデ。	
第136図	3	土師器 坏	P2フク土 破片	口	15.1			粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はわずかであるがナデ。型肌 の部分を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第136図	4	土師器 坏	P1フク土 破片	口	12.7			粗砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。型肌の部分を残す。 底部は手持ちヘラ削り。	
第136図 PL.80	5	須恵器 坏	フク土 1/4	口 底	11.0 6.0	高	3.7	黒色鈹物粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	外面摩耗。
第136図	6	土師器 甕	P2フク土 口縁部片	口	15.8			粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。	

遺物観察表

49号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口					
第136図	1	土師器 坏	フク土 破片	口	12.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第136図	2	土師器 甗	P3フク土 口縁部片	口	20.8		粗砂・細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面に輪積み痕を残す。	

19号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口						
第138図	1	土師器 坏	カマドフク土 破片	口	12.8		細砂粒少/良好/ にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。		
第138図 PL.80	2	須恵器 碗	カマドフク土 2/3	口 底	14.8 7.7	高 台	5.0 7.2	粗砂粒・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ 暗灰黄	器形は歪んでいる。ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面の一部に炭素吸着。内面摩耗。
第138図 PL.80	3	須恵器 碗	床面上19cm 口縁部下半~底 部1/2	底	7.5	台	7.1	粗砂粒・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	外面に炭素吸着。内面摩耗。
第138図	4	須恵器 碗	フク土 口縁部1/4	口	13.8			粗砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。	器面に炭素吸着。
第138図 PL.80	5	土師器 甗	床面上14cm 口縁部~胴部 1/4	口	19.6			粗砂粒/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部上位は横位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	外面被熱。炭素吸着。
第138図 PL.80	6	土師器 甗	カマドフク土 口縁部~胴部 1/4	口	17.9			粗砂・細砂粒/良 好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ。胴部は斜横位のへら削り。内面はハケ状工具によるナデ。	被熱。
第138図 PL.80	7	土師器 甗	カマドフク土 口縁部~胴部 1/4	口	19.6			粗砂・細砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部上位は横位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	
第138図 PL.80	8	土師器 小型甗	フク土 口縁部~胴部 1/4	口	12.6			粗砂粒/良好/ にぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部上位は横位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	器面に黒色の付着物。煤か。
第138図 PL.80	9	須恵器 壺	床面上7cm 胴部下位~底部	底	9.7	台	9.5	粗砂粒多・赤黒 色粘土粒/酸化 焰/橙	ロクロ整形(右回転)。胴部最下位に回転へら削り。高台部は付け高台。	内面摩滅。被熱か。
第138図	10	須恵器 甗	床面上4cm 胴部下位片					粗砂粒/酸化焰/ 灰白	紐作り後、叩き整形。内外面ともナデ。	
第138図	11	須恵器 甗	床面上9cm 胴部片					黒色鋳物粒/還 元焰/灰	紐作り後、叩き整形。外面は叩き目の上にナデ。内面は当て具痕。	内面の摩耗顕著。二次利用か。
第138図 PL.80	12	石製品 丸靱	床面上3cm 完形	長 幅	4.8 6.9	厚 重	1.4 11.8	蛇紋岩	裏面側を除き良く研磨され、強く光沢を放つ。裏面側の潜り穴が上端側に1ヶ所、下端側に2ヶ所が穿たれている。潜り穴の穿孔位置は予め決められていたようで、裏面を巧打して浅く窪め、その後に斜め方向に回転穿孔して、孔を連結させたものとみられる。	
第138図 PL.80	13	石製品	床直 略完形	長 幅	14.1 11.7	厚 重	6.7 1189.5	粗粒輝石安山岩	背面側中央に径3cm程の孔を穿つ。孔内面は摩耗して平滑である。	楕円礫
PL.80	14	礫石器 袖石	カマド	長 幅	45.0 25.5	厚 重	24.0 266800	粗粒輝石安山岩	カマド左袖石。先細り気味の礫端部を埋め込み、上面の分割面に天井石を載せたもの。大型礫を横位に打ち割り、これを縦位に分割、側縁を大割して柱状に概形を作出した後、ノミ状工具にて面取り整形したものだろう。工具痕は幅3.3cmを測り、両端は丸味を帯びる。	割り石

20号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口						
第139図 PL.81	1	土師器 坏	フク土 1/4	口	12.2			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第139図	2	土師器 坏	カマドフク土 口縁部片	口	10.8			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第139図 PL.81	3	須恵器 坏	床面上7cm 1/2	口 底	11.8 6.2	高	3.8	白色・黒色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	

21号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口						
第140図	1	土師器 坏	床面上2cm 口縁部片	口	10.8			粗砂粒・軽石粒/ 酸化焰/にぶい 橙	ロクロ整形(右回転)。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				底	口	高				
第140図	2	須恵器 埴	床直 口縁部下位～高 台部	口	4.4	台	5.2	粗砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部切り離し後の付 け高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	
第140図	3	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部下 位1/3	口	20.4			粗砂粒・軽石粒/ 良好/にぶい黄 褐	口縁部は横ナデ。胴部は斜位のへら削り。内面は横 位のへらナデ。	被熱。器面炭素 吸着。
第140図 PL.81	4	須恵器 羽釜	床直 口縁部～胴部上 位1/4	口	21.0			粗砂粒・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ にぶい黄橙	紐作り後、ロクロ整形。口縁部は横ナデ。胴部は斜 縦位にへら削り。罅部は口縁部・胴部を成・整形後に 貼付。周縁部に横ナデ。	被熱。

## 23号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				底	口	高				
第142図 PL.81	1	土師器 坏	P1 一部欠	口 底	12.0 9.8	高	3.5	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削 り。内面はナデ。	
第142図	2	土師器 坏	掘方フク土 1/4	口 底	11.2 7.2	高	3.1	粗砂粒多/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削 り。内面はナデ。	
第142図	3	土師器 坏	フク土 1/4	口 底	10.9 8.3	高	2.8	粗砂粒多/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削 り。内面はナデ。	
第142図 PL.81	4	土師器 台付甕	フク土 胴部下位～台部	底	8.0			粗砂粒・細砂粒/ 良好/灰黄褐	外面は横ナデ。胴部内面はへらナデ。台部内面は横 ナデ。	
第142図	5	土師器 台付甕	フク土 台部破片	底	7.9			細砂粒/良好/橙	内外面とも横ナデ。	
第142図	6	須恵器 蓋	フク土 口縁部～天井部 片	口	17.0			粗砂粒多/酸化 焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。天井部は回転糸切り離し。	器面摩耗。
第142図 PL.81	7	須恵器 坏	掘方 一部欠	口 底	12.2 7.3	高	3.5	粗砂粒・赤黒色 粘土粒多/還元 焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面の一部に炭 素吸着。
第142図 PL.81	8	須恵器 坏	掘方 2/3	口 底	11.9 5.3	高	3.2	白色・黒色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第142図 PL.81	9	須恵器 坏	P5 1/3	口 底	12.6 7.8	高	3.2	粗砂粒・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ にぶい黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第142図	10	須恵器 坏	フク土 1/4	口 底	13.1 7.3	高	3.6	粗砂粒・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ 浅黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面の一部に炭 素吸着。
第142図 PL.81	11	須恵器 埴	掘方 一部欠	口 底	16.1 9.3	高 台	5.9 8.5	小礫・粗砂粒多・ 黒色粘土粒/還 元焰/褐灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を 貼付。周縁部にナデ調整。	外面やや摩滅。 内面摩耗。

## 28号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				底	口	高				
第143図 PL.81	1	須恵器 甕	床面上9cm 口縁部～胴部上 位1/5	口	24.4			粗砂粒/酸化焰/ 黒褐	紐作り後、ロクロ整形。胴部はへら削りの可能性も あるが器面が磨滅し、識別できない。内面は口縁部 を中心にナデの上にナデ状のへら磨きが重ねられて いる。	被熱か。炭素吸 着。

## 40号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				底	口	高				
第144図 PL.81	1	土師器 坏	フク土 1/4	口	12.2			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削 り。内面はナデ。	内面やや摩耗。
第144図 PL.81	2	須恵器 坏	フク土 3/4	口 底	12.7 6.3	高	4.4	粗砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。 底部の切り離しは粗雑。	内面やや摩耗。
第144図	3	須恵器 坏	フク土 1/4	口 底	12.1 7.5	高	2.9	粗砂粒少・黒色 鋳物粒少/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転へら切り。	外面に自然袖付 着。
第144図	4	須恵器 坏	フク土 口縁部片	口	13.7			粗砂粒・赤黒色 粘土粒/還元焰・ やや軟質/灰	ロクロ整形(右回転か)。	
第144図 PL.81・ 88	5	須恵器 埴	フク土 口縁部下位～高 台部	底	7.5	台	7.3	粗砂粒少・赤黒 色粘土粒少/還 元焰・軟質/灰黄 褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を 貼付。その後、周縁部にナデ調整。	内面に刻書「貞」。 内面の高台部端 部は摩耗。
第144図	6	須恵器 埴	フク土 底部片	底	7.1	台	6.9	白色鋳物粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を 貼付。その後、周縁部にナデ調整。底部の切り離し は粗雑。	内面摩耗。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚			
第144図	7	土師器 甗	フク土 口縁部片	口	21.8		細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。細片からの器形復元のため法量変更の可能性あり。	
第144図	8	須恵器 壺	フク土 把手部	長	8.6	厚 1.7	細砂粒/酸化焰/ 暗灰黄	本体の胴部に貼付されていたと考えられる。器面は丁寧なナデ。	

44号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚			
第145図 PL.81	1	灰釉 壺	掘方 胴部上位片				黒色鈹物粒少/ 還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。外面は回転ヘラ削り。	
第145図 PL.81	2	石製品 砥石	床直 1/2	長 幅	10.4 4.8	厚 重 1.8 147.2	砥沢石	四面使用。板状を呈し、身は薄い。背面側に縦位の深い刃ならし様の傷が残る。下端側破損部の稜は摩耗、破損後も使用された可能性がある。	截り砥石

45号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	台			
第147図 PL.81	1	須恵器 坏	P1 口縁部一部欠	口 底	12.8 5.9	高 3.9	小礫・粗砂粒多/ 酸化焰/灰黄褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内外面に炭素吸着。
第147図 PL.81	2	須恵器 坏	床面上10cm 1/2	口 底	13.4 4.8	高 3.9	粗砂粒・赤黒色 粘土粒少/酸化 焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面摩耗。
第147図	3	須恵器 坏	フク土 口縁部片	口	13.5		粗砂粒・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。	
第147図	4	須恵器 坏	フク土 口縁部片	口	11.8		粗砂粒/酸化焰/ 灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。	器面摩滅。
第147図	5	須恵器 坏	フク土 口縁部片	口	12.6		赤黒色粘土粒/ 酸化焰/灰白	ロクロ整形(右回転か)。	器面摩滅。
第147図 PL.81	6	須恵器 碗	P1 口縁部下半～高 台部	底	7.7	台 7.4	粗砂粒・赤黒色 粘土粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	
第147図	7	須恵器 碗	カマド掘方フク 土 口縁部下半～高 台部片	底	7.4	台 7.0	粗砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は付け高台。その後、周縁部にナデ調整。	器面摩滅。
第147図 PL.81	8	土師器 小型台付 甗	P1 台部欠・胴部一 部欠	口	13.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部上位は横位の、中位・下位は斜縦位のヘラ削り。台部近くは横位のナデ。内面は横位の横ナデ。	器面に被熱。炭素吸着。台部欠損後も使用か。
第147図	9	土師器 台付甗	カマド掘方フク 土 台部1/2	底	9.5		粗砂粒/良好/橙	内外面とも横ナデ。	外面摩滅。
第147図	10	土師器 甗	カマド掘方フク 土 口縁部～肩部片	口	19.5		粗砂・細砂粒/良 好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ。下位に指頭圧痕を残す。胴部は横位・斜横位のヘラ削り。内面は横位のハケ目とナデ。	
第147図 PL.81	11	須恵器 甗	P1 口縁部片				粗砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	紐作り後、ロクロ整形。外面に5条1単位のクシ状工具による波状文を2段配す。内面はナデ。	内面の口縁部先端に工具による刺突痕。

46号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚			
第148図 PL.81	1	須恵器 坏	フク土 2/3	口 底	11.1 6.0	高 3.3	粗砂粒・軽石粒/ 酸化焰/にぶい 黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第148図	2	土師器 甗	床面上8cm 口縁部片	口	19.3		粗砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。外面下半部にナデの部分を残す。	
第148図 PL.81	3	礫石器 敲石	床面上6cm 略完形	長 幅	8.6 7.8	厚 重 4.6 381.4	粗粒輝石安山岩	小口部両端・側縁に敲打痕が残る。	扁平楕円礫

50号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚			
第156図 PL.82	1	土師器 甗	カマド 口縁部～胴部下 位	口	19.6		粗砂粒・赤黒色 粘土粒多/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。胴部上位は斜横位、中位・下位は斜縦位のヘラ削り。一部にナデ。内面上位・中位は横位のヘラナデ。下位は斜縦位のヘラナデ。	被熱。胴部中位外面に煤付着。
第156図 PL.82	2	土師器 甗	カマド 口縁部-胴部下 位	口	19.5		粗砂・細砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部上位は横位、斜縦位のヘラ削り。中位・下位は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	胴部外面に炭素吸着。煤付着。

## 51号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	重				
第156図 PL.82	3	土師器 坏	P1 完形	口	12.2	高	3.6	粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	内面摩耗。
第156図 PL.82・ 88	4	土師器 坏	P1 3/4	口 底	11.5 7.9	高	3.3	粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	口縁部外面に墨書「石□」。
第156図 PL.82	5	土師器 坏	P1 3/4	口	11.5	高	3.6	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	内面摩耗。
第156図 PL.82	6	土師器 坏	P1 2/3	口 底	12.4 8.2	高	3.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。一部に型肌の部分を残す。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第156図 PL.82	7	土師器 坏	P1 2/3	口 底	11.8 8.3	高	3.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。一部に型肌の部分を残す。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第156図 PL.82	8	土師器 坏	P1 一部欠	口 底	12.2 7.6	高	3.5	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。一部に型肌の部分を残す。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第156図 PL.82	9	土師器 坏	P1 3/4	口	12.1	高	3.3	粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。一部に型肌の部分を残す。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第156図 PL.82	10	土師器 坏	P1 口縁部2/3	口 底	11.8 7.9	高	3.3	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。一部に型肌の部分を残す。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第156図 PL.82	11	土師器 坏	P1 1/4	口 底	12.8 9.0			粗砂粒/良好/橙	口縁部は体部との境に小さな段をなす。口縁部は横ナデ。体部は横位に手持ちへら削り。底部も手持ちへら削り。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第156図 PL.82	12	土師器 坏	P1 1/4	口 底	11.8 7.8			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。一部に型肌の部分を残す。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第156図 PL.82	13	須恵器 坏	P1 3/4	口 底	12.6 6.7	高	4.4	粗砂粒・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ 黄灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	炭素吸着。内面に黒色の付着物。摩耗。
第156図 PL.82	14	黒色土器 坏	P1 1/3	口 底	13.0 6.5	高	4.5	粗砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。内面はへら磨き。口縁部は斜横位、底部は一定方向か。	内面に黒色処理。
第156図 PL.82	15	須恵器 碗	P1 3/4	口 底	13.8 6.3	高台	5.2 6.3	赤黒色粘土粒多 /還元焰・軟質/ 灰白	器形歪む。ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	
第156図 PL.82	16	土師器 甕	P1 口縁部～底部、 胴部一部欠	口 底	20.6 2.9	高	27.5	粗砂・細砂粒/ 良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部は横位、斜横位のへら削り。中位・下位は斜縦位のへら削り。底部はへら削り。胴部内面は横位のへらナデ。	

## 50号～52号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	重				
第157図 PL.83	17	土師器 坏	フク土 一部欠	口	12.0	高	3.8	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。一部に型肌の部分を残す。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	内面摩耗。
第157図 PL.83	18	土師器 坏	掘方 3/4	口	12.8	高	3.4	粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。一部に型肌の部分を残す。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	口縁部先端の一部内外面に煤付着。内面やや摩滅。
第157図 PL.83	19	土師器 坏	フク土 1/2	口	11.9	高	3.4	粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。一部に型肌の部分を残す。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第157図 PL.83	20	土師器 坏	P11 1/2	口 底	13.0 9.0	高	3.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部に型肌を広い範囲に残し、一部にへら削り。内面はナデ。	薄く炭素吸着。
第157図 PL.83	21	土師器 坏	フク土 1/3	口	11.9	高	3.3	粗砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	底部外面に黒色の付着物。
第157図 PL.83	22	土師器 坏	フク土 1/3	口 底	12.2 6.2	高	3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。中位に指頭圧痕を残す。底部は型肌の面をそのまま残す。内面はナデ。	
第157図 PL.83	23	土師器 坏	フク土 3/4	口	12.7	高	3.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。	
第157図	24	土師器 坏	掘方フク土 1/3	口 底	12.4 8.8	高	3.5	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面と底部外面は観察できない。内面はナデと考えられる。	器面摩滅。
第157図 PL.83・ 87	25	土師器 坏	掘方フク土 1/3	口 底	11.4 8.4	高	3.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。	底部外面に墨書「足」。
第157図	26	土師器 坏	フク土 1/3	口 底	11.8 8.4	高	3.1	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。	
第157図	27	土師器 坏	フク土 1/4	口	12.4	高	3.1	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り、間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第157図	28	土師器 坏	フク土 1/3	口 底	11.0 6.8	高	3.5	粗砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。	外面一部に黒色の付着物。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	高	重				
第157図	29	土師器 坏	フク土 破片	口 底	11.8 8.2	高	3.0	粗砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。口縁部内外面の先端寄りに油煙付着。灯明として使用されたと考えられる。30と同一個体か。	
第157図	30	土師器 坏	フク土 破片	口 底	11.6 8.0	高	3.0	粗砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。口縁部内外面の先端寄りに油煙付着。灯明として使用されたと考えられる。29と同一個体か。	
第157図 PL.88	31	土師器 坏	フク土 底部片	底	7.0			粗砂粒/良好/橙	底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に墨書「 □(二文字か)」。
第157図 PL.87	32	土師器 坏	フク土 底部片					粗砂粒/良好/明 赤褐	外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に墨書「足」。
第157図	33	土師器 坏	掘方フク土 底部片					粗砂粒/良好/に ぶい橙	外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に一定方向に傷状線描。	
第157図	34	土師器 坏	掘方フク土 底部片					粗砂粒/良好/橙	外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ後、口縁部に向かって放射状にヘラ磨き。その後、底部に螺旋状にヘラ磨きを重ねる。	
第157図 PL.83	35	土師器 鉢	床直 1/3	口 底	20.0 9.0			粗砂・細砂粒/ 橙	口縁部は横ナデ。体部は横位のヘラ削り。底部もヘラ削り。	内面はナデ。
第157図	36	土師器 鉢	フク土 口縁部～体部片	口	19.8			粗砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。体部は横位のヘラ削り。上位に型肌部分を残す。内面はナデ。	
第157図 PL.83	37	須恵器 皿	掘方 2/3	口 底	12.9 7.1	高 台	2.8 6.9	粗砂粒少/還元 焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	内面摩耗。
第157図	38	須恵器 蓋	フク土 口縁部片	口	12.8			黒色鈹物粒少/ 還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。	内面摩耗。
第157図 PL.83	39	須恵器 坏	フク土 3/4	口 底	12.6 7.3	高	3.3	黒色鈹物粒/還 元焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第157図 PL.83	40	須恵器 坏	床直 1/2	口 底	12.6 5.5	高	4.0	赤黒色粘土粒/ 還元焰/灰	軽量。ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第157図 PL.83	41	須恵器 坏	掘方 1/2	口 底	12.3 7.0	高	3.9	粗砂粒/還元焰・ 軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は粗雑な回転糸切り後、無調整。	器面に炭素吸着。 摩滅。
第157図 PL.83	42	須恵器 坏	掘方 1/2	口 底	13.2 4.4	高	3.7	粗砂粒/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部は粗雑な回転糸切り後、無調整。	器面に炭素吸着。
第157図	43	須恵器 坏	フク土 1/3	口 底	14.0 8.0	高	3.1	赤黒色粘土粒少 /還元焰・軟質/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	口縁部先端の内 外面に炭素吸着。
第157図	44	須恵器 坏	掘方 口縁部下位～底 部片	底	6.5			粗砂粒/酸化焰/ にぶい橙	ロクロ整形(左回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面に炭素吸着。
第158図	45	須恵器 坏	フク土 口縁部下半～底 部1/2	底	6.2			粗砂粒・赤黒色 粘土粒/還元焰・ 軟質/黄灰	軽量。ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第158図	46	須恵器 坏	フク土 口縁部下半～底 部1/2	底	6.2			粗砂粒・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ 浅黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。内面はヘラ磨き。口縁部は横位、底部は一定方向。	内面に黒色処理。
第158図	47	須恵器 坏	フク土 口縁部下半～底 部	底	5.4			粗砂粒・赤黒色 粘土粒/還元焰・ 軟質/褐灰	軽量。ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第158図	48	須恵器 坏	床面上2cm 口縁部下半～底 部1/2	底	6.0			粗砂粒・赤黒色 粘土粒/還元焰・ 軟質/黄灰	軽量。ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面摩滅。
第158図	49	須恵器 坏	フク土 口縁部下半～底 部	底	5.4			小礫・粗砂粒/酸 化焰/灰黄褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第158図	50	須恵器 坏	掘方 口縁部下半～底 部1/4	底	5.4			粗砂粒・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面摩滅。
第158図	51	須恵器 坏	フク土 口縁部片	口	7.0			粗砂粒/酸化焰/ にぶい橙	ロクロ整形(右回転)。	器面に炭素吸着。
第158図 PL.83	52	須恵器 碗	掘方 2/3	口 底	14.4 7.3	高 台	5.1 7.1	細砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	
第158図 PL.83	53	須恵器 碗	フク土 1/2	口 底	12.7 6.0	高 台	5.5 5.6	粗砂粒多・赤黒 色粘土粒多/還 元焰・軟質/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面に炭素吸着。
第158図 PL.83	54	須恵器 碗	フク土 1/3	口 底	15.0 7.2	高 台	5.7 6.0	粗砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は付け高台。	器面摩滅。炭素 吸着。



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	13.4 6.4	高 台	5.0 6.2			
第158図	55	須恵器 甕	フク土 1/2	口 底	13.4 6.4	高 台	5.0 6.2	粗砂粒・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面摩滅。
第158図	56	須恵器 甕	掘方 口縁部下位～高台部	底	7.0	台	6.7	粗砂粒多・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ 黄灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	底部内外面に炭素吸着。内面摩耗。
第158図	57	須恵器 甕	掘方 口縁部下位～高台部	底	7.0	台	7.0	粗砂粒・細砂粒/ 酸化焰/灰黄褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	底部内外面に炭素吸着。内面の高台部端部摩耗。
第158図	58	須恵器 甕	掘方 底部片	底	6.9	台	6.3	粗砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面一部に炭素吸着。内面の高台部端部摩耗。
第158図 PL.83	59	須恵器 壺か	床面上25cm 胴部下位～高台部1/3	底	14.0	台	14.2	粗砂粒・白色鉍 物粒/還元焰/灰	紐作り後、ロクロ整形か。胴部は回転ヘラ削り。内面はナデ。高台部は付け高台。	内外面とも自然釉付着。
第158図	60	灰釉 皿	掘方フク土 口縁部～高台部片	口 底	14.4 7.1	高 台	2.0 6.6	精選・細砂粒少/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形(右回転か)。口縁部中位に回転ヘラ削り。高台部は付け高台。施釉は口縁部内外面に刷毛掛け。	光ヶ丘1号窯式。
第158図	61	灰釉 壺	フク土 胴部下位～高台部1/3	底	8.8	台	9.4	黒色鉍物粒/還 元焰/褐灰	ロクロ整形(右回転)。胴部は回転ヘラ削り。高台部は底部切り離し後の付け高台。	底部内面にも釉付着。
第158図	62	須恵器 壺	フク土 底部片	底	8.2	台	8.0	黒色鉍物粒/還 元焰/黄灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	
第159図	63	須恵器 壺	床面上21cm 胴部中位片					粗砂粒/還元焰/ 暗黄	ロクロ整形(右回転)。外面は回転ヘラ削り。	外面に自然釉付着。
第159図 PL.83	64	土師器 甕	カマド掘方フク土 口縁部～胴部上位片	口	22.4			粗砂・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第159図 PL.83	65	土師器 甕	掘方 口縁部～胴部上位片	口	20.9			粗砂粒・赤黒色 粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第159図 PL.83	66	土師器 小型甕	掘方フク土 口縁部～肩部1/2	口	14.8			粗砂・細砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第159図 PL.83	67	土師器 甕	カマドフク土 口縁部～胴部上位片	口	20.4			粗砂・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位・斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面に粘土吸着。内面黒色の付着物。
第159図 PL.83	68	土師器 甕	床面上63cm 口縁部～胴部下位1/5	口	20.0			粗砂・細砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部上位・中位は斜横位の、下位は斜縦位のヘラ削り。内面上位は横位の刷毛状工具によるナデ。以下は横位のヘラナデ。	外面に炭素吸着。
第159図	69	土師器 甕	カマドフク土 口縁部～胴部上位片	口	19.8			粗砂粒/良好/橙	軽量。口縁部先端の作りは粗雑。横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第159図	70	土師器 甕	掘方フク土 口縁部～胴部上位1/6	口	19.2			細砂粒/良好/明 赤褐	軽量。口縁部は横ナデ。胴部は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第159図	71	土師器 甕	掘方フク土 口縁部～胴部上位片	口	21.8			細砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部は横ナデ。下位にナデの部分を残す。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第159図	72	土師器 小型甕	フク土 口縁部～肩部片	口	12.0			細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第159図	73	土師器 甕	掘方フク土 口縁部片	口	21.7			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。	
第159図	74	土師器 甕	フク土 胴部下位～底部片	底	4.2			細砂粒/良好/黒 褐	胴部は縦位のヘラ削り。底部もヘラ削り。胴部内面はヘラナデ及び刷毛状工具によるナデ。	被熱。内外面に炭素吸着。
第159図	75	須恵器 甕	フク土 胴部下位～底部1/3	底	15.7			粗砂粒・灰黒色 粘土粒/還元焰/ 灰黄褐	紐作り後、ロクロ整形か。胴部はナデ及びヘラ削り。内面は横位のナデ。	内面摩耗。
第159図	76	須恵器 甕	フク土 口縁部片	口	32.4			粗砂粒/還元焰/ 灰	紐作り後、ロクロ整形。内外面とも横ナデ。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				底	長さ	厚				
第160図	77	須恵器 甗	フク土 胴部下～底部片	底	15.2		粗砂粒/酸化焰/ 灰黄褐	紐作り後、ロクロ整形か。外面は横位のナデ。最下 位は横位のヘラ削り。内面は横位のナデ。	被熱。	
第160図	78	須恵器 甗	フク土 頸部～胴部片				粗砂粒・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ にぶい黄橙	紐作り後、叩き整形。頸部内外面の接合部に強いナ デ。外面の叩き目は消され、ナデが重ねられている。 内面の当て具痕は殆ど残されていない。		
第160図	79	須恵器 甗	掘方 胴部片				粗砂粒・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ 灰黄褐	紐作り後、叩き整形。外面はナデ。内面は当て具痕 を一部に残すが、横位のナデ。		
第160図 PL.83	80	土製品 土錘	フク土 一部欠	長 幅	4.7 2.4	厚 重	2.1 20.3	細砂粒多/良好/ 灰黄	直径0.65cmの孔が貫通している。両端には小口面を 持たない。	器面摩滅。
第160図 PL.83	81	石製品 砥石	掘方フク土 西ベルト略完形	長 幅	17.8 13.8	厚 重	8.6 2680.3	粗粒輝石安山岩	下端側面の2ヶ所に斜行する刃ならし傷が残る。 背面側面の大部分は被熱剝離する。	亜角礫
第160図 PL.83	82	鉄製品 不詳	床面上4cm 破片	長 幅	9.5 2.5	高 重	0.4 15.73		狭三角形茎状の鉄製品で側面から見ると?マーク状 に緩やかに曲がり端部は破損する。他の端部近くの 上下に闊状の段を持つ、闊～端部では断面は狭三角 形で端部は薄くなり破損する。のこぎり等の茎か。	
第160図 PL.83	83	鉄製品 不詳	床面上20cm ほぼ完形	長 幅	6.1 1.9	高 重	0.7 10.5		細い三角形の茎状の鉄製品で断面は長方形、三角形 の底辺にあたる部分は薄くなり弧を描く。	
第160図 PL.83	84	鉄製品 釘	フク土 ほぼ完形	長 幅	3.6 0.7	高 重	0.6 4.0		断面0.6×0.5cm程の角釘で頭端部はわずかに広がる が折り返し等は見られない。先は急に細くなるがと がらない。	

1号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	長さ	高			
第161図	1	土師器 坏	フク土 1/4	口 底	10.8 7.3	高	3.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。型肌部分をわずかに 残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。
第161図	2	土師器 坏	フク土 1/4	口 底	10.5 6.0	高	2.9	粗砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。型肌部分をわずかに 残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。
第161図	3	須恵器 皿	フク土 口縁部1/4	口	14.0			黒色・白色鈹物 粒/還元焰/褐灰	ロクロ整形(右回転)。 口縁部端部の内 外面は摩耗。

3号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	長さ	高				
第162図	1	土師器 坏	底面上35cm 1/3	口 底	12.7 8.6	高	3.1	粗砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部は先端のわずかな幅のみ横ナデ。体部はナデ。 外面の一部に黒 色の付着物。	
第162図 PL.84	2	須恵器 碗	底面上72cm 1/3	口 底	14.0 6.7	高 台	5.3 6.4	粗砂粒/還元焰・ 軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を 貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面摩滅。
第162図	3	須恵器 碗	底面上23cm 口縁部下半～高 台部	底	7.0	台	6.6	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/還元焰・酸 化焰ぎみ/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を 貼付。その後、周縁部にナデ調整。	底部内面は重ね 焼き痕。摩耗。内 外面に炭素吸着。
第162図	4	須恵器 碗	底面上3cm 口縁部下位～高 台部	底	6.4	台	6.3	黒色粘土粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を 貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面摩滅。
第162図	5	須恵器 碗	底面上1cm 口縁部下位～高 台部	底	6.0	台	6.4	粗砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を 貼付。その後、周縁部にナデ調整。	内面に炭素吸着。 器面摩滅。

4号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	長さ	高				
第162図 PL.84	1	灰釉 碗	底面上68cm 1/3	口 底	13.9 6.9	高 台	4.4 7.2	細砂粒少/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り後、高台部 を貼付。その後、周縁部にナデ調整。施釉は外面の 範囲が不明瞭。	虎渓山1号窯式

3号・4号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	長さ	高				
第163図 PL.84	1	土師器 坏	フク土 1/3	口	12.2			粗砂粒少/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削 り。内面はナデ。	器面摩滅。
第163図	2	須恵器 蓋	フク土 口縁部片	口	13.3			黒色鈹物粒多/ 還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部中心寄りに回転ヘラ削 り。	
第163図 PL.84	3	須恵器 坏	フク土 1/3	口 底	13.0 6.2	高	4.2	黒色鈹物粒少/ 還元焰/黄灰	軽量。ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無 調整。	
第163図 PL.87	4	須恵器 坏	フク土 口縁部片	口	11.6			灰黒色粘土粒/還 元焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。	口縁部外面に墨 書「足カ」。
第163図	5	須恵器 坏	フク土 1/4	口 底	13.7 6.8	高	4.5	赤黒色鈹物粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第163図	6	須恵器 坏	フク土 1/4	口 底	12.2 7.0	高	3.5	粗砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	外面やや炭素吸着。
第163図	7	須恵器 坏	フク土 口縁部片	口	13.7			白色・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。	
第163図	8	須恵器 坏	フク土 口縁部片	口	12.8			白色鈹物粒/還 元焰/褐灰	ロクロ整形(右回転)。	
第163図	9	須恵器 坏	フク土 体部～底部1/2	底	6.5			黒色粘土粒多/還 元焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。	器面摩滅。
第163図 PL.84	10	須恵器 碗	フク土 口縁部～高台部 1/2	底	7.0	台	6.8	粗砂粒/還元焰・ 酸化焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面摩滅。内面に炭素吸着。
第163図	11	須恵器 碗	フク土 口縁部～高台部 1/3	底	7.1	台	7.0	赤黒色粘土粒/ 還元焰・軟質/灰	軽量。ロクロ整形(右回転)。高台部は付け高台。	器面摩滅。
第163図	12	須恵器 碗	フク土 口縁部下半～高 台部	底	8.1			粗砂粒少/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を粗雑に貼付。その後、周縁部にナデ調整。	内面に自然釉付着。
第163図 PL.84	13	須恵器 壺	フク土 肩部～胴部下 1/4					小礫・粗砂粒多/ 還元焰/にぶい 赤褐	ロクロ整形。肩部に把手を貼付。片手の可能性が高いか。	
第163図	14	土師器 甕	フク土 口縁部片	口	20.0			粗砂粒/良好/に ぶい褐	横ナデ。	器面やや摩滅。

## 5号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第164図 PL.84	1	土師器 坏	フク土 口縁部一部欠	口	12.0	高	3.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ後ヘラ削り。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第164図 PL.84・ 87	2	土師器 坏	フク土 一部欠	口	12.6	高	3.5	粗砂粒/良好/橙	口縁部は強い横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部体部の外面に墨書「足(横位)」。
第164図 PL.84	3	土師器 坏	フク土 3/4	口	11.8	高	3.6	粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。一部型肌部分を残す。底部は手持ちヘラ削り。	わずかに炭素吸着。
第164図 PL.84	4	土師器 坏	フク土 3/4	口 底	11.6 8.8	高	3.4	細砂粒・雲母/良 好/橙	口縁部は2回に分けて横ナデ。体部はナデか。底部の中心部分は、わずかに窪む手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデ。	器面摩滅。
第164図	5	土師器 坏	底面上47cm 1/3	口	12.4	高	3.8	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。一部型肌部分を残す。底部は手持ちヘラ削り。	
第164図	6	土師器 坏	フク土 1/3	口 底	12.2 8.0	高	2.9	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。一部型肌部分を残す。底部は手持ちヘラ削り。	
第164図	7	土師器 坏	フク土 1/3	口	11.8	高	3.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面摩滅。
第164図	8	土師器 坏	フク土 1/3	口 底	11.0 6.6	高	3.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第164図	9	土師器 坏	フク土 口縁部片	口	12.8			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部は横位のヘラ削り。底部は手持ちヘラ削り。	口縁部内面に放射状に細かい線刻。
第164図 PL.88	10	土師器 坏	フク土 底部片					粗砂粒/良好/橙	外面はヘラ削り。内面はナデ。	内面に墨書「□」。
第164図 PL.84	11	須恵器 皿	底面上50cm 2/3	口 底	14.1 6.4	高台	4.6 6.1	小礫・粗砂粒・結 晶片岩・雲母/酸 化焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	口縁部内外面に炭素吸着。器面摩滅。
第164図 PL.84	12	須恵器 皿	フク土 2/3	口 底	14.7 6.4	高台	3.4 6.7	粗砂粒・雲母/還 元焰・軟質/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	底部内外面に炭素吸着。器面摩滅。
第164図	13	須恵器 皿	フク土 1/3	口 底	13.5 6.8	高台	2.8 6.8	黒色粘土粒多/ 還元焰・軟質/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面摩滅。
第164図 PL.84・ 87	14	黒色土器 坏	底面上10cm 口縁部一部欠	口 底	12.8 6.7	高	4.4	赤色粘土粒/酸 化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。内面は、口縁部は横位に、底部は一定方向にヘラ磨き。	内面は黒色処理。口縁部外面に墨書「足」。
第164図 PL.84	15	須恵器 坏	フク土 2/3	口 底	11.7 5.8	高	3.4	粗砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第165図	16	須恵器 坏	フク土 1/3	口 底	12.7 6.9	高	3.1	黒色鈹物粒少/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第165図 PL.88	17	須恵器 坏	フク土 口縁部片					粗砂粒/還元焰・ 軟質/灰黄	ロクロ整形(右回転)。	外面に墨書「□」記号か。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第165図 PL.84	18	須恵器 碗	底面上27cm 3/4	口 底	14.5 6.5	高 台	5.0 6.6	粗砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面摩滅。
第165図 PL.84	19	須恵器 碗	フク土 1/2	口 底	14.4 7.4	高 台	5.7 7.0	粗砂粒・赤黒色 粘土粒多/還元 焰/灰	軽量。ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	
第165図 PL.84	20	須恵器 碗	フク土 2/3	口 底	13.3 7.5	高 台	5.2 7.7	粗砂粒・赤黒色 粘土粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	
第165図 PL.84	21	須恵器 碗	フク土 1/2	口 底	13.8 7.0	高 台	5.1 7.0	小礫・粗砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。底部内面に重ね焼き痕が見られる。	
第165図	22	須恵器 碗	フク土 口縁部片	口	15.7			黒色粘土粒多/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。	器面摩滅。
第165図 PL.87	23	須恵器 碗	フク土 口縁部下位～底 部	底	6.3			細砂粒・雲母/還 元焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、底部外面を含む周縁部にナデ調整。	底部外面に墨書「足」。
第165図	24	須恵器 坏	フク土 口縁部片	口	13.6			粗砂粒/還元焰・ やや軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。	
第165図	25	灰釉 皿	底面上40cm 口縁部～高台部 片	口 底	14.9 6.8	高	2.0	精選・黒色鈹物 粒少/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転か)。口縁部中位に回転ヘラ削り。高台部は付け高台。施釉は内面全面に刷毛掛け。	黒笹14号窯式期
第165図 PL.84	26	灰釉 碗	底面上40cm 1/2	口 底	16.5 8.2	高 台	4.9 8.2	黒色鈹物粒微/ 還元焰/褐灰	ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、回転ヘラ削り。高台部は断面台形の付け高台。その後、周縁部にナデ調整。施釉は内面全体に刷毛掛け。	黒笹14号窯式期
第165図	27	灰釉 瓶	フク土 口縁部片	口	6.8			黒色鈹物粒少/ 還元焰/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。内外面に施釉。	
第165図	28	土師器 台付甕	フク土 胴部下～上部	底	8.2			粗砂粒/良好/明 赤褐	胴部は弱いタッチのヘラ削り。内面はヘラナデ。基部から上部外面は横ナデ。内面は横ナデとナデ。	
第165図 PL.84	29	土師器 甕	底面上33cm 口縁部～胴部中 位1/4	口	18.8			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部上位は横位の、中位は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第165図	30	土師器 甕	フク土 口縁部～胴部上 位1/3	口	19.0			粗砂粒少・赤黒 色粘土粒少/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。炭素吸着。
第165図	31	土師器 甕	フク土 口縁部～胴部上 位1/3	口	20.6			粗砂粒・赤黒色 粘土粒少/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第165図	32	土師器 甕	フク土 口縁部片	口	21.8			粗砂粒/良好/明 赤褐	内外面とも横ナデ。	
第165図 PL.84	33	須恵器 甕	フク土 口縁部片	口	25.8			黒色鈹物粒少/ 還元焰/褐	紐作り後、ロクロ整形。内外面とも横ナデ。	口縁部下半は摩滅。
第165図 PL.84	34	須恵器 甕	フク土 破片					白色鈹物粒/還 元焰/灰	紐作り後、ロクロ整形。	被熱前に器面に粘土状の付着物。

6号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第167図 PL.84・ 87	1	土師器 坏	フク土 口縁部～底部 1/2	口	12.9			粗砂粒・赤黒色 粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。周縁部にナデの部分を残す。内面はナデ。	口縁部体部外面に墨書「足」。
第167図	2	土師器 坏	フク土 口縁部片	口	13.4			粗砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。内面もナデ。	
第167図	3	須恵器 蓋	フク土 口縁部片	口	14.2			黒色鈹物粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転か)。	
第167図	4	須恵器 坏	フク土 口縁部片	口	12.8			粗砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。	内面摩滅。
第167図 PL.84	5	須恵器 碗	フク土 1/2	口 底	13.4 6.2	高	4.8	粗砂粒・白色鈹 物粒/還元焰・酸 化焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	外面の一部に炭素吸着。
第167図	6	須恵器 碗	フク土 口縁部下位～高 台部1/3	底	7.2	台	6.8	粗砂粒・結晶片 岩・海綿骨針/酸 化焰/黒	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面に炭素吸着。黒色。
第167図 PL.87	7	須恵器 碗	フク土 口縁部下位～高 台部	底	7.6	台	7.4	細砂粒・雲母片/ 酸化焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	口縁部外面に墨書「足カ」。
第167図	8	土師器 甕	フク土 口縁部～頸部片	口	17.9			細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部はヘラ削り。	

## 7号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第167図 PL.87	1	土師器 坏	フク土 底部片				粗砂粒/良好/明 褐	外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面に墨書「足」。
第167図 PL.87	2	須恵器 坏	フク土 口縁部下位～底 部片	底	6.8		白色鈹物粒/還元 焰/黄灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	底部外面に墨書「 足」。
第167図 PL.84	3	土師器 甕	フク土 口縁部～胴部上 位1/3	口	21.7		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横 位のヘラナデ。	被熱。

## 8号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第167図	1	土師器 坏	フク土 1/6	口	11.6		粗砂粒・赤黒色 粘土粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削 り。内面はナデ。	
第167図 PL.87	2	土師器 坏	フク土 底部片				粗砂粒/良好/橙	外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面に墨書「足」。
第167図 PL.85	3	須恵器 坏	フク土 1/2	口 底	13.4 6.2	高 4.7	粗砂粒・灰黒色 粘土粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面摩耗。
第167図	4	須恵器 坏	フク土 口縁部下位～底 部片	底	6.1		粗砂粒・白色鈹 物粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第167図	5	須恵器 坏	フク土 口縁部下位～底 部1/3	底	5.4		赤黒色粘土粒/ 還元焰/灰白	軽量。ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無 調整。	
第167図 PL.85	6	須恵器 碗	フク土 体部～高台部	底	6.3	台 7.3	粗砂粒/還元焰・ 軽質/灰白	軽量。ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高 台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	内面摩耗。口縁 部欠損後も二次 利用か。
第167図	7	須恵器 碗	フク土 体～底部1/2	底	5.5	台 5.6	細砂粒/還元焰・ 酸化焰/ぎみ/浅 黄	軽量。ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高 台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	
第167図 PL.88	8	須恵器 碗	フク土 破片	底	8.0	台 6.8	粗砂粒/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転か)。高台部は付け高台。	内面に墨書「□」。
第167図 PL.85	9	灰釉 皿	フク土 1/4	口 底	15.4 6.4	高 台 2.7 6.2	精選/還元焰/灰 白	ロクロ整形(回転方向不明)。高台部は付け高台。内 面の施釉は明瞭。	光ヶ丘1号窯式 期か？

## 11号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第169図 PL.85・ 88	1	土師器 坏	フク土 底部				粗砂粒/良好/橙	外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面に墨書「□ 神カ」。
第169図	2	土師器 坏	フク土 口縁部片	口	11.8		粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削 り。内面はナデ。	
第169図	3	須恵器 皿	フク土 口縁部片	口	14.4		粗砂粒/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。	器面に炭素吸着。
第169図 PL.85	4	須恵器 坏	フク土 1/2	口 底	13.0 5.6	高 4.3	粗砂粒・赤黒色 粘土粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面摩滅。内面 に炭素吸着。
第169図	5	須恵器 坏	フク土 破片	口 底	11.8 5.8	高 3.3	粗砂粒・白色鈹 物粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第169図 PL.87	6	黒色土器 坏	フク土 口縁部片				粗砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転か)。内面は横位、斜横位のヘラ 磨き。	外面に墨書「足」。
第169図	7	須恵器 皿	フク土 体部～底部	底	6.6	台 6.2	粗砂粒/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部は粗雑な回転糸切り後、 高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面に炭素吸着。 黒色。
第169図	8	須恵器 碗	フク土 底部～高台部	底	6.6	台 6.0	黒色鈹物粒少/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台部 を貼付。その後、周縁部にナデ調整。底部中央にも ナデ。	内面摩耗。

## 13号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第169図	1	土師器 坏	フク土 破片	口 底	11.8 8.6		細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。型肌を残す。底部は 手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第169図 PL.85	2	須恵器 碗	フク土 口縁部上位～高 台部1/3	底	7.6	台 7.8	粗砂粒少/還元 焰・軟質/にぶい 橙	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台部 を貼付。その後、周縁部にナデ調整。底部中央にも 円状にナデ。	内面摩耗。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	高 台	厚				
第169図	3	須恵器 埴	フク土 口縁部下半～高 台部片	底	7.0	台	6.5	小礫・粗砂粒・結 晶片岩・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。高台部は付け高台。	
第169図	4	須恵器 甕	フク土 胴部片					粗砂粒/還元焰/ 灰	紐作り後、ロクロ整形。内外面とも横ナデ。	内面摩耗。二次 利用か。

14号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	高 台	厚				
第170図	1	土師器 杯	フク土 破片	口 底	11.8 4.4			粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第170図 PL.85	2	須恵器 皿	フク土 口縁部一部欠	口 底	13.3 7.7	高 台	3.4 7.0	粗砂粒/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面摩滅。
第170図 PL.85	3	須恵器 杯	フク土 2/3	口 底	13.6 7.2	高	3.8	粗砂粒少/還元 焰・やや軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第170図	4	須恵器 杯	フク土 口縁部下半～底 部	底	5.9			細砂粒・結晶片 岩/酸化焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	底部に炭素吸着。

19号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	高 台	厚				
第172図 PL.85	1	土師器 杯	底面上43cm 口縁部1/6欠	口 底	12.4 9.0	高	3.3	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部は斜位の指ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第172図 PL.87	2	土師器 杯	フク土 破片	口	11.9	高	2.6	粗砂粒/良好/橙	口縁部は狭い範囲に横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	体部外面に墨書「 足カ」。
第172図 PL.85	3	土師器 杯	フク土 1/3	口 底	12.2 8.2	高	3.5	粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部は斜位の指ナデ。底部は手持ちへら削り。型肌の部分を残す。内面はナデ。	器面一部に炭素 吸着。
第172図	4	土師器 杯	フク土 破片	口 底	12.3 8.2	高	2.9	粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部は斜位の指ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第172図	5	土師器 杯	フク土 破片	口	12.2			粗砂粒/良好/に ぶい橙	器形は歪んでいる。口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第172図	6	土師器 杯	フク土 破片	口 底	13.3 9.8			粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部は斜位の指ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第172図 PL.85	7	須恵器 杯	底面上29cm 1/2	口 底	13.2 6.0	高	3.6	赤黒色粘土粒/ 還元焰・軟質/灰 白	軽量。ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。底部の切り離し粗雑。内側から粘土を貼り足している。	器面摩滅。
第172図 PL.85	8	須恵器 埴	フク土 1/3	口 底	13.8 6.8	高 台	5.3 6.4	粗砂粒・雲母/酸 化焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面摩滅。一部 に炭素吸着。
第172図 PL.85	9	須恵器 埴	フク土 2/3	口 底	15.4 7.3	高 台	5.0 6.4	小礫・粗砂粒多/ 還元焰・軟質/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。高台部の整形は粗雑。	内面摩滅。
第172図 PL.85	10	須恵器 埴	フク土 1/3	口 底	15.0 5.6	高 台	5.3 5.2	粗砂粒/酸化焰 か/灰	軽量。ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、高台部を貼付。	器面に炭素吸着。 黒色味。摩滅。
第172図	11	須恵器 埴	フク土 1/4・高台部剥離	口 底	14.0 6.0			粗砂粒/酸化焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面摩滅。摩滅。 高台部剥離後も 使用か。
第172図	12	須恵器 埴	フク土 口縁部下半～高 台部2/3	底	6.8	台	6.0	白色・黒色鋳物 粒/還元焰・軟質 /灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面摩滅。
第172図	13	須恵器 杯か	フク土 把手部	長 幅	3.0 2.8	厚	0.8	白色・黒色鋳物 粒/還元焰/黄灰	両耳環の耳の部分。各面ともへら削りを施し、面を整えている。	
第172図	14	灰釉 皿	フク土 口縁部片	口	14.4			黒色鋳物粒少/ 還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転か)。口縁部中位に回転へら削り。内外面に施釉。刷毛掛け。遺構外7と同一個体か。	黒笹90号窯式期
第172図	15	土師器 台付甕	フク土 台部1/3	底	8.9			細砂粒・雲母/良 好/にぶい黄褐	外面は横ナデ。胴部内面はへらナデ。台部内面は横ナデ。	
第172図	16	土師器 甕	フク土 口縁部～胴部上 位片	口	19.0			粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位、斜横位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	器面に黒色の付 着物。

1号掘立柱建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	高 台	厚				
第173図	1	須恵器 杯	P1フク土 口縁部下位～底 部片	底	7.0			粗砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面摩滅。やや 炭素吸着。

## 2号掘立柱建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第175図	1	須恵器 坏	フク土 底部片	底	7.2		粗砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面はへら状工 具による線刻か。
第175図	2	須恵器 埴	フク土 体部~高台部片	底	8.0	台	8.8	黒色鈹物粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(左回転か)。高台部は底部切り離し後の 付け高台。

## 3号掘立柱建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第176図	1	土師器 坏	P3フク土 破片	口	10.4	高	3.3	粗砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削 り。内面はナデ。
第176図	2	須恵器 坏	P3フク土 口縁部片	口	13.8			粗砂粒/酸化焰/ 褐灰	ロクロ整形(右回転)。 器面に炭素吸着。

## 32号溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第178図 PL.85	1	須恵器 皿	底面上24cm 2/3	口 底	13.2 6.4	高 台	2.8 6.8	粗砂粒/白色鈹 物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を 貼付。その後、周縁部にナデ調整。

## 35号溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第178図 PL.85	1	須恵器 蓋	底面上21cm 1/4	口	13.8	高 摘	3.1 3.8	精選・黒色鈹物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部切り離し後、摘み部を 貼付。天井部中心寄りに回転へら削り。 内面摩耗。

## 11号溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第180図	1	土師器 坏	フク土 破片	口	11.1			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削 り。内面はナデ。
第180図	2	土師器 坏	フク土 口縁部1/3	口	11.7			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削 り。内面はナデ。
第180図	3	須恵器 小型壺	フク土 胴部中位片					黒色鈹物粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転か)。 内外面に自然釉 付着。

## 16号溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第185図 PL.85	1	須恵器 埴	フク土 2/3	口 底	11.6 6.8	高 台	4.2 7.0	黒色鈹物粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を 貼付。その後、周縁部にナデ調整。 内面摩耗。

## 17号溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第185図	1	土師器 坏	フク土 口縁部片	口	10.7			粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削 り。内面はナデ。
第185図 PL.85	2	須恵器 埴	フク土 口縁部上位~高 台部	底	7.2	台	6.4	粗砂粒・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を 貼付。その後、周縁部にナデ調整。
第185図 PL.85	3	須恵器 埴	フク土 口縁部下位~高 台部	底	7.4	台	6.7	粗砂粒・灰黒色 粘土粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を 貼付。その後、周縁部にナデ調整。 内面摩耗。
第185図	4	須恵器 甕	フク土 頸部~胴部上位 片					粗砂粒・白色鈹 物粒/還元焰/灰	紐作り後、ロクロ整形。

## 19号溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第185図 PL.85・ 87	1	土師器 坏	フク土 完形	口 底	12.1 8.7	高	3.5	粗砂粒/良好/橙	口縁部は狭い範囲で横ナデ。体部はナデ。底部は手 持ちへら削り。内面はナデ。 底部外面に墨書「 足」。
第185図	2	土師器 坏	フク土 破片	口 底	12.1 8.4	高	3.2	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削 り。内面はナデ。
第185図 PL.85	3	須恵器 埴	フク土 1/2	口 底	13.8 6.0			粗砂粒・赤黒色 粘土粒/酸化焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り。高台部は 付け高台であるが剥落。高台部剥落後も使用したと 考えられる。 内面の一部に炭 素吸着。
第185図	4	須恵器 埴	フク土 口縁部片	口	13.8			粗砂粒・雲母少/ 酸化焰/にぶい 赤褐	ロクロ整形(右回転)。
第185図	5	灰釉 埴	フク土 口縁部片	口	13.6			精選・黒色鈹物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転か)。 内外面施釉。

遺物観察表

21号溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第185図 PL.85	1	土師器 坏	フク土 1/3	口	12.8		粗砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	内面やや摩耗。
第185図	2	土師器 坏	フク土 1/4	口	13.9	高 3.4	粗砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第185図	3	須恵器 甕	フク土 胴部下～底部片	底	11.0		細砂粒/還元焰/ 灰	紐作り後、叩き整形。胴部は平行叩き目。底部はへら削り。胴部内面は横位のナデ。	

1号井戸

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第191図	1	土師器 坏	フク土 破片	口	12.8		粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。指頭圧痕をわずかに残す。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第191図	2	土師器 坏	フク土 口縁部片	口	12.0		粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第191図	3	須恵器 坏	フク土 口縁部片	口	13.7		粗砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。	
第191図 PL.85	4	須恵器 埴	底面上18cm 3/4	口 底	14.8 6.8	高台 4.8 6.2	粗砂粒/還元焰・ 酸化焰ぎみ/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面の一部に炭素吸着。内面摩耗。

29号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第193図	1	須恵器 蓋	フク土 摘み～天井部上 半片			摘 2.8	白色・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部を切り離し後、摘み部を貼付。天井部は中心寄りに回転へら削り。	

88号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第197図	1	須恵器 坏	フク土 口縁部～底部 1/4	口 底	13.7 8.0	高 3.0	黒色粘土粒/還 元焰/黄灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面摩耗。

115号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第199図 PL.85	1	土師器 坏	フク土 1/3	口	12.0	高 3.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	

205号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第204図	1	須恵器 蓋	フク土 口縁部～天井部 片	口	13.3		細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。天井部は中心寄りに回転へら削り。	外面の一部に炭素吸着。

507号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第205図 PL.85	1	石製品 砥石	フク土 4/5	長 幅	(11.2) 2.7	厚 重 2.0 76.8	砥沢石	背面側のみ使用され、残る裏面・両側面に平ノミ状の工具痕が残る。	截り砥石

672号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第208図 PL.85	1	石製品 石製品	床面上2cm 完形	長 幅	2.6 2.1	厚 重 0.5 4.6	蛇紋岩	全面に光沢を帯びる。表裏面の線条痕は多様だが、線条痕の方向性はまとまりがあり、研磨具として使用された可能性も否定できない。	小形扁平礫

8号ピット

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第209図 PL.85	1	須恵器 坏	フク土 1/2	口 底	10.5 6.1	4.0	粗砂粒・赤色粘 土粒/還元焰・軟 質/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面やや摩耗。

24号ピット

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第211図	1	須恵器 坏	フク土 口縁部下位～底 部	底	5.6		粗砂粒/酸化焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面摩耗。一部に炭素吸着。

41号ピット

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第213図	1	須恵器 坏	フク土 口縁部～底部片	口 底	13.0 6.7	高 3.8	粗砂粒/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面摩滅。



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第213図	2	灰釉 碗	フク土 口縁部片	口 底	14.4 6.4		精選・黒色鈹物 粒少/還元焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転か)。内外面とも施釉。刷毛掛け。光ヶ丘1号窯式期	

49号ピット

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第214図	1	土師器 甕	フク土 口縁部～肩部片	口	11.4		粗砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は横位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	器面に炭素吸着。

62号ピット

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第215図	1	須恵器 坏	フク土 底部片	底	6.5		粗砂粒/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面に炭素吸着。
第215図	2	須恵器 碗か	フク土 口縁部片	口	12.0		粗砂粒・結晶片岩 /還元焰・軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。	

64号ピット

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第215図 PL.87	1	黒色土器 坏	フク土 口縁部下半～底 部片	底	7.3		赤色粘土粒少/ 酸化焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。内面の口縁部は横位の、底部は一定方向のへら磨き。内面は黒色処理。	口縁部外面に墨書「足」。
第215図 PL.85	2	須恵器 碗	フク土 1/4	口 底	14.3 7.0	高 台	粗砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	

71号ピット

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第216図 PL.85	1	土師器 坏	フク土 1/4	口 底	11.6 8.0	高	2.7	粗砂粒・赤黒色 粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	

奈良・平安時代遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第217図 PL.85	1	土師器 坏	669号土坑 1/4	口 底	12.2 7.4	高	3.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第217図	2	土師器 坏	A区調査区 口縁部～底部片	口 底	12.9 9.5			粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第217図 PL.85	3	須恵器 蓋	A区調査区一括 1/2	口	16.0	高 摘	3.5 2.6	結晶片岩・黒色粘 土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部を切り離した後、摘み部を貼付。天井部は中心寄りに回転へら削り。	
第217図 PL.85	4	須恵器 碗	669号土坑 体部～高台部	底	6.8	高	6.6	白色鈹物粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転切り離した後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	
第217図	5	須恵器 碗	底面上27cm 口縁部下位～高 台部	底	7.4	台	7.0	粗砂粒・雲母/酸 化焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	外面の一部に炭素吸着。内面摩耗。
第217図	6	須恵器 碗	フク土 口縁部下位～高 台部	底	6.4	台	6.3	粗砂粒/酸化焰/ 橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	外面摩耗。
第217図 PL.85	7	灰釉 皿	伊3 1/3	口 底	14.4 7.0	高 台	2.8 6.4	精選・細砂粒少/ 還元焰/褐灰	ロクロ整形(右回転)。口縁部下位に回転へら削り。高台は底部切り離し後の付け高台。口縁部内外面に施釉。刷毛掛け。19号壜穴状遺構14と同一個体か。	黒笹90号窯式期
第217図	8	灰釉 瓶	A区調査区 口縁部片	口	12.1			精選/還元焰/灰 白	ロクロ整形(回転方向不明)。	内外面施釉。
第217図	9	灰釉 瓶	A区IV層フク土 胴部片					精選・白色鈹物 粒少/還元焰/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。	外面施釉。
第217図	10	灰釉 瓶	B区調査区 肩部片					精選・細砂粒少/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。外面は回転へら削り。	外面施釉。
第217図	11	土師器 甕	13住居南畠 口縁部～胴部中 位片	口	18.6			粗砂粒・軽石粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は斜横位、斜縦位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	細片からの器形復元の為、胴部が張る可能性あり。
第217図	12	土師器 甕	30住居掘方 口縁部～胴部上 位片	口	19.1			粗砂・細砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。下半部を中心に成形時の指ナデの痕跡を残す。胴部は横位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	器面に炭素吸着。

遺物観察表

第26表 中世・近世以降遺物観察表

2号溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第218図 PL.86	1	肥前陶器 鉢か皿	底面上12cm 底部1/2				橙	内面は白土を塗った後に透明釉を掛け、鉄釉と銅緑釉を装飾的にかける。外部外面下位以下は無釉。高台端部と底部内面に目痕残る。	江戸時代
第218図 PL.86	2	瀬戸・美濃陶器 徳利	底面上28cm 底部1/2				淡黄	底部外面回転篋削りで一部に糸切り痕残る。体部外面に鉛釉。内面は無釉。	江戸時代
第218図 PL.86	3	石製品 硯	フク土 1/2	長 幅	15.7 6.3	厚 重	(1.0) 190.9	頁岩	背面側の大部分が剥落して、海部の痕跡が残る程度。
第218図 PL.86	4	銅製品 煙管・雁首	フク土 一部欠損	長 幅	5.3 1.1	高 重	1.1 11.3		火皿を欠く雁首で腐食により表面が荒れ、ロウ付け部分は陥没している。内部に長さ3.2cm程羅字の破片が残っている。

3号溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第220図 PL.86	1	石製品 砥石	底面上2cm 4/5	長 幅	(9.6) 3.2	厚 重	1.9 95.5	砥沢石	背面側のみ使用面がある。右側面・裏面には歯歯状工具による整形痕が残る。左辺側を欠損。

280号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第224図 PL.86	1	肥前磁器 碗	底面上11cm 1/3	口 底	10.4 (4.2)	高	(5.6)	灰白	外面は雪輪梅樹木文か。釉に失透性があり、染付がやや不鮮明。

281号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第224図 PL.86	1	銅製品 煙管・吸い口	フク土 一部欠損	長 幅	8.7 1.4	高 重	1.4 8.5		羅字側および吸い口端部をわずかに劣化破損する。羅字側端しより表面2～2.5cmの長さで軸に沿って平行な溝が15本並ぶが内面は円形で鑿により掘られた装飾と考えられる。

中世・近世以降遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第225図 PL.86	1	龍泉窯系 青磁 碗	19号溝 体部片				灰白	外面に片彫りによる鎬蓮弁文。内外面青磁釉。	碗Ⅱ-b類。13世紀前後～前半
第225図 PL.86	2	中国磁器 白磁皿	確認面 口縁部片				白	口縁端部上面と口縁端部内面の釉を削り取る。口縁部は緩く外反。	皿Ⅸ類。13世紀後半～14世紀前半
第225図 PL.86	3	龍泉窯系 青磁 碗	試掘トレンチ 体部片				灰白	外面に片彫りによる鎬蓮弁文。内外面青磁釉。	碗Ⅱ-b類。13世紀前後～前半
第225図 PL.86	4	信楽陶器 煮繭鍋か 繰糸鍋	Ⅳ層 口縁部片				灰白	断面は灰白色、外面器表は橙色。口縁部は水平に近く折れる。内面から口縁端部上面に乳白色釉。口縁端部下面から体部外面は無釉。	近現代
第225図 PL.86	5	信楽陶器 煮繭鍋か 繰糸鍋	67区 口縁部片				灰白	断面は灰白色、外面器表は橙色。口縁部は水平に近く折れる。内面から口縁端部上面に乳白色釉。口縁端部下面から体部外面は無釉。	近現代
第225図 PL.86	6	信楽陶器 煮繭鍋	旧石器トレンチ 体部下位片				にぶい橙	断面はにぶい橙色、外面器表は橙色。底部から体部下位片。底部と体部境内面に湯穴を設け、内側に小孔を1列にあける。内面は乳白色釉で小孔部と底部内面中央は無釉。底部内面の無釉部分に目痕残る。底部外面は砂圧痕が多く、少量砂付着。	近現代
第225図 PL.86	7	信楽陶器 煮繭鍋か 繰糸鍋	5号溝 体部下位片				灰白	断面は淡黄色に近い灰白色、外面器表は橙色。内面は乳白色の釉。外面器表は無釉。下部に湯を通す管状部分の上部が残る。	近現代
第225図 PL.86	8	美濃陶器 瓶	2号住居 完形				白	ネジ蓋。口縁端部を除き透明釉。底部外面ゴム印による「岐301」?のゴム印判染付。	昭和16年～20年頃
第225図 PL.86	9	ガラス 活桑器瓶	2号住居 完形				緑	外面から口縁端部上面に型痕。体部は八角形で腰部は括れる。ネジ蓋。体部に「實用新案」「第二五六五七五號」「養蚕活桑器」の浮き文字。	昭和10年代
第225図 PL.86	10	ガラス 瓶	F2旧石器トレンチ 完形				透明	機械式栓。体部から頸部外面に型痕。体部外面に「前橋北曲輪町」「無菌」「全乳」「赤城牧場」「電話四六」の浮き文字。北曲輪町とあることから、赤城牧場前橋搾乳所の全乳瓶。	明治8年～大正10年

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長 幅	厚 重	重 量				
第225図 PL.86	11	石製品 砥石	旧石器トレンチ 56-B-19拡張 部 完形	長 幅	13.1 2.8	厚 重	3.8 155.9	砥沢石	背面側のみ使用。著しく研ぎ減り、斜向する粗い線 条痕が残る。両側面および裏面側には櫛歯状工具に よる整形痕がある。	切り砥石
第225図 PL.86	12	石造物 台座	表採 4/5	高 幅	13.8 27.3	奥 重	26.7 14650.0	粗粒輝石安山岩	正面・側面に幅7mm前後の斜位工具痕が残る。上面 は摩耗して工具痕は不明瞭だが、下面側は粗く整形、 浅く窪む。	
第225図 PL.86	13	石製品 砥石	26号住居 上端部破片	長 幅	(3.6) 4.0	厚 重	1.4 32.1	変質流紋岩	裏面側を除く各面を使用面とする。形状は板状を呈 し、身は薄い。下半部を大きく欠損する。	切り砥石
第225図 PL.86	14	銅製品 煙管・雁 首	25号住居 一部欠損	長 幅	5.2 1.1	高 重	1.2 13.7		小型火皿を持つ雁首で、火皿下部にタバコの残渣が 残る。表面は腐食により斑に陥没する。	
第225図 PL.86	15	銅製品 煙管・吸 い口	フク土 完形	長 幅	6.3 1.1	高 重	1.1 7.7		青黒色に錆化した吸い口で、羅宇側端0.5mmに細い 沈線が廻る。吸い口側端部でとっくり状に広がる。	
第225図 PL.86	16	銅製品	調査区一括 一部欠損	長 幅	8.3 1.0	高 重	0.2 7.1		幅9mm厚さ1.5mm程の細長い銅板で端近くに両側に 関のような段があり端部へ向かい急に細くなり茎の 様な形状を示す。他端は錆に覆われるが破断面とみ られる。この端から2cm付近に直交する幅2mm隆起 が見られその裏側では0.5mm程の亀裂となっている。	
第225図 PL.86	17	銅製品 銭貨	フク土 完形	長 幅	3.2 4.9	高 重	0.25 18.26		天保通寶、全体に遺存状態は良いが外縁の一部に錆 膨れがみられる。	
第225図 PL.86	18	銅製品 銭貨	フク土 完形	長 幅	2.8 2.8	高 重	0.1 4.63		寛永通寶、外縁・文字・郭とも彫は浅めだが明瞭。	
第225図 PL.86	19	銅製品 銭貨	49号住居 約1/2	長 幅	2.1 1.8	高 重	0.1 1.28		銭破片で文字は〇〇永宝で寛永通寶とみられる。外 縁・文字・郭とも彫は浅いが明瞭、裏面はより彫が 浅くなるが鮮明。端部は破断し錆に覆われている。	
第225図 PL.86	20	銅製品 銭貨	56-B-19拡張部 一部欠損	長 幅	2.1 2.1	高 重	0.05 1.42		銭種不明、非常に薄く平坦で、縁・文字・郭ともほ とんど区別できない、孔の輪郭は四角だが凹凸が多 く菱形に近い。	

第27表 竪穴住居一覧表

番号	位置(グリッド) 区 - -	重複関係	形状	規模(m)				主軸方位	炉	カマド(m)				時期
				長軸	短軸	残存深度	面積 (㎡)			位置	全長	幅	燃焼 部幅	
1	55 - J・K - 8~10	1号土坑と重複	正方形	6.54	6.34	0.30	41.78	N-34° -W	0.87×0.60 ×0.04					古墳 中期：5世紀 中頃
2	55 - L - 9・10		長方形	3.27	2.15	0.11	7.06	N-95° -E		東壁	0.85	0.50	0.30	平安 10世紀前半
3	55 - M・N - 9		長方形	3.35	2.35	0.27	7.14	N-72° -E		東壁	1.02	0.65	0.32	平安 10世紀前半
4	55 - M・N - 12・13		長方形	3.52	3.06	0.40	9.66	N-98° -E		東壁	1.22	0.30	0.40	平安 10世紀前半
5	55 - O - 9	6号住居と重複	長方形	2.85	2.30	0.46	(6.42)	N-100° -E		東壁	-	-	-	平安 9世紀後半
6	55 - N・O - 9・10	5号住居、681号土坑と重複	正方形	5.78	5.59	0.59	29.76	N-96° -E		東壁	1.27	0.63	0.50	平安 8世紀後半
7	55 - N・O - 10・11	2号掘立柱建物P3・P4、 203号・204号・206号土坑と重複	長方形	3.55	2.78	0.28	10.20	N-100° -E		東壁	1.02	0.49	0.40	平安 10世紀中頃
8	55 - N・O - 12・13		正方形	3.64	4.01	0.49	11.38	N-90°		確認されず				平安 9世紀後半
9	55 - Q・R - 11・12	51号土坑、1号溝と重複	長方形	4.98	4.19	0.63	18.34	N-96° -E		東壁	1.53	0.24	0.50	平安 9世紀前半～ 中頃
10	55 - P・Q - 13		正方形	4.03	3.99	0.58	13.24	N-96° -E		東壁	1.00	0.75	0.40	平安 10世紀中頃
11	55 - P・Q - 11~13	1号掘立柱建物P7、3号 掘立柱建物P1、96号土坑、 1号溝と重複	長方形	6.73	6.45	0.82	36.74	N-100° -E		東壁	1.31	0.35	0.60	平安 8世紀後半
12	55 - R - 9・10	13・14号・15号住居と重複	長方形か	(2.85)	(2.04)	0.32	(5.39)	N-90°		確認されず				平安 9世紀中頃～ 後半
13	55 - P~R - 9・10	12号住居、35号・201号・ 202号・207号土坑と重複	長方形	5.98	5.17	0.68	28.80	N-90°		東壁	1.68	0.56	0.60	平安 9世紀末頃
14	55 - R・S - 9・10	12号・16号住居と重複	長方形	4.89	4.41	0.64	19.14	N-70° -E		東壁	1.46	0.49	0.50	平安 9世紀中頃
15	55 - Q・R - 9	12号住居と重複	隅丸方形 か	(1.92)	(1.02)	0.44	(1.43)	N-67° -W		確認されず				平安 9世紀前半～ 中頃
16	55 - S - 10	14号住居と重複	方形また は長方形か	(1.98)	(1.40)	0.57	(2.70)	N-87° -E		確認されず				平安 8世紀後半
17	55 - R・S - 18		長方形	2.96	2.78	0.15	7.60	N-10° -E		確認されず				平安 不明
18	55・56 - T・A - 19・20	49号住居と重複	不定形	(3.76)	(2.00)	(0.29)	(6.02)	N-82° -W		確認されず				平安 9世紀中頃

遺構一覧表

番号	位置(グリッド)		重複関係	形状	規模(m)				主軸方位	炉	カマド(m)				時期		
	区	-			長軸	短軸	残存深度	面積(m <sup>2</sup> )			位置	全長	幅	燃焼部幅			
19	56	B・C	18・19	672号土坑と重複	長方形	3.91	3.16	0.41	12.16	N-169° -E		南壁	1.14	0.70	0.80	平安	9世紀後半
20	55・56	Q・R	20・1		長方形	(4.47)	3.08	0.45	(11.73)	N-95° -E		東壁	1.99	0.53	0.50	平安	9世紀中頃
21	65・66	T・A	1・2		長方形	3.71	3.66	0.27	12.74	N-100° -E		東壁	1.05	0.46	-	平安	10世紀中頃
22	55・56	T~B	14・15	3号・4号竪穴状遺構、14号・16号~18号・20号溝、142号・152号土坑、35号・68号ピットと重複	正方形	5.59	5.29	0.86	30.11	N-50° -E		東壁	1.53	0.59	-	古墳	後期：7世紀後半
23	67	H・I	6・7		長方形	4.86	3.71	0.47	17.95	N-90°		東壁	1.33	0.52	-	平安	9世紀中頃
24	67	H・I	8・9	282号・283号土坑と重複	不明	(4.86)	4.13	(0.18)	(18.34)	N-14° -E	1.22×0.92×0.05					弥生	中期前半
25	67	E・F	7・8	218号土坑と重複	長方形か	5.26	(4.19)	0.12	(21.17)	N-21° -W	確認されず					弥生	中期前半~後半
26	67	C・D	6・7		不明	5.61	5.08	0.06	23.08	N-15° -E	0.99×0.89×0.23					縄文	中期：加曽利E3式
27	67	E~G	11・12	41号住居、233号・235号・237号・241号~244号・251号・274号・285号・286号・337号土坑・1号配石と重複	不明	(6.37)	(5.46)	0.11	(26.10)	N-66° -W	確認されず					縄文	中期：加曽利E3式
28	55	L・M	18	194号土坑と重複	長方形	2.71	(2.68)	0.21	(6.40)	N-105° -E		東壁	0.93	0.38	0.40	平安	10世紀前半
29	67	D・E	8・9	36号住居、2号溝、385号土坑と重複	長円形	4.40	(4.07)	0.09	(6.90)	N-61° -W	0.31×0.27×0.11					縄文	中期：加曽利E3式
30	67	H・I	9~11	42号住居、2号溝と重複	不明	6.32	(5.23)	0.14	(33.05)	N-6° -E	確認されず					縄文	不明
31	67	G・H	9・10	35号住居、473号土坑と重複	長円形	3.88	(3.66)	0.18	12.54	N-35° -E	確認されず					縄文	中期：加曽利E3式
32	67	G・H	11・12	293号・294号・313号土坑と重複	不明	6.00	(5.82)	0.20	(27.60)	N-53° -E	確認されず					縄文	中期：加曽利E3式
33	67	G・H	12・13	34号住居、298号・302号・479号・675号~680号土坑と重複	長円形	4.43	(4.20)	0.15	(16.13)	N-0°	確認されず					縄文	中期：加曽利E3式
34	67	G	12・13	33号住居、322号・326号・328号・336号・479号・492号土坑と重複	不明	(3.98)	(3.00)	(0.05)	(15.02)	N-73° -W	確認されず					縄文	中期：加曽利E3式
35	67	G・H	9・10	31号住居と重複	長円形か隅丸方形	4.39	(3.32)	0.19	(14.38)	N-24° -E	確認されず					縄文	中期：加曽利E3式
36	67	D・E	9・10	29号住居、2号溝、384号・385号土坑と重複	長円形	4.89	(4.50)	0.07	(16.46)	N-69° -W	確認されず					縄文	中期
37	67	D	10	36号住居P21、404号・406号・411号・441号土坑と重複	長円形	3.94	2.82	0.05	9.54	N-88° -E	確認されず					縄文	中期：加曽利E3式
38	67	C・D	9・10	483号土坑と重複	円形	4.26	3.72	0.11	13.37	N-46° -E	確認されず					縄文	中期：加曽利E3式
39	67	E・F	4	503号・682号土坑と重複	不定形	3.76	2.46	0.24	8.31	N-64° -E	確認されず					弥生	中期前半
40	55	R	16・17	18号竪穴状遺構と重複	不定形	3.23	(2.79)	0.82	7.71	N-1° -E		確認されず				平安	9世紀前半
41	67	E~G	10・11	27号住居、1号配石、237号・240号~244号・250号・273号・274号・286号・497号土坑と重複	不明	6.44	(3.64)	0.09	23.85	N-58° -W	確認されず					縄文	中期：加曽利E3式
42	67	I	10・11	30号住居と重複	不明	(4.22)	(1.65)	0.23	(4.75)	N-18° -E	確認されず					縄文	前期：諸磯c式
43	67	O・P	7・8		不明	(4.00)	(3.82)	-	(9.61)	不明	確認されず					縄文	不明
44	67	P・Q	5		長方形	2.45	1.83	0.22	4.22	N-90°		東壁	0.36	0.35	-	平安	10世紀代
45	56	D	18・19	658号土坑と重複	長方形	4.21	2.66	0.42	10.30	N-90°		東壁	1.29	0.50	0.40	平安	9世紀後半
46	56	C・D	12・13	1号道と重複	長方形	3.78	3.37	0.25	11.68	N-9° -W		確認されず				平安	9世紀中頃~後半
47	56	E・F	17・18	634号・644号土坑と重複	長方形	2.96	2.08	0.05	5.78	N-34° -E		確認されず				平安	不明
48	56	I	14・15		長方形	2.80	2.24	0.42	5.31	N-51° -W	0.89×0.87×0.06					弥生	中期中葉~後半
49	55・56	T・A	19・20	18号住居と重複	不定形	(3.80)	(2.80)	(0.23)	(10.70)	N-90°		東壁	1.02	0.28	-	平安	9世紀中頃以降
50	56	A・B	16~18	51号・52号住居と重複	正方形	(6.30)	(4.50)	(0.55)	(27.23)	N-80° -E		東壁	1.45	0.69	0.65	平安	10世紀前半
51	56	A・B	16~18	50号・52号住居、35号溝、657号土坑と重複	長方形	(7.30)	(6.10)	(0.45)	(41.30)	N-85° -E		東壁	1.65	0.63	0.70	平安	9世紀後半
52	56	A・B	16~18	50号・51号住居と重複	正方形	(7.50)	(7.10)	(0.35)	(47.02)	N-90°		東壁	1.35	0.91	0.60	平安	9世紀後半

第28表 土坑一覧表

番号	位置(ｸﾞｯﾄﾞ) 区 - -	形状	長軸方位	規模(m)			備考	挿図番号	時代
				長	幅	深			
1	55 - K - 9	楕円形	N-68°-E	1.14	0.95	0.09		第224図	近世
2	55 - N - 8	円形	N-4°-E	1.10	1.04	0.22		第192図	平安
3	55 - 0 - 9	楕円形	N-76°-E	0.43	0.38	0.09	1号溝と重複	第192図	平安
4	55 - 0 - 9	楕円形	N-58°-E	0.41	0.37	0.23		第192図	平安
5	55 - 0 - 10	不整形	N-87°-E	2.48	(0.85)	0.33	1号溝と重複	第192図	平安
6	55 - 0 - 10	不整形	N-77°-W	1.20	0.35	0.22		第192図	平安
7	55 - 0 - 10	楕円形	N-74°-W	1.03	0.81	0.30		第192図	平安
8	55 - P - 10	楕円形	N-44°-E	0.44	0.36	0.21		第192図	平安
9	55 - P - 10	楕円形	N-29°-W	0.92	0.73	0.17		第192図	平安
10	55 - N - 9	楕円形	N-7°-E	0.51	0.38	0.20		第192図	平安
11	55 - 0 - 11	楕円形	N-90°	0.70	0.69	0.16		第192図	平安
12	55 - 0 - 11	隅丸長方形	N-87°-W	1.79	1.02	0.33	1号掘立柱建物P2と重複	第192図	平安
13	55 - P - 10	楕円形	N-72°-E	0.56	0.43	0.17		第59図	縄文
14	55 - 0 - 11	不整形	N-39°-W	0.78	(0.39)	0.23	2号掘立柱建物P6と重複	第192図	平安
15	55 - P - 9	楕円形	N-57°-W	0.35	0.27	0.20		第192図	平安
16	55 - N - 11	隅丸方形	N-66°-W	0.82	0.78	0.27		第192図	平安
17	55 - N - 12	楕円形	N-5°-E	0.50	0.44	0.18		第192図	平安
18	55 - N - 12	楕円形	N-15°-E	0.69	0.50	0.17		第193図	平安
19	55 - 0 - 12	円形	N-33°-W	0.46	0.41	0.21		第193図	平安
20	55 - 0 - 11	楕円形	N-78°-E	0.47	0.43	0.28		第193図	平安
21	55 - 0 - 10	楕円形	N-44°-W	0.35	0.31	0.21		第193図	平安
22	55 - P - 9	楕円形	N-16°-E	0.34	0.30	0.07		第193図	平安
23	55 - 0 - 12	楕円形	N-83°-W	0.72	0.63	0.36		第193図	平安
24	55 - P - 11	不整形	N-4°-E	0.42	(0.25)	0.07	25号土坑と重複	第193図	平安
25	55 - P - 11	不整形	N-43°-E	0.47	0.29	0.14	24号土坑と重複	第193図	平安
26	55 - P - 11	隅丸方形	N-85°-E	0.32	0.31	0.09		第193図	平安
27	55 - 0 - 11	楕円形	N-55°-W	0.40	0.26	0.12		第193図	平安
28	55 - Q - 10	楕円形	N-58°-E	0.34	0.23	0.10	40号土坑と重複	第193図	平安
29	55 - P - 11	楕円形	N-29°-W	0.97	0.76	0.24	1号掘立柱建物P6と重複	第193図	平安
30	55 - P - 9	楕円形	N-7°-E	0.66	0.43	0.09		第193図	平安
31	55 - P - 11	楕円形	N-50°-W	0.67	0.47	0.08		第193図	平安
32	55 - P - 11	楕円形	N-73°-W	0.79	0.64	0.12		第193図	平安
33	55 - P - 10	円形	N-16°-E	0.37	0.34	0.19		第193図	平安
34	55 - P - 10	隅丸方形	N-35°-W	0.95	0.91	0.24		第194図	平安
35	55 - Q - 10	不整形	N-83°-E	(0.41)	(0.33)	0.13	13号住居と重複	第193図	平安
36	55 - Q - 11	円形	N-19°-E	0.48	0.44	0.15		第194図	平安
37	55 - P - 9	不整形	N-16°-E	(1.24)	0.95	0.20		第194図	平安
38	55 - Q - 9	楕円形	N-73°-E	0.32	0.29	0.24		第194図	平安
39	55 - Q - 11	楕円形	N-41°-W	0.34	0.27	0.17		第194図	平安
40	55 - Q - 10	不整形	N-59°-E	0.47	(0.35)	0.14	28号土坑と重複	第194図	平安
41	55 - Q - 11	隅丸方形	N-68°-E	0.36	0.31	0.21	33号溝と重複	第194図	平安
42	55 - Q - 11	円形	N-5°-E	0.22	0.21	0.15		第194図	平安
43	55 - Q - 11	楕円形	N-35°-E	0.80	0.75	0.28		第194図	平安
44	55 - Q - 11	不整形	N-47°-E	(0.40)	0.40	0.14	45号土坑と重複	第194図	平安
45	55 - Q - 11	楕円形	N-82°-W	0.41	0.32	0.18	44号土坑と重複	第194図	平安
46	55 - Q - 11	円形	N-0°	0.26	0.26	0.13		第194図	平安
47	55 - Q - 11	隅丸方形	N-43°-E	1.05	0.95	0.27		第194図	平安
48	55 - Q - 11	楕円形	N-70°-W	0.44	0.34	0.14		第194図	平安
49	55 - Q - 11	円形	N-24°-W	0.41	0.38	0.07	3号ピットと重複	第194図	平安
50	55 - Q - 11	隅丸方形	N-24°-E	0.38	0.38	0.14		第194図	平安
51	55 - Q - 11	不整形	N-8°-W	(0.45)	(0.30)	0.25	9号住居、3号ピットと重複	第194図	平安
52	55 - Q - 11	楕円形	N-67°-E	0.43	0.38	0.31		第195図	平安
53	55 - Q - 11	隅丸方形	N-74°-E	0.35	0.31	0.14		第195図	平安
54	55 - 0 - 8	隅丸長方形	N-87°-W	1.28	1.07	0.29		第195図	平安
55	55 - Q - 10	楕円形	N-78°-W	0.28	0.22	0.13		第195図	平安
56	55 - Q - 11	楕円形	N-90°	0.46	0.34	0.28		第195図	平安
57	55 - Q - 11	楕円形	N-12°-W	0.52	0.47	0.17		第195図	平安
58	55 - Q - 13	隅丸方形	N-3°-W	1.37	1.22	0.58		第195図	平安
59	55 - Q - 13	楕円形	N-87°-W	1.08	0.94	0.31		第195図	平安
60	55 - Q - 11	楕円形	N-7°-E	0.97	0.96	0.41	61号土坑、5号ピットと重複	第195図	平安
61	55 - Q - 11	不整形	N-0°	0.27	0.26	0.19	60号土坑と重複	第195図	平安
62	55 - Q - 11	楕円形	N-87°-E	0.68	0.61	0.32		第195図	平安
63	55 - Q - 11	円形	N-0°	0.34	0.30	0.14		第195図	平安
64	55 - R - 11	楕円形	N-50°-E	0.66	0.58	0.31		第196図	平安
65	55 - R - 11	楕円形	N-35°-E	0.36	0.27	0.08		第196図	平安
66	55 - R - 11	不整形	N-45°-E	(0.80)	0.98	0.05		第196図	平安
67	55 - R - 11	不整形	N-7°-E	0.43	(0.30)	0.09		第196図	平安
68	55 - R - 11	不整形	N-20°-E	0.80	0.57	0.21		第196図	平安

## 遺構一覧表

番号	位置(列フド)		形状	長軸方位	規模(m)			備考	挿図番号	時代
	区	-			長	幅	深			
69	55	- R - 11	不整形	N-2°-W	1.01	0.81	0.35		第196図	平安
70	55	- R - 11	楕円形	N-9°-W	1.05	0.74	0.30		第196図	平安
71	55	- R - 11	隅丸方形	N-87°-W	0.44	0.43	0.07		第196図	平安
72	55	- R - 11	楕円形	N-57°-W	1.10	0.75	0.26	92号土坑と重複	第196図	平安
73	55	- R - 12	楕円形	N-83°-E	0.38	0.33	0.41	25号溝と重複	第196図	平安
74	55	- R - 12	楕円形	N-80°-E	0.71	0.64	0.20		第196図	平安
75	55	- R - 12	楕円形	N-18°-E	0.68	0.37	0.38		第196図	平安
76	55	- R - 12	楕円形	N-14°-E	0.63	0.50	0.06		第196図	平安
77	55	- R - 12	不整形	N-60°-W	(1.05)	0.81	0.27	25号溝と重複	第196図	平安
78	55	- R - 12	楕円形	N-10°-E	0.59	0.52	0.07	94号土坑と重複	第196図	平安
79	55	- R - 12	円形	N-42°-E	0.38	0.36	0.04		第196図	平安
80	55	- R - 10	円形	N-7°-W	0.40	0.38	0.08		第197図	平安
81	55	- R - 10	楕円形	N-58°-W	0.61	0.48	0.06		第197図	平安
82	55	- S - 11	楕円形	N-33°-W	0.62	0.42	0.08		第197図	平安
83	55	- S - 11	隅丸方形	N-14°-W	0.42	0.35	0.08		第197図	平安
84	55	- S - 11	楕円形	N-60°-E	0.49	0.37	0.06		第197図	平安
85	55	- S - 11	楕円形	N-2°-W	0.68	0.53	0.16		第197図	平安
86	55	- S - 13	楕円形	N-0°	0.82	0.57	0.23		第197図	平安
87	55	- S - 10	不整形	N-0°	(0.55)	0.45	0.09		第197図	平安
88	55	- S - 13	隅丸長方形	N-10°-E	1.46	0.72	0.41	7号ピットと重複	第197図	平安
89	55	- S - 10	円形	N-28°-E	0.35	0.35	0.17		第197図	平安
90	55	- S - 13	楕円形	N-41°-E	0.53	0.48	0.17		第197図	平安
91	55	- S - 13	隅丸方形	N-28°-E	1.08	0.98	0.29		第197図	平安
92	55	- R - 12	不整形	N-41°-E	(0.75)	0.57	0.10	72号土坑と重複	第197図	平安
93	55	- S - 13	不整形	N-50°-E	0.83	0.60	0.35		第197図	平安
94	55	- R - 12	楕円形	N-83°-E	0.31	0.27	0.06	78号土坑と重複	第197図	平安
95	55	- S - 13	楕円形	N-15°-E	0.82	0.58	0.24		第198図	平安
96	55	- P - 12	不整形	N-0°	(0.84)	0.88	0.43	11号住居内	第198図	平安
97	55	- S - 13	楕円形	N-69°-W	0.72	0.66	0.19		第198図	平安
98	55	- T - 13	楕円形	N-71°-W	0.46	0.40	0.18		第198図	平安
99	55	- T - 13	楕円形	N-43°-E	0.61	0.45	0.28	24号ピットと重複	第198図	平安
100	55	- O - 10	円形	N-0°	0.16	0.16	0.04		第198図	平安
101	55	- O - 10	円形	N-16°-W	0.22	0.21	0.07		第198図	平安
102	55	- T - 13	円形	N-17°-W	0.40	0.36	0.21		第198図	平安
103	55	- T - 13	円形	N-4°-W	0.38	0.35	0.18		第198図	平安
104	55	- S - 13	不整形	N-83°-E	(1.00)	(0.50)	0.23	23号溝と重複	第198図	平安
105	55	- P - 10	不整形	N-78°-W	0.74	(0.27)	0.19		第198図	平安
106	55	- S - 12	楕円形	N-12°-E	0.55	0.41	0.21		第198図	平安
107	55	- S - 12	楕円形	N-8°-W	0.53	0.43	0.39	11号ピットと重複	第198図	平安
108	55	- T - 12	楕円形	N-63°-W	0.76	0.54	0.19		第198図	平安
109	55	- T - 12	円形	N-2°-E	0.31	0.31	0.19		第198図	平安
110	55	- T - 12	円形	N-87°-E	0.63	0.62	0.09		第198図	平安
111	55	- T - 12	円形	N-76°-W	0.47	0.45	0.11		第199図	平安
112	55	- T - 10	楕円形	N-5°-W	0.92	0.52	0.30	148号・151号土坑と重複	第199図	平安
113	55	- Q - 11	楕円形	N-53°-E	0.31	0.24	0.11		第199図	平安
114	56	- A - 13	不整形	N-4°-E	0.30	(0.12)	0.07		第59図	縄文
115	55	- T - 12	楕円形	N-66°-E	1.28	0.89	0.17		第199図	平安
116	55	- T - 11	不整形	N-2°-E	1.85	(1.17)	0.23	22号溝と重複	第199図	平安
117	55	- S - 14	円形	N-16°-W	0.28	0.27	0.21		第199図	平安
118	56	- A - 13	楕円形	N-20°-W	0.30	0.28	0.10		第59図	縄文
119	55	- T - 11	楕円形	N-2°-E	0.67	0.61	0.10		第199図	平安
120	55	- T - 12	楕円形	N-66°-E	0.96	0.70	0.05		第199図	平安
121	55	- T - 12	楕円形	N-83°-W	0.65	0.50	0.18		第199図	平安
122	55	- T - 13	楕円形	N-7°-E	0.63	0.55	0.14		第199図	平安
123	55	- S - 11	円形	N-50°-W	0.43	(0.30)	0.09		第199図	平安
124	55	- S - 11	楕円形	N-0°	0.30	0.28	0.07		第199図	平安
125	55	- T - 11	不整形	N-46°-E	(0.80)	0.49	0.23	127号・143号土坑と重複	第199図	平安
126	55	- T - 13	円形	N-16°-E	0.56	0.51	0.16		第199図	平安
127	55	- T - 11	楕円形	N-46°-E	0.53	0.44	0.15	125号・143号土坑と重複	第199図	平安
128	55	- T - 13	楕円形	N-60°-W	0.92	0.81	0.33		第199図	平安
129	56	- A - 12	楕円形	N-27°-E	1.00	0.70	0.18	130号土坑と重複	第200図	平安
130	56	- A - 12	楕円形	N-4°-W	1.19	0.83	0.40	129号土坑、17号ピットと重複	第200図	平安
131	56	- A - 12	楕円形	N-20°-E	0.78	0.50	0.18		第200図	平安
132	56	- A - 12	楕円形	N-3°-E	1.19	0.98	0.31		第200図	平安
133	56	- A - 12	楕円形	N-33°-E	1.06	0.75	0.22		第200図	平安
134	56	- A - 12	隅丸長方形	N-58°-E	1.20	0.84	0.07		第200図	平安
135	56	- A - 12	楕円形	N-66°-E	0.86	0.77	0.15		第200図	平安
136	56	- A - 12	円形	N-70°-E	0.54	0.51	0.16		第200図	平安
137	56	- A - 13	楕円形	N-35°-E	0.51	0.48	0.09		第200図	平安

番号	位置(列フド)		形状	長軸方位	規模(m)			備考	挿図番号	時代
	区	-			長	幅	深			
138	56	- A - 13	円形	N-22°-E	0.56	0.55	0.18		第200図	平安
139	56	- B - 11	不整形	N-3°-W	0.85	(0.65)	0.08	1号道と重複	第200図	平安
140	56	- A - 13	楕円形	N-39°-E	0.62	0.51	0.21		第200図	平安
141	56	- A - 14	楕円形	N-29°-E	0.70	0.59	0.18	19号溝と重複	第201図	平安
142	56	- A - 14	楕円形	N-33°-W	0.61	0.47	0.24	22号住居と重複	第201図	平安
143	55	- T - 11	不整形	N-72°-W	(0.45)	0.43	0.31	125号・127号土坑と重複	第201図	平安
144	55	- T - 10	楕円形	N-70°-E	0.71	0.61	0.18	145号土坑と重複	第201図	平安
145	55	- T - 10	楕円形	N-9°-W	1.06	0.70	0.18	144号・146号土坑と重複	第201図	平安
146	55	- T - 10	不整形	N-10°-W	(0.53)	0.44	0.14	145号・167号土坑と重複	第201図	平安
147	56	- B - 15	楕円形	N-19°-W	0.53	0.48	0.40	34号ピットと重複	第201図	平安
148	55	- T - 10	楕円形	N-26°-W	0.85	0.63	0.34	112号土坑と重複	第201図	平安
149	56	- B - 16	楕円形	N-35°-W	0.80	0.53	0.12		第201図	平安
150	56	- A - 16	楕円形	N-13°-E	0.36	0.31	0.11		第201図	平安
151	55	- T - 10	不整形	N-30°-E	1.68	0.98	0.25	112号土坑と重複	第201図	平安
152	56	- A - 15	不整形	N-77°-E	(0.70)	(0.45)	0.14	3号・4号竪穴状遺構、14号溝、35号ピットと重複	第201図	平安
153	55	- M - 18	楕円形	N-20°-E	0.42	0.37	0.11		第202図	平安
154	55	- M - 18	隅丸方形	N-7°-W	0.43	0.42	0.03		第202図	平安
155	56	- A - 16	円形	N-25°-E	0.49	0.47	0.25		第202図	平安
156	56	- A - 16	楕円形	N-50°-E	0.41	0.34	0.26		第202図	平安
157	56	- A - 15	不整形	N-8°-E	0.51	(0.36)	0.24	158号土坑と重複	第202図	平安
158	55	- T - 15	楕円形	N-20°-W	0.61	0.51	0.32	157号土坑と重複	第202図	平安
159	55	- T - 16	楕円形	N-29°-E	0.82	0.56	0.14	32号溝	第202図	平安
160	55	- T - 16	楕円形	N-87°-E	0.40	0.33	0.08		第202図	平安
161	56	- A - 16	不整形	N-75°-W	(0.50)	0.69	0.31	4号溝、19号ピットと重複	第202図	平安
162	55	- T - 16	円形	N-25°-E	0.35	0.35	0.07	32号溝	第202図	平安
163	55	- T - 11	楕円形	N-87°-E	0.56	0.41	0.08		第202図	平安
164	55	- T - 16	円形	N-33°-E	0.51	0.49	0.06		第202図	平安
165	55	- T - 14	不整形	N-80°-W	(0.25)	0.29	0.12		第202図	平安
166	55	- T - 14	楕円形	N-28°-W	0.71	0.71	0.28		第202図	平安
167	55	- T - 10	楕円形	N-90°	0.48	0.31	0.20	146号土坑と重複	第201図	平安
168	55	- T - 10	円形	N-50°-E	0.35	0.31	0.09		第202図	平安
169	55	- T - 11	不整形	N-68°-W	0.36	(0.17)	0.09		第202図	平安
170	55	- T - 11	不整形	N-70°-W	0.46	(0.21)	0.08		第202図	平安
171	55	- S - 14	楕円形	N-87°-E	1.09	0.89	0.12	16号溝と重複	第203図	平安
172	55	- R - 13	隅丸長方形	N-6°-E	1.02	0.63	0.13		第203図	平安
173	55	- R - 13	隅丸方形	N-0°	0.22	0.22	0.22		第203図	平安
174	56	- A - 11	隅丸方形	N-71°-W	0.57	0.53	0.14		第203図	平安
175	55	- T - 12	楕円形	N-57°-E	0.40	0.28	0.07		第203図	平安
176	55	- Q - 13	楕円形	N-7°-E	1.37	0.96	0.22		第203図	平安
177	55	- O - 13	楕円形	N-34°-W	1.01	0.96	0.25		第203図	平安
178	55	- R - 12	隅丸方形	N-5°-W	0.39	0.34	0.11		第203図	平安
179	55	- R - 12	楕円形	N-51°-W	0.28	0.23	0.08		第203図	平安
180	55	- R - 12	隅丸方形	N-0°	0.31	0.30	0.09		第203図	平安
181	55	- Q - 11	円形	N-9°-E	0.28	0.26	0.18		第203図	平安
182	55	- Q - 11	楕円形	N-28°-W	0.27	0.22	0.15		第203図	平安
183	55	- S - 10	円形	N-33°-W	0.23	0.20	0.08		第203図	平安
184	55	- R - 12	円形	N-0°	0.12	0.12	0.08		第203図	平安
185	55	- R - 10	楕円形	N-63°-E	0.51	0.36	0.15		第203図	平安
186	55	- T - 13	楕円形	N-8°-W	0.57	0.33	0.23		第203図	平安
187	55	- S - 12	楕円形	N-87°-E	0.50	0.45	0.26		第203図	平安
188	55	- O - 8	楕円形	N-9°-E	0.89	0.80	0.28		第204図	平安
189	55	- T - 11	不整形	N-87°-W	(0.40)	(0.22)	0.09		第204図	平安
190	55	- T - 12	不整形	N-71°-E	(0.44)	(0.18)	0.28		第204図	平安
191	55	- S - 13	円形	N-35°-E	0.87	0.77	0.32		第204図	平安
192	55	- J - 15	楕円形	N-12°-E	1.37	1.19	0.15		第204図	平安
193	55	- J - 16	円形	N-0°	0.62	0.62	0.11		第204図	平安
194	55	- M - 18	不整形	N-19°-E	(0.75)	0.87	0.18	28号住居と重複	第204図	平安
195	欠番									
196	欠番									
197	欠番									
198	欠番									
199	欠番									
200	欠番									
201	55	- P - 10	楕円形	N-15°-E	0.24	0.20	0.06		第204図	平安
202	55	- P - 10	楕円形	N-23°-W	0.54	0.48	0.05		第204図	平安
203	55	- N - 10	不整形	N-85°-W	1.16	1.13	0.44	7号住居と重複	第204図	平安
204	55	- O - 11	不整形	N-55°-E	1.34	0.97	0.27	7号住居、2号掘立柱建物P4と重複	第204図	平安
205	55	- P - 9	楕円形	N-11°-E	0.72	0.64	0.10		第204図	平安

遺構一覧表

番号	位置(列ツド) 区 - -	形状	長軸方位	規模(m)			備考	挿図番号	時代
				長	幅	深			
206	55 - 0 - 11	不整形	N-30°-W	(0.55)	0.57	0.20	7号住居内	第204図	平安
207	55 - 0 - 10	円形	N-84°-E	0.44	0.40	0.24	13号住居と重複	第204図	平安
208	67 - E - 8	楕円形	N-35°-E	0.38	0.32	0.09		第59図	縄文
209	67 - F - 8	楕円形	N-41°-E	0.35	0.31	0.26		第59図	縄文
210	67 - E - 8	円形	N-18°-W	0.28	0.27	0.08		第59図	縄文
211	67 - E - 8	楕円形	N-82°-E	0.50	0.42	0.14	212号土坑と重複	第59図	縄文
212	67 - E - 8	不整形	N-82°-E	0.34	(0.20)	0.10	211号土坑と重複	第59図	縄文
213	67 - D - 8	不整形	N-90°	(0.23)	0.29	0.07	214号土坑と重複	第59図	縄文
214	67 - E - 8	楕円形	N-64°-W	1.17	0.78	0.11	213号・215号土坑と重複	第204図	平安
215	67 - E - 8	隅丸長方形	N-14°-E	0.72	0.62	0.11	214号土坑と重複	第204図	平安
216	67 - F - 8	楕円形	N-22°-W	0.38	0.30	0.12		第59図	縄文
217	67 - E - 8	楕円形	N-42°-W	0.42	0.37	0.18		第59図	縄文
218	67 - E - 7	楕円形	N-69°-E	0.46	0.34	0.29	25号住居内	第205図	平安
219	67 - E - 7	楕円形	N-19°-W	0.22	0.21	0.07		第205図	平安
220	67 - F - 7	楕円形	N-69°-W	0.32	0.26	0.10		第59図	縄文
221	67 - F - 6	円形	N-75°-E	0.35	0.29	0.12		第59図	縄文
222	67 - F - 6	不整形	N-10°-E	0.46	(0.26)	0.16		第59図	縄文
223	67 - F - 6	楕円形	N-90°	0.57	0.30	0.25		第59図	縄文
224	67 - E - 6	隅丸方形	N-29°-E	0.17	0.14	0.10		第205図	平安
225	67 - F - 6	円形	N-20°-E	0.37	0.36	0.19		第59図	縄文
226	67 - C - 5	楕円形	N-56°-E	0.83	0.72	0.25		第224図	近世
227	67 - G - 3	不整形	N-21°-W	(1.85)	(1.55)	0.72		第88図	弥生
228	欠番						31号住居P9に変更		
229	欠番						31号住居P10に変更		
230	67 - D - 6	楕円形	N-38°-W	0.89	(0.53)	0.14		第224図	近世
231	67 - F - 12	不整形	N-78°-E	0.36	0.35	0.18		第59図	縄文
232	67 - F - 12	楕円形	N-43°-E	0.31	0.28	0.19		第59図	縄文
233	67 - F - 11	楕円形	N-36°-E	0.53	0.45	0.11	27号住居内	第89図	弥生
234	欠番						27号住居P24に変更		
235	67 - F - 11	不整形	N-34°-E	1.06	(0.50)	0.27	251号土坑と重複、27号住居内	第59図	縄文
236	欠番						27号住居P25に変更		
237	67 - F - 11	不整形	N-82°-W	1.38	1.12	0.08	27号・41号住居、配石と重複	第59図	縄文
238	67 - E - 11	楕円形	N-35°-W	0.57	0.45	0.22		第60図	縄文
239	67 - E - 11	円形	N-31°-E	0.39	0.33	0.11		第60図	縄文
240	67 - E - 10	不整形	N-71°-E	(1.80)	(0.59)	(0.05)	250号・273号・497号土坑、配石と重複、41号住居内	第60図	縄文
241	67 - F - 11	不整形	N-57°-W	0.64	0.53	0.33	242号・274号土坑と重複、27号・41号住居内	第60・72図	縄文
242	67 - F - 10	不整形	N-77°-E	0.84	0.46	0.28	241号・274号土坑と重複、27号・41号住居内	第60・72図	縄文
243	67 - F - 11	楕円形	N-81°-W	0.74	0.62	0.12	27号・41号住居内	第60・72図	縄文
244	67 - F - 11	不整形	N-38°-W	(0.72)	0.77	0.16	27号住居P22・P23と重複、41号住居内	第60・72図	縄文
245	67 - G - 11	円形	N-15°-W	0.40	0.33	0.05		第60図	縄文
246	67 - G - 11	楕円形	N-65°-W	0.34	0.25	0.05		第60図	縄文
247	67 - G - 11	楕円形	N-78°-E	0.39	0.30	0.10		第60図	縄文
248	67 - G - 11	楕円形	N-29°-E	0.43	0.34	0.15	249号土坑と重複	第60図	縄文
249	67 - G - 11	不整形	N-22°-E	0.41	0.35	0.33	248号土坑と重複	第60図	縄文
250	67 - E - 10	不整形	N-78°-E	0.56	(0.45)	0.29	240号・273号・497号土坑、配石と重複、41号住居内	第60図	縄文
251	67 - F - 11	不整形	N-34°-E	1.00	0.78	0.38	235号土坑と重複、27号住居内	第59図	縄文
252	67 - F - 12	楕円形	N-74°-E	0.50	0.43	0.21		第60図	縄文
253	67 - F - 12	円形	N-90°	0.28	0.29	0.13		第60図	縄文
254	欠番						32号住居P6に変更		
255	67 - G - 11	不整形	N-56°-E	(0.14)	0.23	0.19	256号土坑と重複	第60図	縄文
256	67 - G - 11	楕円形	N-84°-W	0.32	0.34	0.22	255号土坑と重複	第60図	縄文
257	67 - H - 8	楕円形	N-5°-E	0.35	0.32	0.13		第89図	弥生
258	67 - H - 8	楕円形	N-34°-W	0.25	0.20	0.05		第61図	縄文
259	67 - H - 7	楕円形	N-70°-E	0.37	0.33	0.15	260号土坑と重複	第61図	縄文
260	67 - H - 7	楕円形	N-31°-E	0.45	(0.45)	0.25	259号・261号土坑と重複	第61図	縄文
261	67 - H - 7	楕円形	N-66°-E	0.48	0.33	0.30	260号土坑と重複	第61図	縄文
262	67 - I - 8	隅丸方形	N-60°-E	0.27	0.24	0.12		第61図	縄文
263	67 - I - 7	楕円形	N-32°-E	0.31	0.24	0.20	264号土坑と重複	第205図	平安
264	67 - I - 7	楕円形	N-32°-E	(0.40)	0.37	0.13	263号土坑と重複	第205図	平安
265	67 - I - 7	楕円形	N-70°-E	0.32	0.27	0.10		第61図	縄文
266	67 - I - 7	円形	N-80°-E	0.28	0.27	0.10		第61図	縄文
267	67 - H - 7	楕円形	N-2°-E	0.30	0.26	0.15		第61図	縄文
268	67 - I - 7	円形	N-56°-E	0.34	0.32	0.10		第61図	縄文
269	67 - I - 7	楕円形	N-79°-E	0.39	0.26	0.09		第61図	縄文
270	67 - I - 7	円形	N-0°	0.34	0.32	0.08		第205図	平安
271	67 - I - 7	円形	N-0°	0.27	0.26	0.15		第205図	平安
272	67 - I - 7	円形	N-0°	0.32	0.32	0.15		第205図	平安
273	67 - E - 10	楕円形	N-24°-W	(0.70)	0.78	0.15	240号・250号・497号土坑、配石と重複、41号住居内	第60図	縄文



番号	位置(列ツド) 区 - -	形状	長軸方位	規模(m)			備考	挿図番号	時代
				長	幅	深			
274	67 - F - 10	不整形	N-29°-W	(0.96)	1.23	0.10	241号・242号・357号・358号土坑と重複、27号・41号住居内	第60・72図	縄文
275	欠番						26号住居P30に変更		
276	欠番						26号住居P31に変更		
277	欠番						26号住居P32に変更		
278	欠番						26号住居P33に変更		
279	67 - G - 7	円形	N-61°-W	1.16	1.07	0.39	280号土坑と重複	第224図	近世
280	67 - G - 7	楕円形	N-47°-E	1.58	1.48	0.39	279号土坑と重複	第224図	近世
281	67 - G - 7	円形	N-81°-W	0.67	0.66	0.07		第224図	近世
282	67 - I - 9	楕円形	N-83°-E	0.74	0.49	0.21	24号住居、283号土坑と重複	第205図	平安
283	67 - I - 9	不整形	N-86°-W	(0.49)	0.39	0.83	282号土坑と重複、24号住居内	第205図	平安
284	欠番						27号住居P26に変更		
285	67 - F - 11	円形	N-76°-W	0.31	0.28	0.12	27号住居内	第205図	平安
286	67 - F - 11	楕円形	N-37°-W	0.92	0.70	0.33	配石と重複、27号・41号住居内	第224図	近世
287	67 - C - 5	楕円形	N-90°	0.62	0.57	0.12		第224図	近世
288	欠番						30号住居P12に変更		
289	欠番						30号住居P13に変更		
290	67 - H - 12	円形	N-16°-E	0.60	0.56	0.08		第61・72図	縄文
291	欠番						33号住居P5に変更		
292	67 - H - 12	円形	N-15°-E	0.37	0.35	0.31	475号土坑と重複	第61・72図	縄文
293	67 - H - 12	楕円形	N-62°-E	0.74	0.52	0.21	32号住居と重複	第61図	縄文
294	67 - H - 11	楕円形	N-57°-E	0.67	0.52	0.17	32号住居内	第61図	縄文
295	67 - H - 11	円形	N-60°-W	0.44	0.41	0.21		第61図	縄文
296	欠番						33号住居P6に変更		
297	欠番						33号住居P7に変更		
298	67 - H - 12	楕円形	N-79°-W	0.83	0.59	0.17	33号住居P8、678号土坑と重複	第61・72図	縄文
299	欠番						33号住居P8に変更		
300	欠番						33号住居P9に変更		
301	欠番						33号住居P10に変更		
302	67 - G - 12	隅丸長方形	N-30°-W	0.65	0.45	0.19	33号住居P11、676号・680号土坑と重複	第61図	縄文
303	欠番						33号住居P11に変更		
304	欠番						32号住居P7に変更		
305	欠番						32号住居P8に変更		
306	欠番						32号住居P9に変更		
307	欠番						32号住居P10に変更		
308	欠番						32号住居P11に変更		
309	欠番						32号住居P12に変更		
310	欠番						32号住居P13に変更		
311	欠番						32号住居P14に変更		
312	欠番						32号住居P15に変更		
313	67 - G - 11	楕円形	N-85°-E	0.66	0.54	0.32	32号住居内	第61図	縄文
314	欠番						32号住居P16に変更		
315	欠番						32号住居P17に変更		
316	欠番						32号住居P18に変更		
317	欠番						32号住居P19に変更		
318	欠番						32号住居P20に変更		
319	欠番						32号住居P21に変更		
320	欠番						32号住居P22に変更		
321	欠番						32号住居P23に変更		
322	67 - G - 12	楕円形	N-62°-E	0.62	0.54	0.26	479号土坑と重複	第61・72図	縄文
323	67 - C - 9	不整形	N-90°	(1.23)	0.94	0.42		第61図	縄文
324	欠番						34号住居P1に変更		
325	欠番						34号住居P2に変更		
326	67 - G - 12	楕円形	N-73°-W	0.64	0.56	0.15	34号住居P3、328号土坑と重複	第62図	縄文
327	欠番						34号住居P3に変更		
328	67 - G - 12	楕円形	N-40°-E	0.70	(0.55)	0.28	34号住居P3、326号土坑と重複	第62図	縄文
329	欠番						34号住居P4に変更		
330	欠番						34号住居P5に変更		
331	欠番						34号住居P6に変更		
332	欠番						34号住居P7に変更		
333	欠番						34号住居P8に変更		
334	67 - F - 12	円形	N-20°-W	0.38	0.38	0.08		第62図	縄文
335	67 - F - 12	楕円形	N-10°-W	0.38	0.38	0.08		第62図	縄文
336	67 - G - 12	楕円形	N-7°-E	0.46	0.36	0.12		第62図	縄文
337	67 - F - 11	不整形	N-45°-E	0.85	0.73	0.07	27号住居内	第62図	縄文
338	67 - F - 12	楕円形	N-0°	0.38	0.32	0.20		第62図	縄文
339	67 - F - 12	楕円形	N-68°-W	0.31	0.25	0.17		第62図	縄文
340	欠番						32号住居P24に変更		
341	欠番						32号住居P25に変更		

## 遺構一覧表

番号	位置(列丁)	形状	長軸方位	規模(m)			備考	挿図番号	時代
				長	幅	深			
342	67 - G - 11	不整形	N-30°-E	(0.29)	(0.21)	0.11	北西部調査区外	第62図	縄文
343	67 - G - 11	楕円形	N-42°-E	0.41	0.36	0.20		第62図	縄文
344	67 - G - 10	楕円形	N-26°-W	0.43	0.31	0.10		第62図	縄文
345	67 - G - 10	隅丸方形	N-38°-E	0.45	0.38	0.14		第62図	縄文
346	67 - G - 10	円形	N-42°-W	0.94	0.89	0.13		第62図	縄文
347	67 - G - 10	楕円形	N-85°-E	0.61	0.46	0.20	6号溝と重複	第62図	縄文
348	67 - G - 10	円形	N-15°-W	0.38	0.32	0.12	6号溝と重複	第62図	縄文
349	67 - G - 10	隅丸方形	N-40°-W	0.38	0.32	0.10		第62図	縄文
350	67 - G - 10	円形	N-28°-E	0.31	0.27	0.11		第62図	縄文
351	欠番						41号住居P1に変更		
352	欠番						41号住居P2に変更		
353	欠番						41号住居P3に変更		
354	欠番						41号住居P4に変更		
355	欠番						41号住居P5に変更		
356	欠番						41号住居P6に変更		
357	欠番						41号住居P7に変更		
358	欠番						41号住居P8に変更		
359	欠番						41号住居P9に変更		
360	67 - F - 10	楕円形	N-50°-W	0.81	0.67	0.19		第62図	縄文
361	67 - F - 12	楕円形	N-79°-E	0.39	0.30	0.11		第62図	縄文
362	67 - E - 12	楕円形	N-10°-W	1.08	0.87	0.13		第62図	縄文
363	67 - E - 12	楕円形	N-54°-E	0.60	0.41	0.26		第62図	縄文
364	67 - E - 12	楕円形	N-36°-W	0.32	0.25	0.23		第63図	縄文
365	67 - E - 11	楕円形	N-30°-E	0.36	0.26	0.17		第63図	縄文
366	67 - E - 11	円形	N-0°	0.31	0.31	0.12		第63図	縄文
367	67 - E - 11	楕円形	N-6°-E	0.71	0.50	0.17		第63図	縄文
368	67 - E - 11	楕円形	N-25°-W	0.89	0.73	0.28		第63図	縄文
369	67 - E - 11	楕円形	N-59°-E	0.82	0.56	0.19		第63図	縄文
370	67 - E - 11	楕円形	N-53°-E	0.55	0.44	0.19	371号土坑と重複	第63・72図	縄文
371	67 - E - 11	楕円形	N-5°-E	2.37	2.02	0.09		第63・72図	縄文
372	67 - E - 10	楕円形	N-77°-W	1.04	0.78	0.11		第63図	縄文
373	67 - E - 10	隅丸方形	N-0°	0.38	0.36	0.08		第63図	縄文
374	67 - E - 10	隅丸方形	N-44°-W	0.38	0.35	0.09		第63図	縄文
375	67 - E - 9	楕円形	N-0°	0.56	0.45	0.16		第63図	縄文
376	欠番						36号住居P5に変更		
377	67 - E - 9	楕円形	N-87°-W	0.59	0.47	0.13		第63図	縄文
378	欠番						36号住居P6に変更		
379	欠番						36号住居P7に変更		
380	欠番						36号住居P8に変更		
381	欠番						36号住居P9に変更		
382	欠番						36号住居P10に変更		
383	欠番						36号住居P11に変更		
384	67 - E - 9	楕円形	N-17°-W	(1.00)	0.81	0.39	385号土坑と重複、36号住居内	第63図	縄文
385	67 - D - 9	不整形	N-65°-W	1.16	(0.60)	0.08	29号・36号住居P12、2号溝と重複	第63図	縄文
386	欠番						36号住居P12に変更		
387	欠番						36号住居P13に変更		
388	欠番						36号住居P14に変更		
389	欠番						36号住居P15に変更		
390	欠番						36号住居P16に変更		
391	欠番						36号住居P17に変更		
392	欠番						36号住居P18に変更		
393	欠番						36号住居P19に変更		
394	欠番						36号住居P20に変更		
395	欠番						36号住居P21に変更		
396	欠番						37号住居P5に変更		
397	欠番						37号住居P6に変更		
398	欠番						37号住居P7に変更		
399	欠番						37号住居P8に変更		
400	欠番						37号住居P9に変更		
401	欠番						37号住居P10に変更		
402	欠番						37号住居P11に変更		
403	欠番						37号住居P12に変更		
404	67 - D - 10	楕円形	N-0°	0.70	(0.55)	0.06	37号住居内	第63図	縄文
405	欠番						37号住居P13に変更		
406	67 - D - 10	楕円形	N-7°-W	0.72	0.38	0.23	37号住居内	第63図	縄文
407	欠番						37号住居P14に変更		
408	欠番						37号住居P15に変更		
409	欠番						37号住居P16に変更		
410	欠番						37号住居P17に変更		

番号	位置(ｸｯﾄ)	形状	長軸方位	規模(m)			備考	挿図番号	時代
				長	幅	深			
411	67 - D - 10	楕円形	N-36°-E	0.63	0.53	0.12	37号住居P17、410号土坑と重複	第63・73図	縄文
412	67 - D - 10	楕円形	N-40°-W	0.46	0.43	0.16		第63図	縄文
413	67 - D - 10	楕円形	N-25°-E	0.61	0.35	0.10		第63図	縄文
414	67 - D - 10	楕円形	N-38°-W	0.29	0.26	0.06		第64図	縄文
415	67 - D - 10	円形	N-90°	0.49	0.48	0.04		第64・73図	縄文
416	67 - D - 10	楕円形	N-12°-E	0.64	0.40	0.14		第64図	縄文
417	67 - D - 10	楕円形	N-62°-W	0.36	0.27	0.07	418号土坑と重複	第64図	縄文
418	67 - D - 10	不整形	N-85°-E	(0.34)	0.34	0.05	417号土坑と重複	第64図	縄文
419	67 - D - 11	隅丸方形	N-0°	0.32	0.31	0.09		第64・73図	縄文
420	67 - D - 11	楕円形	N-76°-W	0.39	0.35	0.11		第64図	縄文
421	67 - D - 11	不整形	N-51°-E	(0.34)	0.37	0.08	422号土坑と重複	第64図	縄文
422	67 - D - 11	楕円形	N-85°-W	0.55	0.46	0.11	421号土坑と重複	第64・73図	縄文
423	67 - D - 11	楕円形	N-90°	0.89	0.74	0.14		第64図	縄文
424	67 - D - 11	楕円形	N-38°-W	0.26	0.22	0.09		第64図	縄文
425	67 - D - 11	楕円形	N-90°	0.22	0.18	0.12		第64図	縄文
426	67 - D - 11	楕円形	N-20°-W	0.71	0.65	0.19		第64図	縄文
427	67 - D - 11	楕円形	N-23°-W	0.37	0.28	0.10		第64図	縄文
428	67 - D - 11	不整形	N-57°-W	0.99	0.47	0.54		第64図	縄文
429	67 - D - 11	楕円形	N-13°-W	0.44	0.28	0.10	30号溝と重複	第64図	縄文
430	67 - D - 11	不整形	N-58°-E	0.48	0.39	0.30		第64図	縄文
431	67 - C - 10	隅丸方形	N-0°	0.31	0.29	0.17		第64図	縄文
432	67 - D - 11	楕円形	N-78°-W	0.55	0.42	0.20		第64図	縄文
433	67 - D - 11	不整形	N-20°-W	(0.24)	0.23	0.02	477号土坑と重複	第64図	縄文
434	67 - D - 11	楕円形	N-78°-W	0.63	0.36	0.34	477号土坑と重複	第64図	縄文
435	67 - D - 11	楕円形	N-70°-W	0.36	0.30	0.31		第64図	縄文
436	67 - C - 11	楕円形	N-69°-W	0.41	(0.28)	0.08	北側調査区外	第64図	縄文
437	67 - C - 11	楕円形	N-44°-E	0.39	0.35	0.16		第89図	弥生
438	67 - C - 11	楕円形	N-45°-E	0.36	0.31	0.19		第64図	縄文
439	67 - C - 11	楕円形	N-78°-W	0.41	0.27	0.17		第64図	縄文
440	67 - D - 11	楕円形	N-10°-E	0.31	0.30	0.04		第64図	縄文
441	67 - D - 10	長方形	N-33°-E	1.83	0.53	0.14	37号住居と重複	第89図	弥生
442	67 - C - 10	隅丸長方形	N-50°-W	0.41	0.35	0.13		第64図	縄文
443	67 - C - 10	楕円形	N-0°	0.71	0.58	0.09		第65図	縄文
444	67 - C - 10	楕円形	N-20°-E	0.63	0.42	0.18		第65図	縄文
445	67 - C - 10	楕円形	N-71°-E	0.53	0.44	0.08		第65・73図	縄文
446	67 - C - 10	楕円形	N-60°-W	0.58	0.49	0.08	447号土坑と重複	第65図	縄文
447	67 - C - 10	楕円形	N-64°-E	0.42	0.31	0.15	446号土坑と重複	第65図	縄文
448	67 - C - 10	楕円形	N-64°-W	0.34	0.30	0.18		第65・73図	縄文
449	67 - C - 10	楕円形	N-22°-W	0.37	0.35	0.18		第65図	縄文
450	67 - C - 10	楕円形	N-21°-W	1.09	0.93	0.22		第65・73図	縄文
451	67 - C - 10	楕円形	N-90°	0.44	0.34	0.09		第65図	縄文
452	欠番						38号住居P1に変更		
453	欠番						38号住居P2に変更		
454	欠番						38号住居P3に変更		
455	欠番						38号住居P4に変更		
456	欠番						38号住居P5に変更		
457	67 - D - 9	楕円形	N-50°-E	0.53	0.42	0.18		第65図	縄文
458	67 - D - 9	楕円形	N-30°-W	0.44	0.37	0.13		第65図	縄文
459	67 - D - 11	楕円形	N-58°-E	0.35	0.32	0.11		第65図	縄文
460	67 - C - 9	円形	N-90°	0.35	0.32	0.12		第65図	縄文
461	67 - C - 9	楕円形	N-17°-E	0.63	0.49	0.21		第65・73図	縄文
462	67 - C - 9	楕円形	N-33°-W	0.60	0.32	0.09		第65図	縄文
463	67 - C - 10	円形	N-16°-E	0.35	0.32	0.20		第65・73図	縄文
464	67 - C - 10	楕円形	N-90°	1.10	0.85	0.07		第65図	縄文
465	67 - C - 11	楕円形	N-18°-W	0.50	0.33	0.23		第65図	縄文
466	67 - B - 10	楕円形	N-72°-W	0.50	0.37	0.17		第65・73図	縄文
467	67 - B - 10	隅丸方形	N-32°-E	0.36	0.32	0.14		第65図	縄文
468	67 - B - 9	楕円形	N-49°-W	0.32	0.28	0.08		第65図	縄文
469	67 - B - 9	楕円形	N-47°-E	0.38	0.31	0.17		第65図	縄文
470	67 - C - 9	不整形	N-90°	0.79	(0.42)	0.21	南側調査区外	第65図	縄文
471	67 - B - 8	隅丸長方形	N-45°-W	0.53	0.25	0.15		第65図	縄文
472	67 - B - 8	楕円形	N-18°-E	0.72	0.55	0.20		第66・73図	縄文
473	67 - G - 10	不整形	N-24°-E	(0.21)	0.25	0.10	31号住居と重複	第66図	縄文
474	欠番						41号住居P10に変更		
475	67 - H - 12	楕円形	N-15°-E	1.30	1.16	0.52	292号土坑と重複	第61・73図	縄文
476	欠番						34号住居P9に変更		
477	67 - D - 11	不整形	N-56°-W	(0.35)	0.34	0.11	433号・434号土坑と重複	第64図	縄文
478	欠番						34号住居P10に変更		
479	67 - G - 12	不整形	N-48°-W	(0.73)	0.38	0.24	33号・34号住居、322号土坑と重複	第66・73図	縄文

## 遺構一覧表

番号	位置(列丁) 区 - -	形状	長軸方位	規模(m)			備考	挿図番号	時代
				長	幅	深			
480	67 - C - 10	不整形	N-17°-W	(0.16)	0.20	0.08	481号土坑と重複	第66図	縄文
481	67 - C - 10	隅丸長方形	N-17°-W	0.35	0.30	0.15	480号土坑と重複	第66図	縄文
482	67 - D - 9	隅丸長方形	N-61°-W	0.70	0.31	0.09		第66図	縄文
483	67 - C - 9	楕円形	N-72°-W	0.97	0.60	0.22	38号住居と重複	第66図	縄文
484	67 - D - 11	不整形	N-78°-E	(0.65)	(0.60)	0.20	北側調査区外	第66・74図	縄文
485	67 - D - 8	楕円形	N-11°-W	0.28	0.23	0.11		第66図	縄文
486	67 - D - 8	円形	N-0°	0.22	0.21	0.12		第66図	縄文
487	67 - D - 8	楕円形	N-67°-W	0.31	0.25	0.14		第66図	縄文
488	67 - D - 8	楕円形	N-26°-E	0.71	0.55	0.07		第66図	縄文
489	67 - D - 8	楕円形	N-0°	0.43	0.35	0.08		第66図	縄文
490	67 - E - 9	楕円形	N-38°-E	0.43	0.38	0.15		第66図	縄文
491	67 - E - 9	楕円形	N-22°-W	0.51	0.40	0.17		第66図	縄文
492	67 - G - 13	不整形	N-69°-W	(0.70)	(0.38)	0.47	34号住居内、北側調査区外	第66図	縄文
493	67 - E - 3	楕円形	N-40°-W	0.61	0.52	0.11		第66図	縄文
494	67 - E - 3	円形	N-90°	1.29	1.18	0.82		第66・74図	縄文
495	67 - F - 3	楕円形	N-32°-W	0.67	0.57	0.24		第89図	弥生
496	67 - F - 3	円形	N-0°	0.41	0.38	0.13		第67図	縄文
497	67 - F - 10	不整形	N-53°-E	(1.03)	(0.97)	-	240号・273号土坑と重複	第60・74図	縄文
498	67 - F - 4	長方形	N-69°-W	2.86	1.15	0.10		第89図	弥生
499	67 - F - 5	楕円形	N-53°-W	1.19	0.97	0.22		第89図	弥生
500	67 - F - 5	楕円形	N-45°-E	0.36	0.32	0.10		第67図	縄文
501	67 - F - 5	楕円形	N-87°-E	0.88	0.72	0.12		第89図	弥生
502	67 - E - 5	楕円形	N-34°-W	0.28	0.22	0.16		第67図	縄文
503	67 - E - 4	楕円形	N-17°-W	0.94	0.81	0.33	39号住居内	第67図	縄文
504	67 - E - 5	隅丸方形	N-0°	0.32	0.26	0.07		第67図	縄文
505	67 - E - 5	円形	N-0°	0.32	0.32	0.12		第67図	縄文
506	67 - E - 5	楕円形	N-15°-E	(0.37)	0.32	0.13		第67図	縄文
507	67 - E - 5	楕円形	N-10°-W	1.09	0.53	0.41		第205図	平安
508	67 - E - 4	楕円形	N-73°-E	0.35	0.30	0.15		第67図	縄文
509	67 - H - 8	楕円形	N-44°-E	0.57	0.40	0.12		第89図	弥生
510	67 - C - 2	楕円形	N-70°-E	0.75	0.67	0.06		第67・74図	縄文
511	67 - H - 13	楕円形	N-60°-E	0.81	0.62	0.22		第67・75図	縄文
512	67 - H - 12	円形	N-0°	0.64	0.59	0.13		第67図	縄文
513	67 - H - 12	円形	N-36°-E	0.82	0.78	0.55		第67図	縄文
514	67 - G - 12	楕円形	N-9°-E	0.79	0.78	0.28		第67・75図	縄文
515	67 - G - 12	楕円形	N-60°-E	0.99	0.80	0.42		第67・75図	縄文
516	67 - G - 12	楕円形	N-19°-E	1.09	0.96	0.46		第67・75図	縄文
517	67 - G - 12	楕円形	N-56°-W	0.97	0.67	0.49		第67図	縄文
518	67 - G - 12	隅丸方形	N-30°-W	0.78	0.73	0.16	519号土坑と重複	第68・76図	縄文
519	67 - G - 12	不整形	N-28°-E	1.08	1.09	0.62	518号・522号・525号土坑と重複	第68・76図	縄文
520	67 - H - 12	楕円形	N-0°	0.68	0.67	0.15	521号土坑と重複	第68図	縄文
521	67 - G - 12	楕円形	N-24°-W	1.02	0.86	0.37	520号・523号土坑と重複	第68・76図	縄文
522	67 - G - 12	円形	N-8°-E	0.80	0.76	0.49	519号土坑と重複	第68・77図	縄文
523	67 - G - 12	楕円形	N-48°-E	0.74	(0.70)	0.38	521号土坑と重複	第68図	縄文
524	67 - G - 12	円形	N-86°-E	0.69	0.58	0.50		第68図	縄文
525	67 - G - 12	楕円形	N-0°	1.04	0.96	0.44	519号土坑と重複	第68・77図	縄文
526	67 - G - 12	隅丸方形	N-16°-W	0.29	0.28	0.34		第68図	縄文
527	67 - F - 12	楕円形	N-40°-W	0.69	0.40	0.16		第68図	縄文
528	67 - F - 12	楕円形	N-46°-E	0.50	0.44	0.22		第68図	縄文
529	67 - G - 12	隅丸方形	N-65°-E	0.24	0.22	0.09		第68図	縄文
530	67 - H - 11	円形	N-0°	0.40	0.39	-		第68図	縄文
531	67 - I - 7	楕円形	N-35°-E	0.62	0.38	0.24		第69図	縄文
532	67 - I - 7	楕円形	N-20°-E	0.33	0.27	0.16		第69図	縄文
533	67 - I - 6	円形	N-0°	0.35	0.31	0.42		第69図	縄文
534	67 - I - 6	楕円形	N-46°-E	0.31	0.27	0.29		第69図	縄文
535	67 - I - 6	楕円形	N-0°	0.33	0.29	0.37		第69図	縄文
536	67 - I - 5	円形	N-3°-W	0.71	0.70	0.87	542号土坑と重複	第69図	縄文
537	67 - I - 5	楕円形	N-24°-E	0.31	0.28	0.21		第69図	縄文
538	67 - H - 5	楕円形	N-52°-E	0.29	0.24	0.12		第69図	縄文
539	67 - I - 5	円形	N-9°-W	0.92	0.81	0.17		第69図	縄文
540	67 - H - 5	楕円形	N-2°-W	1.10	0.96	0.14		第69図	縄文
541	67 - B - 9	楕円形	N-50°-W	0.90	0.64	0.23		第69図	縄文
542	67 - I - 5	楕円形	N-3°-W	(0.45)	0.79	0.61	536号土坑と重複	第69・77図	縄文
543	67 - I - 6	楕円形	N-45°-W	0.72	0.67	0.21		第69図	縄文
544	67 - E - 10	不整形	N-34°-E	(1.31)	(1.07)	0.40		第69図	縄文
545	67 - I - 9	円形	N-9°-W	0.92	0.85	0.25		第69・77図	縄文
546	67 - I - 9	楕円形	N-65°-W	0.32	0.25	0.30		第69図	縄文
547	67 - I - 9	円形	N-0°	0.39	0.37	0.52		第69図	縄文
548	67 - I - 9	楕円形	N-32°-E	0.42	0.35	0.08		第69図	縄文

番号	位置(カッド) 区 - -	形状	長軸方位	規模(m)			備考	挿図番号	時代
				長	幅	深			
549	67 - I - 9	楕円形	N-60°-W	0.32	0.25	0.25		第69図	縄文
550	67 - I - 9	円形	N-0°	0.28	0.25	0.39		第69図	縄文
551	67 - I - 8	円形	N-0°	0.235	0.22	0.19		第70図	縄文
552	67 - I - 8	円形	N-34°-E	0.36	0.35	0.44		第70図	縄文
553	67 - I - 8	楕円形	N-20°-E	0.91	0.85	0.29		第70図	縄文
554	67 - I - 8	楕円形	N-6°-W	0.76	0.66	0.19		第70図	縄文
555	67 - F - 11	楕円形	N-90°	1.15	0.71	0.55	556号土坑と重複	第70図	縄文
556	67 - F - 11	楕円形	N-12°-E	1.37	0.97	0.41	555号土坑と重複	第70図	縄文
557	欠番						44号住居に変更		
558	67 - P - 5	楕円形	N-24°-E	1.78	1.64	0.26		第205図	平安
559	67 - P - 5	楕円形	N-26°-W	0.81	0.72	0.18		第205図	平安
560	67 - O - 5	不整形	N-38°-W	(0.63)	0.65	0.41		第224図	近世
561	67 - N - 9	楕円形	N-25°-W	1.12	0.90	0.14		第70図	縄文
562	67 - N - 10	不整形	N-45°-E	(0.54)	0.65	0.30	563号土坑と重複	第70図	縄文
563	67 - N - 10	楕円形	N-50°-W	0.57	0.33	0.33	562号土坑と重複	第70図	縄文
564	67 - N - 10	楕円形	N-56°-E	0.49	0.41	0.13		第70図	縄文
565	67 - M - 12	楕円形	N-20°-W	1.60	1.15	0.18		第70・77図	縄文
566	67 - N - 12	不整形	N-79°-W	1.37	0.70	0.07		第70・77図	縄文
567	67 - N - 12	不整形	N-18°-W	1.37	0.70	0.15		第70図	縄文
568	67 - N - 12	楕円形	N-54°-W	1.88	0.90	0.21		第71・77図	縄文
569	67 - M - 12	楕円形	N-82°-E	1.86	1.02	0.14		第71・77図	縄文
570	67 - N - 13	楕円形	N-18°-W	1.12	0.83	0.11		第71・77図	縄文
571	67 - R - 5	不整形	N-24°-E	0.33	0.28	0.67	572号土坑と重複	第222図	中世
572	67 - R - 5	不整形	N-16°-W	0.30	(0.14)	0.46	571号土坑と重複	第222図	中世
573	67 - Q - 5	不整形	N-55°-W	0.29	0.27	0.13		第222図	中世
574	67 - Q - 5	不整形	N-15°-E	0.35	0.26	0.24		第222図	中世
575	67 - Q - 5	不整形	N-16°-W	0.32	0.26	0.22		第222図	中世
576	67 - Q - 5	不整形	N-86°-E	(0.40)	0.41	0.26	577号土坑と重複	第222図	中世
577	67 - Q - 5	楕円形	N-6°-W	0.33	0.32	0.44	576号土坑と重複	第222図	中世
578	67 - Q - 5	楕円形	N-18°-E	0.27	0.25	0.28		第222図	中世
579	67 - Q - 5	不整形	N-0°	0.28	0.25	0.17		第222図	中世
580	67 - Q - 5	不整形	N-83°-W	0.26	0.23	0.12		第222図	中世
581	67 - Q - 5	不整形	N-57°-W	0.19	0.16	0.13		第222図	中世
582	67 - Q - 5	隅丸方形	N-69°-E	0.28	0.24	0.42		第222図	中世
583	67 - Q - 5	楕円形	N-49°-E	0.36	0.29	0.28		第222図	中世
584	67 - Q - 5	不整形	N-60°-W	0.33	0.25	0.15		第222図	中世
585	67 - Q - 5	楕円形	N-0°	0.50	0.45	0.25		第222図	中世
586	67 - Q - 5	長方形	N-7°-E	0.45	0.32	0.24	587号土坑と重複	第222図	中世
587	67 - Q - 5	不整形	N-84°-W	(0.30)	0.40	0.21	586号土坑と重複	第222図	中世
588	67 - Q - 5	隅丸長方形	N-4°-E	0.30	0.23	0.12		第222図	中世
589	67 - Q - 5	隅丸方形	N-90°	0.32	0.28	0.37	590号土坑と重複	第222図	中世
590	67 - Q - 5	長方形	N-90°	(0.41)	(0.28)	0.29	589号土坑と重複	第222図	中世
591	67 - Q - 6	不整形	N-74°-E	0.36	0.29	0.35		第222図	中世
592	67 - Q - 6	不整形	N-25°-E	0.29	0.27	0.17		第222図	中世
593	67 - Q - 5	楕円形	N-0°	0.28	0.25	0.23		第222図	中世
594	67 - Q - 5	不整形	N-54°-E	0.30	0.20	0.31		第222図	中世
595	67 - Q - 5	不整形	N-32°-W	0.33	0.30	0.09	596号土坑と重複	第222図	中世
596	67 - Q - 5	不整形	N-17°-W	0.29	(0.22)	0.09	595号・597号土坑と重複	第222図	中世
597	67 - Q - 5	不整形	N-60°-E	0.28	0.28	0.34	596号土坑と重複	第222図	中世
598	67 - Q - 6	隅丸方形	N-35°-E	0.48	0.46	0.35		第222図	中世
599	67 - Q - 6	楕円形	N-90°	0.25	0.20	0.68		第222図	中世
600	67 - Q - 6	楕円形	N-86°-E	0.28	0.25	0.12		第222図	中世
601	67 - Q - 6	不整形	N-55°-W	0.30	0.29	0.44	602号土坑と重複	第222図	中世
602	67 - Q - 6	不整形	N-33°-E	(0.23)	0.23	0.45	601号土坑と重複	第222図	中世
603	67 - Q - 6	楕円形	N-78°-W	0.37	0.33	0.12		第222図	中世
604	67 - Q - 7	隅丸方形	N-38°-E	0.37	0.35	0.25	605号土坑と重複	第222図	中世
605	67 - Q - 7	隅丸方形	N-20°-E	(0.22)	0.22	0.18	604号土坑と重複	第222図	中世
606	67 - Q - 7	隅丸方形	N-56°-W	0.38	0.36	0.12	607号・608号土坑と重複	第222図	中世
607	67 - Q - 7	不整形	N-55°-W	0.26	(0.17)	0.09	606号土坑と重複	第222図	中世
608	67 - Q - 7	不整形	N-40°-W	0.26	(0.22)	0.10	606号土坑と重複	第222図	中世
609	67 - Q - 7	不整形	N-67°-W	0.46	0.26	0.10		第222図	中世
610	67 - P - 6	不整形	N-76°-W	0.30	0.24	0.12		第223図	中世
611	67 - P - 6	不整形	N-20°-E	0.25	0.22	0.09		第223図	中世
612	67 - P - 6	不整形	N-76°-E	0.46	0.36	0.09		第223図	中世
613	67 - P - 6	不整形	N-60°-W	0.49	0.43	0.23		第223図	中世
614	67 - P - 5	不整形	N-36°-W	0.32	0.31	0.34		第223図	中世
615	67 - P - 5	不整形	N-74°-E	0.28	0.21	0.10		第223図	中世
616	67 - P - 5	楕円形	N-82°-W	0.37	0.30	0.14		第223図	中世
617	67 - P - 5	楕円形	N-22°-W	0.34	0.29	0.22		第223図	中世

## 遺構一覧表

番号	位置(カド)	形状	長軸方位	規模(m)			備考	挿図番号	時代
				長	幅	深			
618	67 - 0 - 6	不整形	N-37°-W	0.35	0.29	0.22		第223図	中世
619	67 - P - 5	不整形	N-6°-W	0.33	0.31	0.31		第223図	中世
620	67 - P - 5	隅丸方形	N-22°-E	0.24	0.23	0.18		第223図	中世
621	67 - 0 - 5	楕円形	N-17°-E	0.39	0.38	0.33		第223図	中世
622	67 - 0 - 5	不整形	N-76°-E	0.34	0.32	0.34		第223図	中世
623	67 - 0 - 5	不整形	N-60°-W	0.51	0.39	0.23		第223図	中世
624	67 - 0 - 6	不整形	N-6°-W	0.29	0.27	0.28		第223図	中世
625	67 - 0 - 6	楕円形	N-41°-W	0.36	0.33	0.21		第223図	中世
626	67 - N - 5	不整形	N-85°-E	0.27	0.27	0.37		第223図	中世
627	67 - N - 5	楕円形	N-90°	0.47	0.41	0.25		第223図	中世
628	67 - N - 5	楕円形	N-79°-W	0.45	0.43	0.42		第223図	中世
629	67 - N - 7	楕円形	N-44°-E	0.32	0.30	0.18		第223図	中世
630	67 - N - 6	隅丸方形	N-90°	0.23	0.21	0.10		第223図	中世
631	67 - N - 6	楕円形	N-90°	0.26	0.24	0.16		第223図	中世
632	67 - N - 5	隅丸方形	N-78°-E	0.25	0.21	0.11		第223図	中世
633	67 - N - 11	不整形	N-66°-E	0.49	0.39	0.21		第71図	縄文
634	56 - E - 18	不整形	N-73°-W	1.30	1.04	0.44	47号住居、644号土坑と重複	第205図	平安
635	56 - C - 19	楕円形	N-46°-E	0.67	0.65	0.26		第205図	平安
636	65 - S - 1	楕円形	N-67°-W	1.00	0.79	0.34		第205図	平安
637	55 - S - 19	楕円形	N-23°-W	1.53	1.20	0.27		第206図	平安
638	55 - R - 17	楕円形	N-12°-E	1.27	0.75	0.23		第206図	平安
639	55 - R - 17	楕円形	N-6°-E	0.45	0.40	0.14		第206図	平安
640	56 - E - 19	不整形	N-90°	1.17	0.58	0.22		第206図	平安
641	56 - E - 19	隅丸方形	N-28°-E	0.63	0.60	0.30		第206図	平安
642	56 - E - 18	円形	N-0°	0.49	0.45	0.28		第206図	平安
643	56 - E - 18	円形	N-45°-E	0.41	0.40	0.09		第206図	平安
644	56 - E - 18	不整形	N-9°-E	0.70	(0.42)	0.29	47号住居、634号土坑と重複	第205図	平安
645	56 - E - 18	円形	N-34°-W	0.42	0.38	0.29		第206図	平安
646	56 - F - 18	円形	N-90°	0.65	0.65	0.15		第206図	平安
647	56 - H - 18	円形	N-90°	0.55	0.52	0.21		第206図	平安
648	56 - J - 18	円形	N-0°	0.35	0.33	0.30		第206図	平安
649	56 - E - 17	楕円形	N-77°-W	0.36	0.30	0.12		第206図	平安
650	56 - E - 17	楕円形	N-57°-W	0.57	0.46	0.23		第206図	平安
651	56 - E - 16	楕円形	N-90°	1.57	0.82	0.17		第206図	平安
652	56 - D - 17	楕円形	N-90°	1.16	0.94	0.75		第206図	平安
653	56 - D - 17	楕円形	N-0°	0.48	0.41	0.18		第206図	平安
654	56 - D - 18	楕円形	N-50°-E	0.77	0.73	0.26		第206図	平安
655	55 - S - 15	楕円形	N-14°-W	1.50	0.70	0.26	656号土坑と重複	第207図	平安
656	55 - S - 15	不整形	N-3°-E	1.18	0.96	0.26	16号溝、655号土坑と重複	第207図	平安
657	56 - A - 16	不整形	N-12°-W	(0.88)	0.72	0.17	51号住居と重複	第207図	平安
658	56 - D - 18	楕円形	N-13°-W	0.76	(0.52)	0.17	45号住居と重複	第207図	平安
659	56 - D - 16	楕円形	N-10°-W	0.51	0.45	0.27		第207図	平安
660	56 - D - 16	楕円形	N-25°-E	0.64	0.44	0.52		第207図	平安
661	56 - B - 16	円形	N-90°	0.80	0.77	0.23		第207図	平安
662	56 - A - 16	円形	N-0°	0.31	0.29	0.12		第207図	平安
663	55 - S - 15	楕円形	N-10°-E	0.89	0.75	0.52	6号竪穴状遺構、34号溝、664号土坑と重複	第207図	平安
664	55 - S - 15	不整形	N-85°-E	(2.75)	(0.91)	0.52	6号・7号竪穴状遺構、633号土坑と重複	第207図	平安
665	56 - E - 13	不整形	N-0°	(1.42)	(1.10)	0.95		第71図	縄文
666	55 - T - 13	楕円形	N-5°-W	1.24	1.06	0.14	667号土坑と重複	第207図	平安
667	55 - T - 13	楕円形	N-5°-W	0.75	0.55	0.47	666号土坑と重複	第207図	平安
668	56 - A - 16	楕円形	N-90°	0.47	0.42	0.18	69号ピットと重複	第207図	平安
669	欠番						カクランの為		
670	56 - C - 16	楕円形	N-0°	0.92	0.77	0.09		第207図	平安
671	56 - B - 17	楕円形	N-4°-E	1.34	1.20	0.22		第208図	平安
672	56 - C - 19	楕円形	N-53°-E	1.84	1.05	0.36	19号住居内	第208図	平安
673	67 - I - 6	円形	N-20°-W	0.31	0.26	0.29		第208図	平安
674	55 - T - 13	不整形	N-13°-E	0.72	0.35	0.63	24号・25号・70号ピットと重複	第208図	平安
675	67 - G - 12	楕円形	N-38°-E	1.35	1.19	0.68	33号住居内	第71・77図	縄文
676	67 - G - 12	不整形	N-54°-W	0.88	0.80	0.17	302号・677号・680号土坑と重複、33号住居内	第71・77図	縄文
677	67 - G - 12	楕円形	N-35°-E	1.03	0.85	0.36	300号・301号・676号・680号土坑と重複、33号住居内	第71図	縄文
678	67 - H - 12	楕円形	N-23°-W	0.86	0.75	0.23	298号土坑と重複、33号住居内	第71・77図	縄文
679	67 - H - 13	楕円形	N-51°-W	0.83	0.52	0.21	33号住居内	第71・78図	縄文
680	67 - G - 12	不整形	N-87°-E	0.60	0.57	0.28	302号・676号・677号土坑と重複、33号住居内	第71・78図	縄文
681	55 - 0 - 9	不明	不明	—	—	0.31	5号・6号住居と重複(6号住居セクションB-B'のみ)	第108図	平安
682	67 - F - 4	不整形	N-39°-E	0.48	0.46	0.42	39号住居と重複	第89図	弥生

第29表 ピット一覧表

番号	位置(ｸﾞﾘｯﾄﾞ)		形状	長軸方位	規模(m)			備考	挿図番号
	区	-			長	幅	深		
1	55	- P - 9	楕円形	N-62°-E	0.54	0.49	0.61		第209図
2	55	- Q - 11	楕円形	N-90°	0.39	0.33	0.54		第209図
3	55	- Q - 11	不整形	N-8°-W	(0.65)	(0.40)	0.58	49号・51号土坑と重複	第209図
4	55	- Q - 11	楕円形	N-46°-E	0.54	(0.49)	0.29	20号ピットと重複	第209図
5	55	- Q - 11	不整形	N-0°	0.38	(0.25)	0.17	60号土坑と重複	第209図
6	56	- A - 16	楕円形	N-44°-W	0.67	0.56	0.47		第209図
7	55	- S - 13	不整形	N-60°-W	0.74	0.61	0.95	88号土坑と重複	第209図
8	55	- T - 11	楕円形	N-60°-W	0.74	0.58	0.64		第209図
9	56	- A - 11	楕円形	N-17°-E	0.38	0.33	0.48		第209図
10	55	- S - 13	不整形	N-34°-E	0.62	0.51	0.85		第209図
11	55	- S - 12	楕円形	N-84°-E	0.79	0.61	0.77	107号土坑と重複	第210図
12	55	- T - 12	隅丸方形	N-12°-E	0.68	0.58	0.74		第210図
13	55	- T - 12	楕円形	N-50°-W	0.45	0.38	0.70		第210図
14	55	- T - 12	楕円形	N-68°-W	0.67	0.59	0.61		第210図
15	55	- T - 13	楕円形	N-90°	0.69	0.58	0.77		第210図
16	55	- T - 12	楕円形	N-85°-W	0.52	0.49	0.47		第210図
17	56	- A - 12	楕円形	N-5°-W	1.19	0.84	0.84	130号土坑と重複	第210図
18	56	- A - 13	楕円形	N-83°-E	0.53	0.52	0.74		第210図
19	56	- A - 6	楕円形	N-16°-E	0.70	0.45	0.45	161号土坑と重複	第210図
20	55	- Q - 11	楕円形	N-32°-E	0.49	(0.40)	0.24	4号ピットと重複	第209図
21	55	- Q - 11	楕円形	N-0°	0.55	0.54	0.28		第210図
22	55	- S - 13	楕円形	N-5°-W	0.69	0.50	0.46		第210図
23	55	- S - 13	楕円形	N-32°-E	0.50	0.43	0.54		第211図
24	55	- T - 13	不整形	N-4°-W	(0.75)	(0.59)	0.59	99号・674号土坑、25号ピットと重複	第211図
25	55	- T - 13	楕円形	N-15°-E	0.60	(0.43)	0.63	674号土坑、24号・70号ピットと重複	第211図
26	55	- S - 12	楕円形	N-20°-E	0.27	0.26	0.29		第211図
27	55	- S - 11	楕円形	N-58°-W	0.93	0.67	0.76		第211図
28	55	- T - 13	不整形	N-90°	0.66	(0.24)	0.34	29号ピットと重複	第211図
29	55	- T - 13	不整形	N-90°	(0.67)	(0.46)	0.80	28号ピットと重複	第211図
30	55	- T - 13	円形	N-87°-W	0.93	0.90	0.72		第211図
31	56	- B - 15	楕円形	N-20°-W	1.20	0.87	0.64	16号溝と重複	第211図
32	56	- B - 15	不整形	N-14°-W	0.54	(0.31)	(0.43)	33号ピットと重複	第212図
33	56	- B - 15	不整形	N-29°-E	1.16	0.71	0.63	32号ピットと重複	第212図
34	56	- B - 15	不整形	N-0°	0.78	0.61	0.43	147号土坑と重複	第212図
35	56	- A - 15	不整形	N-62°-E	0.66	(0.49)	0.81	22号住居、3号・4号竪穴状遺構、152号土坑と重複	第212図
36	55	- T - 15	不整形	N-0°	(0.82)	0.58	0.72	37号ピットと重複	第212図
37	55	- T - 15	不整形	N-0°	(0.50)	0.47	0.43	36号ピットと重複	第212図
38	55	- S - 14	楕円形	N-85°-W	0.70	0.58	0.47	19号溝と重複	第212図
39	55	- R - 13	楕円形	N-74°-E	0.40	0.33	0.29		第212図
40	55	- R - 12	楕円形	N-67°-W	0.65	0.57	0.70		第212図
41	55	- S - 17	楕円形	N-54°-W	1.28	0.90	1.10		第213図
42	55	- S - 17	楕円形	N-48°-W	1.18	0.93	0.88		第213図
43	55	- S - 18	楕円形	N-34°-E	1.08	1.01	0.77		第213図
44	55	- P - 16	楕円形	N-78°-E	1.01	0.81	0.61		第213図
45	55	- S - 17	不整形	N-62°-W	0.40	0.30	0.40	19号竪穴状遺構内	第213図
46	56	- E - 17	不整形	N-27°-W	1.12	0.98	0.75		第213図
47	56	- E - 17	楕円形	N-79°-W	0.42	0.39	0.37		第213図
48	56	- E - 17	楕円形	N-28°-E	0.55	0.49	0.56		第213図
49	56	- F - 17	楕円形	N-43°-W	0.73	0.64	0.53		第214図
50	56	- E - 17	楕円形	N-37°-E	0.88	0.68	0.40		第214図
51	66	- E - 3	不整形	N-16°-E	0.45	0.38	0.45		第214図
52	66	- E - 3	楕円形	N-14°-E	0.42	0.35	0.42		第214図
53	66	- E - 3	楕円形	N-6°-E	0.34	0.27	0.66		第214図
54	66	- E - 3	楕円形	N-60°-E	0.29	0.24	0.69		第214図
55	66	- E - 3	楕円形	N-36°-E	0.31	0.27	0.61		第214図
56	66	- E - 2	楕円形	N-40°-W	0.35	0.31	0.89		第214図
57	66	- C - 2	楕円形	N-82°-E	0.40	0.34	0.44		第214図
58	66	- A - 1	楕円形	N-31°-W	1.05	0.92	0.60		第214図
59	66	- C - 16	楕円形	N-19°-E	0.66	0.56	0.52		第214図
60	56	- E - 17	楕円形	N-18°-E	0.82	0.82	0.45		第214図
61	56	- D - 16	楕円形	N-58°-E	0.47	0.42	0.46		第215図
62	56	- C - 17	楕円形	N-15°-W	1.54	1.39	0.72		第215図
63	56	- C - 15	楕円形	N-53°-W	0.47	0.40	0.42		第215図
64	55	- P - 17	楕円形	N-3°-E	1.02	0.86	0.67		第215図
65	55	- P - 16	楕円形	N-0°	0.85	0.68	0.53		第215図
66	55	- P - 16	不整形	N-18°-W	1.11	0.82	0.67	67号ピットと重複	第215図
67	55	- P - 16	不整形	N-82°-E	(0.68)	(0.69)	0.60	66号ピットと重複	第215図
68	56	- A - 14	不整形	N-37°-E	0.48	0.40	0.82	22号住居、18号溝と重複	第216図
69	56	- A - 16	楕円形	N-0°	0.46	0.42	0.60	668号土坑と重複	第216図
70	55	- T - 13	不整形	N-84°-W	0.80	0.56	0.58	674号土坑、25号ピットと重複	第216図
71	55	- R - 17	楕円形	N-86°-W	1.03	0.90	0.73		第216図
72	56	- A - 14	楕円形	N-67°-W	0.33	0.31	0.75	19号溝内	第216図
73	56	- A - 14	楕円形	N-23°-W	0.25	0.20	0.63	19号溝内	第216図

## 参考文献

### 第1章

1. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上町・時沢西紺屋谷戸遺跡』

2. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『年報31』

### 第2章

3. 群馬県史編さん委員会1990『群馬県史通史編1 原始古代1』
4. 前橋市史編さん委員会1971『前橋市史第1巻』
5. 守屋以智雄1968『赤城火山の地形及び地質』
6. 守屋以智雄1983『日本の火山地形』
7. 町田洋・新井房夫1992『火山灰アトラス[日本列島とその周辺]』
8. 新井房夫1996『火山灰考古学』
9. 群馬県林務部自然保護対策室1982『ぐんまの地形と地質』
10. 赤城山編集委員会1988『探訪ガイド 赤城山』
11. 竹本弘幸1999『北関東北西部における第四紀古環境変遷と火山活動』
12. 栗原久 2007『なるほど 赤城学』
13. 栗原久 2009『榛名学』
14. 天野一男、秋山雅彦2004『フィールドジオロジー 1 フィールドジオロジー入門』
15. 遠藤邦彦、小林哲夫2012『フィールドジオロジー 9 第四紀』
16. 「ぐんまの大地」編集委員会2009『ぐんまの大地一生いたちをたずねて一』
17. 目代邦康2010『見方のポイントがよくわかる地層の基本』
18. 富士見村役場1954『富士見村誌』
19. 富士見村役場1979『富士見村誌 続編』
20. 南橋村誌編纂委員会1955『南橋村誌』
21. 芳賀村誌改訂並びに町誌編纂委員会芳賀地区自治会連合会1993『芳賀村誌芳賀の町誌』
22. 群馬県教育委員会1963『群馬県の遺跡』
23. 群馬県教育委員会1971『群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)』
24. 群馬県教育委員会1973『群馬県遺跡地図』
25. 群馬県史編さん委員会1981『群馬県史資料編3 原始古代3 古墳』
26. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『群馬県遺跡大辞典』
27. 塙保己一「群書類従 巻第九 神鳳抄」1978覆刻版『新校 群書類従 第一巻 神祇部(全)』
28. 山崎一1971『群馬県古城塁址の研究』上巻
29. 山崎一1979『群馬県古城塁址の研究』補遺篇上巻
30. 山崎一1979『日本城郭大系第4巻』
31. 群馬県教育委員会1988『群馬県中世城館址』

### 第3章

32. 川崎純徳ほか1978『額田大宮遺跡』那珂町史編纂委員会
33. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『八ヶ入遺跡Ⅰ』

34. 日立市教育委員会1997『宮脇遺跡・宮脇A遺跡・宮脇B遺跡』
35. 大川清、鈴木公雄、工業善通1996『日本土器事典』
36. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『第3 収蔵庫収蔵展示室展示解説 時代が変わる 道具も変わる』
37. 赤山容造1980『三原田遺跡 第一巻(住居編)』
38. 赤山容造・小宮俊久・佐藤明人1992『三原田遺跡 第三巻』
39. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1990『田篠中原遺跡』
40. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『高源寺Ⅰ遺跡』
41. 富士見村教育委員会1986『田中田遺跡窪谷戸遺跡見眼遺跡』
42. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1993『神保富士塚遺跡』
43. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1997『神保植松遺跡』
44. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1997『最新情報展【出土した古代の土器】展示レポート』
45. 庄司太一2009「養蚕活桑器」『骨董縁起帳』
46. 前橋商工所2011「北曲輪町」『商工まえばし別冊 おじいちゃんとボクが訪ねた町 旧町名への旅』

### 第5章 第2節・第3節・第5節

47. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『天王・東紺屋谷戸遺跡』
48. 群馬県教育委員会事務局部長室県史編さん室1989『群馬県出土の墨書・刻書土器集成(1)』
49. 群馬県教育委員会事務局部長室県史編さん室1992『群馬県出土の墨書・刻書土器集成(2)』
50. 群馬県教育委員会事務局部長室県史編さん室1998『群馬県出土の墨書・刻書土器集成(3)』
51. 平川南2000『墨書土器の研究』
52. 高島英之2000「古代出土文字資料の研究」東京堂出版
53. 高島英之2006「古代東国地域と出土文字資料」東京堂出版
54. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『群馬の遺跡 1 旧石器時代』
55. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『群馬の遺跡 2 縄文時代』
56. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2004『群馬の遺跡 3 弥生時代』
57. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『群馬の遺跡 5 古墳時代Ⅱ【集落】』
58. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上細井中島遺跡』
59. 石川日出志2003「神保富士塚式土器の提唱と弥生中期土器研究上の意義」『土曜考古』第27号
60. 大木紳一郎2004「3 弥生時代」『研究紀要23』
61. 馬場伸一郎2008「弥生中期・栗林式土器編年の再構築と分布論的研究—弥生公共交通の可能性を視野に入れて—」『国立歴史民俗博物館研究報告第145集』



# 写真図版





1. 遺跡遠景(○印 新田上遺跡 南から)



2. 遺跡遠景(○印 新田上遺跡 北東から)



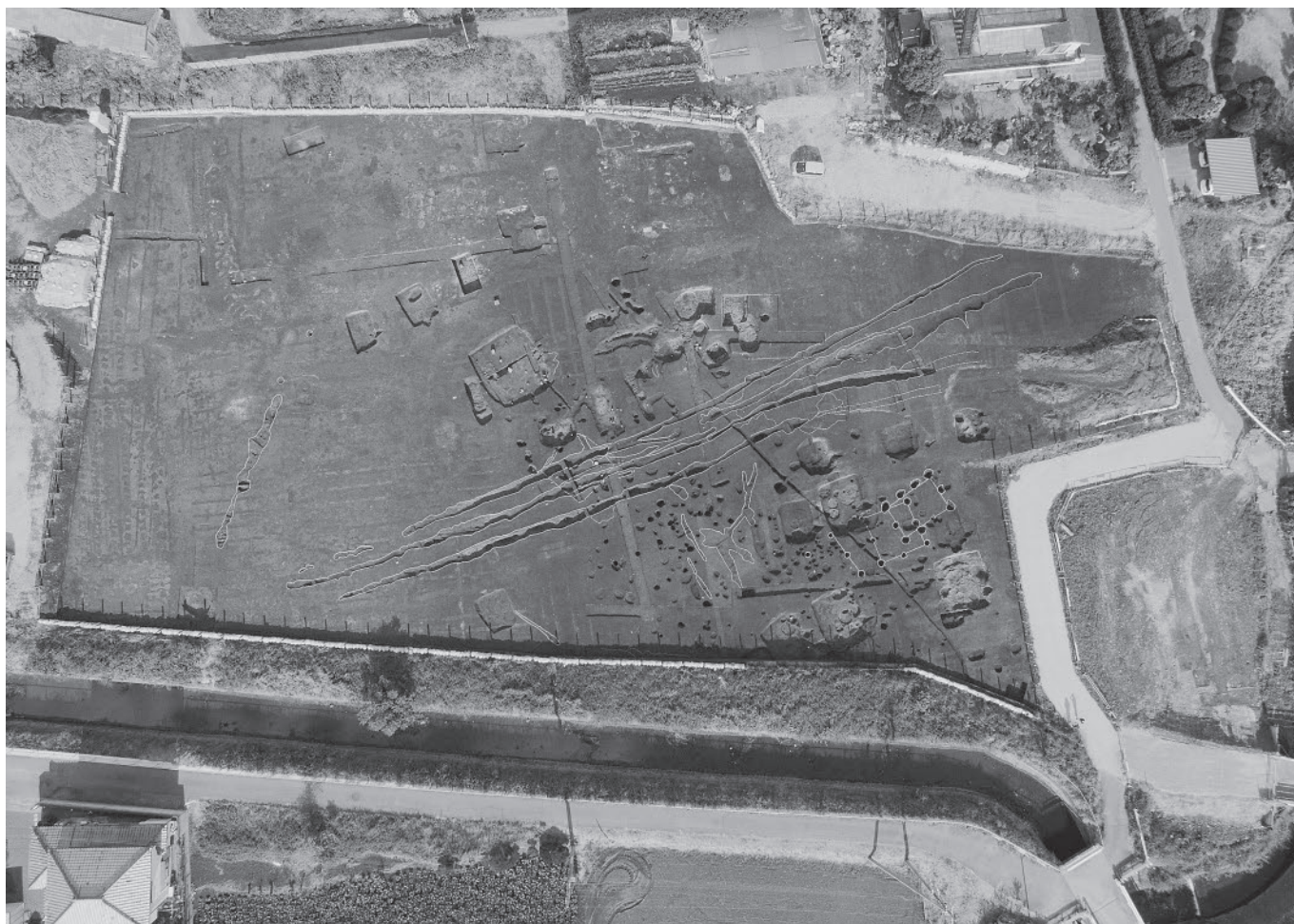
1. 遺跡全景(南から)



2. 遺跡全景(東から)



1. 遺跡全景(真上から上が西)



2. 遺跡全景(真上から上が北)



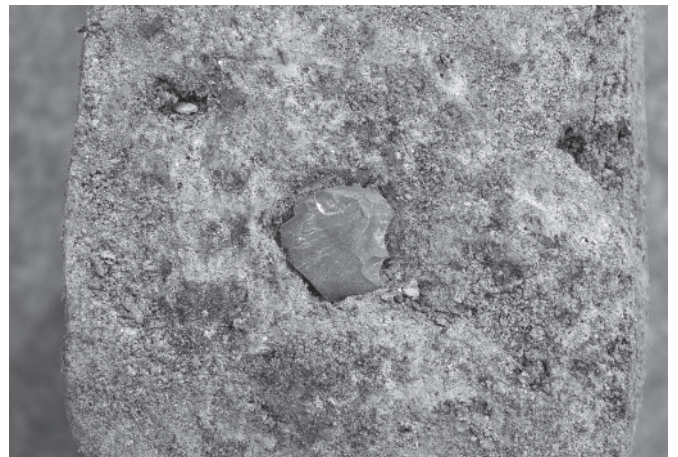
1. 第1ブロック全景(北西から)



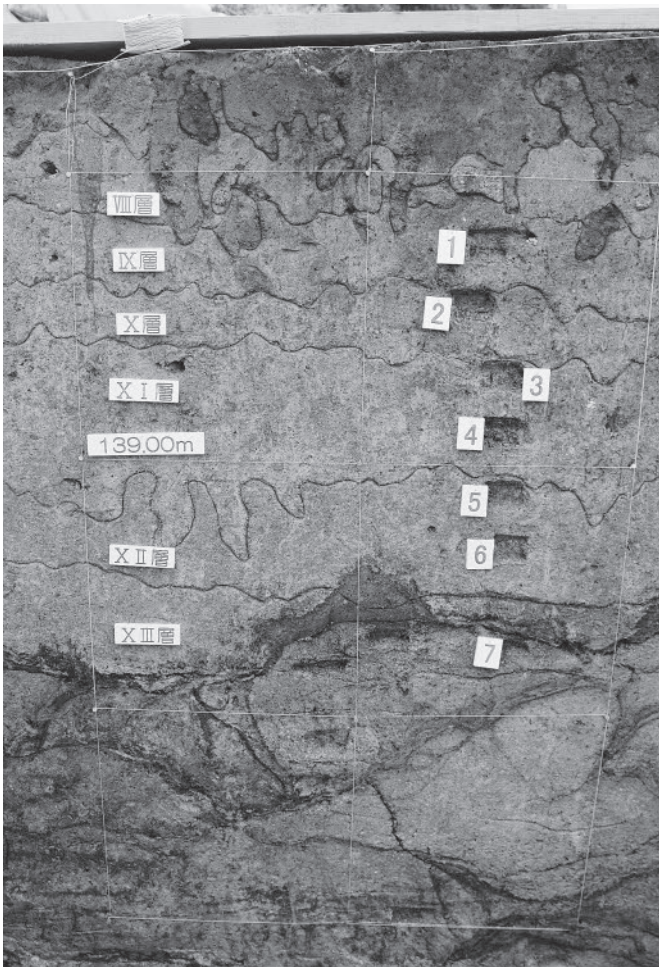
2. 第1ブロック全景(北東から)



3. 第1ブロック遺物出土状況(北西から)



4. 第1ブロック細石刃核出土状況接写



5. 第1ブロックセクションC-C' (東から)



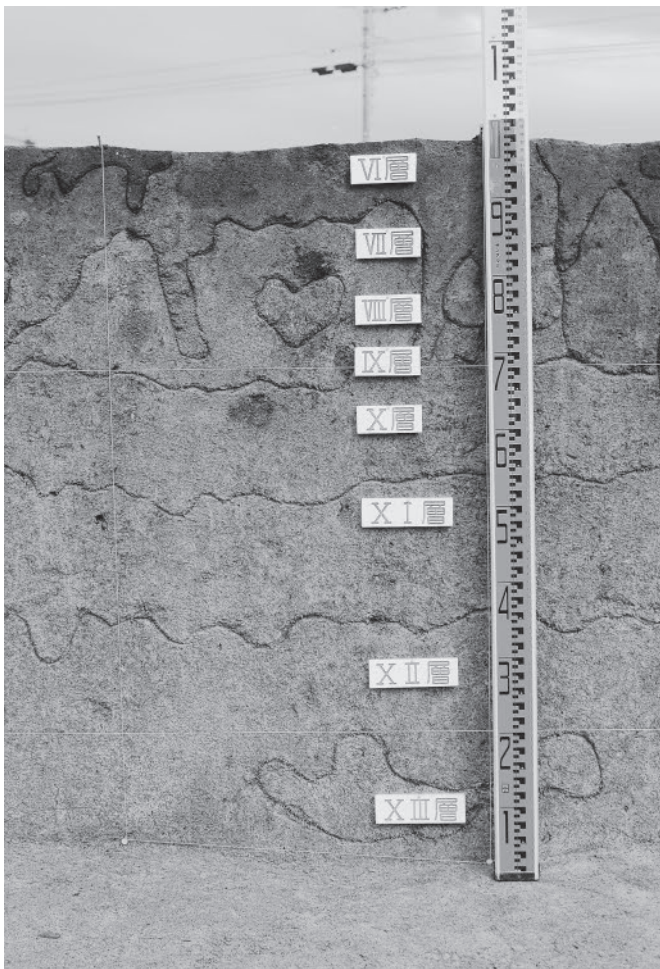
6. 第1ブロックセクションC-C' テフラ採取状況(東から)



7. 第1ブロック調査風景(北から)



1. 第2ブロック全景(南東から)



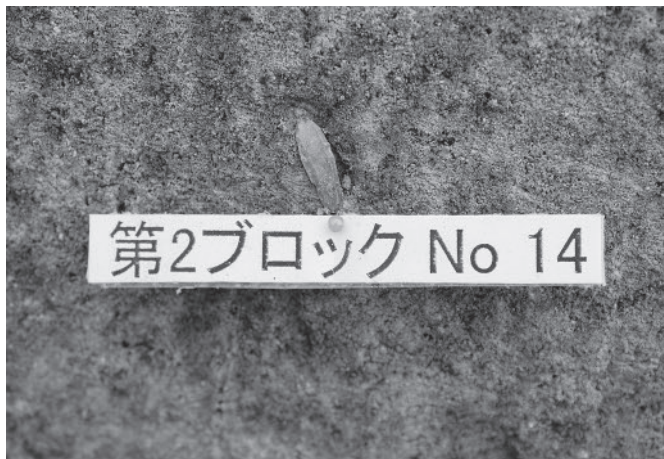
2. 第2ブロックセクション(西から)



3. 第2ブロック全景(北西から)



4. 第2ブロック調査風景(東から)



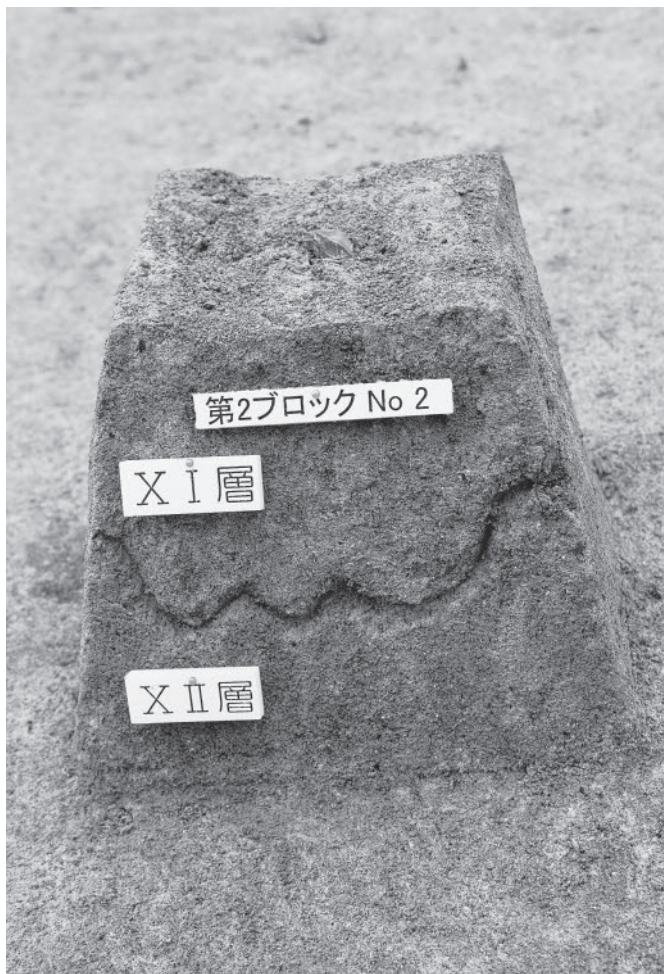
1. 第2ブロック細石刃出土状況接写



2. 第2ブロック細石刃核出土状況接写



3. 第2ブロック細石刃出土状況(南から)



4. 第2ブロック細石刃核出土状況(南から)



5. 第2ブロック遺物出土状況(西から)

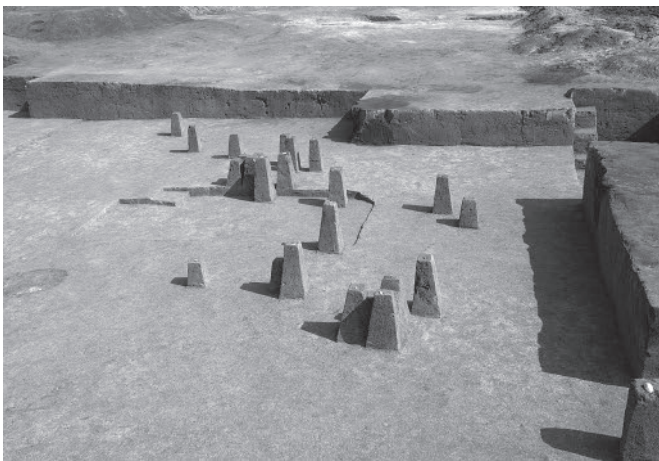


6. 第3ブロック全景(北東から)

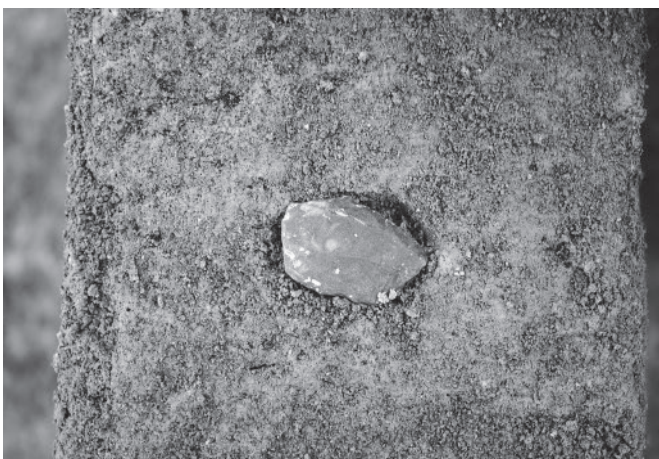




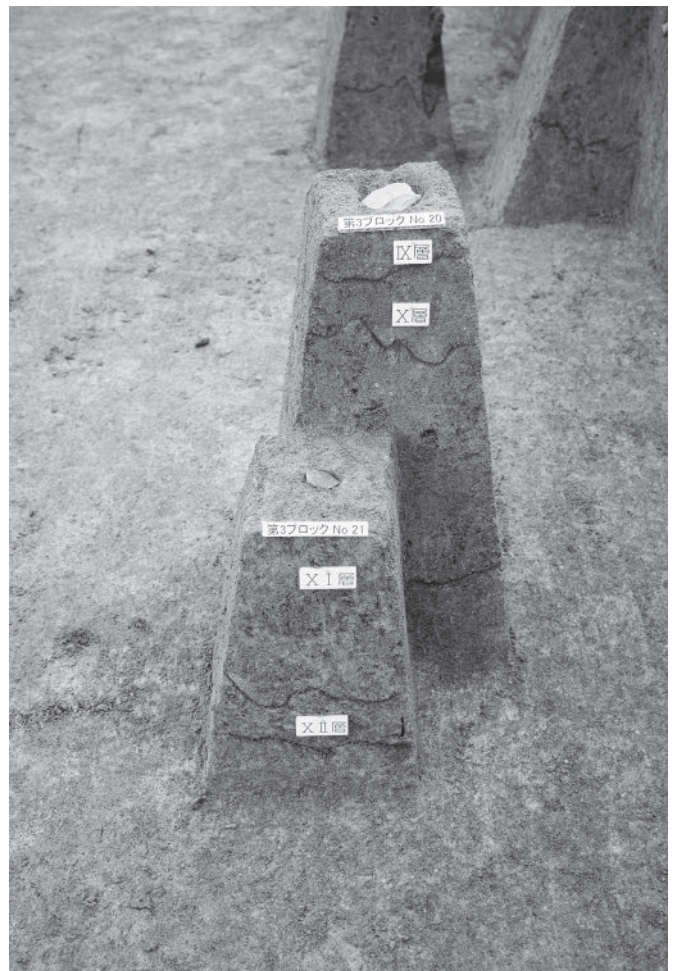
1. 第3・第6・第7ブロック全景(南から)



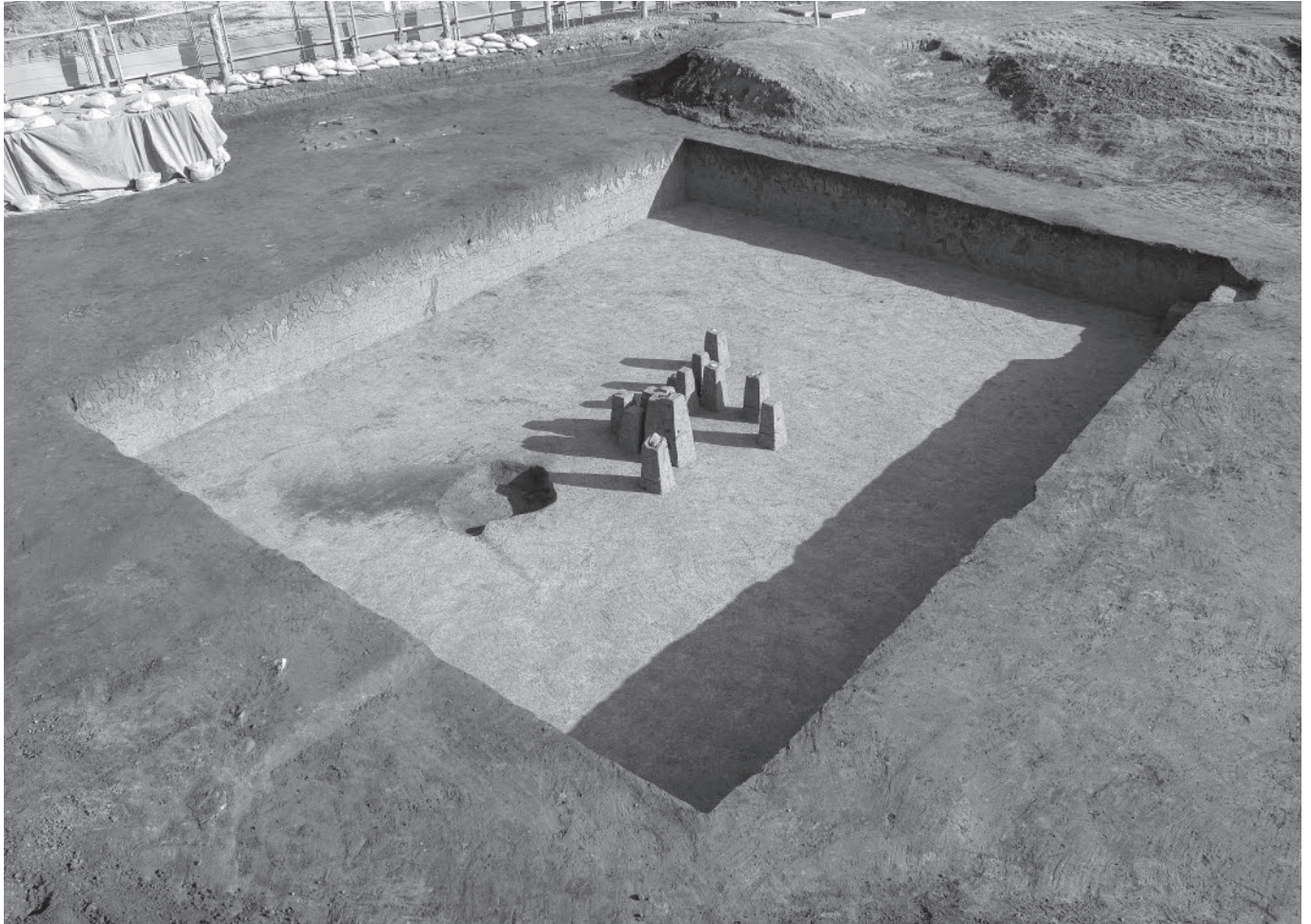
2. 第3ブロック全景(西から)



3. 第3ブロック彫刻刀形石器出土状況接写



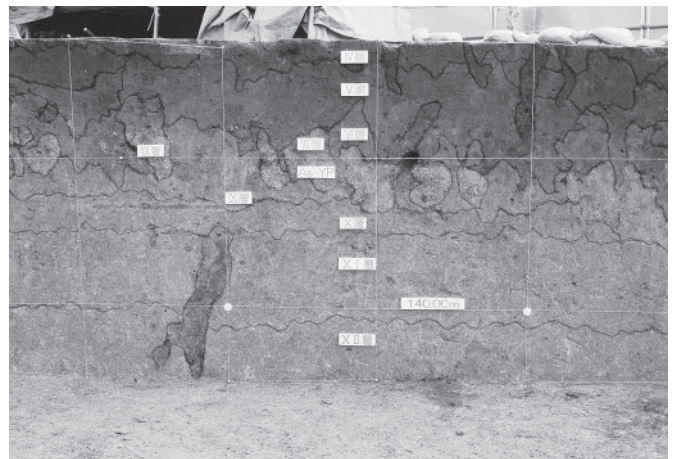
4. 第3ブロック彫刻刀形石器出土状況(北から)



1. 第5ブロック全景(北西から)



2. 第5ブロック南側調査風景(南西から)



3. 第5ブロックセクションA-A' (西から)



4. 第5ブロック遺物出土状況(東から)



5. 第5ブロック遺物出土状況(南西から)



1. 第3・第6・第7ブロックセクションA-A'詳細(南西から)



2. 第6ブロック全景(南西から)



3. 第6ブロック全景(北西から)



4. 第6ブロック彫刻刀形石器出土状況



5. 第6ブロック彫刻刀形石器出土状況(北から)



6. 第7ブロック全景(東から)



7. 第7ブロック全景(西から)



1. 56区 旧石器調査風景(東から)



2. 56区B19グリッド旧石器トレンチ(東から)



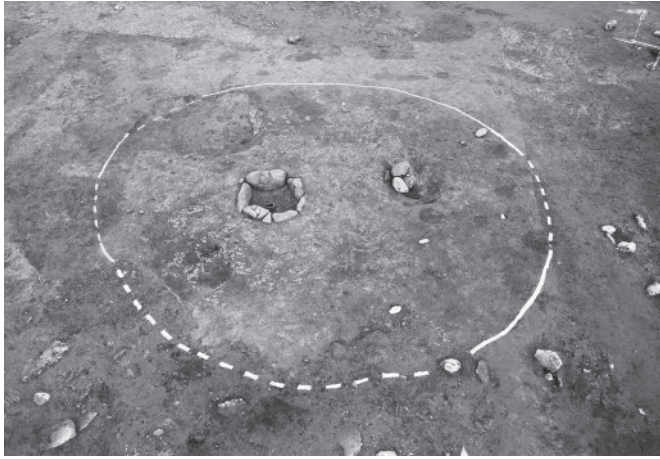
3. 56区B19グリッド旧石器トレンチ拡張部(北から)



4. 67区 旧石器調査風景(北西から)



5. 67区 旧石器調査風景(北から)



1. 26号住居遺物出土状況(西から)



2. 26号住居全景(西から)



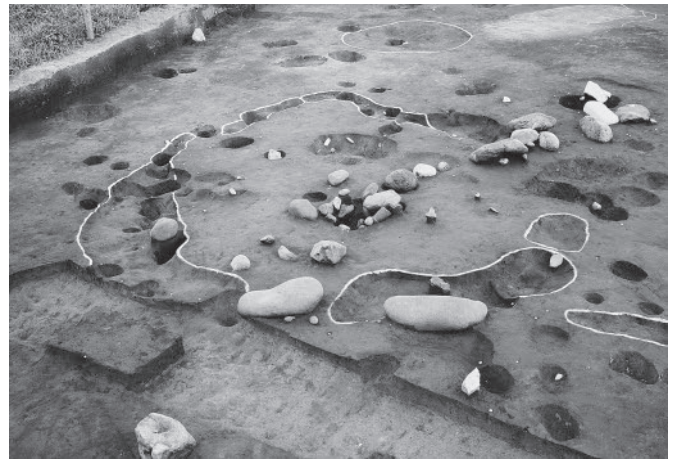
3. 26号住居炉全景(西から)



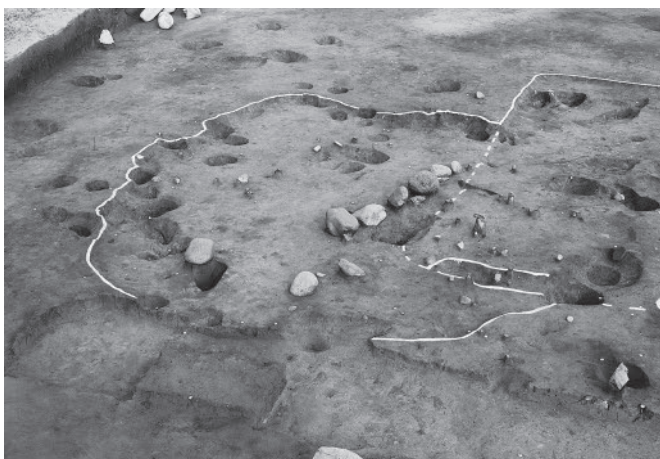
4. 26号住居炉セクションD-D' (南西から)



5. 27号住居遺物出土状況(南から)



6. 27号住居遺物出土状況(西から)



7. 27号住居全景(西から)



8. 29号住居全景(南西から)



1. 29号住居埋葬炉確認状況(西から)



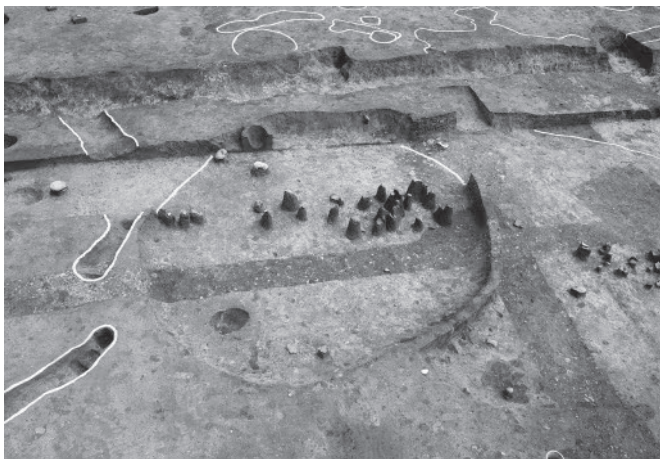
2. 29号住居埋葬炉セクションD-D' (南西から)



3. 29号住居調査風景(南から)



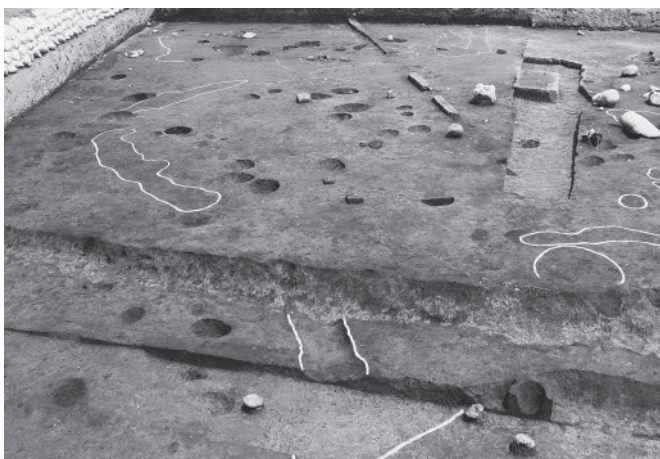
4. 30号住居全景(南西から)



5. 31号住居全景(南西から)



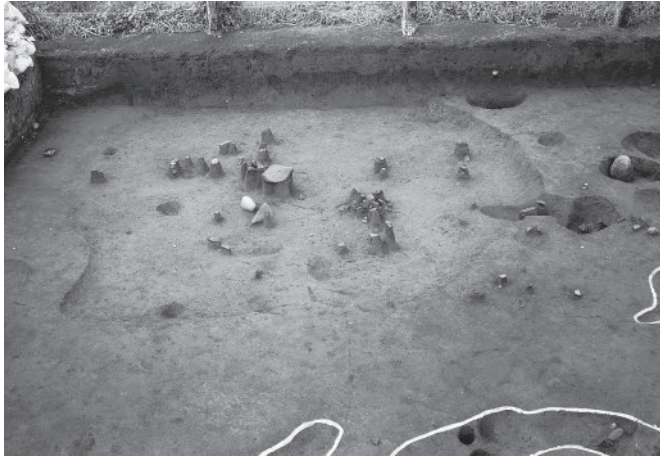
6. 31号住居遺物出土状況(南西から)



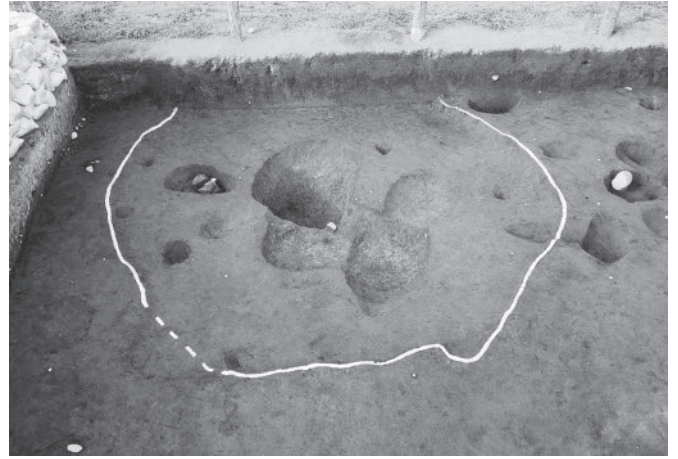
7. 32号住居遺物出土状況(南から)



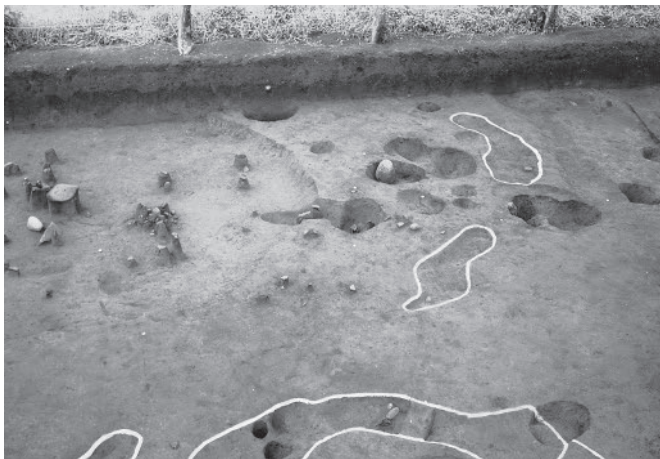
8. 32号住居全景(南から)



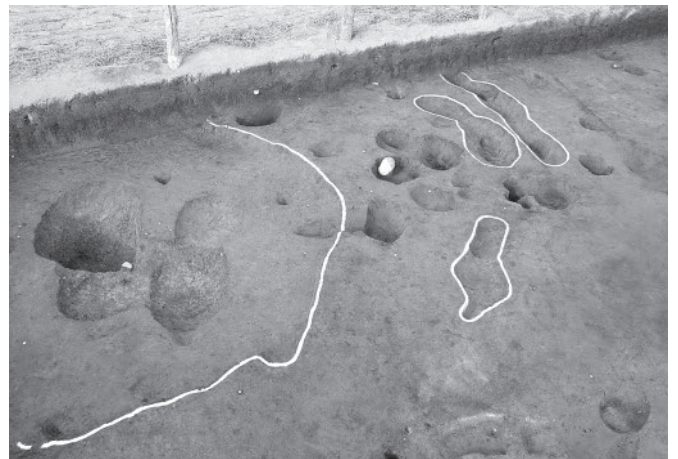
1. 33号住居遺物出土状況(南西から)



2. 33号住居全景(南西から)



3. 34号住居遺物出土状況(南西から)



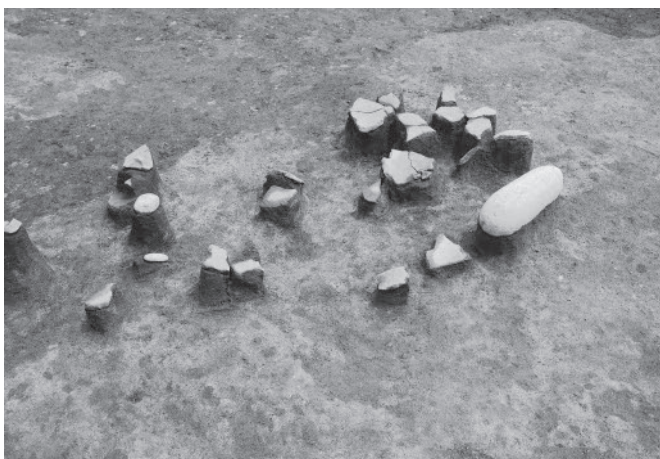
4. 34号住居全景(南西から)



5. 33号・34号住居調査風景(南東から)



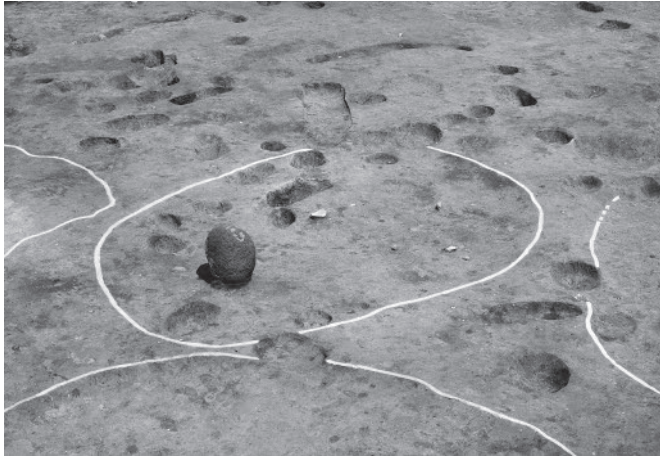
6. 35号住居全景(南西から)



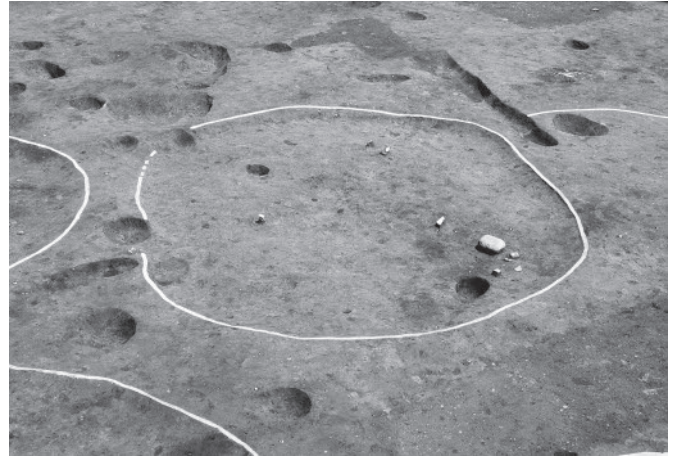
7. 35号住居遺物出土状況(南から)



8. 36号住居全景(南西から)



1. 37号住居全景(南西から)



2. 38号住居全景(南西から)



3. 41号住居遺物出土状況(南西から)



4. 41号住居遺物出土状況(南から)



5. 41号住居全景(南西から)



6. 42号住居遺物出土状況(北東から)

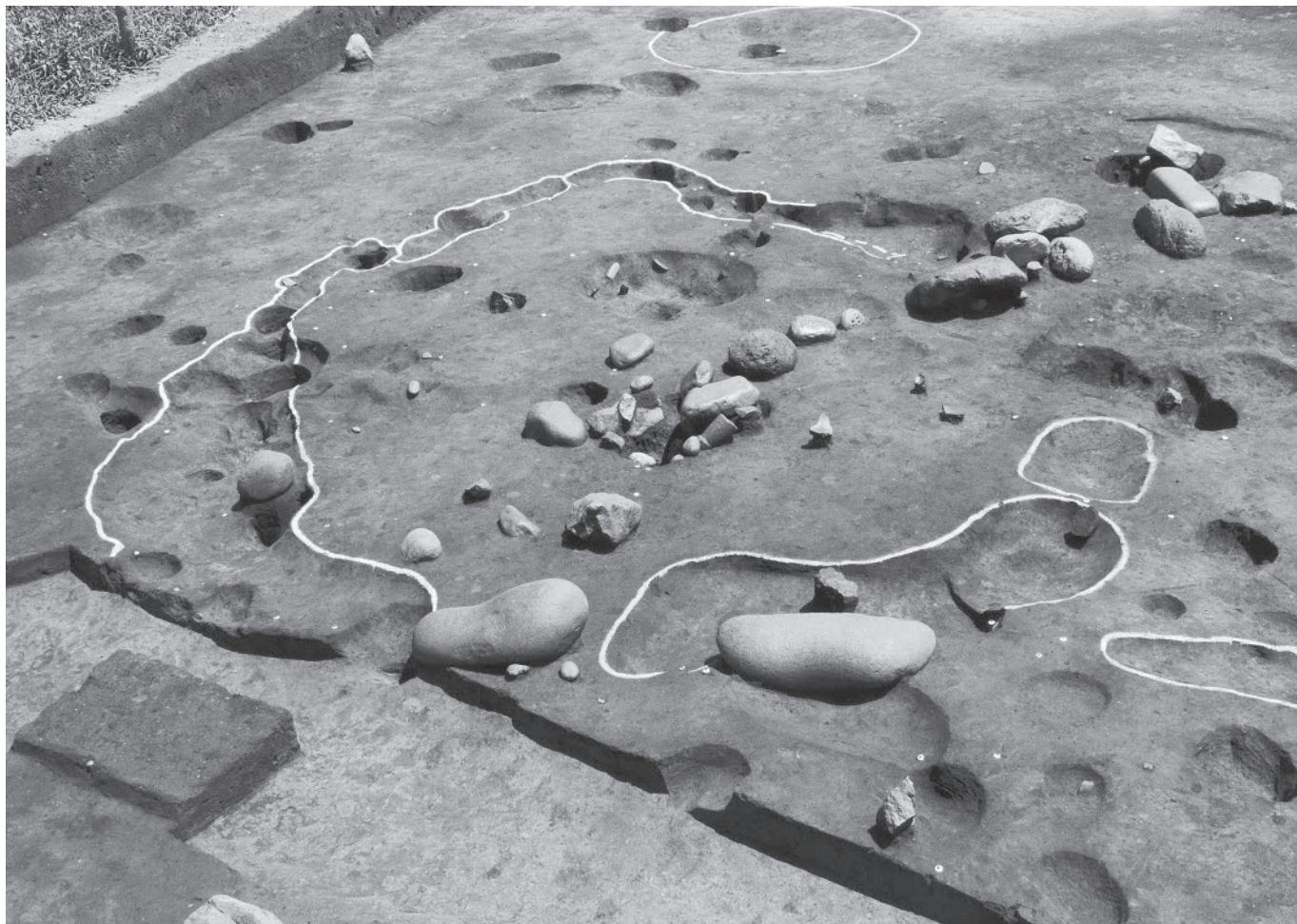


7. 42号住居遺物出土状況(南から)



8. 43号住居全景(南東から)





1. 1号配石全景(西から)



2. 1号配石全景(南西から)



3. 1号配石遺物出土状況(南西から)



4. 1号配石遺物出土状況(北東から)



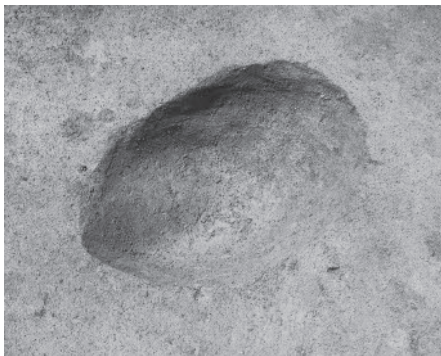
5. 31号溝全景 (北から)



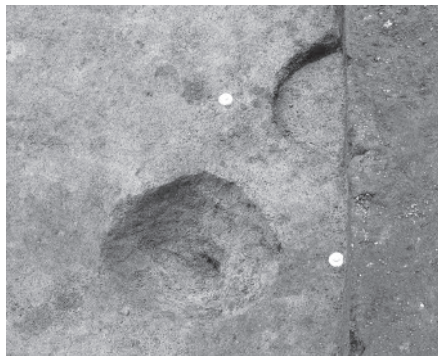
1. 縄文時代土坑群2面目全景(東から)



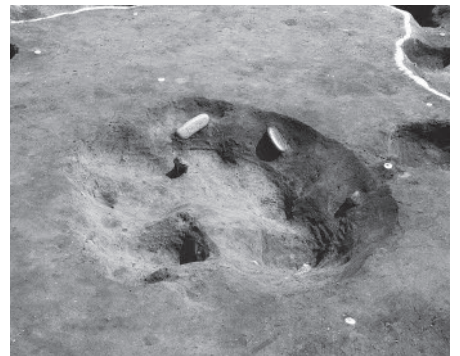
2. 縄文時代土坑群2面目調査風景(南東から)



3. 13号土坑全景(北から)



4. 114号・118号土坑全景(西から)



5. 235号・251号土坑全景(南から)



6. 290号土坑全景(北から)



7. 322号・479号土坑全景(東から)



8. 323号土坑全景(東から)



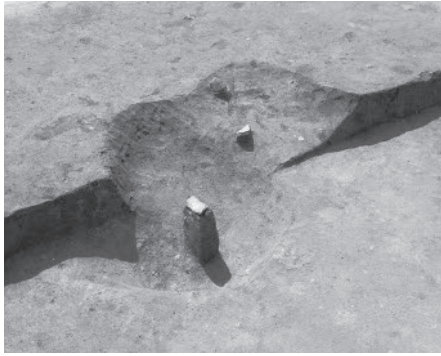
9. 470号土坑全景(北東から)



10. 住居周辺土坑全景(東から)



11. 住居周辺土坑調査風景(西から)



1. 472号土坑全景(北東から)



2. 473号土坑全景(北から)



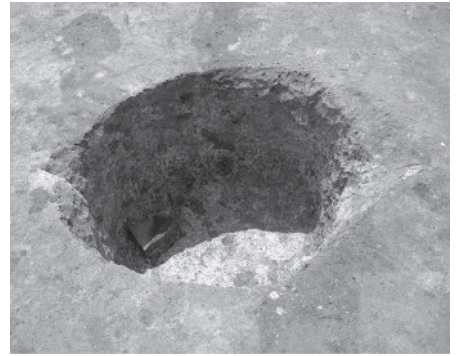
3. 475号土坑全景(北から)



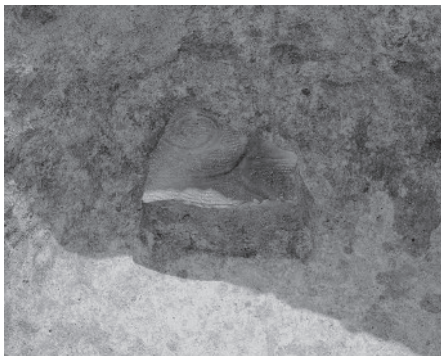
4. 479号土坑全景(北から)



5. 484号土坑全景(南から)



6. 494号土坑全景(北から)



7. 494号土坑遺物出土状況(北から)



8. 510号土坑全景(北から)



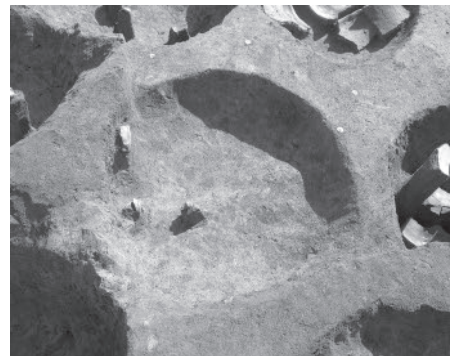
9. 511号土坑全景(東から)



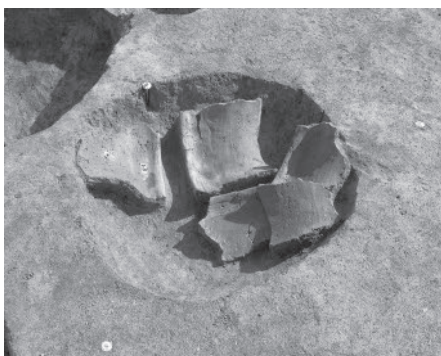
10. 514号土坑全景(北から)



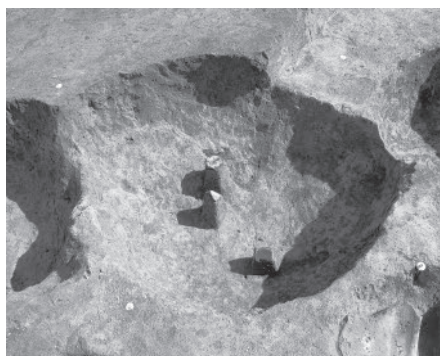
11. 515号土坑全景(北から)



12. 516号土坑全景(北から)



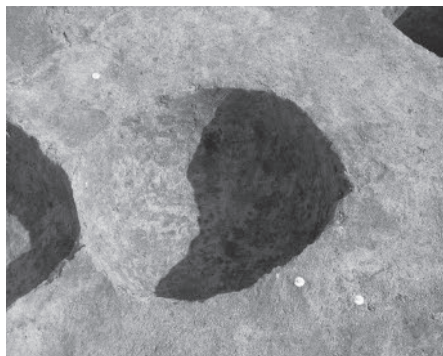
13. 518号土坑全景(北から)



14. 519号土坑全景(西から)



15. 520号・521号土坑全景(西から)



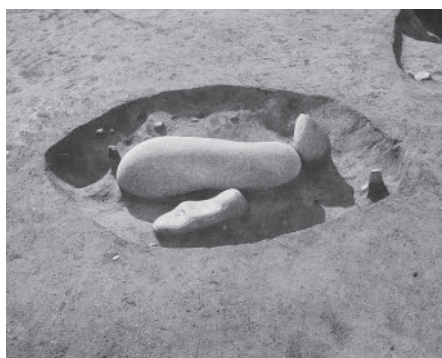
1. 522号土坑全景(西から)



2. 556号土坑全景(東から)



3. 561号土坑全景(西から)



4. 565号土坑全景(東から)



5. 565号～570号土坑全景(南東から)



6. 566号土坑全景(北から)



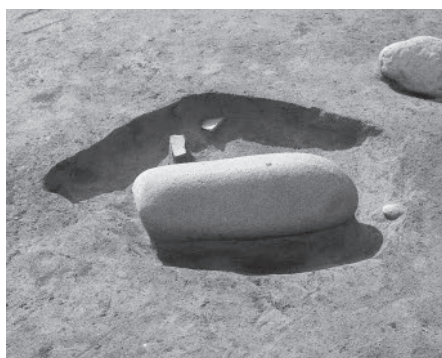
7. 567号土坑全景(東から)



8. 568号土坑全景(北西から)



9. 569号土坑全景(東から)



10. 570号土坑全景(東から)



11. 665号土坑セクション(東から)



12. 678号土坑全景(南から)



13. 679号土坑全景(南から)



14. 680号土坑遺物出土状況(南から)

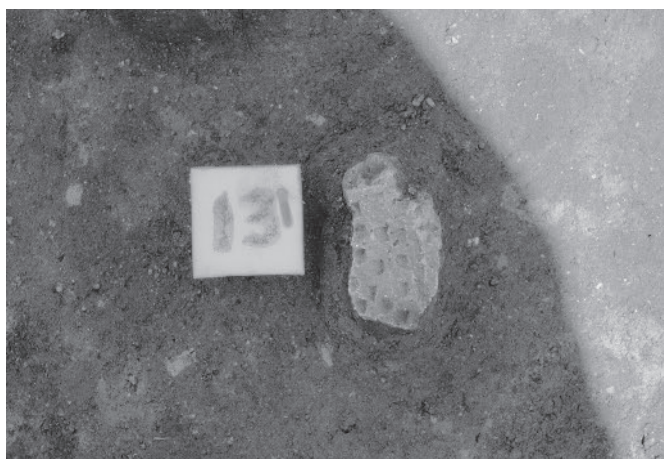
弥生時代



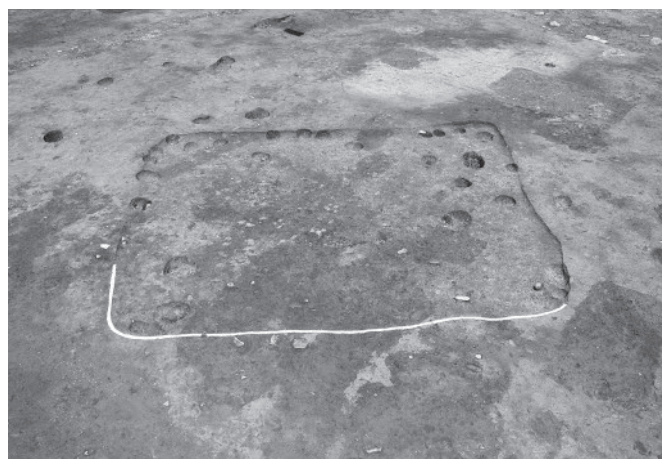
1. 24号住居全景(東から)



2. 24号住居炉全景(北から)



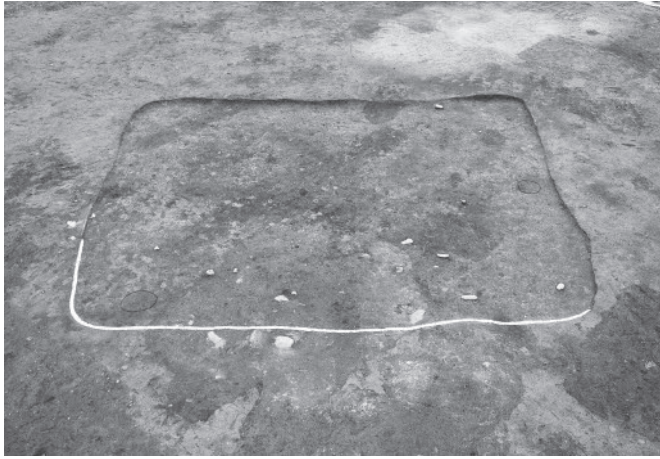
3. 24号住居遺物出土状況



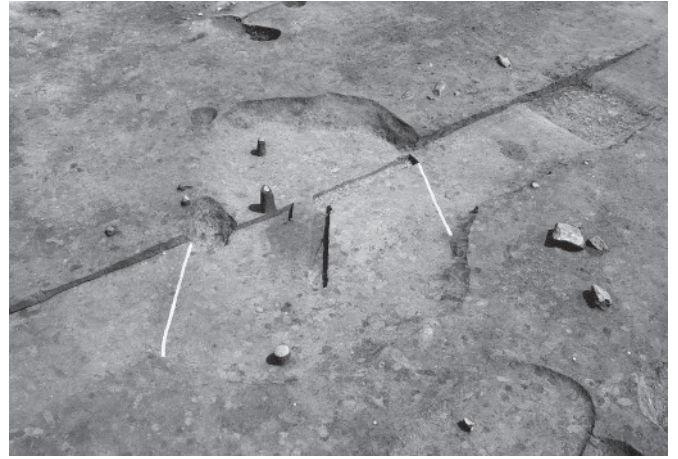
4. 25号住居全景(西から)



5. 67区全景(北から)



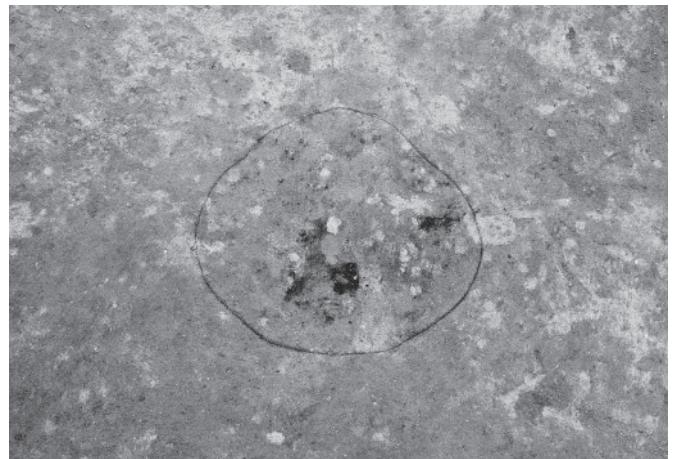
1. 25号住居遺物出土状況(西から)



2. 39号住居全景(南西から)



3. 48号住居全景(北から)



4. 48号住居炉確認状況(南から)



5. 39号住居周辺調査風景(北から)



1. 227号土坑セクション(北から)



3. 495号土坑遺物出土状況(北から)



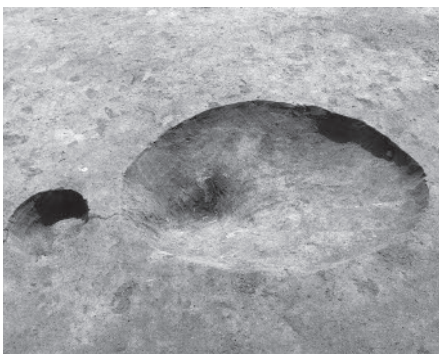
4. 498号土坑遺物出土状況(西から)



2. 227号土坑全景(北から)



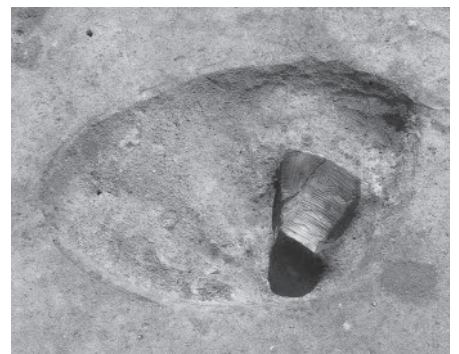
5. 498号土坑全景(西から)



6. 499号土坑全景(西から)



7. 501号土坑全景(北から)



8. 509号土坑遺物出土状況(北西から)



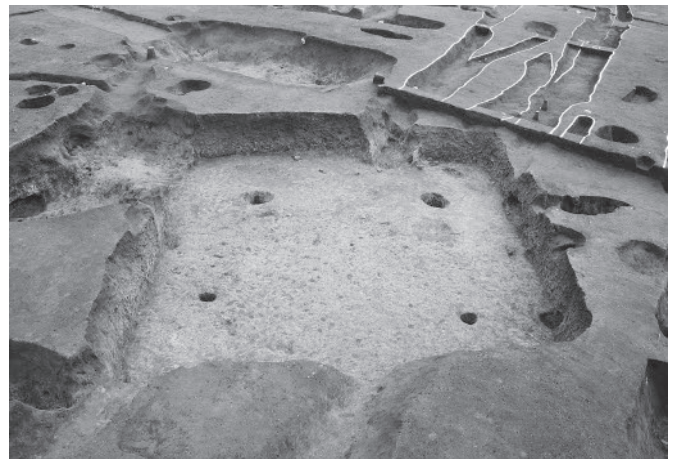
1. 1号住居全景(北東から)



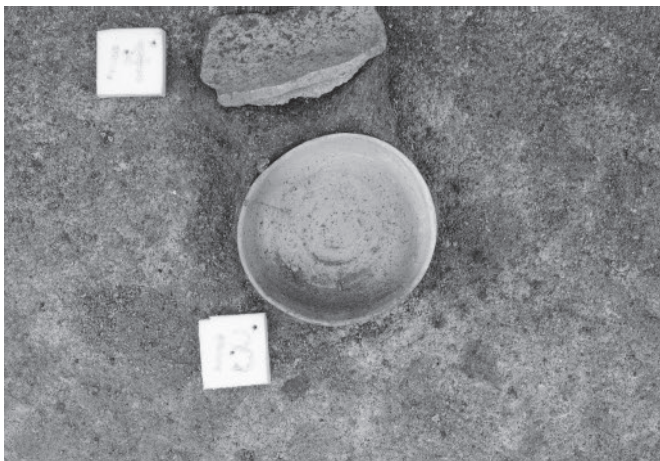
2. 1号住居遺物出土状況(南西から)



3. 1号住居掘方全景(北東から)



4. 22号住居全景(南西から)



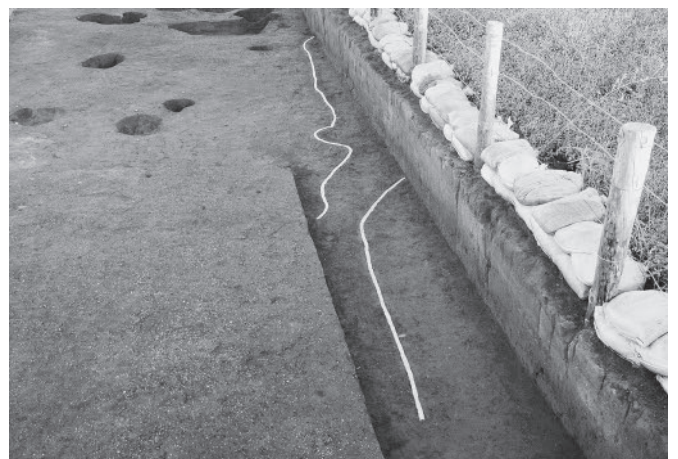
5. 22号住居遺物出土状況



6. 22号住居カマド全景(南西から)



7. 22号住居カマド掘方全景(東から)



8. 2号道全景(西から)





1. 2号住居全景(西から)



2. 2号住居カマド全景(西から)



3. 2号住居掘方全景(西から)



4. 2号住居カマド掘方全景(西から)



5. 3号住居全景(南西から)



6. 3号住居カマド全景(南西から)



7. 3号住居掘方全景(南西から)



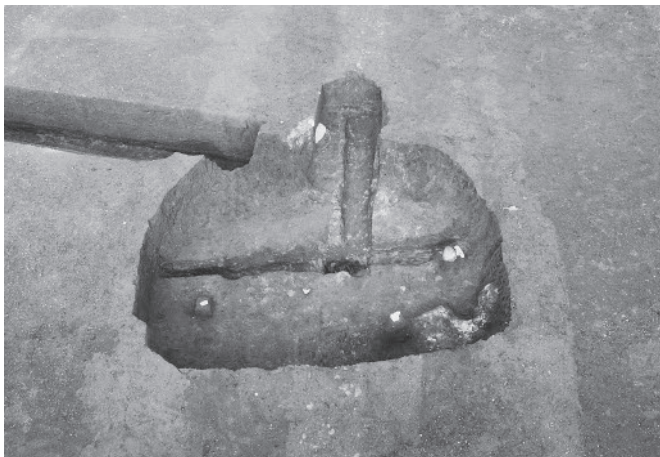
8. 4号住居掘方全景(西から)



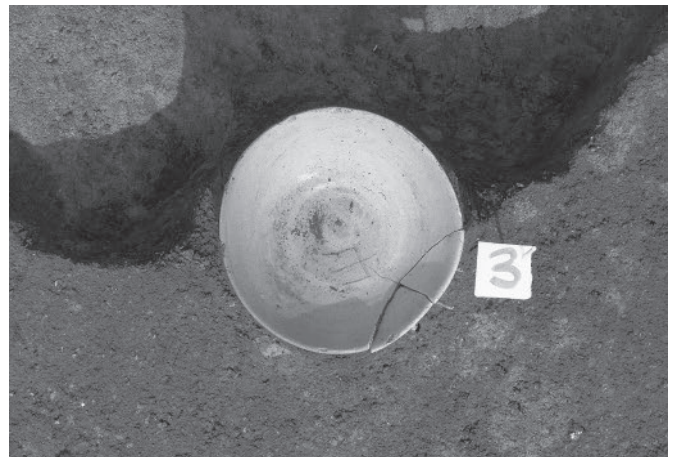
1. 4号住居カマド全景(西から)



2. 4号住居カマド掘方全景(西から)



3. 5号住居全景(西から)



4. 6号住居遺物出土状況



5. 6号住居全景(西から)



6. 6号住居掘方全景(西から)



7. 6号住居カマド全景(西から)



8. 6号住居カマド掘方全景(西から)



1. 6号住居調査風景(北西から)



2. 7号住居全景(西から)



3. 7号住居カマド全景(西から)



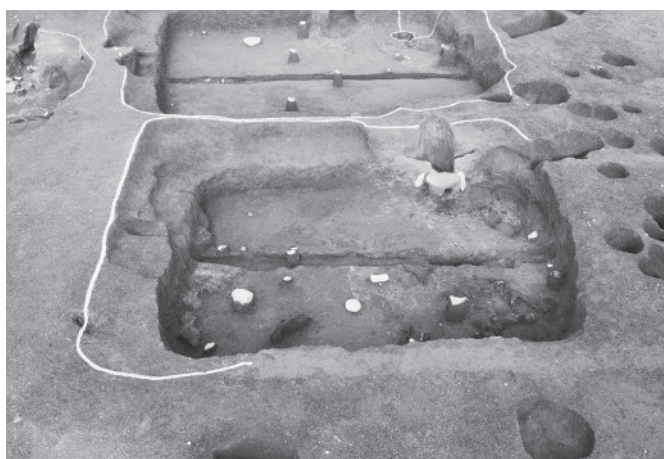
4. 7号住居カマド掘方全景(西から)



5. 7号住居掘方全景(西から)



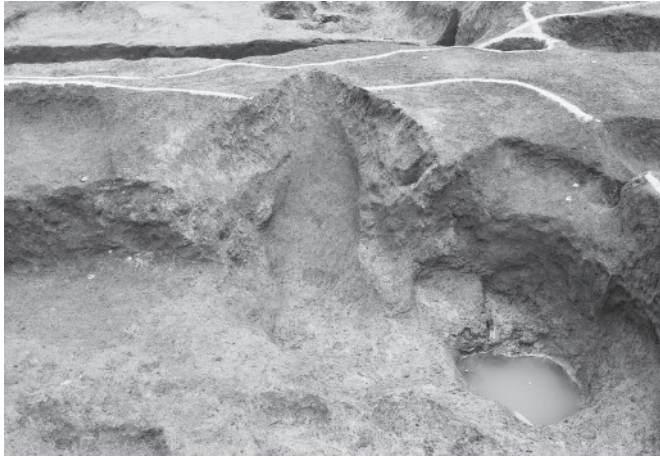
6. 8号住居全景(西から)



7. 9号住居全景(西から)



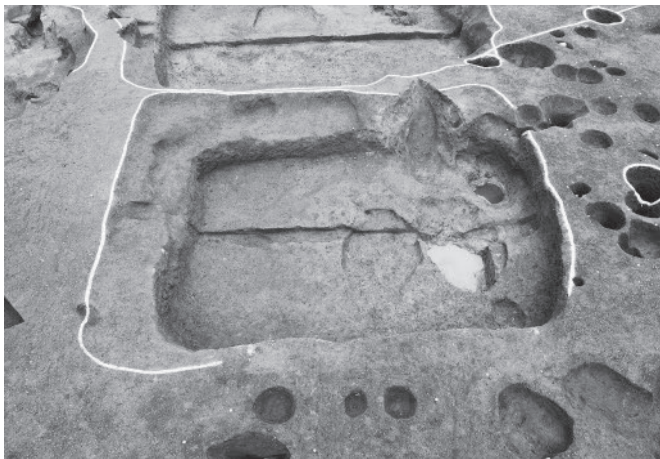
8. 9号住居カマド全景(西から)



1. 9号住居カマド掘方全景(西から)



2. 9号住居炭化物出土状況(北西から)



3. 9号住居掘方全景(西から)



4. 10号住居カマドセクションD-D'



5. 10号住居カマド掘方全景(西から)



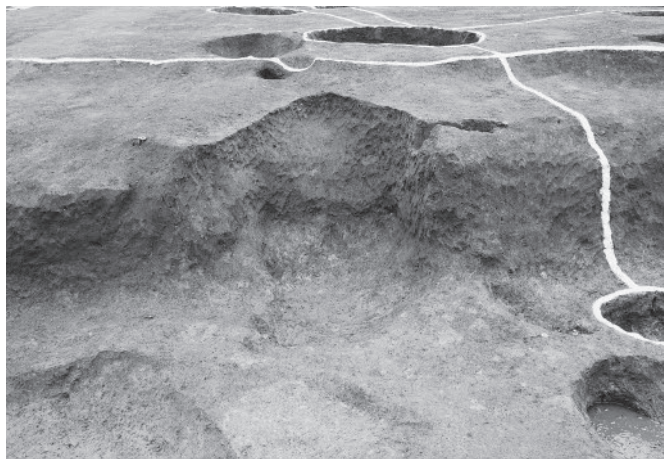
6. 10号住居掘方全景(西から)



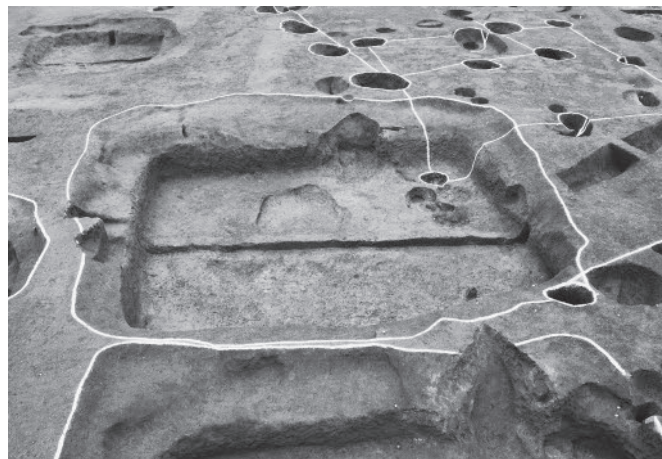
7. 11号住居全景(西から)



8. 11号住居カマド全景(西から)



1. 11号住居カマド掘方全景(西から)



2. 11号住居掘方全景(西から)



3. 11号住居調査風景(南西から)



4. 12号・15号住居全景(北西から)



5. 12号・15号住居南壁セクションA-A' (北東から)



6. 12号住居掘方全景(南西から)



7. 15号住居遺物出土状況接写



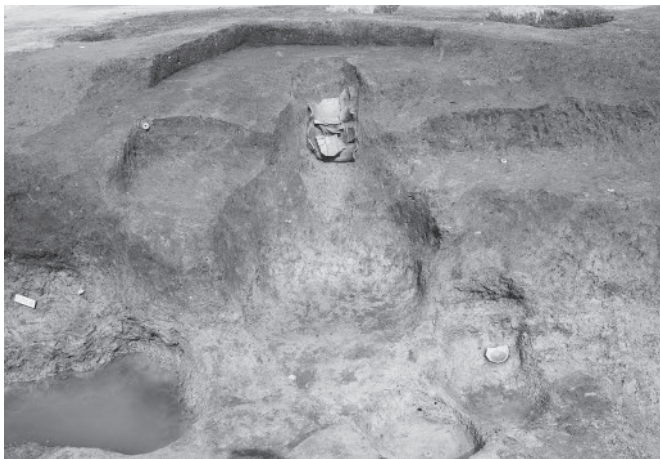
8. 13号住居全景(北西から)



1. 13号住居遺物出土状況(西から)



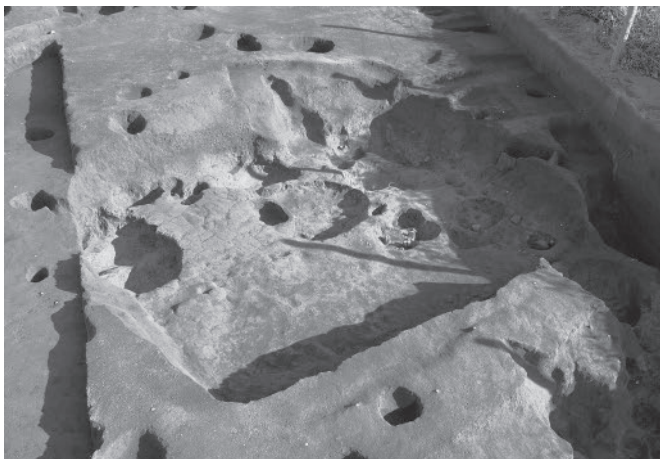
2. 13号住居カマド全景(西から)



3. 13号住居カマド掘方全景(西から)



4. 13号住居P 4全景(南西から)



5. 13号住居掘方全景(北西から)



6. 14号住居遺物出土状況(北西から)



7. 14号住居カマド全景(西から)



8. 14号住居カマド掘方全景(西から)



1. 16号住居全景(北から)



2. 17号住居全景(西から)



3. 18号・49号住居全景(西から)



4. 18号・49号住居掘方全景(西から)



5. 19号住居全景(北から)



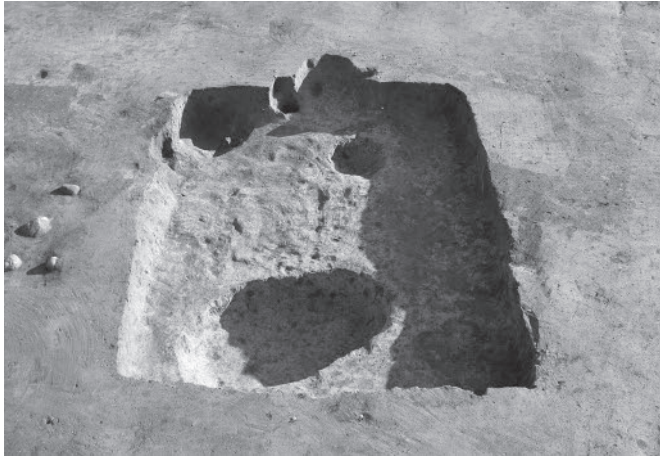
6. 19号住居遺物出土状況(北から)



7. 19号住居カマド全景(北から)



8. 19号住居カマド掘方全景(北から)



1. 19号住居掘方全景(北から)



2. 20号住居全景(西から)



3. 20号住居カマドセクションB-B' (西から)



4. 20号住居掘方全景(西から)



5. 20号住居掘方P 3全景(西から)



6. 21号住居全景(西から)



7. 23号住居全景(西から)



8. 23号住居カマド全景(西から)





1. 23号住居カマド掘方全景(西から)



2. 23号住居掘方全景(西から)



3. 23号住居P14遺物出土状況(北から)



4. 28号住居全景(西から)



5. 28号住居カマド全景(西から)



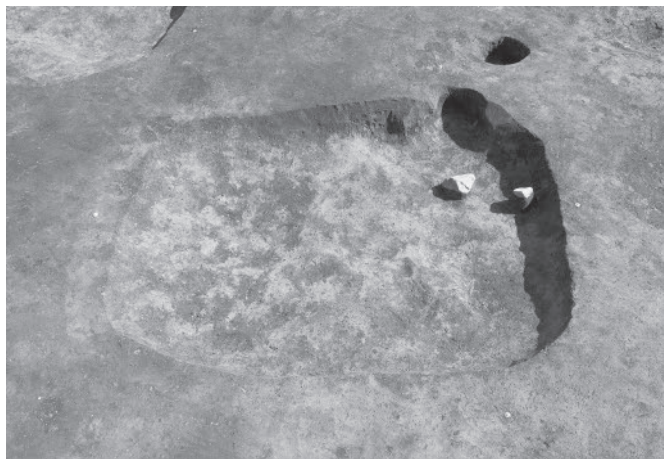
6. 28号住居カマド掘方全景(西から)



7. 28号住居掘方全景(西から)



8. 40号住居全景(西から)



1. 44号住居全景(西から)



2. 44号住居カマド全景(西から)



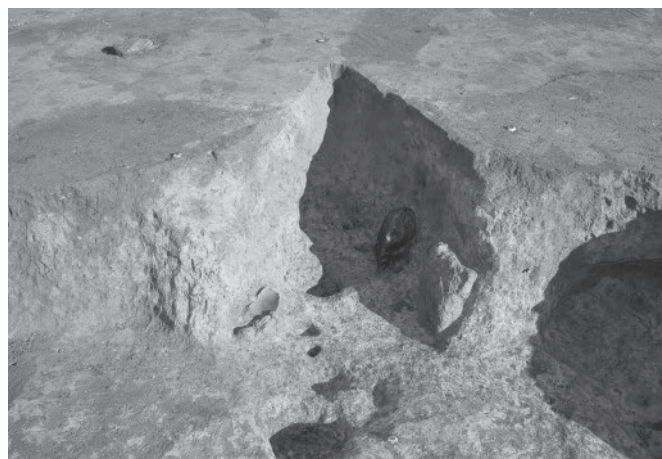
3. 45号住居全景(西から)



4. 45号住居カマド全景(西から)



5. 45号住居 P 1 全景(西から)



6. 45号住居カマド掘方全景(西から)



7. 46号住居全景(西から)



8. 47号住居全景(西から)



1. 50号～52号住居セクションA-A' (南から)



2. 50号～52号住居全景(西から)



3. 50号～52号住居セクションB-B' 1 (西から)



4. 50号～52号住居セクションB-B' 2 (西から)



5. 50号～52号住居掘方セクションB-B' (西から)



6. 50号～52号住居土層詳細(西から)



7. 51号住居P 1 遺物出土状況(西から)



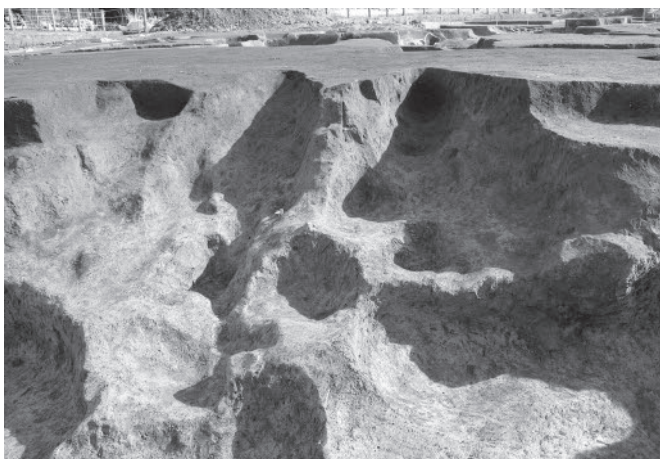
8. 50号～52号住居調査風景(南から)



1. 50号～52号住居掘方全景(西から)



2. 50号住居カマド全景(西から)



3. 50号～52号住居カマド掘方全景(西から)



4. 50号～52号住居カマド全景(西から)



1. 1号竪穴状遺構全景(南から)



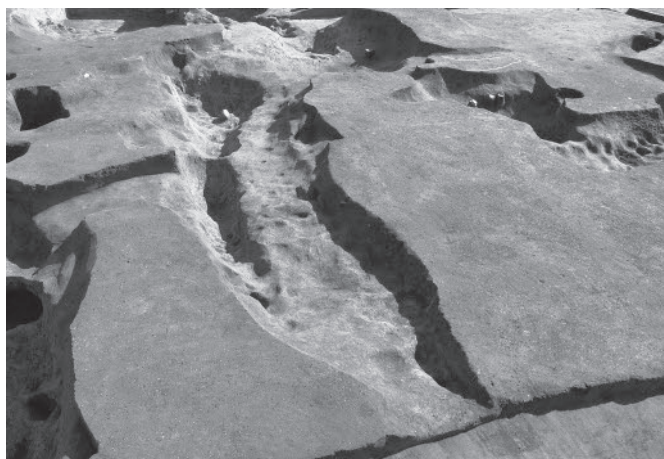
2. 3号・4号竪穴状遺構全景(南から)



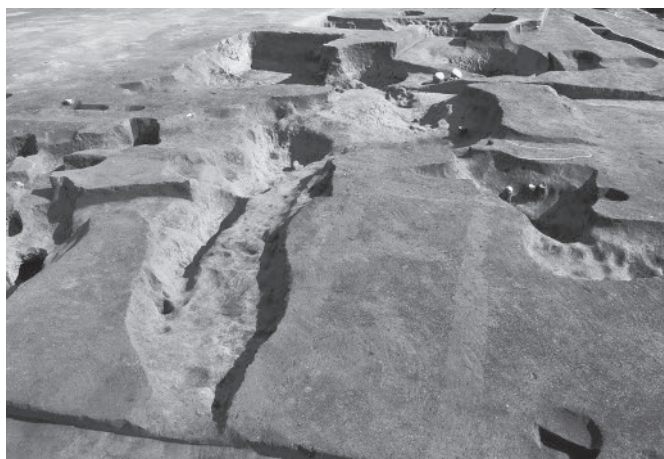
3. 5号竪穴状遺構全景(南から)



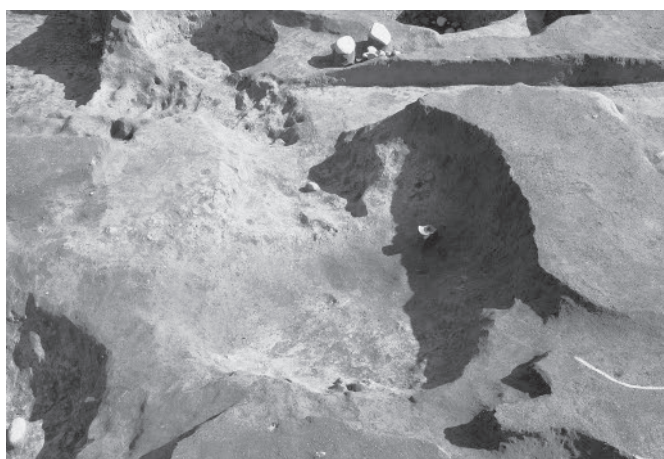
4. 6号～8号竪穴状遺構、663号・664号土坑全景(南から)



5. 9号竪穴状遺構全景(北西から)



6. 10号竪穴状遺構全景(西から)



7. 11号・12号竪穴状遺構全景(西から)



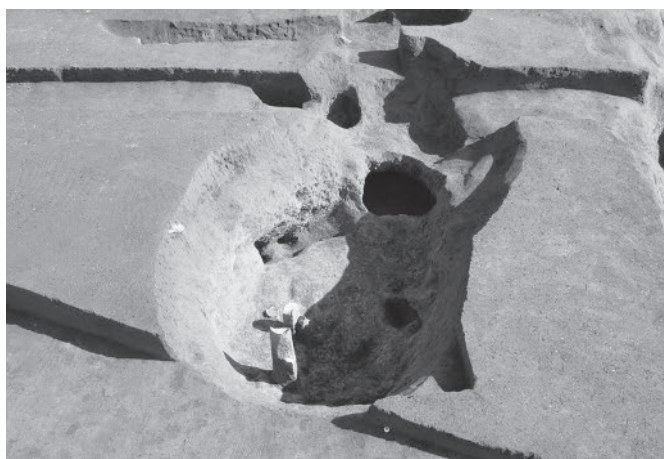
8. 13号竪穴状遺構全景(西から)



1. 14号～16号竪穴状遺構全景(北から)



2. 17号・18号竪穴状遺構全景(東から)



3. 19号竪穴状遺構全景(西から)



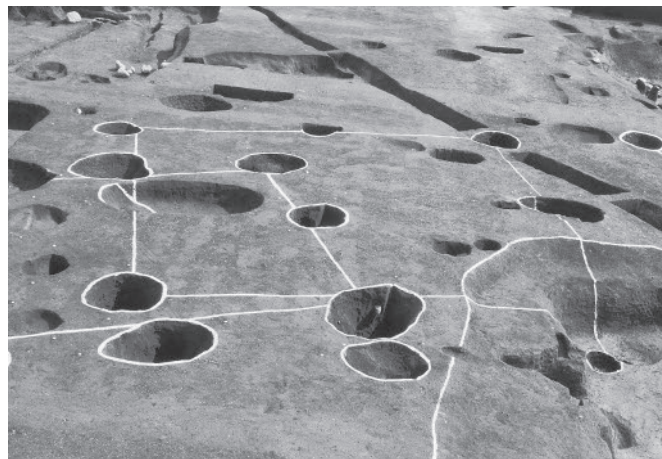
4. 19号竪穴状遺構遺物出土状況(北から)



5. 竪穴状遺構周辺(西から)



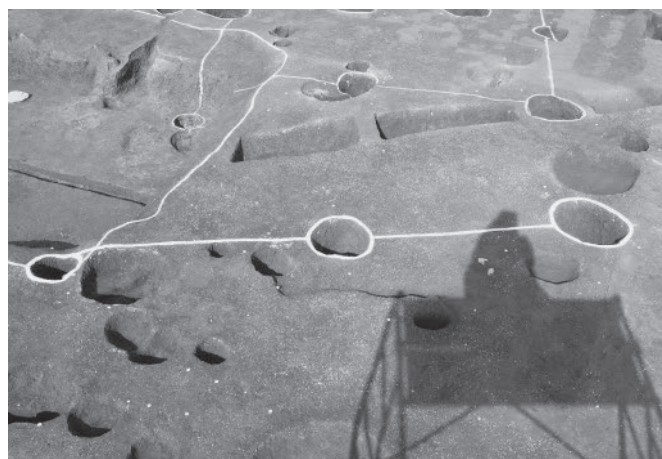
1. 竪穴状遺構周辺調査風景(東から)



2. 1号掘立柱建物全景(北から)



3. 2号掘立柱建物全景(西から)



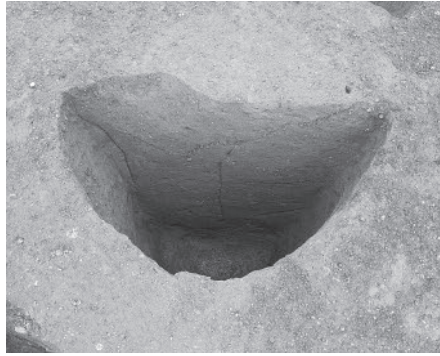
4. 3号掘立柱建物全景(西から)



5. 1号～3号掘立柱建物全景(北西から)



1. 1号掘立柱建物P 1セクション(西から)



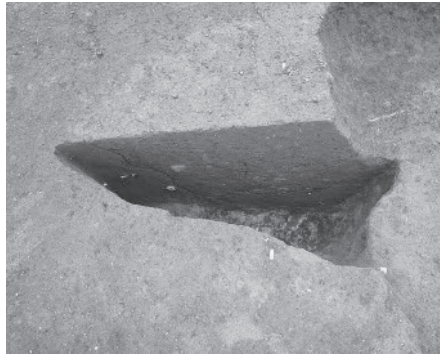
2. 1号掘立柱建物P 5セクション(北西から)



3. 2号掘立柱建物P 1セクション(南から)



4. 2号掘立柱建物P 2セクション(西から)



5. 2号掘立柱建物P 3セクション(西から)



6. 2号掘立柱建物P 4セクション(西から)



7. 2号掘立柱建物P 5セクション(南東から)



8. 2号掘立柱建物P 6セクション(南西から)



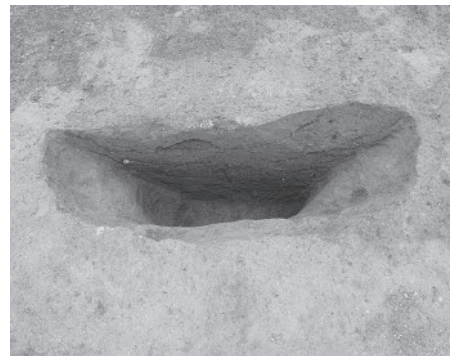
9. 2号掘立柱建物P 7セクション(北西から)



10. 2号掘立柱建物P 8セクション(北西から)



11. 2号掘立柱建物P 9セクション(北西から)



12. 2号掘立柱建物P 10セクション(南東から)



13. 3号掘立柱建物P 1セクション(北西から)



14. 3号掘立柱建物P 2セクション(南東から)



15. 3号掘立柱建物P 3セクション(北西から)





1. 1号溝全景(北から)



2. 7号～10号溝全景(西から)



3. 11号溝全景(西から)



4. 12号溝全景(北から)



5. 19号溝遺物出土状況



6. 道路状遺構調査風景(西から)



1. 22～24号溝全景(北から)



2. 25号溝全景(北西から)



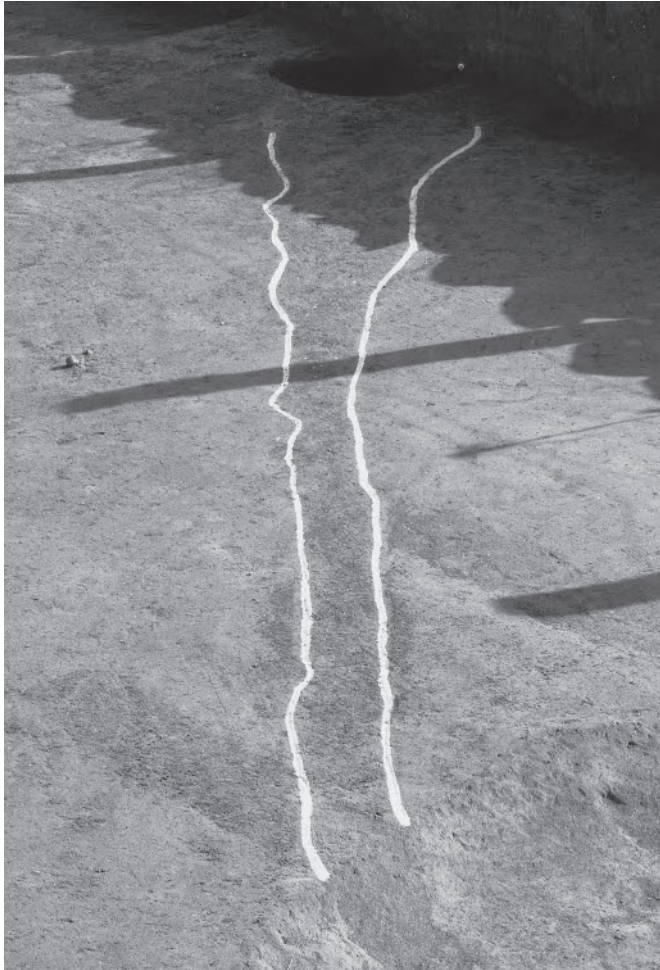
3. 道路状遺構全景(東から)



1. 道路状遺構全景(西から)



2. 道路状遺構全景(西から)



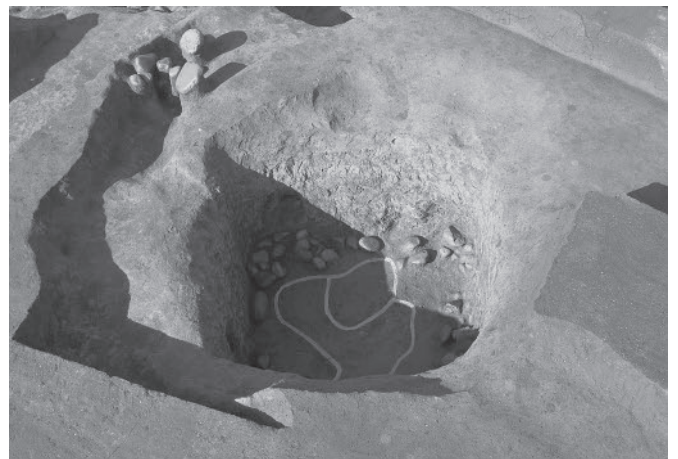
1. 1号道全景(北から)



2. 3号道全景(南から)



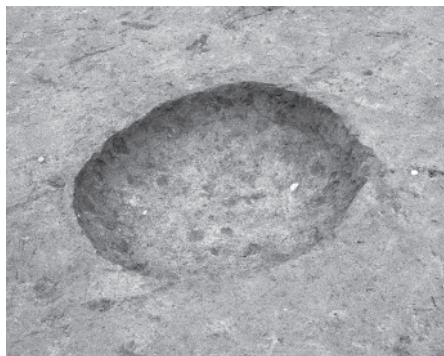
3. 1号井戸掘削状況(北から)



4. 1号井戸全景(南西から)



5. 1号井戸遺物出土状況(北から)



1. 2号土坑全景(北から)



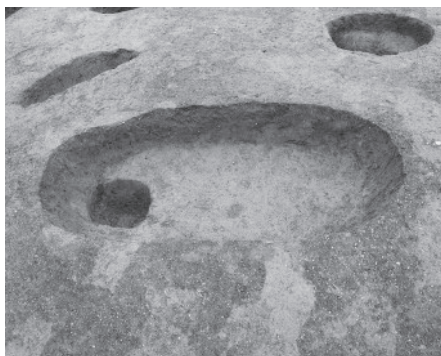
2. 5号土坑全景(北から)



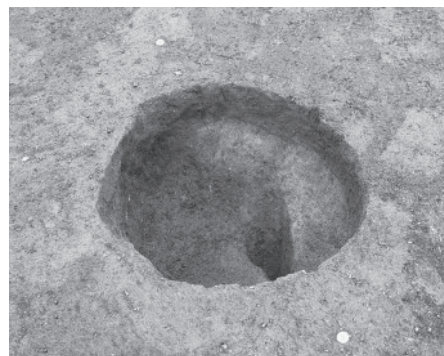
3. 6号土坑全景(北から)



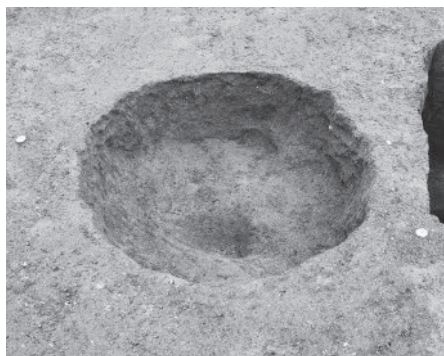
4. 9号土坑全景(北から)



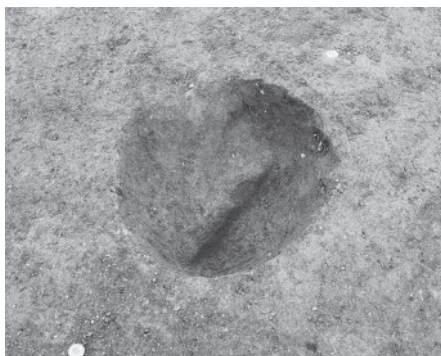
5. 12号土坑、1号掘立柱建物P 2全景(北から)



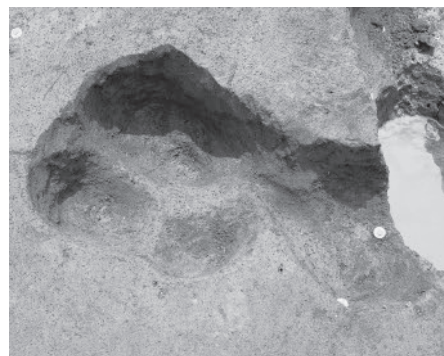
6. 14号土坑全景(北から)



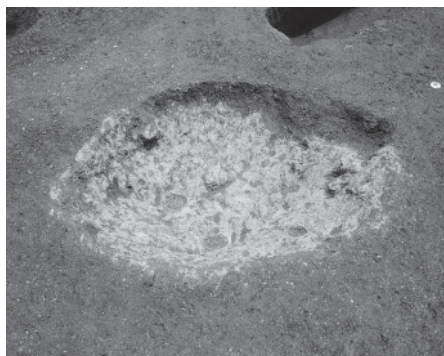
7. 16号土坑全景(北から)



8. 17号土坑全景(北から)



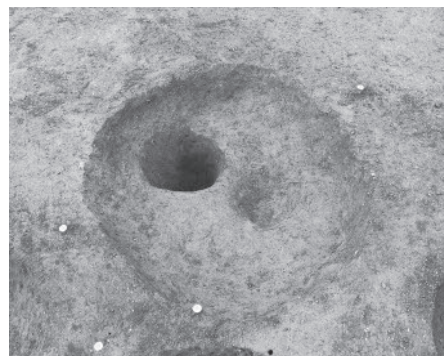
9. 28号・35号・40号土坑全景(北から)



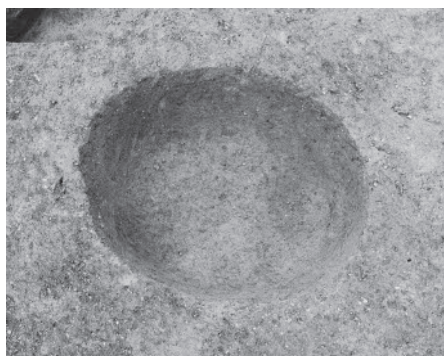
10. 68号土坑全景(南西から)



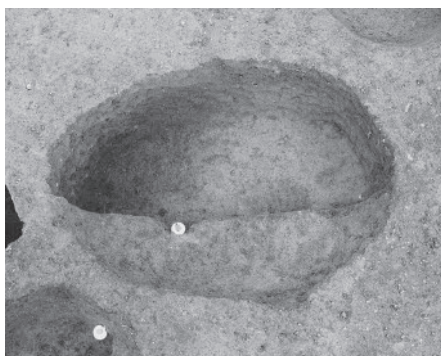
11. 88号土坑全景(北から)



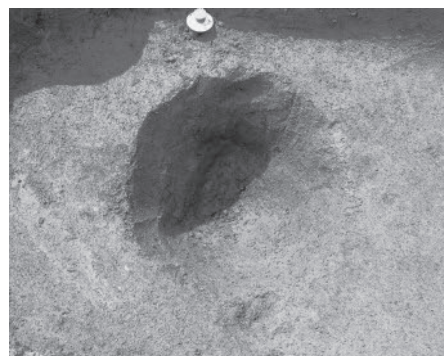
12. 91号土坑全景(南東から)



13. 98号土坑全景(北から)



14. 99号土坑全景(南東から)



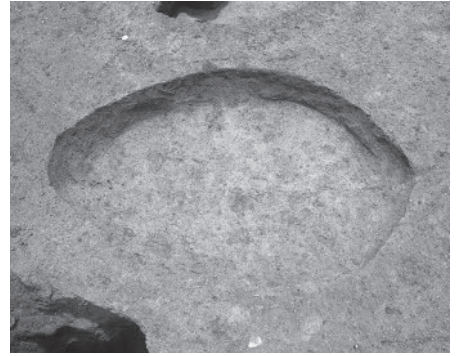
15. 101号土坑全景(北から)



1. 104号土坑全景(北から)



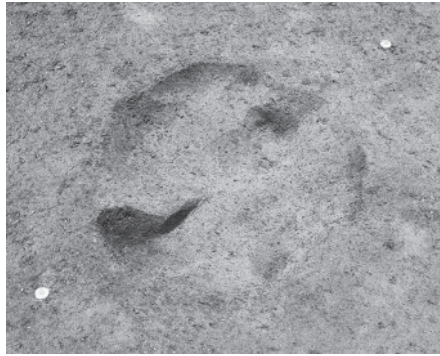
2. 105号土坑全景(北から)



3. 115号土坑全景(北西から)



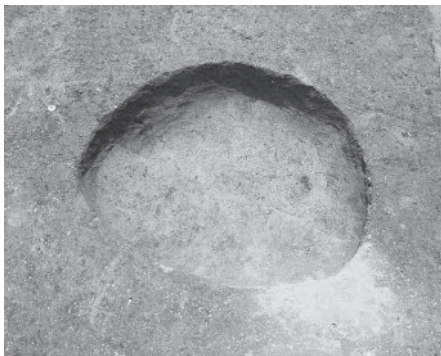
4. 116号土坑全景(東から)



5. 117号土坑全景(北から)



6. 125号・127号・143号土坑全景(北西から)



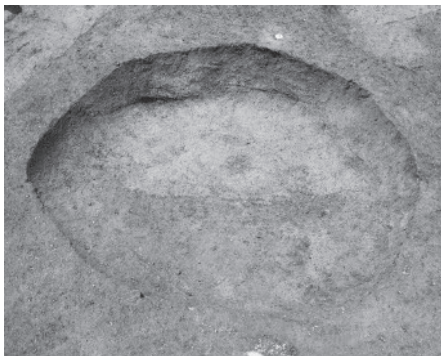
7. 128号土坑全景(北から)



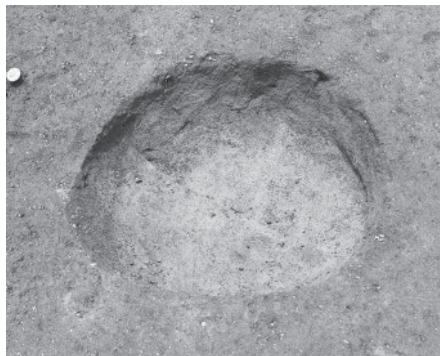
8. 129号・130号土坑全景(北から)



9. 131号土坑全景(北から)



10. 132号土坑全景(東から)



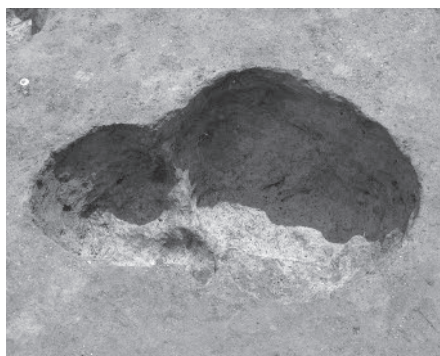
11. 136号土坑全景(北から)



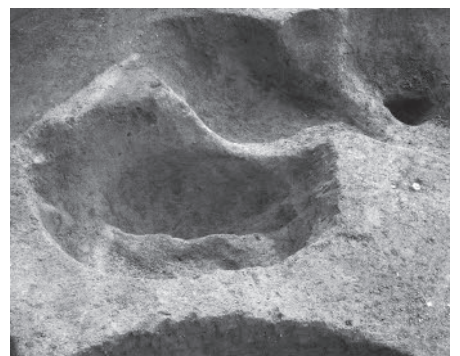
12. 145号・144号土坑全景(東から)



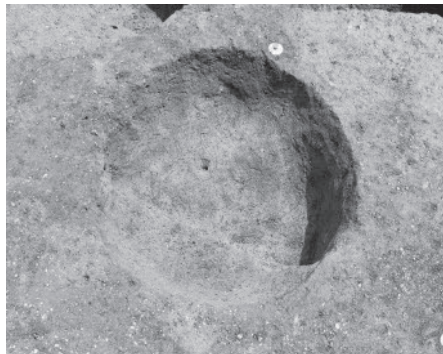
13. 146号土坑全景(東から)



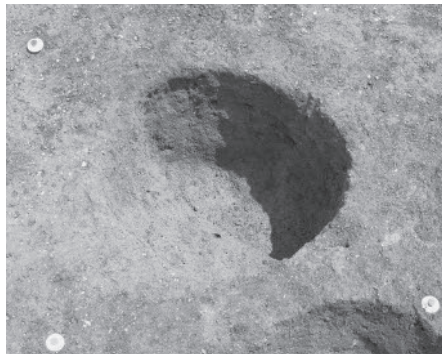
14. 147号土坑、34号ピット全景(北から)



15. 112号・148号土坑全景(北から)



1. 155号土坑全景(北から)



2. 156号土坑全景(北から)



3. 157号・158号土坑全景(北から)



4. 159号土坑全景(西から)



5. 159号土坑セクション(西から)



6. 163号土坑全景(北から)



7. 166号土坑全景(北から)



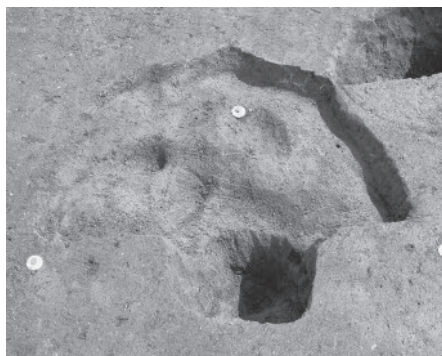
8. 167号土坑全景(東から)



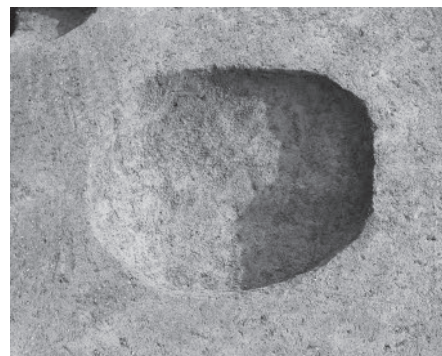
9. 170号土坑全景(北から)



10. 171号土坑全景(北から)



11. 173号土坑全景(北から)



12. 174号土坑全景(北から)



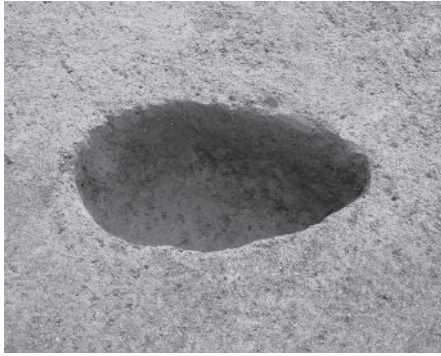
13. 176号土坑全景(西から)



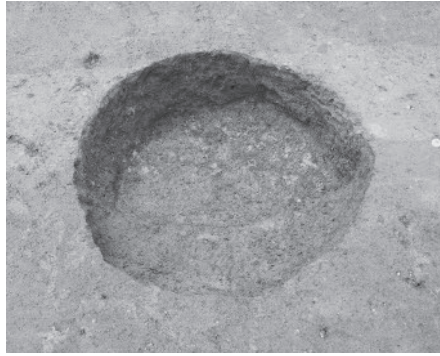
14. 180号土坑全景(北から)



15. 182号土坑全景(北から)



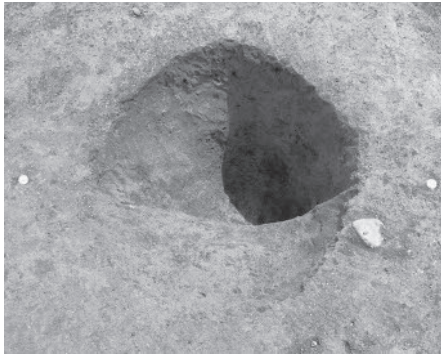
1. 186号土坑全景(北から)



2. 188号土坑全景(北から)



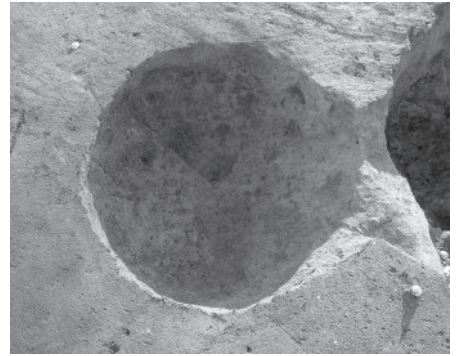
3. 190号土坑全景(北から)



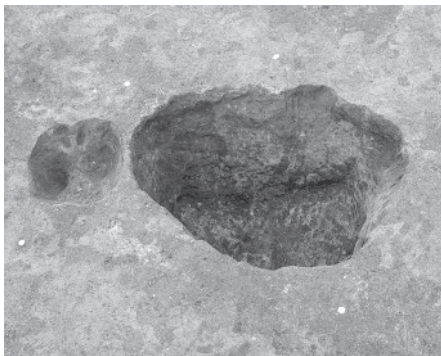
4. 191号土坑全景(北から)



5. 203号土坑全景(北から)



6. 654号土坑全景(北から)



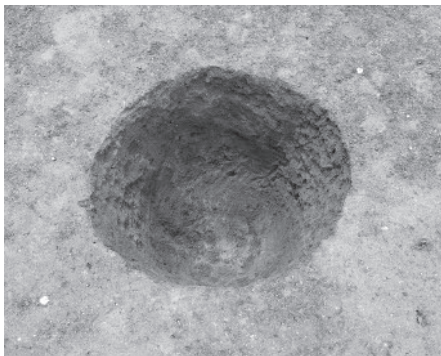
7. 656号土坑全景(北から)



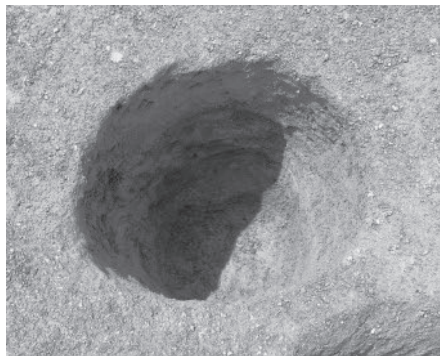
8. 658号土坑全景(北から)



9. 671号土坑全景(北から)



10. 1号ピット全景(北から)



11. 2号ピット全景(北から)



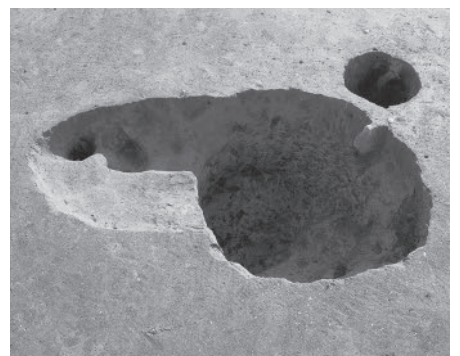
12. 31号ピット全景(西から)



13. 32号・33号ピット全景(西から)



14. 34号ピット全景(西から)

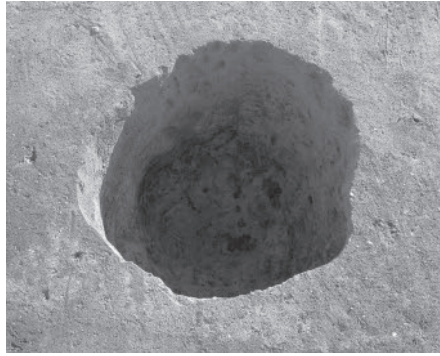


15. 46号ピット全景(北から)

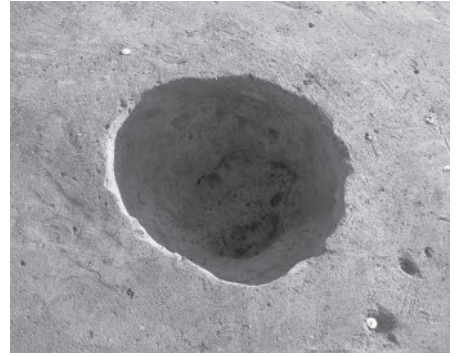




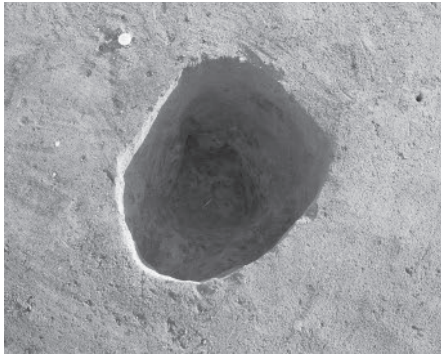
1. 47号ピット全景(北から)



2. 48号ピット全景(北から)



3. 50号ピット全景(北から)



4. 51号ピット全景(北から)



5. 51号～56号ピット全景(北から)



6. 52号ピット全景(北から)



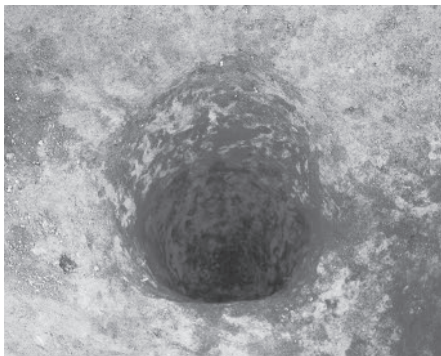
7. 53号ピット全景(北から)



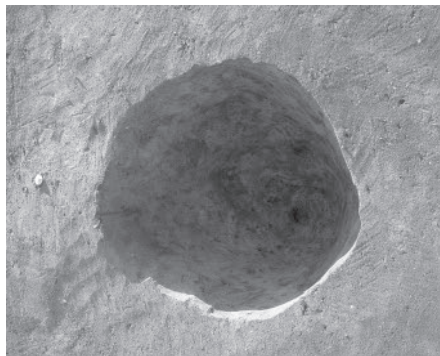
8. 54号ピット全景(北から)



9. 55号ピット全景(北から)



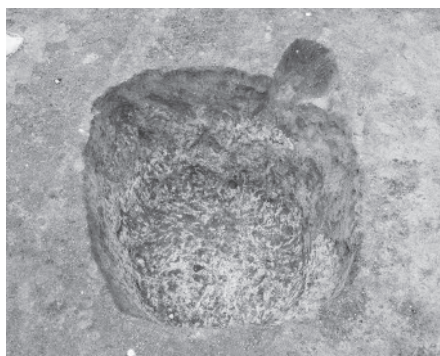
10. 56号ピット全景(北から)



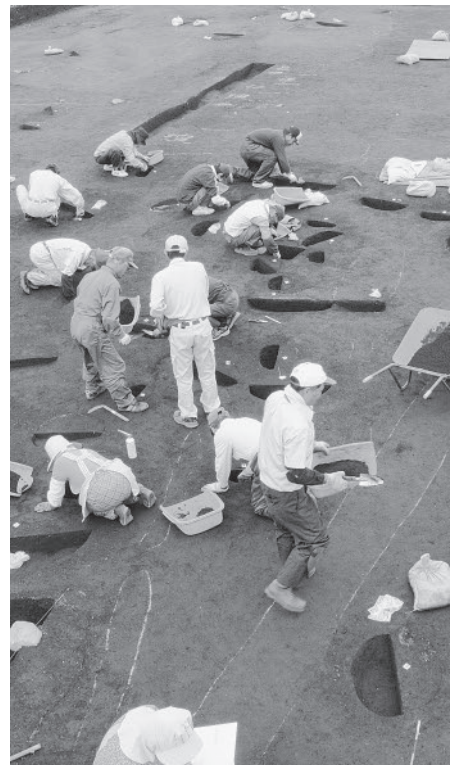
11. 59号ピット全景(北から)



12. 60号ピット全景(北から)



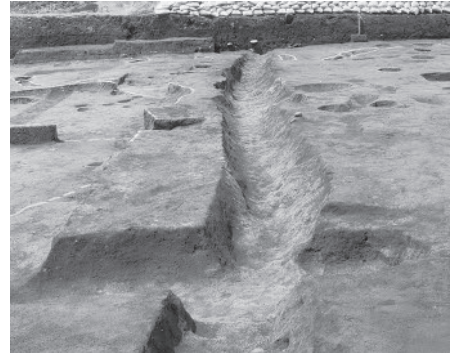
13. 62号ピット全景(北から)



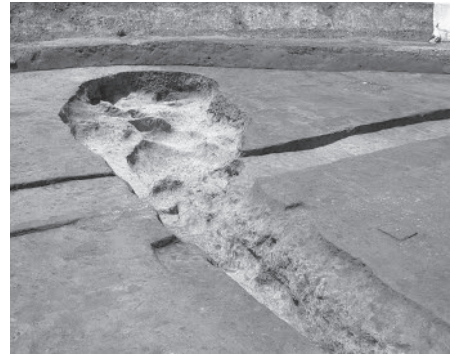
14. 奈良・平安時代遺構調査風景(南から)



1. 67区 南側中世土坑群全景(東から)



2. 2号溝全景(東から)



3. 3号溝南端粘土採掘坑全景(北から)



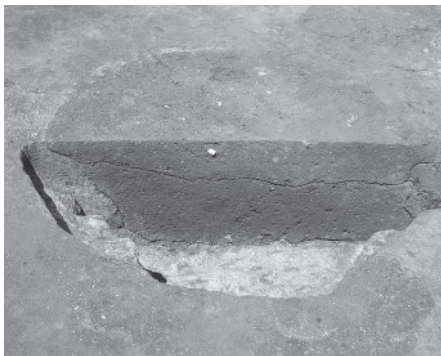
4. 1号土坑全景(北から)



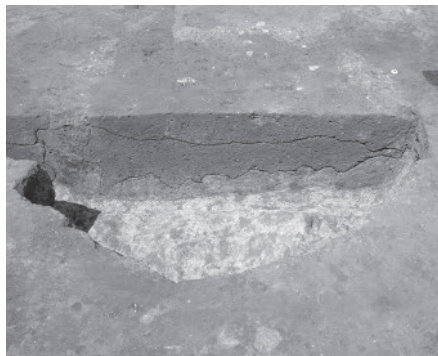
5. 226号土坑礫出土状況(北から)



6. 230号土坑礫出土状況(北から)



7. 279号土坑セクション(南から)



8. 280号土坑セクション(南から)



9. 279号・280号土坑全景(北から)



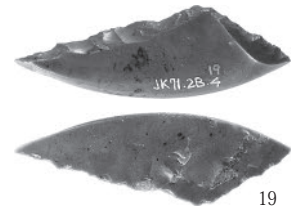
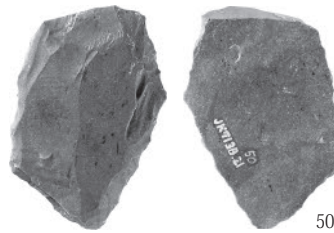
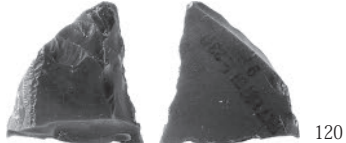
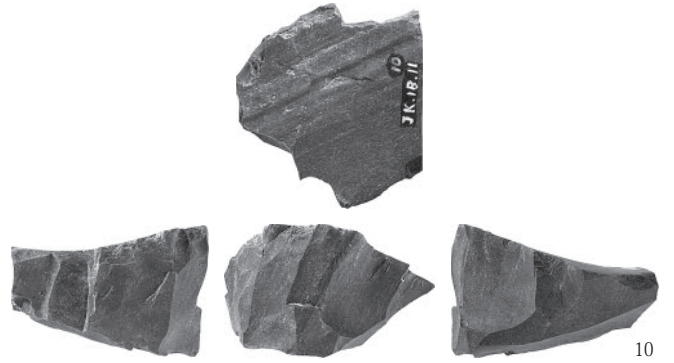
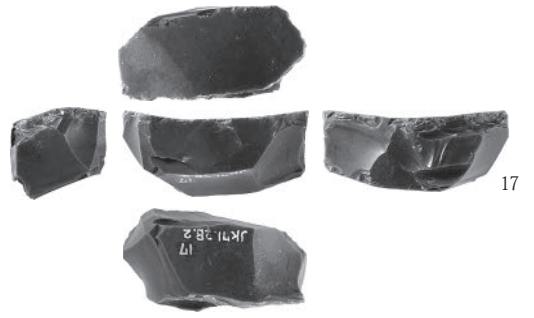
10. 286号土坑礫出土状況(西から)



11. 287号土坑礫出土状況(北から)



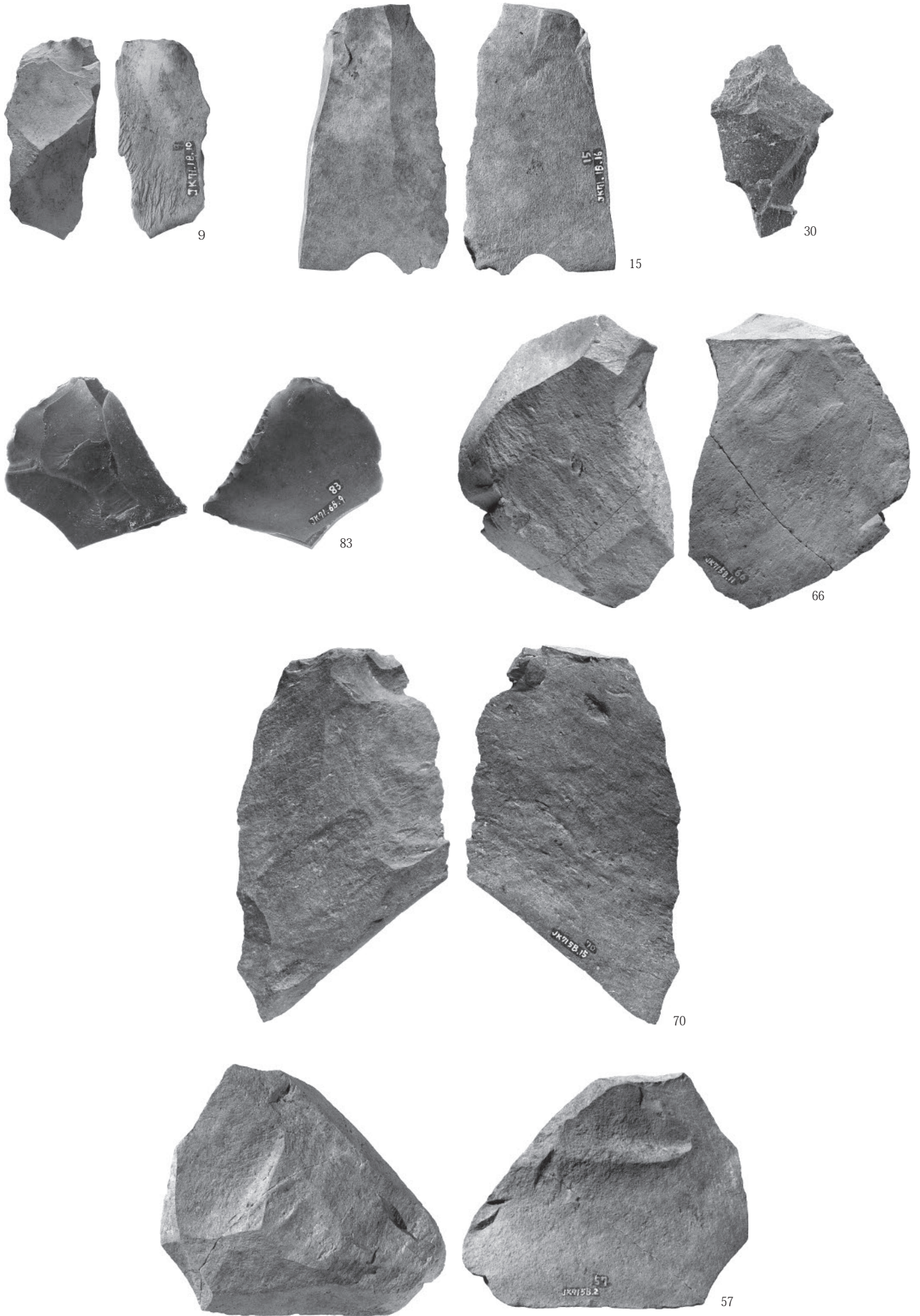
12. 調査風景(南西から)



細石刃核・細石刃・彫刻刀形石器・ナイフ形石器・サイドスクレイパー・スクレイパー (1)



スクレイパー（２）・二次加工ある剥片・微小剥離痕ある剥片



剥片(1)



58



68



56



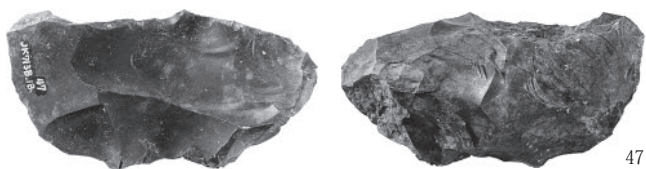
81



101



117



47



20

剥片(2)・碎片・石核(1)



23



76



94



108

石核(2)



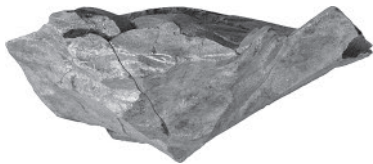




106



接合資料1  
(10+12)



接合資料2  
(52+53+54+119)



接合資料3  
(99+108+115)

台石?・接合資料1~3



接合資料 4  
(23+48)



接合資料 5  
(20+41)



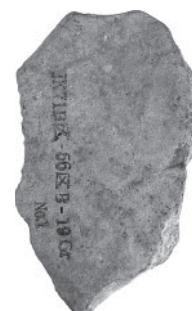
接合資料 6  
(21+49)



接合資料 7  
(82+87+95)



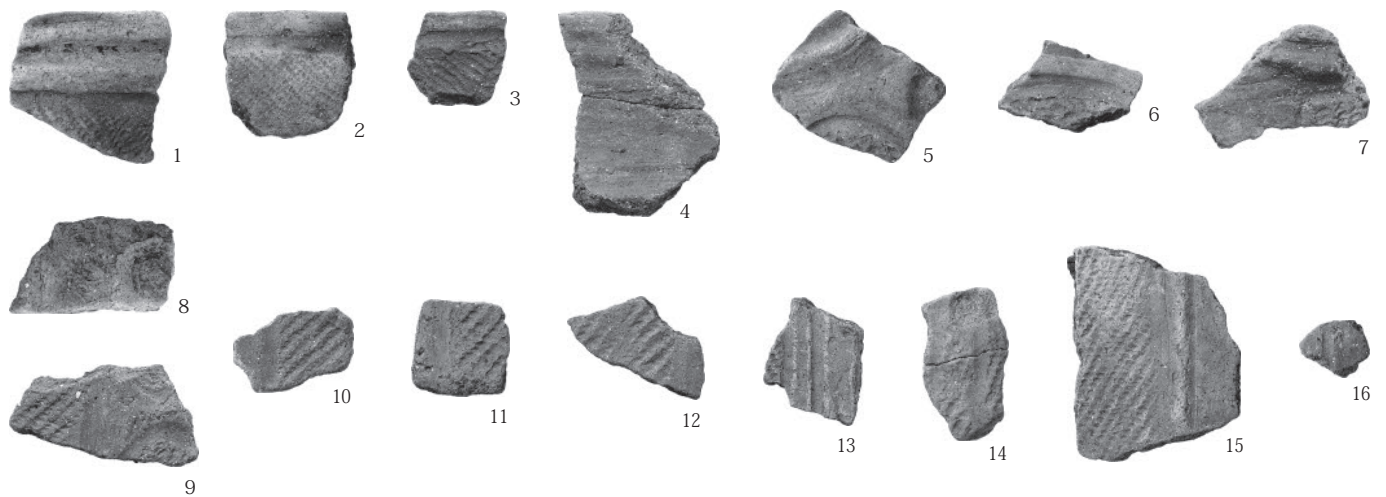
接合資料 9  
(102+113)



128



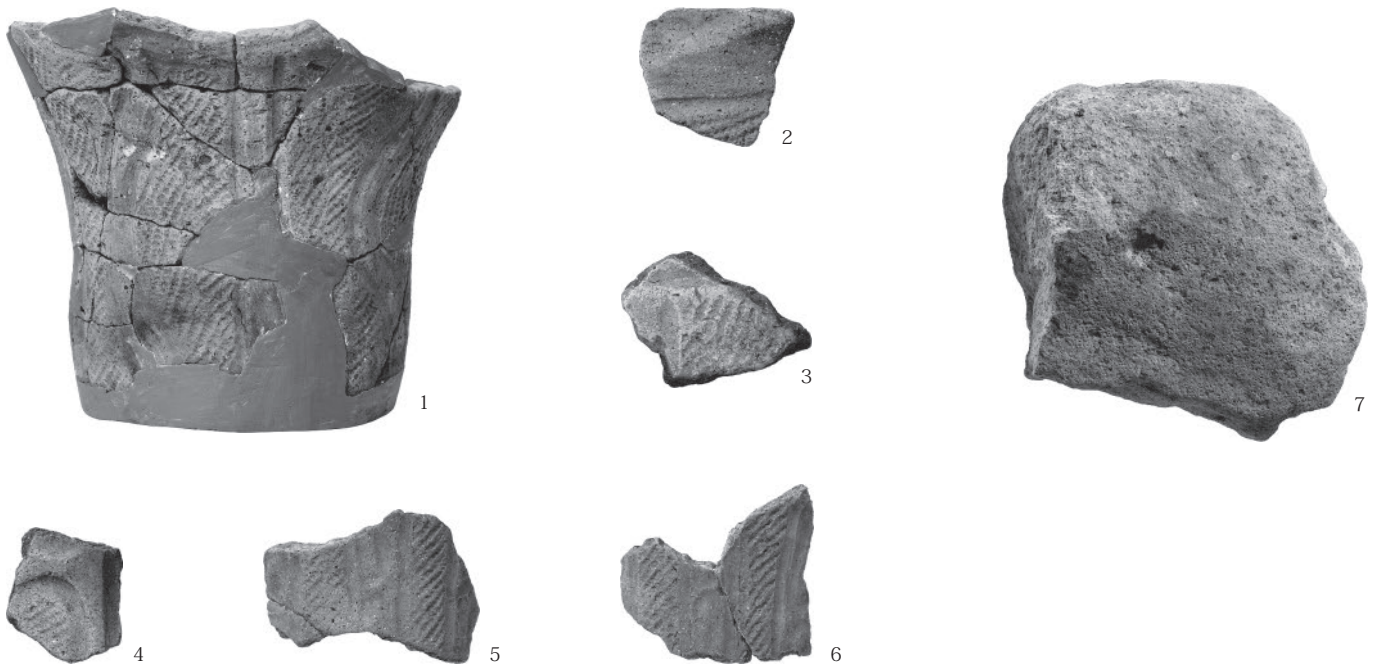
26号住居出土遺物



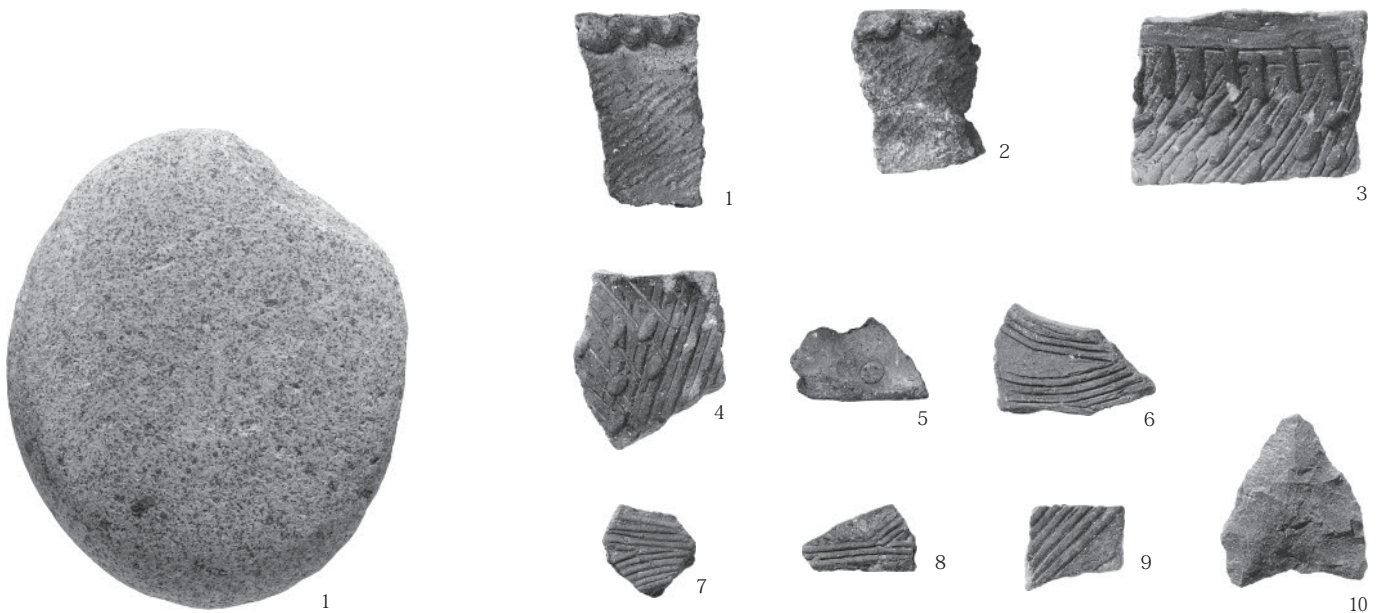
27号住居出土遺物(1)



27号住居出土遺物(2)

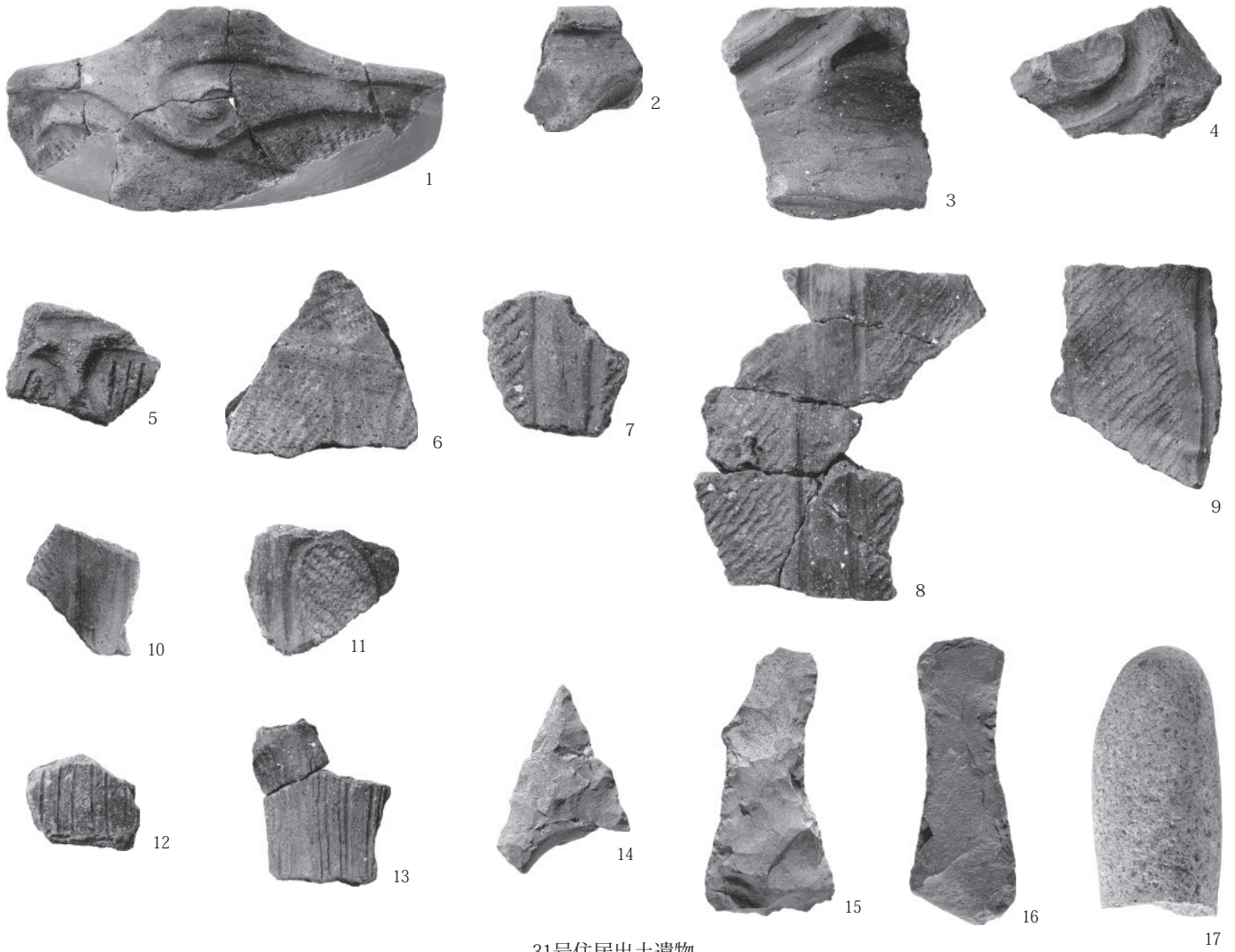


29号住居出土遺物

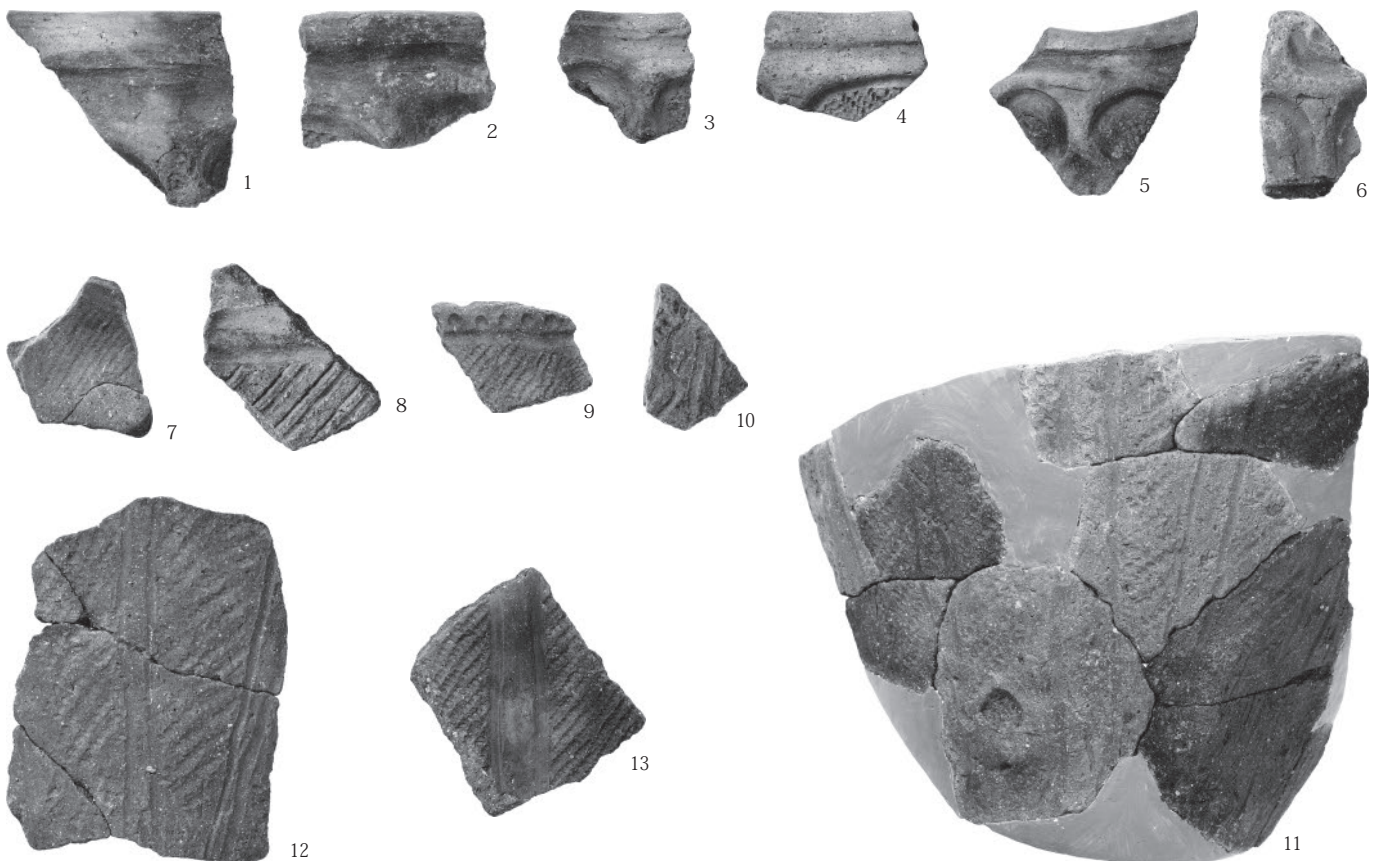


30号住居出土遺物

42号住居出土遺物



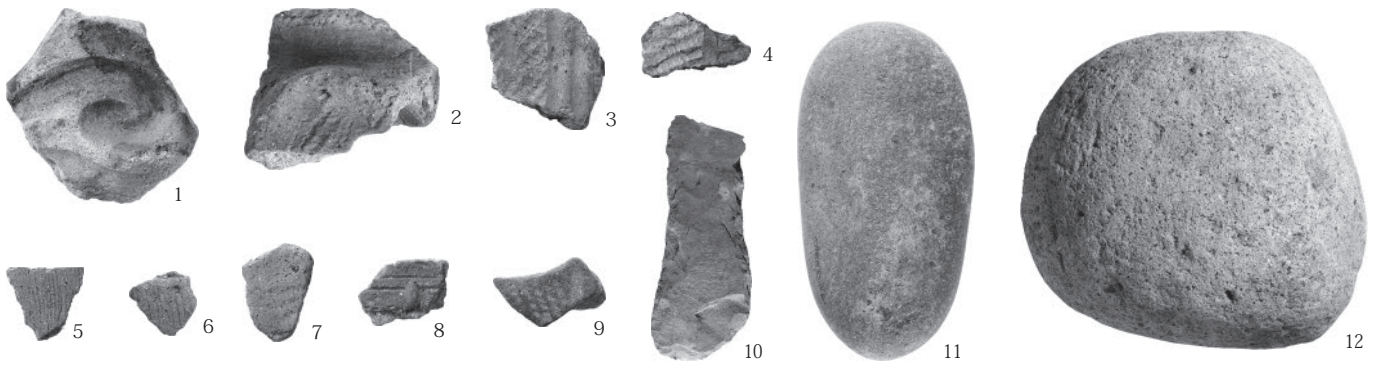
31号住居出土遺物



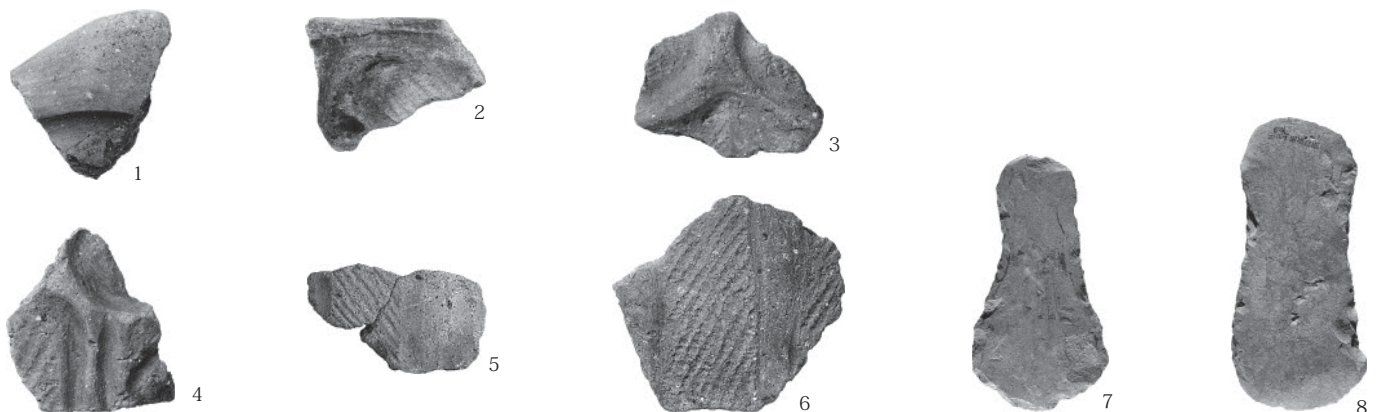
35号住居出土遺物(1)



35号住居出土遺物(2)

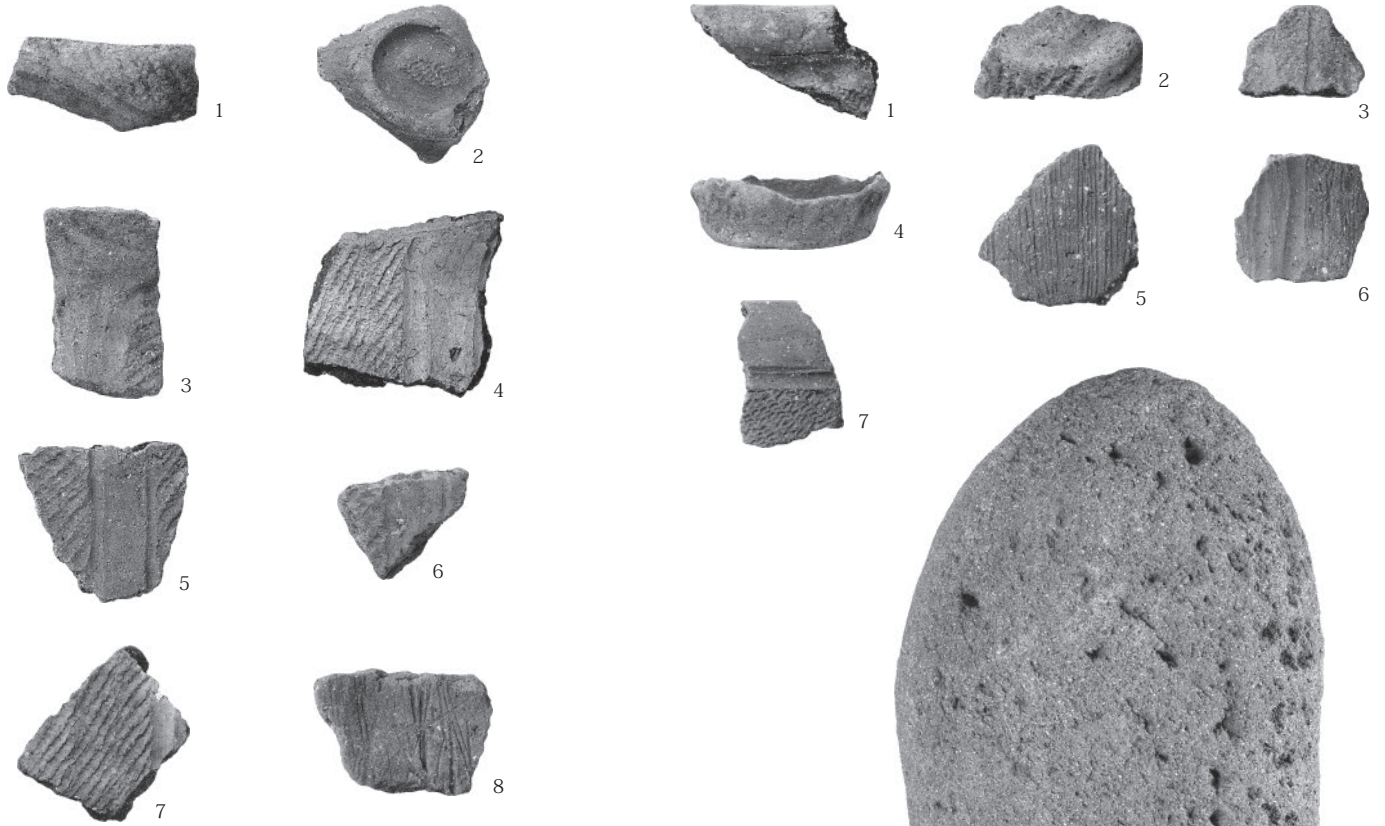


32号住居出土遺物



33号住居出土遺物

縄文時代



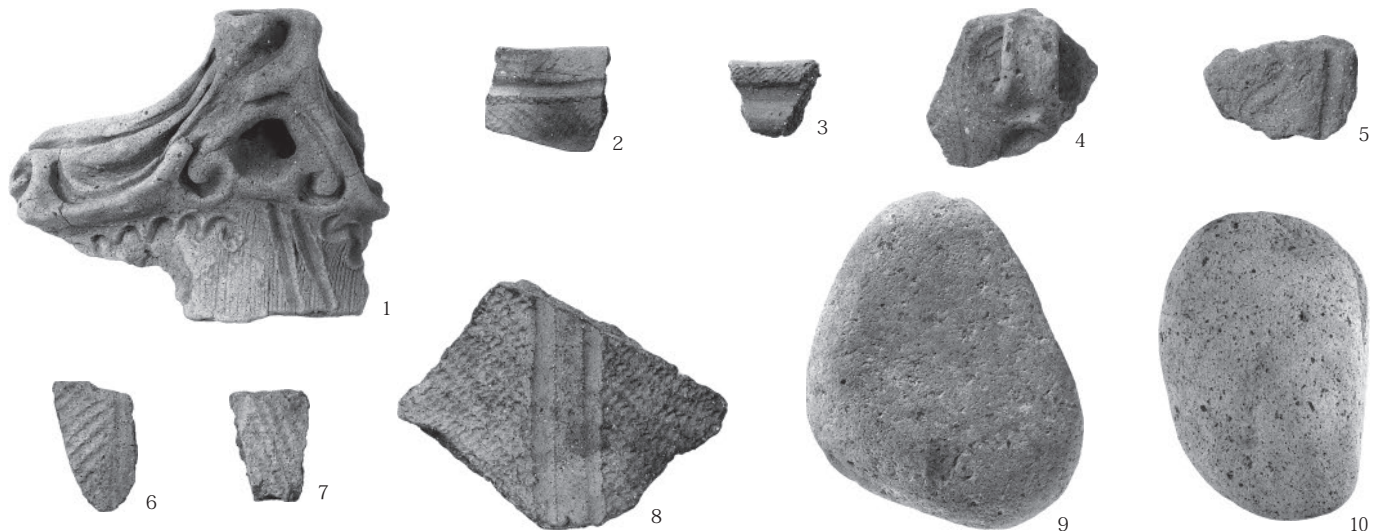
34号住居出土遺物



36号住居出土遺物



38号住居出土遺物



41号住居出土遺物

37号住居出土遺物



1号配石出土遺物



縄文時代



241±1



242±1



243±1



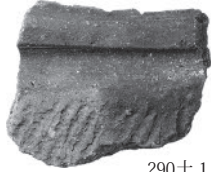
244±1



244±2



274±1



290±1



290±2



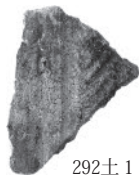
290±3



290±4



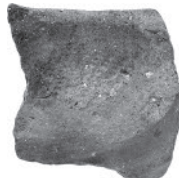
290±5



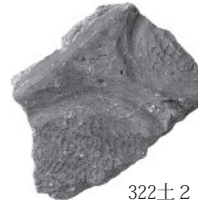
292±1



298±1



322±1



322±2



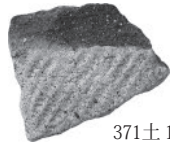
322±3



322±4



370±1



371±1



411±1



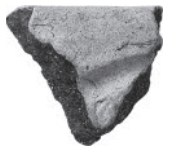
411±2



415±1



419±1



422±1



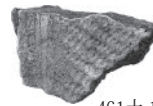
445±1



448±1



450±1



461±1



463±1



466±1



472±1



472±2



475±1



475±2



475±3



475±4

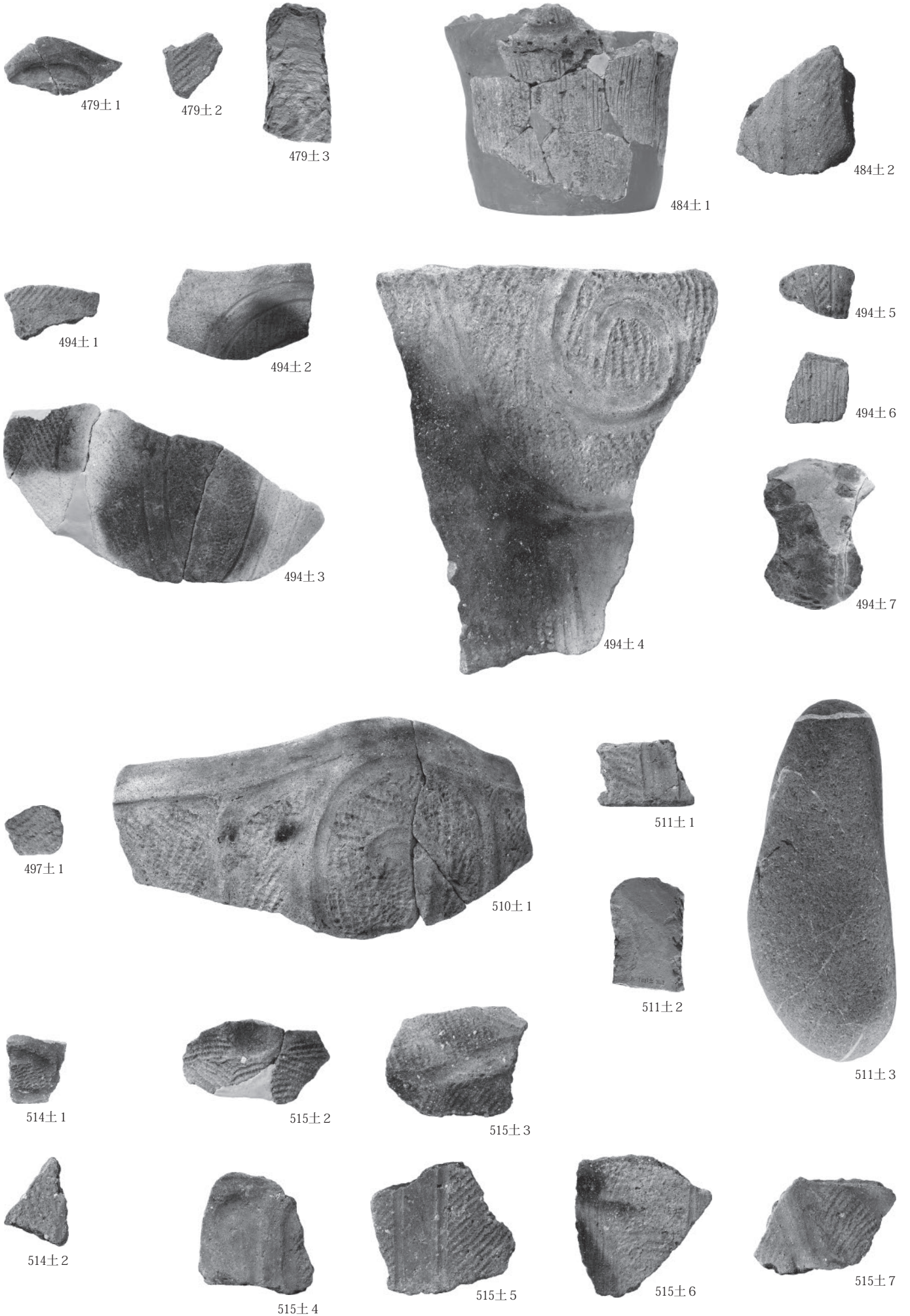


475±5



475±6

縄文土坑出土遺物(1)



縄文土坑出土遺物(2)



515±1



516±1



516±2



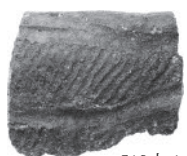
516±3



518±1



518±2



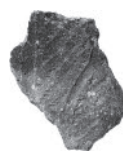
519±1



519±3



519±4



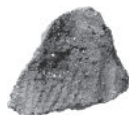
519±5



519±7



519±8



519±2



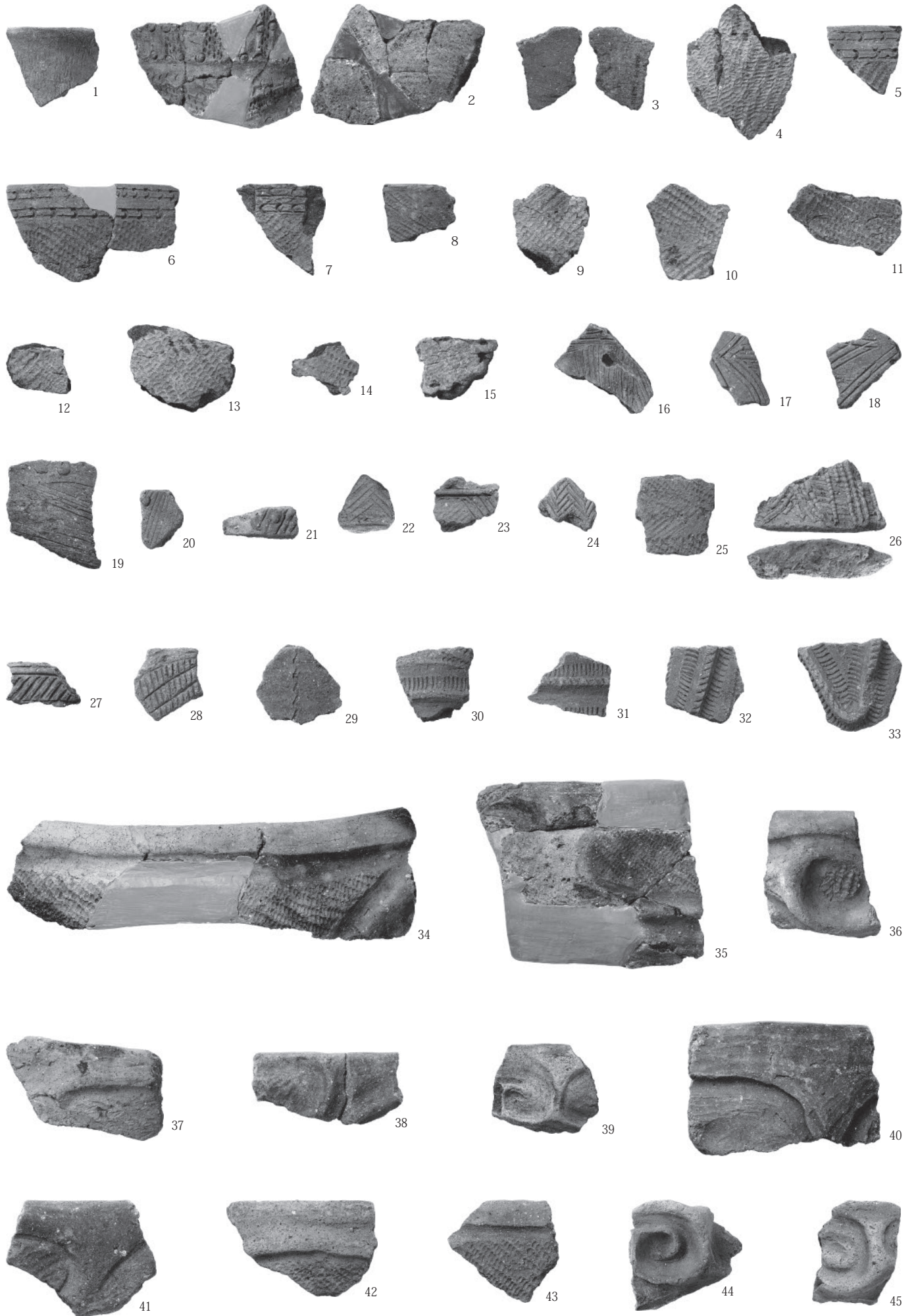
519±6



519±9



縄文土坑出土遺物(4)



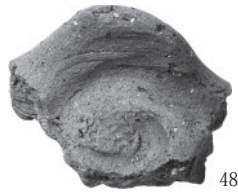
遺構外出土の縄文土器(1)



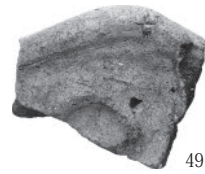
46



47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



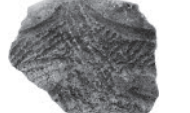
59



60



61



62



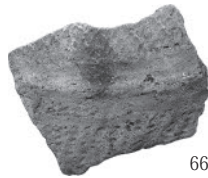
63



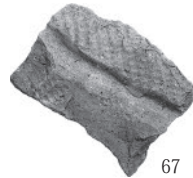
64



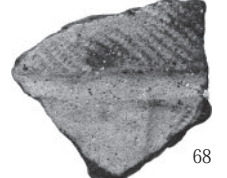
65



66



67



68



69



70



71



72



73



74

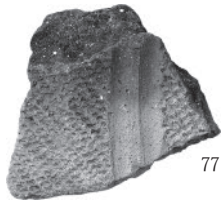


75



76

縄文時代



77



78



79



80



81



82



83



84



85



86



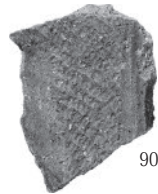
87



88



89



90



91



92



93



94



95



96



97



98



99



100



101



102



103



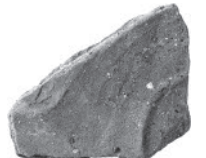
104



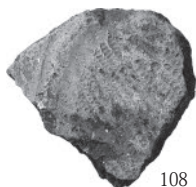
105



106



107



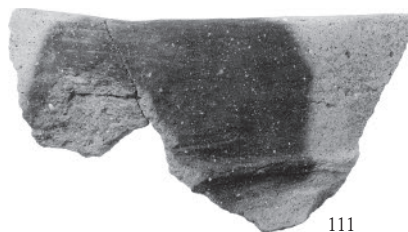
108



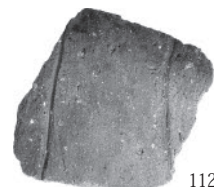
109



110



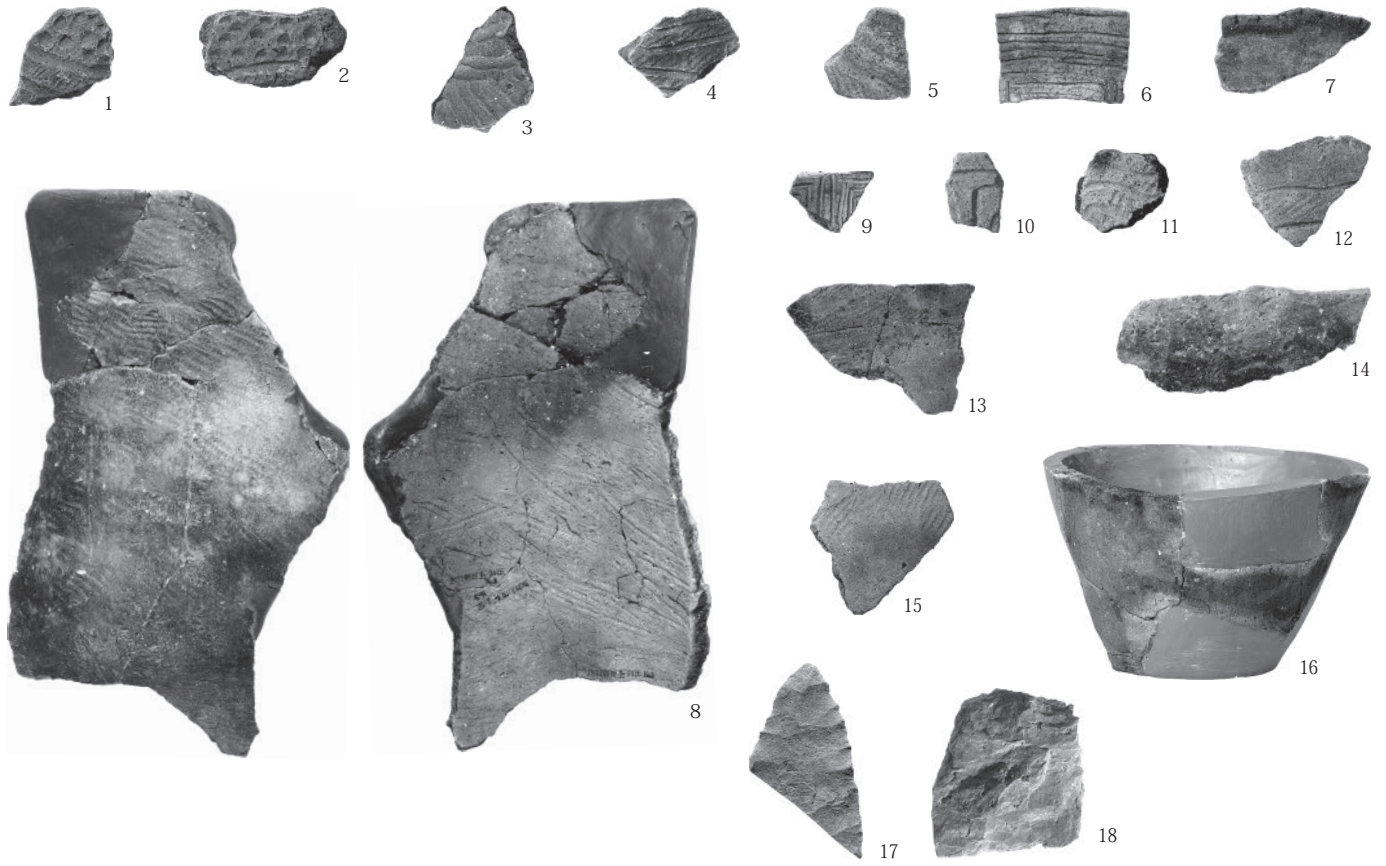
111



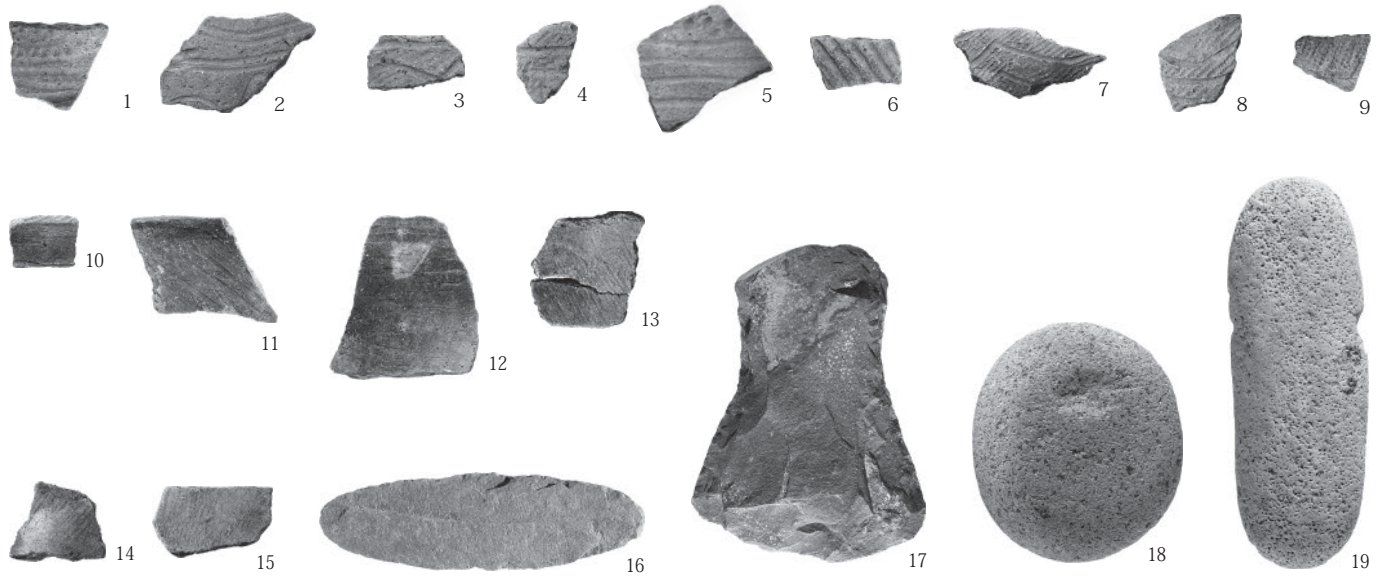
112



113



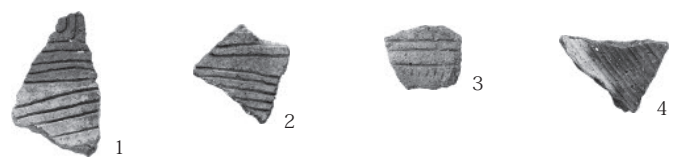
24号住居出土遺物



25号住居出土遺物



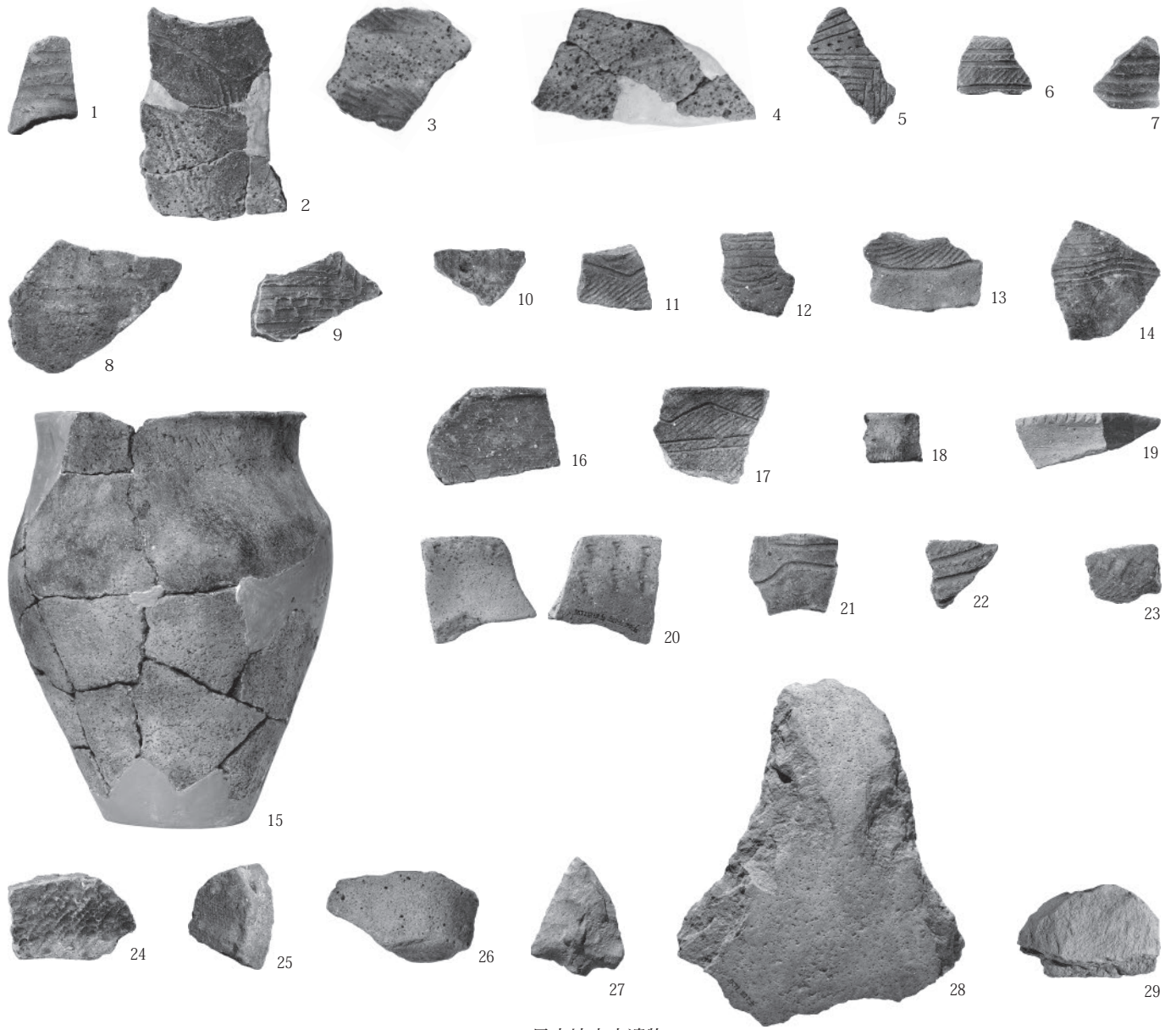
39号住居出土遺物



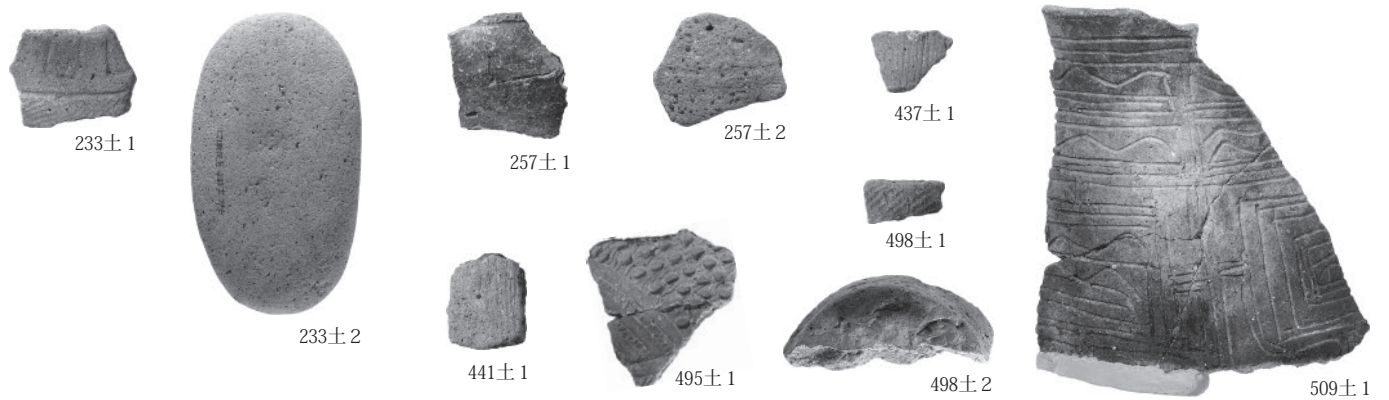
48号住居出土遺物



弥生時代



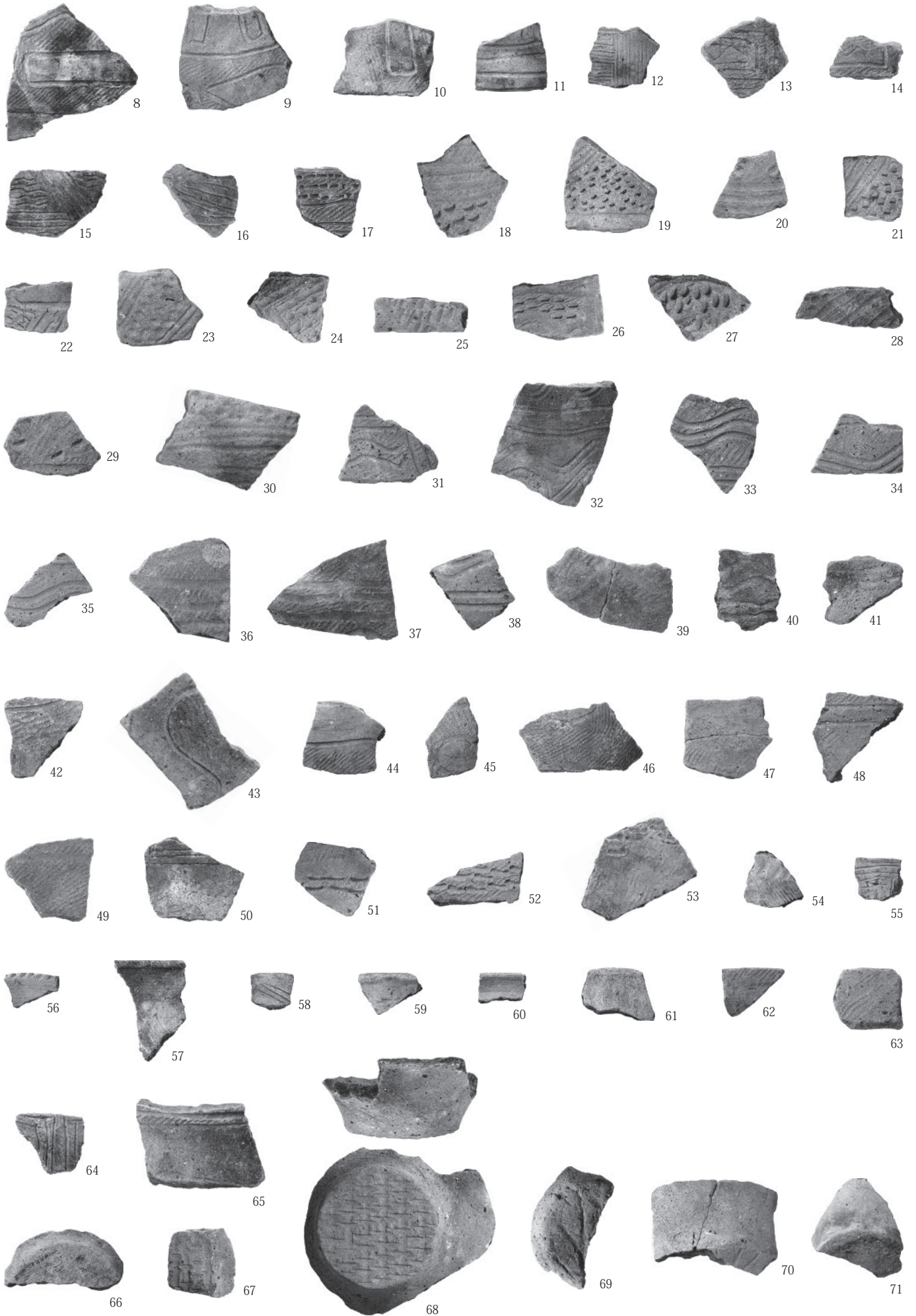
227号土坑出土遺物



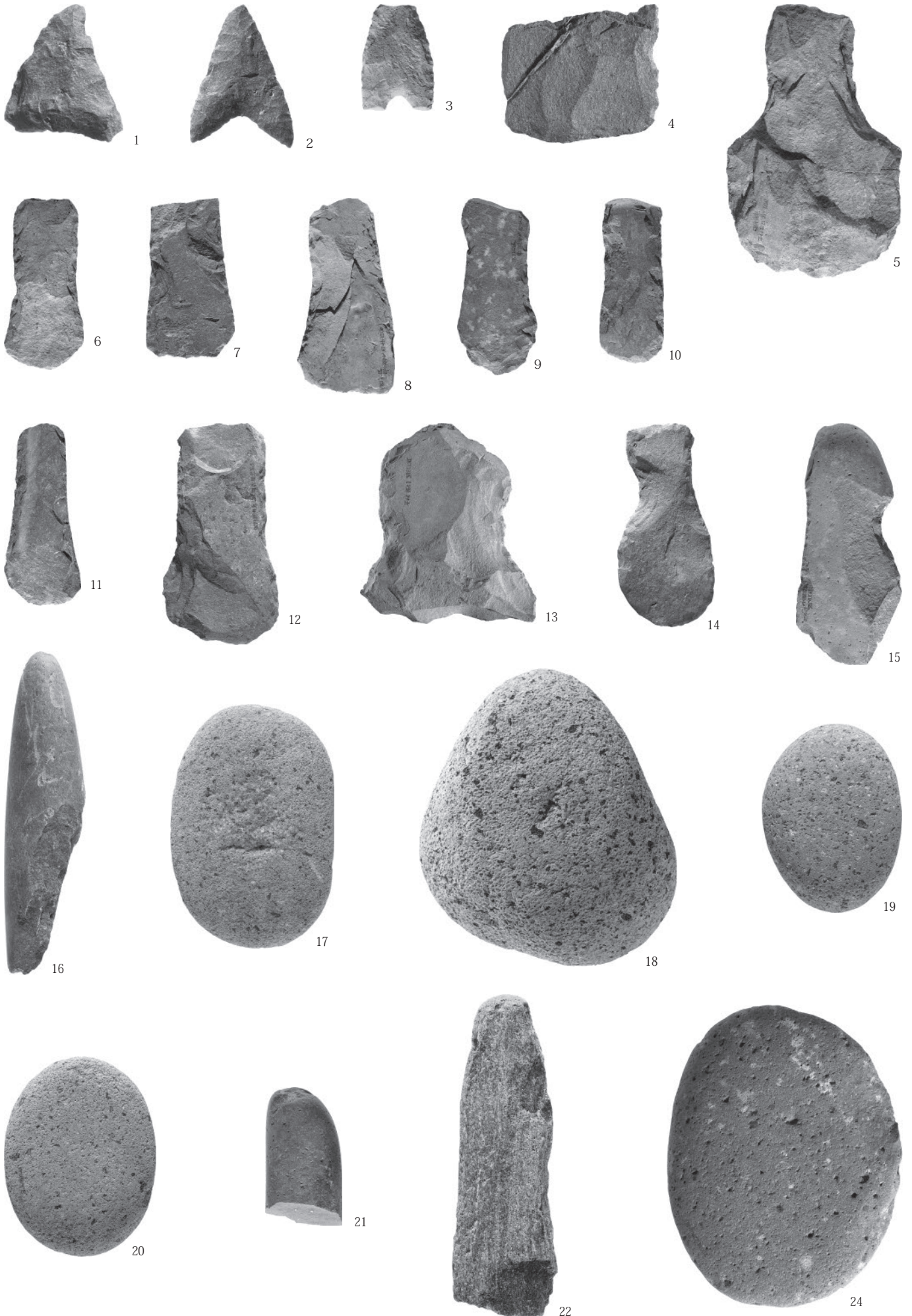
弥生土坑出土遺物



遺構外出土の弥生土器(1)



遺構外出土の弥生土器(2)



遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(1)



23



26



27



28



25

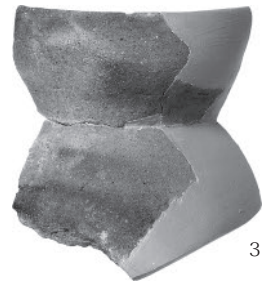
遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(2)



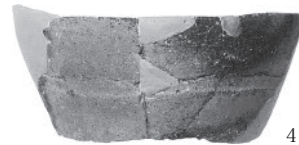
1



2



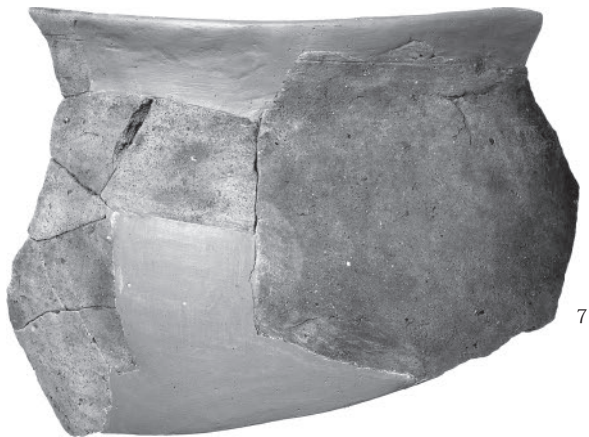
3



4



6



7



8



9

1号住居出土遺物



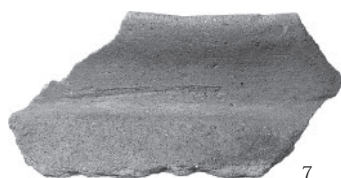
1



4



2



7



10



1

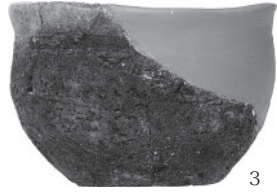
22号住居出土遺物

古墳時代遺構外出土遺物

奈良・平安時代



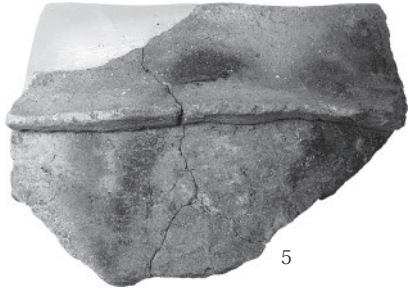
2



3



4



5

2号住居出土遺物



1



4

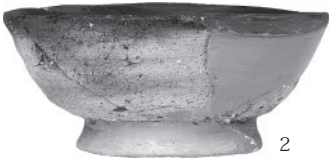


6



8

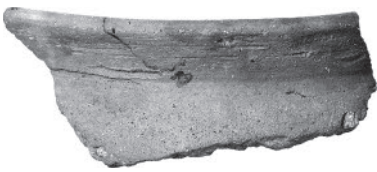
3号住居出土遺物



2



3



5



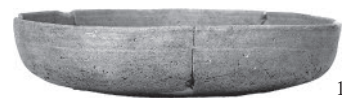
6



4

5号住居出土遺物

4号住居出土遺物



1



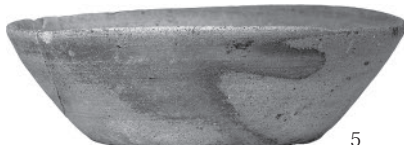
2



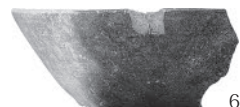
3



4

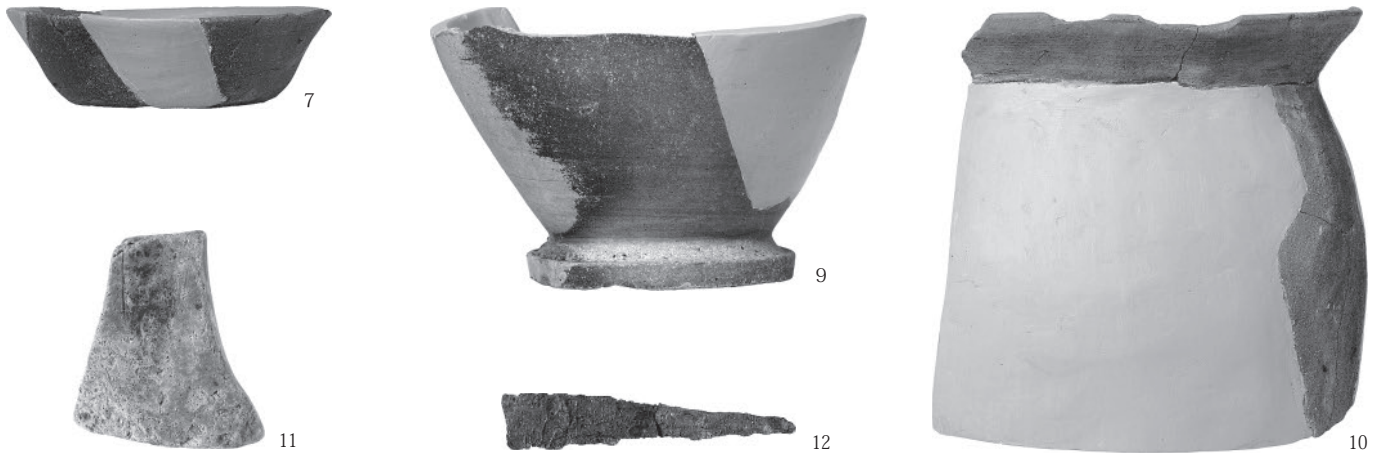


5



6

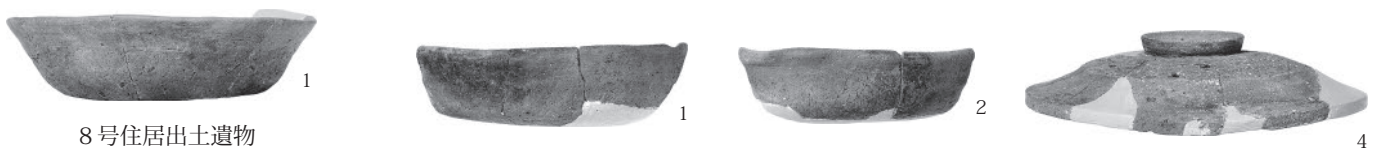
6号住居出土遺物(1)



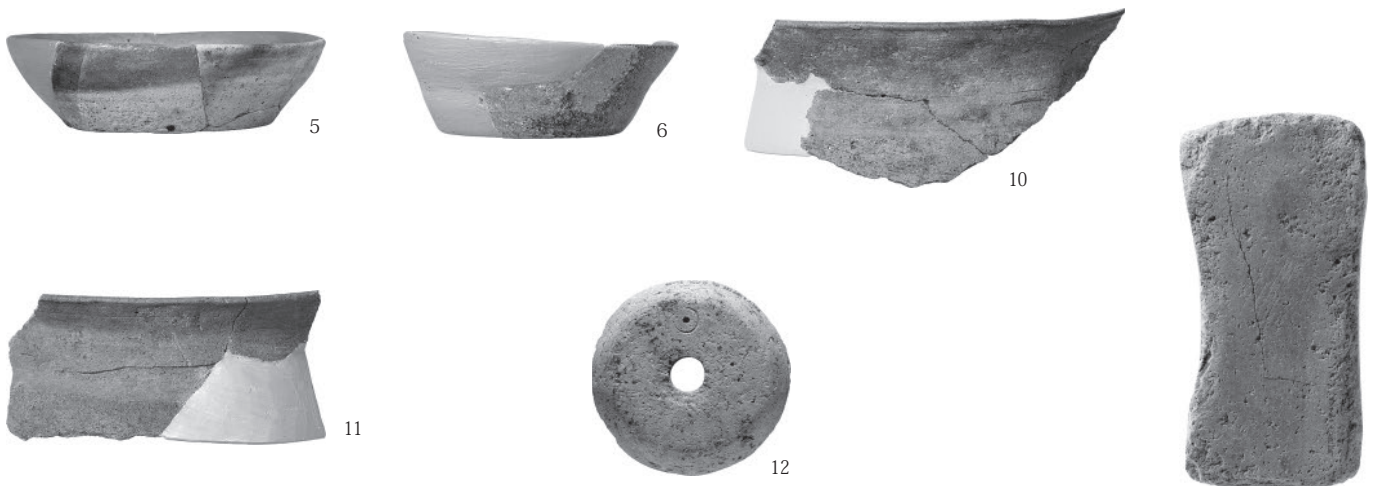
6号住居出土遺物(2)



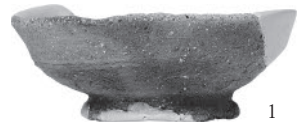
7号住居出土遺物



8号住居出土遺物



9号住居出土遺物



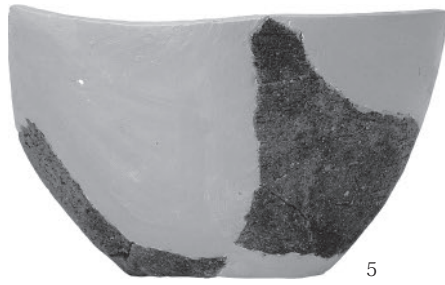
1



2



3



5



6

10号住居出土遺物



1



2



4



5



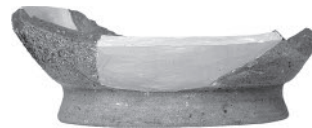
6



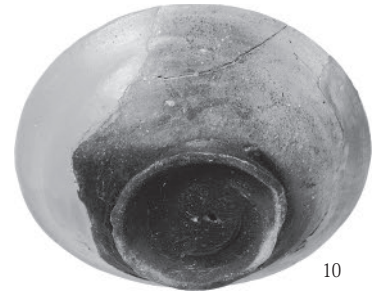
7



8



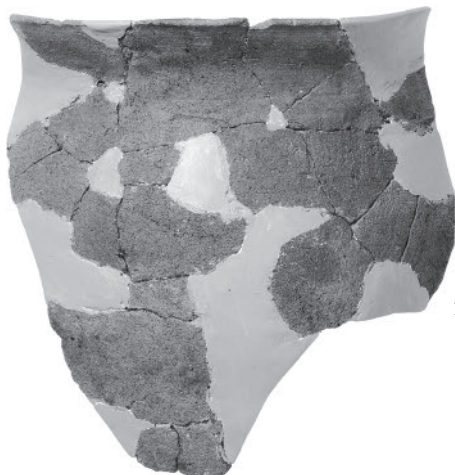
9



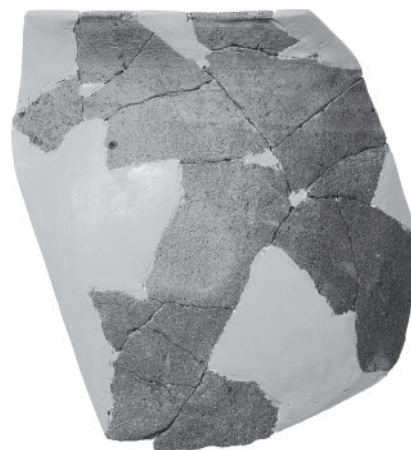
10



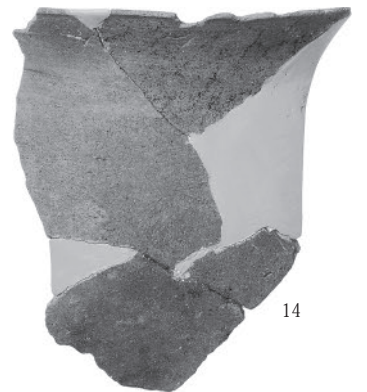
11



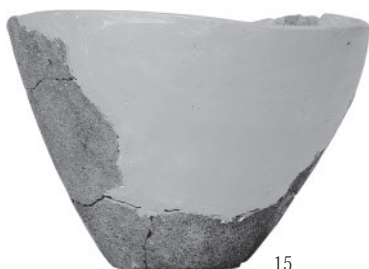
12



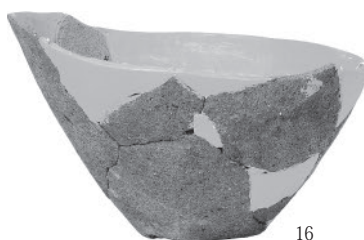
13



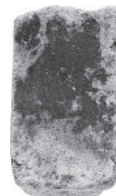
14



15



16



17

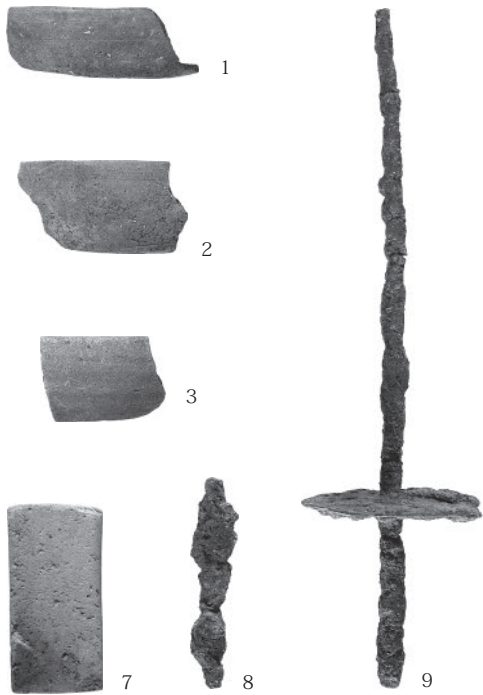


18



19

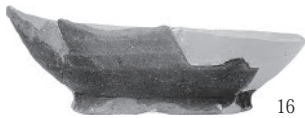
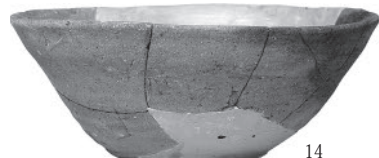
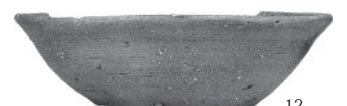
11号住居出土遺物



12号住居出土遺物



15号住居出土遺物



13号住居出土遺物(1)

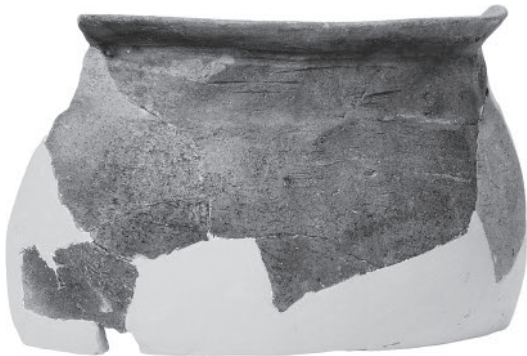




22



23



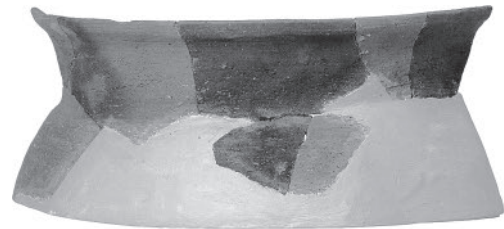
24



25



27



26



33

13号住居出土遺物(2)



1



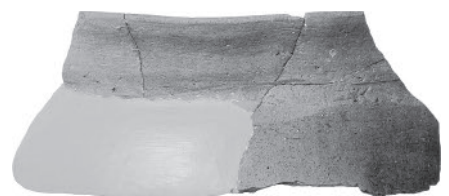
4



11

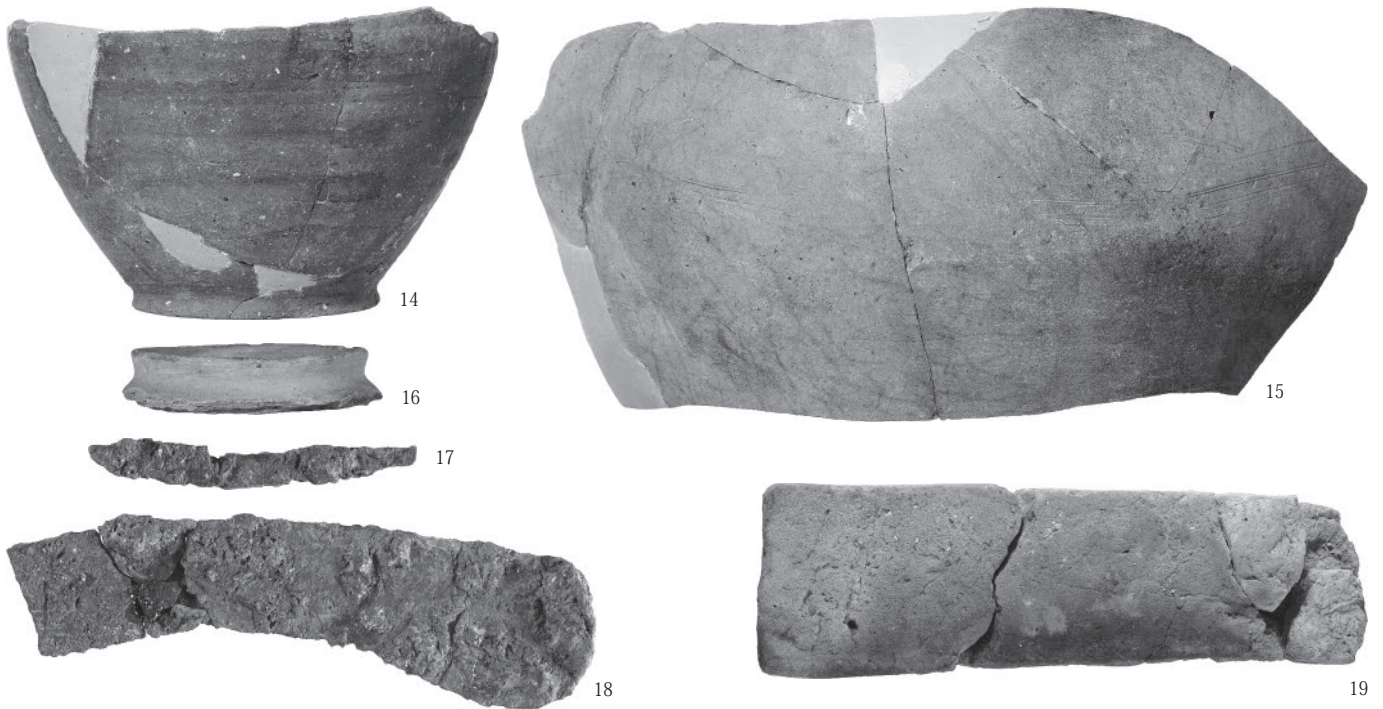


9

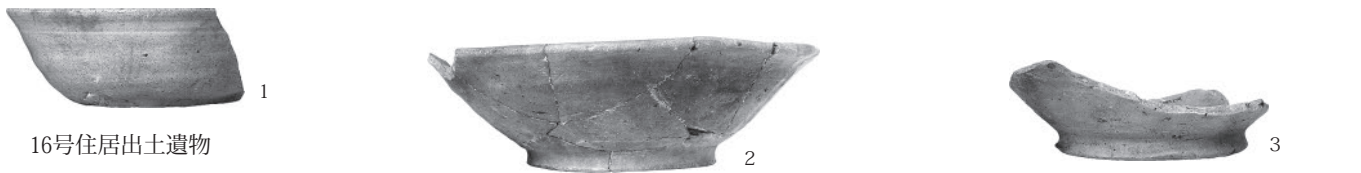


10

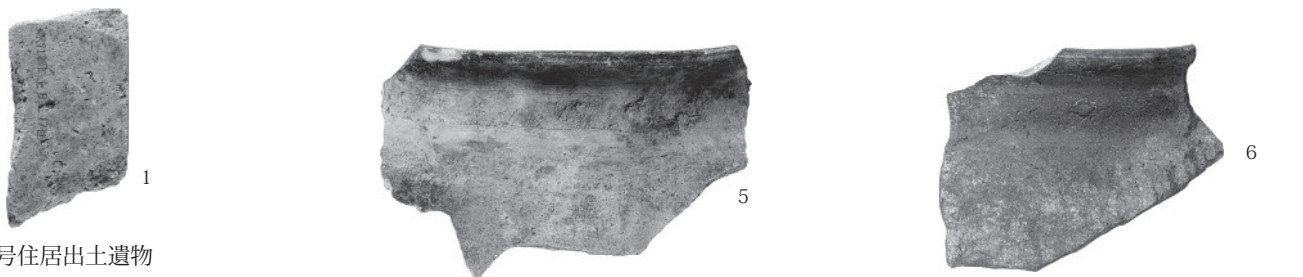
14号住居出土遺物(1)



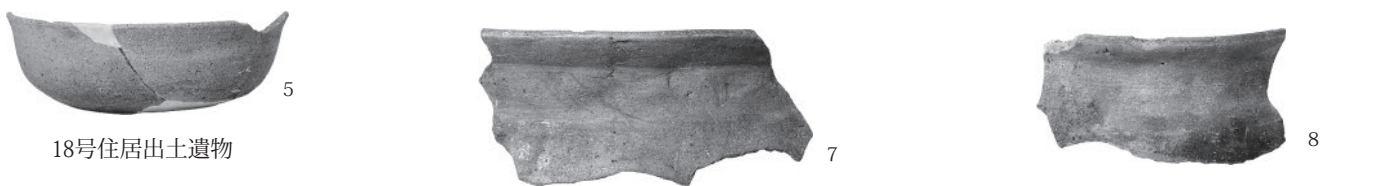
14号住居出土遺物(2)



16号住居出土遺物



17号住居出土遺物

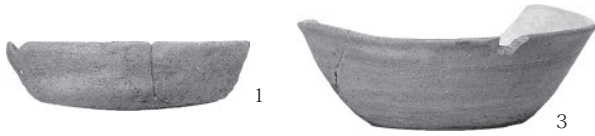


18号住居出土遺物



19号住居出土遺物

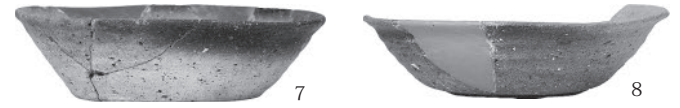
奈良・平安時代



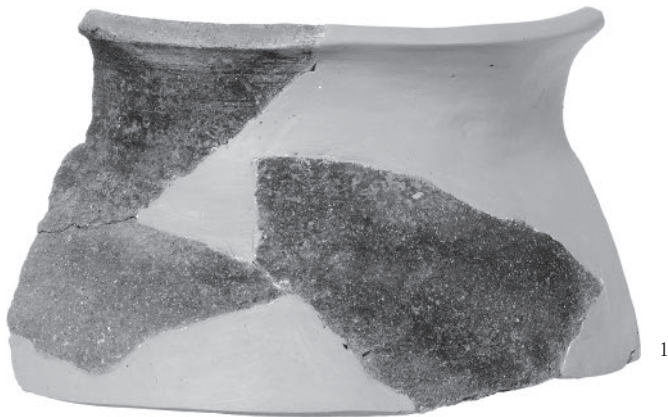
20号住居出土遺物



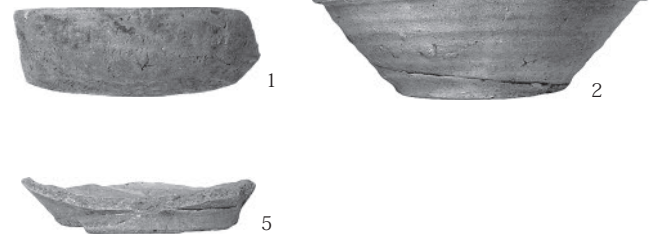
21号住居出土遺物



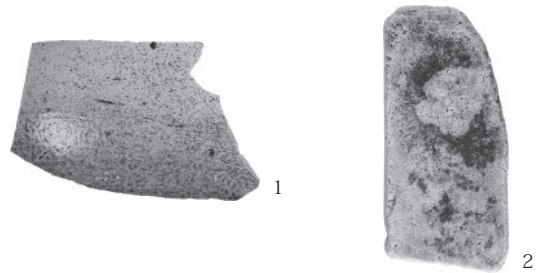
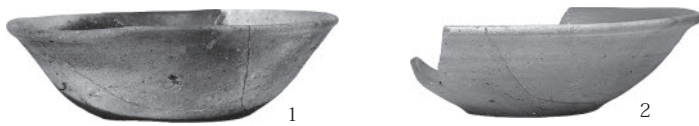
23号住居出土遺物



28号住居出土遺物



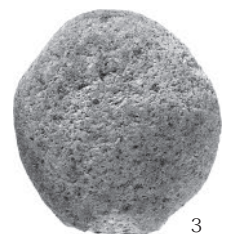
40号住居出土遺物



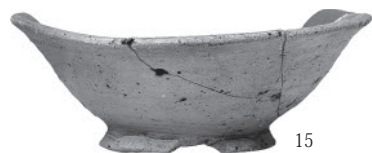
44号住居出土遺物

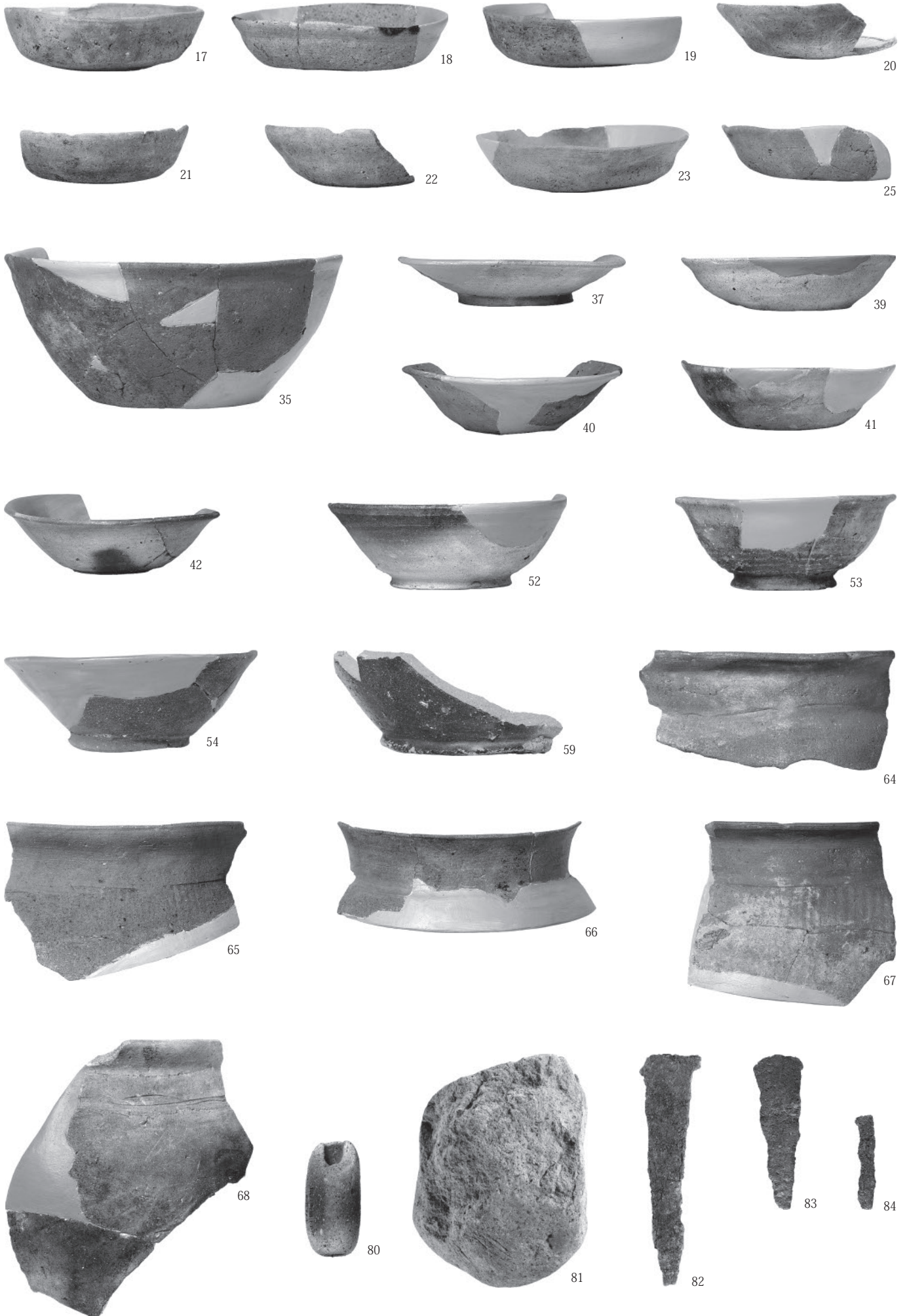


45号住居出土遺物



46号住居出土遺物





50号~52号住居出土遺物



2

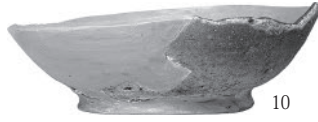
3号竖穴状遺構出土遺物



1



3



10



13

3号・4号竖穴状遺構出土遺物



1

4号竖穴状遺構出土遺物



1



2



3



4



11



12



14



15



18



19



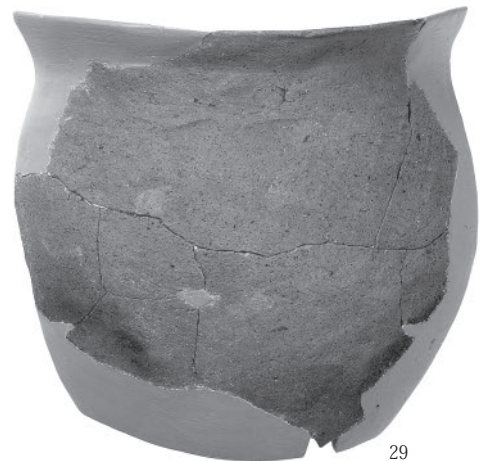
20



21



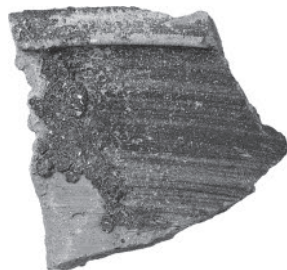
26



29



33



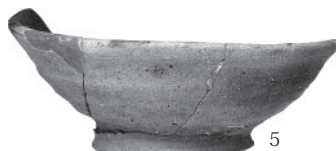
34

5号竖穴状遺構出土遺物



1

6号竖穴状遺構出土遺物



5



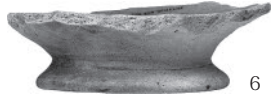
3

7号竖穴状遺構出土遺物

奈良・平安時代



3



6



9



2

8号竪穴状遺構出土遺物

13号竪穴状遺構出土遺物



1



4



2



3

11号竪穴状遺構出土遺物

14号竪穴状遺構出土遺物



1



3



7



8



9



10

19号竪穴状遺構出土遺物



32溝 1



35溝 1



16溝 1



21溝 1



17溝 2



17溝 3



19溝 1



19溝 3

奈良・平安時代溝出土遺物



4

1号井戸出土遺物



507土 1



672土 1



8ピット 1



115土 1



64ピット 2



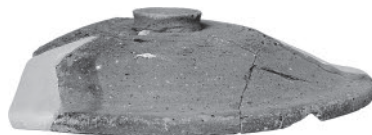
71ピット 1

奈良・平安時代土坑出土遺物

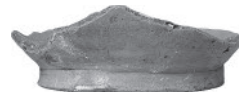
奈良・平安時代ピット出土遺物



1



3



4



7

奈良・平安時代遺構外出土遺物



1

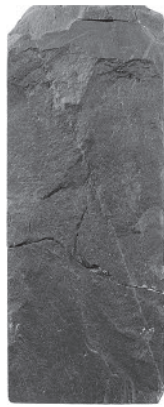


2



4

2号溝出土遺物



3



1

3号溝出土遺物



280±1

280号・281号土坑出土遺物



281±1



2



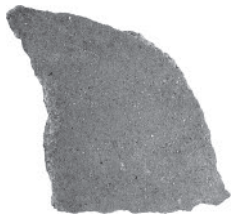
5



4



6



7



8



9



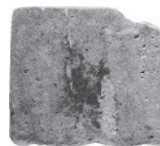
10



11



12



13



14



15



16



17



18



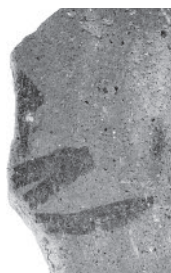
19



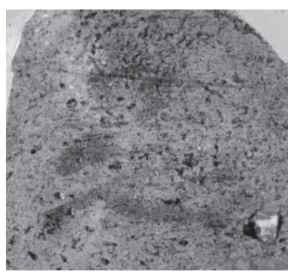
20

中世・近世以降遺構外出土遺物

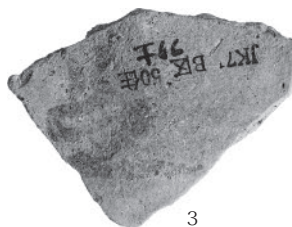




1



2



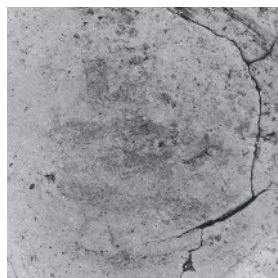
3



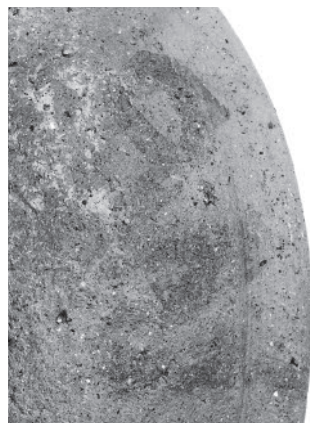
4



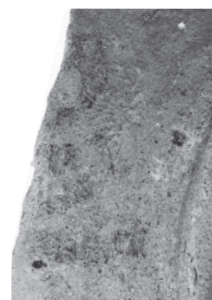
5



6



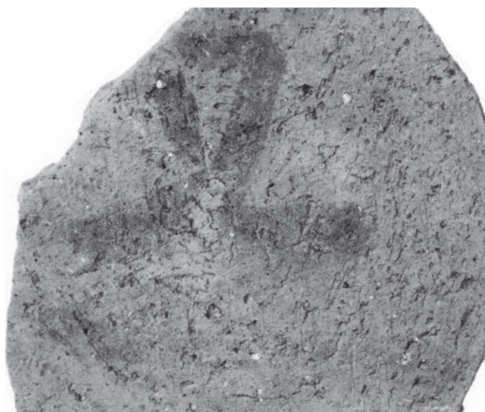
7



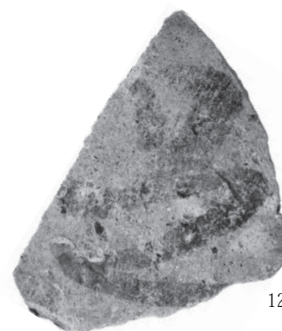
8



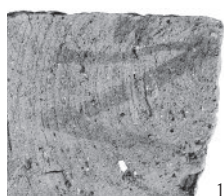
9



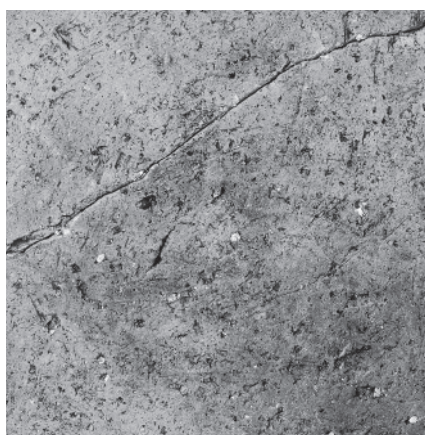
11



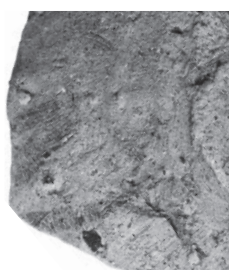
12



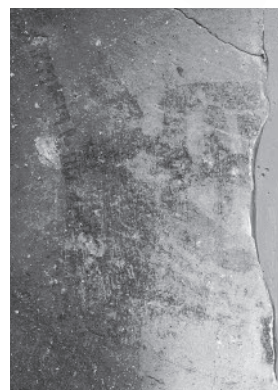
10



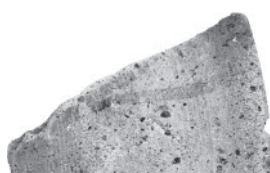
13



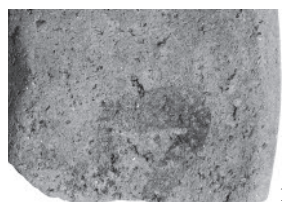
14



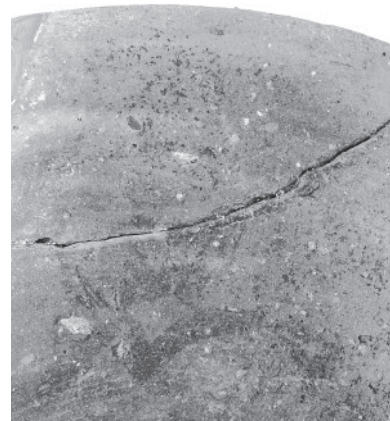
18

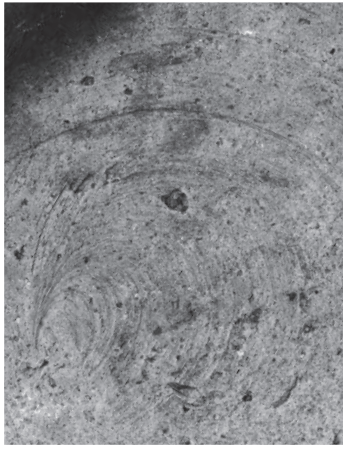


15

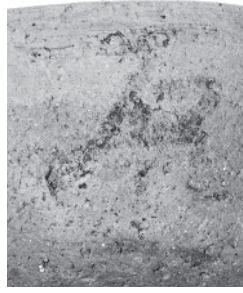


16





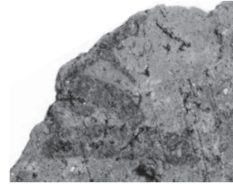
17



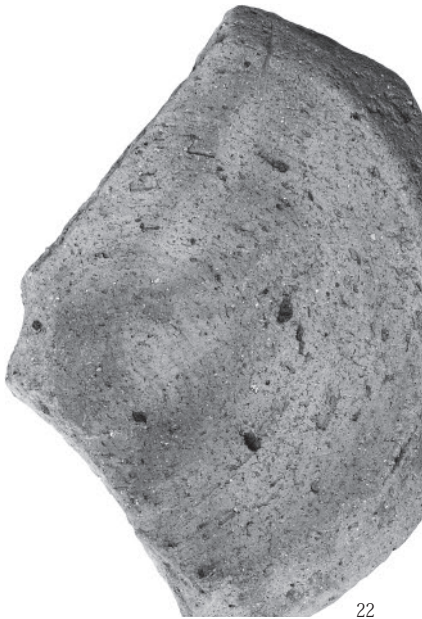
19



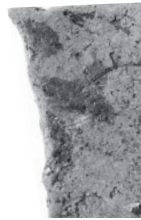
20



21



22



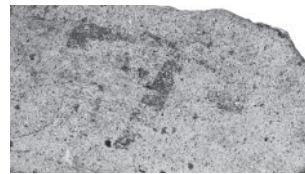
23



24



25



26



27



28



29

# 報告書抄録

書名ふりがな	しんでんかみいせき
書名	新田上遺跡
副書名	一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第591集
編著者名	長澤典子
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20150306
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橋町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	しんでんかみいせき(しんいせきめい:まえばしし0034いせき)
遺跡名	新田上遺跡(新遺跡名:前橋市0034遺跡)
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししかみほそいまち
遺跡所在地	群馬県前橋市上細井町
市町村コード	10201
遺跡番号	00128(新番号0034)
北緯(世界測地系)	362535
東経(世界測地系)	1390449
調査期間	20120501-20121130
調査面積	10328.66㎡
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	旧石器/縄文/弥生/古墳/奈良/平安/中世/近世以降
遺跡概要	旧石器-6カ所の石器ブロック-細石刃石器群/集落-縄文-竪穴住居15+溝状遺構9+配石1+土坑246+縄文土器+石器/集落-弥生-竪穴住居4+土坑11+弥生土器+石器/集落-古墳-竪穴住居2+道1+石製品/集落-奈良・平安-竪穴住居31+竪穴状遺構18+掘立柱建物3+井戸1+溝22+道2+土坑253+ピット73+土師器+須恵器+灰釉陶器/中世-溝1+土坑62+白磁+青磁/近世以降-溝4+土坑9+信楽陶器+ガラス瓶+石製品+石造物+銅製品+銭貨
特記事項	旧石器時代の14,000年以前の石器ブロックを6カ所検出した。(細石刃石器群) 弥生時代中期の竪穴住居を検出した。 平安時代9世紀後半の道路状遺構を検出した。
要約	新田上遺跡は、赤城西南麓を流れる赤城白川によって形成された白川扇状地上に立地する。旧石器～平安にかけての集落遺跡である。縄文時代では、配石を1基検出した。古墳時代としては、比較的早い時期の中期の1号住居から、有孔石製品や石製模造品を検出した。本遺跡南500mに存在した、上細井稲荷山古墳(5世紀代)との関係性が伺える。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第591集

## 新田上遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

---

平成27(2015)年3月2日 印刷

平成27(2015)年3月6日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／上武印刷株式会社

---

新田上遺跡 全体図 (1/200)



0 1:200 10m